芳賀団地遺跡群 第5巻

芳賀北部団地遺跡 I

――古墳・奈良・平安時代編――

1994. 3

前橋市教育委員会

芳賀団地遺跡群 第5巻

芳賀北部団地遺跡 I

——古墳・奈良・平安時代編——

1994. 3

前橋市教育委員会

序

群馬県前橋市は、北に関東平野を一望できる雄大な赤城山をいだき、西に榛名山を仰ぎ、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川の清流が市街地を貫流する、水と緑にあふれた美しい県都で、全国的にも「美しく住みやすい都市」として高い評価を得てきております。

市の歴史は古く、古墳時代には、至るところに巨大な古墳群が造られるなど全国でも有数の古墳文化圏が形成され、そして律令時代には国府や国分寺が置かれるなど東国の中心地として繁栄し「東国の奈良」とも言われました。また近世においては、江戸幕府を守る要衝の地として「関東の華」と称され、さらに、近世末期から明治・大正時代にかけては、我が国の生糸貿易を支える養蚕製糸業の中心地として発展してきた歴史の薫り高い街でもあります。

芳賀団地遺跡群は、前橋市の北部、名峰赤城山の南麓に位置しており、前橋市工業団地造成組合による工業団地・住宅団地造成に先立ち、昭和48年度から８年の歳月をかけて約40haにわたり発掘調査を実施したものです。その後、昭和56年度から遺跡群より出土した古代から中・近世までの膨大な量の遺構・遺物の整理作業を開始し、これまでに第１～４巻の報告書を刊行してきております。

今回刊行の運びとなりました第５巻は、現在「高花台」という町名が付き閑静な住宅地となりました芳賀北部団地遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本報告書では、同遺跡の古墳時代から奈良・平安時代の住居跡227軒、土坑・溝跡・井戸跡・製鉄址等111遺構とそれに伴う遺物を掲載しております。

今後も、報告書作成のための整理作業は最終巻刊行に向けて続きますが、発掘調査開始以来20年余にわたり間断なく業務を続けてこられましたのも、ひとえに関係各機関の方々のご支援とご尽力のたまものと衷心より感謝いたしております。本報告書が、郷土の歴史の理解を深めるとともに研究資料として広く活用されることを願ってやみません。

平成６年３月31日

前橋市教育委員会

教育長　岡　本　信　正

例　言

1．本書は、前橋工業団地造成組合による、工業及び住宅団地の造成に伴い事前調査された、前橋市嶺町・勝沢町・小坂子町・高花台・鳥取町・小神明町・五代町の計約40haに及ぶ芳賀団地遺跡発掘調査報告書第５巻である。
2．芳賀団地遺跡群は、北部団地遺跡（嶺・勝沢・小坂子町・高花台。昭和48・49年度調査。約4.45ha。）、西部団地遺跡（鳥取・小神明・五代町。昭和50年度調査。約2.5ha）、東部団地遺跡（鳥取・小坂子・五代町。昭和51～55年度調査。32.78ha）の３遺跡から成り立つ。
3．調査の実施は、前橋工業団地造成組合の委託を受けて、芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団が行なった。
4．芳賀団地遺跡群の報告書は全６巻を予定しており、その内訳は、東部団地遺跡３巻（既刊）、西部団地遺跡１巻（既刊）、北部団地遺跡２巻（１巻本巻、１巻未刊）で、記述の順に刊行を進めている。北部団地遺跡は当初１巻予定であったが、２巻に分冊とした。
5．芳賀北部団地遺跡は、藤沢川と金丸川にはさまれた台地の南への傾斜地に位置する。北と南の比高差は40m近い。位置・周辺の遺跡については別項参照。
6．調査の組織及び調査担当者、調査員については別項参照。
7．本書に係る整理作業は、井野誠一（担当者）、綿貫綾子（調査員）が中心となって行なった。
8．本書に係る整理作業は平成２年度から実施している。
9．芳賀団地遺跡群の整理作業では、一部調査中に整理を行なっていたが、発掘調査終了後整理作業を進めるなかで、組織化の動きがあり、昭和58年度に、発掘調査に係わった者を中心に作成委員会を組織し、報告書の整理、刊行の作業を進めてきた。当初は社会教育課の文化財保護係が事務局となり、組織改組で現在は文化財保護課の埋蔵文化財係が事務局となって整理作業を進めている。平成元年度に委員会の改組を行なった。

〔平成５年度組織〕

委員長	有坂　淳（教育委員会管理部長）	副委員長	町田重雄（教育委員会文化財保護課長）
顧問	岡本信正（教育長）	顧問	竹　茂夫（教育委員会指導部長）
委員	松島榮治（文化財調査委員）	委員	松本浩一（大胡町立大胡小学校長）
委員	相澤貞順（前橋市立女子高等学校教諭）	委員	福田紀雄（前橋市立新田小学校長）
委員	川合　功（中部教育事務所学校教育課主任指導主事）	委員	中村富夫（利根村立根利中学校教頭）
委員	石川克博（群馬県立歴史博物館学芸第一課主幹兼指導主事）	委員	浜田博一（前橋市立箱田中学校教諭）
委員	遠藤和夫（前橋市教育委員会社会教育課社会教育係長）	委員	富澤敏弘（北橘村立橘北小学校教諭）
委員	飯塚　誠（前橋市立東小学校教諭）	委員	田口正美（高崎市立矢中小学校教諭）
事務局	（教育委員会文化財保護課）		
事務局長	町田重雄（文化財保護課長）	事務局次長	高橋正男（埋蔵文化財係長）
事務局員	前原　豊（埋蔵文化財係）	事務局員	伊藤　良（埋蔵文化財係）
事務局員	井野誠一（埋蔵文化財係）（担当）		

編集委員会　（作成委員会の元で実務を行なう）

委員長	松島榮治（前出）	委員	松本浩一（前出）	委員	相沢貞順（前出）
委員	福田紀雄（前出）	委員	川合　功（前出）	委員	中村富夫（前出）
委員	石川克博（前出）	委員	浜田博一（前出）	委員	遠藤和夫（前出）
委員	飯塚　誠（前出）	委員	田口正美（前出）		

事務局（作成委員会事務局が兼ねる）

10．本書の編集は上記編集委員による。
　執筆分担　遺構本文　井野、　遺物鑑察表　綿貫、　石材鑑定　関口　孝
11．本書を作成するにあたり、遺物・図面整理・図版作成等に対し、下記の方々の手をわずらわした。
　綿貫綾子（調査員）、飯島勝亥（専門作業員）、粟岡エミ子、大塚美智子、神保千代子、松田富美子、戸丸澄江、鬼塚成子、柴崎まさ子、生形かほる、大澤まさ江、舩津明美、岩田敏子、佐野貴恵子、赤城美代子
12．関係図面及び出土遺物の整理・保管は前橋市教育委員会文化財保護課で行なっている。
13．遺物写真撮影はタツミ写真スタジオに委託して実施した。

凡　　例

1．本書における遺構記号は次のように表わす。（　）は略称

H……土師器を伴う竪穴住居跡	Ｈ１号住居跡（Ｈ－１）
K……掘立柱建物跡	Ｋ１号掘立柱建物跡（Ｋ－１）
F……製鉄関連遺構	Ｆ１号遺構（Ｆ－１）
P……土坑	Ｐ１号土坑（Ｐ－１）
W……溝跡	Ｗ１号溝跡（Ｗ－１）
Ｉ……井戸跡	Ｉ１号井戸跡（Ｉ－１）

2．遺構挿図中のセクション・エレベーションの基準線標高は、基準線上の数値である。

3．本書における遺構の実測図は、竪穴住居跡1/80、掘立柱建物跡1/100、製鉄関連遺構1/80、土坑・井戸跡1/60、全体図1/800に統一した。

4．本書で使用している竪穴住居跡・古墳の部位名称等は第１～４巻に準じる。
スクリーントーン及び記号は、以下の内容を示している。

5．遺構の長軸は座標北で表示した。

6．遺物の実測図は、土器類1/4、鉄製品1/3、石製品1/3で表示したが、例外にあたるものは縮尺スケールを附加した。

7．遺物番号は遺構別に表示した。グリッド遺物は通し番号とした。

8．遺構の記述は第１～４巻に準じる。用語・表記は事務局の責任で本書として統一をはかった。

9．ピット番号は原則として、北東隅を P_1 として反時計回りに番号をつけている。

10．遺物の記述は、観察表にまとめてある。

11．遺物写真中の遺物番号は遺物挿図の番号と対応している。

12．遺構は、遺構番号順に掲載してあるが、重複している場合には若い遺構番号で扱っている。
溝跡平面図は全体図で扱っている。

13．整理途上で欠番となった遺構がある。Ｈ－11・66・185・188・191・209・215

14．本遺跡（芳賀北部団地遺跡）及び本遺跡群（芳賀団地遺跡群）に係わる考察については第六巻に収録を予定している。

目　　次

序
例　　言
凡　　例
目　　次
　本文目次
　挿図目次
　表　目　次
　図版目次
I　調査の経過と組織…… 1
II　整 理 の 経 過…… 8
III　遺跡の立地環境…… 9
IV　基　本　層　序……18
V　検出された遺構と遺物……18

挿 図 目 次

図— 1 芳賀地区位置図…… 9
図— 2 芳賀地区遺跡位置図……10
図— 3 芳賀北部団地遺跡旧状図及び字図……12
図— 4 芳賀東部・西部団地遺跡旧状図及び字図……17
図— 5 地層柱状図……18
図— 6 H－1号住居跡平・断面図……19
図— 7 H－1号住居跡出土遺物実測図……19
図— 8 H－2号住居跡平・断面図……19
図— 9 H－2号住居跡出土遺物実測図……20
図— 10 H－3号住居跡平・断面図……20
図— 11 H－4号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……21
図— 12 H－5号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……21
図— 13 H－6号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……22
図— 14 H－7号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……23
図— 15 H－8号住居跡平・断面図……23
図— 16 H－8号住居跡出土遺物実測図……23
図— 17 H－9号住居跡平・断面図……24
図— 18 H－9号住居跡出土遺物実測図……24
図— 19 H－10号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……25
図— 20 H－12号住居跡平・断面図……26
図— 21 H－12・13号住居跡出土遺物実測図……26
図— 22 H－13・14号住居跡平・断面図……27
図— 23 H－14号住居跡出土遺物実測図……27
図— 24 H－15号住居跡平・断面図……28
図— 25 H－15号住居跡出土遺物実測図……28
図— 26 H－16号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……29
図— 27 H－17号住居跡平・断面図……29
図— 28 H－17号住居跡出土遺物実測図(1)……30
図— 29 H－17号住居跡出土遺物実測図(2)……31
図— 30 H－18号住居跡平・断面図……32
図— 31 H－18号住居跡出土遺物実測図……32
図— 32 H－19号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……33
図— 33 H－20号住居跡平・断面図……33
図— 34 H－21（Ⅰ・Ⅱ）号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……34
図— 35 H－22号住居跡平・断面図……34
図— 36 H－22号住居跡出土遺物実測図……35
図— 37 H－23号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……35
図— 38 H－24号住居跡平・断面図……36
図— 39 H－24号住居跡出土遺物実測図……36
図— 40 H－25号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……37
図— 41 H－26号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……38
図— 42 H－27号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……38
図— 43 H－28号住居跡平・断面図……39
図— 44 H－28号住居跡出土遺物実測図……39
図— 45 H－29号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……40
図— 46 H－30号住居跡出土遺物実測図……40
図— 47 H－30号住居跡平・断面図……41
図— 48 H－31号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……41
図— 49 H－32号住居跡平・断面図……42
図— 50 H－32号住居跡出土遺物実測図……42
図— 51 H－33号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……43
図— 52 H－34号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……43
図— 53 H－35号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……44
図— 54 H－36号住居跡平・断面図……44
図— 55 H－36号住居跡出土遺物実測図……45
図— 56 H－37号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……45
図— 57 H－38号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……46
図— 58 H－39号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……47
図— 59 H－40号住居跡平・断面図……47
図— 60 H－40号住居跡出土遺物実測図……48
図— 61 H－41号住居跡平・断面図……48
図— 62 H－41号住居跡出土遺物実測図……49
図— 63 H－42号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……49
図— 64 H－43号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……50
図— 65 H－44号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)……51
図— 66 H－44号住居跡出土遺物実測図(2)……52
図— 67 H－45号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……52
図— 68 H－46号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……53
図— 69 H－47号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……53
図— 70 H－48号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……54
図— 71 H－49号住居跡平・断面図……55
図— 72 H－49号住居跡出土遺物実測図……55
図— 73 H－50号住居跡平・断面図……56
図— 74 H－50号住居跡出土遺物実測図……56
図— 75 H－51・52号住居跡平・断面図……57
図— 76 H－51号住居跡出土遺物実測図(1)、H－52号住居跡出土遺物実測図……57
図— 77 H－51号住居跡出土遺物実測図(2)……58
図— 78 H－53号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……59
図— 79 H－54号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……59
図— 80 H－55号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……60
図— 81 H－56号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……60
図— 82 H－57号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……61
図— 83 H－58号住居跡平・断面図……61
図— 84 H－58号住居跡出土遺物実測図……62
図— 85 H－59号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……62
図— 86 H－60号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……63
図— 87 H－61号住居跡平・断面図……63
図— 88 H－61号住居跡出土遺物実測図……64
図— 89 H－62号住居跡平・断面図……64
図— 90 H－62号住居跡出土遺物実測図……65
図— 91 H－63号住居跡平・断面図……65
図— 92 H－63号住居跡出土遺物実測図……66
図— 93 H－64号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……67
図— 94 H－65・67号住居跡平・断面図……67
図— 95 H－65（上）、67（下）号住居跡出土遺物実測図 …68
図— 96 H－68号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……69
図— 97 H－69号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……70
図— 98 H－70号住居跡平・断面図……70

図— 99　H—70号住居跡出土遺物実測図……71
図—100　H—71号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……71
図—101　H—72号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……72
図—102　H—73号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……72
図—103　H—74号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……73
図—104　H—75・76・77・78号住居跡平・断面図……74
図—105　H—75・76・77号住居跡出土遺物実測図……75
図—106　H—77・78号住居跡出土遺物実測図……76
図—107　H—79号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……76
図—108　H—80号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)……77
図—109　H—80号住居跡出土遺物実測図(2)……78
図—110　H—81号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……78
図—111　H—82号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……79
図—112　H—83住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)……80
図—113　H—83号住居跡出土遺物実測図(2)……81
図—114　H—84号住居跡平・断面図……81
図—115　H—84号住居跡出土遺物実測図……82
図—116　H—85号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……82
図—117　H—86号住居跡平・断面図……83
図—118　H—86号住居跡出土遺物実測図(1)……83
図—119　H—86号住居跡出土遺物実測図(2)……84
図—120　H—87号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……85
図—121　H—88・89号住居跡平・断面図……86
図—122　H—88・89号住居跡出土遺物実測図……87
図—123　H—90号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)……88
図—124　H—90号住居跡出土遺物実測図(2)……89
図—125　H—91号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……90
図—126　H—92号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……91
図—127　H—93号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)……92
図—128　H—93号住居跡出土遺物実測図(2)……93
図—129　H—94号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……93
図—130　H—95号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……94
図—131　H—96号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)……95
図—132　H—96号住居跡出土遺物実測図(2)……96
図—133　H—97号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……97
図—134　H—98号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……98
図—135　H—99号住居跡平・断面図……98
図—136　H—99号住居跡出土遺物実測図……99
図—137　H—100号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1) …99
図—138　H—100号住居跡出土遺物実測図(2)……100
図—139　H—101号住居跡平・断面図……100
図—140　H—101号住居跡出土遺物実測図……101
図—141　H—102・104号住居跡平・断面図 ……101
図—142　H—103号住居跡平・断面図……102
図—143　H—102・103・104号住居跡出土遺物実測図……103
図—144　H—105号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……104
図—145　H—106号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……105
図—146　H—107号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…105
図—147　H—107号住居跡出土遺物実測図(2)……106
図—148　H—108号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……106
図—149　H—109号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……107
図—150　H—110号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……108
図—151　H—111号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……109
図—152　H—112号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……110
図—153　H—113号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……110
図—154　H—114号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……111
図—155　H—115号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……112
図—156　H—116号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……113
図—157　H—117号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……113
図—158　H—118・119・120号住居跡平・断面図……114
図—159　H—118・119号住居跡出土遺物実測図 ……115
図—160　H—121号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…115
図—161　H—121号住居跡出土遺物実測図(2)……116
図—162　H—122号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……117
図—163　H—123号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……118
図—164　H—124号住居跡平・断面図……119
図—165　H—124号住居跡出土遺物実測図……119
図—166　H—125号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…120
図—167　H—125号住居跡出土遺物実測図(2)……121
図—168　H—126号住居跡平・断面図……121
図—169　H—126号住居跡出土遺物実測図……122
図—170　H—127号住居跡平・断面図……123
図—171　H—127号住居跡出土遺物実測図……123
図—172　H—128号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…124
図—173　H—128号住居跡出土遺物実測図(2)……125
図—174　H—129号住居跡平・断面図……125
図—175　H—130号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……126
図—176　H—131号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……126
図—177　H—132号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……127
図—178　H—133号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……128
図—179　H—134号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……129
図—180　H—135・136号住居跡平・断面図、出土遺物実測図 ……130
図—181　H—137号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……130
図—182　H—138号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……131
図—183　H—139号住居跡平・断面図……132
図—184　H—139号住居跡出土遺物実測図……132
図—185　H—140・147号住居跡平・断面図 ……133
図—186　H—140・147号住居跡出土遺物実測図(1) ……134
図—187　H—147号住居跡出土遺物実測図(2)……135
図—188　H—141号住居跡平・断面図……135
図—189　H—141号住居跡出土遺物実測図……136
図—190　H—142号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……137
図—191　H—143号住居跡平・断面図……138
図—192　H—143号住居跡出土遺物実測図……138
図—193　H—144号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……139
図—194　H—145・146号住居跡平・断面図、H—145号住居跡出土遺物実測図 ……140
図—195　H—146号住居跡出土遺物実測図……141
図—196　H—148住居跡平・断面図、出土遺物実測図……141
図—197　H—149住居跡平・断面図、出土遺物実測図……142
図—198　H—150号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……143
図—199　H—151号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……144
図—200　H—152・157・158号住居跡平・断面図……144
図—201　H—152号住居跡出土遺物実測図……145
図—202　H—153・156号住居跡平・断面図、出土遺物実測図 ……146
図—203　H—154号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……147

図—204　H—155号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…148
図—205　H—155号住居跡出土遺物実測図(2)……149
図—206　H—159号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……149
図—207　H—160号住居跡平・断面図……150
図—208　H—161号住居跡平・断面図……150
図—209　H—161号住居跡出土遺物実測図……151
図—210　H—162・172・178・179号住居跡平・断面図 ……152
図—211　H—162・172・178・179号住居跡出土遺物実測図 ……153
図—212　H—163号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…154
図—213　H—163号住居跡出土遺物実測図(2)……155
図—214　H—164号住居跡平・断面図……155
図—215　H—164号住居跡出土遺物実測図……156
図—216　H—165号住居跡平・断面図……156
図—217　H—165号住居跡出土遺物実測図……157
図—218　H—166号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……157
図—219　H—167号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……158
図—220　H—168号住居跡平・断面図……158
図—221　H—168号住居跡出土遺物実測図……159
図—222　H—169号住居跡出土遺物実測図……159
図—223　H—169号住居跡平・断面図……160
図—224　H—170号住居跡平・断面図……160
図—225　H—170号住居跡出土遺物実測図……161
図—226　H—171号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……161
図—227　H—173号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……162
図—228　H—174号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……163
図—229　H—175号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……163
図—230　H—176号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……164
図—231　H—177号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……165
図—232　H—180号住居跡平・断面図……166
図—233　H—181・182号住居跡平・断面図 ……166
図—234　H—181・182号住居跡出土遺物実測図(1) ……167
図—235　H—182号住居跡出土遺物実測図(2)……168
図—236　H—183号住居跡平・断面図……168
図—237　H—183号住居跡出土遺物実測図……169
図—238　H—184号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……169
図—239　H—186号住居跡平・断面図……170
図—240　H—187号住居跡平・断面図……170
図—241　H—187号住居跡出土遺物実測図(1)……171
図—242　H—187号住居跡出土遺物実測図(2)……172
図—243　H—189・190号住居跡平・断面図 ……172
図—244　H—189・190号住居跡出土遺物実測図 ……173
図—245　H—192・193号住居跡平・断面図 ……174
図—246　H—192号住居跡出土遺物実測図(1)……174
図—247　H—192号住居跡出土遺物実測図(2)……175
図—248　H—194号住居跡平・断面図……175
図—249　H—195号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……176
図—250　H—196・197・211・212・213・214号住居跡平・断面図 ……177・178
図—251　H—196号住居跡出土遺物実測図(1)……179
図—252　H—196号住居跡出土遺物実測図(2)……180
図—253　H—196号住居跡出土遺物実測図(3)……181
図—254　H—197号住居跡出土遺物実測図……182
図—255　H—211・212・213(1)号住居跡出土遺物実測図……183
図—256　H—213(2)・214号住居跡出土遺物実測図 ……184
図—257　H—198号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……185
図—258　H—199Ⅰ・Ⅱ号住居跡平・断面図、出土遺物実測図 ……186
図—259　H—200号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)…187
図—260　H—200号住居跡出土遺物実測図(2)……188
図—261　H—201・202・203号住居跡平・断面図……189
図—262　H—201・202・203号住居跡出土遺物実測図……190
図—263　H—204・205・206・207号住居跡平・断面図 ……191
図—264　H—204・205・206号住居跡出土遺物実測図……192
図—265　H—207号住居跡出土遺物実測図……193
図—266　H—208号住居跡平・断面図……194
図—267　H—208号住居跡出土遺物実測図……194
図—268　H—210号住居跡平・断面図……195
図—269　H—210号住居跡出土遺物実測図……196
図—270　H—216・226号住居跡平・断面図、出土遺物実測図 ……197
図—271　H—217号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……198
図—272　H—218号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……199
図—273　H—219・224号住居跡平・断面図、H—219号住居跡出土遺物実測図 ……200
図—274　H—224号住居跡出土遺物実測図……201
図—275　H—220号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……201
図—276　H—221号住居跡平・断面図、出土遺物実測図……202
図—277　H—222号住居跡平・断面図……202
図—278　H—222号住居跡出土遺物実測図……203
図—279　H—223・230号住居跡平・断面図 ……204
図—280　H—223・230号住居跡出土遺物実測図 ……205
図—281　H—225号住居跡平・断面図……205
図—282　H—225号住居跡出土遺物実測図……206
図—283　H—227・229・231号住居跡平・断面図、H—227号住居跡出土遺物実測図(1) ……207
図—284　H—227・229・231号住居跡出土遺物実測図(2)……208
図—285　H—228号住居跡平・断面図……209
図—286　H—232・233号住居跡平・断面図 ……209
図—287　H—234号住居跡平・断面図……210
図—288　K—1・2号掘立柱建物跡平・断面図 ……211
図—289　K—1・2号掘立柱建物跡出土遺物実測図 ……212
図—290　K—3号掘立柱建物跡平・断面図 ……212
図—291　K—4号掘立柱建物跡平・断面図 ……213
図—292　K—5—Ⅰ号掘立柱建物跡平・断面図 ……214
図—293　K—5—Ⅱ号掘立柱建物跡平・断面図、出土遺物実測図 ……215
図—294　K—6号掘立柱建物跡平・断面図、出土遺物実測図 ……216
図—295　K—7号掘立柱建物跡平・断面図 ……217
図—296　P—1～4号土坑平・断面図、出土遺物実測図 …218
図—297　P—5～11号土坑平・断面図 ……220
図—298　P—5～12号土坑出土遺物実測図 ……221
図—299　P—12～18号土坑平・断面図 ……222
図—300　P—16・18・20号土坑出土遺物実測図 ……223
図—301　P—20～27号土坑平・断面図 ……224
図—302　P—28～30号土坑平・断面図 ……226
図—303　P—31～38号土坑平・断面図 ……227

図—304　P—39～41・43～45号土坑平・断面図 ……228
図—305　P—46～52号土坑平・断面図 ……230
図—306　P—53～59号土坑平・断面図、出土遺物実測図 …232
図—307　P—60・61・64～67号土坑平・断面図 ……233
図—308　P—68～70号土坑平・断面図 ……234
図—309　P—71号土坑、F—1～3号製鉄址平・断面図、出土遺物実測図(1) ……235
図—310　F—1～3号製鉄跡出土遺物実測図(2) ……236
図—311　I—2・3・4号井戸跡平・断面図、出土遺物実測図 ……237
図—312　I—5・6・7号井戸跡平・断面図 ……238
図—313　W—24号溝跡出土遺物実測図(1) ……241
図—314　W—24号溝跡出土遺物実測図(2) ……242
図—315　グリッド出土遺物実測図(1) ……242
図—316　グリッド出土遺物実測図(2) ……243
図—317　グリッド出土遺物実測図(3) ……244
図—318　グリッド出土遺物実測図(4) ……245
図—319　グリッド出土・表採遺物実測図(5)（上段）
追補　住居跡出土遺物実測図（下段） ……246

表　目　次

表—1　芳賀地区遺跡一覧表 ……11
表—2　芳賀地区遺跡年表 ……13～16
表—3　遺構一覧表 ……243
表—4　出土遺物観察表 ……255
表—5　墨書・刻書遺物一覧表 ……376
表—6　特殊遺物一覧表 ……379

図 版 目 次

図版―1　H―2～H―32号住居跡出土遺物
図版―2　H―44～H―96号住居跡出土遺物
図版―3　H―96～H―132号住居跡出土遺物
図版―4　H―133―H―168号住居跡出土遺物
図版―5　H―168～H―213号住居跡出土遺物
図版―6　H―197～H―222・K―1、I―30区出土遺物
図版―7　H―1、H―3号住居跡
図版―8　H―4、H―5号住居跡
図版―9　H―6、H―9号住居跡
図版―10　H―10、H―12号住居跡
図版―11　H―13、H―14号住居跡
図版―12　H―15、H―16号住居跡
図版―13　H―17、H―18号住居跡
図版―14　H―19、H―21号住居跡
図版―15　H―22、H―23号住居跡
図版―16　H―24、H―25号住居跡
図版―17　H―27、H―28号住居跡
図版―18　H―29、H―30号住居跡
図版―19　H―31、H―32号住居跡
図版―20　H―33、H―34号住居跡
図版―21　H―35、H―36号住居跡
図版―22　H―37、H―38号住居跡
図版―23　H―39、H―40号住居跡
図版―24　H―41、H―42号住居跡
図版―25　H―44、H―45号住居跡
図版―26　H―46、H―47号住居跡
図版―27　H―48、H―49号住居跡
図版―28　H―50、H―51号住居跡
図版―29　H―53、H―54号住居跡
図版―30　H―55、H―56号住居跡
図版―31　H―57、H―58号住居跡
図版―32　H―59、H―60号住居跡
図版―33　H―61、H―62号住居跡
図版―34　H―64、H―65・67号住居跡
図版―35　H―68、H―69号住居跡
図版―36　H―70、H―71号住居跡
図版―37　H―72～77、H―74号住居跡
図版―38　H―72・75～77号住居跡
図版―39　H―79、H―80号住居跡
図版―40　H―81、H―84号住居跡
図版―41　H―85、H―86号住居跡
図版―42　H―87、H―88・89号住居跡
図版―43　H―88・89、H―90号住居跡
図版―44　H―91、H―92号住居跡
図版―45　H―93、H―94号住居跡
図版―46　H―95、H―96号住居跡
図版―47　H―97、H―98号住居跡
図版―48　H―99、H―100号住居跡
図版―49　H―101、H―102号住居跡
図版―50　H―103、H―104号住居跡
図版―51　H―105、H―107号住居跡
図版―52　H―108、H―109号住居跡
図版―53　H―110、H―113号住居跡
図版―54　H―114、H―115号住居跡
図版―55　H―116、H―117号住居跡
図版―56　H―118～120、H―121号住居跡
図版―57　H―122、H―123号住居跡
図版―58　H―124、H―125号住居跡
図版―59　H―126、H―127号住居跡
図版―60　H―128、H―131号住居跡
図版―61　H―132、H―133号住居跡
図版―62　H―135、H―137号住居跡
図版―63　H―138、H―139号住居跡
図版―64　H―140、H―141号住居跡
図版―65　H―144、H―145・146号住居跡
図版―66　H―147・148、H―150号住居跡
図版―67　H―151、H―152号住居跡
図版―68　H―153、H―154号住居跡
図版―69　H―155、H―156号住居跡
図版―70　H―157、H―159号住居跡
図版―71　H―160、H―161・171号住居跡
図版―72　H―162、H―163号住居跡
図版―73　H―164・180、H―165・166号住居跡
図版―74　H―167、H―169号住居跡
図版―75　H―170、H―172号住居跡
図版―76　H―173、H―174号住居跡
図版―77　H―176、H―179号住居跡
図版―78　H―182、H―183号住居跡
図版―79　H―183、H―184号住居跡
図版―80　H―187、H―189・190号住居跡
図版―81　H―192・193、H―194号住居跡
図版―82　H―195、H―196・197・211～214号住居跡
図版―83　H―198、H―199号住居跡
図版―84　H―200、H―201号住居跡
図版―85　H―208、H―216号住居跡
図版―86　H―217・218、H―218号住居跡
図版―87　H―219、H―220号住居跡
図版―88　H―221、H―222号住居跡
図版―89　H―223、H―224号住居跡
図版―90　H―225、H―226号住居跡
図版―91　H―227・229・231、H―228号住居跡
図版―92　H―229、H―223・231号住居跡
図版―93　K―1・2―3、K―3号掘立柱建物跡
図版―94　K―4、K―5号掘立柱建物跡
図版―95　K1～5号掘立柱建物跡、I―3号井戸跡
図版―96　P―2号土坑、P―20号土坑
図版―97　芳賀北部団地遺跡調査状況、遺跡航空写真

Ⅰ　調査の経過と組織

○調査の経過については第１巻より再録をする。遺構の数等若干整理後と異なるが、そのままとした。

１　発掘調査がはじまるまで〈昭和45年度～47年度〉

昭和35年、「消費都市から生産都市」への転換を目標に、10ケ年総合整備計画を開始した前橋市は群馬県と共同で「前橋工業団地造成組合」を発足させ、首都圏市街地開発区域としての指定も受け、工業団地造成事業に着手した。その後、「調和と秩序ある近代都市前橋」の実現に努め、工業団地に付随して住宅団地や流通団地も計画、造成し、これらの事業は今日まで引継がれてきている。こうした造成計画の一部に芳賀地区団地造成計画もあった。芳賀北部団地は住宅団地として昭和45年に用地買収を始め、芳賀西部工業団地、芳賀東部団地（住宅団地と工業団地）はそれぞれ昭和46年から用地買収が始められた。

群馬県内において大規模な開発が計画され、推進されるのも芳賀地区団地造成と相前後した時期である。鉄道建設審議会が運輸省に東北・上越・成田の三新幹線建設を答申したのは昭和46年１月であり、同年８月に日本道路公団東京建設局が関越自動車道の計画路線（東松山～渋川間）を発表、９月には上武国道の路線発表がなされた。この時期、すでに進められていた群馬用水事業、東北自動車道があり、一挙に県内の開発が進められようとした時期である。これら開発計画のなかで、特に関越自動車道が上野国分寺と国分尼寺との中間を通過する計画であることから「国分寺を守る会」が結成され、国分寺遺跡を中心として、大規模な開発から文化財を保護しようとする運動が展開された。市民の文化財保護に対する関心が一段と高まってきたのがこの頃えらである。

こうした社会状況のなかで、芳賀地区団地造成に伴う埋蔵文化財の問題が行政上最初にとりあげられたのは昭和45年11月である。前橋工業団地造成組合（管理者は群馬県知事、事務局は前橋市役所内）は市教育委員会を経由し、県教育委員会に対し、団地造成に伴うそ埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。これについて、県教育委員会は前橋工業団地造成組合と前橋市教育委員会とに次のような回答を出した。

1　埋蔵文化財の取扱いについては、現状保存を検討され、その被害を最小限にとどめること。
　この現状保存の方法等については前橋市教育委員会の意見を尊重されたい。
2　やむを得ず破壊する埋蔵文化財については、事前の調査を実施し、完全な記録保存をとること。
　この場合の調査については、前橋市教育委員会の指導を受け、貴組合において実施されたい。
3　事前調査に要する費用については原因者である貴組合において負担されたい。
4　その他、文化財保護上必要な助言、指導等については、当教育委員会においてもできるだけの措置をはかるものである。

その後、昭和46年度には前橋工業団地造成組合と市教育委員会との間で、団地造成、埋蔵文化財の取扱いについて何の連絡もなかった。昭和48年２月になり、埋蔵文化財の発掘調査を市教育委員会へ依頼する方向で話し合いは進められ、昭和48年３月20日にいたり、前橋工業団地造成組合から市教育委員会へ芳賀北部団地内の埋蔵文化財発掘調査が正式に依頼された。これを受けて、市教育委員会では３月27日、文化庁への埋蔵文化財発掘届を県教育委員会へ提出した。４月17日、県教育委員会文化財保護課ではこの届出書では問題があるとして、下記理由を付けて市教育委員会へ返却してきた。

1　担当者１名では、広大な地域の発掘調査には問題があると思料されること（調査計画不明）。
2　該地域は、縄文時代遺跡としては、相当重要なものと考えられるので、調査の慎重を要すること。
3　団地造成計画が提出資料だけでは不十分であること。
4　前橋工業団地造成組合と市教育委員会とで、この発掘調査について、基本的な契約が締結されているか否か不明であること。（両者の十分な事前協議がなされているか。）

２　芳賀北部団地遺跡の調査〈昭和48・49年度〉

昭和48年度、市教育委員会は芳賀北部団地遺跡の発掘調査を実施するに当り、まず、この県教育委員会の措置への対応が必要であった。市教育委員会では前橋工業団地造成組合と具体的に協議を重ね、芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団を結成（表１）し、調査団規約（表２）を作成した。

それとともに、調査団と前橋工業団地造成組合との間で「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」（表３）を締結した。

表－1　芳賀北部団地遺跡発掘調査団構成（昭和48年度）

団長	岩渕　威	教育次長
副団長	藤島清多	都市計画部長
顧問	藤井精一	助役
〃	伊藤順	教育長
〃	阿部正六	総務部長
〃	内山博治	商工部長
〃	清水実	財政課長
幹事	富沢宏	社会教育課長
〃	上原有良司	学校教育課長
〃	小森益男	工業課長
〃	宮田勝己	宅地開発課長
〃	金井隆作	総務課長（教育委員会）
参与	松田徳松	文化財調査委員
〃	山田武麿	〃
〃	中沢右吾	〃
〃	松島栄治	〃
〃	丸山知良	〃
発掘調査担当者	相沢貞順	育英高校教諭
〃	松島栄治	前工高教諭（文化財調査委員）
発掘調査員	阿久津宗二	社会教育課係長
	川合功	社会教育課主任
	大沼克彦	臨時職員
	小林敏夫	群馬県立聾学校教諭
	依田治雄	藤岡市立小野小学校教諭
調査補助員	小中学校教諭他教育委員会事務局職員	
事務局員	青木恒司	工業課次長
	阿部明雄	工業課主事
	今井信好	〃　主任
	主代清	宅地開発課次長
	天野昭二	〃　工務係長
	町田趙夫	〃　主任
	大塚正夫	〃　技師
	十野正斌	社会教育課次長
	武藤茂	〃　主任
	酒井正保	〃
	奈良友一	芳賀公民館長
	福田和代	社会教育課主事補

表－2　前橋市芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団規約

（名　称）

第１条　本団は、芳賀団地造成地埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）と称する。

（所在地）

第２条　調査団の事務所は、前橋市教育委員会社会教育課内に置く。現場事務所を芳賀公民館におく。

（目　的）

第３条　本団は、芳賀団地造成地内の埋蔵文化財を発掘調査し、遺構の全容を明らかにするとともに、保存又は記録保存し、あわせて文化財保護に資することを目的とする。

（事　業）

第４条　本団は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

１、埋蔵文化財の発掘調査

２、調査資料（遺構、遺物）の収集、整理、記録。

３、調査報告書の作成、出版。

４、その他

（経　費）

第５条　本団の経費は、次に掲げるもので支弁する。

１、前橋市工業団地造成組合の事業委託料

２、その他

（会計年度）

第６条　本団の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月31日までとする。

（役員、調査担当者等）

第７条　調査団に団長、副団長、幹事、調査担当者、調査員、調査補助員、事務局員若干名を置く。

第８条　調査団に会計監査２名をおき、団長が委嘱する。

第９条　調査団に専門委員、顧問および参与をおくことができる。

第10条　団長は調査団を代表し、副団長は団長を補佐する。調査担当者は、本団の調査を推進する。事務局は本団の調査の経理、管理等を行う。

（会　議）

第11条　会議はすべて団長が招集する。

（委　任）

第12条　調査団の運営について必要な事項は、団長が定める。

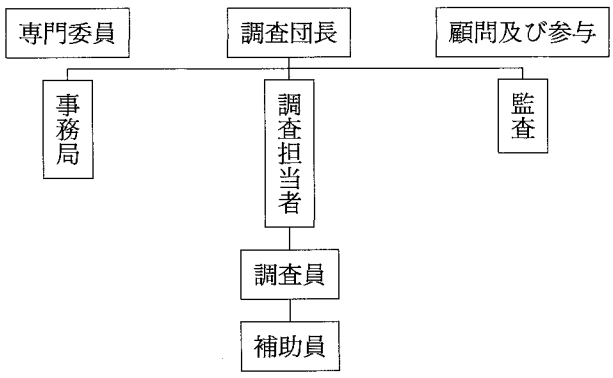
第13条　調査の事業実施にあたっては別に調査団細則で定める。

第14条　発掘調査の推進その他必要な事項は調査担当者及び調査員で運営する。

（付　則）

第15条　この規約は調査団において出席者の過半数の同意により改正または廃止することができる。

第16条　この規約は昭和48年５月７日より施行する。



表－3　埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書

群馬県前橋市芳賀北部団地造成事業地区内における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査（以下「発掘調査」という。）の実施に関する業務（以下「業務」という。）について委託者前橋工業団地造成組合（以下「甲」という。）と受託者芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団（以下「乙」という。）との間に次のとおり委託契約を締結する。

（総　則）

第１条　乙は、別紙の発掘調査実施計画書に従って、業務を実施するものとする。

2　乙は、業務の実施に必要な土地所有者等の承諾を取りまとめるものとし、かつ法令の規則に基づく諸届出等を甲にかわって行うものとする。

（期　間）

第２条　乙の発掘作業は、昭和48年５月１日から昭和48年10月30日までとし、昭和49年３月30日までに業務を完了するものとする。

（費　用）

第３条　甲が業務に関する費用として、乙に支払う金額は18,000,000円以内とする。

2　前項の費用の支払方法については、乙の業務に支障のないよう甲、乙協議して定める。

（作業の実施）

第４条　乙は、業務の実施に当って、甲の施行する事業の工程に支障のないように努めるとともに、甲は、乙の業務が円滑に実施できるよう便宜を供するものとする。

2　乙は、業務の実施に当っては、作業箇所に作業標示をし、関係者に腕章等を着用させるものとする。

（作業日誌）

第５条　乙は、発掘の実施中作業日誌を作成し、甲はその指示を求めることができるものとする。

（出土品の取扱い）

第６条　発掘された出土品の処置については、甲、乙協議のうえ乙が甲の名において法令の定めるところにより処置するものとする。

（中間報告）

第７条　甲は、必要のある場合は、乙に対し業務の進行状況について報告を求めることができるものとする。

（追加調査）

第８条　乙は、この発掘調査地区内において、さらに本格的調査を行なう必要があると認める区域については、甲と協議し、別途の発掘調査委託契約により、調査を実施するものとする。

（決算および精算）

第９条　乙は、業務が完了したときは、業務に要した費用について決算を行ない、決算書を甲に提出するものとする。

2　甲は、前項の決算書の提出を受けたときは、当該決算書にもとづき、第３条により約定した金額の範囲内において、乙と協議して精算を行うものとする。

（発掘調査報告書）

第10条　乙は、業務が完了したときは、発掘調査報告書を添えて発掘調査完了報告書を甲に提出するものとする。

（協　議）

第11条　この契定に定めない事項、または契約の事項について疑義を生じた場合は、甲、乙協議して定めるものとする。

この契約の証として、契約書２通を作成し、甲、乙それぞれ記名捺印のうて各自１通を保有する。

昭和48年５月１日

甲　前橋工業団地造成組合
　　管理者　　神　田　坤　六　㊞
乙　前橋市千代田町一丁目8－8
　　芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団
　　団　長　　岩　渕　　威　㊞

この契約書により発掘調査は発掘調査実施計画書（表４）に基づいて進めることとなった。

表－4　発掘調査実施計画書

1．発掘調査の目的

前橋市工業団地造成組合が芳賀団地を造成しようとするに先だち、埋蔵文化財の保存のため学術的に発掘調査を実施し、保護しようとする。

2．遺　跡　名

① 嶺町桂正田遺跡　　11,882㎡（第一次調査）
② 小坂子町五反田遺跡　　19,286㎡（〃二次　〃）
③ 勝沢町新次郎遺跡　　16,244㎡（〃三次　〃）
④　〃　勝沢城遺跡（高鼻、番城）　　13.345㎡（〃四次　〃）

3．遺跡の状況

調査地区は標高155m～200mの起伏に富んだ南傾斜の土地で、地質は60cmの耕土下は関東ローム層を基盤としている。遺物の散布状況および予備調査では、縄文文化中期の遺構（住居跡）が検出され、土器、石器の出土が、かなり多い。土地所要者は前工団。

4．発掘調査団の構成　（別紙のとおり）

5．発掘作業日程　　昭和48年5月7日～49年3月

6．発掘調査委託費　　概算　1,800万円　　一次調査分

7．報告書作成部数　　500部

8．そ　の　他

発掘調査は造成地域全体に20m四方の方眼をかぶせ区画ごとに綿密な調査をした遺構を検出する。

これら条件整備をする一方、改めて4月23日、埋蔵文化財発掘届を提出した。かくして、最初の調査団会議を5月7日に開催するとともにその日から発掘調査をはじめた。昭和48年度における発掘調査は次のとおりである。

◇1次調査　昭和48年5月7日～7月21日

市教育委員会社会教育課文化財保護担当職員1名と臨時調査員1名とを中心として地元作業員の協力を得て作業が進められた。この間に発掘調査団の再編成がなされ、新たに専門委員が設置され、調査担当者、調査員が増員、委嘱された（表5）。

表－5　専門委員

専門委員	尾崎喜左雄	東国古文化研究所長
〃	近藤義雄	県文化財保護課長
〃	森田秀策	県文化財保護係長
調査員	田島桂男	高崎市立養護学校教諭
〃	中村富夫	共愛学園教諭
〃	石川克博	伊勢崎市立南小学校教諭

◇2次調査　昭和48年7月23日～8月31日

学校の夏休みを利用し、調査担当者、調査員が現場作業に従事し、また調査補助員として群馬大学歴史研究部学生、高崎経済大学考古学クラブ学生、前橋工業高等学校歴史研究部、前橋育英高等学校郷土部、高崎高等学校郷土部、埼玉県幸手商業高等学校郷土部の生徒が加わり、地元作業員の方々と合わせて一日平均46人という規模で調査が進められた。

◇3次調査　昭和48年9月1日～10月31日

調査体制が再び1次調査の状態にもどった。この間、10月20日に社会教育課で文化財保護担当職員を2名増員した。

◇4次調査　昭和48年11月1日～昭和49年3月31日

2名の増員により調査体制をやや整え調査を推進した。

昭和48年度中に発掘調査した遺構・遺物は多いが、住居跡だけをみると縄文時代25、土器使用時代41であった。また、発掘調査が終了した面積は約2haである。

なお、調査団長として献身的な努力をされてきた岩渕威教育次長が昭和49年に急逝され、調査団にとって大きな痛手であった。

昭和49年度は市教育委員会社会教育課に文化財保護係が設置され、係長以下5人の職員が置かれた。これらにともない調査団の構成も改められた（表6）。

表－6　昭和49年度調査団構成

団長	富沢　宏	社会教育課長
副団長	藤島清多	都市計画部長
専門委員	尾崎喜左雄	東国古文化研究所長
〃	近藤義雄	県文化財保護課長
顧問	藤井精一	助役
〃	阿部正六	総務部長
〃	内山博治	商工部長
〃	伊藤順	教育長
〃	清水実	教育次長
〃	奈良三郎	財政課長
参与	松田徳松	文化財調査委員
〃	中沢右吾	〃
〃	山田武磨	〃
〃	丸山知良	〃
発掘調査担当者	相沢貞順	社会教育課主事
〃	川合功	〃
調査員	松島栄治	社会教育課文化財保護係長
〃	中村富夫	社会教育課文化財保護係主事
〃	江原清	社会教育課文化保護係主事補
幹事	小森益男	工業課長
〃	宮田勝己	宅地開発課長
〃	金井隆作	総務課長（教育委員会）
〃	上原有良司	学校教育課長
事務局員	小野正斌	社会教育課次長
〃	小林八郎	工業課次長
〃	前田真一	工業課主任
〃	梅山千秋	工業課主事
〃	主代清	宅地開発課次長
〃	立川宏二	宅地開発課庶務係長
〃	細野松三郎	宅地開発課移転係長
〃	加藤通明	宅地開発課工務係長
〃	町田趙夫	宅地開発課主任
〃	大塚正夫	宅地開発課技師
〃	阿久津宗二	社会教育課社会教育係長
〃	酒井正保	社会教育課社会教育係主任
〃	木村三治郎	芳賀公民館長
〃	中嶋隆二	社会教育課主任
〃	斉田節子	社会教育課主事

調査団規約、委託契約書、発掘調査実施計画書は基本的には前年と同じである。
昭和49年度の調査は次のように進められた。

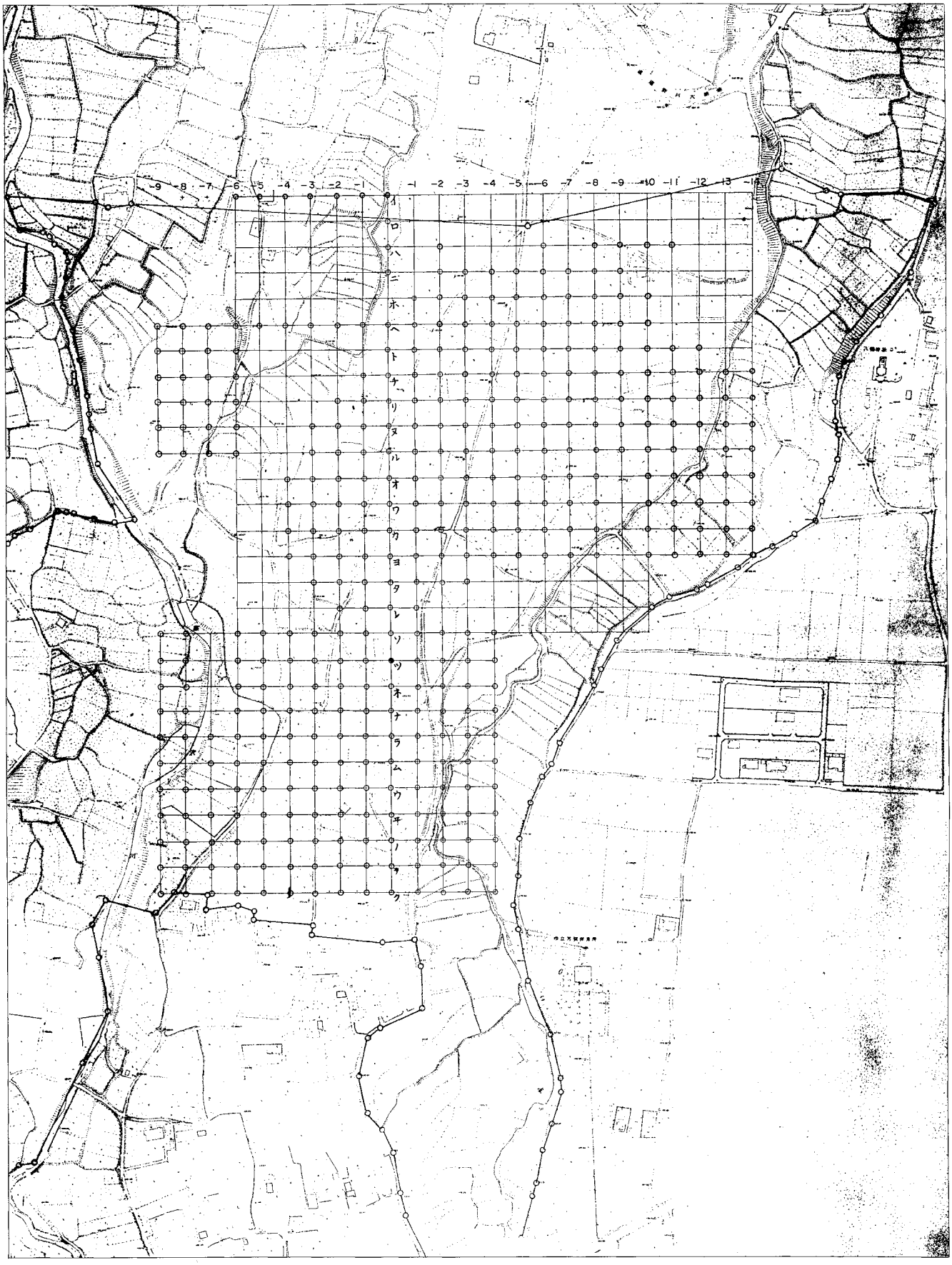
◇５次調査　昭和49年４月１日～５月５日

前年度から継続していた地区の調査を終了させた。５次調査終了後、係職員は地元作業員の方々と王山古墳の調査を実施し（５月15日～７月25日）、引き続き山王廃寺１次調査も実施した（７月22日～９月６日）。その一方で芳賀北部団地遺跡の調査を再開した。

◇６次調査　昭和49年７月22日～昭和50年２月28日

６次調査をもって、約２年にわたる芳賀北部団地遺跡の発掘調査は終了した。

発見された遺構・遺物は膨大に数量になるが住居跡だけをあげると縄文時代34、奈良・平安時代236（掘立柱建物跡８を含む）にのぼっている。終了した調査総面積は44,513㎡で、開発面積は32.8haにのぼる。



芳賀北部団地遺跡調査グリッド設定図

II 整理の経過（昭和55年12月～平成6年3月）

昭和55年12月　芳賀団地遺跡（北部・西部・東部）の調査が終了し整理作業に入る。
56年3月　調査報告書の整理・刊行計画が決定される。東部・西部・北部の順で5巻にわけて刊行されることとなる。図面の整理・遺物整理に入る。
57年　第1巻刊行に備え、土器復元・実測を進める遺構の検討を進める。
58年5月　調査報告書に作成委員会・執筆委員会が発足する。委員に原稿執筆を依頼する。図版作りを進める。
11月　原稿完成。第2巻の遺物整理を進める。
59年3月　第1巻刊行。（芳賀東部団地遺跡―古墳・奈良・平安時代〔谷東〕―）
12月　第2巻の遺物整理を進める。
60年　第2巻の遺物の復元・実測を進める。
61年　第2巻に収録の遺構のデータ表を作成し執筆を依頼する。
62年　第2巻の図版作成を行う。第3巻の遺構の検討に入る。データ表作成。
63年3月　第2巻刊行。（芳賀東部団地遺跡―古墳・奈良・平安時代〔谷西〕―）
63年　第3巻の遺物の復元を進める。執筆を依頼する。
64年平成元年　第3巻の図版作成。考察の検討。第4巻以降の委員体制について検討、改組を行う。第4巻の遺構整理・データ表作り、遺物復元を進める。
平成2年3月　編集委員会を開く。刊行計画の検討を行う。第3巻（芳賀東部団地遺跡―縄文・中近世編―）刊行。第4巻（芳賀西部団地遺跡）刊行。
3年5月　作成委員会を開く。平成3年度事業計画決定。遺物の復元・実測、遺構の検討を進める。
3年8月　編集委員会を開く。作業への指導をうける。
3年12月　編集委員会を開く。芳賀北部団地遺跡（第5巻）の2冊への分冊と刊行計画の変更を検討。
4月3月　編集委員会を開く。平成4年度事業計画検討。
4年5月　作成委員会を開く。平成4年度事業計画決定。刊行計画・編集計画決定。
4年8月　編集委員会を開く。遺構の原稿化を進める。
4年12月　編集委員会を開く。作業への指導をうける。第6巻の遺物の整理に入る。
5年3月　編集委員会を開く。平成5年度事業計画検討。第5巻の遺物の整理がほぼ完了する。
5年4月　作成委員会を開く。平成5年度事業計画決定。第5巻の原稿・図版の作成を続ける。
5年12月　編集委員会を開く。第6巻考察編の構成について検討を行なう。
6年1月　編集委員会を開く。第6巻考察編について検討を行なう。第5巻の原稿完成。発注。
6年3月　編集委員会を開く。平成6年度事業計画検討、第6巻考察編構成検討。第5巻（芳賀北部団地遺跡）刊行。第6巻の遺物の復元整理を続ける。

III　遺跡の立地環境

芳賀北部団地遺跡は、前橋市勝沢町・小坂子町・嶺町（現在は高花台一丁目～三丁目）に所在する縄文時代から中近世にまたがる複合遺跡である。開発面積は32.8haで、調査面積は約4.45haである。

芳賀北部団地遺跡は、群馬県南東部に位置し、関東平野を南に臨む赤城山の南麓に所在する。赤城山南麓は赤城山からの小河川が小さい谷地を作っており、その谷地にはさまれた台地上に位置している。

標高は芳賀北部団地の北端で約200m、南端で158m、主要地方道渋川・大胡線と県道四ッ塚・原之郷・前橋線にはさまれている。傾斜はこの二本の道路と南の大正用水が変化し、それぞれを変化点としてゆるやかになっている。芳賀北部団地遺跡は芳賀団地遺跡群の三遺跡（北部・西部・東部）のうちでは最も傾斜の地にある。東部団地・西部団地遺跡の順にゆるやかとなり、南は標高110m付近で旧利根川の河川敷に接している。

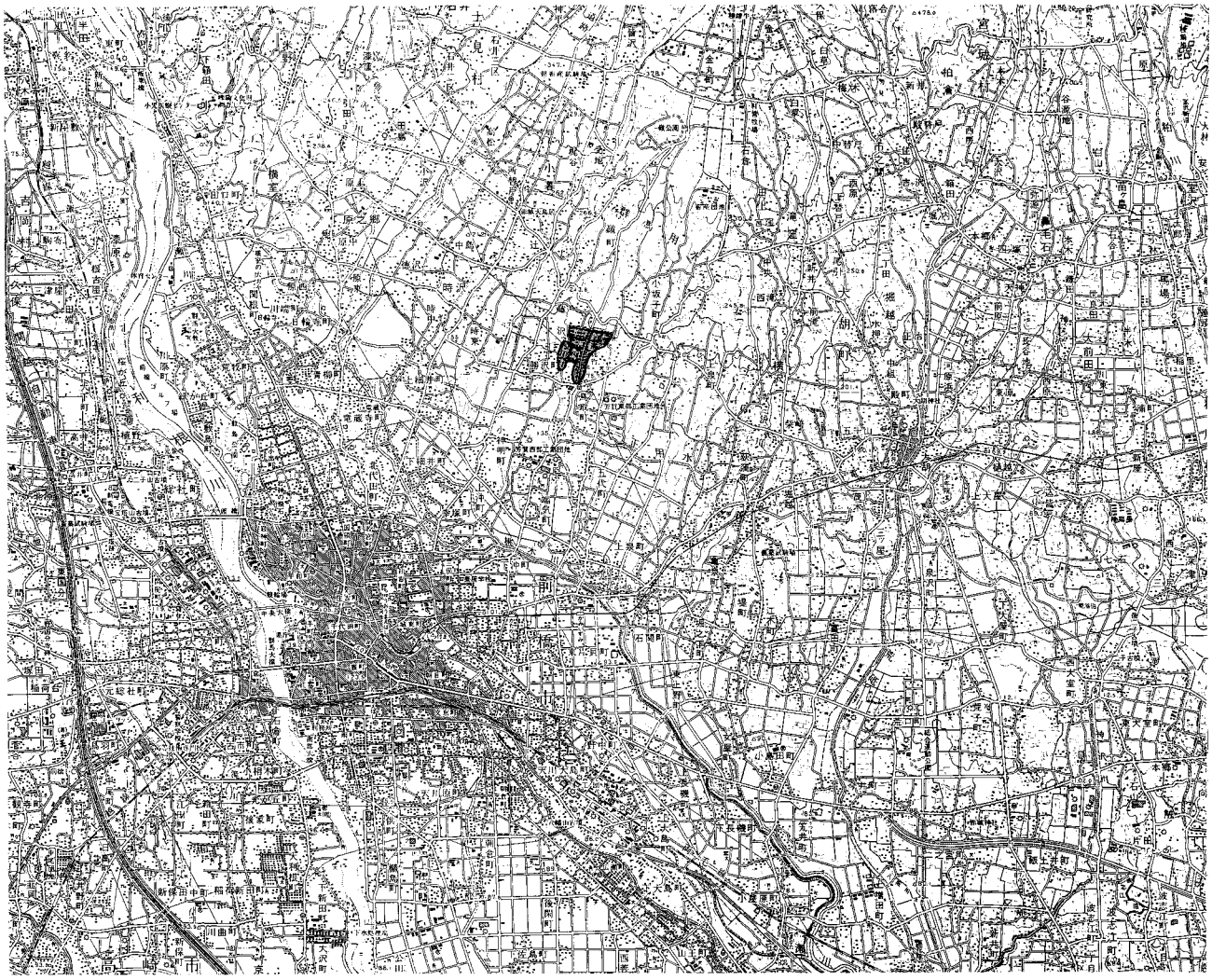
芳賀地区は本遺跡周辺の総称であるが、市内でも埋蔵文化財の多い地区であり、また残存度も良い地区である。遺跡の立地は前橋市内においては、主要地方道渋川・大胡線の南側が中心であり、この北側ではわずかな確認例があるのみである。

芳賀地区で調査が実施された遺跡は次の通りである。（図－２及び表－１参照）

芳賀北部団地遺跡が調査されている当時には周辺には調査例はほとんどなかったが、現在では芳賀地区内だけでも二十ヵ所近くになっており、新しい資料がふえて地域の歴史についての新知見が得られつつある。芳賀北部団地遺跡及び芳賀団地遺跡群全体についての考察については第６巻に収録を予定しているので、本項では既略のみを記す。

近年旧石器の調査が進み、宮城県では五十万年前との測定値の旧石器が出土している。県内では新里村の不二山遺跡で５万年前の A_g—U_p 軽石直下の旧石器が検出されており、市内でも西大室町の熊の穴II遺跡で２万２千年前の旧石器が検出されている。芳賀地区では今のところ旧石器は検出されていないが、その可能性を秘めた地区である。

縄文時代に入り、芳賀地区では端気町で草創期・早期の土器が検出されている。前期になると嶺・鳥取・勝沢・小坂子・小神明町で竪穴住居・土坑が作られている。この時期赤城山南麓で遺跡の数がふえている。中期になると、小神明・勝沢・小坂子・端気町で敷石住居・竪穴住居が作られている。赤城村の三原田遺跡や飯土井町の荒砥二之堰遺跡もこの



図－１　芳賀北部団地遺跡位置図

時期にあたる。後期・晩期では鳥取・勝沢・小坂子・五代町に竪穴住居、土坑が作られている。桐生の千網谷戸遺跡や月夜野町の矢瀬遺跡、榛東村の茅野遺跡、下大屋町の大道遺跡もこの時期にあたる。この後気候の冷涼化により遺跡が減少している。

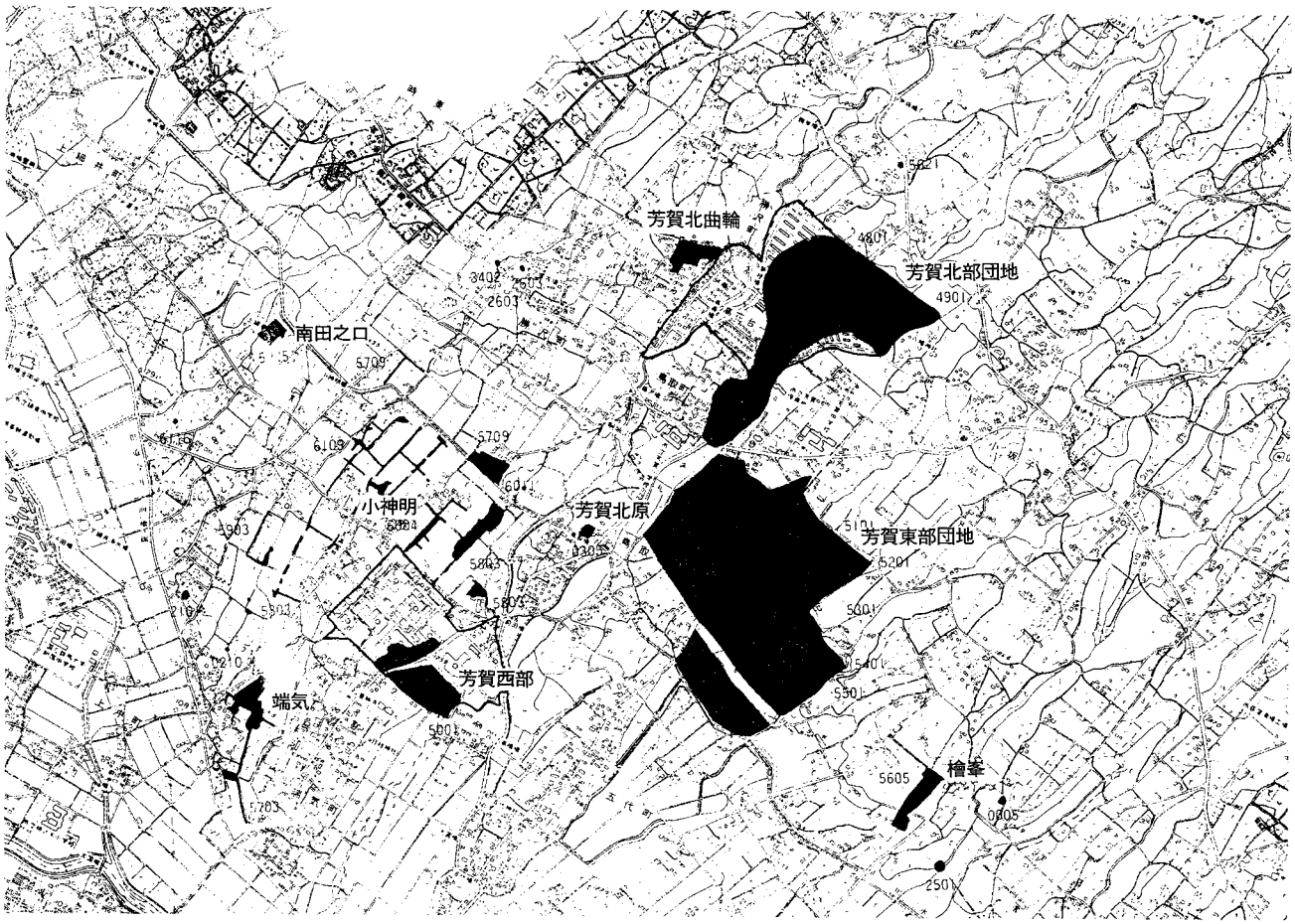
弥生時代の遺跡は、芳賀地区にはあまり見られない。前期の集落は子持村の押手遺跡や安中市の注連引原遺跡にみられるが、芳賀地区では中期になって小神明・鳥取・端気町で住居跡や方形周溝墓が作られている。この時期、高崎市日高遺跡や同道遺跡で稲作がはじまっている。上青梨子町の清里庚申塚遺跡や今井町の北三木堂遺跡もこの時期である。後期では高崎市新保・引間・大八木遺跡で水田跡が確認され、富岡市中高瀬観音山遺跡・南蛇井増光寺遺跡の住居群もこの時期にあたる。芳賀地区では後期の遺跡は今のところ発見されていない。

古墳時代に入り、芳賀地区では五代町に集落が生まれてくる。このころ広瀬町に八幡山古墳・前橋天神山古墳が作られ、その後群馬町三ッ寺に居館跡が作られる。その後6世紀ころから地区全体に集落がひろがってゆく。鳥取町に古墳群が生まれてゆく。また、勝沢・小神明町に集落が作られてゆく。この時期は西・東大室町に前・中・後二子古墳が、総社町に総社二子山古墳、文京町に天川二子山古墳が作られた時期でもある。勝沢町のオブ塚古墳、五代町の大日塚古墳、五代・勝沢町の古墳群が作られている。

奈良時代に入り、勝沢・小神明・鳥取・小坂子・嶺町に集落ができる。古墳時代にくらべ住居数がふえてくる。東国諸国に国府が創設され、749年には元総社町・群馬町の上野国分寺の建物がほぼできあがったと伝わる。上泉・五代町の桧峯（ひのきみね）遺跡に奈良三彩小壺がもたらされている。芳賀北部団地遺跡でも765年初鋳の神功開宝が発見されている。奈良時代末になると住居数が若干減少する傾向がみられる。

平安時代に入ると住居数は急増する。時代の変化に対応したものだろうか。818年に関東一円に大地震がおこり、地割れ、山崩れが多発した記録があり、県内及び市内各地でその跡がみつかっている。芳賀地区内では今のところその跡は発見されていない。10世紀に入ると芳賀地区内では住居数が減少する傾向がみられるが、これは939年に上野国府が平将門に攻められたりする時代の変化に対応しているものだろうか。さらに1108年には浅間山噴下で県内に大量の軽石が降り、集落は荒廃してゆく。芳賀地区内での住居数も激減してゆく。

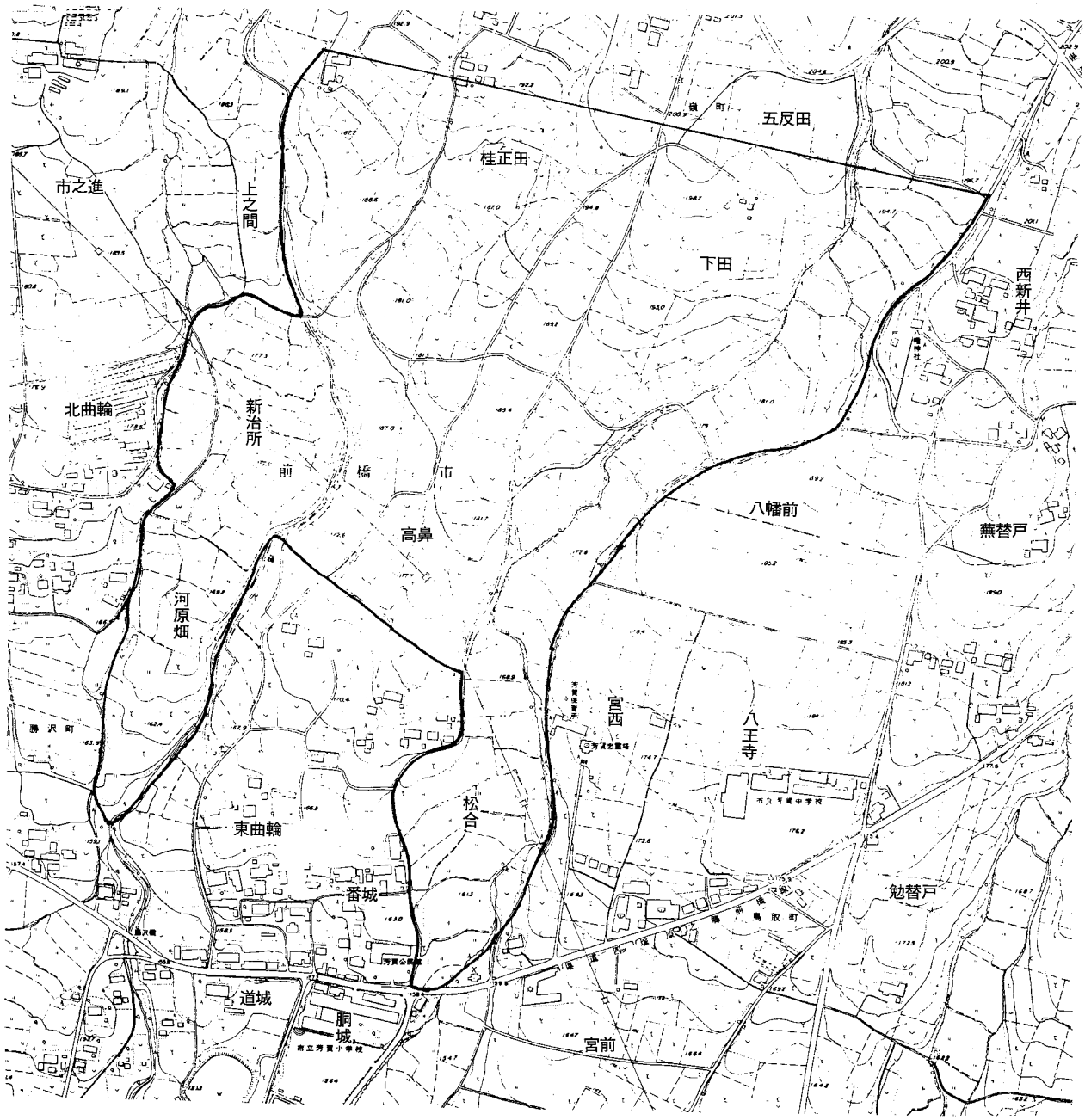
この後中世の再開発が行なわれ、新しい集落や城も各地に作られてゆく。



図―2　芳賀地区遺跡位置図

表－1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要
1	小神明Ⅰ（こじんめい）	小神明・勝沢	縄文時代　竪穴住居跡（前期前葉～中・後期初頭）７。土坑４。その他１。 奈良時代　竪穴住居跡（前半）１。平安時代　竪穴住居跡（前半）２。 鎌倉時代以降　環濠跡１、土坑13、井戸10、掘立柱建物跡２、溝11、ピット群４。
2	端気Ⅰ（はけ）	端気・上沖	縄文時代　竪穴住居跡（前期諸磯Ｃ）１。ピット１。弥生時代　方形周溝墓２、ピット１、溝状遺構１。　古墳時代　竪穴住居跡２。（和泉、鬼高Ⅲ）。中世以降　環濠１、石敷遺構３、墓壙１、土坑１、ピット１。その他　溝状遺構７、ピット３、柱穴群。
3	小神明Ⅱ	鳥取（倉本（クラモト）・西田）・勝沢（九料（クリョウ））・小神明（大明神（ダイミョウジン））	〔倉本〕弥生時代　竪穴住居跡２（中期～後期、１軒は焼失住居）。　戦国時代以降　環濠。近世　溝２、ピット21。 〔九料〕縄文時代　敷石住居跡１（後期初頭称名寺）。　古墳時代　竪穴住居跡Ⅰ（鬼高Ⅰ）。古墳～近世　ピット９。平安時代　溝１。 〔西田〕縄文時代　竪穴住居跡３（前期前半関山）。　古墳時代　竪穴住居跡４（和泉）、古墳５（６世紀中頃、横穴式石室、円墳４、ほたて貝１）、その他溝３、道状遺構１、ピット35。 〔大明神〕古墳時代　竪穴住居跡２（鬼高Ⅱ～Ⅲ）、溝５、土坑６、井戸１。
4	端気Ⅱ	端気	縄文時代　竪穴住居跡（中期加曽利Ｅ後半）。土坑。　古墳時代　竪穴住居跡（鬼高）。中世以降　環濠（端気Ⅰに同じ）
5	檜峯（ひのきみね）	上泉・五代	古墳時代　竪穴住居跡（鬼高）。奈良～平安時代　竪穴住居跡65（真間23、国分37）不明５。
6	小神明Ⅲ	小神明	中世～近世　土坑、ピット、井戸。
7	小神明Ⅳ	小神明（湯気（ユケ））・勝沢（九料）	〔湯気〕縄文時代　草創期の尖頭器　弥生時代　竪穴住居跡１。　古墳時代　竪穴住居跡７（和泉・鬼高Ⅰ）、掘立柱建物跡３（古墳１、真間１、不明１）。　奈良～平安時代　竪穴住居跡７（真間・国分Ⅰ）。その他　ピット、土坑、井戸、溝。 〔九料〕縄文時代　敷石住居跡２（後期）。　古墳時代　竪穴住居跡15（鬼高Ⅰ）、掘立柱建物跡１。土坑。ピット。　奈良～平安時代　竪穴住居跡２（国分）。中・近世　墓壙４（江戸）
8	小神明Ⅳ〔九料南部〕	勝沢	縄文時代　竪穴住居跡２（前期諸磯Ａ、中期加曽利Ｅ）。集石遺構１。　古墳時代　竪穴住居跡24（鬼高）（１軒は小鍛冶カ）、土坑29。
9	小神明Ⅴ	小神明（合田（アイノタ））	奈良時代　竪穴住居跡２。その他　竪穴住居跡１（不明）　溝
10	芳賀北原（はがきたはら）	鳥取	縄文時代　陥し穴１。　古墳時代　竪穴住居跡３。　平安時代　竪穴住居跡６。土坑２。
11	芳賀北曲輪（はがきたくるわ）	勝沢	縄文時代　竪穴住居跡25（前期前半黒浜６、前期後半諸磯５、中期末～後期初頭６〔中に環状配石住居跡１、柄鏡型敷石住居跡５を含む〕、時期不明８）、土坑21。　古墳時代　円墳６（７世紀中頃）、井戸１、土坑12、溝２。
12	谷端（たにはた）	小神明	古墳時代　竪穴住居跡７（鬼高）。土坑１、溝１。　平安時代　竪穴住居跡１。その他　溝２。
13	芳賀東部団地（はがとうぶだんち）	鳥取・小坂子・五代	縄文時代　竪穴住居跡60（前期初頭１、花積下層１、関山６、黒浜19、諸磯ａ７、諸磯ａ＋ｂ１、諸磯ｂ６、諸磯ｂ＋ｃ３、諸磯ｃ４、加曽利Ｅ４－３、称名寺２－４、堀之内２－１、不明４）、土坑140、配石遺構など４。　古墳時代　古墳４（７世紀中半以降、円墳）。竪穴住居跡96（石田川73、６世紀中葉１、６世紀後葉１、７世紀前半10、７世紀後半11）。　奈良～平安時代　竪穴住居跡374（８世紀初頭前半～前葉28、中葉30、後葉23、９世紀前葉46、中葉94、後葉79、10世紀前半39、後半の前11、後半の後11、11世紀前半８、後半５）、竪穴遺構10、掘立柱建物跡206、鍛冶址・製錬跡５、溝84、土坑125、井戸３。中・近世、地下式土坑４、土坑293、井戸20、溝23、その他37（性格不明）
14	芳賀西部団地（はがせいぶだんち）	鳥取・小神明・五代	縄文時代　竪穴住居跡７（有尾３、黒浜２、黒浜～諸磯ａ１、諸磯ａ１）。土坑８。　古墳時代（古墳30、円墳５世紀後半～６世紀初頭）。土坑１。 中近世　土坑27、井戸６、溝12、集石２。JP11、JS７
15	芳賀北部団地（はがほくぶだんち）	嶺・勝沢・小坂子（現高花台）	縄文時代　竪穴住居跡34。その他。（整理中であり未確定）。　奈良～平安時代　竪穴住居跡227、製鉄跡３、掘立柱建物跡８、溝28、井戸５、土坑67。

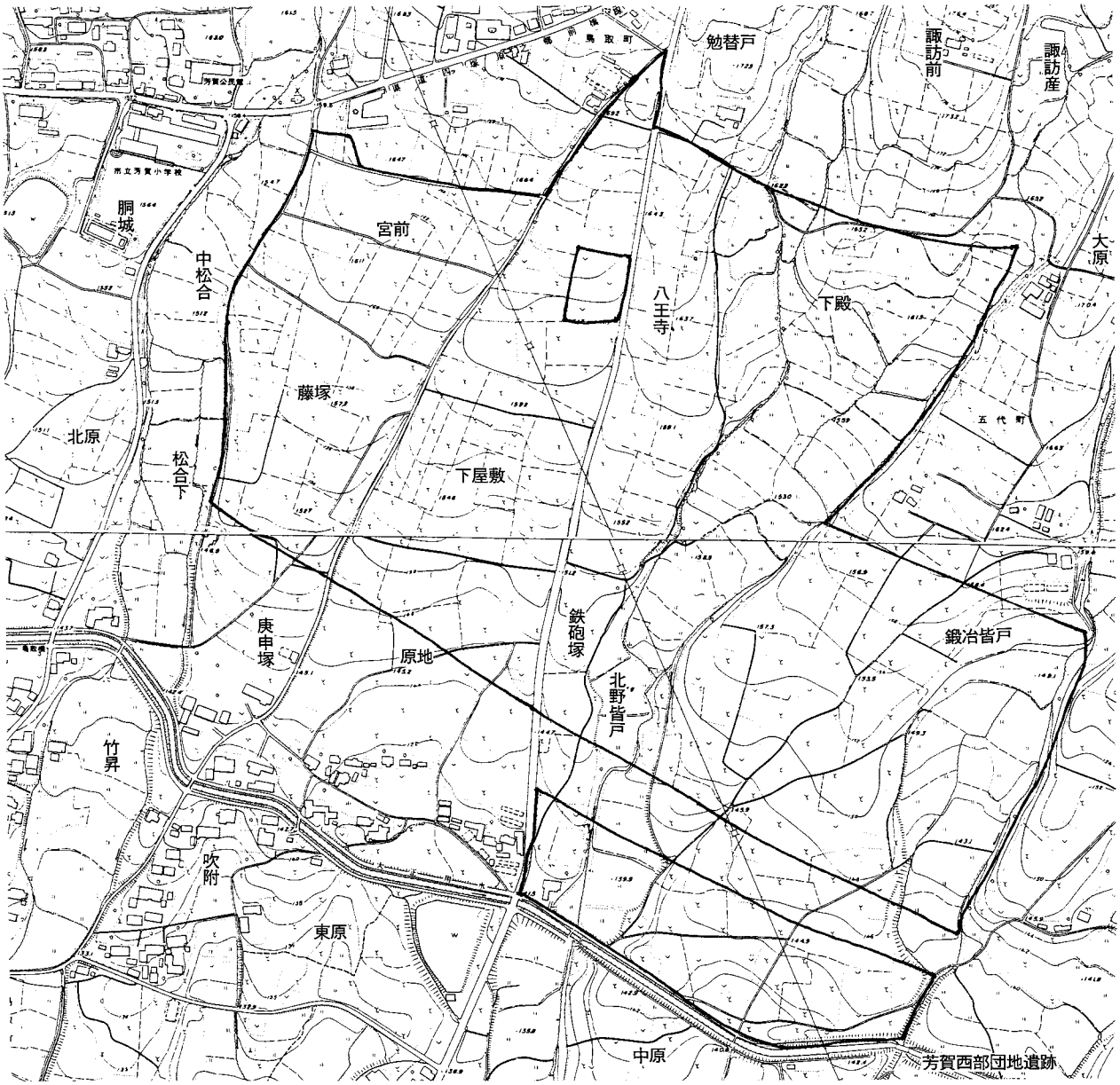


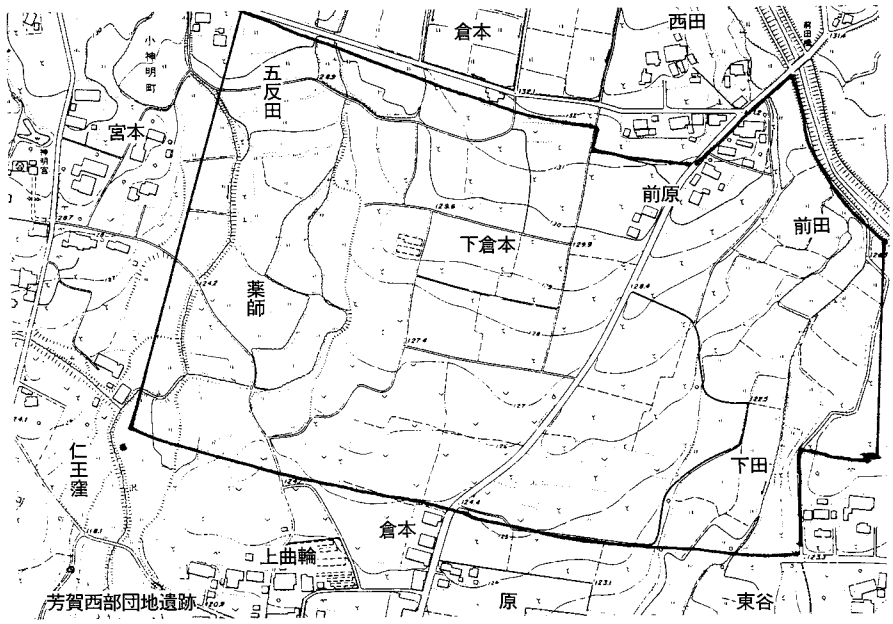
図－3　芳賀北部団地遺跡旧状図及び字図

表—2　年　　表

		小Ⅰ	端Ⅰ	小Ⅱ	端Ⅱ	桧	小Ⅳ	(九料南)	北原	北曲輪	小Ⅴ	芳東	芳西	芳北	谷端	市内	県内	日本	世界
旧石器	50,000 25,000 22,000 14,000 10,000						湯気(小神山) 九料(勝沢)						50,000(Ag-up) 始良-Tn火山灰 2,2000AT 15,000As-SP 13,000As-Yp			古城(コジョウ)(安中) 内堀28000 西大室熊の穴Ⅱ 22000 荒子北三木堂 14000 荒子頭無 13000～14000	伊勢崎権現山 50000 新里不二山 岩宿 24000～30000 下触午伏(赤堀) 25000 このころ和田峠の黒曜石中部から関東に広く分布する 10000	宮城馬場壇A14万 宮城座散乱木 9万～7万 長崎で最古の土器	ナウマンゾウ 3万 最終氷河期
縄文時代	8000 草 4,500 前 3,000 中 2000 後 1000 晩 400(300)	住居1 前葉 (小神明) (小神明) 住居3 中～後		住居3 関山 (鳥取) 住居1 称名寺 (勝沢)	草創期土器 爪形文 撚糸文 有舌尖頭器 アカホヤ 火山灰 住居1 加曽利E3 (鳥取)	5,000～3700 縄文海進 BC4200 BC4300 鬼界カルデラ	敷石 住居2 後 (勝沢)	前 住居1 (勝沢) 中 住居1 (勝沢)	縄文 おとし穴 (鳥取) 中～末 後初	黒浜 住居6 諸磯 住居5 配石住1 柄鏡配石4 住2 加曽利E4 称名寺I 不明7		前 初頭1 花積下層 関山6 黒浜19 中期末 加曽利E4 後期前半 称名寺2 堀之内2 不明 (計61軒)	諸a 7 a+b 1 b 6 b+c 3 c 4 3 4 1 4	有尾3 黒浜2 諸a黒浜1 諸1 諸a(古)1 (鳥取)	前期 住3 中期 住24 配石4 配石		小野上村 (八木沢清水) 3000 赤城南麓に遺跡ふえる 三原田2300～1800 吾妻町 欠瀬 後期末～晩期前半 千網谷戸 BC500	貝塚の形成 3000 福井鳥浜(うるし) 3400 栃木根古屋台大住居 3000 長野阿久 列石 2800 石川真脇 2600 山梨釈迦堂 2000 千葉加曽利貝塚 2000 柄鏡住居できる 1800 秋田ストーンサークル 1700 ハート型土偶 900 石川チカモリ 700 青森亀ガ岡	温暖な晩氷期へ広葉樹林広がる。 2600 ギザピラミッド 2500 インダス文明 1750 ハンムラビ法典 1600 殷王朝 750 ホメロス「オデュセイア」 563 ブッダ誕生
弥生時代	400 前 BC100 中 AD100 後 300		方形周構墓 (端気)	住居2 (鳥取) ↓ 中期			住居1 (小神明)							100 岩櫃山 (吾妻)		清里庚申塚 (上青梨子) 北三木堂(今井) 新保・日高 小八木	押手(子持村) 注連引原(安中) 有馬条里(梅川) 同道 日高で稲作はじまる(1C) 中高瀬観音山 南蛇井増光寺	350 佐賀に稲作 250 福岡板付 00 漢書「倭国に百余国あり」 00 青森に稲作広まる 50 吉野ケ里 100 島根荒神谷に銅剣 239 卑弥呼魏に使い 250 静岡登呂	334 アレキサンダー大王東征 27 ローマ帝国初代皇帝即位 57 倭の奴の国王に金印
古墳時代	4C 前期 400 中期 5C 500 後期 6C 600 終末期 7C	住居1 (小神明)	住居1 (端気) 住居1 (端気)	住居4 和泉 (鳥取) 住居9 鬼I (勝沢) 住居2 鬼II・III (小神明) 古墳5 (鳥取)	住居5 (端気) 鬼I後半 鬼I終末 住居7 中末	6C後 オブ塚 住居11 (後期) (檜) 大日塚 7C前	小神明 住居7 掘立3 勝沢 住居15 掘立1	勝沢 住居21 土坑28	鳥取 住居3	中 C軽石降下 500ころFA 550ころFP 末期 群集墳 6		石田川期(五代) 中葉 鬼高I 後葉 前半 後半	73 1 1 9 (+1) 11 古墳4基	5C未～6C前 古墳 31 (鳥取)	住居7 鬼高	前橋天神山古墳 元島名将軍塚 赤堀茶臼山 埴輪普及 須恵器流入 竪穴住居にカマドできる 470ころ三ツ寺 古墳に横穴式石室 前 大室三ツ子 中 後 7C前半まで使用(中当～後半) 群集墳盛んにできる 愛宕山古墳 宝塔山古墳	東海系土器流入 日高・同道遺跡 太田天神山 保渡田古墳 七輿山古墳 埴輪最盛期 子持村白井に放牧地(FP前) 綿貫観音山 観音塚古墳 伊勢塚 山の上古墳 645 東国に国司派遣 山王廃寺できる	300 奈良に前方後円墳できる 300 ころ京都で鏡の副葬はじまる 400ころ 大阪河内に巨大古墳 471 稲荷山鉄剣 中筋うまる 538 仏教伝来 黒井峯うまる 570ころ 藤ノ木古墳 593 聖徳太子摂政 604 17条憲法 607 遣隋使 630 遣唐使 663 白村江の戦い 645 大化改新 672 壬申の乱 690ころ 高松塚古墳	ゲルマン民族大移動 414 高句麗広開土王石碑 雲岡石窟 622 マホメットメディナへ
奈良時代	700 (710) 8C 794	住居1 (勝沢)				真間の住居より三彩小壺 61・堀立1	小神明 住居7 勝沢 住居2				住居2	初頭前葉 28 中葉 31 後葉23	8C前半	231 堀立 神功開宝出土		東国諸国の国府創設 多胡碑(711の少しあと) このころ上西原(荒子)に寺跡？できる 749 上野国分寺建物ほぼできる		701 大宝律令 710 平城京 723 三世一身の法 729 長屋王の変 741 国分寺建立の詔 752 東大寺建立 754 鑑真来日 765 9．8 神功開宝鋳造 770 道鏡失脚下野へ 794 平安京遷都	724 多賀城築かれる
平安時代	9C 900 10C 1000 11C 1100 12C 1200	住居1 (勝沢) 住居1 (小神明)							鳥取 住居6	1108 B軽石降下		前葉 46 中葉 94 後葉 79 前半 39 後半の前 11 後半の後 11 前半 8 後半 5			平安 住居1		817 最澄上野国に下る 819 坂東諸国に大地震、各地に地割れおこる 939 平将門上野国府襲う 1108 浅間山墳火軽石が田畑をうめる 女堀工事	800 富士山噴火 806 天台宗公認 866 応天門の変 894 遣唐使廃止 935 平将門の乱 藤原氏政治実権にぎる 1015 前九年の役 1083 後三年の役 1086 白河上皇院政始める 1185 平氏滅ぶ	

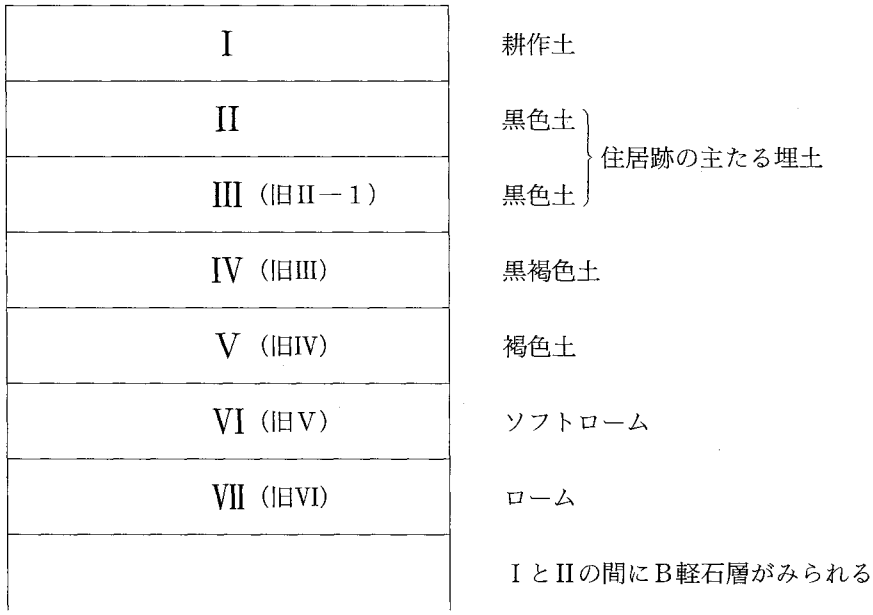
(記入年代観は目やすで、記入上の都合で位置に違いがあります。)





図―4　芳賀東部・西部用地遺跡旧状図及び字図

III 基 本 層 序



図－5　地層柱状図

V　検出された遺構と遺物

第5巻では芳賀北部団地遺跡の古墳～奈良・平安時代編を扱う。5巻に収録されている遺構は竪穴住居跡227軒、掘立柱建物跡8棟、製鉄址3基、溝28条、井戸5基、土坑67基の338遺構である。

住居跡は奈良～平安時代が中心で、東部団地遺跡とは様相の違いを示す。遺物も同様に異なった様相がみられる。住居の規模は小さいものが多く、遺物にも多量の小形坏など特色がある。

掘立柱建物跡は1棟を除き1地区にほぼ東西に並んで位置している。

製鉄址は3基であるが、残存状況はあまり良くない。いずれも精練址と考えられるものである。

溝は28条検出されているが、部分検出のものがほとんどで、つながりについては明確でないものが多い。大区画を形成しているとみられるものが多い。

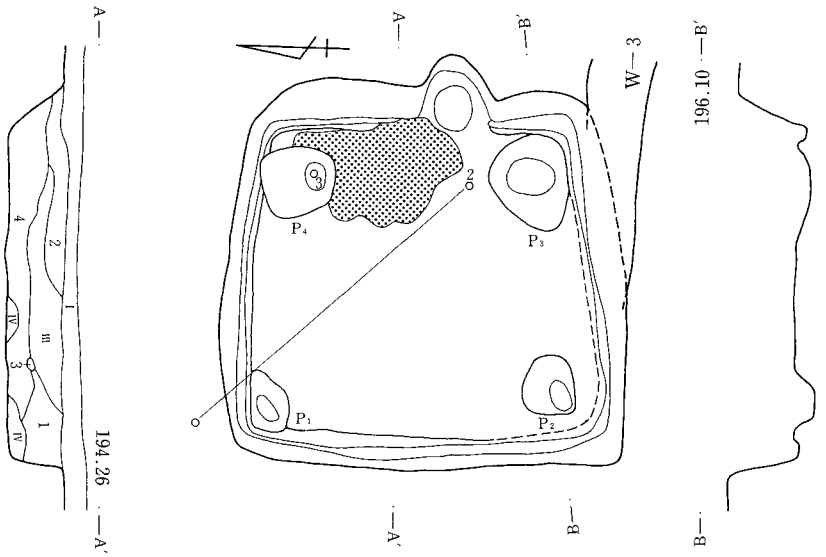
井戸は5基検出されている。部分掘削のものがほとんどであり、遺跡全体とのかかわりは不明。

土坑は67基検出されているが、形状・性格はまちまちである。墓壙等も含まれている。

1　竪穴住居跡

H１号住居跡　（図－６・７　表４－１　図版－７）

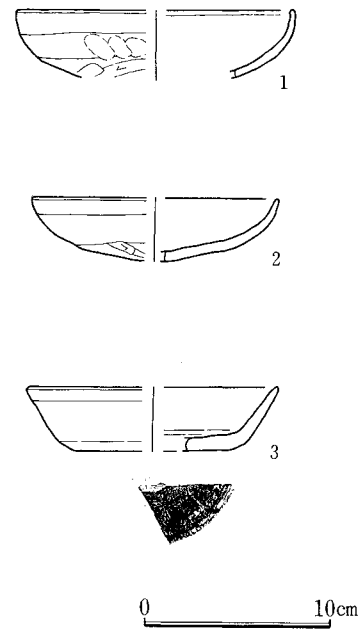
位置　台地中央部で南への傾斜地にあたるII－22区に位置する。北側集落群の南端にあたる。周囲は比較的住居跡の密集した地域である。　**形状**　東辺が西辺にくらべやや狭まる隅丸方形。規模は東西3.5m、南北3.8mを測る。面積は13.37m²である。長軸方位はN－0°である。壁は比較的しっかり掘り込まれており、壁現高は48～58cmを測る。周溝が全周している。巾は８～10cmを測る。深さは不明。しっかり築られている。床面について特に記載はない。カマド北側に焼土がみられる。(180cm×100cm)　**ピット**　床面に４ヵ所検出されている。いずれも柱穴とみられる。P_1(68×46×18) P_2 (67×64×28) P_3 (104×85×—) P_4 (77×81×28)。床面隅に方形に配されている。上面の割には浅い。　**カマド**　東壁中央のやや南より。資料が不足しているが、壁外に70cmの掘り込みをもつ。全長は約80cm程度か。燃焼部は残存状況からみて長約50cm。両袖間は現状で70cm。構築材は不明。**貯蔵穴**　なし。**重複関係**　W－３と重複。H－１が新しい。北西にH－225、東にH－223が位置する。　**遺物**　坏等が出土。



1．III層に似る。Cがやや多い。
2．III層に似る。ロームのまじりが少ない。
3．灰層。
4．ローム塊を多く含む黒色土。

0　4m

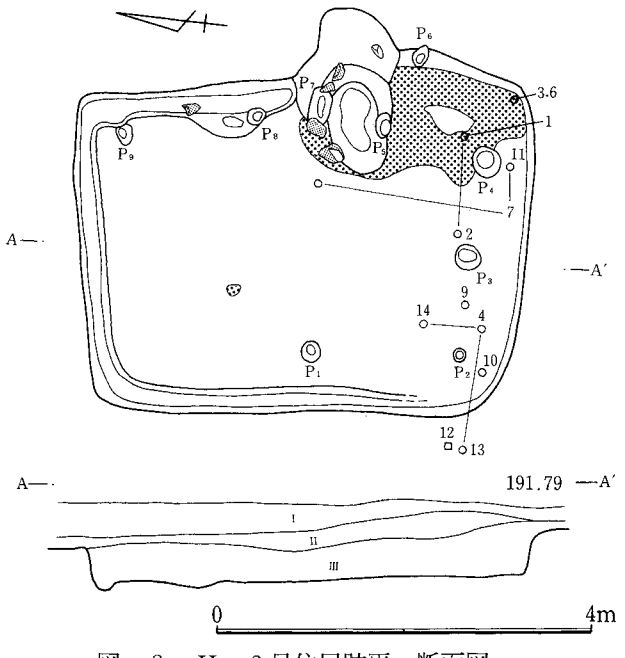
図－６　H－１号住居跡平・断面図



0　10cm

図－７　H－１号住居跡出土遺物実測図

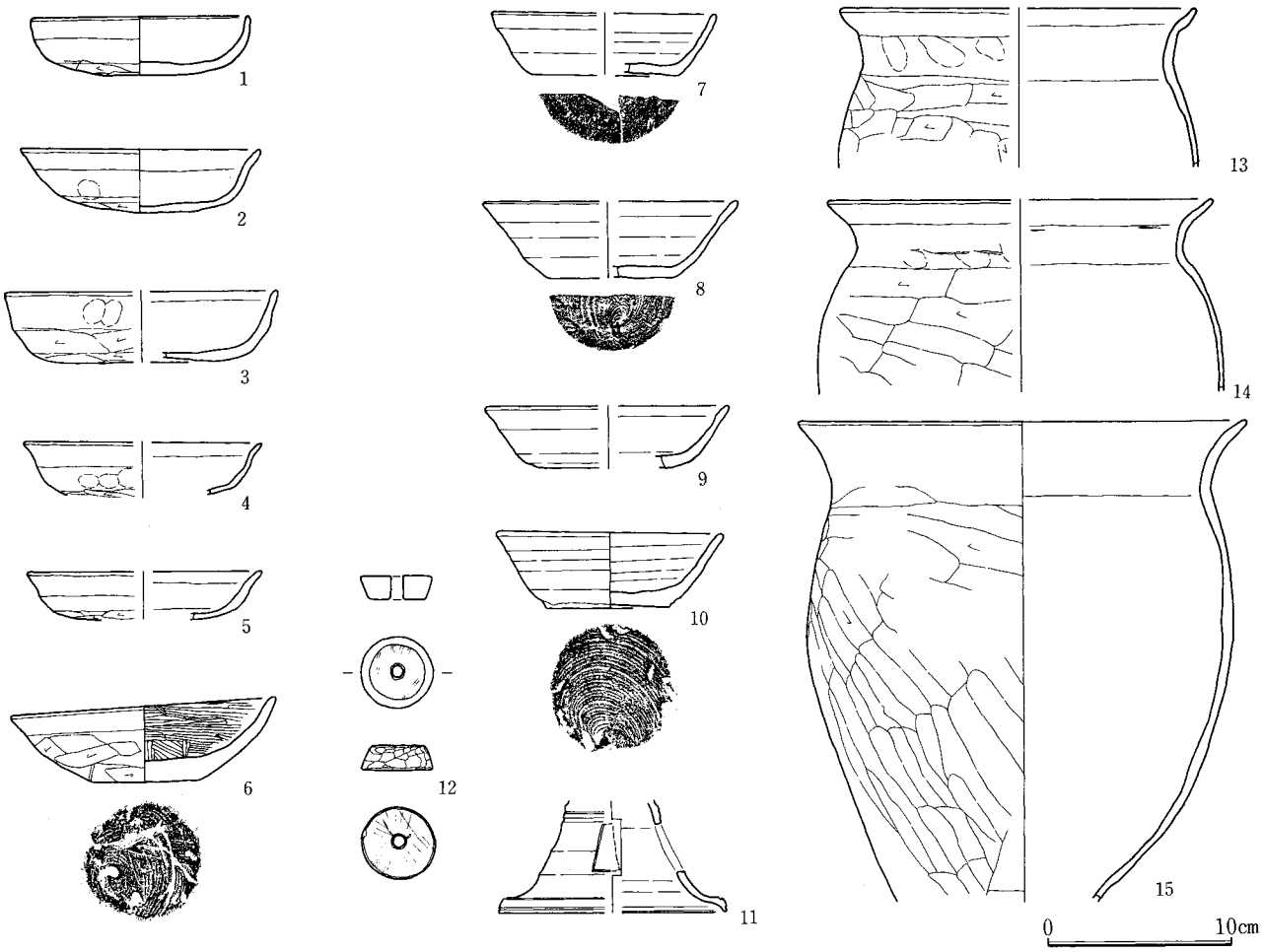
H２号住居跡　（図－８・９　表４－１　図版－１）



0　4m

図－８　H－２号住居跡平・断面図

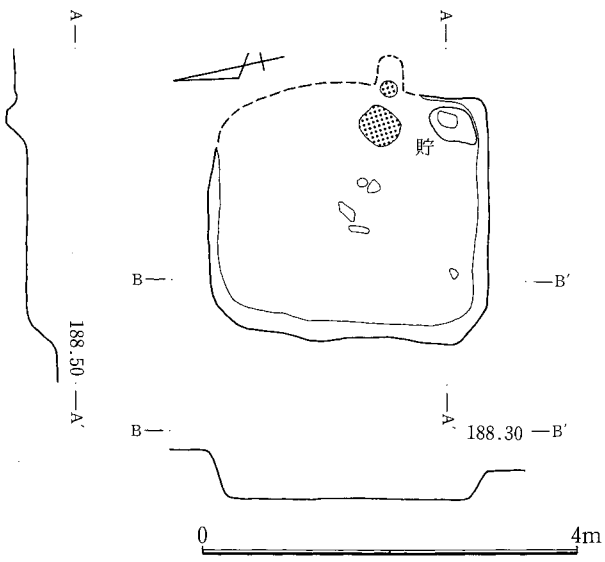
位置　台地北辺にあたるＩ－87･88区に位置する。北の集落の北西端にあたる。周囲の住居跡はまばらであり、H－２の北・西よりで住居跡は検出されていない。　**形状**　東辺が西辺にくらべて開く長方形。北辺と東辺、西辺の北３分の２まではしっかりとした造りであるが南辺部は北辺と異なり全体にはらんでいる。規模は東西3.3m、南北4.6m。面積は15.1m²、壁高は地層断面よりみると48cmを測る。周溝は北辺と西辺、東辺のカマド北で検出されている。巾は６～18cmで深さ２cmを測る。南辺では検出されていないが、あったかは不明。長軸方位はN－５°－E。カマド前からカマド南にかけて焼土が検出されている（220×100cm)
ピット　床面８ヵ所。$P_{1,2,3,4,9}$ はやや細いが柱穴とみられる。径は20～30cmで深さ20～30cm。$P_{5,7}$ と $P_{6,8}$ はカマドに係るものと考えられる。袖の石跡と上屋構造によるものか。
カマド　東辺中央のやや南。若干石が残っており石を芯材にして築ったものか。燃焼部はほぼ壁内にある。掘り込まれ広い燃焼部をもつ。　**遺物**　坏、高坏、甕、紡錘車等が出土。



図－9　H－2号住居跡出土遺物実測図

H3号住居跡　（図—10　図版—7）

位置　台地の西辺のII—86•87区に位置する。集落より西にはずれ、周囲20mに他の住居跡は検出されていない。　**形状**　各辺ともほぼ直の方形を呈す。隅角は隅丸を呈す。規模は東西が推定2.5m、南北2.7mを測る。面積は6.41㎡。壁現高は37cmを測る。周溝は検出されていない。長軸方向はN—12°—W。　**床面**　ほぼ平坦である。東壁はカマドを含めて削平をうけている。焼土域が2ヵ所あり、東の焼土域（17×20cm）がカマド燃焼部か。**ピット**　なし。　**カマド**　東辺中央のやや南と考えられる。削平をうけており詳細は不明である。**貯蔵穴**　南東隅、長方形で、48×35×22cmを測る。

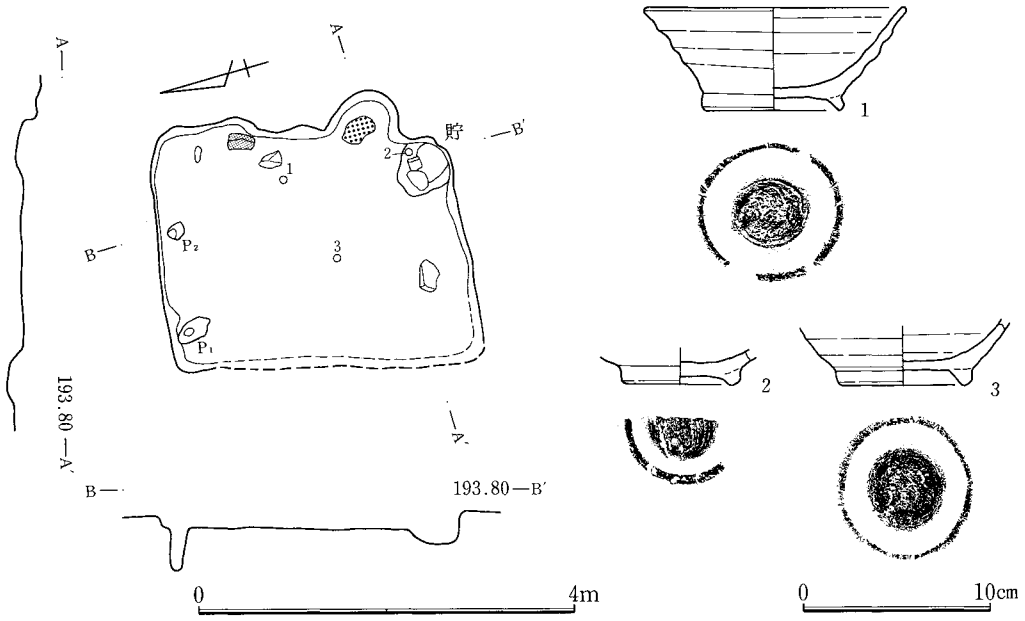


図—10　H—3号住居跡平・断面図

H4号住居跡　（図—11　表4—2　図版—1・8）

位置　台地中央部西側のI—11、II—11区に位置する。集落の西端にあたり、西側には離れてH—3が位置するのみである。　**形状**　若干東辺が狭い平行四辺形。規模は南北3.2mで東西2.3mを測る。西壁はカクランをうけており一部

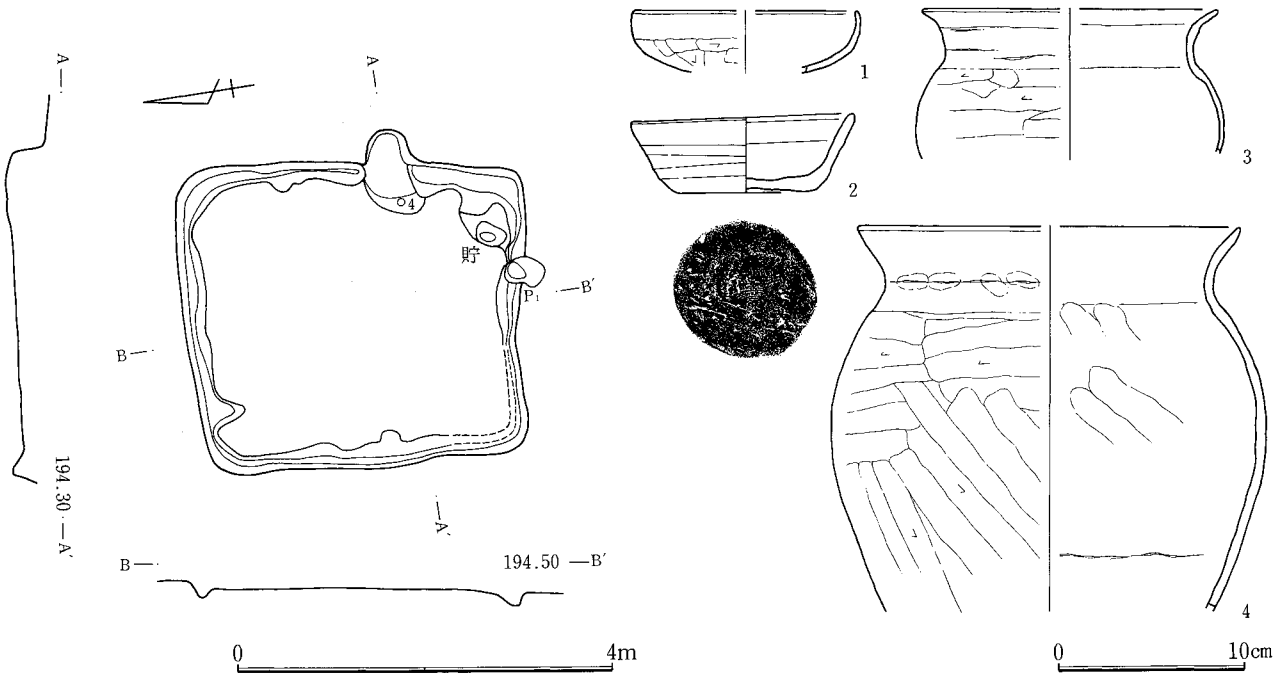
確認されたのみである。面積は7.41㎡を測る。壁現高は15～22cm。長軸方位はN－14°－W。床面北東隅が少し東に張り出している。90×10cmの規模で長方形を呈す。　**ピット**　床面２ヵ所。北壁下。P_1(39×22×－cm)、P_2(19×15×45cm)並んで位置している。　**カマド**　東壁南、付近に若干石が散乱しており、カマドに使われたものか。壁外に造りこまれ、焼土域のほとんどが壁外である。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。60×55×17cm。　**重複関係**　南東隅の焼けている石は重複によるもの。H－４よりも新しい。西壁をこわしている。　**遺物**　埦が出土。



図－11　H－４号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H５号住居跡　(図－12　表４－２　図版－１・８)

位置　台地中央部やや北のⅠ－29区に位置する。周囲には住居跡はあまり密集していない。　**形状**　南東隅がややすぼまり、やや南に張り出す方形。壁は比較的直である。隅角は隅丸状。規模は東西3.1mで、南北3.4mを測る。面積は10.46㎡。壁現高は40cm。周溝が全周する。南東部はひろい。巾10～20cmで深さ７～13cm。長軸方位はN－３°－W。　**カ**

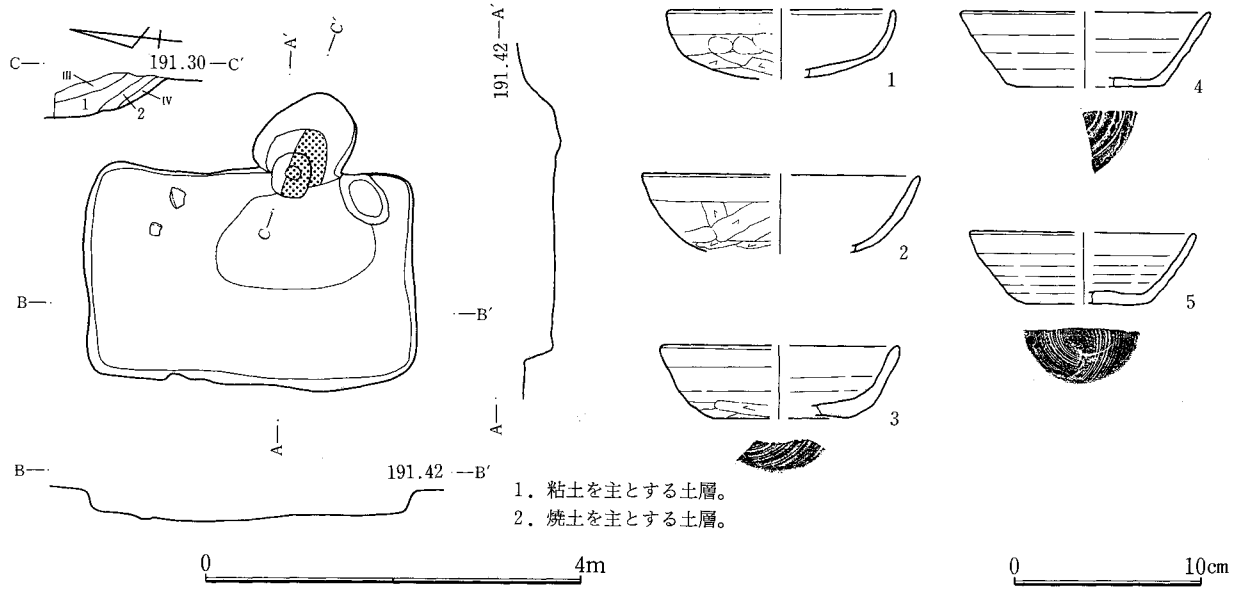


図－12　H－５号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

マド　カマ掘りで破壊されており下部のみ残存。東壁南。壁外掘りこみ40cm。燃焼部の半分くらいが壁外になる。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。60×50cm。　**遺物**　坏、甕が出土。

H6号住居跡　（図—13　表4—2　図版—9）

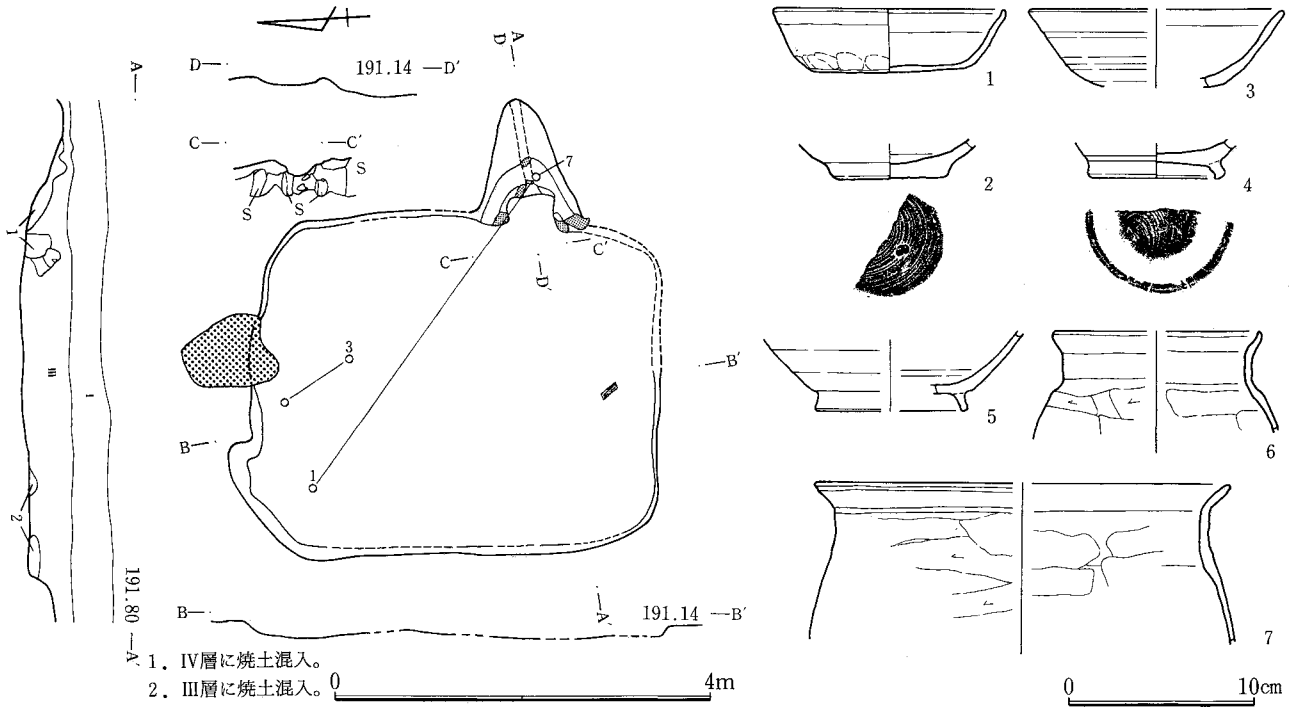
位置　台地北中央部の西端I—29区に位置する。周辺には住居跡はあまり多くない。　**形状**　南北に長い長方形。各壁は直に近く、各隅角も直に近い。規模は東西2.1mで南北3.3mを測る。面積は7.20m²。壁現高は26～37cmを測る。周溝はみられない。長軸方位はN—5°—E。　**床面**　カマド前に固くしまった面がある。170×100cmの範囲。　**カマド**　東壁南側。地層断面でみると中位に粘土を主とする層があり、粘土作りか。煙道の方向は30°ほど南に傾いている。壁外に85cm掘り込まれており、燃焼部もほとんどが壁外である。掘り込み角度は地層断面でみるとゆるやかである。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。68×43cm。　**遺物**　坏が出土。



図—13　H—6号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H7号住居跡　（図—14　表4—2・3　図版—1）

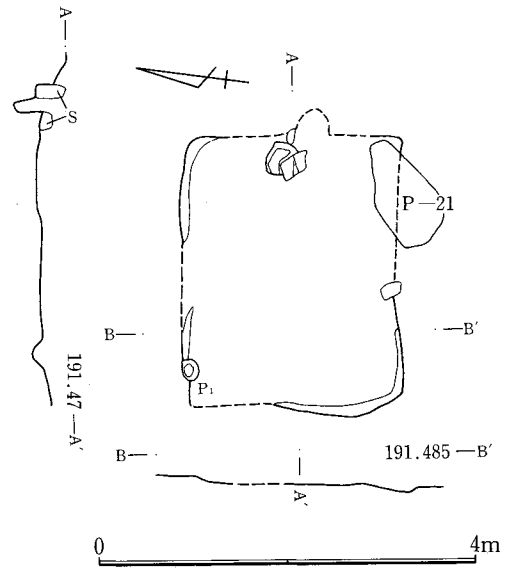
位置　台地北側中央部の西側I—29区に位置する。集落の西端部にあたり、住居跡は周囲にはあまりない。　**形状**　方形。各壁はほぼ直。隅角は隅丸。規模は東西3.5mで南北4.2mを測る。面積は14.16m²。壁現高は14～34cm。周溝はない。長軸方位はN—5°—W。　**床面**　南東隅に張り出しがみられる。長方形で110×20cm。　**カマド**　東壁北側。袖と燃焼部に石が組んである。他は粘土造り。壁外掘り込みは130cmを測る。壁際に袖石があり、燃焼部は壁内になる。50×40cm。燃焼部のレベルは床面とほぼ同じであるが、西端で急な立ち上りとなり、その西の煙道はゆるやかな傾斜となっている。このほかに北壁中央部に床面から壁外にかけて焼土がみられる。この部分は壁も不明瞭になっており、遺物も周辺に多く、旧カマドののこりか。　**柱穴**　なし。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。



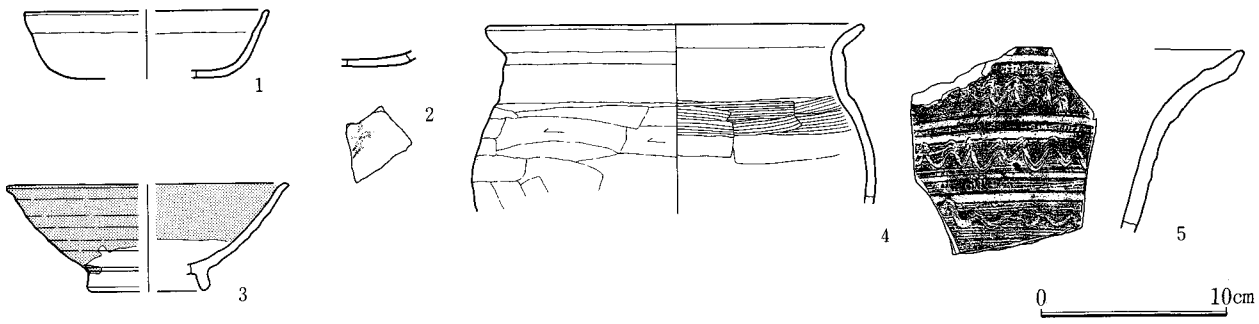
図—14　H—7号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H8号住居跡　（図—15・16　表4—3）

位置　台地北側の中央西側のI—29・47区に位置する。集落の西端で周囲には住居跡は少ない。　**形状**　東西に長い長方形。壁はほぼ直で、隅角は直に近い。規模は東西2.8mで南北2.2mを測る。面積は5.83m²。壁現高は8～20cmを測る。長軸方位はN—97°—E。住居跡北側は2条のカマ掘りでこわされ、カマドもほとんど失なわれている。　**ピット**　北西隅にP_1。24×18×10cm。柱穴とも思われるが不明。　**カマド**　東壁中央部南。カマ掘りでこわされ不明な点が多い。カマド前に一石。左袖に一石あり袖石か。左袖前のピットは深くしっかりしているが1基だけであり、カマド関連とも考えられるが不明。　**重複関係**　P—21と南東隅で重複する。P—21が新しい。　**遺物**　坏、灰釉碗、甕が出土。



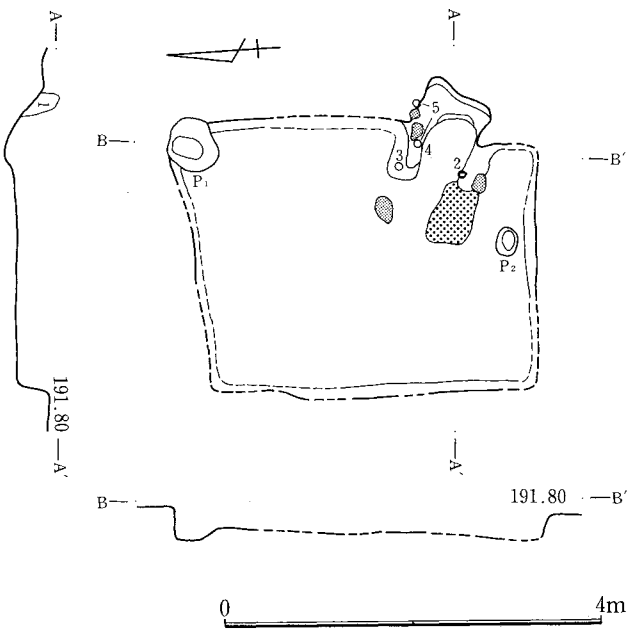
図—15　H—8号住居跡平・断面図



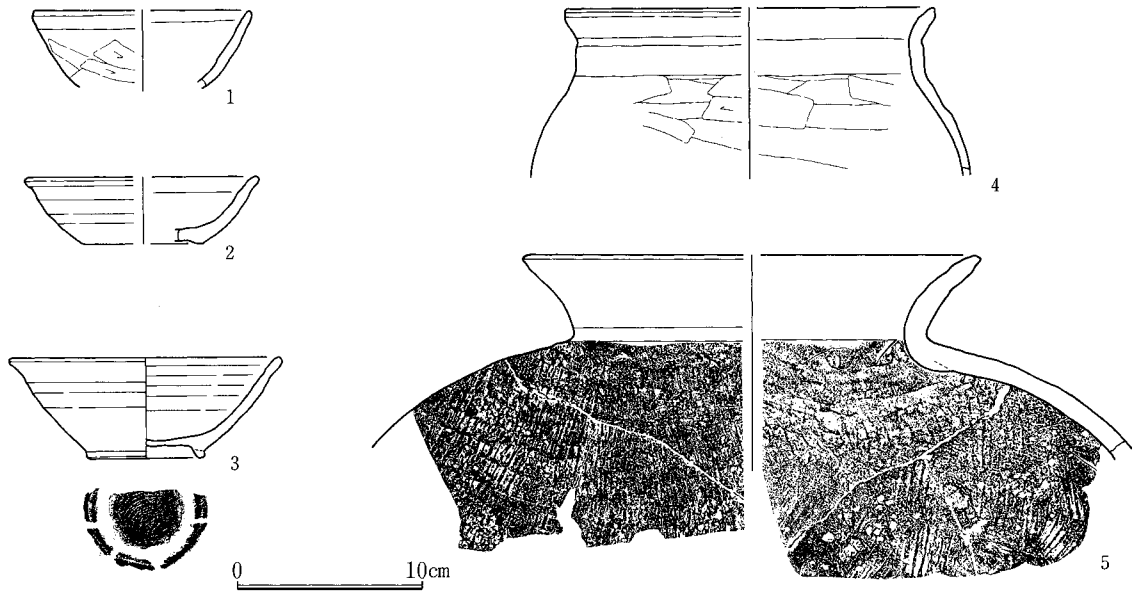
図—16　H—8号住居跡出土遺物実測図

H９号住居跡　（図―17・18　表４－３　図版―１・９）

位置　台地北部中央西のⅠ―47区に位置する。住居跡の点在する地域。集落の西縁にあたる。　**形状**　南北に長い長方形。多数のカマ掘りでこわされている。各壁は直で隅角もほぼ直とみられる。規模は東西2.7mで南北3.4mを測る。面積は9.02㎡。壁現高は22～34cm。周溝はない。長軸方位はN－4°―W。　**ピット**　床面２ヵ所。P_2は南壁下中央。28×22×28cm。P_1は北東隅。47×46×12cm。柱穴とも思われるが不明。　**カマド**　東壁南側。石を芯材にしたと考えられる。全長115cm、壁外掘り込み60cm。燃焼部はほぼ壁内になる。燃焼部端は急な立ちあがりで煙道に続く。燃焼部は若干くぼむ。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。



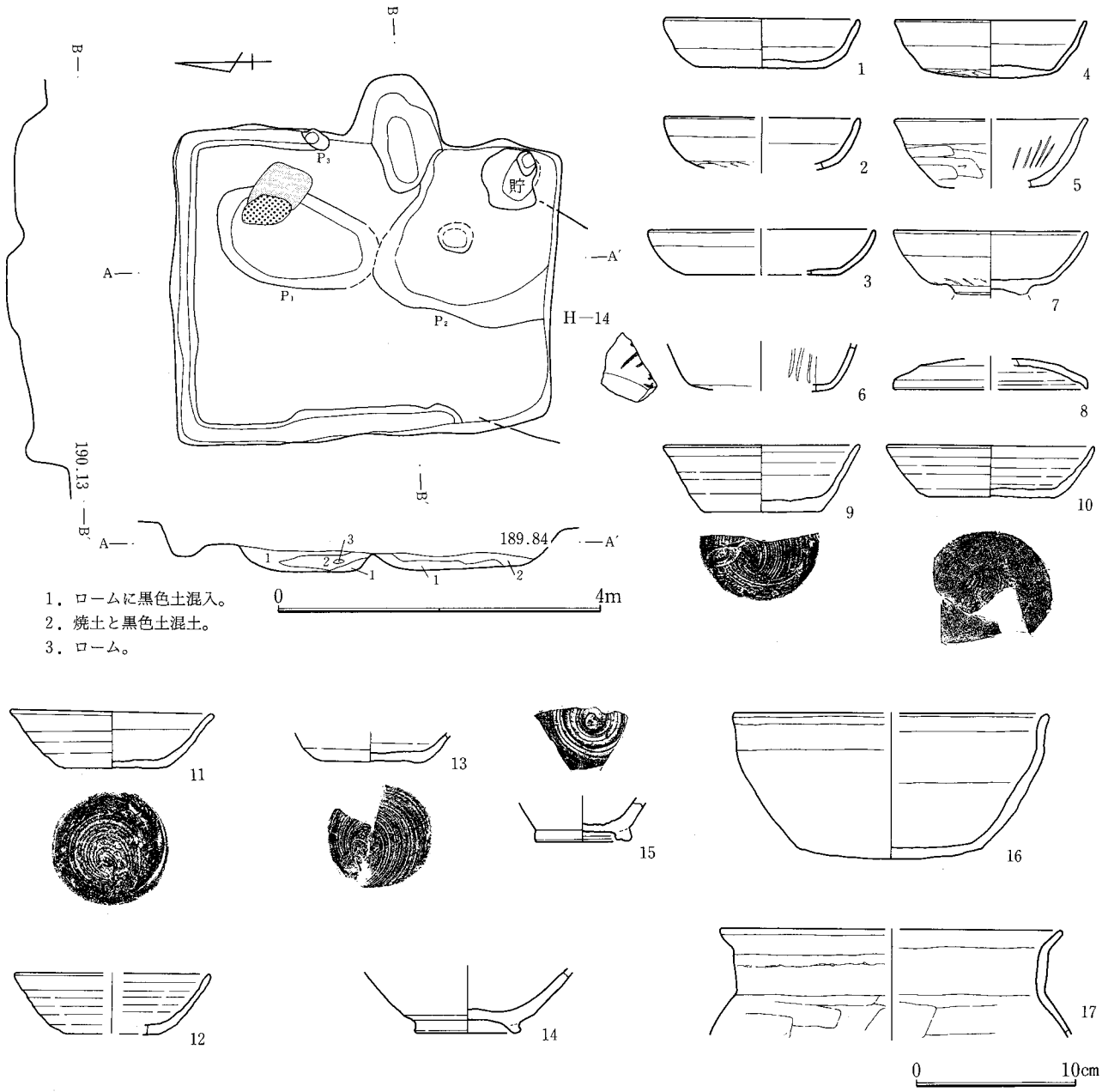
図―17　H－９号住居跡平・断面図



図―18　H－９号住居跡出土遺物実測図

H10号住居跡　（図―19　表４－３・４　図版―１・10）

位置　台地北側中央部西のⅠ―28区に位置する。周辺は住居跡はあまり多くない。集落の西縁にあたる。　**形状**　南辺が北辺にくらべせばまっている方形。各壁はほぼ直で、隅角もほぼ直に近い。規模は東西3.2mで南北4.5mを測る。面積は16.6㎡。壁現高は35～41mを測る。壁はしっかり掘られている。周溝は北壁下と西壁下北４分の３と東壁の北３分の１に認められる。巾18～32cmで深さ15cm。長軸方位はN－3°―W。　**床面**　床下土坑２ヵ所。P_1。北側。166×96×26cm。長円形。浅い埦形の断面をもつ。ローム・黒色土・焼土で埋まる。P_2。南側。232×196×16。不整長円形。埋土はP_1に同じ。断面形も似る。　**ピット**　東壁下にP_3。38×20×―cm。　**カマド**　東壁中央。全長150cm、壁外掘り込み70cm。燃焼部は半分くらいが壁外か。立ちあがりはやや急。燃焼部はややくぼむ。　**貯蔵穴**　南東隅。方形。75×54×―cm。　**重複関係**　H―14と重複。H―14が新しい。　**遺物**　坏、埦、蓋、壺、鉢、甕が出土。



図—19　H—10号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H12号住居跡　（図—20・21　図版—1・10）

位置　台地北部中央部のⅠ—44区に位置する。台地中央で住居跡が散在している。　**形状**　南北にやや長い長方形。各辺はほぼ直であるが、東辺は西辺にくらべて長く、東に開く形状をもつ。規模は東西2.8mで南北3.9mを測る。面積は11.48㎡。壁現高は22～55cm。比較的しっかりと掘られている。周溝が全周している。巾は7～27cmで深さは4～8cm。長軸方位はN－2°—Eである。　**ピット**　床面P_1～P_6。P_1～P_4P_6は柱穴と考えられる。径は20～30cmが多く。深さは10～25cm程。P_5は住居施設と考えられる。方形で65×44×12cm。　**カマド**　東壁南側。全長113cmで壁外掘り込みは97cm。燃焼部60cmのほとんどは壁外。石を芯とし、粘土で作られている。煙道への立ちあがりは直に近い。　**貯蔵穴**　南東隅。長方形で63×42×11cmの規模。

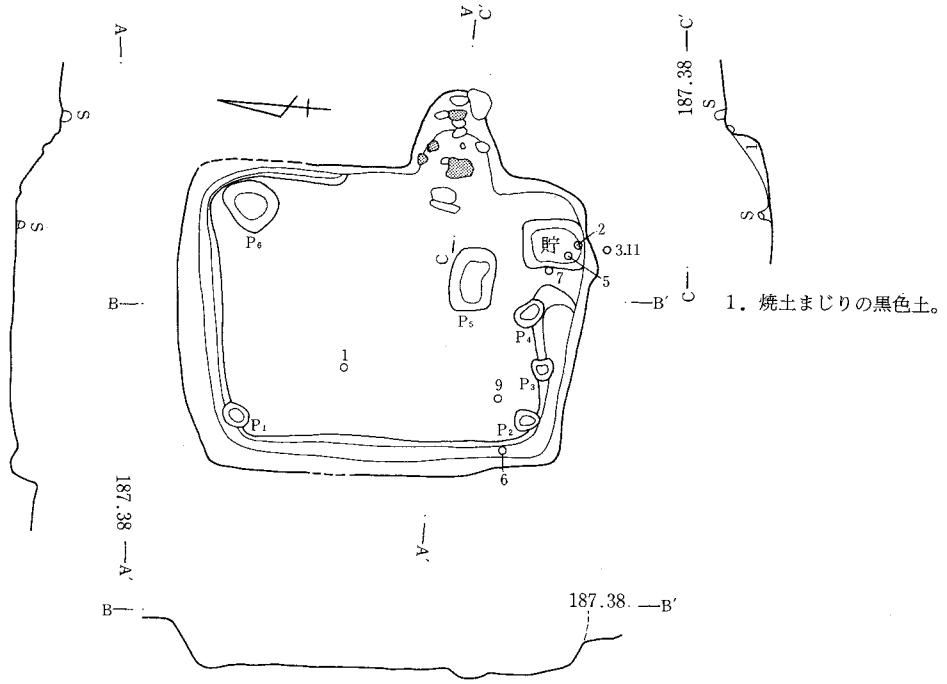
H13号住居跡　（図—21・22　表4—4・5　図版—11）

位置　台地北側の中央部Ⅰ—44区に位置する。周辺は住居跡が散在している。　**形状**　南北にやや長い方形。各辺はややはらむ。隅角は南西隅が隅丸であるが、他は直に近い。規模は東西が2.7mで南北3.3m。面積は8.91㎡。壁現高は25～50cmを測る。周溝はカマドの左右を除く全周。巾5～14cmで深さ9cm。長軸方向はN－6°—E。　**ピット**　床面1ヵ

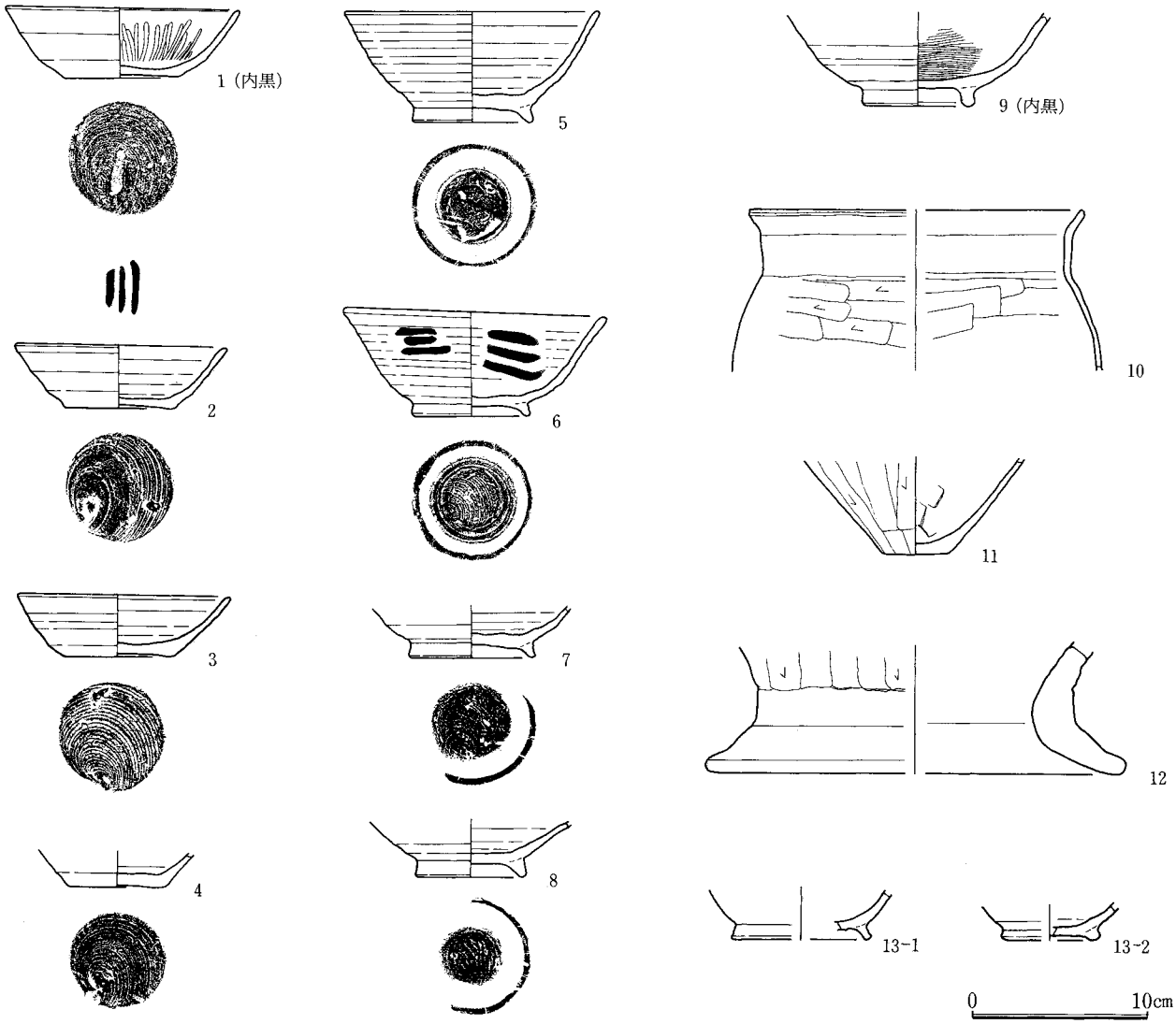
所。P_1。南東隅。34×28×14cm。柱穴とも考えられる。

カマド　東壁南。全長80cmで壁外掘り込み50cm。燃焼部は60cmで壁内が多い。燃焼部から壁への立ちあがりは約45°。

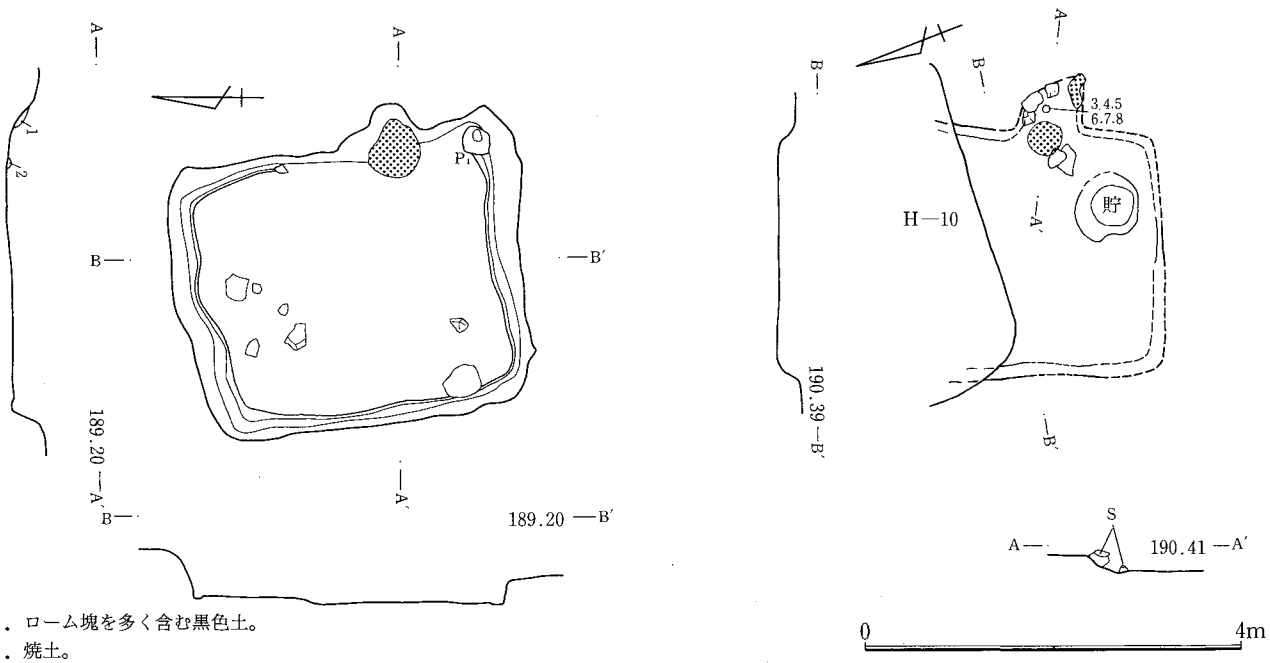
遺物　坏、埦、甕、甑が出土。



図—20　H—12号住居跡平・断面図



図—21　H—12・13号住居跡出土遺物実測図

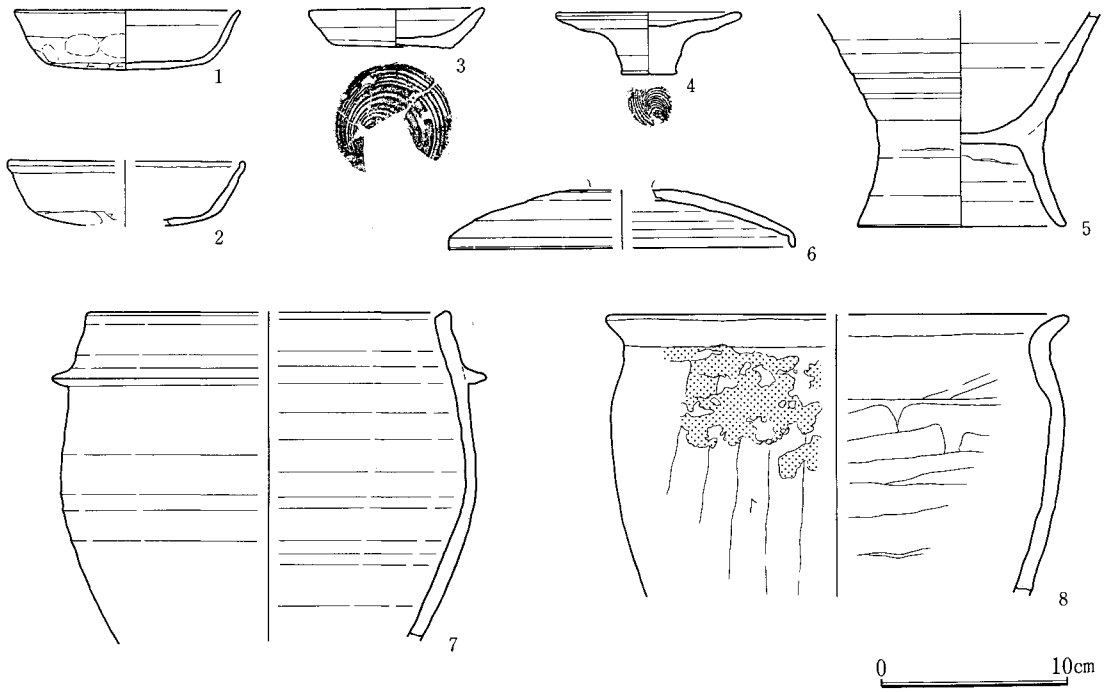


1．ローム塊を多く含む黒色土。
2．焼土。

図—22　H—13・14号住居跡平・断面図

H14号住居跡　（図—22・23　表4—5　図版—11）

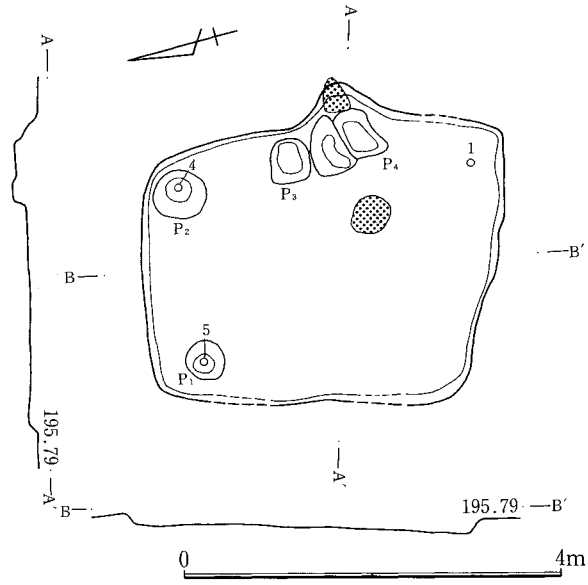
位置　台地北側の西縁部のI—28区に位置する。住居跡が散在している。　**形状**　北半が失なわれているが、方形と考えられる。他にカマ掘りのため壁等こわされているところが多い。規模は東西2.4mで南北は現状1.7mを測る。面積は4.31m²。壁現高は20～22cm。周溝は確認されていない。長軸方位はN—69°—E。　**カマド**　東壁。石で組まれていた。全長100cmで壁外掘り込みは60cm。燃焼部は壁線上に位置する。壁への掘り込み角度はゆるやか。　**貯蔵穴**　床面南東隅。円形。70×65cm。　**重複関係**　H—10と重複。H—10より床面レベルが高い。H—14が新しい。　**遺物**　坏、托、鉢、蓋、羽釜、甕が出土。



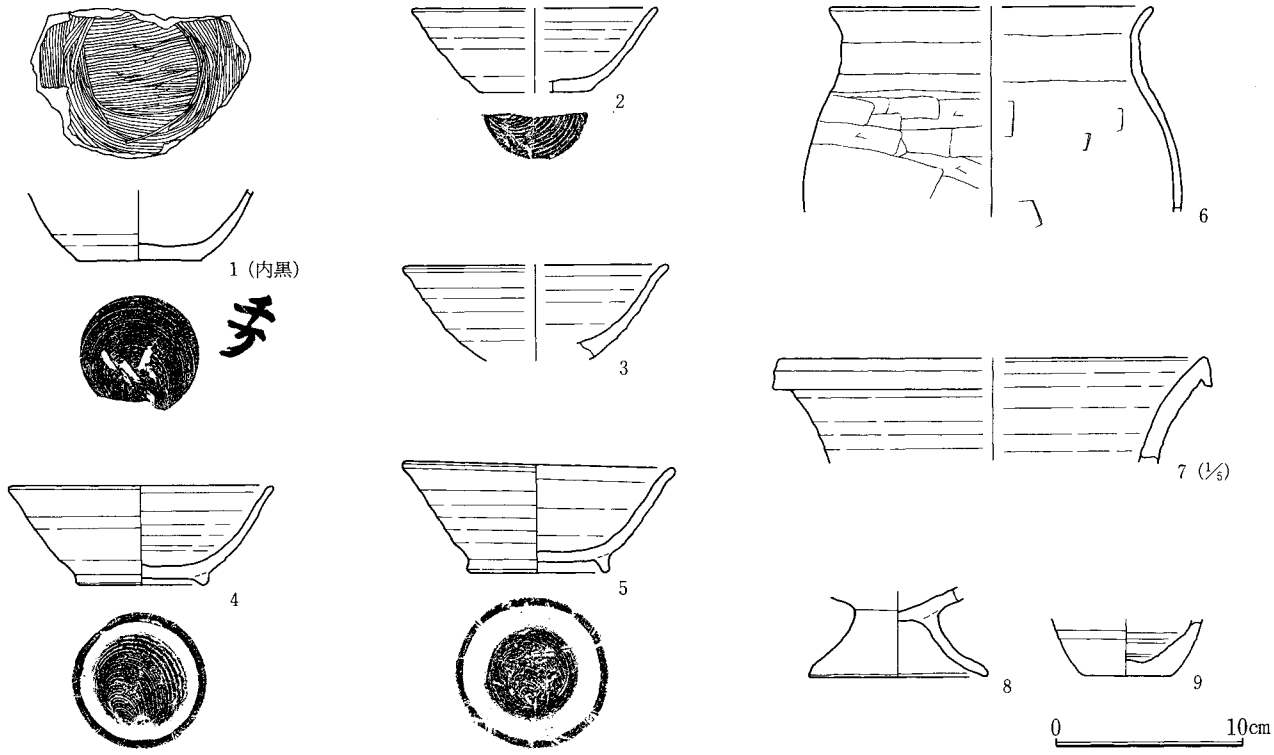
図—23　H—14号住居跡出土遺物実測図

H15号住居跡　(図—24・25　表4—5・6　図版—1・12)

位置　台地北側の中央部I—45・46区に位置する。比較的住居跡は少なくまばらなところである。　**形状**　やや南辺が長く南に開く不整方形。各壁はほぼ直である。隅角は隅丸。規模は東西2.8m、南北3.5mを測る。面積9.67m²。壁現高は12～18cm。周溝は確認されていない。長軸方位はN—17°—W。　**ピット**　床面2ヵ所。P_1P_2。北壁下。P_1は40×40×—cm。P_2は53×50×—cm。隅に位置し、いずれも柱穴か。　**カマド**　東壁中央。カマ掘りにより主要部は失なわれている。カマド前の両わきにピット2基あり、カマド関連のものか。他は不明。**遺物**　坏、埦、甕、壺が出土。



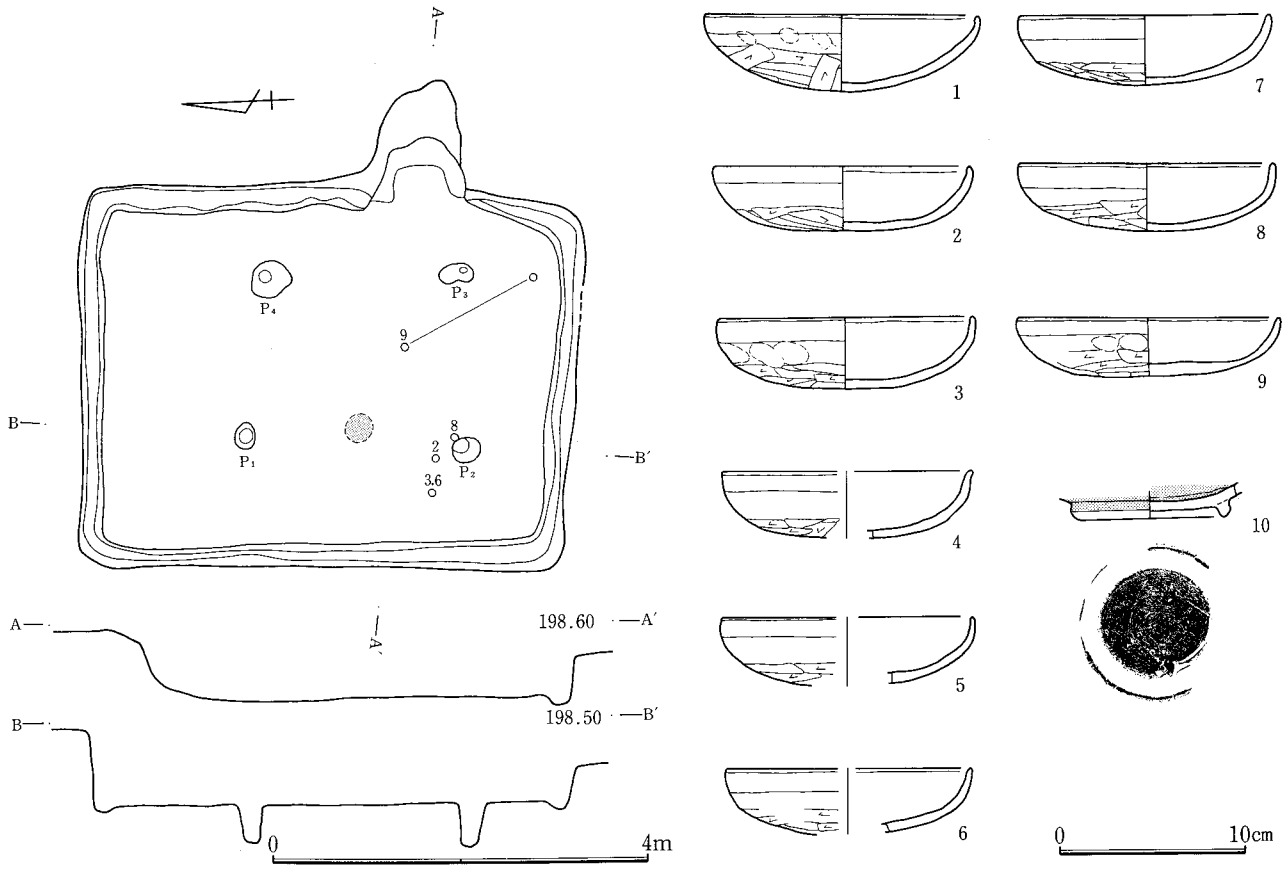
図—24　H—15号住居跡平・断面図



図—25　H—15号住居跡出土遺物実測図

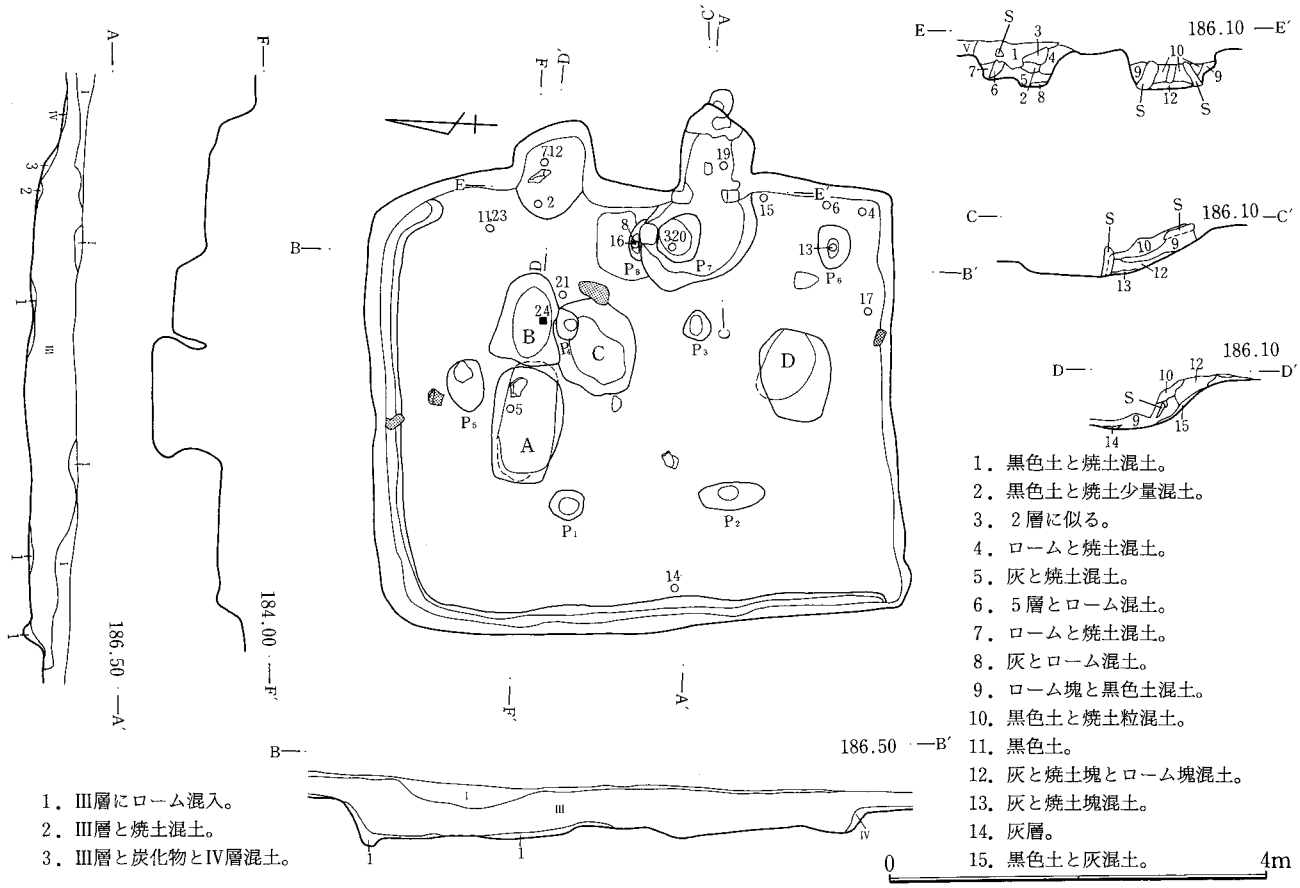
H16号住居跡　(図—26　表4—6　図版—12)

位置　台地北側の中央部I—26・27区に位置する。付近は住居跡が点在する。　**形状**　南北にやや長い長方形。各辺ともに直で、隅角も直に近い。　**規模**　東西3.9mで南北4.8m。面積19.93m²。壁はしっかりした掘り込みで、19～80cmを測る。周溝は全周しており、巾10～20cmで深さ9cm。長軸方位はN—3°—W。　**ピット**　床面4ヵ所に方形配置。P_1(28×23×40cm) P_2(29×26×46cm) P_3(36×20×45cm) P_4(43×36×52cm)。いずれも柱穴でしっかり掘られている。　**カマド**　東壁南側。全長120cmで壁外掘り込みは110cm。焼燃部はほぼ壁外。煙道へは直に近い立ちあがりで続く。　**遺物**　坏、灰釉、埦が出土。



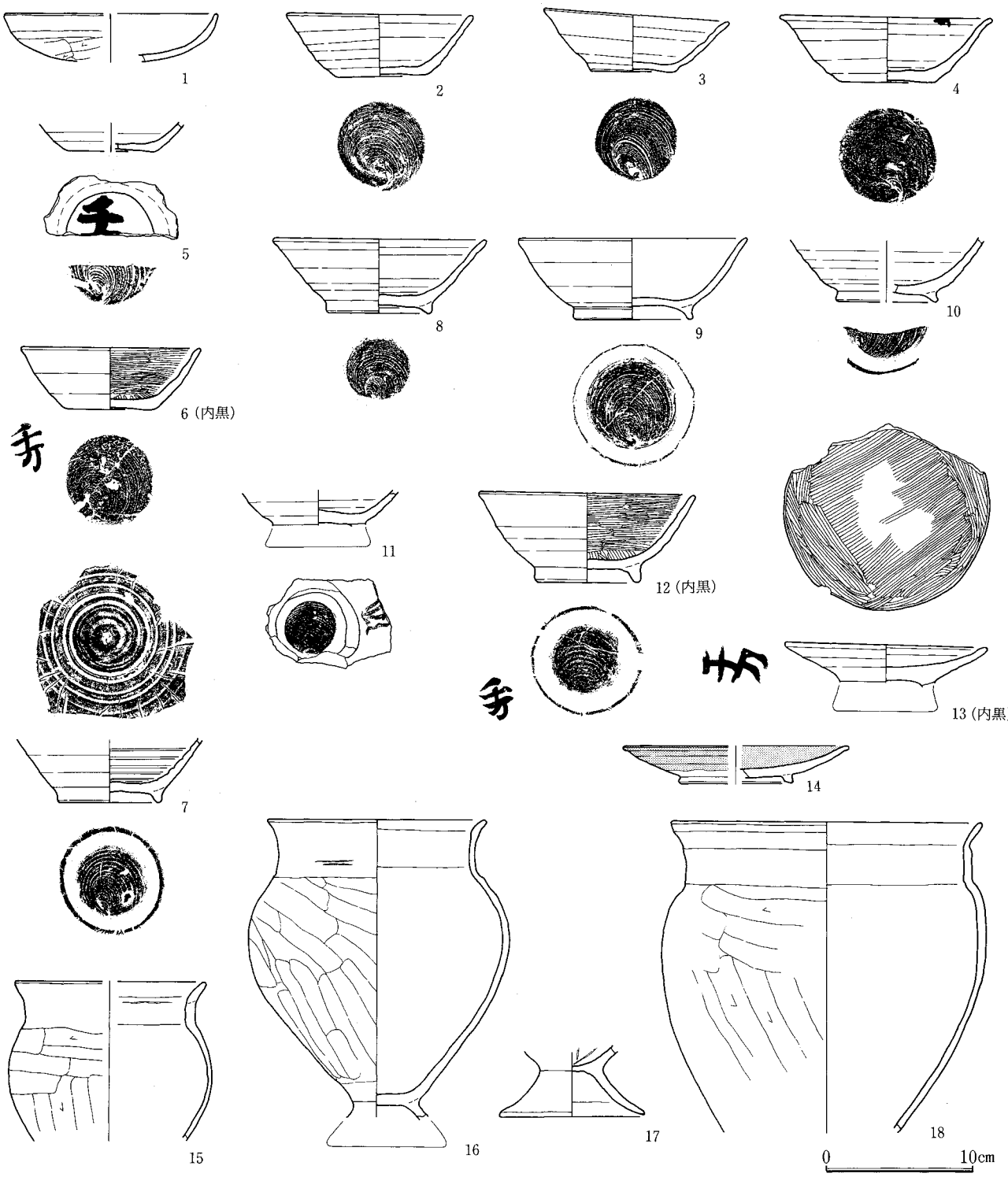
図—26　H—16号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H17号住居跡　（図—27・28・29　表4—6・7　図版—1・13）

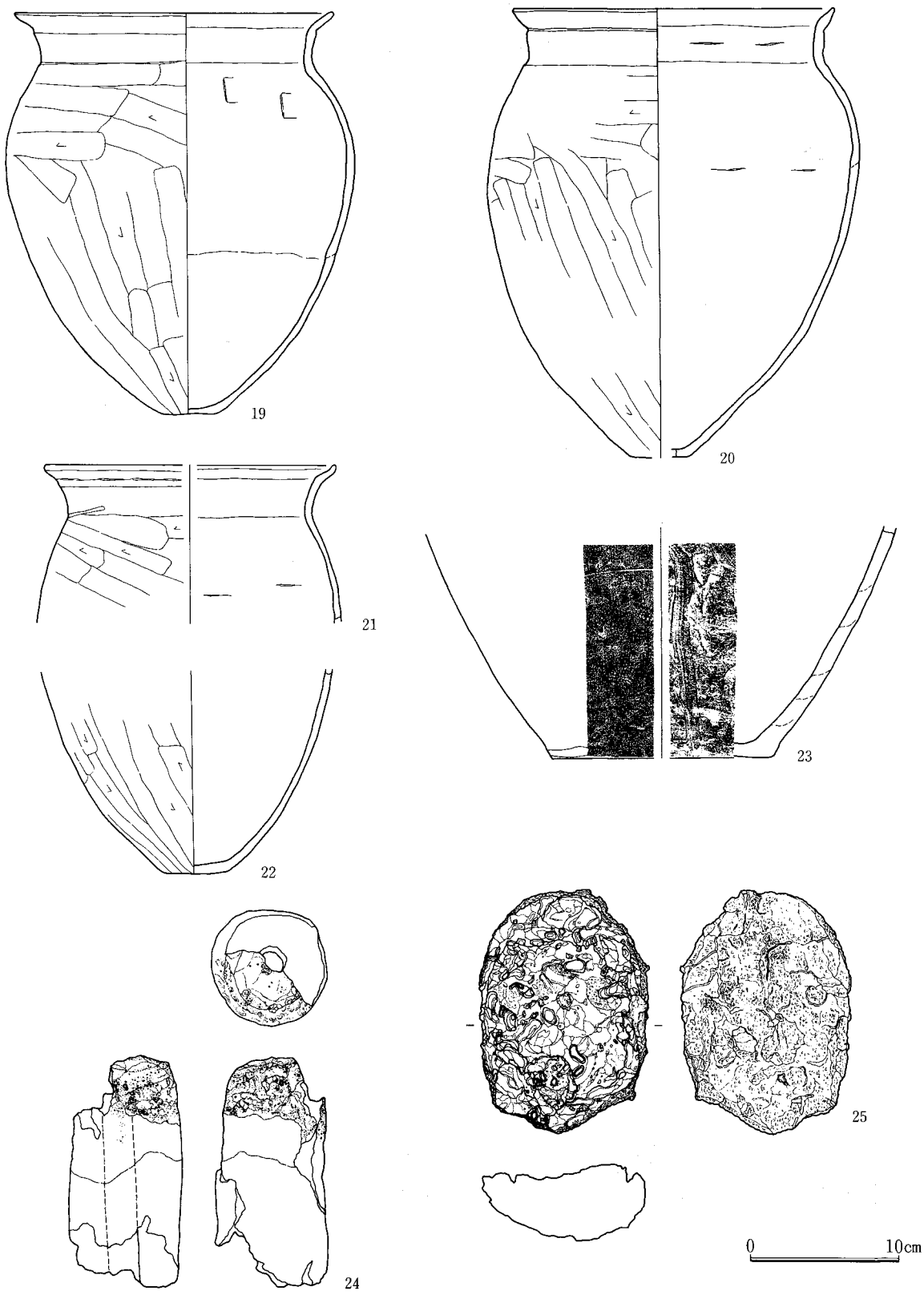


図—27　H—17号住居跡平・断面図

位置　台地北側の南東端のⅠ－60区に位置する。台地北側の２ヵ所の住居跡集中区の中間で住居跡はあまり多くない。台地の南東のへりにあたる。南東は谷地に面している。　**形状**　南北がやや長い方形。各辺はほぼ直である。隅角は北側は隅丸であるが、南側は直に近い。規模は東西が4.4m、南北5.2mで、面積は23.73㎡である。壁現高は30～44cmを測る。周溝は西～北壁下に検出され、巾６～14cmで深さ10cmである。長軸方位はN－３°－E。床下土坑が４ヶ所検出されている。A・B・Cは北側でDは南側。A（130×73×59cm）、B（95×58×41cm）、C（100×85×22cm）、D（98×77×67cm）　**ピット**　P_1～P_8、P_1～P_4は柱穴。径は30～40cm前後。北側のP_1、P_4は深い。P_7、P_8はカマド関連のものか。　**カマド**　東壁に２ヵ所。北側は旧いもので使われなくなったものか。全長108cmで壁外掘り込み50cm。P_8が貯蔵穴にあたるものか。南カマド。全長204cm、壁外掘り込み94cm。袖石２石がしっかり残っている。燃焼部は壁外で長さ30cm、巾30cmとあまり広くない。手前に広く落ちこみがある。P_6が貯蔵穴とみられるが小さい。煙道へはゆるやかな立ちあがり。　**遺物**　坏、埦、皿、甕、台付甕、鞴羽口、鉄滓が出土。



図－28　H－17号住居跡出土遺物実測図(1)

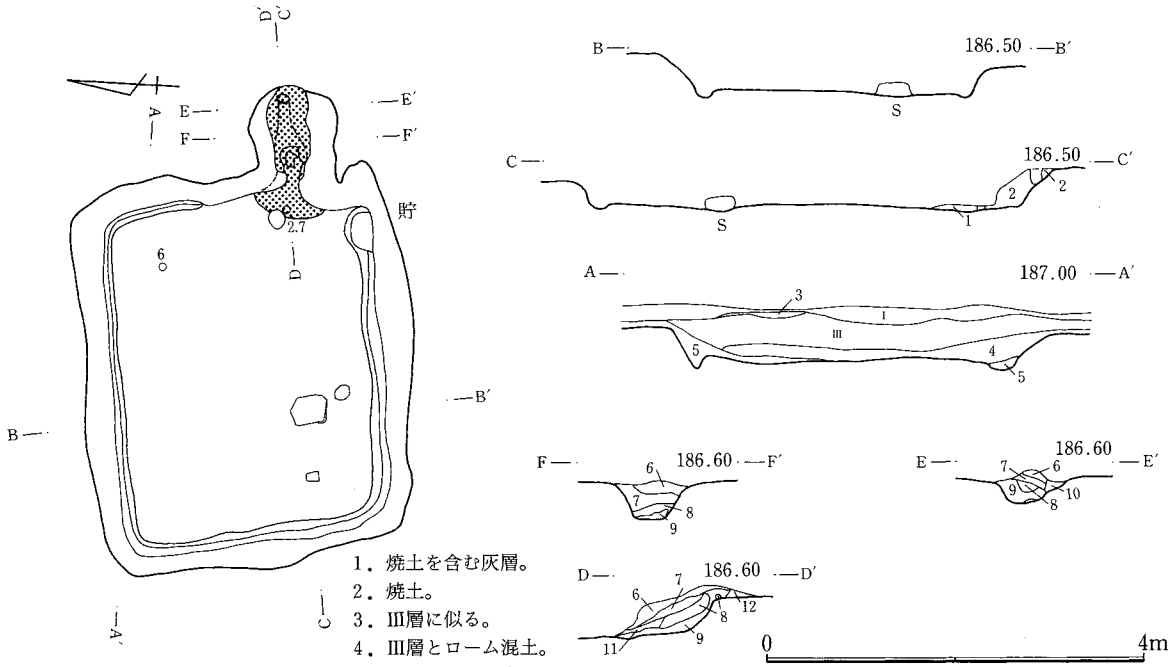


図—29　H—17号住居跡出土遺物実測図(2)

H18号住居跡　(図—30・31　表4—7・8　図版—13)

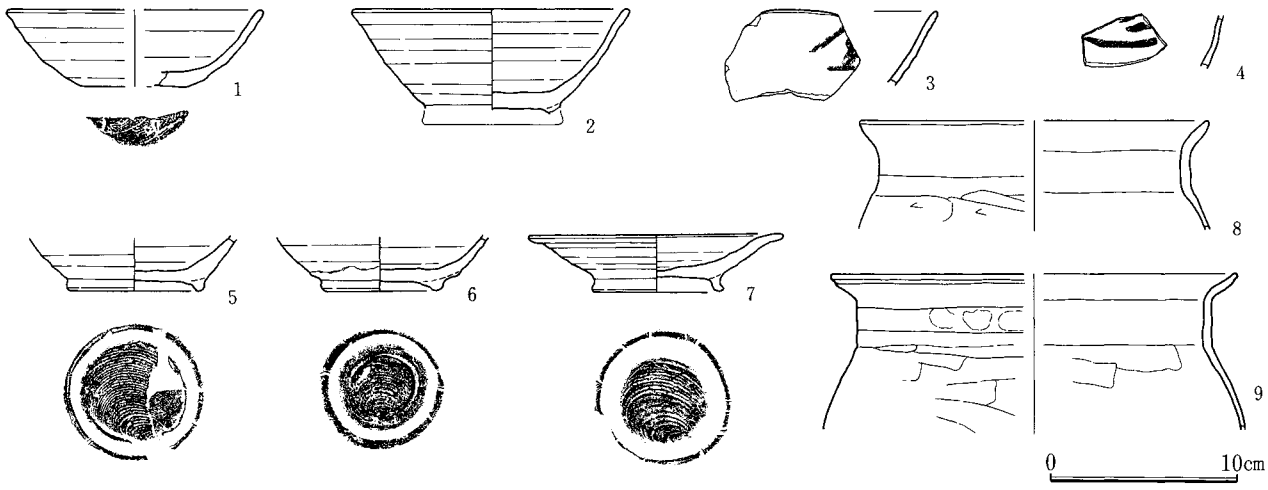
位置　台地北側部の南東端のⅠ—60・61区に位置する。周辺には住居跡が散在している。　**形状**　東西に長い長方形。壁は直で、しっかり掘られている。隅角は直に近い。規模は東西が3.6mで南北2.9m。面積は10.68㎡。壁現高は26～45cmを測る。周溝はカマド北側を除く全周。巾4～8cmを深く7cm。長軸方位はN—99°—E。　**カマド**　東壁南端。煙道は使用時のまま検出された。支石とみられる石もみられるが、カマドは黒色土とロームで構築。全長144cmで壁外掘り込

み90cm。燃焼部は長さ40cm、巾20cmと比較的狭い。煙道へは急な立ちあがりで続く。 **貯蔵穴** 南東隅。長円形で、54×27×10cm。あまり大きくはない。 **遺物** 埦、皿、甕が出土。



1．焼土を含む灰層。
2．焼土。
3．Ⅲ層に似る。
4．Ⅲ層とローム混土。
5．Ⅲ層にローム多く混入。
6．黒色土。
7．焼土を含む黒色土。
8．焼土ブロック。
9．焼土・ロームを含む灰層。
10．栗色土。
11．7層に似る。

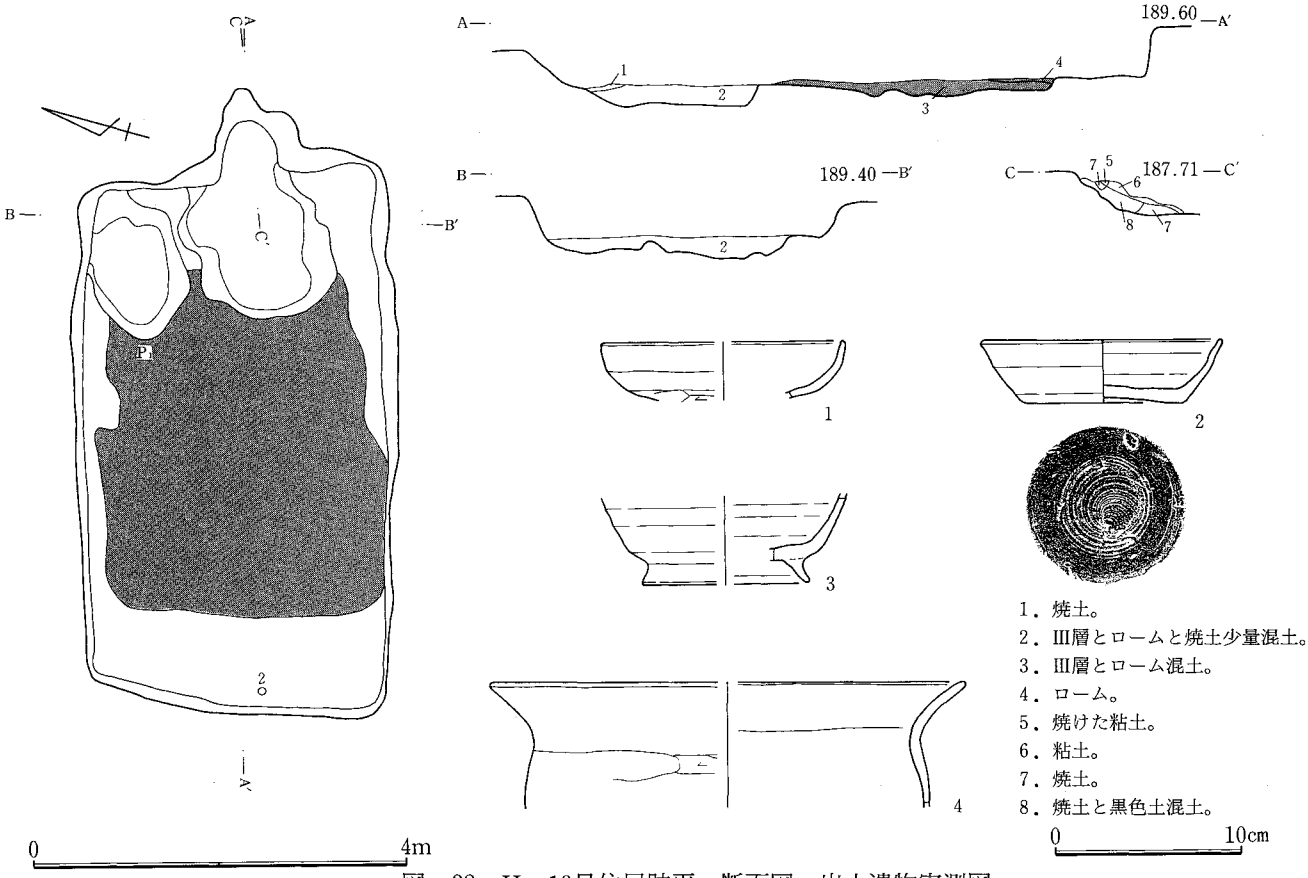
図—30 H—18号住居跡平・断面図



図—31 H—18号住居跡出土遺物実測図

H19号住居跡 (図—32 表4—8 図版—14)

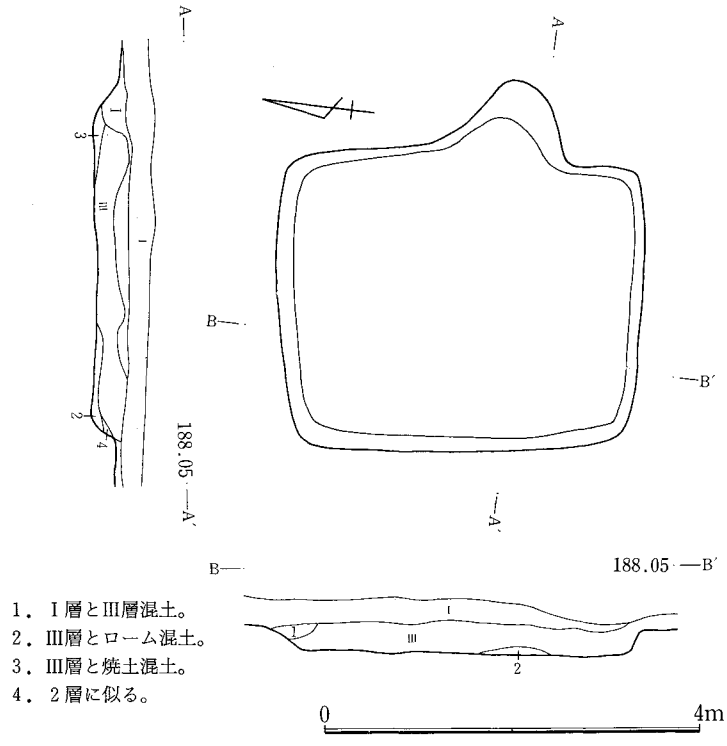
位置 台地北側の中央部Ⅰ—27区に位置する。H—16の北に接して位置する。 **形状** 東西に長い長方形。規模は東西5.4mで南北3.2m。面積は17.41㎡。壁現高は43～50cmを測る。長軸方位はN—115°—E。 **床面** 貼り床。カマド前より西壁下1m手前まで。規模は410×300cmで、厚さは6～18cm、ロームと焼土の混土で築られている。 **ピット** 北東隅。規模は152×100×20cm。浅く広い形状と、埋土からみると床下土坑の可能性が強い。 **カマド** 東壁中央。全長240cmで壁外掘り込み100cm、燃焼部前に広いくぼみをもつ。壁への掘り込みはなだらかである。 **遺物** 坏、埦、甕が出土。



図—32　H—19号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H20号住居跡　（図—33）

位置　台地中央部のII—6・7区に位置する。中央部の住居跡集中区の北縁にあたる。　**形状**　南北にやや長い方形。各辺はほぼ直で隅角も直に近い。規模は東西3.0mで南北3.5m。面積は10.22m²。壁現高は14～36cmを測る。長軸方位はN—10°—E。　**カマド**　東壁南。壁外掘り込み80cm。壁への掘り込みはなだらかである。



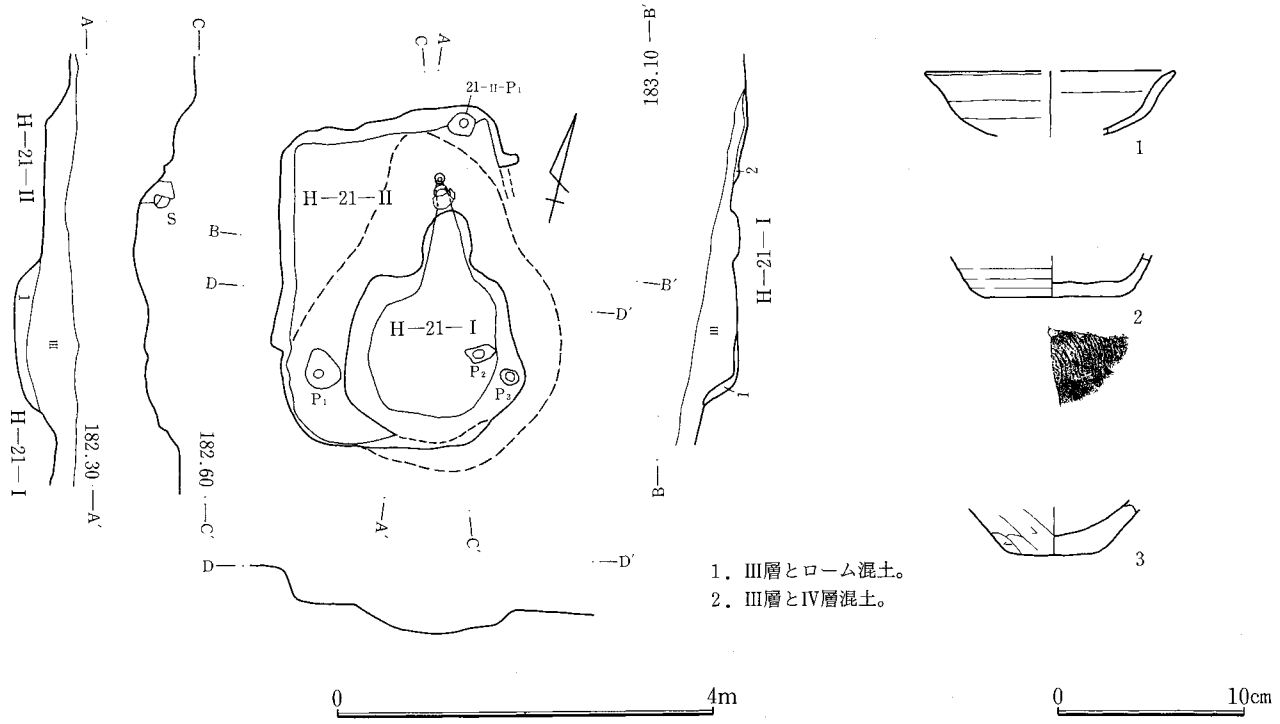
図—33　H—20号住居跡平・断面図

H21号住居跡（Ⅰ・Ⅱ）　（図—34　表4—8　図版—14）

位置　台地中央部の南東端Ⅰ—38区に位置する。東側を南北に走る谷地に接している。当初H21号1軒として調査されたが、検討の結果2軒の重複とすることとした。内側のカマドをもつものをⅠ、外側の西と北にしっかりした壁をのこす方形のものをⅡとした。

（Ⅰ）　**形状**　方円形。各辺は丸くはらみ、隅角も隅丸になっている。規模は東西1.4mで南北1.3m、面積は6.82㎡。壁現高は22～36cmを測る。長軸方位はN—7°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1（42×38×—cm）P_2（30×16×—cm）P_3（20×17×—cm）P_1はH21（Ⅱ）の可能性もある。柱穴とも考えられる。　**カマド**　北壁。住居の規模にくらべて長い煙道をもつ。一部石組み残存。全て石組みではなく煙道の端のみの可能性が大きい。壁外掘り込み102cmで全長125cm。壁へは急な立ちあがりである。焼けている部分がカマドの奥の部分であり、カマドの造りに係るものか。　**重複関係**　遺構の残存状況からみるとⅡが旧い。Ⅰは形状からみると特殊であり、工房のようなものか。

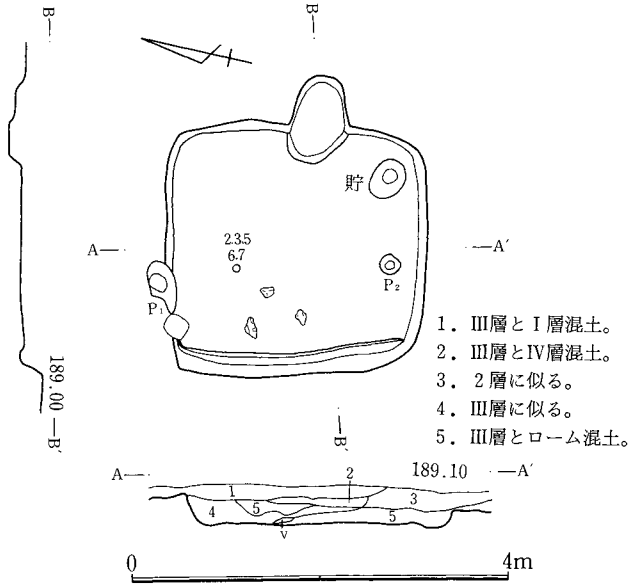
（Ⅱ）　**形状**　残存部からみると方形と考えられる。残る西と北の壁はほぼ直であり、隅角も直である。規模は東西2.1mで南北2.4（現状）を測る。面積は1.59㎡。壁現高は残りの良い西壁で42cmを測る。長軸方位はN—11°—E。　**ピット**　P_1（29×25×—cm）。性格不明。　**カマド**　不明。H—21（Ⅰ）により削平されたものか。　**遺物**　坏、甕が出土。



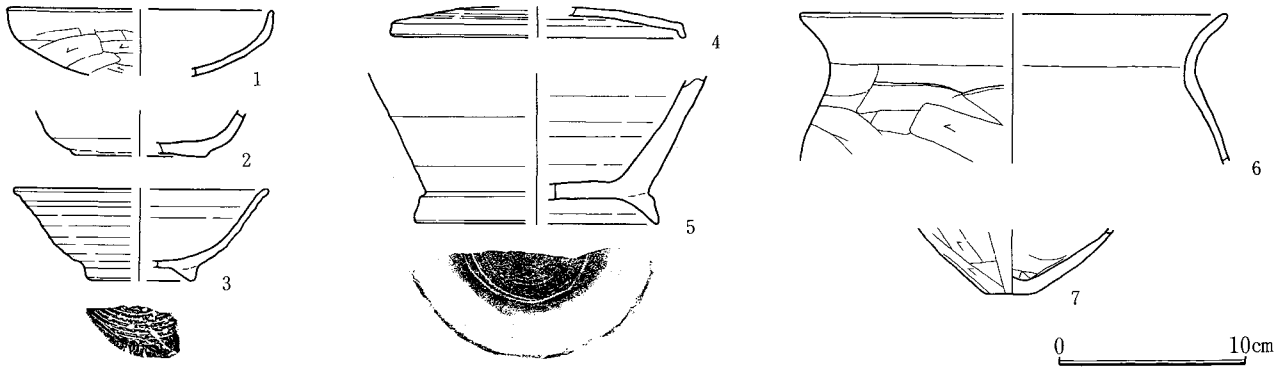
図—34　H—21（Ⅰ・Ⅱ）号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H22号住居跡　（図—35・36　表4—8　図版—15）

位置　台地北側の中央部のⅠ—8区に位置する。住居跡の散在する地区である。　**形状**　方形。北・南辺はほぼ直であるが、東西辺はややはらむ。隅角は隅丸。規模は東西2.5mで南北2.6mを測る。面積は6.18㎡。壁現高は17～26cmを測る。周溝は西壁下で確認されている。巾5～10cmで深さ4cmである。長軸方向はN—11°—E。　**ピット**　床面2ヵ所。P_1（54×27×—cm）、P_2（21×20×12cm）。柱穴とも思われるが不明。　**カマド**　東壁中央。全長94cmで壁外掘り込み50cm。壁への掘り込みはなだらか。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。42×35×27cm。　**遺物**　坏、埦、蓋、甕が出土。



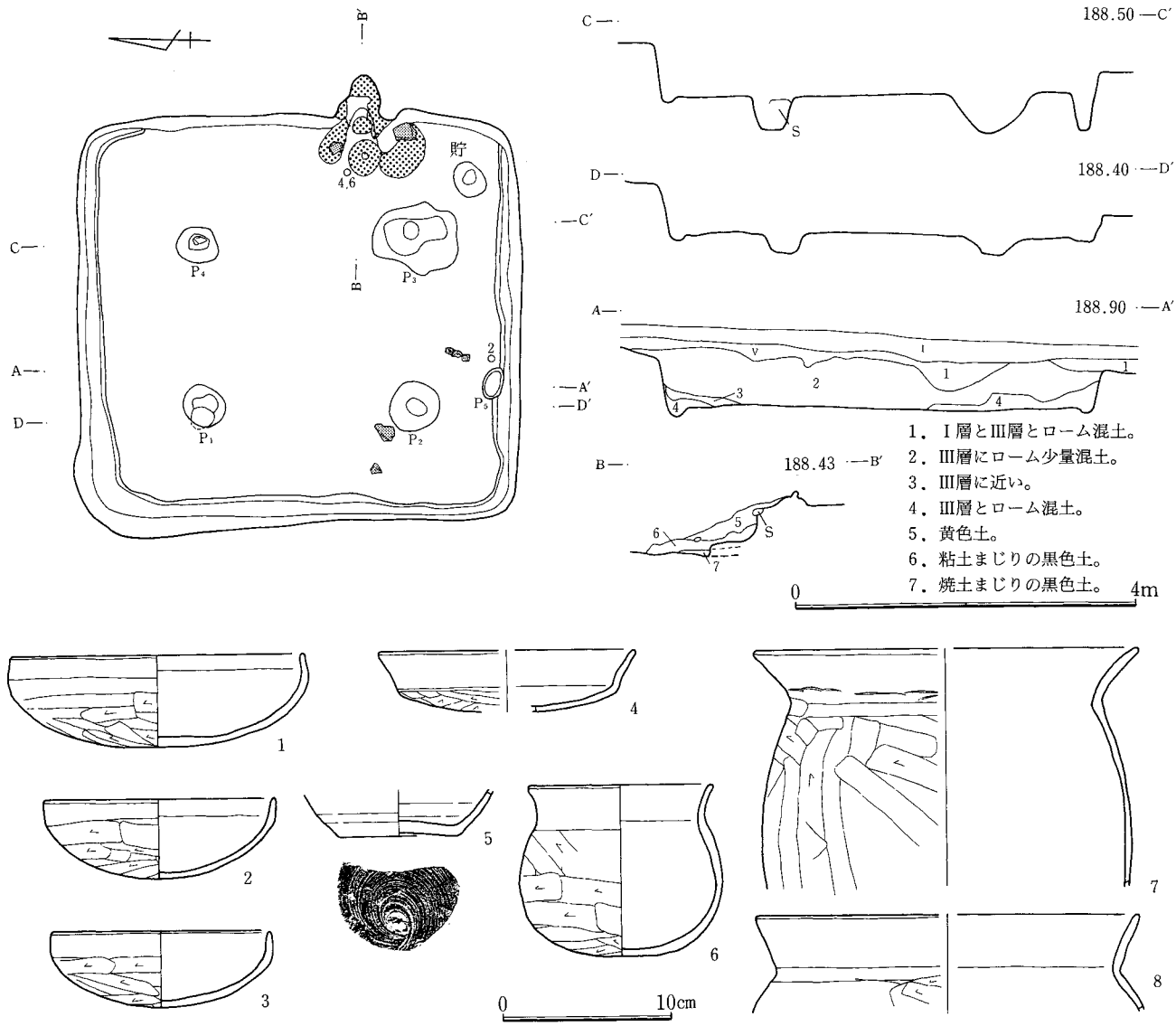
図—35　H—22号住居跡平・断面図



図―36　H―22号住居跡出土遺物実測図

H23号住居跡　（図―37　表4―9　図版―15）

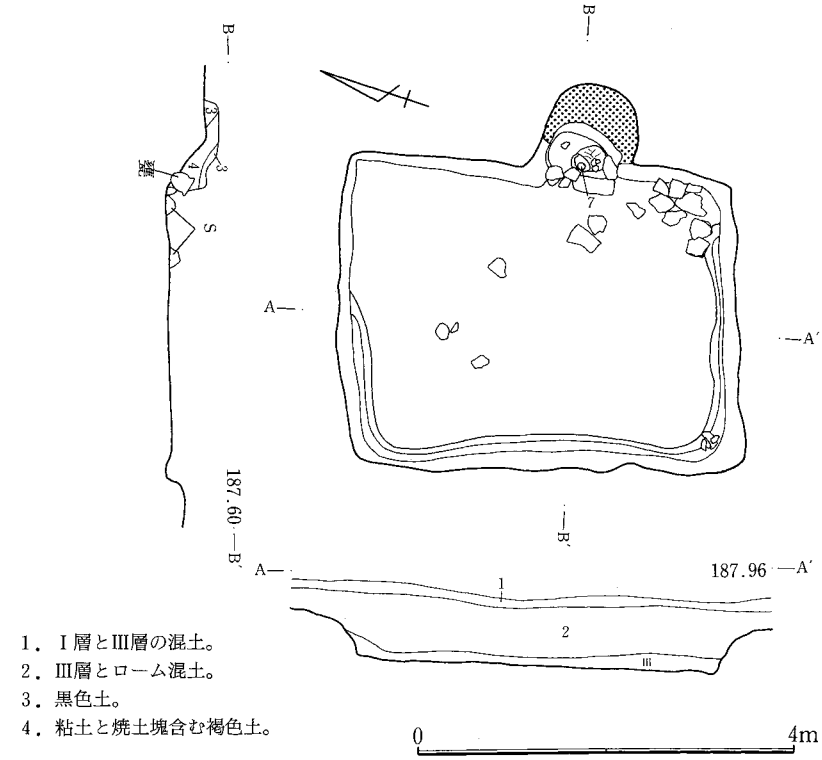
位置　台地北部中央のI―7・8区に位置する。　**形状**　方形。各辺はほぼ直で、隅角も直に近い隅丸。規模は東西4.6mで南北5.0mを測る。面積は22.21m²。壁現高は27～70cmを測る。周溝は北・西・南壁下で検出されている。巾は6～19cmで、深さは4～11cmである。長軸方向はN―2°―Eである。　**ピット**　床面に4基。方形配置。P_1（49×49×47cm）、P_2（59×57×24cm）、P_3（104×70×46cm）、P_4（49×39×―cm）。いずれもしっかりした掘り形の柱穴。　**カマド**　東壁南側。石を芯にして粘土造り。全長113cmで壁外掘り込み45cm。燃焼部は72cmでほぼ壁内。袖部内幅は48cm。燃焼部より壁へは急な立ちあがり。**貯蔵穴**　南東隅。円形で43×36×43cm。　**遺物**　坏、小型甕、甕が出土。



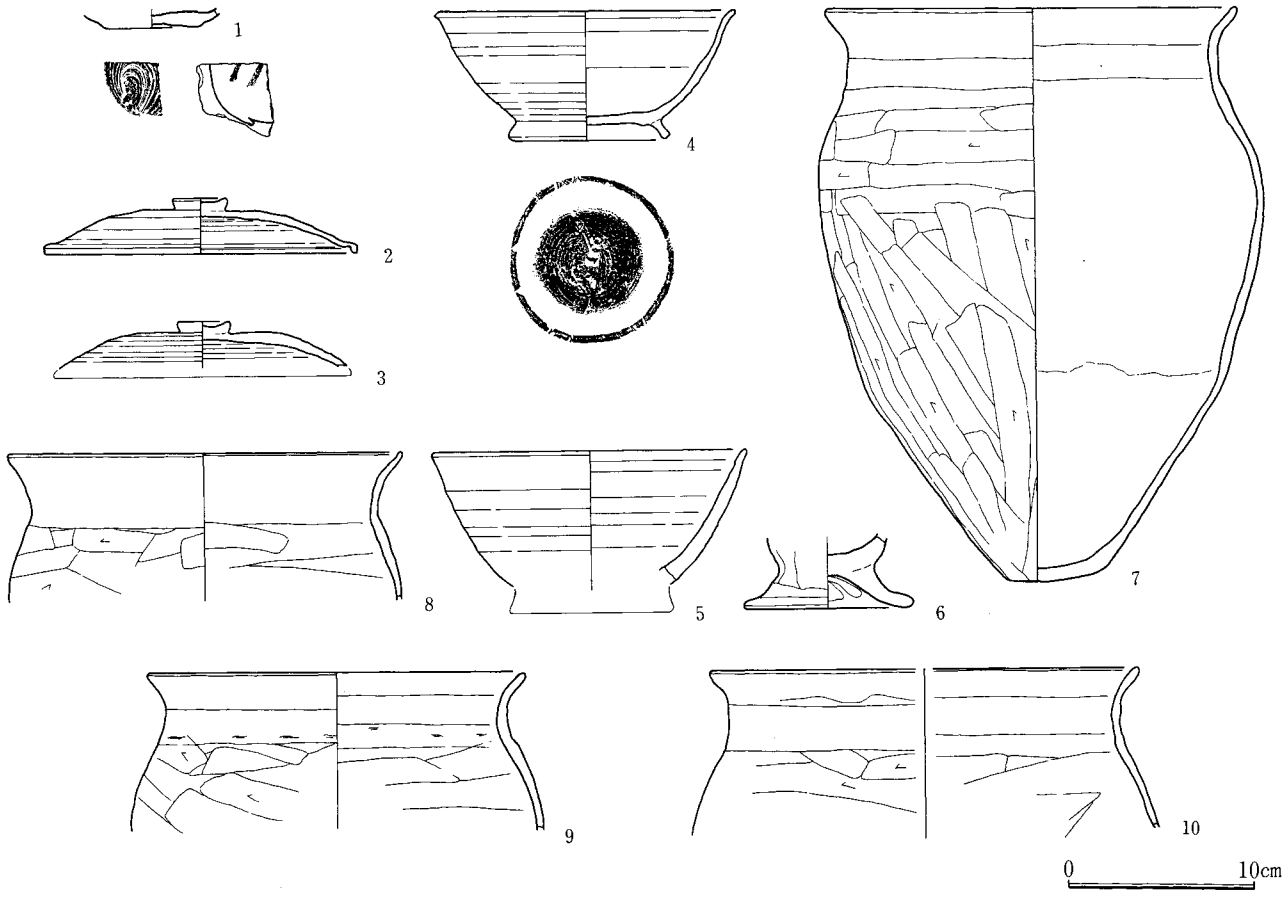
図―37　H―23号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H24号住居跡　（図—38・39　表4—9　図版—1・16）

位置　台地北側の中央部Ⅰ—25区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。西辺はやや内にはらむが、他はほぼ直である。隅角は直に近い。規模は東西2.8mで南北3.8mを測る。面積は11.71㎡。壁現高は46～53cmを測る。壁は比較的しっかり掘られている。周溝は南～西壁下と北壁の西半にみられる。巾は6～18cmで、深さは10cm。長軸方位はN—16°—E。　**カマド**　東壁中央南。残存の様子からみると、石で組み、粘土で固めたものか。袖石等の残存が多い。全長115cmで壁外掘り込みは83cm、燃焼部分48cmはほぼ壁外となる。壁に並んで袖石が検出されている。袖部内幅は43cmである。　**遺物**　坏、蓋、埦、台付甕、甕が出土。



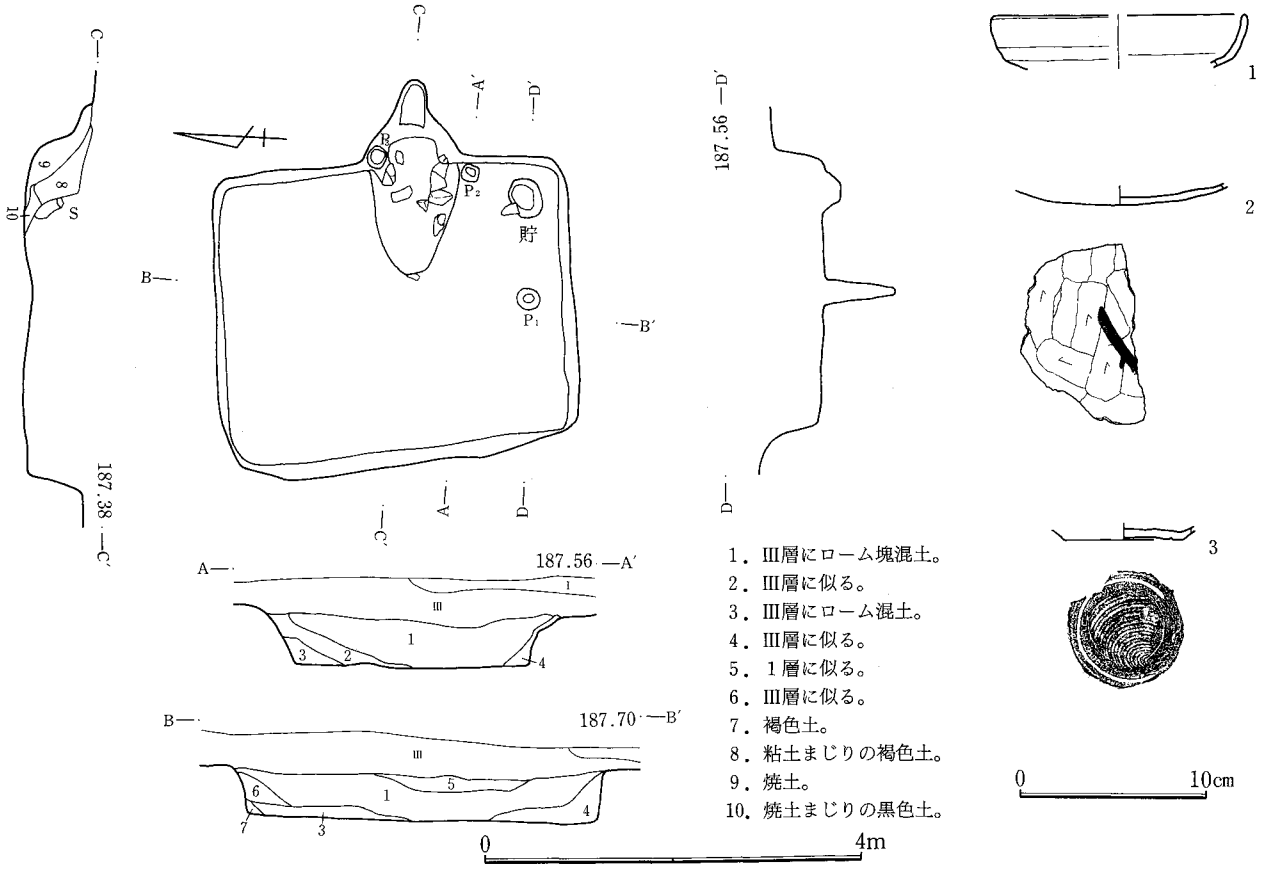
図—38　H—24号住居跡平・断面図



図—39　H—24号住居跡出土遺物実測図

H25号住居跡　(図—40　表4—10　図版—16)

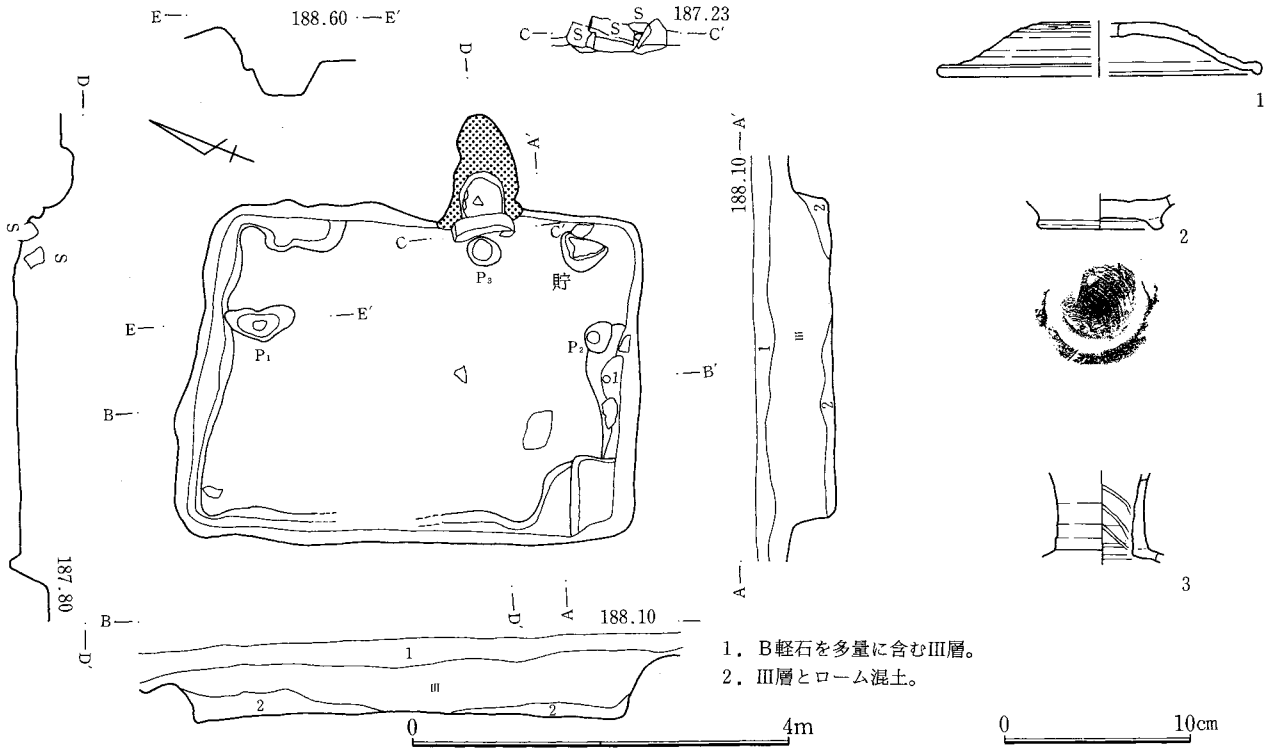
位置　台地北側の中央部Ⅰ—24区に位置する。　**形状**　南北にやや長い長方形。各辺ともに直で、隅角も直に近い。規模は東西3.0mで南北3.6m、面積は10.57㎡。壁現高は53～60cmを測る。しっかりとした掘り込みである。長軸方位はN—6°—E。　**ピット**　床面3ヵ所。P_1(26×26×74cm)。南壁中央下にある。柱穴か。深い掘り込みをもつ。P_2(18×18×13cm)、P_3(23×19×10cm)カマドの左右にあり、カマド関連のものか。　**カマド**　東壁中央南。西に広くくぼみあり。石と粘土で造られていたと考えられる。袖石2石はそのままか。全長210cmで壁外掘り込み80cm。燃焼部は50cmで半分くらいが壁内にあたる。袖部内幅は37cmで、壁へは急な立ちあがりで続く。　**貯蔵穴**　円形。南東隅。44×34×19cm。　**埋土**　ロームのまじりが多い。周堤帯のものか。　**遺物**　坏が出土。



図—40　H—25号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H26号住居跡　(図—41　表4—10)

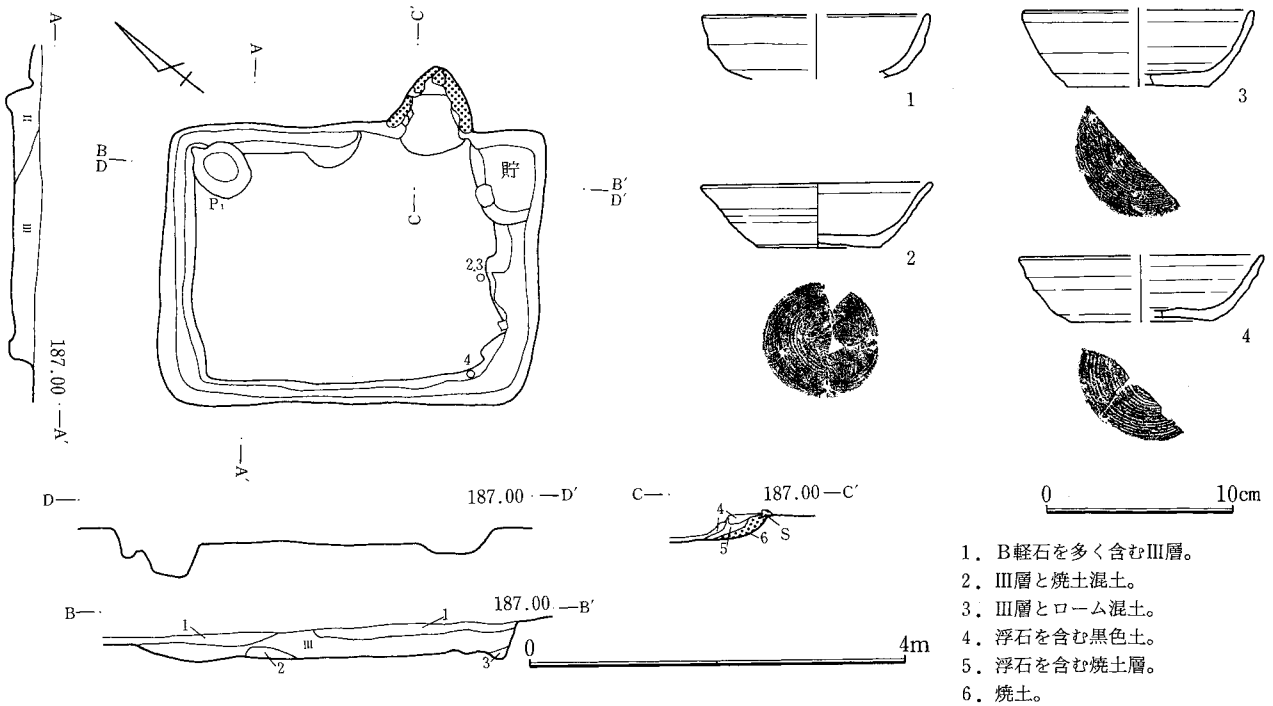
位置　台地北側の中央のⅠ—25区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直で、隅角もほぼ直。規模は東西3.2mで南北4.4m。面積は14.59㎡。壁現高は44～74cmを測る。比較的しっかりと掘られている。周溝は北壁下と東壁と西壁の北端、南壁西半・西壁南半にみられる。巾8～22cmで、深さ10cmを測る。長輪方位はN—19°—E。　**ピット**　P_1(72×32×—cm)　P_2(36×36×—cm)　P_3(34×30×—cm)。$P_{1,2}$は柱穴と思われる。P_3はカマド関連のものか。　**カマド**　東壁南。石材がのこる。石で組み粘土で固めたものか。全長118cmで壁外掘り込み100cm、燃焼部分50cm。燃焼部は壁外になる。袖部内幅35cm。燃焼部から煙道への立ちあがりは直に近い。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。52×37×—cm。　**遺物**　蓋、埦、長頸壺が出土。



図—41　H—26号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H27号住居跡　（図—42　表4—10　図版—1・17）

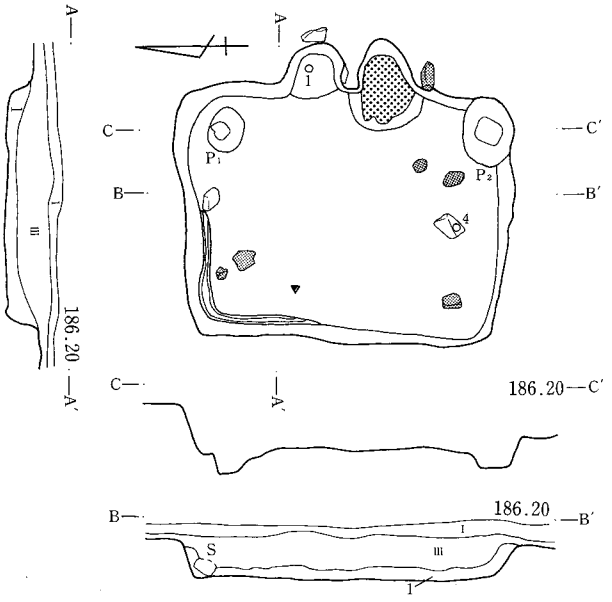
位置　台地北側の南部I—41・42区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺ともに直。西側の隅は隅丸であるが、東側は直に近い。規模は東西2.8mで南北3.7mを測る。面積は10.39m²。壁現高は20～32cmを測る。周溝は全周する。巾7～24cmで、深さ6～8cmである。長軸方位はN—36°—E。　**ピット**　P1(60×54×33cm)。北東隅。　**カマド**　東壁南。全長94cmで壁外掘り込み80cm。燃焼部は62cmでほぼ壁外にあたる。袖部内幅は54cmで、燃焼部から煙道へはなだらかに続いている。　**貯蔵穴**　南東隅。方形。70×52×8cm。　**遺物**　坏が出土。



図—42　H—27号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

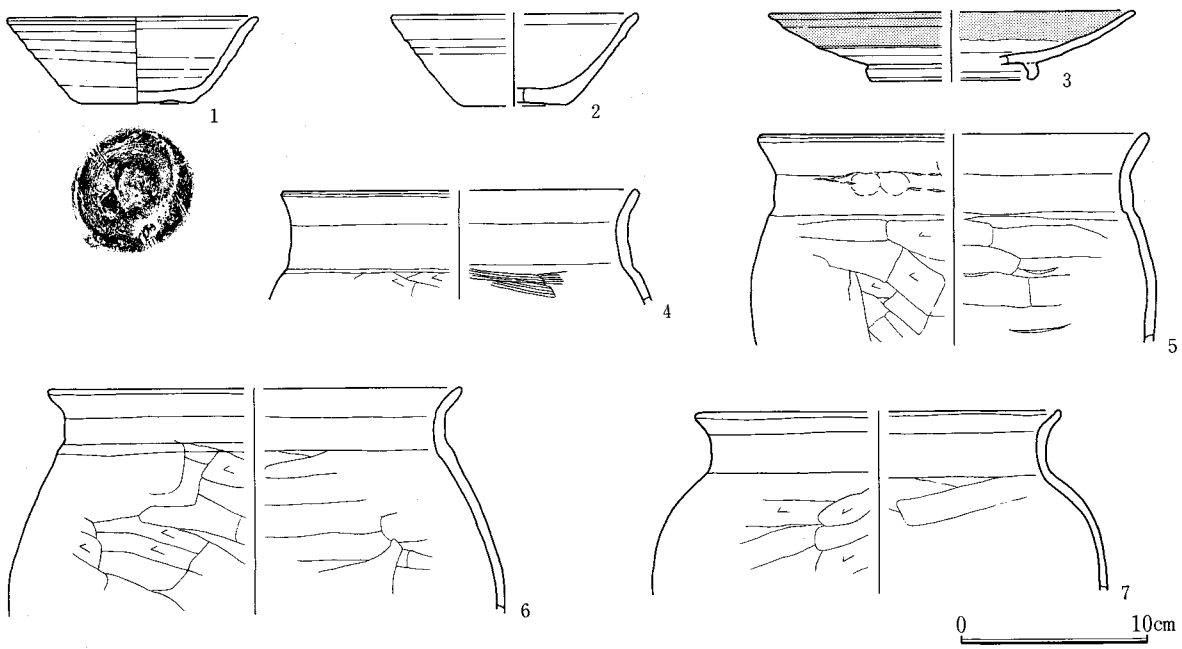
H28号住居跡　(図—43・44　表4—10・11　図版—17)

位置　台地北側で、南の住居跡集中区のⅠ—4区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。北と南辺はややはらむ。隅角は隅丸に近い。規模は東西2.3mで南北3.2m。面積は8.02m²である。壁現高は28～33cmである。周溝は北西隅にみられ、巾5～12cmで深さ3cm。長軸方位はN—5°—W。　**ピット**　P_1。北東隅。(48×36×27cm)P_2。南東隅。(76×56×21cm)、柱穴と考えられる。P_2は貯蔵穴の可能性もある。　**カマド**　東壁に2基。北カマドは南カマドにくらべ残存状況良。新しいものか。全長60cmで壁外掘り込み50cm。燃焼部は40cmでほぼ壁外。袖部内幅は45cm。煙道は急な立ちあがり。南カマドは全長95cmで壁外掘り込み50cm、燃焼部70cm、袖部内幅50cm。石と白色粘土で造られたものか。煙道へはなだらかな立ちあがり。　**遺物**　坏、皿、甕が出土。



1．浮石をほとんど含まない黒褐色土。

図—43　H—28号住居跡平・断面図

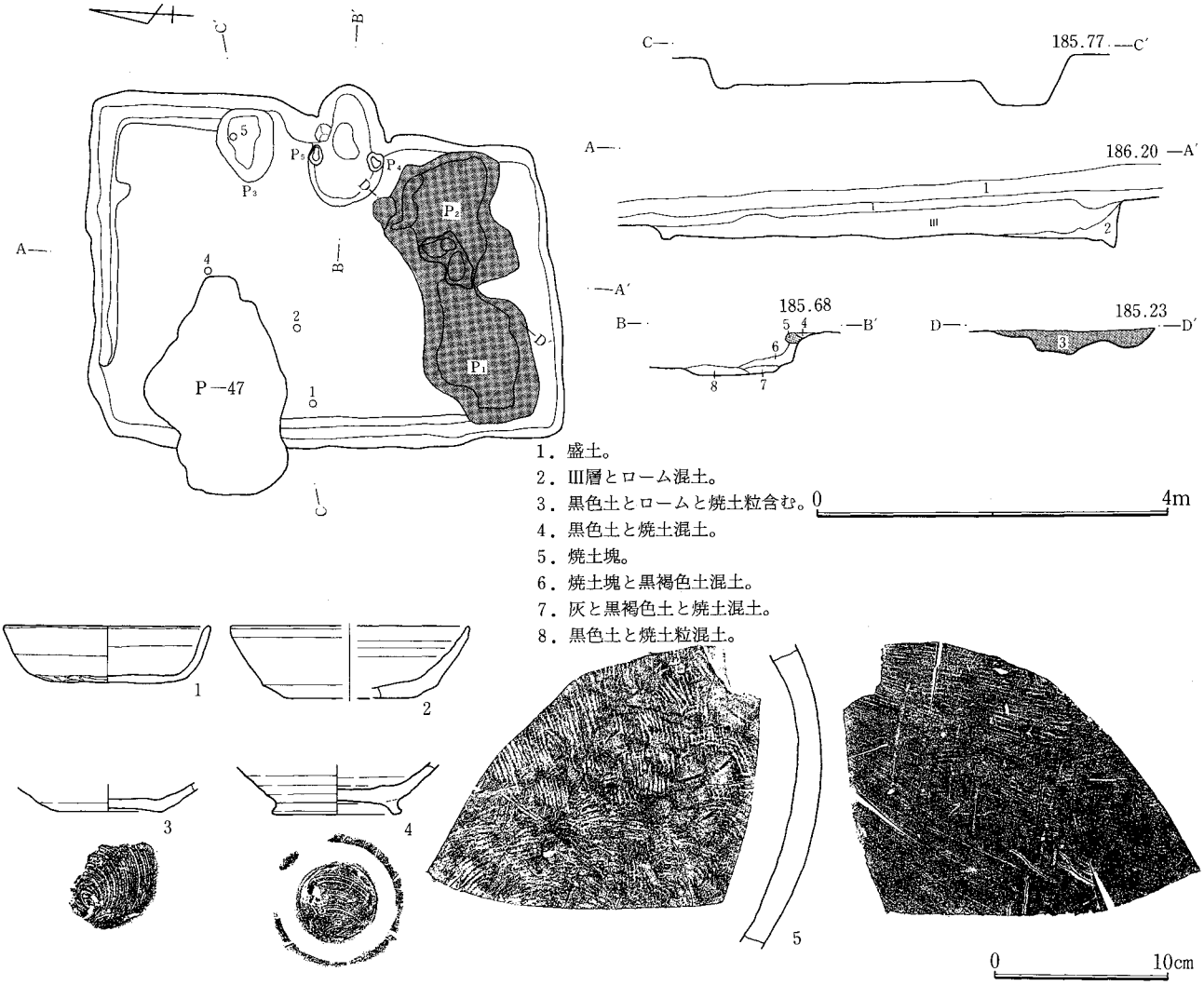


図—44　H—28号住居跡出土遺物実測図

H29号住居跡　(図—45　表4—11　図版—1・18)

位置　台地北側の南部、住居跡密集区のⅠ—3・4区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。南側は狭くなっている。各辺は直で、隅角も直に近い。規模は東西が北側3.7mで南側3.2m、南北は5.0mである。面積は17.40m²。壁現高は16～52cmを測る。周溝は重複部を除き検出されている。全周していたと考えられる。巾4～18cmで、深さ5～6cmである。長軸方位はN—4°—E。　**ピット**　床面5ヵ所。P_3(72×61×28cm)。カマドの北側。柱穴と言うより貯蔵穴に近いものか。P_2 (150×111×20cm) P_1 (153×124×16cm)。いずれも住居南側。床下土坑と思われる。P_4 (22×14×—) P_5

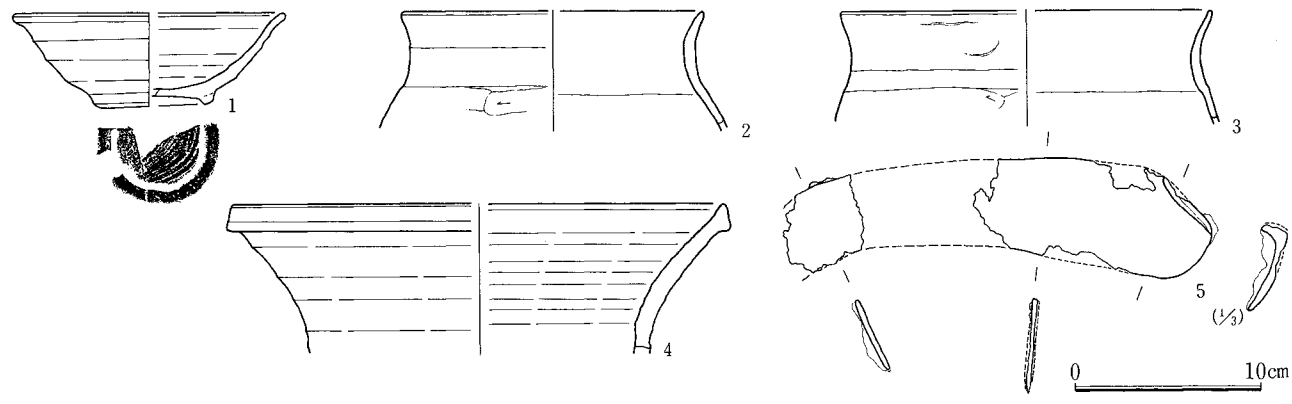
(22×16×—)。いずれもカマド左右の袖の位置にあり、袖石の抜けた跡か。　**カマド**　東壁中央。若干石がのこる。全長138cmで、壁外掘り込み55cm。燃焼部長40cm。袖部内幅52cm。煙道への立ちあがりは急である。　**重複**　近世の土坑(P—47)と重複。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。



図—45　H—29号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

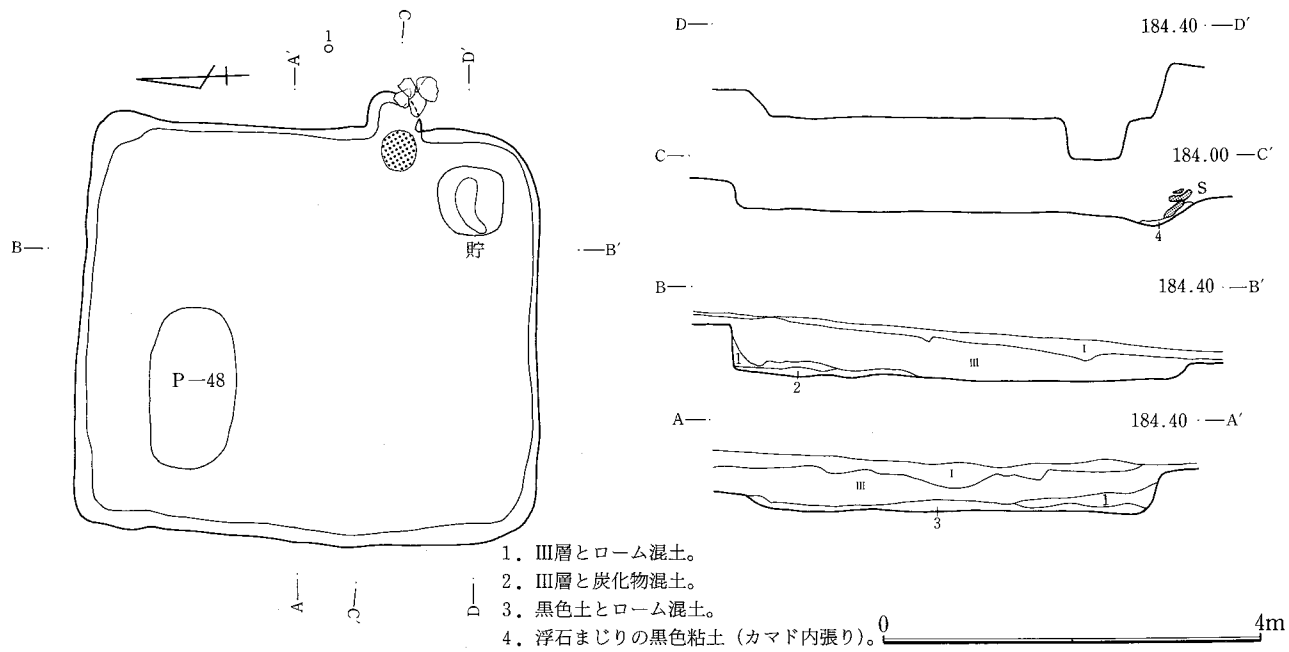
H30号住居跡　(図—46・47　表4—11　図版—18)

位置　台地中央部のI—2区に位置する。　**形状**　やや南北に長い方形。各辺は直で、隅角は隅丸になっている。規模は東西4.2mで南北4.7m。面積は18.88m²。壁現高は17～48cmを測る。長軸方位はN—6°—W。　**カマド**　東壁南。石材が5石のこる。全長86cmで壁外掘り込み43cm。燃焼部長21cm、袖部内幅50cmを測る。壁への掘り込みはゆるやかであ



図—46　H—30号住居跡出土遺物実測図

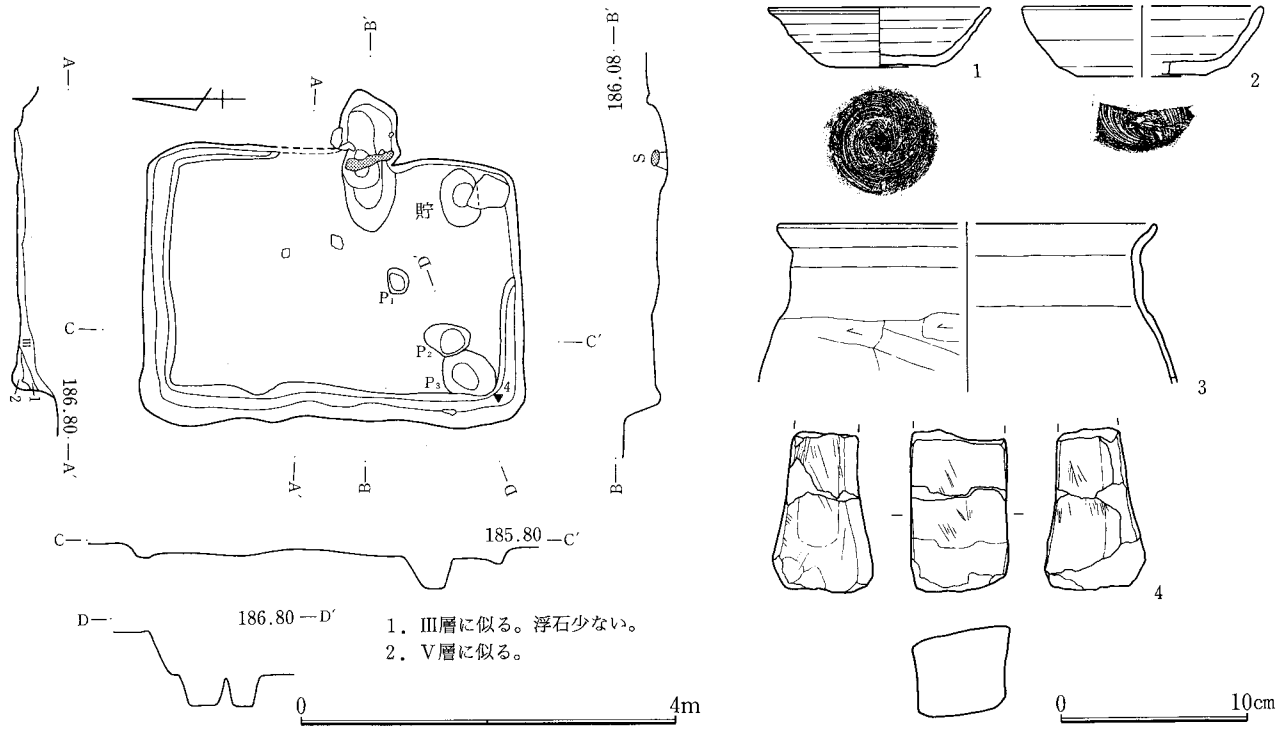
る。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形、73×69×28cm。　**重複関係**　J—18と近世の土坑（P—48）と重複する。土坑は壁に焼けこみがあり、埋土にも焼土、炭化物が多く含まれる。H—30より新しい火葬墓と考えられる。　**遺物**　埦、甕、鎌が出土。



図—47　H—30号住居跡平・断面図

H31号住居跡　（図—48　表4—11・12　図版—19）

位置　台地中央部のI—4区に位置する。住居跡の集中している地区である。　**形状**　南北に長い長方形。各辺ともに直で、隅角も直に近い。規模は東西2.4mで南北3.9m。面積は10.02m²。壁現高は16～41cmを測る。周溝は南壁下東2分の1を除きほぼ全周する。巾10～24cmで、深さ7～11cmを測る。長軸方位はN—1°—W。　**ピット**　床面3ヵ所。P_1（28×22×14cm）、P_2（48×34×—cm）、P_3（60×50×32cm）。P_1が中央近くでP_2、P_3は南西隅。いずれも柱穴か。　**カマ**

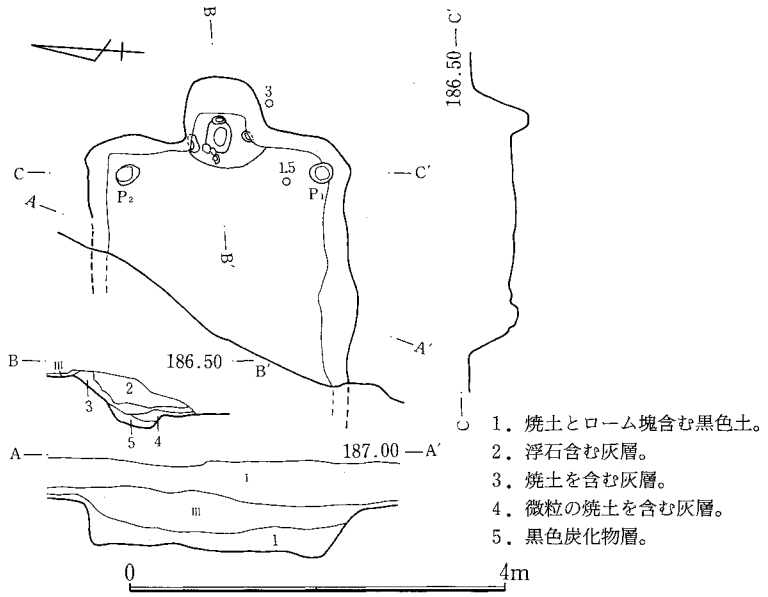


図—48　H—31号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

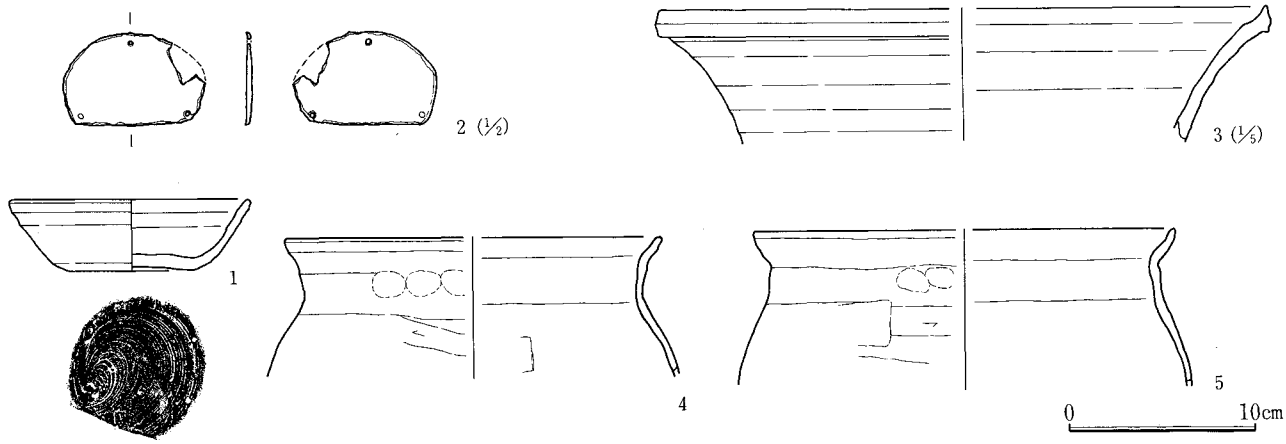
ド　東壁中央。凝灰岩2石のこる。他に2石。全長152cmで、壁外掘り込み68cm。燃焼部長45cmで、袖部内幅26cmを測る。壁への掘り込み角度はなだらかである。　**貯蔵穴**　南東隅。長方形。61×36×31cm。一石が傍にのこる。　**遺物**　坏、甕、砥石が出土。

H32号住居跡　（図—49・50　表4—12　図版—1・19）

位置　台地中央部のI—22・23区に位置する。　**形状**　西半が削平されているが、現状からみると東西に長い長方形とみられる。壁は北、南、東は直で、隅角の残っている北東と南東はほぼ直に近い。規模は東西が現状で2.5m、南北が2.3mを測る。面積は4.43m²。壁現高は40～49cm。長軸方位はN—95°—E。　**ピット**　P_1(23×20×21cm)、P_2(26×18×10cm)。P_1は床面南東隅、P_2は床面北東隅に位置する。位置からみると柱穴か。　**カマド**　東壁中央。全長96cmで壁外掘り込み60cm、燃焼部分長43cm、袖部内幅46cmを測る。燃焼部はだいたい壁上に位置する。壁への掘りこみはなだらかである。　**遺物**　坏、丸鞆、甕が出土。



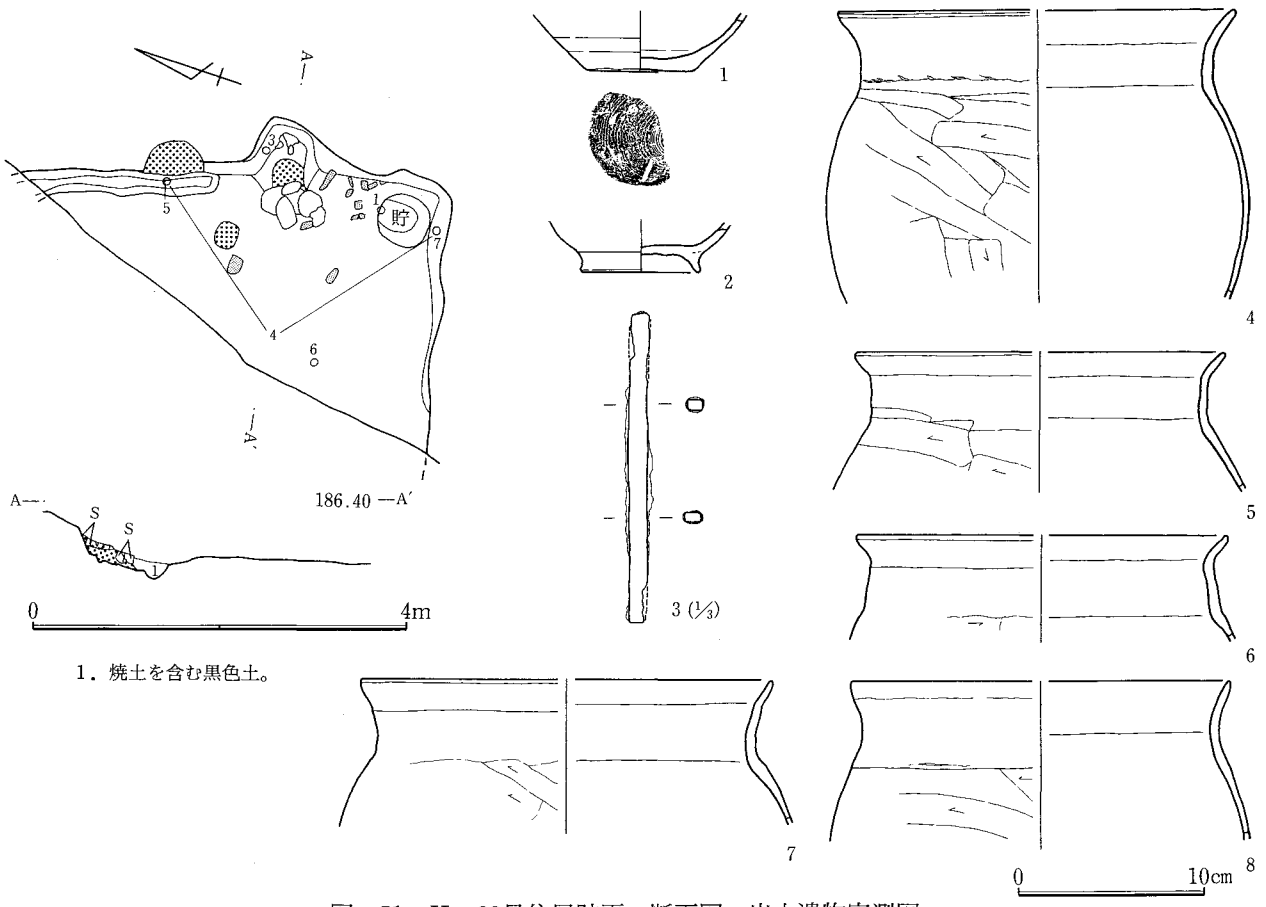
図—49　H—32号住居跡平・断面図



図—50　H—32号住居跡出土遺物実測図

H33号住居跡　（図—51　表4—12　図版—20）

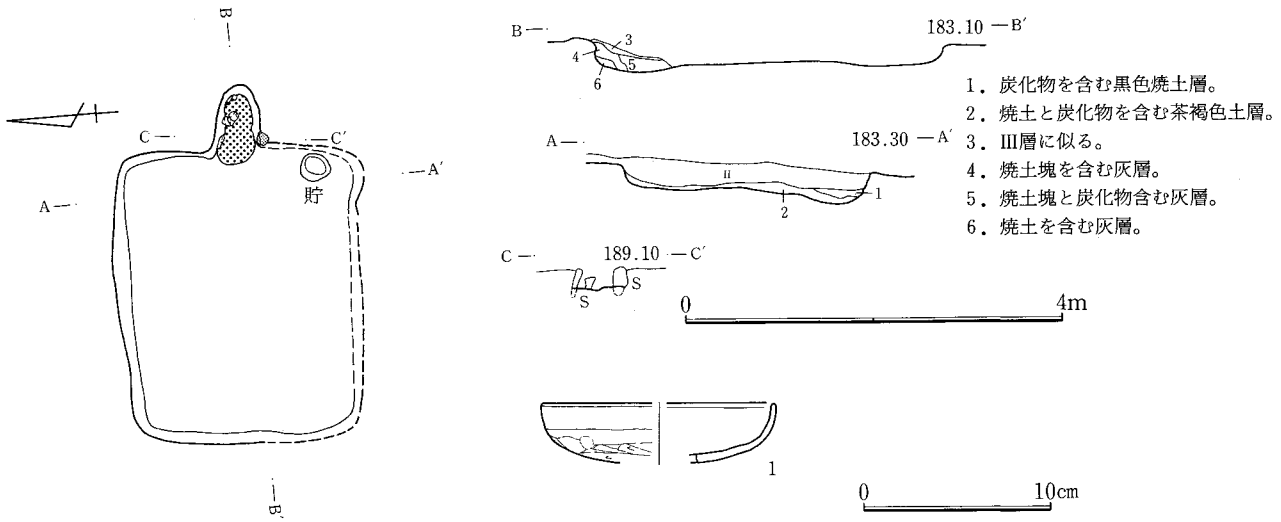
位置　台地中央部のI—4に位置する。住居跡の密集区にあたる。　**形状**　西半が削平されているが、残ったところからみると南北に長い長方形か。残存する東壁、南壁は直で、南東隅も直に近い。規模は現状が南北4.4mで、東西が2.8mを測る。面積は現状で7.23m²。壁現高は3～47cmを測る。南壁の状況からみるとしっかりした掘り形をもつと考えられる。周溝は東壁下で確認されている。巾8～16cmで深さ3cm。長軸方向はN—16°—E。　**カマド**　東壁南。多くの石材がのこる。全長102cmで壁外掘り込み50cm。燃焼部長40cm、袖部内幅50cmを測る。壁への掘り込み角度はやや急である。燃焼部は床面—14cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。58×56×—cm。　**遺物**　坏、埦、棒状鉄製品、甕が出土。



図—51　H—33号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H34号住居跡　（図—52　表4—12　図版—20）

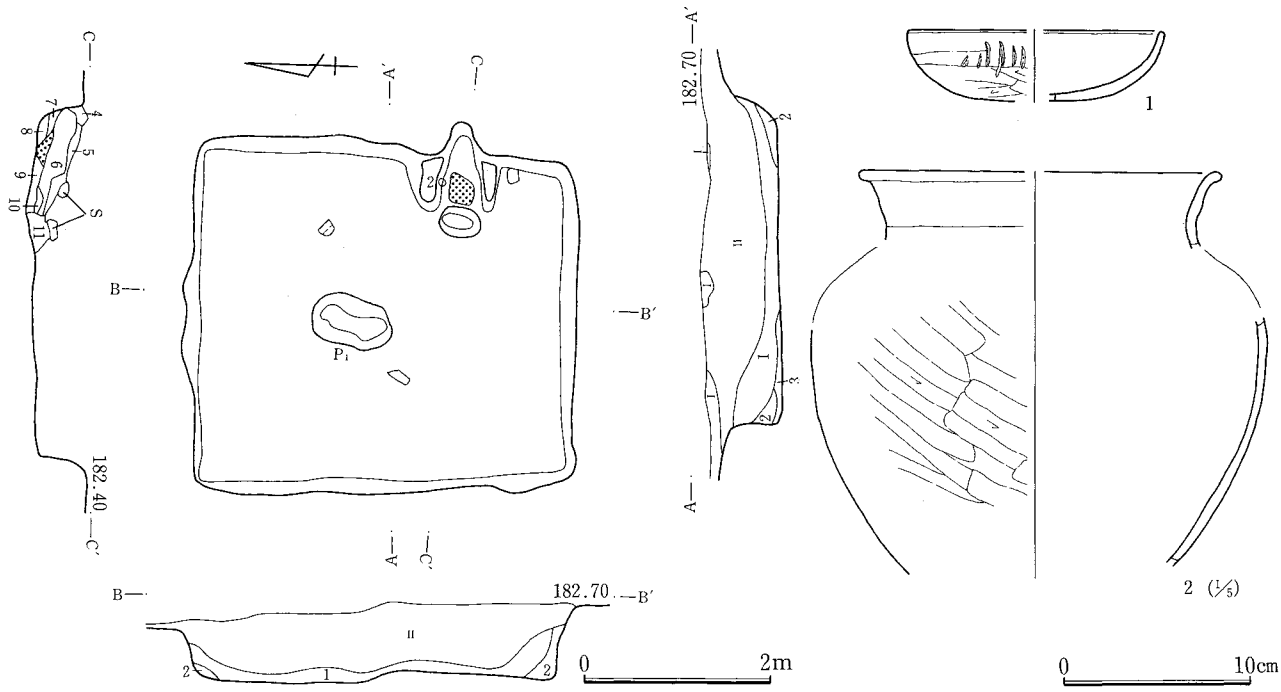
位置　台地中央部のI—1区に位置する。住居跡が密集して検出されている。　**形状**　東西に長い長方形。南半は残りが良くない。比較的残りの良い北半の壁はほぼ直で、北東・北西の隅はほぼ直である。規模は東西が2.9mで南北は2.4m、面積は6.96m²を測る。壁現高は20～22cm。長軸方位はN—87°—E。　**カマド**　東壁中央。全長70cmで壁外掘り込み66cm、燃焼部長は、ほぼ壁外で50cm。袖部内幅は36cm。両袖石及び支石が良くのこっていた。燃焼部は床より—6cmで、煙道へは直にあがっている。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。33×28×60cm。　**遺物**　坏が出土。



図—52　H—34号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H35号住居跡　(図—53　表4—13　図版—21)

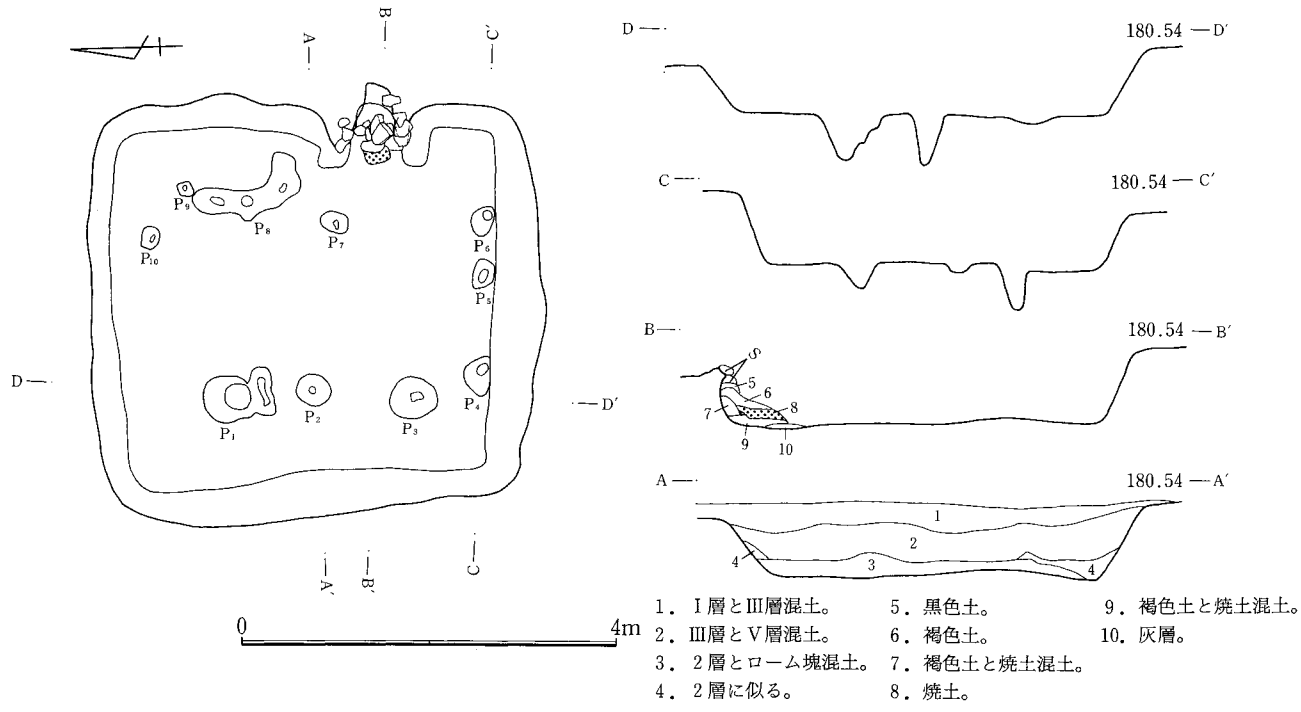
位置　台地中央部のやや南Ⅰ—1区に位置する。　**形状**　方形。各辺は直で、各隅角も直。規模は東西が3.4mで南北が3.8m、面積は12.67㎡。壁現高は63～66cmを測る。長軸方位はN—2°—E。　**ピット**　床面中央部やや北。P_1 (90×49×—cm)　**カマド**　東壁南。石材がのこる。全長119cmで壁外掘り込み32cm、燃焼部分32cm、袖部内幅52cm。燃焼部は床面—4cm。煙道への立ちあがりは急である。　**遺物**　坏、甕が出土。



1．栗色土と黒色土混土。
2．栗色土とローム混土。
3．栗色土とローム塊混土。
4．褐色土。
5．黒色土と灰混土。
6．灰層。
7．褐色土。
8．褐色灰層と炭化物混土。
9．灰と焼土混土。
10．褐色土と灰混土。
11．褐色土とローム塊混土。

図—53　H—35号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

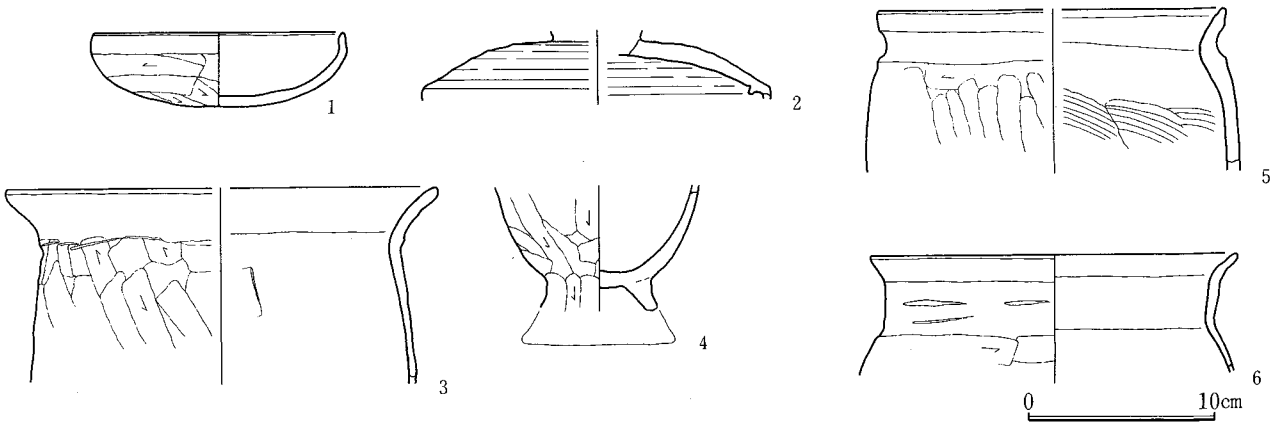
H36号住居跡　(図—54・55　表4—13　図版—21)



1．Ⅰ層とⅢ層混土。
2．Ⅲ層とⅤ層混土。
3．2層とローム塊混土。
4．2層に似る。
5．黒色土。
6．褐色土。
7．褐色土と焼土混土。
8．焼土。
9．褐色土と焼土混土。
10．灰層。

図—54　H—36号住居跡平・断面図

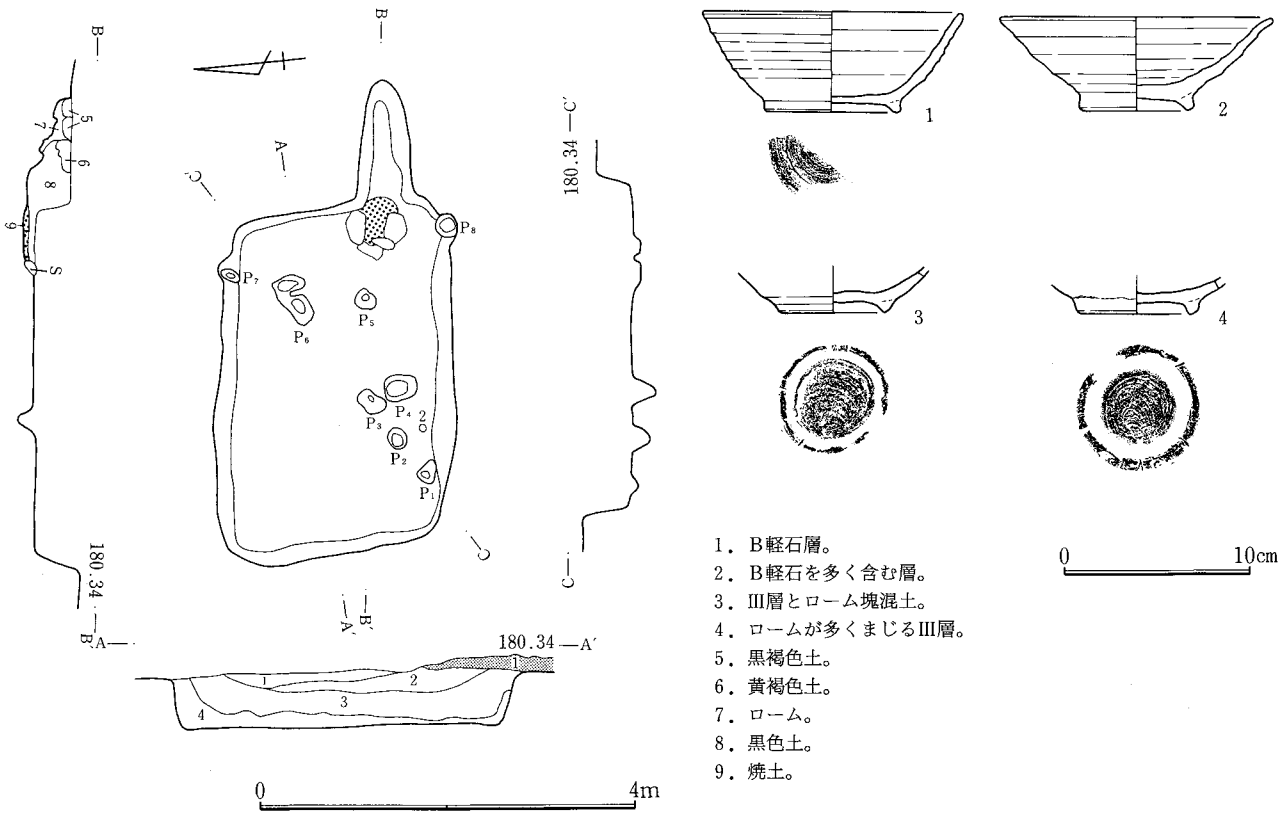
位置　台地中央部の南端IV－１・２区に位置する。周辺は住居跡が少ない地区である。　**形状**　方形。南辺は直であるが、東と西辺は北にむかって開き、北辺は外にはらんでいる。隅角は南側は直に近いが、北側は隅丸。規模は東西3.6mで南北4.1m、面積は14.33㎡。壁現高は50～80cmを測る。長軸方位はN－2°－W。　**ピット**　P_1～P_{10}。$P_{1\sim7,10}$は方形配置の柱穴か。南北列のP_1～P_3は大きく50×40×50cmに近い。東西列の$P_{4\sim6}$はやや小さく30×22×30cmに近い。$P_{7,10}$は$P_{4\sim6}$に近い規模。$P_{8,9}$は別の施設のものか。　**カマド**　東壁南。石材16石がのこる。全長88cmで、壁外掘り込み72cm。袖部内幅57cm。燃焼部より煙道へは直にあがる。燃焼部は床面より－４cm。　**遺物**　坏、蓋、甕、台付甕が出土。



図―55　H―36号住居跡出土遺物実測図

H37号住居跡　（図―56　表４―13　図版―22）

位置　台地中央部の南端IV－２区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸。規模は東西3.4mで南北2.1m。面積は7.48㎡。壁現高は55～60cmを測る。長軸方位はN－82°－E。　**ピット**　P_1～P_8。$P_{3,5\sim8}$は柱

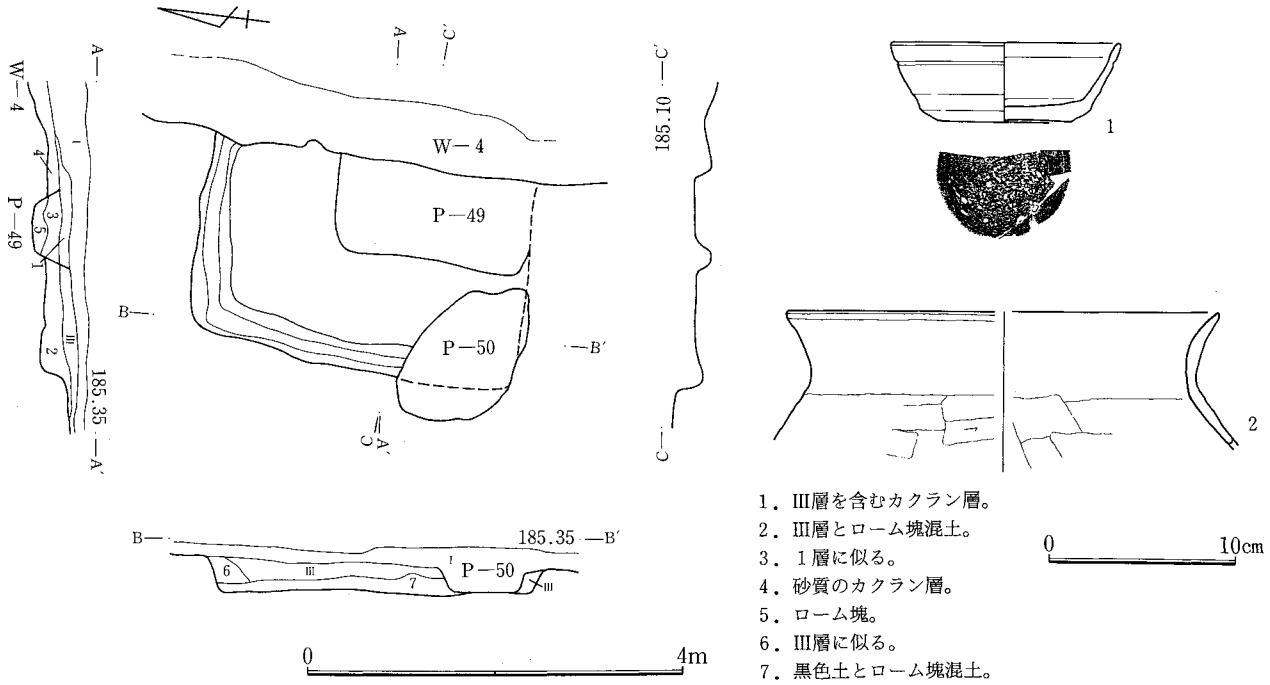


図―56　H―37号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

穴か。30×20cm程の規模。P_7、P_8は北、南壁内で東寄りに対で位置している。　**カマド**　東壁南。石材がのこる。全長170cmで壁外掘り込み125cm。燃焼部長78cm、袖部内幅26cm。壁への掘り込み角度はなだらかである。燃焼部は床面－5cm。煙道部が比較的良く残されていた。　**テフラ**　純層に近いB軽石層あり。床面より35cm。　**遺物**　埦が出土。

H38号住居跡　(図—57　表4—13　図版—22)

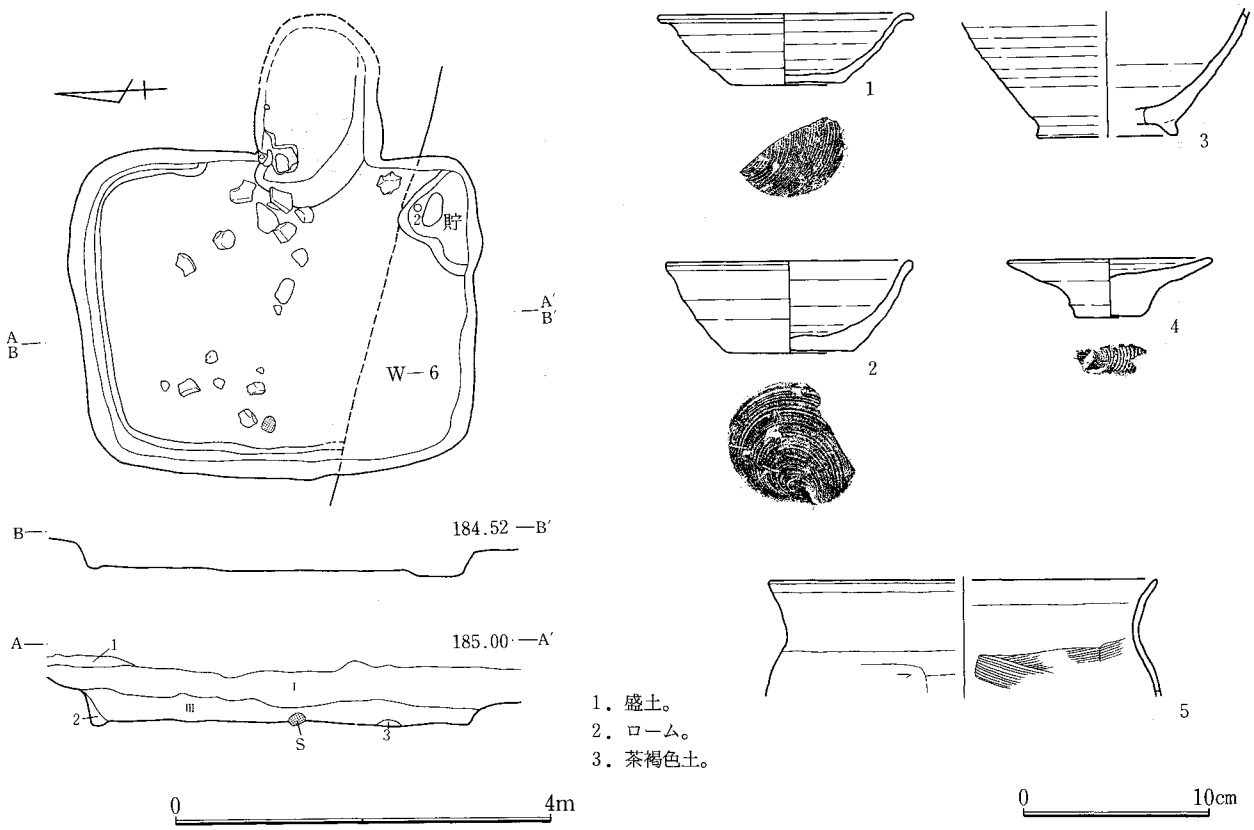
位置　台地中央部のII—21区に位置する。中央部の住居跡中央区に位置する。　**形状**　東側が溝（W—4）と重複して削平され、南側に土坑2基（一基は馬の墓）が重複している。残存部からみると方形と考えられる。残る北辺、西辺はやや外へはらむ。残された北西隅もややひろがっている。規模は現状で東西2.1mで南北3.5m。面積は残存部で7.26㎡。壁現高は30cmを測る。周溝は北～西壁下で検出されている。巾11～22cm、深さ5～9cm。全周していた可能性あり。柱穴不明。　**カマド**　東壁と思われるが削平されたものか。　**重複関係**　溝（W—4）と土坑2基P—49、P—50と重複。いずれも新しいもの。P—49は墓壙、P—50は馬の墓壙と考えられる。　**遺物**　坏、甕が出土。



図—57　H—38号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

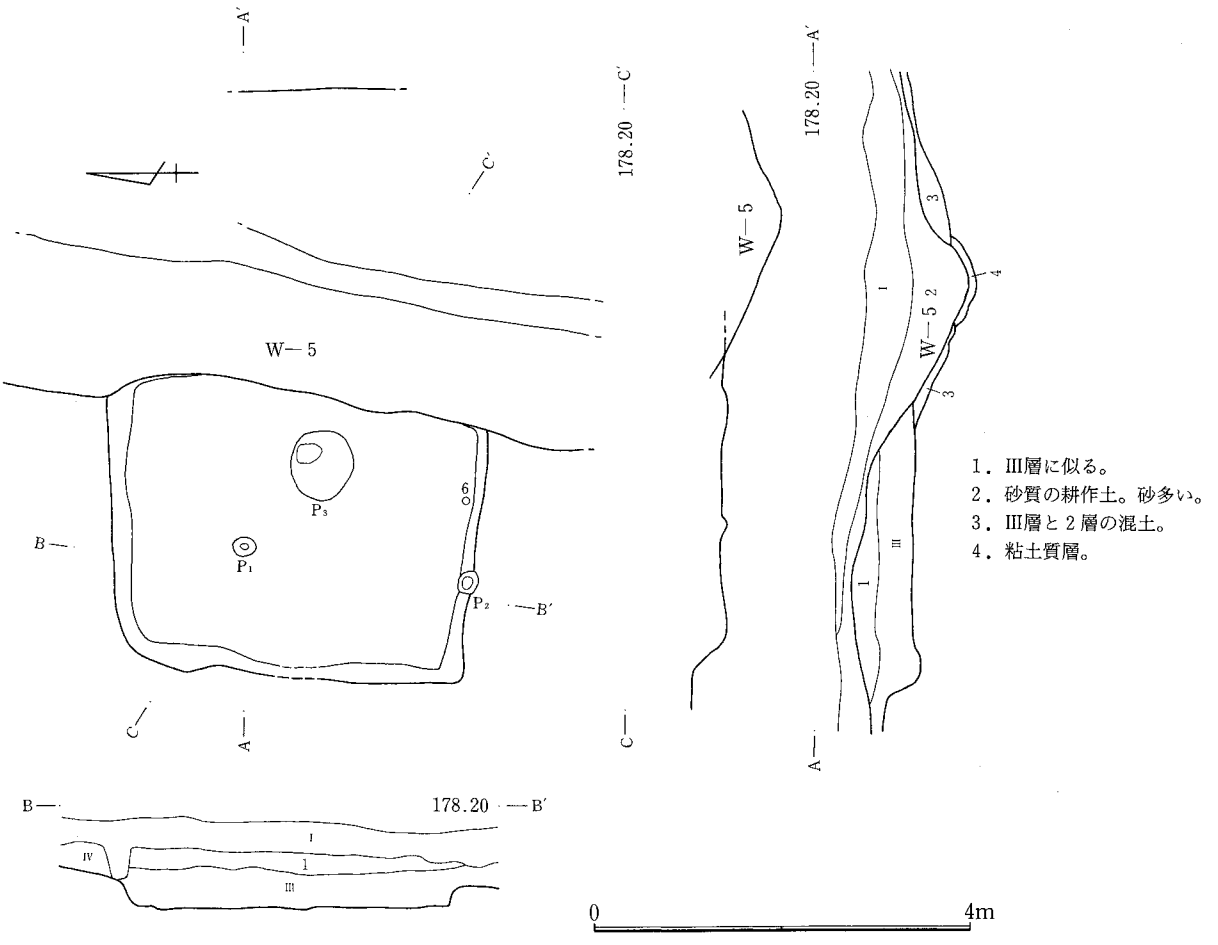
H39号住居跡　(図—58　表4—14　図版—23)

位置　台地中央部の住居跡密集地区II—21・39区に位置する。　**形状**　方形。各辺はやや外にはらみ、各隅角は隅丸。規模は東西3.2mで、南北4.0m。面積13・29㎡。壁現高は26～37cm。周溝は東壁から北壁と西壁の北半で検出されている。南壁下は削平されたものか。　**カマド**　東壁。カマド前より西壁下まで19個の石材がのこる。カマドの構築材か。全長200cm以上、壁外掘り込み80cm以上。東側は削平により失なわれている。　**貯蔵穴**　不整円形。床面南東隅。110×70×27cm。　**重複関係**　W—6と重複する。H—39が新しい。　**遺物**　坏、埦、托、甕が出土。



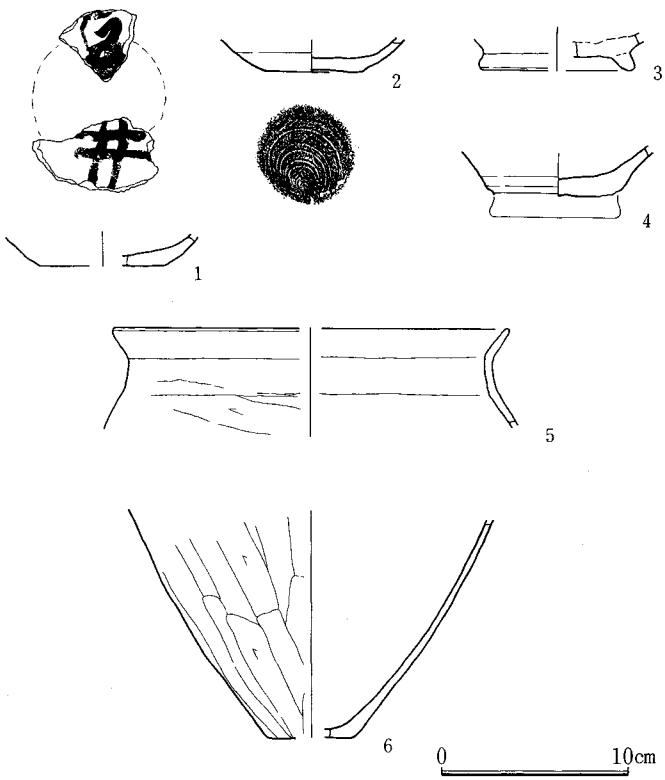
図—58　H—39号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H40号住居跡　（図—59・60　表4—14　図版—23）



図—59　H—40号住居跡平・断面図

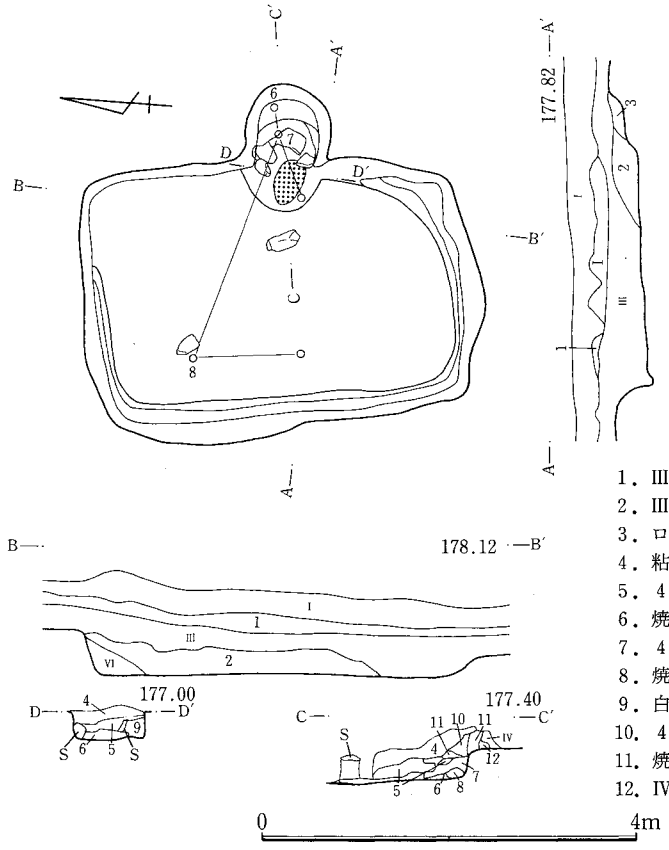
位置　台地南部のIV－6区に位置する。周辺は台地南側の住居跡集中区である。　**形状**　方形。東側は溝により削平をうけている。北、西、南辺はほぼ直で、西側の隅角はほぼ直に近い。規模は東西2.8mで南北3.5m。面積は9.71㎡。壁現高は36cmを測る。長軸方位はN－3°－W。　**ピット**　$P_{1\sim3}$。P_1(22×18×5cm)、P_2(26×21×－cm)、P_3(74×70×7cm)。性格は不明。　**カマド**　不明。W－5との重複により削平されたものか。　**重複関係**　W－5と重複する。溝が新しい。W－5は番城関係のものか。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。



図－60　H－40号住居跡出土遺物実測図

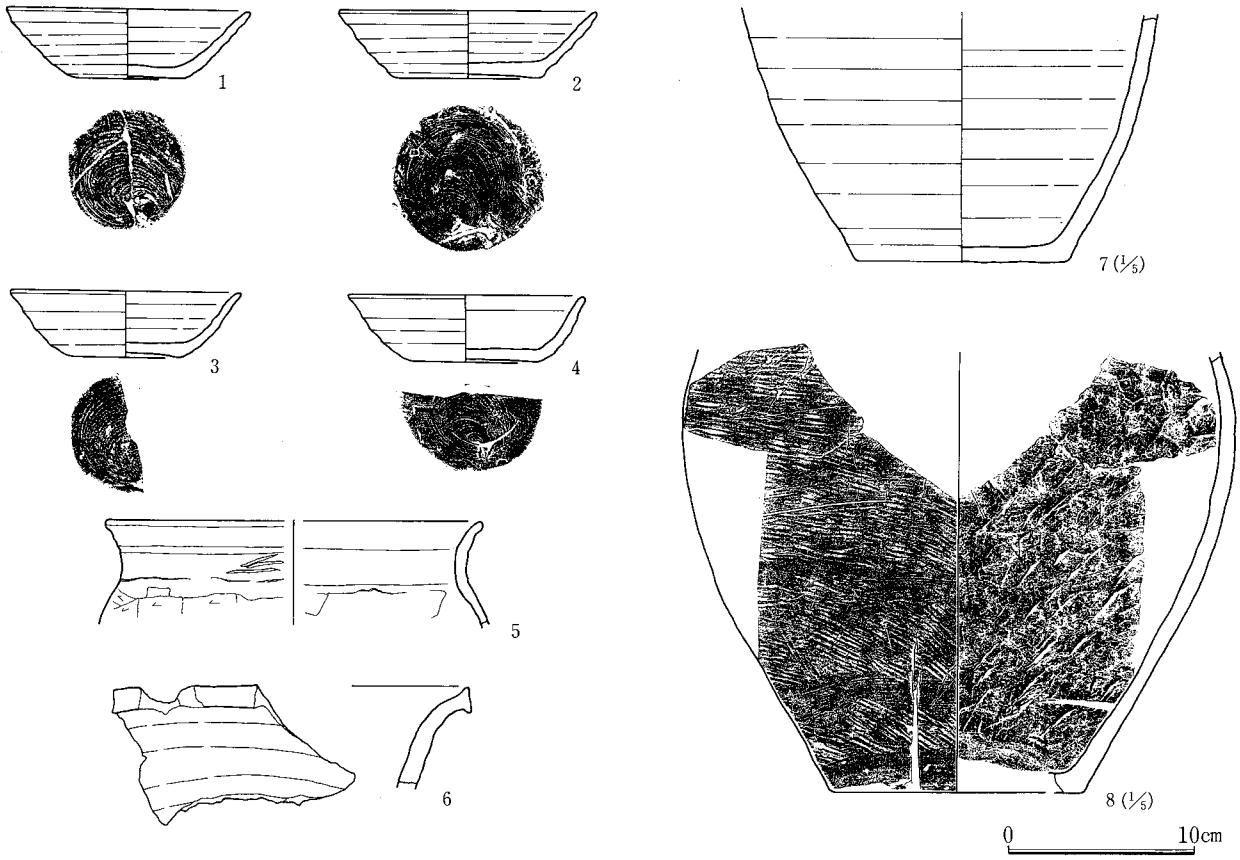
H41号住居跡　(図－61・62　表4－14　図版－24)

位置　台地南部のIV－6・7区に位置する。住居跡密集地にあたる。　**形状**　南北に長い長方形。南辺は外にはらむが、他はほぼ直である。隅角は北側はほぼ直であるが、南は隅丸となる。規模は東西2.6mで南北3.9m、面積は9.82㎡。壁現高は24～50cmを測る。周溝は北壁下より西壁～南壁下で検出されている。巾3～23cmで、深さ3～5cm。長軸方位はN－8°－E。　**カマド**　東壁。石材と粘土使用。袖石2石のこる。全長133cmで、壁外掘り込み80cm、燃焼部は壁外で長さ40cm、袖部内幅30cm。煙道へは直にあがる。　**遺物**　坏、甕が出土。



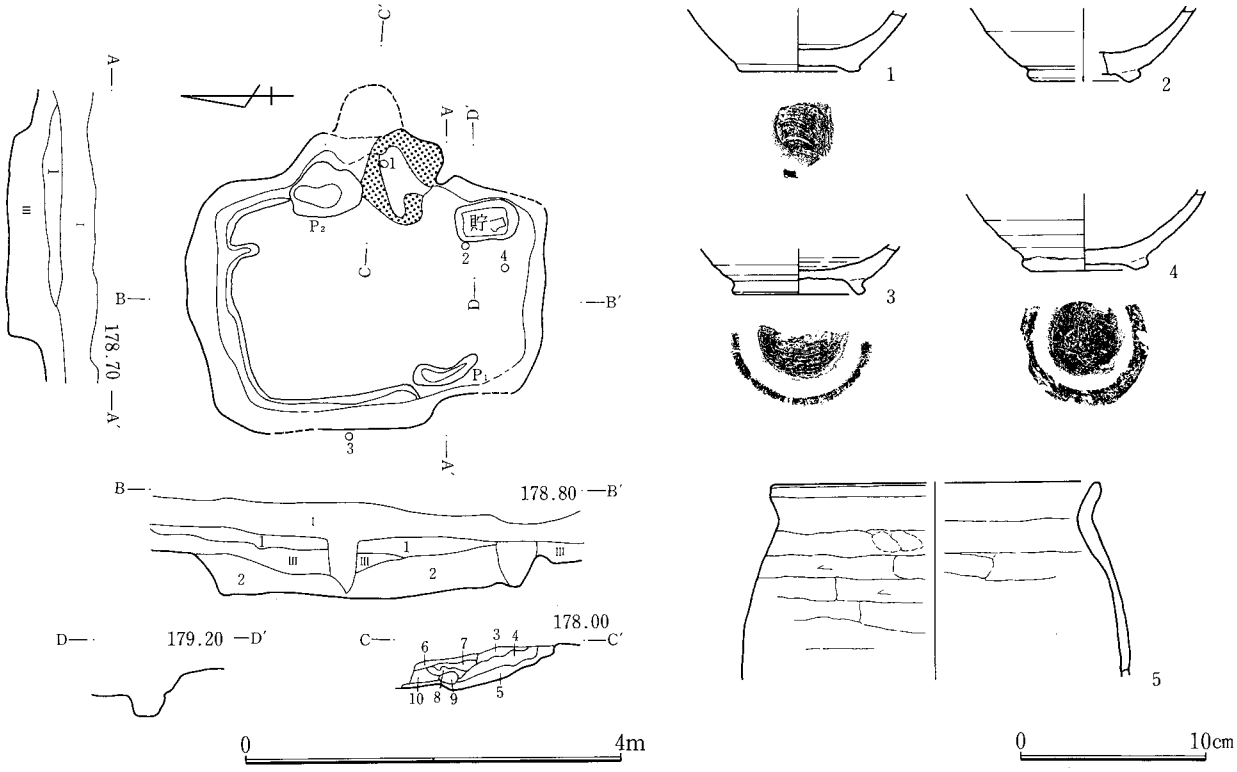
1．Ⅲ層に近い層。
2．Ⅲ層とローム塊と焼土混土。
3．ローム塊と焼土混土。
4．粘性のある栗色土層。
5．4層と焼土混土。
6．焼土を含む層。
7．4層と焼土混土。
8．焼土と黄褐色土混土。
9．白色・黄色の粘土（焼けている）。
10．4層に小さい焼土混土。
11．焼土ブロック層。
12．Ⅳ層と焼土混土。

図－61　H－41号住居跡平・断面図



図—62　H—41号住居跡出土遺物実測図

H42号住居跡　（図—63　表4—15　図版—24）



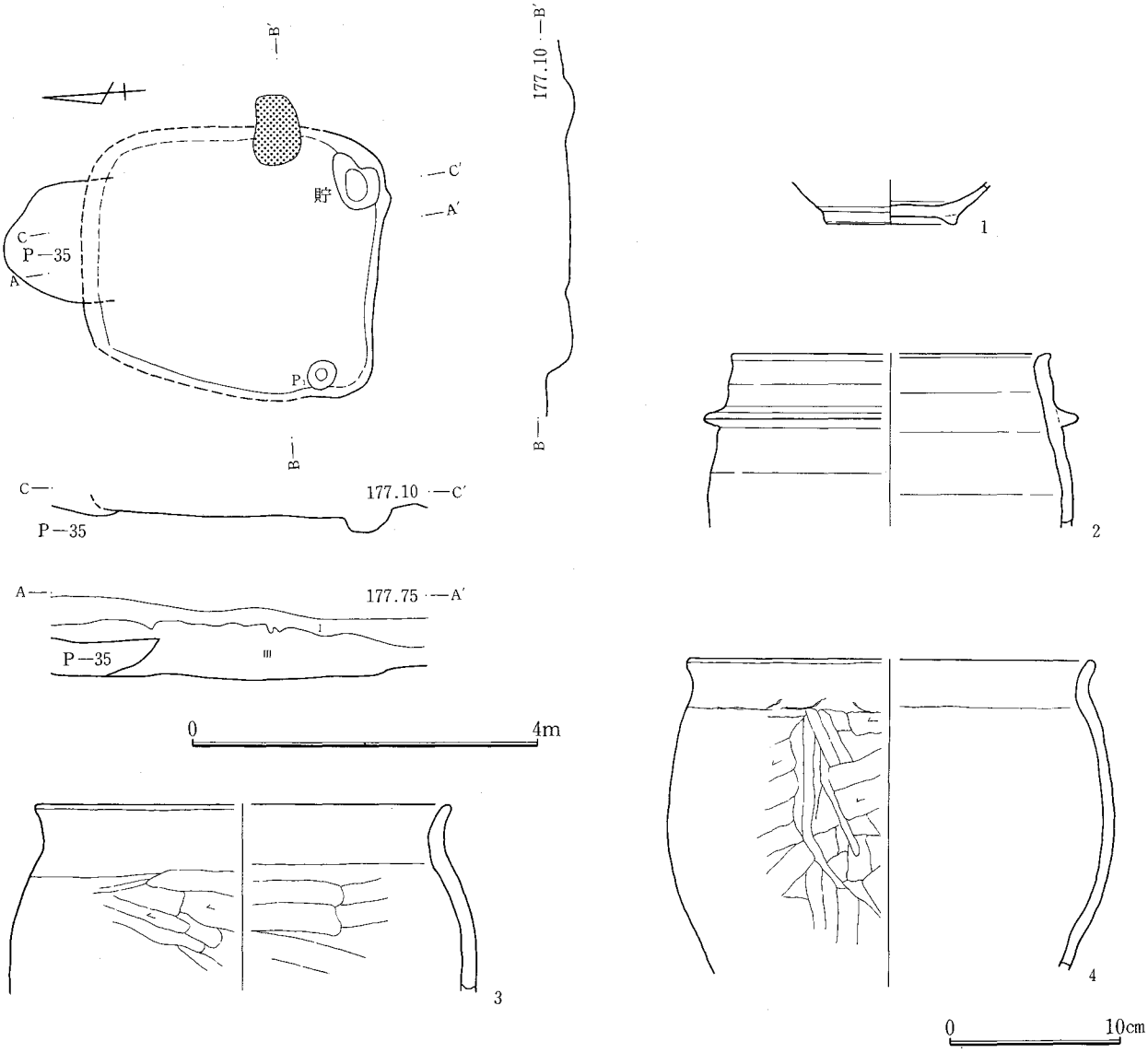
1．Ⅲ層に似る。細かい浮石を含む。
2．Ⅲ層と黄褐色土混土。
3．白色灰層と黒色土混土。
4．白色灰層と焼土少量混土。
5．白色灰層と焼土混土。
6．黒色土。
7．炭化物と黄褐色土の混土。
8．炭化物層。
9．黒色土と黄褐色土の混土。
10．黒色土層に浮石を含む。

図—63　H—42号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　台地南部のIV－6に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらみ、各隅角は隅丸。規模は東西が2.4mで、南北が3.2m。面積は7.38㎡。壁現高は28～54cm。周溝はカマド北側、北壁、西壁下より検出されている。巾2～18cmで、深さ3～7cmを測る。長軸方位はN－1°－E。　**カマド**　東壁中央。カマ掘りで東側及び中央部が削平されている。現状の全長125cmで、壁外掘り込み90cm、燃焼部はほぼ壁外となる。　**貯蔵穴**　南東隅。66×39×25cm。　**遺物**　埦、甕が出土。

H43号住居跡　（図－64　表4－15）

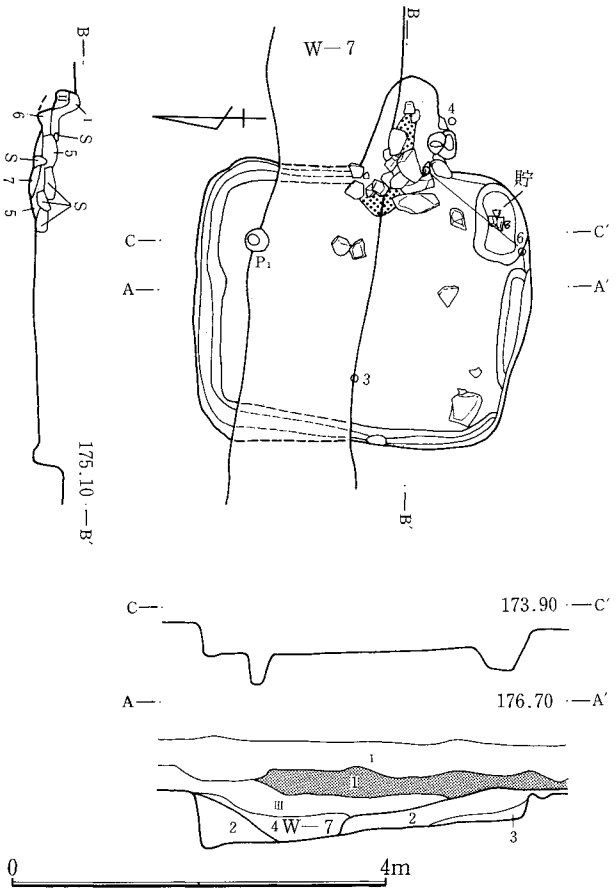
位置　台地南側のIII－24区に位置する。　**形状**　カクランで削平をうけているところが多いが、方形と考えられる。わずかにのこる南辺はやや内にはらむ。推定の東西は2.7m、南北は3.1mである。面積は8.28㎡。壁現高は14cmを測る。長軸方位はN－4°－W。　**ピット**　南西隅。P_1(32×30×10cm)。　**カマド**　東壁。削平をうけ、焼土範囲としてのこる。(80×48cm)　**貯蔵穴**　南東隅。円形で規模は70×45×16cm。　**重複関係**　北側でP－35と重複する。土層からみると住居廃絶後間もない時期のものか。　**遺物**　埦、羽釜、甕が出土。



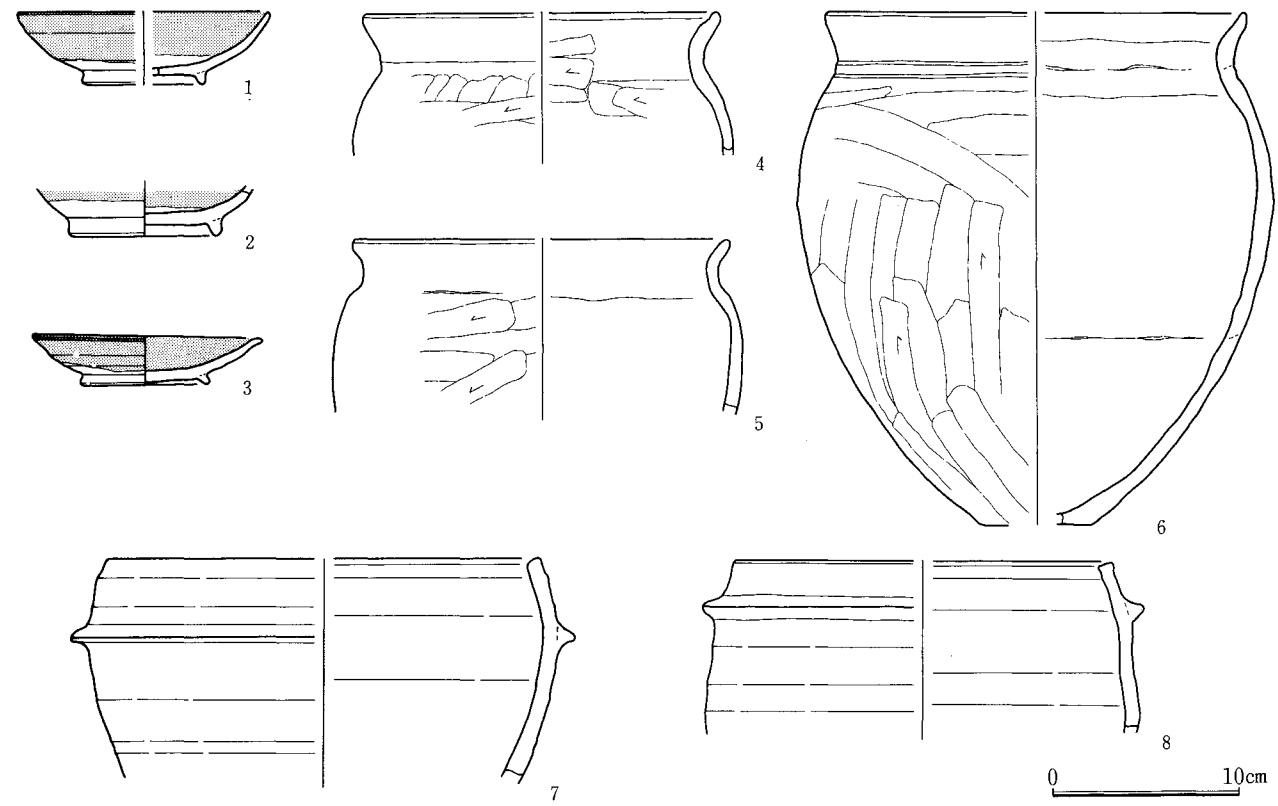
図－64　H－43号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H44号住居跡　（図—65・66　表4—15・16　図版—2・25）

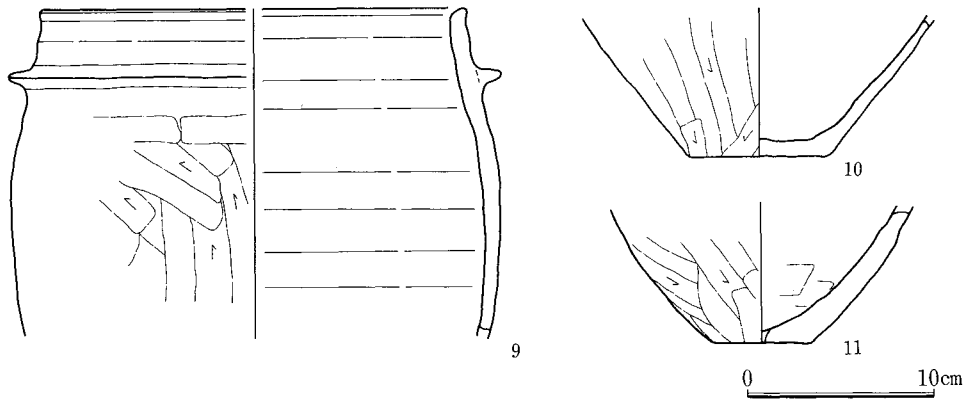
位置　台地南側のIII—8区に位置する。　**形状**　方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸。規模は東西2.8mで南北3.3m、面積は9.06m²。壁現高は22～58cmを測る。周溝は溝との重複部分を除き全周している。巾8～16cmで、深さ3～7cm。長軸方位はN—2°—W。　**ピット**　P_1(24×24×33cm)。北壁下。柱穴か。　**カマド**　東壁下。多量の石材がのこる。全長153cmで壁外掘り込み104cm、燃焼部長約40cm。袖部内幅37cm。石組みと思われる。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。87×52×25cm。　**重複関係**　住居跡北側でW—7と重複する。W—7は上層にB軽石層がみられる。W—7が新しい。　**遺物**　埦、皿、甕、羽釜が出土。



1．B軽石層。
2．III層とローム混土。
3．褐色土層。
4．III層に似る。褐色土混土。(W—7埋土)。
5．III層と焼土の混土。
6．5層に似る。灰質。
7．ロームとV層とIII層が混土。



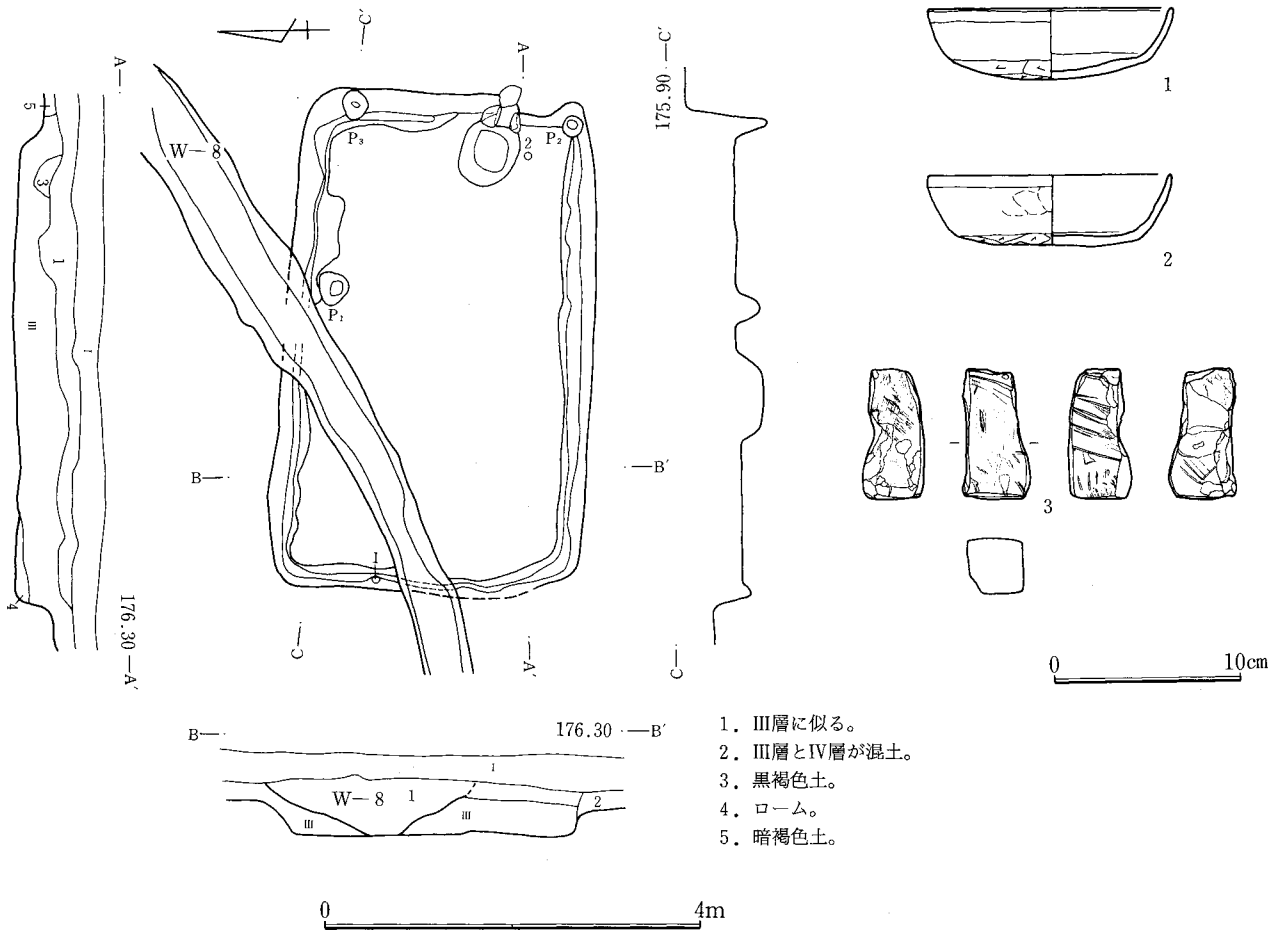
図—65　H—44号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—66　H—44号住居跡出土遺物実測図(2)

H45号住居跡　(図—67　表4—16　図版—25)

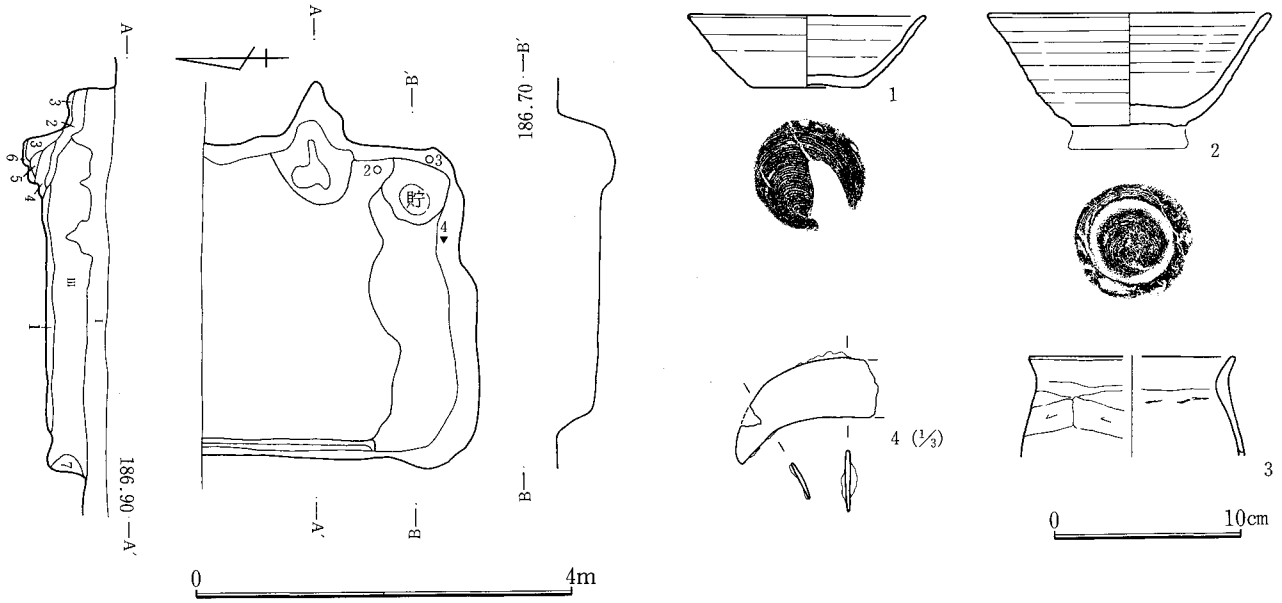
位置　台地南部のIII—8区に位置する。住居跡の集中区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。各辺は直で、隅角は隅丸に近い。規模は東西5.0mで南北3.0m、面積は14.47m²。壁現高は24～54cmを測る。周溝は溝との重複部を除くほぼ全周より検出されている。巾0～16cmで、深さ10～19cm。長軸方位はN—80°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1は北壁下。35×31×24cm。P_2は南東隅。20×20×25cm。P_3は北東隅。30×25×35cm。いずれも柱穴か。　**カマド**　東壁。袖石2石と他一石のみのこる。煙道は削平で不明。現全長115cm。袖部内幅14cm。　**重複関係**　W—8と重複。H—45が旧い。　**遺物**　坏、砥石が出土。



図—67　H—45号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H46号住居跡　（図—68　表4—16　図版—26）

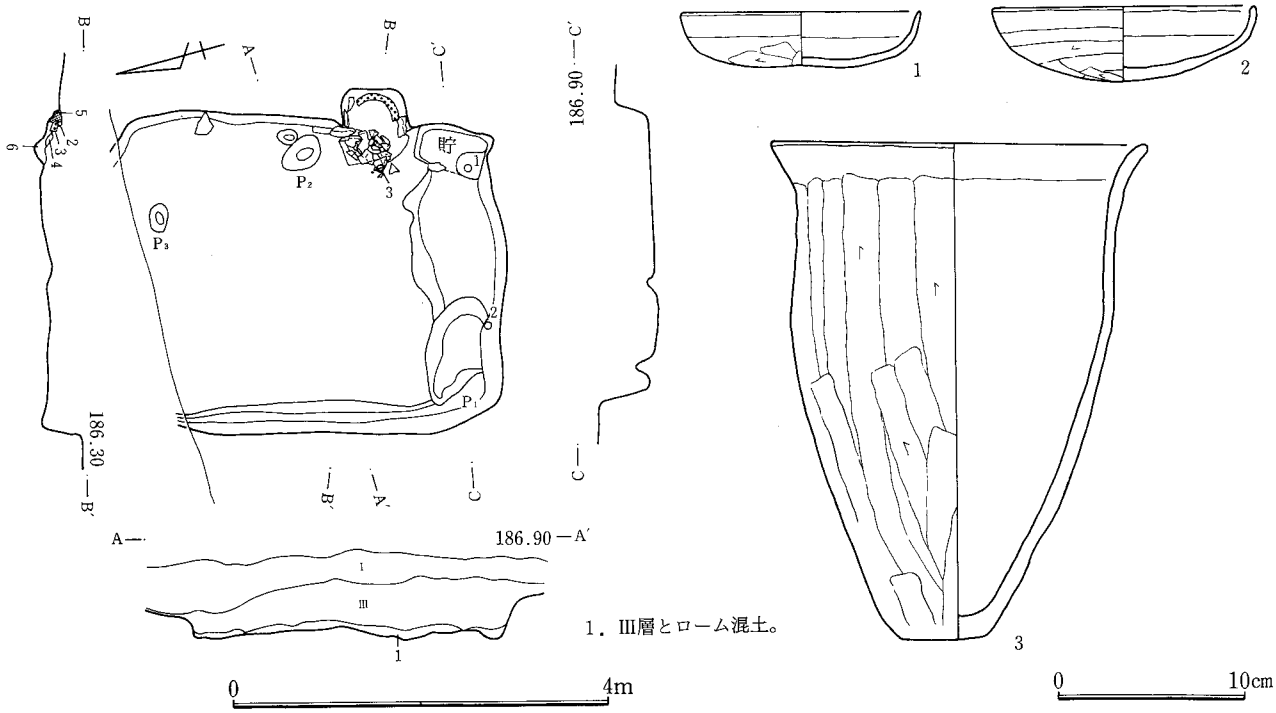
位置　台地中央部のII—5区に位置する。住居跡集中区に位置する。　**形状**　北側を削平されているが、方形と考えられる。西壁は直であるが、南壁は湾曲する。規模は東西が3.1mで南北が現状で2.6m、面積は8.12㎡である。壁現高46cmを測る。周溝は西～南壁下に検出、南は広い。巾9～86cmで深さ2～65cm。長軸方位はN—88°—E。　**カマド**　東壁。全長125cmで壁外掘りこみ74cm。煙道へは急な立ちあがり。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。66×65×53cm。　**遺物**　坏、埦、甕、鎌が出土。



1．III層とローム（一部に焼土）が混土。
2．III層に近い。
3．黒色土に焼土が多く混土。
4．黒色土に焼土少し混土。
5．3層に焼土が混土。
6．ローム。

図—68　H—46号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H47号住居跡　（図—69　表4—16　図版—2・26）



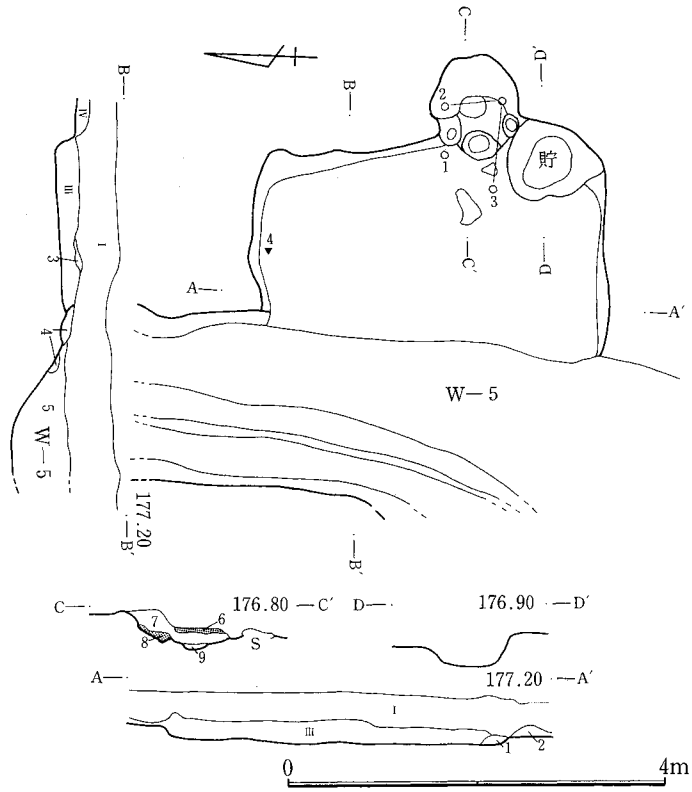
1．III層とローム混土。

図—69　H—47号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

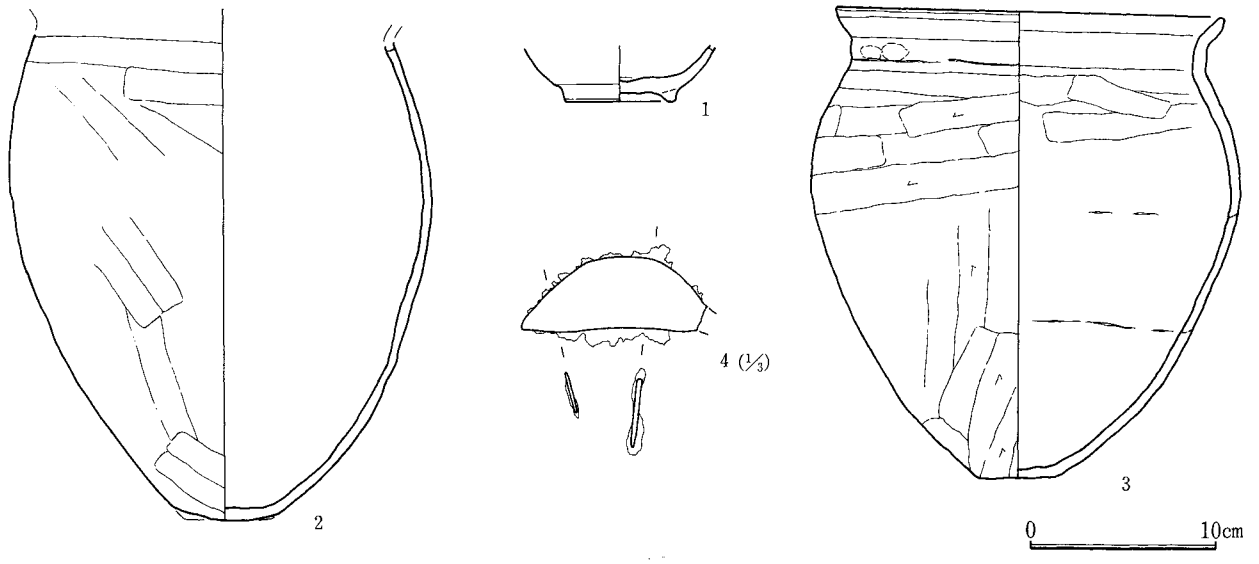
位置　台地中央部のII—23区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、隅角も直に近い。北西端は削平されている。規模は東西3.1mで、南北3.9m。面積は11.09㎡。壁現高は23～64cmを測る。周溝は西壁下～南壁下で検出される。巾10～72cmで、深さ7～22cm。南側が広い。長軸方位はN—16°—W。　**ピット**　P_1～P_3。P_1（120×56×26cm）、P_2（44×31×13cm）、P_3（31×19×18cm）。P_2、P_3は柱穴とも思われるが不明。　**カマド**　東壁南。上半は削平されている。石材がのこる。袖石及び燃焼部に残る。全長78cmで壁外掘り込み40cm、燃焼部長30cm、袖部内幅52cm。煙道へは急な立ちあがりとなる。　**貯蔵穴**　南東隅。長方形。77×50×20cm。　**遺物**　坏、甕が出土。

H48号住居跡　（図—70　表4—16・17　図版—27）

位置　台地南部のIV—7に位置する。台地南の住居跡集中区である。　**形状**　西側が溝によって削平されているが、方形と推定される。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸に近い。規模は東西が現状で2.0m、南北が3.6m、面積は現状で7.23㎡。壁現高18～35cm、主軸方位N—1°—E。　**カマド**　東壁南側。上半は削平をうけている。石材が若干のこる。全長74cmで壁外掘り込み60cm、ほぼ壁外に造られている。燃焼部長40cm、袖部内幅44cm。煙道へは急な立ちあがりとなる。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。88×90×27cm。　**重複関係**　W—5と重複。W—5が新しい。W—5によりH—48西半が失なわれている。W—5は番城に係わるものか。　**遺物**　埦、甕、鉄製品が出土。

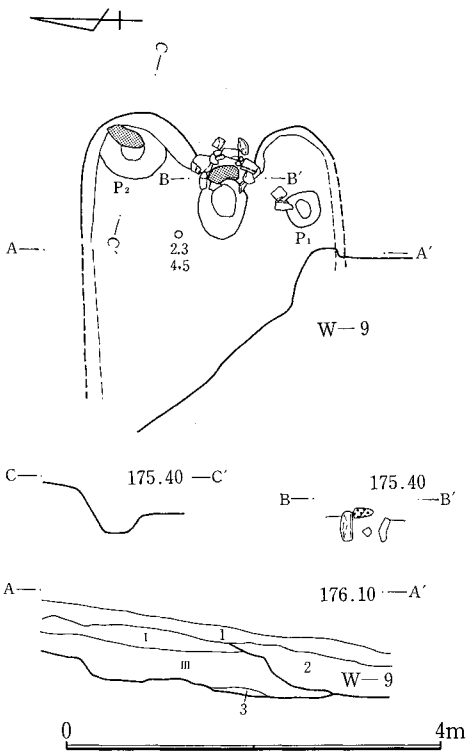


1．ローム。
2．砂質の黒色土。
3．黄褐色土。
4．ローム。
5．砂質の灰褐色土。
6．白色粘土。
7．焼土と黒色土と白色粘土が混土。
8．焼土ブロック。
9．ロームと焼土の混土。



図—70　H—48号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

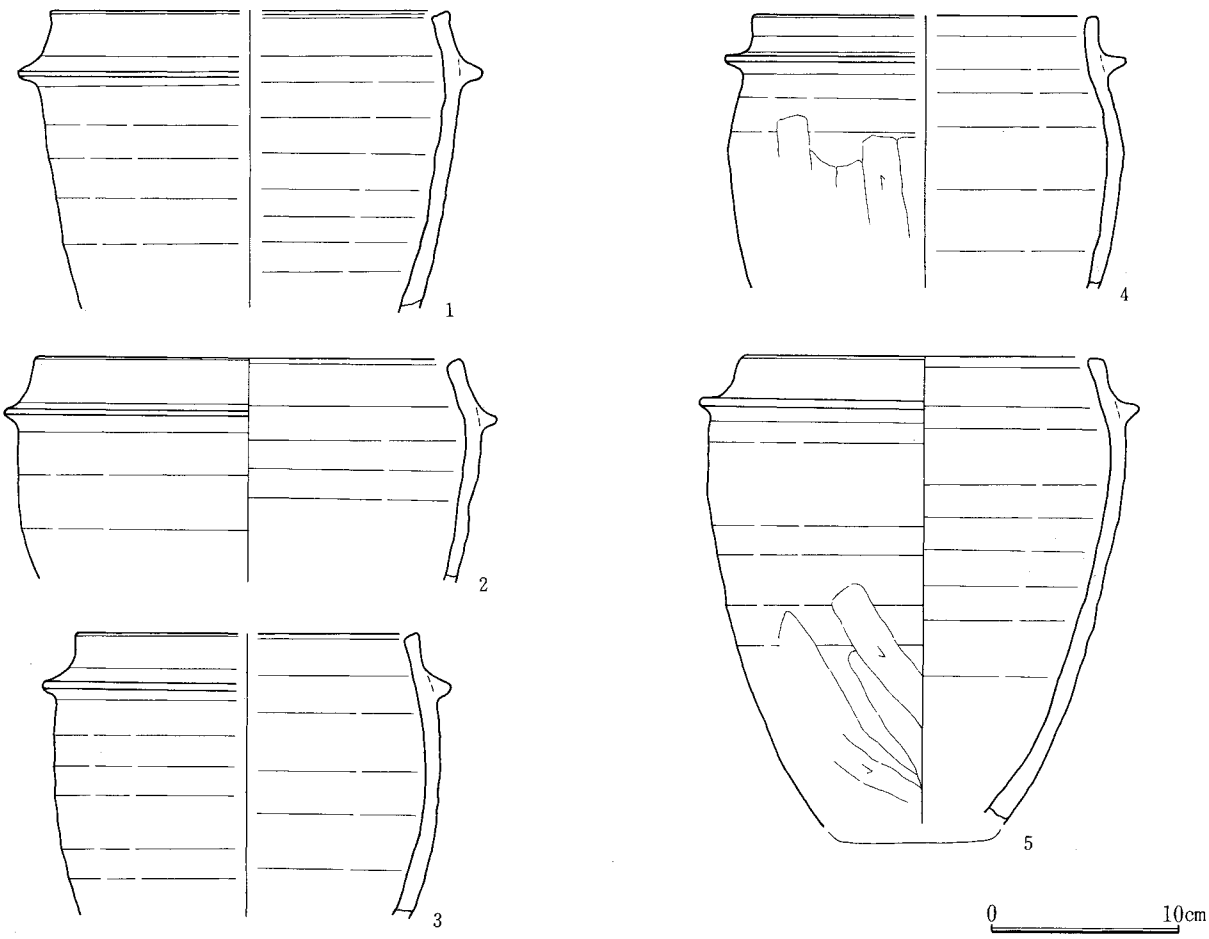
H49号住居跡　（図—71・72　表4—17　図版—2・27）



1．Ⅰ層とローム混土。
2．Ⅰ層にローム。
3．暗褐色土と焼土混土。

図—71　H—49号住居跡平・断面図

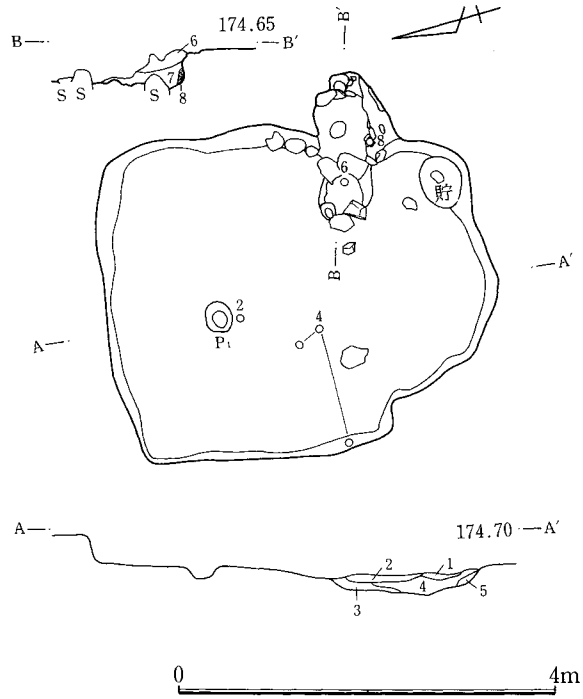
位置　調査区南端のIII—43区に位置する。　**形状**　西半は削平されており、また、南半は番城の堀と重複しており、不明の点が多い。現状で東側の隅角は隅丸に近く、長方形と推定される。規模は南北が推定2.6mで、東西が現状で2.2m、面積は5.52m²を測る。壁現高は6～22cmを測る。長軸方位はN—2°—E。　**ピット**　北東隅にP_2（72×58×13cm）と、南東隅にP_1（38×35×—cm）がある。　**カマド**　東壁中央。石材10石がのこる。他に付近に石材がのこる。袖石周辺は良くのこっているが、煙道などの上部は失なわれていて、不明の点がある。燃焼部分長34cm、袖部内幅34cm、手前にくぼみをもつ。65×50×13cm。　**貯蔵穴**　P_2か。　**重複関係**　W—9。番城の堀。W—9が新しい。J大P—2。　**遺物**　羽釜が出土。



図—72　H—49号住居跡出土遺物実測図

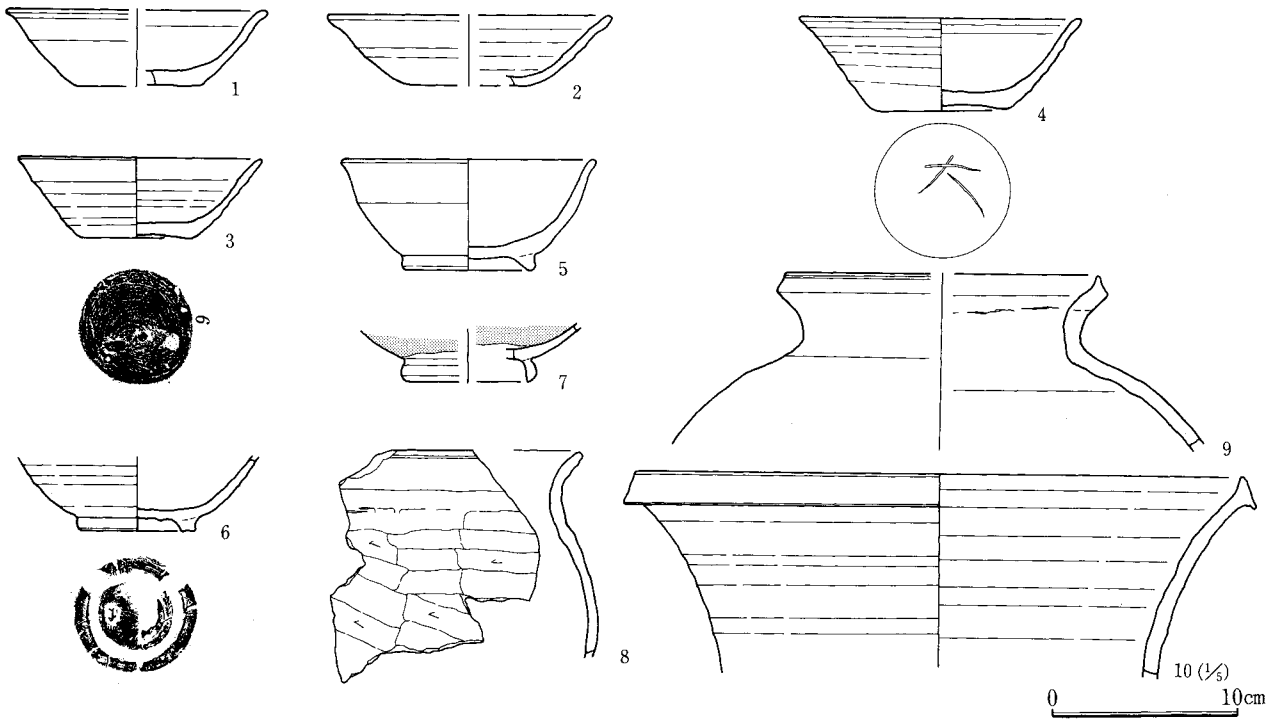
H50号住居跡　(図—73・74　表4—17　図版—28)

位置　台地南部のIII—27区に位置する。台地南部の住居跡集中区にあたる。　**形状**　方形の南側に半円形の張り出しが付いたような形状。方形部の各辺はやや外にはらむ。隅角は東側が隅丸で、他は直に近い。規模は東西3.2mで南北4.0m、面積は10.99㎡。壁現高は22～31cmを測る。長軸方位はN—10°—W。　**ピット**　中央部やや北にP_1。34×28×20cm。柱穴か。　**カマド**　東壁南。多量の石材がのこる。燃焼部及び袖部にも石をもつ。全長158cm、壁外掘り込み73cm、燃焼部長64cm。燃焼部はほぼ壁外。袖部内幅48cm。燃焼部は床面－7cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。56×43×28cm。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。



1．灰層。
2．灰とロームと黒色土混土。
3．褐色土とローム混土。
4．暗褐色土とロームと黒色土混土。
5．褐色土とローム混土。
6．黄褐色土。
7．暗褐色土と焼土の混土。
8．焼土。

図—73　H—50号住居跡平・断面図



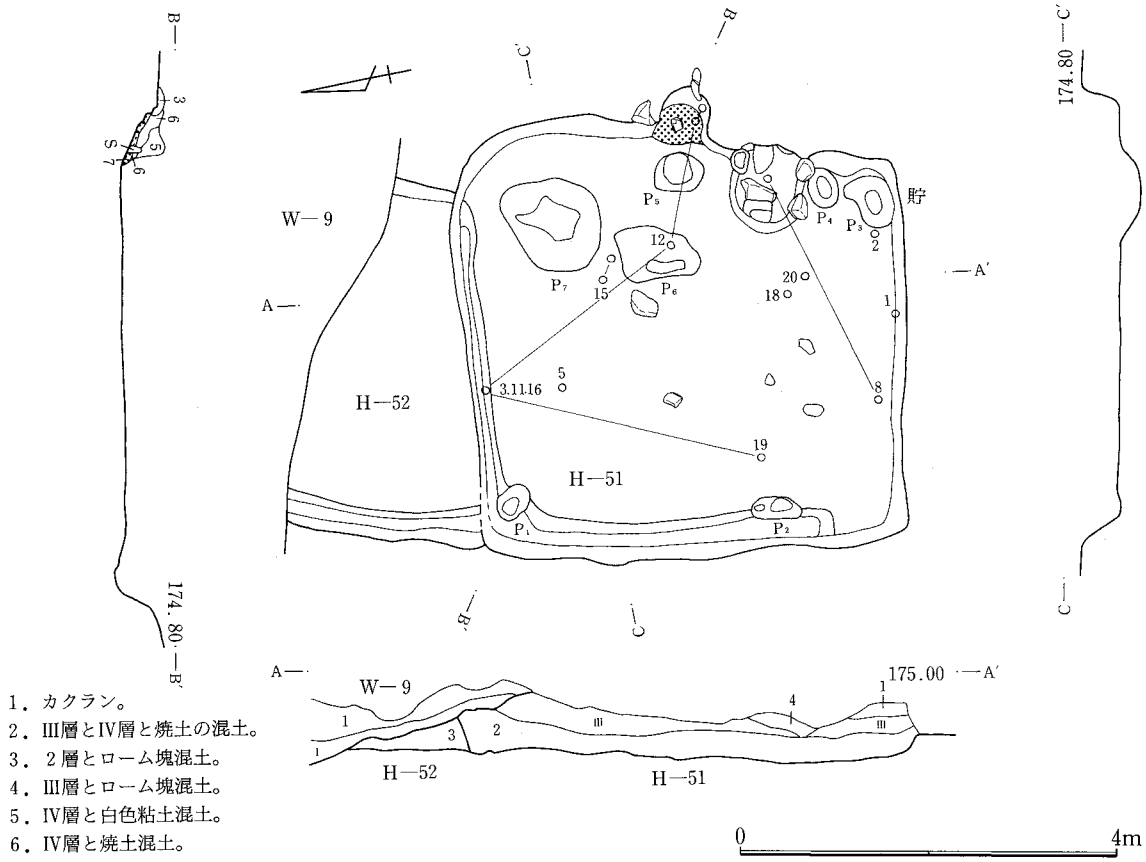
図—74　H—50号住居跡出土遺物実測図

H51・52号住居跡　(図—75・76・77　表4—18　図版—2・28)

〔H51〕　**位置**　台地南部のIII—27区に位置する。北側でH—52と重複している。　**形状**　方形。各辺はほぼ直で、隅角で北東が隅丸で、他は直に近い。規模は東西4.3mで、南北4.6m、面積は18.31㎡。壁現高は40～44cmを測る。周溝は北～西壁下で検出された。巾5～24cmで深さ8cm。長軸方位はN－9°—W。　**ピット**　床面P_1～P_7、P_1、P_2は柱穴か。P_5はカマド関連のもの。　**カマド**　東壁北側。支石及び燃焼部に石材がのこる。他に白色粘土を使用。全長64cmで壁外掘り込み50cm、燃焼部長40cm、袖部内幅50cm。住居規模にくらべて小さめのカマド。カマドの南側に壁の石列がある。

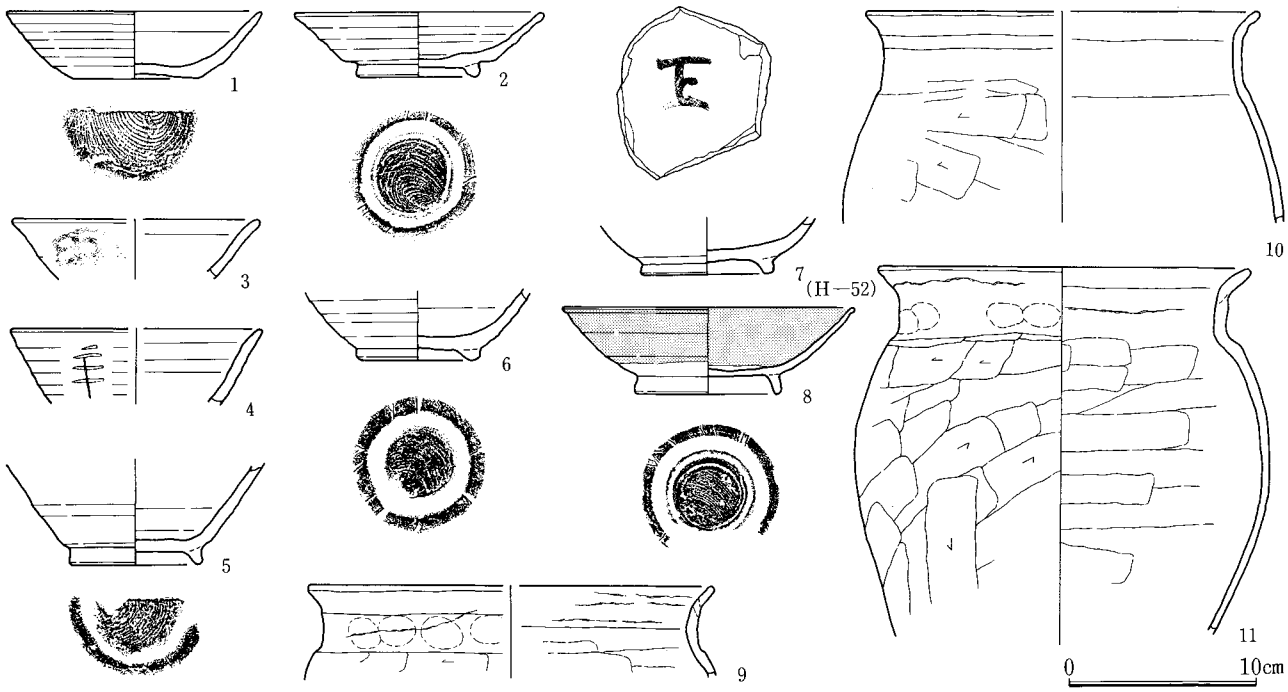
手前にくぼみもあり、カマド跡とも考えられる。現状で全長96cm、左右の石を袖石ののこりと考えると袖部内幅50cm。手前に石材がのこる。　**重複関係**　北側でH—52と重複。H—51が新しい。　**遺物**　坏、皿、埦、甕が出土。

〔H52〕　**位置**　台地南部のIII—27区に位置する。H—51と重複。北側をW—9が重複し、北半を削平されている。壁は西壁と東壁の一部がのこる。　**形状**　現状から推定すると方形か。西壁はややはらむ。南西隅は隅丸。規模は東西3.5mで南北2.0m(現状)。現状の面積は5.15m²。周溝は西壁下で検出され、巾10～17cm。長軸方位はN—78°—E。　**カマド**　不明。削平されたものか。　**遺物**　埦が出土。

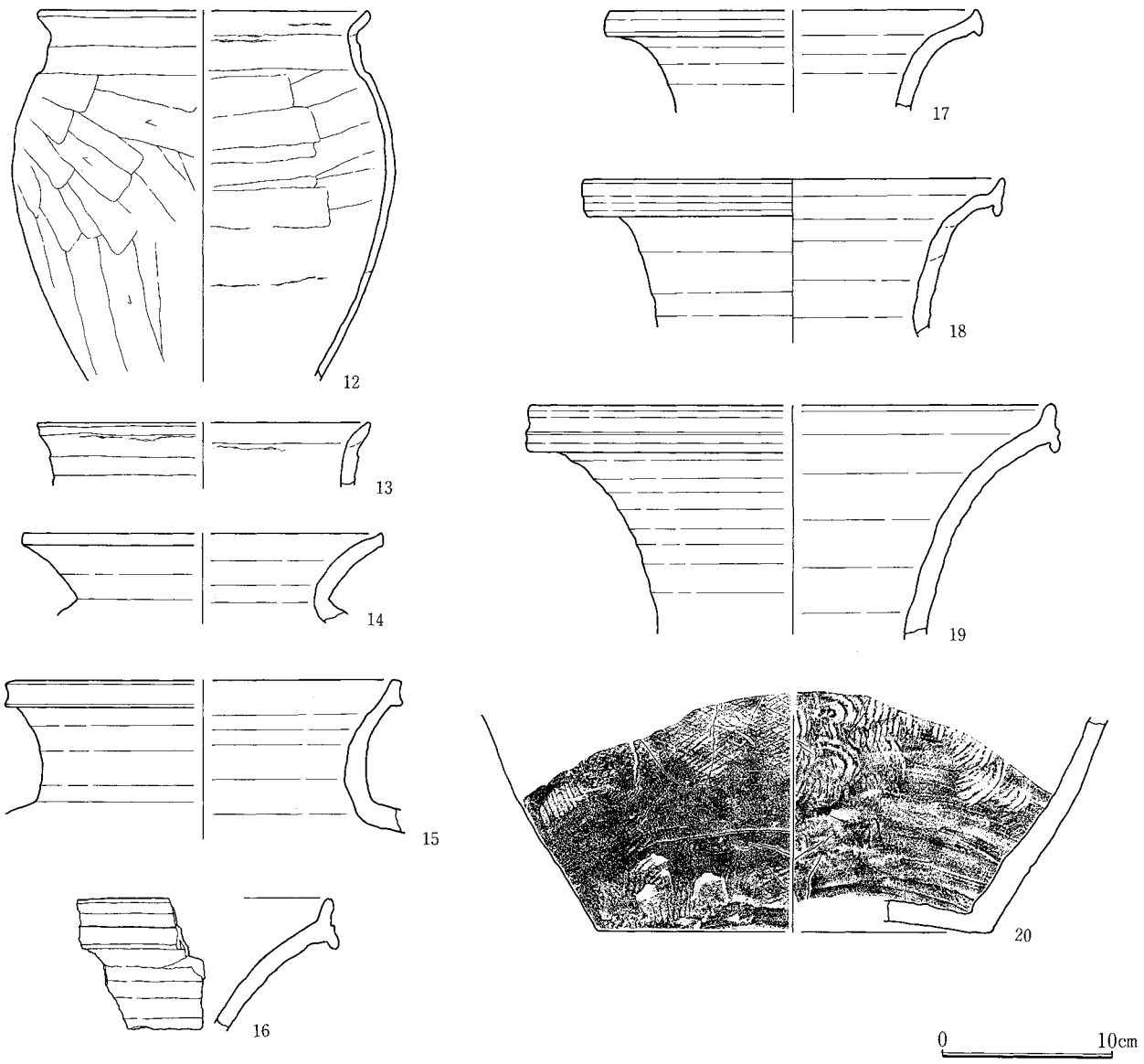


1．カクラン。
2．III層とIV層と焼土の混土。
3．2層とローム塊混土。
4．III層とローム塊混土。
5．IV層と白色粘土混土。
6．IV層と焼土混土。
7．焼土。

図—75　H—51・52号住居跡平・断面図



図—76　H—51号住居跡出土遺物実測図(1)、H—52号住居跡出土遺物実測図



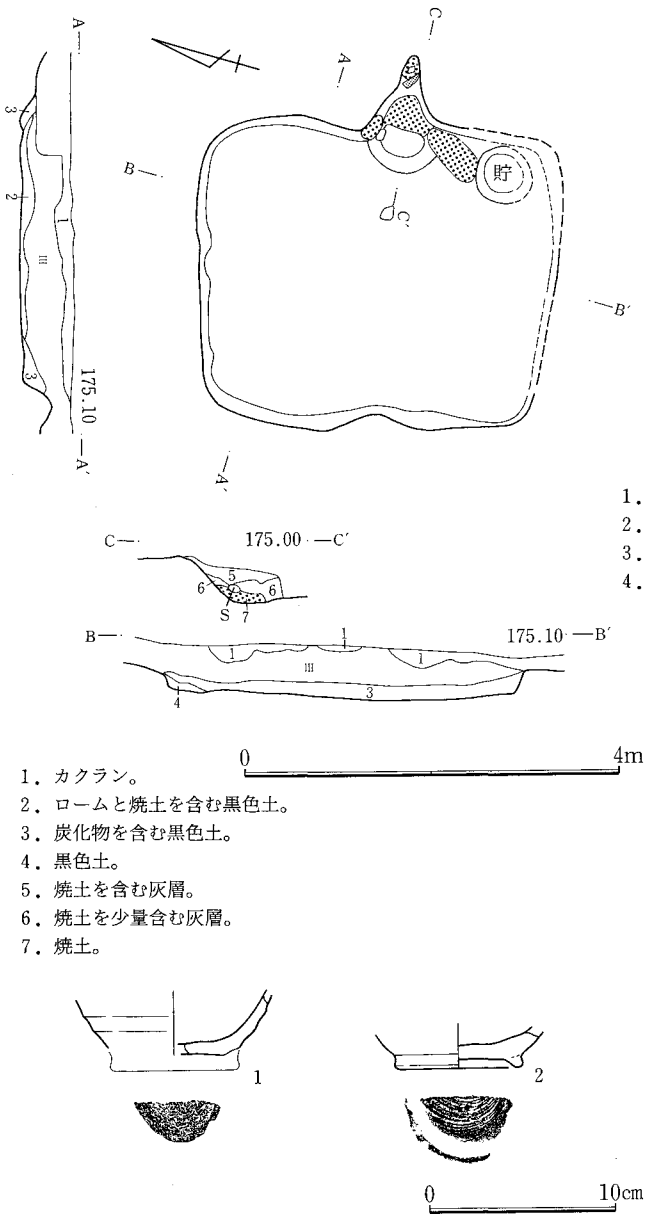
図—77　H—51号住居跡出土遺物実測図(2)

H53号住居跡　(図—78　表4—19　図版—29)

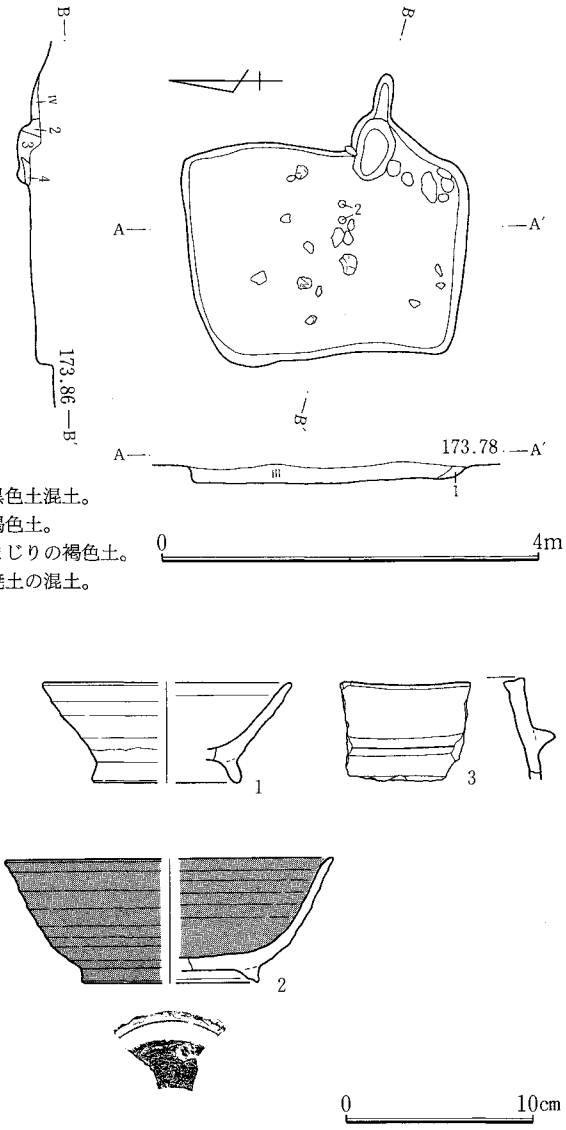
位置　台地南のIII—27区に位置する。　**形状**　やや変形はあるものの方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸。規模は東西3.0mで南北3.6m、面積は10.50m²。壁現高は21～26cm。長軸方位はN—11°—E。　**カマド**　東壁中央。若干の石材がのこる。全長126cmで壁外掘り込み70cm、燃焼部長38cm、袖部内幅40cm。煙道へはやや急な立ちあがり。燃焼部は床面－3cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。60×60×15cm。　**遺物**　埦が出土。

H54号住居跡　(図—79　表4—19　図版—29)

位置　台地南のIII—10区に位置する。　**形状**　北東隅方向にのびる長方形。西辺は内へはらむ、南辺はほぼ直、北辺と東辺はやや外にはらむ。北東隅と南西隅は直に近く、他は隅丸。規模は東西が2.1mで南北が2.8m、面積は5.68m²である。壁現高は14～18cm。長軸方位はN－0°。　**カマド**　東壁南。床面に石材多く、カマドに使われたものか。全長113cmで、壁外掘り込み86cm。壁への掘り込みはゆるやかである。燃焼部は床面－13cm。　**遺物**　埦、緑釉埦が出土。



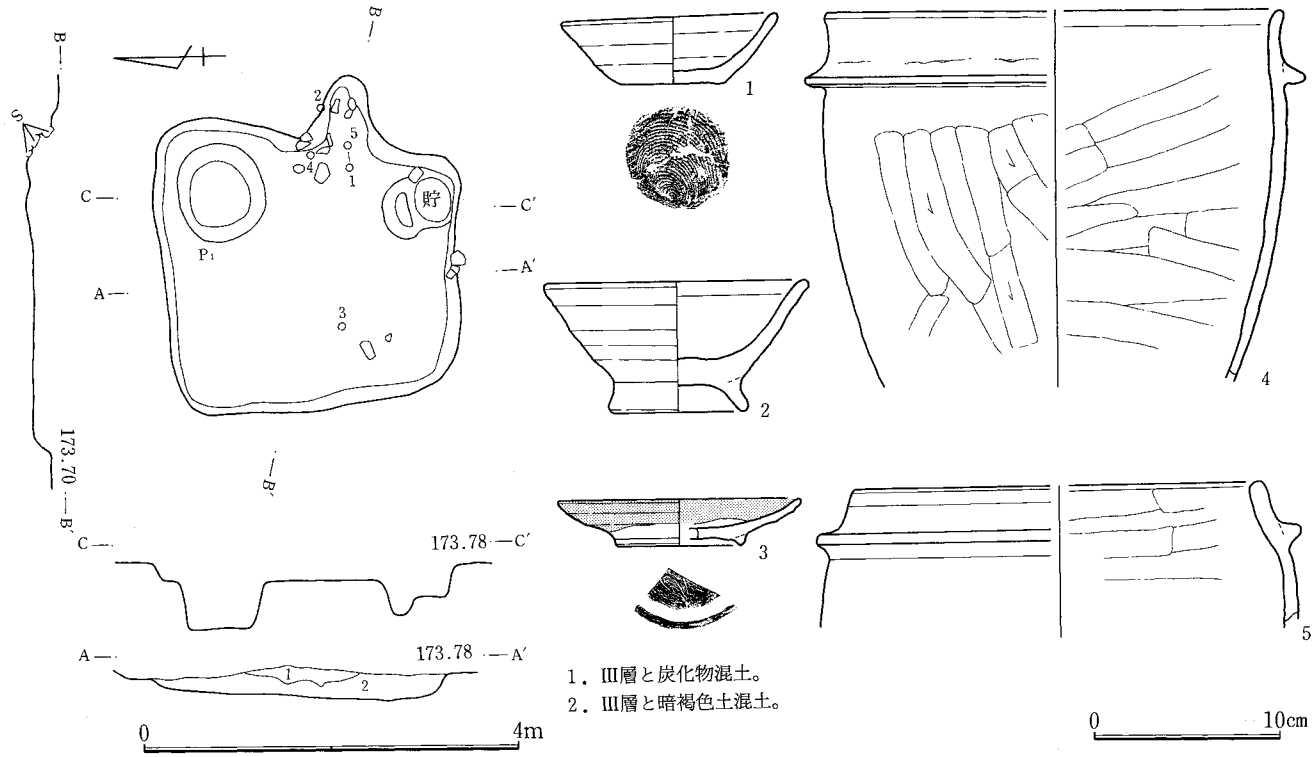
図—78　H—53号住居跡平・断面図、出土遺物実測図



図—79　H—54号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H55号住居跡　（図—80　表4—19　図版—30）

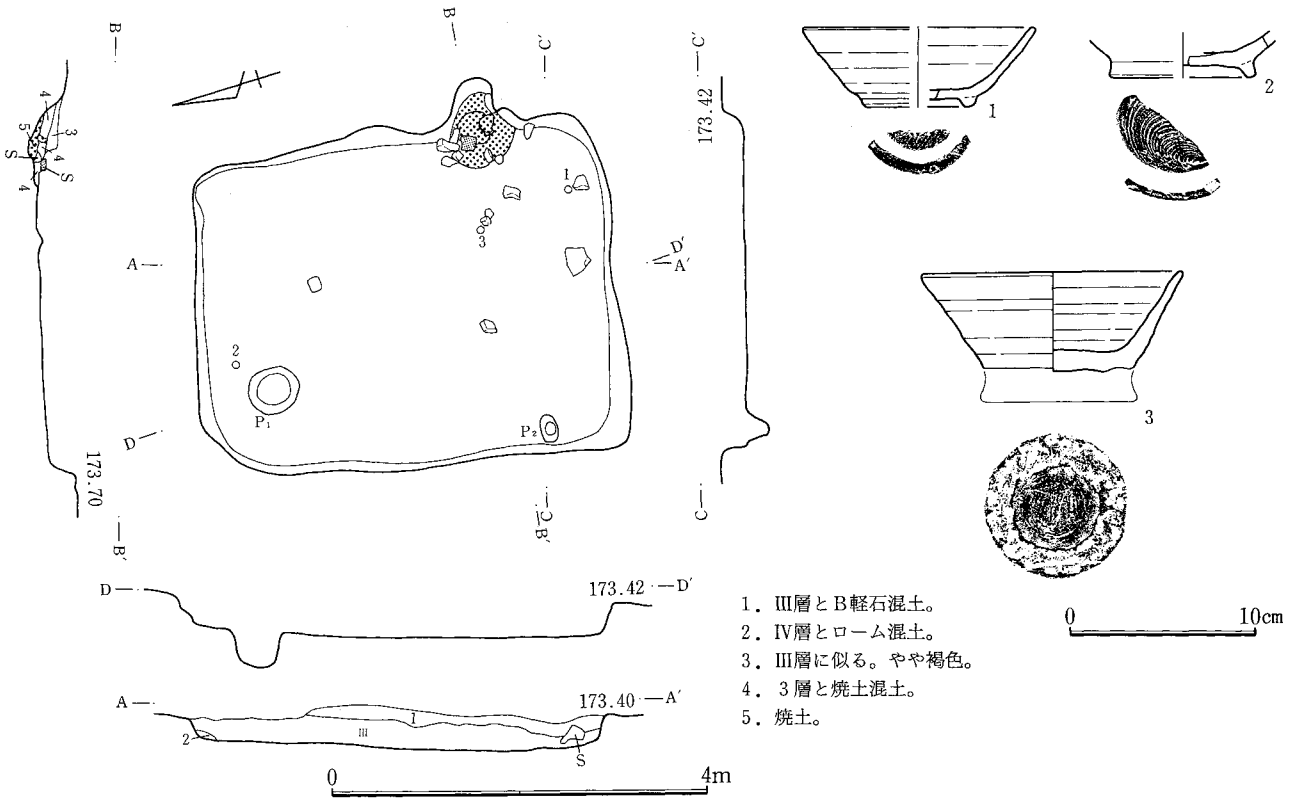
位置　台地南端のIII—28区に位置する。　**形状**　北側がひろがる台形。各辺はやや外にはらむ。各隅は隅丸。規模は東西2.6mで南北2.9m、面積は7.74m²。壁現高は12～24cmを測る。長軸方位はN—0°。　**ピット**　北東隅。102×87×51cm。住居内施設か、床下土坑の可能性がある。　**カマド**　東壁。石材がのこる。全長156cmで壁外掘り込み140cm、壁への掘り込み角度はやや急。燃焼部は床面と同じレベル。　**貯蔵穴**　南東隅。円形で140×116×14cm。　**遺物**　坏、埦、皿、羽釜が出土。



図—80　H—55号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H56号住居跡　(図—81　表4—19　図版—30)

位置　台地南のⅢ—10区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅は隅丸。　**規模**　東西3.4mで、南北は4.0mである。面積は13.81m²。壁現高は24～38cmを測る。長軸方位はN—11°—E。　**ピット**　P_1とP_2。P_1は北東隅。55×50×39cm。P_2は南西隅。29×17×24cm。柱穴とも思われるが不明。　**カマド**　東壁南。石材がのこる。全長92cmで壁外掘り込み50cm、燃焼部分長35cm。燃焼部は壁線上に位置する。煙道へはゆるやかな掘り込みとなる。燃

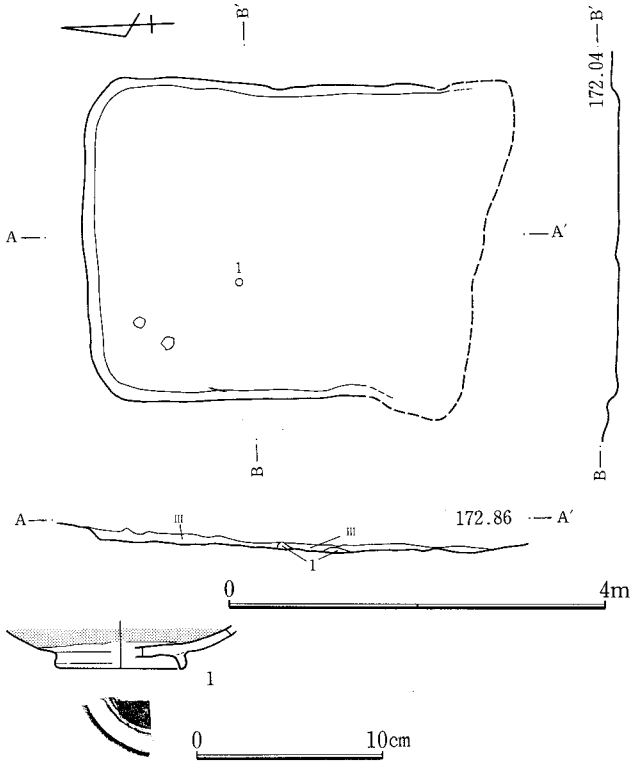


図—81　H—56号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

焼部は床面－11cm。　**遺物**　塊が出土。

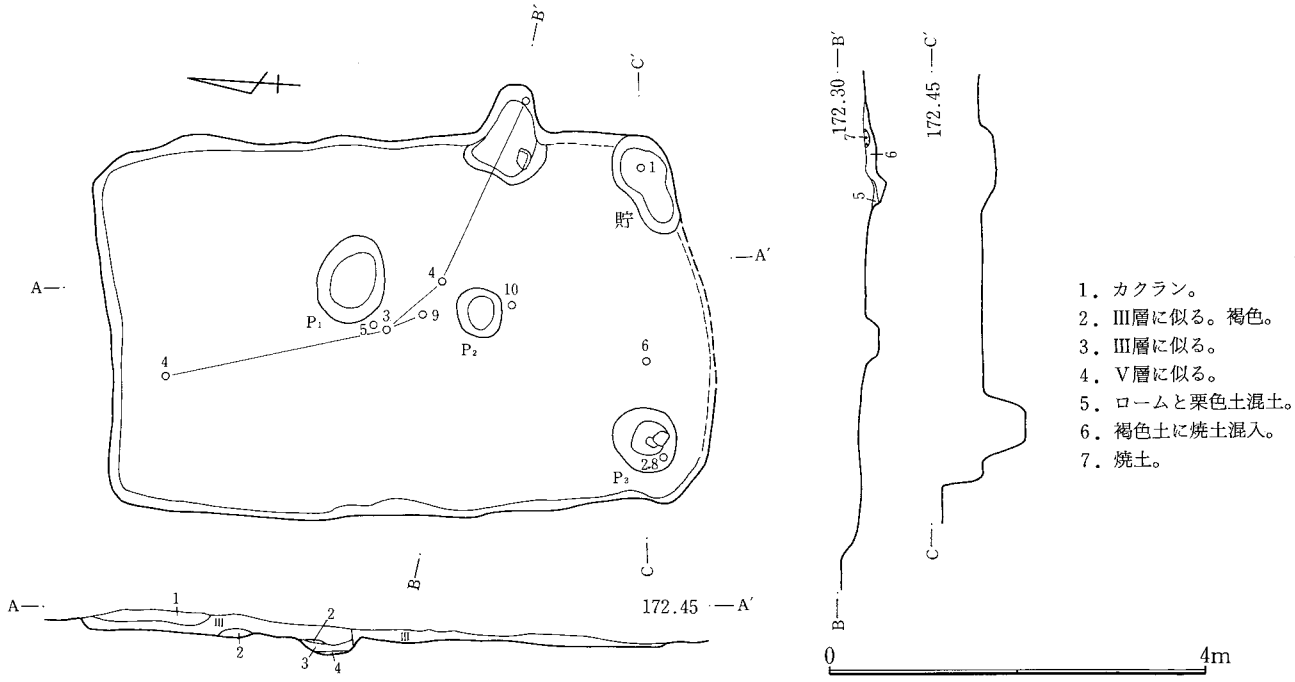
H57号住居跡　（図—82　表4—19　図版—31）

位置　調査南端のIII—11区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。南端は削平されて、明らかではない。　**規模**　東西3.1mで、南北4.0mを測る。面積は12.78㎡、長軸方位はN－4°—Wを測る。周溝・カマドについては不明。ピットは検出されなかった。住居の上面が削平をうけたため残存状態は不良である。壁現高は0～12cmを測る。　**遺物**　灰釉皿が出土。



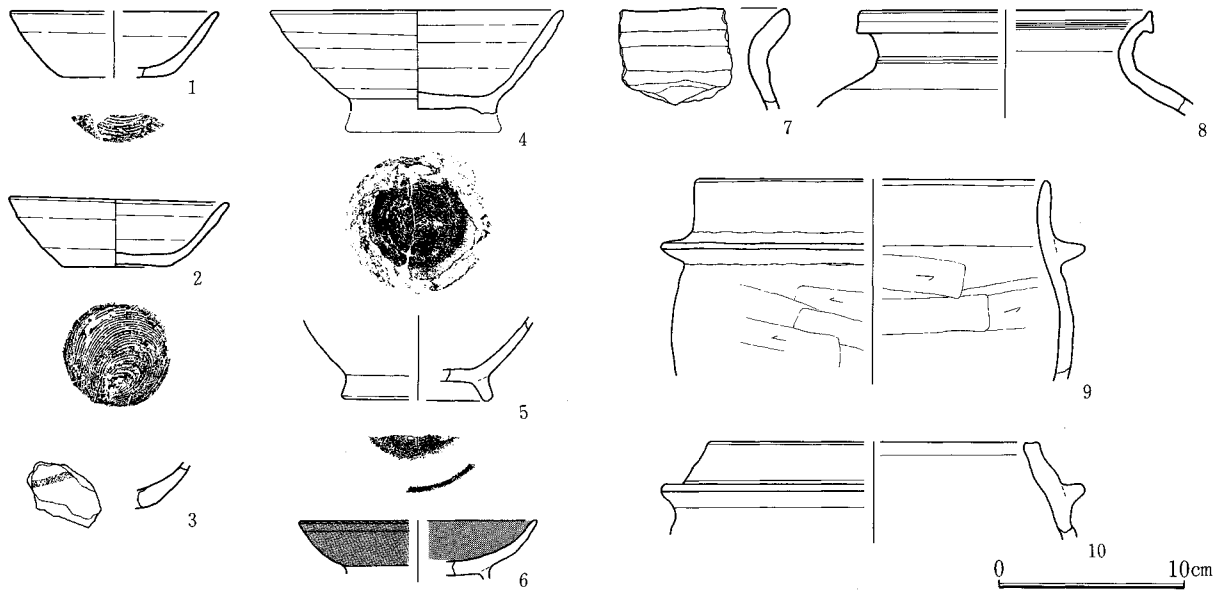
図—82　H—57号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H58号住居跡　（図—83・84　表4—20　図版—2・31）



図—83　H—58号住居跡平・断面図

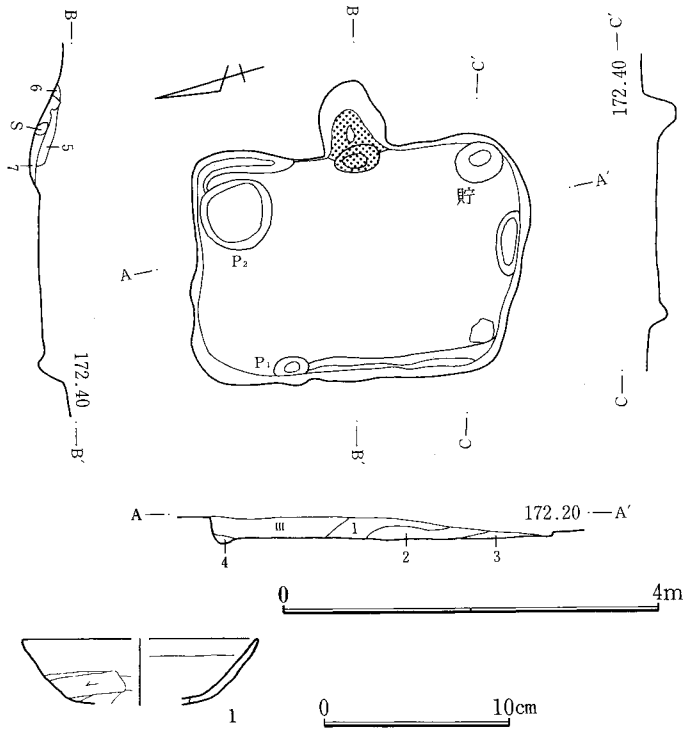
位置　台地南部のIII—11区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。東辺、西辺はほぼ直であるが、北辺はやや内にそり、南辺はやや外になる。隅角は北側が直に近く、南西隅は隅丸。規模は東西が3.7mで南北6.2m、面積は22.82㎡。壁現高は5～22cmを測る。長軸方位はN－4°－E。　**ピット**　床面3ヵ所。P_1、P_2は中央部。P_1（94×73×19cm）、P_2（55×48×15cm）、P_3は南西隅で53×66×52cm。　**カマド**　東壁南。一石のこる。全長100cmで壁外掘り込み50cm。袖部内幅80cm。壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面－11cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。　**遺物**　坏、埦、緑釉、皿、甕、羽釜が出土。



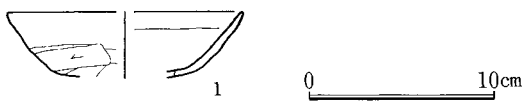
図—84　H—58号住居跡出土遺物実測図

H59号住居跡　（図—85　表4—20　図版—32）

位置　遺跡南端のIII—30区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、東側にややひらく。規模は東西2.2mで南北3.3m。面積7.56㎡。壁高は20～25cmを測る。周溝は北東隅、西壁下南3分の2、南壁下中央で検出されている。巾3～9cmで、深さ7～8cm。主軸方位はN—12°—W。　**ピット**　P_2（76×76×—cm）浅く平ら。鉄片検出。P_1（35×34×—cm）。　**カマド**　東壁中央。中央に支石一石がのこる。全長97cmで壁外掘り込み70cm。袖部内幅65cm。壁への掘り込み角度はゆるやか。燃焼部は床面－10cm。**貯蔵穴**　南東隅。円形。51×37×20cm。　**遺物**　坏が出土。



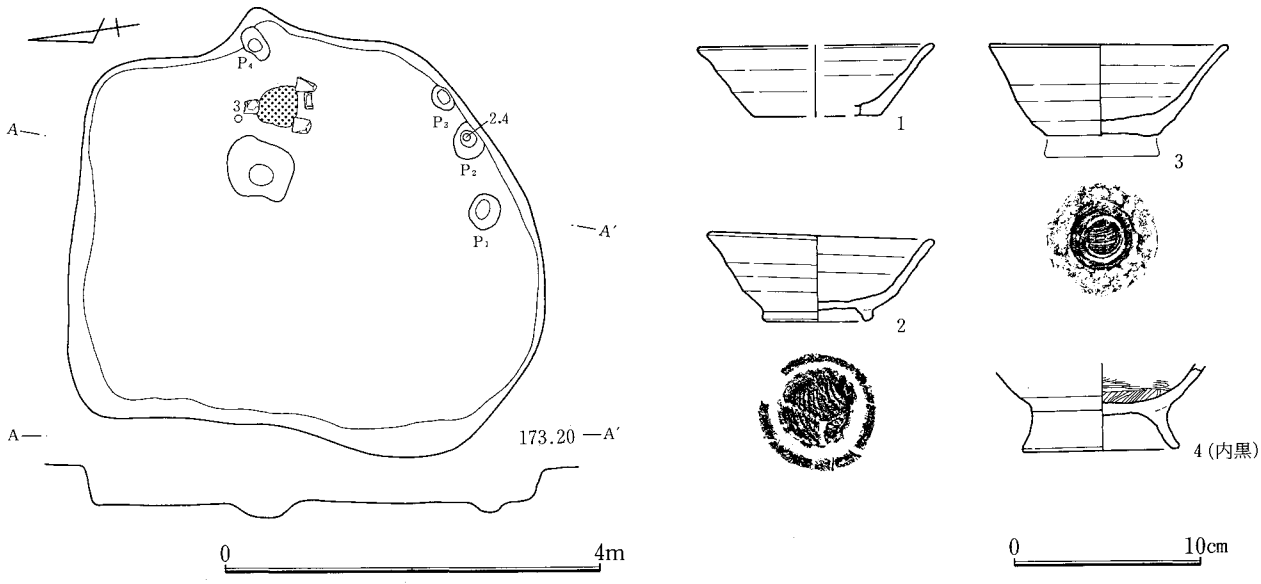
1．茶褐色土。
2．黒色土にローム塊混入。
3．黄色土。
4．黄色土。
5．黒色土。
6．黄褐色土と焼土混土。
7．焼土塊を含む灰層。



図—85　H—59号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H60号住居跡　(図—86　表4—20　図版—32)

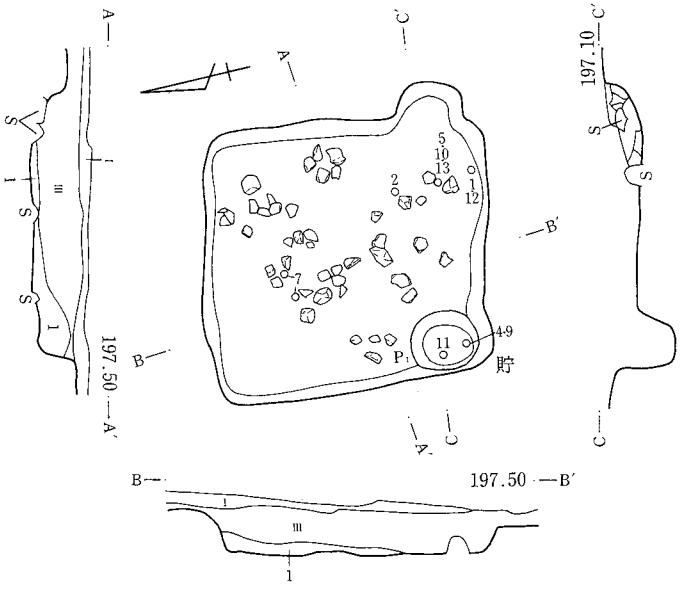
位置　調査区南端のIII—47区に位置する。　**形状**　南側が西に丸くはらむ不整方形。北・西・東はやや外にはらむ。北側の隅角は隅丸であるが、南側ははっきりしない。規模は南北が4.6mで東西が4.0m、面積は16.44m²を測る。壁現高は25～32cmを測る。長軸方位はN－6°—W。　**ピット**　壁際に4ヶ所。P_1 (40×34×14)、P_2 (37×30×16)、P_3 (26×22×12)、P_4 (35×24×11)。柱穴になるものか。　**カマド**　床面東中央に焼土域と4石が配されておりカマドの跡と考えられる。全体は方形で74×60cm。中央に支石一石のこる。　**遺物**　坏、埦、内黒埦が出土。



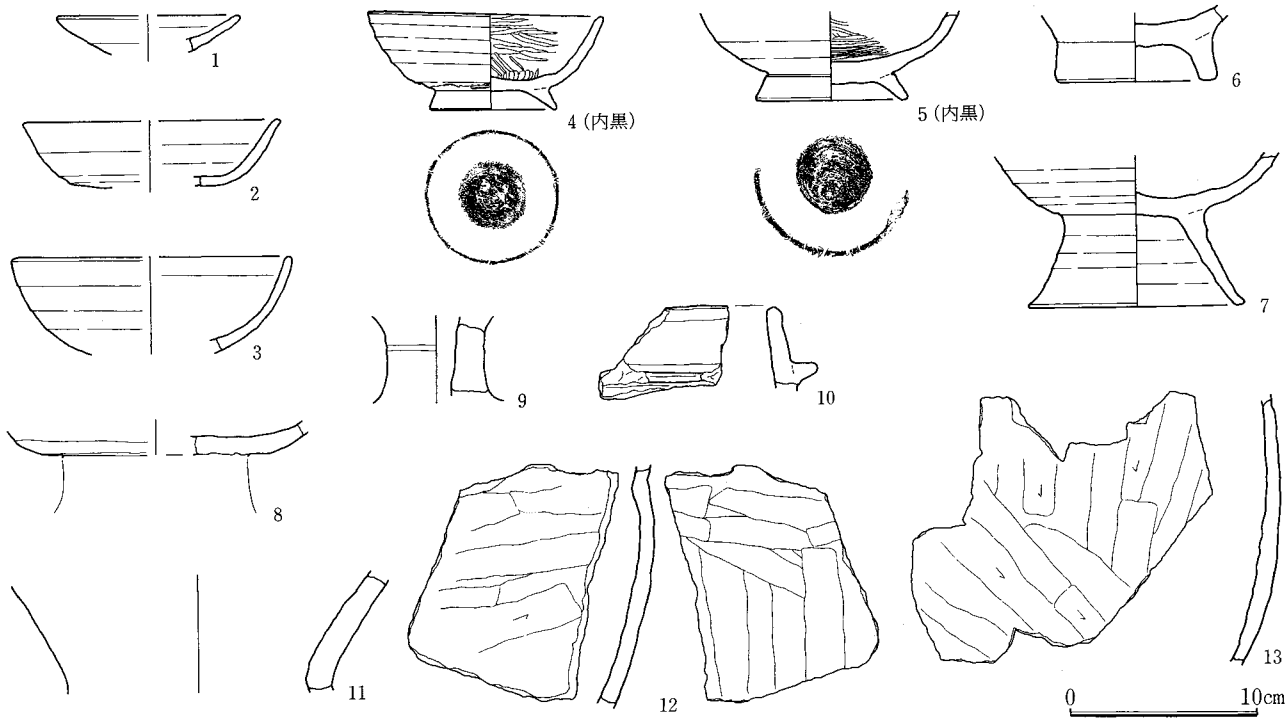
図—86　H—60号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H61号住居跡　(図—87・88　表4—20・21　図版—33)

位置　調査区北東のI—141区。遺跡北東の住居跡集中区にあたる。　**形状**　方形。各辺は直に近く、隅角も直に近い。規模は東西2.6mで南北2.8m。面積は7.18m²。壁現高は28～50cm。長軸方位はN—5°—W。　**床面**　大量の石材が検出されている。カマド使用の石材としては多すぎる。意図的な廃棄材か。　**カマド**　南東隅。壁外掘り込み40cm。袖部内幅50cm。壁へはゆるやかな掘り込み。燃焼部は床面－12cm。白色粘土を使用して作られている。　**貯蔵穴**　南西隅。円形。70×58×42cm。　**遺物**　托、埦、羽釜形甑、長頸壺、羽釜、甑、甕が出土。



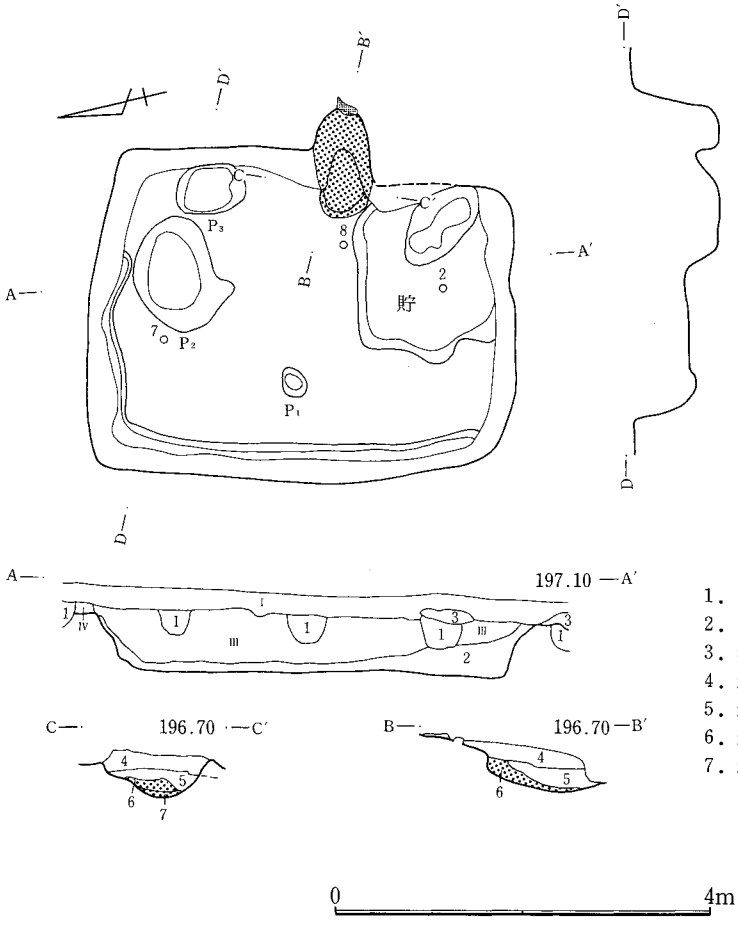
図—87　H—61号住居跡平・断面図



図—88　H—61号住居跡出土遺物実測図

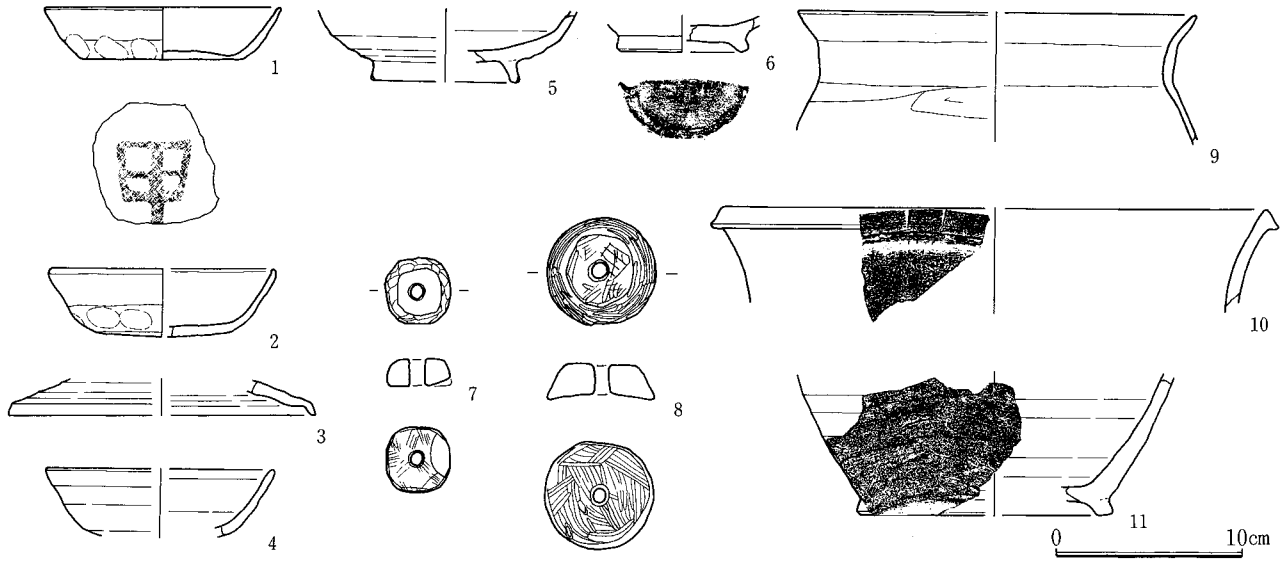
H62号住居跡　(図—89・90　表4—21　図版—34)

位置　調査区北東のI—122区に位置する。住居跡の集中区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は直に近い。規模は東西3.0mで南北4.1m、面積は11.43m²。壁現高は53～61cm。周溝は西壁下から北壁下に検出されている。巾6～24cmで、深さ4～10cm。長軸方位はN—13°—W。　**ピット**　P_1～P_3。P_2 (122×82×32cm)、P_3(74×52×12cm) は位置形状等からみると床下土坑にあたるものか。また、この部分は貼り床と考えられる。　**カマド**　東壁中央南。全長120cmで壁外掘り込み70cm。燃焼部72cm、袖部内幅70cm。壁への掘り込みはゆるやかで、燃焼部は床面—8cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。106×52×45cm。　**遺物**　坏、甕、埦、紡錘車(石、土)、甕、壺が出土。



1．カクラン。
2．III層とローム混土。
3．表土。
4．焼土とローム塊が暗褐色灰層に混入。
5．焼土とローム塊と炭化物が褐色灰層に混入。
6．焼土。
7．焼土。

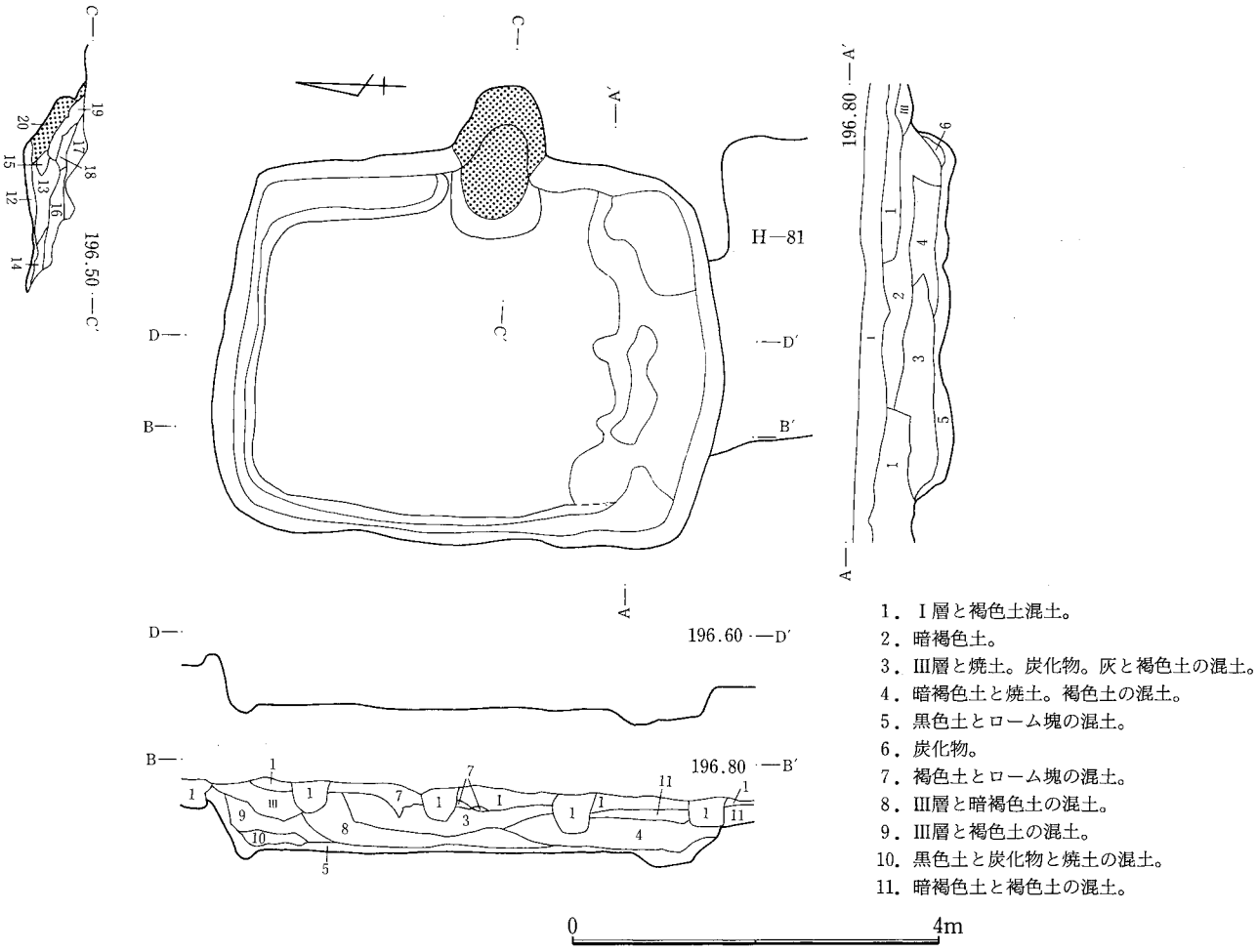
図—89　H—62号住居跡平・断面図



図—90　H—62号住居跡出土遺物実測図

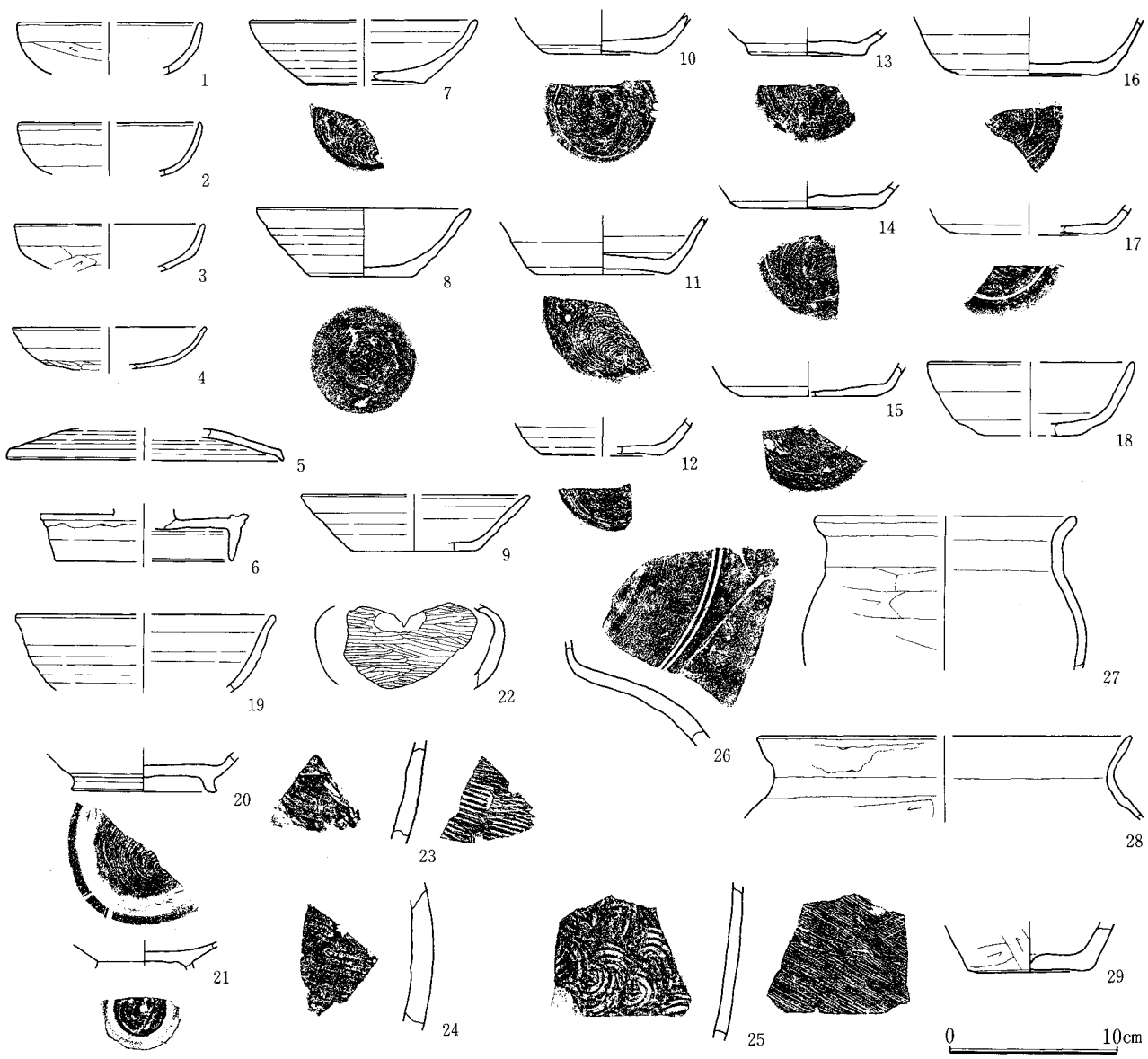
H63号住居跡　(図—91・92　表4—22・23)

位置　調査区北東のⅠ—122区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸。規模は東西3.9mで南北5.0m。面積は18.29m²。壁現高は30～34cm。周溝が全周する。南壁下は推定。巾6～31cmで、深さ10～16cm。長軸方位はN－1°—W。　**床面**　南側3分の1は地層断面図でみると貼り床と考えられる。巾80～110cmで、厚さ9～14cm。黒色土とロームブロックの混土層が上面水平に積まれている。　**カマド**　東壁中央。全長160cmで壁外掘り込み



図—91　H—63号住居跡平・断面図

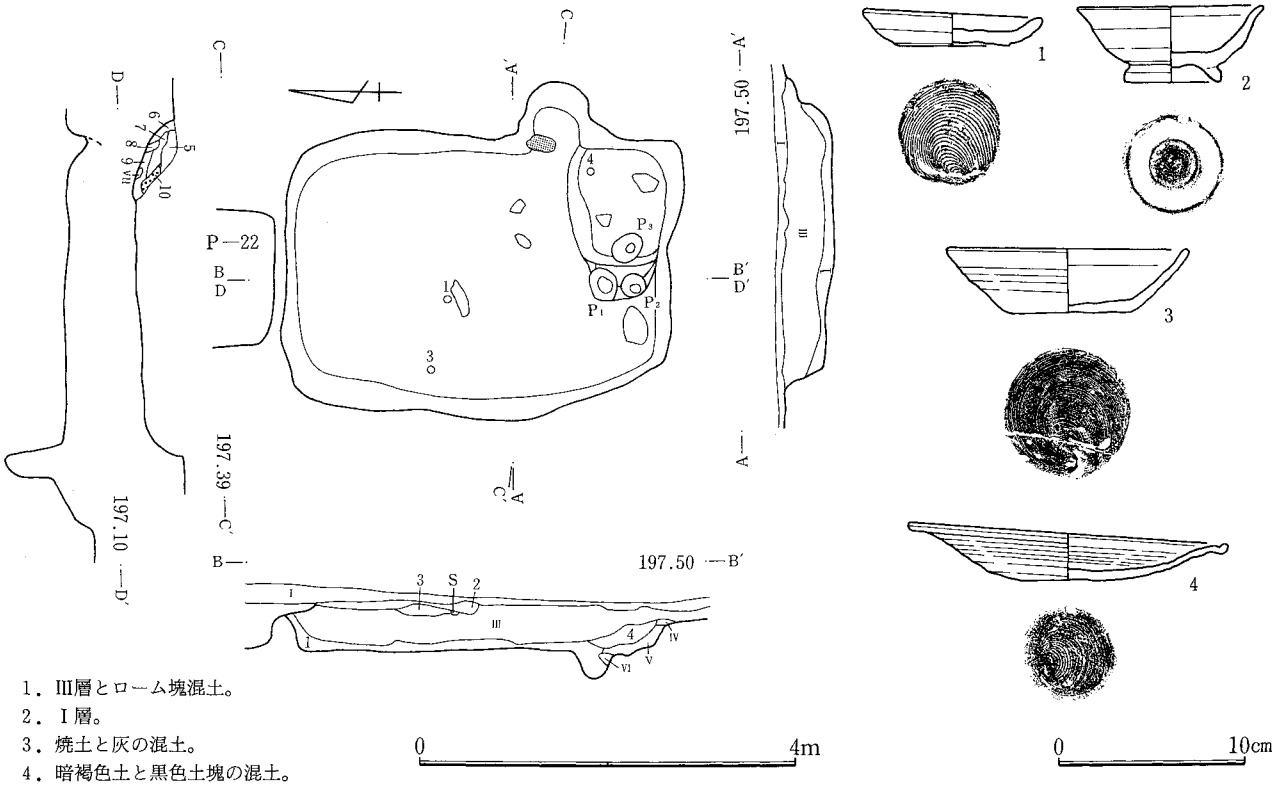
80cm。燃焼部分長は100cmで、壁にかかっている。袖部内幅は70cmで、壁へはやや急に掘り込まれている。燃焼部は床面－10cm。　**重複関係**　H－81と重複する。H－81より床面レベルは下。H－81よりも旧い。　**遺物**　坏、蓋、直壺蓋、埦、小壺、甕、壺が出土。



図－92　H－63号住居跡出土遺物実測図

H64号住居跡　（図－93　表4－23　図版－34）

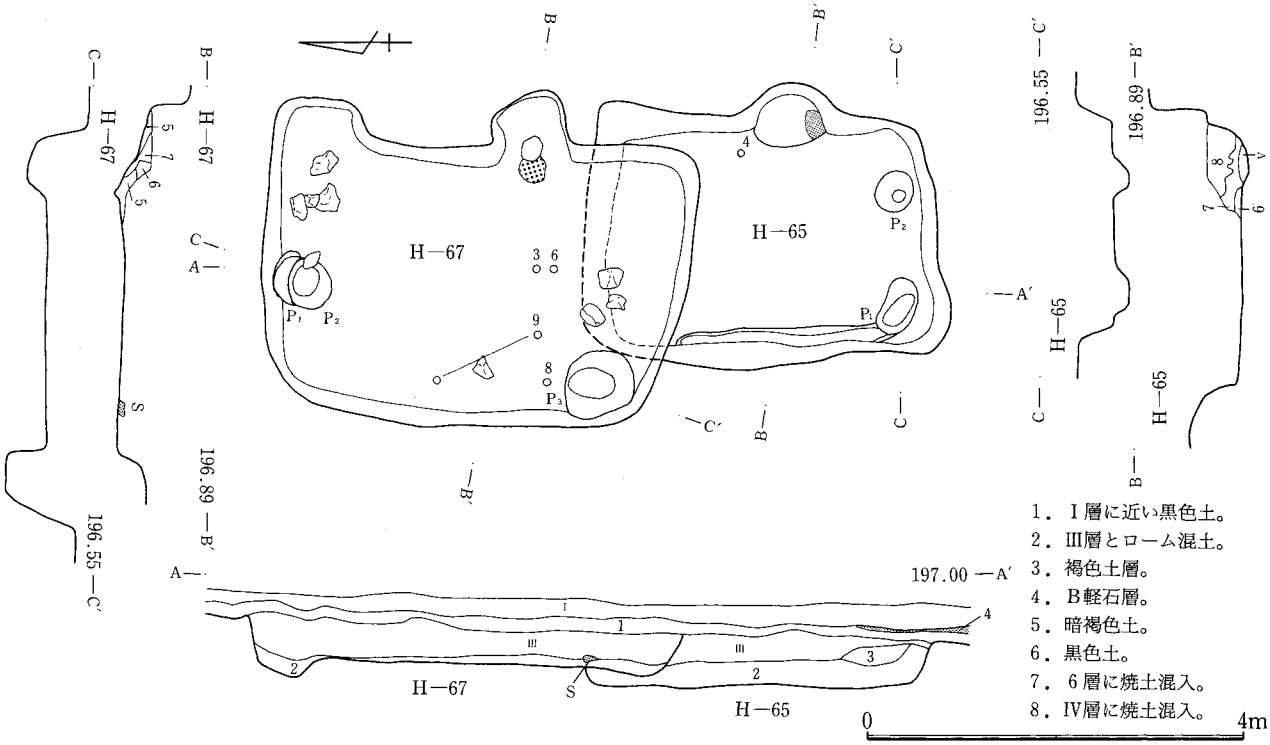
位置　調査区北東のⅠ－140・141区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅角は隅丸となる。規模は東西2.6mで南北3.8m。面積9.36m²。壁現高は33～48cmを測る。長軸方位はN－0°。　**ピット**　P_1(38×36×51cm)、P_2(30×22×13cm)、P_3(33×23×23cm)。南壁下中央にある。出入口に係るものか。　**カマド**　東壁南。全長80cm、壁外掘り込み50cm、燃焼部分長50cm。袖部内幅50cm。　**貯蔵穴**　南東隅。方形。120×90×11cm。　**遺物**　坏、小型坏、小型埦が出土。　**その他**　北側に接してP－22が位置する。



1．Ⅲ層とローム塊混土。
2．Ⅰ層。
3．焼土と灰の混土。
4．暗褐色土と黒色土塊の混土。
5．Ⅳ層と焼土混土。
6．褐色土。
7．Ⅴ層とⅣ層に焼土混入。
8．黒色土と焼土の混土。
9．7層に炭化物混入。
10．焼土。

図—93　H—64号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H65・67号住居跡　(図—94・95　表4—23・24　図版—34)

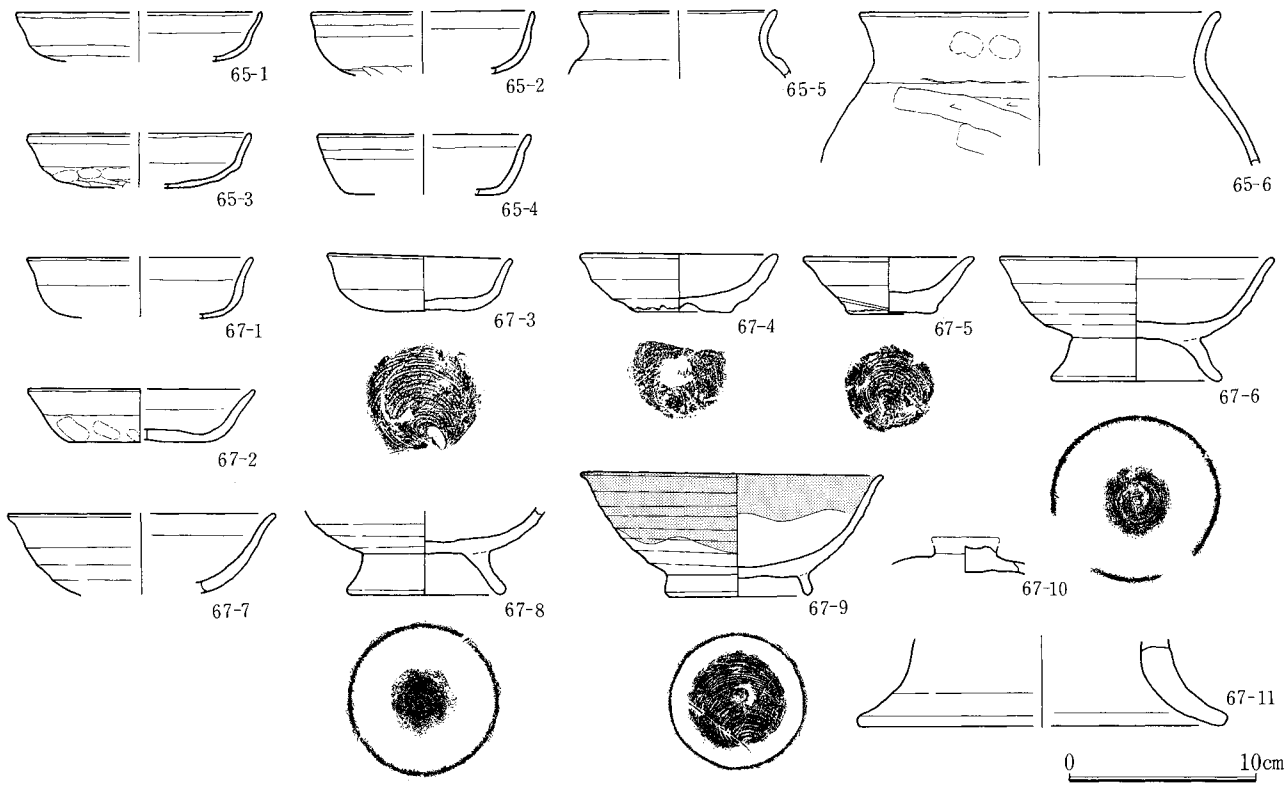


1．Ⅰ層に近い黒色土。
2．Ⅲ層とローム混土。
3．褐色土層。
4．B軽石層。
5．暗褐色土。
6．黒色土。
7．6層に焼土混入。
8．Ⅳ層に焼土混入。

図—94　H—65・67号住居跡平・断面図

〔H65〕 **位置** 調査区北東のⅠ—140区に位置する。住居跡の集中している地区にあたる。 **形状** 南北に長い長方形。北・南辺はやや外にはらむが東西辺は直に近い。規模は東西2.2mで南北3.3m、面積は7.41㎡。壁現高は40～54cmを測る。周溝が西壁下に検出されている。巾８～12cmで深さ１～２cm。長軸方位はN－２°—W。 **ピット** 床面２ヵ所。P_1（58×35×17cm）、P_2（43×37×16cm）。柱穴か。 **カマド** 東壁中央。全長70cmで壁外掘り込み35cm、燃焼部分長60cm。袖部内幅70cm。壁へは急な立ちあがりとなっている。燃焼部は床面－10cm。 **重複関係** H—67と重複。H—65が旧い。 **遺物** 坏、甕が出土。

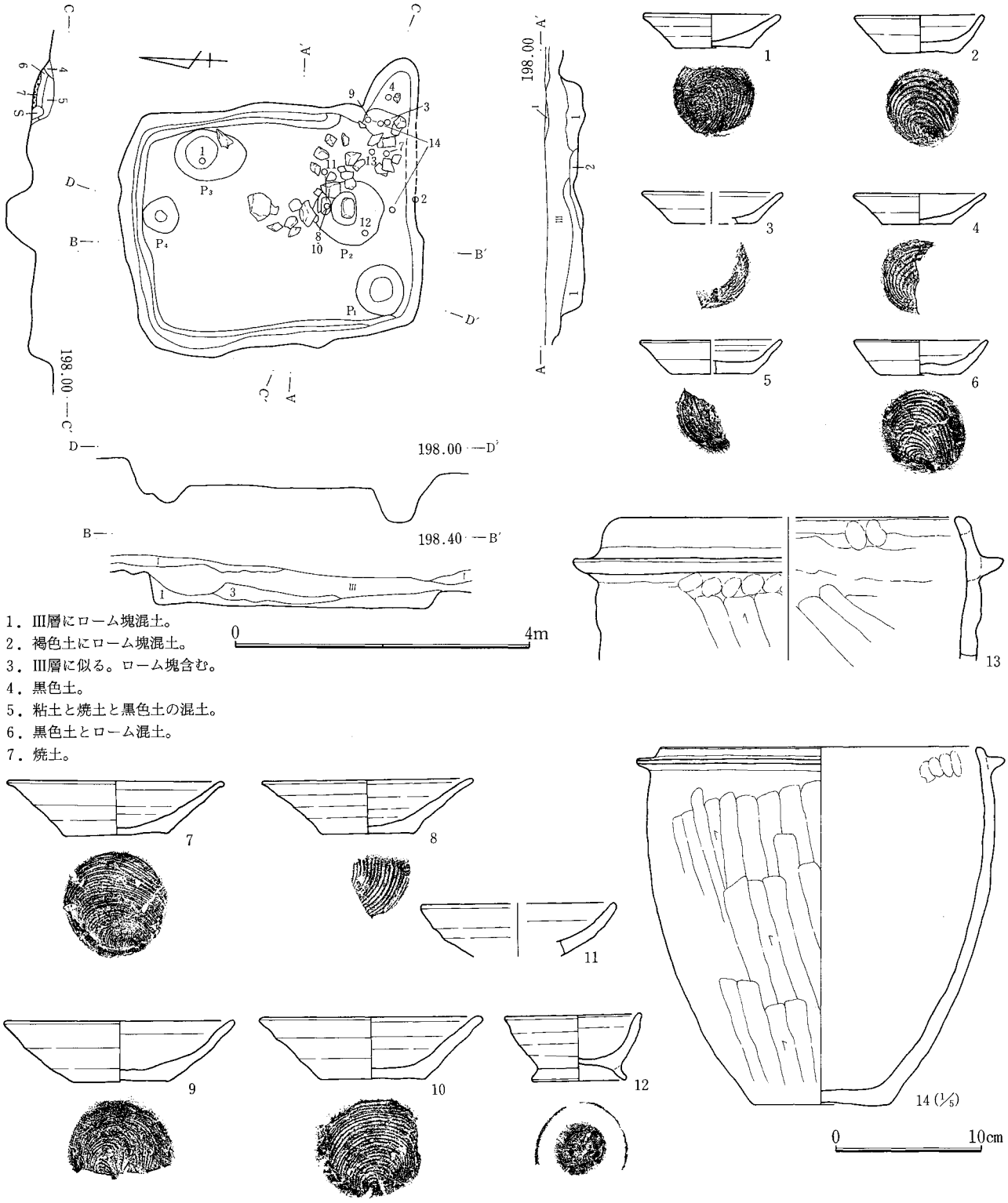
〔H67〕 **位置** 調査区北東のⅠ—140区に位置する。 **形状** 南北に長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅は隅丸。規模は東西2.6mで南北4.3m、面積は11.26㎡。壁現高は34～45cm。長軸方向はN－１°—W。北東隅に張り出しをもつ。方形で65×29cm。 **ピット** P_1～P_3。P_1（50×22×21cm）、P_2（45×42×11cm）、P_3（80×66×31cm）。 **カマド** 東壁南。全長100cmで壁外掘り込み50cm。袖部内幅60cm。壁へはゆるやかな掘り込み。燃焼部は床面－４cm。 **重複関係** H—65と重複。H—67が新しい。 **遺物** 坏、埦、灰釉埦が出土。



図—95 H－65（上）、67（下）号住居跡出土遺物実測図

H68号住居跡 （図—96 表４—24 図版—２・35）

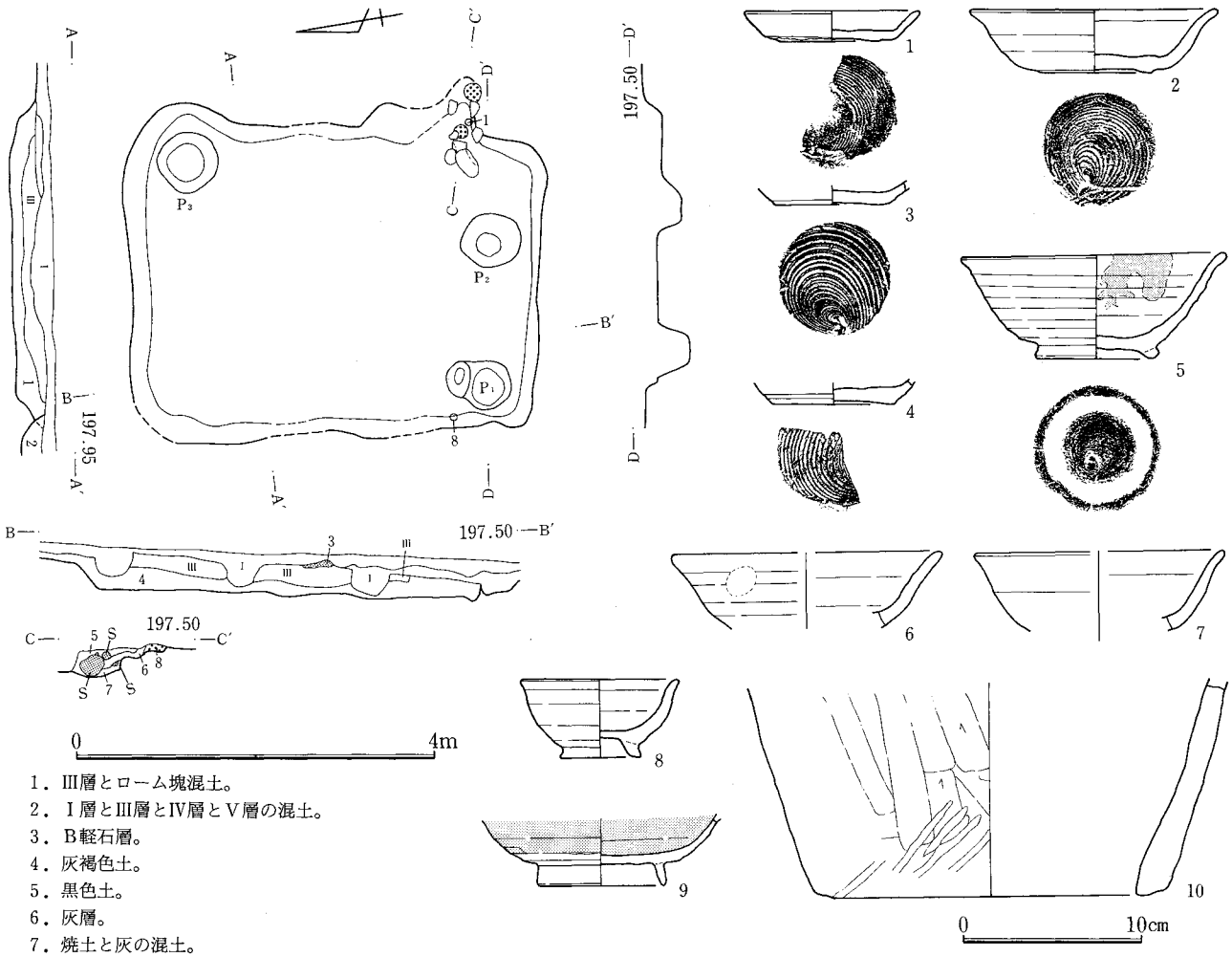
位置 調査区北東のⅠ—141区に位置する。 **形状** やや南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅は隅丸。規模は東西2.8mで南北3.6m、面積11.83㎡。壁現高は24～46cmを測る。周溝は南壁下を除き全周する。巾２～16cmで深さ４～９cm。長軸方位N－１°—E。 **床面** カマド前から床面中央部にかけて多量の石材が検出されている。 **ピット** P_1～P_4。P_1（66×62×42cm）、P_2（93×88×40cm）、P_3（94×67×48）、P_4（53×48×24cm）。P_2、P_3は床下土坑状のものか。 **カマド** 東壁南端。全長112cm、壁外掘り込み76cm。燃焼部長50cm、袖部内幅60cm。壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面－９cm。 **貯蔵穴** P_3に可能性がある。 **遺物** 坏、埦、羽釜が出土。



図—96　H—68号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H69号住居跡　(図—97　表4—25　図版—2・35)

位置　調査区北東のⅠ—123区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。北辺がやや開く。各辺は直に近く、各隅も直に近い。規模は東西3.1mで南北4.1m、面積は13.07m²。壁現高は30～32cm。長軸方位はN—10°—W。　**ピット**　P_1～P_3。P_1 (67×60×20cm)、P_2 (73×56×22cm)、P_3 (68×64×31cm)。P_2とP_3は柱穴カ。　**カマド**　東壁南側。石材がのこる。全長100cmで壁外掘り込み57cm。燃焼部長55cm。壁へは急な立ちあがりで煙道に続く。燃焼部は床面—7cm。　**遺物**　坏、埦、灰釉埦、甑が出土。

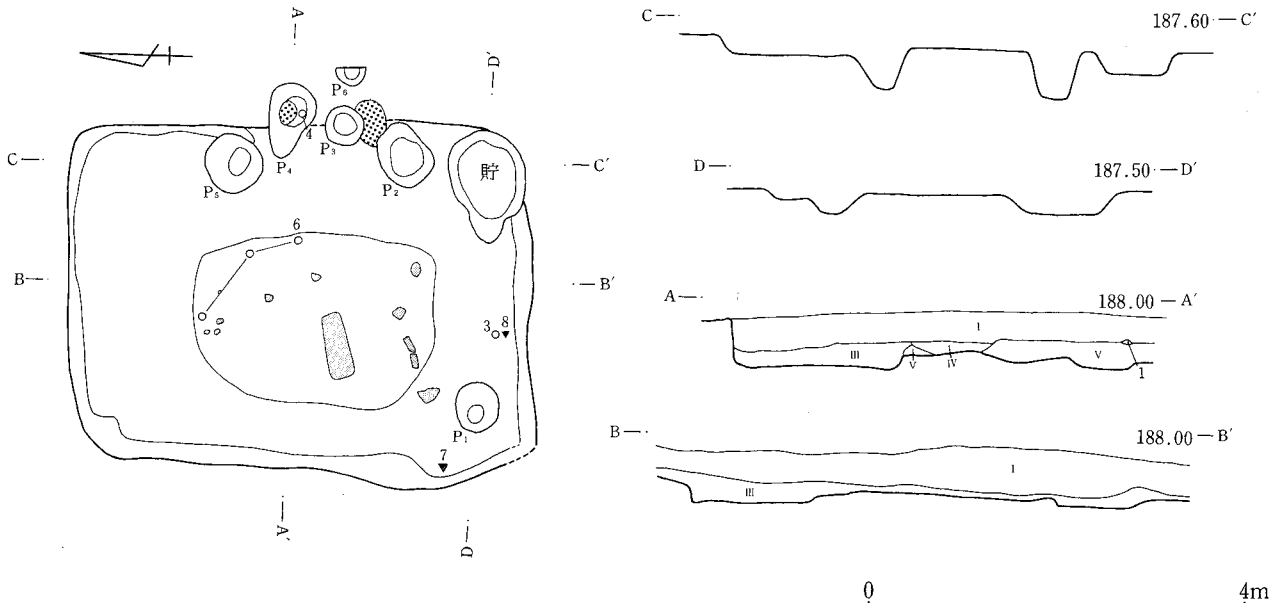


1．Ⅲ層とローム塊混土。
2．Ⅰ層とⅢ層とⅣ層とⅤ層の混土。
3．B軽石層。
4．灰褐色土。
5．黒色土。
6．灰層。
7．焼土と灰の混土。
8．焼土。

図—97　H—69号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

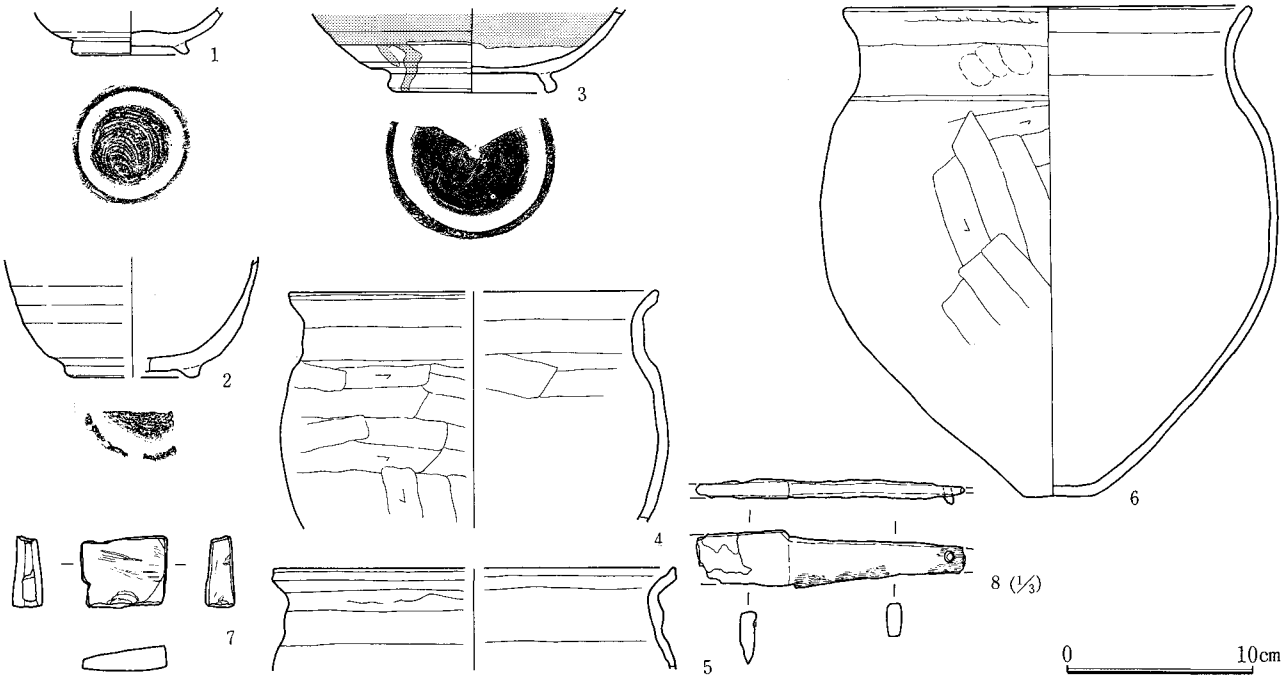
H70号住居跡　（図—98・99　表4—25・26　図版—36）

位置　調査区中央部のII—7・25区に位置する。住居跡の集中区にあたる。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅も直に近い。規模は東西3.3mで南北4.6m、面積は15.77m²。壁現高は16～25cmを測る。　**床面**　中央部が高くなる。2.6×1.8mで＋12～15cm。隅丸の長方形状。住居施設か。　**ピット**　P_1～P_6。P_1(53×46×16cm)、P_2(78×51×



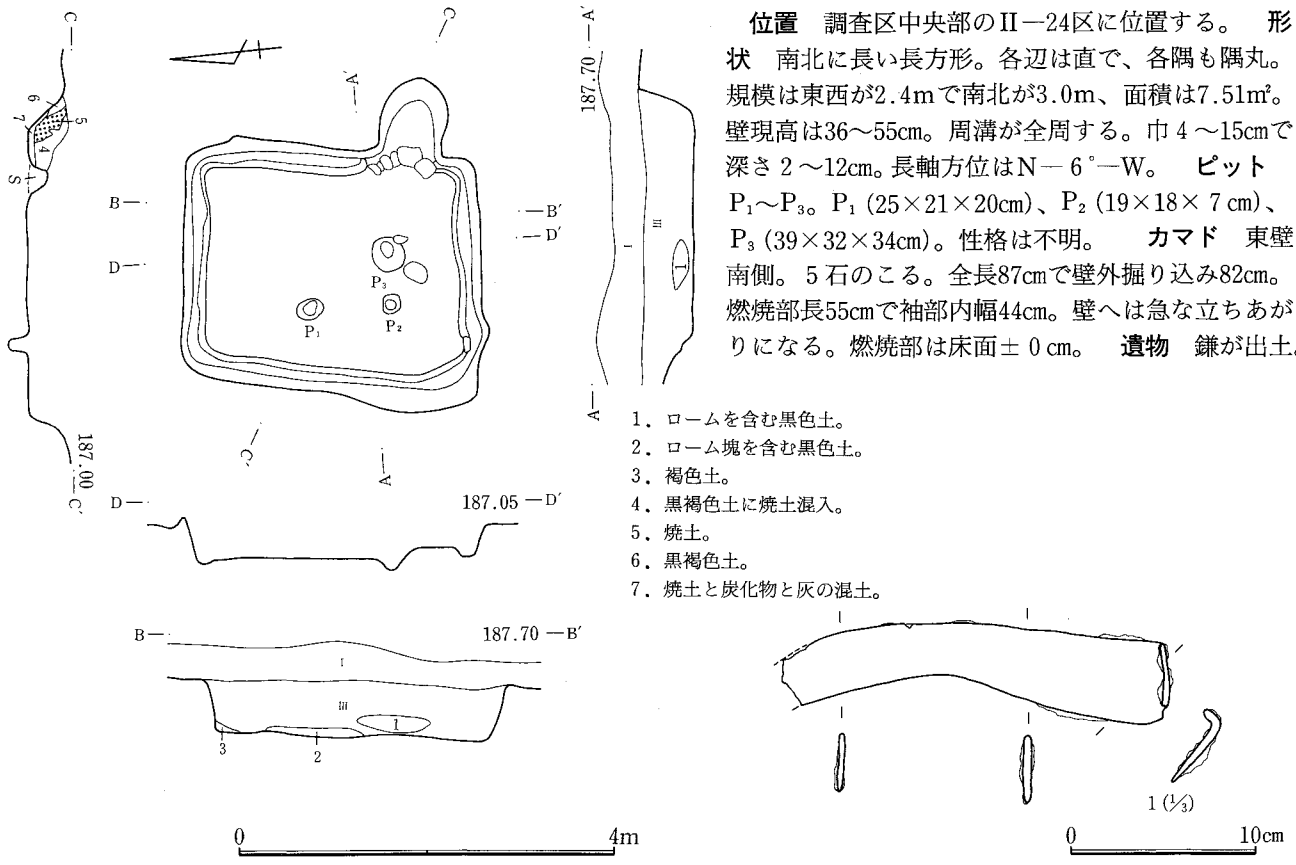
図—98　H—70号住居跡平・断面図

40cm)、P_3 (41×38×30cm)、P_4 (64×56×40cm)、P_5 (68×47×14cm)、P_6 (27×18×27cm)。P_2～P_6はカマド関連のピットと考えられる。P_2とP_3の間に焼土が検出されている。この位置がカマドか。規模は48×33cm。P_6は壁と底が焼けており、カマド関連の施設と考えられる。床面に多くみられる炭化物は建物構築材のものか。　**カマド**　東壁中央の焼土付近か。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。118×81×15cm。　**遺物**　埦、灰釉埦、甕、砥石、小刀が出土。



図—99　H—70号住居跡出土遺物実測図

H71号住居跡　(図—100　表4—26　図版—36)



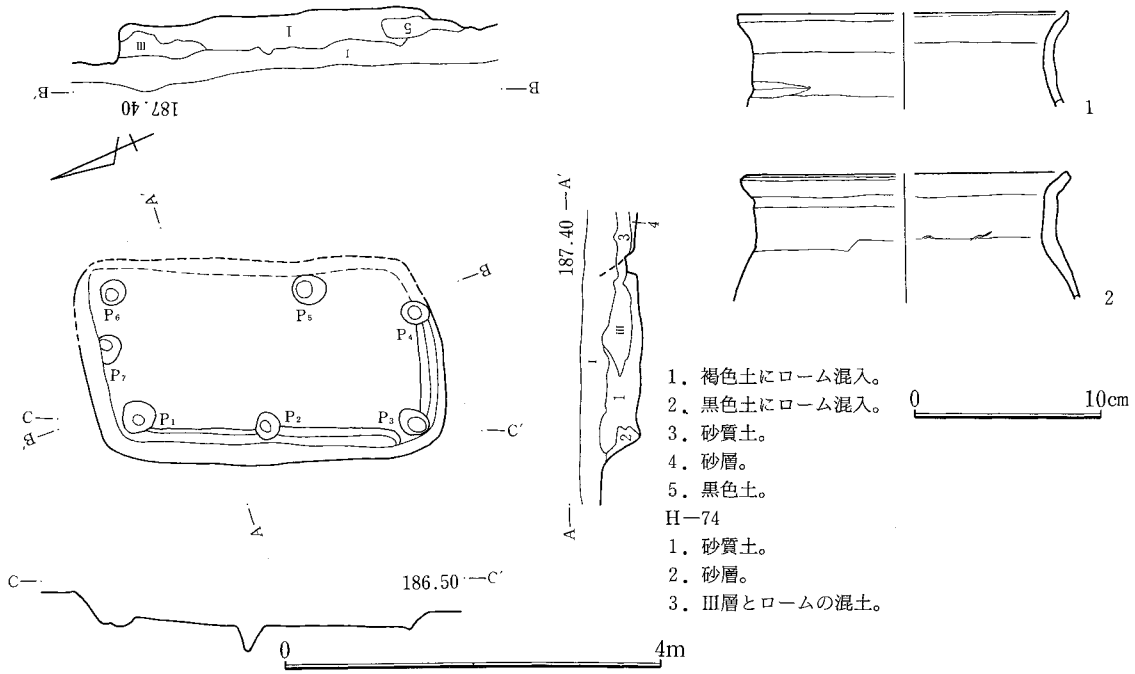
位置　調査区中央部のII—24区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直で、各隅も隅丸。規模は東西が2.4mで南北が3.0m、面積は7.51㎡。壁現高は36～55cm。周溝が全周する。巾4～15cmで深さ2～12cm。長軸方位はN—6°—W。　**ピット**　P_1～P_3。P_1 (25×21×20cm)、P_2 (19×18×7cm)、P_3 (39×32×34cm)。性格は不明。　**カマド**　東壁南側。5石のこる。全長87cmで壁外掘り込み82cm。燃焼部長55cmで袖部内幅44cm。壁へは急な立ちあがりになる。燃焼部は床面±0cm。　**遺物**　鎌が出土。

1．ロームを含む黒色土。
2．ローム塊を含む黒色土。
3．褐色土。
4．黒褐色土に焼土混入。
5．焼土。
6．黒褐色土。
7．焼土と炭化物と灰の混土。

図—100　H—71号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H72号住居跡　（図—101　表4—26　図版—37・38）

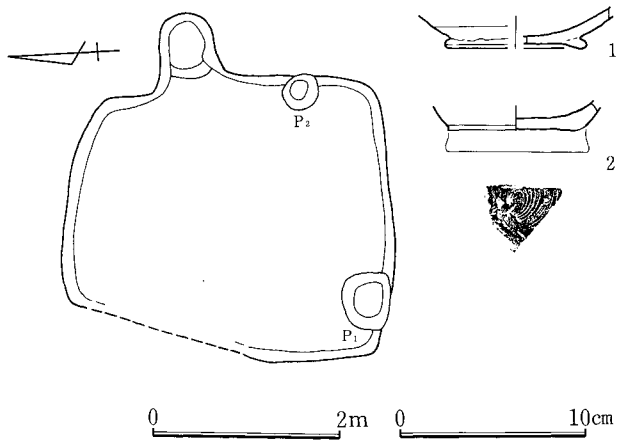
位置　調査区中央部のII—6区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直で、各隅角は隅丸に近い。規模は東西1.7mで南北3.4m、面積は6.20m²。壁現高は14～42cmを測る。周溝は西、南壁下に検出されている。巾5～13cmで、深さ8cm。長軸方位はN—23°—W。　**ピット**　P_1～P_7。P_1（35×23×4cm）、P_2（31×25×34cm）、P_3（36×25×2cm）、P_4（29×25×20cm）、P_5（37×32×30cm）、P_6（27×26×38cm）、P_7（30×19×6cm）。P_1～P_7は四隅及び、北、東、西壁下中央に位置している。柱穴と考えられる。カマドは検出されておらず特異な形状である。以上のことからみると住居跡というより納屋等の施設と考えられるものである。なお、東側に重複している溝状の遺構は図注記によると、旧農道跡である。　**遺物**　甕が出土。



図—101　H—72号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H73号住居跡　（図—102　表4—26）

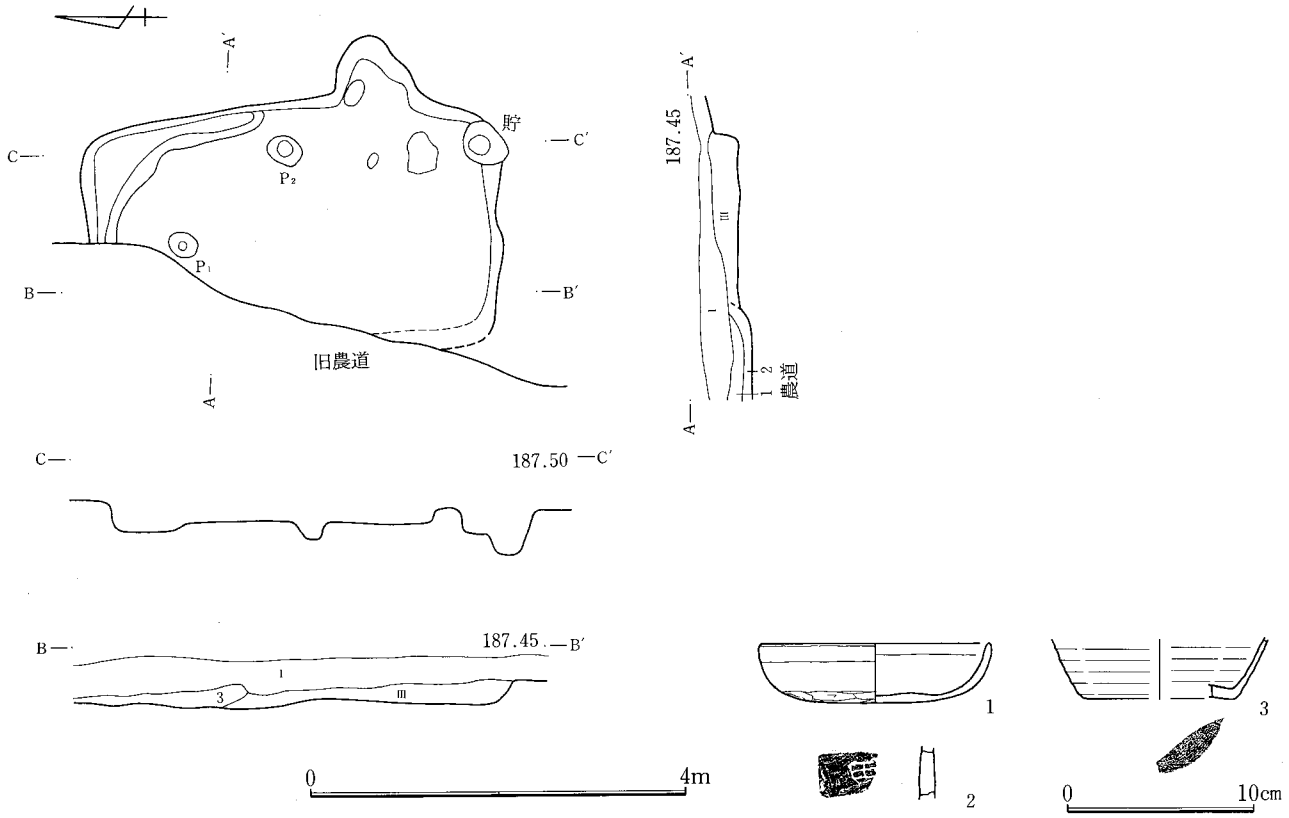
位置　調査区北西端のII—7区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はやや外にはらみ、隅角は隅丸に近い。規模は東西2.82mで、南北3.22m、面積は推定8.25m²。　**ピット**　南壁下（P_1）と東壁下（P_2）。P_1（61×42×—cm）、P_2（43×37×—cm）。　**カマド**　東壁北側。全長72cm。　**遺物**　塊が出土。



図—102　H—73号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H74号住居跡　(図—103　表4—26　図版—37)

位置　調査地中央のII－6区に位置する。　**形状**　旧農道と重複して西側が失なわれているが、南北に長い長方形。各辺はやや外にはらみ、北東・南東隅は直に近い。規模は東西が現状で2.3m、南北が4.1m、面積は現状で8.15m²。壁現高は23～35cmを測る。長軸方位はN－2°—W。　**ピット**　P_1、P_2。P_1 (30×27×38cm)、P_2 (36×30×33cm)。性格不明。　**カマド**　東壁南側。3石のこる。全長78cmで壁外掘り込み53cm。燃焼部長52cm、袖部内幅74cm。燃焼部は床面と±0cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。54×41×22cm。　**遺物**　坏が出土。



図—103　H—74号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

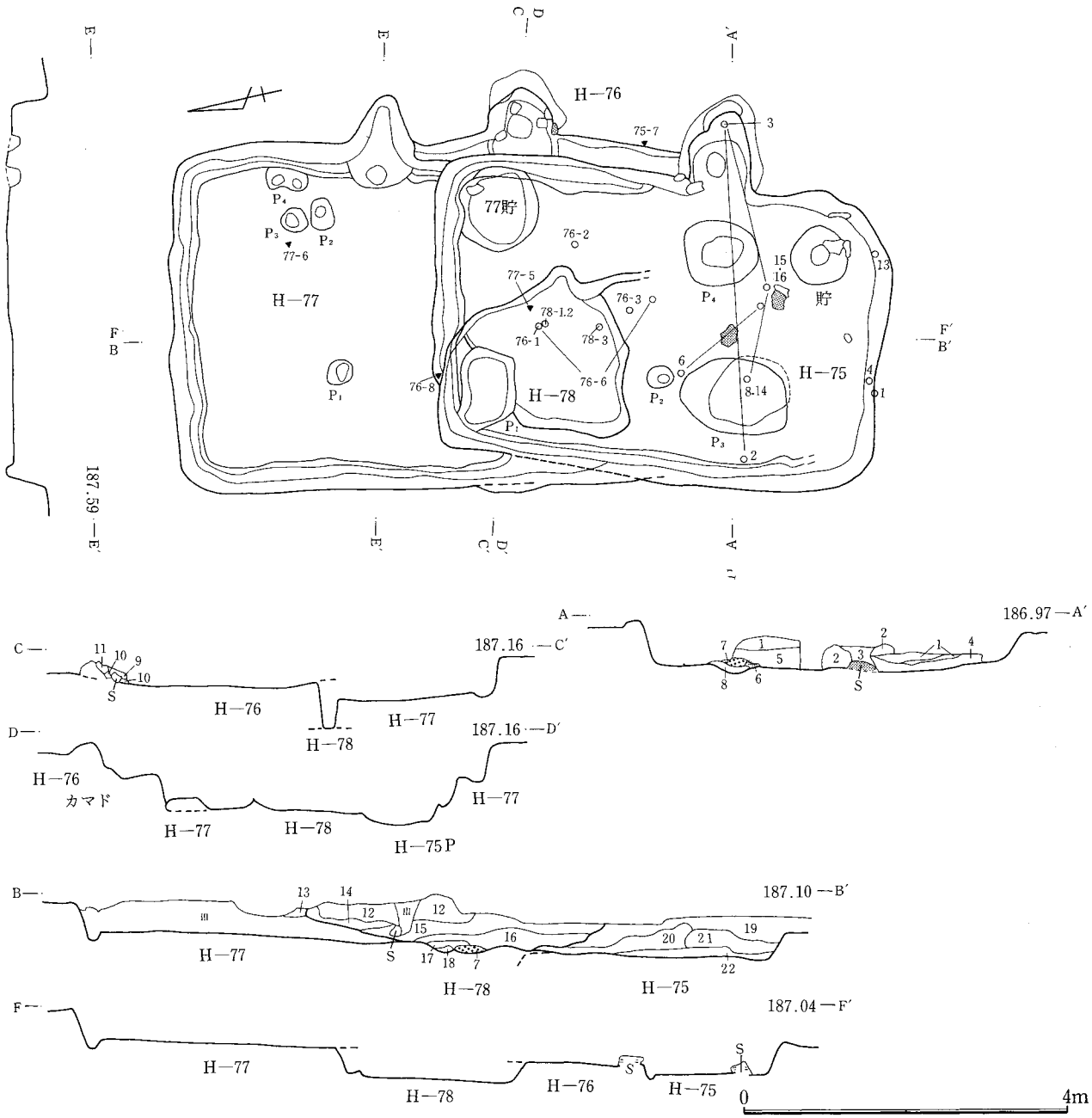
H75・76・77・78号住居跡　(図—104・105・106　表4—27・28　図版—2・37・38)

〔H75〕　**位置**　調査区中央部のII－6・24区に位置する。H—75～78の4軒の重複。　**形状**　南北にやや長い長方形。規模は東西が3.23mで南北5.02m、面積は17.83m²を測る。長軸方位はN—13°—W。　**床面**　東壁のカマド北側から北壁下と西壁下で周溝が認められる。幅10～24cmで、深さ8～12cm。壁現高36～48cm。　**ピット**　床面3カ所。P_1、北西隅。(100×63×30cm)。P_2、床面中央。(32×36×3cm)。P_3、南西隅。(129×96×33cm)。P_4、カマド前。(90×78×27cm)。灰カキ穴か。　**カマド**　東壁南側。全長128cm。壁外張り出し116cm。燃焼部長50cm、袖部内幅30cmを測る。左袖部に一石のこる。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。77×70×31cm。床面に焼石がみとめられた。　**重複関係**　H76～78と重複する。いずれともより新しい。　**遺物**　坏、皿、埦、鉄滓、甕が出土。

〔H76〕　**位置**　II－6・24区。　**形状**　カマドのみ残存のため不明。　**カマド**　東壁。H—75に削平され東側のみ残存。現全長111cm。壁外掘り込み90cm。燃焼部長70cm、袖部内幅55cm。　**重複関係**　H75・77よりも旧い。　**遺物**　埦、灰釉埦、甕、刀子が出土。

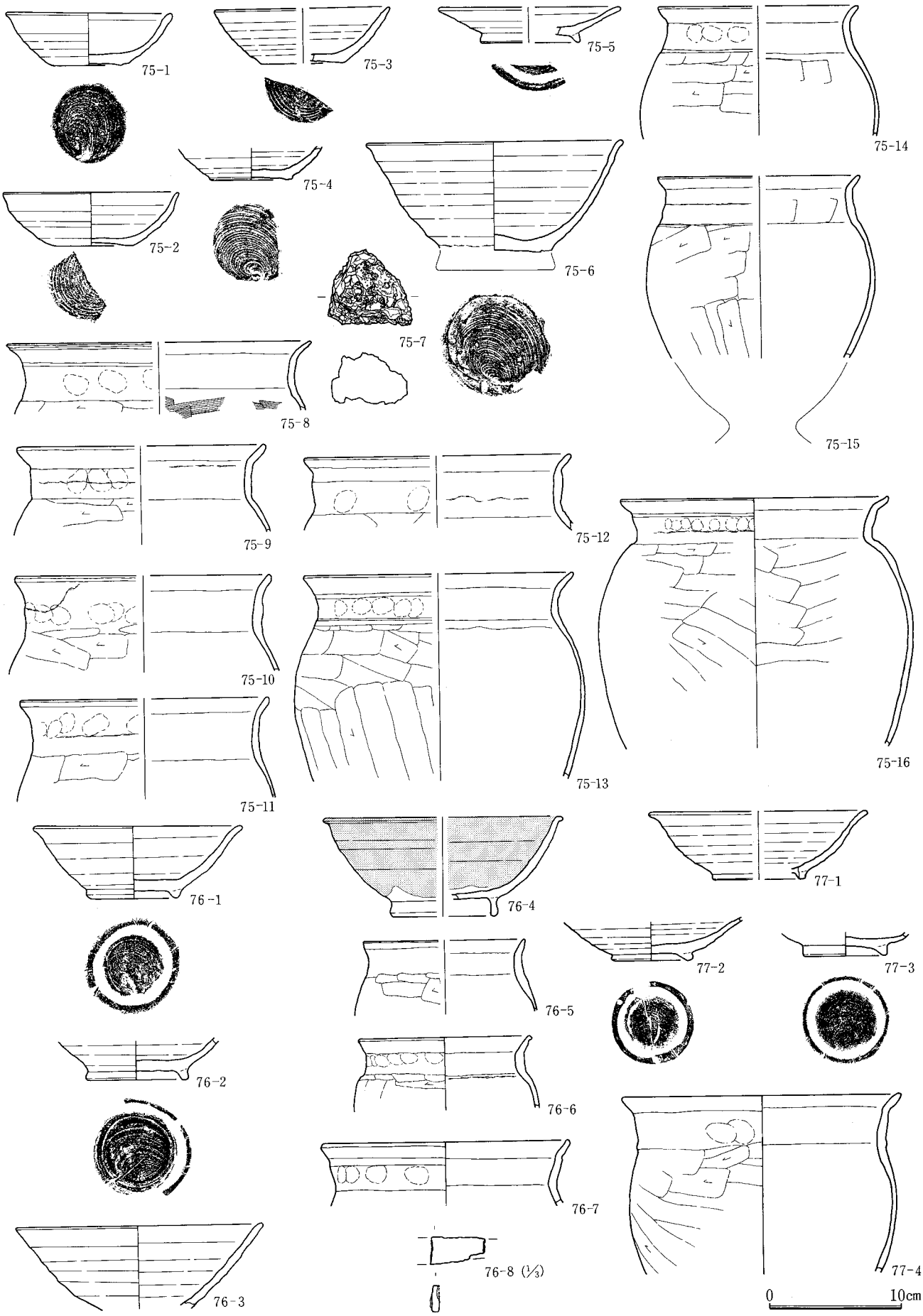
〔H77〕　**位置**　II－6・24区。　**形状**　やや南北に長い長方形。　**規模**　東西が3.45m×南北3.65m、面積は12.62m²。長軸方位はN—10°—W。　**周溝**　H—75との重複部を除き全周する。幅3～13cm。深さ4～7cm。壁現高36～44cm。　**カマド**　東壁南側。全長113cm。壁外掘り込み60cm。燃焼部長50cmを測る。　**貯蔵穴**　床面南東隅。110×95cm。　**重複関係**　H—75より旧い。　**遺物**　埦、皿、鎌、鉇(ヤリガンナ)が出土。

〔H78〕　**位置**　II－6・24区。　**形状**　一部残存のため不明。H—77に似た形状か。　**規模**　現状で東西2.7m×南北2.0mがのこる。住居施設等は不明。　**遺物**　埦、坏、甕が出土。

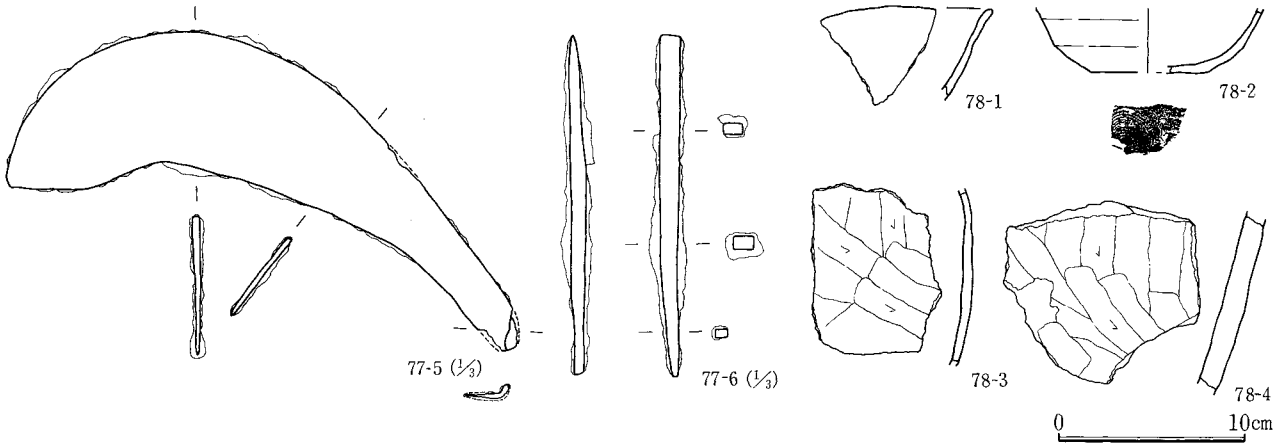


1．ローム。
2．Ⅲ層とローム混土。
3．暗褐色土。
4．Ⅲ層と暗褐色土の混土。
5．4層に似る。
6．白色粘土。
7．焼土。
8．黒褐色土。
9．暗褐色土に炭化物と焼土混入。
10．褐色土に焼土混入。
11．褐色土。
12．暗褐色土にⅢ層と焼土混入。
13．Ⅲ層に似る。
14．12層に似る。やや黒色。
15．暗褐色土に焼土の混入。
16．黒色土に焼土混入。
17．暗褐色土。
18．黒色土。
19．ロームとⅤ層の混土。
20．黒色土と褐色土の混土。
21．黒色土と粘質の白褐色土の混土。
22．粘質の黒色土。焼土混入。

図—104　H—75・76・77・78号住居跡平・断面図



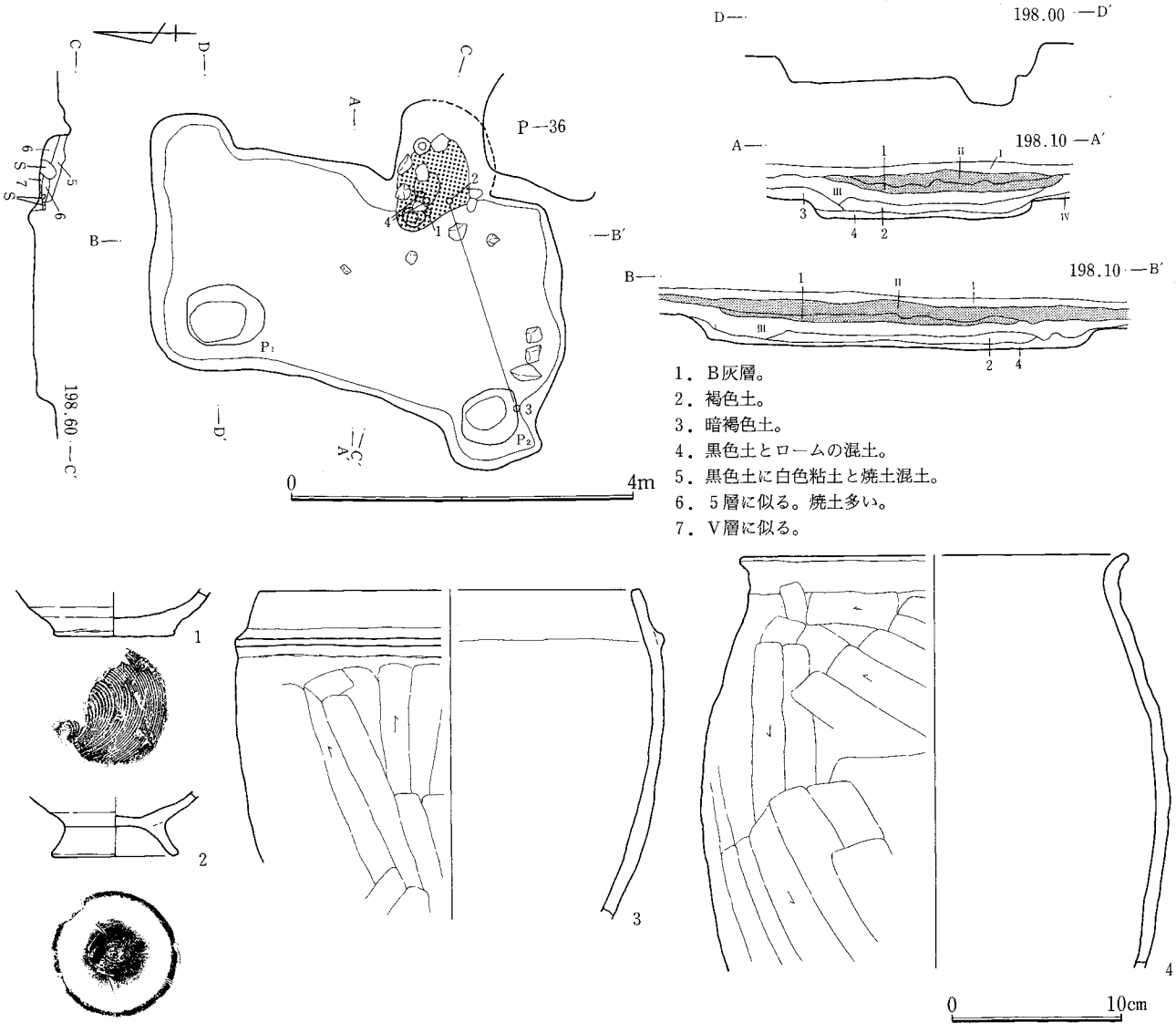
図—105　H—75・76・77号住居跡出土遺物実測図



図—106　H—77・78号住居跡出土遺物実測図

H79号住居跡　(図—107　表4—28　図版—39)

位置　調査区北東のⅠ—141区に位置する。住居跡集中区の北西にあたる。　**形状**　やや平行四辺形に近い、南北に長い長方形。張り出しを2ヵ所にもつ。北、西辺は内にはらむが、南辺は外にはらむ。各隅角は直に近い。規模は東西2.2mで南北4.4m、面積は11.32㎡。壁現高は24～35cmを測る。長軸方位はN—0°。北東と南西に張り出しをもつ。北東(方

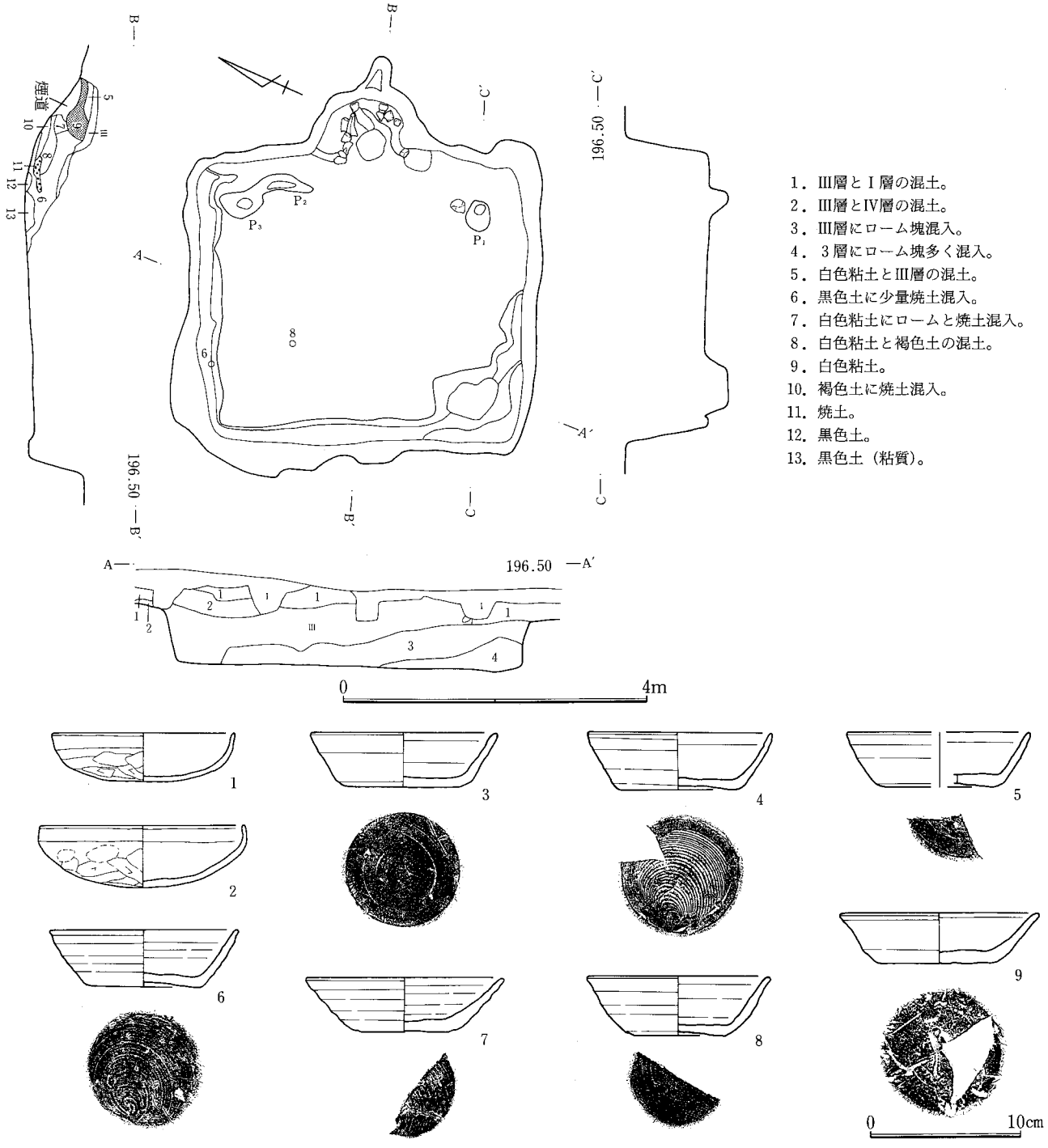


図—107　H—79号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

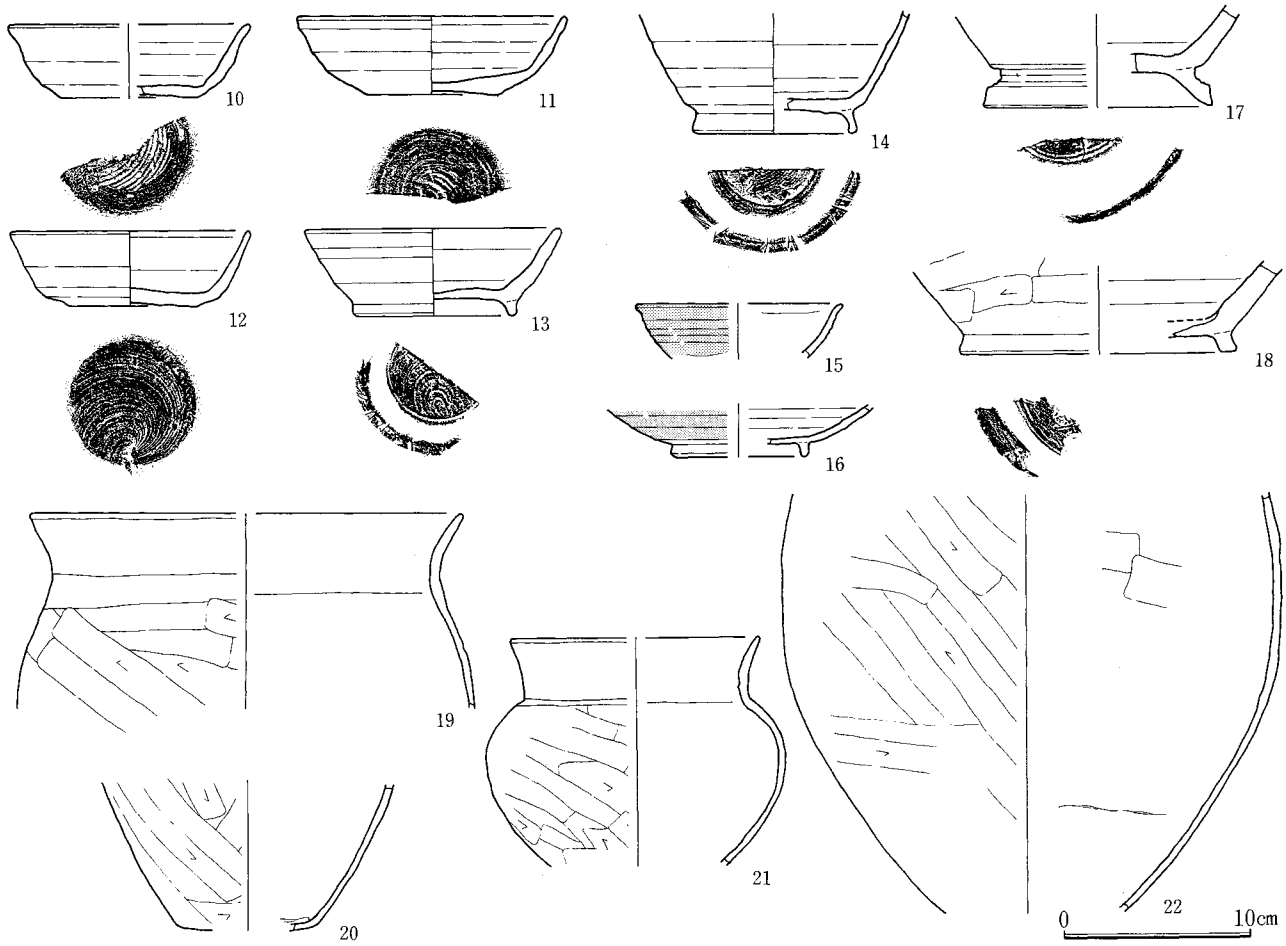
形。60×30cm)、南西（方形。80×60cm)、南西張り出しは中央にピットをもつ。　**ピット**　P_1P_2。P_1（90×78×31cm)、P_2（75×62×21cm)。柱穴か。　**カマド**　東壁南側。12石がのこる。他に床面に石材がのこる。全長152cmで壁外掘り込み96cm、燃焼部分長82cm、袖部内幅69cm。壁へは急な立ちあがりになる。燃焼部は床面＋8cm。　**テフラ**　第三層の灰色灰層はB灰層か？。　**その他**　東側にP－36が接する。　**遺物**　坏、埦、羽釜、甕が出土。

H80号住居跡　（図－108・109　表4－28・29　図版－39）

位置　調査区北東のI－121区に位置する。　**形状**　方形。各辺ともに直に近く、各隅角も直に近い。規模は東西4.2mで南北3.7m、面積は16.11㎡。壁現高は62～81cmを測る。周溝は北壁下から西～南壁の2分の1まで続く。巾9～26cmで深さ8～9cm。長軸方位はN－25°－E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1(58×37×24cm)、P_2(42×32×16cm)、P_3(72×55×24cm)。P_1P_3は柱穴か。　**カマド**　東壁中央。袖石を含む13石がのこる。全体を方形に壁を掘り燃焼部とし、煙道部に続く地点はなだらかに築られている。全長122cmで壁外掘り込み112cm、燃焼部長68cm、袖部内幅60cm。燃焼部は床面と±0cm。　**遺物**　坏、埦、灰釉埦、壺、甕が出土。

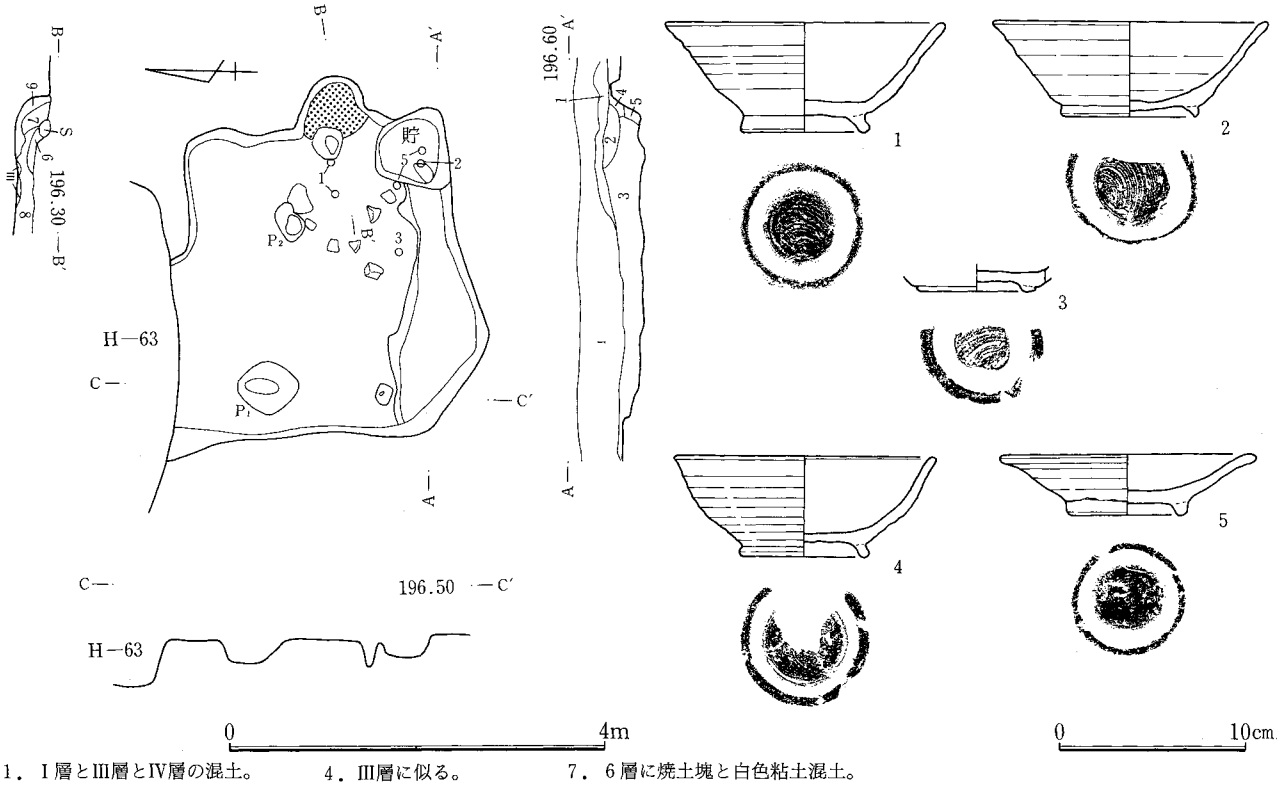


図－108　H－80号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—109　H—80号住居跡出土遺物実測図(2)

H81号住居跡　(図—110　表4—30　図版—40)

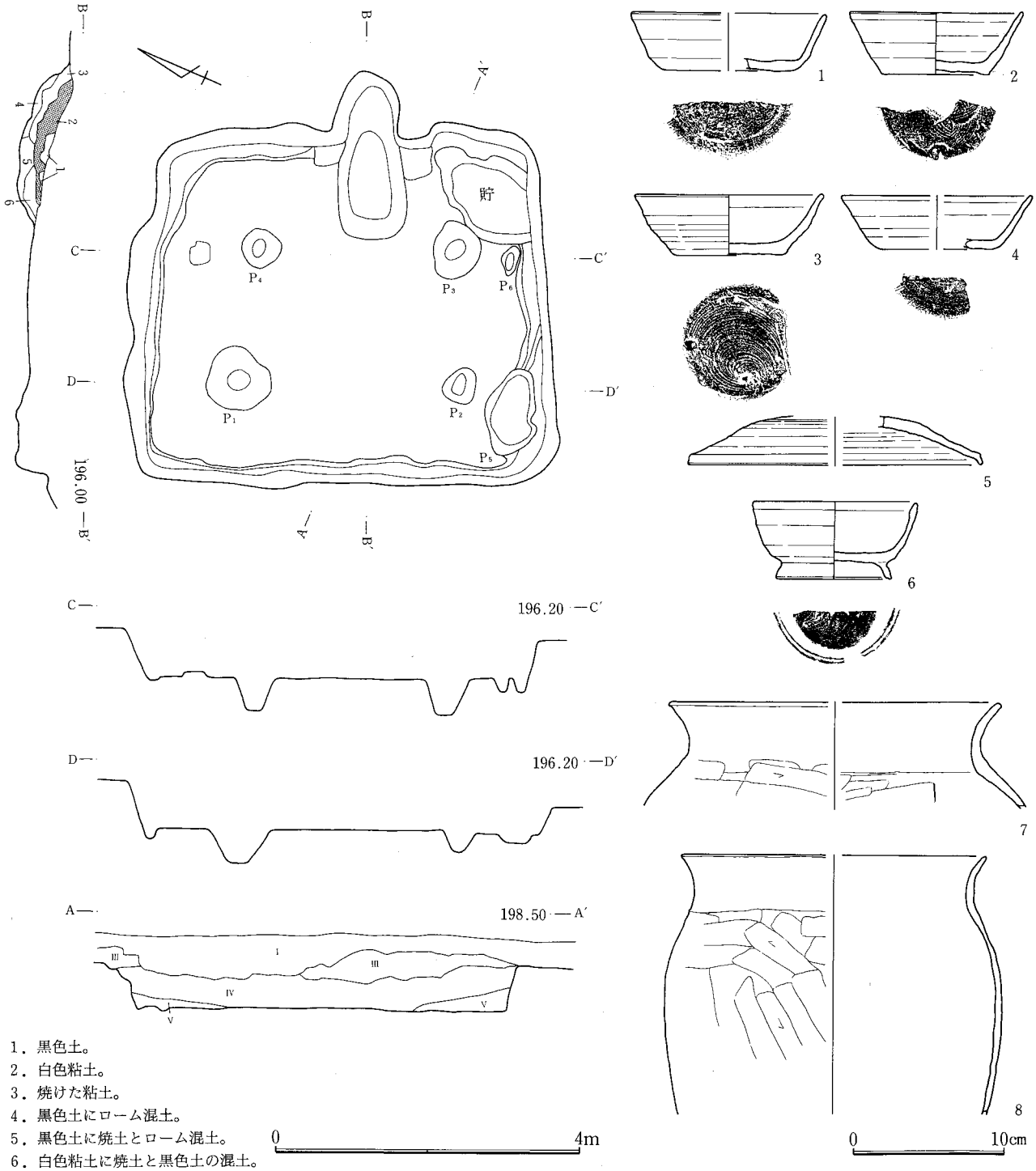


1．Ⅰ層とⅢ層とⅣ層の混土。
2．Ⅲ層に似る。
3．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土混入。
4．Ⅲ層に似る。
5．Ⅳ層に似る。
6．Ⅲ層とⅣ層の混土。
7．6層に焼土塊と白色粘土混土。
8．Ⅳ層と白色粘土と焼土混土。
9．Ⅳ層に焼土混入。

図—110　H—81号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査区北東のⅠ—122区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はやや外にはらみ、隅角は隅丸。規模は東西が張り出しの現状で3.0m（含まないと2.6m）、南北が3.1m、面積は8.94m²。壁現高は20～30cmを測る。長軸方向はN－0°。南西に張り出しをもつ。H—63と重複しているが、方形と考えられる。現状で180×30cm。　**ピット**　P_1。西壁下。66×56×21cm。P_2。床面中央。42×26×18cm。　**カマド**　東壁中央。全長67cmで壁外掘り込み56cm、袖部内幅50cm。煙道へは急な立ちあがりとなる。燃焼部は床面と±0cmのレベル。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。83×78×17cm。遺物が出土している。　**重複関係**　H—63と重複。H—81が新しい。　**遺物**　埦、鉢が出土。

H82号住居跡　（図—111　表4—30）



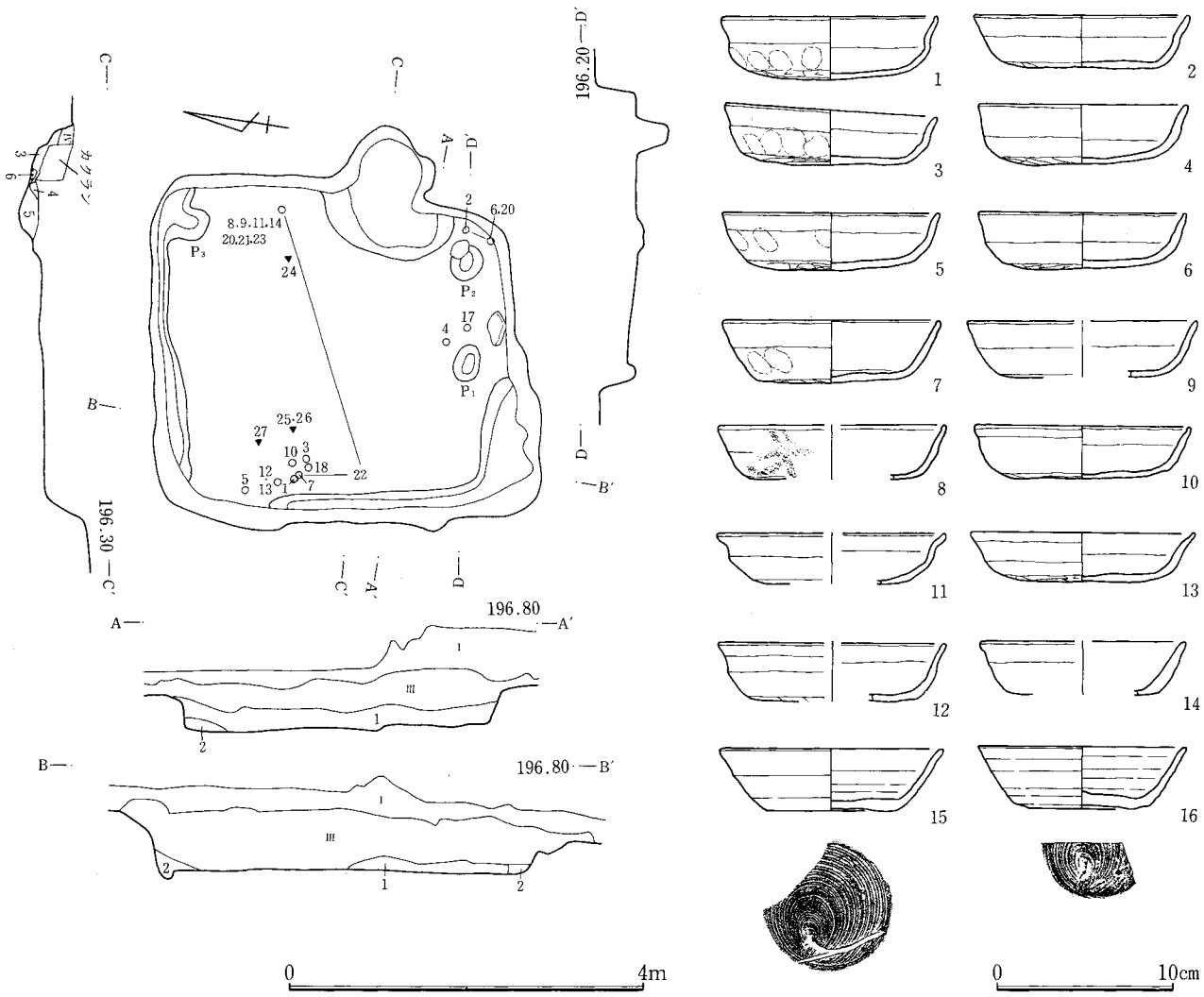
1．黒色土。
2．白色粘土。
3．焼けた粘土。
4．黒色土にローム混土。
5．黒色土に焼土とローム混土。
6．白色粘土に焼土と黒色土の混土。

図—111　H—82号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査区北東のⅠ—139区に位置する。　**形状**　方形に近い長方形。各辺はやや外にはらみ、隅角は隅丸になる。規模は東西が4.2mで南北が5.1m、面積は21.52㎡。壁現高は27～63cmを測る。周溝は全周する。巾3～21cmで、深さ2～9cmである。長軸方位はN—25°—E。　**ピット**　P_1～P_6。P_1～P_4は方形配置。柱穴。P_1（84×76×44cm）、P_2（48×40×23cm）、P_3（72×60×49cm）、P_4（48×48×43cm）。P_5、P_6は施設に伴うものか。P_5（120×71×12cm）、P_6（38×26×18cm）。　**カマド**　東壁中央。カマド地断に白色粘土層があり、構築材と考えられる。全長235cmで、壁外掘り込み94cm、燃焼部分長131cm、袖部内幅58cm、壁へは燃焼部より急な立ちあがりを示す。燃焼部は床面—12cmで大きい土坑状を呈する。　**貯蔵穴**　円形。166×102×19cm。南東隅。　**遺物**　坏、蓋、埦、甕が出土。

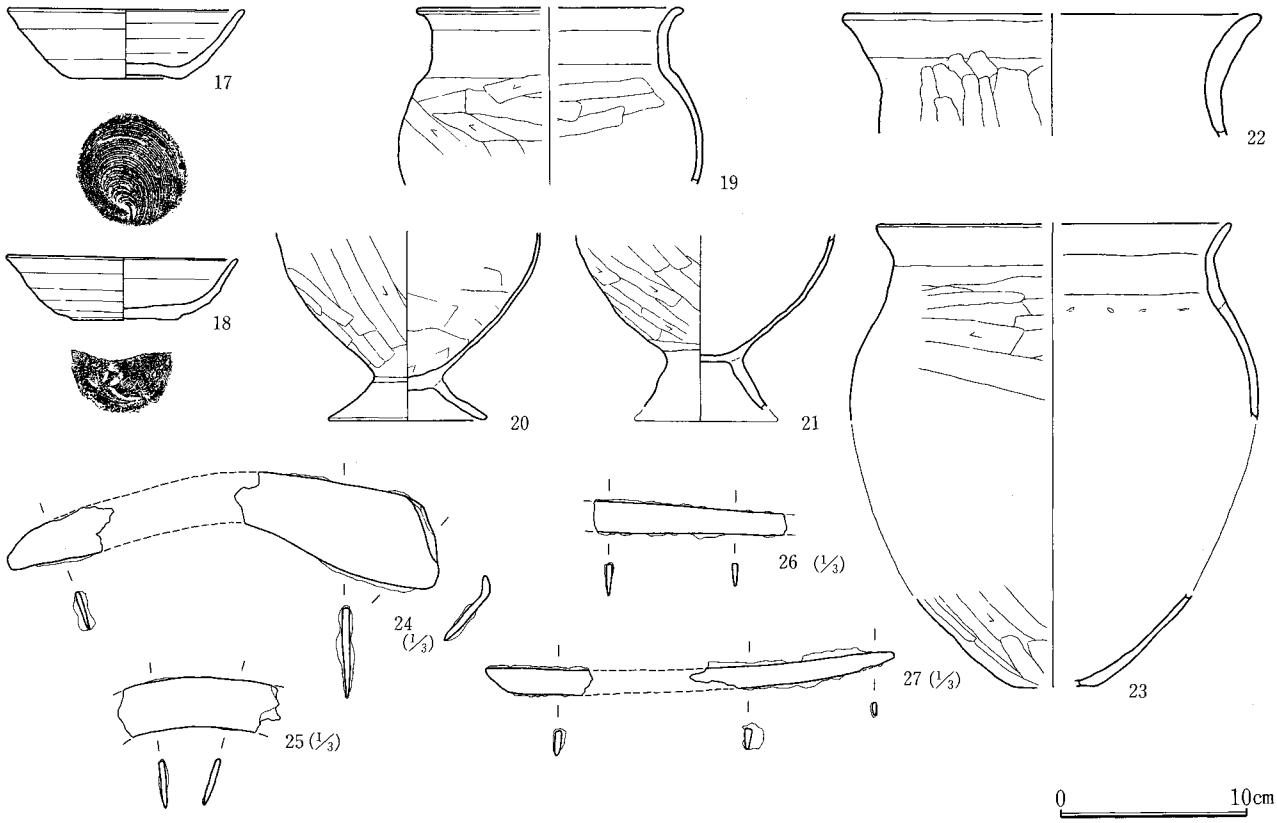
H83号住居跡　（図—112・113　表4—30・31　図版—2）

位置　調査区北東のⅠ—158区に位置する。　**形状**　やや平行四辺形に近い方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸。規模は東西3.4mで南北3.9m、面積は13.59㎡。壁現高は44～64cmを測る。周溝は北壁下から西壁下と南壁下3分の1に検出されている。巾4～14cmで、深さ6～9cmである。長軸方向はN—9°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1（38×35×23cm）、P_2（37×30×9cm）、P_3（35×34×11cm）、P_1、P_3は住居施設の柱穴か。　**カマド**　東壁南側。全長162cmで、壁外掘り込み60cm、燃焼部分長106cm、袖部内幅44cm、燃焼部より壁へは急にあがる。燃焼部は床面—23cm。　**遺物**　坏、甕、台付甕、鎌、刀子が出土。



1．Ⅲ層とローム塊混土。
2．Ⅲ層とローム混土。
3．黒色土（やや焼けている）。
4．黒色土。焼土混入。
5．黒色土にローム塊混土。
6．焼土。

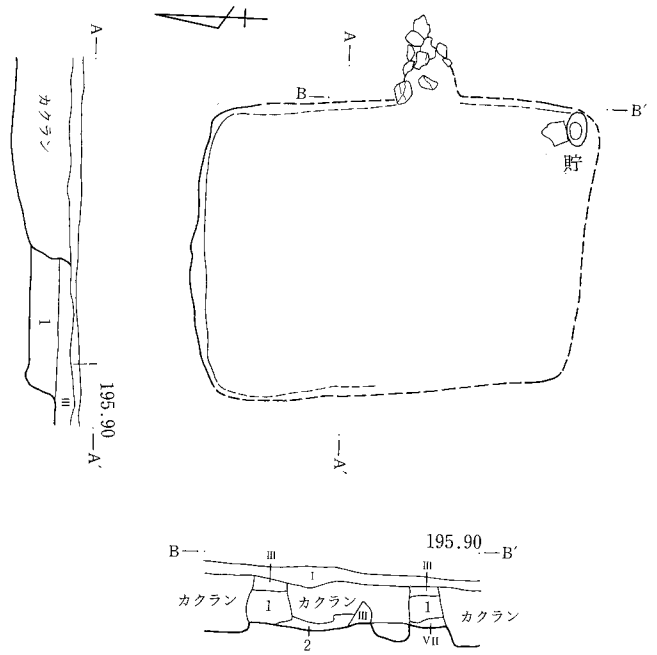
図—112　H—83住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—113　H—83号住居跡出土遺物実測図(2)

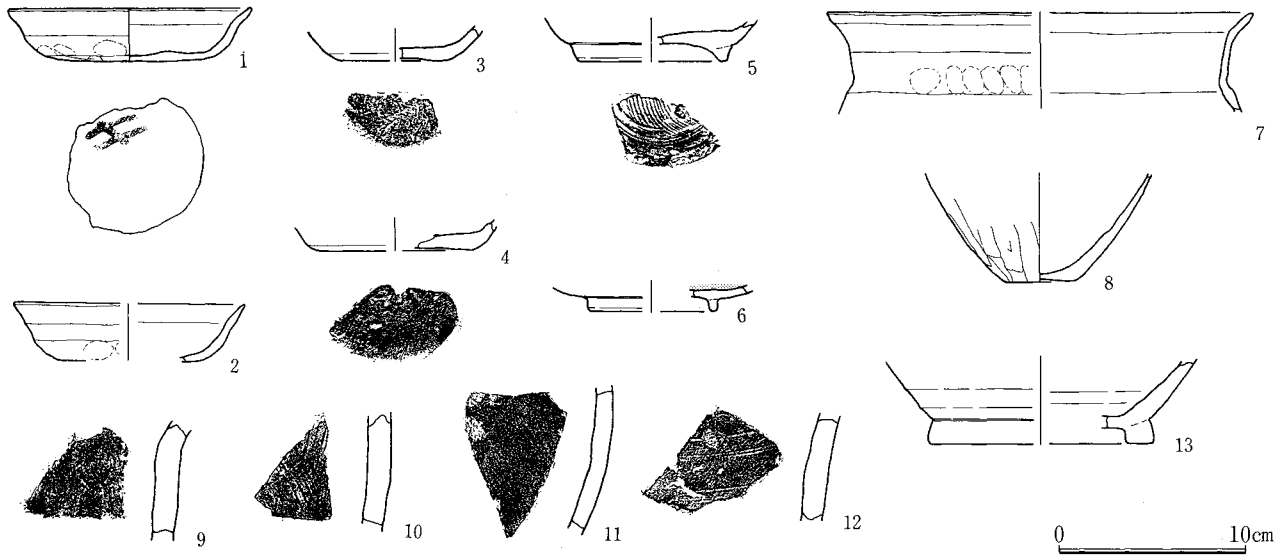
H84号住居跡　(図—114・115　表4—32　図版—40)

位置　調査区北西のⅠ—139区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。カマ掘りで南側3分の2は推定である。北辺はほぼ直で、北の隅角は隅丸の規模は東西3.0mで南北4.0m、面積は11.47㎡。壁現高は12～28cmを測る。長軸方位はN—2°—E。　**カマド**　東壁中央。カマ掘りでこわされ詳細は不明。10石がのこる。壁外に燃焼部をもつか。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。36×24×13cm。　**遺物**　坏、埦、灰釉埦、甕が出土。



1．III層に焼土混入。
2．焼土を多く含む層。

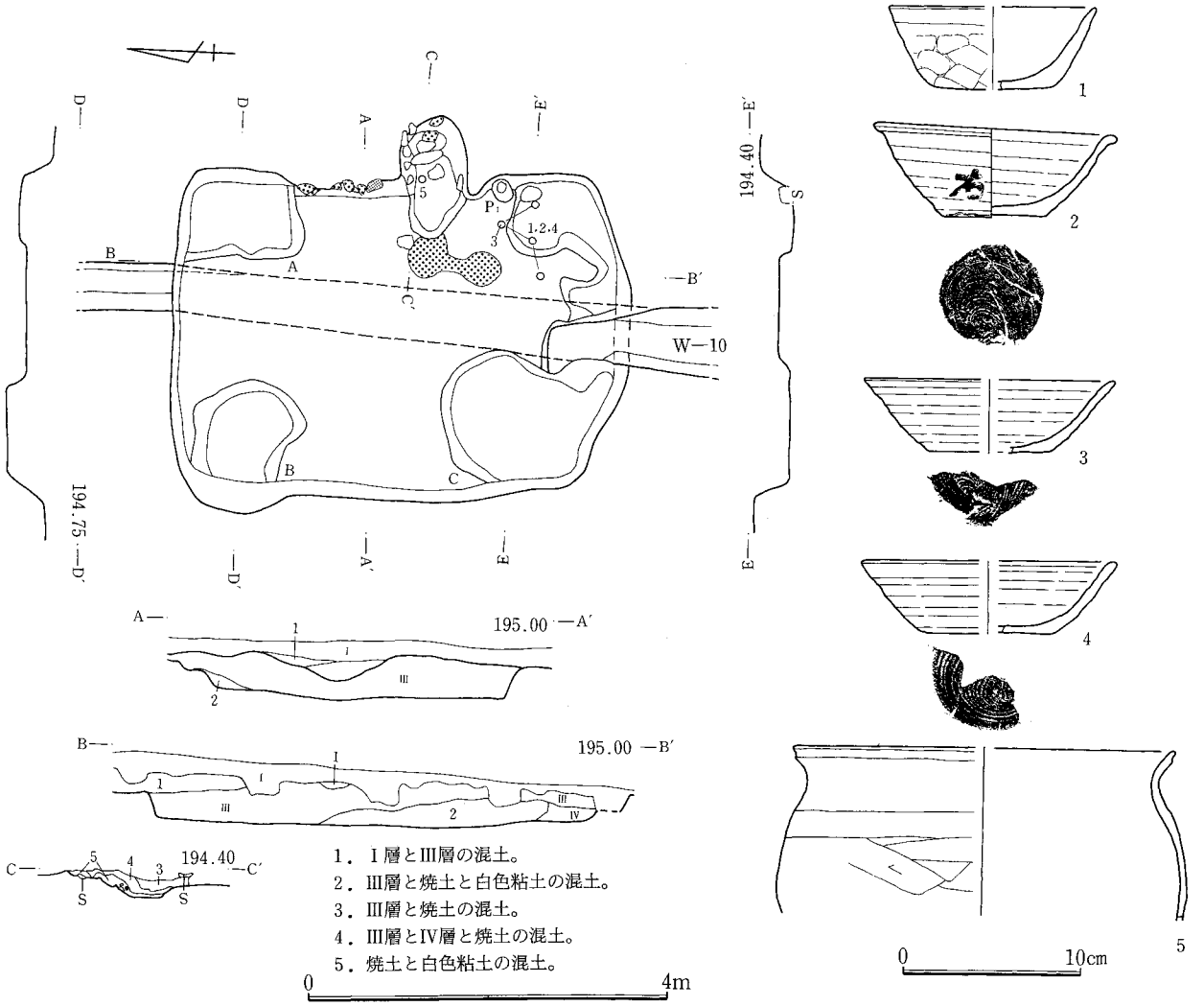
図—114　H—84号住居跡平・断面図



図—115　H—84号住居跡出土遺物実測図

H85号住居跡　(図—116　表4—32　図版—41)

位置　調査区北東のⅠ—102区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらみ、各隅角は直に近い。規模は東西3.2mで南北4.8m、面積は15.09m²。壁現高は19～27cmを測る。長軸方位はN—0°。床下土坑と思われる土坑が3基。北東にA、北西にB、南西にC、A (120×80×7cm)、B (114×108×17cm)、C (160×144×25cm)。　**カマ**



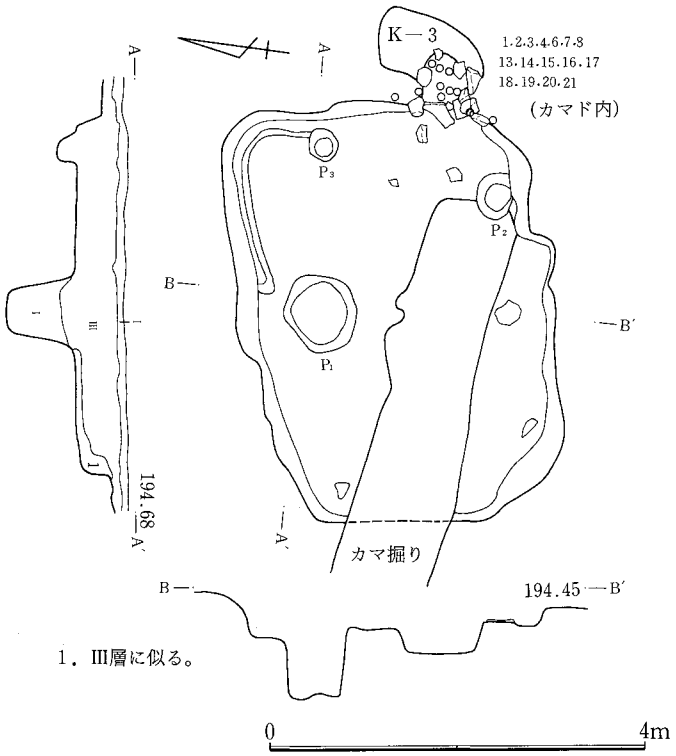
1．Ⅰ層とⅢ層の混土。
2．Ⅲ層と焼土と白色粘土の混土。
3．Ⅲ層と焼土の混土。
4．Ⅲ層とⅣ層と焼土の混土。
5．焼土と白色粘土の混土。

図—116　H—85号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

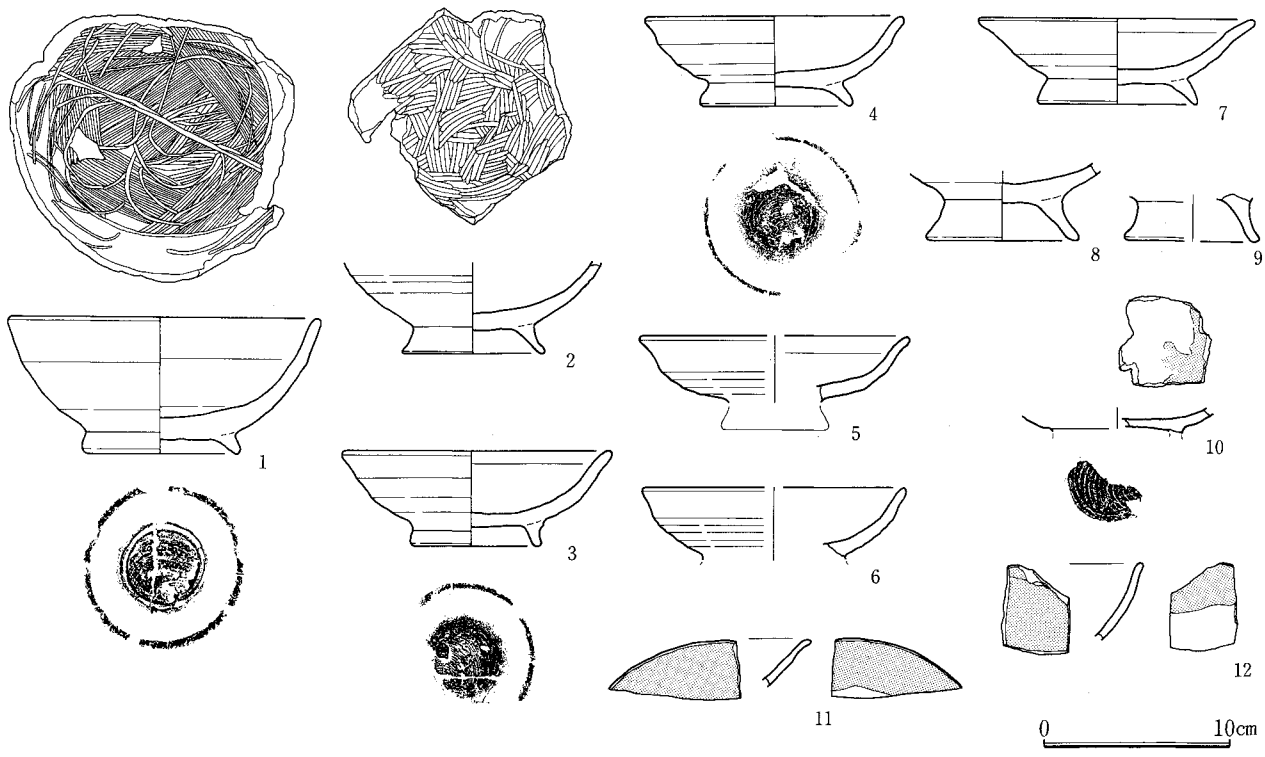
ド　東壁中央。10石と白色粘土がのこる。全長134cmで壁外掘り込み70cm、燃焼部分長65cmで袖部内幅50cm。燃焼部より壁へはゆるやかな掘り込みとなる。燃焼部は床面－15cm。　**貯蔵穴**　円形。南東隅。108×85×9cm。　**重複関係**　W－10と重複。本遺構が旧い。　**遺物**　坏、甕が出土。

H86号住居跡　(図－117・118・119　表4－33・34　図版－2・41)

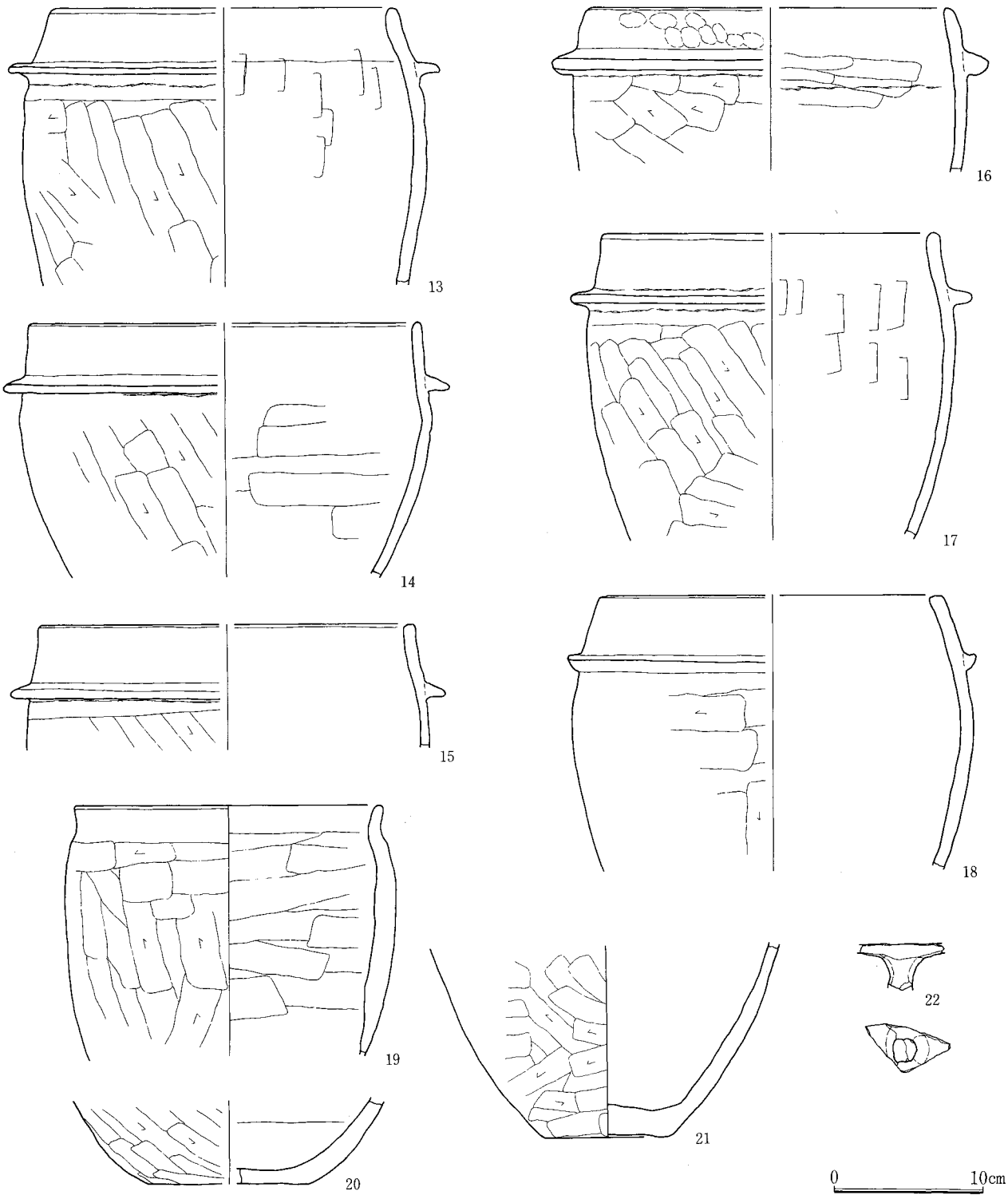
位置　調査区北東のI－138区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸。規模は東西が4.4mで南北が2.8m、面積は11.73m²。壁現高は30～37cm。周溝は北壁下東2分の1から東壁北隅で検出されている。巾4～13cmで、深さ2cm。長軸方位はN－99°－E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1 (87×73×73cm)、P_2 (36×32×23cm)、P_3(33×33×22cm)。　**カマド**　東壁南隅。石材13石が集中して検出されている。全長65cmで壁外掘り込み60cm、燃焼部分長35cm、袖部内幅50cm。燃焼部はほぼ壁内で、煙道へは急な立ちあがりをもつ。床面－5cmのレベル。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。50×38×40cm。　**重複関係**　K－3と重複。本遺構が新しい。　**遺物**　埦、灰釉埦、皿、羽釜、甕、把手が出土。



図－117　H－86号住居跡平・断面図



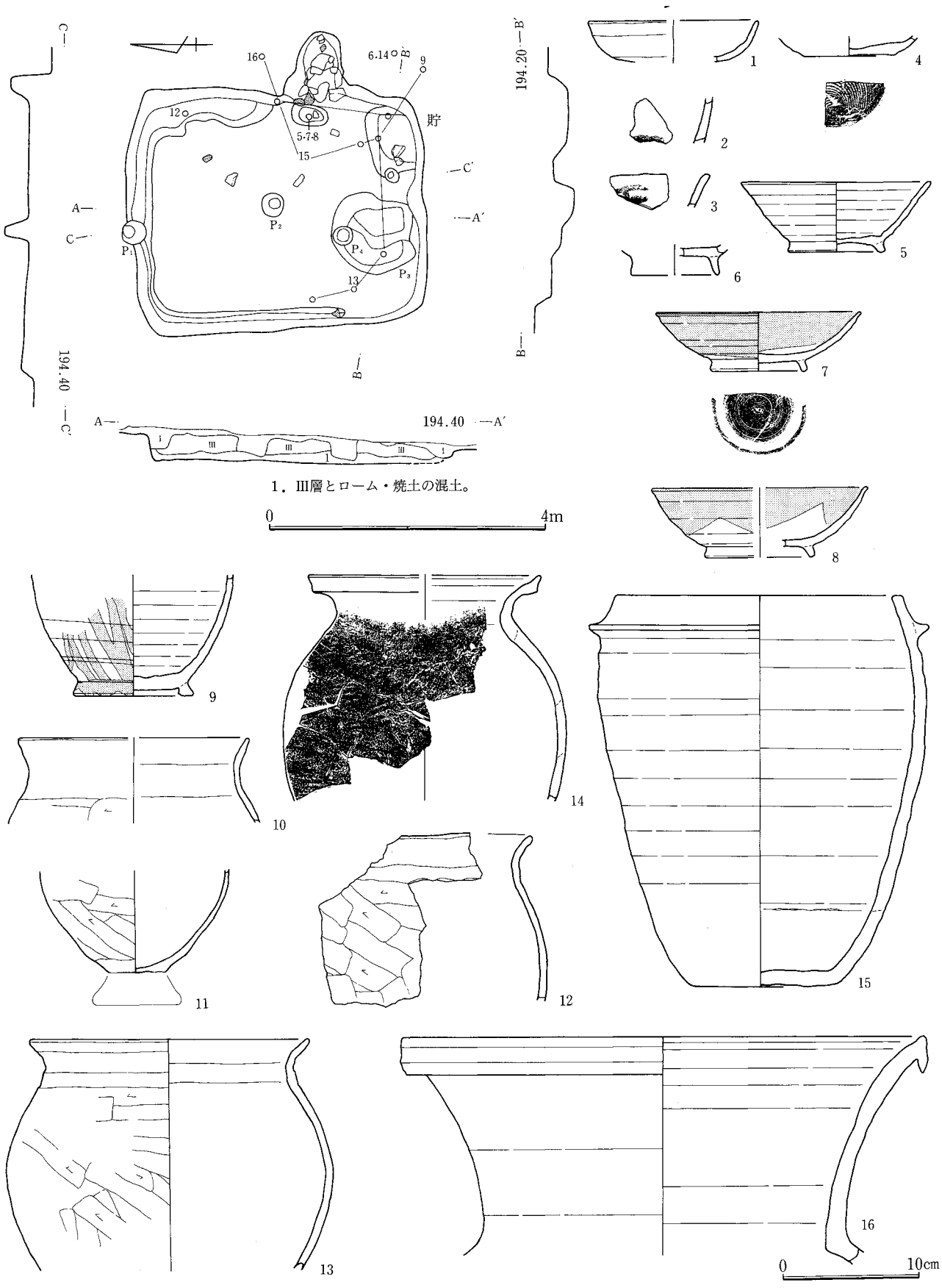
図－118　H－86号住居跡出土遺物実測図(1)



図—119　H—86号住居跡出土遺物実測図(2)

H87号住居跡　(図—120　表4—34　図版—42)

位置　調査区北東のI—138区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸に近い。規模は東西3.2mで南北4.0m。面積は12.49m²。壁現高は22～33cm。周溝は西壁下、北壁下、東壁下北2分の1で検出されている。巾3～33cmで、深さ2～7cm。長軸方位はN—1°—E。　**ピット**　P_1～P_4。P_1、北壁下、35×33×25cm。P_2、中央、34×32×29cm。P_3、南西側、111×120×31cm。P_4、南西側、P_3内。27×27×36cm。P_3は床下土坑状のもの。他は柱穴か。　**カマド**　東壁南側。17石がのこる。石組みのカマドか。全長102cm、壁外掘り込み79cm、燃焼部分長45cm、袖部内幅38cm、壁へは急な立ちあがりとなる。燃焼部は床面—15cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長方形に近い形。100×65×23cm。　**遺物**　坏、埦、灰釉埦、灰釉瓶、甕、台付甕、羽釜が出土。

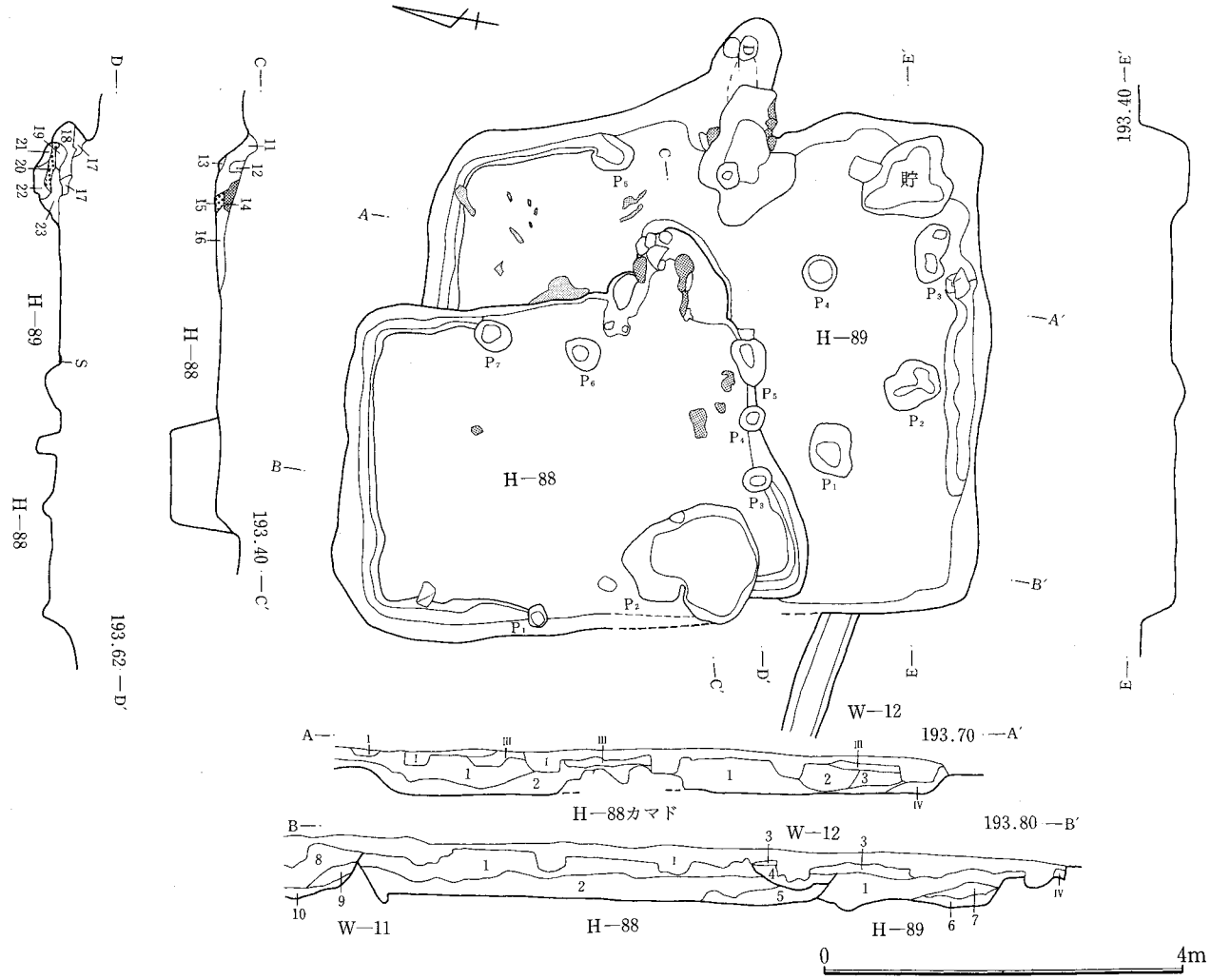


図—120　H—87号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H88・89号住居跡　（図—121・122　表4—34・35・36　図版—42・43）

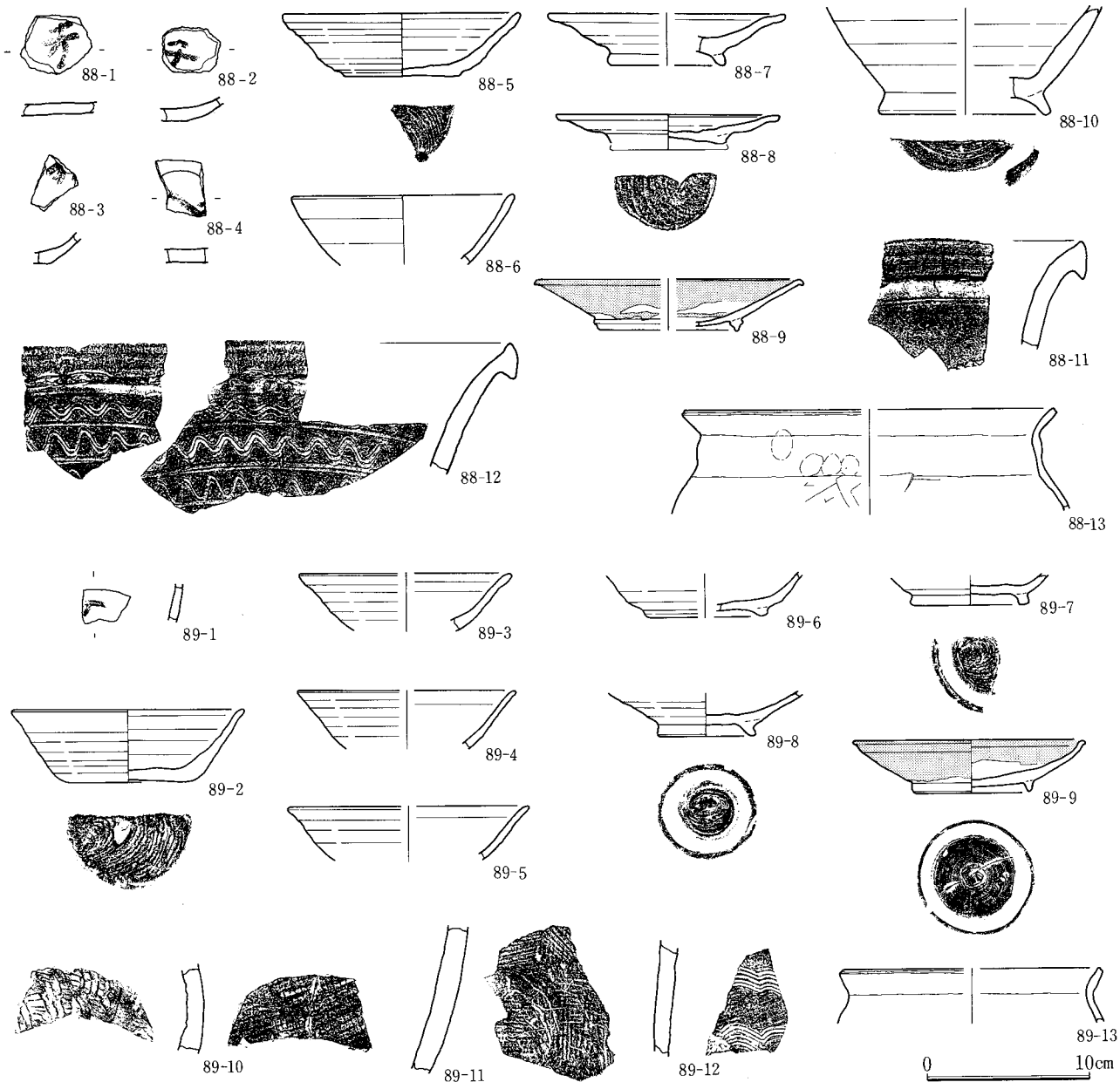
〔H88〕 **位置**　調査区北東のⅠ—137区に位置する。 **形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は南北4.9mで東西3.5m、面積は14.97㎡。壁現高は28～45cmを測る。周溝は北壁下と東西壁の北3分の1、南西隅で検出されている。全周していたものか。巾6～22cmで、深さ3～4cm。長軸方位はN—7°—E。 **ピット**　P_1～P_7。P_1（24×20×12cm）、P_2（152×127×25cm）、P_3（32×28×18cm）、P_4（29×27×31cm）、P_5（53×34×20cm）、P_6（43×33×21cm）、P_7（41×32×15cm）。P_1、P_3～P_7は柱穴。P_2は床下土坑か。 **カマド**　南東隅。石材11石と粘土がのこる。全長112cm、壁外掘り込み87cm、燃焼部分長55cm、袖部内幅50cm。燃焼部より煙道へは急な立ちあがりである。燃焼部は床面—6cm。 **重複関係**　H—89と重複する。H—88が新しい。W—12と重複する。W—12が新しい。 **遺物**　坏、皿、灰釉折縁皿、瓶、甕が出土。

〔H89〕 **位置**　調査区北東のⅠ—137区に位置する。 **形状**　方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西5.1mで、南北4.22m。面積は16.53㎡。壁現高は29～38cmを測る。周溝は北東隅で検出された。巾4～13cmで、深さ3～6cm。長軸方位はN—7°—E。 **ピット**　床面5ヵ所。P_1（56×45×32cm）、P_2（41×37×27cm）、P_3（67×46×19cm）、P_4（42×38×10cm）、P_5（67×34×31cm）。P_1、P_4は主柱穴。$P_{2\sim5}$は施設の柱カ。 **カマド**　東壁中央。石材がのこる。カマド壁は石で作られており、焚き口に近いところは載り石を使用。石材には角安を含む。全長232cmで壁外掘り込み130cm、燃焼部分長91cm、袖部内幅52cm。燃焼部は床面—20cmで煙道へは急な立ちあがりとなる。 **貯蔵穴**　変形の円形。南東隅。97×81×28cm。 **重複関係**　H—88と重複。H—89が旧い。北に接してW—11が通る。またH—88との重複部がW—12と重複する。いずれも住居後のもの。 **遺物**　坏、埦、灰釉輪花皿、甕が出土。



1．褐色土にⅣ層混土。
2．1層に似る。
3．1層に似る。Ⅳ層混土多い。
4．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土混入。
5．2層とローム塊混土。
6．ローム塊。
7．Ⅲ層に似る。
8．Ⅳ層に似る。
9．Ⅳ層とロームの混土。
10．Ⅳ層とローム塊混土。
11．灰と焼土と炭化物混土。
12．粘土と焼土の混土。
13．黒褐色土。
14．粘土。
15．焼土。
16．黒褐色土と炭化物と焼土の混土。
17．ロームと粘土の混土。
18．灰と焼土の混土。
19．灰と焼土多量の混土。
20．焼土。
21．灰と粘土の混土。
22．灰層。
23．灰と粘土と炭化物の混土。

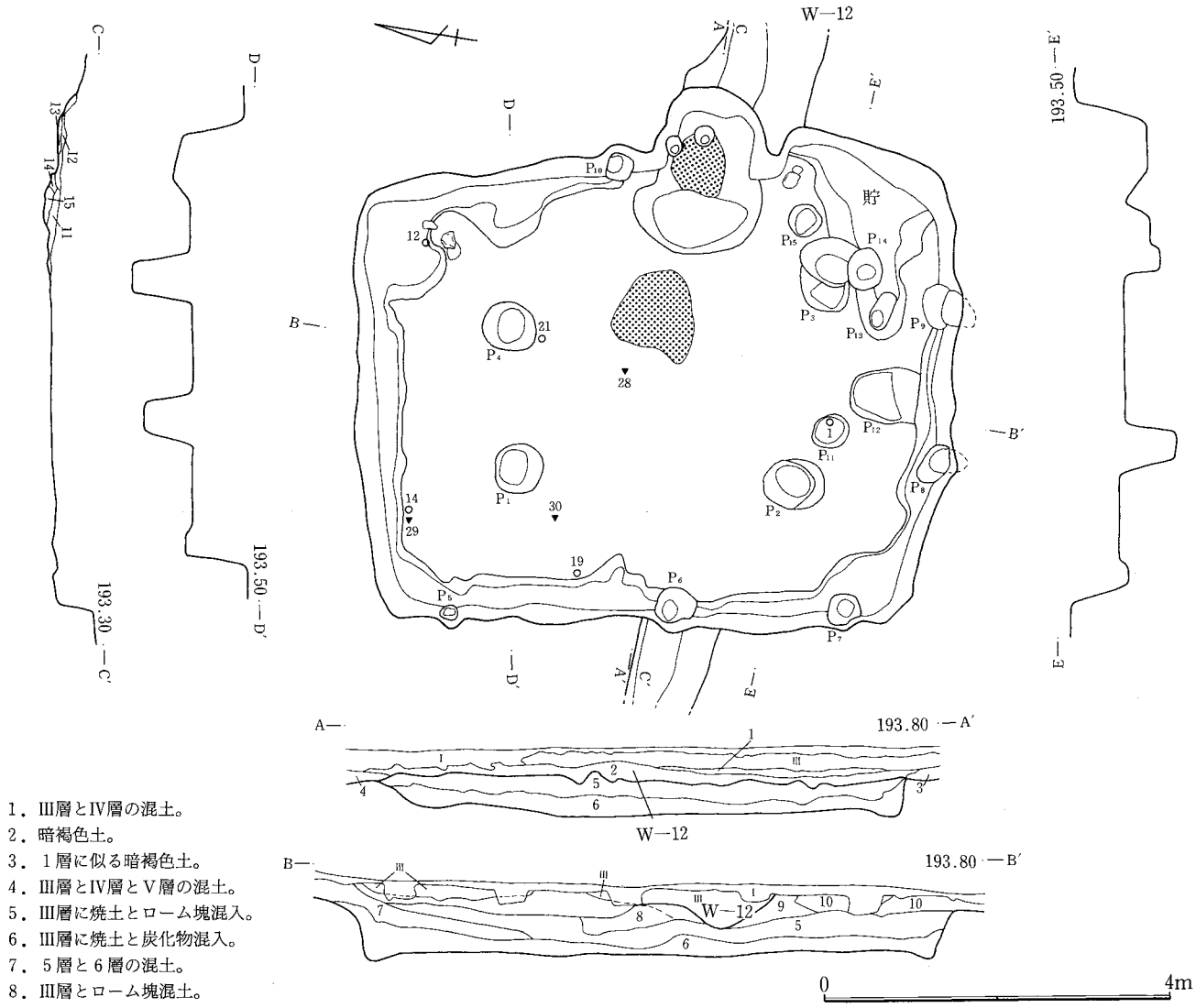
図—121　H—88・89号住居跡平・断面図



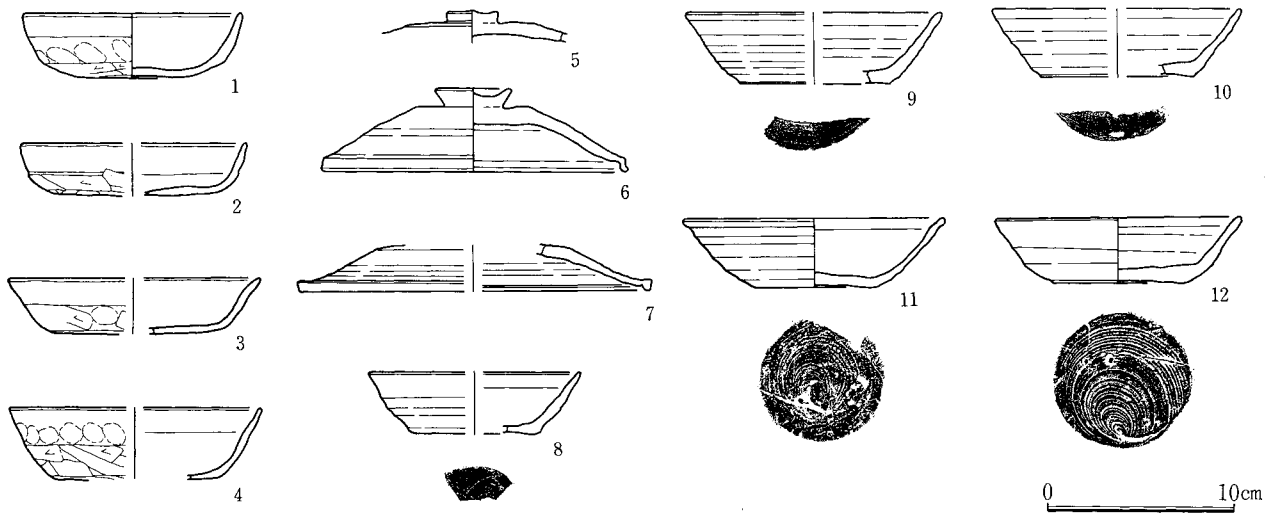
図—122　H—88・89号住居跡出土遺物実測図

H90号住居跡　(図—123・124　表4—36　図版—2・43)

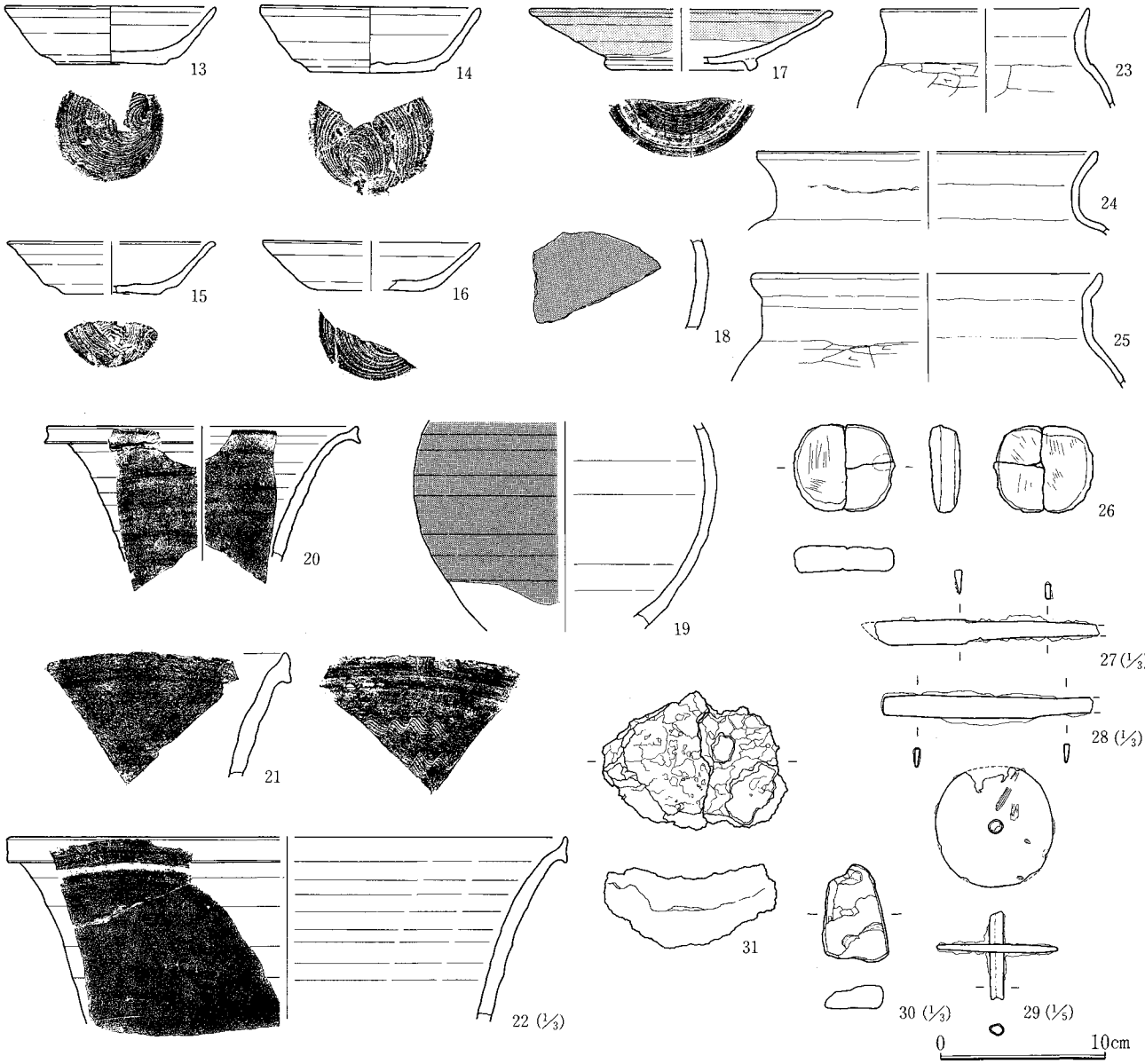
位置　調査区北東のⅠ—119区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。南辺はやや外にはらむが、他はほぼ直。隅角は南側は隅丸に近いが、北側は直に近い。規模は東西4.9mで南北6.5m、面積は31.97m²。壁現高は48～63cmを測る。周溝が全周する。巾6～30cmで、深さ7～10cm。長軸方位はN－8°－E。カマド前に焼土範囲。90×90cm。　**ピット**　17基。P_1～P_4は主柱穴。P_5～P_9は壁柱穴。$P_{11\sim14}$は入口施設にかかわるものか。$P_{10,15}$はカマド関連のものか。P_1(85×56×41cm)、P_2(53×53×55cm)、P_3(71×58×62cm)、P_4(55×60×67cm)、P_5(21×15×47cm)、P_6(47×40×59cm)、P_7(38×39×56cm)、P_8(45×33×41cm)、P_9(50×50×36cm)、P_{10}(43×36×24cm)、P_{11}(49×40×58cm)、P_{12}(38×37×20cm)、P_{13}(33×30×54cm)、P_{14}(20×18×13cm)、P_{15}(23×23×24cm)。$P_{8,9}$は壁に斜めに入っている。　**カマド**　東壁中央。白色粘土のこる。全長192cmで、壁外掘り込み78cm、燃焼部分長75cm、袖部内幅97cm。ゆるやかな掘り込み。燃焼部は床面－1cm。　**貯蔵穴**　南東隅。三角形。190×90×22cm。　**重複関係**　W—12と重複。W—12が新しい。　**遺物**　坏、蓋、灰釉皿、瓶、甕、砥石、刀子、紡錘具、鍛冶椀形滓が出土。



1．Ⅲ層とⅣ層の混土。
2．暗褐色土。
3．1層に似る暗褐色土。
4．Ⅲ層とⅣ層とⅤ層の混土。
5．Ⅲ層に焼土とローム塊混入。
6．Ⅲ層に焼土と炭化物混入。
7．5層と6層の混土。
8．Ⅲ層とローム塊混土。
9．B灰層を含む暗褐色土。
10．B灰層を含む灰色焼土層。
11．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土とローム塊混入。
12．焼土と白色粘土の混土。
13．焼土と灰の混土。
14．白色粘土に焼土塊混入。
15．焼土と白色粘土と灰の混土。



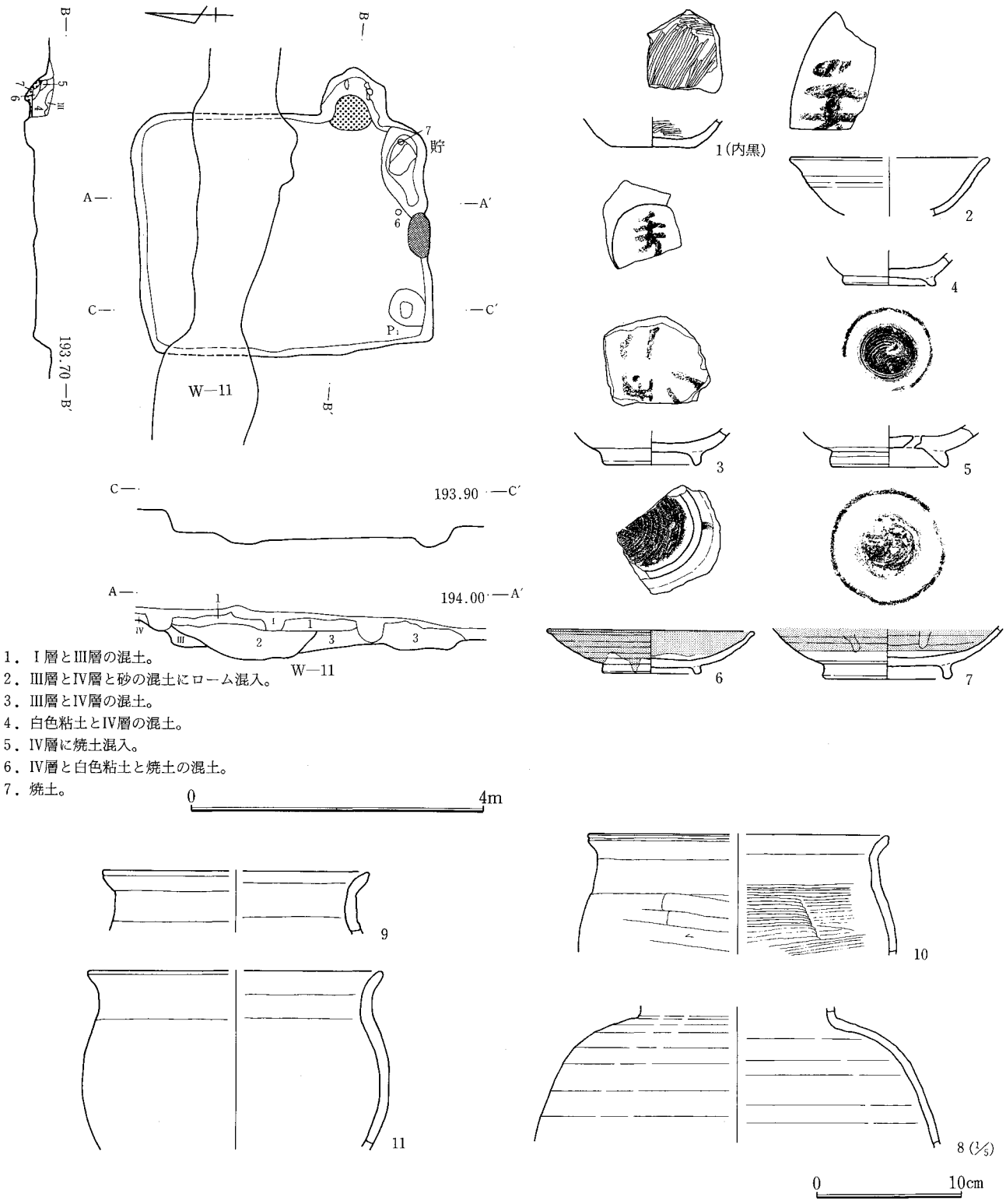
図—123　H—90号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—124　H—90号住居跡出土遺物実測図(2)

H91号住居跡　(図—125　表4—37・38　図版—2・44)

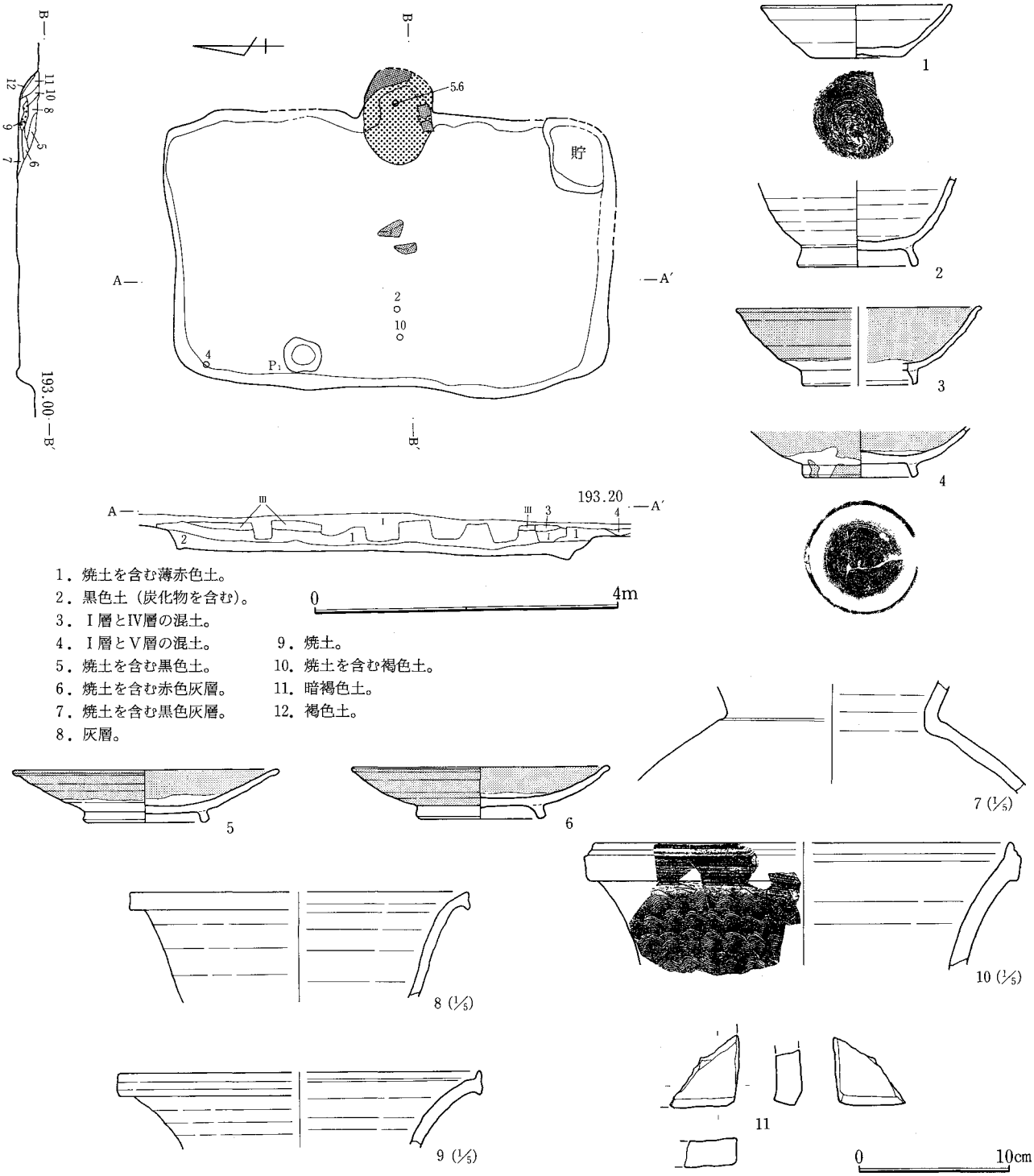
位置　調査区北東のI—119区に位置している。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角は直に近い。規模は東西3.1mで南北3.8m、面積は11.36m²。壁現高は9～28cmを測る。周溝はない。長軸方位はN—2°—E。　**ピット**　P_1。南西隅。58×49×16cm。　**カマド**　東壁南端。石材と白色粘土がのこる。全長72cmで壁外掘り込み55cm、燃焼部長38cm、袖部内幅55cm、煙道へは急な立ちあがりを示す。燃焼部は床面—7cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。125×63×26cm。　**重複関係**　W—11。H—91が旧い。　**遺物**　内黒坏、坏、埦、灰釉皿・埦、甕が出土。



図—125　H—91号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H92号住居跡　(図—126　表4—38　図版—44)

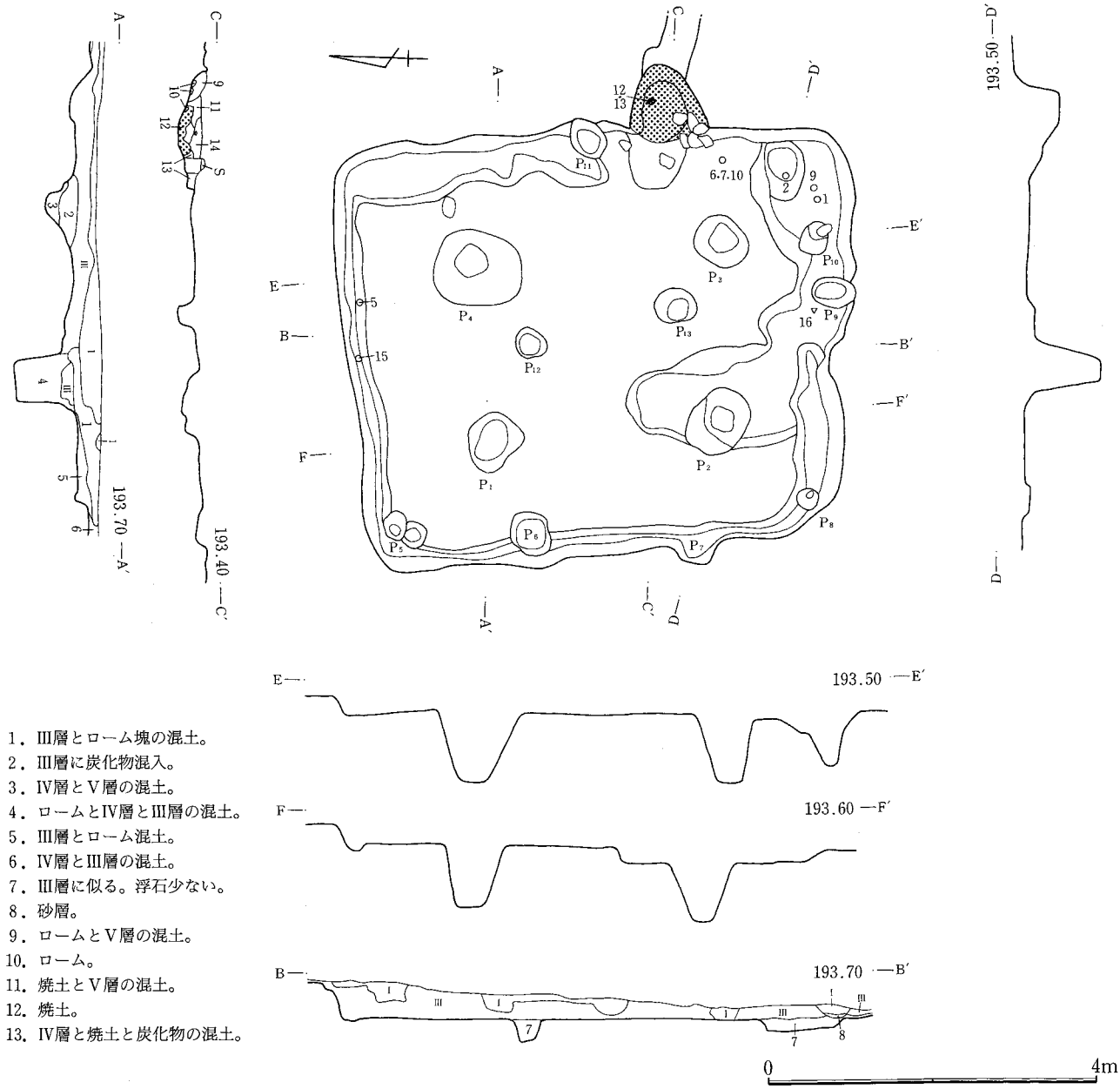
位置　調査区北東のⅠ—118区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅角は隅丸に近い。規模は東西3.3mで南北5.4m、面積は18.13m²。壁現高は18～34cmを測る。長軸方位はN—1°—W。　**ピット**　西壁前にP_1。51×44×37cm。　**カマド**　東壁中央。石材がのこる。全長124cmで壁外掘り込み62cm。燃焼部分長52cm、袖部内幅46cm。壁への掘り込みはゆるやかで、燃焼部は床面と±0cmのレベル。　**貯蔵穴**　南東隅。長方形。100×68×15cm。　**重複関係**　ピット群が床面下より検出されている。掘立柱建物の可能性もあるが不明。　**遺物**　坏、埦、灰釉埦、皿、甕が出土。



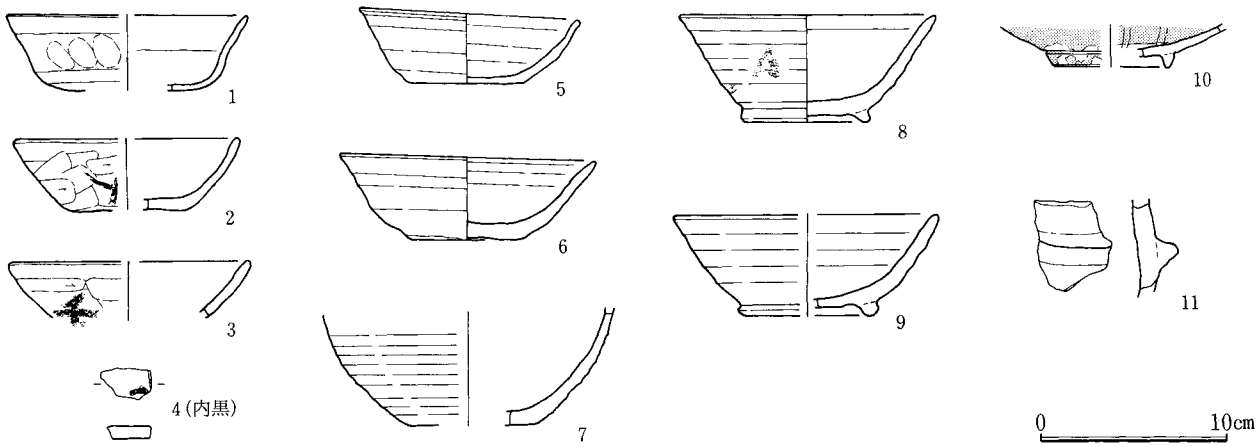
図—126　H—92号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H93号住居跡　（図—127・128　表4—38　図版—45）

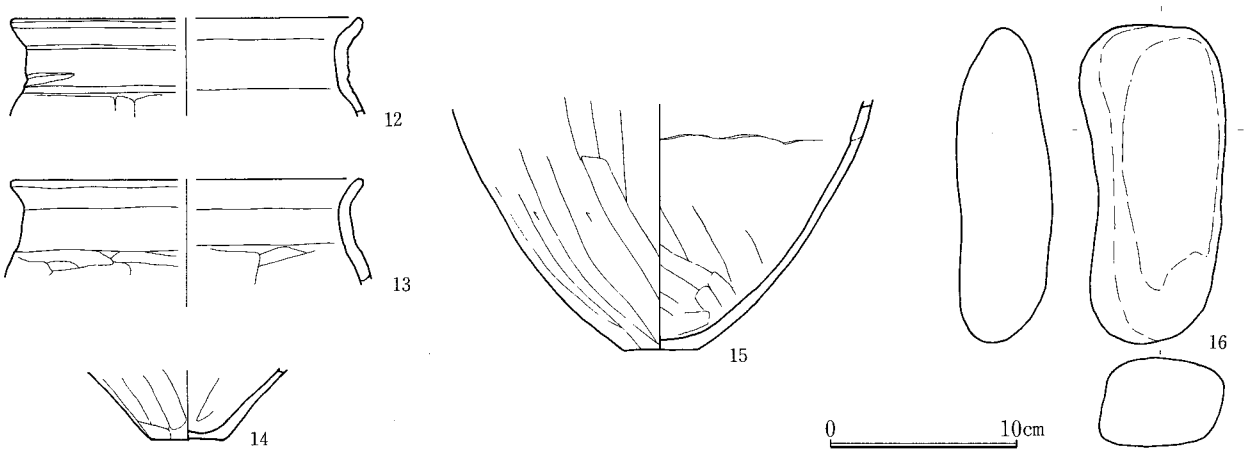
位置　調査区北東のⅠ—137区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、各隅角も直に近い。規模は東西5.0mで、南北6.0m、面積は28.15m²。壁現高は3～37cmを測る。周溝が全周する。巾5～53cmで、深さ3～9cm。長軸方位はN—5°—E。　**ピット**　床面13ヵ所。P_1～P_4は主柱穴。P_5～P_{10}は壁柱穴。P_{11}はカマドに伴うもので、$P_{12,13}$は控柱か。P_1（107×93×77cm）、P_2（73×67×76cm）、P_3（93×65×79cm）、P_4（66×57×79cm）、P_5（35×31×21cm）、P_6（34×32×7cm）、P_7（53×46×20cm）、P_8（25×24×27cm）、P_9（53×38×21cm）、P_{10}（43×32×19cm）、P_{11}（55×40×21cm）、P_{12}（38×37×27cm）、P_{13}（53×44×24cm）。　**カマド**　東壁南側。石材10石のこる。全長155cmで壁外掘り込み81cm、燃焼部分長80cm、袖部内幅35cm。燃焼部は床面—17cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。74×49×40cm。　**重複関係**　W—12と重複。W—12が新しい。　**遺物**　坏、内黒坏、鉢、埦、灰釉皿、羽釜、甕が出土。



1．Ⅲ層とローム塊の混土。
2．Ⅲ層に炭化物混入。
3．Ⅳ層とⅤ層の混土。
4．ロームとⅣ層とⅢ層の混土。
5．Ⅲ層とローム混土。
6．Ⅳ層とⅢ層の混土。
7．Ⅲ層に似る。浮石少ない。
8．砂層。
9．ロームとⅤ層の混土。
10．ローム。
11．焼土とⅤ層の混土。
12．焼土。
13．Ⅳ層と焼土と炭化物の混土。



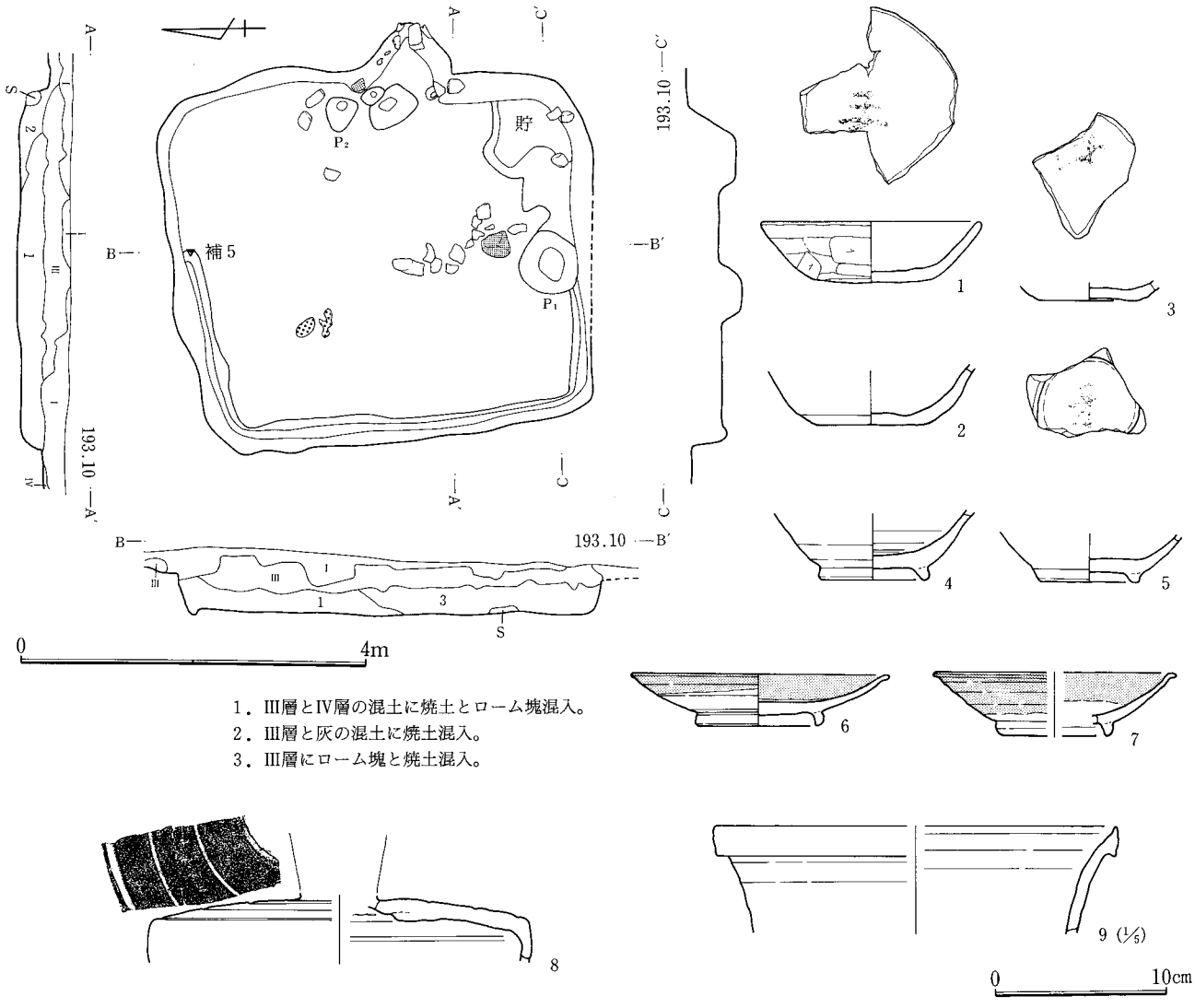
図—127　H—93号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—128　H—93号住居跡出土遺物実測図(2)

H94号住居跡　(図—129　表4—39　図版—45)

位置　調査区北東のⅠ—100区に位置する。　**形状**　方形。各辺はほぼ直に近く、各隅角は直に近い。規模は東西4.0mで、南北4.5m、面積は17.01m²。壁現高は32～52cmを測る。周溝は北東隅を除き全周する。巾9～23cmで、深さ6cm。長軸方位はN—2°—E。床面中央部に大量の石材がのこる。　**ピット**　P_1、P_2。P_1は南壁下。72×74×27cm。P_2はカマドの北、42×37×—cm。　**カマド**　東壁中央南。石材がのこる。全長132cmで壁外掘り込み56cm、燃焼部分長50cm、袖部内幅48cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。112×96×18cm。　**遺物**　坏、埦、灰釉皿、長頸壺、甕が出土。

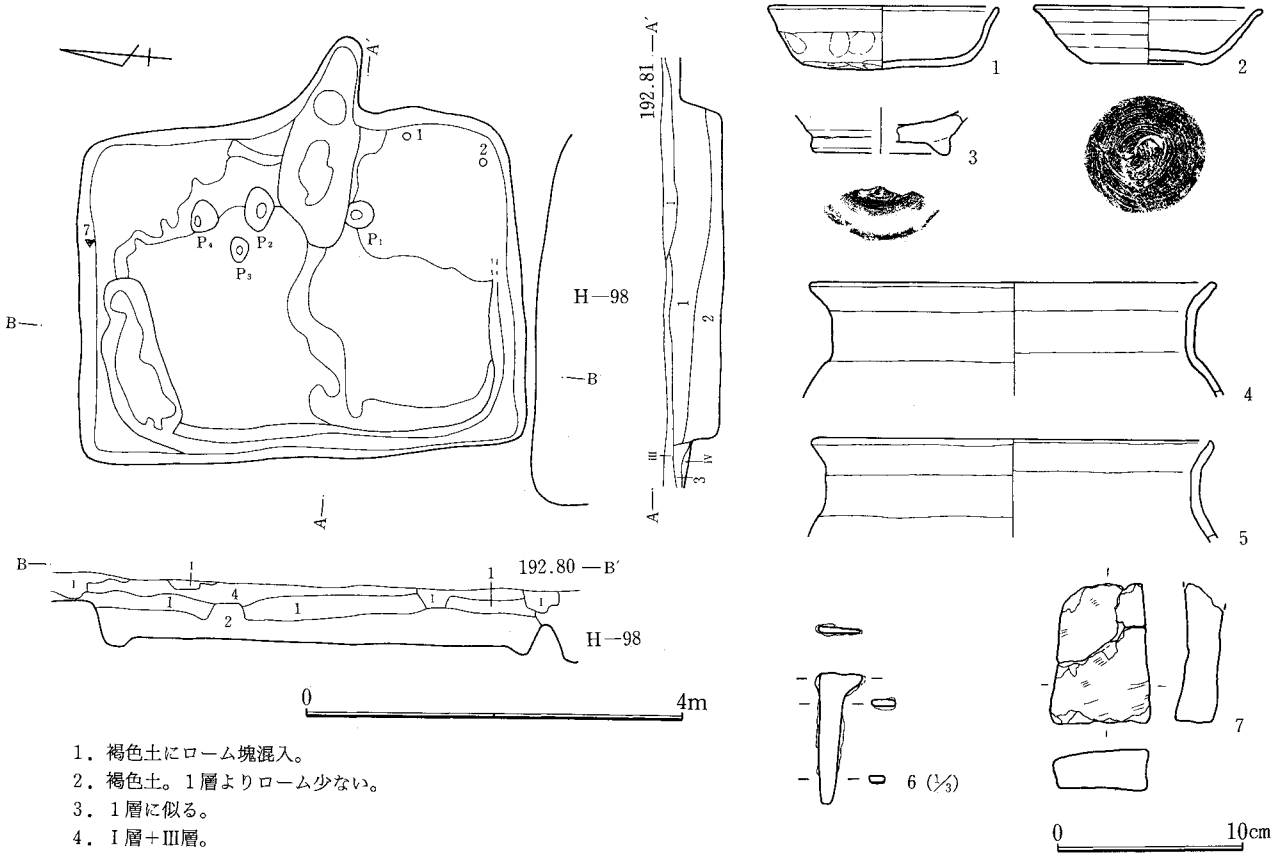


1．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土とローム塊混入。
2．Ⅲ層と灰の混土に焼土混入。
3．Ⅲ層にローム塊と焼土混入。

図—129　H—94号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H95号住居跡　(図—130　表4—40　図版—2・46)

位置　調査区北東のI—100区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.3mで南北4.4m、面積は14.94m²である。壁現高は44～62cmを測る。周溝は西壁下と南北壁下西2分の1に検出されている。巾12～38cmで、深さ9～10cm。長軸方位はN—5°—E。床面南西部に落ち込み。220×190×33cm。床下土坑と考えられる。　**ピット**　P_1～P_4。$P_{1,2}$はカマド袖石跡と考えられる。P_1(47×50×10cm)、P_2(29×29×40cm)、P_3(36×28×16cm)、P_4(31×28×12cm)。　**カマド**　東壁中央。全長224cm、壁外掘り込み80cm、燃焼部分長70cm、袖部内幅76cm、燃焼部は床面—31cm。　**重複関係**　H—98と重複。地層断面よりH—95が旧。　**遺物**　坏、埦、甕、砥石が出土。

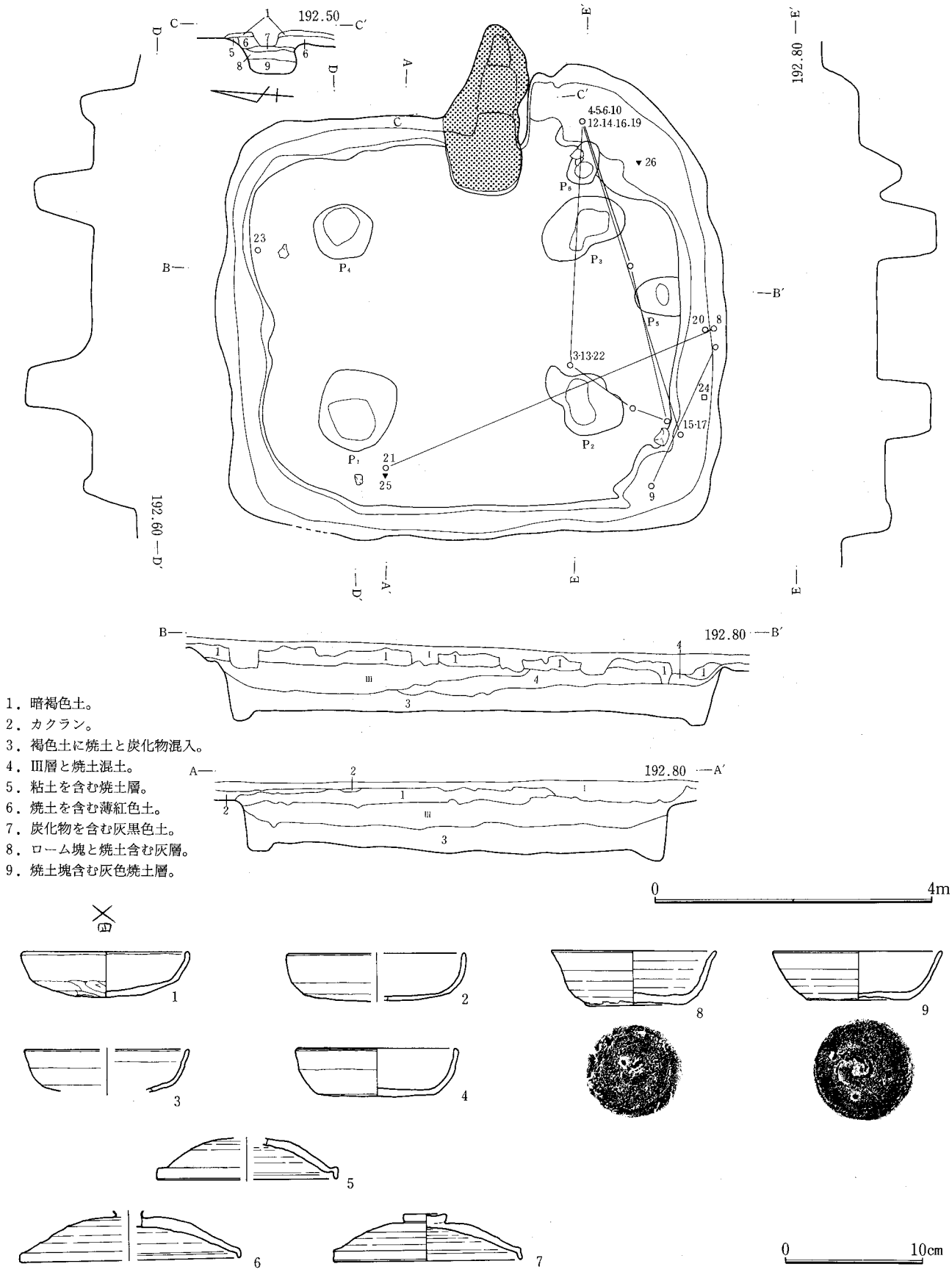


1．褐色土にローム塊混入。
2．褐色土。1層よりローム少ない。
3．1層に似る。
4．I層+III層。

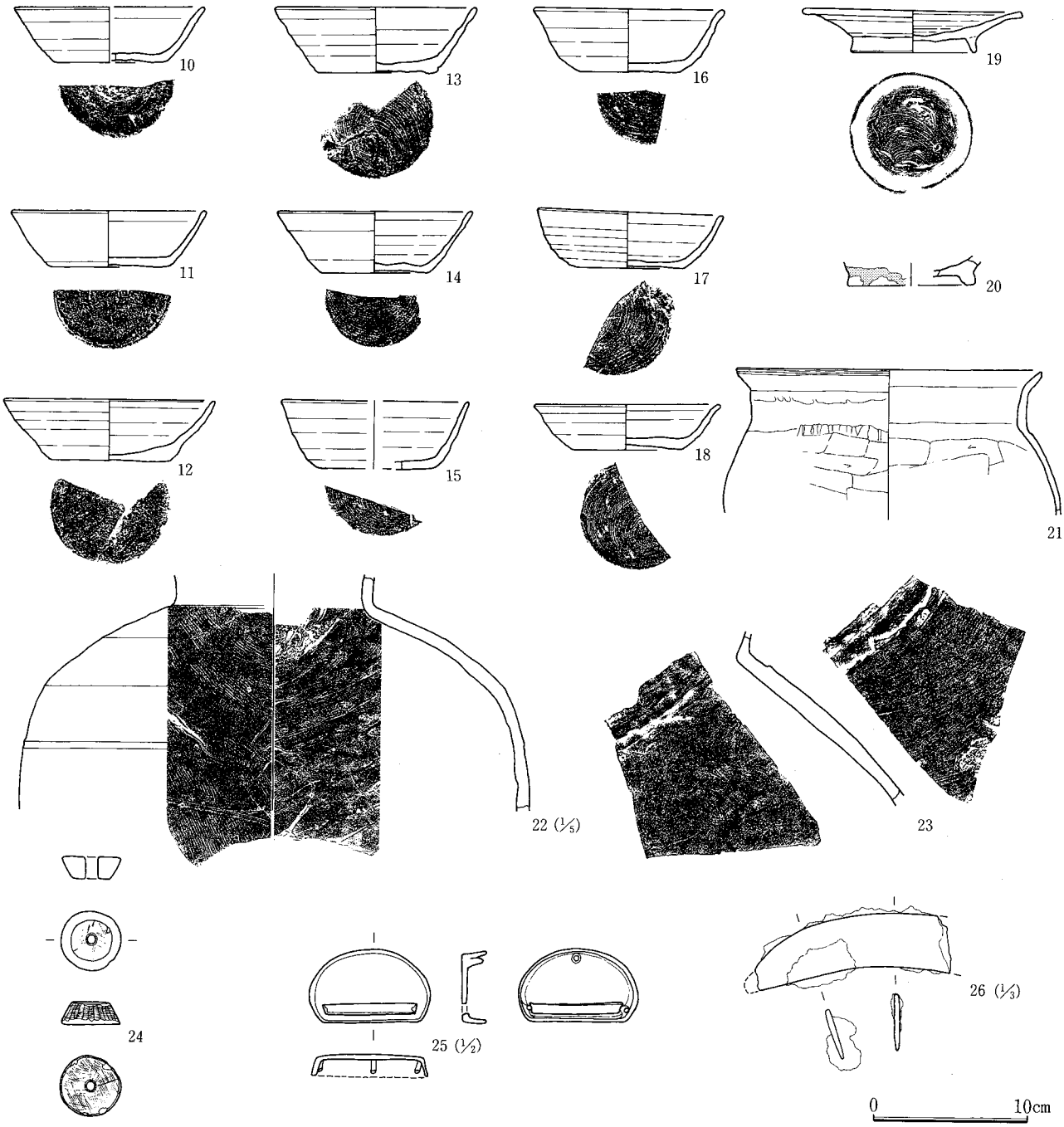
図—130　H—95号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H96号住居跡　(図—131・132　表4—40　図版—2・3・46)

位置　調査区北東のI—118区に位置する。　**形状**　方形。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸。規模は東西5.9mで南北6.8m、面積は38.21m²。壁現高は48～78cmを測る。周溝は全周する。巾12～53cmで、深さ8～22cm。広くしっかりしている。長軸方位はN—1°—E。　**ピット**　P_1～P_6。$P_{1\sim4}$は主柱穴。P_5は入口施設関連のものか。P_1(122×72×87cm)、P_2(132×103×91cm)、P_3(87×83×74cm)、P_4(87×79×85cm)、P_5(70×56×41cm)、P_6(39×39×46cm)。　**カマド**　東壁中央　灰色粘土がのこる。全長244cm、壁外掘り込み95cm、燃焼部分長118cm、ゆるやかな掘り込み。燃焼部は床面—24cm。　**遺物**　坏、蓋、灰釉瓶、皿、甕、紡錘車、丸鞆、鎌が出土。



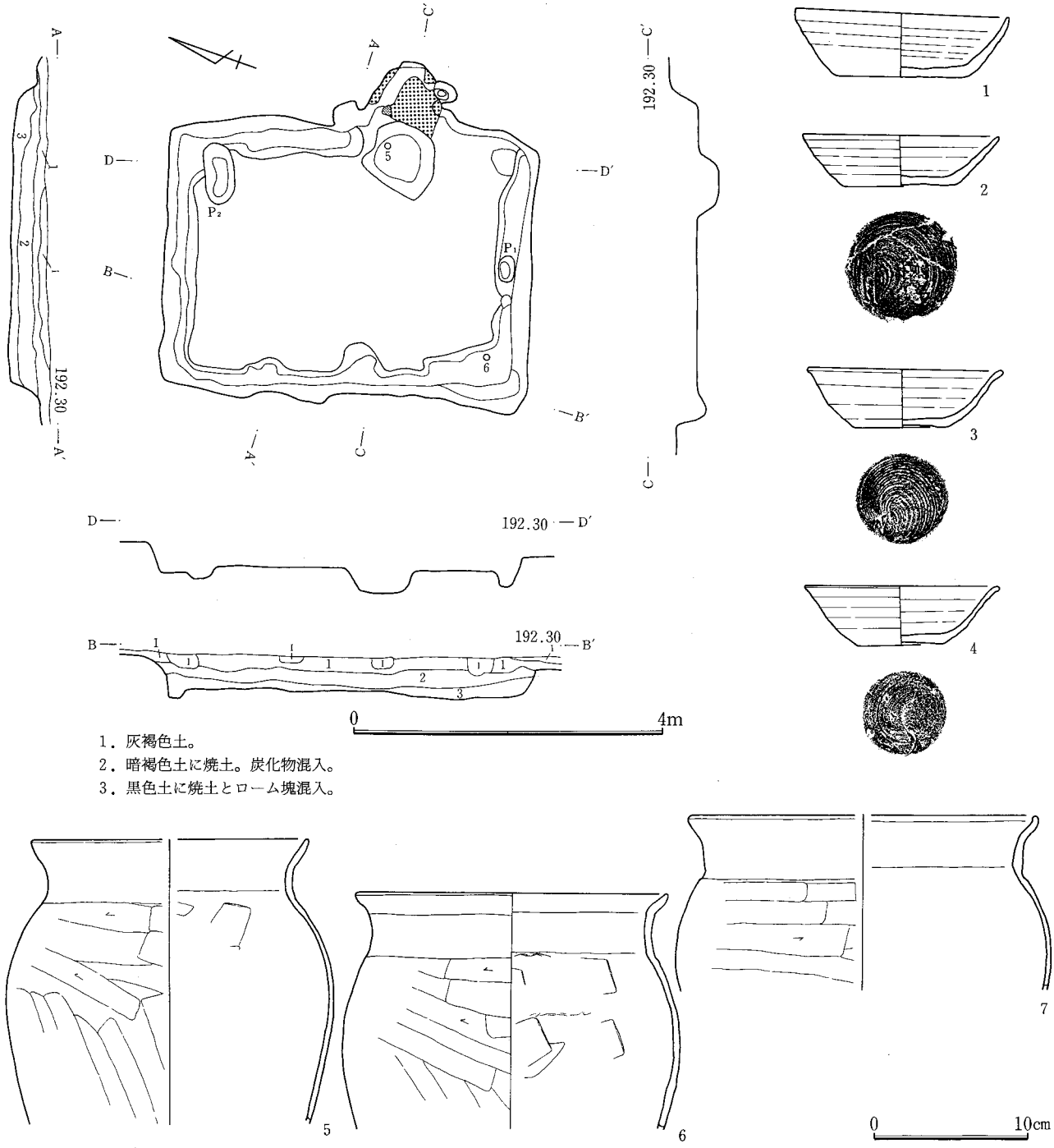
図—131　H—96号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—132　H—96号住居跡出土遺物実測図(2)

H97号住居跡　(図—133　表4—41・42　図版—3・47)

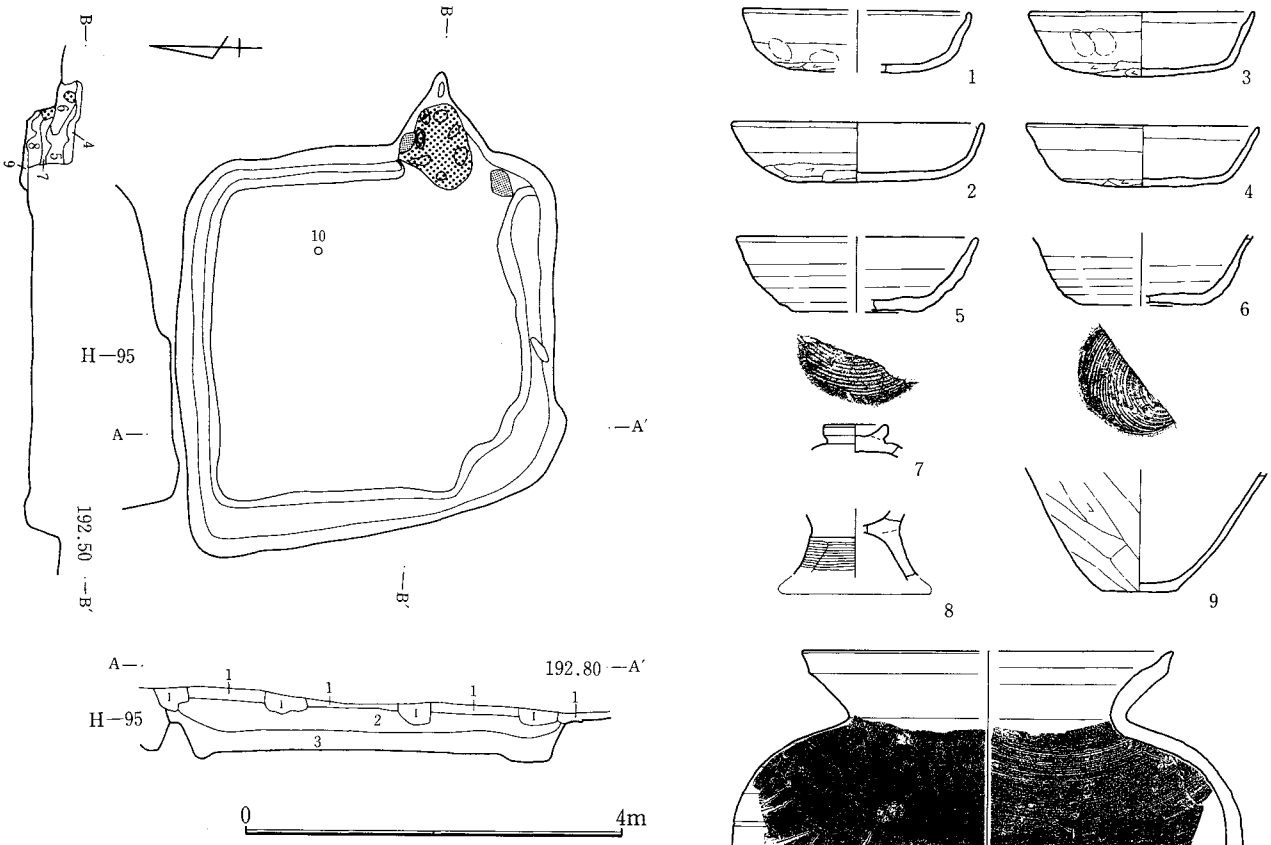
位置　調査区北東のⅠ—99区。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.3mで南北4.4m、面積は14.73m²。壁現高は19～32cmを測る。周溝はカマド南を除き全周する。巾16～51cmで、深さ6～20cm。長軸方位はN—15°—E。　**ピット**　P_1、P_2。P_1 (33×22×34cm)、P_2 (79×39×18cm)。　**カマド**　東壁南側。全長179cmで壁外掘り込み94cm、燃焼部分長64cm、袖部内幅53cm、壁へは急な掘りこみ。燃焼部は床面－2cm。　**遺物**　坏、甕が出土。



図—133　H—97号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H98号住居跡　（図—134　表4—42　図版—47）

位置　I—100区。　**形状**　方形。南辺はやや外にはらむが、他は直。隅角は南側は丸に近く、北側は直に近い。規模は東西3.8mで南北3.7m、面積は13.74㎡。壁現高は27～39cmを測る。周溝は全周する。巾10～42cmで、深さ4～12cm。長軸方位はN－0°。　**カマド**　東壁南端。白色粘土がのこる。全長124cmで、壁外掘り込み82cm、燃焼部分長90cm、袖部内幅30cm、壁へは急な立ちあがり。燃焼部は床面－27cm。　**重複関係**　H—95と重複。H—98が新しい。　**遺物**　坏、蓋、台付甕、甕が出土。

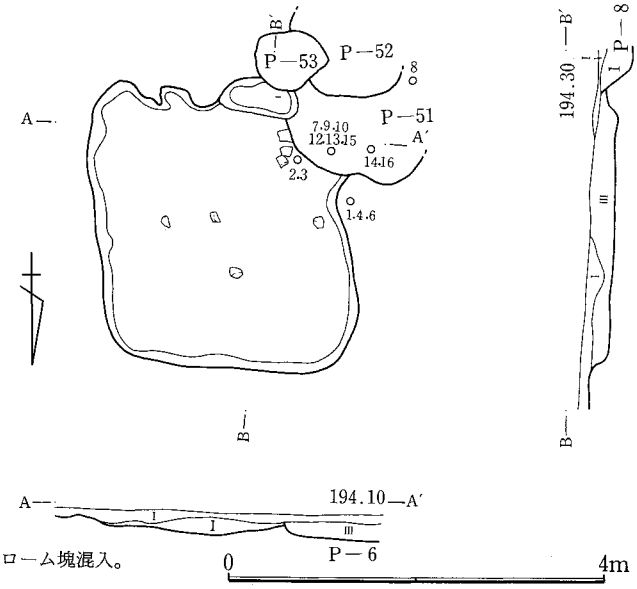


1．Ⅰ層とⅢ層の混土。
2．Ⅲ層に炭化物混入。
3．2層に似る。炭化物多い。
4．ロームとⅢ層の混土。
5．Ⅲ層にロームと炭化物混入。
6．Ⅳ層に焼土と炭化物混入。
7．Ⅳ層に焼土多く混入。
8．焼土と灰と炭化物の混土。
9．灰層。

図—134　H—98号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

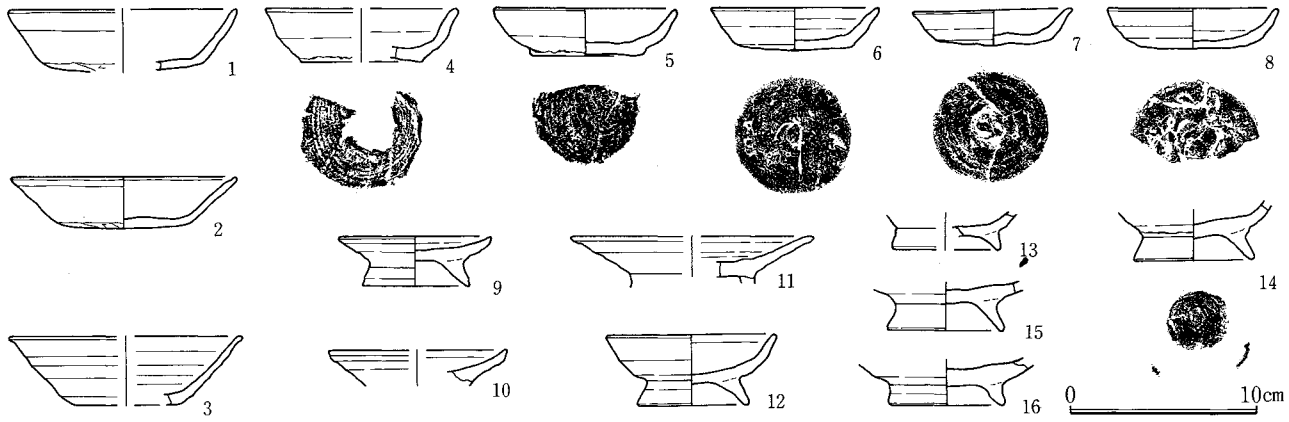
H99号住居跡　（図—135・136　表4—42　図版—48）

位置　調査区北東のⅠ—193区に位置する。　**形状**　各辺はやや外にはらみ、各隅角は隅丸に近い。規模は東西2.4mで、南北2.6m、面積は6.43㎡。壁現高は13～17cmを測る。長軸方位はN—3°—E。　**カマド**　南西端に石材が多数のこり、遺物の検出が多いので、この辺にあったものか。詳細はP—51～53の重複で失なわれて不明。　**重複関係**　P—51～53に重複。H—99が旧い。　**遺物**　坏、小形坏、小形皿、皿、小形埦、埦が出土。



1．Ⅲ層にローム塊混入。

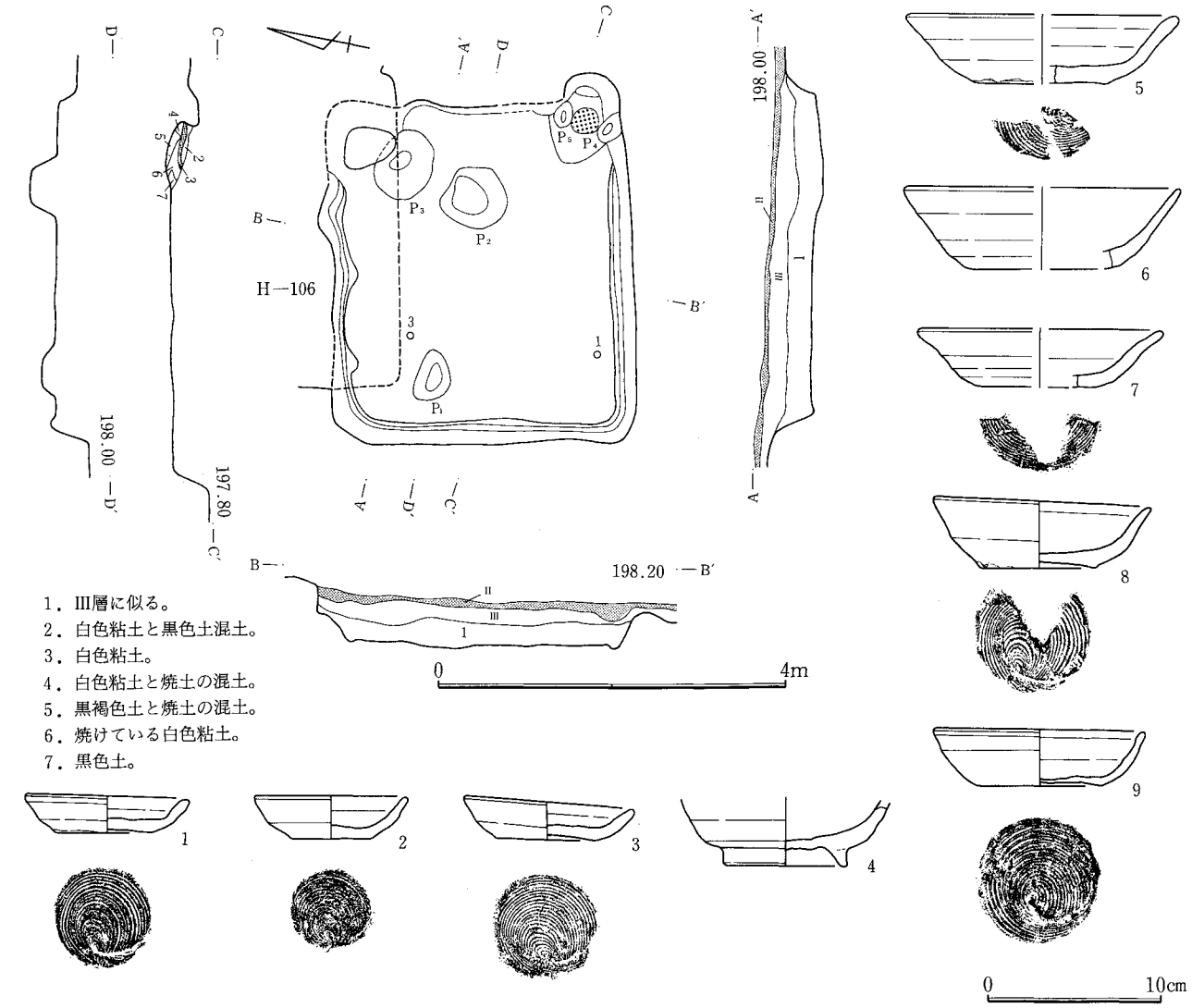
図—135　H—99号住居跡平・断面図



図—136　H—99号住居跡出土遺物実測図

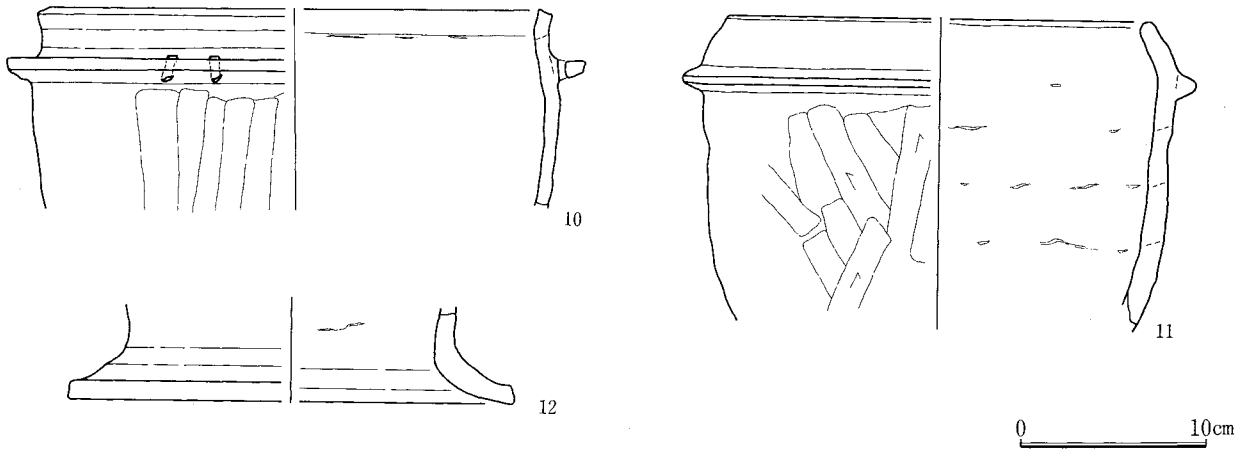
H100号住居跡　(図—137・138　表4—43・44　図版—3・48)

位置　調査区北東のI—178区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。各辺はほぼ直で、北西隅は隅丸、南西隅はほぼ直である。規模は東西3.7mで南北3.2m、面積は11.86㎡。壁現高は35～45cmを測る。周溝は東壁下を除き全周する。巾6～8cm。長軸方位はN—10°—E。　**ピット**　P_1～P_5。$P_{4,5}$はカマド袖石の跡。P_1(71×66×28cm)、P_2(60×41×10cm)、P_3(85×52×—cm)、P_4(32×30×—cm)、P_5(37×26×—cm)。　**カマド**　東壁南隅。白色粘土がのこる。カマ掘



図—137　H—100号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)

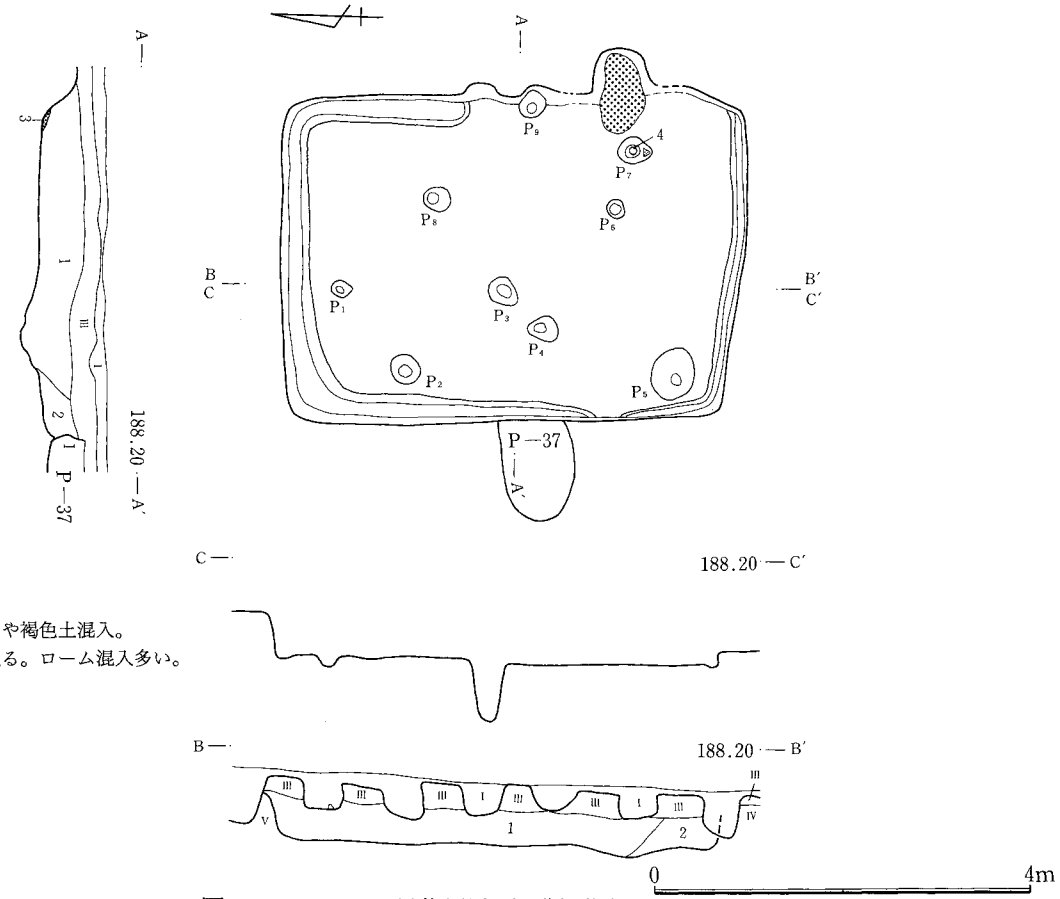
りで上部削平があり、不明な点がある。燃焼部分長27cm、袖部内幅32cm、煙道へは急なあがりである。　**テフラ**　1層はB軽石を主としている。床面より45cm。　**重複関係**　H—106と重複。H—100の南北断面北端の土層がH—106の埋土。H—100が新しい。　**遺物**　小形坏、埦、坏、羽釜、甑が出土。



図—138　H—100号住居跡出土遺物実測図(2)

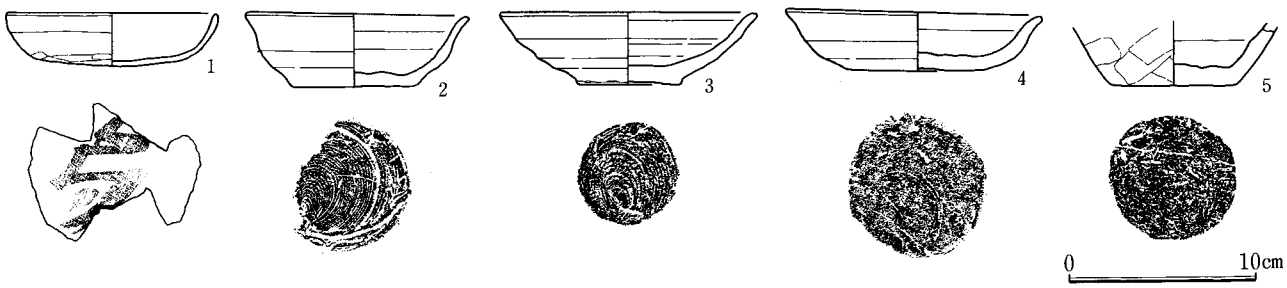
H101号住居跡　(図—139・140　表4—44　図版—49)

位置　調査区北東のI—178区に位置する。　**形状**　南北が長い長方形。南辺はややはらむが、他はほぼ直。各隅角は直に近い。規模は東西3.4mで、南北4.8m、面積は15.71m²。壁現高は40～50cmを測る。周溝はカマド周辺を除き全周する。巾4～21cmで、深さ5cm。長軸方位はN—0°。　**ピット**　P_1～P_9。やや規則性に欠けるが柱穴か。P_1(46×36×12cm)、P_2(63×62×26cm)、P_3(68×54×60cm)、P_4(62×48×37cm)、P_5(112×91×28cm)、P_6(39×36×31cm)、P_7(58×54×32cm)、P_8(54×50×45cm)、P_9(60×55×15cm)　**カマド**　東壁南隅に焼土域(90×50cm)があり、ここがカマドと考えられる。　**テフラ**　1層はB軽石を主とする土層。床面より60cm。　**重複関係**　P—37と重複。P—37が旧い。このピットは時期不明だが、土層からみると住居に近い時期か。　**遺物**　坏、羽釜が出土。



1．III層にやや褐色土混入。
2．1層に似る。ローム混入多い。
3．焼土。

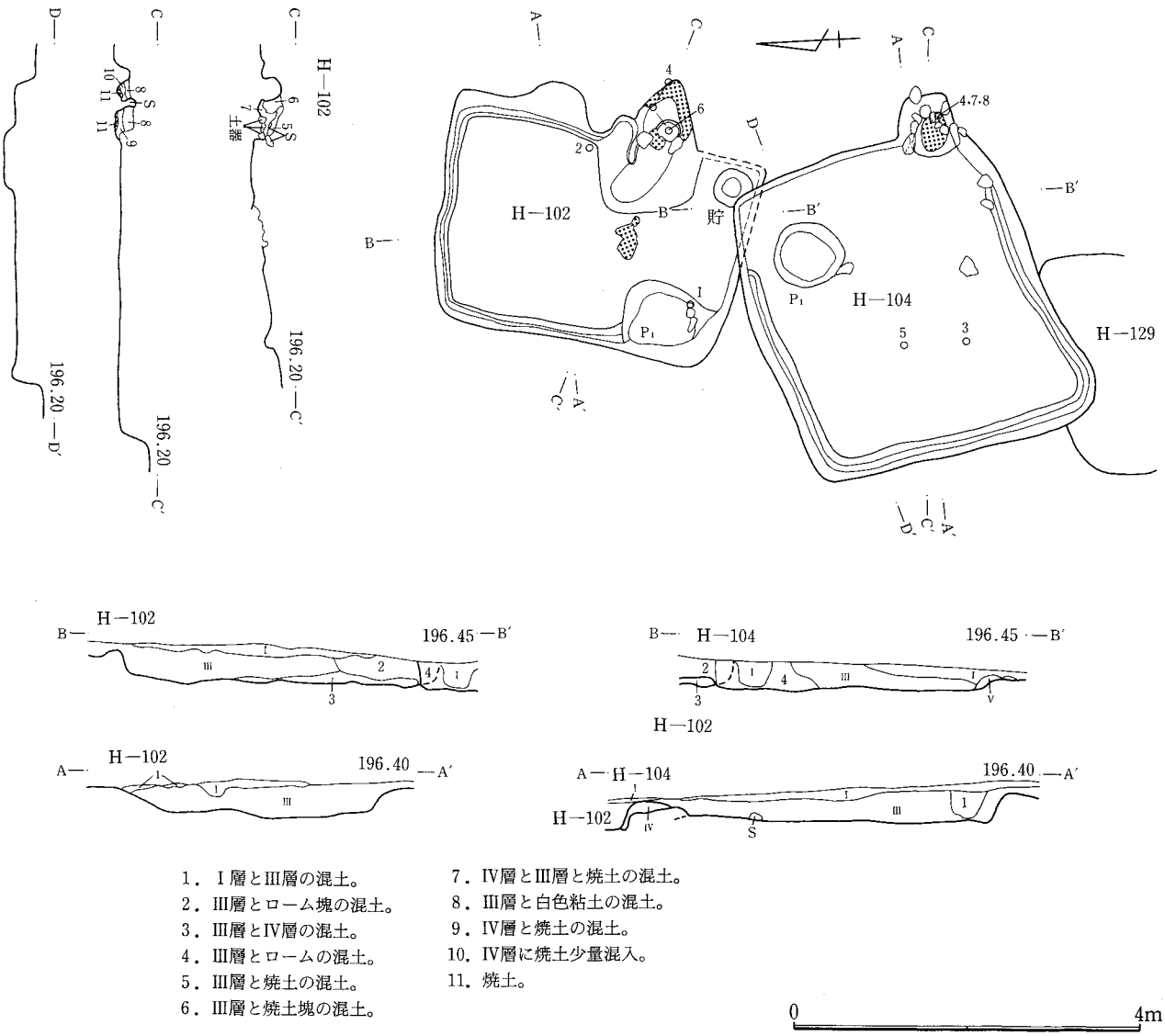
図—139　H—101号住居跡平・断面図



図—140　H—101号住居跡出土遺物実測図

H102・104号住居跡　（図—141・143　表4—44・45　図版—3・49・50）

〔H102〕　**位置**　調査区北東のI—158区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西2.3mで南北3.4m、面積は7.90m²。壁現高は14～36cmを測る。周溝は住居北半の壁下で検出されている。巾3～8cmで深さ8cm。長軸方位はN—14°—W。　**ピット**　床面南西隅。110×88×19cm。　**カマド**　東壁南側。石材がのこる。全長163cm、壁外掘り込み88cm、燃焼部分長65cm、袖部内幅40cm、燃焼部は床面－4cmで、煙道へは急な立ちあ



1．I層とIII層の混土。
2．III層とローム塊の混土。
3．III層とIV層の混土。
4．III層とロームの混土。
5．III層と焼土の混土。
6．III層と焼土塊の混土。
7．IV層とIII層と焼土の混土。
8．III層と白色粘土の混土。
9．IV層と焼土の混土。
10．IV層に焼土少量混入。
11．焼土。

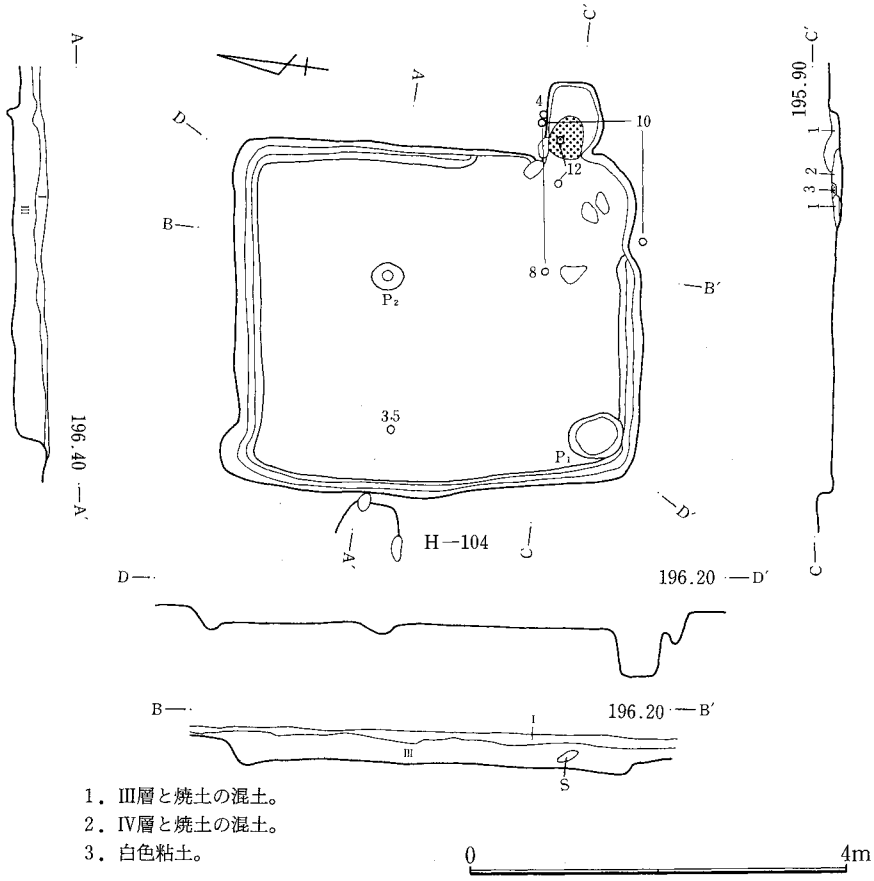
図—141　H—102・104号住居跡平・断面図

がりとなる。 **貯蔵穴** 南東隅円形。45×42×28cm。 **重複関係** H－104と重複。H－104が新しい。 **遺物** 坏、埦、甕が出土。

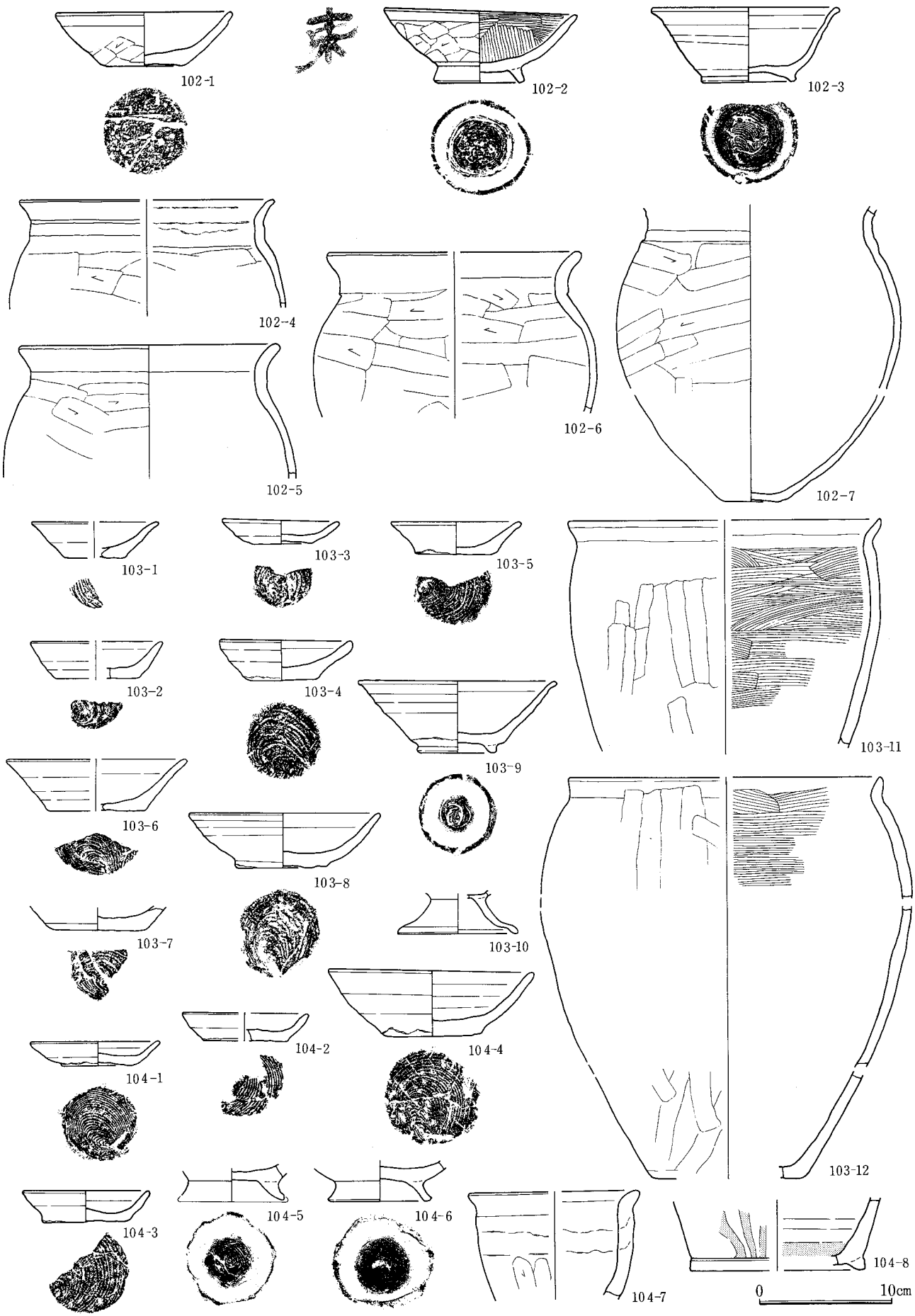
〔H104〕 **位置** Ⅰ－158区。 **形状** やや東西に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.5m、南北3.0m、面積は10.5㎡。壁現高は15～35cmを測る。周溝は東壁下を除き全周する。巾4～6cmである。長軸方位はN－105°－E。 **ピット** 北東隅。82×75×13cm。 **カマド** 東壁南端。白色粘土と石材がのこる。全長68cmで壁外掘り込み44cm、燃焼部分長38cm、袖部内幅46cm。燃焼部は床面－8cmで、煙道へは急な立ちあがりとなる。 **重複関係** H－102と重複。H－104が新しい。 **遺物** 小形坏、坏、埦、甕、灰釉瓶が出土。

H103号住居跡 （図－142・143 表4－44・45 図版－50）

位置 調査区北東のⅠ－158区に位置する。 **形状** 南北にやや長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.6mで、南北4.0m、面積は14.34㎡。壁現高は18～31cmを測る。周溝が全周する。巾4～6cm。長軸方位はN－5°－E。 **ピット** P_1とP_2。P_1（36×48×48cm）、P_2（33×28×10cm）。 **カマド** 東壁南隅。石材と白色粘土がのこる。全長103cmで、壁外掘り込み80cm。燃焼部分長44cmで、袖部内幅35cm。燃焼部は床面－10cm。 **遺物** 小形坏、坏、埦、台付甕、甕が出土。



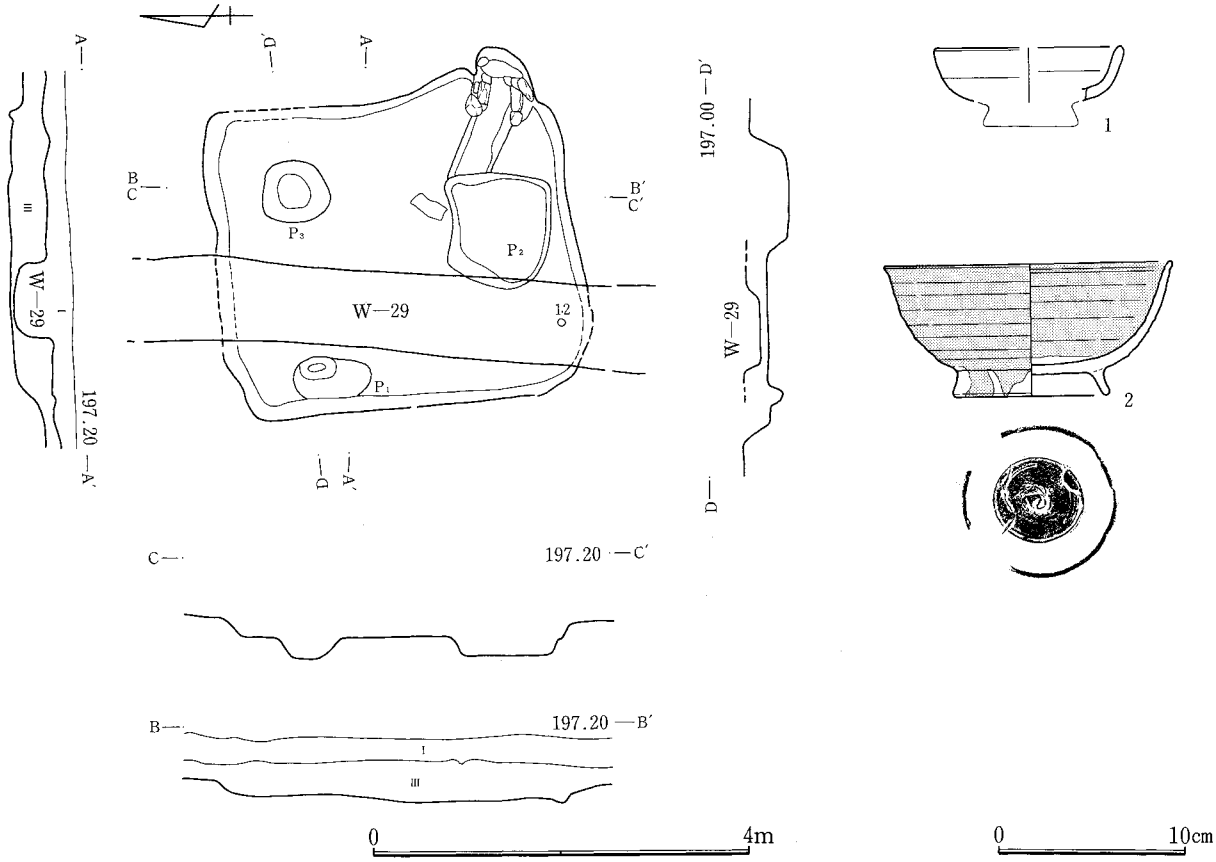
図－142 H－103号住居跡平・断面図



図—143　H—102・103・104号住居跡出土遺物実測図

H105号住居跡　（図—144　表4—45　図版—51）

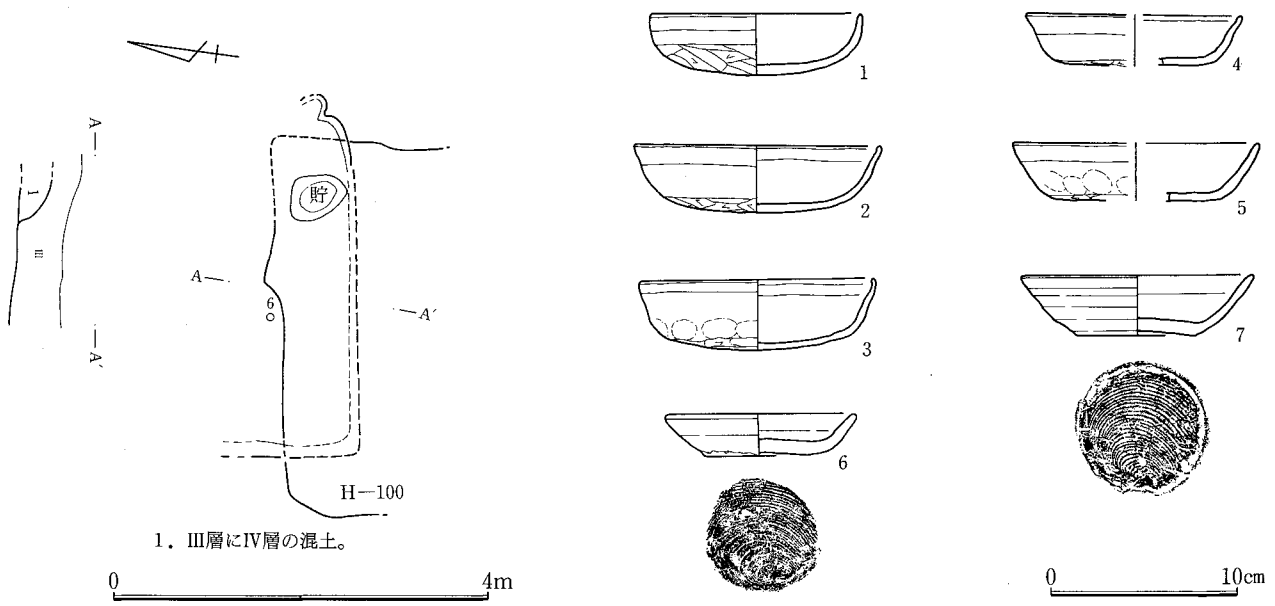
位置　調査区北東のⅠ—178区に位置する。　**形状**　方形。東辺はやや内にはらむが、他はほぼ直。隅角は隅丸。規模は東西3.2mで南北3.4m、面積は10.72㎡。壁現高は16～20cmを測る。長軸方位はN—5°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1、P_3は柱穴。P_1（69×65×22cm）、P_3（77×43×12cm）、P_2（118×100×17cm）。　**カマド**　東壁南隅。石材がのこる。全長84cmで壁外掘り込み26cm、燃焼部分長47cm、袖部内幅28cm。　**重複関係**　W—29と重複。W—29が新しい。　**遺物**　小形埦、灰釉埦が出土。



図—144　H—105号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H106号住居跡　（図—145　表4—46）

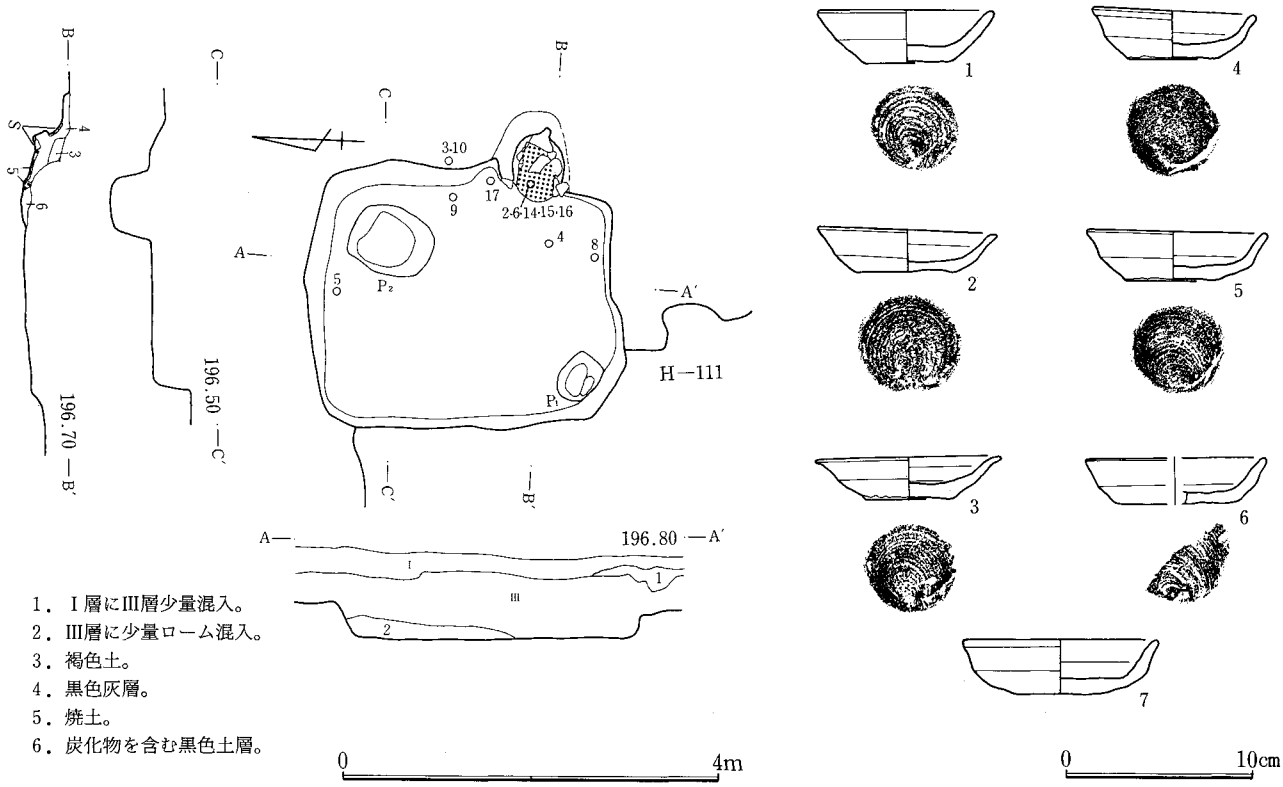
位置　Ⅰ—178区。　**形状**　部分的な検出であり、不明な点が多い。方形もしくは長方形。各辺は直に近く隅角も直に近いか。規模は現状で東西推定3.4m、南北0.5m。現状の面積は3.1㎡。　**カマド**　東壁南隅。半ば調査区外のために不明。焼土域がのこる。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。65×49×30cm。　**重複関係**　H—100と重複。　**遺物**　坏、小形坏が出土。



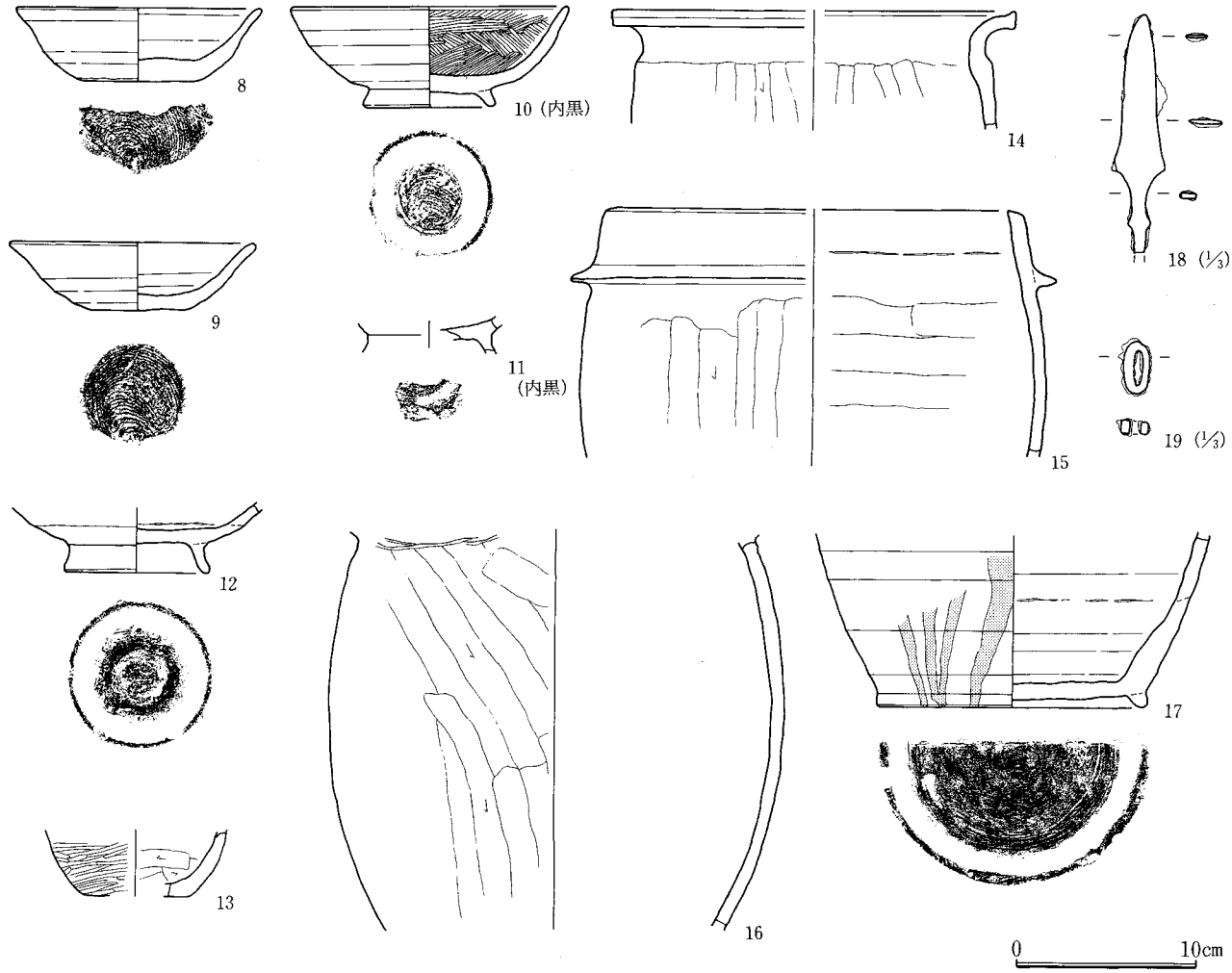
図—145　H—106号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H107号住居跡　（図—146・147　表4—46　図版—51）

位置　調査区北東のⅠ—195区に位置する。　**形状**　南北にやや長い長方形。北辺と南辺はやや外にはらむが、東西辺は直に近い。隅角は隅丸。規模は東西2.5mで南北3.0m、面積は7.0m²。壁現高は26～41cm。長軸方位はN—4°—E。　**ピット**　P_1。南西隅。53×40×—cm。P_2。北東隅　88×73×—cm。　**カマド**　東壁南。石材がのこる。全長98cm、壁外掘り込み50cm、燃焼部分長64cm、袖部内幅46cm。煙道へは急な立ちあがりとなる。燃焼部は床面—4cm。　**重複関係**　H—111と重複する。遺構の状況からみるとH—107が新しい。　**遺物**　小形坏、坏、埦、内黒埦、壺、甕、羽釜、灰釉瓶、鏃、留め金具が出土。

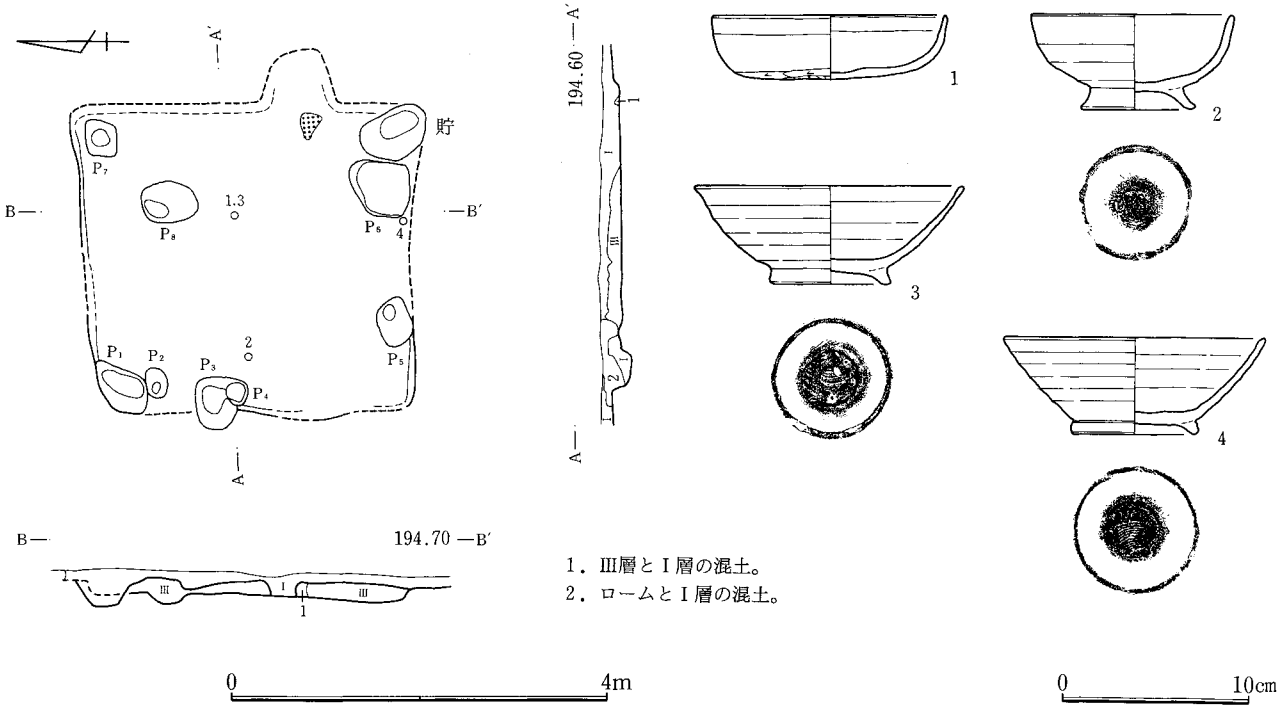


図—146　H—107号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—147　H—107号住居跡出土遺物実測図(2)

H108号住居跡　(図—148　表4—47　図版—3・52)

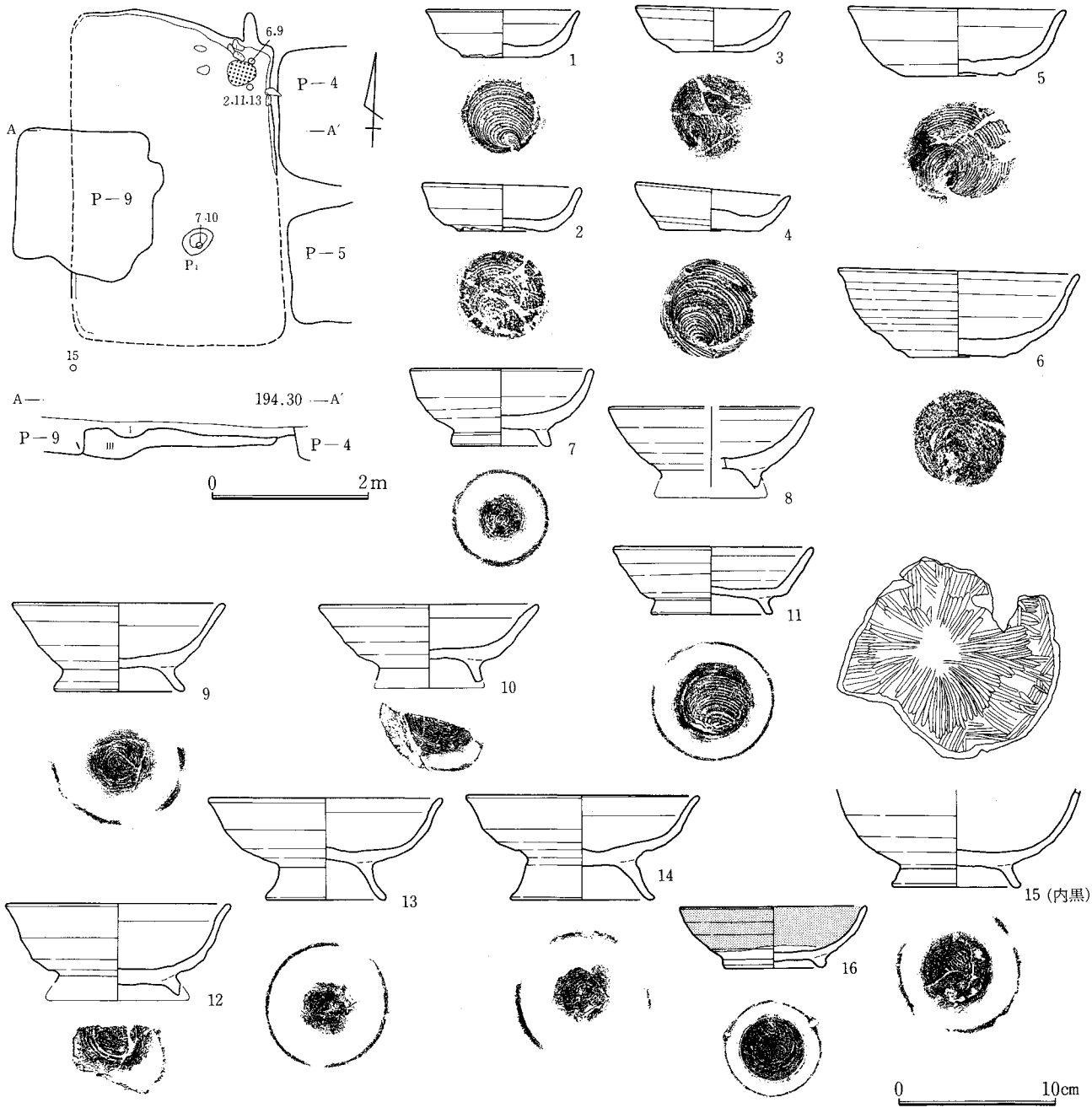


図—148　H—108号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査区北東のⅠ—193区に位置する。　**形状**　カマ掘りでの削平が多く、各辺の形状は不明。規模は推定で、東西3.2m、南北3.5m、面積10.6㎡。方形か。壁現高は6～16cmを測る。長軸方位はN—0°。　**ピット**　P_1～P_8。柱穴と補助の柱穴か。P_1（65×47×—cm）、P_2（32×22×—cm）、P_3（56×45×—cm）、P_4（26×25×—cm）、P_5（51×40×—cm）、P_6（65×53×—cm）、P_7（42×37×—cm）、P_8（70×52×—cm）。　**カマド**　東壁南に焼土域がありこの周辺か。30×25cmの規模。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。75×48×—cm。　**遺物**　坏、小形埦、埦が出土。

H109号住居跡　（図—149　表4—47　図版—3・52）

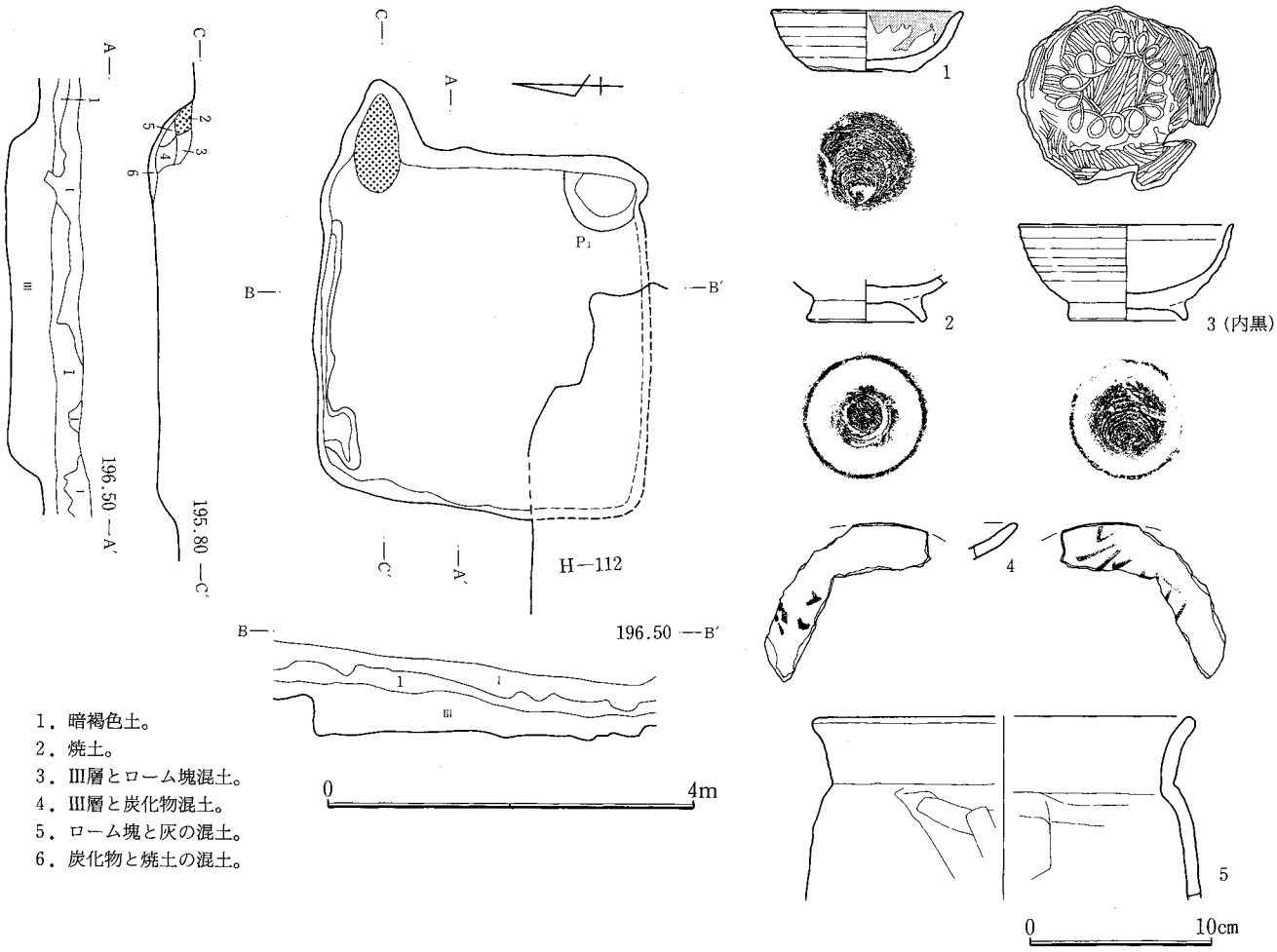
位置　調査区北東のⅠ—193区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。壁は部分的な検出であるが、直に近いか。規模は東西2.7mで、南北4.0m、面積は9.4㎡。壁現高は11～24cmを測る。長軸方向はN—3°—E。　**ピット**　P_1（37×27×7cm）　**カマド**　北東隅。石材がのこる。全長90cmで、壁外掘り込み35cm、燃焼部分長37cm。　**重複関係**　P—9と重複。H—109が旧い。　**遺物**　小形坏、坏、埦、内黒埦、灰釉埦が出土。



図—149　H—109号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H110号住居跡　（図—150　表4—48　図版—53）

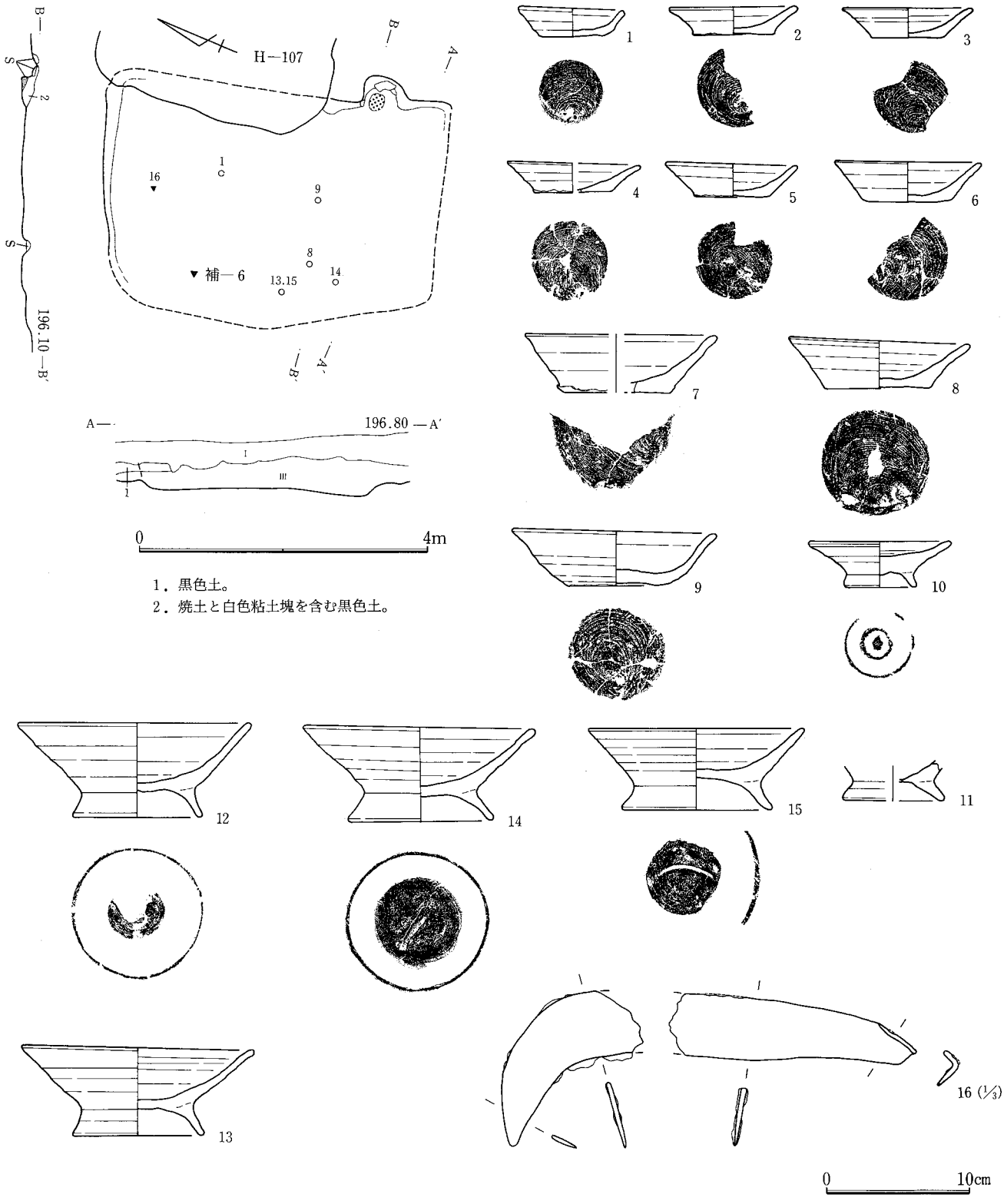
位置　調査区北東のⅠ—195区に位置する。　**形状**　方形。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸を呈す。規模は東西3.7mで、南北3.3m、面積は12.3m²。壁現高は15～45cmを測る。周溝は北壁下で検出されている。巾2～9cm。長軸方向はN—2°—W。　**ピット**　P_1。南東隅。貯蔵穴の可能性がある。94×67×—cm。　**カマド**　東壁北端。壁外掘り込み82cm。全長115cm、煙道へは急な立ちあがりとなる。袖部内幅47cm。　**重複関係**　H—112と重複する。遺構の状況からみるとH—110が新しい。　**遺物**　小形坏、埦、内黒埦、托、甕が出土。



図—150　H—110号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H111号住居跡　（図—151　表4—48　図版—3）

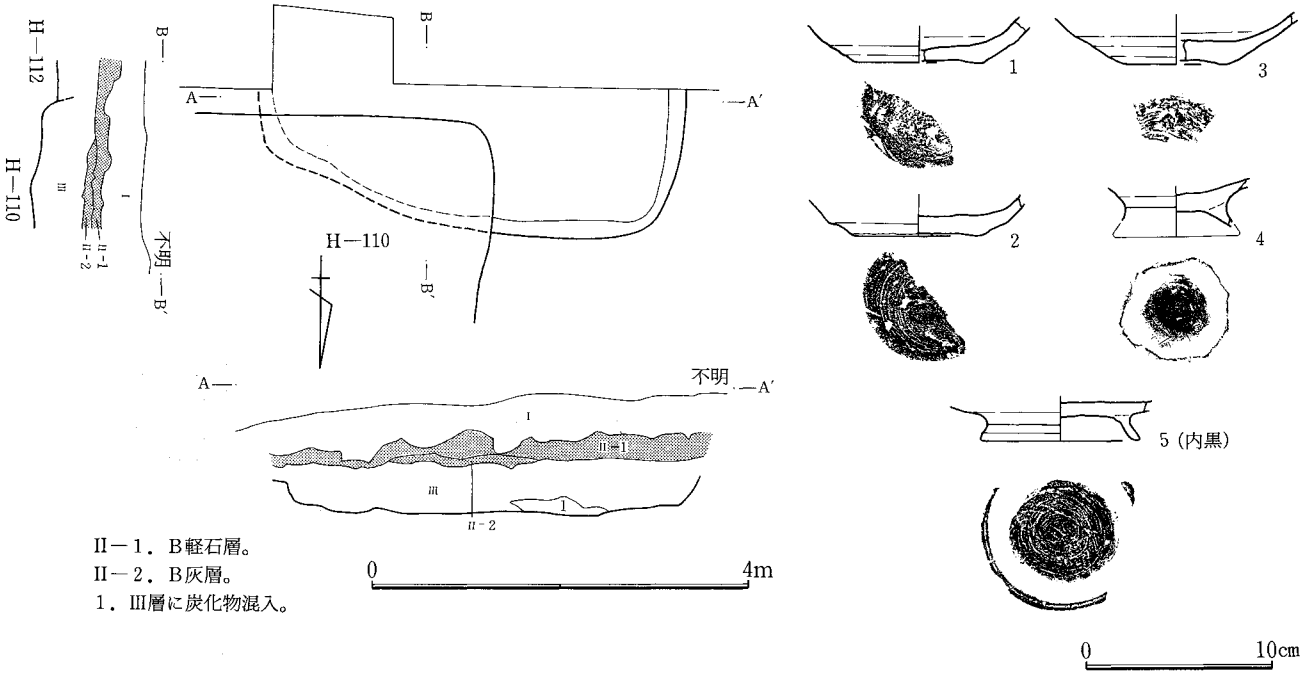
位置　Ⅰ—195区。　**形状**　部分的な検出のためカマド付近のみ判明。他の部分は削平されたものか。　**カマド**　東壁、石材がのこる。全長51cm、壁外掘り込み35cm、燃焼部長25cm、袖部内幅48cm。　**遺物**　小形坏、坏、埦、鎌が出土。



図—151　H—111号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

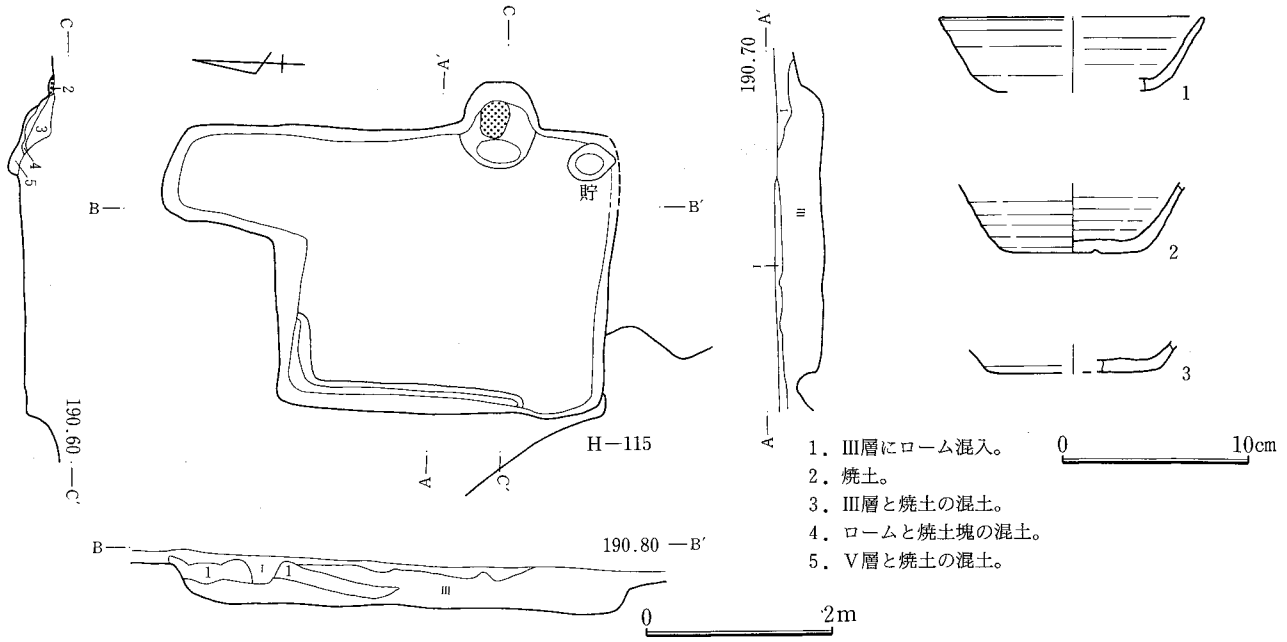
H112号住居跡　（図—152　表4—49）

位置　Ⅰ—195区。　**形状**　部分的な検出で不明。西辺はやや外にはらみ、北西隅は隅丸。規模は東西4.2mで南北が現状で2.1m、面積は現状で6.0m²。　**カマド**　不明。　**重複関係**　H—110と重複。B軽石層を埋土にもつ。　**遺物**　坏、埦、内黒埦が出土。



図—152　H—112号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H113号住居跡　（図—153　表4—49　図版—53）

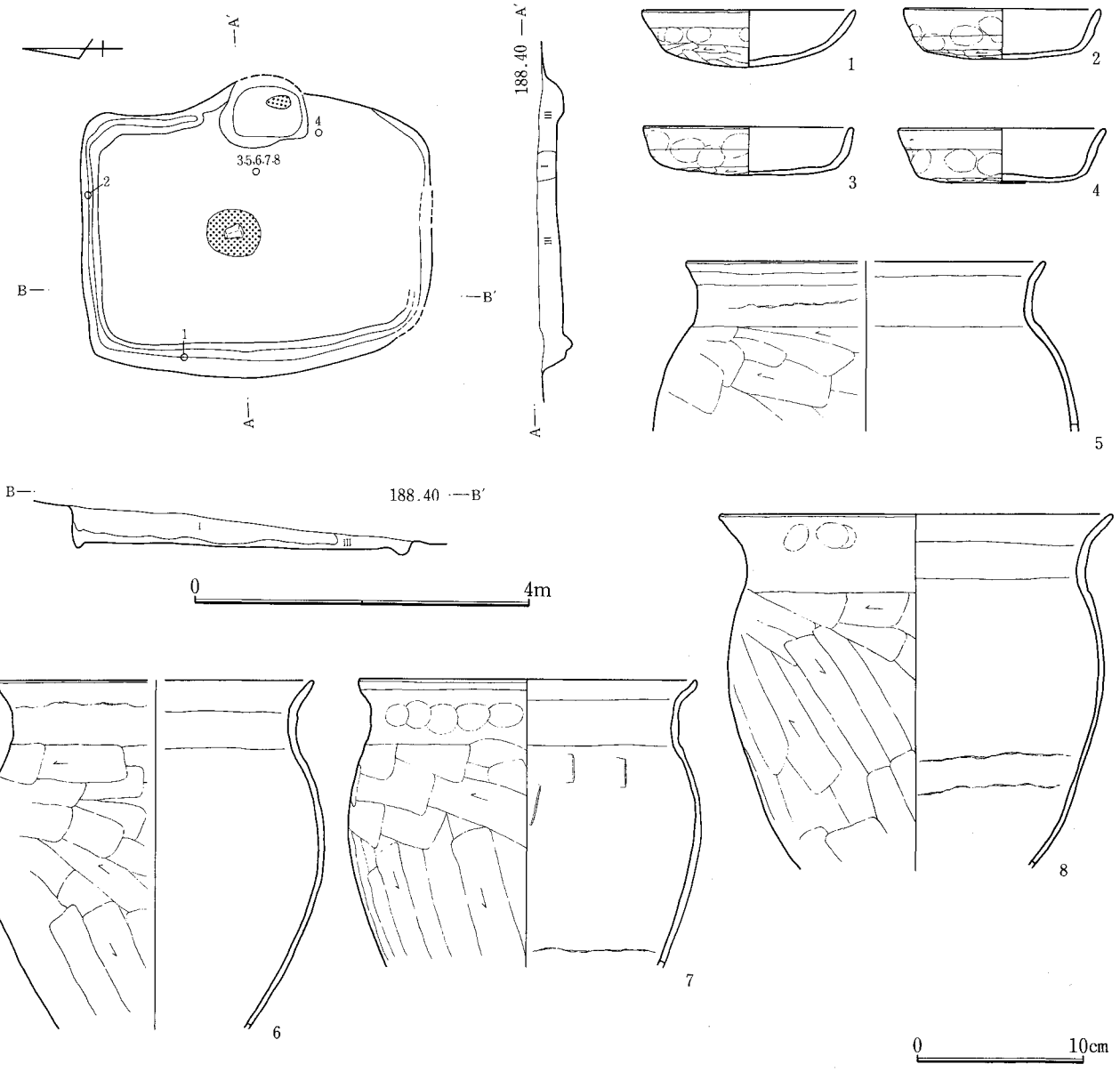


図—153　H—113号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査区中央の東側、Ⅰ—80区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、各隅角も直に近い。規模は東西2.8mで、南北3.4m、面積は10.06㎡。壁現高は26～47cmを測る。周溝は西壁下より北壁下西端で検出されている。巾6～14cm。長軸方位はN—0°。北東隅に張り出しを持つ、長方形で100×85cm。　**カマド**　東壁南。全長93cm、壁外掘り込み51cm、燃焼部分長50cm。燃焼部より壁へはゆるやかな掘り込みとなっている。燃焼部は床面—13cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。46×39×—cm。　**重複関係**　H—115が西側に接して位置する。　**遺物**　坏が出土。

H114号住居跡　（図—154　表4—50　図版—3・54）

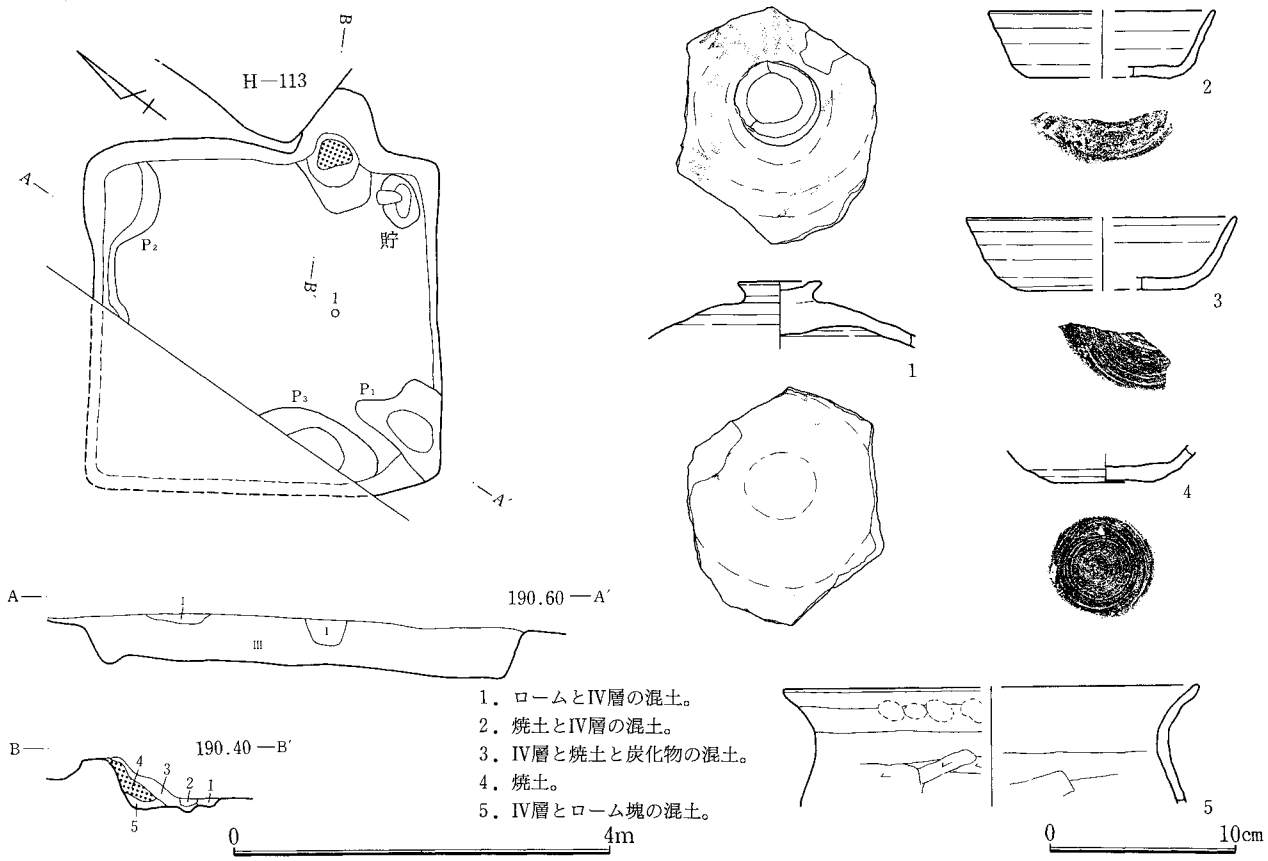
位置　調査区中央東のⅠ—151区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。北半は直に近いが、南半はややはらむ。規模は東西2.92mで、南北4.0m、面積は10.07㎡。壁現高は9～48cm。周溝は西、北壁下と東壁の北半下で検出されている。巾4～14cmで、深さ4～10cm。長軸方位はN—0°。　**床面**　床面中央に焼土範囲。63×36cm。　柱穴は検出されなかった。　**カマド**　石材が約10石のこる。東壁中央。煙道部はカマ掘りで削平されており不明。全体に掘り込みの中に石材が散乱する形でのこっていた。落ち込み長93cm。　**遺物**　坏、甕が出土。



図—154　H—114号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H115号住居跡　(図—155　表4—50　図版—54)

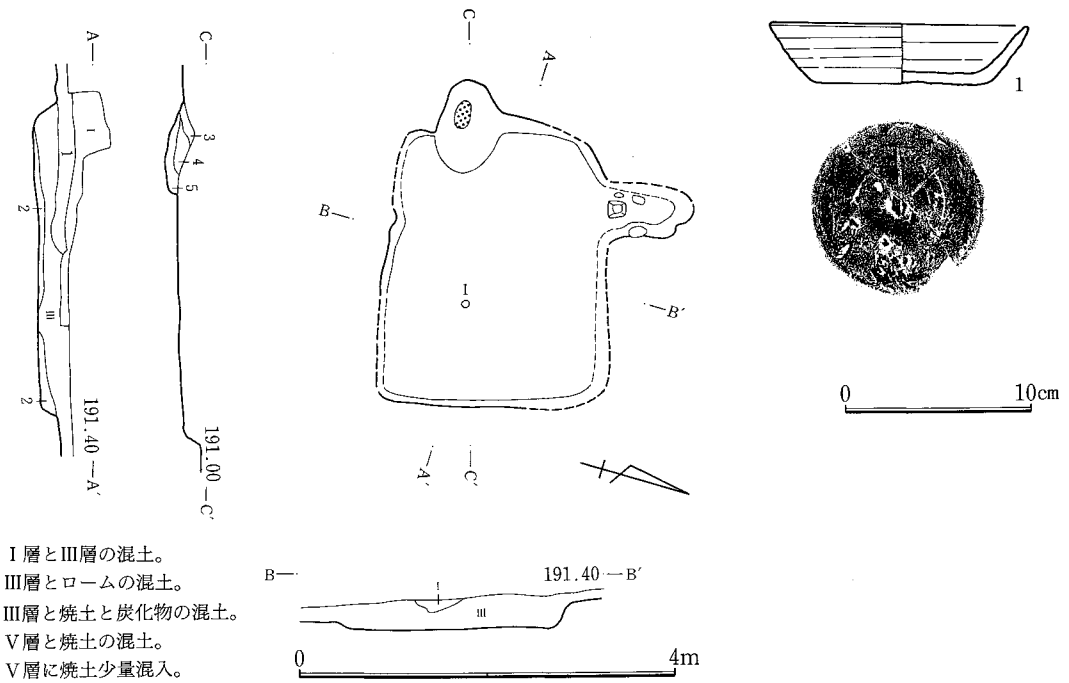
位置　調査区中央部東側のⅠ—80区に位置する。　**形状**　方形。西側が区画外になり、北西3分の1が未検出。検出された各辺はほぼ直で、隅角も直に近い。規模は東西3.3mで南北3.5m。面積は11.59㎡。壁現高は31～48cmを測る。周溝は北壁下で検出されている。幅4～6cmで、深さ10cm。長軸方位はN—127°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1(100×68×—cm)、P_2(92×76×—cm)、P_3(47×36×—cm)。　**カマド**　東壁南側。全長136cm、壁外掘り込み67cm、燃焼部分長57cm、袖部内幅56cm、煙道へは直にあがってゆく。燃焼部は床面—10cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。61×37×—cm。　**重複関係**　西にH—113が接する。　**遺物**　坏、蓋、甕が出土。



図—155　H—115号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H116号住居跡　(図—156　表4—50　図版—3・55)

位置　調査区中央部のⅠ—98・99区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。残存不良なところが多いが、東辺は直であり、西辺はややはらむ。各隅角は不明瞭な点があるが、隅丸か。規模は東西2.94mで、南北2.2m、面積は6.23㎡。壁現高は23～25cmを測る。長軸方向はN—106°—E。カマド(Ⅰ)、北壁西側。石材少しのこる。全長112cmで、壁外掘り込み92cm、燃焼部長47cm、袖部内幅47cm、壁へはゆるやかな掘り込みである。燃焼部は床面—12cm。(Ⅱ)、西壁南側。全長104cm、壁外掘り込み38cm、燃焼部長32cm、壁へはゆるやかな掘り込みである。燃焼部は床面—15cm。(Ⅰ)と(Ⅱ)のカマドは形状が異なり、別の住居の可能性もあるが、資料不足により同一住居のカマドとして扱う。　**遺物**　坏が出土。

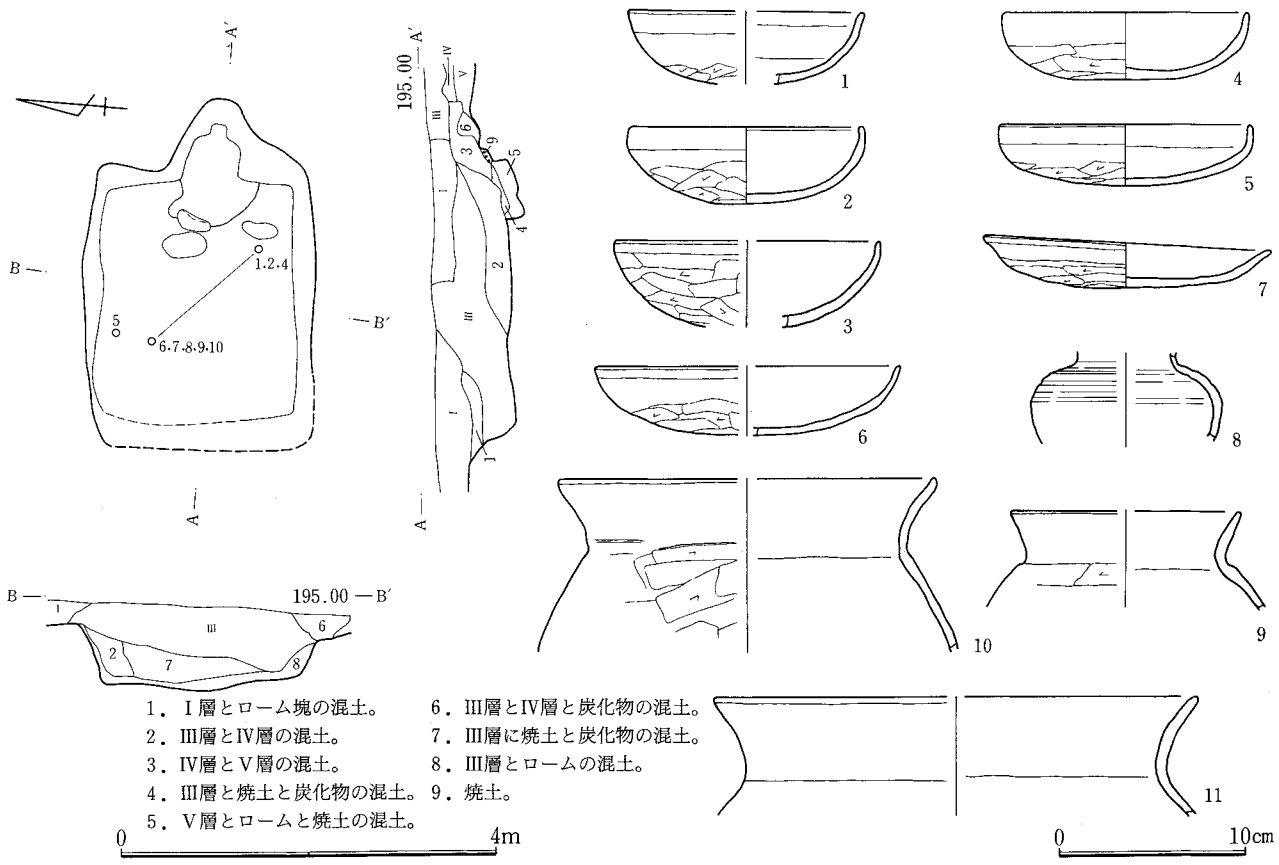


1．Ⅰ層とⅢ層の混土。
2．Ⅲ層とロームの混土。
3．Ⅲ層と焼土と炭化物の混土。
4．Ⅴ層と焼土の混土。
5．Ⅴ層に焼土少量混入。

図—156　H—116号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H117号住居跡　（図—157　表4—51　図版—55）

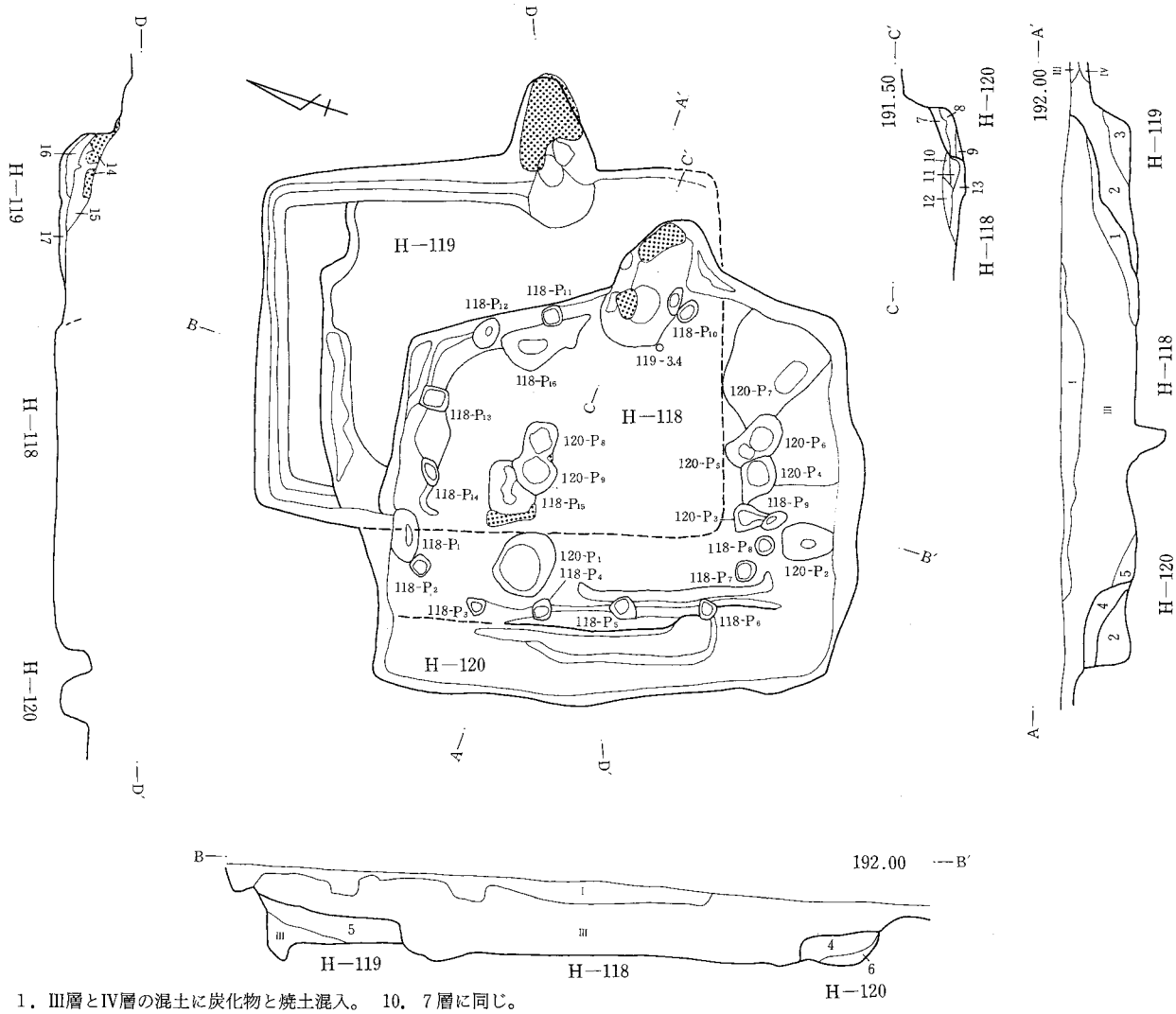
位置　調査区中央のⅠ—80区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。各辺とも直で、各隅角は直である。規模は東西2.56mで南北2.04m、面積は5.38m²。壁現高は41～67cm。長軸方向はN—93°—E。　**カマド**　東壁中央。カマド前に三石がのこる。全長131cmで、壁外掘り込み70cm、燃焼部分長52cm、袖部内幅58cm、壁へは直にあがってゆく。燃焼部は床面—10cm。　**遺物**　坏、鉢、小壺、小形甕、甕が出土。



1．Ⅰ層とローム塊の混土。
2．Ⅲ層とⅣ層の混土。
3．Ⅳ層とⅤ層の混土。
4．Ⅲ層と焼土と炭化物の混土。
5．Ⅴ層とロームと焼土の混土。
6．Ⅲ層とⅣ層と炭化物の混土。
7．Ⅲ層に焼土と炭化物の混土。
8．Ⅲ層とロームの混土。
9．焼土。

図—157　H—117号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H118・119・120号住居跡　(図—158・159　表4—51　図版—56)



1．Ⅲ層とⅣ層の混土に炭化物と焼土混入。
2．Ⅲ層とローム混入。
3．Ⅲ層とⅣ層の混土。
4．Ⅲ層とⅣ層とローム塊の混土。
5．Ⅲ層とⅣ層の混土にローム混入。
6．4層に似る。Ⅲ層の混入少ない。
7．黒褐色土とローム塊と焼土の混土。
8．焼土とロームの混土。
9．焼土と黒色土の混土。
10．7層に同じ。
11．焼土と灰とロームの混土。
12．Ⅲ層と焼土の混土。
13．黒色土に焼土と灰と炭化物とロームの混入。
14．焼土。
15．Ⅲ層と焼土塊と灰の混土。
16．灰に焼土とⅢ層の混入。
17．ロームと焼土とⅢ層の混土。

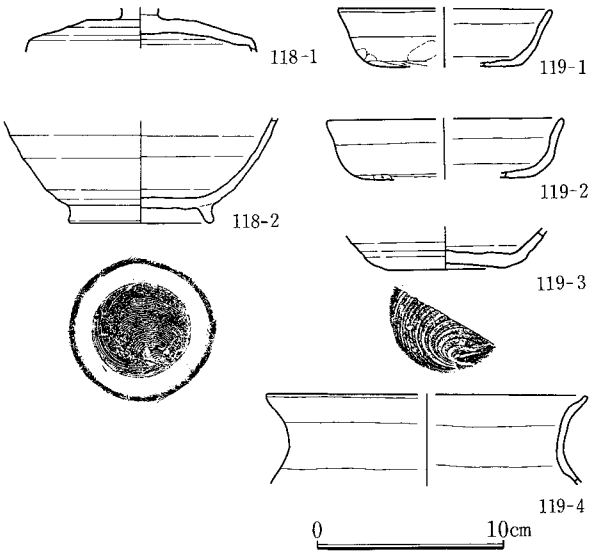
図—158　H—118・119・120号住居跡平・断面図

〔H118〕　**位置**　調査区北東のⅠ—117区に位置する。南東傾斜の斜面上であるが、周囲の住居跡は多くはない。　**形状**　東西に長い長方形。北、東辺はややはらむ。北東隅はややひらく。規模は東西3.58mで、南北4.47m、面積18.87m²を測る。壁現高は36～61cmを測る。周溝は西壁下と北東隅で検出されている。巾は4～9cmを測る。長軸方位は、N—18°—E。　**ピット**　壁下に壁柱穴状のピット16基が検出されている。径20cm前後で各壁下に3～4基配されている。　**カマド**　東壁南側。全長159cmで、壁外掘り込み70cm、燃焼部分長42cm、袖部内幅56cm、燃焼部から煙道へは急な立ちあがりとなる。燃焼部は床面－8cm。カマド両袖部に小ピットがある。袖石の跡か。　**重複関係**　H—119・H—120と重複する。地層断面によりH—119→H—120→H—118の順に新しくなる。　**遺物**　蓋、埦が出土。

〔H119〕　**位置**　調査区北東のⅠ—117区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。重複により残存部が少ないが、残存する北辺、東辺はほぼ直である。北西、北東隅は直に近い。北壁下に拡張により二重の周溝がある。拡張前の周溝は巾10～16cm。北壁下西2分の1で検出。拡張後の周溝は巾4～13cmで、深さ21cm。現存の西壁下より北壁下、カマド北の東壁下で検出されている。主軸方位はN—19°—E。　**カマド**　東壁南側にある。全長176cmで、壁外掘り込み100cm、燃焼部分長48cm、袖部内幅80cm、煙道へは急な立ちあがりである。燃焼部は床面－8cm。若干の石材がのこる。　**重複関係**　H—119→H—120→H—118の順に新しい。　**遺物**　坏、甕が出土。

〔H120〕　**位置**　調査区北東のⅠ—117区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。北辺、南辺はほぼ直。西辺はややはらむ。北西隅は直に近いが、南東・南西隅は隅丸に近い。規模は東西が4.08mで、南北は4.98mである。面積は3.75

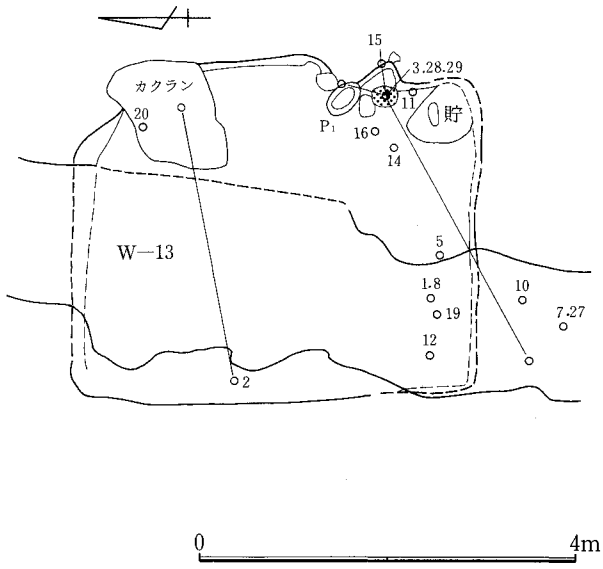
m²。壁現高は61～70cmを測る。主軸方位はN－18°－E。　**ピット**　床面9ヵ所にみられる。H－118との重複があるために確定的とはいえない。中央部のピットは柱穴になるものか。　**カマド**　東壁南側。H－118のカマド下になる。削平をうけているために詳細は不明である。　**貯蔵穴**　南東隅に窪みがみられる。形状からみるとやや不自然であり確定しがたい。

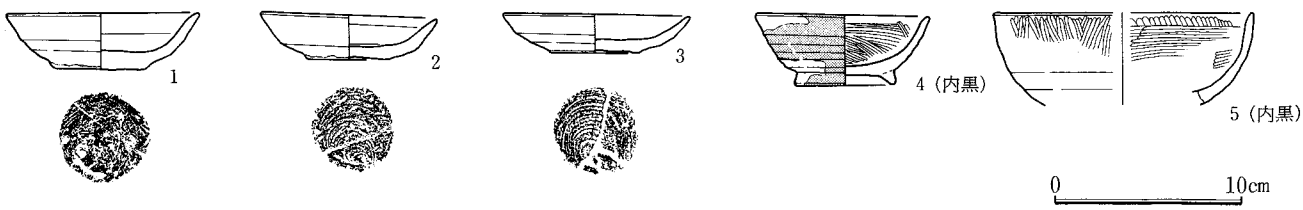


図－159　H－118・119号住居跡出土遺物実測図

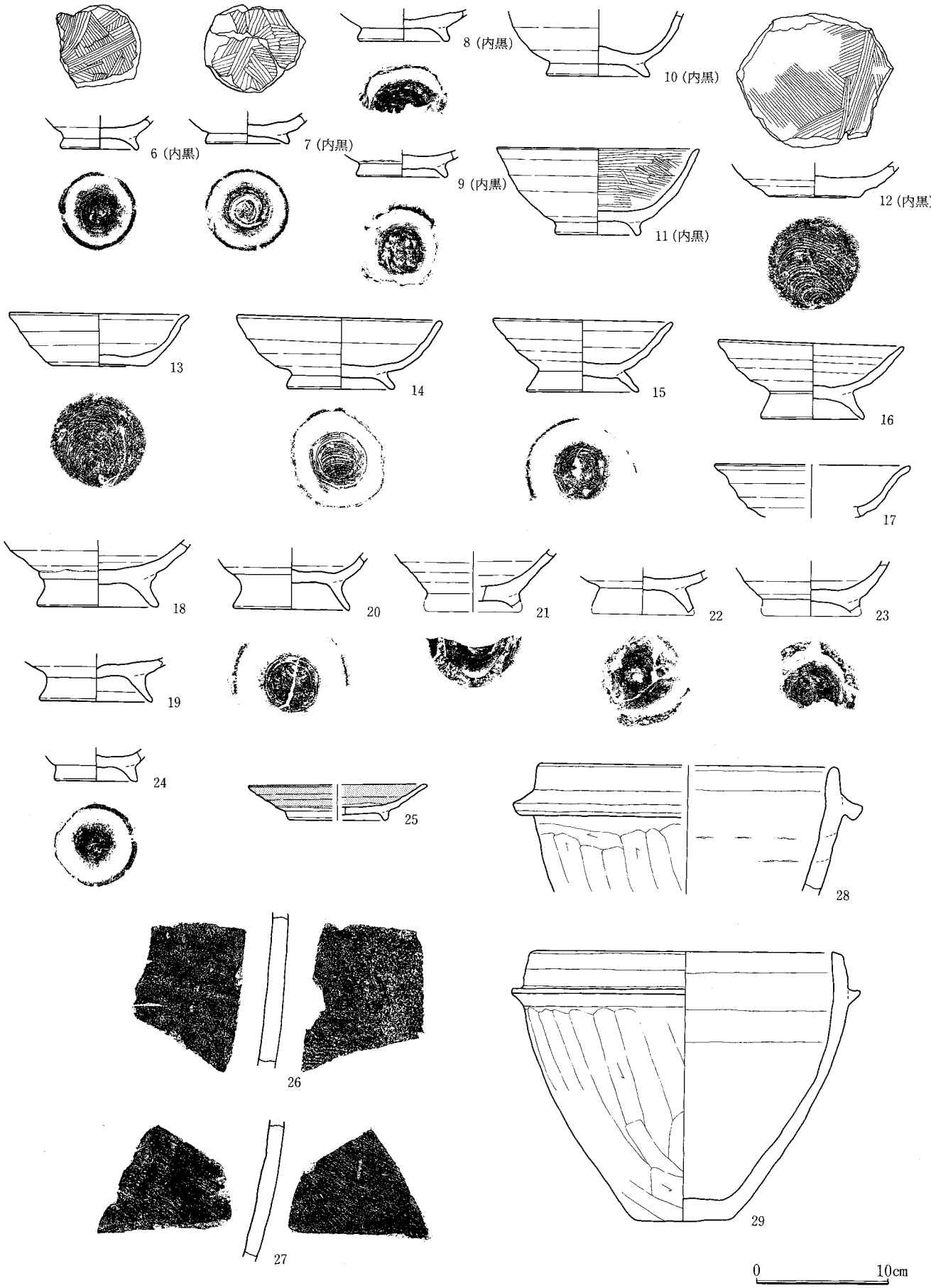
H121号住居跡　（図－160・161　表4－51・52・53　図版－3・56）

位置　調査区北東のI－158区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.54mで、南北4.04m。面積は13.25m²。壁現高は10～21cm。長軸方位はN－0°。　**カマド**　東壁南側。石材がのこる。規模その他不明の点が多い。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。82×63×12cm。　**重複関係**　W－13と重複。W－13が新しい。
遺物　坏、埦、小形坏・埦、内黒埦、灰釉段皿、甕、羽釜が出土。遺物が多い。





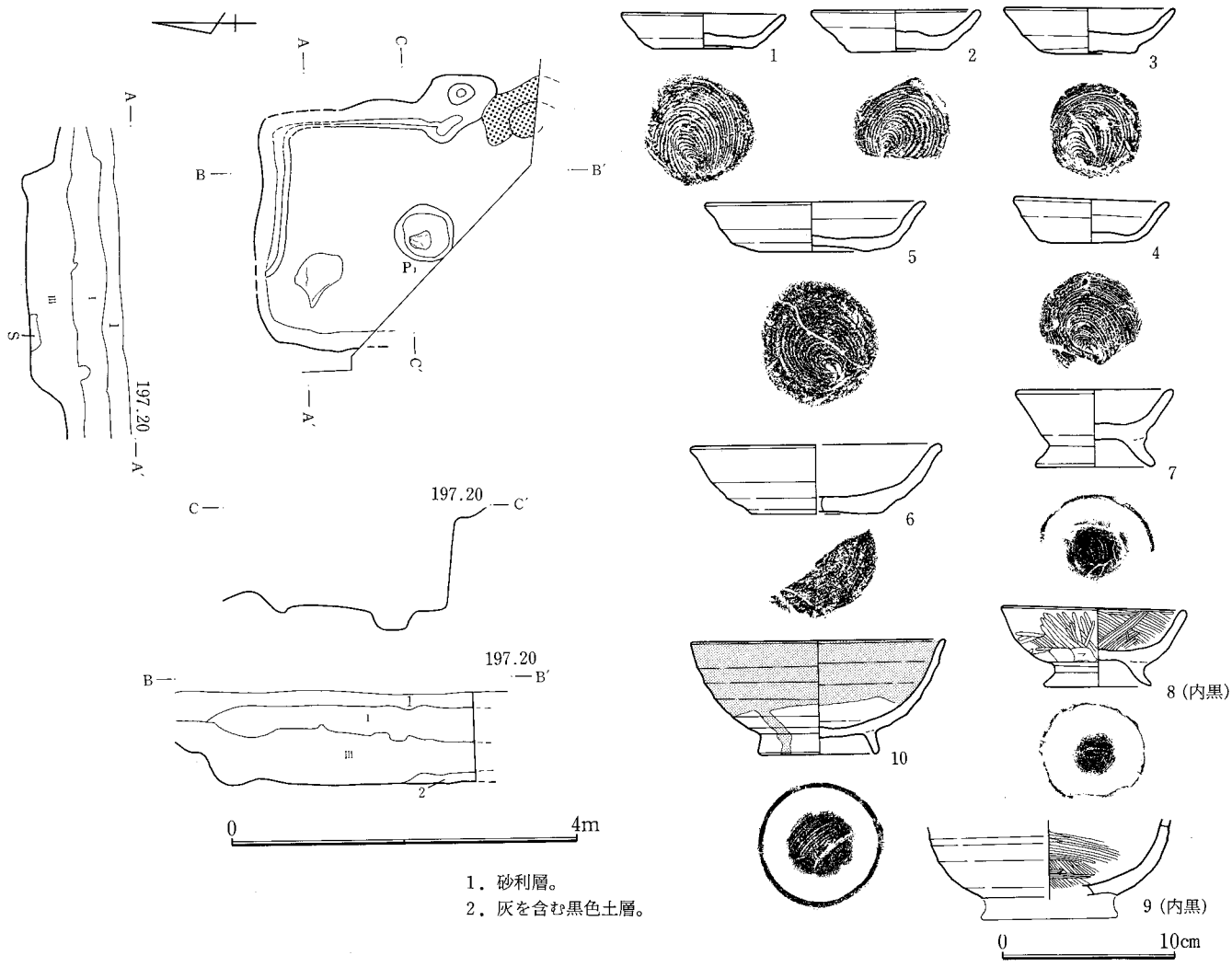
図－160　H－121号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—161　H—121号住居跡出土遺物実測図(2)

H122号住居跡　(図—162　表4—53　図版—3・57)

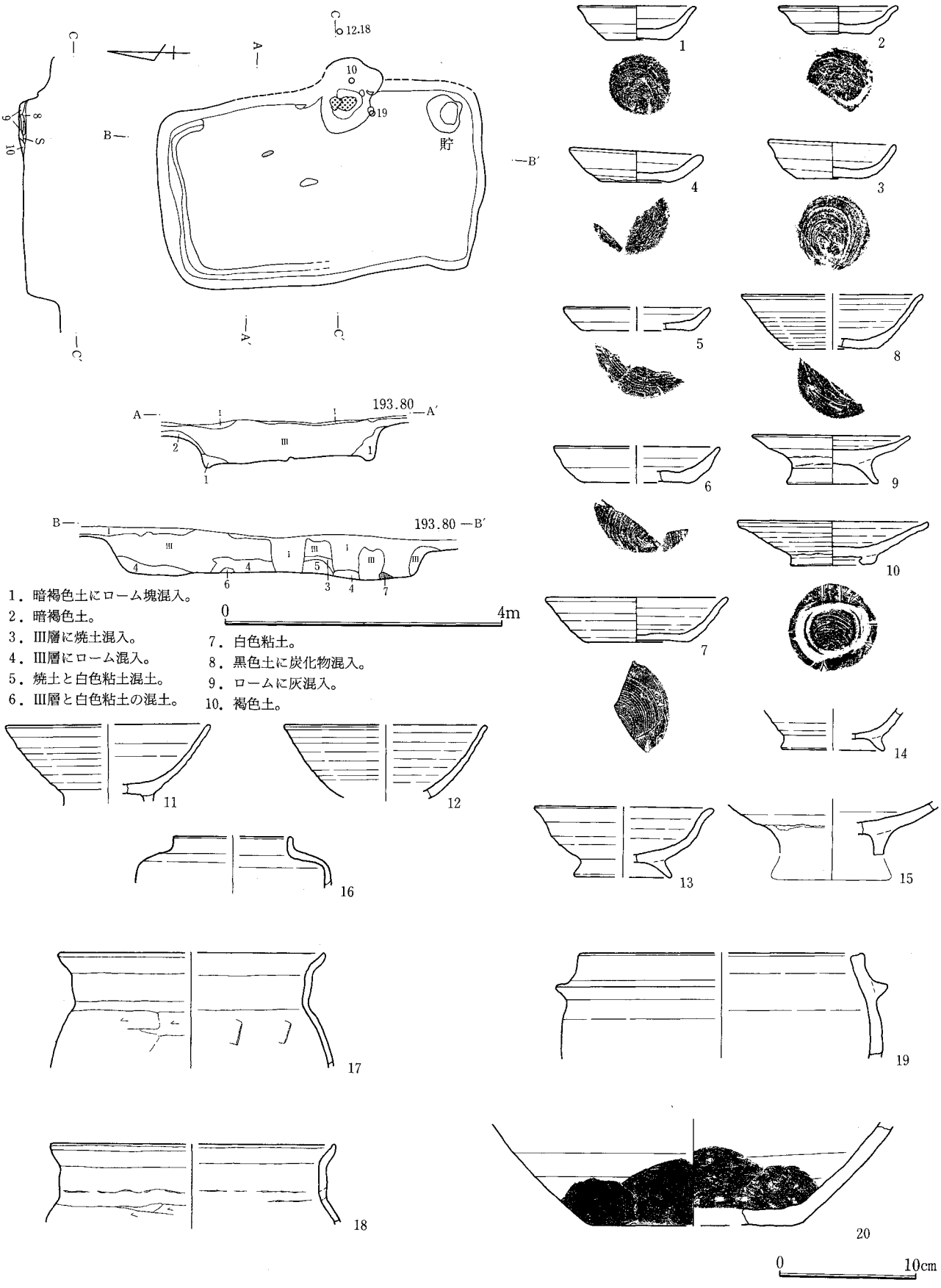
位置　調査区北東のⅠ—177区に位置する。　**形状**　一部調査区外にあたり、一部未掘。南北に長い長方形。検出された各辺は直に近い。隅角は隅丸。規模は南北が現状で3.0m、東西が2.46mを測る。面積は5.66㎡。壁現高は28～37cm。周溝は北壁下～東壁下で検出されている。巾2～8cm。長軸方位はN—1°—E。　**ピット**　床面中央部にP_1、70×66×28cm。　**カマド**　東壁南隅。一部未掘であり不明な点が多い。現状で全長75cm、燃焼部長41cm。燃焼部は床面—1cm。
遺物　小形坏、坏、内黒埦、灰釉埦が出土。



図—162　H—122号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H123号住居跡　(図—163　表4—53・54　図版—3・57)

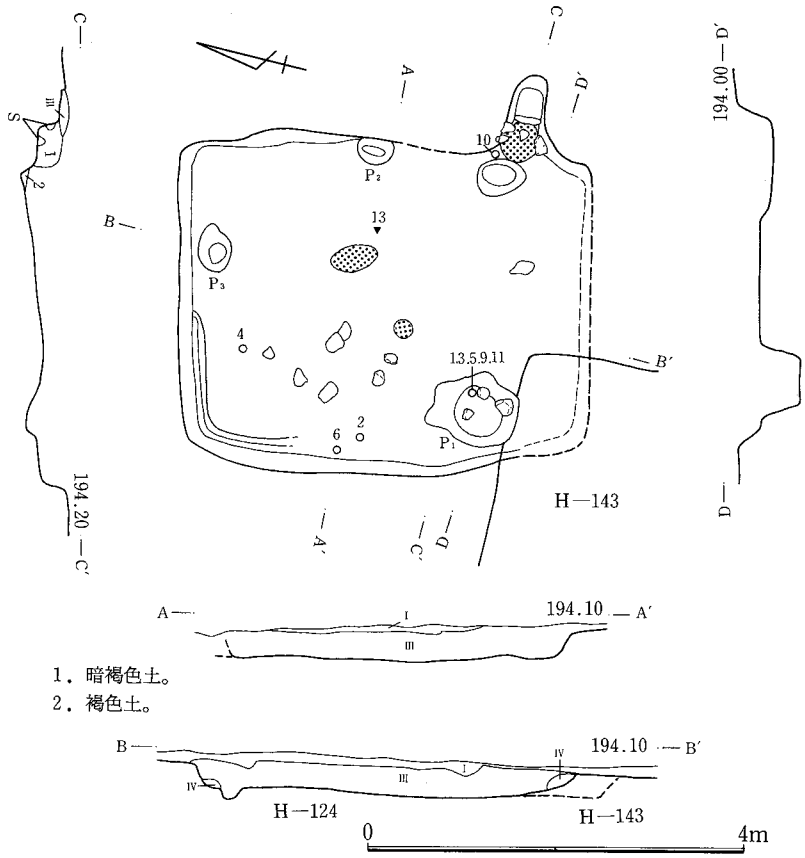
位置　調査区北東のⅠ—192区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸に近い。規模は東西2.56mで、南北4.34m、面積は10.44㎡。壁現高は44～56cmを測る。周溝は北壁下と西、東壁下の北端で検出されている。巾5～18cmで、深さ4～8cm。長軸方向はN—7°—E。　**カマド**　東壁中央南側。上面は削平されており煙道部は不明である。現状で全長110cm、燃焼部長44cm、袖部内幅60cm。燃焼部より煙道に直にあがる。燃焼部は床面—6cm。
貯蔵穴　南東隅。円形。56×56×32cm。　**遺物**　坏、埦、小形坏、皿、短頸壺、甕、羽釜が出土。



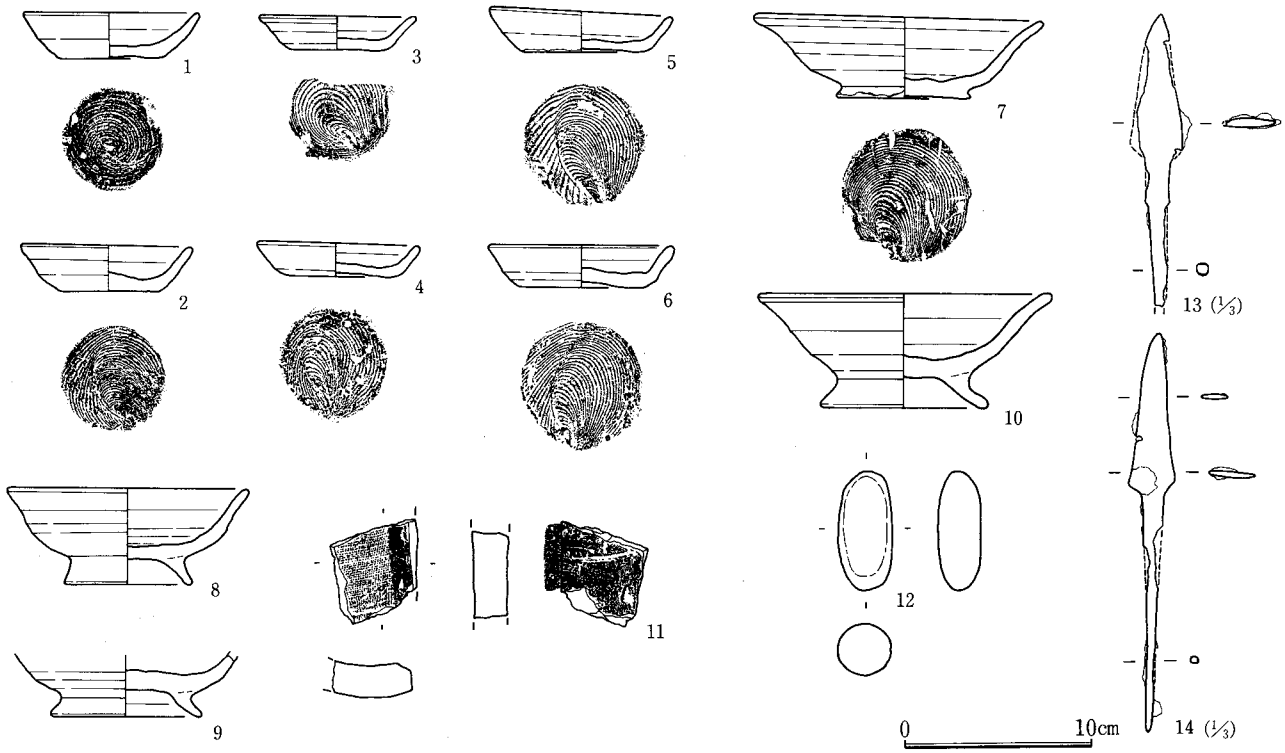
図—163　H—123号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H124号住居跡　（図—164・165　表4—54・55　図版—3・58）

位置　調査区北東のⅠ—192・193区に位置する。周囲は住居跡の密集域にあたる。　**形状**　南北に長い長方形。東辺、西辺はやや外にはらむが、北辺は直に近い。隅角はややひろがる。規模は東西が3.37mで、南北が推定4.40mを測る。面積は13.28㎡。壁現高は26～31cm。周溝は北西隅に検出される。巾6～7cmで深さ13cm。主軸方位はN—14°—E。　**ピット**　床面3ヵ所。P_1（南西隅）。円筒形の断面をもつ。90×80×42cm。P_2（東壁下）。35×27×—cm。P_3（北壁下）。　53×37×17cm。　**カマド**　東壁南隅。全長125cmで壁外掘り込み38cm、燃焼部分長45cm、袖部内幅37cm。燃焼部より煙道には直にあがる。燃焼部は床面—10cm。手前に灰かき穴？と思われるピット（52×37cm）がある。　**貯蔵穴**　P_1が相当するか。　**重複関係**　H—143と重複。地層断面によりH—124が新しい。　**遺物**　小形坏、坏、埦、平瓦、鏃が出土。



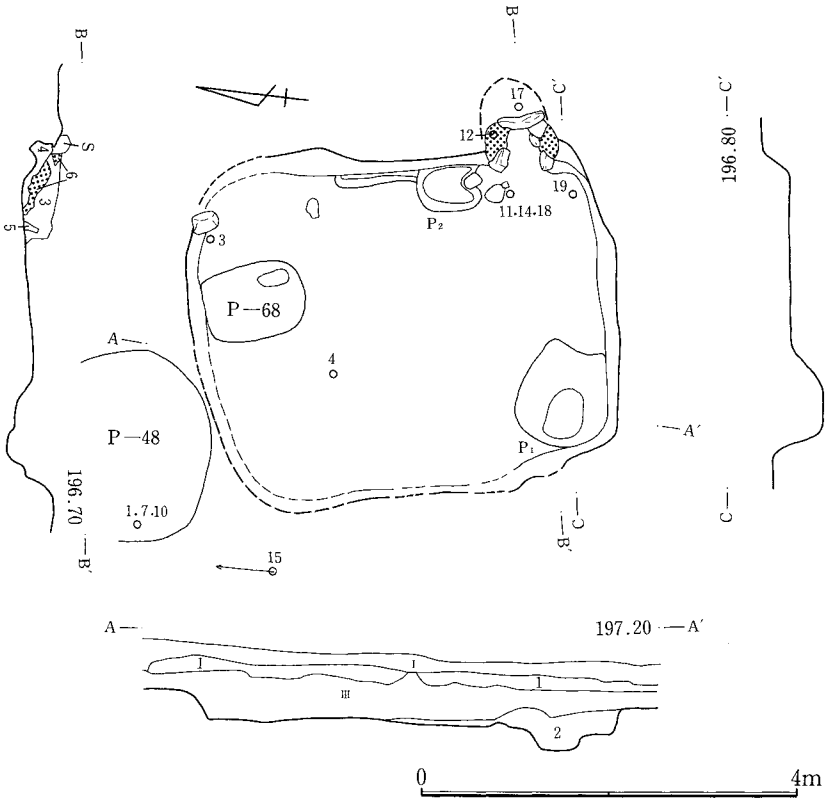
図—164　H—124号住居跡平・断面図



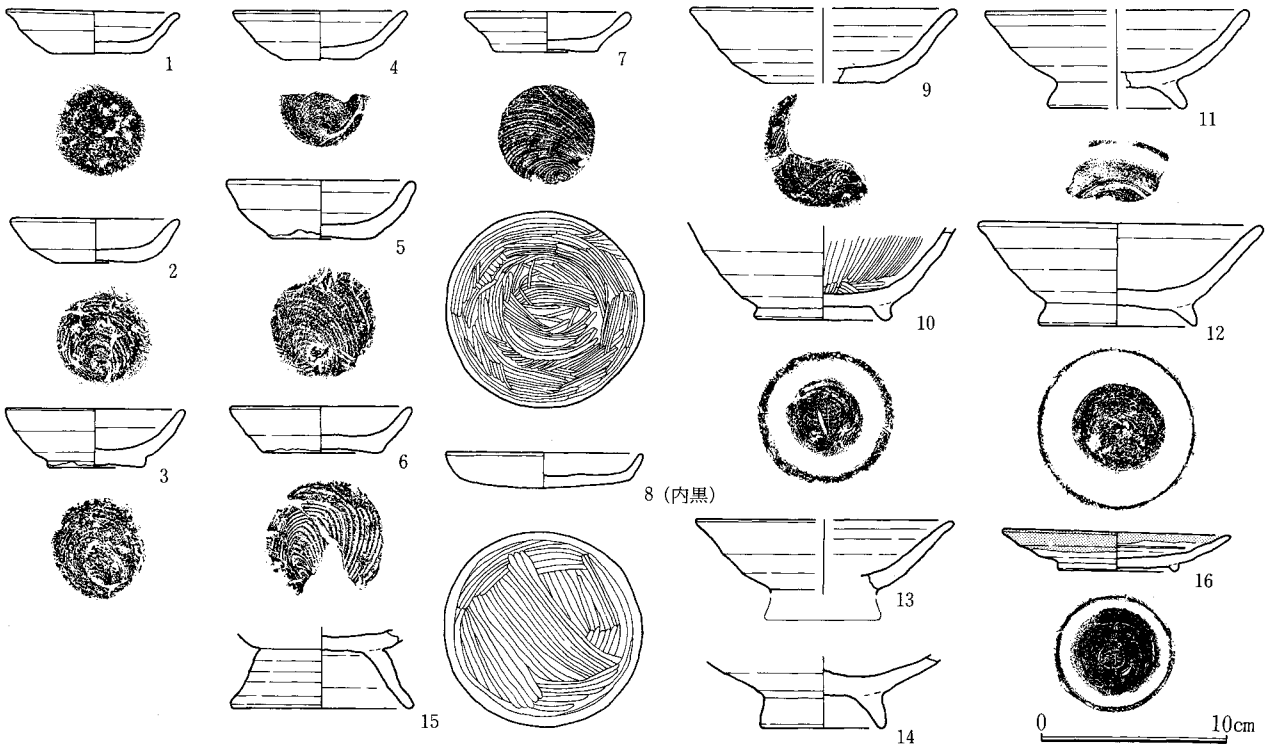
図—165　H—124号住居跡出土遺物実測図

H125号住居跡　（図—166・167　表4—55・56　図版—3・58）

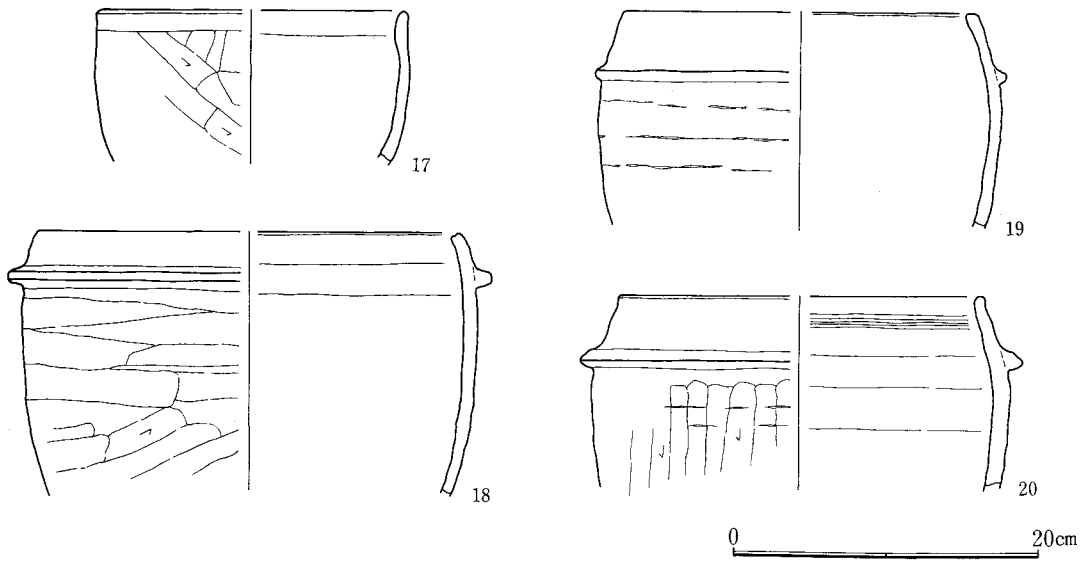
位置　調査区北東のI—196区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はわずかに外にはらむ。各隅角は隅丸。規模は東西3.38mで、南北4.18m、面積は13.31㎡。壁現高は27～37cmを測る。周溝は東壁下に一部検出されている。巾6cm。長軸方位はN—13°—E。　**ピット**　P_1、P_2。P_1(120×100×35cm)、南西隅。P_2(67×47×27cm)、カマド北。　**カマド**　東壁南隅。煙道部は削平されている。石材が一部組まれて残っていた。現状で全長60cm、壁外掘り込み52cm、燃焼部分長35cm、袖部内幅34cm。燃焼部は床面—8cmで、煙道へは直にあがる。　**重複関係**　北側でP—68と重複する。付近にもピットが多く位置する。H—125より新しい。103×78cm。　**遺物**　坏、埦、小形坏、灰釉段皿、甕、羽釜が出土。



1．I層とIII層の混土。
2．III層とローム塊の混土。
3．III層とロームの混土に焼土混入。
4．焼土と白色粘土の混土。
5．III層とロームの混土。
6．焼土。



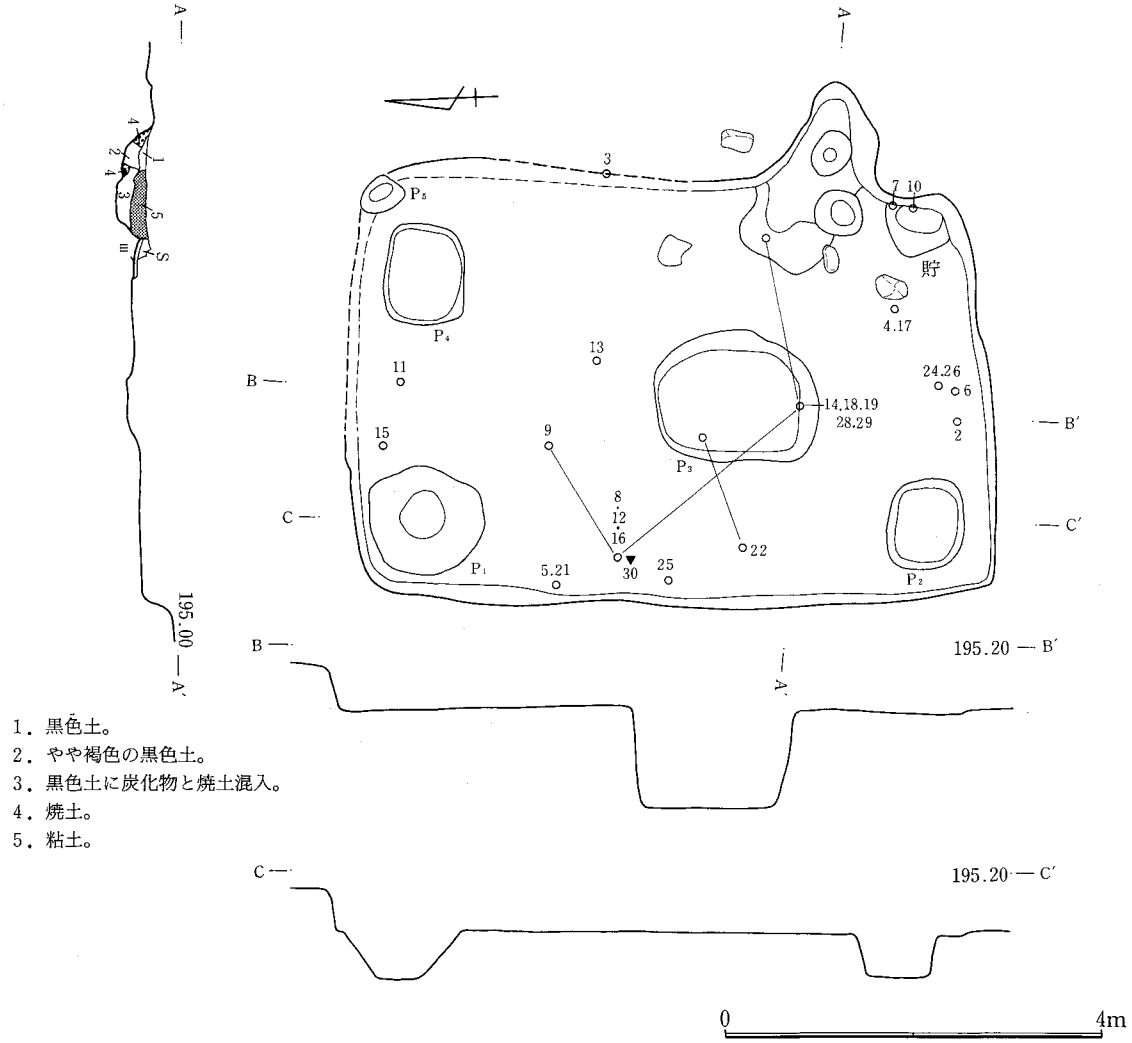
図—166　H—125号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—167　H—125号住居跡出土遺物実測図(2)

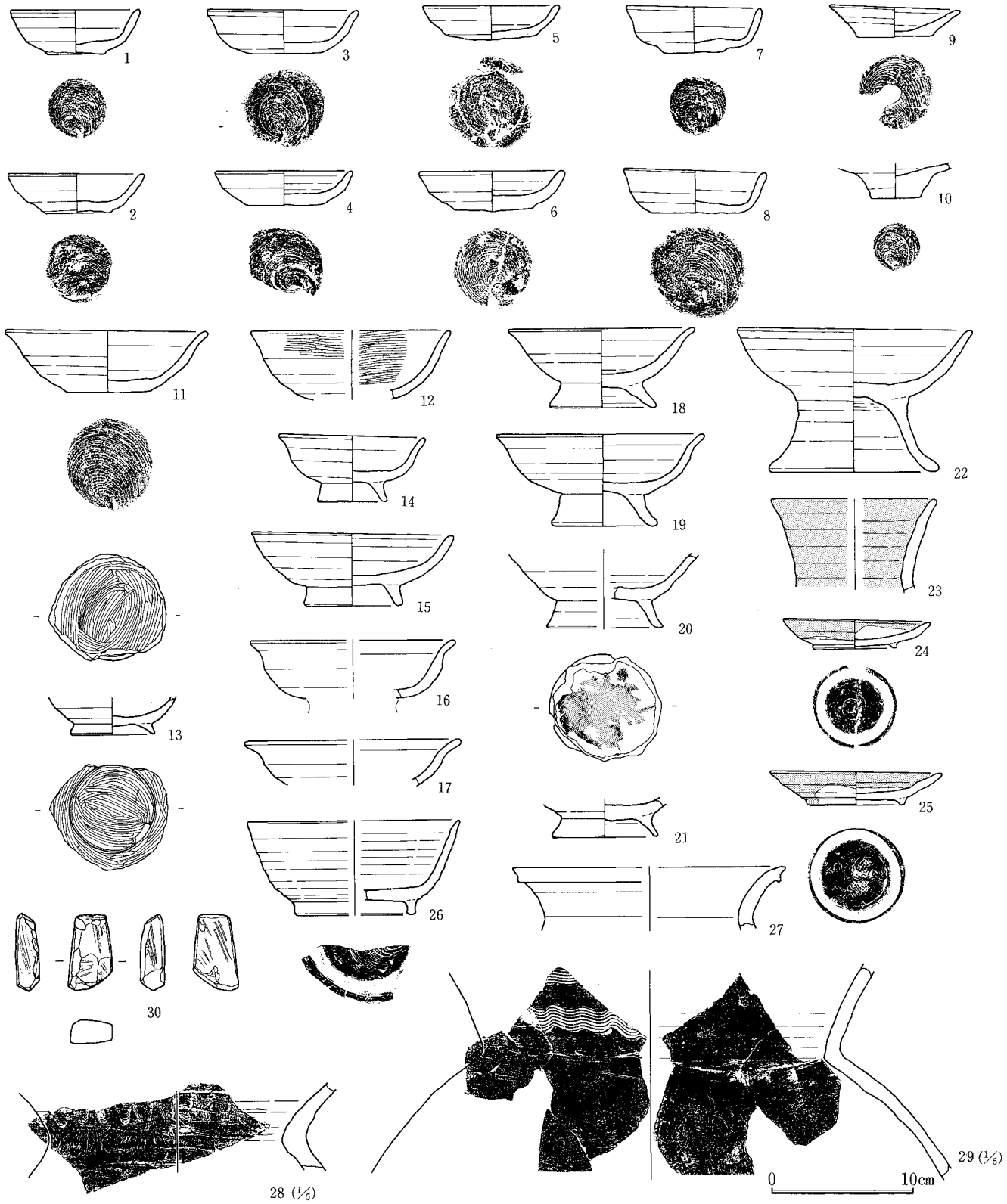
H126号住居跡　(図—168・169　表4—56・57　図版—3・59)

位置　調査区北東のI—175区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直で、各隅角も直に近い。規模は南北6.6mで、東西4.16m、面積は27.89m²。壁現高は36～44cmを測る。長軸方位はN—3°—W。　**ピット**　P_1 (121×116×



図—168　H—126号住居跡平・断面図

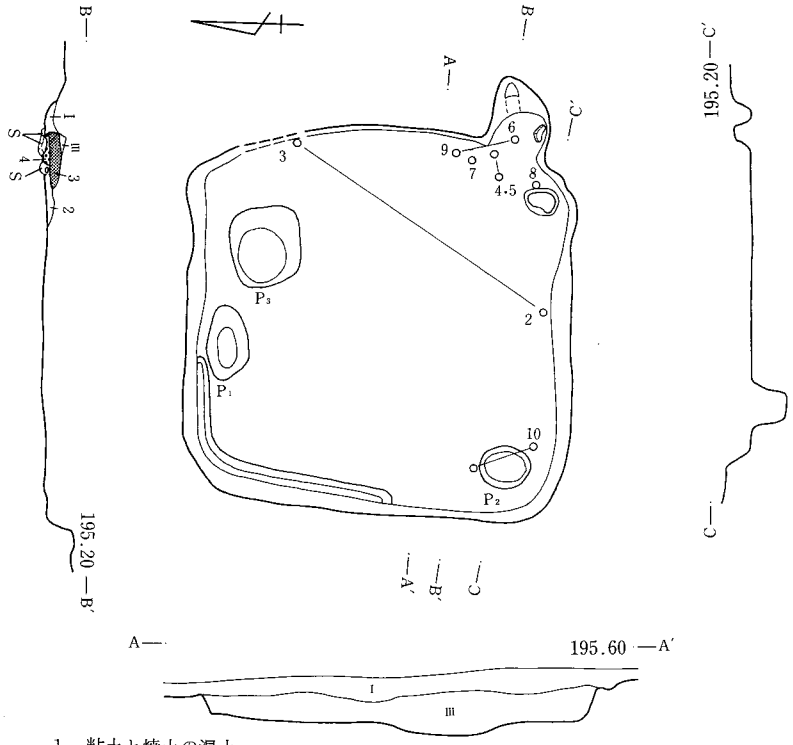
52cm)、P_2 (103×86×53cm)、P_3 (171×137×101cm)、P_4 (109×85×51cm)。$P_{1,2,4}$は柱穴か。　**カマド**　東壁南端。石材が散乱してのこる。全長160cmで、壁外掘り込み113cm、燃焼部分長64cm、袖部内幅50cm。燃焼部は床面－17cm。　**遺物**　坏、埦、小形坏、灰釉瓶・皿・段皿、甕、砥石が出土。



図－169　H－126号住居跡出土遺物実測図

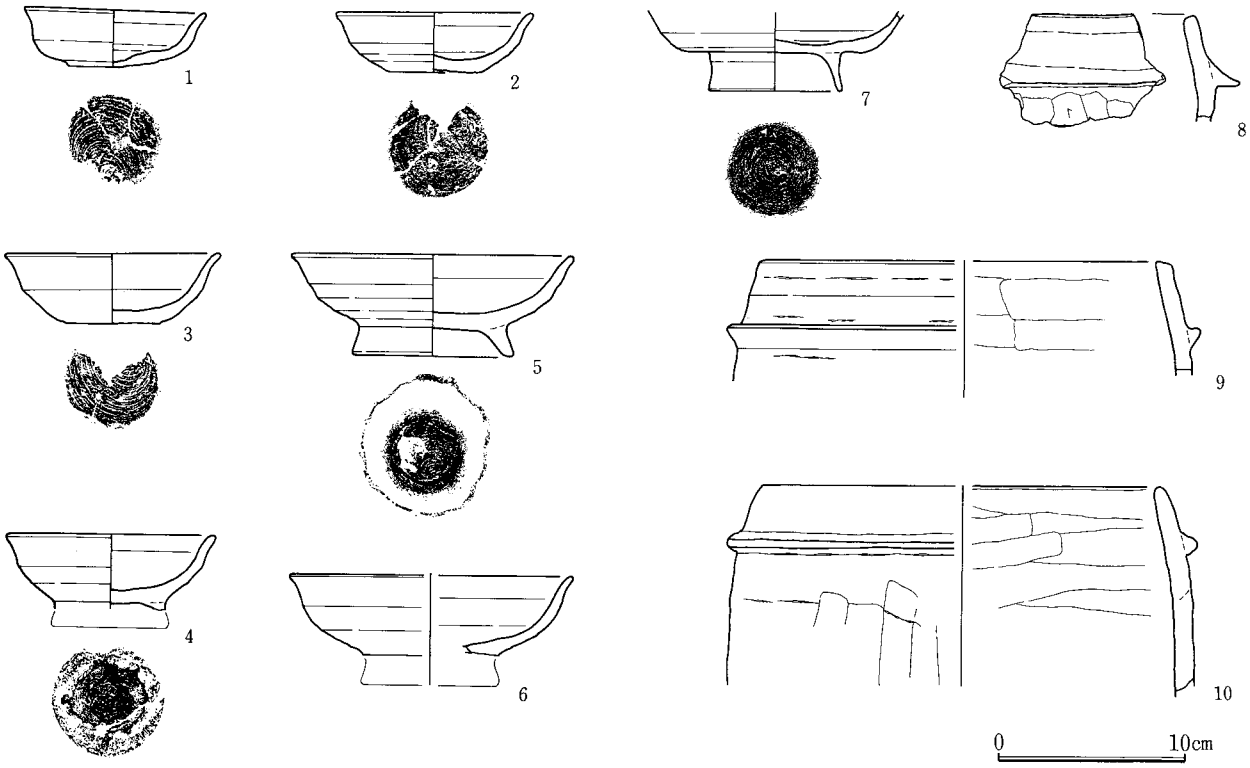
H127号住居跡　(図—170・171　表4—58　図版—59)

位置　調査区北東のⅠ—157区に位置する。周辺は住居跡の集中区である。　**形状**　方形。各辺はほぼ直で、各隅角は隅丸に近い。規模は東西4.0mで、南北3.8mを測る。面積は14.09m²。壁現高は22～40cmを測る。周溝は北東隅で検出されている。巾5～6cm。長軸方向はN—2°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1(80×45×—)、P_2(66×46×57cm)、P_3(88×76×37cm)。　**カマド**　東壁南隅。石材が若干のこる。全長97cm、壁外掘り込み63cm、燃焼部分長62cm、袖部内幅60cmを測る。煙道部は削平されている。燃焼部は床面—12cm。　**遺物**　埦、小形坏、小形埦、羽釜が出土。



1．粘土と焼土の混土。
2．黒色土に粘土と炭化物混入。
3．白色粘土。
4．焼土。

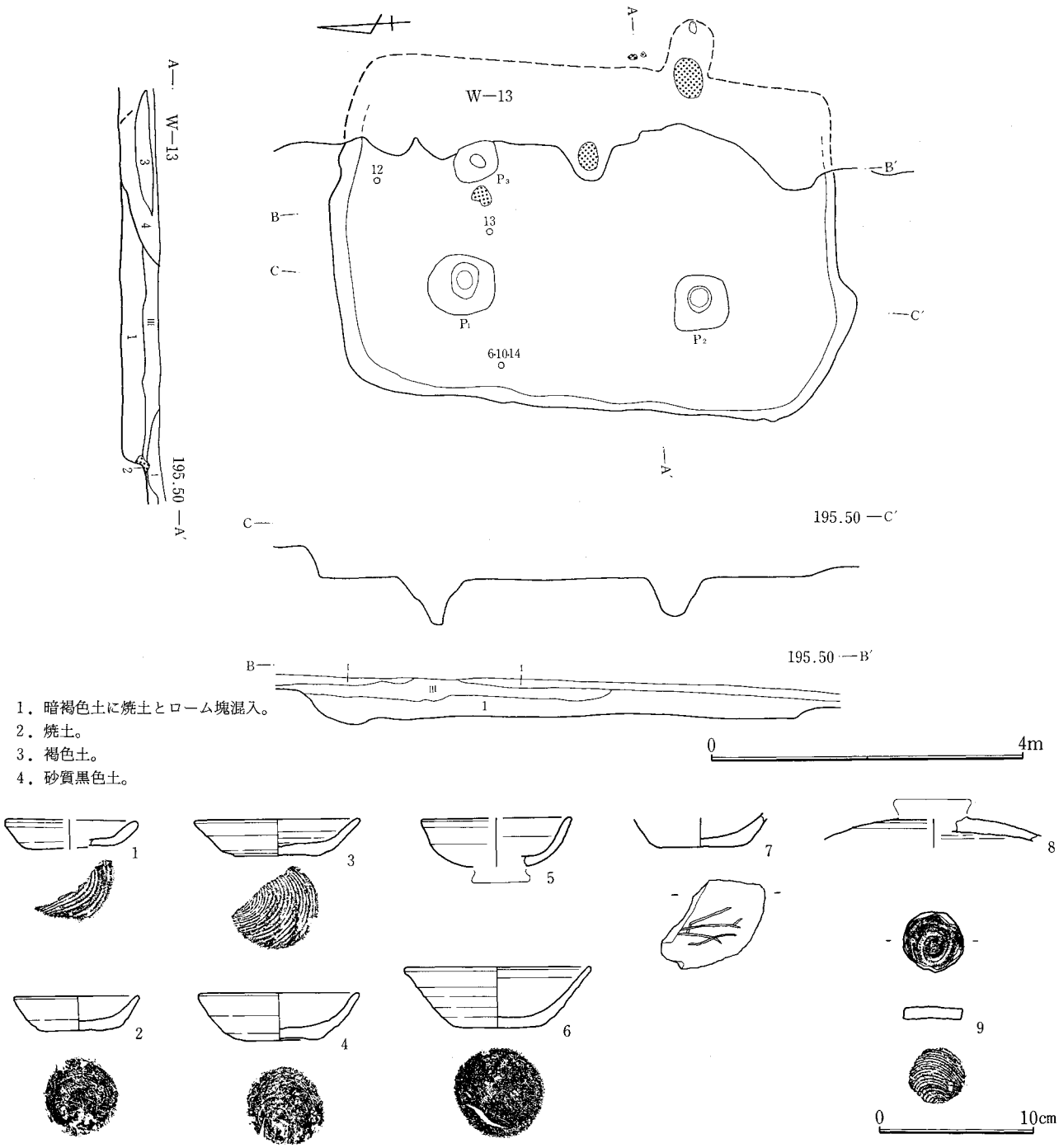
図—170　H—127号住居跡平・断面図



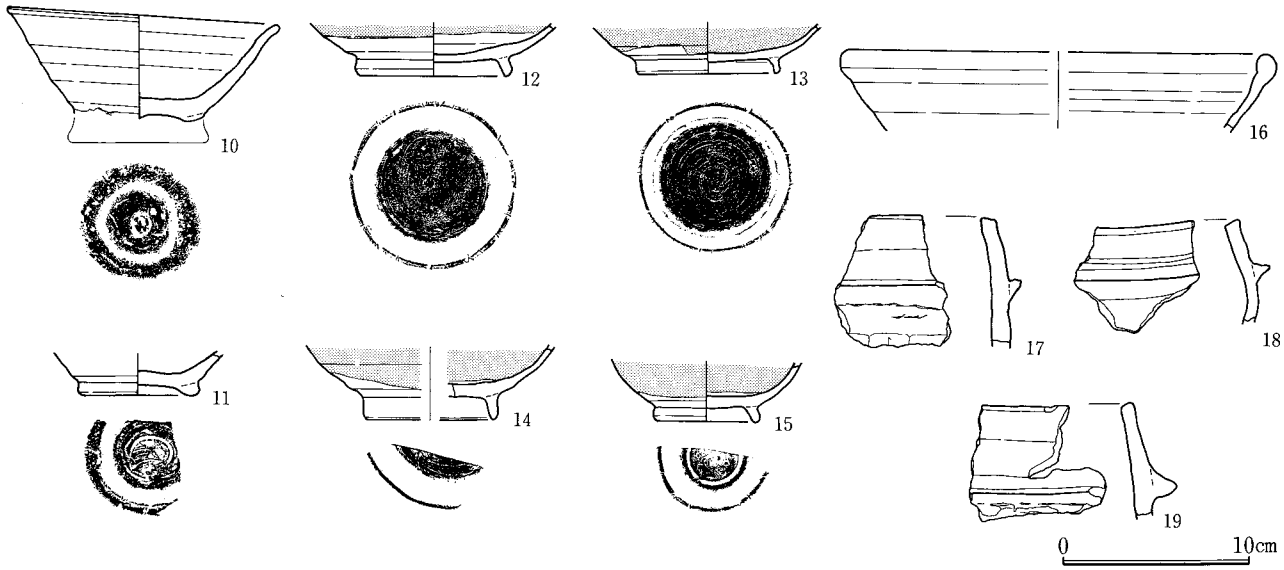
図—171　H—127号住居跡出土遺物実測図

H128号住居跡　（図—172・173　表4—58　図版—60）

位置　調査区北東のI—156・157区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。北、南辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸を呈す。規模は南北6.18mで、東西が現状で3.6m、面積は24.47㎡。壁現高は15～38cm。長軸方位はN－7°—W。　**ピット**　P_1～P_3。柱穴。P_1（71×71×54cm）、P_2（98×79×63cm）、P_3（61×50×30cm）。　**カマド**　東壁南側、W—13との重複でわずかに残存部がある。焼土域（50×35cm）と石材が若干のこる。　**遺物**　**重複関係**　W—13と重複する。W—13が新しい。北側にP—13が位置する。　**遺物**　坏、埦、小形坏、甕、土製円板、灰釉埦、鉢、羽釜が出土。



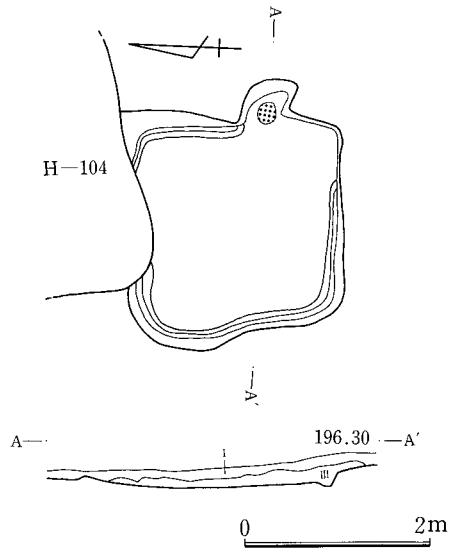
図—172　H—128号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—173　H—128号住居跡出土遺物実測図(2)

H129号住居跡　(図—174)

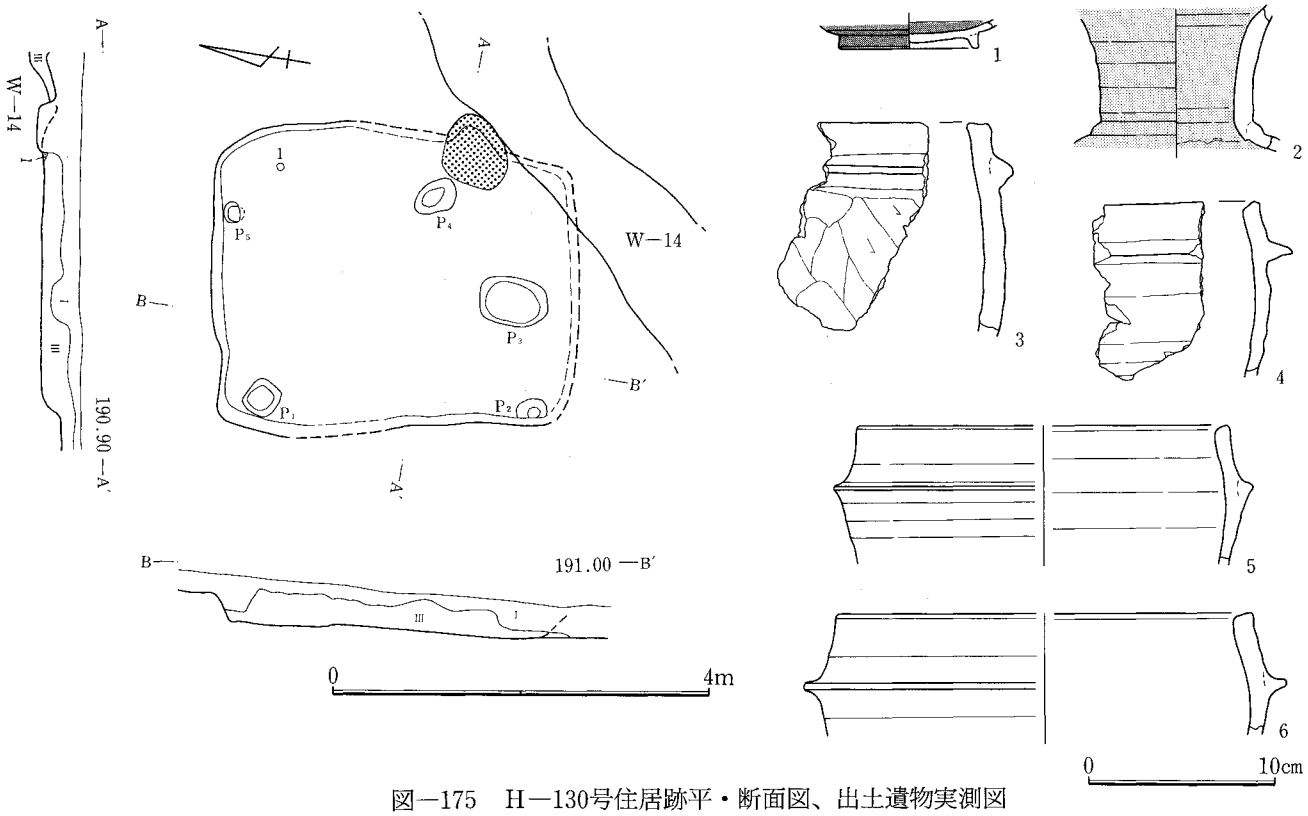
位置　調査区北東のⅠ—158区に位置する。　**形状**　方形。北、西辺はやや外にはらむ。各隅角は隅丸を呈す。規模は東西2.16mで南北2.14m、面積は4.66㎡。壁現高は10～15cmを測る。周溝はほぼ全周する。巾4～7cmで、深さ4cm。長軸方位はN—91°—E。　**カマド**　東壁中央南。全長50cm、壁外掘り込み40cm、燃焼部分長23cm、袖部内幅41cm。　**重複関係**　H—104と重複する。重複の状況からみるとH—129が旧い。



図—174　H—129号住居跡平・断面図

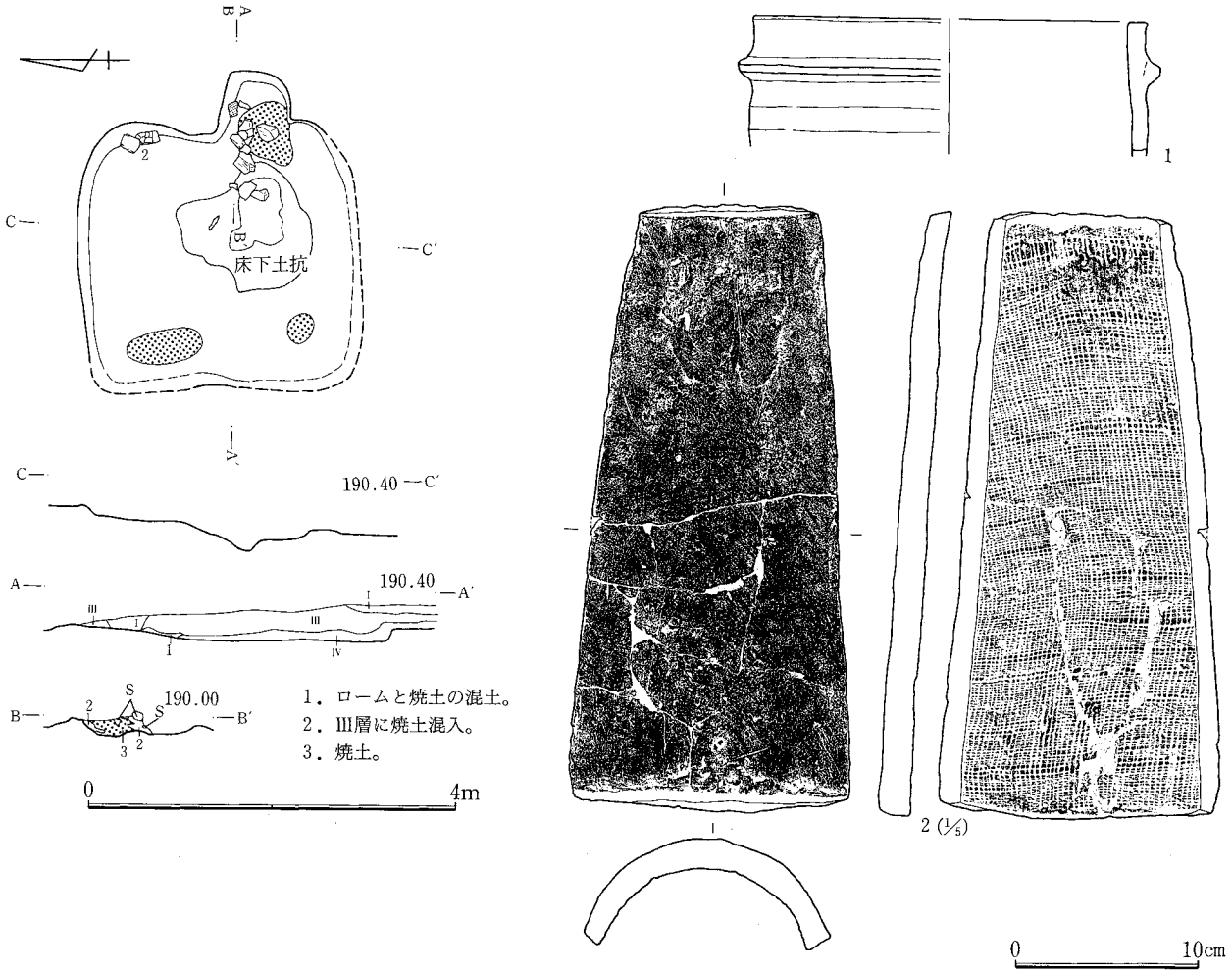
H130号住居跡　(図—175　表4—59)

位置　調査区北東のⅠ—134区に位置する。　**形状**　南北にやや長い長方形。各辺はほぼ直で、隅角も直に近い。規模は東西3.16mで南北3.68m。面積は10.57㎡。壁現高は23～35cmを測る。長軸方位はN—8°—E。　**ピット**　P_1～P_5。$P_{1,2,5}$は柱穴。P_1(39×36×14cm)、P_2(34×27×—cm)、P_5(22×22×20cm)。P_4は不明。P_4(50×35×12cm)。P_3は貯蔵穴の性格を持つものか。P_3(72×52×12cm)。　**カマド**　東壁南側。残存の状況は良くない。全長80cmで、壁外掘り込み27cm。　**重複関係**　W—14と重複。H—130が旧い。　**遺物**　緑釉埦、灰釉瓶、羽釜が出土。



図—175　H—130号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H131号住居跡　（図—176　表4—59　図版—60）

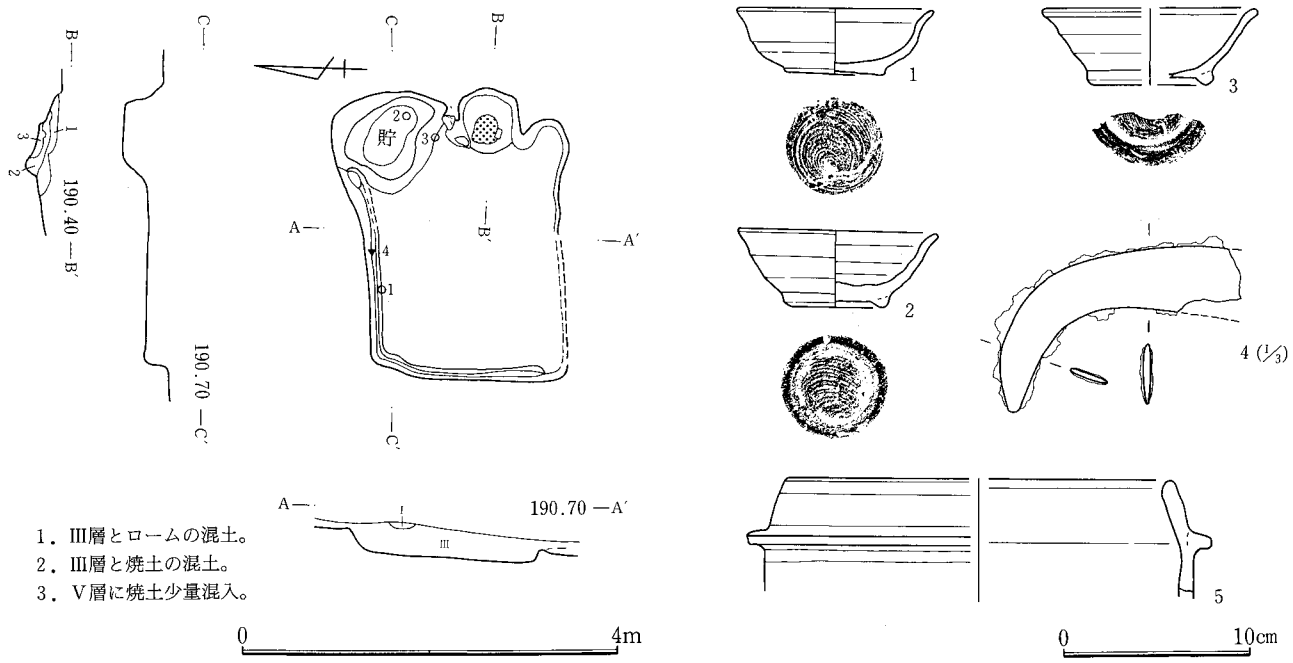


図—176　H—131号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査区中央部東のⅠ—115・116区に位置する。　**形状**　方形。各辺はほぼ直である。各隅角は隅丸。規模は東西2.6mで南北2.8m、面積は7.45㎡。壁現高は12～18cmを測る。長軸方位はN－0°。床面中央部に146×146cmの不整形の落ち込みがみられる。地層断面では確認されていないもので、床下土坑にあたるものか。詳細不明。すり鉢状の断面をもつ。　**カマド**　東壁南。壁外掘り込み55cm、燃焼部長66cm、袖部内幅70cm。燃焼部は床面－9cm。　**遺物**　羽釜、丸瓦が出土。

H132号住居跡　（図—177　表4—60　図版—3・61）

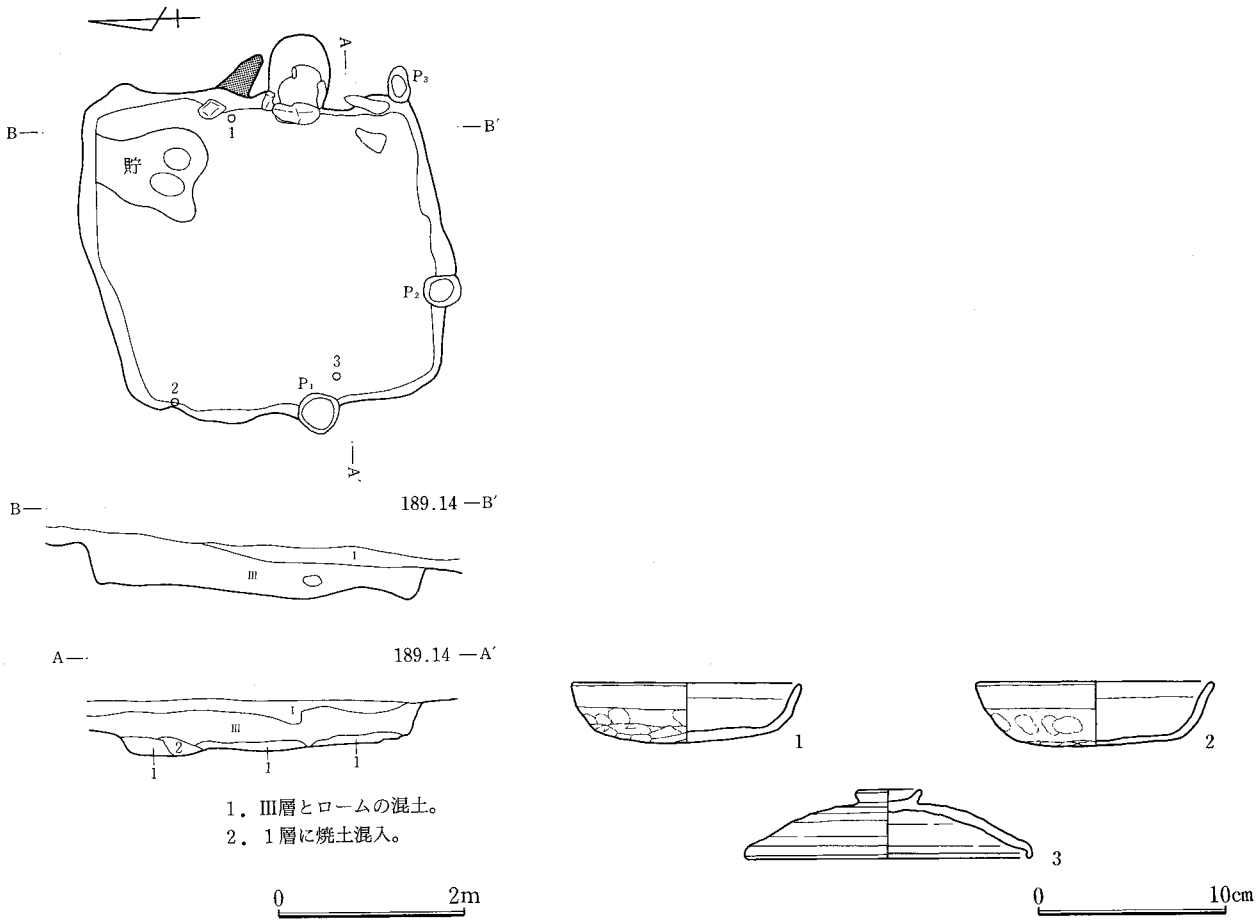
位置　調査区北東のⅠ—134・152区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角は直に近い。規模は東西3.10mで、南北1.90m、面積は5.51㎡。壁現高は21～31cmを測る。周溝は北と西壁下にめぐる。巾6～8cmで深さ4cm。長軸方位はN—92°—E。　**カマド**　東壁南側。石材が数石のこる。全長70cmで、壁外掘り込み20cm、燃焼部分長20cm、袖部内幅65cm、壁へはゆるやかな掘り込みである。燃焼部は床面－6cm。　**貯蔵穴**　北東隅のピットと考えられる。長円形で、120×83×24cm。　**遺物**　小形坏、小形埦、鎌、羽釜が出土。



図—177　H—132号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H133号住居跡　（図—178　表4—60　図版—4・61）

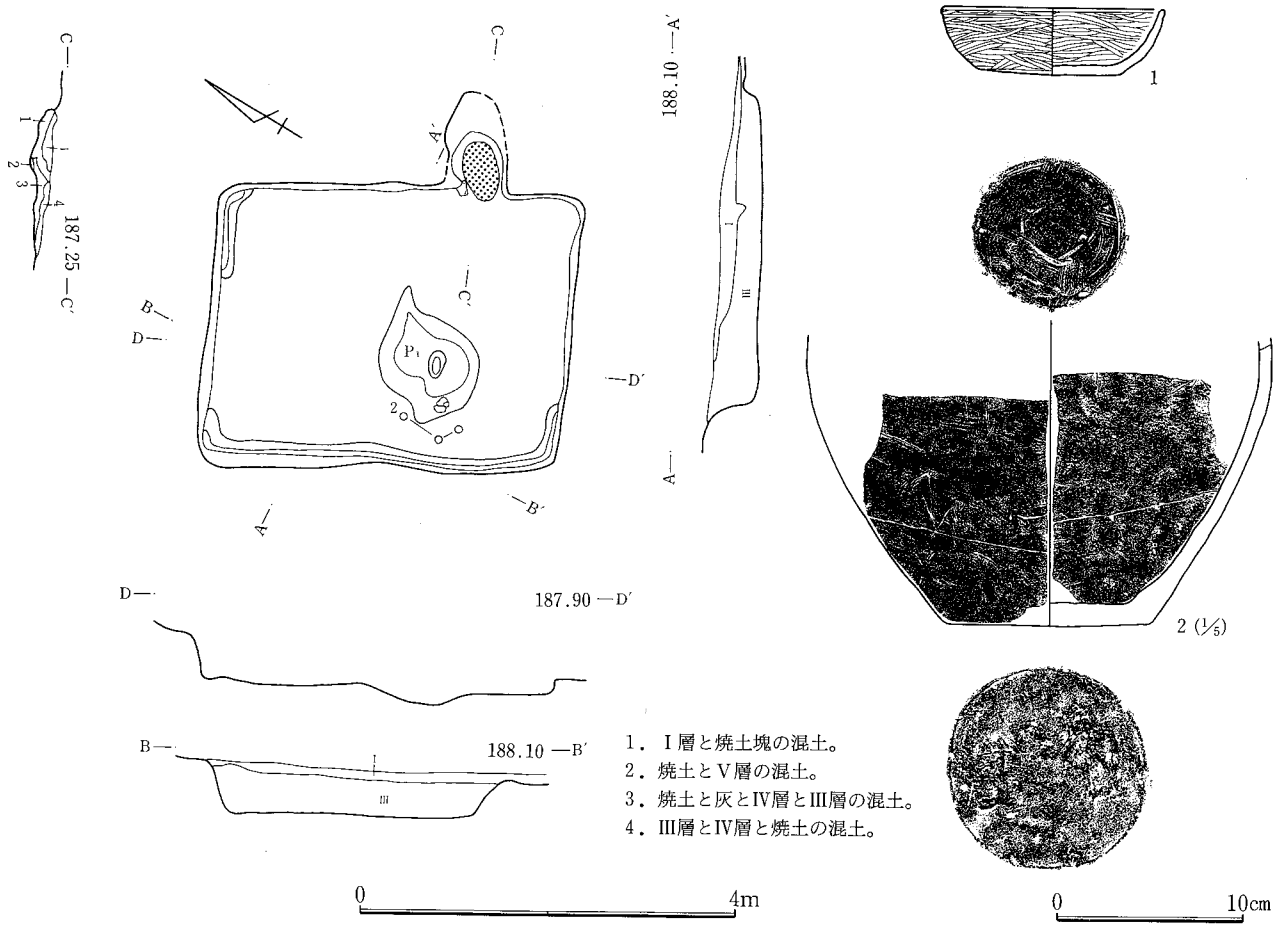
位置　調査区中央東側のⅠ—96区に位置する。　**形状**　方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は隅丸である。規模は東西3.2mで南北3.5m、面積は10.59㎡。壁現高は23～46cmを測る。長軸方位はN—2°—E。　**ピット**　P_1～P_3。柱穴と考えられる。P_1（41×41×30cm）、P_2（39×39×24cm）、P_3（34×22×10cm）、　**カマド**　東壁南。焚き口に石組み、他に石材と白色粘土がのこる。全長95cm、壁外掘り込み80cm、燃焼部分長20cm、袖部内幅45cm、壁へは急な立ちあがりをもつ。燃焼部は床面－9cm。　**貯蔵穴**　北東隅。不整形。120×90×16cm。　**遺物**　坏、蓋が出土。



図—178　H—133号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H134号住居跡　(図—179　表4—60)

位置　調査区北東のⅠ—95区に位置する。台地の南東に面する縁にあたる。周辺は住居跡はやや疎である。　**形状**　南北の長い長方形になる。北、西辺は内にややはらみ、南辺はやや外にはらむ。規模は南北3.68mで、東西2.70m、面積は10.70m²、壁現高は16～57cmを測る。周溝は西壁下と北東隅で検出されている。巾4～5cmで、深さ5cm。主軸方位はN—28°—E。　**ピット**　床面中央。145×105×42cmの平面だ円形。断面は円堆形。床下土坑カ。縁に4石がのこる。用途不明。　**カマド**　東壁南側。袖に石材一石がのこる。全長106cmで壁外掘り込み98cm、燃焼部分長50cm、袖部内幅38cm、壁へはゆるやかな掘り込みとなっている。燃焼部は床面＋2cm。　**テフラ**　ＦＰが目立つ。　**遺物**　盤状土器、甕が出土。

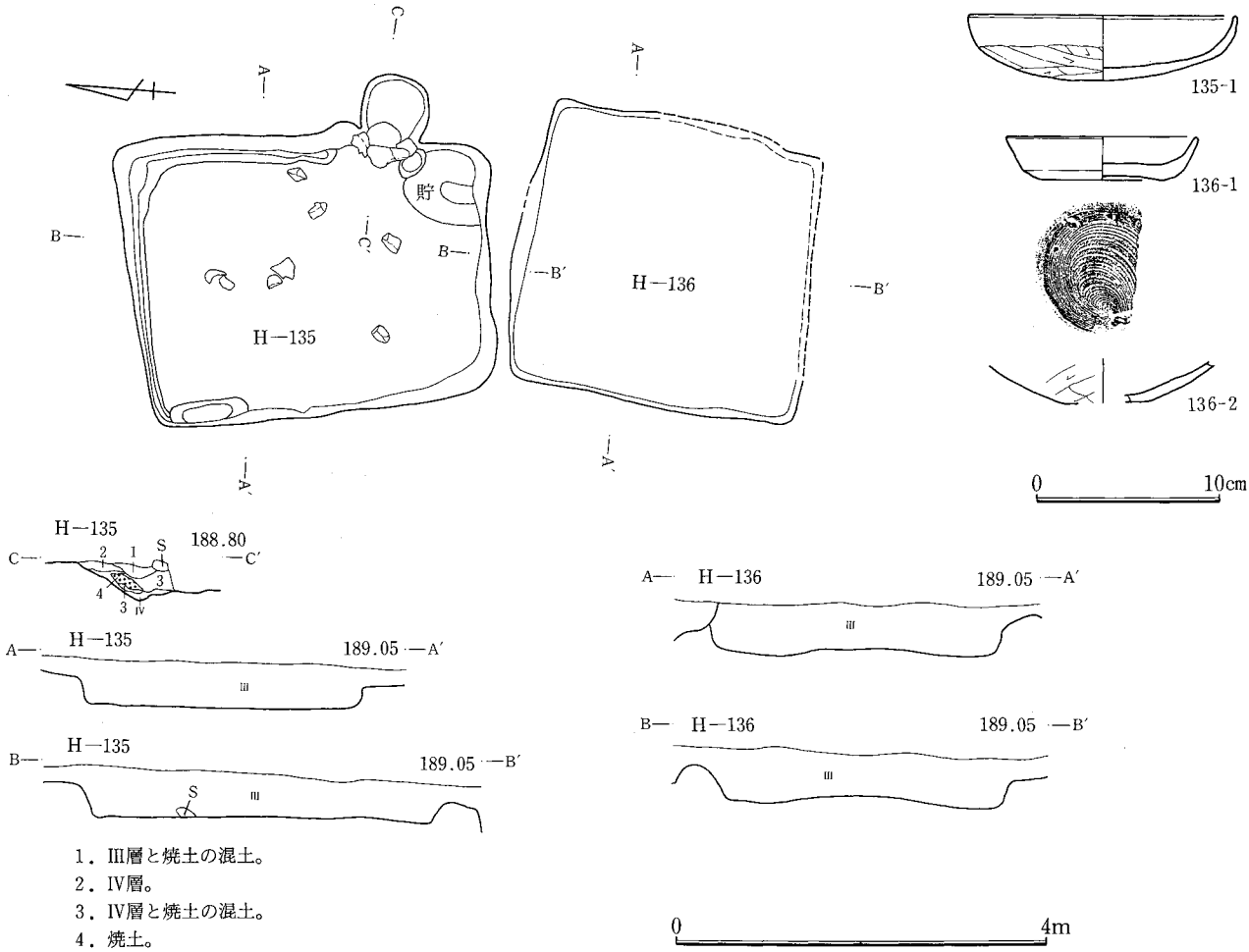


図—179　H—134号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H135・136号住居跡　（図—180　表4—60　図版—62）

〔H135〕 **位置**　調査区北東のⅠ—78区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺ともほぼ直であるが、北辺は南辺より長く台形に近い形状。北側の隅角は直に近いが、南側は隅丸に近い。規模は南北3.56mで東西2.71m、面積は10.29㎡。壁現高は22～37cmを測る。周溝は住居北半の壁下で検出されている。巾5～11cmで深さ7cm。主軸方位はN—10°—E。　**カマド**　東壁南側。石材が残る。左右の袖石と冠材。全長101cmで、壁外掘り込み70cm、燃焼部分長30cm、袖部内幅29cm、壁へは急な掘り込みとなっている。燃焼部は床面—13cm。　**貯蔵穴**　床面南東隅。円形。94×81×11cm。　**遺物**　坏が出土。

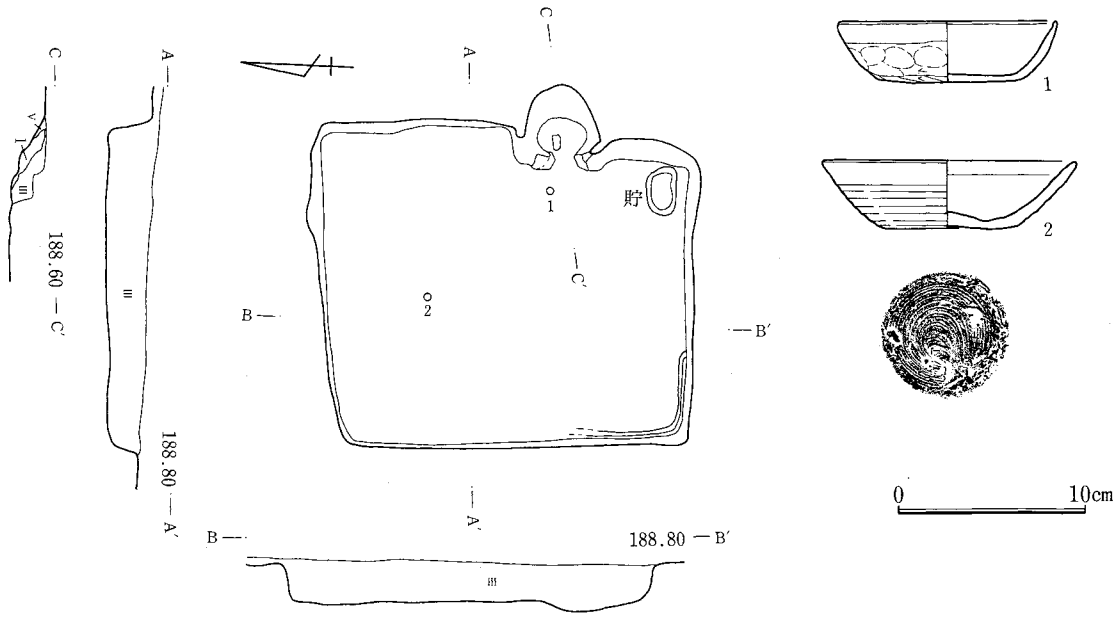
〔H136〕 **位置**　調査区北東のⅠ—78区に位置する。北にH—135が接して位置する。　**形状**　方形。各辺ともにほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.00mで、南北3.06m、面積は8.68㎡。壁現高は34～41cmを測る。周溝は確認されていない。長軸方位はN—7°—W。　**ピット**　住居に伴うと認められるものはなし。　**カマド**　削平されたものか。不明。後世の掘り込みとみられるものがあり削られたものか。　**遺物**　小形坏、甕が出土。



1．III層と焼土の混土。
2．IV層。
3．IV層と焼土の混土。
4．焼土。

図—180　H—135・136号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H137号住居跡　（図—181　表4—60　図版—4・62）



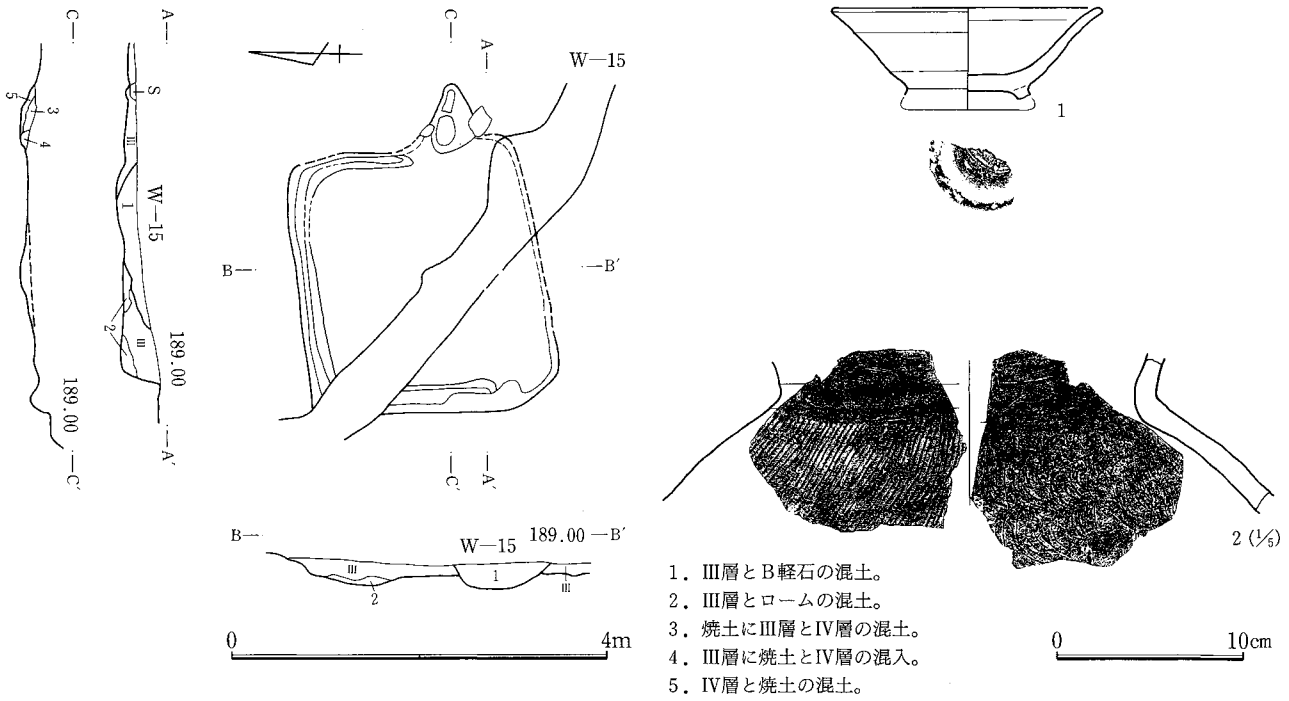
1．III層とIV層の混土に焼土と炭化物混入。

図—181　H—137号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査区北東のⅠ—78区に位置する。 **形状**　長方形。各辺はほぼ直であり、各隅角も直に近い。規模は東西3.34mで、南北3.79m、面積11.86㎡。壁現高は31～47cmを測る。周溝は南西隅で検出されている。巾2～5cm。長軸方位はN－4°—E。 **カマド**　東壁南側。袖石と支石がのこる。全長91cmで、壁外掘り込み57cm。燃焼部分長25cm、袖部内幅21cm、壁への掘り込みは急である。燃焼部は床面＋2cm。 **貯蔵穴**　南東隅。長円形で深い。49×33×62cm。 **遺物**　坏が出土。

H138号住居跡　（図—182　表4—61　図版—63）

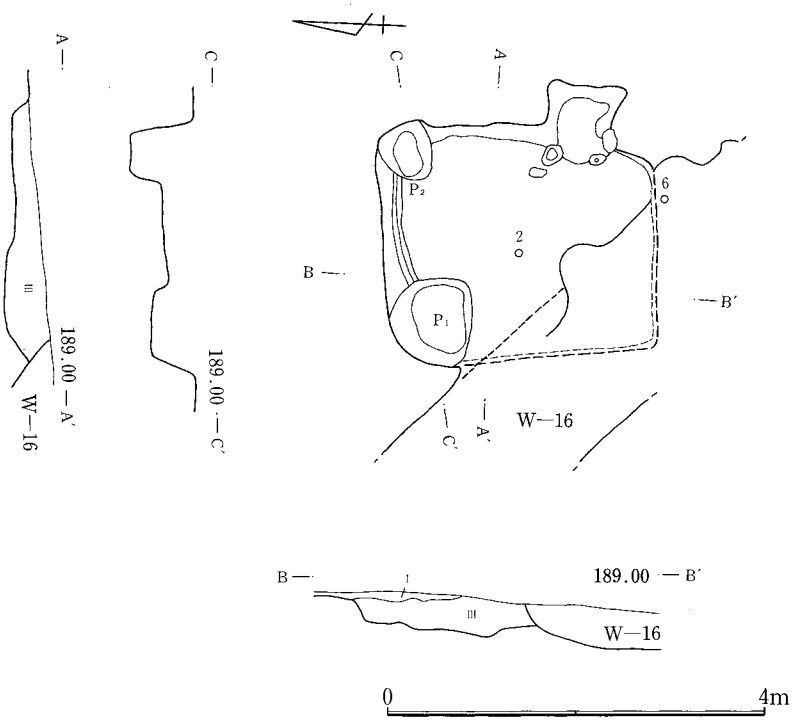
位置　調査区北東のⅠ—96区に位置する。 **形状**　方形。各辺はやや外にはらみ、各隅角も隅丸に近い。規模は東西2.66mで南北2.45m。面積は6.40㎡。壁現高は9～41cmを測る。周溝は北、西壁下と東壁下北2分の1で検出されている。住居規模にくらべて規模の大きな周溝。巾6～27cmで、深さ3cm。長軸方位はN—93°—E。 **カマド**　東壁南端。両袖に石材がのこる。全長66cmで壁外掘り込み53cm、袖部内幅43cm、壁へはゆるやかな掘り込みである。燃焼部は床面－6cmを測る。 **重複関係**　W—15と重複する。地層断面によりH—138が旧い。 **遺物**　埦、甕が出土。



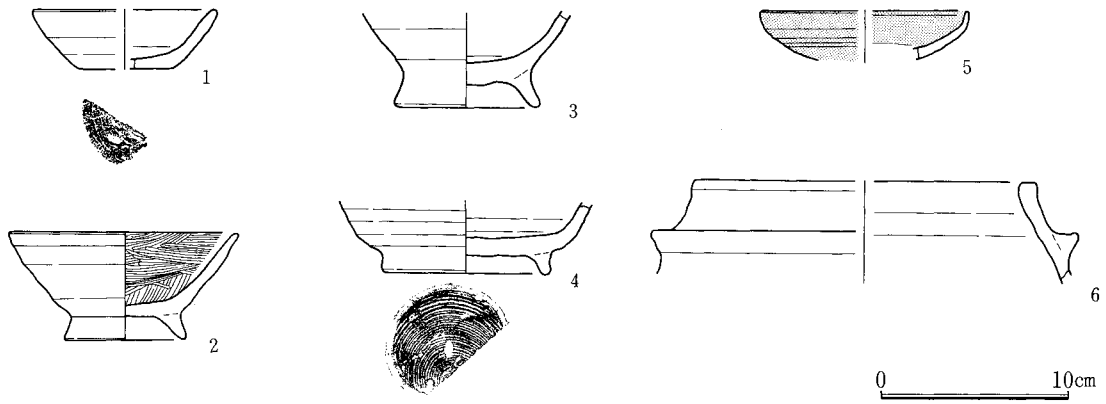
図—182　H—138号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H139号住居跡　（図—183・184　表4—61　図版—4・63）

位置　調査区北東のⅠ—114区に位置する。 **形状**　方形。南側をW—16が重複し、削平をうけているため、南限については推定である。北、東辺はやや外にはらむ。北側の隅角は隅丸を呈す。規模は東西が2.44mで、南北が推定2.76m、面積は6.07㎡。壁現高は20～28cmを測る。周溝は北壁下で検出されている。巾3～8cm。長軸方位はN—4°—E。 **ピット**　床面北西隅（P_1）と北東隅（P_2）。P_1は82×62cm、P_2は55×41cm。用途不明。 **カマド**　東壁南側。右袖の石材がのこる。全長93cmで、壁外掘り込み59cm、袖部内幅49cm。 **重複関係**　W—16と重複する。H—139が旧い。 **遺物**　埦、小形坏、灰釉皿、羽釜が出土。



図—183　H—139号住居跡平・断面図



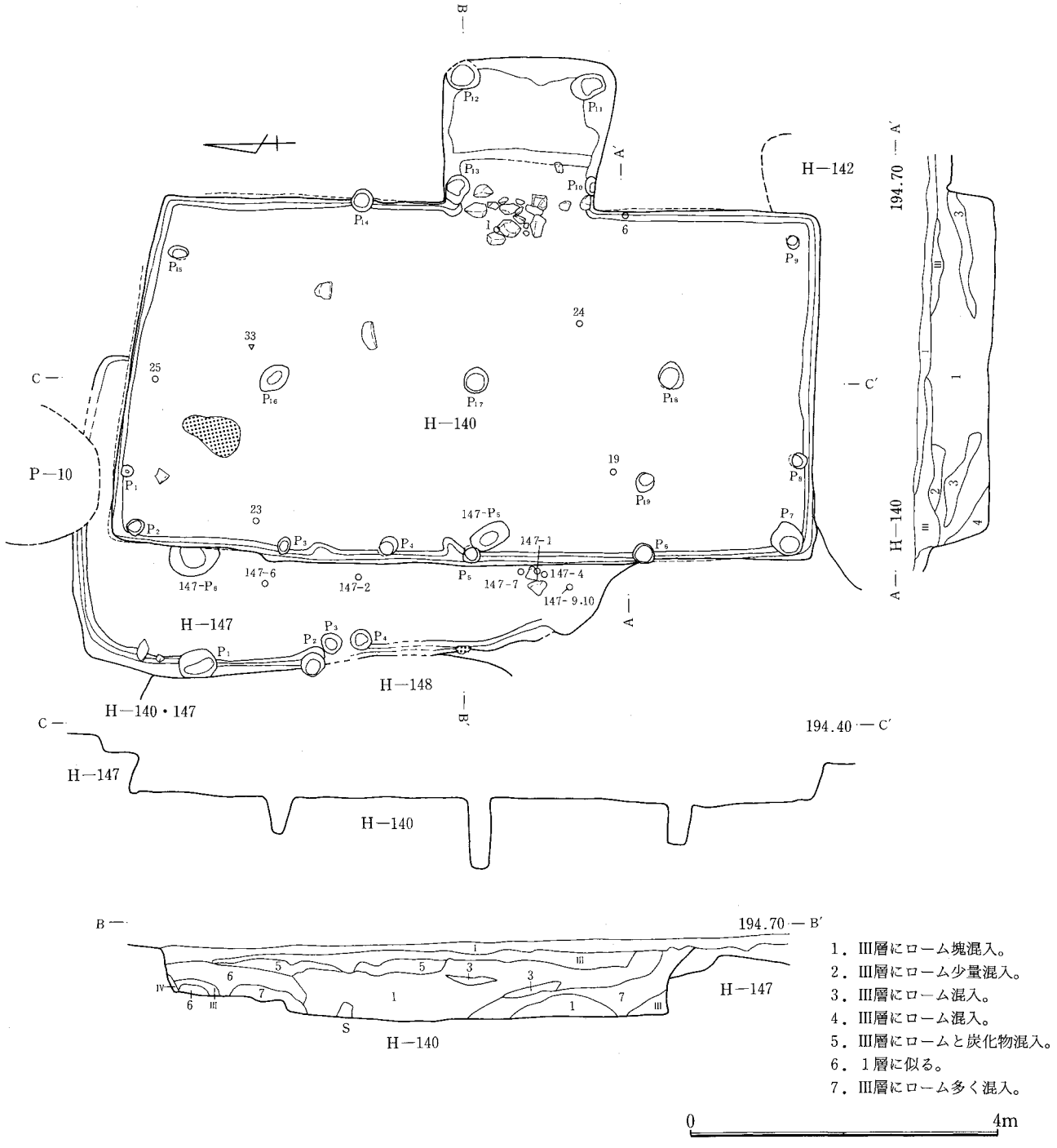
図—184　H—139号住居跡出土遺物実測図

H140・147号住居跡　（図—185・186・187　表4—61・62・63　図版—4・64・66）

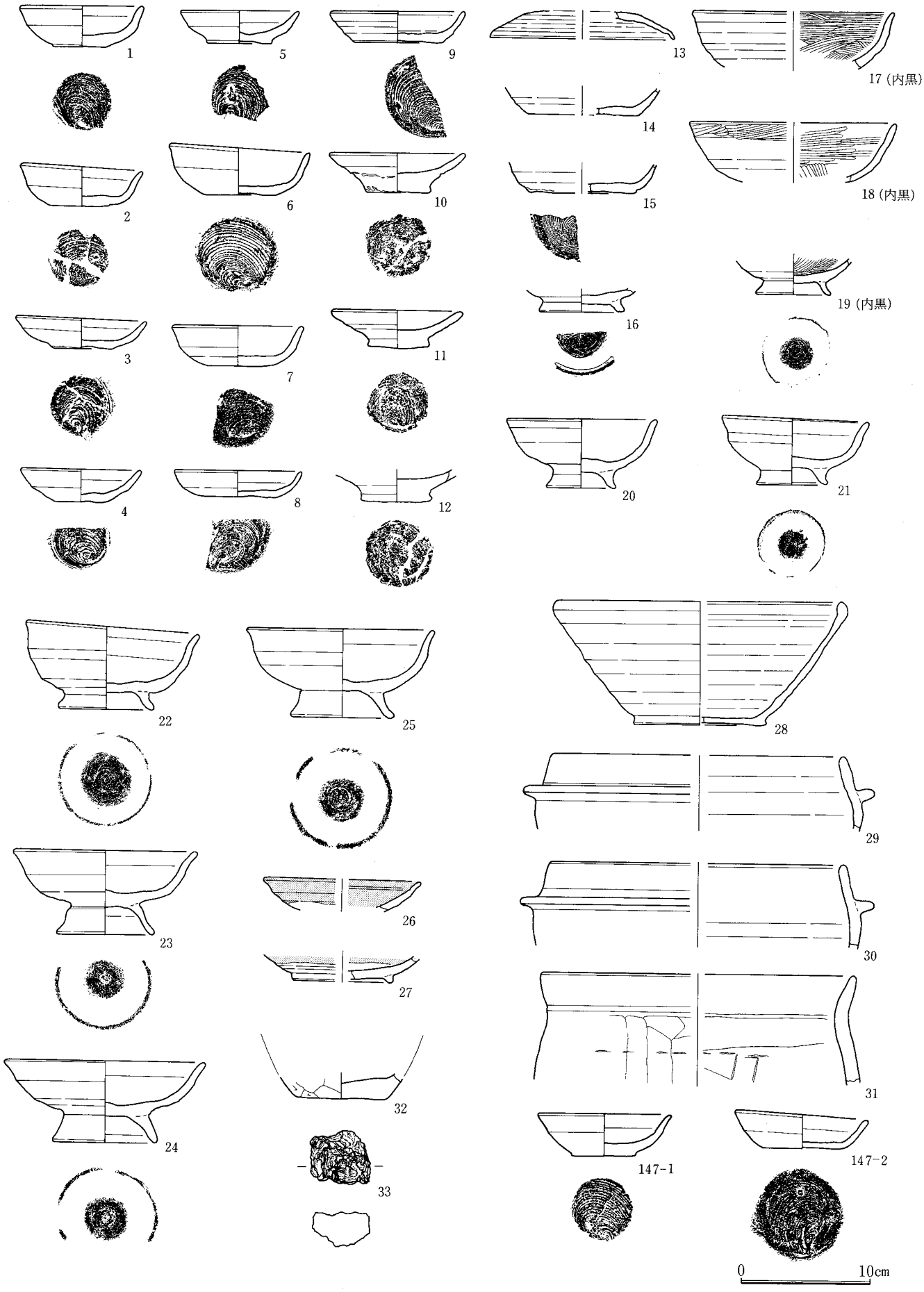
〔H140〕　**位置**　調査区北東のI—175区に位置する。住居跡の集中している地区の中央にあたる。　**形状**　南北に長い長方形。各辺で直で、各隅角も直。規模は東西4.72mで南北9.02m、面積は43.50m²。壁現高は94～62cmを測る。周溝が全周する。巾6～8cmで深さ6cm。長軸方位はN—0°。　**ピット**　床面その他に19ヵ所。P_1～P_9と$P_{14,15}$は壁下の柱穴とみられる。径20～30cmが多く、深さは20～40cm。壁下に等間隔に並ぶ。P_{10}～P_{13}はカマドの四隅に位置する。径40cm位で、深さ20cm位。床面中央に南北に並び三基のピットがある。柱穴か。径40cm位で、深さは60～70cm。他の住居跡にくらべて柱穴の状況が異なる。カマドも特異であり、住居跡ではない生産施設跡か。　**カマド**　東壁中央。石材と粘土が

のこる。全長206cmで壁外掘り込み194cm、カマド内に段差があり、奥を燃焼部とすると燃焼部長94cm、袖部内幅150cm。奥は急な立ちあがりになっている。燃焼部は床面＋16cm。 **重複関係** H—142、H—147と重複。H—140が新しい。 **遺物** 坏、埦、小形坏、蓋、灰釉皿・埦、鉢、羽釜、甕、鉄滓が出土。

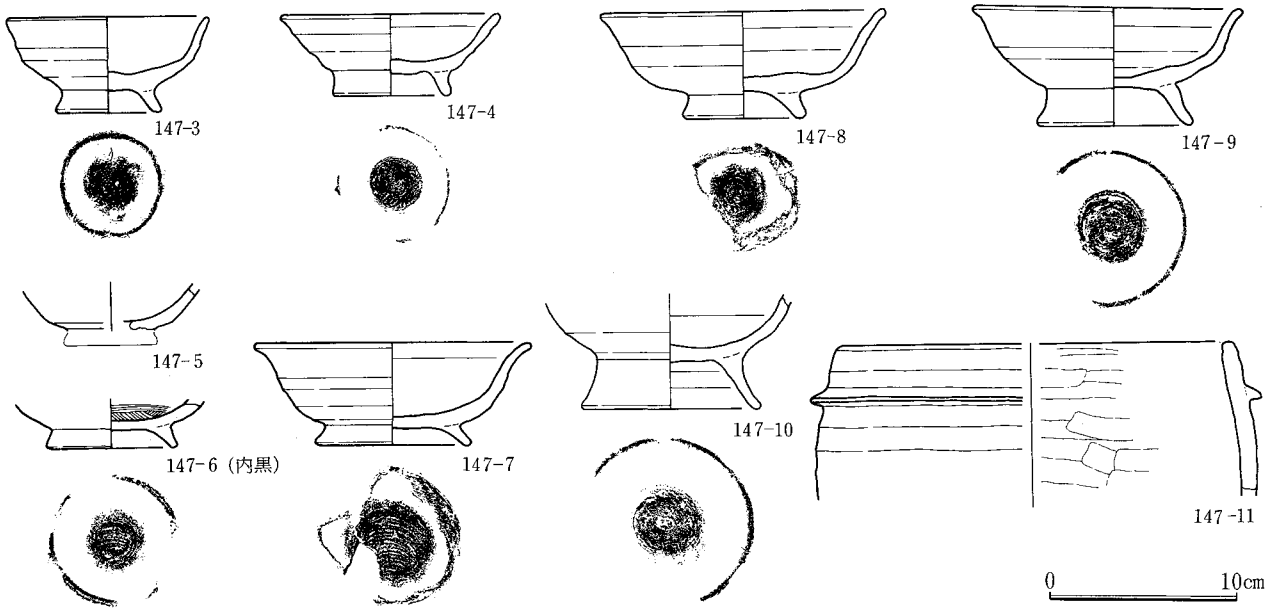
〔H147〕 **位置** 調査区北東のⅠ—175区に位置する。 **形状** H—140との重複で失なわれた部分が多いが、南北に長い長方形と想定される。残存する北辺と西辺はやや外にはらむ。北東隅は隅丸を呈す。規模は東西3.00mで、南北5.10m、面積は9.23m²。壁現高は床面までの削平で不明。周溝は北～西壁下で検出されている。巾4～16cm。 **ピット** P_1～P_6。P_1～P_4は壁下周溝内にあり壁柱穴とみられる。径20cm位で深さ20～30cm。P_5、P_6は柱穴か。 **カマド** 不明。南西隅のH—140と接する地点に落ちこみ（100×45cm）があり、石材2石があり、その西に焼土がある。カマドのなごりともみられるが不明。 **重複関係** H—140と重複。H—147が旧い。 **遺物** 埦、羽釜が出土。



図—185 H—140・147号住居跡平・断面図



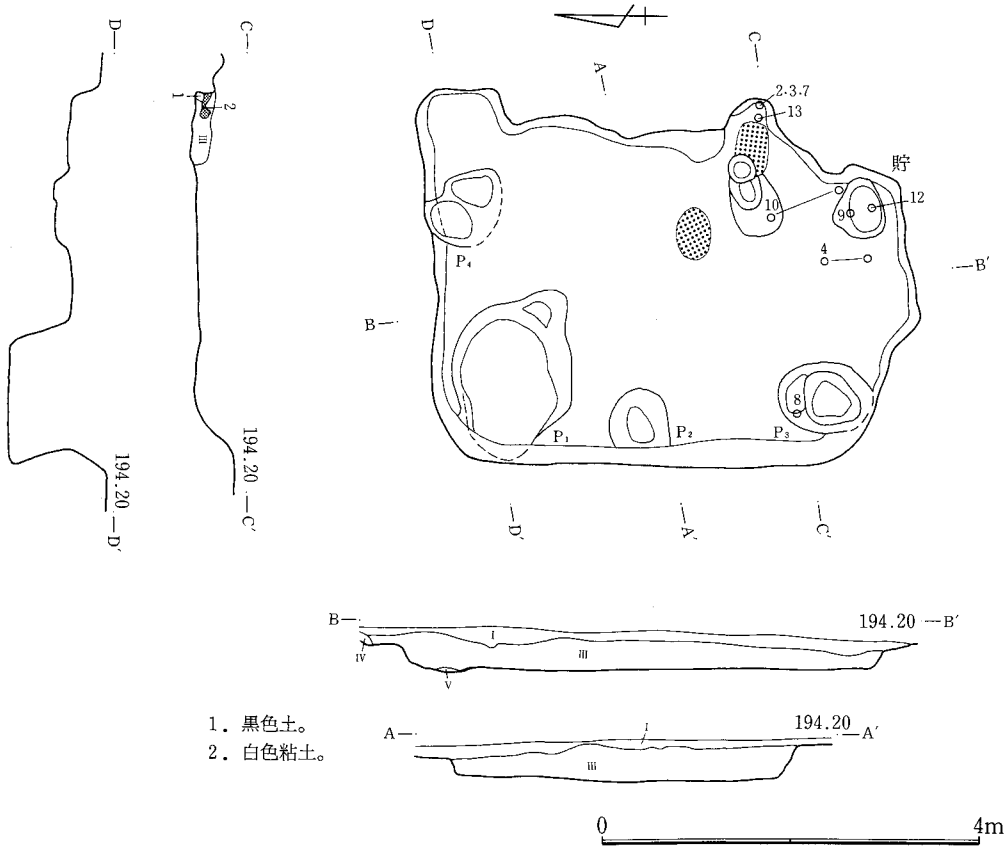
図—186　H—140・147号住居跡出土遺物実測図(1)



図—187　H—147号住居跡出土遺物実測図(2)

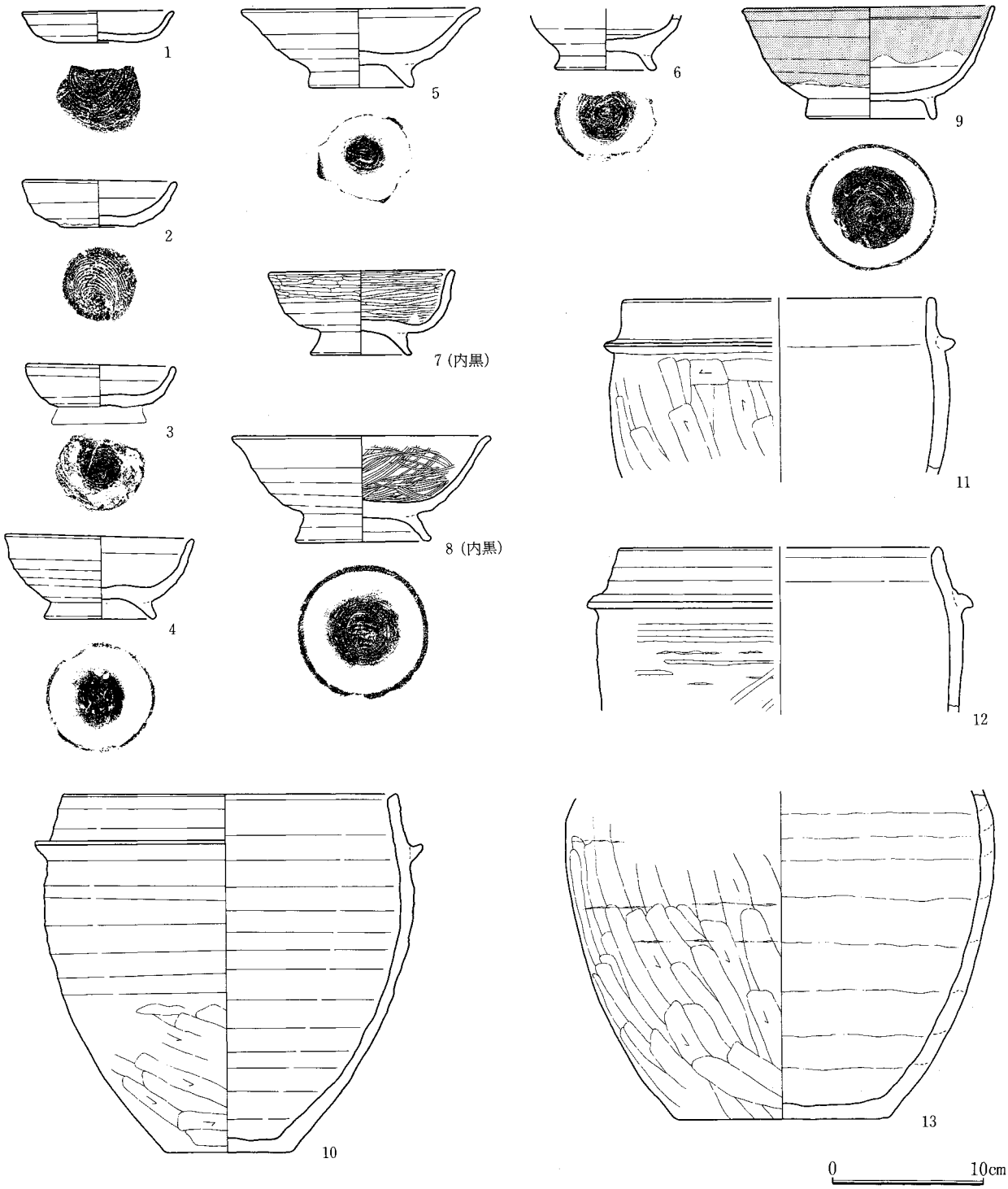
H141号住居跡　（図—188・189　表4—63・64　図版—4・64）

位置　調査区北東のⅠ—174区に位置する。住居跡集中区の中央にある。　**形状**　北辺と西辺はやや直に近いが、他は不整形。隅角も北西隅が隅丸に近いが、他はあまり明確ではない。規模は東西1.59mで、南北2.44m、面積15.03㎡。壁現高は20～40cmを測る。周溝は確認されなかった。長軸方位はN—0°。北東隅に張り出しをもつ。方形で73×63cm。ま



図—188　H—141号住居跡平・断面図

た、カマドの北西に焼土域をもつ。50×30cm。　**ピット**　P_1～P_4。壁下。P_1（162×132×61cm）、P_2（63×66×—cm）、P_3（104×75×28cm）、P_4（92×75×17cm）。他に南東隅に貯蔵穴（67×44×24cm）がある。　**カマド**　東壁南側。白色粘土がのこる。全長115cmで、壁外掘り込み32cm、燃焼部分長52cm、袖部内幅65cm。燃焼部は床面－8cm。カマド手前にピットがある。灰カキ穴になるものか。　**遺物**　埦、小形坏、小形埦、内黒埦、灰釉埦、羽釜が出土。

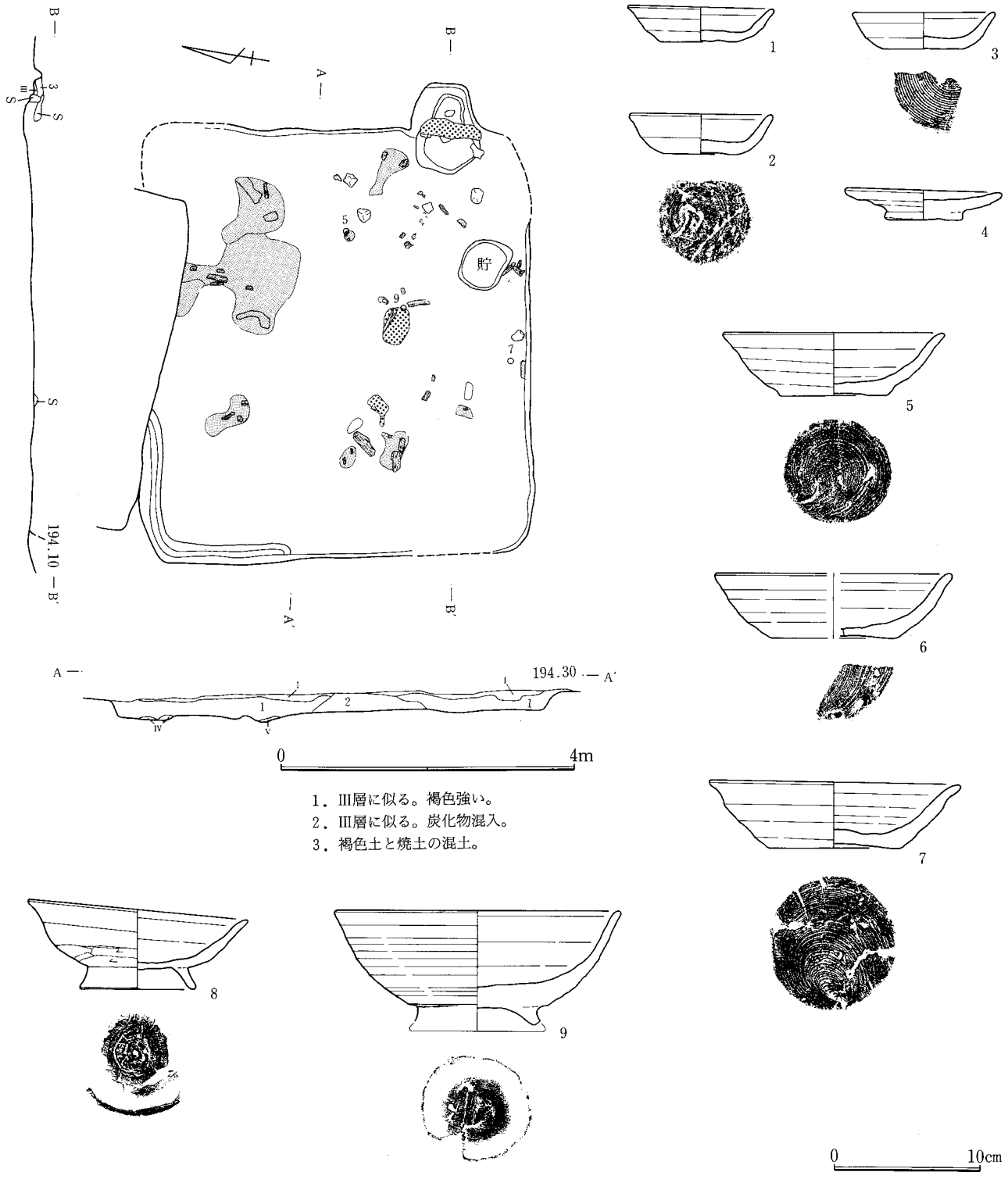


図—189　H—141号住居跡出土遺物実測図

H142号住居跡　（図—190　表4—64　図版—4）

位置　調査区北東のI—174・175区に位置する。　**形状**　東西にやや長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も隅丸。規模は東西5.74mで、南北5.12m、面積は27.92m²。壁現高は24～30cmを測る。周溝は北西隅に検出されている。巾6～10

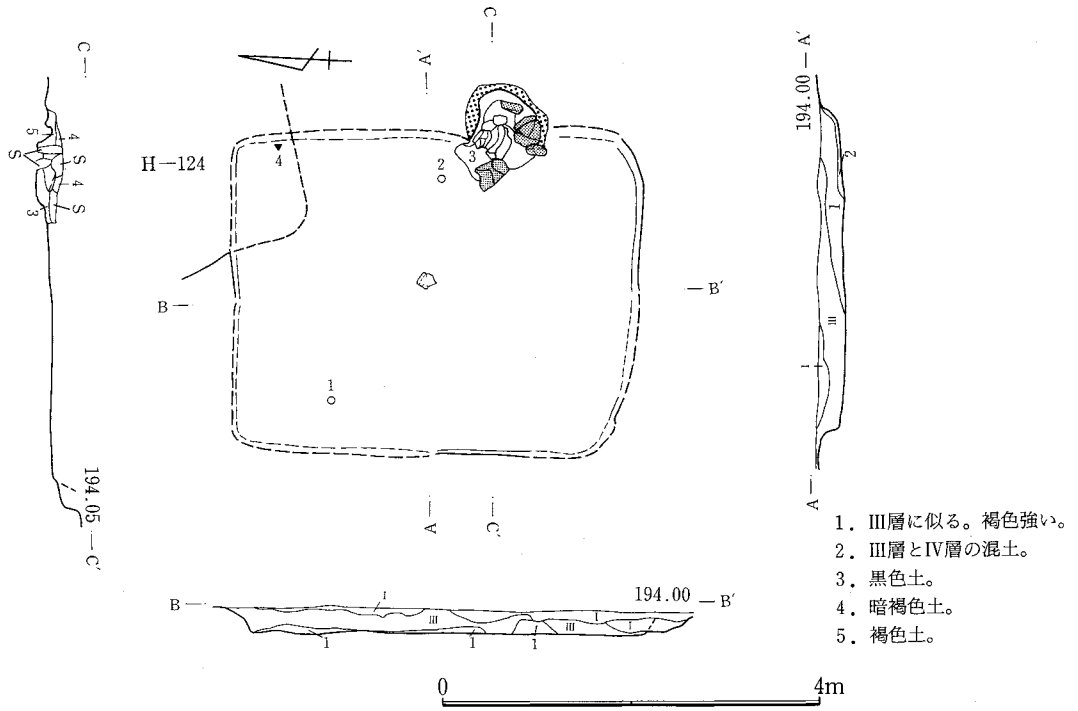
cm。長軸方位はN―10°―E。　**カマド**　東壁南端。冠材、支石、袖石、石材がのこる。全長127cm、壁外掘り込み64cm、燃焼部分長54cm、袖部内幅40cm、壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面－14cm。　**重複関係**　H―140と重複。H―142が旧い。　**その他**　床面に多量の炭化物がのこる。構造材と思われる。　**遺物**　坏、埦、托、小形坏が出土。



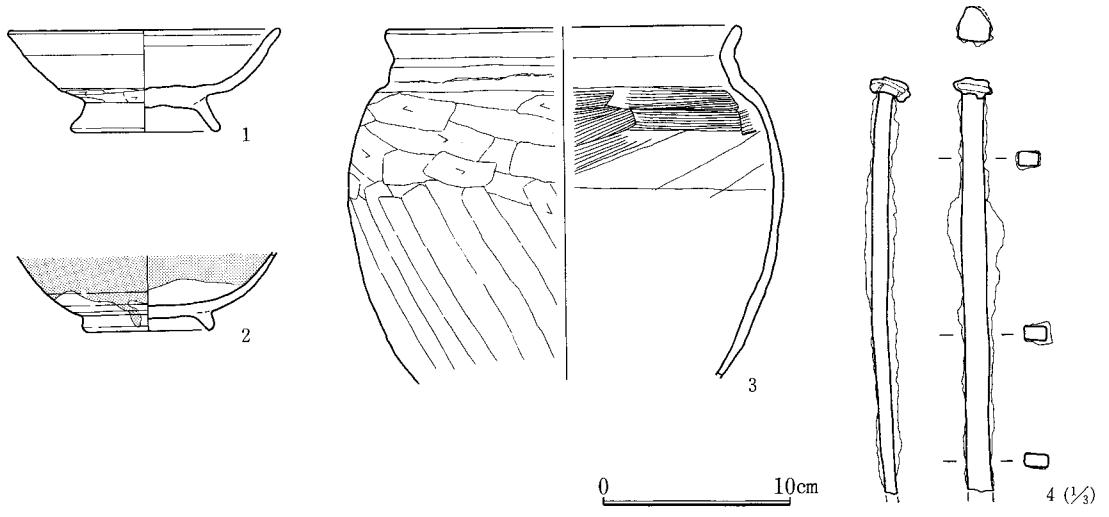
図―190　H―142号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H143号住居跡　（図—191・192　表4—64）

位置　調査区北東のI—174・192区に位置する。　**形状**　削平で失なわれたところも多いが、南北に長い長方形と考えられる。各辺は部分の検出であるが、直に近いとみられる。北側の隅角は直に近いと思われるが、南側は隅丸。規模は東西3.34mで、南北4.14m、面積13.60㎡。壁現高は18～26cm。長軸方位はN—1°—E。　**カマド**　東壁南。石材が6石のこる。燃焼部は石が組まれていたものと思われる。全長108cmで壁外掘り込み55cm、燃焼部分長30cm、袖部内幅35cm、壁への掘り込みはゆるやかである。燃焼部は床面—11cm。　**重複関係**　H—124と重複する。地層断面によりH—143が旧い。　**遺物**　埦、灰釉埦、甕、釘が出土。



図—191　H—143号住居跡平・断面図

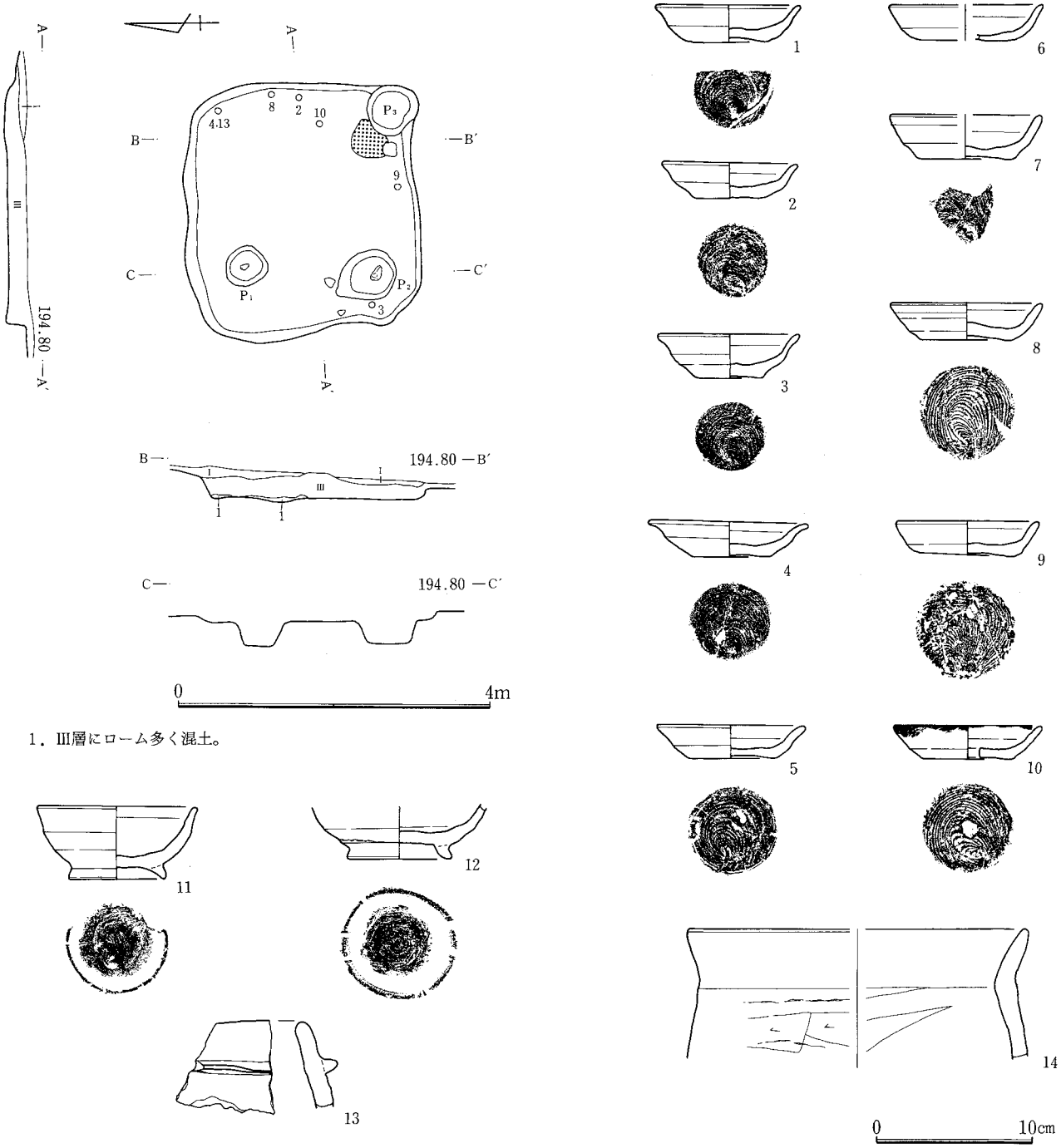


図—192　H—143号住居跡出土遺物実測図

H144号住居跡　（図—193　表4—65　図版—4・65）

位置　調査区北東のI—174・175区に位置する。　**形状**　小型方形。各辺はやや外にはらみ、隅角は隅丸。規模は東西3.02mで、南北2.74m、面積は7.79㎡。壁現高は14～30cmを測る。長軸方位はN—1°—E。　**ピット**　床面にP_1～P_3。P_1（56×52×32cm）、P_2（82×64×27cm）、P_3（62×56×16cm）。P_1、P_2は柱穴ともみられるが、P_3は焼土域に近く、貯蔵

穴ともみられる。　**カマド**　不明。南東隅に焼土域（56×46cm）と１石がのこる。　**遺物**　小形坏、小形埦、埦、羽釜、甕が出土。



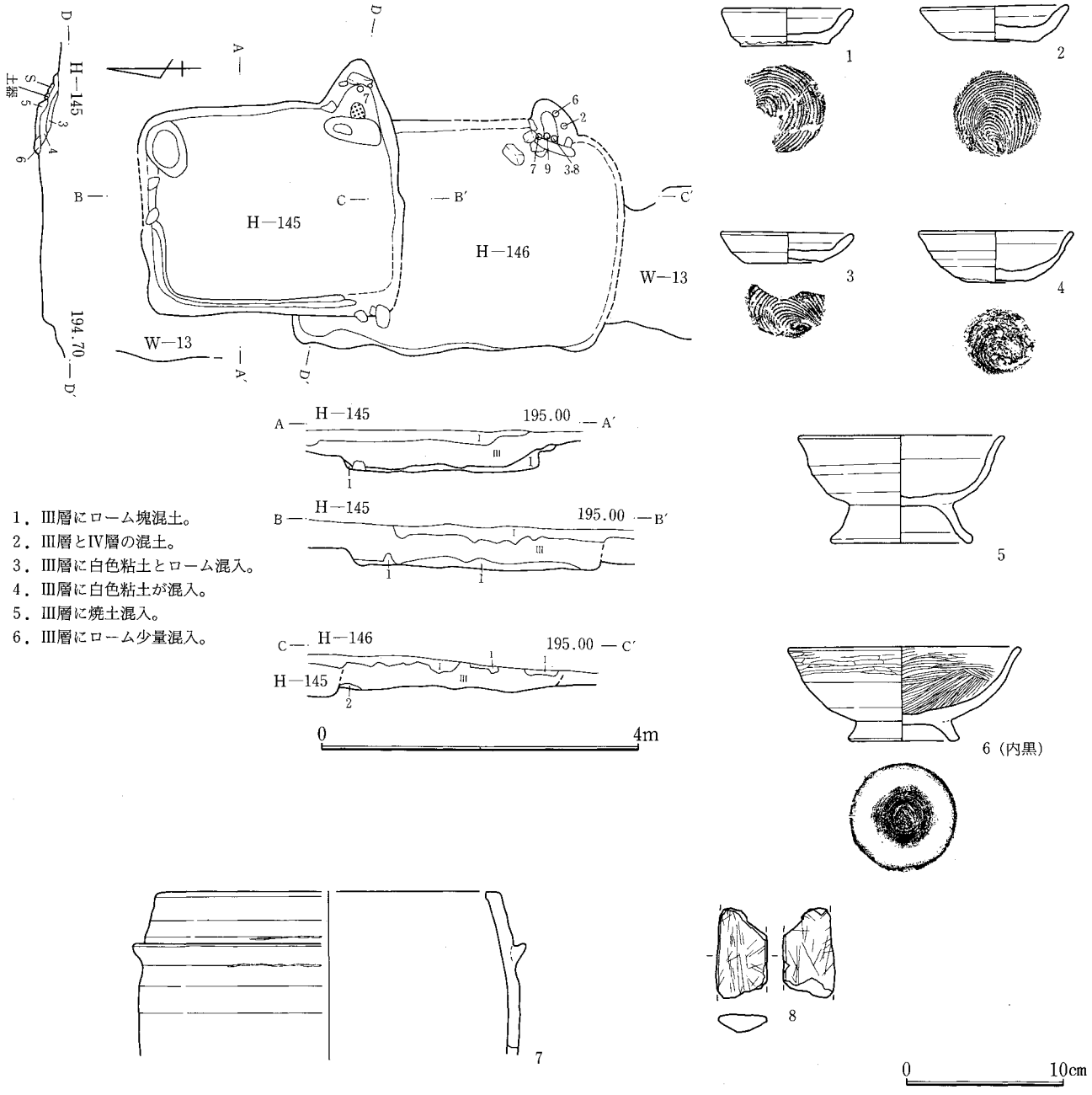
図—193　H—144号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H145・146号住居跡　（図—194・195　表４—65・66　図版—65）

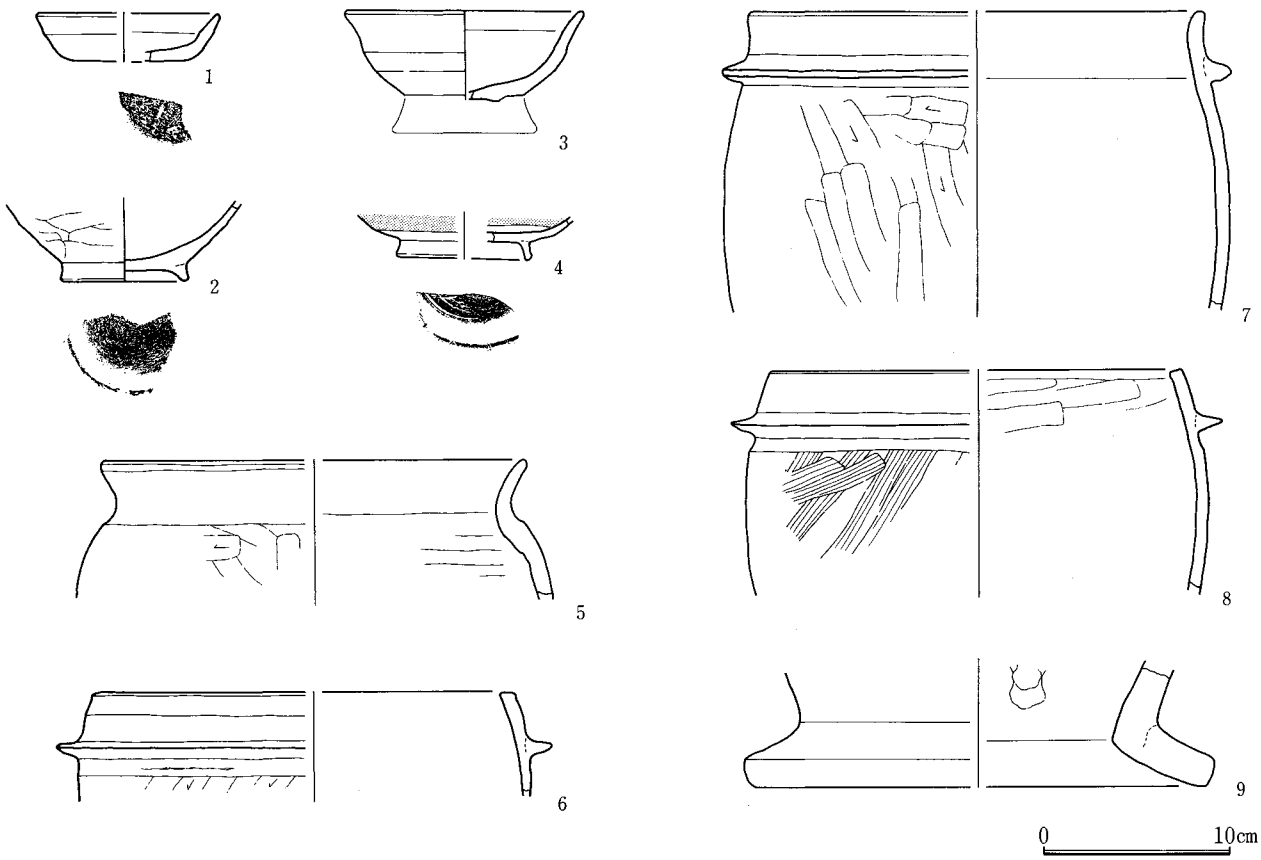
〔H145〕　**位置**　調査区北東のⅠ—156区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、各隅角は隅丸。規模は東西2.34mで南北3.08m、面積は7.32m²。壁現高は19～43cmを測る。周溝は北・西壁下で検出されている。巾４～10cm。長軸方位はN—１°—W。　**カマド**　東壁南隅。石材が５石のこる。組まれていたものの残存か。全長72cmで、壁外掘り込み63cm、燃焼部分長22cm、袖部内幅53cm、壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面—10cm。カ

マド手前にピットをもつ（72×28cm）灰カキ穴にあたるものか。　**貯蔵穴**　床面北東隅。長円形。69×54×38cm。　**重複関係**　H—146と重複する。H—146が新しい。W—13と重複する。W—13が新しい。　**遺物**　埦、小形坏、羽釜、砥石が出土。

〔H146〕　**位置**　調査区北東のⅠ—146区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅角は隅丸。規模は東西2.8mで、南北3.88m、面積は10.14㎡。壁現高は17～36cmを測る。長軸方位はN—0°。　**カマド**　東壁南端。冠材、袖石とその他5石が残る。全長62cmで、壁外掘り込み40cm、燃焼部分長34cm、袖部内幅34cm。　**重複関係**　H—145と重複。H—146が新しい。W—13と重複。W—13が新しい。　**遺物**　埦、灰釉埦、小形坏、甕、羽釜、甑が出土。

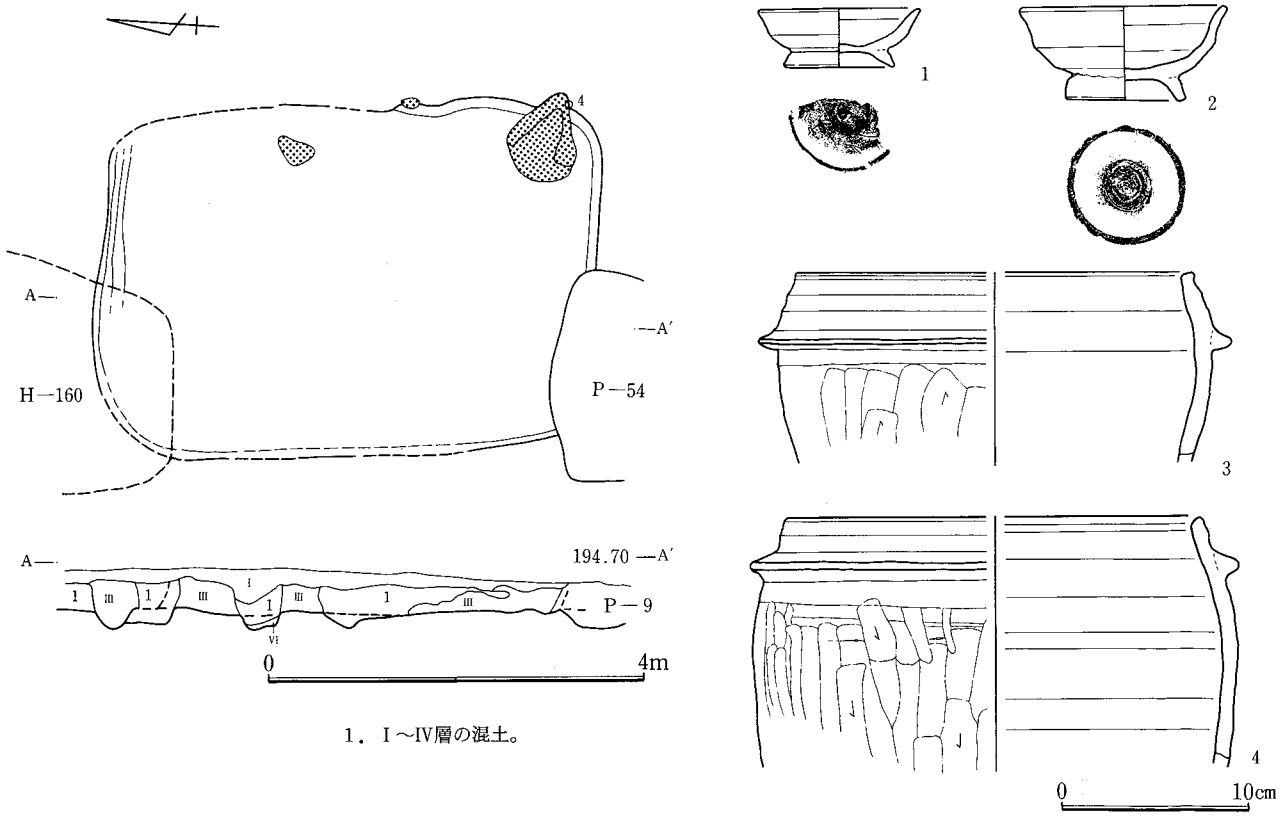


図—194　H—145・146号住居跡平・断面図、H—145号住居跡出土遺物実測図



図—195　H—146号住居跡出土遺物実測図

H148号住居跡　（図—196　表4—66　図版—66）



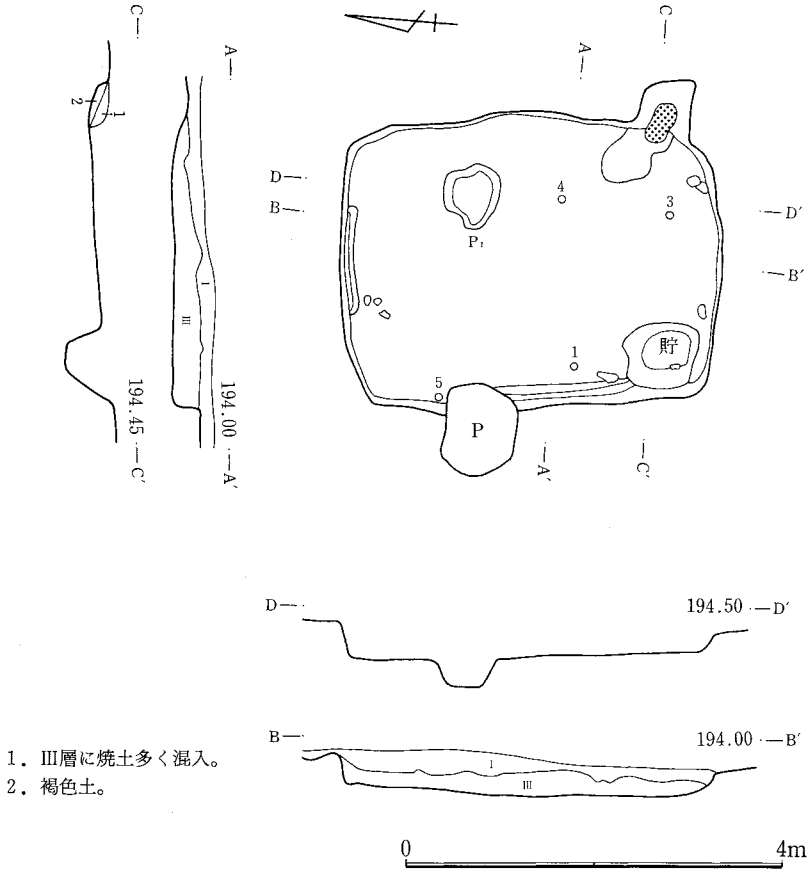
1．Ⅰ～Ⅳ層の混土。

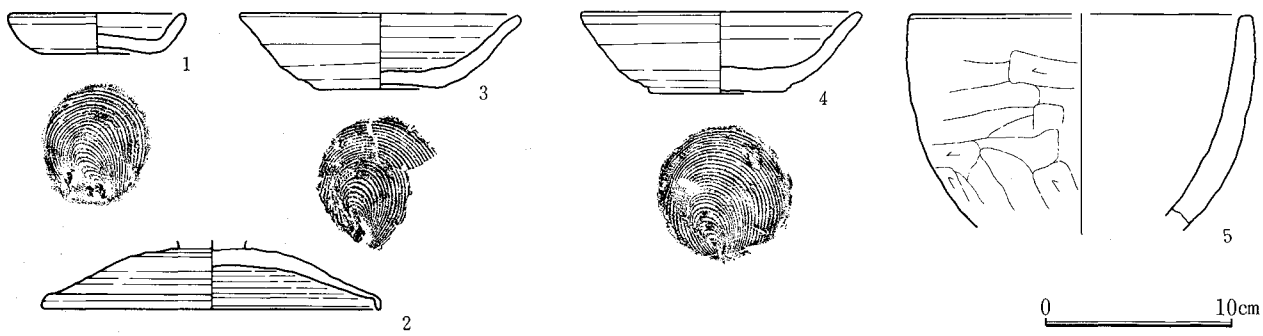
図—196　H—148号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

位置　調査地北東のⅠ—175区に位置する。周辺は住居跡の集中している地区である。　**形状**　南北に長い長方形。残存状況は良くない。壁はほぼ直とみられる。隅角の状況は削平のため不明。規模は南北5.12mで、東西3.54m、面積は17.32㎡。周溝は北壁下で部分的に検出される。巾(上端)23cmで、深さ6cm。長軸方位はN—2°—E。　**カマド**　東壁南隅。残存状況は良くない。全長97cmで壁外掘り込み22cm、燃焼部分長36cm、袖部内幅44cmを測る。　**重複関係**　P—54と重複する。近世の土坑カ。H—148が新しい。H—160と重複する。H—148が旧いとみられる。　**遺物**　小形埦、羽釜が出土。

H149号住居跡　(図—197　表4—66・67　図版—4)

位置　調査区北東のⅠ—174区に位置する。　**形状**　南北にやや長い長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅角はやや隅丸。規模は東西3.00mで、南北3.88m、面積は10.73㎡。壁現高は16～34cm。周溝は西壁下と北壁下で検出されている。巾は5～7cm。長軸方位はN—4°—E。　**ピット**　P_1 (60×40×28cm) とP_2 (50×40×26cm) 南西隅。　**カマド**　東壁南端。全長76cmで壁外掘り込み60cm、燃焼部分長46cm、袖部内幅26cm。壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面—4cm。　**貯蔵穴**　南西隅のP_2が貯蔵穴とも考えられる。　**重複関係**　西側に三基のピットがある。底面レベルが10cm内でそろい、深さも54～59cmで等しく、間隔も心々が1.5mを計る。掘立の一部とも考えられるが、部分検出で不明。　**遺物**　坏、蓋、小形坏、鉢が出土。

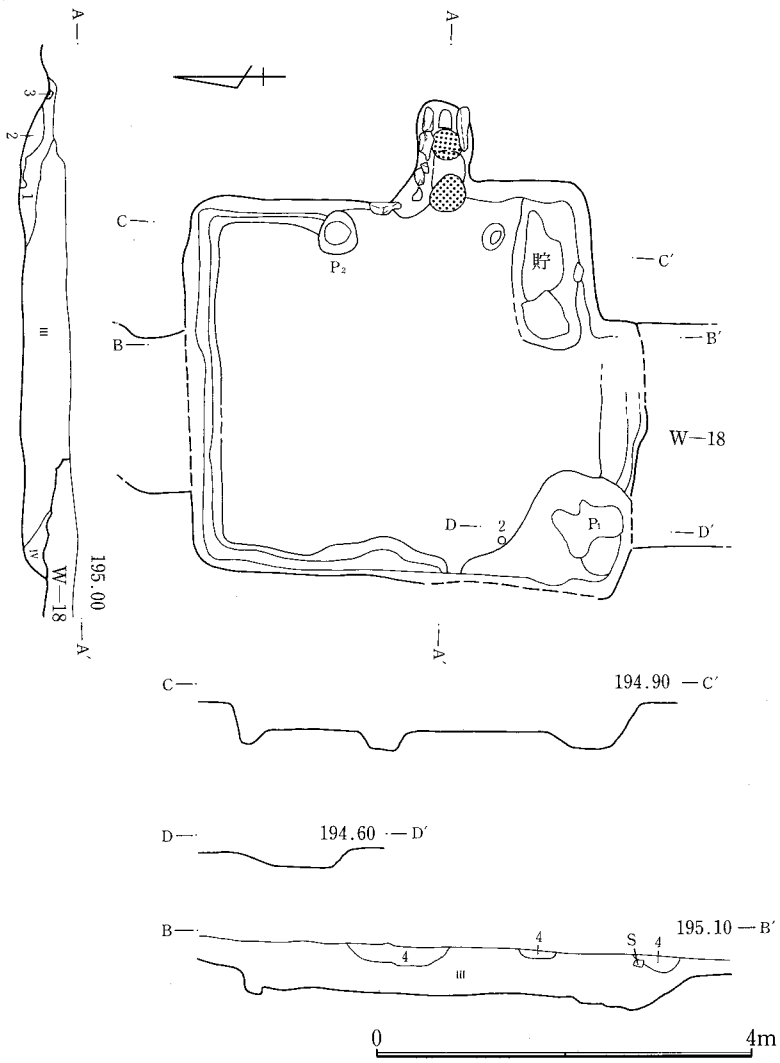


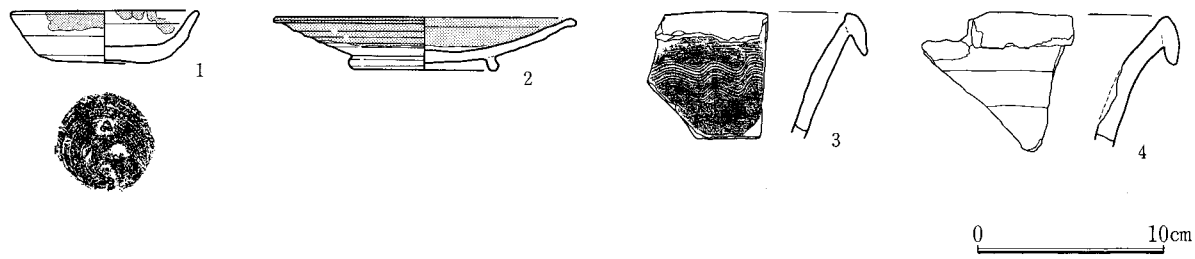


図—197　H—149号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H150号住居跡　（図—198　表4—67　図版—4・66）

位置　調査区北東のⅠ—156区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はほぼ直で、各隅角も直に近い。規模は東西3.48mで南北4.06m、面積は16.93m²。壁現高は18～21cmを測る。周溝がほぼ全周する。巾3～13cmで深さ8cm。長軸方位はN—5°—W。南西隅に張り出しをもつ。方形で、260×50cmの規模。　**ピット**　P_1、南西隅。80×65×16cm。P_2、カマド北。26×26×17cm。　**カマド**　東壁南側。石材が七石のほか、白色粘土がのこる。冠石とみられる石材が南壁下にのこる。全長137cmで、壁外掘り込み103cm、燃焼部長96cm、袖部内幅34cm。壁への掘り込みはゆるやかである。燃焼部は床面－3cm。両袖部に袖石の跡とみられる小ピット2基がのこる。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。134×44cm。　**重複関係**　W—18と重複するH—150が旧い。　**遺物**　小形坏、灰釉皿、甕が出土。

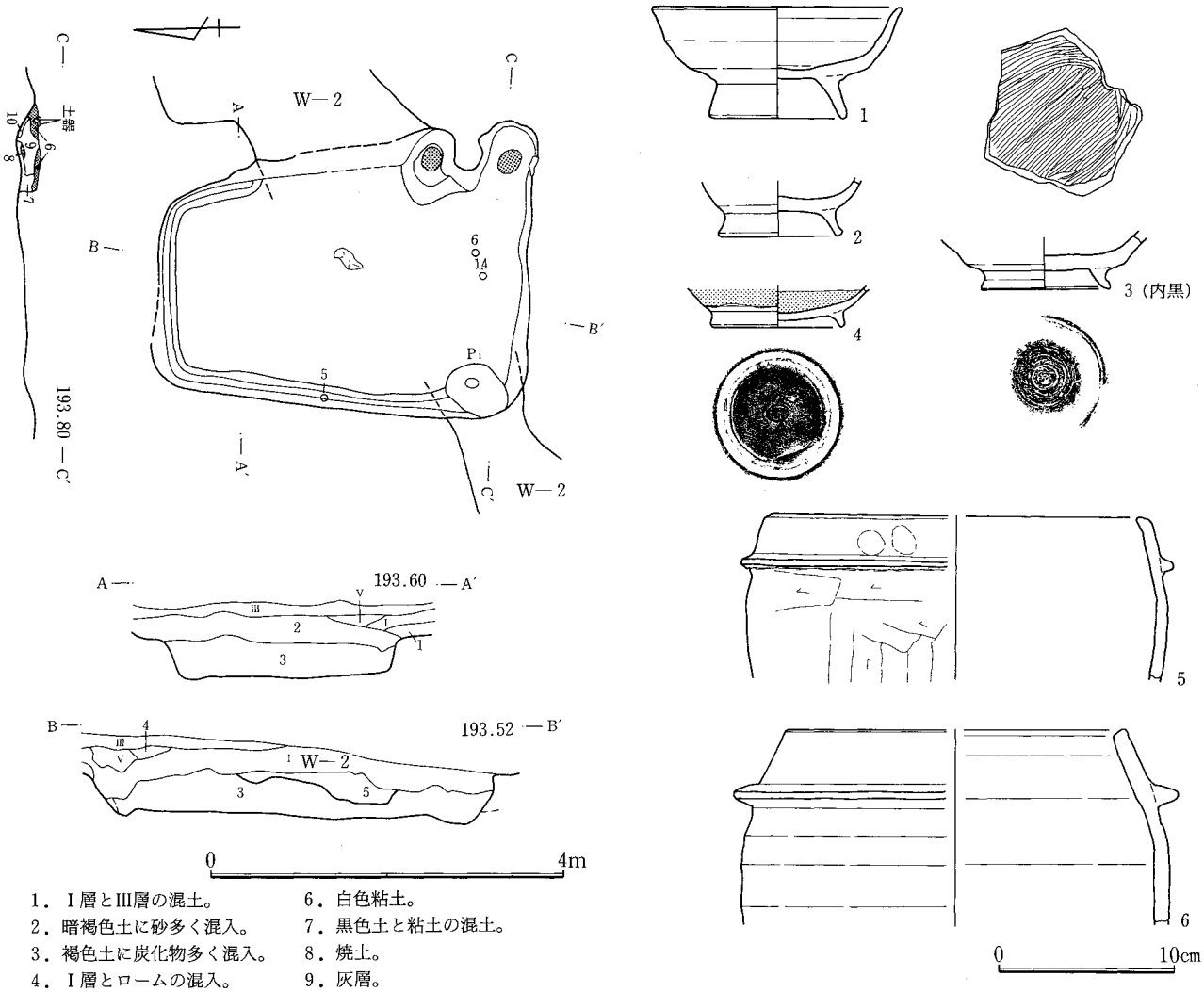




図—198　H—150号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H151号住居跡　（図—199　表4—67　図版—67）

位置　調査区北東のⅠ—173区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。南がやや開く。各辺は直に近いが、隅角は北側はやや開き、南はややすぼまる。規模は南北3.80mで、東西2.50m、面積は10.26m²。壁現高は40～42cmを測る。周溝は西、北壁下と東壁下北3分の1で検出されている。巾6～10cm。長軸方位はN—8°—W。　**カマド**　東壁南（カマド1）と東壁南端（カマド2）にある。カマド1。全長90cm、壁外掘り込み32cm、燃焼部分長27cm、袖部内幅35cm。カマド2。石材と白色粘土がのこる。全長92cm、壁外掘り込み68cm、燃焼部分長30cm、袖部内幅53cm、壁への掘り込みはゆるやかである。燃焼部は床面－2cm。　**重複関係**　W—2と重複。地断によりW—2が新しい。　**遺物**　埦、内黒埦、灰釉埦、羽釜が出土。

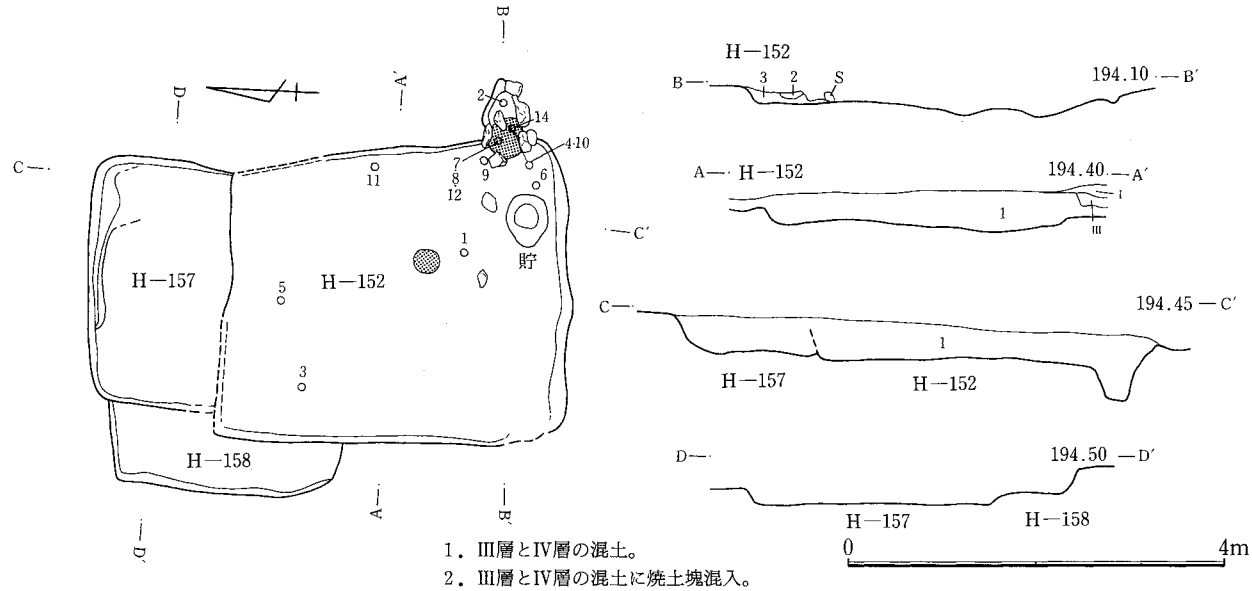


1．Ⅰ層とⅢ層の混土。
2．暗褐色土に砂多く混入。
3．褐色土に炭化物多く混入。
4．Ⅰ層とロームの混入。
5．Ⅰ層に似る。砂混入少ない。
6．白色粘土。
7．黒色土と粘土の混土。
8．焼土。
9．灰層。
10．ローム層。

図—199　H—151号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H152・157・158号住居跡　（図—200・201　表4—67・68　図版—4・67・70）

〔H152〕　**位置**　調査区北東のⅠ—156区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。南辺はやや外にはらむ。北側の隅



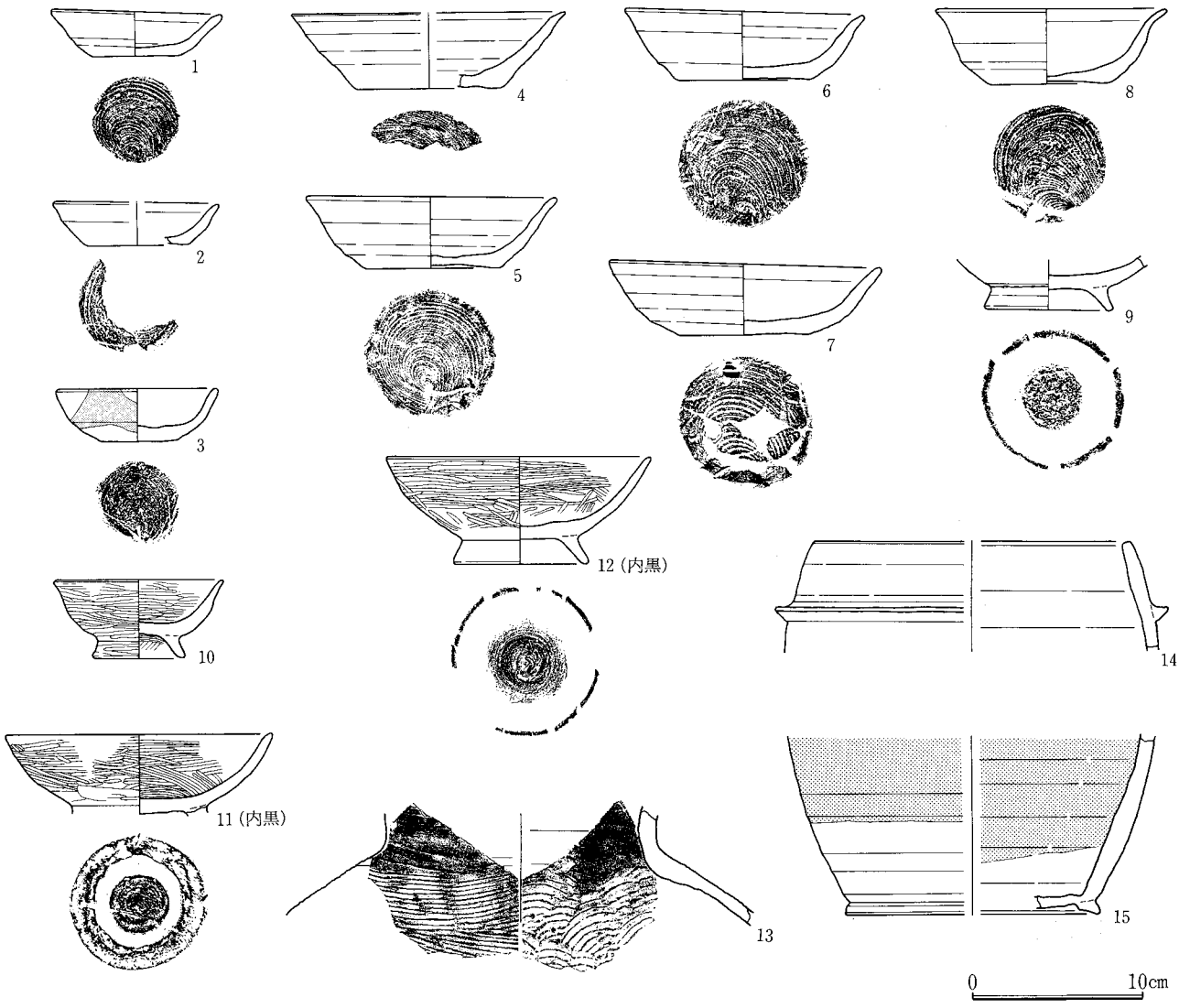
1．Ⅲ層とⅣ層の混土。
2．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土塊混入。
3．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土と炭化物混入。

図—200　H—152・157・158号住居跡平・断面図

角は直に近いが、南側は丸に近い。規模は東西2.98mで、南北3.41m、面積は10.31㎡。壁現高は14～17cm。巾４～５cm。長軸方位はN－０°。床面中央部に焼土域（28×27cm）がのこる。　**カマド**　東壁南端。石材７石がのこる。全長86cm、壁外掘り込み66cm、燃焼部分長44cm、袖部内幅31cm。燃焼部の先端は直にあがっている。燃焼部と床面のレベルは±０cm。　**貯蔵穴**　床面南東隅。円形。58×44×36cm。　**重複関係**　H－157、H－158と重複する。地断では埋土が全て同一層であり不明。残存状況からみて、H－158→H－157→H－152の順に新しいと考えられる。　**遺物**　坏、埦、小形坏・埦、内黒埦、甕、羽釜、灰釉瓶が出土。

〔H157〕　**位置**　Ⅰ－156区。H－152、H－158と重複。北半のみの検出。　**形状**　長方形と推定されるが明確ではない。H－152の北東隅に掘り込みがあり、遺物が検出されているが、焼土の記載はなく、カマドと決めがたい。規模は現状で東西2.50m、南北1.41m、現状の面積3.37㎡。壁現高は13～18cm。周溝は北壁下で検出されている。巾４～８cm。　**カマド**　不明。

〔H158〕　**位置**　Ⅰ－156区。H－152、H－157と重複。西半のみの検出。形は不明。北、西辺は直。南西隅は丸に近い。規模は現状で、東西0.77m、南北3.38m、面積は1.41㎡。壁現高は27cmを測る。　**カマド**　不明。



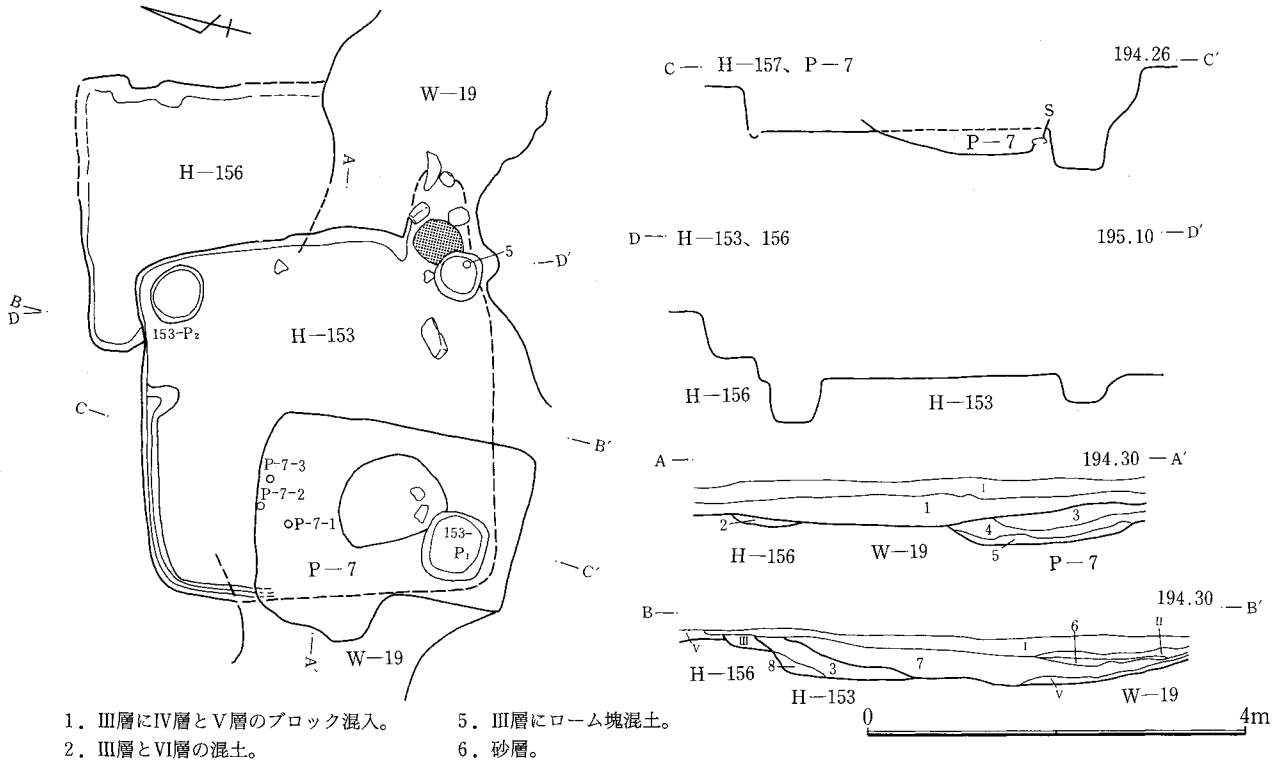
図－201　H－152号住居跡出土遺物実測図

H153・156号住居跡　（図－202　表４－68・69　図版－68・69）

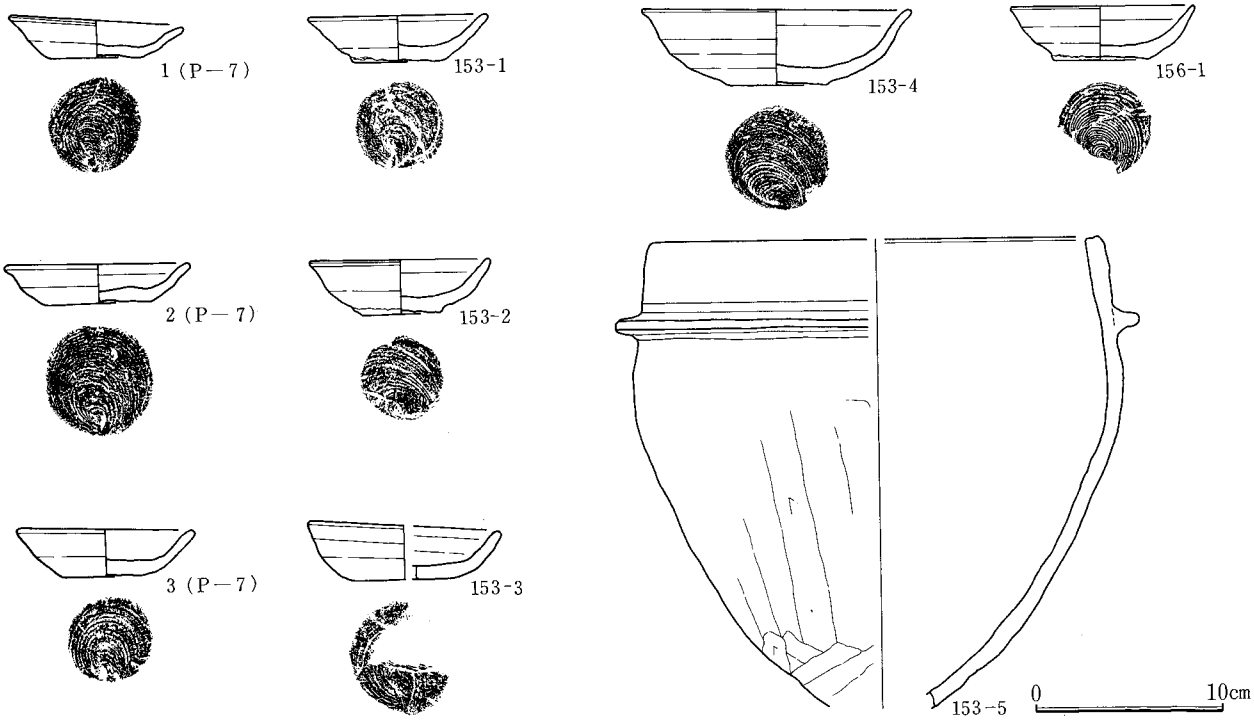
〔H153〕　**位置**　調査区北東のⅠ－155、156区に位置する。　**形状**　方形。各辺はやや外にはらむ。南側はP－７及びW－19と重複するため削平されている。西側の隅角は隅丸。規模は東西3.56mで、南北3.64m。面積は13.07㎡。壁現高は25cm。周溝が北壁下南２分の１と西壁残存部にのこる。巾２～４cm。長軸方位はN－13°－E。　**ピット**　南西隅（P_1）と北東隅（P_2）。P_1（74×66×44cm）、P_2（66×54×45cm）。　**カマド**　東壁南端。石材が５石と前に一石のこる。全長122

cm、壁外掘り込み96cm、燃焼部分長47cm、袖部内幅62cm、燃焼部は床面－4cm。　**貯蔵穴**　床面南東隅のカマド近くのピットカ。円形で51×49×26cm。焚き口に近すぎるようにも思える。　**重複関係**　H－156、P－7、W－19と重複する。いずれもH－153より新しい。H－156はH－153より旧い。P－7はW－19より旧い。W－19は土層にB軽石とみられる砂層がみられる。　**遺物**　小形坏、坏が出土。

〔H156〕　**位置**　I－155、156区。　**形状**　方形とみられる。西と南側は重複により削平されている。規模は東西2.66mで南北は現状2.60m、面積は現状で4.54m²。壁現高は15cm。　**カマド**　不明。溝により削平されたものか。　**遺物**　小形坏、羽釜が出土。



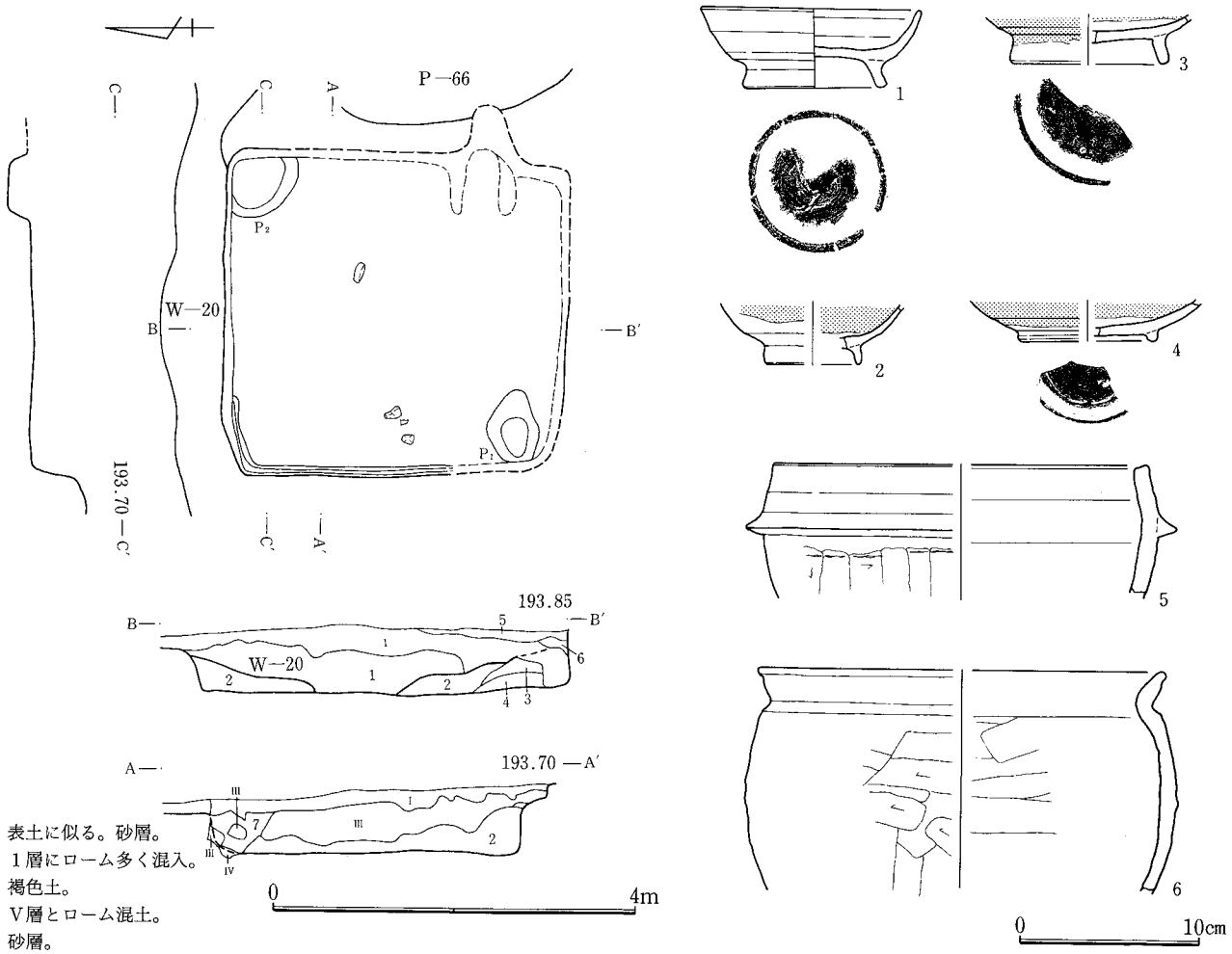
1．Ⅲ層にⅣ層とⅤ層のブロック混入。
2．Ⅲ層とⅥ層の混土。
3．Ⅲ層にローム塊混土。
4．1層に似る。
5．Ⅲ層にローム塊混土。
6．砂層。
7．Ⅲ層とⅣ層の混土。
8．Ⅲ層にローム少量混土。



図－202　H－153・156号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H154号住居跡　(図—203　表4—69　図版—68)

位置　調査区北東のⅠ—173区に位置する。　**形状**　方形。耕作による削平が進んでおり、南辺から東辺、カマドにかけては失なわれているところが多い。北辺、西辺はほぼ直であり、残されている北西隅も直である。規模は、東西3.48mで、南北3.50m、面積は11.81m²。壁現高は34～53cmを測る。長軸方位はN—2°—W。　**ピット**　床面に2ヵ所。南西隅にP_1。88×55×58cm。北東隅にP_2。93×72×48cm。　**カマド**　東壁南側。左袖の一部と燃焼部の一部がのこる。推定全長120cm、推定壁外掘り込み60cm。　**重複関係**　北側に接し、東西にW—20、東に接しP—66が位置する。新旧は不明。　**遺物**　埦、灰釉埦、灰釉皿、羽釜、甕が出土。

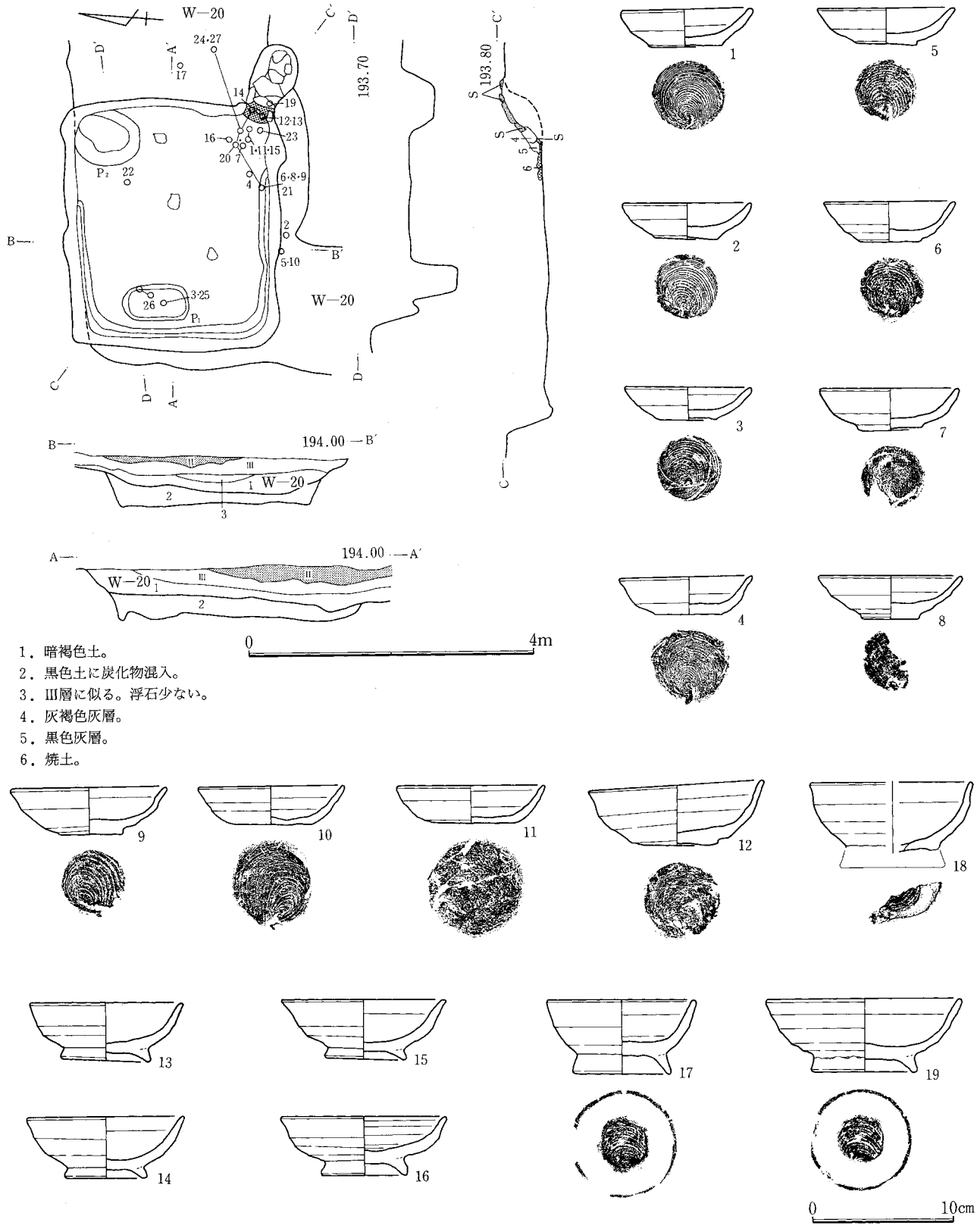


1．表土に似る。砂層。
2．1層にローム多く混入。
3．褐色土。
4．Ⅴ層とローム混土。
5．砂層。
6．表土にローム混入。
7．褐色土。

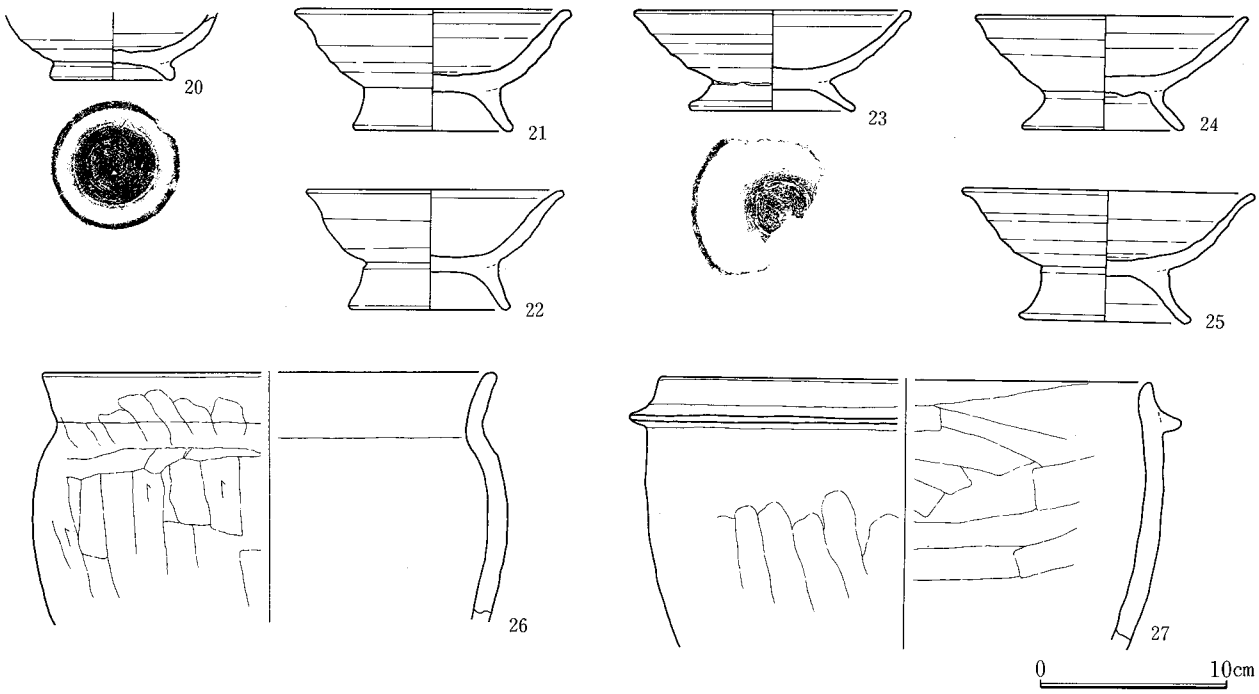
図—203　H—154号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H155号住居跡　(図—204・205　表4—69　図版—4・69)

位置　調査地北東のⅠ—155区。　**形状**　東西にやや長い長方形。溝との重複で上面と東側が削平されている。各辺はほぼ直で、隅角は隅丸に近い。規模は東西3.20mで、南北2.41m、面積は8.55m²。壁現高は30～51cmを測る。周溝は東側3分の1を除き壁下に検出されている。巾4～8cm。長軸方位はN—92°—E。　**ピット**　床面に2ヵ所。北西隅にP_1。93×51×56cm。長方形に近い。北東隅にP_2。107×80×36。長円形。　**カマド**　東壁南端。石材8石がのこる。全長110cm、壁外掘り込み92cm、燃焼部分長30cm、袖部内幅28cm、燃焼部の先は急な立ちあがりとなっている。　**テフラ**　最上層の砂層はB軽石層とみられる。床面より52cm。　**重複関係**　W—20と重複する。H—155が旧い。　**遺物**　小形坏、坏、小形埦、埦、甕、羽釜が出土。



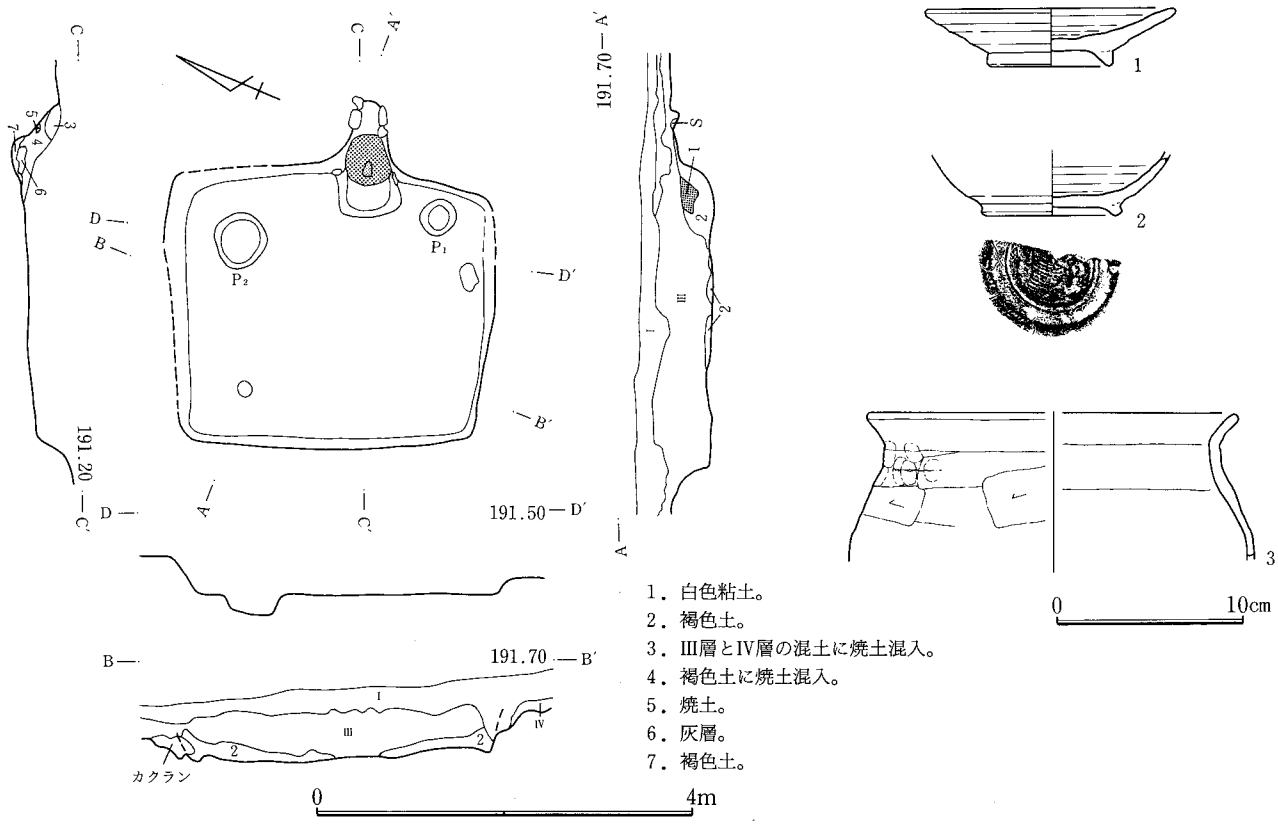
図—204　H—155号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—205　H—155号住居跡出土遺物実測図(2)

H159号住居跡　(図—206　表4—70　図版—70)

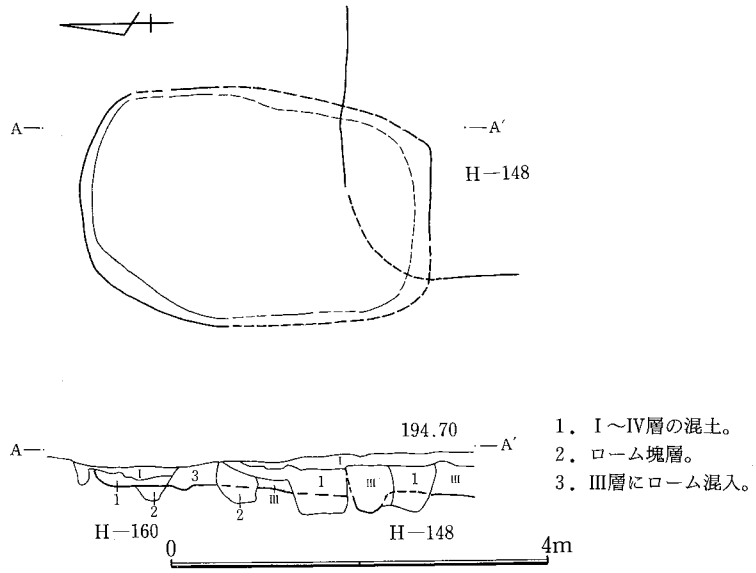
位置　調査区北東のI—172区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直。西側の隅角は直に近いが、東側はやや隅丸。規模は東西2.83mで、南北3.14m、面積は8.47m²。壁現高は26～42cmを測る。長軸方位はN—21°—E。**ピット**　床面2ヵ所。P_1。南東隅。円形。42×38×18cm。P_2。北東隅。円形。60×54×20cm。　**カマド**　東壁中央部南。石材7石がのこる。全長98cm、壁外掘り込み84cm、燃焼部分長40cm、袖部内幅44cm、壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面—13cm。　**貯蔵穴**　P_1カ。　**遺物**　皿、埦、甕が出土。



図—206　H—159号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H160号住居跡　(図—207　図版—71)

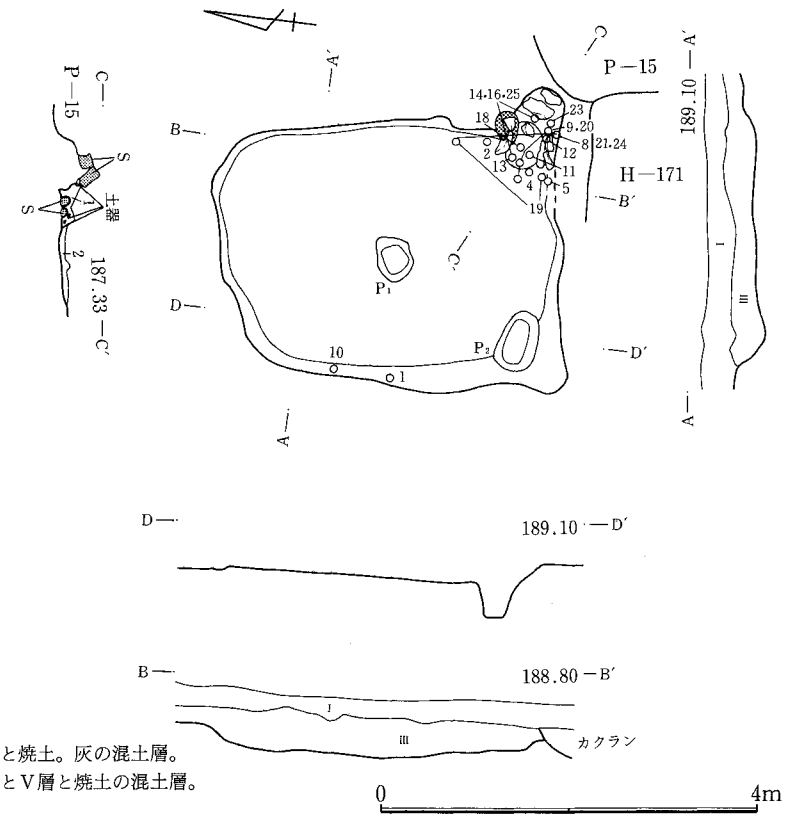
位置　I—175区。　**形状**　長円形。東西2.36mで南北は推定3.40m、面積は推定6.78㎡。壁現高17cm。形状からみると住居とするより竪穴状遺構に近いものか。



図—207　H—160号住居跡平・断面図

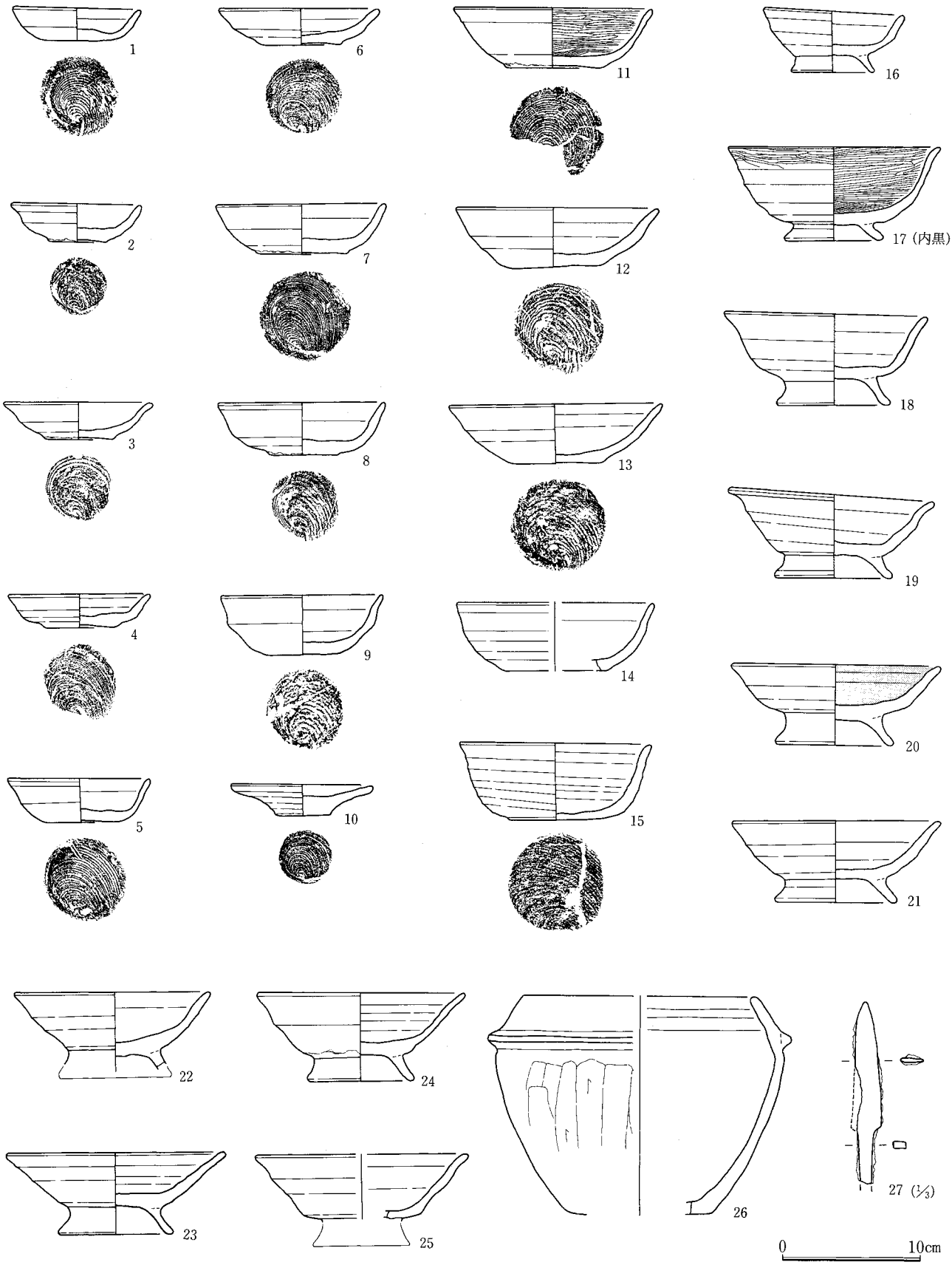
H161号住居跡　(図—208・209　表4—71　図版—4・71)

位置　調査区北東のI—213、214区に位置する。　**形状**　長円形に近い、南北に長い長方形。各辺は外にはらみ、隅角は隅丸。規模は東西2.53mで南北3.48m、面積は7.84㎡。壁現高は12～30cm。長軸方位はN—0°。　**ピット**　中央にP_1と南西隅にP_2。P_1 (48×34×13cm)、P_2 (64×39×39cm)。　**カマド**　東壁南端。石材10石。全長95cmで壁外掘り込み



図—208　H—161号住居跡平・断面図

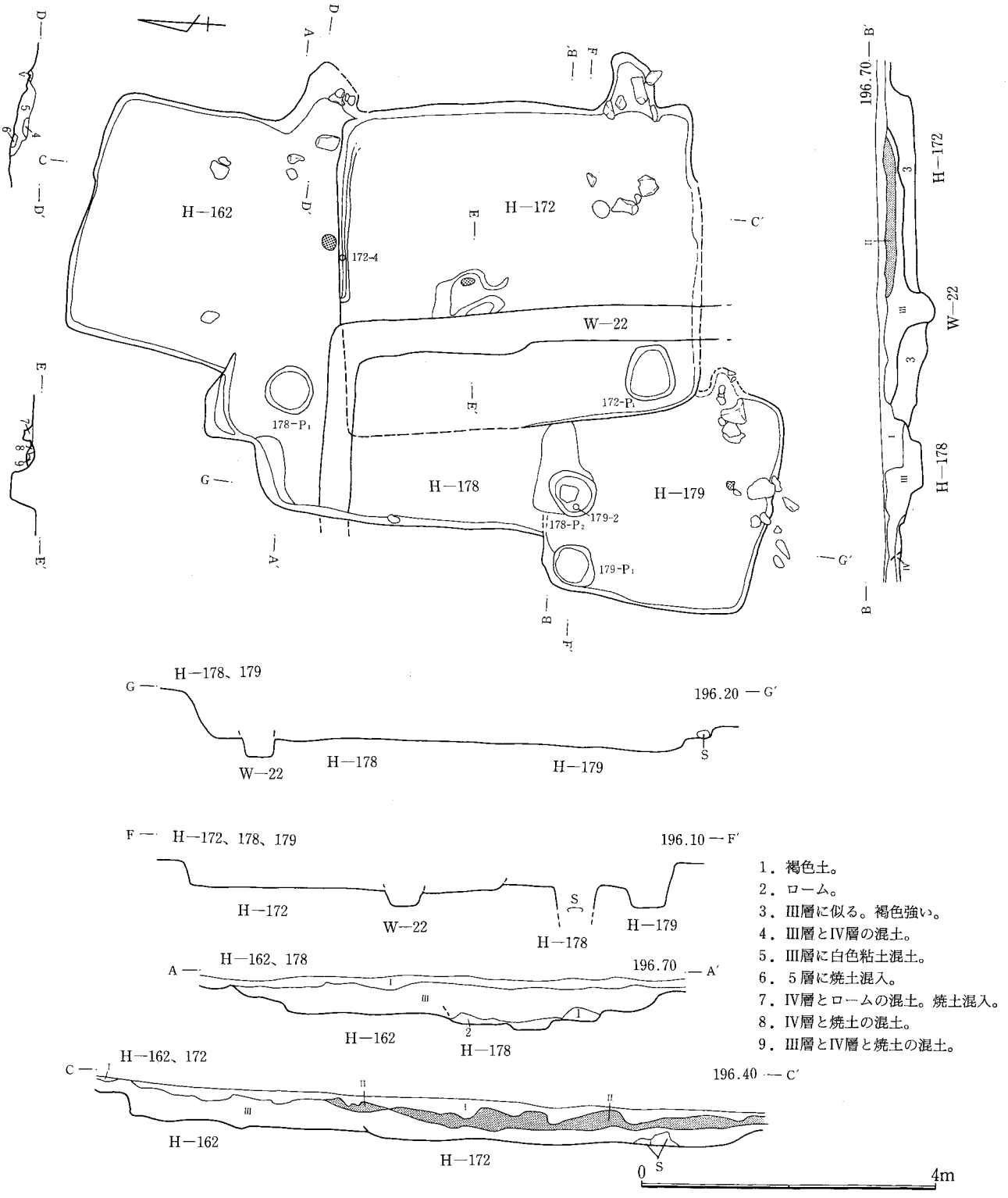
68cm、燃焼部分長50cm、袖部内幅32cm。石材が煙道まで組まれている。壁へは直に近い掘り込みになる。 **遺物** 小形坏、托、坏、埦、小形埦、羽釜、鏃が出土。



図—209 H—161号住居跡出土遺物実測図

H162・172・178・179号住居跡　（図—210・211　表4—72・73　図版—72・75）

〔H162〕　**位置**　調査区北東のⅠ—213区。　**形状**　南側が重複により失なわれているが、南北に長い長方形と考えられる。北、東、西辺はほぼ直で、北側の隅角は直に近い。規模は、東西3.28mで、南北は現状が3.48m、面積は現状が11.36㎡。壁現高は34cmを測る。長軸方位はN—13°—W。　**カマド**　東壁南側。石材8石がカマド及び周辺にのこる。全長114cm、壁外掘り込み99cm、燃焼部分長64cm、壁へはゆるやかな掘り込みとなっている。燃焼部は床面—5cm。　**重複**



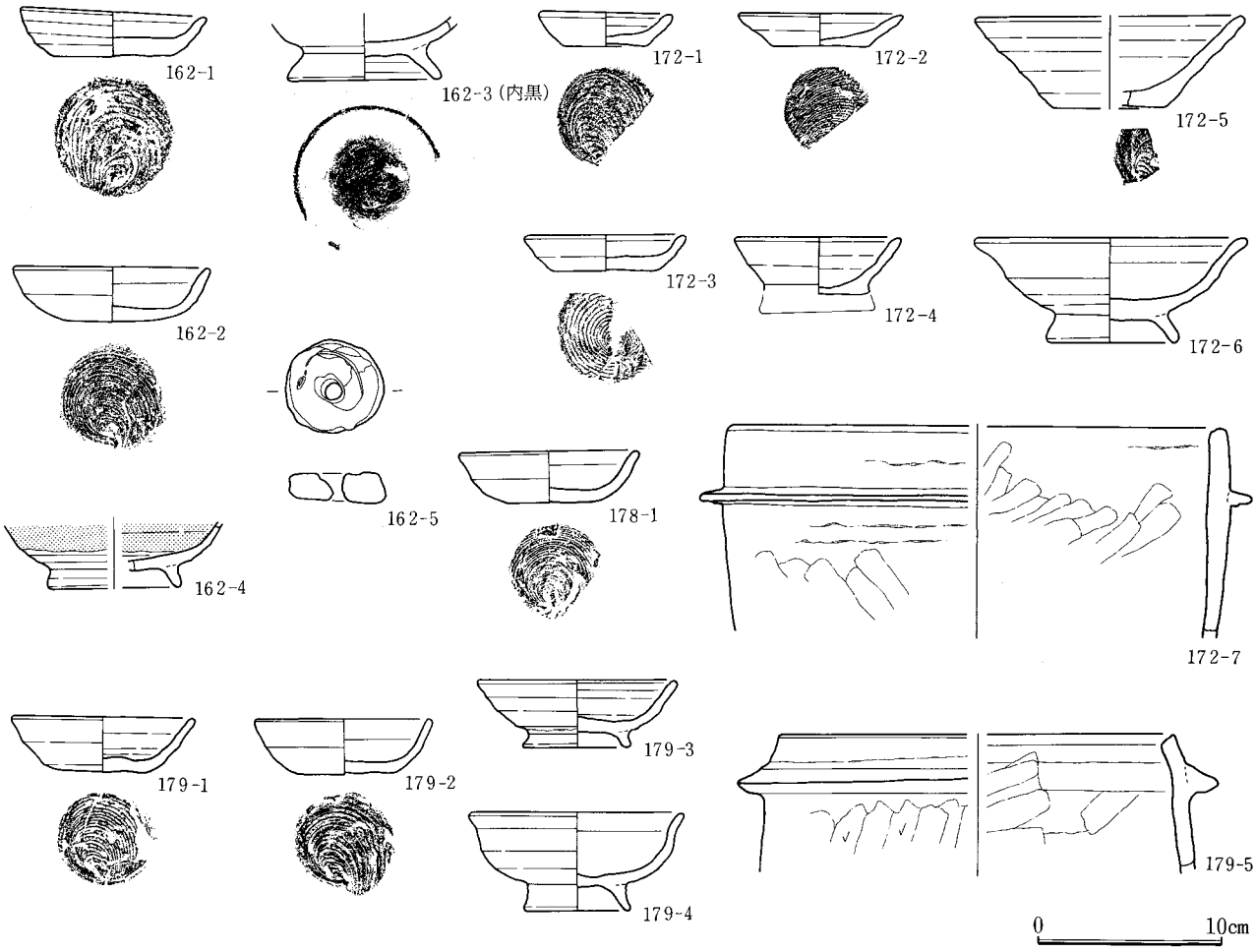
図—210　H—162・172・178・179号住居跡平・断面図

関係　H—172、H—178、H—179、W—22と重複する。H—162→H—172。H—172→H178、H—162→W—22。H—172・178→W—22。　**遺物**　小形坏、内黒埦、灰釉埦、紡錘具が出土。

〔H172〕　**位置**　Ⅰ—213区。　**形状**　やや南北に長い長方形。西から北にかけて、H—178・179やW—22との重複で失なわれている。東側は壁も直に近く、隅角も直に近い。規模は東西4.30mで、南北4.66m、面積は推定19.52㎡。壁現高は32cm。周溝は北壁下で検出されている。巾4～8cm。長軸方位はN—3°—E。　**ピット**　南西隅。73×64×44cm。　**カマド**　東壁南隅。石材が、両袖石の他に3石のこる。全長99cm、壁外掘り込み79cm、燃焼部分長40cm、袖部内幅53cm。　**遺物**　小形坏、小形埦、坏、埦、羽釜が出土。

〔H178〕　**位置**　Ⅰ—213区。　**形状**　重複が多く、不明な点が多い。南北に長い長方形か。規模は東西が推定2.74m、南北は推定3.46m、面積は推定6.96㎡。壁現高は16～63cmを測る。長軸方位はN—4°—W。北東隅に張り出しがある。長方形。170×85cm。　**ピット**　北東隅（P_1）と南西隅（P_2）。P_1（66×58×42cm）、P_2（67×60×49cm）。　**カマド**　東壁南側。W—22で西半は失なわれている。石材一石のこる。　**遺物**　小形坏が出土。

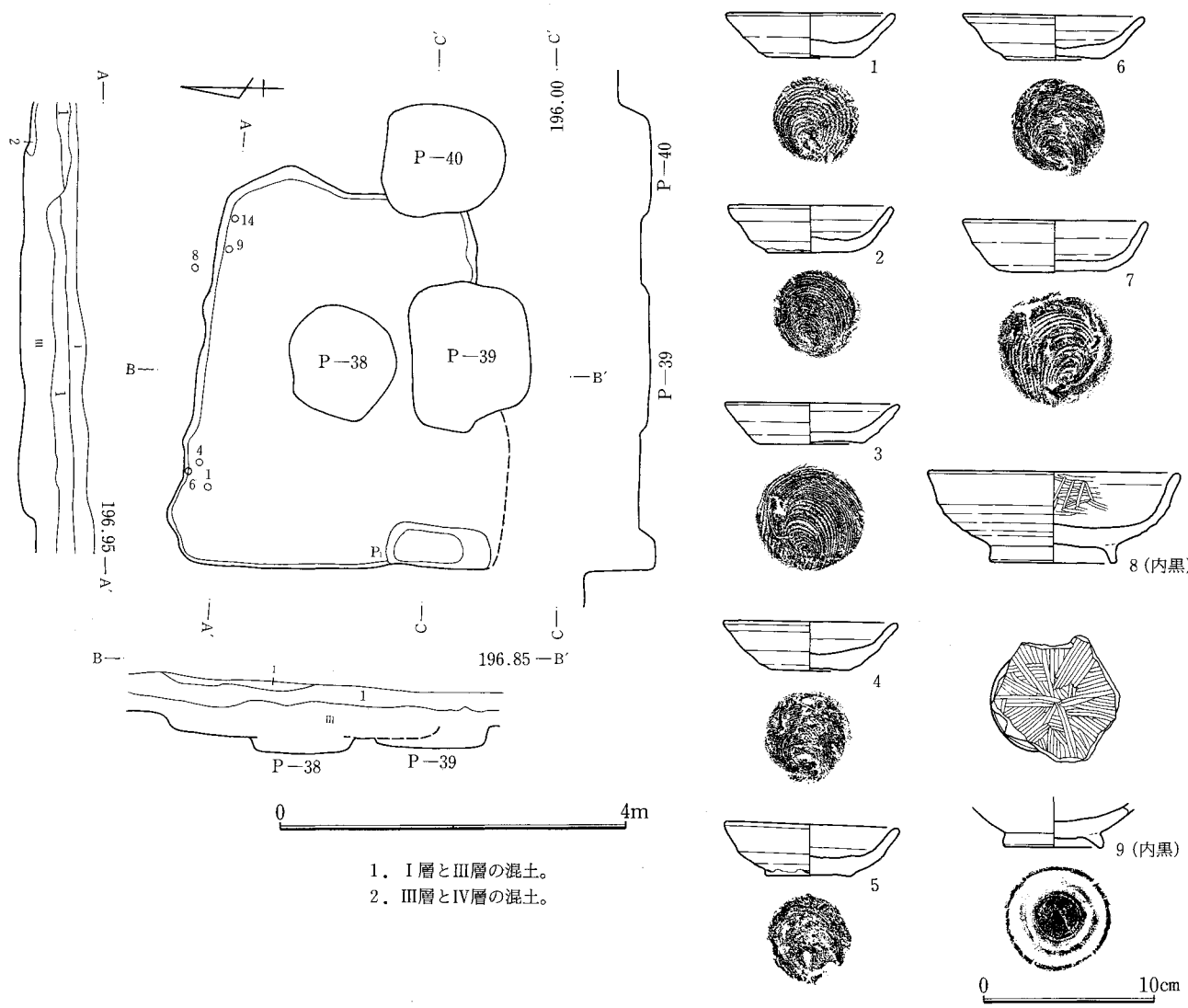
〔H179〕　**位置**　Ⅰ—213区。　**形状**　方形。北東側が重複により失なわれている。西、南辺はややはらむ。残る隅角は隅丸に近い。規模は東西2.96mで、南北2.71m、面積は推定8.02㎡。壁現高は20cmを測る。長軸方位はN—6°—W。　**ピット**　北西隅にP_1。P_1(63×57×31cm)。　**カマド**　東壁と南壁に石材の集っている地点がある。若干焼土ものこっている。いずれもカマドともみられるが掘削によりこわされていて、詳細は不明。　**遺物**　小形坏、小形埦、羽釜が出土。



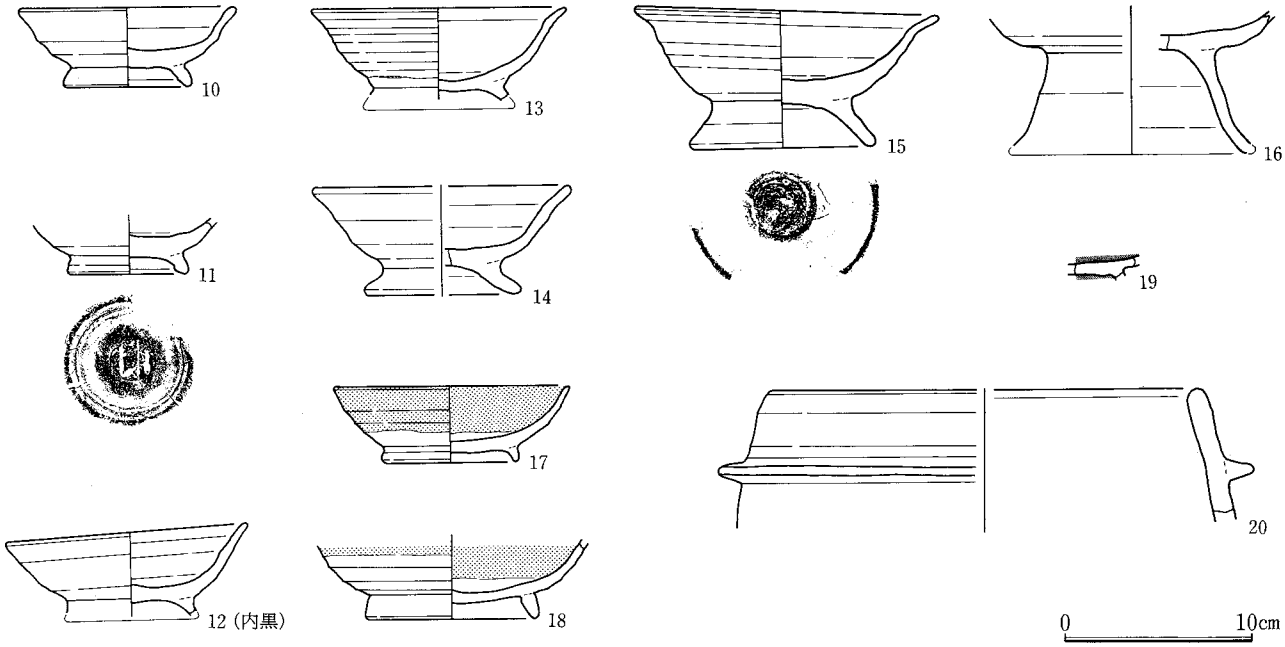
図—211　H—162・172・178・179号住居跡出土遺物実測図

H163号住居跡　(図—212・213　表4—73・74　図版—72)

位置　調査区北東のⅠ—195、213区に位置する。　**形状**　東辺がややすぼまる台形。西辺は直に近いが、他はやや不整で、南辺は一部のみ検出。北側の隅角は隅丸に近い。規模は東西4.26mで、南北は残存部で2.92m、面積は推定13.60㎡。壁現高は6～21cmを測る。長軸方位はN—90°—E。　**ピット**　南西隅。長方形。114×50×18cm。　**カマド**　不明。土坑との重複により削平されたものか。　**重複関係**　P—38。138×120×19cm。P—39。177×136×9cm。P—40。141×126×34cm。土層でみると住居埋土に同じであり、かつ住居跡をこわしていることから、住居跡廃絶直後のものか。　**遺物**　小形坏、内黒埦、小形埦、埦、灰釉埦、緑釉埦、羽釜が出土。



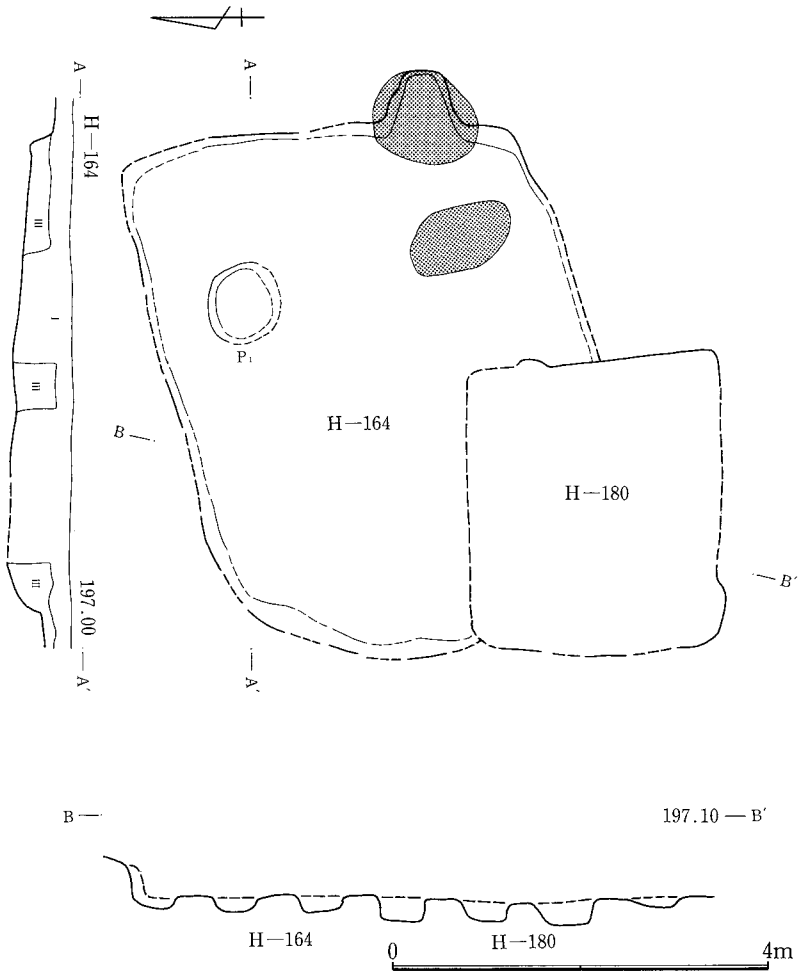
図—212　H—163号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



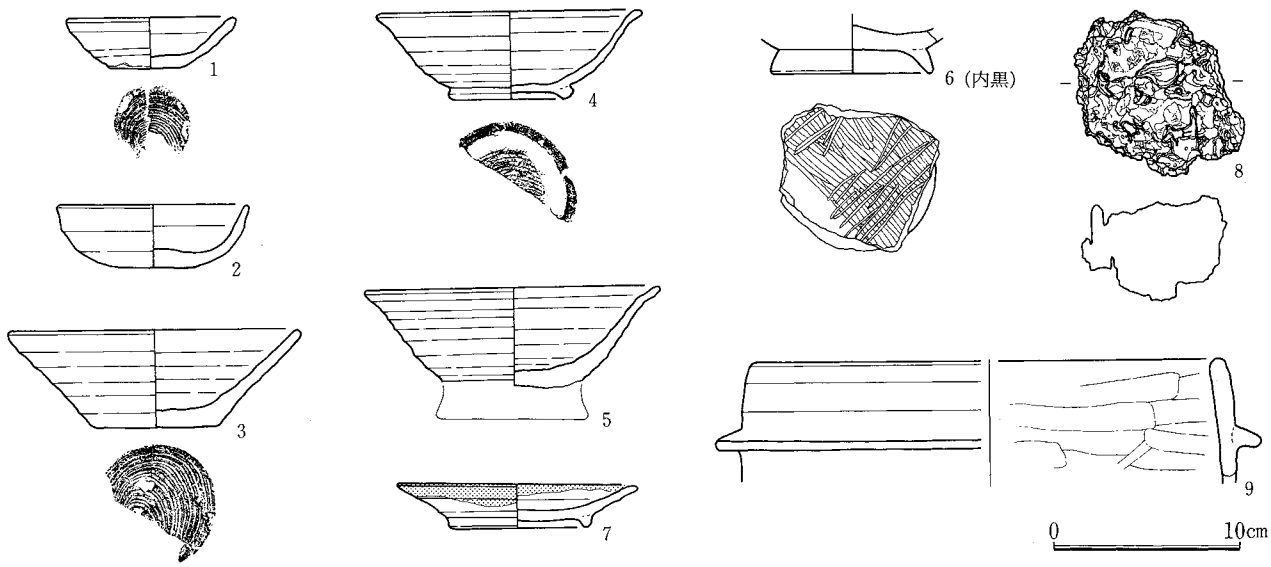
図—213　H—163号住居跡出土遺物実測図(2)

H164号住居跡　(図—214・215　表4—74　図版—73)

位置　調査区北東のI—213・231区。　**形状**　耕作による削平が多く、またH—180との重複が失なわれている部分が多いが、長方形。北辺と東辺は直に近いが、西辺はややはらむ。北西と南東の隅角は丸に近い。規模は東西5.36mで南北4.24m、面積は21.82m²。壁現高は24～38cmを呈す。周溝は検出されていない。長軸方位はN—107°—E.　**ピット**　北壁下。84×76cm。　**カマド**　東壁南側。106×98cmの焼土域がのこる。耕作による削平で不明な点が多い。全長98cm、壁外掘り込み60cm、袖部内幅72cm。　**重複関係**　H—180。重複関係は明確ではない。　**遺物**　小形坏、坏、塊、内黒塊、灰釉皿、鉄滓、羽釜が出土。



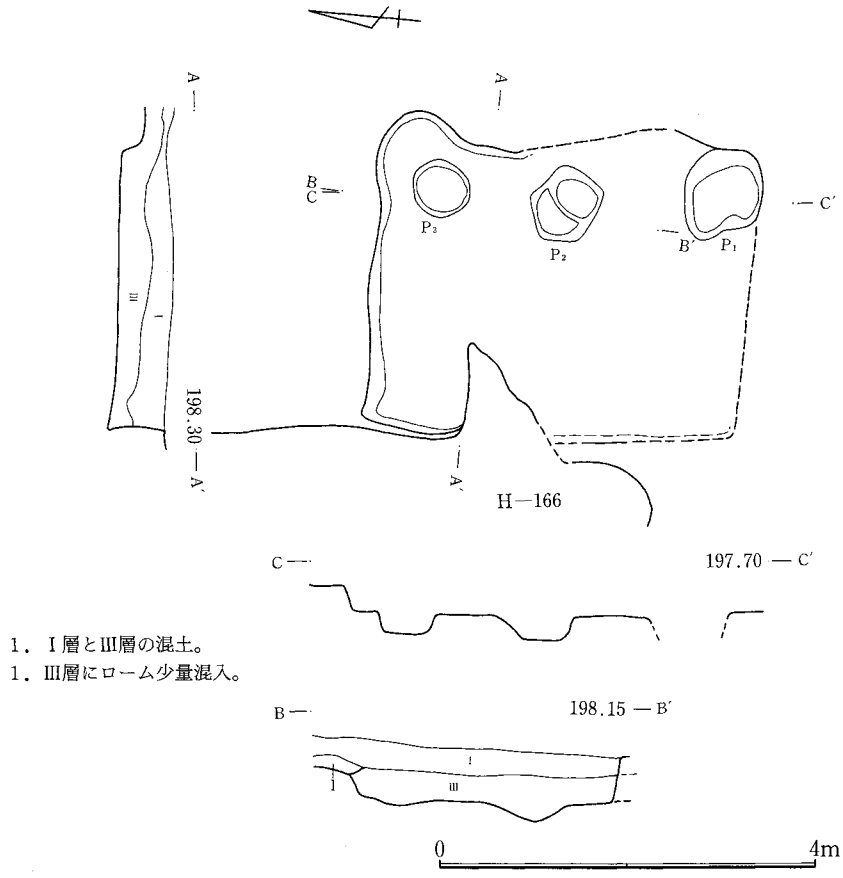
図—214　H—164号住居跡平・断面図



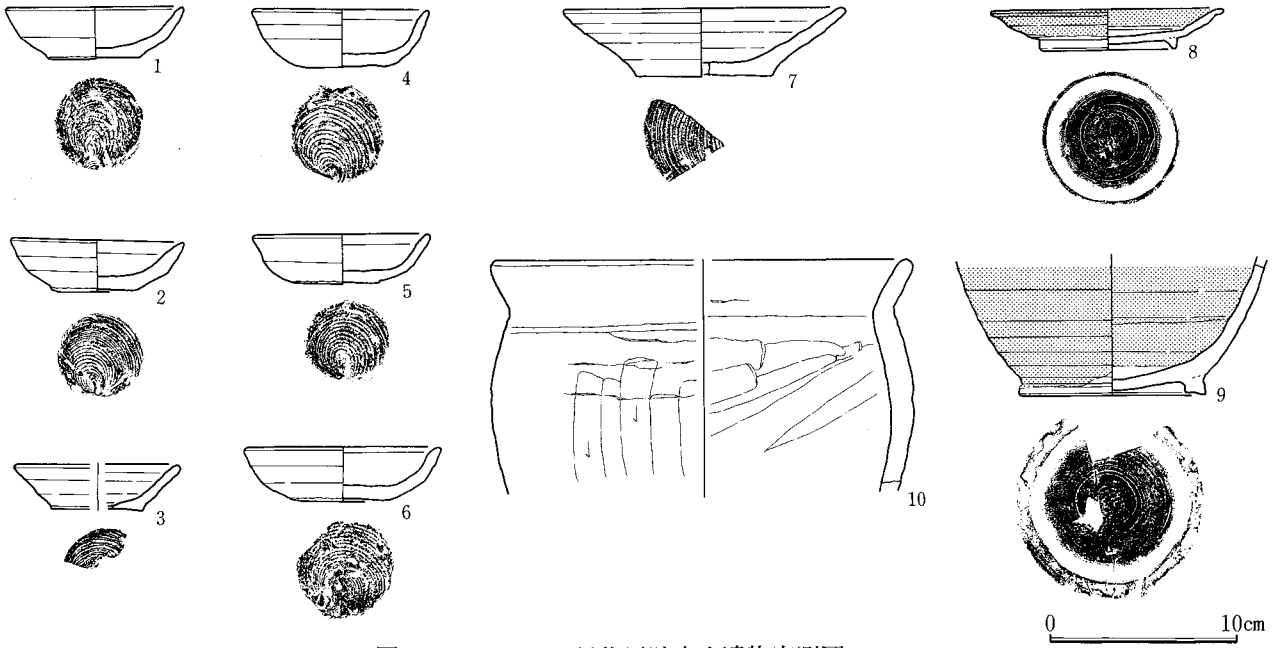
図—215　H—164号住居跡出土遺物実測図

H165号住居跡　（図—216・217　表4—74・75　図版—4・73）

位置　調査区北東のI—232区に位置する。**形状**　耕作及び重複で失なわれている部分があるが、南北に長い長方形。残存辺はやや不整。隅角もまちまちである。規模は東西3.10mで、南北3.90m、面積は11.59m²を測る。壁現高は28cm。長軸方位はN—4°—W。**ピット**　P_1～P_3。東壁下に並ぶ。P_1(108×80cm)、P_2(83×66×25cm)、P_3(64×58×25cm)。**カマド**　不明。削平されたものか。**貯蔵穴**　P_3カ。若干焼土がのこる。**重複関係**　H—166と重複する。H—166が新しい。**遺物**　小形坏、坏、灰釉段皿、灰釉瓶、甕が出土。



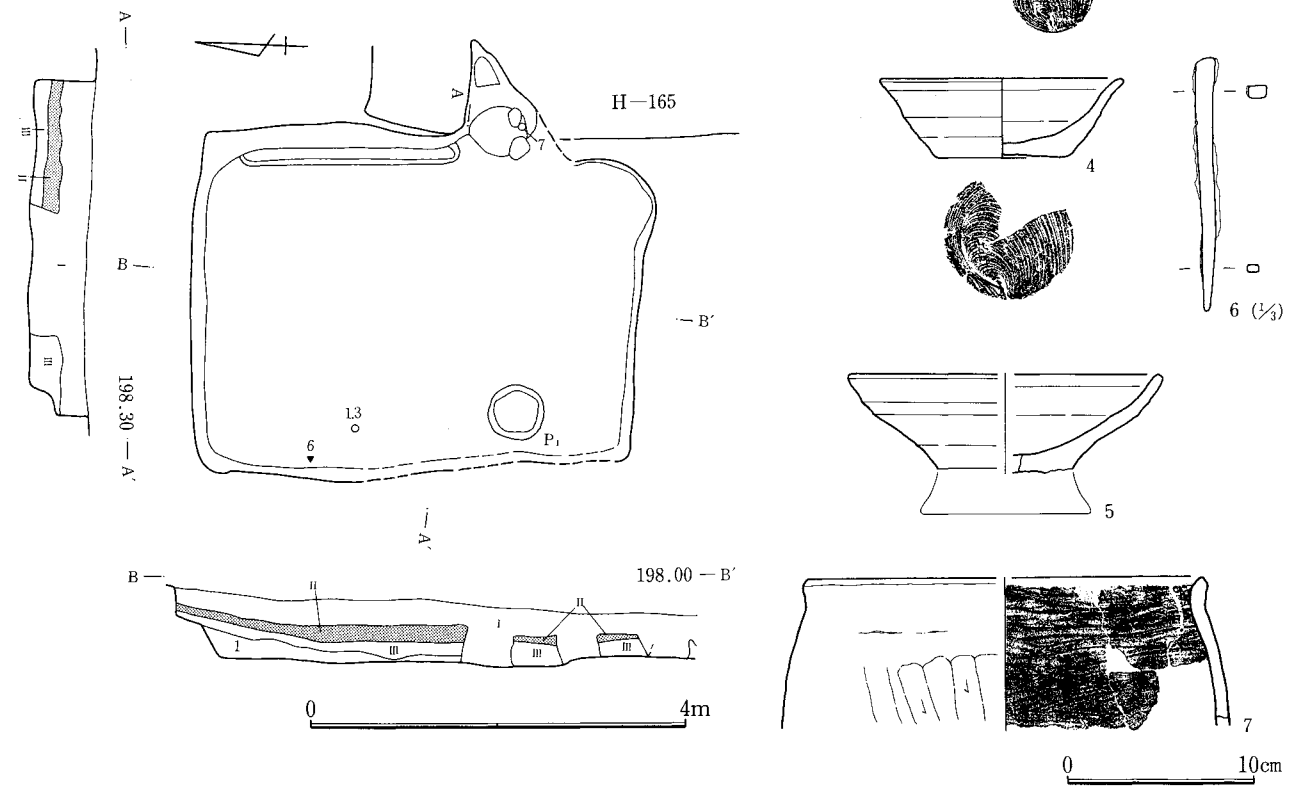
図—216　H—165号住居跡平・断面図



図—217　H—165号住居跡出土遺物実測図

H166号住居跡　（図—218　表4—75　図版—4・73）

位置　調査区北東のI—232区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。若干耕作による削平があるが、しっかりと掘られている。各辺は直で、隅角も直に近い。規模は東西3.26mで、南北4.54m、面積は15.04m²を測る。壁現高は28～45cmを測る。周溝は東壁下の一部で検出されている。巾は9～14cm。長軸方位はN—0°。　**ピット**　南西隅にP_1。62×59×42cm。　**カマド**　東壁南側。石材が2石のこる。全長128cmで壁外掘り込み96cm、燃焼部長52cm、袖部内幅62cm。　**テフラ**　B軽石純層がのこる。床面より13cm、巾14～16cmで堆積している。

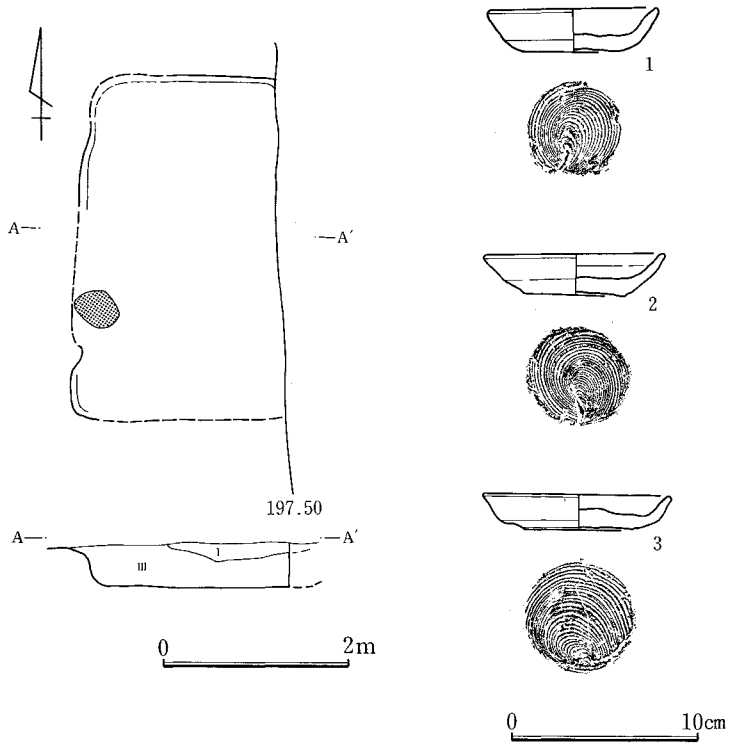


図—218　H—166号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

重複関係　H—165と重複する。H—166が新しい。　**遺物**　小形坏、坏、埦、甕、鉄製品が出土。

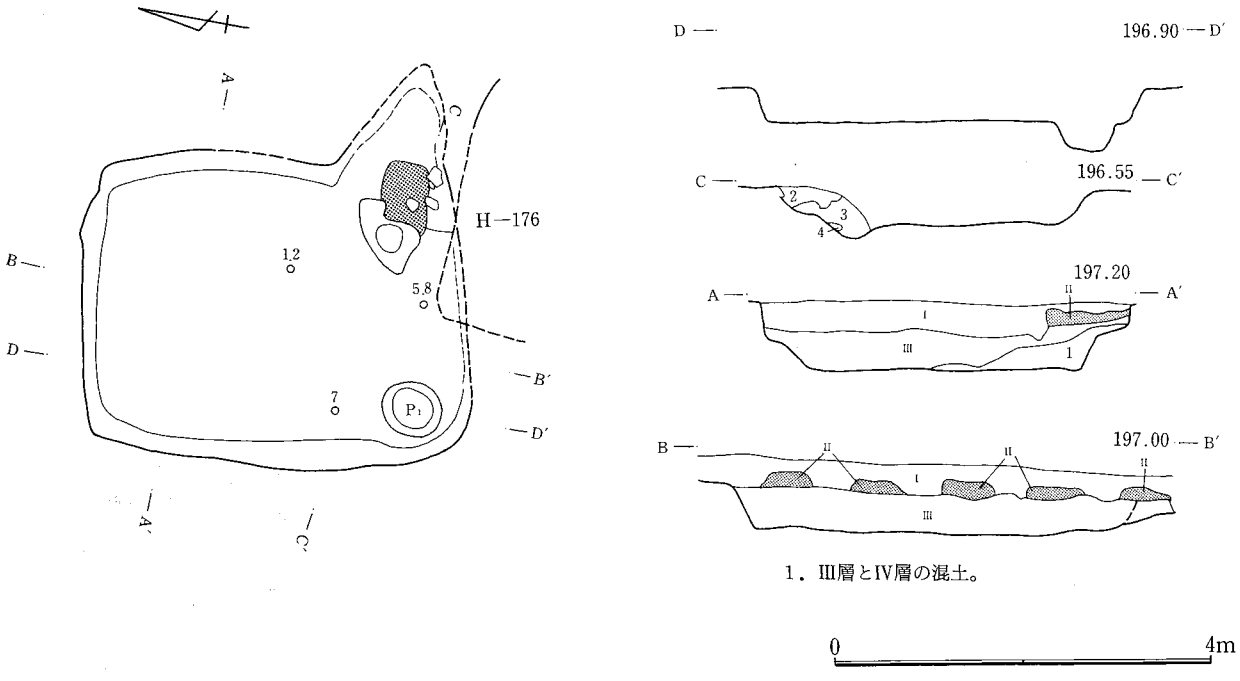
H167号住居跡　（図—219　表4—75　図版—4・74）

位置　調査区北東のI—231区に位置する。　**形状**　部分発掘であり、形状は不明。長方形カ。耕作による削平が多い。北、西辺は直に近い。規模は東西が現状で2.00m、南北が推定3.62m、面積は現状で7.11㎡。　**カマド**　不明。南西隅に焼土域があり、これがカマド跡ともみられるが、詳しくは不明。　**遺物**　小形坏が出土。



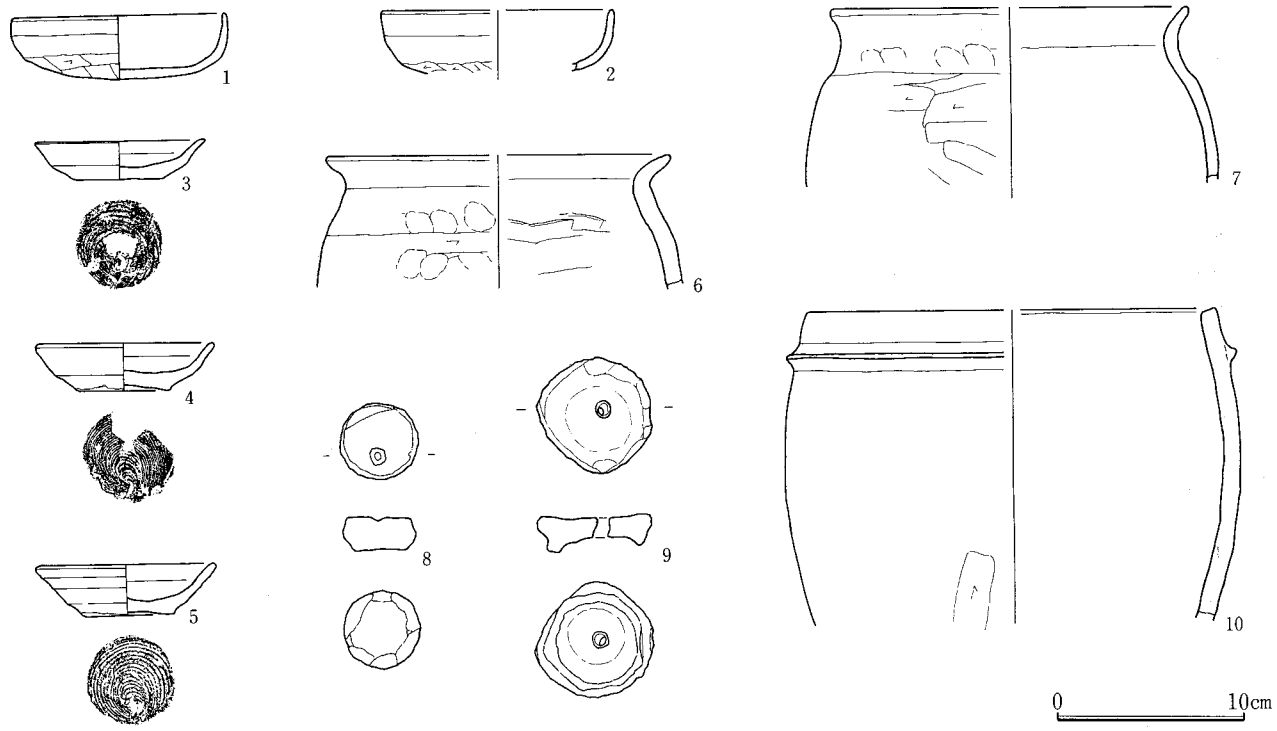
図—219　H—167号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H168号住居跡　（図—220・221　表4—75・76　図版—4・5）



図—220　H—168号住居跡平・断面図

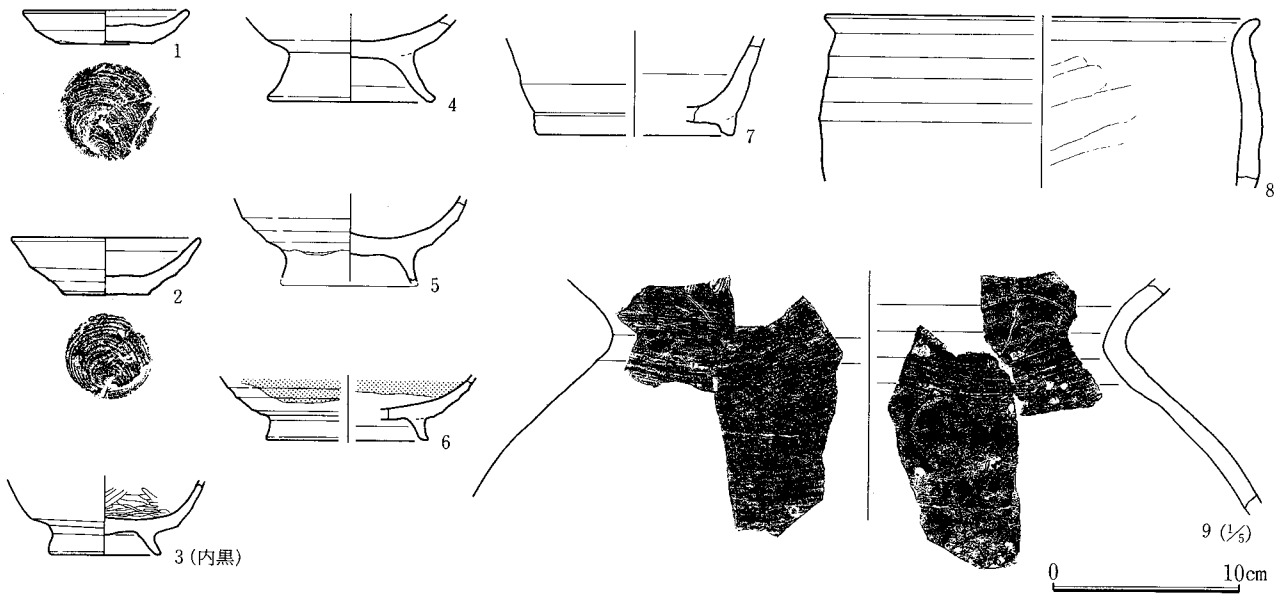
位置　調査区北東のⅠ—231区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。隅角はやや隅丸に近い。規模は東西2.86mで、南北3.85m、面積は10.98㎡。壁現高は32～52cmを測る。長軸方位はN—12°—E。　**ピット**　南西隅。62×54×29cm。貯蔵穴とも考えられる。　**カマド**　東壁南側。石材4石と白色粘土がのこる。全長163cm、壁外掘り込み122cm、燃焼部分は方形に掘りこまれている。規模は65×43cm。袖部内幅54cm、壁へは急な掘り込みとなっている。燃焼部は床面＋9cm。カマド前にピットあり。85×53×19cm。　灰カキ穴カ。　**重複関係**　H—176と重複する。H—168が旧い。　**遺物**　小形坏、坏、甕、土製円板、紡錘具、羽釜が出土。



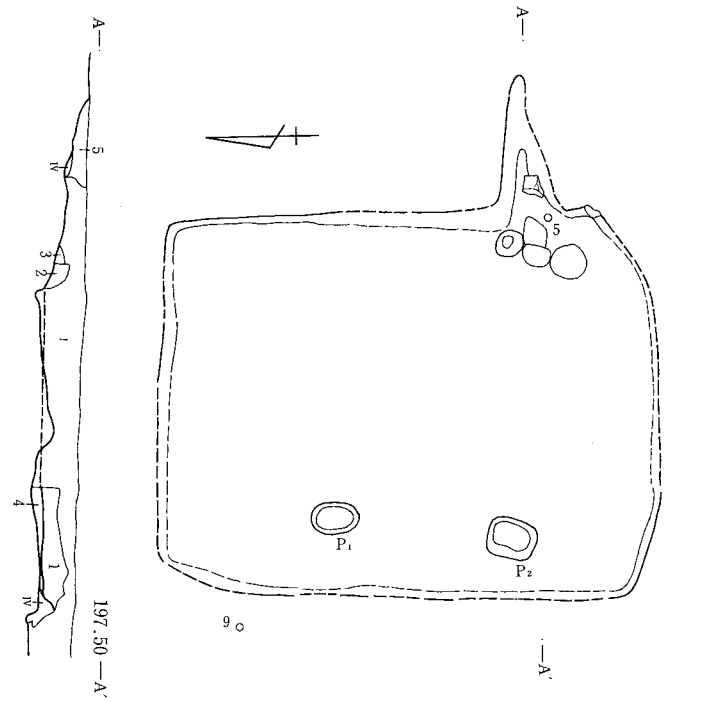
図—221　H—168号住居跡出土遺物実測図

H169号住居跡　（図—222・223　表4—76　図版—74）

位置　調査区北東のⅠ—231区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。耕作による削平が多くみられる。東辺は直に近いか。規模は東西3.80mで、南北5.12m、面積は19.12㎡。壁現高は14cmを測る。長軸方位はN—3°—W。　**ピット**　床



図—222　H—169号住居跡出土遺物実測図



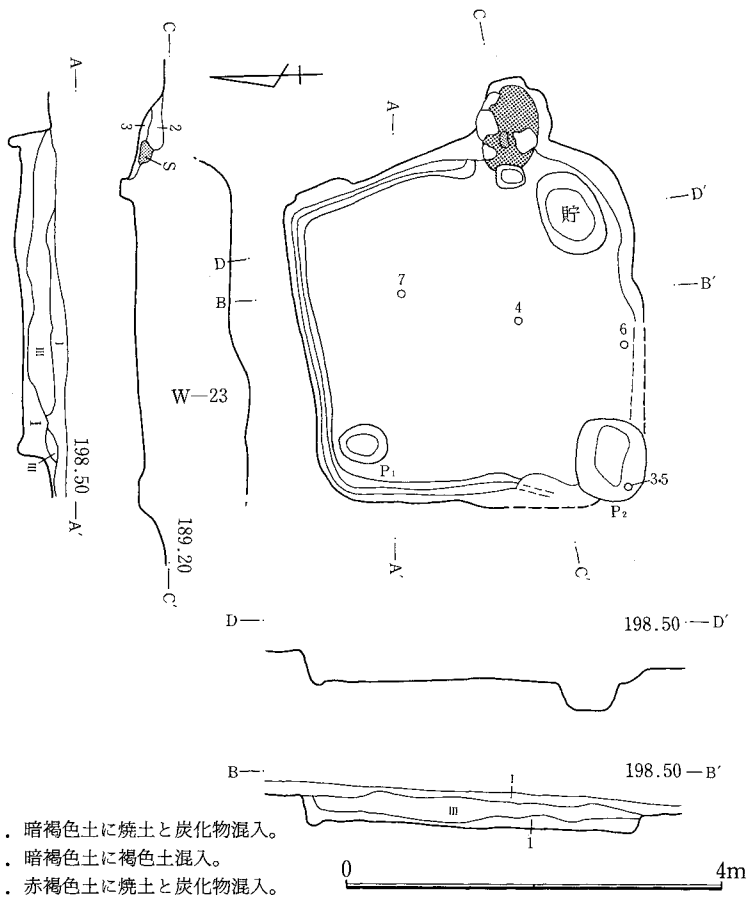
1．Ⅲ層に炭化物混入。
2．Ⅲ層にローム混土。
3．Ⅲ層にローム塊と焼土混土。
4．Ⅲ層に多量のローム塊混土。
5．Ⅲ層に多量の焼土混土。

0　4m

図—223　H—169号住居跡平・断面図

面西側に2基。P_1(60×34×15cm)、P_2(50×40×27cm)、いずれも柱穴カ。**カマド**　東壁南側。石材がのこる。全長181cmで、壁外掘り込み142cm、燃焼部分長48cm、袖部内幅72cm。壁へはゆるやかな掘り込みである。**遺物**　小形坏、内黒埦、灰釉埦、瓶、甕が出土。

H170号住居跡　(図—224・225　表4—76　図版—5・75)

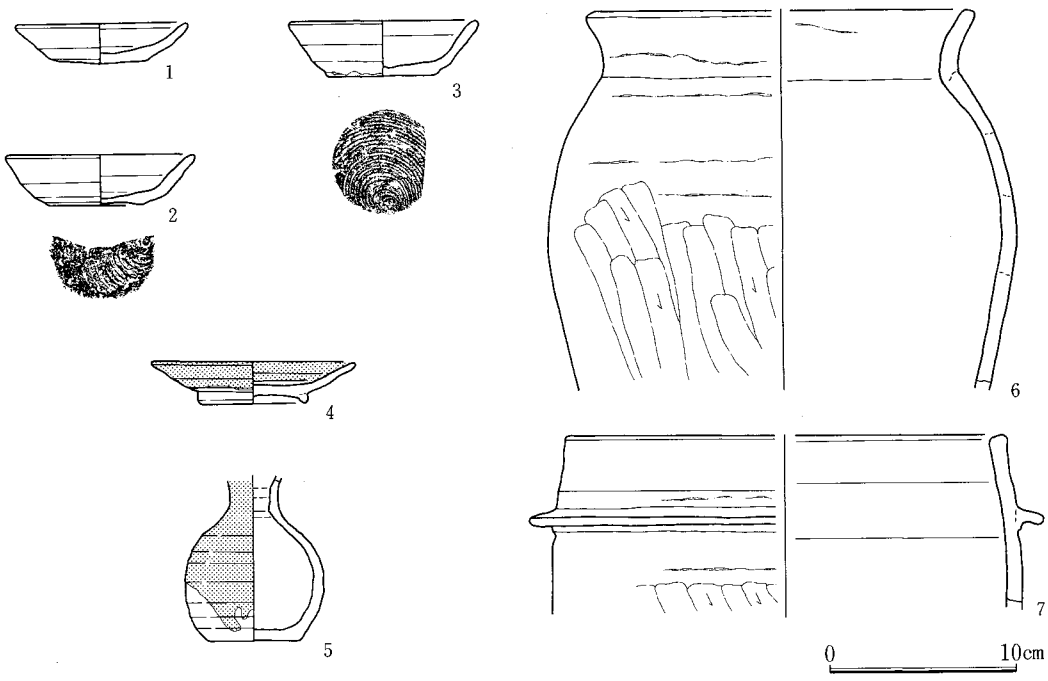


1．暗褐色土に焼土と炭化物混入。
2．暗褐色土に褐色土混入。
3．赤褐色土に焼土と炭化物混入。

0　4m

図—224　H—170号住居跡平・断面図

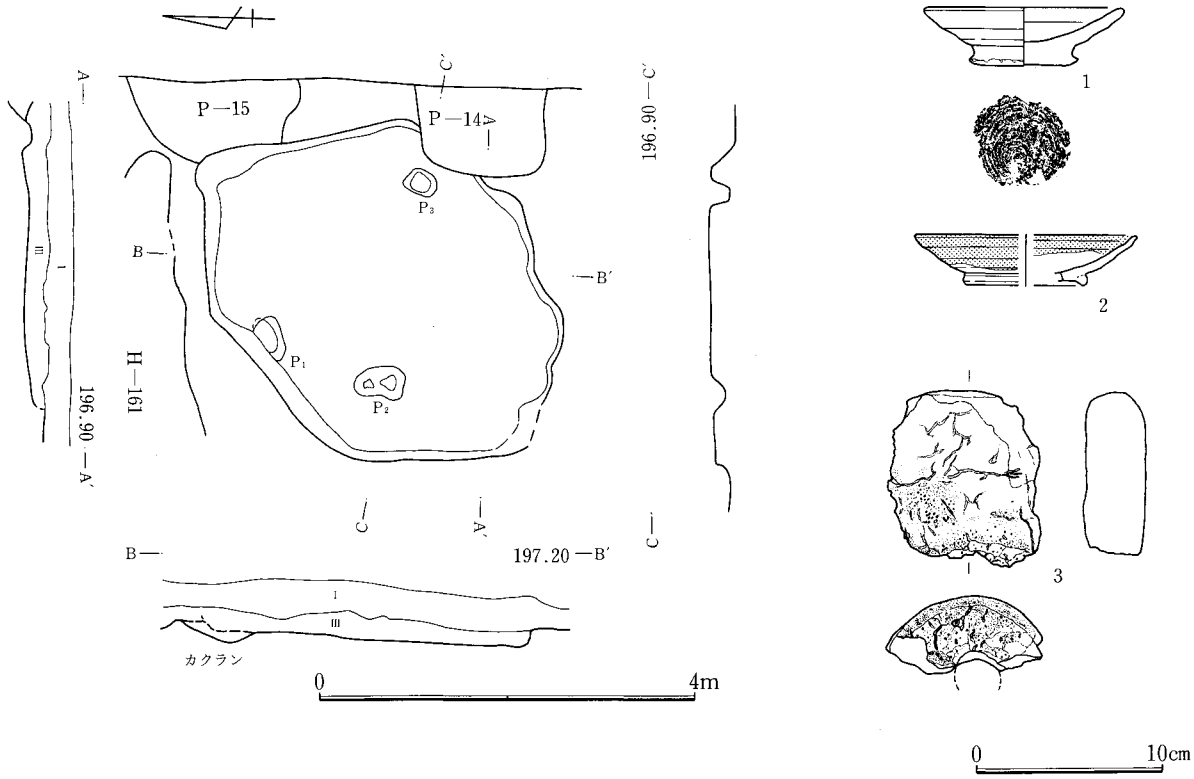
位置　調査区北東のⅠ—249区に位置する。**形状**　やや南側のひろがる方形。南辺を除き直に近い。隅角も直に近い。規模は東西3.16mで、南北3.26m、面積は11.58m²。壁高は22～26cmを測る。周溝は北、東、西壁下で検出されている。巾3～6cmで、深さ6～12cm。長軸方位はN—93°—E。**ピット**　床面西側に2基。P_1(48×41×33cm)、P_2(85×74×33cm)。柱穴カ。**カマド**　東壁南側。石材5石がのこる。全長80cm、壁外掘り込み60cm、燃焼部分長68cm、袖部内幅43cm。壁へはゆるやかな掘り込み角度をもつ。**貯蔵穴**　床面南東隅。長円形。96×62×20cm。**遺物**　坏、埦、灰釉皿・小瓶、羽釜、甕が出土。



図—225　H—170号住居跡出土遺物実測図

H171号住居跡　(図—226　表4—77　図版—71)

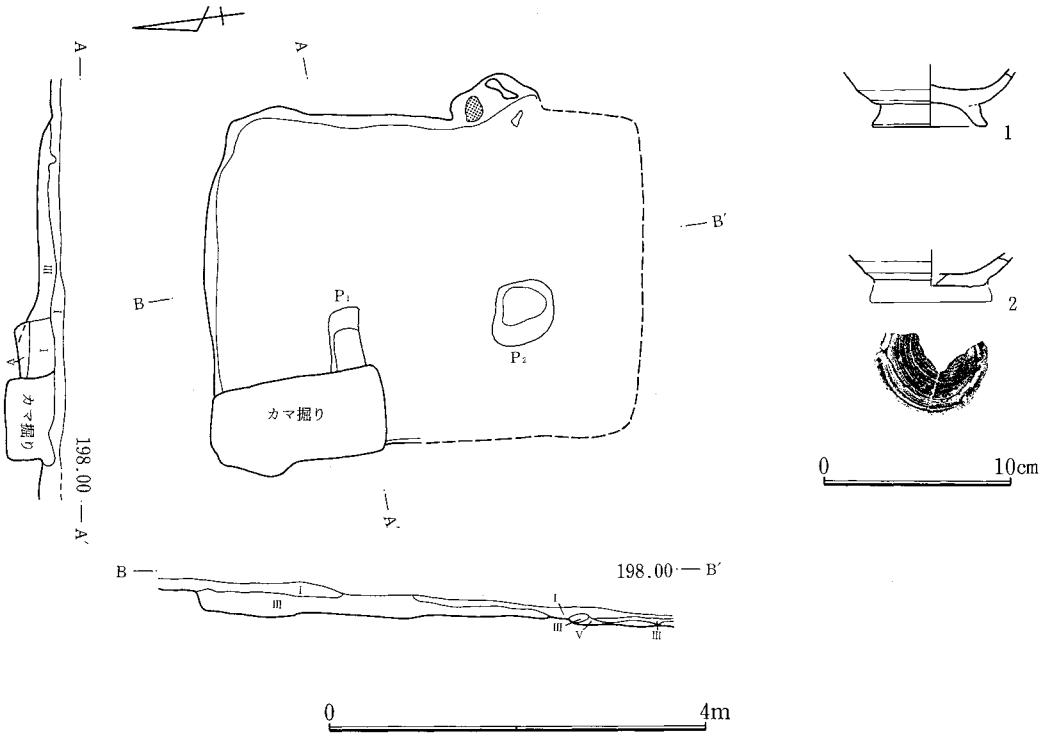
位置　調査区北東のI—213、214区。　**形状**　不整長円形。形状ははっきりせず、隅角も明瞭ではない。規模は東西2.86mで、南北3.95m。面積は9.24㎡。壁現高は14cmを測る。長軸方位はN—121°—E。　**ピット**　P_1(46×28×25cm)、P_2(55×32×14cm)、P_3(31×25×20cm)　**カマド**　不明。住居というよりは竪穴状の遺構に近いものか。　**遺物**　小形坏、灰釉皿が出土。



図—226　H—171号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H173号住居跡　（図—227　表4—77　図版—76）

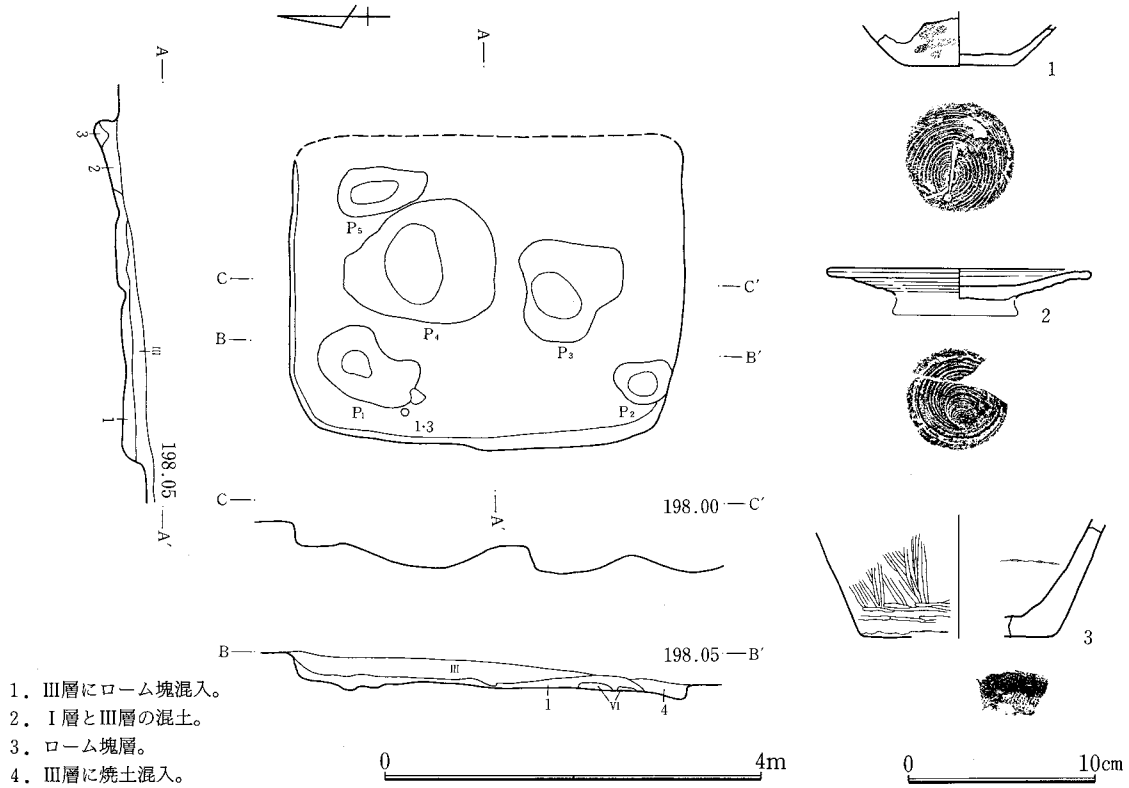
位置　調査区北東のⅠ—250区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。西～南にかけては耕作による削平で不明の部分がある。北、東辺はやや外にはらむ。北東隅は隅丸に近い。規模は東西3.34m、南北が想定4.5m、面積は想定14.45㎡。壁現高は15～24cmを測る。長軸方位はN—7°—W。　**ピット**　床面西側に2基。P_1は耕作で一部失なわれている。現状で66×35cm。P_2(71×60×49cm)。柱穴か。　**カマド**　東壁南側。石材3石がのこる。削平が多く一部のみ残存。現状で全長62cm、壁外掘り込み50cm。　**遺物**　塊が出土。



図—227　H—173号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H174号住居跡　（図—228　表4—77　図版—76）

位置　調査区北東のⅠ—232区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。東側は削平により失なわれている。各辺は直に近く、隅角は丸に近い。規模は東西が想定3.20m、南北4.12m、面積は想定12.16㎡。壁現高は16～22cmを測る。長軸方位はN—0°。　**ピット**　床面5ヵ所。$P_{1,2,5}$は柱穴か。$P_{3,4}$は床下土坑とみられる。P_1(125×58×6cm)、P_2(96×54×8cm)、P_3(126×107×17cm)、P_4(161×136×18cm)、P_5(60×54×15cm)。　**カマド**　不明。削平されたものか。　**遺物**　坏、皿、甕が出土。

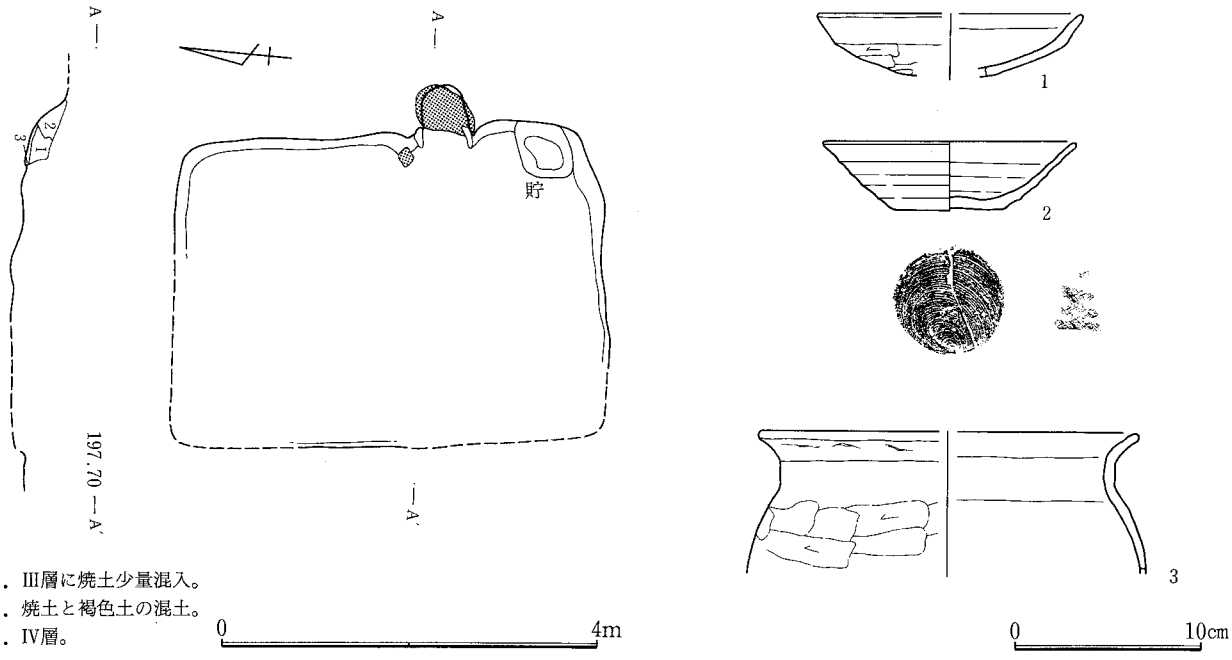


1．Ⅲ層にローム塊混入。
2．Ⅰ層とⅢ層の混土。
3．ローム塊層。
4．Ⅲ層に焼土混入。

図—228　H—174号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H175号住居跡　（図—229　表4—77）

位置　調査区北東のⅠ—232区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。耕作により削平をうけている。各辺は直に近く、隅角はやや隅丸に近い。規模は東西3.18mで、南北4.32m、面積は13.61m²。壁現高は13～49cmを測る。長軸方位はN—5°—E。　**カマド**　東壁南側。石材4石（うち2石は袖石）がのこる。全長75cmで、壁外掘り込み47cm、燃焼部分長42cm、袖部内幅46cm。壁へは急な掘り込みとなっている。燃焼部は床面＋3cm。　**貯蔵穴**　南東隅。楕円形。78×55×45cm。　**遺物**　坏、甕が出土。

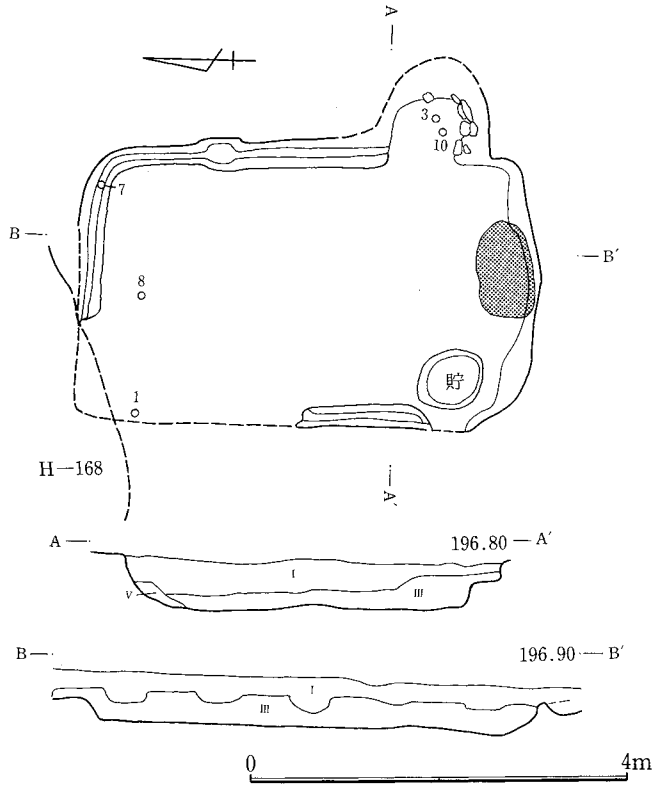


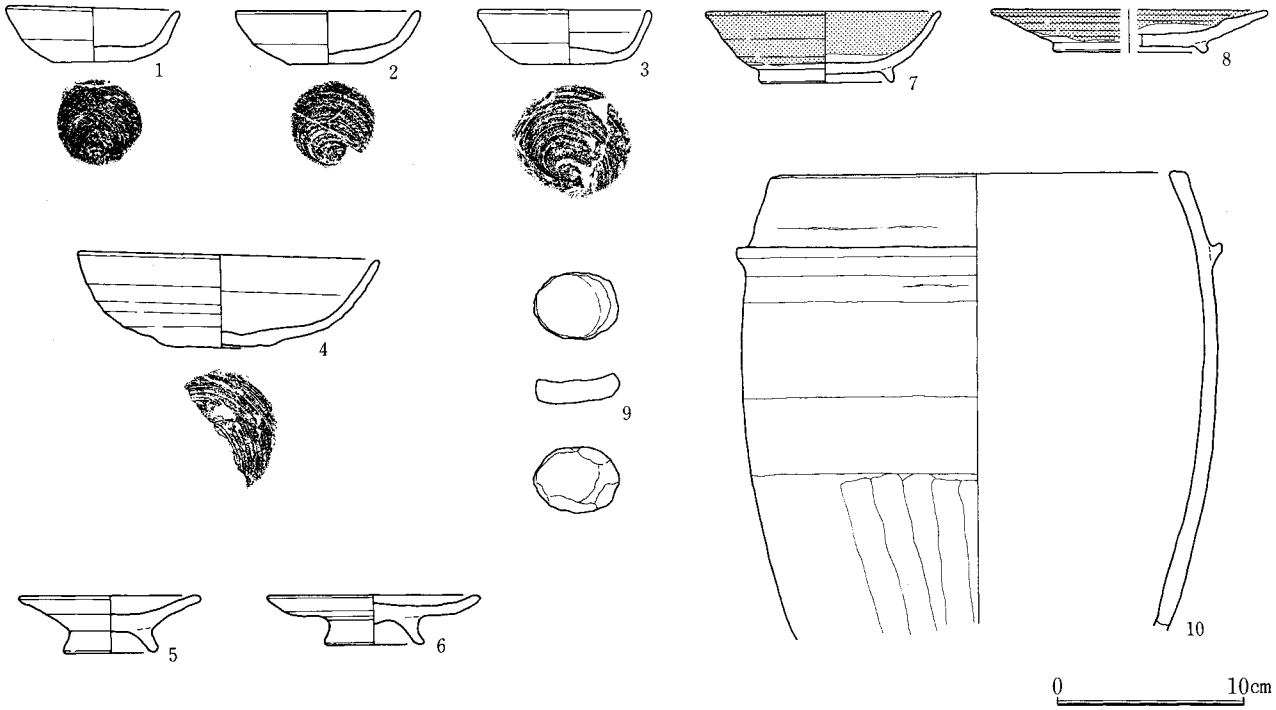
1．Ⅲ層に焼土少量混入。
2．焼土と褐色土の混土。
3．Ⅳ層。

図—229　H—175号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H176号住居跡　（図—230　表4—77　図版—5・77）

位置　I—231区。　**形状**　南北に長い長方形。南辺はやや外にはらむが、他はほぼ直。隅角は丸に近いものが多い。規模は東西2.59mで、南北4.58m、面積は12.97㎡。壁現高は25～27cmを測る。周溝は北、東、西壁下で検出されている。巾7～10cm。長軸方位はN—0°。　**カマド**　東壁南側。石材9石がのこる。全長は推定120cm、壁外掘り込みは推定90cm。燃焼部は方形で100×75cmと広い。袖部内幅は102cm。　**貯蔵穴**　南西隅。円形。75×64×45cm。　**重複関係**　H—168と重複する。H—176が新しい。　**遺物**　小形坏、坏、皿、灰釉埦・皿、羽釜が出土。

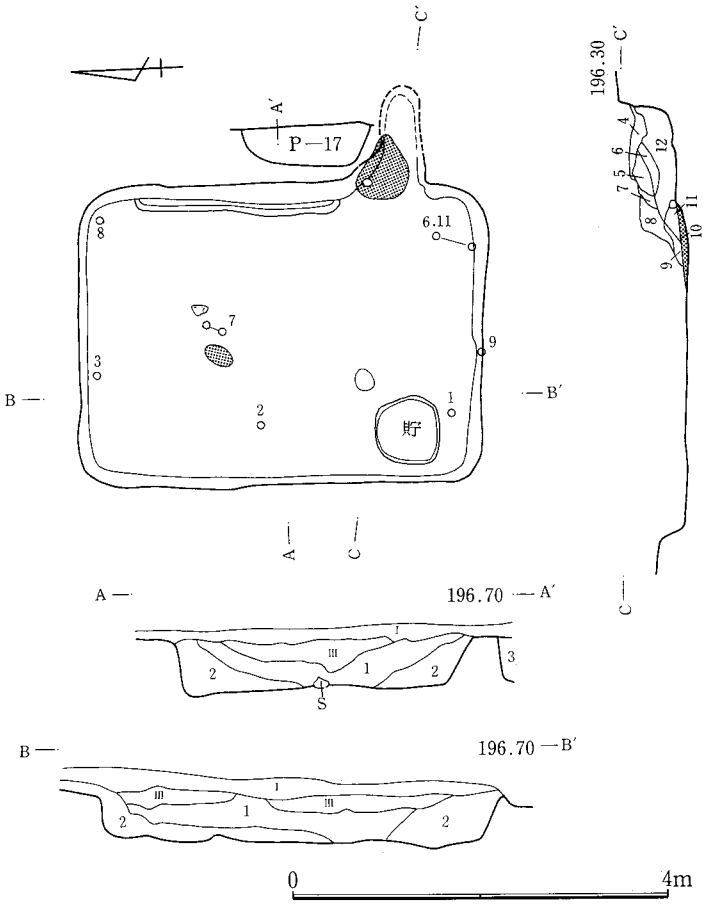




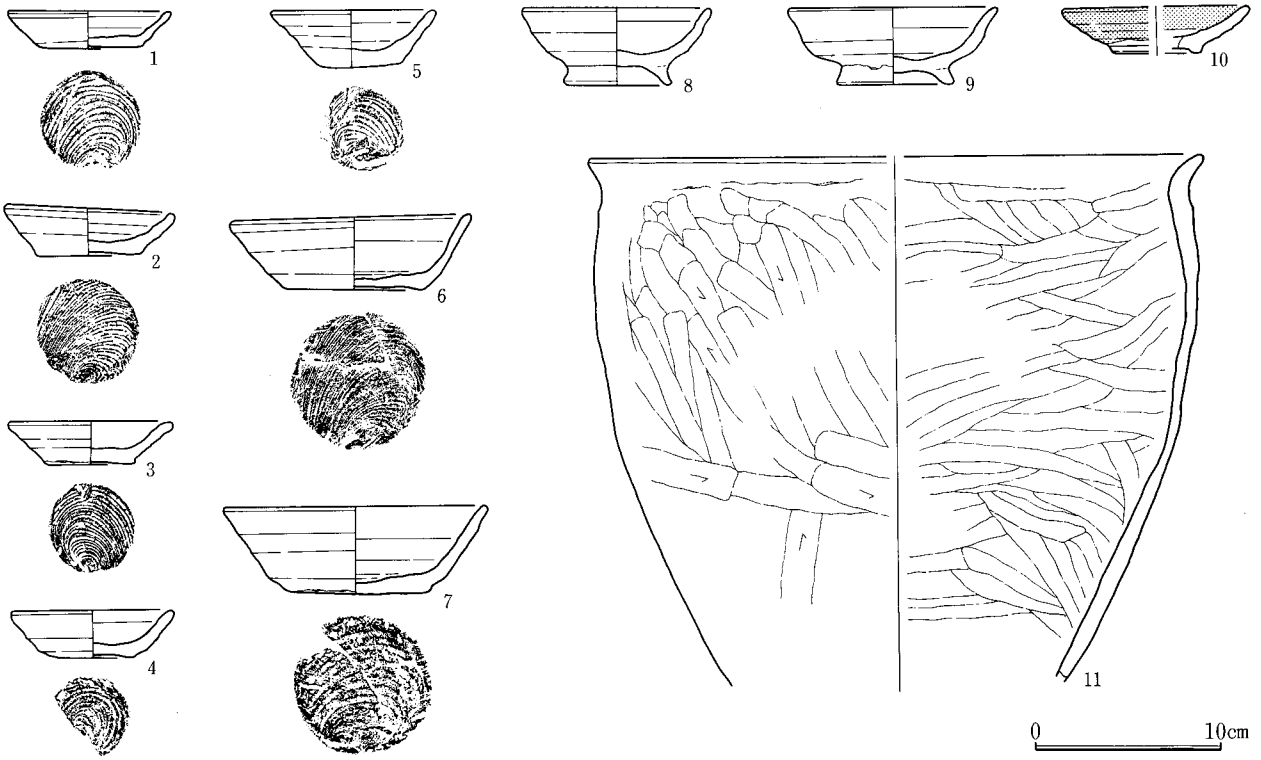
図—230　H—176号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H177号住居跡　(図—231　表4—78)

位置　調査区北東のI—213区に位置する。
形状　南北に長い長方形。各辺は直に近く、各隅角は直に近い。規模は東西2.84mで、南北4.10m、面積12.22㎡。壁現高は42～58cmを測る。周溝は東壁下で検出されている。巾4～6cmで、深さ4cm。長軸方位はN—3°—W。　**カマド**　東壁南側。想定全長120cm、想定壁外掘り込み95cm、袖部内幅45cm。壁へは急な掘り込みとなっている。また、中央部に30×20cmの焼土域がある。　**貯蔵穴**　南西隅。円形。72×68×53cm。
重複関係　P—17と重複する。地層断面からみるとH—177が新しい。　**遺物**　小形坏、坏、灰釉皿、甕が出土。



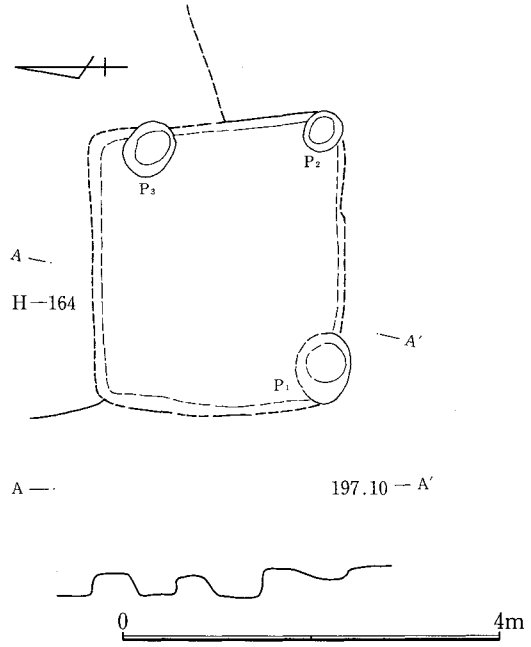
1．III層とIV層の混土にローム少量混入。
2．IV層にIII層とローム塊混入。
3．III層とIV層の混土。
4．I層とIII層の混土。
5．白色粘土とIV層の混土。
6．白色粘土と焼土の混土。
7．V層と白色粘土の混土。
8．III層とIV層の混土に白色粘土混入。
9．IV層と白色粘土の混土。
10．焼土。
11．焼土と白色粘土の混土。
12．III層とIV層の混土。



図—231　H—177号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

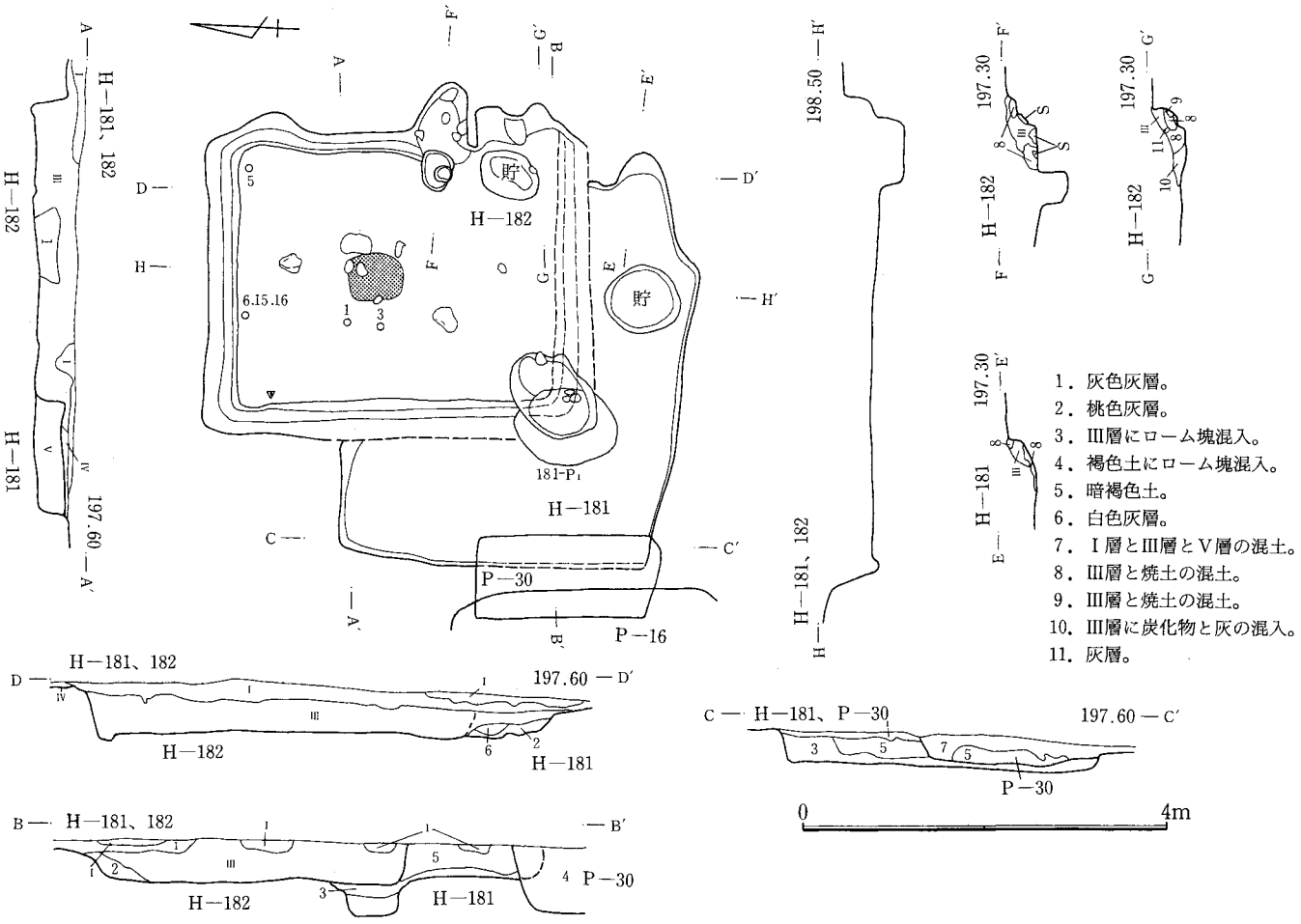
H180号住居跡　(図—232　図版—73)

位置　Ⅰ—213・231区。　**形状**　残存状況は良くないが、方形と想定される。西辺はややはらむとみられる。南側の隅角はやや丸とみられる。規模は東西が3.00mで、南北は想定2.50mである。面積は想定7.01㎡。壁現高は12cmを測る。長軸方位はN—90°—E。　**ピット**　P_1～P_3。隅と想定される位置にある。P_1(50×40cm)、P_2(58×54×30cm)、P_3(70×50×28cm)。　**カマド**　不明。



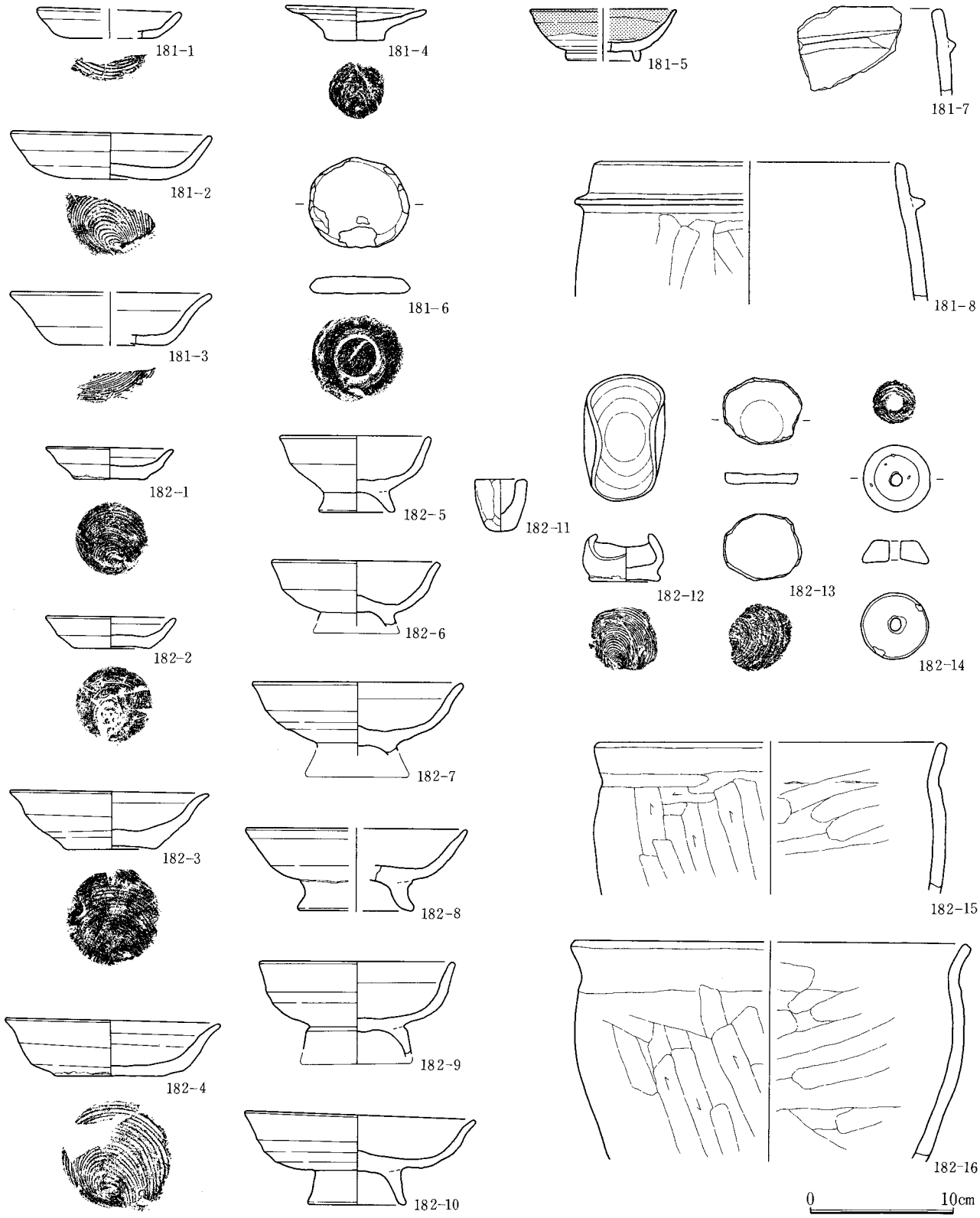
図—232　H—180号住居跡平・断面図

H181・182号住居跡　(図—233・234・235　表4—79　図版—78)

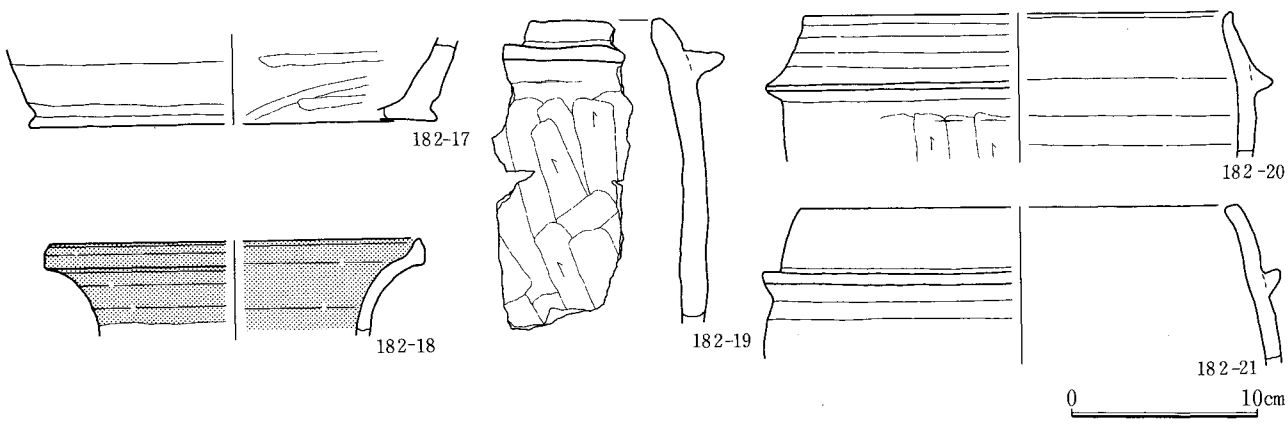


図—233　H—181・182号住居跡平・断面図

〔H181〕　**位置**　調査区北東のⅠ—249・250区に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。住居北東半とカマド付近が重複で失なわれており、不明の点が多い。残存している南、西辺は直に近く、北西隅角は直に近い。規模は東西想定4.20m、南北3.40m、面積7.05㎡。壁現高は37～40cmを測る。長軸方位はN—88°—E。　**ピット**　中央部。145×94×41cm。　**カマド**　東壁南側。現状で全長78cm、壁外掘り込み54cm、燃焼部分長48cm、袖部内幅70cm。壁へは急な掘り込みとなっている。燃焼部は床面－4cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。87×78×32cm。　**重複関係**　H—182と重複する。H—182が新しい。　**遺物**　小形坏、坏、皿、灰釉埦、埦、羽釜、土製円盤が出土。



図—234　H—181・182号住居跡出土遺物実測図(1)

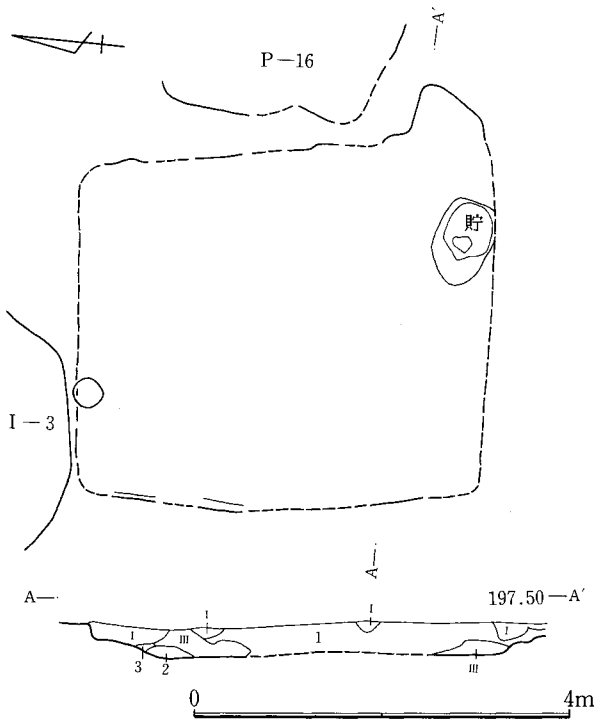


図—235　H—182号住居跡出土遺物実測図(2)

〔H182〕　**位置**　I—249・250区。　**形状**　南北に長い長方形。南辺は失なわれているが、他は直。北側の隅角は直。規模は東西が2.76mで、南北が想定3.57m、面積は12.14m²。壁現高は29～37cmを測る。周溝は現存する西、北、東壁下で検出されている。巾8～12cm。長軸方位はN—1°—E。　**カマド**　東壁に2基。北カマド。石材6石がのこる。全長77cm、壁外掘り込み54cm、燃焼部分長39cm、袖部内幅34cm。壁へは急な掘りこみとなる。燃焼部は床面±0cm。カマド前にpit。42×33×30cm。灰カキ穴カ。南カマド。石材1石がのこる。残存度やや不良。想定全長75cm、壁外掘り込み24cm。床面中央部に焼土域（57×64cm）と石材四石がのこる。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。71×51×25cm。北カマドに伴うものか。特異な住居跡。生産址カ。　**遺物**　小形坏、埦、台付埦、耳皿、甕、紡錘具、羽釜が出土。

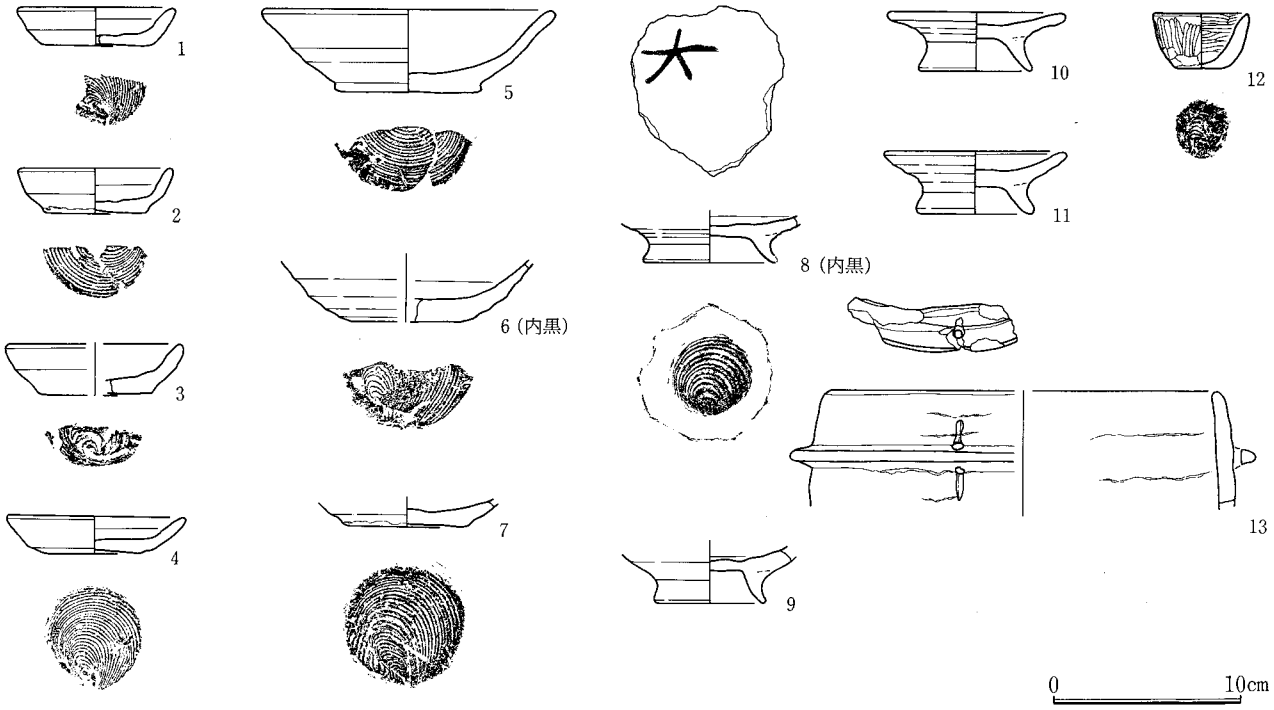
H183号住居跡　（図—236・237　表4—80　図版—78・79）

位置　調査区北東のI—231区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。耕作による削平が多く、残存状態は良くない。規模は東西3.5mで南北が推定4.2m。面積は15.31m²。壁現高16cm。長軸方位はN—4°—E。　**カマド**　東壁南隅。全長61cmで、壁外掘り込み52cm、燃焼部分長48cm、袖部内幅58cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。88×61×24cm。　**遺物**　小形坏、埦、羽釜が出土。



1．砂層。
2．III層とロームの混土。
3．III層と焼土の混土。

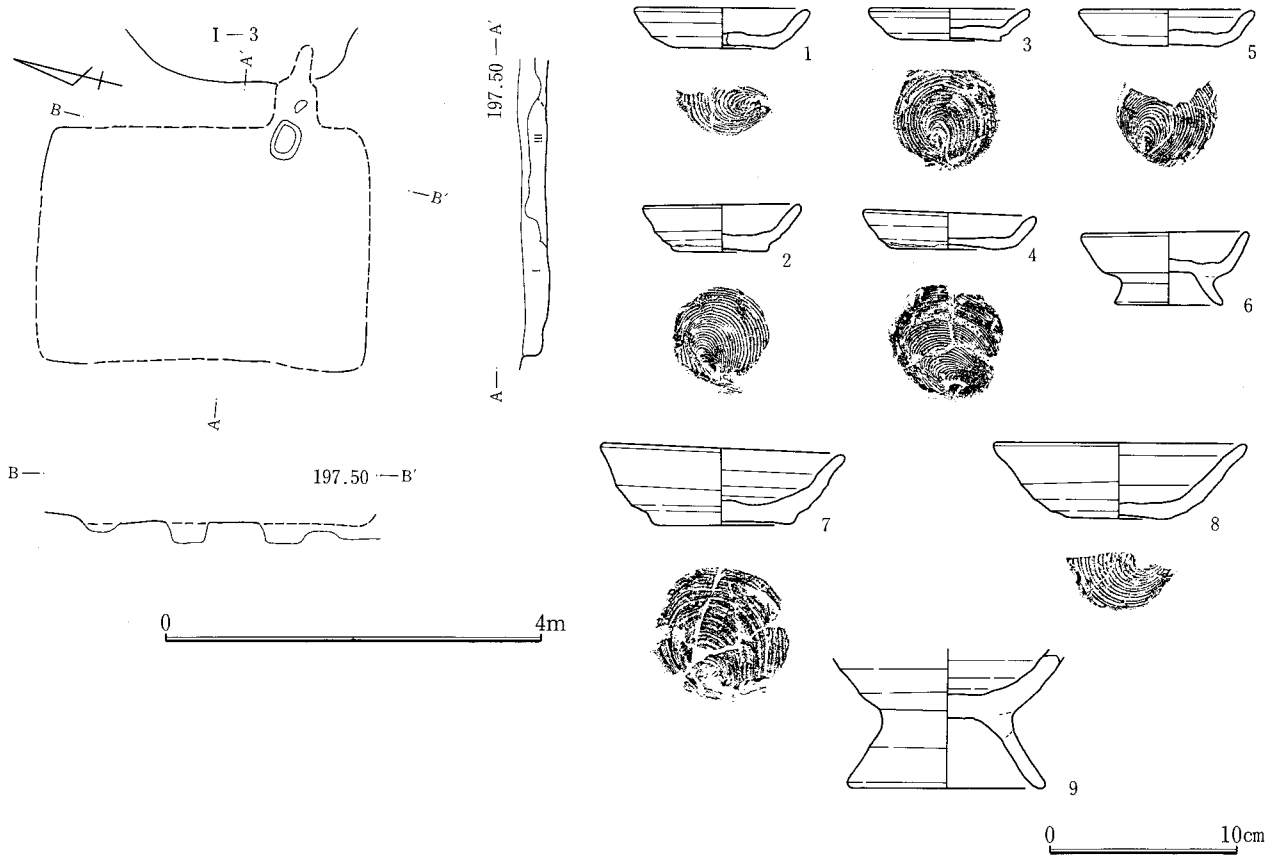
図—236　H—183号住居跡平・断面図



図—237　H—183号住居跡出土遺物実測図

H184号住居跡　（図—238　表4—81　図版—79）

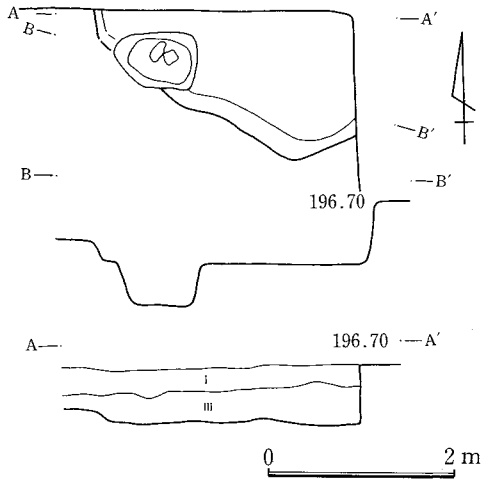
位置　調査区北東のⅠ—231区に位置する。　**形状**　耕作による削平が多く、不明な点が多い。南北に長い長方形。規模は東西が想定2.4m、南北が想定3.3m、面積は想定8.07㎡。長軸方位はN—11°—E。　**カマド**　東壁南側。石材一石がのこる。カマド前前にピット（40×30×28cm）がのこる。灰カキ穴か。　**遺物**　小形坏、台付埦、埦が出土。



図—238　H—184号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

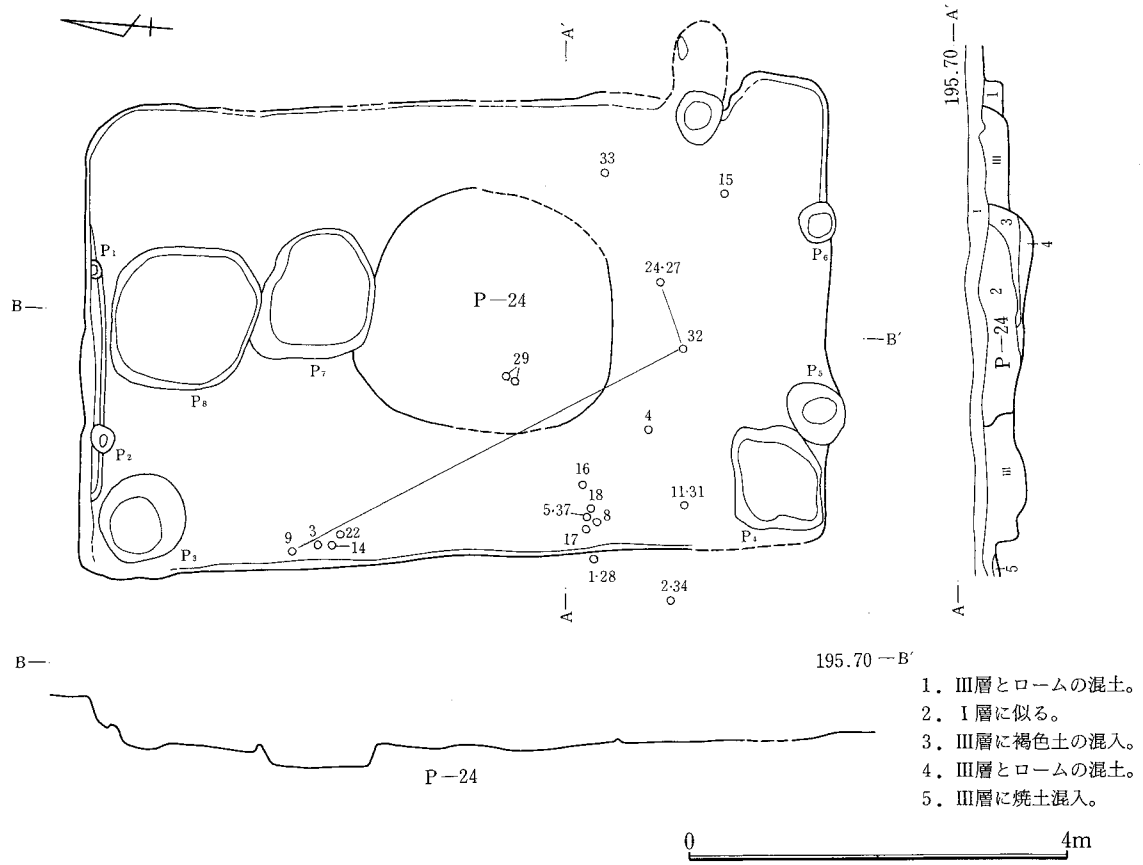
H186号住居跡　(図—239)

位置　Ⅰ—195、213区。　**形状**　部分検出のため不明。規模は現状が東西2.66mで、南北が1.3m。面積は現状が2.53㎡。　**ピット**　南西隅。90×59×34cm。若干石あり。　**カマド**　不明。



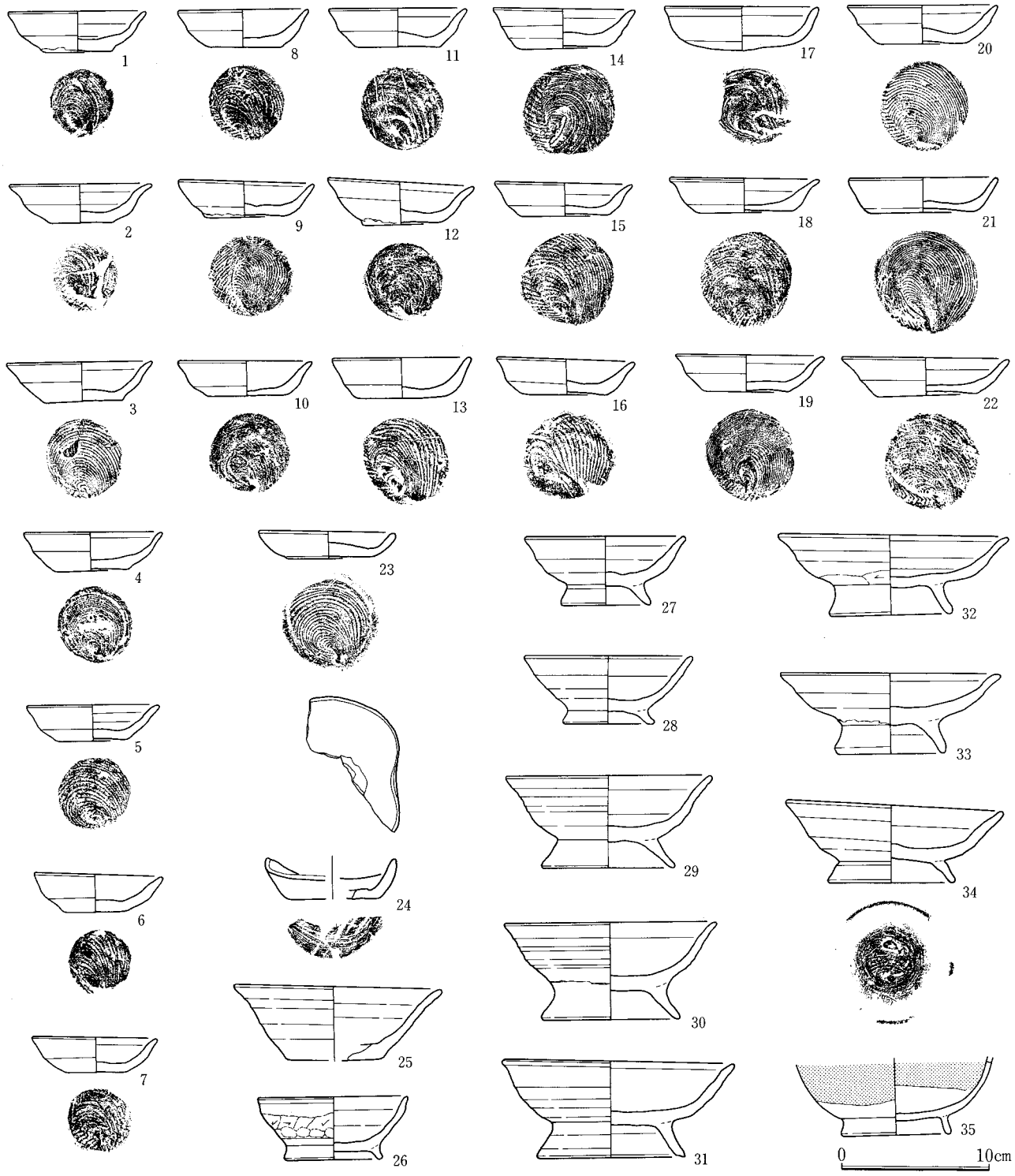
図—239　H—186号住居跡平・断面図

H187号住居跡　(図—240・241・242　表4—81　図版—80)

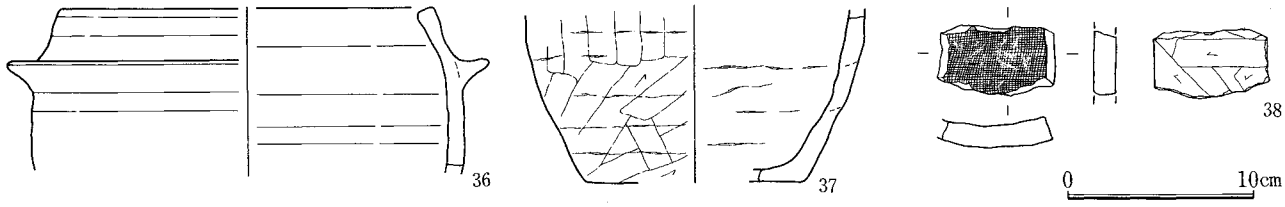


図—240　H—187号住居跡平・断面図

位置　調査地北東のⅠ—212区。　**形状**　南北に長い長方形。各辺はほぼ直に近い。北東隅は隅丸で、南東隅は直に近い。規模は東西4.80m、南北7.70mで面積は36.46m²。壁現高は21～25cmを測る。耕作のカマ掘りで失なわれたところが多い。長軸方位はN—2°—E。　**ピット**　P_1～P_8。北壁下にP_1～P_3。南壁下にP_4～P_6。北側床面に$P_{7,8}$。P_1（23×17×9cm）、P_2（27×25×—cm）、P_3（101×100×40cm）、P_4（132×102×10cm）、P_5（68×58×23cm）、P_6（42×40×34cm）、P_7（160×124×40cm）、P_8（176×161×17cm）、P_1～P_3とP_4～P_6は柱穴とみられる。$P_{7,8}$は床下土坑カ。　**カマド**　東壁南。残存度不良。全長101cm、壁外掘り込み83cm。袖部内幅56cm。　**重複関係**　P—24。H—187が旧い。　**遺物**　坏、埦、台付埦、耳皿、灰釉埦、甕、羽釜が出土。



図—241　H—187号住居跡出土遺物実測図(1)

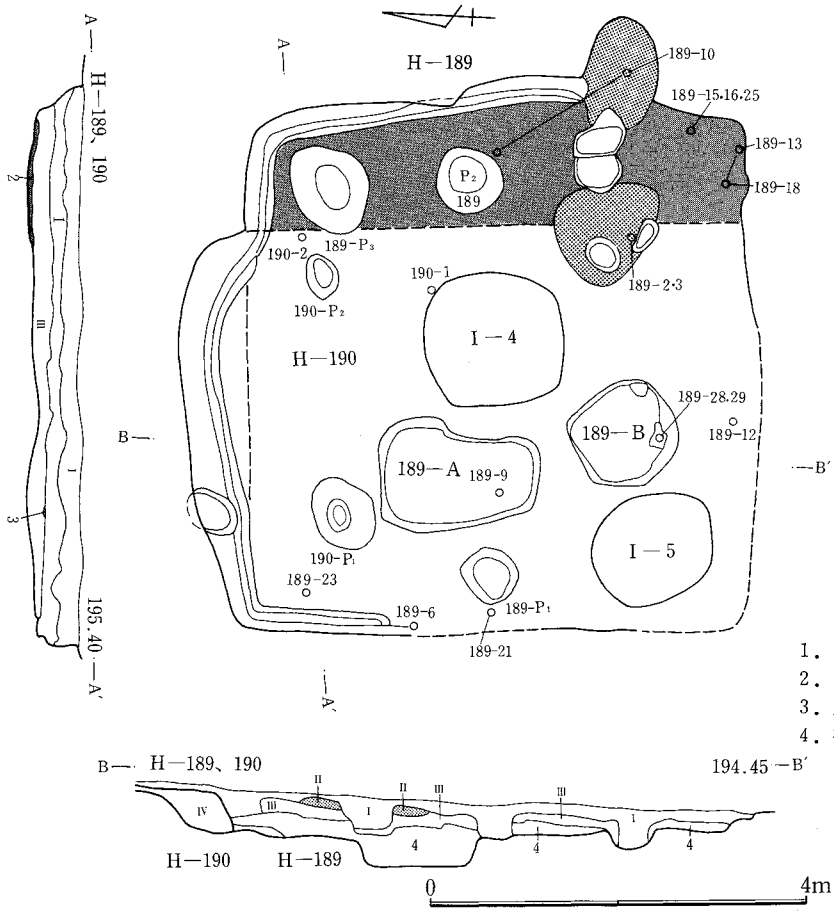


図—242　H—187号住居跡出土遺物実測図(2)

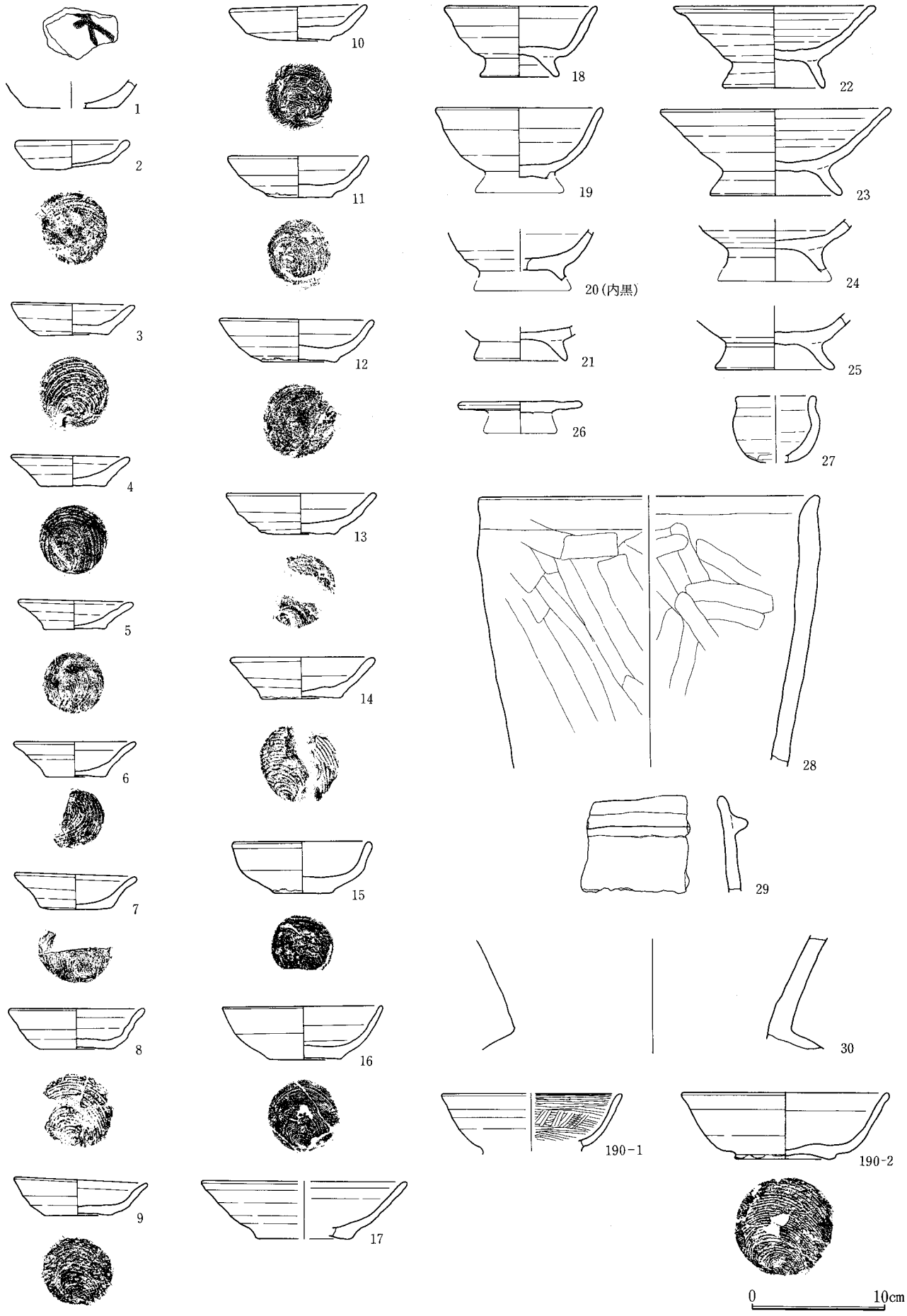
H189・190号住居跡　(図—243・244　表4—83　図版—80)

〔H189〕　**位置**　調査区北東のI—212区に位置する。　**形状**　方形。重複で不明な点が多いが、残されている東、西辺はやや外にひらく。北東隅は直に近い。規模は東西5.21mで、南北4.96m、面積は6.22㎡。壁現高は8～42cmを測る。周溝は東、北、西壁下で検出されている。巾6～9cm、深さ5cm。長軸方位はN—3°—E。　**ピット**　P_1～P_3。P_1(60×54×24cm)、P_2(72×70×19cm)、P_3(104×81×—cm)。床下土抗A(180×110×—)、B(122×114×40)。いずれも底面に白色粘土が厚さ3～5cm敷きこまれ、若干の焼けと炭化物が認められた。　**カマド**　東壁南側。石材一石がのこる。全長13cm、壁外掘り込み68cm、燃焼部分長68cm。手前にピット2基。57×30×22cmと52×39×13cm。西側は灰カキ穴か。東側は新しいもの。　**テフラ**　B軽石層。床面より30cm。　**重複関係**　H—190と重複。H—189が新しい。I—4・5。H—189が旧い。　**遺物**　小形坏、埦、台付埦、坩が出土。

〔H190〕　**位置**　I—212区。　**形状**　H—189との重複により不明の点が多いが方形カ。わずかにのこる北辺はやや外にはらむ。北東隅は隅丸に近い。規模は東西3.70mで、南北は4.42m以上、面積は推定23.22㎡以上。壁現高は、北壁で40cmを測る。　**ピット**　P_1(84×63×47cm)、P_2(51×32×25cm)。いずれも柱穴カ。　**カマド**　東壁南側。H—189造成時に削平されており残存不良。全長72cmで、壁外掘り込み45cm。手前に灰カキ穴とみられるピット(42×33×11cm)がのこる。　**遺物**　埦が出土。



図—243　H—189・190号住居跡平・断面図

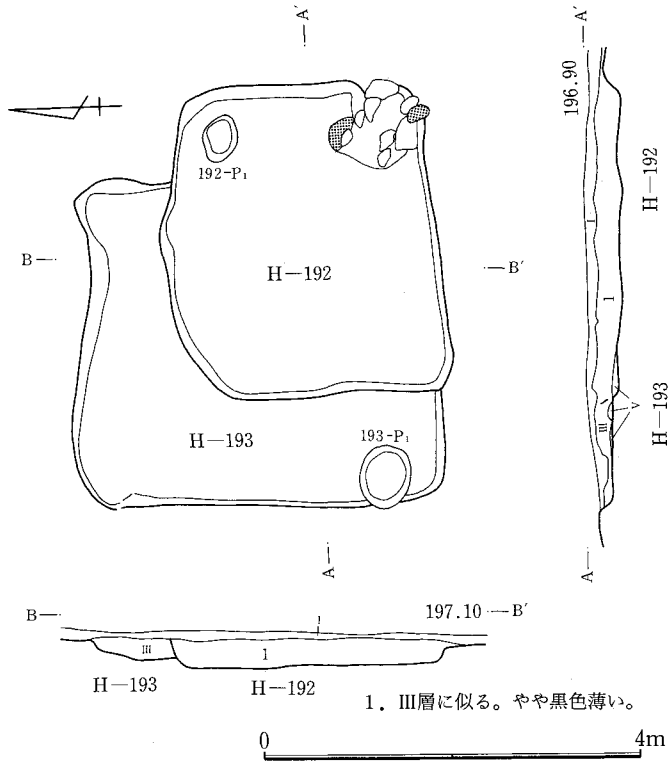


図—244　H—189・190号住居跡出土遺物実測図

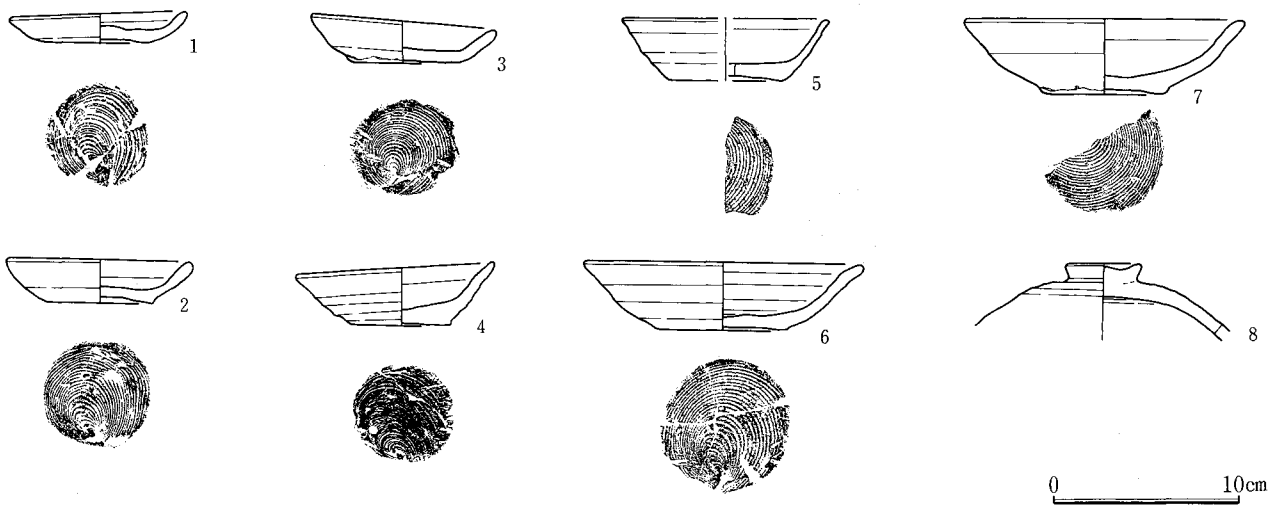
H192・193号住居跡　（図—245・246・247　表4—85　図版—5・81）

〔H192〕　**位置**　I—212区付近　**形状**　東西に長い長方形。北辺はやや外にはらみ、南、東辺は直に近い。隅角は隅丸に近い。規模は東西3.14mで南北2.80m、面積は7.85m²と測る。壁現高は17～32cmを測る。長軸方位はN—3°—W。**ピット**　北東隅。52×37×35cm。　**カマド**　東壁南側。石材9石がのこる。燃焼部は石組みカ。全長92cmで、壁外掘りこみ4cm。袖部内幅33cm。　**重複関係**　H—193と重複。H—192が新しい。　**遺物**　小形坏、蓋、塊、壺、鉄製品が出土。

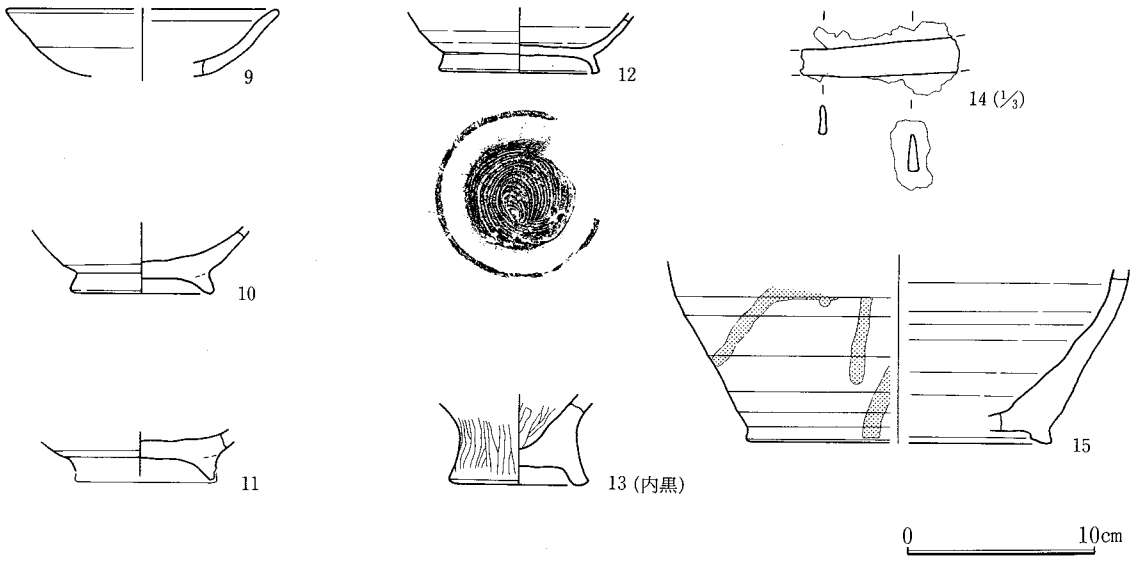
〔H193〕　**位置**　I—212付近　**形状**　H—192との重複でほとんど失なわれているが、方形に近いと考えられる。西辺は直に近いが、北辺は不整。隅角は隅丸に近い。規模は東西3.26mで、南北推定2.74m、面積は推定5.89m²。壁現高は15～22cmを測る。長軸方位はN—3°—W。　**カマド**　H—192との重複により失なわれたと考えられる。



図—245　H—192・193号住居跡平・断面図



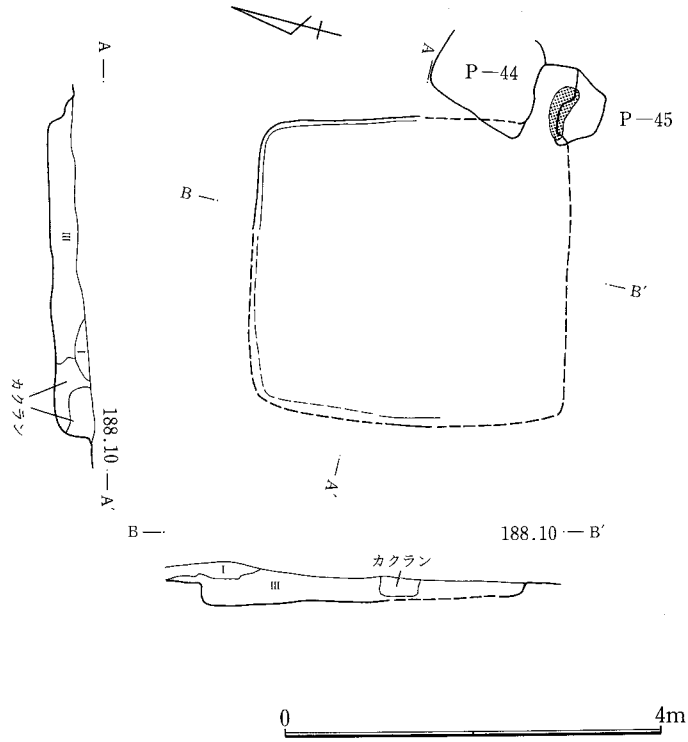
図—246　H—192号住居跡出土遺物実測図(1)



図—247　H—192号住居跡出土遺物実測図(2)

H194号住居跡　(図—248　図版—81)

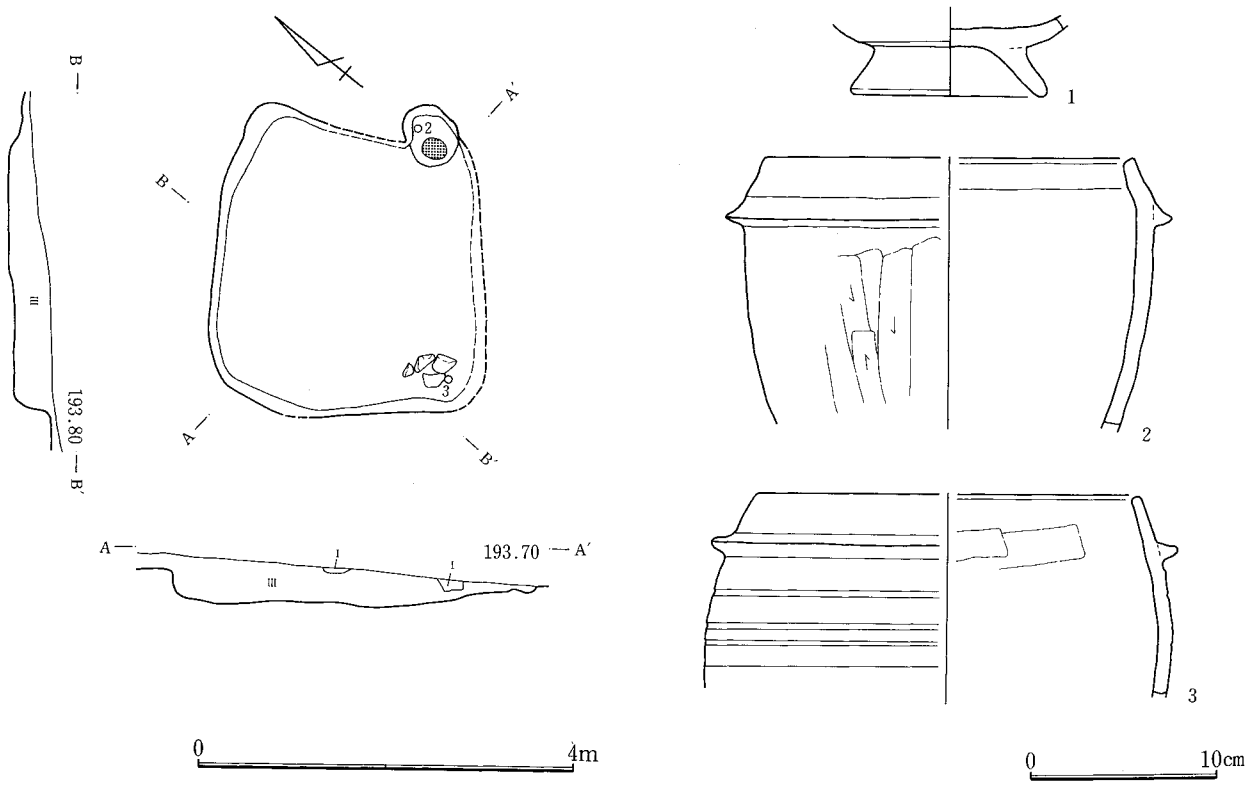
位置　調査区北東のⅠ—189区に位置する。　**形状**　耕作等による削平で不明な点が多いが、方形と考えられる。北・東辺は直に近い。北東隅は直に近い。規模は東西3.20mで、南北は推定3.30m、面積は推定9.79㎡。壁現高は35～37cmを測る。長軸方位はN—11°—E。　**カマド**　東壁南端。全長103mで壁外掘り込み74cm、燃焼部分長58cm。残存状態不良。　**重複関係**　P—44・P—45と重複する。いずれもカマド下に検出されている。H—194よりも旧い。



図—248　H—194号住居跡平・断面図

H195号住居跡　(図—249　表4—85　図版—82)

位置　不明　**形状**　方形と考えられる。各辺はやや外にはらみ、隅角は隅丸に近い。規模は東西3.00mで、南北は推定2.66m、面積は推定7.22㎡。壁現高は27～39cmを測る。長軸方位はN—125°—E。　**カマド**　東壁南端。全長66cm、壁外掘り込み44cm、燃焼部分長22cm。燃焼部は床面－7cm。　**遺物**　台付埦、羽釜が出土。



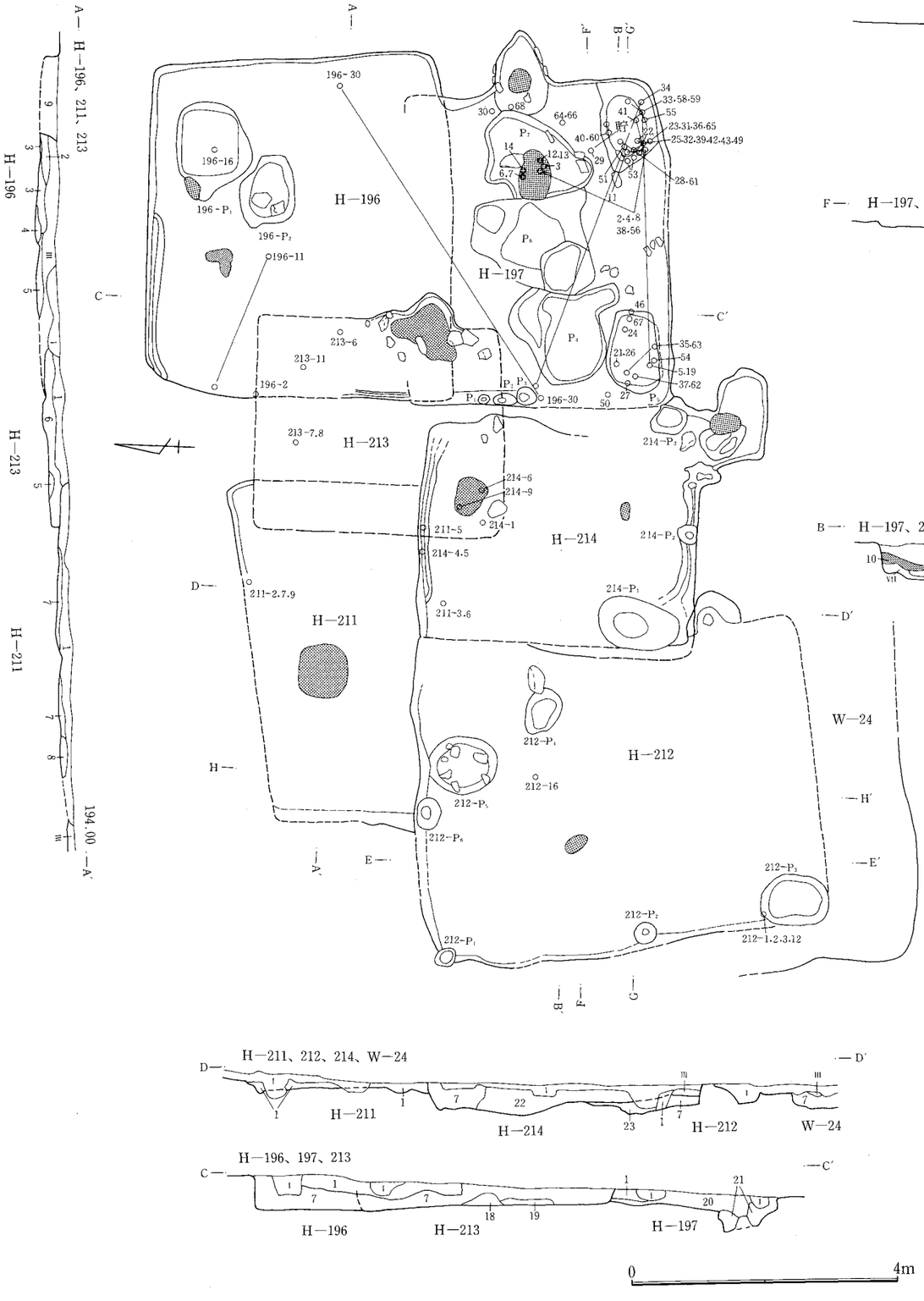
図—249　H—195号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

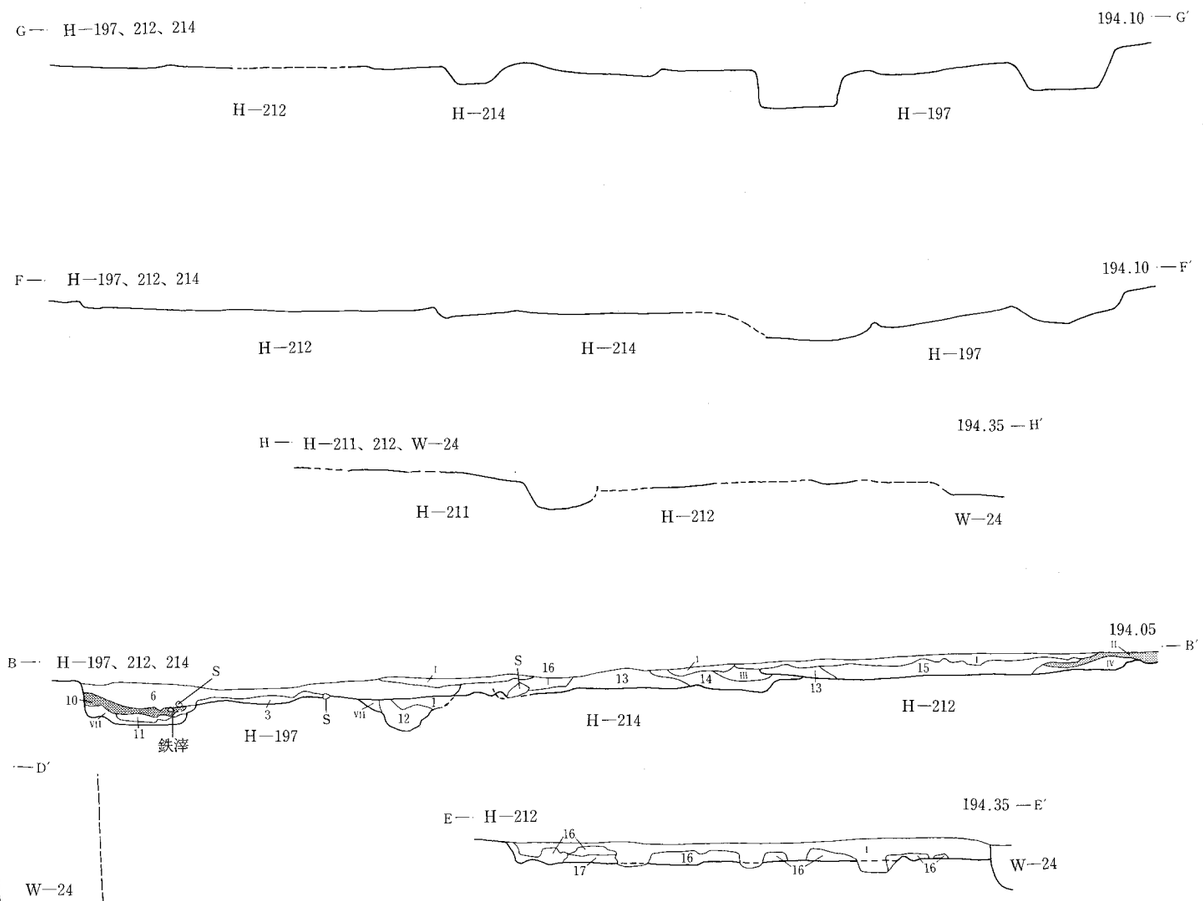
H196・197・211・212・213・214号住居跡　(図—250・251・252・253・254・255・256　表4—86・87・91・92　図版—5・81・82)

〔H196〕　**位置**　1—212区　**形状**　やや東西に長い長方形カ。各辺は直に近く、隅角はほぼ直である。規模は東西5.03mで、南北4.20m、面積は推定21.65㎡。壁現高は43～54cmを測る。長軸方位はN—93°—E。　**ピット**　床面北側にP_1とP_2。P_1(122×108×59cm)、P_2(100×83×51cm)。床下土坑状のものか。　**カマド**　不明。掘削を受けたものか。床面北側に白色土のかたまりと木炭のまざった土のかたまりがのこる。出土遺物からみると工房跡か。　**重複関係**　H—213と重複する。H—196が旧い。H—197との新旧関係は地層断面からは不明。H—197が新しいか。　**遺物**　小形坏、埦、台付埦、鞴羽口、鉄滓、甕が出土。

〔H197〕　**位置**　調査区北東のI—211・229区に位置する。重複住居跡群の一軒。　**形状**　東西に長い長方形と考えられる。重複により失なわれたり、不明になっているところがある。南辺はほぼ直で、南東隅は直に近い。規模は東西が推定で4.60m、南北は不明。面積は推定で18.07㎡。壁現高は18～42cmを測る。西壁下の一部が連続したピット状になっている。周溝の一部とも考えられる。長軸方位はN—92°—E。　**ピット**　P_1～P_7。P_4(134×110×30cm)、P_5(112×75×44cm)P_6、(213×132×21cm)。いずれも床下土坑とみられる。カマド前のピットには焼土域(38×24)があり付近に鉄クズ、木炭も散布してる。この土坑も製鉄の関連遺構の可能性もある。　**カマド**　東壁。2石がのこる。カマド前面に石材、焼土、ピットがある。ピット(173×120×24cm)。灰カキ穴か。カマドは全長127cm、壁外掘り込み97cm、燃焼部分長36cm、袖部内幅68cm、燃焼部は床面—10cm。　**貯蔵穴**　床面南東隅。長円形。135×78×9cm。　**重複関係**　H—196。H—197が新しい。H—214。H—197が新しい。H—213。H—197が旧い。　**遺物**　小形坏、小形皿、埦、台付埦、羽釜、鞴羽口が出土。

〔H211〕　**位置**　調査区北東のI—212区。　**形状**　重複により失なわれている部分が多いが、方形と考えられる。部分の検出で各辺、隅角とも状況は不明。規模は東西が推定4.80m、南北は不明。壁現高は9～15cmを測る。長軸方位はN—99°—E。　**カマド**　H—214との重複で削平をうけたと考えられる。H—214との重複部のピット状のおちこみの中に焼土域がのこる。63×55cm。また、北壁下に焼土域がのこる。80×75cm。　**重複関係**　H—213と重複する。H—211が新しい。H—214と重複する。H—211が旧い。H—212と重複する。H—212が新しい。　**遺物**　坏、埦、台付埦、甕が出土。





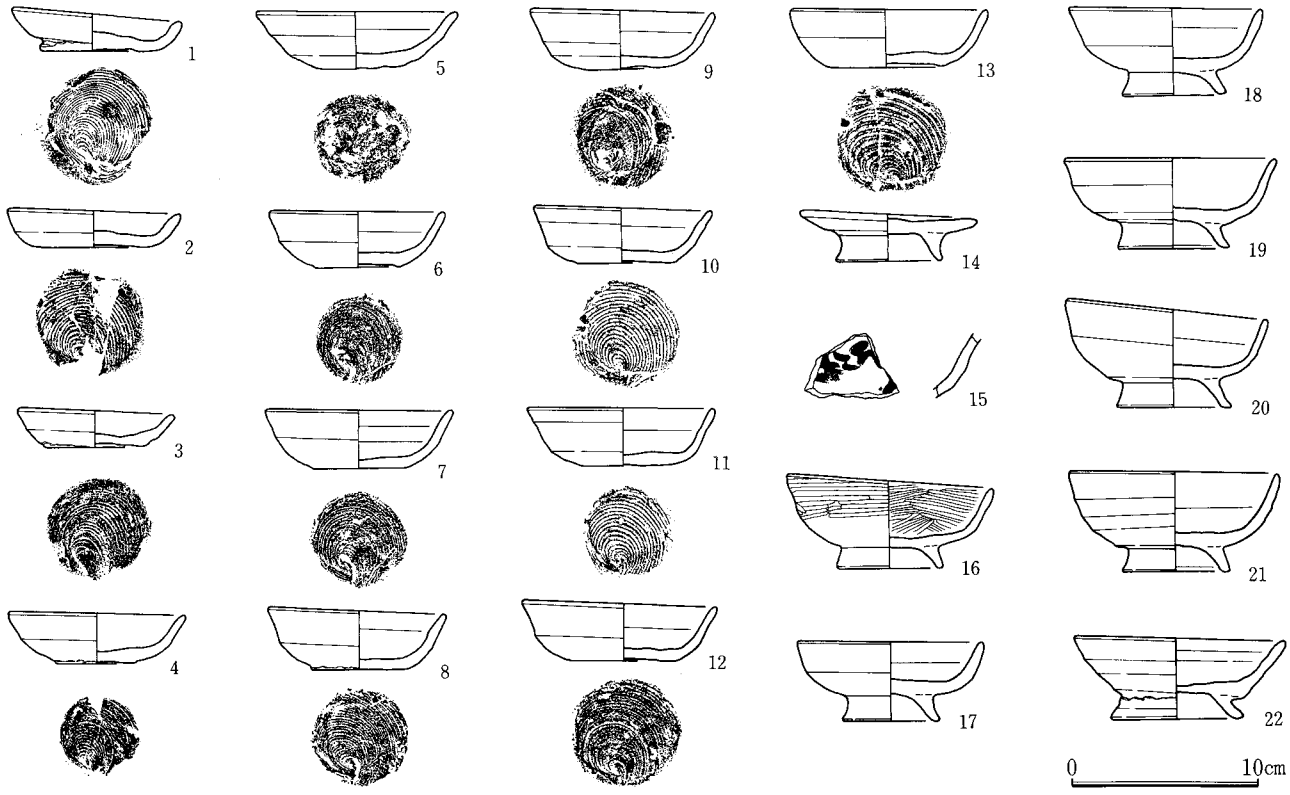
1．Ⅲ層とⅣ層の混土。
2．Ⅲ層に焼土と炭化物の混入。
3．Ⅲ層とⅣ層の混土に炭化物の混入。
4．鉄滓を混ぜる層。
5．Ⅲ層とロームの混土。
6．Ⅲ層とⅣ層とロームの混土。炭化物混入。
7．Ⅲ層とⅣ層の混土にローム塊混入。
8．Ⅲ層とⅣ層の混土に焼土少量混入。
9．ロームにⅢ層混入。
10．白色粘土。
11．Ⅲ層に炭化物混入。
12．１層にロームと炭化物混入。
13．Ⅳ層にⅢ層混入。
14．Ⅳ層にローム混入。
15．Ⅲ層に灰層混入。
16．Ⅲ層とⅣ層の混土（黒色強）。
17．Ⅶ層とⅣ層の混土。
18．ロームと石と鉄滓の混土。
19．黒褐色土と焼土と炭化物の混土。
20．黒褐色土に白色粘土と焼土と炭化物混入。
21．Ⅲ層とⅣ層とローム塊の混土に炭化物混入。
22．Ⅲ層にローム混入。
23．Ⅶ層とⅣ層の混土。

図—250　H—196・197・211・212・213・214号住居跡平・断面図

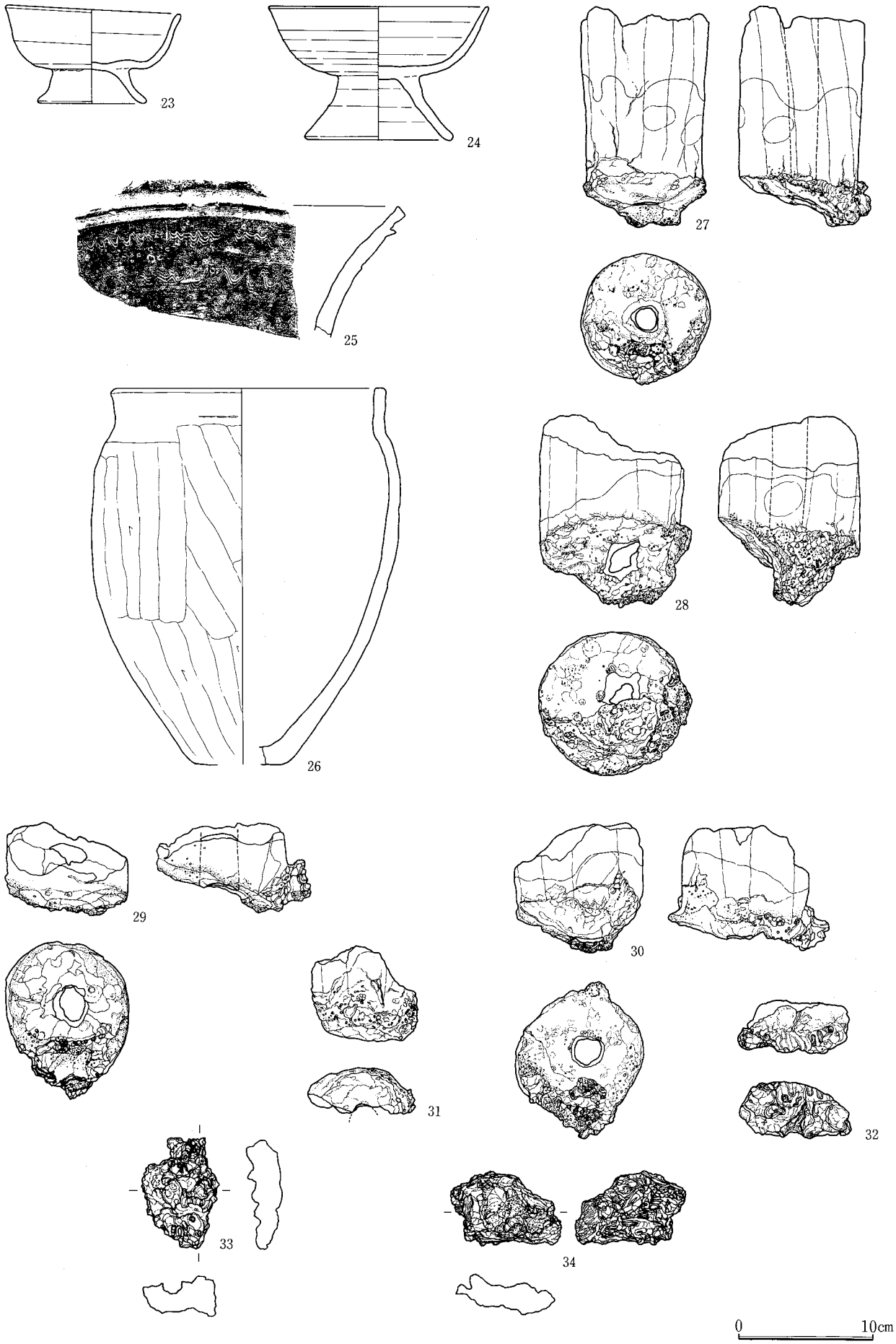
〔H212〕　**位置**　調査区北東のⅠ—212区。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、北側の隅角は直に近い。規模は東西4.66mで南北は推定5.80m、面積は推定25.59㎡。壁現高は7～26cmを測る。長軸方位はN－5°－E。　**ピット**　P_1～P_6。P_1（31×27×22cm）、P_2（32×29×—cm）、P_3（98×76×43cm）、P_4（73×51×55cm）、P_5（106×86×29cm）、P_6（45×38×8cm）$P_{1,2,6}$は壁柱穴と考えられる。　**カマド**　東壁南側。残存状況不良。石材一石がのこる。壁外掘り込み59cm。　**重複関係**　H—211と重複する。H—212が新しい。H—214と重複する。H—212が新しい。W—24と重複する。H—212が旧い。　**遺物**　坏、埦、羽釜が出土。

〔H213〕　**位置**　調査区北東のⅠ—212区に位置する。　**形状**　明確な検出がなされなかったが、南北に長い長方形と考えられる。規模は東西が3.26mで、南北が推定3.76m、面積は推定11.21㎡。壁現高は14～20cmを測る。長軸方位はN—2°—E。　**カマド**　東壁南側。石材10石がのこる。燃焼部は石組みか。全長98cmで、壁外掘り込み40cm、燃焼部長64cm、燃焼部は床面＋6cm。　**重複関係**　H—196・197・214と重複する。H—213が新しい。H—211と重複する。H—213が旧い。　**遺物**　小形坏、埦、台付埦、土製円盤、羽釜が出土。

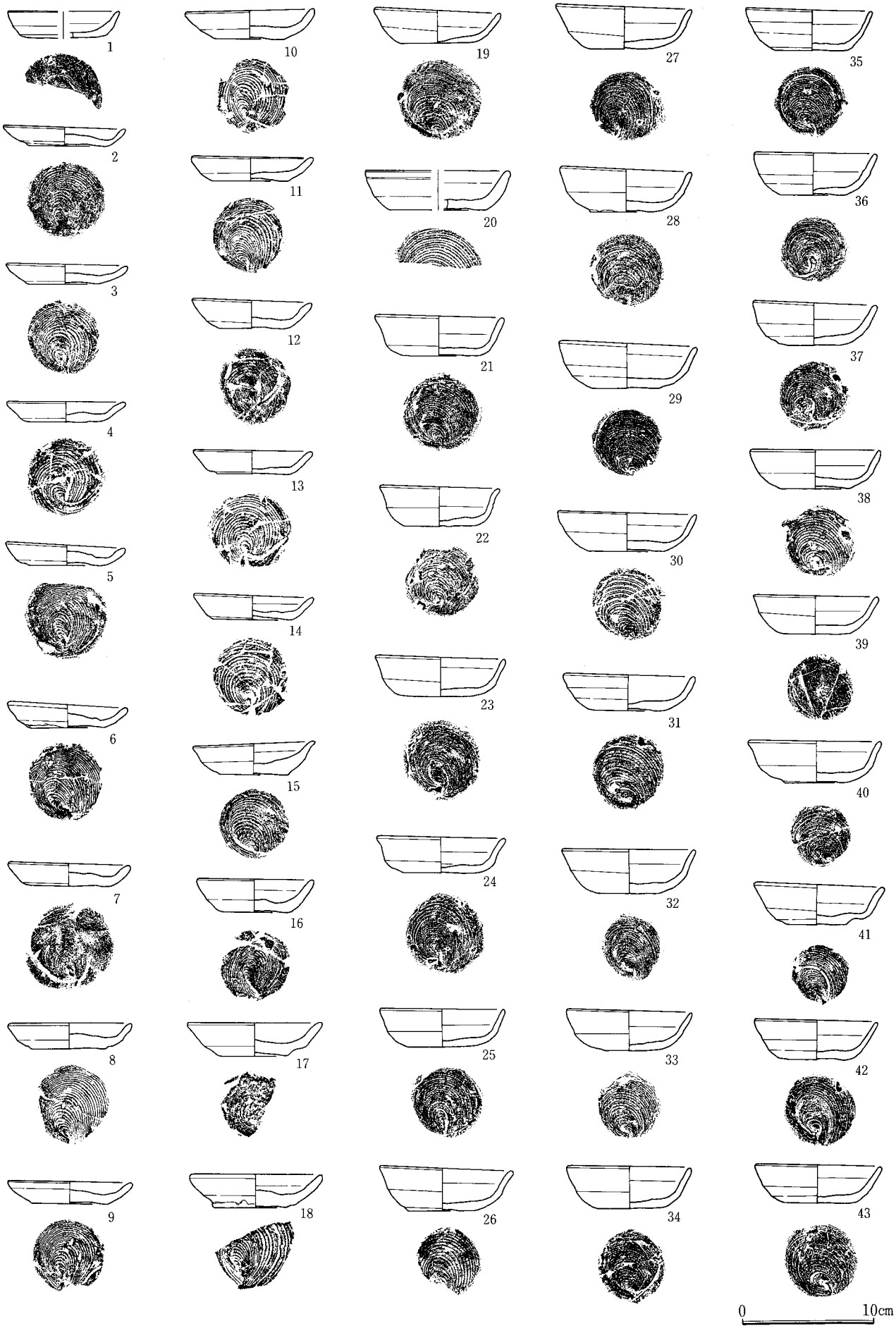
〔H214〕　**位置**　調査区北東のⅠ—212区。　**形状**　南北に長い長方形と考えられる。東、西辺は明確ではない。南・北辺は直に近い。規模は東西が推定3.40mで、南北3.80m、面積は推定13.98㎡。壁現高は14～38cmを測る。周溝は北壁下と南壁下で検出されている。巾2～10cm。長軸方位はN—0°。　**ピット**　南西隅。62×38×28cm。　**カマド**　東壁南端とみられる。石材一石がのこる。全長86cm、壁外掘り込み66cm、燃焼部分長46cm。　**重複関係**　H—211と重複する。H—214が新しい。H—212と重複する。H—212が新しい。H—213と重複する。不明。　**遺物**　坏、埦、灰釉埦が出土。



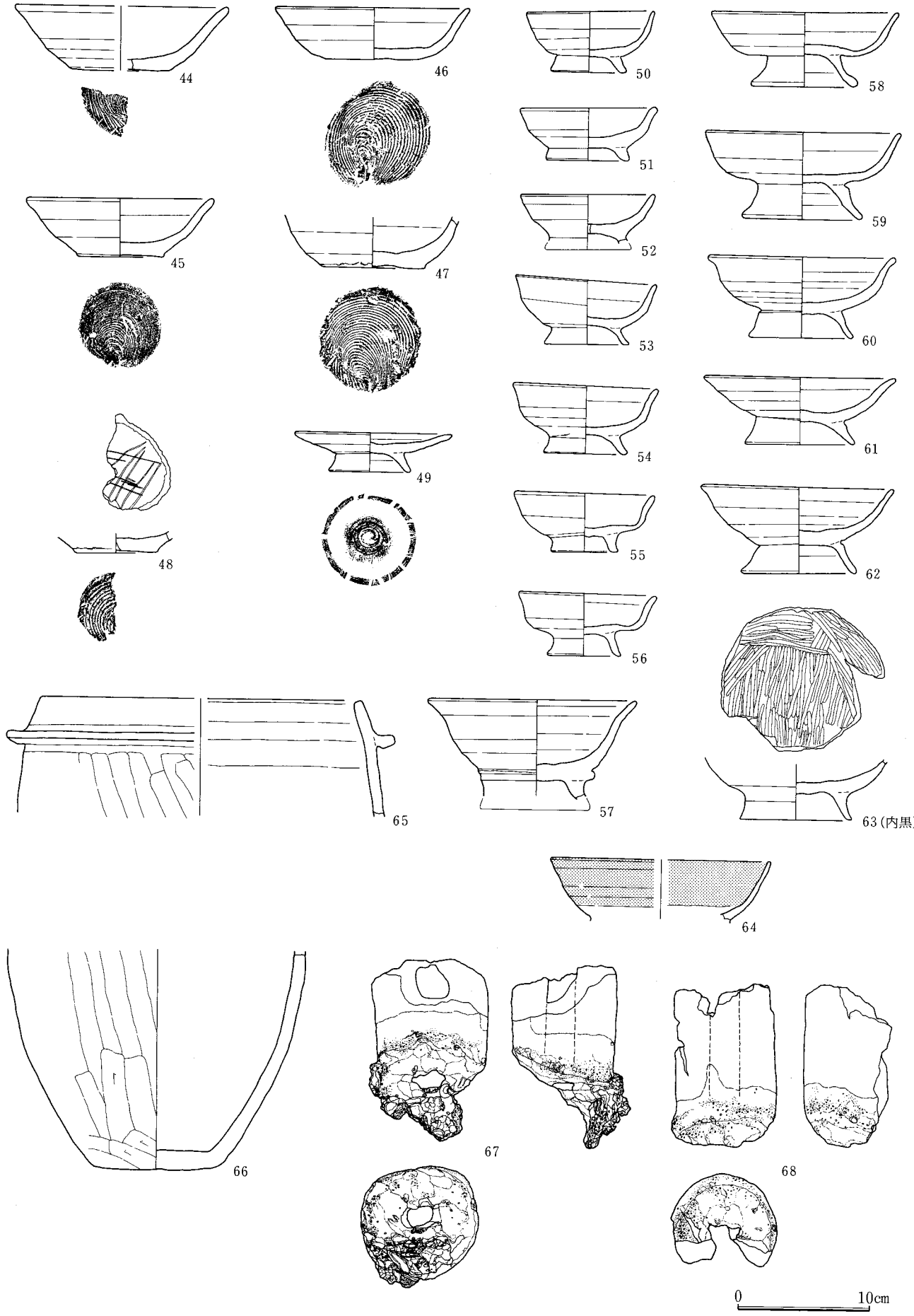
図—251　H—196号住居跡出土遺物実測図(1)



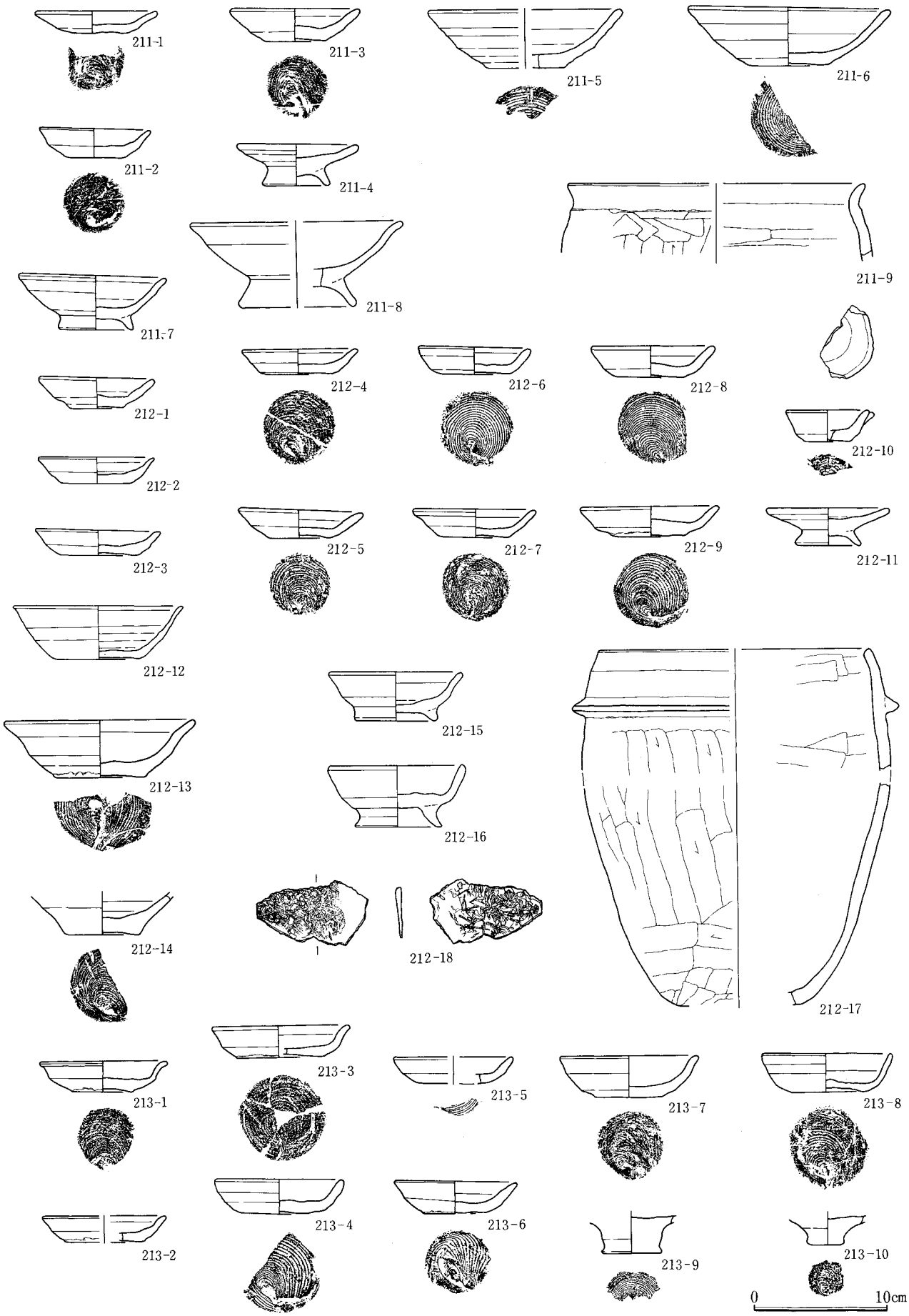
図—252　H—196号住居跡出土遺物実測図(2)



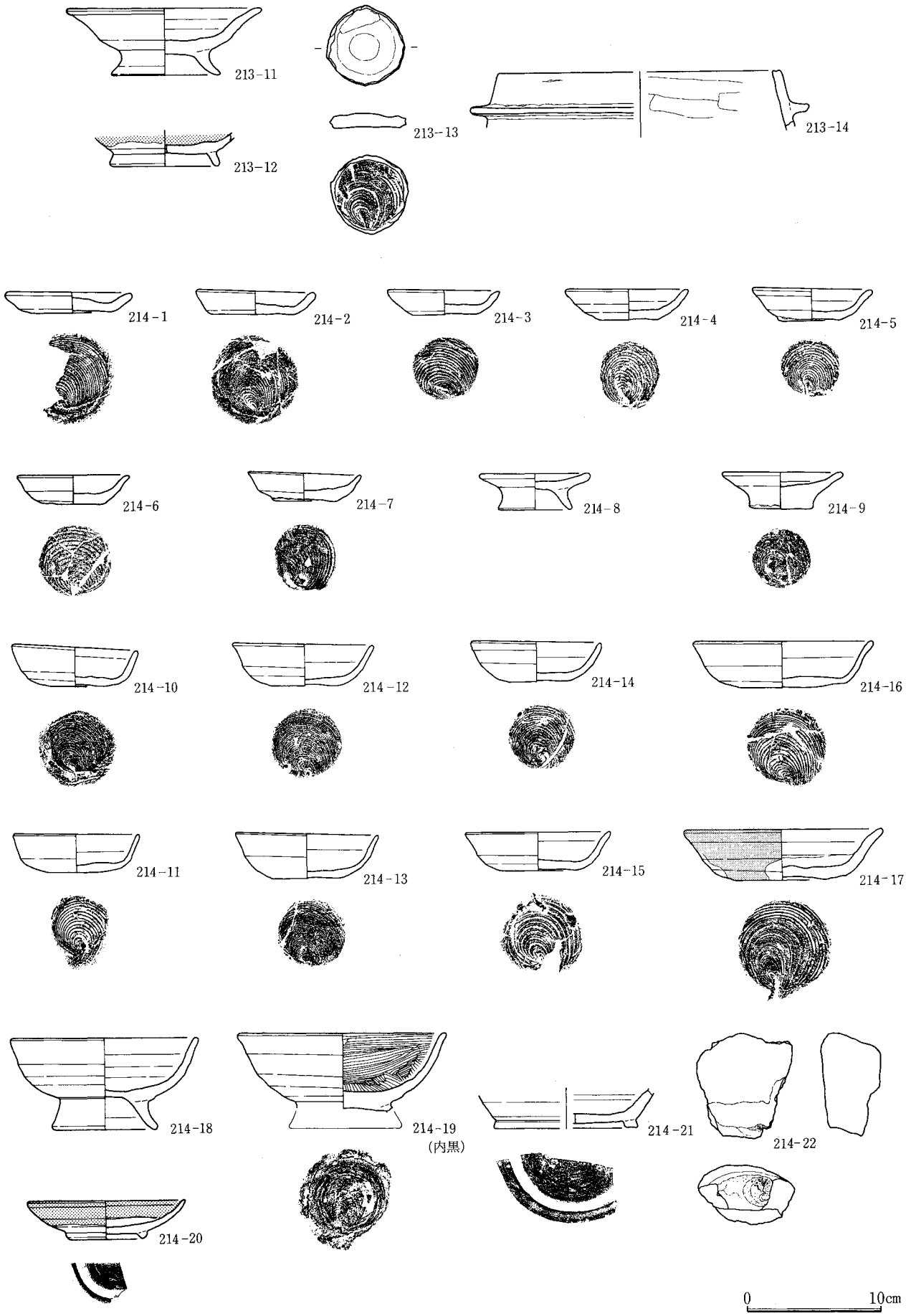
図—253　H—197号住居跡出土遺物実測図(1)



図—254　H—197号住居跡出土遺物実測図(2)



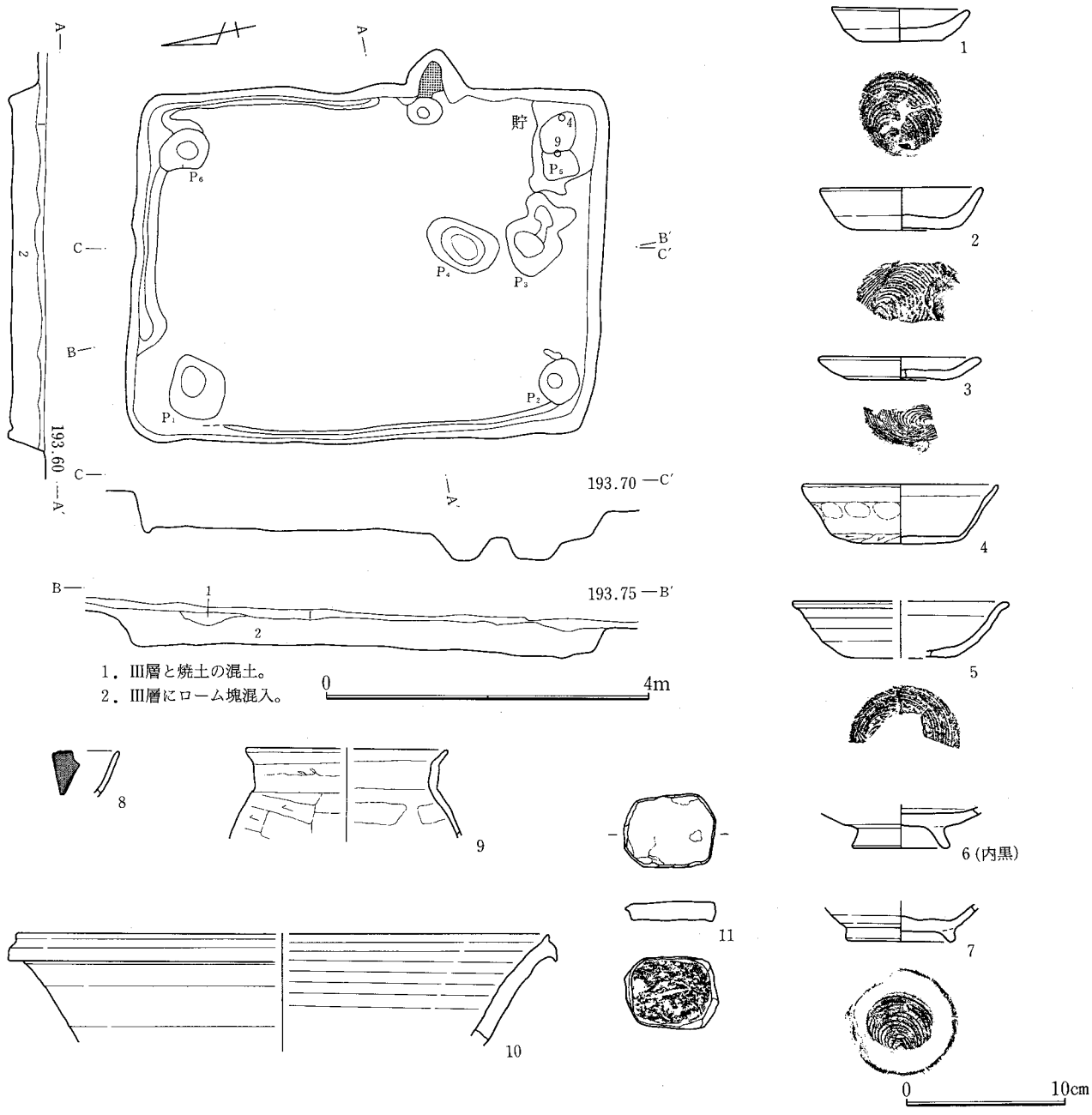
図—255　H—211・212・213(1)号住居跡出土遺物実測図



図—256　H—213(2)・214号住居跡出土遺物実測図

H198号住居跡　（図—257　表4—94　図版—83）

位置　調査区北東のI—228•229区に位置している。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、隅角は直に近い。規模は東西4.06mで、南北5.52m、面積は22.63m²。壁現高は34～41cmを測る。周溝は東壁北側と、北壁下、西壁下で検出されている。巾3～8cm。長軸方位はN—10°—W。　**ピット**　床面6ヵ所。P_1(72×67×19cm)、P_2(65×54×26cm)、P_3(98×75×36cm)、P_4(102×79×51cm)、P_5(91×58×20cm)、P_6(78×52×22cm)。$P_{1,2,6}$とP_4の西側は柱穴カ。P_3は入口関連のものと考えられる。　**カマド**　東壁。全長64cm、壁外掘り込み49cm、燃焼部分長46cm、袖部内幅30cm　**遺物**　坏、皿、埦、土製円板が出土。



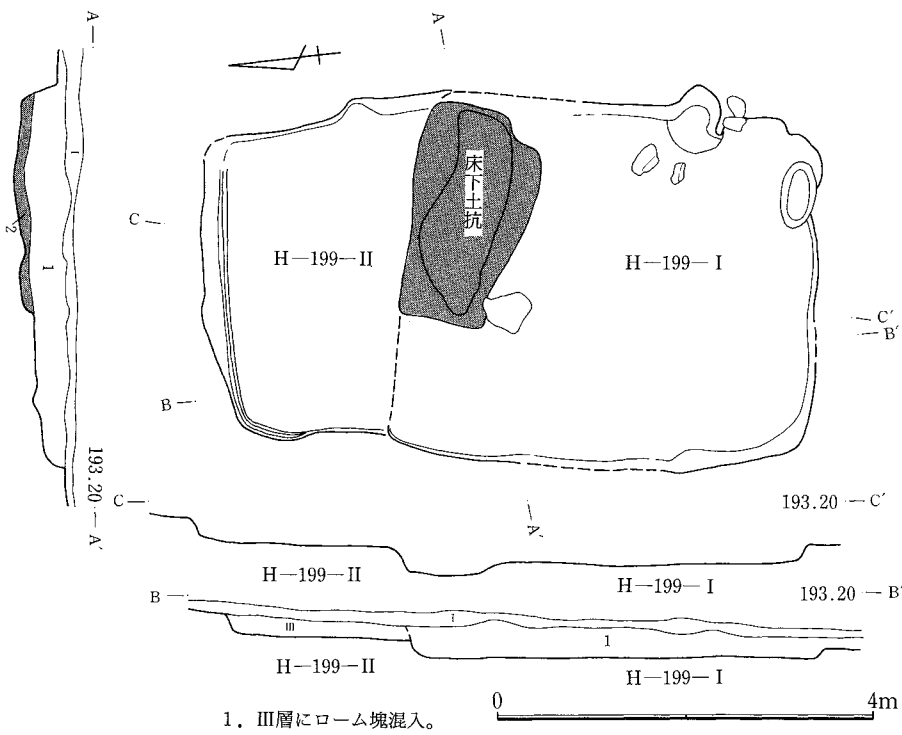
図—257　H—198号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

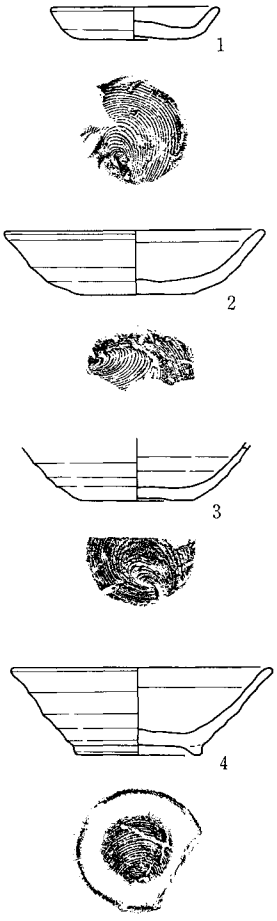
H199—I・II号住居跡　（図—258　表4—94　図版—83）

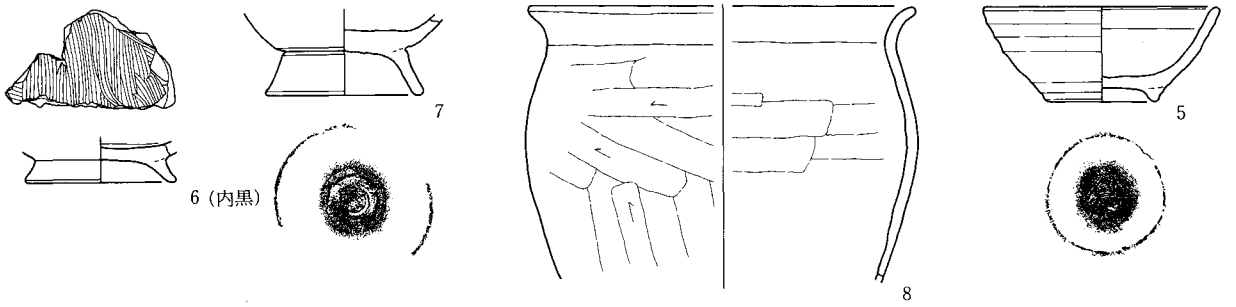
〔199—I〕　**位置**　調査区北東のI—228区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。各隅角は隅丸。規模は東西が3.64mで、南北が推定4.30m、面積は推定14.91m²。壁現高は15～26cmを測る。長軸方位はN—8°—W。貼床。床下土坑の上に貼り床がある。ロームブロックにⅢ層とⅣ層が少しまじった土層。規模は240×120cm。厚さ13cm。床下土坑。北側。240×120×55cm。　**カマド**　東壁南側。石材4石がのこる。全長70cm、壁外掘り込み27cm。

燃焼部長48cm。袖部内幅44cm。　**貯蔵穴**　床面南東隅、長円形。72×38×47cm。　**重複関係**　H—199—IIと重複する。H—199—Iが新しい。　**遺物**　坏、皿、埦、甕が出土。

〔199—II〕　**位置**　I—228区。　**形状**　H199—I号との重複により南半は失なわれている。H199—I号とは床面のレベル差がある。北辺はやや外にはらみ、北側隅角は直に近い。規模は東西3.22mで、南北はは現状で2.10m。面積は現状で6.16㎡。壁現高は19cmを測る。周溝は北壁下に検出されている。巾6～8cm。長軸方位はN—88°—E。　**カマド**　不明。削平されたものか。　**重複関係**　H—199—Iと重複する。H—199—IIが旧い。



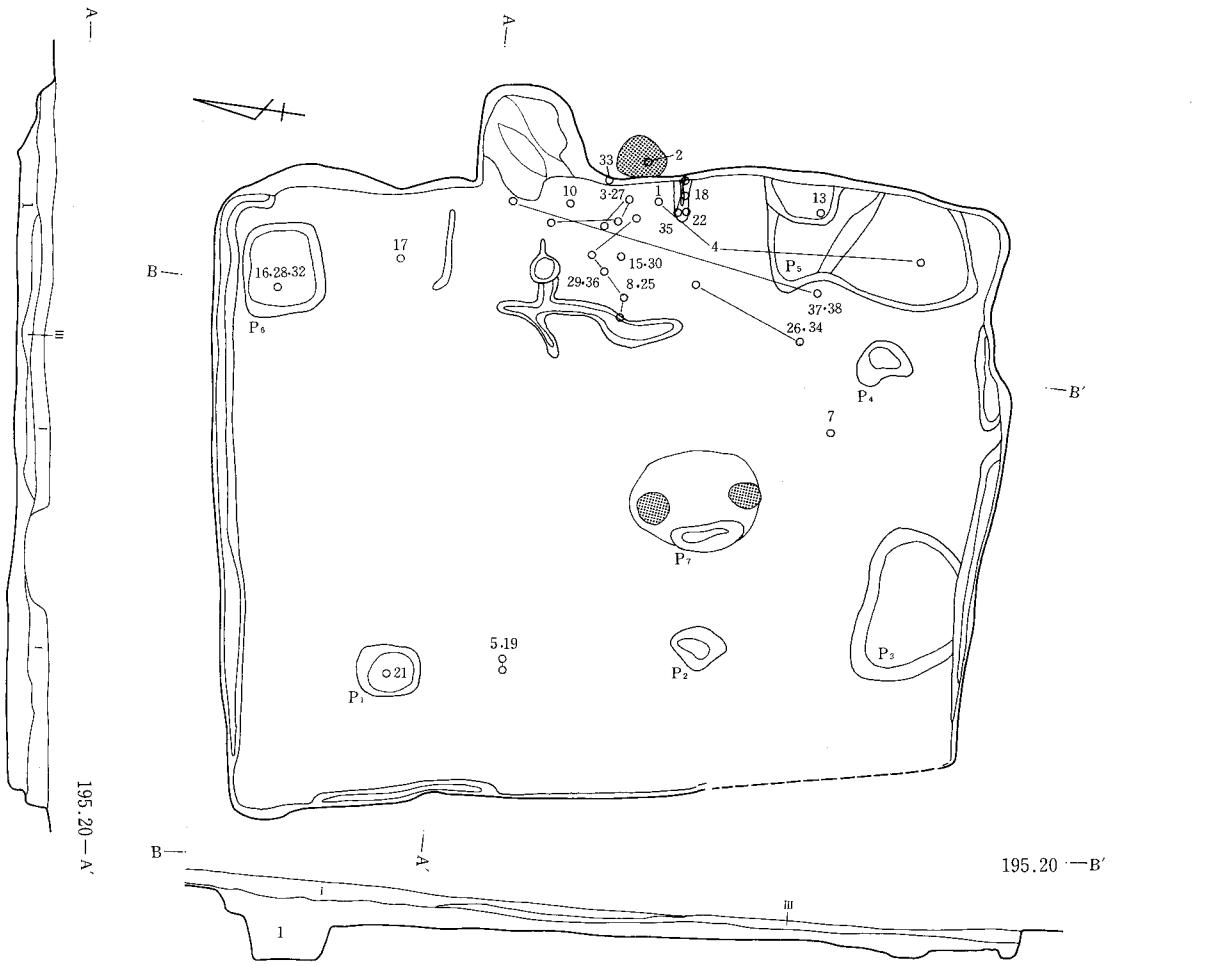




図—258　H—199 I・II号住居跡平・断面図、出土遺物実測図　0　10cm

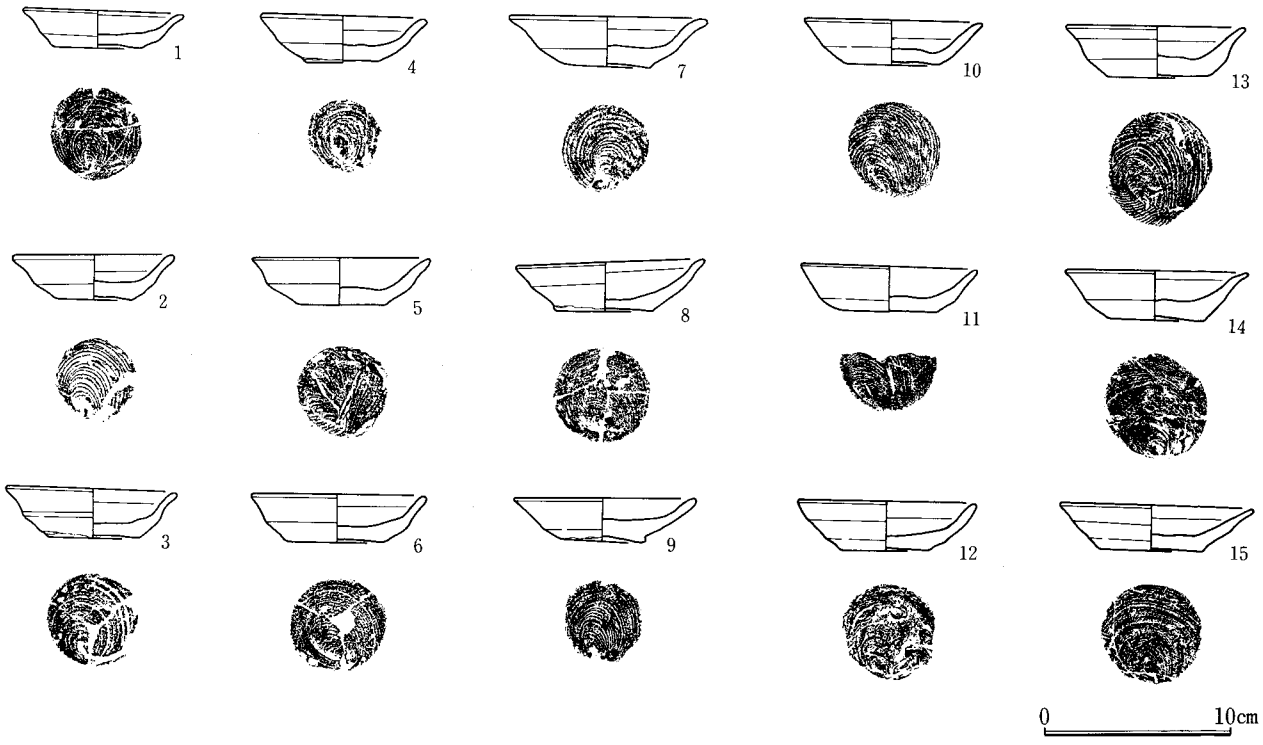
H200号住居跡　（図—259・260　表4—95　図版—5・84）

位置　I—211・212・229・230区。　**形状**　南北に長い長方形。北辺、西辺は直に近いが、西辺、南辺はやや外にはらむ。北側の隅角は直に近い。規模は東西6.38mで、南北8.92m、面積は51.36㎡。壁現高は20～27cmを測る。周溝は北・西・南壁下で検出されている。巾2～16cm。長軸方位はN—6°—E。　**ピット**　P_1～P_7。P_1(68×57×23cm)、P_2(62×46×36cm)、P_3 (166×104×8cm)、P_4 (54×46×19cm)、P_5 (212×118×7cm)、P_6 (98×86×55cm)、P_7 (79×27×10cm)。$P_{1,2,4}$は柱穴か。　**カマド**　東壁中央。全長133cmで、壁外掘り込み106cm。カマド前面は遺物も多く、また筋状の溝ものこる。焼土域が3ヵ所認められる。カマド南側(55×43cm)、中央部北(33×33cm)、中央部南(32×30cm)。　**遺物**　坏、埦、台付埦、灰釉埦、鉄滓が出土。



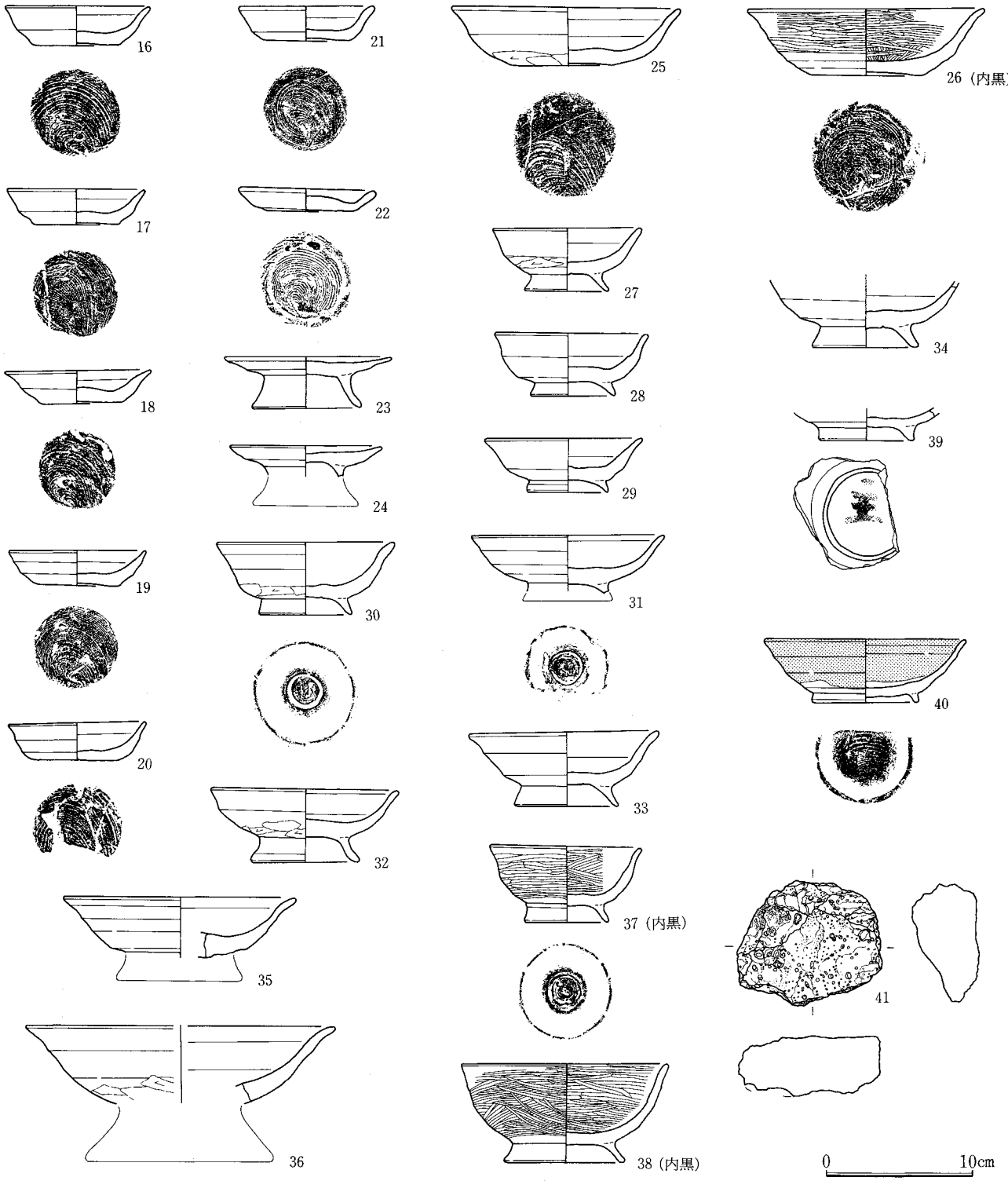
1．Ⅲ層とⅣ層とⅤ層の混土。

0 4m



0 10cm

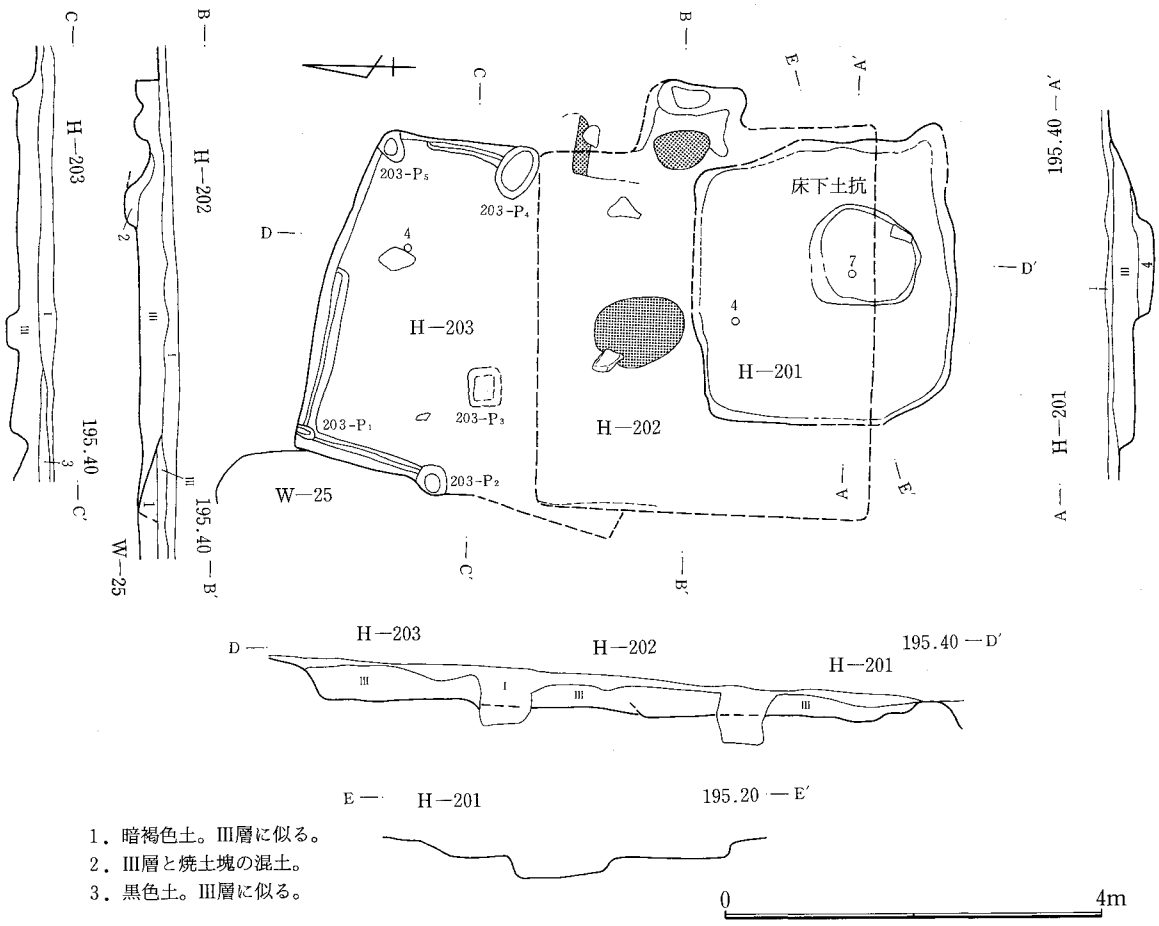
図—259　H—200号住居跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—260　H—200号住居跡出土遺物実測図(2)

H201・202・203号住居跡　（図—261、262　表4—97　図版—84）

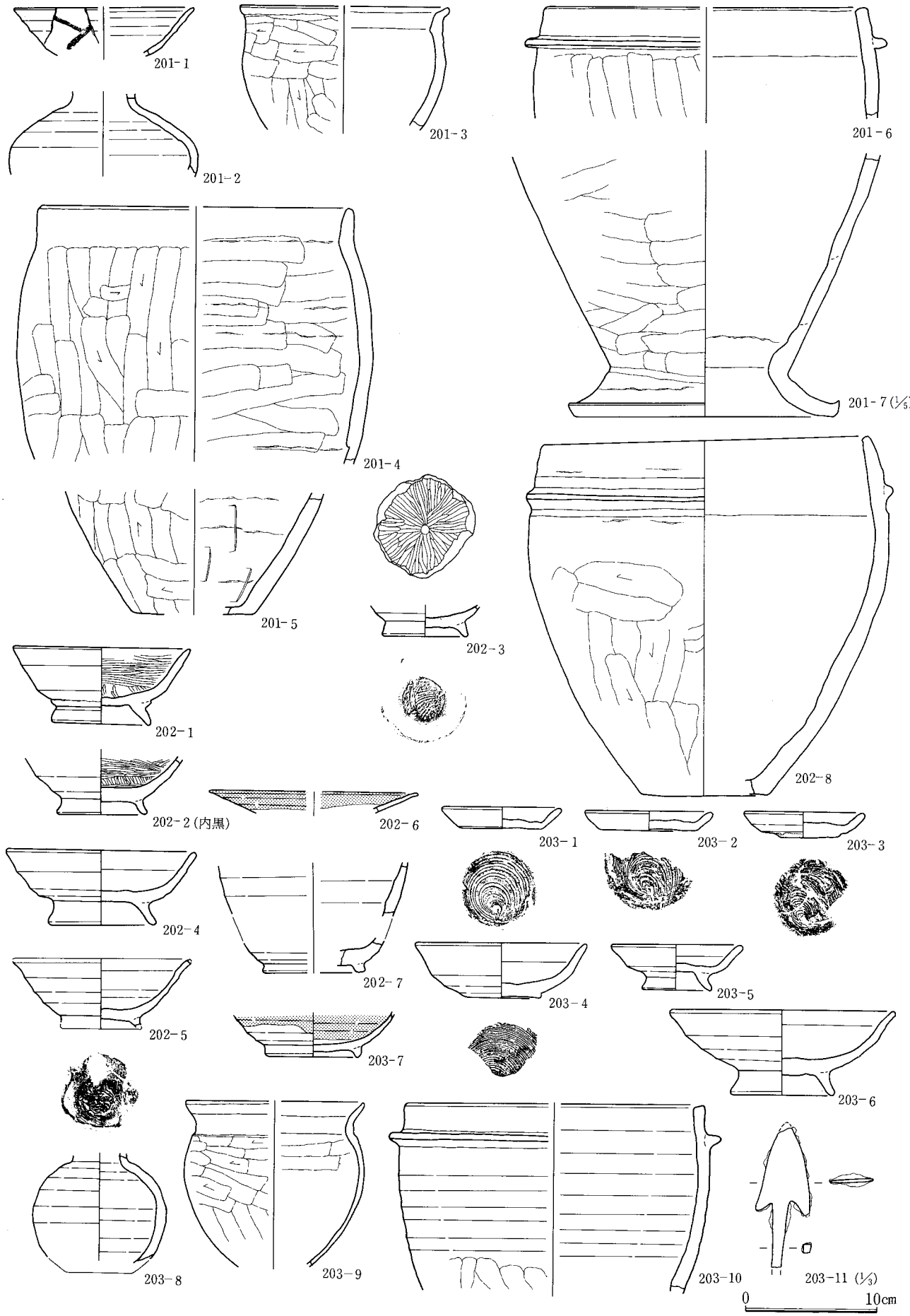
〔H201〕　**位置**　調査区北東のI—229・230区に位置する。　**形状**　東西がやや長いが方形。南・東辺はややはらむ。南側の隅角はやや隅丸になる。規模は東西2.82mで、南北が2.46m、面積は6.77m²。壁現高は19～24cmを測る。長軸方位はN—95°—E。　**ピット**　床下土坑がのこる。122×110×15cm。　**カマド**　東壁南側。石材がのこる。上部は削平をうけたとみられる。残存不良。現長33cm。　**重複関係**　H—202と重複する。H—201が新しい。　**遺物**　埦、壺、甕、羽釜が出土。



図—261　H—201・202・203号住居跡平・断面図

〔H202〕 **位置**　Ⅰ—229・230区。　**形状**　重複及び耕作の削平により不明の点がある。形状は方形とみられるが不明。規模は想定で東西3.90m、南北3.60m。　**カマド**　東壁中央。石材一石がのこる。現全長90cm、壁外掘り込み60cm、燃焼部分長40cm、袖部内幅80cm。また、床面中央に焼土域がみられる。97×70cm。　**重複関係**　H—203と重複する。H—202が新しい。H—201と重複する。H—201が新しい。　**遺物**　埦、灰釉埦、皿が出土。

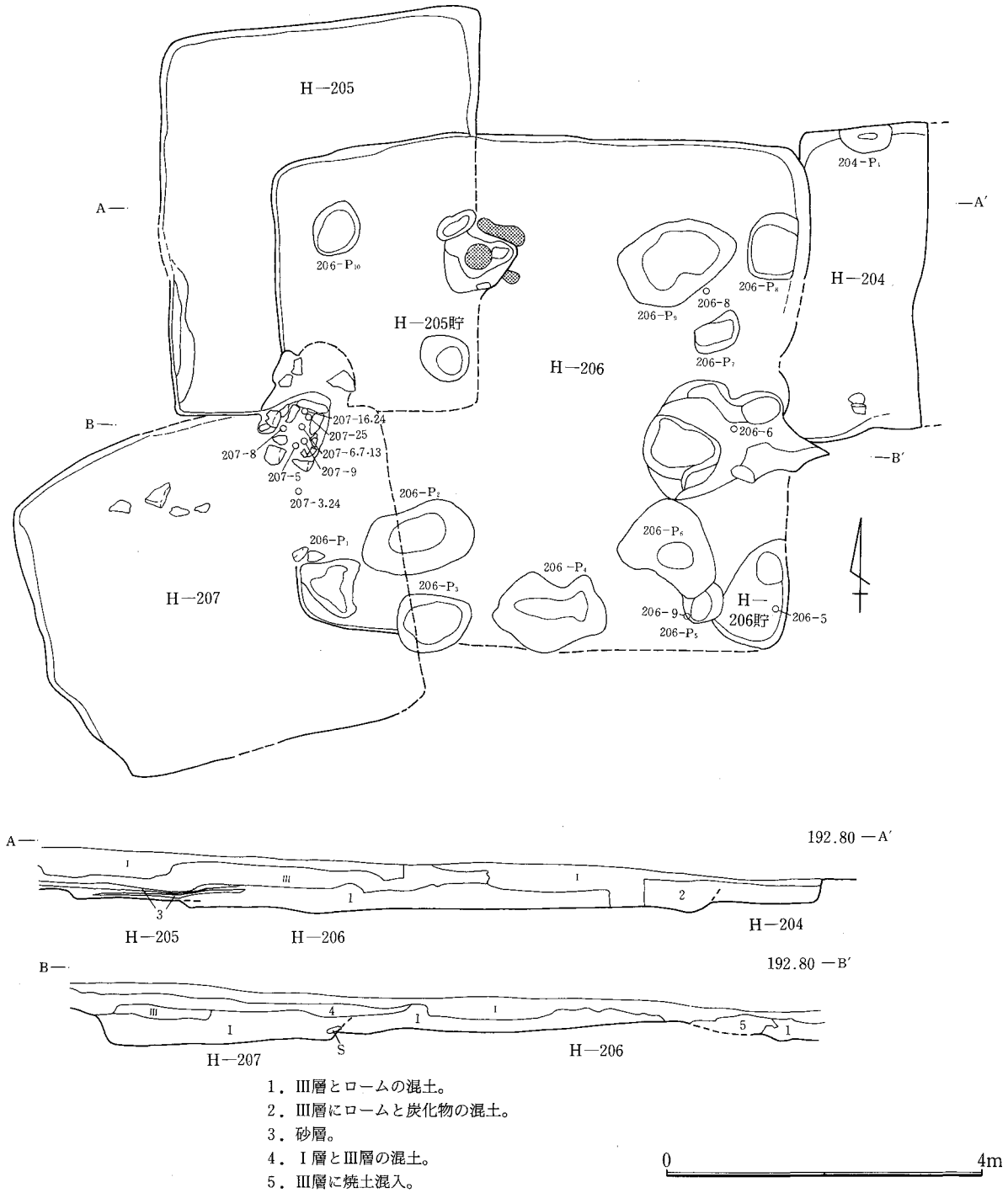
〔H203〕 **位置**　Ⅰ—229・230区。　**形状**　北側半分のみの検出である。方形とみられる。残存辺はほぼ直で、北側の隅角は直に近い。規模は東西3.40m、南北推定3.40m、面積は推定7.56m²。壁現高は20～41cm。周溝は東壁下、北壁西半下、西壁下で検出されている。巾2～4cm。長軸方位はN—80°—E。　**ピット**　P_1～P_5。P_1(18×11×22cm)、P_2(32×30×20cm)、P_3(現41×12×16cm)、P_4(66×41×60cm)、P_5(31×22×35cm)。$P_{1,2,5}$は壁柱穴とみられる。　**カマド**　東壁中央。削平され、焼土域(63×16cm)のみのこる。石材一石のこる。　**重複関係**　H—202と重複する。H—202が新しい。W—25と重複する。H—203が新しい。近くにP41がある。　**遺物**　皿、埦、台付埦、羽釜、鏃が出土。



図—262　H—201・202・203号住居跡出土遺物実測図

H204・205・206・207号住居跡　（図—263・264・265　表4—98　図版—5）

〔H204〕 **位置**　不明　**形状**　部分検出。西半のみ調査。方形カ。規模は東西が現状で1.48m、南北が3.78m、面積は現状で5.69㎡。壁現高は28cmを測る。 **カマド**　不明。 **重複関係**　H—206と重複する。H—206が新しい。 **遺物**　坏、埦、鉄滓が出土。

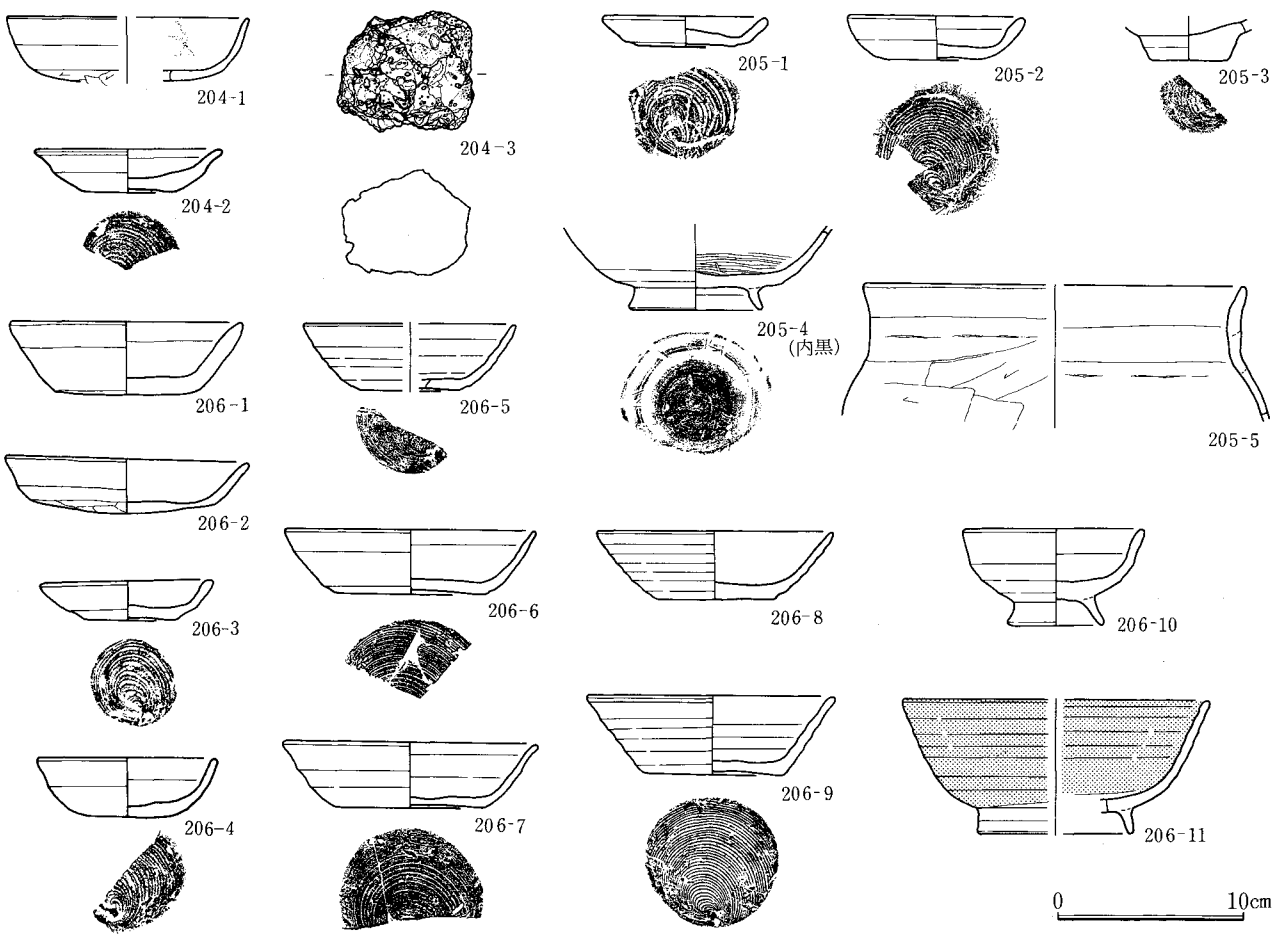


図—263　H—204・205・206・207号住居跡平・断面図

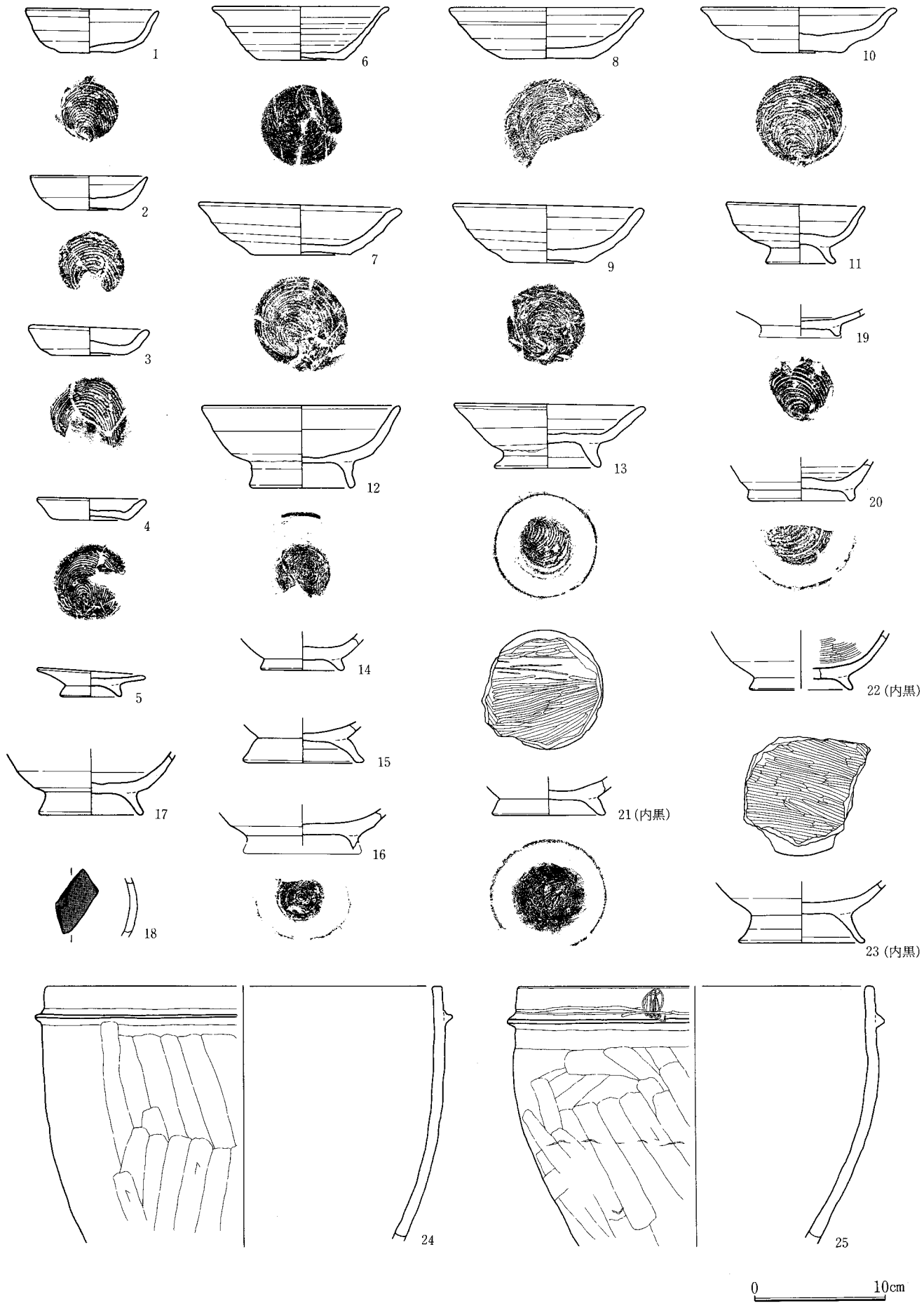
〔H205〕 **位置** 不明 **形状** 南北に長い長方形。各辺は直に近く、隅角も直に近い。規模は東西が3.78mで、南北が4.74m、面積は18.43m²。壁現高は9cmを測る。周溝は西壁南側で検出される。巾4～7cm。長軸方位はN－2°－E。 **床面** H－206との重複部に「河床面」と記載の固い砂層が2層にわたってみられる。レベルからみると住居埋転時のものか。 **カマド** 東壁中央部。石材5石がのこる。現長109cm。壁外掘り込み53cm、燃焼部分長32cm。燃焼部は床面－2cm。 **貯蔵穴** 南東隅。円形。71×66×45cm。 **重複関係** H－206と重複する。H－205が新しい。H－207と重複する。H－207が新しい。 **遺物** 皿、坏、埦、甕が出土。

〔H206〕 **位置** 不明 **形状** 方形。北辺はやや外にはらむ。隅角はやや直に近い。規模は東西6.14mで南北6.26m、面積は38.00m²。壁現高は9～13cmを測る。長軸方位はN－88°－E。 **ピット** 床面10ヵ所。P_1（72×66×69cm）、P_2（144×90×69cm）、P_3（92×76×68cm）、P_4（136×83×60cm）、P_5（52×35×69cm）、P_6（133×90×74cm）、P_7（68×38×24cm）、P_8（83×60×50cm）、P_9（143×100×63cm）、P_{10}（75×61×30cm）。$P_{2,6,9}$は主柱穴か。$P_{1,5,7,10}$は控柱とみられる。P_4は入口関連のものか。 **カマド** 東壁中央南。石材一石がのこる。全長330cm、壁外掘り込み97cm、燃焼部分長52cm、袖部内幅46cm。 **貯蔵穴** 南東隅。長円形。138×77×50cm。 **重複関係** H－204と重複する。H－206が新しい。H－205と重複する。H－205が新しい。H－207と重複する。H－207が新しい。 **遺物** 坏、埦、灰釉埦が出土。

〔H207〕 **位置** 不明 **形状** 方形。北、西辺はややはらむ。規模は東西が想定4.60m、南北が4.16m、面積は17.69m²。壁高は10～38cmを測る。長軸方位はN－112°－E。 **カマド** 北壁東側。壁線に対してややななめに築られている。石材18石がのこる。石組み。全長は想定170cm、壁外掘り込み想定80cm、燃焼部分長74cm、袖部内幅60cm。 **重複関係** H－206と重複する。H－207が新しい。H－205と重複する。H－207が新しい。 **遺物** 坏、埦、台付埦、羽釜が出土。



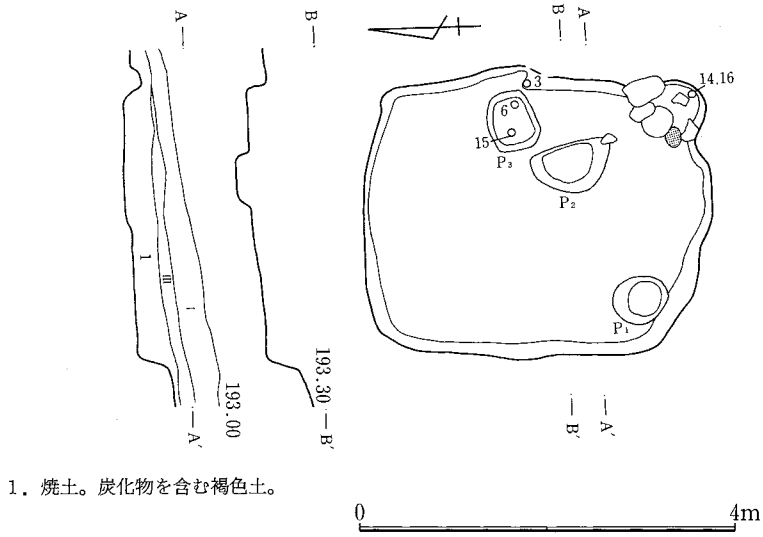
図－264 H－204・205・206号住居跡出土遺物実測図



図—265　H—207号住居跡出土遺物実測図

H208号住居跡　（図—266・267　表4—100　図版—5・85）

位置　調査区北東のI—228区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ、隅角は丸に近い。規模は東西2.72mで、南北は3.60m、面積は8.63㎡。壁現高は24～36cmを測る。長軸方位はN—2°—W。　**ピット**　P_1～P_3。P_1（58×52×39cm）、P_2（81×60×18cm）、P_3（64×51×15cm）。　**カマド**　東壁南端。石材五石がのこる。全長74cm、壁外掘り込み36cm、燃焼部分長36cm、袖部内幅22cm。燃焼部は床面—7cm。　**遺物**　皿、坏、小型坏、甕が出土。

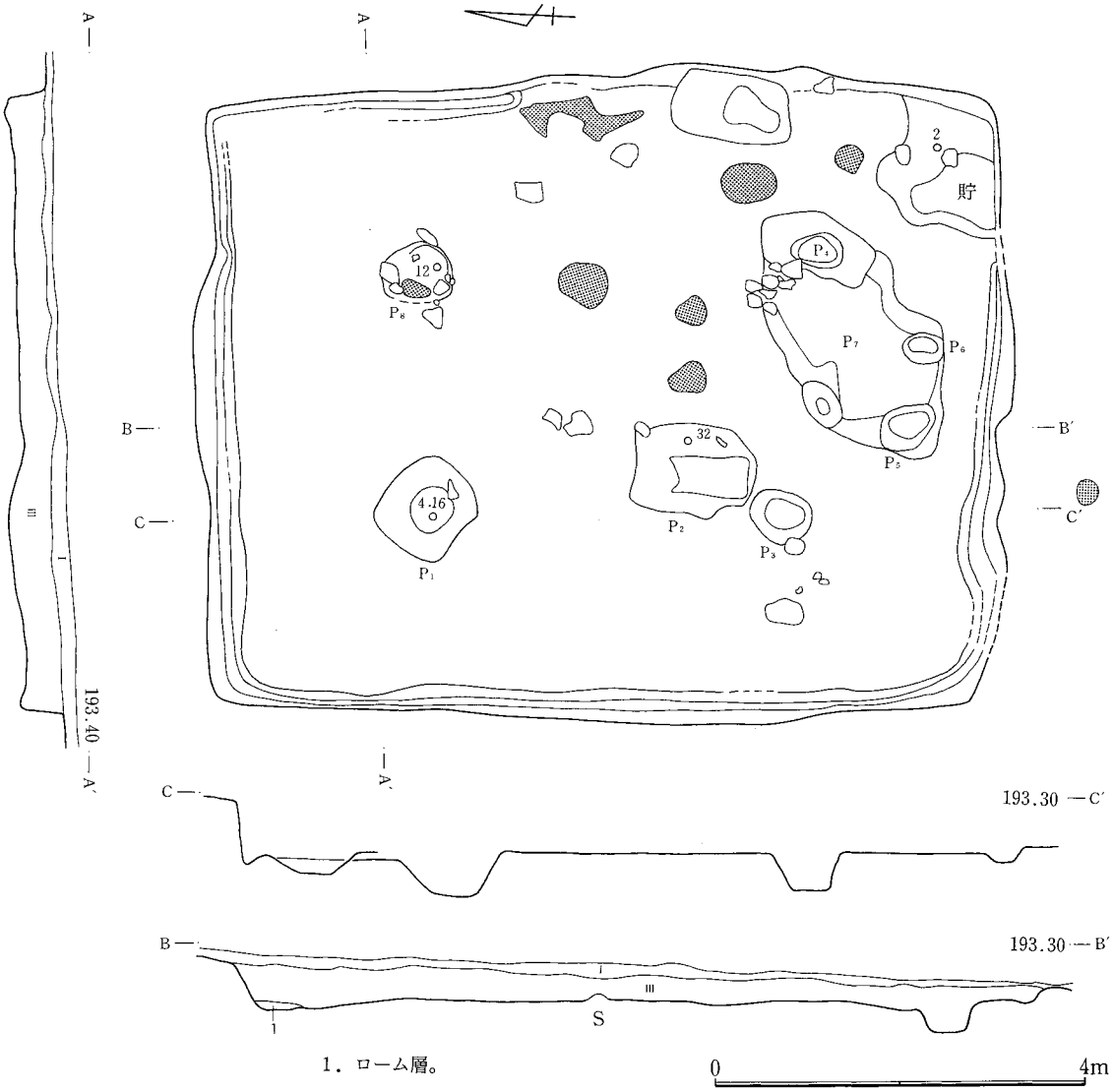


図—266　H—208号住居跡平・断面図

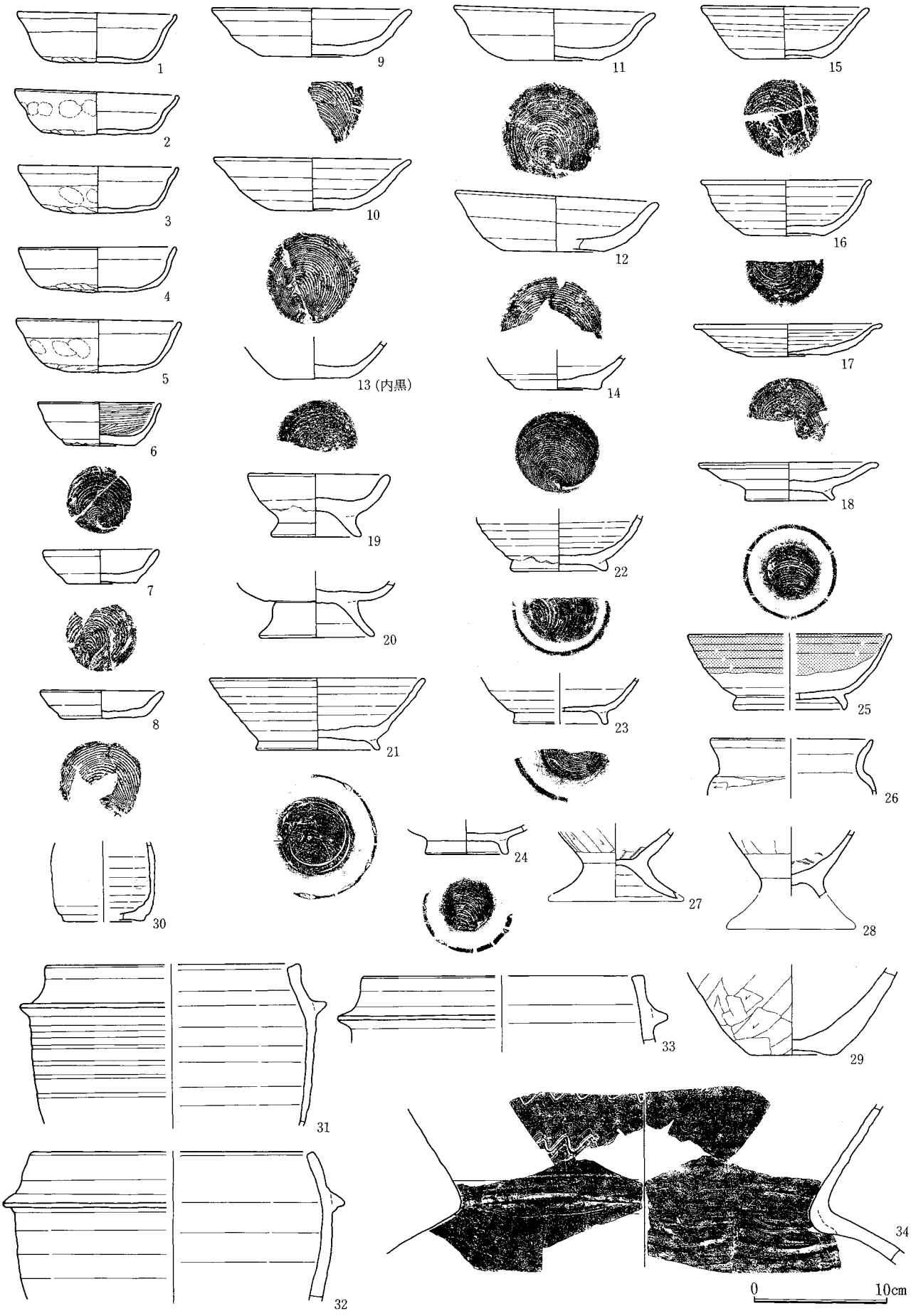
図—267　H—208号住居跡出土遺物実測図

H210号住居跡　（図—268・269　表4—101　図版—5）

位置　調査区北東のⅠ—216区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、各隅角も直に近い。規模は東西6.34mで、南北8.04m、面積は54.45㎡。壁現高は17～50cmを測る。周溝はカマドの南を除き全周する。巾4～12cm。長軸方位はN—1°—E。　**ピット**　P_1～P_8。P_1(104×94×39cm)、P_2(127×103×16cm)、P_3(70×57×31cm)、P_4(55×38×67cm)、P_5(50×46×30cm)、P_6(44×32×35cm)、P_7(314×161×26cm)、P_8(66×41×—cm)。$P_{1,3,4,8}$は柱穴カ。$P_{5,6}$は入口関連のものか。　**カマド**　焼土域が東壁中央部にある。130×40cm。石材3石のこる。他に焼土域が4ヵ所にみられる。　**貯蔵穴**　南東隅。172×151×—cm。　**遺物**　坏、埦、台付埦、灰釉埦、羽釜が出土。



図—268　H—210号住居跡平・断面図

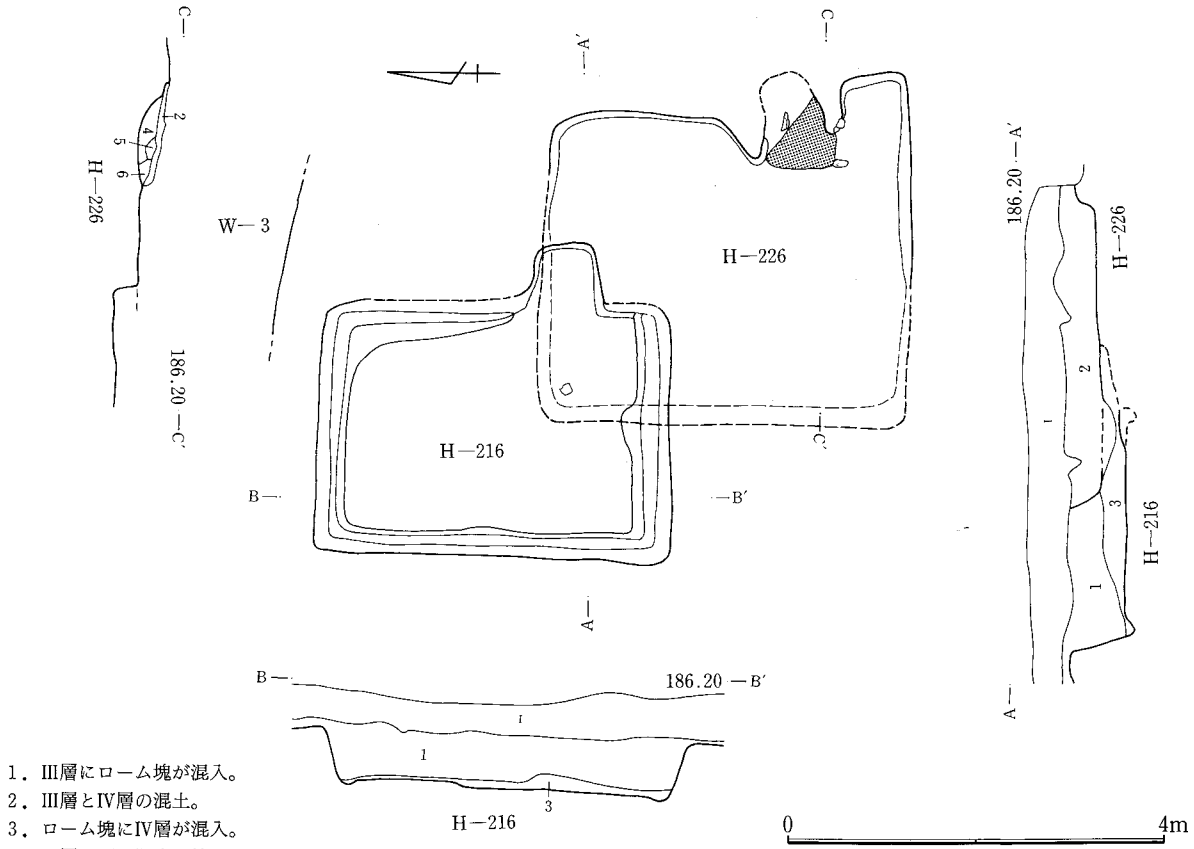


図—269　H—210号住居跡出土遺物実測図

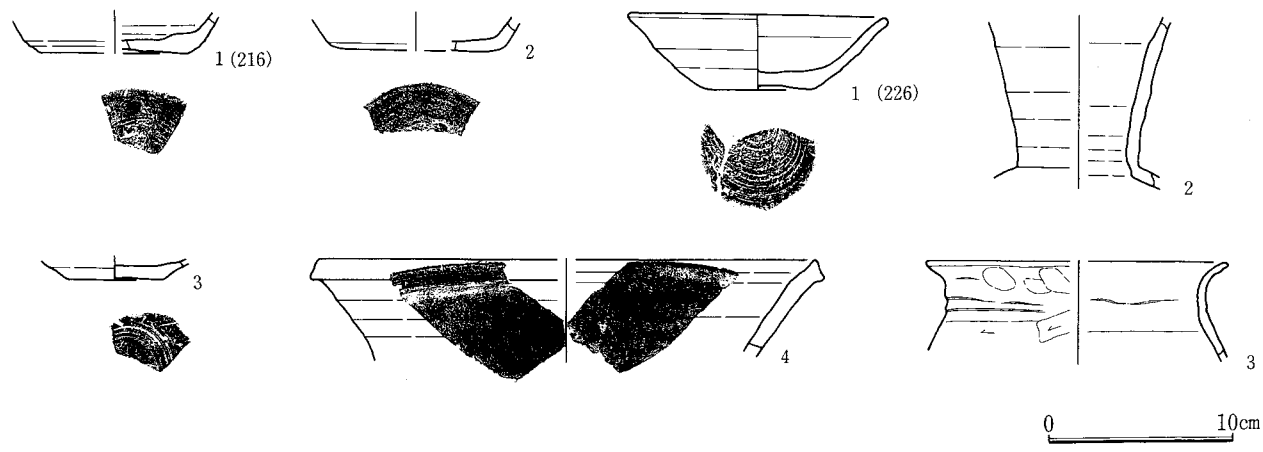
H216・226号住居跡　（図—270　表4—102　図版—85・90）

〔H216〕　**位置**　調査区中央部西のII—22・40区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直で、各隅角も直に近い。規模は東西2.04mで、南北3.04m、面積は8.80m²。壁現高は25～58cmを測る。周溝は全周する。巾6～14cm、深さ5cm。長軸方位はN—1°—E。　**カマド**　東壁南側。掘り形のみ残存。全長65cm、壁外掘り込み65cm。袖部内幅76cm。　**重複関係**　H—226と重複する。H—216が新しい。W—3が北を走る。　**遺物**　坏、甕が出土。

〔H226〕　**位置**　II—22・40区。　**形状**　長方形。形状はあまり明確ではない。規模は東西2.98m、南北3.74m、面積は11.28m²。壁現高は20～36cmを測る。長軸方位はN—0°。　**カマド**　東壁に焼土域（86×58cm）がのこる。上部は削平されたものか。石材2石がのこる。　**重複関係**　H—216と重複する。H—226が新しい。　**遺物**　坏、長頸壺、甕が出土。



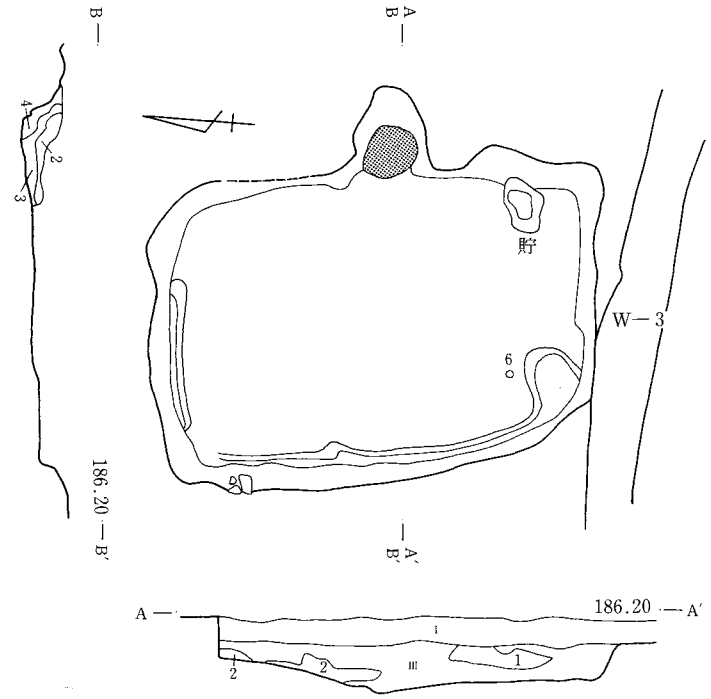
1．III層にローム塊が混入。
2．III層とIV層の混土。
3．ローム塊にIV層が混入。
4．IV層と灰の混土。焼けている。
5．IV層。焼けている。
6．III層とIV層の混土。焼けている。



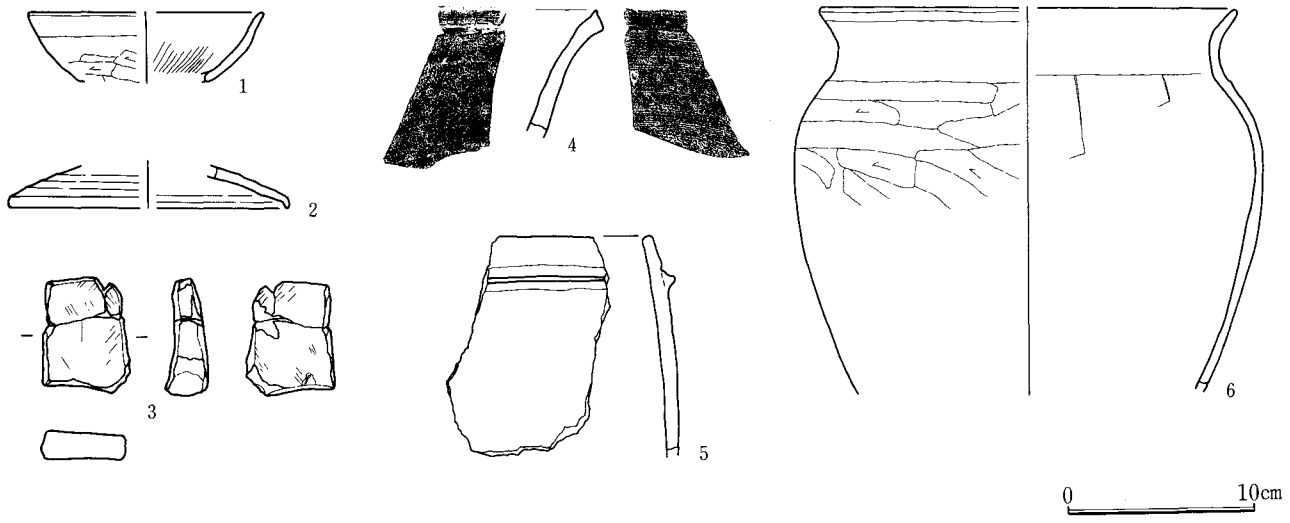
図—270　H—216・226号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H217号住居跡　(図—271　表4—103　図版—86)

位置　不明　**形状**　南北に長い長方形。各辺は外にはらみ、各隅角は隅丸。規模は東西2.84mで南北4.22m、面積は12.18m²。壁現高は34～40cmを測る。周溝は西壁下と北壁下で検出される。巾4～12cm。長軸方位はN—10°—E。　**カマド**　東壁中央。石材がのこる。全長101cm、壁外掘り込み91cm、燃焼部長57cm、袖部内幅53cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長円形。56×39×48cm。　**重複関係**　W—3と重複する。H—217が旧い。　**遺物**　坏、蓋、砥石、羽釜が出土。



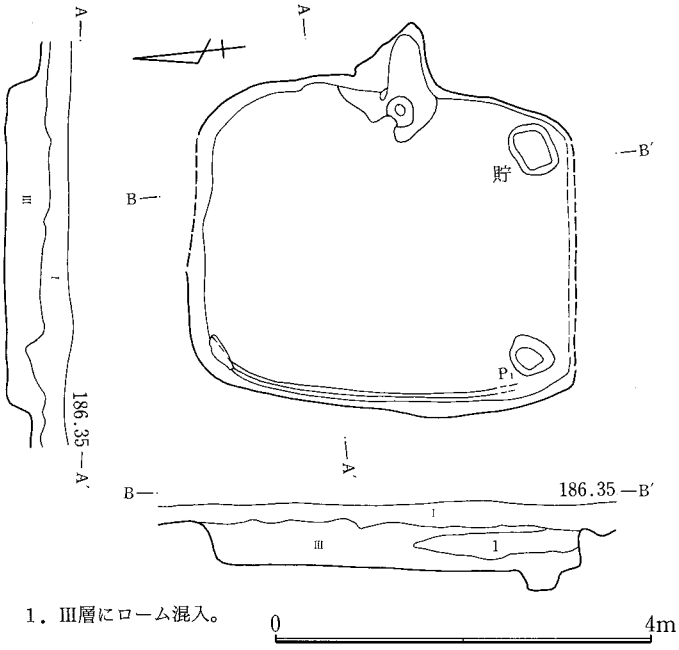
1．III層とロームの混土。
2．IV層とIII層の混土。焼土混入。
3．IV層に焼土混入。
4．灰層。

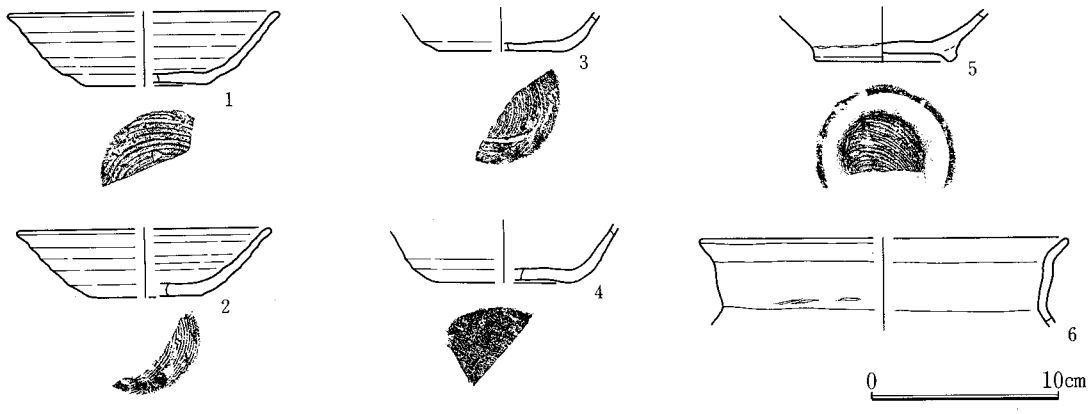


図—271　H—217号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H218号住居跡　(図—272　表4—103　図版—86)

位置　調査区中央部西側のII—22・40区。　**形状**　長方形。各辺はやや外にはらみ、各隅角は隅丸。規模は東西3.20mで、南北は想定3.88m、面積は11.97㎡。壁現高は、南壁を除き43～48cmを測る。周溝は西壁下で確認された。巾2～4cm。長軸方位はN—9°—W。　**ピット**　南西隅。47×42×18cm。　**カマド**　東壁中央。全長129cm、壁外掘り込み70cm。　**貯蔵穴**　南東隅。長方形。56×43×26cm。　**遺物**　埦、甕が出土。





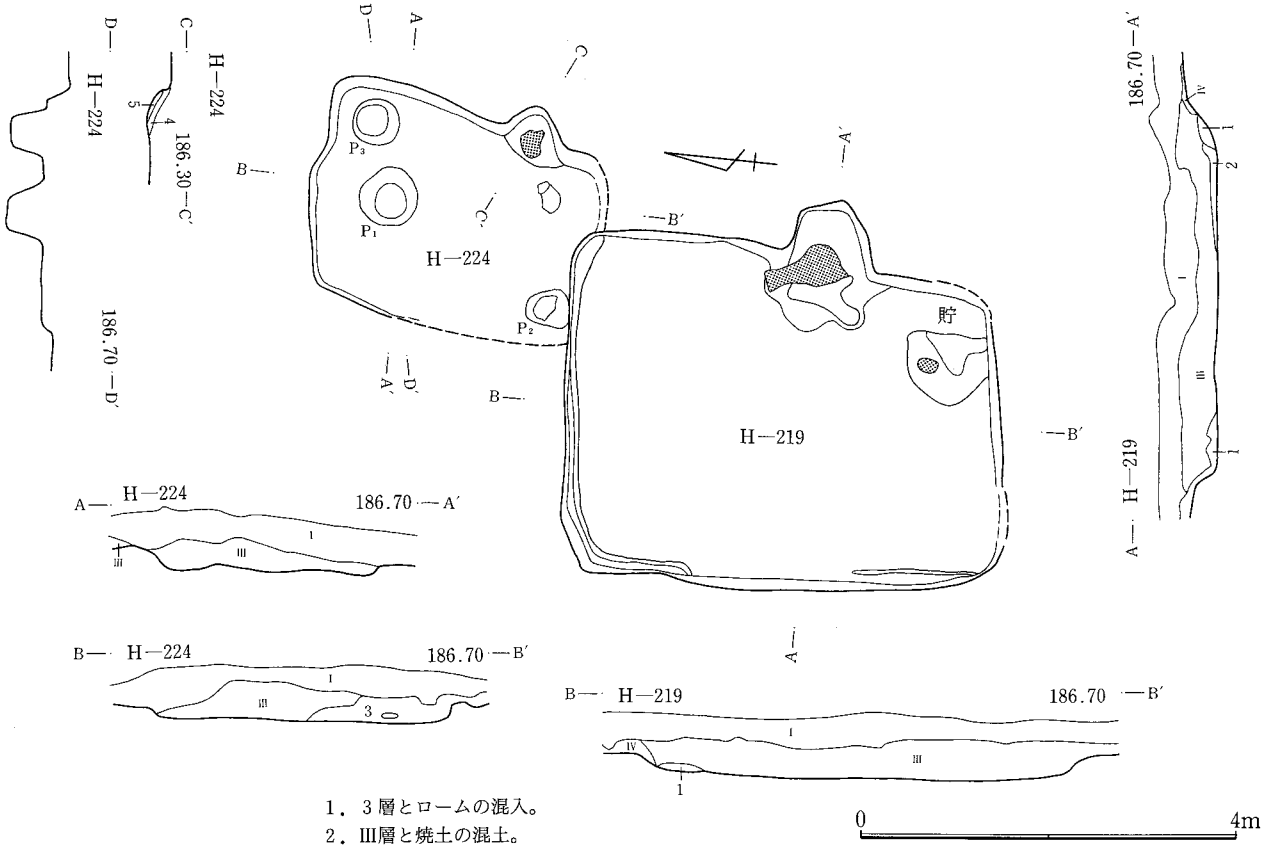
図—272　H—218号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

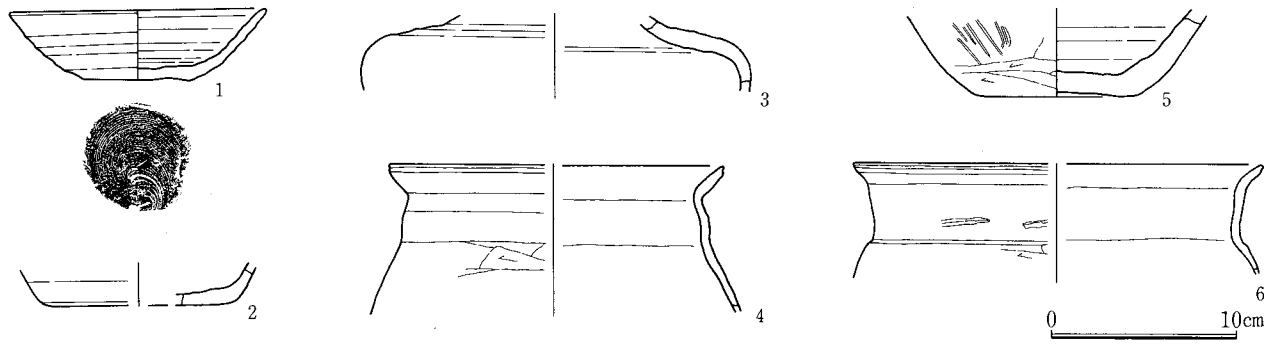
H219・224号住居跡　(図—273・274　表4—103　図版—6・87)

〔H219〕　**位置**　調査区中央部西側のII—22・23区。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、隅角はやや隅丸に近い。規模は東西3.44mで南北4.40m、面積は14.95㎡。壁現高は28～32cmを測る。周溝は北壁下と西壁の北端と南端で検出されている。巾4～8cm。長軸方位はN—5°—E。　**カマド**　東壁中央。全長147cm、壁外掘り込み71cm、燃焼部分長32cm、壁への掘り込み角度はゆるやかである。燃焼部は床面のレベルに同じである。焼土域西の落ちこみは灰カキ穴になるものか。　**貯蔵穴**　半円形。96×82×7cm。　**重複関係**　H—224と重複する。　**遺物**　埦、壺、甕が出土。

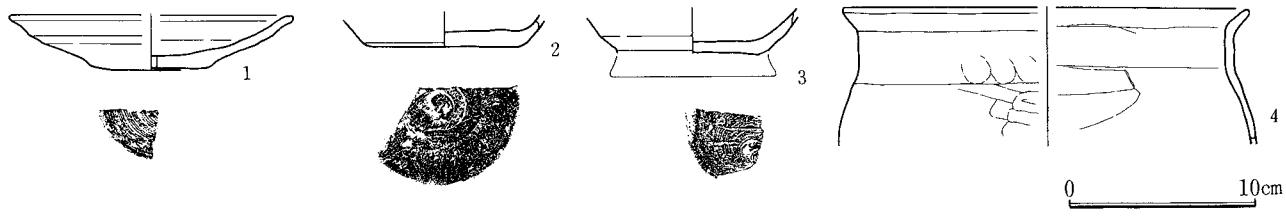
〔H224〕　**位置**　II—22・23区。　**形状**　南北に長い長方形。辺はやや不整。隅角もまちまち。規模は東西2.23m、南北3.00m、面積は6.10㎡。壁現高は9～26cmを測る。長軸方位はN—11°—W。　**ピット**　P_1～P_3。P_1(50×50×35cm)、

P_2（62×62×40cm）、P_3（48×36×8cm）。　**カマド**　東壁南側。南床面に石材2石のこる。全長56cm、壁外掘り込み31cm、燃焼部分長28cm。燃焼部は床面－3cm。　**重複関係**　H－219と重複する。　**遺物**　皿、坏、台付埦、甕が出土。





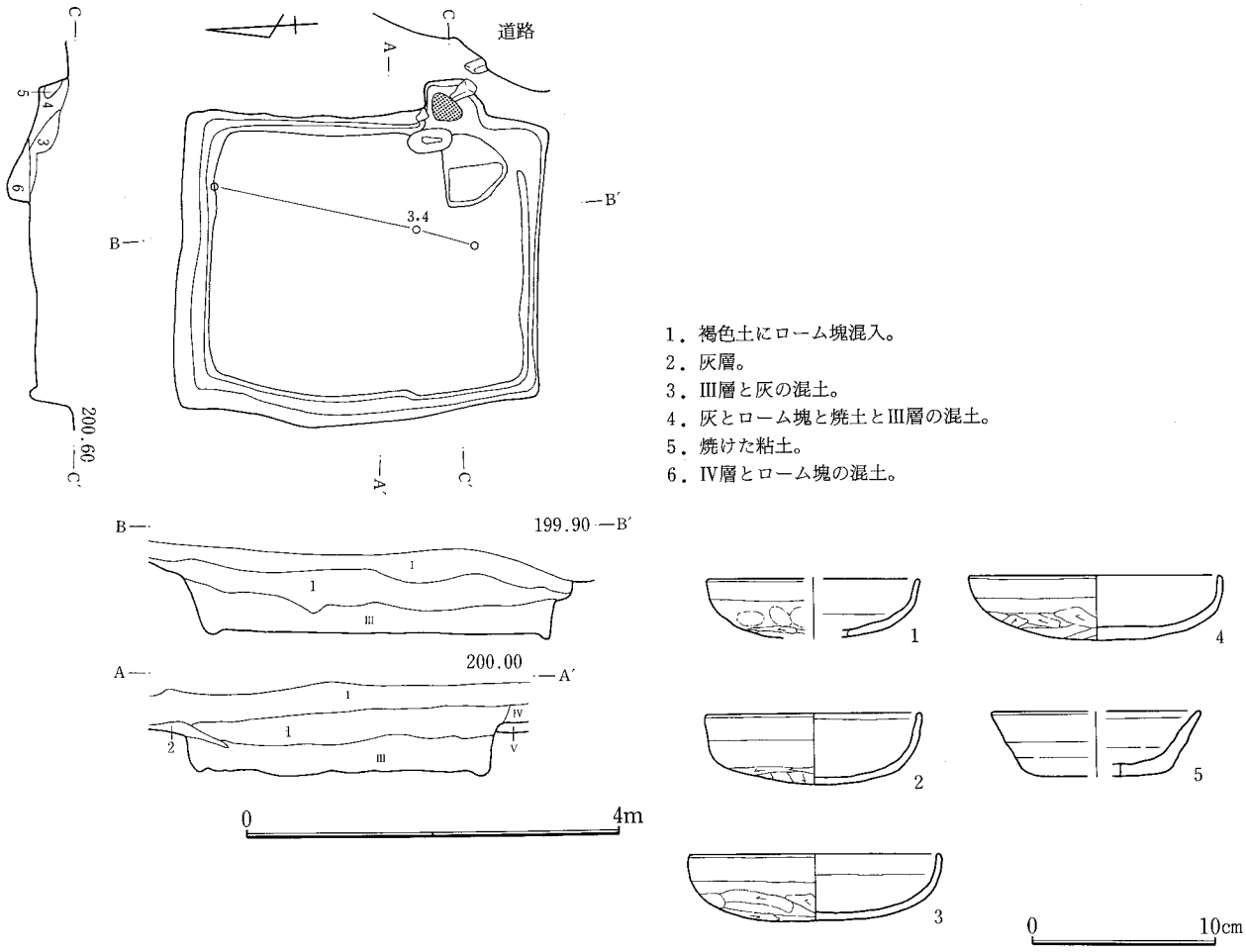
図－273　H－219・224号住居跡平・断面図、H－219号住居跡出土遺物実測図



図－274　H－224号住居跡出土遺物実測図

H220号住居跡　（図—275　表4—104　図版—6・87）

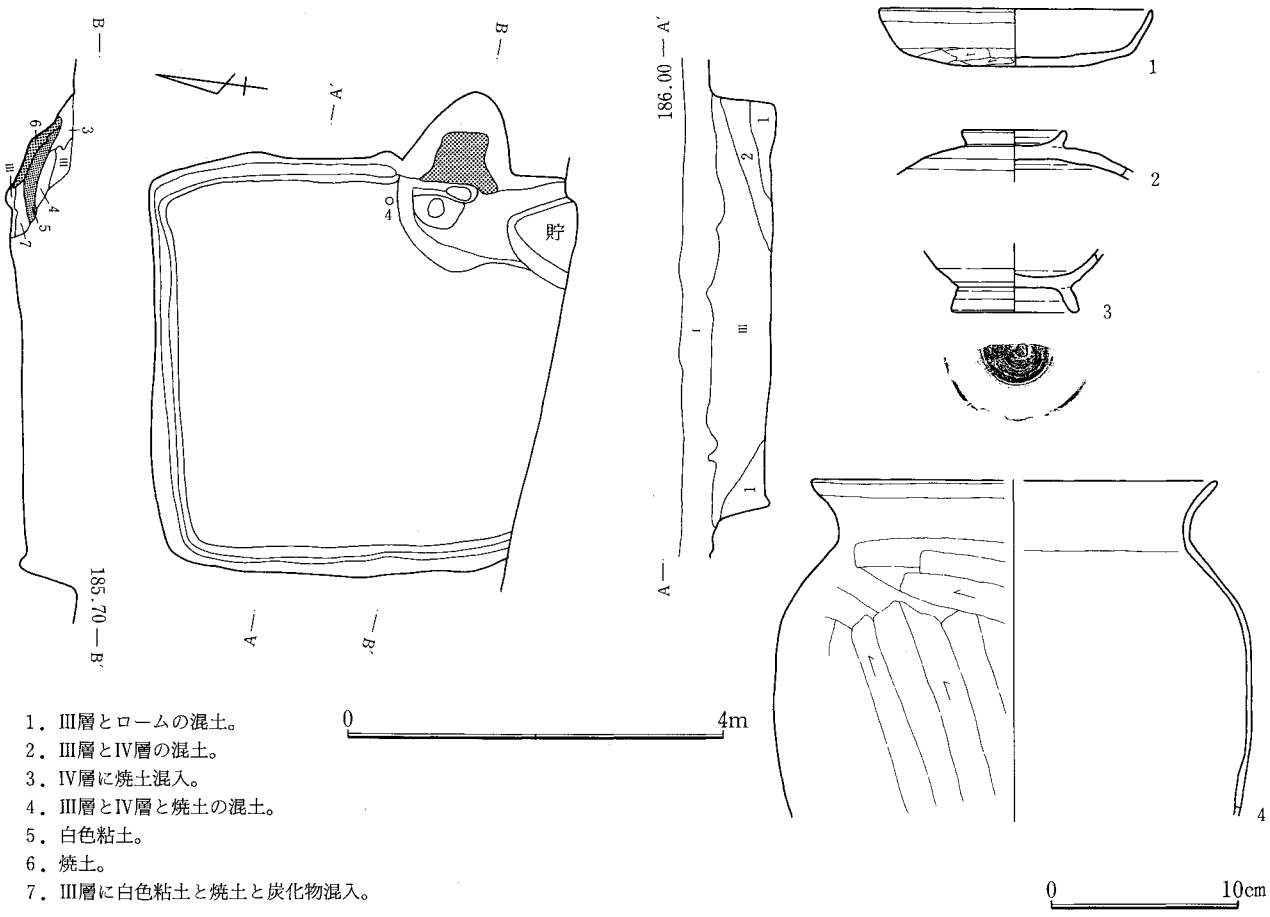
位置　調査区中央部西側のII—22区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺は直で、各隅角は直。規模は東西2.84mで南北3.38m、面積は10.97㎡。壁現高は36～61cmを測る。周溝は全周で検出されている。巾6～15cm、深さ6～7cm。長軸方位はN—6°—W。　**ピット**　南東隅。81×54×22cm。土層からみると床下土坑カ。　**カマド**　東壁南側。石材3石と粘土がのこる。全長89cm、壁外掘り込み46cm、燃焼部分長28cm。カマド前の小ピット（40×27×—cm）が灰カキ穴カ。　**貯蔵穴**　南東隅カ。半円形。102×44×—cm。　**遺物**　坏が出土。



図—275　H—220号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H221号住居跡　（図—276　表4—104　図版—88）

位置　調査区中央部西側のII—3区に位置する。　**形状**　南端はすでに削平をうけて失なわれている。南北に長い長方形。残る三辺は直に近く、隅角も直に近い。規模は東西3.94mで、南北が現状で4.14mを測る。面積は現状で16.48㎡。壁現高は57～62cmを測る。周溝は現状で全周する。巾2～15cm、深さ5～6cm。長軸方位はN—6°—E。　**カマド**　東壁南側。全長195cmで壁外掘り込み90cm、燃焼部分長56cm、袖部内幅86cm、壁へはゆるやかな掘り込み。燃焼部は床面—12cm。カマド手前の落ちこみは貯蔵穴につらなり、カマド施設になるものか。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。現状で98×72×27cm。　**遺物**　坏、台付埦、甕が出土。

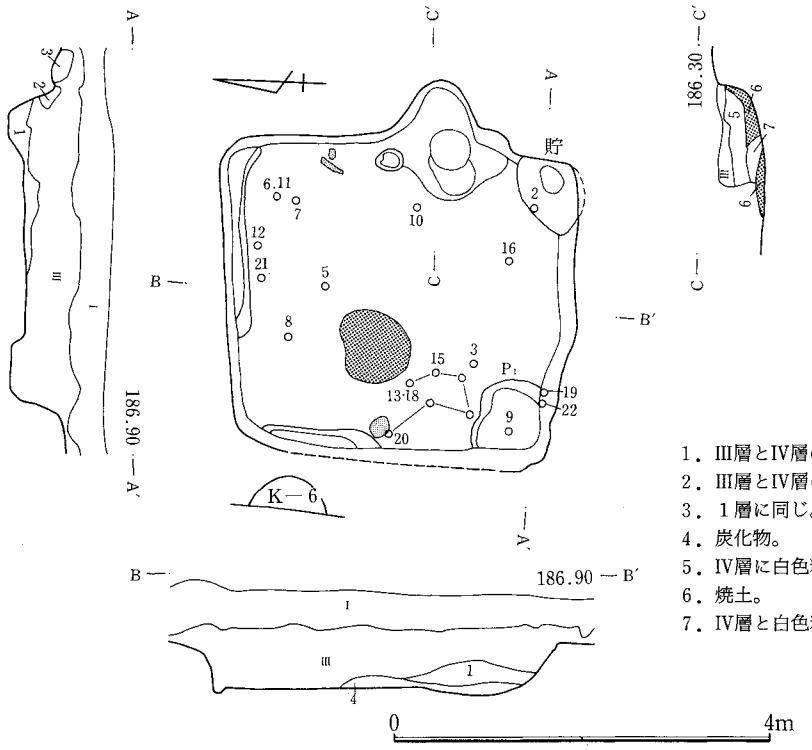


1．III層とロームの混土。
2．III層とIV層の混土。
3．IV層に焼土混入。
4．III層とIV層と焼土の混土。
5．白色粘土。
6．焼土。
7．III層に白色粘土と焼土と炭化物混入。

図―276　H―221号住居跡平・断面図、出土遺物実測図

H222号住居跡　（図―277・278　表4―105　図版―6・88）

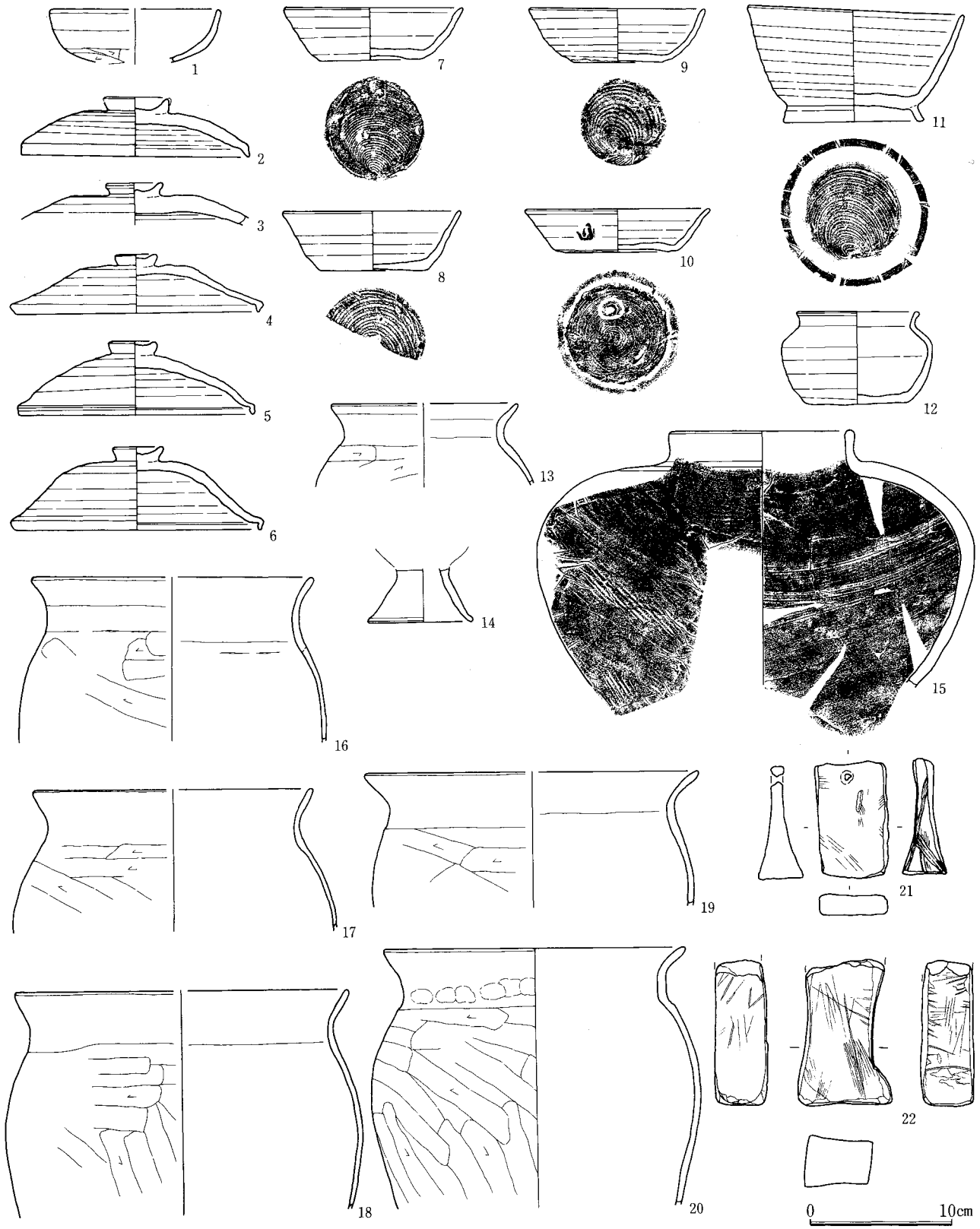
位置　調査区中央部西側のI－4、II－4区に位置する。　**形状**　方形。各辺は直に近く、各隅角も直に近い。規模



1．III層とIV層の混土に焼土混入。
2．III層とIV層の混土に白色粘土混入。
3．1層に同じ。
4．炭化物。
5．IV層に白色粘土と焼土が混入。
6．焼土。
7．IV層と白色粘土の混土。

図―277　H―222号住居跡平・断面図

は東西3.08m、南北3.24m、面積は10.93㎡。壁現高は39～53cmを測る。周溝は北・西側で検出されている。巾４～９cm。長軸方位はＮ－３°－Ｗ。　**ピット**　南西隅。100×81×13cm。　**カマド**　東壁。全長126cm、壁外掘り込み52cm、燃焼部分長44cm、煙道へは直に近い立ちあがり。燃焼部は床面－２cm。床面西側に焼土域（84×73cm）をもつ。　**貯蔵穴**　南東隅。半円形。92×62×16cm。　**遺物**　坏、埦、蓋、砥石、壺が出土。

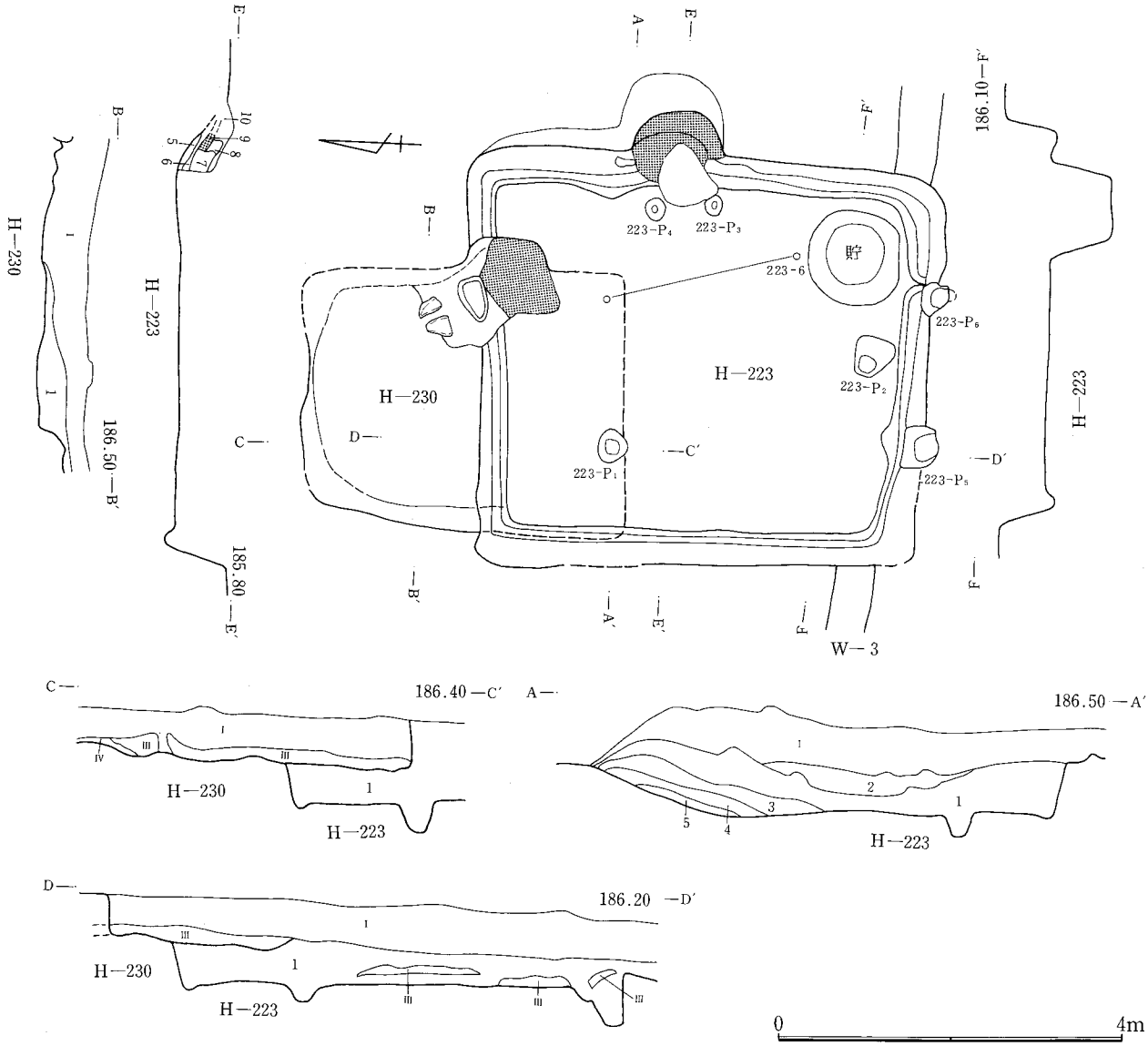


図－278　Ｈ－222号住居跡出土遺物実測図

H223・230号住居跡　（図—279・280　表4—106　図版—89・92）

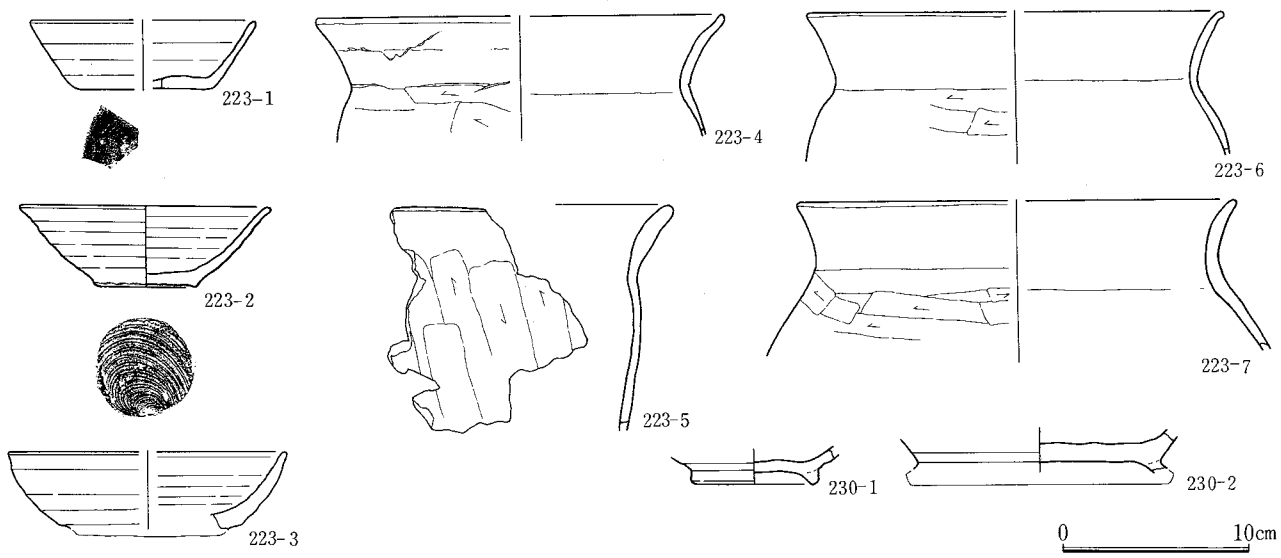
〔H223〕 **位置**　調査区中央部西側のII—22区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は直に近く、各隅角も直に近い。規模は東西4.02mで、南北4.58m、面積21.05㎡。壁現高は21～65cmを測る。周溝は全周する。巾4～16cm、深さ6～15cm。長軸方位はN—0°。　**ピット**　P_1～P_6。P_1（37×34×35cm）、P_2（46×46×27cm）、P_3（30×20×—cm）、P_4（26×24×—cm）、P_5（47×42×43cm）、P_6（40×34×52cm）。$P_{1,5,6}$は柱穴カ。P_2は入口関連のものか。$P_{3,4}$はカマド袖石の跡と思われる。　**カマド**　東壁中央。全長151cm、壁外掘り込み100cm、燃焼部分長74cm。壁へはゆるかなや掘り込みとなる。燃焼部は床面—8cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。114×111×65cm。　**重複関係**　W—3。地層断面によりH—223が新しい。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。

〔H230〕 **位置**　II—22区。　**形状**　長方形。各辺は不整。規模は東西が2.56mで、南北が地層断面から想定で3.60m、面積は9.38㎡。壁現高は15～30cmを測る。長軸方位はN—2°—E。　**カマド**　東壁中央に、東壁にくらべ南になならめに位置する。全長162cm、壁外掘り込み35cm、燃焼部分長81cm。　**重複関係**　H—223と重複する。H—230が新しい。　**遺物**　埦が出土。



1．III層とロームの混土。
2．I層とIII層の混土。
3．III層に焼土と炭化物と白色粘土の混入。
4．III層に焼土と炭化物とローム塊混入。
5．焼土と炭化物とローム塊と粘土の混土。
6．III層に灰と焼土の混土。
7．III層に焼土混入。
8．III層に粘土と焼土混入。
9．焼土。
10．III層に少量の焼土混入。

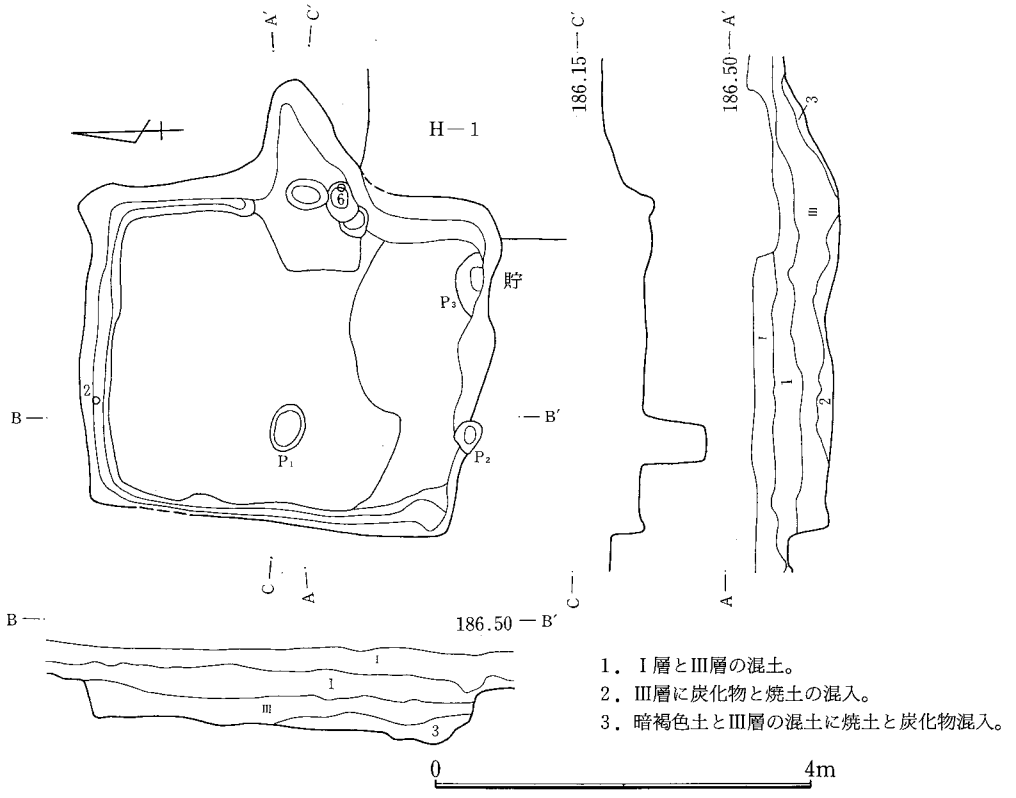
図—279　H—223・230号住居跡平・断面図



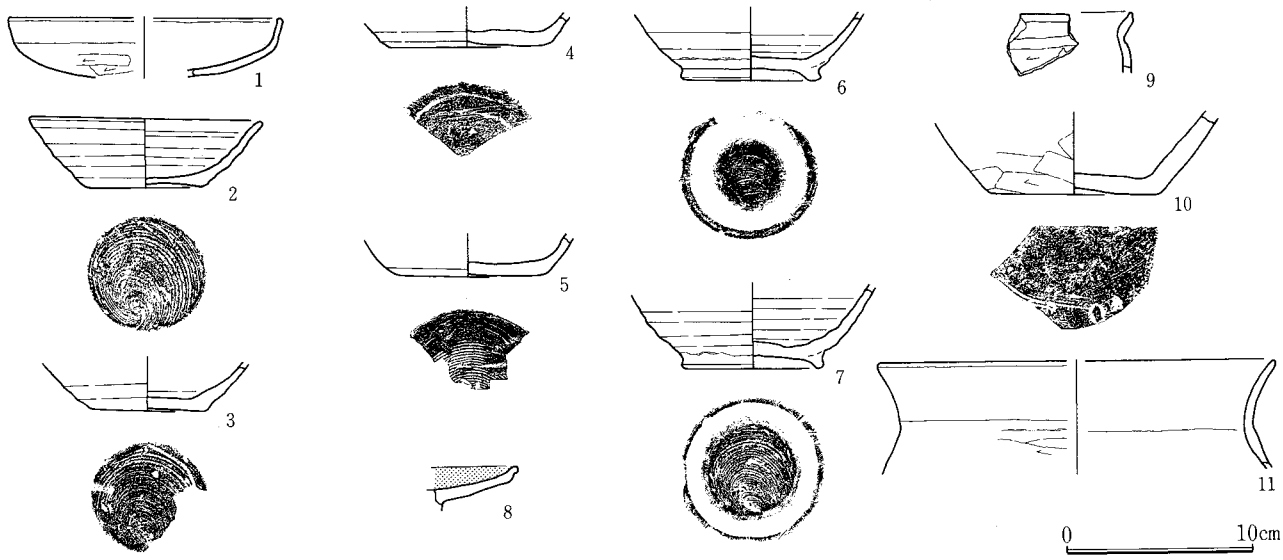
図—280　H—223・230号住居跡出土遺物実測図

H225号住居跡　(図—281・282　表4—106　図版—6・90)

位置　調査区中央部西側のII—22区に位置する。　**形状**　やや南北に長い長方形。各辺はやや外にはらむ。隅角は直に近い。規模は東西3.06mで南北3.66m、面積は12・89㎡。壁現高は43～45cmを測る。周溝は南壁下を除き全周する。巾2～6cm。長軸方位はN—6°—W。　貼り床、地層断面と平面からみると、南半に炭化物と焼土を多く含む土層が認められる。厚さは最大38cm、小ピットの連続した形状をもつ。150×280cm。住居の拡張に伴うものとみられる。　**ピット**　P_1～P_3。P_1 (51×37×66cm)、P_2 (30×26×13cm)、P_3 (66×40×35cm)。　**カマド**　東壁中央。全長205cmで壁外掘り込み95cm、壁への掘り込み角度はゆるやかである。　**貯蔵穴**　P_3がそれにあたるか。　**重複関係**　H—1と重複する。H—225南東部がH—1の削平をうけているとみられ、H—1が新しいか。　**遺物**　坏、埦、皿、甕が出土。



図—281　H—225号住居跡平・断面図



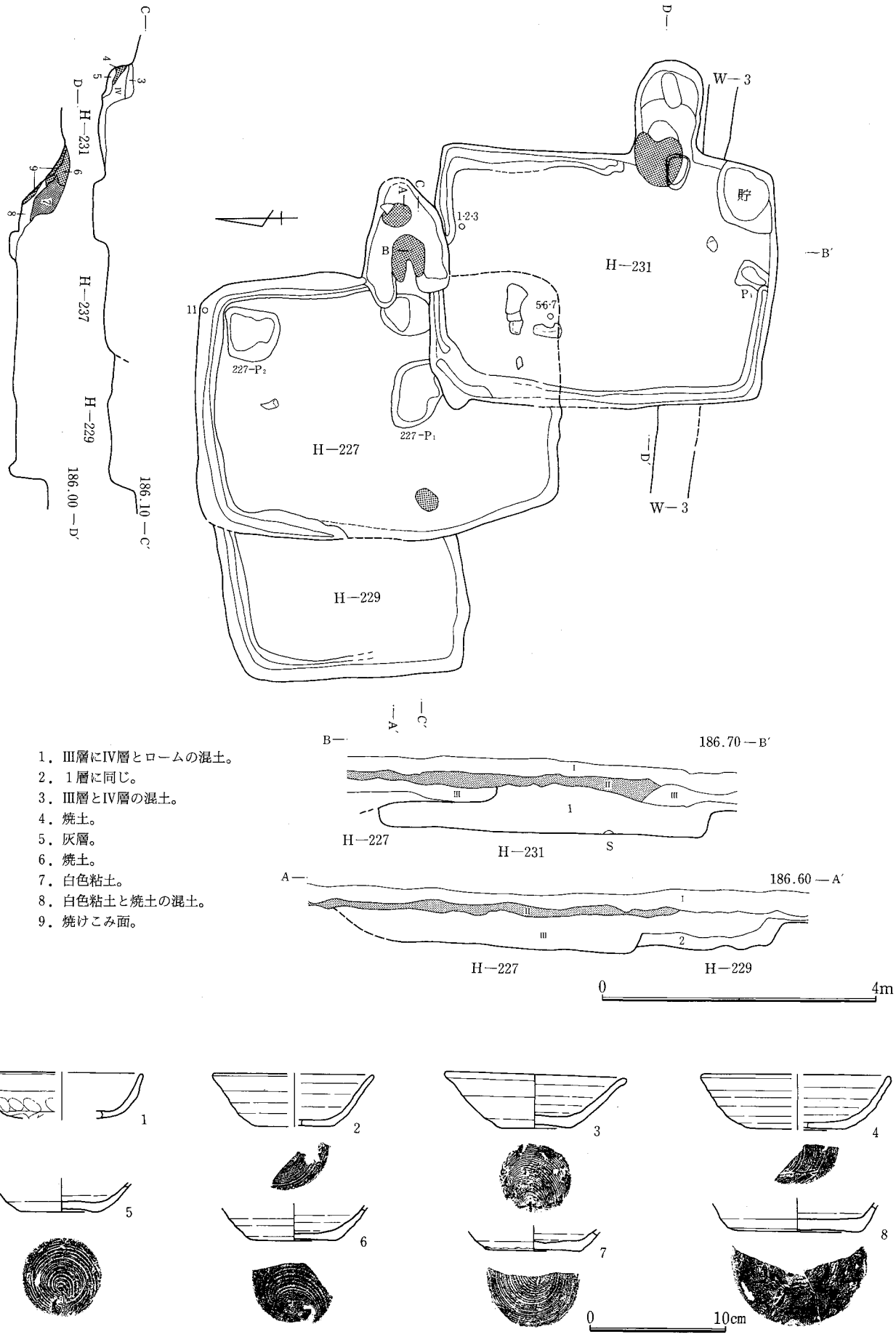
図—282　H—225号住居跡出土遺物実測図

H227・229・231号住居跡　（図—283・284　表4—107　図版—6・91・92）

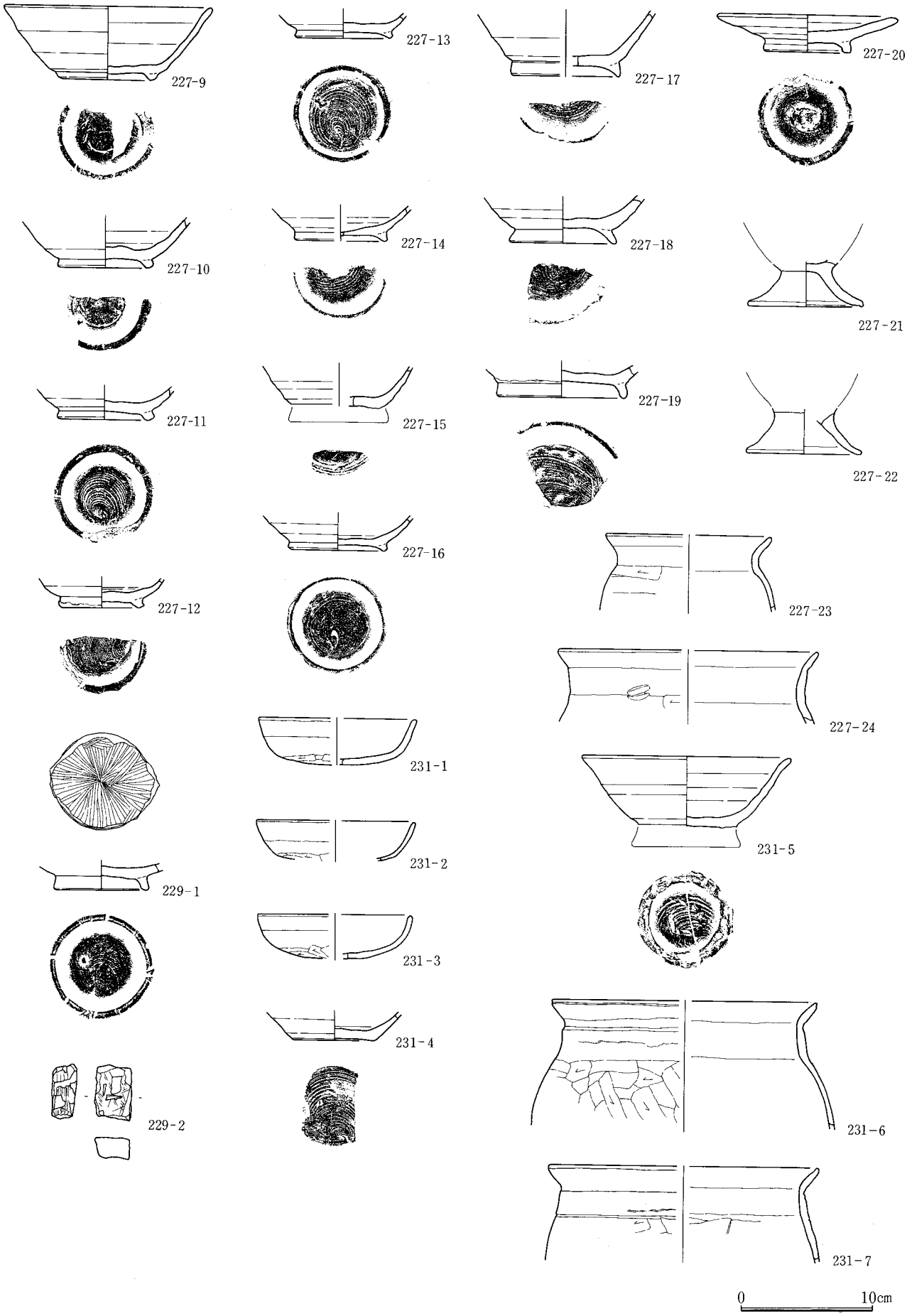
〔H227〕　**位置**　調査区中央の西側のII—4区。　**形状**　南北に長い長方形。各辺は外にはらみ、各隅角はやや隅丸。規模は東西3.18mで南北4.86m、面積は18.70㎡。壁現高は34～37cmを測る。周溝は北側壁下で検出されている。巾4～12cm。長軸方位はN—0°。　**貼り床**　H—231と重複部には特記なし。　**ピット**　$P_{1,2}$。P_1(80×75×11cm)、P_2(107×68×20cm)　**カマド**　東壁中央。石材がのこる。全長194cmで壁外掘り込み146cm、燃焼部分長72cm、袖部内幅44cm、壁への掘りこみはゆるやかである。燃焼部は床面±0cm。白紫色の粘土で作られている。　**テフラ**　B軽石層。床面より44cm。厚さ17～20cm。　**重複関係**　H—229と重複する。H—227が新しい。H—231と重複する。H—227が新しい。　**遺物**　坏、埦、皿、台付埦が出土。

〔H229〕　**位置**　II—4区。　**形状**　H—227との重複で東半が失なわれていて不明。その際にカマドも失なわれたものか。北、南辺はやや外にはらむ。規模は東西は現状で1.74m、南北は3.06m、面積は現状で5.61㎡。壁現高は38～41cmを測る。周溝が北～西壁下で検出されている。巾4～9cm。長軸方位はN—2°—E。　**カマド**　重複により失なわれたか。H—227との重複部に焼土を含むくぼみがある。この地点がカマドか。　**テフラ**　B軽石。床面より46cm。　**重複関係**　H—227と重複する。H—227が新しい。　**遺物**　埦が出土。

〔H231〕　**位置**　II—4区。　形状　南北に長い長方形。各辺は直に近く、隅角は直に近い。規模は東西3.28mで、南北4.54m、面積は17.52㎡。壁現高は36～47cmを測る。周溝はほぼ全周する。巾4～14cm、深さ10cm。長軸方位はN—6°—W。　**カマド**　東壁南側。石材と白色粘土がのこる。全長190cmで、壁外掘り込み137cm、燃焼部分長76cm、壁へはゆるやかな掘り込みとなる。燃焼部は床面±0cm。　**貯蔵穴**　南東隅。円形。122×83×31cm。底部に白色粘土がはってある。　**テフラ**　B軽石。床面より48cm。　**重複関係**　H—227と重複する。H—227が新しい。W—3と重複する。H—231が新しい。　**遺物**　坏、埦、甕が出土。



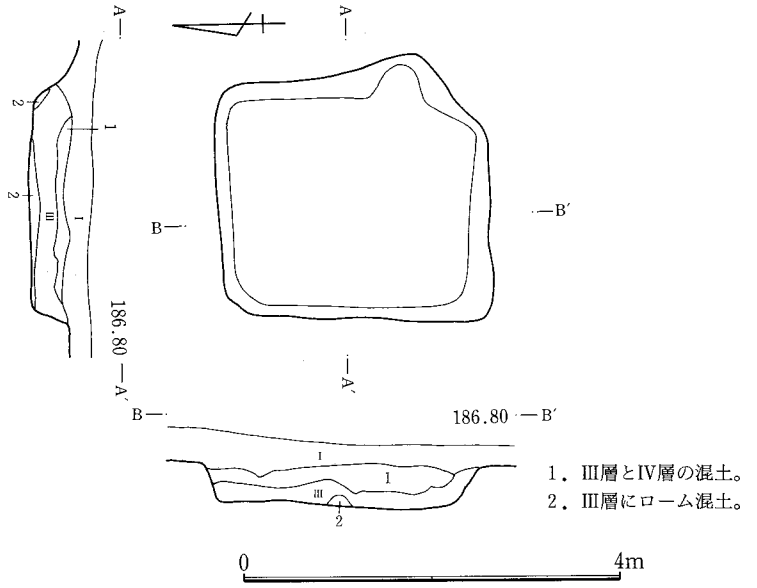
図—283　H—227・229・231号住居跡平・断面図、H—227号住居跡出土遺物実測図(1)



図—284　H—227・229・231号住居跡出土遺物実測図(2)

H228号住居跡　(図—285　図版—91)

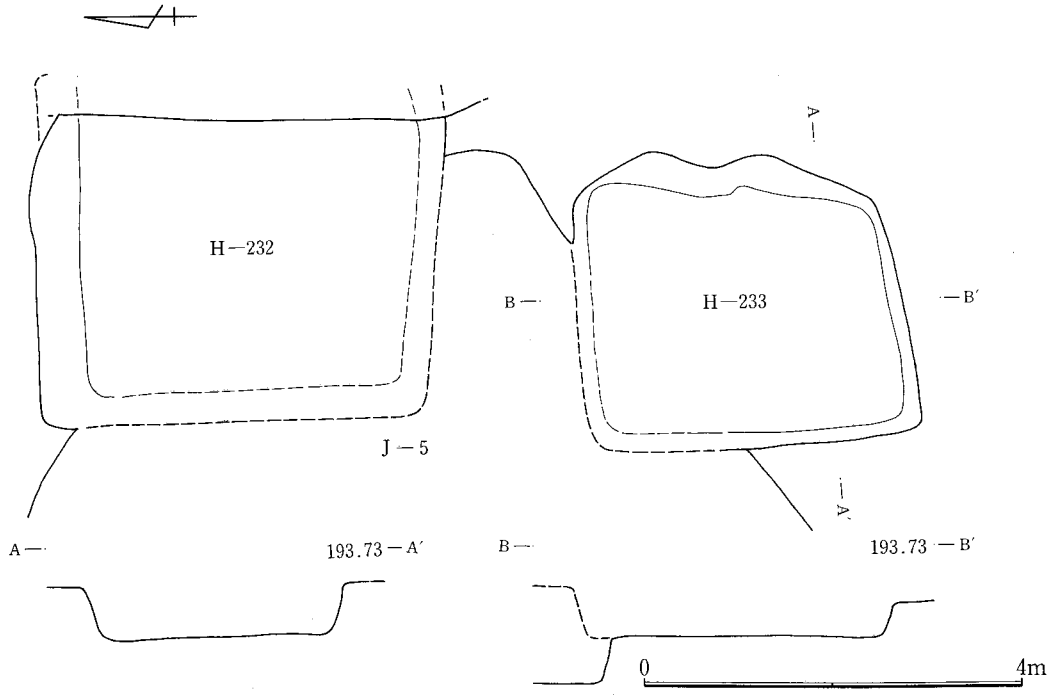
位置　調査区中央部西側のII—5区に位置する。　**形状**　方形に近い。各辺は直に近く、各隅角は丸に近い。規模は東西2.22mで、南北2.50m、面積は5.55㎡。壁現高は38～46cmを測る。長軸方位はN—1°—W。　**カマド**　東壁南側。石材がのこる。全長68cmで、壁外掘り込み31cm。



図—285　H—228号住居跡平・断面図

H232・233号住居跡　(図—286)

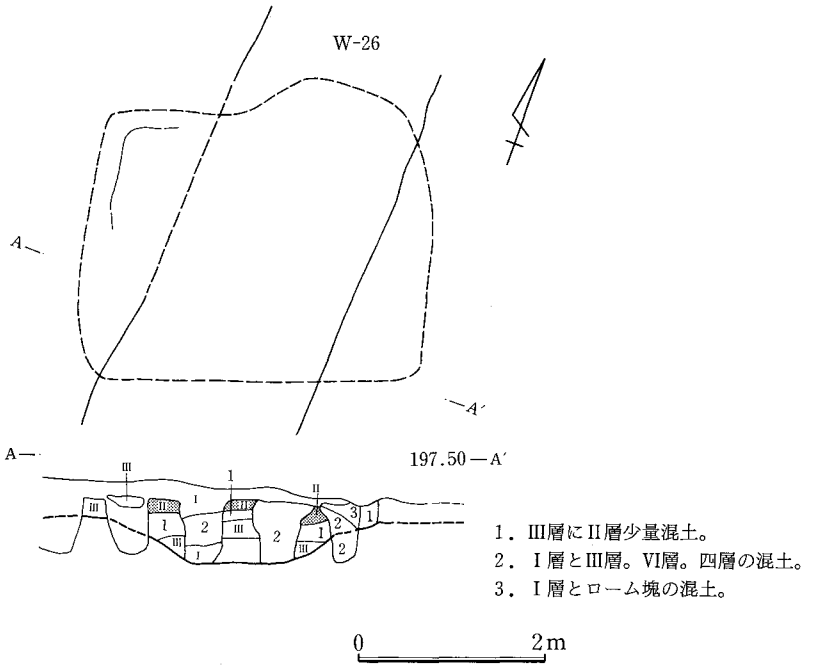
〔H232〕 **位置**　調査区中央部西のII—8区。　**形状**　部分検出であり不明の点があるが方形か。北辺は直。北西隅は直に近い。規模は東西が現状で3.00m、南北が3.60m、面積は現状で10.09㎡。長軸方位はN—1°—E。　**カマド**　不明。
重複関係　J—5。H—232が新しい。
〔H233〕 **位置**　II—8区。　**形状**　方形。各辺は直に近く、隅角は直に近い。規模は東西2.50mで南北3.12m、面積は7.79㎡。壁現高は38～60cmを測る。長軸方位はN—4°—E。　**カマド**　不明。　**重複関係**　J—5。H—233が新しい。



図—286　H—232・233号住居跡平・断面図

H234号住居跡　(図--287)

位置　調査区北のⅠ—159区に位置する。　**形状**　溝とカマ掘による削平が多いが、方形とみられる。詳細は不明。規模は東西が想定で3.40m、南北が想定2.70m、面積は想定9.08㎡。壁現高は44～47cmを測る。長軸方位はN—108°—E。**カマド**　不明。　**重複関係**　W—26と重複する。H—234が旧い。



図—287　H—234号住居跡平・断面図

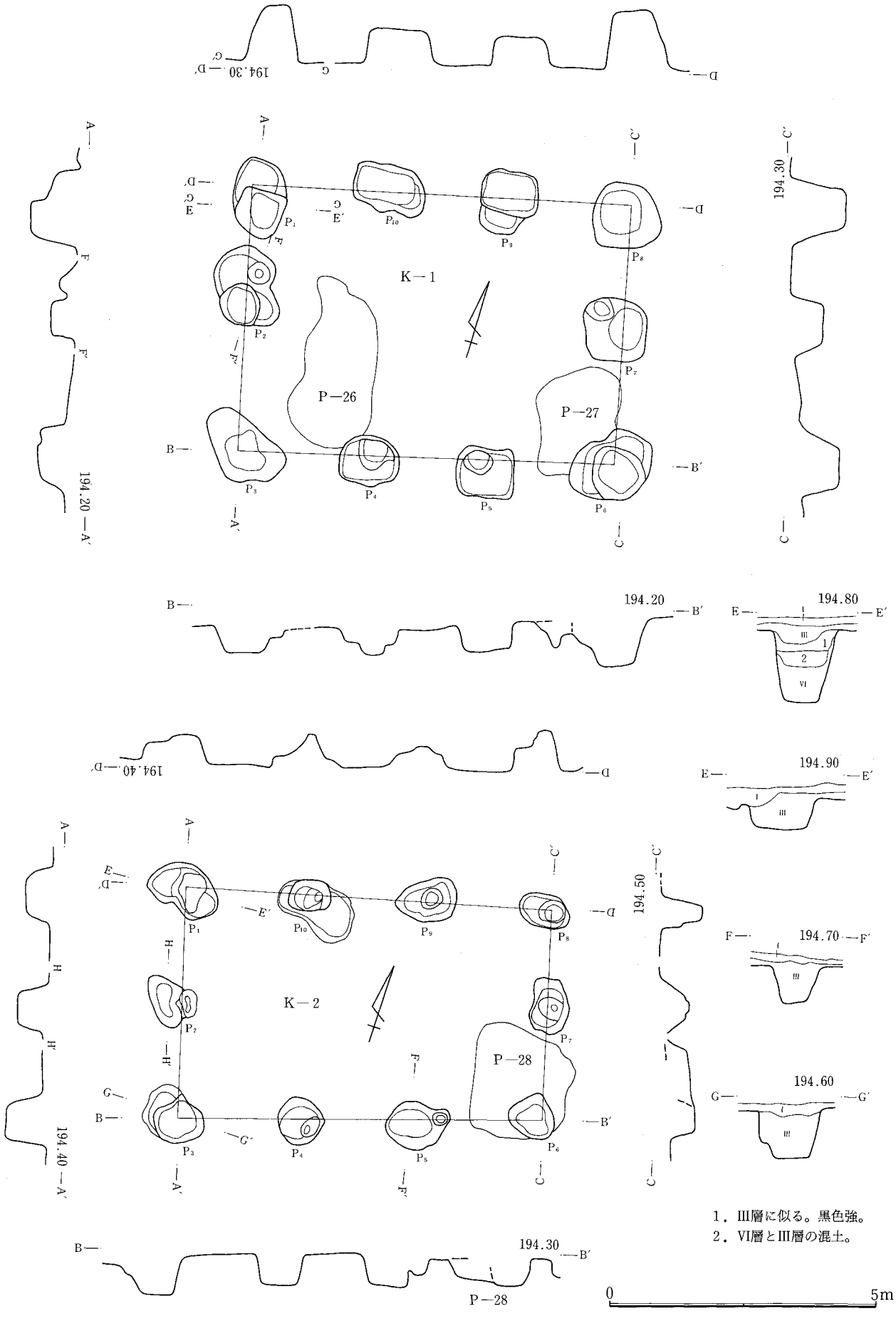
2　掘立柱建物跡

K 1号掘立柱建物跡　(図—288・289　表4—108　図版—93・95)

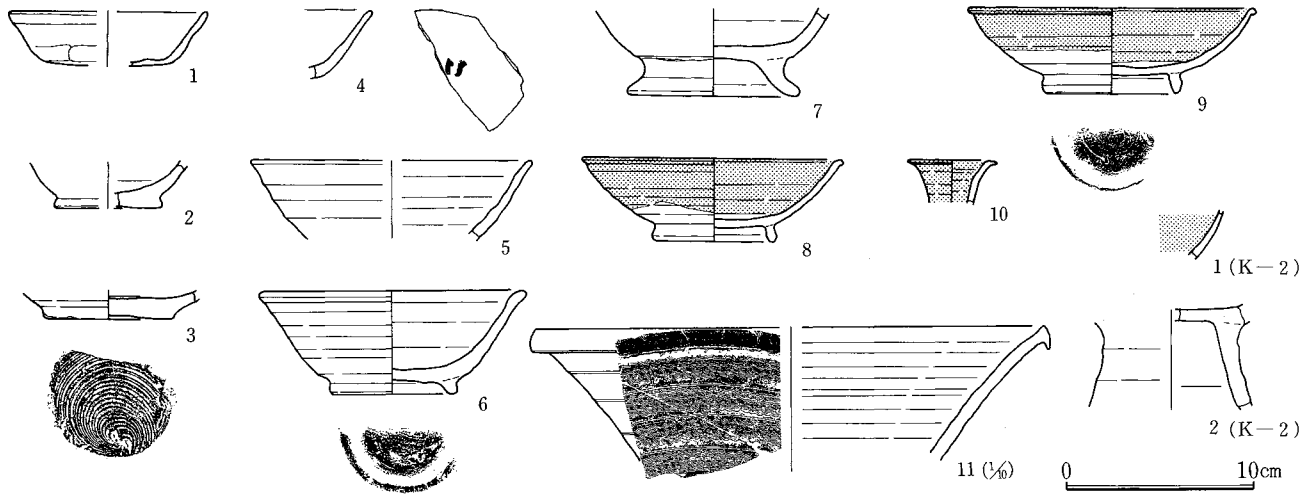
位置　調査区北東のⅠ—120・138区。この付近に東西方向に掘立柱建物跡が並んで検出されている。　**形状**　東西3間(7.0m)、南北2間(5.0m)の長方形。面積は34.15㎡で、長軸方位はN—105°—Eである。柱間寸法は、南北が北より2.3m+2.7m(西辺)、2.3m+2.7m(東辺)と東西が西より2.5m+2.2m+2.3m(北辺)、2.6m+1.9m+2.5m(南辺)である。　**柱穴**　不整円形の平面を呈するものが多いが、$P_{4,5,10}$は長方形に近い。径は円形のものが長径120～150cmで、長方形のものは長径100～130cm。柱穴はP_4、P_5など柱穴内にさらに小さな掘り込みをもつものがあり、柱跡とみられる。深さは隅にあたるP_1、P_8などが100cm近くあり深い、また、中間の$P_{2,7,9,10}$などは50cm程度で浅く、柱の性格の違いがうかがえる。四隅が主たる柱で、その他は控の柱にあたるものか。　**遺物**　坏、埦が出土。

K 2号掘立柱建物跡　(図—288・289　表4—108　図版—93・95)

位置　調査区北東のⅠ—138区。K—1の東に位置する。　**形状**　東西3間(6.8m)、南北2間(西辺4.3m、東辺3.9m)の長方形。面積は27.70㎡で、長軸方位はN—108°—Eである。柱間寸法は、南北が北より2.2m+2.1m(西辺)、1.8m+2.1m(東辺)で東西が西より、2.3m+2.2m+2.3m(北辺)、2.3m+2.1m+2.4m(南辺)である。　**柱穴**　円形が多く、一部長円形。径は円形のP_6、P_4などが80cm前後で、長円形の長径は100～150cm前後である。K—2も柱穴内にさらに掘りこみをもつものがあり($P_{7\sim10}$)、柱跡とみられる。深さは、P_3、P_8が他より若干深く80～90cmであるが、他は60cm程度と浅い。K—1と似た傾向にあるが、K—1ほどの違いはない。



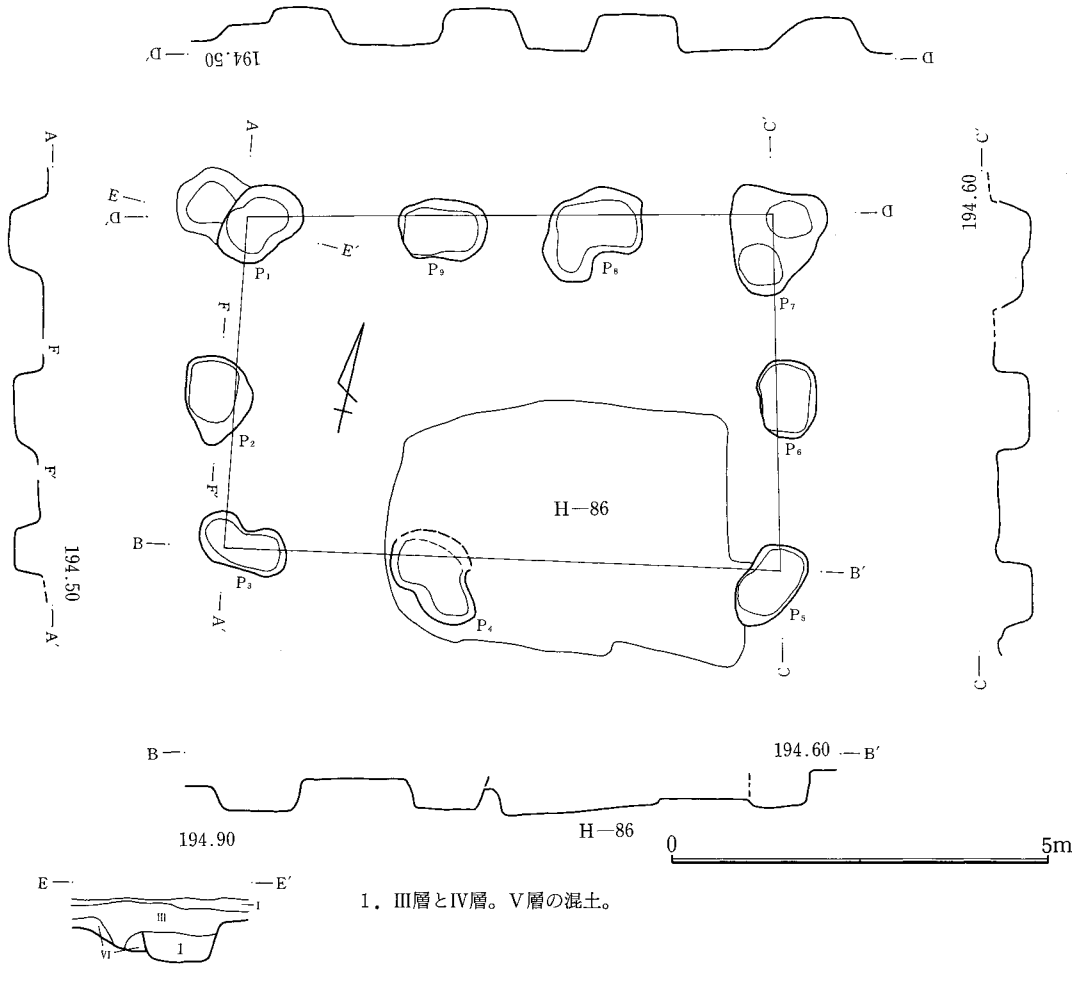
図—288　K—1・2号掘立柱建物跡平・断面図



図—289　K—1・2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

K 3号掘立柱建物跡　(図—290　図版—93・95)

位置　調査区北東のⅠ—138区に位置する。K—2の東に位置する。H—86と重複する。　**形状**　東西3間(7.0m〔北辺〕、7.4m〔南辺〕)で南北2間(4.2m〔西辺〕、4.5m〔東辺〕)の長方形である。面積は32.78㎡で、長軸方位はN—102°—Eである。柱間寸法は、南北が北より2.1m+2.1m(西辺)、2.1m+2.3m(東辺)で、東西が、西より、2.6m+2.1m+2.3m(北辺)、2.7m+(2.2m〔ピット1基欠損カ〕)+2.5m(南辺)である。　**柱穴**　長円形の平面が多い。長

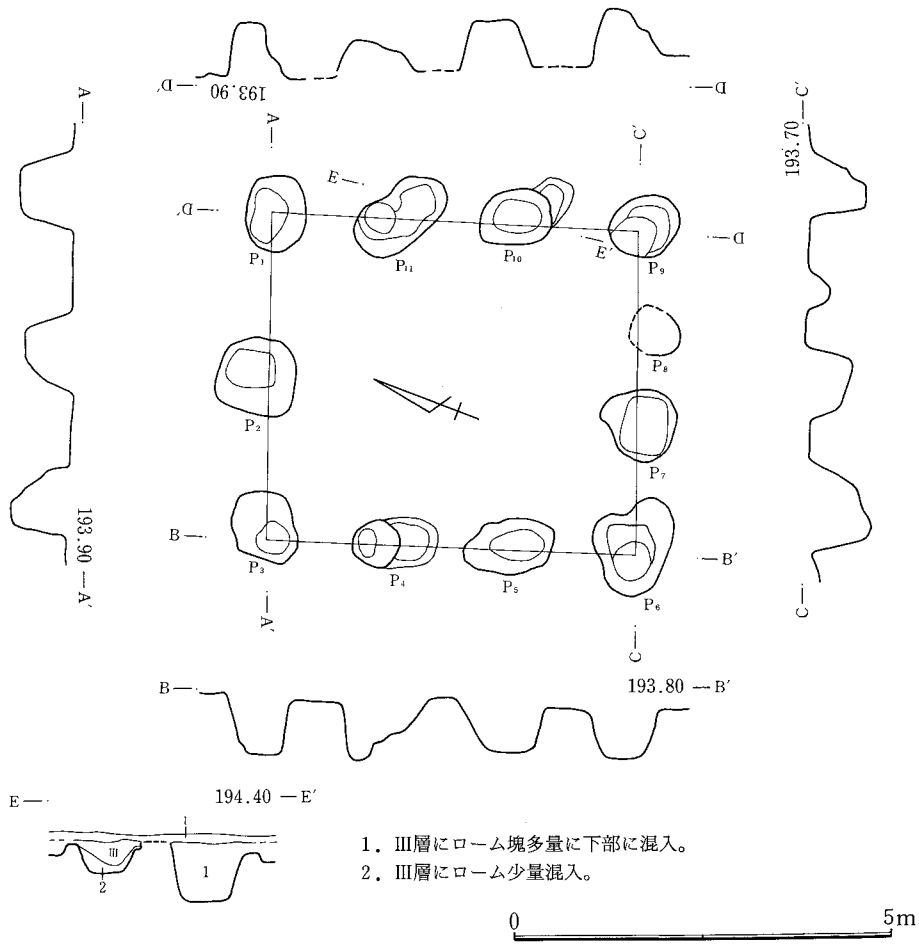


図—290　K—3号掘立柱建物跡平・断面図

径100～120cm。深さは差はあまりなく、40～50cm。P_1、P_3、P_5はコーナー部の柱穴になるが、ピットの長辺が建物の対角線の方向に向いている。　**重複関係**　H－86と重複する。H－86が新しい。

K 4号掘立柱建物跡　(図－291　図版－94・95)

位置　調査区北東のⅠ－119区。K－5の東でK－7の西。　**形状**　東西2間（南辺は3間）(4.3m)、南北3間（4.9m)の長方形である。面積は21.10m²で、長軸方位はN－20°－Eである。柱間寸法は南北が北より1.3m＋2.0m＋1.6m（西辺)、1.4m＋1.9m＋1.6m（東辺)、東西が西より2.3m＋2.0m（北辺)、1.8m＋1.1m＋1.4m（南辺）である。　**柱穴**　円形の平面が多い。径は100cm前後。深さは70～80cm。長円形の柱穴の場合底部で一段と深いところが柱穴で、浅いところは柱抜きとりの際に形成されたものか。



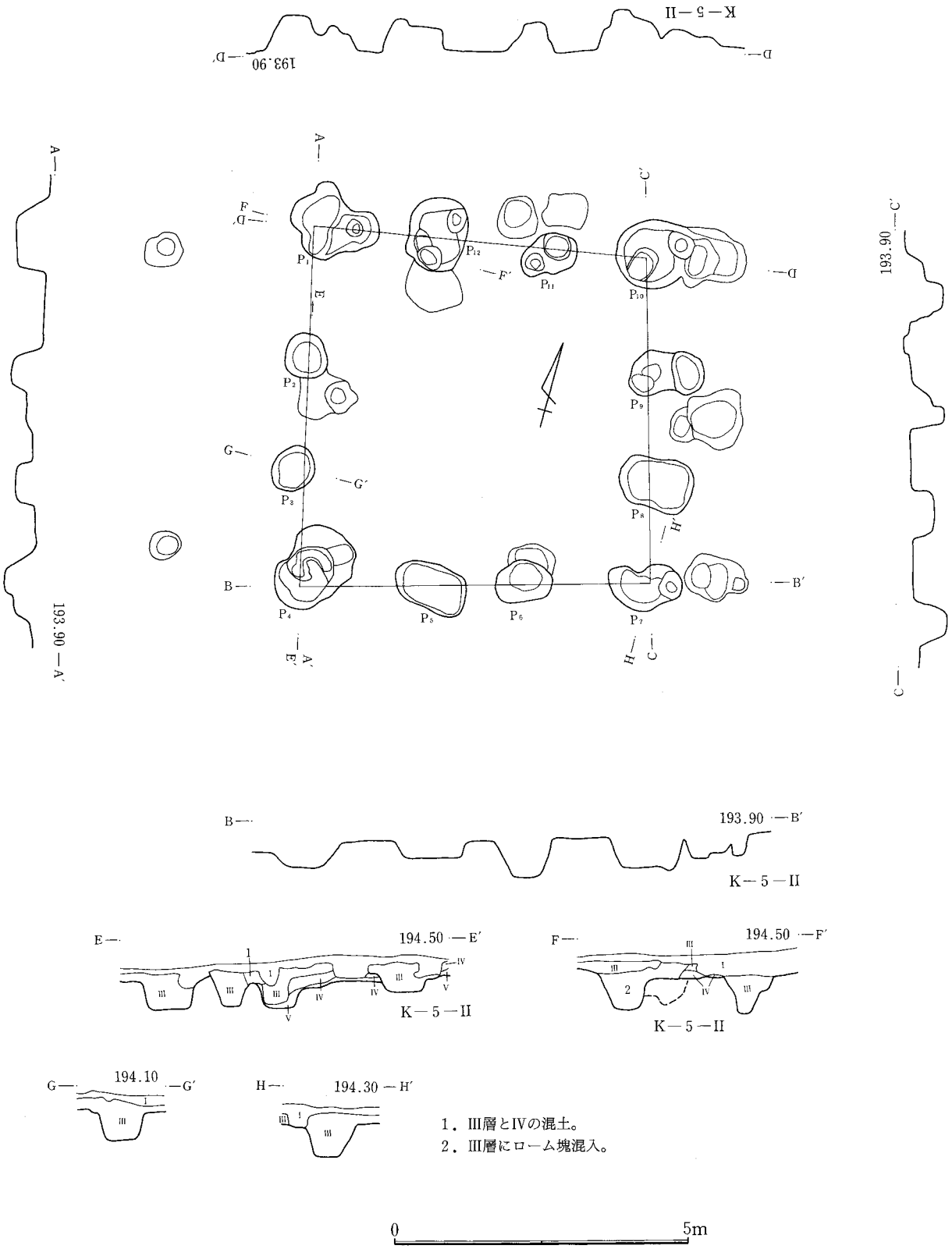
図－291　K－4号掘立柱建物跡平・断面図

K 5－Ⅰ・Ⅱ号掘立柱建物跡　(図－292・293　表4－109　図版－94・95)

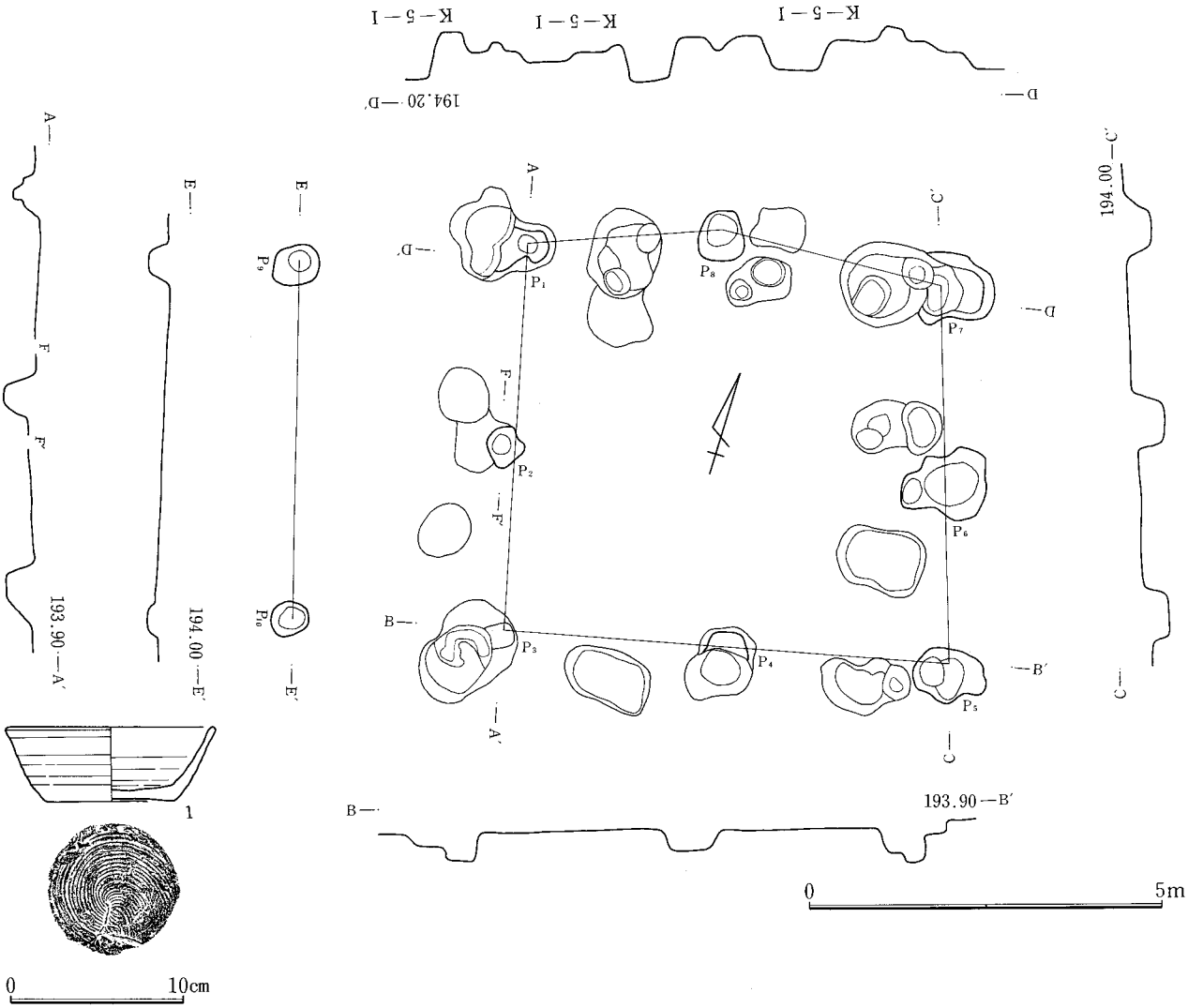
〔5－Ⅰ〕　**位置**　調査区北東のⅠ－101・102区に位置する。K－4の西に位置する。K－5ⅠとⅡの重複。　**形状**　東西3間（5.7m〔北辺〕、6.0m〔南辺〕）で、南北3間（6.1m〔西辺〕、5.5m〔東辺〕）の方形。やや東辺が短かい。面積は33.92m²で、長軸方位はN－16°－Eである。柱間寸法は、南北が北より2.3m＋1.8m＋2.0(西辺)、2.1m＋1.6m＋1.8（東辺）で、東西が西より2.2m＋1.9m＋1.6m（北辺)、2.3m＋1.5m＋1.2m（南辺）である。　**柱穴**　長円形を呈するものが多い。長径は120～150cm位。深さは隅角にあたるP_1、P_4、P_7などは、70cm近いが、他は40～50cmの深さになっている。　**重複関係**　K5号（II）と重複する。切り合いでみるとK5（Ⅰ）が新しい。

〔5－II〕　**位置**　調査区北東のⅠ－101・102区。　**形状**　東西2間（6.0m〔北辺〕、6.3m〔南辺〕)、南北2間（5.5m〔西辺〕、5.4m〔東辺〕）の方形。柱間寸法は、南北が2.9m＋2.6m〔西辺〕、2.9m＋2.5m〔東辺〕で、東西が2.8m＋3.2m〔北辺〕、3.2m＋3.1m〔南辺〕である。面積は34.08m²（ひさし部16.45m²）で、長軸方位はN－163°－Eである。

また、K５（II）は西辺の西側に２基の柱穴をもつ。西辺からは300～320cmの位置。径は50～60cmと小さいが、いずれも北辺、南辺の延長線上にあり、ひさしの柱穴とみられる。　**柱穴**　円形の平面のものが多い。径は東辺の柱穴が長径100～120cmと大きく、他は50～70cmと小さい。深さは30～40cmとＫ５（Ｉ）よりも浅いものが多く、柱穴での差もあまりない。ひさしの柱穴は15～30cmとさらに浅い。



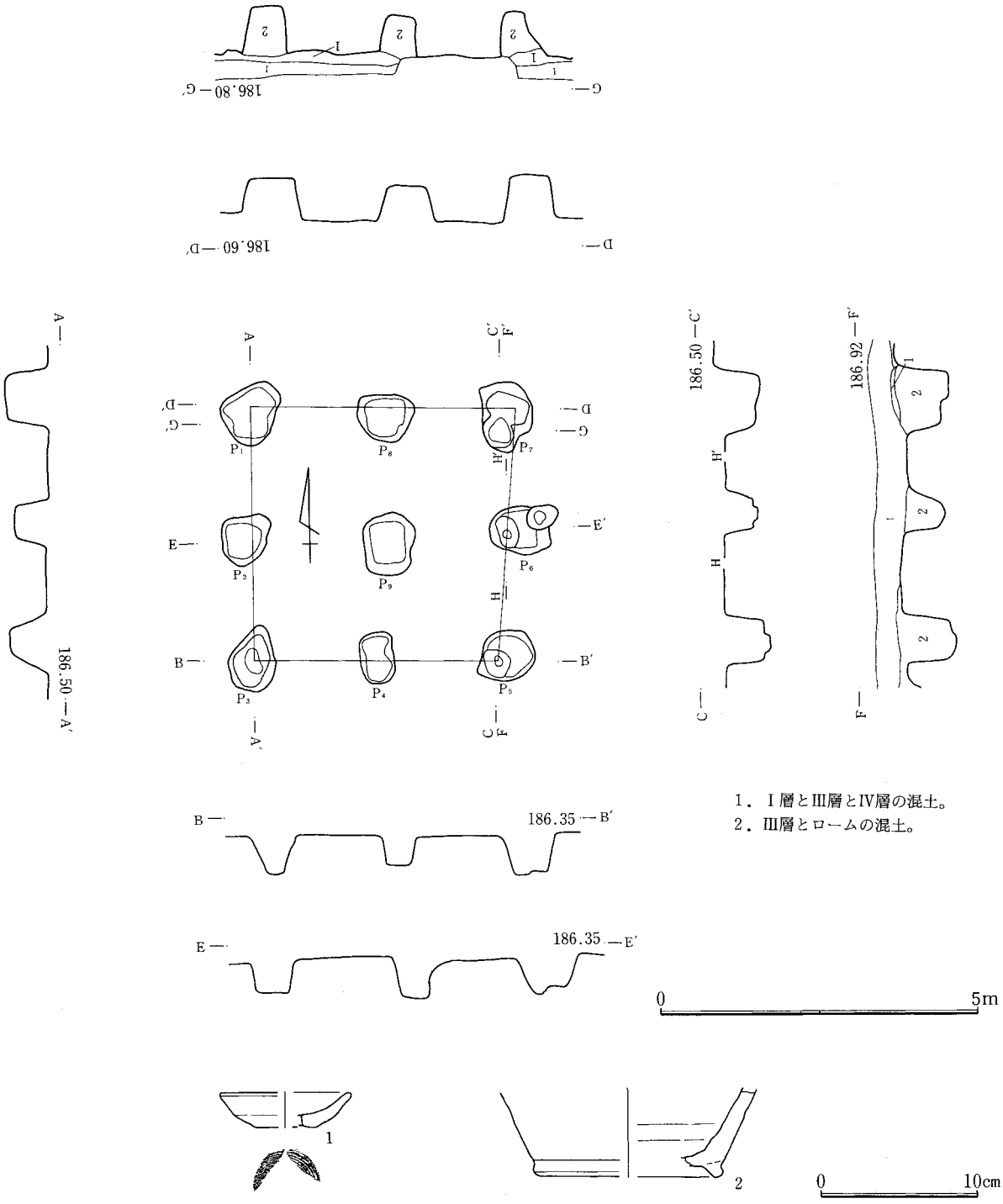
図—292　K—５—Ｉ号掘立柱建物跡平・断面図



図—293　K—5—II号掘立柱建物跡平・断面図、出土遺物実測図

K 6号掘立柱建物跡　(図—294　表4—109)

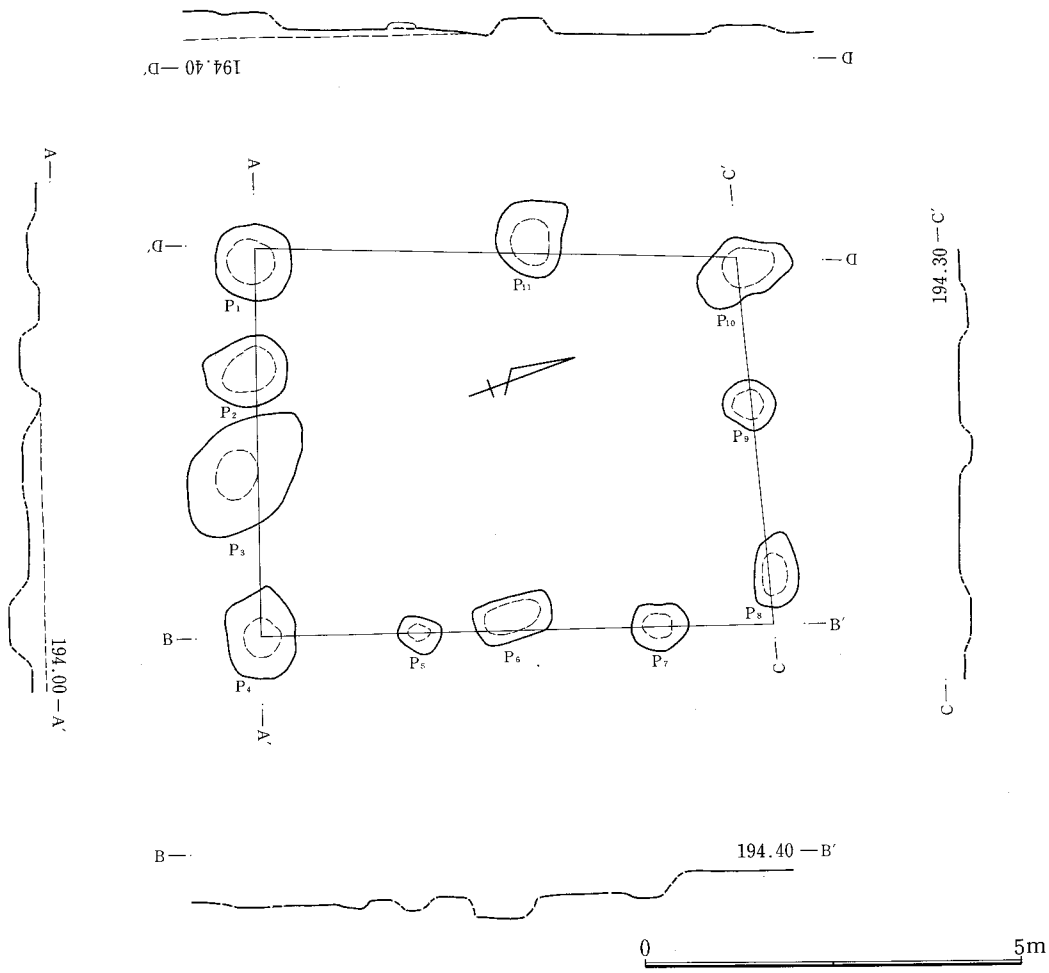
位置　調査区中央のII—4区に位置する。周囲は竪穴住居跡群で、掘立柱建物はK—6の1棟である。　**形状**　東西2軒（4.2m〔北辺〕、3.9m〔南辺〕）、南北2間（4.0m）の総柱の建物である。面積は16.04㎡で長軸方位はN—1°—Wである。柱間寸法は、南北が北より2.1m+1.9m（西辺）、2.0m+2.0m（東辺）、2.0m+2.0m（中央辺）、東西が西より2.1m+2.1m（北辺）、2.0m+1.9m（南辺）、2.1m+1.9m（中央辺）である。　**柱穴**　方形に近い平面形を呈するものが多い。長径60～80cm。$P_{4,6,9}$は特に方形でのこる。柱穴の深さの差はほとんどない。60～70cm。$P_{5,6}$では柱痕がみられる。　**遺物**　小形坏、鉢が出土。



図—294　K—6号掘立柱建物跡平・断面図、出土遺物実測図

K 7号掘立柱建物跡　(図—295)

位置　調査区北東のⅠ—120区に位置する。K—4の東に位置する。　**形状**　東西2間（4.3m〔北辺〕、3間、5.2m〔南辺〕)、南北2間（6.4m〔西辺〕、4間、6.7m〔東辺〕）の長方形。P_9、P_{11}を東辺に含んであるが、除くと東辺は2間で、全体は台形となる。面積は32.78m²で、長軸方位はN—20°—W。柱間寸法は、南北が北より2.7m+3.7m(西辺)、1.6m+2.0m+2.1m+2.0m（東辺で$P_{9,11}$を含む)、3.3m+3.4m（東辺で$P_{9,11}$を除く）で、東西が西より2.0m+2.3m（北辺)、1.6m+1.4m+2.2m（南辺）である。　**柱穴**　長円形状の平面が多い。規模には差がある。深さは全体に浅く、差はないが、部分的に底面レベルの低いところがある。



図—295　K—7号掘立柱建物跡平・断面図

3　土　　抗

P 1号土坑（方P 1）　（図—296　表4—109）

位置　調査区北東のI—194区。　**形状**　東西に長い長方形。東西2.2mで南北1.5mの断面はやや底辺の短い長方形。埋土は下層にロームブロックを含み、上層は混土層。形状等からみると墓壙に近いものか。　**重複関係**　I—2と重複する。地層断面よりみるとI—2が新しい。

P 2号土坑（方P 2）　（図—296　表4—109　図版—96）

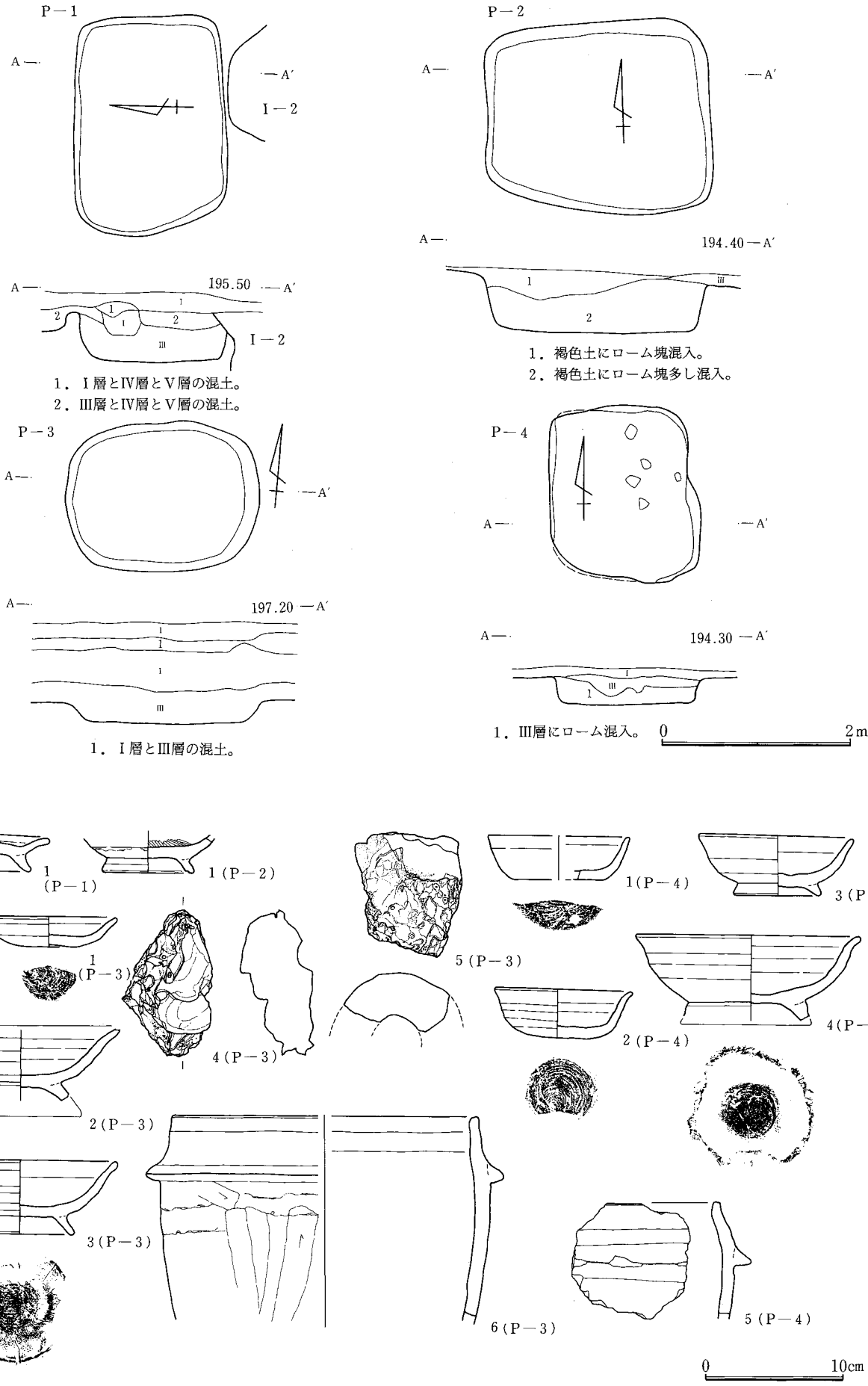
位置　調査区北東のI—193区。　**形状**　東西に長い長方形。東西2.2mで南北1.86m、断面は長方形に近い形状。埋土は下層にロームブロックを多く含み、上層にもまじっている。上層は混土層であり、比較的新しいピットとみられる。形状もP—1に似ており、同様の性格のものか。

P 3号土坑（方P 3）　（図—296　表4—109）

位置　調査区北東のI—196区。　**形状**　東西に長い隅丸長方形。東西1.84mで南北1.4m、断面は浅い皿状。埋土は住居の埋土に近い。北側に製鉄址1があり、P—3よりも鉄滓が出土している。製鉄関連施設の可能性をもつ。H—125が南に接する。

P 4号土坑（方P 4）　（図—296　表4—110）

位置　調査区北東のI—193区。　**形状**　南北にやや長い長方形。東西1.40mで、南北1.8m、長方形に近い断面をもつ。埋土は隣接するH—109に似た土層。ややロームを含む。地層断面からはH—109との新旧は不明。P—1・2と同様の性格のものか。



図—296　P－1～4号土坑平・断面図、出土遺物実測図

Ｐ５号土坑（方Ｐ５）　（図―297・298　表４―110）

位置　調査区北東のＩ―193区。Ｐ―４の南で、Ｈ―109の東に接する。　**形状**　東西にやや長い長方形。東西1.8mで南北1.40m。埋土は住居跡埋土に似る。上層に多量の炭化物を含む層があり、土器片も出土している。断面は長方形に近い。形状はＰ―１・２・４に似る。

Ｐ６号土坑（方Ｐ６）　（図―297・298　表４―110）

位置　調査区北東のＩ―196区。Ｈ―125の北。北に製鉄址１が、西にＰ―３が位置する。　**形状**　南北に長い長方形。東西0.9m、南北1.3m。埋土は住居跡埋土に似るが、ロームが多量に混入している。断面は浅い皿状。

Ｐ７号土坑（方Ｐ７）　（図―297・298）

位置　調査区北東のＩ―155・156区に位置する。Ｈ―153の南側で重複する。　**形状**　平面形は長円形＋方形で、断面は浅い皿状。東西2.1m、南北2.7m。埋土層はいずれもロームブロックを含み、土層の逆転（Ⅳ、Ⅴ層のブロックがⅢ層の上層にある）がみられる。形状と土層からみると根跡のピットか。Ｈ―153より新しい。

Ｐ８号土坑（方Ｐ８）　（図―297・298　表４―110）

位置　調査区北東のＩ―193区に位置する。Ｈ―109の西に位置する　**形状**　平面は南半が失なわれているが、台形か。東西1.4mで、南北推定2.0m。埋土は住居跡に似る。性格はＰ―４・５に似るか。Ｐ―４・５に近接。

Ｐ９号土坑（方Ｐ９）　（図―297・298　表４―111）

位置　調査区北東のＩ―193区。Ｈ―109と重複している。Ｈ―109よりも新しい。周囲はＰ―４・５・８が位置する。　**形状**　南北にやや長い長方形。南北1.78m、東西推定1.6m。ピット内に石材７石がのこる。　**重複関係**　Ｈ―109と重複。Ｐ―９が新しい。形状からみると近接するＰ―４・５・８と同様か。

Ｐ10号土坑（方Ｐ10）　（図―297・298　表４―111）

位置　調査区北東のＩ―175区。Ｈ―140の北に接する。　**形状**　平面形は円形。東西1.4m、南北1.4m。断面形は長方形に近い。埋土は住居跡埋土に近いが、下層には炭化物とロームブロック、上層は炭化物を含む。形状は円形の平面であるが、埋土は墓壙の様相をもつ。

Ｐ11号土坑（方Ｐ11）　（図―297・298　表４―111）

位置　調査区北東のＩ―156区に位置する。ピットの上をＷ―13が南北に走る。　**形状**　東西に長い長方形。東西2.44m、南北1.90m。埋土は住居跡埋土に近い。溝の埋土はＰ―11の埋土に似て、砂質である。状況からみるとＷ―13が新しいが、時期差はあまりないとみられる。埋土は炭化物・焼土を含んでおり、性格は墓壙か。

Ｐ12号土坑（方Ｐ12）　（図―298・299　表４―111）

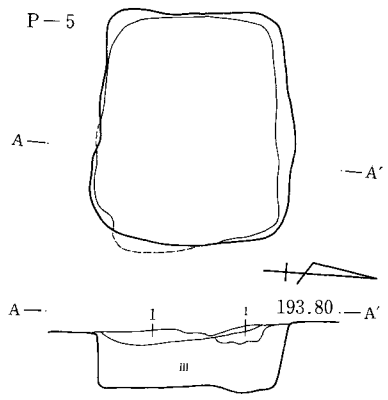
位置　調査区北東のＩ―155・156区に位置する。Ｈ―153・Ｐ―７の西側。　**形状**　長円形に近い。東西2.4m、南北1.05m。埋土は住居跡に似る。ロームとロームブロックがわずかにまじる。南側に一石のこる。底面は椀形の断面をもつ。性格は不明。

Ｐ13号土坑（方Ｐ13）　（図―299）

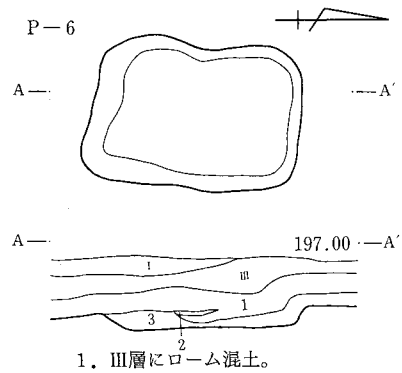
位置　調査区北東のＩ―157区に位置する。Ｈ―128の北東にあたる。西側にＷ―13が走る。　**形状**　南北にやや長い長円形。東西1.6m、南北1.74m。断面は椀状。形状からみると根跡にもみえる。

Ｐ14号土坑（方Ｐ14）　（図―299）

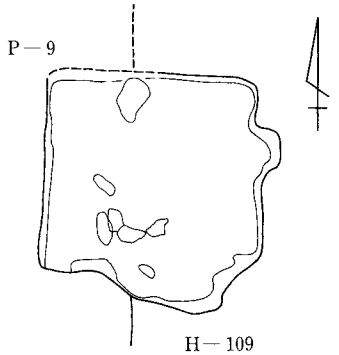
位置　調査区北東のＩ―213・214区に位置する。Ｈ―171の東に重複する。　**形状**　一部区域外だが、やや東西に長い

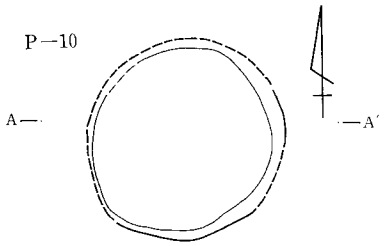


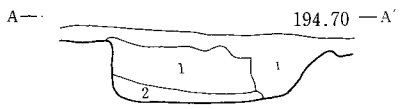
1．黒色土に炭化物混入。



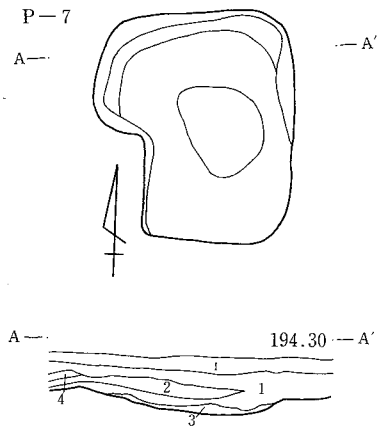
1．III層にローム混土。
2．ロームと黒色土混土。
3．III層にローム多量に混土。





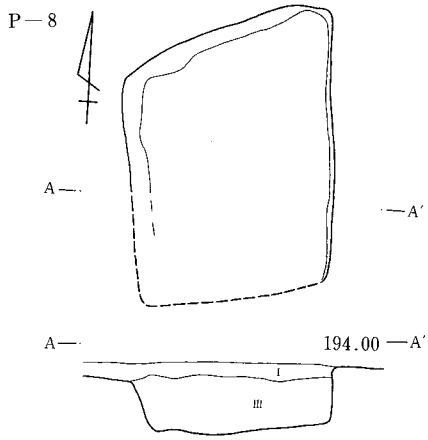


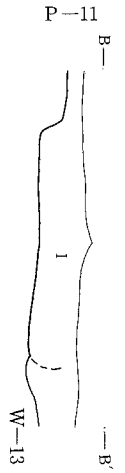
1．III層に炭化物混土。
2．III層に炭化物とローム混入。

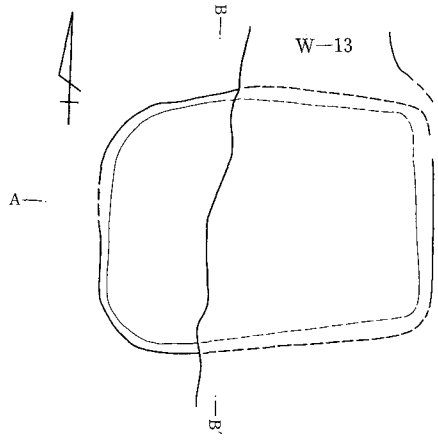


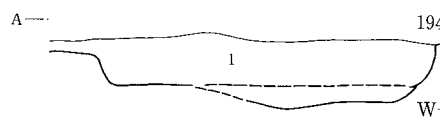
1．III層にIV層とV層の混土。
2．III層にローム塊混土。
3．III層とローム塊混土。
4．III層にローム少量混入。

0　3m





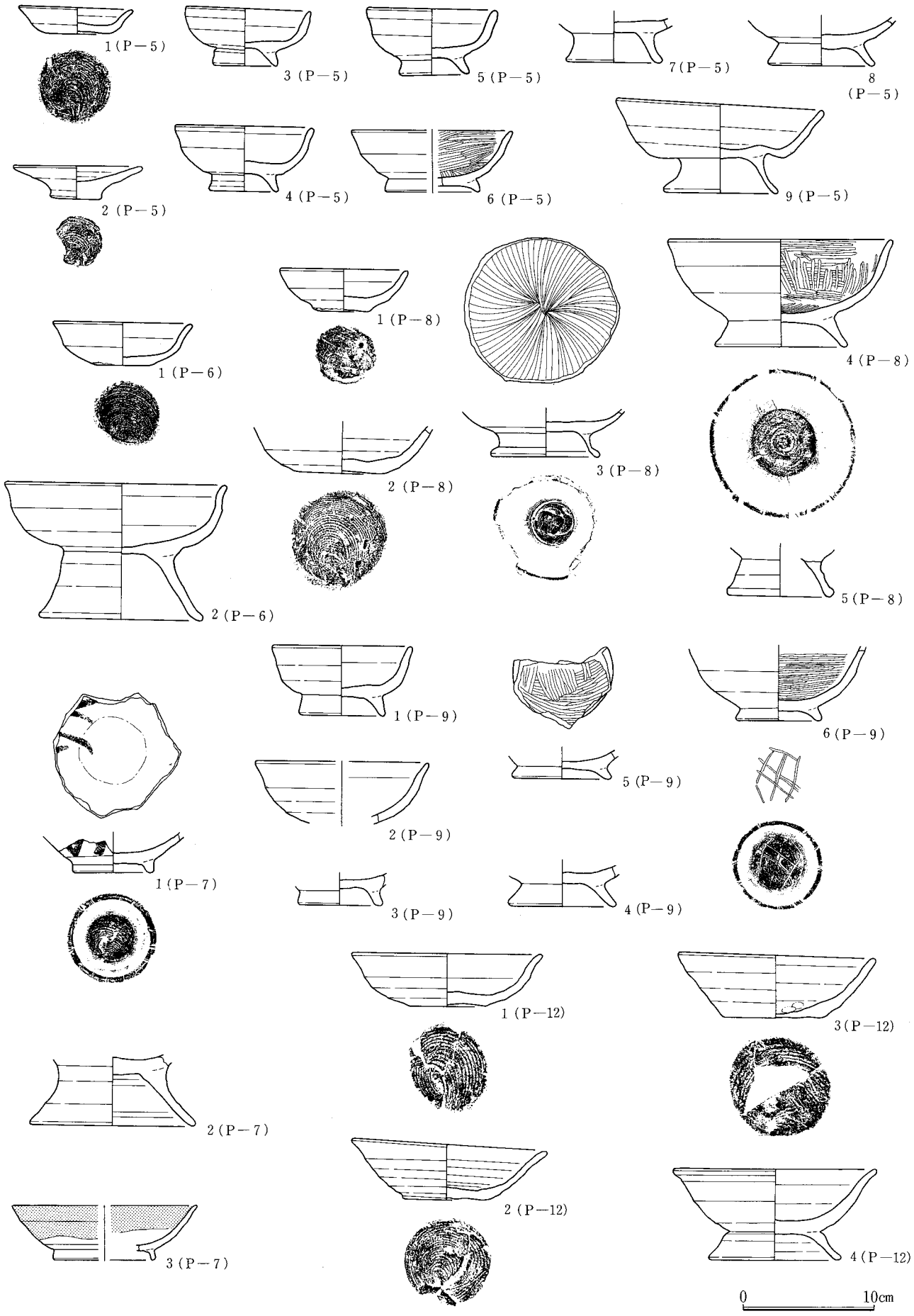




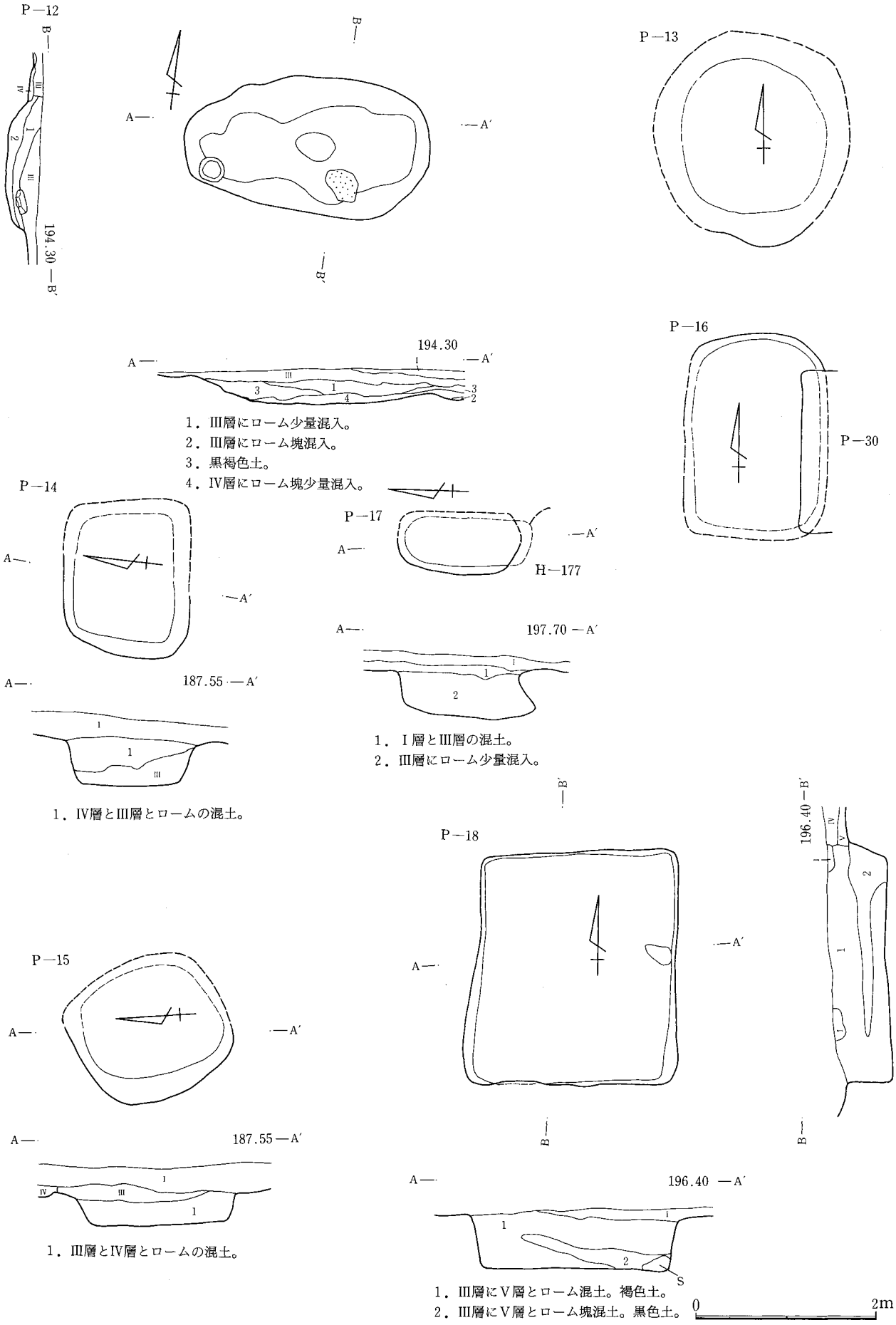
1．暗褐色土。上層は砂質。下層にローム混入。炭化物と焼土混入。

0　2m

図－297　P－5～11号土坑平・断面図



図－298　P－5～12号土坑出土遺物実測図



図—299　P—12～18号土坑平・断面図

長方形とみられる。東西想定1.4m、南北1.1m。埋土は下層（III層）は住居跡に似るが、上層にIV層やロームが含まれる。台形の断面。住居よりやや下る時期のものか。

P15号土坑（方P15）　（図—299）

位置　調査区北東のI—213・214区。H—171の東、H—161の南東。　**形状**　一部区域外だが、南北にやや長い隅丸長方形か。東西想定1.2m、南北1.3m。皿形の断面をもつ。下層にIII、IV層とロームを含み。上層にIII層がある。住居跡に近い時期のものか。

P16号土坑（方P16）　（図—299・300　表4—111）

位置　調査区北東のI—249区。H—183の東側。　**形状**　P—30との重複等で一部不明であるが、南北に長い隅丸の長方形。東西1.45m、南北想定2.1m。

P17号土坑（方P17）　（図—299）

位置　調査区北東のI—213区。H—177の東に位置する。　**形状**　南北に長い隅丸長方形。南側はやや袋状の断面となる。東西は想定0.5m、南北1.4m。埋土は住居埋土に近いIII層で、少量のロームブロックを含んでいる。南端はH—177のカマドがP—17を切っており、H—177が新しい。

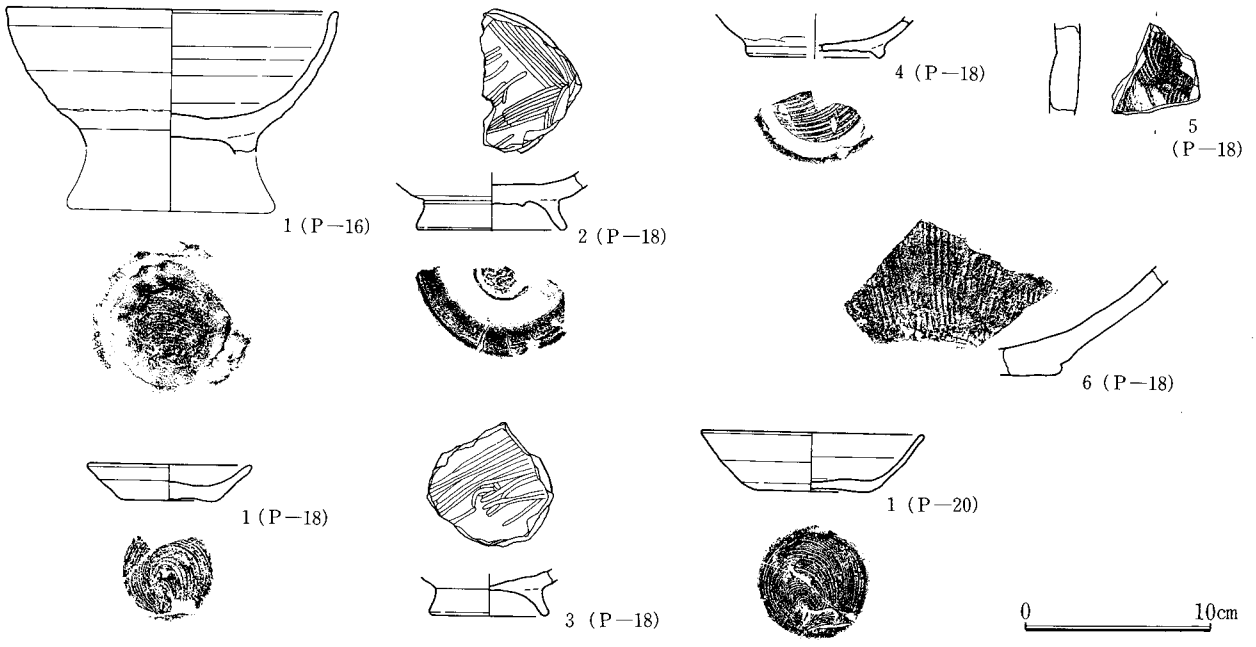
P18号土坑（方P18）　（図—299・300　表4—111）

位置　資料欠除により不明。P—17の近辺カ。　**形状**　南北にやや長い長方形。東西2.1m、南北2.55m。壁はほぼ直に切られ、底面は平坦である。東側壁下に焼石一石がのこる。埋土は全体にロームブロックが多く含まれており、混土が多い。短時間での掘削及び埋転が考えられる。小規模施設と考えることもできる。

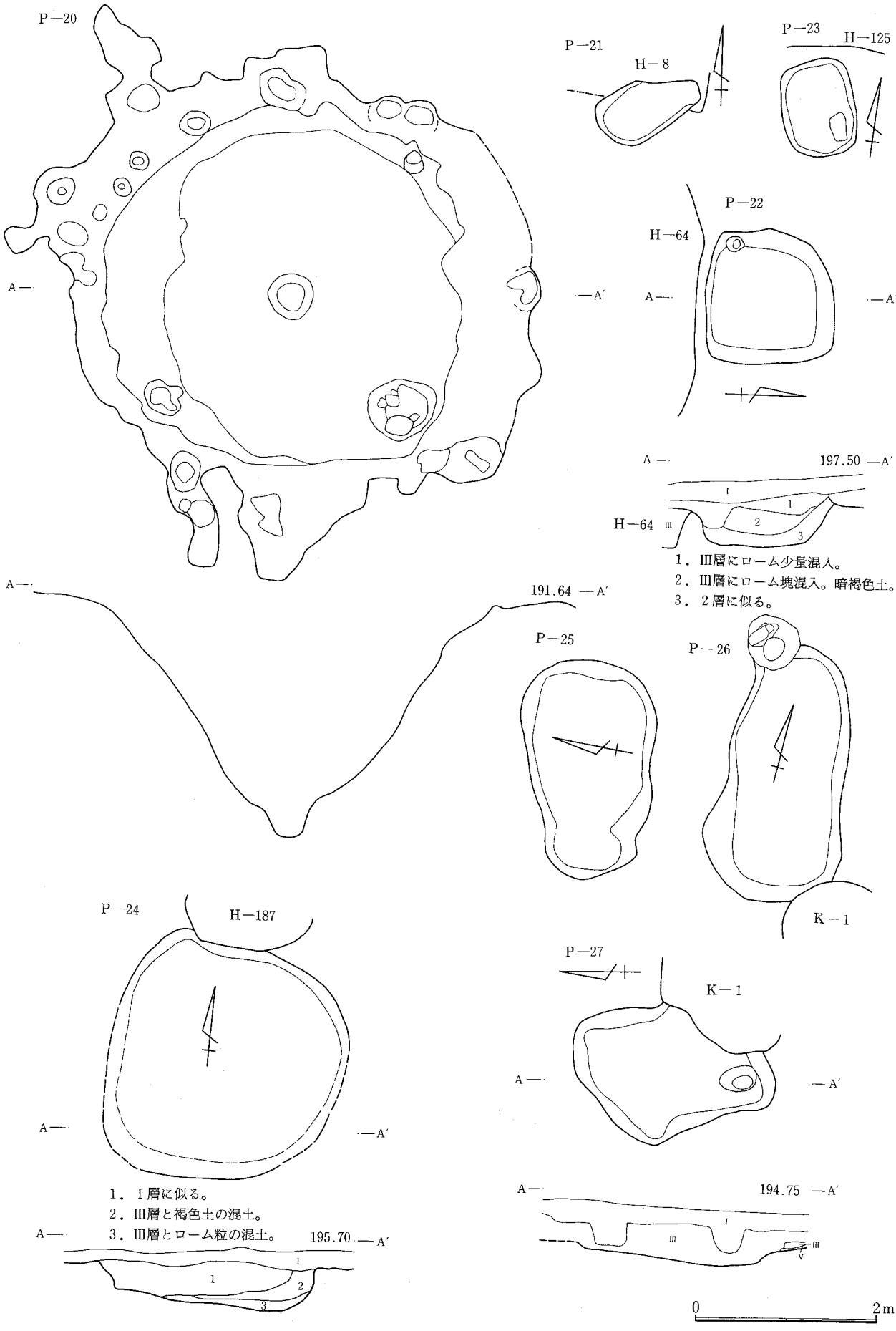
P19号（欠番）

P20号土坑（大形ピット）　（図—300・301　表4—111　図版—96）

位置　資料欠除により不明。　**形状**　円形。東西3.8m、南北3.65m、断面は逆三角形。底部はさらに小ピット状におちこむ。50×50cmで深さ23cm。周囲には多数の小土坑が囲んでいる。また、北東方向に溝状の遺構が続いている。形態からみると井戸様のものか。周囲の小ピットは施設に係わるものか。



図—300　P—16・18・20号土坑出土遺物実測図



図—301　P—20～27号土坑平・断面図

P21号土坑（方P21）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—141区。H—8と重複している。　**形状**　やや南北に長い隅丸長方形。東西1.04m、南北2.02m。H—8を削平して作られている。

P22号土坑（方P22）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—141区。H—64の北に位置する。　**形状**　隅丸方形。東西1.1mで、南北1.1m。南西隅に小ピットがあり、一石がのこる。埋土は住居埋土に同じであるが、上層までロームブロックを含んでおり、近い時期に埋転がなされたとみられる。H—64より新しい。

P23号土坑（方P23）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—196区。H—125と重複する。　**形状**　南北にやや長い長方形。東西0.68mで、南北0.98m。南東隅に一石がのこる。H—125より新しいもの。

P24号土坑（方P24）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—21区。H—187と重複する。　**形状**　円に近い隅丸方形。東西1.54mで、南北1.50m。埋土は耕作に似た土で、下層に住居埋土とロームとの混土層がみられる。土層からみると比較的新しいものか。　**重複関係**　H—187の埋土を切りこんでおり、P—24が新しい。

P25号土坑（方P25）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—120区に位置する。K—1の南西。　**形状**　東西に長い隅丸長方形。東西2.14mで、南北1.14m。

P26号土坑（方P26）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—120区に位置する。K—1内。　**形状**　南北に長い長円形。東西1.08mで南北2.74m。北端に一石がのこる。P—25に似た形状であり、用途も同様か。

P27号土坑（方P27）　（図—301）

位置　調査区北東のⅠ—120・128区に位置する。K—1—P_4と重複。　**形状**　南北に長い不整長方形。東西1.14mで南北2.78m。埋土は住居跡に近いIII層。

P28号土坑（方P28）　（図—302）

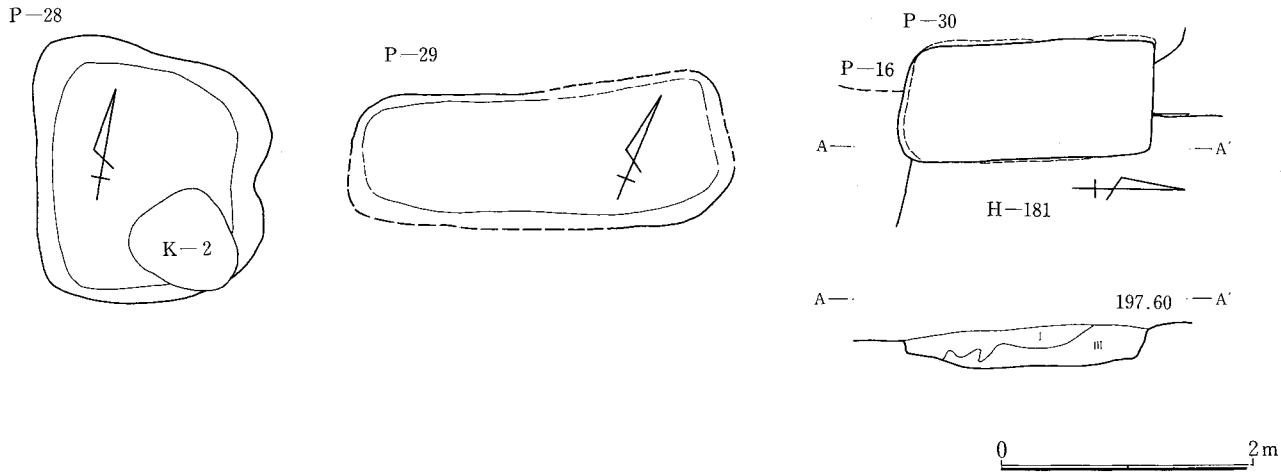
位置　調査区北東のⅠ—138区に位置する。K—2—P_4と重複する。　**形状**　東側のすぼまる台形。東西1.4mで南北1.8m。

P29号土坑（方P29）　（図—302）

位置　調査区北東のⅠ—173区。H—151と重複する。　**形状**　東西に長い隅丸の長方形。東西2.66mで南北0.76m。埋土は表土にほぼ同じ。比較的新しいものと考えられる。　**重複関係**　H—151と重複する。土層等からみるとP—29が新しい。

P30号土坑（方P30）　（図—302）

位置　調査区北東のⅠ—249区。H—181、P—16と重複する。　**形状**　南北に長い長方形。東西0.9m、南北1.88m。埋土は下層が住居埋土に似る。上層は住居埋土に表土に近い土層とロームブロックの混土となっている。　**重複関係**　H—181、P—16と重複する。地層断面でみるとH—181はP—30より旧い。P—16とは不明。



図—302　P—28～30号土坑平・断面図

P31号土坑（HP 1）　（図—303）

位置　調査区南西のIII—29区。　**形状**　南北に長い長円形。東西0.45m、南北0.88m。断面は椀状でやや高低になる。埋土は黒色土で、埋土中には骨粉と炭化物を多量に含む。また、埋土中に焼石と比較的大きい炭化物片が入る。現状で深さは12～3㎝であるが、表土は削平の跡があり、さらに10～20cm深さがあったと考えられる。火葬墓壙。

P32号土坑（HP 2）　（図—303）

位置　調査区中央部のI—24区。　**形状**　南北に長い長方形。東西0.89m、南北1.73m。長方形に近い断面をもつ。埋土は住居跡埋土に似た土層でややロームがまじっている。住居跡に近い時期の土坑と考えられる。

P33号土坑（HP 3）　（図—303）

位置　調査区中央部のI—24区。　**形状**　南北に長い長円形。東西0.92m、南北1.33m。東壁下と西壁下に小ピットをもつ。相対する位置にある。深さは東側が底面下28cm、西側が底面下38cm。P33号土坑にかかわる施設のものか。埋土は住居埋土に同じIII層。南端より石斧2点出土。底面ほぼ平坦である。

P34号土坑（HP 4）　（図—303）

位置　調査区中央部のIII—2区。　**形状**　南北に長い長円形。東西0.59m、南北1.22m。椀形の断面をもつ。埋土は住居跡埋土に似る。底面に薄く炭化物が出土している。壁面は特に焼けたところはない。火葬による墓壙カ。

P35号土坑（HP 5）　（図—303）

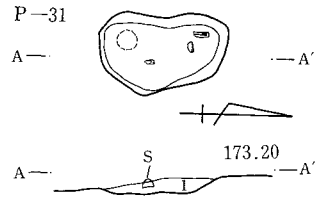
位置　調査区南部のIII—24区に位置する。H—43と重複する。　**形状**　やや南北に長い円形。東西1.06m、南北1.26m。埦形の断面をもつ。埋土でみると住居埋土のIII層にロームがまじった土で、地層断面でみると、住居跡廃棄後に作られていることがわかる。H—43より新しい。

P36号土坑（HP 6）　（図—303）

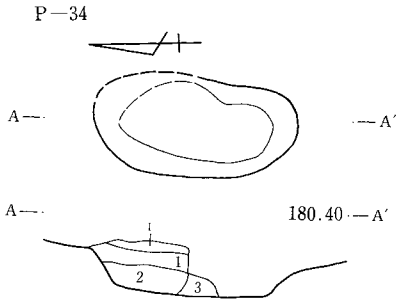
位置　調査区北東のI—141・159区。H—79の南東に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。東西0.97m、南北1.34m。逆台形に近い断面をもつ。埋土は住居埋土に近い土層であるが、最下層には炭化物を含む。上層の土層は住居に同じであり、住居に近い時期に作られたものか。墓壙の可能性をもつ。

P37号土坑（HP 7）　（図—303）

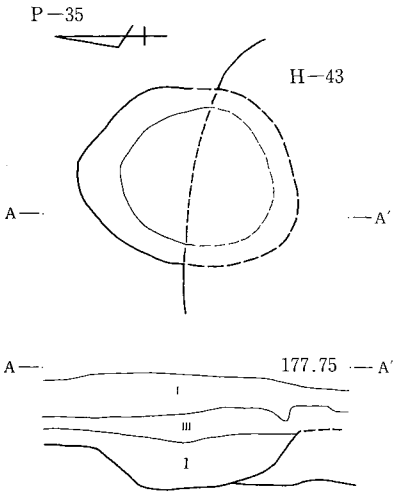
位置　調査区北東のI—178区に位置する。H—101と重複する。　**形状**　東西に長い隅丸長方形。現状で東西1.1m、南北0.74m。断面は逆台形に近い。埋土は住居埋土に似るが、やや褐色が強い。また、中央部に落ちこみがあり、焼石が検出されている。埋土からみると住居跡に近い時期のもので、住居跡以前のもの。



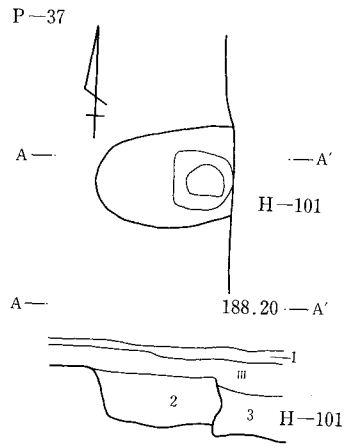
1．黒色土に炭化物混入。



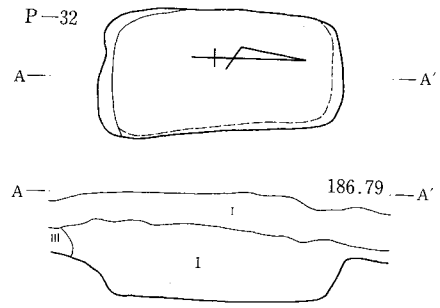
1．Ⅰ層に似る。炭化物混入。
2．褐色土。ローム混入。
3．黒色土。



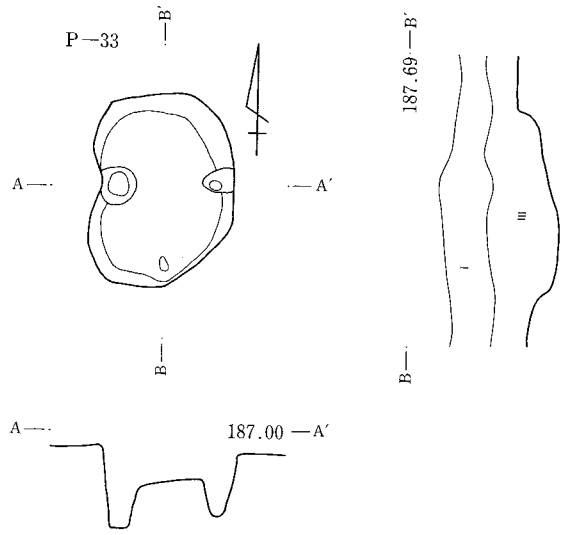
1．Ⅲ層とロームの混土。

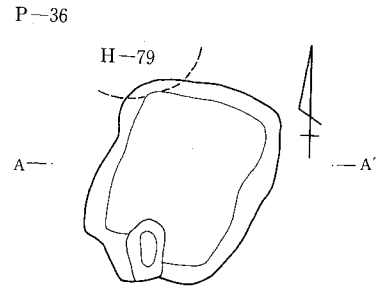


1．B軽石を主とする土層。
2．Ⅲ層に近い黒褐色土。
3．Ⅲ層に近い黒色土。

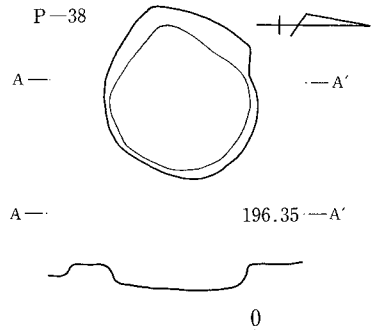


1．Ⅲ層にローム塊混入。



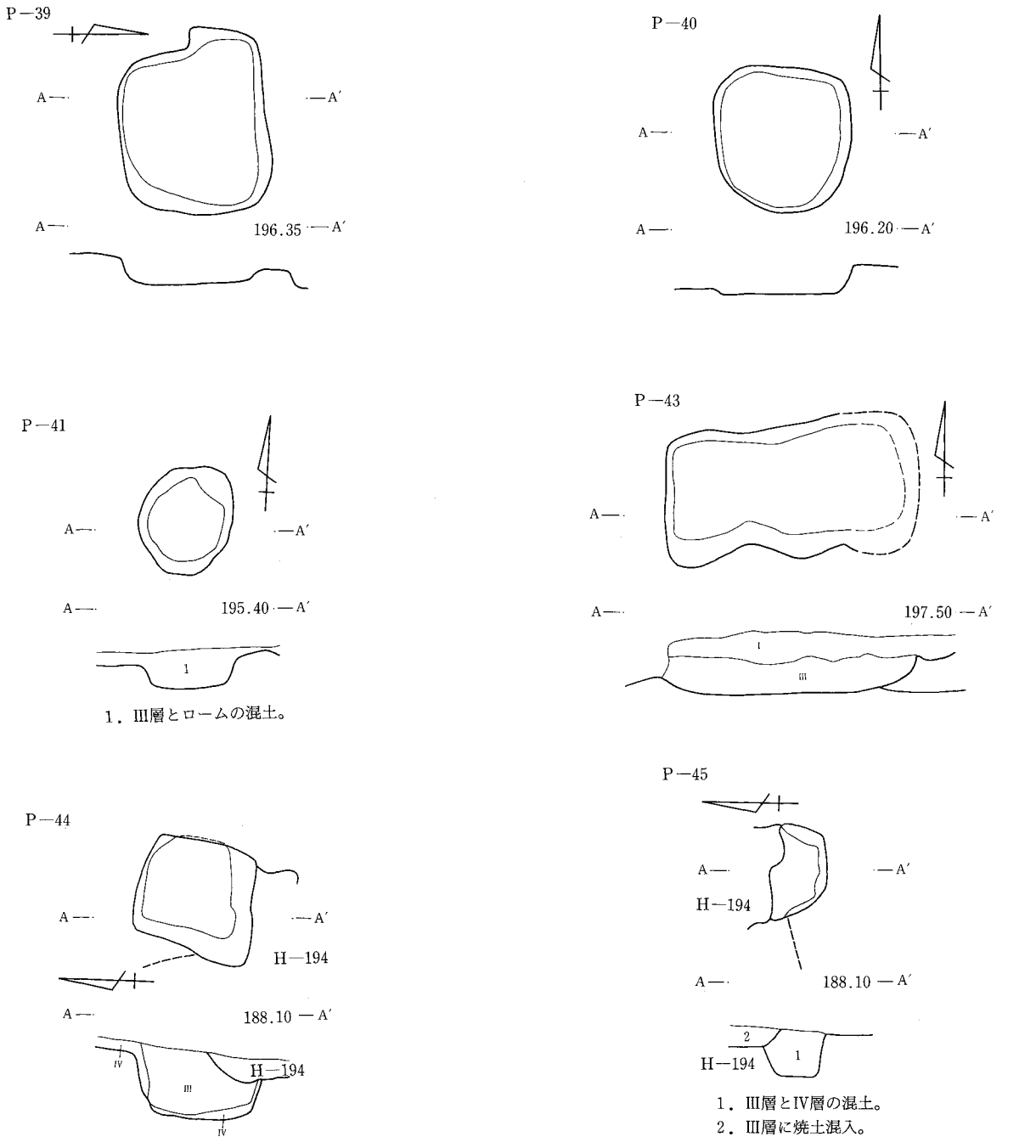


1．Ⅲ層に似る。
2．Ⅲ層に炭化物混入。



0　2m

図—303　P—31～38号土坑平・断面図



図—304　P—39～41・43～45号土坑平・断面図

P38号土坑（HP8）　(図—303)

位置　調査区北東のⅠ—195・213区。H—163と重複する。P39号土坑、P40号土坑に近接する。　**形状**　円形。東西1.13m、南北1.1m。

P39号土坑（HP9）　(図—304)

位置　調査区北東のⅠ—195・213区に位置する。H—163に重複する。P38号土坑、P40号土坑に近接する。　**形状**　やや東西に長い隅丸の長方形。規模は東西1.54mで、南北1.21m。H—163よりも新しい。

P40号土坑（HP10）　(図—304)

位置　調査区北東のⅠ—195・213区に位置する。H—163に重複する。P38号土坑、P39号土坑に近接する。　**形状**　やや円に近い、南北に長い長方形。規模は東西1.14m、南北1.22m。H—163より新しい。

P41号土坑（HP11）　（図—304）

位置　調査区北東のI—229•230区に位置する。H—202の西に位置する。　**形状**　円形。規模は東西0.69m、南北0.82m。埋土は住居跡に似るが、ロームブロックの混入がみられる。

P42号土坑（HP12）　欠番

P43号土坑（HP13）　（図—304）

位置　調査区北東のI—159区に位置する。H—234の西に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。規模は東西2.13m、南北0.85m。断面は皿型で、底面はほぼ平坦である。埋土は住居跡埋土にほぼ同じIII層である。住居跡に近い時期に作られたものか。

P44号土坑（HP14）　（図—304）

位置　調査区北東のI—189区に位置する。　**形状**　方形。規模は東西0.83m、南北0.80m。断面は長方形に近い。埋土は住居跡埋土に近いIII層。下層にIV層。地断でみると上部にH—194のカマドがあり、H—194が新しいことがわかる。

P45号土坑（HP15）　（図—304）

位置　調査区北東のI—189区。　**形状**　不整方形。規模は東西0.88m、南北0.41m。断面は方形に近い。埋土は住居跡埋土に近いIII層とIV層の混土。地層断面によればH—194のカマドの下にあたる。H—194が新しい。

P46号土坑（P 1）　（図—305）

位置　調査区中央部のI—4区。H—28の北東に位置する。　**形状**　円形。規模は東西0.53mで南北0.62m。断面は長方形に近い。埋土は砂質土。近世の土坑とみられる。

P47号土坑（P 2）　（図—305）

位置　調査区中央部のI—3・4区。H—29と重複する。　**形状**　底面は隅丸長方形に近い。規模は東西1.42mで南北2.21m。断面は半円形。西側隅に6石が固まってのこる。埋土は中、下層に黒色土で、上層はロームが埋まる。黒色土の上層には焼土が含まれている。地層断面によりP—47がH—29より新しい。

P48号土坑（P 3）　（図—305）

位置　調査区中央部のI—2区。H—30と重複する。　**形状**　東西に長い隅丸長方形。規模は東西1.52mで南北0.82m。断面は椀型で、平坦な底面をもつ。埋土は炭化物を多く含む黒色土に、ロームまじりの褐色土、炭化物を含む黒褐色土、ロームまじりの褐色土が交互に入る。人為的埋転。壁面が強く焼けていることも合わせると火葬の直葬墓か。H—30より新しい。

P49号土坑（P 4）　（図—305）

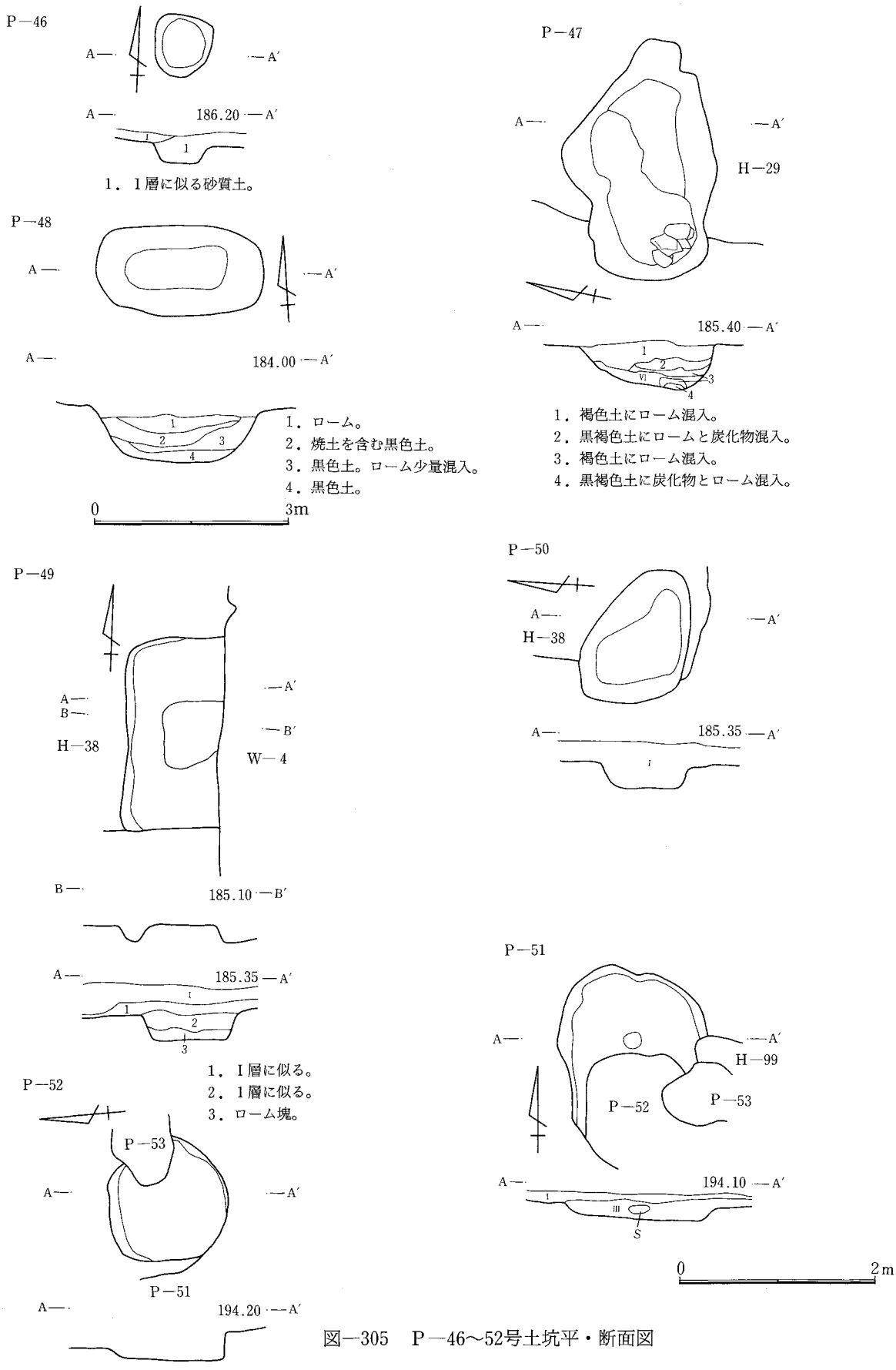
位置　調査区中央部のII—21区。H—38と重複する。　**形状**　現状では南北に長い長方形。W—4で東半が削平されているとみられる。原型は方形カ。規模は東西が現状で0.91m、南北が1.96m。断面は台形。埋土は下層にロームブロック層、上層にIII層を含むかくらん層がある。また、床面やや上に焼土がある。H—38より新しい。

P50号土坑（P 5）　（図—305）

位置　調査区中央部のII—21区。H—38と重複する。　**形状**　不整長円形。規模は東西0.93mで南北0.98m。断面は深い皿型。埋土は表土に同じ。埋土中より馬の骨が出土しており、馬の埋葬穴とみられる。

P51号土坑（P 6）　(図—305)

位置　調査区北東のⅠ—193区。H—99と重複する。P—52、P—53と重複する。　**形状**　P—52、P—53と重複し、一部不明であるが円形。現状で東西1.62m、南北1.21m。断面は浅い皿状。土層中段に一石。P—51を作る時にH—99のカマドを削平したものとみられる。埋土は住居に似ている。P—52、P—53よりも旧い。



図—305　P—46～52号土坑平・断面図

P52号土坑（P 7）　（図—305）

位置　調査区北東のⅠ—193区。H—99に重複する。P—51、P—53に重複する。　**形状**　円形。東西1.08m、南北1.21m。重複の状況でみるとP—51より新しく、P—53より旧い。

P53号土坑（P 8）　（図—306　表4—113）

位置　調査区北東のⅠ—193区。H—99に重複する。P—51、P—52に重複する。　**形状**　円形。東西0.50m、南北0.44m。断面は直方形に近い。埋土は住居埋土のIII層にロームブロックがまじった土。　**重複関係**　H—99、P—51、P—52のいずれよりも新しい。

P54号土坑（P 9）　（図—306）

位置　調査区北東のⅠ—175区。H—148に重複する。　**形状**　東西に長い長方形。規模は東西1.85m、南北0.92m。断面は皿型に近い。埋土はⅠ～Ⅴ層にロームブロックの混土で、近世の土坑とみられる。

P55号土坑（P10）　（図—306）

位置　調査区北東のⅠ—211区。H—214、H—197に重複する。　**形状**　円形。規模は東西0.80m、南北0.63m。断面は塊形。埋土は下層が炭化物を含むIV＋III層。上層は下層に似るがロームブロックの混入がある。上面に一石。付近にあるP—70などの土坑群に似る。建物跡として組めないので単独の土坑として扱う。

P56号土坑（P11）　（図—306）

位置　調査区北東のⅠ—65区。　**形状**　円形。規模は東西0.95m、南北0.98m。断面は逆台形。地層断面の記録はないが、土坑中より多数の遺物が出土している。状況からみて、住居跡と同時期の土坑カ。

P57号土坑（P12）　（図—306）

位置　調査区北西のII—9区に位置する。　**形状**　円形。規模は東西が1.02m、南北が1.07m。断面は逆台形。地層断面の記録はないが、中位より土器、石器、石が多数出土している。住居と同時期の土坑とみられる。

P58号土坑（P13）　（図—306）

位置　調査区北西のII—26区に位置する。　**形状**　円形。規模は東西1.34m、南北1.14m。断面は不整形でややえぐれている。埋土についての記載はない。埋土の上層中より、石材及び土器が出土している。住居と同時期の土坑とみられる。

P59号土坑（P14）　（図—306）

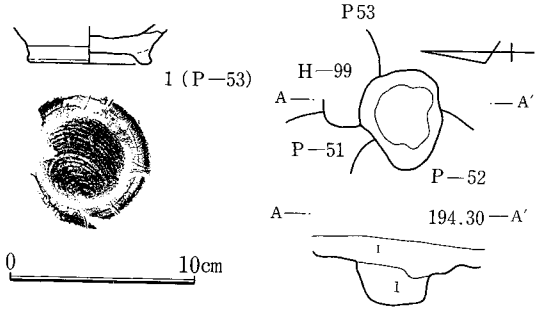
位置　調査区北のⅠ—5区に位置する。　**形状**　円形。規模は東西1.30m、南北1.30m。断面は逆台形を示す。埋土はロームにほとんど同じで炭化物を含む非常に固い。また、上層中に石材一石を含む。長径は60cm近い。状況からみると縄文時代の土坑とも考えられる。

P60号土坑（P15）　（図—307）

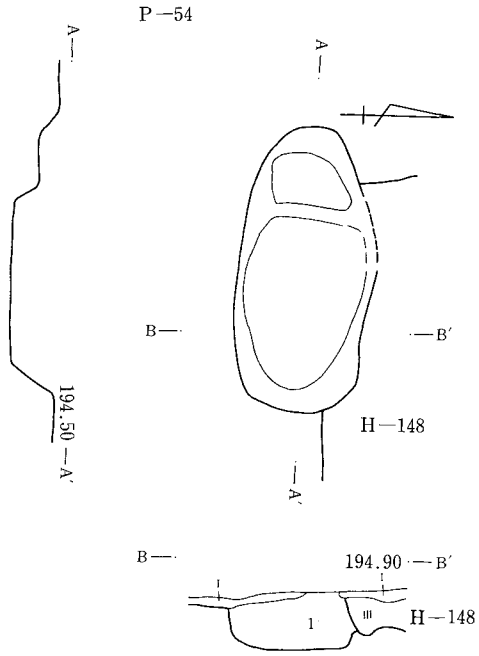
位置　調査区北側のⅠ—5区に位置する。　**形状**　円形。規模は東西1.12m、南北0.87m。断面は逆台形に近い。埋土は上層がIV層で下層がⅤ層。下層はVI層に近く、ロームのような土層。遺物の検出はないが、土層等からみると縄文時代の土坑とみられる。

P61号土坑（P16）　（図—307）

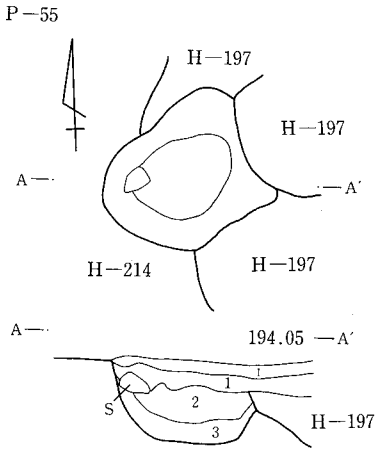
位置　調査区北側のⅠ—2・3区に位置する。　**形状**　長円形。規模は東西1.80m、南北2.24m。断面は皿状。地層断面についての記録はない。土坑内よりは石皿等の石器、土器が出土している。状況よりみて縄文時代の土坑と考えられる。



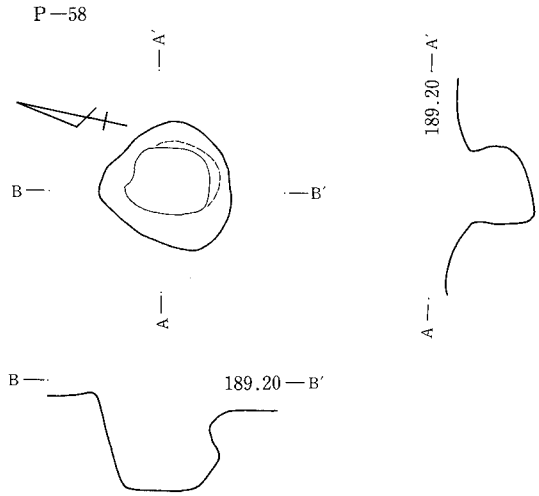
1．ローム塊とIII層の混土。

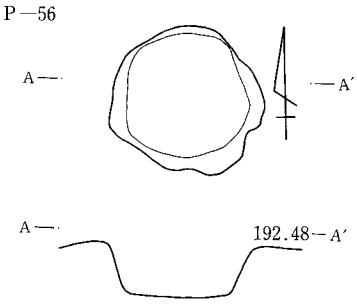


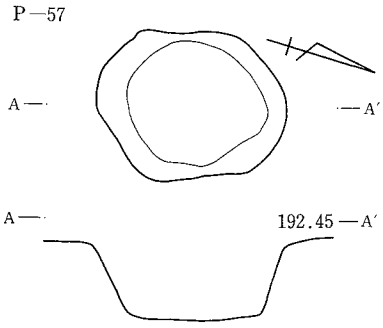
1．I～V層にローム混土。

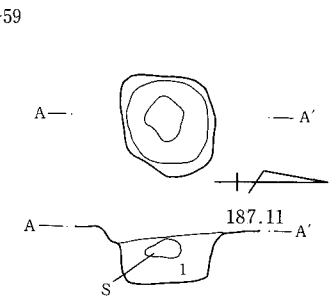


1．III層にIV層とローム塊混入。
2．1層にローム多量混土。
3．2層に炭化物混入。



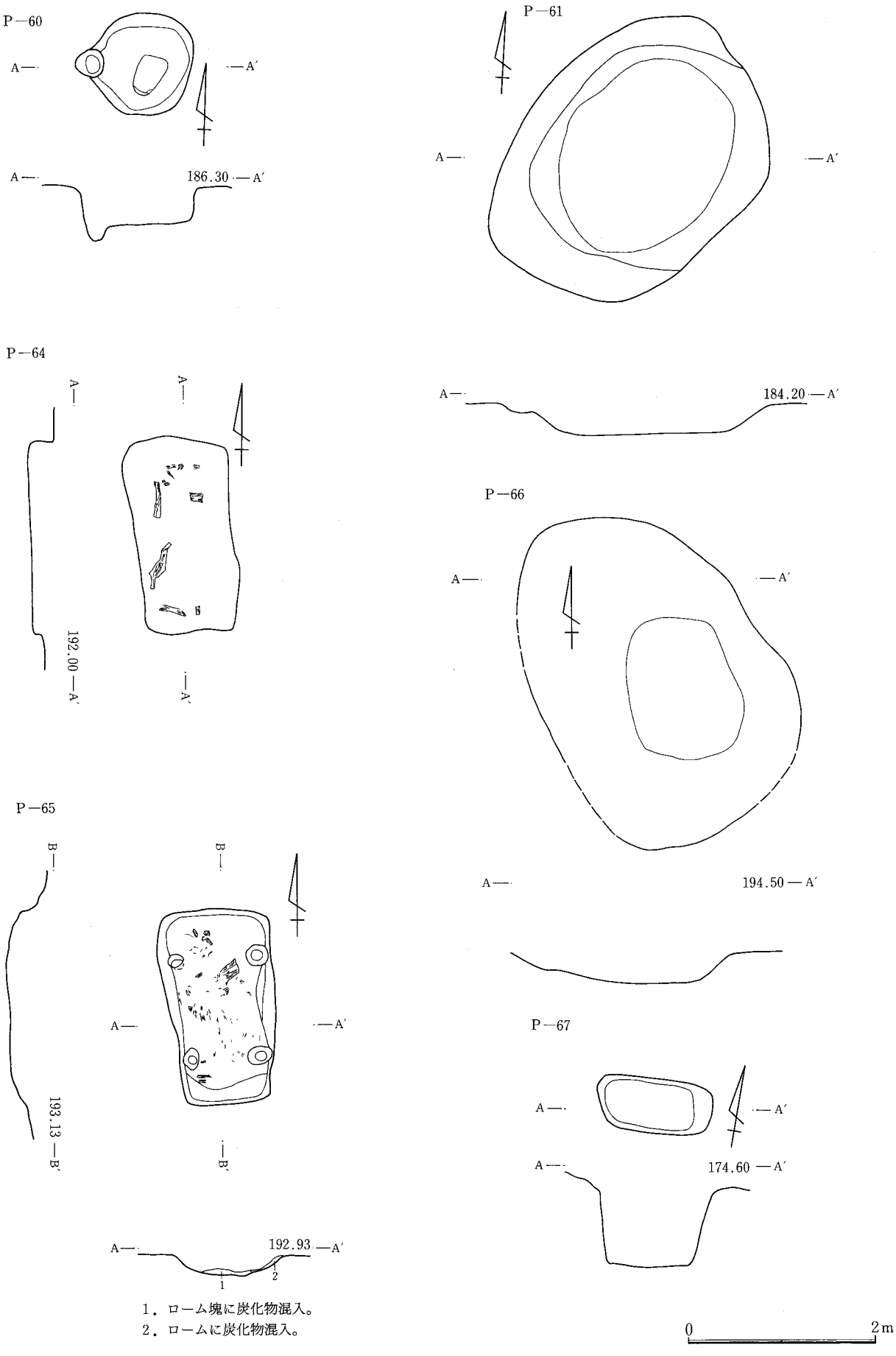






1．ロームに似る。炭化物混入。

図—306　P—53～59号土坑平・断面図、出土遺物実測図



図—307　P—60・61・64～67号土坑平・断面図

P64号土坑（P19）　（図—307）

位置　調査区北東のⅠ—49区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。規模は東西1.04m、南北2.09m、断面は直方形を示す。地層断面の記録はないが、多量の炭化物と土器が出土している。状況からみると火葬の直葬墓とみられる。

P65号土坑（P20）　（図—307）

位置　調査区北東のⅠ—48区に位置する。　**形状**　南北に長い長方形。東壁下と西壁下に2基ずつのピットをもつ。規模は東西が0.87mで、南北が1.99m。断面は浅い皿型。底面は一面焼けている。また、全体に多量の炭化物を含む。状況からみて火葬の直葬墓とみられる。ピットはこれに係わる施設のものか。遺体を乗せる台の柱カ。

P66号土坑（P21）　（図—307）

位置　調査区北東のⅠ—173区に位置する。H—154の東に位置する。　**形状**　南北に長い長円形。規模は東西1.25m、南北1.90m、断面は椀型。埋土は地層断面でみるとH—154を切っており、表土下で切りこまれている。比較的新しいものか。

P67号土坑（P22）　（図—307）

位置　調査区南西のⅢ—43区に位置する。J大P2内に位置する。　**形状**　東西に長い長方形。規模は東西0.95m、南北0.49m。断面は円筒形で深い。埋土の記録はない。

P68号土坑（P23）　（図—308）

位置　調査区南西のⅢ—43区に位置する。P—67、P—69に接する。　**形状**　円形。規模は東西1.45mで南北1.69m。断面は浅い長方形。埋土は暗褐色土にロームブロックを含んでいる。J大P2内だが、J大P2に付属するかもしれない。

P69号土坑（P24）　（図—308）

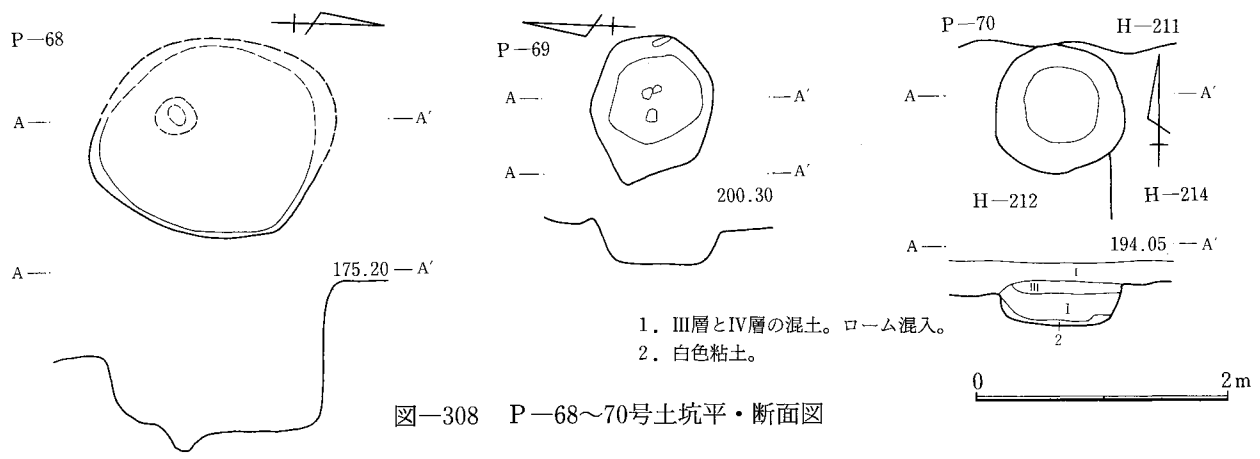
位置　調査区南西のⅢ—43区。P—67、P—68に接する。　**形状**　円形。規模は東西0.71m、南北0.68m。断面は椀状。埋土中に石材と炭化物を含む。P—69は大JP2に付属するものとみられる。

P70号土坑（P25）　（図—308）

位置　調査区北東のⅠ—21区。H—212と重複する。　**形状**　円形。規模は東西0.59m、南北0.63m。断面は逆台形。埋土は底部に白色粘土が入り、上層にはⅢ、Ⅳ層が含まれる。周辺に多数みられる土坑と係わりがあるとも考えられるが不明。

P71号土坑（方P7）　（図—309）

位置　調査区北東のⅠ—196区。F—1と重複する。　**形状**　方形。規模は東西1.74mで、南北1.84m。断面は浅い長方形。埋土はⅢ層。　**重複関係**　F—1と重複する。地層断面でみるとF—1よりも新しい。



図—308　P—68～70号土坑平・断面図

4　製　鉄　址

Ｆ１号製鉄址　(図―309・310　表４―112)

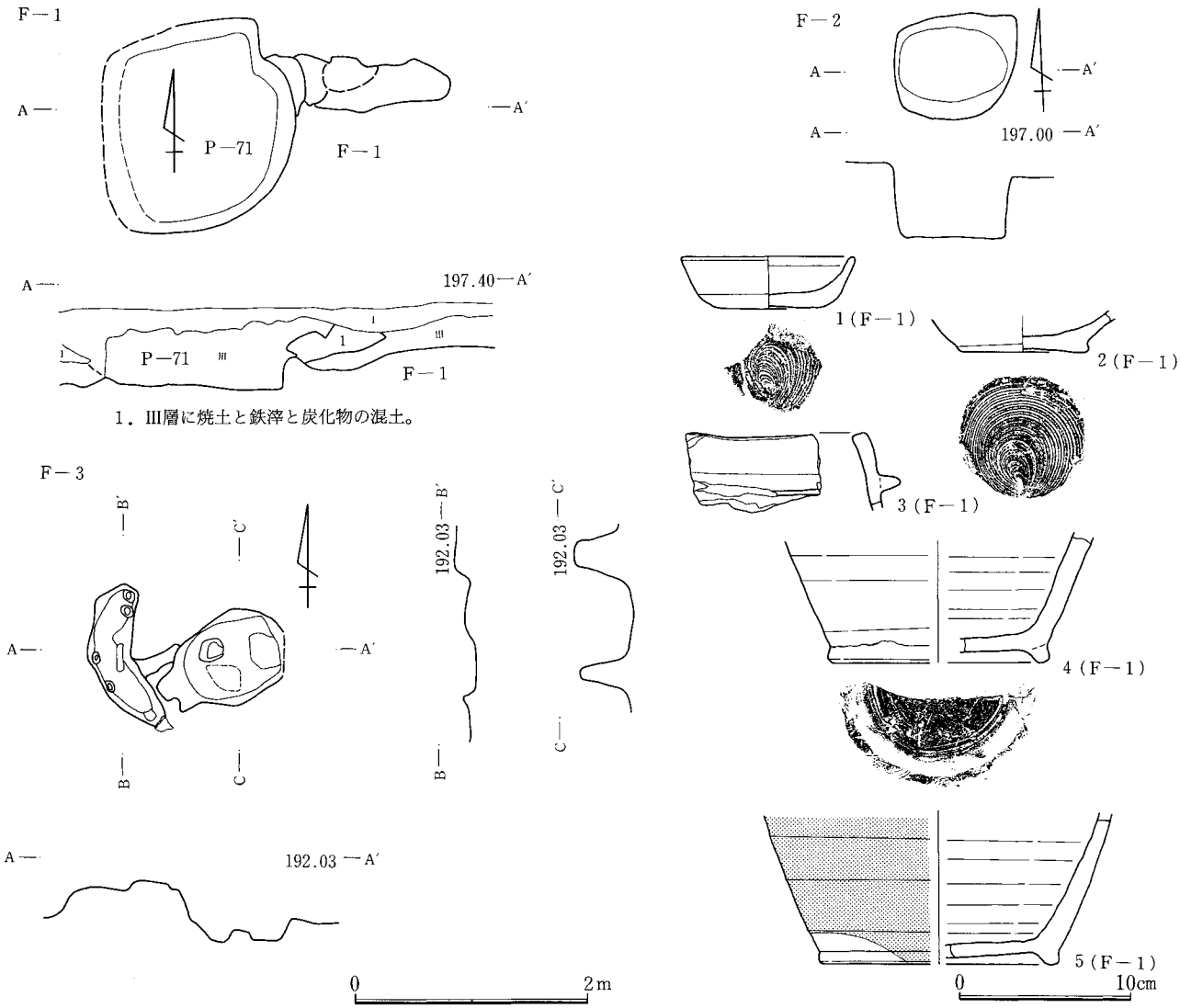
位置　調査区北東のⅠ―196区に位置する。住居跡群中に位置する。Ｐ―71と重複する。　**形状**　東西に長い長円形。一部Ｐ―71との重複で失なわれている。規模は現状で東西154cm、南北50cm。東側より鉄片が出土。Ｆ－１東側はぼろぼろした焼土の中に炭化物が含まれ、中央部は径４～12cmの鉄滓が出土する。西側は青ネズミ色で裏が白色の１～1.5cmの厚み固まりで、中に植物の繊維が入っている。中心部の西側が欠損しているが製鉄址と考えられる。埋土は住居跡の埋土に同様のⅢ層で、焼土と鉄滓、炭化物を含んでいる。

Ｆ２号製鉄址　(図―309・310表４―112)

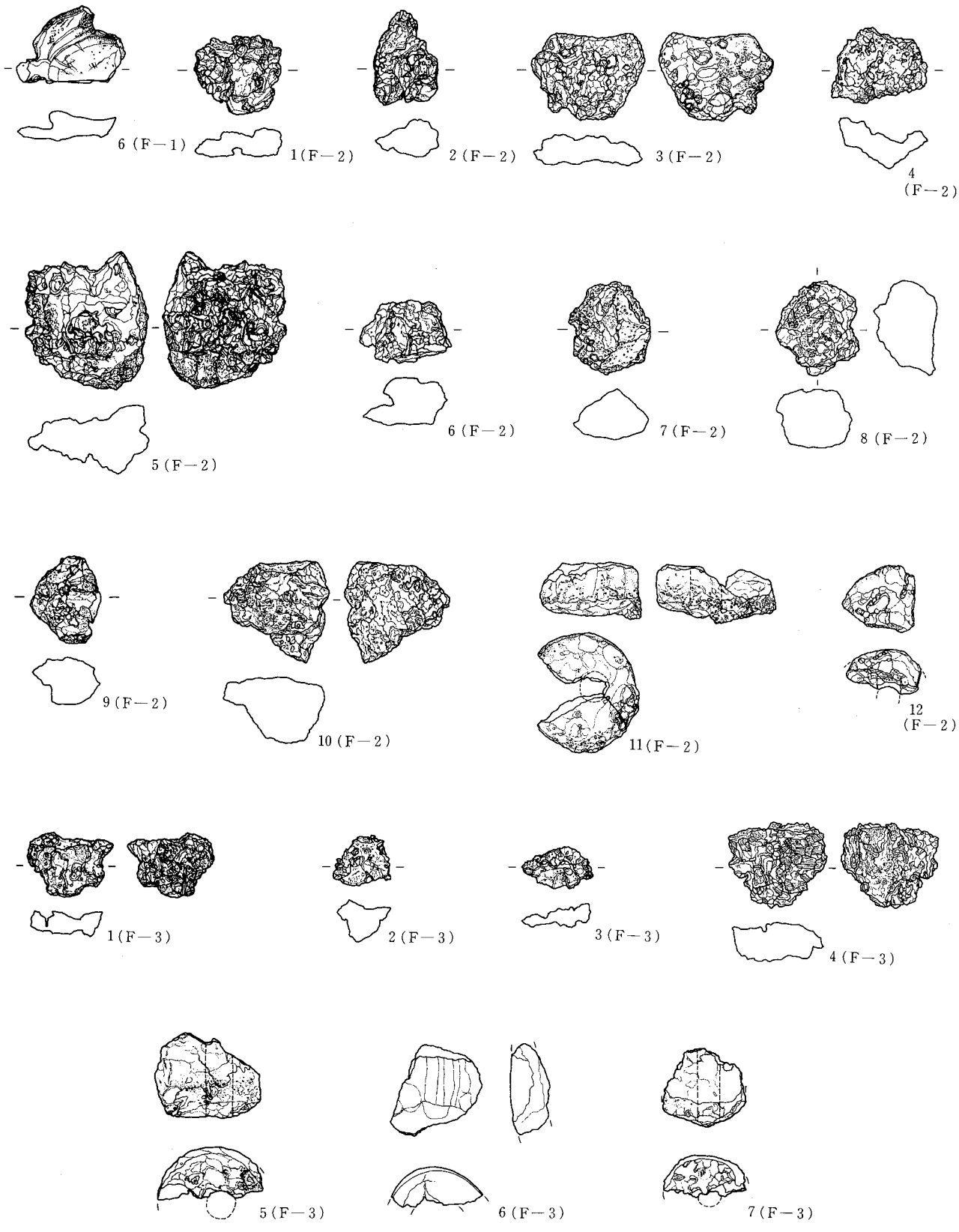
位置　調査区北東のⅠ―178区に位置する。　**形状**　円形。東西102cmで、南北92cm。断面は円筒形で深さ65cm。埋土中より多量の鉄滓の他に石材、フイゴ口が検出されている。

Ｆ３号製鉄址　(図―309・310　表４―112)

位置　調査区北西のⅠ―30区に位置する。　**形状**　円形の主部に半円形の張り出し部がつく。規模、全長は東西340cm、南北250cm。主部は円形で、規模は、東西が188cm、南北が150cm。張り出し部は東西74cmで、南北262cm。主部は椀形の断面に２ヵ所のくぼみがあり、若干の鉄滓がまじる。張り出し部は主部との接続部に２個のフイゴがのこる。南側に石材がのこり、中央部は焼けて鉄滓が多く出土する。



図―309　Ｐ―71号土坑、Ｆ－１～３号製鉄跡平・断面図、出土遺物実測図(1)



図—310　F－1～3号製鉄跡出土遺物実測図(2)

5　井　戸　跡

Ｉ２号井戸跡　（図―311）

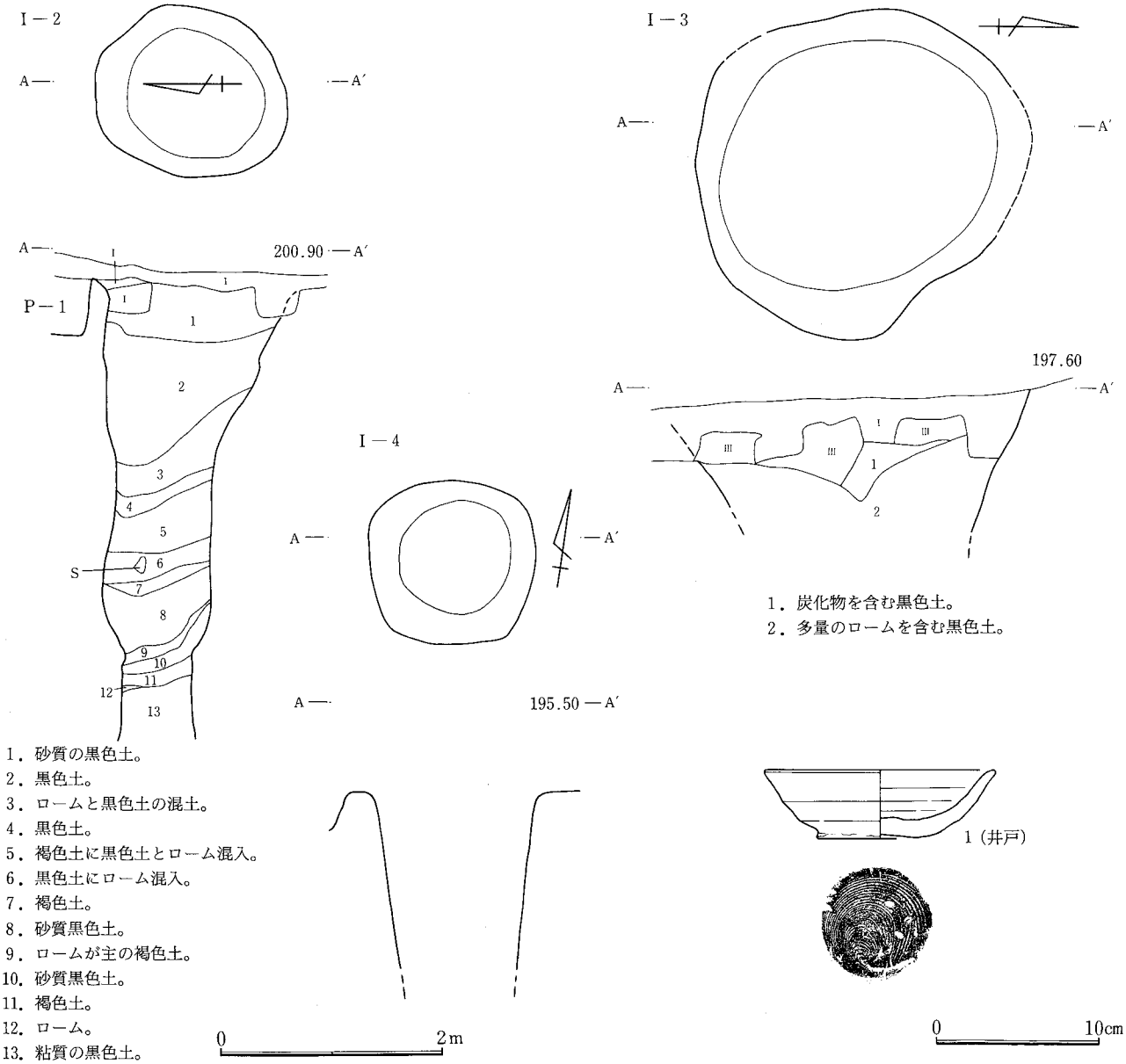
位置　調査区北東のＩ―194区。Ｐ―１に接する。住居跡群の中に位置する。　**形状**　円形。上面は東西154cmで南北172cm。ほぼ直に掘り込まれているが、上面より1.7m、3.5mの地点で細くなっている。埋土は黒色土を中心として、焼石を含む層をもつ。上面より５mの地点で水面となる。（Ｉ１号井戸は資料欠損で除く）

Ｉ３号井戸跡　（図―311）

位置　調査区北東のＩ―231・232区に位置する。住居跡群の内に位置する。　**形状**　円形。上面は東西292cmで、南北296cm。断面は一部しか資料が残存していないが、上層には住居跡埋土のIII層がみられる。断面は不明だが、Ｉ―２号に似るか。

Ｉ４号井戸跡　（図―311）

位置　調査区北東のＩ―212区に位置する。Ｉ―５に隣接する。Ｈ―189・190と重複する。　**形状**　円形。上面は東西147cm、南北150cm。ほぼ直に掘り込まれている。現状で165cmまで掘削。



図―311　Ｉ―２・３・４号井戸跡平・断面図、出土遺物実測図

Ｉ５号井戸跡　（図―312）

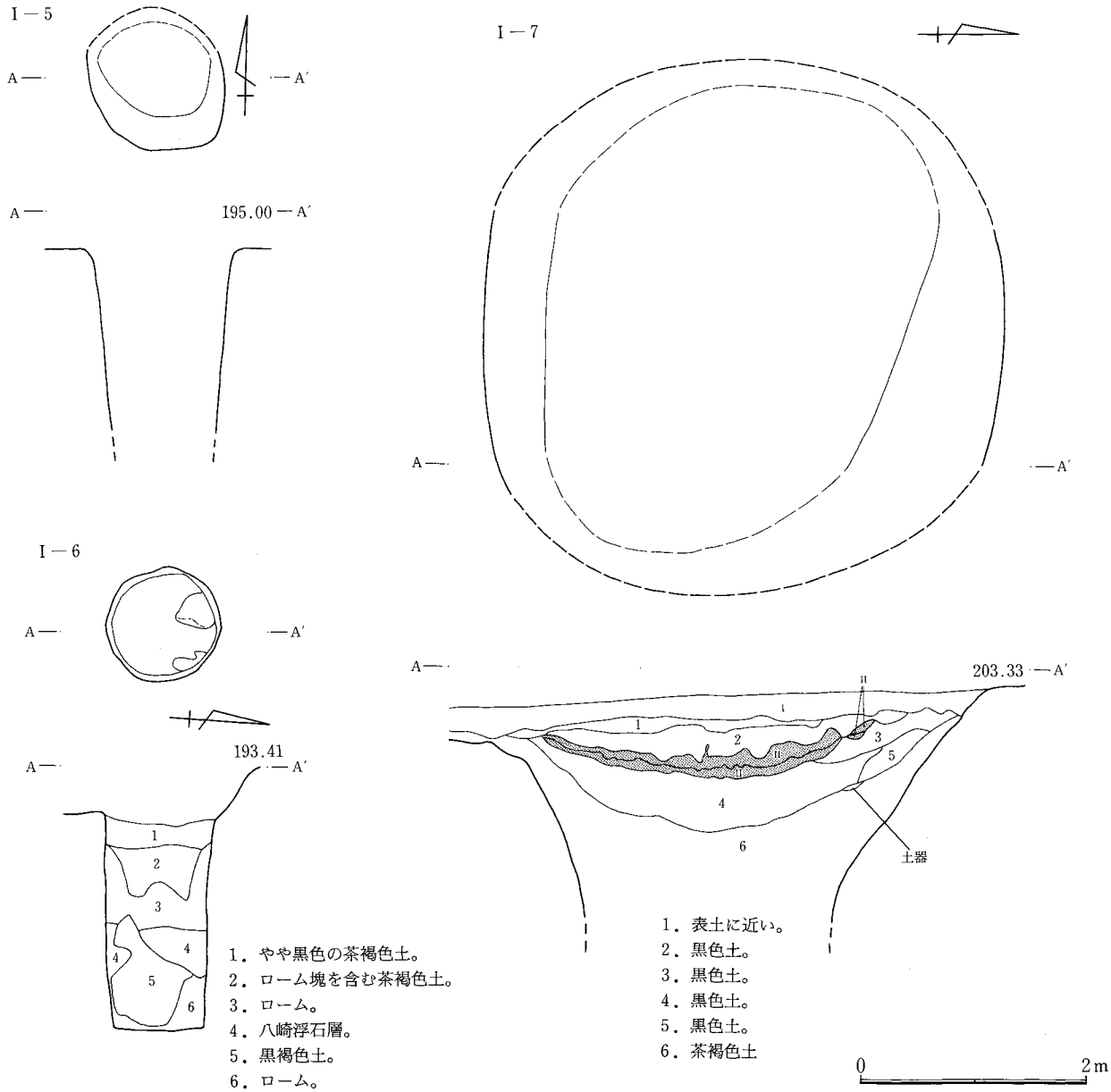
位置　調査区北東のＩ―212区。Ｉ－４号井戸跡に接する。Ｈ―189・190と重複する。　**形状**　円形。上面は東西が122cm、南北が128cm。ほぼ直に掘り込まれている。現状で約200cmまで掘削。

Ｉ６号井戸跡　（図―312）

位置　調査区南西のIII―46・64区に位置する。番城の濠際にあり、Ｊ大ピットに重複している。　**形状**　円形。上面は東西が98cmで南北が104cm。上面は地層断面では150cm近い径である。80cm下で細くなり直になっている。埋土は黒褐色土層の他にローム層が主となっている。住居跡群中の井戸にくらべると新しいか。

Ｉ７号井戸跡　（図―312）

位置　調査区北西のＩ、II―10区に位置する。　**形状**　円形。上面は東西480cmで南北460cm。深さ１ｍほどで径240cmほどに細くなる。以下は未掘であるが直と考えられる。また、細くなる上面に多量の石材が認められる。意図的な埋転によるもの。



図―312　Ｉ－５・６・７号井戸跡平・断面図

6　溝　　跡

W１号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—41区～Ⅰ—79区。　**形状**　部分検出。推定現長52m。北東から南西に走向。上巾1.6m、下巾1.0m。

W２号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—79区～Ⅰ—173区。北東から南西に走向。地形にそった走向。　**形状**　部分検出。推定現長128m。H—151と重複。住居より新しい。地断でみると上巾2.5m、下巾1.7m。埋土は暗褐色土でIII層に砂が多くまじる。

W３号溝跡　(図一全体図)

位置　II—40区～Ⅰ—21区～Ⅰ—20区。東西に近い走向。Ⅰ—21区でT字に分岐。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長110m。H—223・231・１と重複。W—３→H—223・231・１。上巾0.6m、下巾0.5m、深さ0.14m。埋土はIII層。

W４号溝跡　(図一全体図)

位置　II—21区。南北に走向。　**形状**　部分検出。推定現長10m。H—38と重複。H—38→W—４。上巾0.75m、下巾0.6m。深さ0.42m。埋土は表土と砂層のカクラン層。比較的新しいものか。区画溝カ。

W５号溝跡　(図一全体図)

位置　IV—４区～III—28区。北東から南西に走向IV—７区で分岐。地形にそった走向。　**形状**　部分検出。推定現長160m。H—40・48と重複。３期に分かれる。Ⅰ期（粘土質層）→II期（III＋Ⅰ′層の埋土）→H—40→III期（Ⅰ′層の砂質の耕作土)。II期で上巾3.5mすり鉢状断面。

W６号溝跡　(図一全体図)

位置　II—39～II—21区。東西に走向。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長24m。H—39と重複。上巾1.2m、下巾0.7m。H—39地層断面には見えずH—39より旧い。W—３、４とも対応するものか。

W７号溝跡　(図一全体図)

位置　IV—23区～III—43・44区。北東から南西さらに西へ走向。地形にそった走向。台地南端を区画する溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長125m。H—44と重複。上巾1.1m、下巾0.7m、深さ0.25mの台形。埋土はII—１層で上にB軽石層。H—44→W—７。

W８号溝跡　(図一全体図)

位置　IV—８区～III—８区。やや北東から南西への走向。地形にそった走向。　**形状**　部分検出。推定現長10m。H—45と重複。地層断面でみると上巾2.2m、下巾0.4m、深さ0.6m。すり鉢状の断面。埋土は表土に近い暗褐色土層。H—45より新しい。

W９号溝跡　(図一全体図)

調査区南区の番城の堀の総称。詳細は第６巻に収録。

W10号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—105区～102区。南北の走向。W—11・12・18・26とあわせて区画を意図した溝か。　**形状**　部分検出。推定現長30m。H—85と重複。地層断面で上巾1.8m、深さ0.45mの椀形断面。H—85より新しい。埋土不明。III層の上層。Ⅰ層に近いか。

W11号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一101区～137区。東西に走向。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長40m。H一91と重複する。地層断面で上巾2.0m、下巾0.9m、深さ0.45m、浅い椀形の断面。Ⅲ＋Ⅳに砂の混土層、上にⅢ層。H一91より新しい。

W12号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一119～137区。東西に走向。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長40m。H一89・90・93と重複。いずれもW一12より旧い。上巾は地断で3.0mの浅い塊形。深さ0.45m。埋土はⅢ層＋Ⅳ層の混土。W一11に似る。

W13号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一159～155・179区。南北に走向Ⅰ一156で東に折れる。区画溝。　**形状**　部分検出。推定現長70m。H一121・128・145・146と重複する。上巾1.5m、下巾1.2m、埋土はⅢ層。やや形状は異なるがW一22とつながり区画を作るものか。

W14号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一134区。北東～南西に走向。W一2・15・16・17等と区画を成すものか。　**形状**　部分検出。H一130と重複。推定現長15m。上巾1.1m、下巾0.7m、深さ0.22m。埋土はH一130埋土に同じく表土に近い土層。W一14が新しい。

W15号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一96区。北西から南東に走向。W一16に平行に走向。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長10m。地層断面で上巾1.0m、深さ0.28mの浅い椀形の断面。埋土はⅢ層にB軽石の混土。H一138と重複、H一138より新しい。

W16号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一97区～Ⅰ一114区。北西～南東に走向。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長20m。地断で上巾2.2m、下巾0.8m、深さ0.4m。埋土はⅠ層にⅢ層が混入。H一139号と重複。H一139号より新しい。溝の北側の縁に溝にそって2基のピットがある。溝に係わるものか。橋の杭跡？

W17号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一152区～Ⅰ一132区。北東～南西に走向。地形に沿っている。W一2と平行に走向。　**形状**　部分検出。推定現長50m。上巾0.8mで下巾0.4m。

W18号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一156区～Ⅰ一157区。南北に走向。W10・11・26と区画を成すものか。　**形状**　部分検出。推定現長20m。H一150と重複。地層断面で上巾2.7m、下巾2.6m、深さ0.3m、埋土はⅢ層と砂の混土層。H一150より新しい。

W19号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一156・157～Ⅰ一174区。東西に走向。W一13とⅠ一156区で合流、区画を成すか。　**形状**　部分検出。推定現長15m。H一153と重複。地層断面で上巾4.4m、下巾2.2m、深さ0.3m。埋土はⅢ層＋Ⅳ層。H一153より新しい。二期に分かれる。Ⅱ期目はⅢ（砂質）

W20号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ一173～Ⅰ一155区。東西に走向。H一155と重複し南に折れる。区画溝。　**形状**　部分検出。推定現長35m。地層断面では上巾4.0m深さ0.5mの浅い椀形。埋土はⅢ層で上にB軽石層がある。W一20による区画は不明。

W21号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—84区～Ⅰ—64区。Ⅰ—31区～Ⅰ—84区。Ⅰ—31区～Ⅰ—11区。Ⅰ—9区～Ⅰ—8区。全体でほぼ長方形の区画を成す。　**形状**　部分検出。推定現長180m。規模は残存度が異なる。上巾1.4m、下巾0.8m、深さ0.3m。

W22号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—195区～Ⅰ—213・212区。H—172・178と重複しL字に折れる。区画の北東コーナー部にあたるか。　**形状**　部分検出。推定現長30m。地層断面で、上巾0.5m、下巾0.3m、深さ0.4m。長方形に近い断面。埋土は住居埋土のIII層より新しいIII層で黒色土。上にB軽石層。H—172・178より新しい。

W23号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—249区。東西に走向。W—25とあわせて区画を作るものか。　**形状**　部分検出。推定現長5m。上巾1.3m、下巾0.6m。深さ0.2m、浅い椀形の断面。埋土は黒色のIII層。南に接するH—170の上層の埋土に同じ。H—170より新しいか。

W24号溝跡　(図一全体図　表4—113)

位置　Ⅰ—211区。東西に走向。H—212と重複し、北に折れる。区画を成すものか。　**形状**　部分検出。推定現長20m。上巾2.0m、下巾0.9m、深さ0.5m、浅い長方形の断面。埋土はIII層とIV層、ロームの混土。H—212より新しい。

W25号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—229～Ⅰ—230区。南北に走向。W—23とあわせて区画を成すものか。H—203西で終結してる。　**形状**　部分検出。H—202・203と重複する。推定現長10m。地層断面で、上巾2.7m、下巾1.3m、深さ0.3m、浅い皿形の断面。埋土はIII層。地層断面によるとH—202より旧い。

W26号溝跡　(図一全体図)

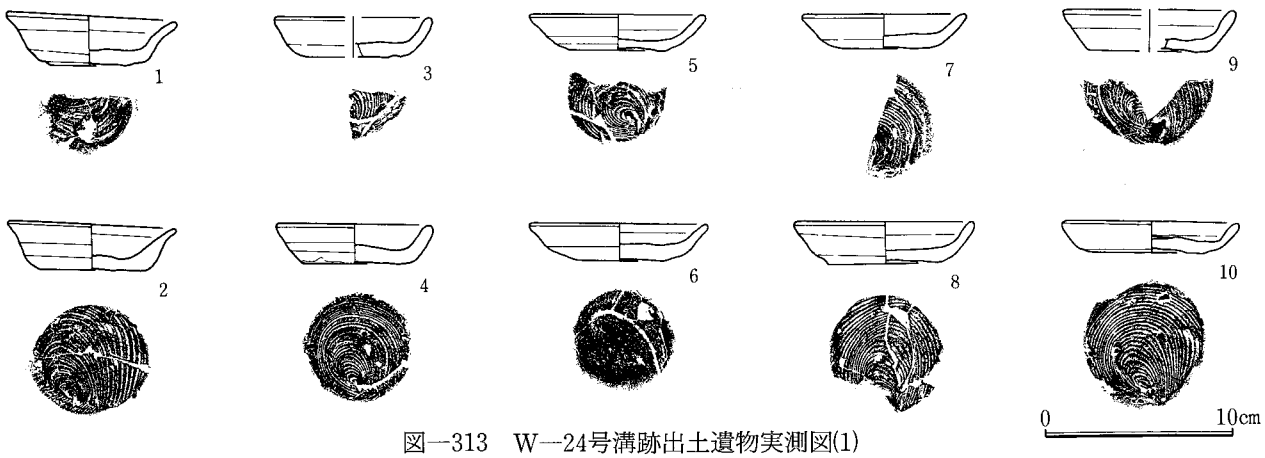
位置　Ⅰ—158区～Ⅰ—159区。南北に走向。W—18に続き区画を成すものか。　**形状**　部分検出。推定現長10m。H—234と重複する。上巾2.1m、下巾0.7m、深さ0.45m、椀形の断面。埋土は住居に似るIII層。H—234より新しい。

W27号溝跡　(図一全体図)

位置　III—11区～III—47区。東西に走向する。III—47区内で南に折れる。区画溝カ。　**形状**　部分検出。推定現長50m。上巾0.6m、下巾0.2m。

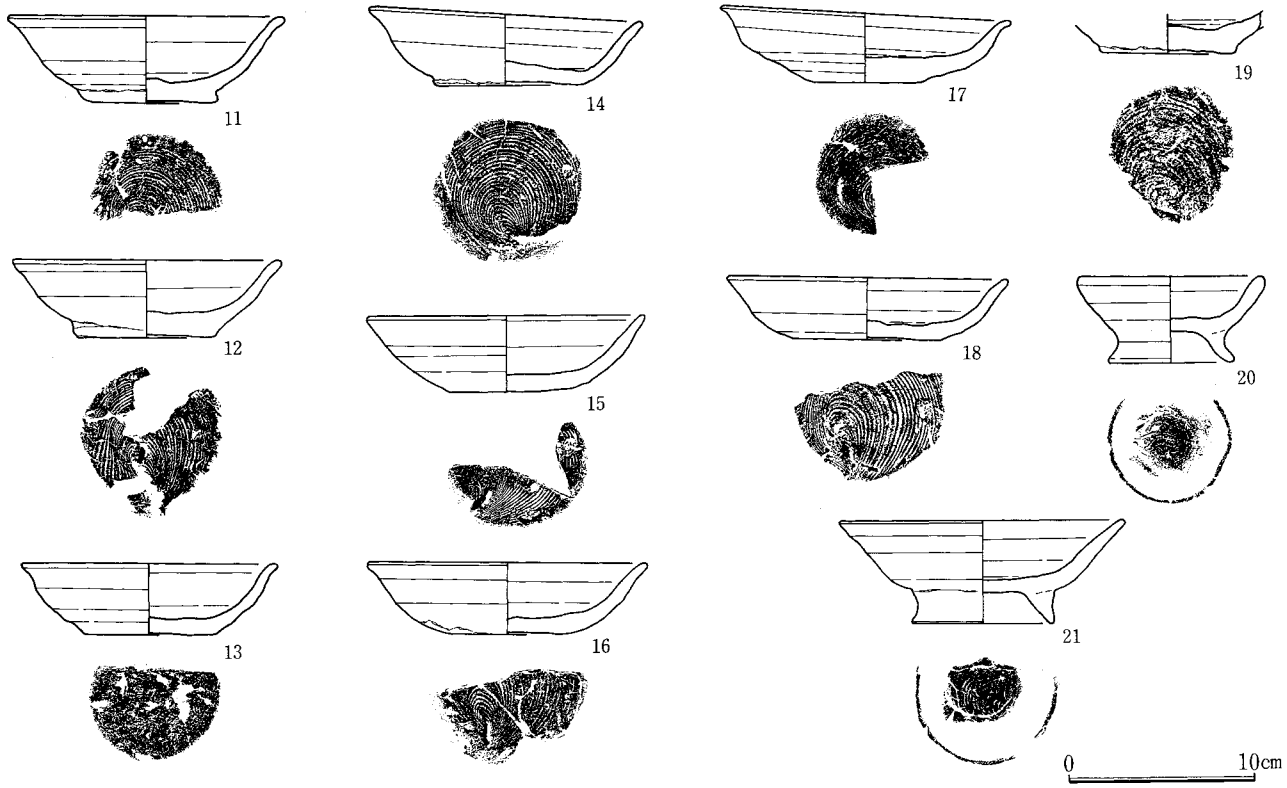
W28号溝跡　(図一全体図)

位置　Ⅰ—159区～Ⅰ—156区。南北に走向。区画溝カ。W—13に平行し東側。　**形状**　部分検出。推定現長45m。上

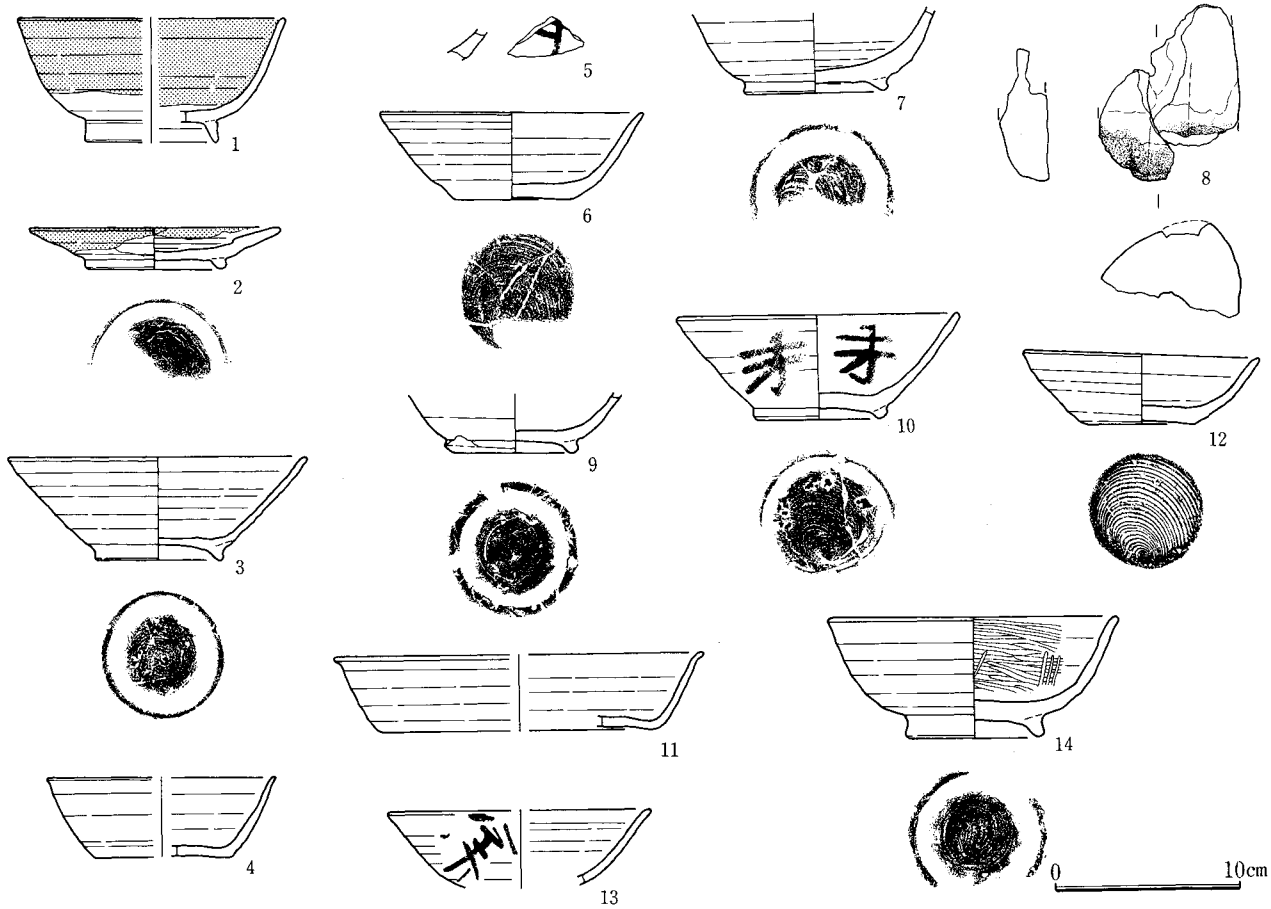


図—313　W—24号溝跡出土遺物実測図(1)

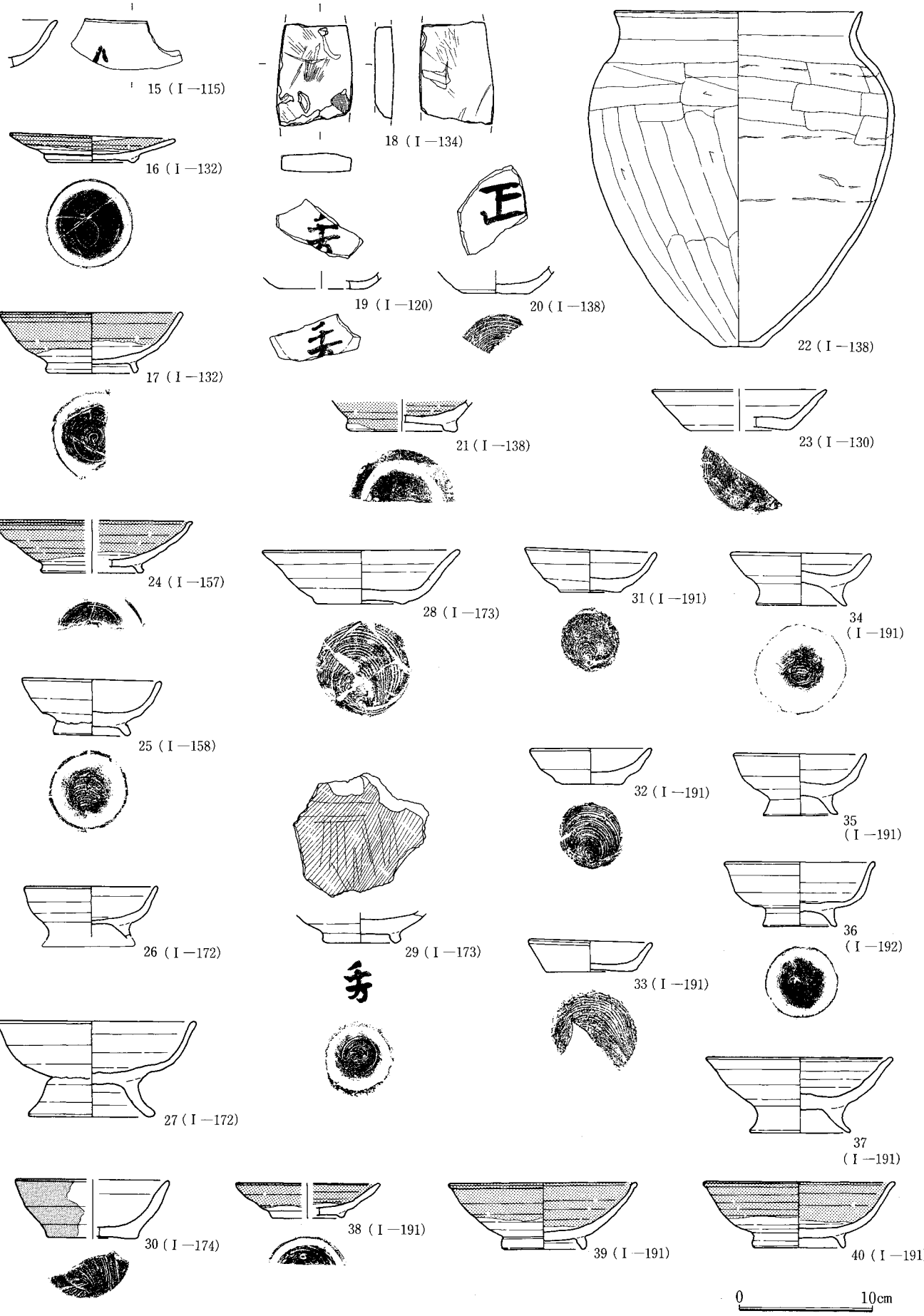
巾0.9m、下巾0.3m、長方形に近い断面。H—121と重複。H—121より新しい。埋土はⅠ層。W—13より新しい。



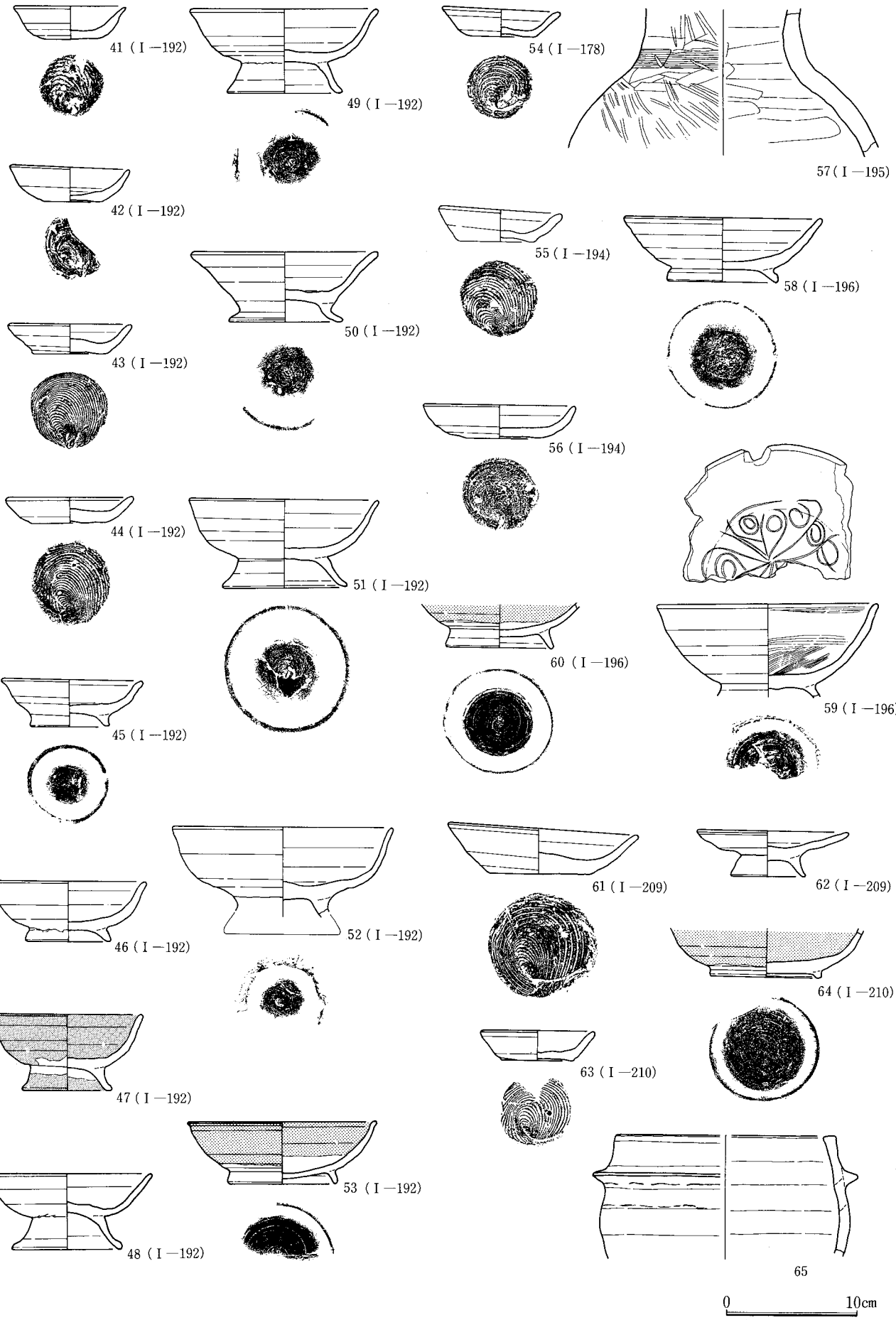
図—314　W—24号溝跡出土遺物実測図(2)



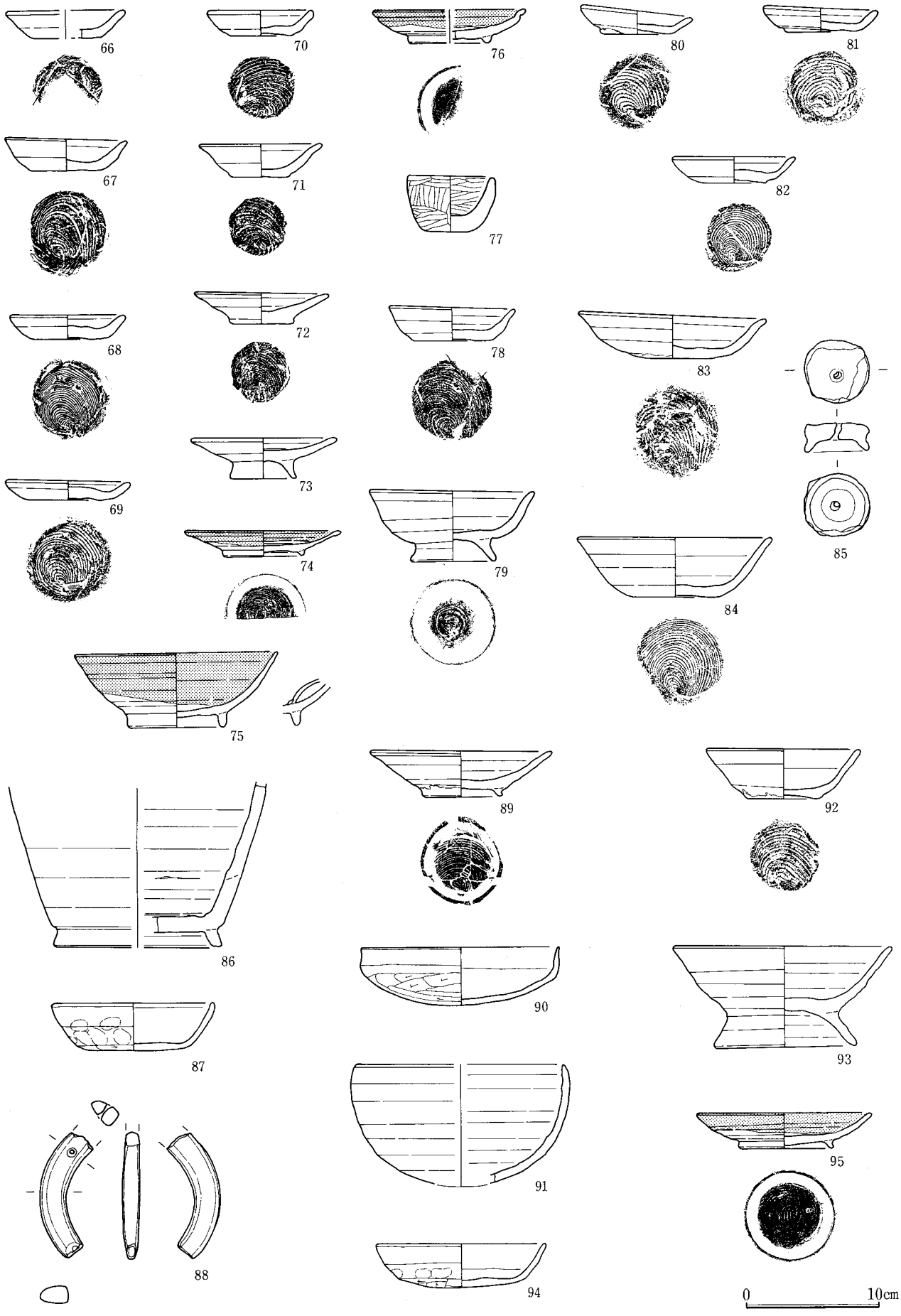
図—315　グリッド出土遺物実測図(1)



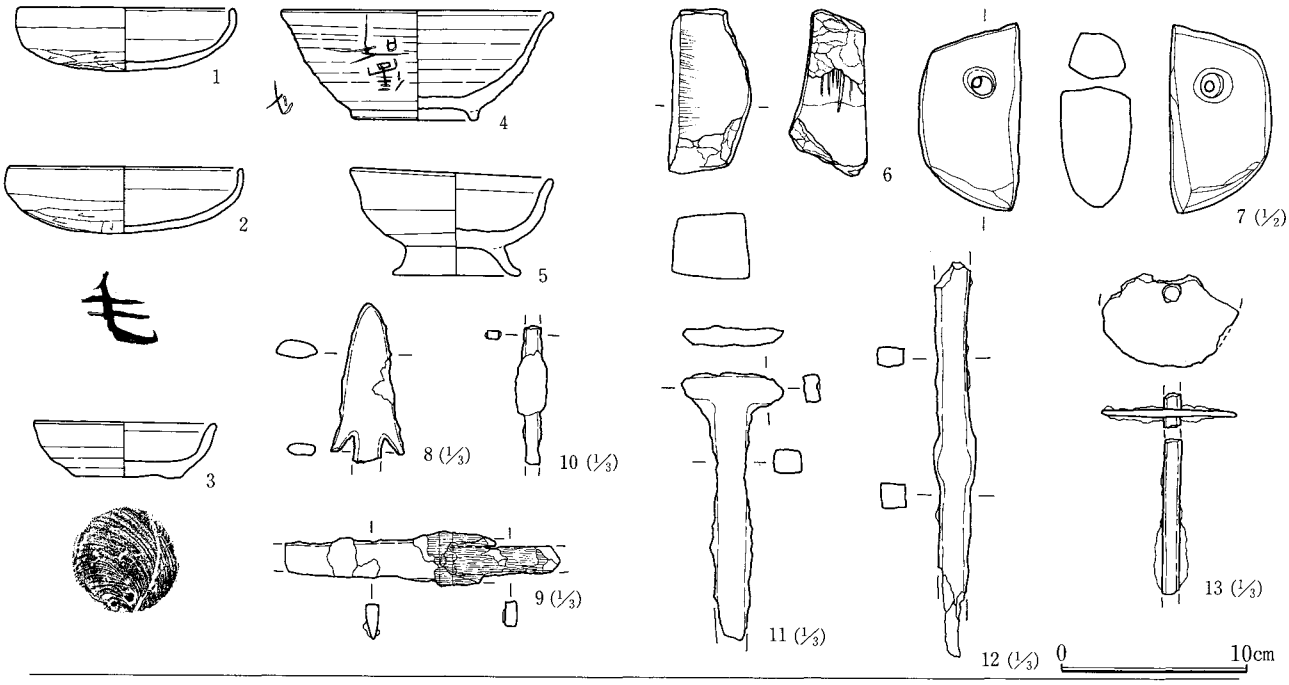
図—316　グリッド出土遺物実測図(2)

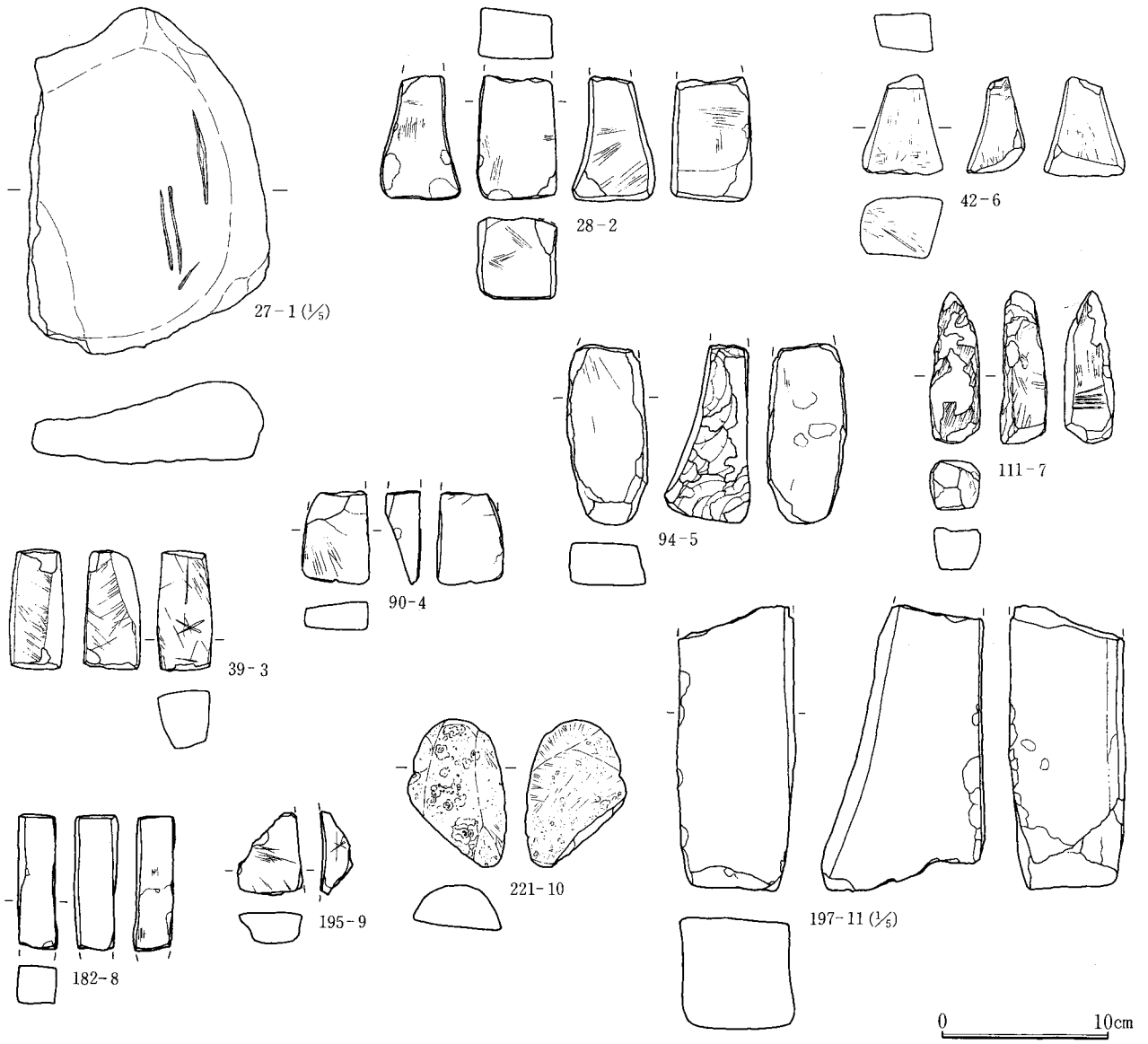


図—317　グリッド出土遺物実測図(3)



図—318　グリッド出土遺物実測図(4)





図—319　グリッド出土・遺採遺物実測図(5)（上段）
追補　住居跡出土遺物実測図（下段）

表－3　遺構一覧表

(1)　竪穴住居跡

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(㎡)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H 1	II22	3.5×3.8	13.37	48～58	有	東壁中央南寄り	P_1～P_4	W 2	19	N－0°
H 2	I 87・88	3.3×4.6	15.11	48	有	東辺中央南寄り	P_1～P_4・P_9		19	N－5°－E
H 3	II86・87	2.5×2.7	6.41	37	無	東辺中央南寄り			20	N－12°－W
H 4	I 11・II11	2.3×3.2	7.41	15～22	無	東壁南			21	N－14°－W
H 5	I 29	3.1×3.4	10.46	40	有	東壁南			21	N－3°－W
H 6	I 29	2.1×3.3	7.20	26～37	無	東壁南側			22	N－5°－E
H 7	I 29	3.5×4.2	14.16	14～34	無	西壁北側			23	N－5°－W
H 8	I 29・47	2.8×2.2	5.83	8～20	無	東壁中央部南	P_1	P21	23	N－97°－E
H 9	I 47	2.7×3.4	9.02	22～34	無	東壁南側	P_1～P_2		24	N－4°－W
H10	I 28	3.2×4.5	16.6	35～41	有	東壁中央		H14	25	N－3°－W
H11	欠番									
H12	I 44	2.8×3.9	11.48	22～55	有	東壁南側	P_1～P_4・P_6		26	N－2°－E
H13	I 44	2.7×3.3	8.91	25～50	有	東壁南	P_1		27	N－6°－E
H14	I 28	(現状) 2.4×1.7	(現状) 4.31	20～22	無	東壁		H10	27	N－69°－E
H15	I 45・46	2.8×3.5	9.67	12～18	無	東壁中央	P_1～P_2		28	N－17°－W
H16	I 26・27	3.9×4.8	19.93	19～80	有	東壁南側	P_1～P_4		29	N－3°－W
H17	I 60	4.4×5.2	23.73	30～44	有	東壁・南・北	P_1～P_4		29	N－3°－E
H18	I 60・61	3.6×2.9	10.68	26～45	有	東壁南端			32	N－99°－E
H19	I 27	5.4×3.2	17.41	43～50	無	東壁中央			33	N－115°－E
H20	II 6・7	3.0×3.5	10.22	14～36	無	東壁南			33	N－10°－E
H21(I)	I 38	1.4×1.3	6.82	22～36	無	北壁	P_1～P_3	H21 (II)	34	N－7°－E
H21(II)	I 38	(現状) 2.1×2.4	1.59	42	無	不明		H21 (I)	34	N－11°－E
H22	I 8	2.5×2.6	6.18	17～26	有	東壁中央	P_1～P_2		34	N－11°－E
H23	I 7・8	4.6×5.0	22.21	27～70	有	東壁南側	P_1～P_4		35	N－2°－E
H24	I 25	2.8×3.8	11.71	46～53	有	東壁中央南			36	N－16°－E
H25	I 24	3.0×3.6	10.57	53～60	無	東壁中央南	P_1		37	N－6°－E
H26	I 25	3.2×4.4	14.59	44～74	有	東壁南	P_1～P_2		38	N－19°－E
H27	I 41・42	2.8×3.7	10.39	20～32	有	東壁南			38	N－36°－E
H28	I 4	2.3×3.2	8.02	28～33	有	東壁・南・北	P_1～P_2		39	N－5°－W
H29	I 3・4	(北側)(南北) 3.7×5.0 (南側)(南北) 3.2×5.0	17.40	16～52	有	東壁中央		P47	40	N－4°－E
H30	I 2	4.2×4.7	18.88	17～48	無	東壁南		J 18・P48	41	N－6°－W
H31	I 4	2.4×3.9	10.02	16～41	有	東壁中央	P_1～P_3		41	N－1°－W
H32	I 22・23	2.5×2.3	4.43	40～49	無	東壁中央	P_1～P_2		42	N－95°－E
H33	I 4	2.8×4.4	7.23	3～47	有	東壁南			43	N－16°－E
H34	I 1	2.9×2.4	6.96	20～22	無	東壁中央			43	N－87°－E
H35	I 1	3.4×3.8	12.67	63～66	無	東壁南			44	N－2°－E
H36	IV 1・2	3.6×4.1	14.33	50～80	無	東壁南	P_1～P_7・P_{10}		44	N－2°－W
H37	IV 2	3.4×2.1	7.48	55～60	無	東壁南	P_3・P_5～P_8		45	N－82°－E
H38	II21	(現状) 2.1×3.5	(現状) 7.26	30	有	東壁		W 4 P49・50	46	N－0°
H39	II21・39	3.2×4.0	13.29	26～37	有	東壁		W 6	47	N－3°－W
H40	IV 6	2.8×3.5	9.71	36	無	不明		W 5	47	N－3°－W
H41	IV 6・7	2.6×3.9	9.82	24～50	有	東壁			48	N－8°－E

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(㎡)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H42	IV 6	2.4×3.2	7.38	28～54	有	東壁中央			49	N－1°－E
H43	III24	(推定) 2.7×3.1	(推定) 8.28	14	無	東壁		P35	50	N－4°－W
H44	III 8	2.8×3.3	9.06	22～58	有	東壁	P_1	W 7	51	N－2°－W
H45	III 8	5.0×3.0	14.47	24～54	有	東壁	P_1～P_3	W 8	52	N－86°－E
H46	II 5	3.1×2.6	8.12	46	有	東壁			53	N－88°－E
H47	II23	3.1×3.9	11.09	23～64	有	東壁南	P_2～P_3		53	N－16°－W
H48	IV 7	(現状) 2.0×3.6	(現状) 7.23	18～35	無	東壁南		W 5	54	N－1°－E
H49	III43	(現状)(推定) 2.2×2.6	(推定) 5.52	6～22	無	東壁中央		W 9　J大P 2	55	N－2°－E
H50	III27	3.2×4.0	10.99	22～31	無	東壁南	P_1		56	N－10°－W
H51	III27	4.3×4.6	18.31	40～44	有	東壁北	P_1～P_2	H52	57	N－9°－W
H52	III27	(現状) 3.5×2.0	(現状) 5.15		有	不明		H51	57	N－78°－E
H53	III27	3.0×3.6	10.50	21～26	無	東壁中央			59	N－11°－E
H54	III10	2.1×2.8	5.68	14～18	無	東壁南			59	N－0°
H55	III28	2.6×2.9	7.74	12～24	無	東壁			60	N－0°
H56	III10	3.4×4.0	13.81	24～38	無	東壁南	P_1～P_2		60	N－11°－E
H57	III11	3.1×4.2	12.78	0～12	不明	不明			61	N－4°－W
H58	III11	3.7×6.2	22.82	5～22	無	東壁南			61	N－4°－E
H59	III30	2.2×3.3	7.56	20～25	有	東壁中央			62	N－12°－W
H60	III47	4.0×4.6	16.44	25～32	無	東壁中央	P_1～P_4		63	N－6°－W
H61	I 141	2.6×2.8	7.18	28～50	無	南東隅			63	N－5°－W
H62	I 122	3.0×4.1	11.43	53～61	有	東壁中央南			64	N－13°－W
H63	I 122	3.9×5.0	18.29	30～34	有	東壁中央		H81	65	N－1°－W
H64	I 140・141	2.6×3.8	9.36	33～48	無	東壁南			67	N－0°
H65	I 140	2.2×3.3	7.41	40～54	有	東壁中央	P_1～P_2	H67	67	N－2°－W
H66	欠番									
H67	I 140	2.6×4.3	11.26	34～45	無	東壁南		H65	67	N－1°－W
H68	I 141	2.8×3.6	11.83	24～46	有	東壁南端			69	N－1°－E
H69	I 123	3.1×4.1	13.07	30～32	無	東壁南側	P_2～P_3		70	N－10°－W
H70	II 7・25	3.3×4.6	15.77	16～25	無	東壁中央			70	N－2°－E
H71	II24	2.4×3.0	7.15	36～55	有	東壁南側			71	N－6°－W
H72	II 6	1.7×3.4	6.20	14～42	有	無	P_1～P_7	旧農道跡	72	N－23°－W
H73	II 7	2.82×3.22	8.25		無	東壁北側			72	N－2°－W
H74	II 6	(現状) 2.3×4.1	(現状) 8.15	23～35	無	東壁南側			73	N－2°－W
H75	II 6・24	3.23×5.02	17.83		有	東壁南側		H76～78	74	N－13°－W
H76	II 6・24	不明	(現状) 0.79		無	東壁		H75・77	74	N－13°－W
H77	II 6・24	3.45×3.65	(現状) 12.62	36～44	有	東壁南側		H75	74	N－10°－W
H78	II 6・24	(現状)(現状) 2.7×2.0	(現状) 3.18		無	不明		H75	74	N－0°
H79	I 141	2.2×4.4	11.32	24～35	無	東壁南側	P_1～P_2		76	N－0°
H80	I 121	4.2×3.7	16.11	62～81	有	東壁中央	P_1～P_2		77	N－25°－E
H81	I 122	(現状) 2.6×3.1	8.94	20～30	無	東壁中央		H63	78	N－0°
H82	I 139	4.2×5.1	21.52	27～63	有	東壁中央	P_1～P_4		79	N－25°－E
H83	I 158	3.4×3.9	13.59	44～64	有	東壁南側	P_2～P_3		80	N－9°－E

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(m²)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H84	I 139	3.0×4.0	11.47	12～28	有	東壁中央			81	N－2°－E
H85	I 102	3.2×4.8	15.09	19～27	無	東壁中央		W10	82	N－0°
H86	I 138	4.4×2.8	11.73	30～37	有	東壁南隅	P_1～P_3	K 3	83	N－99°－E
H87	I 138	3.2×4.0	12.49	22～33	有	東壁南側	P_1～P_2・P_4		85	N－1°－E
H88	I 137	3.5×4.9	14.97	28～45	有	南東隅	P_1～P_3・P_7	H89 W12	86	N－7°－E
H89	I 137	5.1×4.22	16.53	29～38	有	東壁中央	P_1・P_4 (主柱穴) P_2～P_5	H88 W12	86	N－7°－E
H90	I 119	4.9×6.5	31.97	48～63	有	東壁中央	P_1～P_4 (主柱穴) P_5～P_9 (壁柱穴)	W12	88	N－8°－E
H91	I 119	3.1×3.8	11.36	9～28	無	東壁南端		W11	90	N－2°－E
H92	I 118	3.3×5.4	18.13	18～34	無	東壁中央			91	N－1°－W
H93	I 137	5.0×6.0	28.15	3～37	有	東壁南側	P_1～P_4 (主柱穴) P_5～P_{10} (壁柱) P_{12}～P_{13} (控柱)	W12	92	N－5°－E
H94	I 100	4.0×4.5	17.01	32～52	有	東壁中央南			93	N－2°－E
H95	I 100	3.3×4.4	14.94	44～62	有	東壁中央	P_3～P_4	H98	94	N－5°－E
H96	I 118	5.9×6.8	38.21	48～78	有	東壁中央	P_1～P_4 (主柱穴)		96	N－1°－E
H97	I 99	3.3×4.4	14.73	19～32	有	東壁南側			97	N－15°－E
H98	I 100	3.8×3.7	13.74	27～39	有	東壁南端		H95	98	N－0°
H99	I 193	2.4×2.6	6.43	13～17	無	南西端		P51～53	98	N－3°－E
H100	I 178	3.7×3.2	11.86	35～45	有	東壁南隅		H106	99	N－10°－E
H101	I 178	3.4×4.8	15.71	40～50	有	東壁南隅	P_1～P_9	P37	100	N－0°
H102	I 158	2.3×3.4	7.90	14～36	有	東壁南側		H104	101	N－14°－W
H103	I 158	3.6×4.0	14.34	18～31	有	東壁南隅			102	N－5°－E
H104	I 158	3.5×3.0	10.5	15～35	有	東壁南端		H102　H129	101	N－105°－E
H105	I 178	3.2×3.4	10.72	16～20	無	東壁南隅	P_1～P_3	W29	104	N－5°－E
H106	I 178	(推定)(現状) 3.4×0.5	(現状) 3.1	——	無	東壁南隅		H100	105	N－97°－E
H107	I 195	2.5×3.0	7.0	26～41	無	東壁南		H111	105	N－4°－E
H108	I 193	(推定) 3.2×3.5	(推定) 10.6	6～16	無	東壁南	P_1～P_8 (柱穴と補柱)		106	N－0°
H109	I 193	2.7×4.0	(推定) 9.4	11～24	無	北東隅		P 9	107	N－3°－E
H110	I 195	3.7×3.3	(推定) 12.3	15～45	有	東壁北端		H112	108	N－2°－W
H111	I 195	——	(推定) 13.1	——	無	東壁			109	N－20°－E
H112	I 195	(現状) 4.2×2.1	(現状) 6.0		無	不明		H110	110	N－79°－E
H113	I 80	2.8×3.4	10.06	26～47	有	東壁南		H115	110	N－0°
H114	I 151	2.92×4.0	11.07	9～48	有	東壁中央			111	N－0°
H115	I 80	3.3×3.5	(推定) 11.59	31～48	有	東壁南側			112	N－127°－E
H116	I 98・99	2.94×2.2	6.23	23～25	無	北壁西側(I) 西壁南側(II)			113	N－106°－E
H117	I 80	2.56×2.04	5.38	41～67	無	東壁中央			113	N－93°－E

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(㎡)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H118	I 117	3.58×4.47	(推定) 18.87	36～61	有	東壁南側	壁柱16基	H119・120	114	N—18°—E
H119	I 117	——	(推定) 16.55		有	東壁南側		H118・120	114	N—19°—E
H120	I 117	4.08×4.98	(現状) 3.75	61～70	無	東壁南側		H118	114	N—18°—E
H121	I 158	3.54×4.04	13.25	10～21	無	東壁南側		W13	115	N— 0 °
H122	I 177	(現状) 3.0×2.46	(現状) 5.66	28～37	有	東壁南隅			117	N—10°—E
H123	I 192	2.56×4.34	10.44	44～56	有	東壁中央南側			118	N— 7 °—E
H124	I 192・193	(推定) 3.37×4.40	(推定) 13.28	26～31	有	東壁南隅		H143	119	N—14°—E
H125	I 196	3.38×4.18	(推定) 13.31	27～37	有	東壁南隅		P68	120	N—13°—E
H126	I 175	4.16×6.6	27.89	36～44	無	東壁南端	P_1～P_2・P_4		121	N— 3 °—W
H127	I 157	4.0×3.8	14.09	22～40	有	東壁南隅			123	N— 2 °—E
H128	I 156・157	(現状) 3.6×6.18	(現状) 24.47	15～38	無	東壁南側	P_1～P_3	W13	124	N— 7 °—W
H129	I 158	2.16×2.14	4.66	10～15	有	東壁中央南		H104	125	N—91°—E
H130	I 134	3.16×3.68	(推定) 10.57	23～35	無	東壁南側	P_1～P_3	W14	126	N— 8 °—E
H131	I 115・116	2.6×2.8	7.45	12～18	無	東壁南			126	N— 0 °
H132	I 134・152	3.10×1.90	(推定) 5.51	21～31	有	東壁南側			127	N—92°—E
H133	I 96	3.2×3.5	10.59	23～46	無	東壁南	P_1～P_3		128	N— 2 °—E
H134	I 95	2.70×3.68	10.70	16～57	有	東壁南側			129	N—28°—E
H135	I 78	2.71×3.56	10.29	22～37	有	東壁南側			130	N—10°—E
H136	I 78	3.00×3.06	(推定) 8.68	34～41	無	不明			130	N— 7 °—W
H137	I 78	3.34×3.79	11.86	31～47	有	東壁南側			130	N— 4 °—E
H138	I 96	2.66×2.45	6.40	9 ～41	有	東壁南端		W15	131	N—93°—E
H139	I 114	(推定) 2.44×2.76	(推定) 6.07	20～28	有	東壁南側		W16	132	N— 4 °—E
H140	I 175	4.72×9.02	43.50	62～94	有	東壁中央	P_1～P_9・$P_{14,15}$ (壁柱) P_{16}～P_{18} (柱穴)	H142・147	133	N— 0 °
H141	I 174	1.59×2.44	15.03	20～40	無	東壁南側	P_1～P_3		135	N— 0 °
H142	I 174・175	5.74×5.12	(推定) 27.92	24～30	有	東壁南端		H140	137	N—10°—E
H143	I 174・192	3.34×4.14	(推定) 13.60	18～26	無	東壁南		H124	138	N— 1 °—E
H144	I 174・175	3.02×2.74	7.79	14～30	無	不明	P_1～P_2		139	N— 1 °—E
H145	I 156	2.34×3.08	7.32	19～43	有	東壁南隅		H146 W13	140	N— 1 °—W
H146	I 146	2.8×3.88	(推定) 10.14	17～36	無	東壁南端		H145 W13	140	N— 0 °
H147	I 175	3.0×5.1	9.23	不明	有	不明	P_1～P_4 (壁柱) P_5～P_6	H140	133	N— 0 °
H148	I 175	3.54×5.12	17.32	不明	有	東壁南隅		H160 P54	141	N— 2 °—E
H149	I 174	3.00×3.88	10.73	16～34	有	東壁南端			142	N— 4 °—E
H150	I 156	3.48×4.06	(推定) 16.93	18～21	有	東壁南側		W18	143	N— 5 °—W

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(㎡)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H151	I 173	2.5×3.8	(推定) 10.26	40～42	有	東壁南(カマド1) 東壁南端(カマド2)		W 2	144	N－8°－W
H152	I 156	2.98×3.41	(推定) 10.31	14～17	有	東壁南端		H157・158	144	N－0°
H153	I 155・156	3.56×3.64	(推定) 13.07	25	有	東壁南端		H156 P 7 W19	146	N－13°－E
H154	I 173	3.48×3.50	(推定) 11.81	34～53	無	東壁南側		W20 P66	147	N－2°－W
H155	I 155	3.20×2.41	8.55	30～51	有	東壁南端		W20	148	N－92°－E
H156	I 155・156	(現状) 2.66×2.60	(現状) 4.54	15	無	不明		W－19	146	N－13°－E
H157	I 156	(現状) 2.50×1.41	(現状) 3.37	13～18	有	不明		H152・158	144	N－90°－E
H158	I 156	(現状) 0.77×3.38	(現状) 1.41	27	無	不明		H152・157	144	N－2°－W
H159	I 172	2.83×3.14	8.47	26～42	無	東壁中央部南			149	N－21°－E
H160	I 175	(推定) 2.36×3.40	(推定) 6.78	17	無	無			150	N－6°－W
H161	I 213・214	2.53×3.48	7.84	12～30	無	東壁南端			150	N－0°
H162	I 213	(現状) 3.28×3.48	(現状) 11.36	34	無	東壁南側		H172・178・179 W22	152	N－13°－W
H163	I 195・213	(残存部) 4.26×2.92	(推定) 13.60	6～21	無	不明		P 38・39・40	154	N－90°－E
H164	I 213・231	5.36×4.24	(推定) 21.82	24～38	無	東壁南側		H180	155	N－107°－E
H165	I 232	3.10×3.90	(推定) 11.59	28	無	不明		H166	156	N－4°－W
H166	I 232	3.26×4.54	(推定) 15.04	28～45	有	東壁南側		H165	157	N－0°
H167	I 231	(現状)(推定) 2.0×3.62	(推定) 7.11		無	不明			158	N－2°－W
H168	I 231	2.86×3.85	(推定) 10.98	32～52	無	東壁南側		H176	158	N－12°－E
H169	I 231	3.80×5.12	(推定) 19.12	14	無	東壁南側	P_1～P_2		160	N－3°－W
H170	I 249	3.16×3.26	(推定) 11.58	22～26	有	東壁南側	P_1～P_2		160	N－93°－E
H171	I 213・214	2.86×3.95	(推定) 9.24	14	無	不明			161	N－121°－E
H172	I 213	4.30×4.66	(推定) 19.52	32	有	東壁南隅		H178・179 W22	152	N－3°－E
H173	I 250	(推定) 3.34×4.5	(推定) 14.45	15～24	無	東壁南側	P_2		162	N－7°－W
H174	I 232	(推定) 3.2×4.12	(推定) 12.16	16～22	無	不明	P_1～P_2・P_5		163	N－0°
H175	I 232	3.18×4.32	(推定) 13.61	13～49	無	東壁南側			163	N－5°－E
H176	I 231	2.59×4.58	(推定) 12.97	25～27	有	東壁南側		H168	164	N－0°
H177	I 213	2.84×4.1	(推定) 12.22	42～58	有	東壁南側		P17	165	N－3°－W
H178	I 213	(推定)(推定) 2.74×3.46	(現状) 6.96	16～63	無	東壁南側		H172・178 W22	152	N－4°－W
H179	I 213	2.96×2.71	(推定) 8.02	20	無	不明		H172・178	152	N－6°－W

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(㎡)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H180	I 213・231	(推定) 3.0×2.5	(推定) 7.01	12	無	不明			166	N—90°—E
H181	I 249・250	(推定) 4.2×3.4	(現状) 7.05	37～40	無	東壁南側		H182	166	N—88°—E
H182	I 249・250	(推定) 2.76×3.57	(推定) 12.14	29～37	有	東壁・南・北		H181	166	N—1°—E
H183	I 231	(推定) 3.5×4.2	(推定) 15.31	16	無	東壁南隅			168	N—4°—E
H184	I 231	(推定)(推定) 2.4×3.3	(推定) 8.07	——	無	東壁南側			169	N—11°—E
H185	欠番									
H186	I 195・213	(現状) 2.66×1.3	(現状) 2.53	——	無	不明			170	N—26°—W
H187	I 212	4.8×7.7	(推定) 36.46	21～25	無	東壁南	P_1～P_6	P24	170	N—2°—E
H188	欠番									
H189	I 212	5.21×4.96	(推定) 6.22	8～42	有	東壁南側		H190 I 4・5	172	N—3°—E
H190	I 212	3.70×4.42以上	(推定) 23.22	40	無	東壁南側	P_1～P_2	H189	172	N—3°—E
H191	欠番									
H192	I 212付近	3.14×2.80	7.85	17～32	無	東壁南側		H193	174	N—3°—W
H193	I 212付近	(推定) 3.26×2.74	(現状) 5.89	15～22	無	不明		H192	174	N—3°—W
H194	I 189	(推定) 3.2×3.3	(推定) 9.79	35～37	無	東壁南端		P44・45	175	N—11°—E
H195	—	(推定) 3.0×2.66	(推定) 7.22	27～39	無	東壁南端			176	N—125°—E
H196	I 212	5.03×4.20	(推定) 21.65	43～54	無	不明		H197・213	177	N—93°—E
H197	I 211・229	(推定) 4.6×—	(推定) 18.07	18～42	有	東壁		H196・213・214	177	N—92°—E
H198	I 228・229	4.06×5.52	22.63	34～41	有	東壁	P_1～P_2・P_6 P_4西側		185	N—10°—W
H199(I)	I 228	(推定) 3.64×4.3	(推定) 14.91	15～26	無	東壁南側		H199(II)	186	N—8°—W
H199(II)	I 228	(現状) 3.22×2.1	(現状) 6.16	19	有	不明		H199(I)	186	N—88°—E
H200	I 211・212・229・230	6.38×8.92	(推定) 51.36	20～27	有	東壁中央	P_1～P_2・P_4		187	N—6°—E
H201	I 229・230	2.82×2.46	(推定) 6.77	19～24	無	東壁南側		H202	189	N—95°—E
H202	I 229・230	3.9×3.6	(推定) 13.28	——	無	東壁中央		H201・203	189	N—0°
H203	I 229・230	(推定) 3.4×3.4	(現状) 7.56	20～41	有	東壁中央	P_1～P_2・P_5 (壁柱)	H202 W25	189	N—80°—E
H204	——	1.48×3.78	(現状) 5.69	28	無	不明		H206	191	N—0°
H205	——	3.78×4.74	(推定) 18.43	9	有	東壁中央部		H206・207	191	N—2°—E
H206	——	6.14×6.26	(推定) 38.00	9～13	有	東壁中央南	P_2・P_6・P_9 (主柱穴) P_1・P_5・P_7・ P_{10}(控柱)	H204・205・207	191	N—88°—E
H207	——	(推定) 4.60×4.16	(推定) 17.69	10～38	無	北壁東側		H205・206	191	N—112°—E

遺構No.	位　置	規模(m) 東西×南北	面積(㎡)	壁高(cm)	周構	カマド位置	柱　穴	重複関係	図	方　位
H208	I 228	2.72×3.60	8.63	24～36	無	東壁南端			194	N－2°－W
H209	欠番									
H210	I 216	6.34×8.04	54.45	17～50	有	東壁中央部	P_1・P_3・P_4・P_8		195	N－1°－E
H211	I 212	(推定) 4.80×一	(現状) 11.75	9～15	無	不明		H212・213・214	177	N－99°－E
H212	I 212	(推定) 4.66×5.80	(推定) 25.59	7～26	無	東壁南側	P_1～P_2・P_6 (壁柱)	H－211・214 W24	177	N－5°－E
H213	I 212	(推定) 3.26×3.76	11.21	14～20	無	東壁南側		H196・197・211・214	177	N－2°－E
H214	I 212	(推定) 3.4×3.8	(推定) 13.98	14～38	有	東壁南端		H211・212・213・P 55	177	N－0°
H215	欠番									
H216	II22・40	2.04×3.04	8.80	25～58	有	東壁南側		H226	197	N－1°－E
H217	——	2.84×4.22	12.18	34～40	有	東壁中央		W 3	198	N－10°－E
H218	II22・40	(推定) 3.20×3.88	(推定) 11.97	43～48	有	東壁中央			199	N－9°－W
H219	II22・23	3.44×4.40	14.95	28～32	有	東壁中央		H224	200	N－5°－E
H220	II22	2.84×3.38	10.97	36～61	有	東壁南側			201	N－6°－W
H221	II 3	(現状) 3.94×4.14	(現状) 16.48	57～62	有	東壁南側			202	N－6°－E
H222	I 4・II 4	3.08×3.24	10.93	39～53	有	東壁			202	N－3°－W
H223	II22	4.02×4.58	21.05	21～65	有	東壁中央	P_1・P_5・P_6	W 3	204	N－0°
H224	II22・23	2.23×3.00	(推定) 6.10	9～26	無	東壁南側		H219	200	N－11°－W
H225	II22	3.06×3.66	12.89	43～45	有	東壁中央		H 1	205	N－6°－W
H226	II22・40	2.98×3.74	(推定) 11.28	20～36	無	東壁		H216	197	N－0°
H227	II 4	3.18×4.86	(推定) 18.70	34～37	有	東壁中央		H229・231	207	N－0°
H228	II 5	2.22×2.50	5.55	38～46	無	東壁南側			209	N－1°－W
H229	II 4	(現状) 1.74×3.06	(現状) 5.61	38～41	有	不明		H227	207	N－2°－E
H230	II22	(推定) 2.56×3.60	(推定) 9.38	15～30	無	東壁中央		H223	204	N－2°－E
H231	II 4	3.28×4.54	17.52	36～47	有	東壁南側		H227 W 3	207	N－6°－W
H232	II 8	(現状) 3.0×3.6	(現状) 10.09	——	無	不明		J 5	209	N－1°－E
H233	II 8	2.50×3.12	(推定) 7.79	38～60	無	不明		J 5	209	N－4°－E
H234	I 159	(推定)(推定) 3.4×2.7	(推定) 9.08	44～47	無	不明		W26	210	N－108°－E

(2) 掘立柱建物跡

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	図	備　考
K 1	I 120 I 138	3×2	N－105°－E	7.0	2.5+2.2+2.3 2.6+1.9+2.5	5.0	2.3+2.7	290 291	
K 2	I 138	3×2	N－108°－E	6.8	2.3+2.2+2.3 2.3+2.1+2.4	4.3 3.9	2.2+2.1 1.8+2.1	290 291	
K 3	I 138	3×2	N－102°－E	6.9 7.3	2.6+2.0+2.3 2.6+(2.2)+2.5	4.4 4.7	2.3+2.1 2.5+2.2	293	

遺構名	位　置	規模(間)	方　位	桁行(m)	桁　間(m)	梁行(m)	梁　間(m)	図	備　考
K 4	I 119	3 × 3	N—20°—E	4.3	2.3+2.0 1.8+1.1+1.4	4.9	1.3+2.0+1.6 1.4+1.9+1.6	294	
K 5 (I)	I 101 I 102	3 × 3	N—16°—E	5.7 6.0	2.2+1.9+1.6 2.3+1.5+1.2	6.1 5.5	2.3+1.8+2.0 2.1+1.6+1.8	295	IとIIの重複建て替えカ。
K 5 (II)	I 101 I 102	2 × 2	N—103°—E	6.0 6.3	2.8+3.2 3.2+3.1	5.5 5.4	2.9+2.6 2.9+2.5	296	
K 6	II 4	2 × 2	N—1°—W	4.2 3.9	2.1+2.1 2.0+1.9 2.1+1.9	4.0	2.1+1.9 2.0+2.0 2.0+2.0	297	総柱。
K 7	I 120	3 × 2	N—20°—W	4.3 5.2	2.0+2.3 1.6+1.4+2.2	6.4 6.7	1.6+1.4+2.2 3.3+3.4	298	

(3) 土　坑

遺構名	位　置	形　状	規模(東西×南北)m	重　複	備　考	旧 番 号
P 1	I 194	長方形	2.2 ×1.5	I—2	墓壙カ。	方P 1
P 2	I 193	長方形	2.20×1.86		墓壙カ（P—1に似る)。	方P 2
P 3	I 196	隅丸長方形	1.84×1.40	F—1に近接	F—1関連施設カ。鉄滓。	方P 3
P 4	I 193	長方形	1.40×1.80	H—109	P—1・2に似るカ。	方P 4
P 5	I 193	長方形	1.80×1.40		P—1・2・4に似る。上層に炭化物。	方P 5
P 6	I 196	長方形	0.9 ×1.3			方P 6
P 7	I 155・156	長円形+方形	2.1 ×2.7	H—153	逆転層。根跡カ。	方P 7
P 8	I 193	台形？	1.4 ×(2.0)		P—4・5に似る。	方P 8
P 9	I 193	長方形	1.78×(1.60)	H—109	P—4・5・8に似る。	方P 9
P10	I 175	円形	1.4 ×1.4		炭化物含む。墓壙カ。	方P10
P11	I 156	長方形	2.44×1.90	W—13	焼土・炭化物含む。墓壙カ。	方P11
P12	I 155・156	長円形	2.40×1.05			方P12
P13	I 157	長円形	1.60×1.74		根跡カ。	方P13
P14	I 213・214	長方形	(1.4)× 1.1	H—171		方P14
P15	I 213・214	隅丸長方形	(1.2)× 1.3			方P15
P16	I 249	隅丸長方形	1.45×(2.10)	P—30		方P16
P17	I 213	隅丸長方形	(0.5)× 1.4	H—177		方P17
P18	不明	長方形	2.10×2.55		小規模施設カ。	方P18
P19	欠番					
P20	不明	円形	3.80×3.65		井戸状の遺構。	大型ピット
P21	I 141	隅丸長方形	1.04×2.02	H—8		方P21
P22	I 141	隅丸方形	1.1 × 1.1			方P22

遺構名	位　置	形　状	規模(東西×南北)m	重　複	備　考	旧番号
P23	I 196	長方形	0.68×0.98	H—125		方P23
P24	I 21	隅丸方形	1.54×1.50	H—187		方P24
P25	I 120	隅丸長方形	2.14×1.14			方P25
P26	I 120	長円形	1.08×2.74	K—1		方P26
P27	I 120・128	不整長方形	1.14×2.78	K—1		方P27
P28	I 138	台形	1.4 × 1.8	K—2		方P28
P29	I 173	隅丸長方形	2.66×0.76	H—151		方P29
P30	I 249	長方形	0.90×1.88	H—181・P—16		方P30
P31	III29	長円形	0.45×0.88		骨片と炭化物含む。火葬墓壙。	HP 1
P32	I 24	長方形	0.89×1.73			HP 2
P33	I 24	長円形	0.92×1.33			HP 3
P34	III 2	長円形	0.59×1.22		炭化物含む。火葬墓壙カ。	HP 4
P35	III24	円形	1.06×1.26	H—43		HP 5
P36	I 141・159	長方形	0.97×1.34		下層に炭化物。墓壙カ。	HP 6
P37	I 178	隅丸長方形	1.10×0.74	H—101		HP 7
P38	I 195・213	円形	1.13×1.10			HP 8
P39	I 195・213	隅丸長方形	1.54×1.21	H—163		HP 9
P40	I 195・213	長方形	1.14×1.22	H—163		HP10
P41	I 229・230	円形	0.69×0.82			HP11
P42	欠番					
P43	I 159	長方形	2.13×0.85			HP13
P44	I 189	方形	0.83×0.80	H—194		HP14
P45	I 189	不整方形	0.88×0.41	H—194		HP15
P46	I 4	円形	0.53×0.62			P 1
P47	I 3・4	隅丸長方形	1.42×2.21	H—29		P 2
P48	I 2	隅丸長方形	1.52×0.82	H—30	炭化物含む。焼跡有り。火葬墓壙カ。	P 3
P49	II21	長方形	0.91×1.96	H—38・W—4		P 4
P50	II21	不整長円形	0.93×0.98	H—38	馬の埋葬穴。	P 5
P51	I 193	円形	1.62×1.21	H—99・P—52・P—53		P 6
P52	I 193	円形	1.08×1.21	H—99・P—51・P—53		P 7
P53	I 193	円形	0.50×0.44	H—99・P—51・P—52		P 8

遺構名	位　置	形　状	規模(東西×南北)m	重　複	備　考	旧番号
P54	I 175	長方形	1.85×0.92			P 9
P55	I 211	円形	0.80×0.63	H—214・H—197		P10
P56	I 65	円形	0.95×0.98			P11
P57	II 9	円形	1.02×1.07			P12
P58	II26	円形	1.34×1.14			P13
P59	I 5	円形	1.30×1.30		ＪＰ？	P14
P60	I 5	円形	1.12×0.87		ＪＰ？	P15
P61	I 2・3	長円形	1.80×2.24		ＪＰ？	P16
P62	欠番					
P63	欠番					
P64	I 49	長方形	1.04×2.09		火葬墓壙カ。	P19
P65	I 48	長方形	0.87×1.99		火葬墓壙カ。	P20
P66	I 173	長円形	1.25×1.90	H—154		P21
P67	III43	長方形	0.95×0.49	Ｊ大Ｐ—2		P22
P68	III43	円形	1.45×1.69	Ｊ大Ｐ—2		P23
P69	III43	円形	0.71×0.68			P24
P70	I 21	円形	0.59×0.63	H—212		P25
P71	I 196	方形	1.74×1.84	F—1		方P 7

(4) 井戸跡

遺構名	位　置	形　状	規　模（m）	備　考
I 1	欠番			
I 2	I 194	円形	1.54×1.72	直に掘り込む。1.7mと3.5mの地点で狭くなる。
I 3	I 231・232	円形	2.92×2.96	
I 4	I 212	円形	1.47×1.50	直に掘り込む。H—189・190と重複。
I 5	I 212	円形	1.22×1.28	直に掘り込む。H—189・190と重複。
I 6	III46・64	円形	0.98×1.04	番城堀際。Ｊ大Ｐ—2と重複。
I 7	I・II10	円形	4.80×4.60	深さ1mで径2.40mほどに細くなる。

(5) 製鉄址

遺構名	位　置	形　状	規　模（m）	備　考
F 1	I 196	長円形	1.54×0.50	焼土。炭化物。鉄滓。鉄片出土。一部削平。
F 2	I 178	円形	1.02×0.92	多量の鉄滓と石材出土。
F 3	I 30	円形＋半円形	3.40×2.50	鉄滓。フイゴ口出土。

(6) 溝　跡

遺構名	位　置	規　模（m）	長さ。走行等	備　考
W 1	I 41～I 79	上1.6、下1.0	52m。北東～南西。	
W 2	I 79～I 173	上2.5、下1.7	128m。北東～南西。	H—151重複。新。
W 3	II40～I 21・I 20	上0.6、下0.5、深0.14	110m。東西。	I —21で分岐。H—223・231・1。旧。区画。
W 4	II21	上0.8、下0.6、深0.42	10m。南北。	H—38。新。区画。
W 5	IV 4～III28	上3.5	160m。北東～南西。	3期に分かれる。すり鉢断面。
W 6	II39～II21	上1.2、下0.7	24m。東西。	H—39。旧。区画。
W 7	IV23～III43・44	上1.1、下0.7、深0.25	125m。北東～南西。	H—44。新。区画。
W 8	IV 8～III 8	上2.2、下0.4、深0.60	10m。北東～南西。	H—45。新。
W 9	III区			番城の堀（6巻所収）。
W10	I 105～102	上1.8、下0.5、深0.45	30m。南北。	H—85。新。区画。
W11	I 101～137	上2.0、下0.9、深0.45	40m。東西。	H—91。新。区画。
W12	I 119～137	上3.0、深0.45	40m。東西。	H—89・90・93。新。
W13	I 159～156	上1.5、下1.2	70m。南北。	I —159で折れる。区画。
W14	I 134	上1.1、下0.7、深0.22	15m。北東～南北。	区画。H—130。新。
W15	I 96	上1.0、深0.28	10m。北西～南東。	H—138。新。区画。
W16	I 97～114	上2.2、下0.8、深0.40	20m。北西～南東。	H—139。新。区画。
W17	I 152～132	上0.8、下0.4	50m。北東～南西。	
W18	I 156～157	上2.7、下2.6、深0.30	20m。南北。	H—150。新。区画。
W19	I —159～156・174	上4.4、下2.2、深0.30	15m。東西。	H—153。新。区画。W—13と合流。
W20	I 173～155	上4.0、下0.5	35m。東西。	H—155。新。区画。
W21	I 84～64・31～84・31～11・II— 9～8	上1.4、下0.8、深0.30	180m。	ほぼ長方形の区画。
W22	I 195～213・212	上0.5、下0.3、深0.40	30m。	H—172・178と重複（新）して折れる。区画。
W23	I 249	上1.3、下0.6、深0.20	5 m。東西。	W—25と区画作るカ。H—170。新。
W24	I 211	上2.0、下0.9、深0.50	20m。東西。	H—212と重複（新）して折れる。区画。
W25	I 230～229	上2.7、下1.3、深0.30	10m。南北。	H—202。旧。W—23と区画作るカ。
W26	I 159～158	上2.1、下0.7、深0.45	10m。南北。	H—234。新。W—18と区画作るカ。
W27	III11～47	上0.6、下0.2	50m。東西。	III—47で折れる。区画。

表－5　芳賀北部団地遺跡出土墨書・刻書遺物一覧表

No.	遺構名	器種	釈文	出土位置	挿図	墨書刻書箇所	備考
1	H 8	坏　土師器	「＋」?	覆土	16－2	底部外面	
2	H10	坏　土師器	「　」	覆土	19－6	体部外面	
3	H12・13	坏　須恵器	「三」カ	貯蔵穴内	21－2	見込部	
4	H12・13	坏　須恵器	「三」	周溝内	21－6	体部内・外面	
5	H15	坏　内黒土器	「千万」	不明	25－1	底部外面	
6	H17	坏　須恵器	「千・」	床下土坑A内	28－5	底部外面	
7	H17	坏　内黒土器	「千万」	床面	28－6	底部外面	
8	H17	埦　須恵器	「酒」カ	覆土	28－11	体部外面	
9	H17	埦　内黒土器	「千万」	カマド内	28－12	底部外面	
10	H17	皿　内黒土器	「千万」	P 6内	28－13	体部外面	
11	H18	埦　須恵器	「金」カ	覆土	31－3	体部外面	
12	H18	埦　須恵器	「　」	覆土	31－4	体部内面	
13	H24	坏　須恵器	「　」	覆土	39－1	底部外面	
14	H25	坏　土師器	「　」	覆土	40－2	底部外面	
15	H40	坏　土師質	「・□・井」	覆土	60－1	体部内面	
16	H50	埦　須恵器	「大」	床面	74－4	底部外面	刻書。
17	H51	埦　須恵器	「　」	周溝内	76－3	体部外面	
18	H51	埦　須恵器	「主」カ	覆土	76－4	体部外面	刻書。
19	H52	埦　須恵器	「王」?	覆土	76－8	見込部	
20	H58	坏　土師質	「　」	床面	84－3	体部内面	
21	H62	坏　土師器	「甲」カ	覆土	90－1	底部外面	
22	H62	紡錘車　土製品	「甲」カ	覆土（＋19）	90－8	上径部	刻書。
23	H74	坏　土師器	「田」カ	覆土	103－2	体部外面	刻書。
24	H83	坏　土師器	「𠂉」カ	床面	112－8	体部外面	
25	H84	坏　土師器	「キ」?	覆土	115－1	底部外面	
26	H85	坏　須恵器	「右」	床面	116－2	体部外面	
27	H87	坏　土師器	「　」	覆土	120－2	体部内面	
28	H87	坏　須恵器	「　」	覆土	120－3	体部外面	
29	H88	坏　土師器	「千万」カ	覆土	122－1	見込部	
30	H88	甕　土師器	「千・」カ	覆土	122－2	体部内面	
31	H88	坏　須恵器	「　」	覆土	122－3	体部内面	
32	H88	坏　須恵器	「　」	覆土	122－4	底部外面	

No.	遺構名	器種	釈文	出土位置	挿図	墨書刻書箇所	備考
33	H89	坏 土師器	「 」	覆土	122—1	体部内面	
34	H91	坏 内黒土器	「千万」	覆土	125—1	底部外面	
35	H91	坏 須恵器	「千万」	覆土	125—2	体部外面	
36	H91	埦 須恵器	「 」	覆土	125—3	見込部	
37	H93	坏 土師器	「 」	貯蔵穴内	127—2	体部外面	
37	H93	坏 土師器	「千」	覆土	127—3	体部外面	
38	H93	坏 内黒土器	「 」	覆土	127—4	底部外面	
39	H93	埦 須恵器	「 」	覆土	127—8	体部外面	
40	H94	坏 土師器	「千万」	覆土	129—1	見込部	
41	H94	埦 須恵器	「千万」カ「寿」?	覆土	129—3	底部内面・外面	
42	H96	坏 土師器	「×四」	覆土	131—1	体部内面	ヘラ記号。
43	H101	坏 土師器	「局」?	覆土	140—1	底部外面	
44	H102	坏 土師器	「東」カ	床面	143—1	体部外面	
45	H110	托?土師質	「 」「 」	覆土	150—4	体部内・外面	
46	H115	蓋?土師質	「 」	床面	155—1	天井部内・外面	文字。記号?多数。
47	H128	坏 須恵器	「 」	覆土	172—7	端部	刻書?
48	H174	坏 須恵器	「 」「一」	覆土（+40）	228—1	体部外面・底部	墨書及び刻書。
49	H175	坏 須恵器	「主」カ	覆土	229—2	底部外面	
50	H183	埦 内黒土器	「大」	覆土	237—8	内面	ヘラ書き。
51	H189	坏 土師器	「大」	覆土	244—1	内面	
52	H196	小型埦 土師質	「 」	覆土	251—15	内面	符号カ。
53	H198	坏 土師器	「七」?	貯蔵穴内	257—4	底部	明瞭でない。
54	H200	埦 須恵器	「主」	覆土	260—39	底部	
55	H222	坏 須恵器	「 」	床面	278—10	底部	記号カ。
56	K1	坏 土師器	「 」	覆土	289—4	体部	
57	P7	埦 須恵器	「 」「 」	覆土	298—1	体部内・外面	
58	I31	坏 須恵器	「 」		315—5	体部外面	
59	I31	埦 須恵器	「千万」「千万」		315—10	体部内・外面	
60	I102	坏 須恵器	「 」		315—13	体部外面	
61	I115	埦 土師質	「 」		316—15	体部外面	
62	I120	坏 土師器	「千万」「千万」		316—19	底部内・外面	
63	I138	坏 須恵器	「正」		316—20	底部内面	
64	I173	埦 内黒土器	「千万」		316—29	底部外面	

No.	遺構名	器種	釈文	出土位置	挿図	墨書刻書箇所	備考
65	表採	坏 土師器	「毛」?		319—2	底部外面	
66	表採	塊 須恵器	「鳥所」		319—4	体部外面	刻書。

表－6　特殊遺物一覧表

No.	遺構名	種別	出土位置	特徴等	図版
1	H－2	紡錘車	住居外	石製品。32.9ｇ。	9－12
2	H－17	鞴羽口	床下土坑Ⓑ内		29－24
3	H－17	鉄滓	覆土	鍛冶椀形滓カ。	29－25
4	H－31	砥石	周溝内	石製品。	48－4
5	H－32	丸鞆	覆土	銅製品。4.8ｇ。	50－2
6	H－33	棒状鉄製品	カマド内	断面長方形。	51－3
7	H－45	砥石	覆土	石製品。86.7ｇ。	67－3
8	H－46	鎌	壁際	鉄製品。	68－4
9	H－48	不明	＋10	鉄製品。平面半円状。	70－4
10	H－62	紡錘車	＋13	石製品。	90－7
11	H－62	紡錘車	＋19	土製品。上径面刻書カ「甲」カ。	90－8
12	H－70	砥石	－8	石製品。凝灰岩製。	99－7
13	H－70	小刀	＋8	鉄製品。	99－8
14	H－71	鎌	周溝内	鉄製品。	100－1
15	H－75	鉄滓	覆土	150ｇ。	105－7
16	H－76	刀子	周溝内	鉄製品。	105－8
17	H－77	鎌	＋17	鉄製品。	106－5
18	H－77	鉇	＋9	鉄製品。	106－6
19	H－83	鎌	＋6	鉄製品。	113－24
20	H－83	鎌	＋5	鉄製品。	113－25
21	H－83	刀子	＋5	鉄製品。	113－26
22	H－83	刀子	＋6	鉄製品。	113－27
23	H－90	砥石	覆土	石製品。	124－26
24	H－90	刀子	覆土	鉄製品。	124－27
25	H－90	刀子	＋5	鉄製品。	124－28
26	H－90	紡錘車	＋40	鉄製品。	124－29
27	H－90	不明	＋33	鉄製品。	124－30
28	H－90	鉄滓	覆土	鍛冶椀形滓。400ｇ。	124－31
29	H－92	硯	覆土	風字硯カ。	126－11
30	H－93	礫	－11	長円形。使用痕。	128－16
31	H－95	不明	覆土	鉄製品。扁平な板状。	130－6
32	H－95	砥石	壁際	石製品。	130－7

No.	遺構名	種別	出土位置	特徴等	図版
33	H－96	紡錘車	周溝内	石製品。	132—24
34	H－96	丸鞆	－4	銅製品。	132—25
35	H－96	鎌	周溝内	鉄製品。	132—26
36	H－107	鏃	覆土	鉄製品。	147—18
37	H－107	止め金具	覆土	鉄製品。	147—19
38	H－111	鎌	＋13	鉄製品。	151—16
39	H－124	平瓦	＋8		165—11
40	H－124	礫	覆土	長円形。	165—12
41	H－124	鏃	＋12	鉄製品。	165—13
42	H－124	鏃	覆土	鉄製品。	165—14
43	H－126	砥石	＋13	石製品。	169—30
44	H－128	土製円板	覆土	土師質。坏より転用。	172—9
45	H－131	丸瓦	床面		176—2
46	H－132	鎌	＋21	鉄製品。	177—4
47	H－143	釘	＋5	鉄製品。角釘。	192—4
48	H－145	砥石	覆土	石製品。	194—8
49	H－161	鏃	不明	鉄製品。	209—27
50	H－164	鉄滓	覆土	275g。	215—8
51	H－166	不明	－13	鉄製品。	218—6
52	H－168	土製円板	＋4	土師質。托の転用カ。	221—8
53	H－168	紡錘具	覆土	土師質。	221—9
54	H－171	鞴羽口	覆土		226—3
55	H－176	土製円板	覆土	土師質。	230—9
56	H－181	土製円板	覆土	埦の転用。	234—6
57	H－182	土製円板	覆土	坏の転用。	234—13
58	H－182	紡錘具	覆土	土製品。	234—14
59	H－187	瓦	覆土		242—38
60	H－192	刀子	覆土	鉄製品。	247—14
61	H－196	鞴羽口	不明		252—27
62	H－196	鞴羽口	不明		252—28
63	H－196	鞴羽口	覆土		252—29
64	H－196	鞴羽口	－6		252—30
65	H－196	鞴羽口	不明		252—31

No.	遺構名	種別	出土位置	特徴等	図版
66	H—196	鞴羽口	覆土		252—32
67	H—196	鉄滓	覆土		252—33
68	H—196	鉄滓	覆土		252—34
69	H—197	鞴羽口	−27		254—67
70	H—197	鞴羽口	——		254—68
71	H—212	不明	覆土	銅製品。	255—18
72	H—213	土製円板	覆土	坏の転用カ。	256—13
73	H—214	鞴羽口	覆土		256—22
74	H—198	土製円板	覆土	坏の転用カ。	257—11
75	H—200	鉄滓	覆土	690g。	260—41
76	H—203	鏃	覆土	鉄製品。	262—11
77	H—217	砥石	覆土	石製品。	271—3
78	H—222	砥石	+10	石製品。	278—21
79	H—222	砥石	壁際	石製品。	278—22
80	H—229	砥石	覆土	石製品。	284—2
81	P—3	鉄滓	覆土	流出滓カ。	296—4
82	P—3	鞴羽口	覆土		296—5
83	F—1	鉄滓	覆土	110g。他に多数。	310—6
84	F—2	鉄滓	覆土	60g。	310—1
85	F—2	鉄滓	覆土	70g。	310—2
86	F—2	鉄滓	覆土	140g。	310—3
87	F—2	鉄滓	覆土	140g。	310—4
88	F—2	鉄滓	覆土	350g。	310—5
89	F—2	鉄滓	覆土	110g。	310—6
90	F—2	鉄滓	覆土	160g。	310—7
91	F—2	鉄滓	覆土	200g。	310—8
92	F—2	鉄滓	覆土	110g。	310—9
93	F—2	鉄滓	覆土	240g。	310—10
94	F—2	鞴羽口	覆土		310—11
95	F—2	鞴羽口	覆土		310—12
96	F—3	鉄滓	覆土	50g。	310—1
97	F—3	鉄滓	覆土	30g。	310—2
98	F—3	鉄滓	覆土	20g。	310—3

No.	遺構名	種別	出土位置	特徴等	図版
99	F－3	鉄滓	覆土	90g。	310－4
100	F－3	鞴羽口	覆土		310－5
101	F－3	鞴羽口	覆土		310－6
102	F－3	鞴羽口	覆土		310－7
103	I－31－95	鞴羽口			315－8
104	I－134－61	砥石		石製品。	316－18
105	I－230－27	ミニチュア土器		台形断面。黒色研磨。	318－77
106	I－249	紡錘具		塊の転用。	318－85
107	II－20－8	垂飾品		硬玉製。勾玉状の形状。	318－88
108	表採	砥石		石製品。	319－6
109	表採	垂飾品		碧玉製。	319－7
110	表採	鏃		鉄製品。	319－8
111	表採	刀子		鉄製品。	319－9
112	表採	棒状鉄製品		鉄製品。	319－10
113	表採	不明		鉄製品。	319－11
114	表採	棒状鉄製品		鉄製品。鉋状工具カ。	319－12
115	表採	紡錘具		鉄製品。	319－13
116	H－27	砥石？	＋8	石製品。	319－1
117	H－28	砥石	＋11	石製品。	319－2
118	H－39	砥石	覆土	石製品。	319－3
119	H－90	砥石	覆土	石製品。	319－4
120	H－94	砥石	＋12	石製品。	319－5
121	H－42	砥石	覆土	石製品。	319－6
122	H－111	砥石	＋11	石製品。	319－7
123	H－182	砥石	＋18	石製品。	319－8
124	H－195	砥石	覆土	石製品。	319－9
125	H－221	砥石	覆土	角閃石安山岩	319－10
126	H－197	砥石	不明		319－11

H－1号住居跡出土遺物観察表（図－7）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①輝石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④小片	体部緩く内湾。口縁部短く直立、唇部丸い。 口縁部横撫で。体部下半篦削り。指頭痕残る。	
2	坏 土師器	+17	——	①密　②普通　③橙2.5YR6/6 ④小片	体部緩く内湾、口縁部で外傾。 口縁部横撫で。体部下半篦削り。	
3	坏 須恵器	P_4内	——	①密　②良好　③灰7.5Y5/1 ④小片	底部平底気味。腰部屈曲。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転篦削り。腰部篦削り。	断面セピア

H－2号住居跡出土遺物観察表（図－9　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	+7	①11.8　②－ ③3.1	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④ほぼ完形	体部浅く、緩く内湾。底部扁平。 口縁部横撫で。体部下半篦削り。	
2	坏 土師器	+20	①12.8　②－ ③3.4	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の3/4	底部扁平。体部浅く、口縁で外反する。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
3	坏 土師器	床面	①(14.8)　②－ ③3.8	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/8　④全形の1/2	底部扁平。体部屈曲気味に立ち上る。 口縁部横撫で。指頭痕残る。体部～底部篦削り。	
4	坏 土師器	+7	①12.8　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④底部欠損	底部扁平。体部屈曲気味に湾曲、口縁部で外反する。口縁部横撫で。体部指頭痕残る。	
5	坏 土師器	覆土	——	①輝石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④小片	体部屈曲気味に湾曲。口縁部外反する。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
6	坏 土師質	床面	①14.5　②6.0 ③4.0	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④ほぼ完形	底部小さく、体部緩く湾曲。轆轤整形。口縁部横撫で。体部篦削り。底部回転糸切り。	器肉厚い 内面篦磨き
7	坏 須恵器	－2	①(12.0)　②7.8 ③3.3	①密　②普通　③灰白10YR8/1 ④全形の1/3	底部大きく上げ底部。体部直線的に立上る。 轆轤整形。底部回転篦切り。口縁部横撫で。	
8	坏 須恵器	竈内	①(13.6)　②6.8 ③4.0	①密　②良好、酸化焔。 ③橙7.5YR7/6　④全形の1/3	体部下半若干膨らむ。底径小さい。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	坏 須恵器	+17.5	①(13.2)　②－ ③－	①密　②良好、酸化気味。③にぶい黄橙10YR7/2　④上半部1/3	体部下半若干膨らみ、口縁部で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
10	坏 須恵器	+1	①12.2　②6.7 ③4.0	①チャート粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y5/1　④口縁1/2欠損	体部下端括れ、直線的に外傾。体部下半膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器形歪む。
11	高坏 須恵器	－2	脚部径(12.2) 現高6.3	①混入物多　②良好　③灰5Y5/1 ④脚部1/4	下端にむかい緩く外反、端部丸みもつ。轆轤整形。 上半に沈線廻る。3方向に台形状の透し。	
12	紡錘車 石製品	住居外	上径3.0　下径3.8 高1.3　孔径0.7		側面亀の子状の加工痕。下面擦痕。	32.9g
13	甕 土師器	+7	①(19.2)　②－ ③－	①輝石含、密。　②良好 ③にぶい赤褐5YR6/4　④口縁1/5	口縁部直立後、外反する。肩部の張りは弱い。 口縁部横撫で。指頭痕残る。肩部横位篦削り。	
14	甕 土師器	+7	①(21.6)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/2	口縁部上端で強く外反する。肩部の張りは弱い。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。	
15	甕 土師器	覆土	①23.8　②－ ③現高25.8	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④胴部下端欠損	口縁部外反して開く。胴部上半に最大径、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で。胴部横・縦位篦削り。	外面一部吸炭

H－4号住居跡出土遺物観察表（図—11　図版—1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	——	①(13.8)　②7.4 ③5.4	①砂粒多い。雑。　②普通 ③浅黄2.5Y7/3　④体部大半欠損	だれた短い高台。体部轆轤目顕著。器肉やや厚い。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	——	①—　②(6.3) ③—	①緻密　②酸化焔　③にぶい黄橙 10YR7/4　④下半部1/2	だれた短い高台。轆轤整形。 底部回転糸切り。高台貼付後の調整雑。	
3	埦 須恵器	——	①—　②7.0 ③—	①砂粒多い。雑。　②普通　③にぶい黄橙10YR7/2　④体部欠損	だれた高台。調整雑。器肉やや厚い。轆轤整形。 底部回転糸切り。	

H－5号住居跡出土遺物観察表（図—12　図版—1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	竈付近	①(12.0)　②— ③—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/2弱	体部緩く内湾、口唇部で内傾。浅い器形。 口縁部横撫で。体部下半篦削り。	
2	坏 須恵器	覆土	①11.8　②7.5 ③3.9	①チャート粒含、密。　②良好 ③灰N6/　④体部若干欠損	底径大きく、やや箱型の器形。腰部若干の丸み。 轆轤整形。底部回転糸切り後、外周部篦削り。	
3	甕 土師器	覆土	①(15.6)　②— ③—	①輝石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④小片	胴部丸く、上半で張る。口縁部上端強く外反。 口縁部横撫で。胴部上半横位篦削り。	
4	甕 土師器	竈内	①20.0　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部2/3	胴部内湾、上半で張る。口縁部外反。 口縁部横撫で。指頭痕残る。胴部横・斜篦削り。	

H－6号住居跡出土遺物観察表（図—13）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③(3.7)	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙2.5YR6/4　④1/2弱	体部緩く内湾、口縁変換点で弱く屈曲。 口縁部横撫で。体部下半篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	——	①軟質。密。　②良好 ③橙5YR6/6　④小片	底部平底気味。体部外傾して開く。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
3	坏 須恵器	覆土	①(12.7)　②— ③3.8	①白色粒含、密。　②良好 ③褐灰10YR6/1　④全形の1/5弱	底部やや上げ底。腰部丸く、外傾して立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。腰部手持ち篦削り。	
4	坏 須恵器	覆土	——	①緻密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④小片	体部直線的に外傾。轆轤目顕著。 口縁部横撫で。底部回転篦削りか。	
5	坏 須恵器	覆土	①(11.6)　②6.5 ③3.8	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④全形の1/3	やや小型の器形。体部直線的に外傾、口縁で立ち上る。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

H－7号住居跡出土遺物観察表（図—14　図版—1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	竈内	①12.2　②— ③3.4	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部1/4欠損	底部平底。体部緩く外傾、口縁部でくびれる。 口縁部横撫で。体部下端指頭痕残る。底部篦削り。	
2	坏 須恵器	覆土	①—　②(6.0) ③—	①密　②普通　③灰白2.5Y8/1 ④底部1/2	底部平底で、やや突出気味。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	＋33	——	①密　②酸化焔　③にぶい赤褐5YR5/4　④小片	腰部ふくらむ。体部外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切りか。器面磨耗。	体部外面 黒色付着物
4	埦 須恵器	覆土	①—　②7.2 ③—	①白色軽石含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④底部1/2	断面台形状のだれた高台。轆轤整形。 高台貼付調整雑。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5	埦 須恵器	覆土	①－　②(7.8) ③－	①チャート粒含、雑。　②良好 ③褐灰10YR6/1　④底部1/6	高台やや高め。腰部張る。体部外傾。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
6	甕 土師器	覆土	①(11.2)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙2.5 YR6/4　④口縁部1/4	肩部張る。口縁部直立し、上端で外傾する。 口縁部強い横撫で。肩部横位篦削り。内面指撫で。	
7	甕 土師器	竈内	——	①密　②良好　③にぶい橙2.5 YR6/4　④口縁部小片	口縁部直立後外傾する。肩部張り弱い。 口縁部強い横撫で。肩部横位篦削り。	

H－8号住居跡出土遺物観察表（図－16）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	竈	①(12.8)　②－ ③(3.5)	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④1/5弱	体部下端丸み強く、口縁部変換点でくびれる。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④底部小片	底部外面墨書「＋」? 底部篦削り。	
3	埦 灰釉陶器	覆土	①(15.0)　②(6.5) ③5.6	①緻密　②良好　③素地灰白5 YR8/1　④全形の1/8	高台三日月型だが、稜は弱い。体部緩く内湾、口 縁部短く外反。施釉刷毛塗りか。	
4	甕 土師器	覆土	①(20.1)　②－ ③－	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③明赤褐2.5YR5/6　④上半部1/2	口縁部コの字状。胴部上端張る。 口縁部強い横撫で。肩部横位篦削り。内面篦撫で。	外面吸炭
5	甕 須恵器	覆土	——	①緻密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④口縁部小片	口縁部外反し、口唇部で短く直立する。 沈線・波状文交互に配される。	降灰釉付着

H－9号住居跡出土遺物観察表（図－18　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(11.6)　②－ ③－	①密　②良好　③褐7.5YR4/3 ④上半部1/4	体部直線的に外傾。口縁部内側窪む。 口縁部横撫で。体部篦削り。	
2	坏 須恵器	竈	①(12.4)　②(6.2) ③3.5	①砂粒多く、雑。　②不良 ③灰白5Y8/2　④全形の1/5弱	体部緩く湾曲、口縁部外反する。やや上げ底。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部の回転糸切り。	
3	埦 須恵器	竈	①14.4　②6.2 ③5.3	①砂粒含、ざらつく。②普通　③ 灰黄2.5Y6/2　④全形の1/2	底径小さく、だれた短い高台。体部直線的。口縁 部外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	外面吸炭 内面煤付着
4	甕 土師器	竈	①(19.7)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい褐7.5 YR5/3　④口縁部1/6弱	口縁部「コ」の字状。肩部若干の張り。 口縁部強い横撫で。肩部横位篦削り。内面篦撫で。	口縁部肉厚
5	甕 須恵器	竈	①(24.2)　②－ ③－	①密　②普通　③灰白5Y7/1 ④口縁部1/4	肩部大きく張り、口縁部外反する。口縁部横撫で 頸部内面接合痕。外面平行叩き目、内面当て目痕。	器面磨耗

H－10号住居跡出土遺物観察表（図－19　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②－ ③3.0	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4	底部平底。体部緩く内湾。口縁部変換点で若干稜 をもつ。口縁部横撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	①(12.1)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/4弱	底部～体部変換点に稜。体部緩く内湾、口縁に至 る。口縁部横撫で。底部篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	①(13.4)　②－ ③2.8	①軽石粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の1/3	底部平底。体部緩く内湾、浅い。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
4	坏 土師器	P_1内	①(11.9)　②8.4 ③3.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部5/6欠損	底部中央で凸状。体部緩く外傾、口縁部で屈曲。 口縁部横撫で。底部一定方向篦削り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5	坏 土師器	覆土	——	①軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④小片	底部凸状か。体部外傾し、口縁部変換点で屈曲。 口縁部横撫で。体部内面篦磨き。外面篦削り。	
6	坏 土師器	覆土	——	①軽石含、密。②良好 ③橙5YR6/6　④小片	5の器形に似る。外面墨書。内面篦磨き。 外面～底部篦削り。	
7	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③3.9	①輝石・軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部1/6欠損	底部輪状に突出し、体部下端器皺認む。底部調整未完成か。口縁部横撫で。体部下指撫で痕。	
8	蓋 須恵器	P_1内	①(12.0)　②— ③—	①密　②良好　③明褐灰7.5YR7/1　④小片	天井端部で稜を形成、外傾して開く。口唇部弱く膨らむ。轆轤整形。天井部回転篦削り。	自然釉付着
9	坏 須恵器	覆土	①(12.0)　②7.2 ③4.1	①緻密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④全形の1/2弱	底部平底。体部直線的に外傾。箱形の器形。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	坏 須恵器	覆土	①(12.8)　②7.8 ③3.1	①軽石粒含、密。　②良好。酸化焔。 ③にぶい褐7.5YR5/4　④体部3/4欠	底部平底。体部浅く、直線的に外傾。轆轤整形。 底部回転糸切り、外周部回転篦削り。	
11	坏 須恵器	覆土	①12.6　②6.5 ③3.5	①チャート粒含、雑。　②良好 ③灰黄2.5Y6/2　④体部1/2欠損	底径小さい。体部外傾して開き、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部外周一部擦れ
12	坏 須恵器	P_1内	①(12.2)　②5.6 ③3.7	①軽石粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y6/2　④小片	体部下半弱く膨らむ。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	坏 須恵器	覆土	①—　②6.3 ③—	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④体部上半欠損	底部やや上げ底。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
14	埦 須恵器	P_1内	①—　②(6.6) ③—	①砂粒含、軟。　②普通　③にぶい黄橙10YR7/2　④下半部1/2	だれた短い高台。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
15	壺 須恵器	覆土	①—　②(6.0) ③—	①緻密。　②良好　③にぶい黄褐10YR5/3　④底部3/4	断面台形状の高台。貼付丁寧。内面工具痕顕著。 体部下端細身。底部回転糸切り。	胎土極めて密
16	鉢 土師器	P_1・P_2内	①(19.4)　②11.3 ③8.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3	底部中央凸状。体部直線的に外傾、口縁部で括れる。口縁部横撫で。体部～底部篦削りか。	体部磨滅顕著。
17	甕 土師器	覆土	——	①輝石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部小片	口縁部「コ」の字状。肩部張りをもつ。 口縁部強い横撫で。肩部横位篦削り。	

H—12・13号住居跡出土遺物観察表（図—21　図版—1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 内黒土器	−10	①(13.3)　②6.3 ③3.9	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/4強。	底部上げ底。体部内湾して立ち上る。轆轤整形。 内面内黒処理、放射状の篦磨き。底部回転糸切り。	器肉薄い。
2	坏 須恵器	貯蔵穴内	①12.4　②6.2 ③3.5	①チャート粒含、密。　②良好 ③灰黄5Y7/2　④口縁部若干欠	底部上げ底。体部直線的に外傾。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	見込墨書「三」か
3	坏 須恵器	住居外	①12.0　②6.2 ③3.4	①白色粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④口縁部1/3欠損	底部上げ底。体部若干の丸み。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	覆土	①—　②5.6 ③—	①チャート粒含、密。②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④底部	底部わずかに上げ底。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
5	埦 須恵器	貯蔵穴内	①(14.4)　②6.8 ③6.2	①砂粒含、軟。　②普通 ③黄灰2.5Y5/1　④全形の1/4	短い高台。整った器形。体部深く、緩く内湾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	外面吸炭
6	埦 須恵器	周溝内	①14.8　②6.8 ③5.9	①白色粒含、軟。　②普通 ③灰黄2.5Y	体部深く、短い高台。体部内湾して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	内・外面墨書「三」
7	埦 須恵器	＋9	①—　②7.0 ③—	①密、軟。　②良好 ③灰白10Y7/1　④底部	短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
8	埦 須恵器	覆土	①－　②6.2 ③－	①密　②良好 ③灰10Y6/1　④底部	短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	
9	埦 内黒土器	－5	①－　②6.4 ③－	①密、軟。　②普通、酸化焔 ③浅黄橙10YR8/3　④下半部	高台断面台形状。体部丸く内湾。轆轤整形。 底部回転撫で。黒色処理後、篦磨き。	
10	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙2.5YR6/4　④口縁部	口縁部コの字状。口縁部横撫で。肩部横位の篦削り。内面篦撫で。	
11	甕 土師器	住居外	——	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④底部	底部に向って先細りする。外面篦削り。内面篦撫で。底部煤付着。	
12	甑 羽釜形	覆土	①－　②(23.6) ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④基部	羽釜型甑か。器肉肥厚。基部強く外反。 胴部篦削り。基部回転撫で。紐つくり。	
1 H13	埦 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰7.5Y6/1　④小片	短い高台。轆轤整形。	
2 H13	埦 須恵器	覆土	——	①密、軟。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④小片	短い高台。轆轤整形。	

H－14号住居跡出土遺物観察表（図－23）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②－ ③3.2	①輝石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部3/4欠損	底部扁平。体部緩く内湾、口縁でわずかに外反する。口縁部横撫で。体部指頭痕。底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	口縁部丸く造り出し。底部～体部への変換点屈曲。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
3	小形坏 土師質	竈内	①9.3　②6.0 ③2.0	①密　②良好、酸化焔。　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の2/3	皿形の坏。底部わずかに上げ底。体部緩く外傾。 底径大きい。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	托 土師質	竈内	①9.8　②2.8 ③3.2	①砂粒含、密。　②良好、酸化焔。 ③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/2	柱状高台。体部ハの字に開き、皿形。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	鉢 土師質	竈内	①－　②11.0 ③－	①緻密　②良好、酸化焔。 ③にぶい橙5YR6/4　④下半部	高台は高く、わずかに外傾。体部下半細身。 体部～高台回転撫で。底部再調整。	
6	蓋 須恵器	竈内	——	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④小片	体部緩く傾斜。端部短く外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。	
7	羽釜	竈内	①(19.2)　②－ ③－	①密　②良好、酸化焔。 ③橙5YR7/6　④上半部1/3	鍔は小形、水平に張り出す。口縁内傾し、上端水平。口縁部横撫で。体部回転撫で。	
8	甕 土師器	竈内	——	①白色粒含、密。　②良好、酸化焔。　③橙5YR6/6　④小片	肩部若干の張り。口縁部短く外反する。 口縁部横撫で。体部縦位篦削り。内面篦撫で。	煮こぼれ付着

H－15号住居跡出土遺物観察表（図－25　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 内黒土器	——	①－　②6.5 ③－	①白色粒含、密。　②良好、酸化焔。③浅黄橙10YR8/4　④下半1/2	底部平底。体部緩く内湾。轆轤整形。底部回転糸切り。内面内黒後篦磨き。底部外面墨書「千万」	
2	坏 須恵器	覆土	①(12.8)　②5.8 ③4.4	①白色粒含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④全形の2/5	底部小さく、体部外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	埦 須恵器	竈内	①(14.0)　②－ ③－	①砂含、密。　②酸化焔　③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部1/3	体部内湾して開き、口縁部わずかに外反。轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4	埦 須恵器	P内	①14.0　②6.8 ③5.2	①砂粒多、荒い。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④ほぼ完形	台形状の短い高台。体部緩く内湾、口縁短く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	埦 須恵器	P内	①14.3　②7.5 ③5.7	①チャート粒含、荒い。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④ほぼ完形	台形状の短い高台。体部緩く内湾、口縁短く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④小片	口縁部「コ」の字状。肩部の張りは弱い。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。内面篦撫で。	
7	甕 須恵器	竈内	——	①白色粒含、荒い。　②良好 ③灰黄2.5Y6/2　④小片	口縁部外反し、上端で強く外屈する。 回転撫で。	
8	台付甕 土師器	位置不明	①台部径9.4 高3.5	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④台部のみ	台部緩く外反して開く。 内・外面横撫で。	
9	壺 須恵器	覆土	①—　②4.7 ③—	①密　②良好　③明褐灰7.5YR7/1　④底部	小形の器形か。 底部再調整か。内・外面回転撫で。	

H—16号住居跡出土遺物観察表（図—26）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(14.5)　②— ③4.0	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4	底部～体部丸く内湾し、口縁部に至る。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	体部やや深い
2	坏 土師器	+15	①13.4　②— ③3.4	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④全形の1/2	体部やや扁平。底部～体部緩く内湾し、口縁部で直立する。口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
3	坏 土師器	+2	①13.5　②— ③3.6	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/2強	体部やや扁平。体部緩く内湾し、口縁部で直立する。口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	体部上半器皺あり
4	坏 土師器	覆土	①13.2　②— ③(3.6)	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の2/3	体部やや扁平。体部緩く内湾。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
5	坏 土師器	覆土	①(12.7)　②— ③—	①密、軟質。　②普通　③橙5YR7/6　④上半部1/2	底部～体部丸く内湾、口縁部で直立する。やや小さい器形。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	体部やや深い
6	坏 土師器	+2	①(13.0)　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/4	底部～体部丸く内湾、口縁部に至る。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	体部やや深い
7	坏 土師器	覆土	①(13.4)　②— ③3.7	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2	体部扁平。体部緩く内湾。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
8	坏 土師器	+6	①(13.6)　②— ③3.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部2/3欠損	体部扁平。体部緩く内湾、口縁部で直立する。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
9	坏 土師器	+9	①(14.0)　②— ③3.0	①密　②良好　③にぶい橙2.5YR6/4　④体部3/5欠損	体部扁平。体部緩く内湾、口縁部に至る。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
10	埦 灰釉陶器	覆土	①—　②7.8 ③—	①密　②良好　③素地灰白7.5Y8/1　④底部	高台だれた三日月型。釉はとんでいる。 轆轤整形。底部回転糸切り。漬けがけ。	

H—17号住居跡出土遺物観察表（図—28・29　図版—1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④小片	体部やや扁平か。底部～体部緩く湾曲。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 須恵器	竈	①12.5　②6.0 ③4.2	①石英含、ざらつく。　②良好 ③浅黄2.5Y7/3　④ほぼ完形	底部小さい。体部外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。轆轤目顕著。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	坏 須恵器	P_7内	①12.5　②5.8 ③4.0	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④完形	底部小さく、突出気味。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	+14	①14.0　②6.5 ③4.3	①密、ざらつく。　②浅黄2.5Y7/3 ④ほぼ完形	底部小さく、体部外傾して開く。口縁部外反。轆轤整形。口縁部横撫で。轆轤目顕著。	体部内・外面一部吸炭
5	坏 須恵器	床下土坑Ⓐ内	①－　②(5.8) ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④底部1/2弱	底部小さく、上げ底。轆轤整形。底部回転糸切り。 底部外面墨書「千・・」　内面も墨書か。	
6	坏 内黒土器	－2	①12.0　②6.0 ③4.1	①密　②酸化焔　③浅黄2.5Y8/3 ④ほぼ完形	底部小さく、体部外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。内黒処理後篦磨き。回転糸切り。	底部外面墨書「千万」
7	埦 須恵器	竈	①－　②6.8 ③－	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部下半	直立する短い高台。体部外傾。轆轤整形。体部内面工具痕顕著。底部回転糸切り。	
8	埦 須恵器	－4	①(14.4)　②6.8 ③(5.0)	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③灰白5Y8/2　④体部5/6欠損	高台短く、体部外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	埦 須恵器	覆土	①(15.3)　②7.8 ③5.4	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③黄灰2.5Y4/1　④体部大半欠損	直立する短い高台。体部若干膨らむ。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	いぶし処理か
10	埦 須恵器	覆土	①－　②(6.8) ③－	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③灰黄2.5Y7/2　④下半部1/2	外傾する短い高台。体部やや丸い。轆轤整形。体部轆轤目顕著。底部回転糸切り。	
11	埦 須恵器	+14	①－　②現6.3 ③－	①チャート粒含、密。　②酸化焔 ③にぶい黄橙10YR6/3　④下半部	高台剝落。腰部若干丸み。轆轤整形。 底部回転糸切り。	体部外面墨書「酒」
12	埦 内黒土器	竈	①(14.5)　②7.0 ③5.9	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部1/2欠損	直立する肉厚の高台。体部丸い。轆轤整形。 口縁部横撫で。内黒処理後篦磨き。回転糸切り。	底部外面墨書「千万」
13	皿 内黒土器	P_6内	①13.5　②現6.8 ③－	①密　②酸化焔　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部1/2欠損	高台剝落。体部浅くハの字に開く。轆轤整形。口縁部横撫で。内黒処理後篦磨き。底部再調整。	体部外面墨書「千万」
14	皿 灰釉陶器	+24	①(15.0)　②7.6 ③2.5	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④全形の1/4	台形状の高台。体部ハの字に開き、口唇部外反。 轆轤整形。体部下半回転篦削り。施釉刷毛か。	
15	甕 土師器	－14	①(12.8)　②－ ③－	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④上半部1/3	小型の器形。口縁部コの字状。胴部丸い。 口縁部横撫で。胴部横・斜篦削り。内面指撫で。	台付か。
16	台付甕 土師器	P_8内	①(14.5)　②－ ③現20.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部1/4、脚部欠損。	口縁部コの字状。胴部上半膨らむ。下半で先細り。 口縁部横撫で。胴部横・斜篦削り。	
17	台付甕 土師器	+13	①－　②脚部径9.8　③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④脚部	脚部ハの字状に外傾する。 内外面横撫で。	
18	甕 土師器	覆土	①(20.6)　②－ ③現21.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部2/3	口縁部コの字状。胴上半張り、下半で先細りする。 口縁部横撫で。胴部横・斜篦削り。内面篦撫で。	
19	甕 土師器	竈	①(21.0)　②3.5 ③26.6	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3	口縁部コの字状。胴部上半強く張る。口縁部横撫で。胴部横・斜篦削り。内面篦撫で。	
20	甕 土師器	P_7内	①(21.0)　②(3.8) ③29.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形のほぼ1/2	口縁部コの字状。胴部上半で張る。口縁部横撫で。 胴部横・斜篦削り。	胴部一部吸炭
21	甕 土師器	－21	①(19.0)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④上半部1/3	口縁部上半で外反。口縁部横撫で。胴部横・斜篦削り。内面篦撫で。	
22	甕 土師器	覆土	①－　②4.0 ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④下半部	胴部緩く内湾。 胴部斜位篦削り。	
23	甕 須恵器	+14	①－　②(14.5) ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④底部1/3	底部平底。胴部外傾して立ち上る。外面叩き目。 内面当て目。両面共に撫で再調整。	内面紐つくり痕あり
24	鞴羽口	床下土坑Ⓑ内	長15.3　幅7.5 孔径2.0	①スサ含、密。　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④先端部	先端部黒色コークス状。部分的に小気泡 焼成変化し、還元焔化している。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
25	鉄滓	覆土	長16.0　幅11.0 重量1200ｇ	③明褐灰7.5YR7/2	鍛冶椀形滓か。断面U字状に窪む。 一部炉壁材付着。	

Ｈ－18号住居跡出土遺物観察表（図－31）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(13.5)　②(5.5) ③4.0	①砂含、ざらつく。　②良好 ③灰５Y6/1　④全形の1/5	底部上げ底。体部緩く内湾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	塊 須恵器	竈内	①(14.6)　②現7.0 ③ －	①密　②良好　③灰白５Y7/2 ④体部1/5、高台欠損	体部緩く内湾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。 底部回転糸切り後、高台貼付時再調整。	見込重ね焼痕
3	塊 須恵器	覆土	——	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③灰白５Y8/2　④口縁部小片	轆轤整形。口縁部横撫で。体部外面墨書「金」?	
4	塊 須恵器	覆土	——	①密　②普通　③浅黄５Y8/3 ④体部小片	轆轤整形。体部内面墨書判読不能。	
5	塊 須恵器	覆土	①－　②7.3 ③－	①密　②酸化焔　③にぶい橙7.5YR6/4　④底部	だれた短い高台。貼りつけ調整雑。轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	塊 須恵器	－４	①－　②6.4 ③－	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③灰黄2.5Y7/2　④底部	だれた短い高台。貼付雑。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
7	皿 須恵器	竈内	①(13.5)　②6.9 ③ －	①砂粒含、軟質。　②普通 ③灰黄2.5Y7/2　④口縁部2/3欠損	体部ハの字状に外傾し、口縁部外反する。短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙５YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。	
9	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙５YR6/6 ④口縁部小片	口縁部強いコの字状。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。	

Ｈ－19号住居跡出土遺物観察表（図－32）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.8)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4弱	体部浅く緩く湾曲。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
2	坏 須恵器	＋36	①(12.8)　②8.5 ③3.3	①白色鉱物粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y6/1　④口縁部3/4欠損	底径大きく、体部浅い。体部外傾して開く。 底部外縁～体部下端回転篦削り。底部回転糸切り。	
3	塊 須恵器	覆土	——	①精選、密。　②良好 ③灰５Y6/1　④底部小片	高台部外傾。体部は腰が張り、箱型の器形。 轆轤整形。	断面セピア
4	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④口縁部小片	口縁部外反し、肩部若干の張りをもつ。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。	

Ｈ－21号住居跡出土遺物観察表（図－34）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙５YR7/6　④口縁部1/4弱	体部緩く内湾、口縁部で外反する。 口縁部横撫で。体部下半～篦削り。	
2	坏 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/2　④底部小片	底径大きい。轆轤整形。 底部回転糸切り、外周撫でか。	自然釉付着
3	甕 土師器	覆土	①－　②(5.0) ③－	①砂粒、白色粒含、雑。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/3　④底部1/4	器肉厚い。不安定な平底。 胴部横・縦位篦削り。	

H－22号住居跡出土遺物観察表（図－36）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	体部緩く内湾、口縁部短く直立する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 須恵器	＋1	①－　②(7.4) ③－	①密　②不良　③浅黄橙7.5YR 8/3　④底部1/5	底部やや上げ底。切り離し後の調整雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	埦 須恵器	＋1	①(13.6)　②(5.9) ③4.8	①砂粒含、軟質。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④全形の1/4	底径小さい。体部下半に丸み、上半で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	蓋 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④小片	身部扁平、口唇部短く外傾する。轆轤整形。 天井部回転篦削り。	
5	壺 須恵器	＋1	①－　②(12.9) ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④底部1/3	体部直線的に立ち上り、外傾して開く高台をもつ。 体部外面回転篦削り。底部再調整。	自然釉付着
6	甕 土師器	＋1	①(22.5)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④口縁部1/4弱	肩部に若干の張り。口縁部外反して開く。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。内面撫で。	
7	甕 土師器	＋1	——	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④底部	底部小さく、胴部下半で大きく外傾する。 外面縦位篦削り。内面篦撫で。	

H－23号住居跡出土遺物観察表（図－37）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①17.3　②－ ③5.3	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④全形の1/3弱	大型の器形。底部～体部緩く内湾、口縁部短く直立する。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 土師器	床面	①(13.6)　②－ ③4.6	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/4	底部～体部単球状に丸く内湾。口縁部短く直立。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	①12.8　②－ ③4.4	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の2/3	底部～体部丸く内湾、口縁部直立する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
4	坏 土師器	－13	①(15.1)　②－ ③－	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④上半部1/4	体部浅く扁平。口縁部やや長く、緩く外反する。 口縁部横撫で。体部篦削り。	
5	坏 須恵器	覆土	①－　②7.0 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③灰白N7/　④底部	底部上げ底。体部緩く湾曲。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
6	小型甕 土師器	－13	①(10.8)　②－ ③9.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/5欠損	底部安定した丸底。体部内湾して立ち上り、口縁部緩く外反。口縁部横撫で。体部篦削り。	外面煤付着
7	甕 土師器	覆土	①(22.5)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部1/4弱	胴部直立気味に湾曲、口縁部外反して開く。 口縁部横撫で。胴部斜・縦位篦削り。	器肉薄い
8	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR6/4　④口縁部小片	口縁部外傾して開く。 口縁部横撫で。	

H－24号住居跡出土遺物観察表（図－39　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	——	①密　②不良　③浅黄橙7.5YR 8/3　④底部小片	轆轤整形。 底部回転糸切り。底部外面墨書判読不能。	
2	蓋 須恵器	覆土	①16.6　摘径2.9 ③2.9	①小石、チャート粒含。　②良好 ③灰白5Y7/2　④口唇部2/3欠損	天井部平坦、体部緩く外傾。だれた口唇部短く直立。摘は小型の環状。天井部回転篦削り。	口唇部形骸化する。
3	蓋 須恵器	覆土	①－　摘径2.8 ③－	①小石、チャート粒含、雑。　② 良好　③灰黄2.5Y7/2　④上半部	平担な天井から体部緩く外傾。摘は小型の環状。 轆轤整形。天井部回転篦削り。	重ね焼の焼きむら有。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4	埦 須恵器	覆土	①15.8　②8.5 ③6.7	①チャート粒含、粗。　②良好 ③灰５Y⅚　④身部大半欠損	体部緩く内湾、口縁部短く外反する。高台部ハの字状に外傾。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部深い。
5	埦 須恵器	覆土	①16.6　②－ ③－	①チャート粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y⅞　④底部欠損	体部深く、緩く湾曲。轆轤整形。 口縁部横撫で。	
6	台付甕 土師器	覆土	脚部径8.9	①密　②良好　③にぶい橙５YR⅝　④脚部	器肉厚く、外反して開く。 外面端部横撫で。上半縦位篦削り。内面指頭調整。	
7	甕 土師器	竈内	①21.5　②4.8 ③30.3	①密　②良好　③橙５YR⅚ ④ほぼ完形	胴部は上半で張り、下半で先細りする。口縁は上半で外反。口縁部横撫で。胴部篦削り。	外面煤付着
8	甕 土師器	覆土	①(21.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR⅚ ④口縁部½	肩部若干の張り。口縁部上半で外反。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。	
9	甕 土師器	覆土	①20.0　②－ ③－	①密　②良好　③橙５YR⅝ ④口縁部½	口縁部上半で外反。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
10	甕 土師器	覆土 竈内	——	①密　②良好　③にぶい赤褐５YR⅝　④口縁部⅕	口縁部上半で外反。 口縁部横撫で。肩部横位篦削り。	

Ｈ－25号住居跡出土遺物観察表（図－40）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(13.4)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR⅚ ④口縁部¼	体部浅く、緩く湾曲する。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙５YR⅚ ④底部小片	底部外面篦削り。墨書判読不能	
3	坏 須恵器	覆土	①－　②(6.4) ③－	①白色鉱物粒含、密。　②良好 ③褐灰10YR⅙　④底部片	底部回転糸切り。外周部回転篦削り。	

Ｈ－26号住居跡出土遺物観察表（図－41）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	蓋 須恵器	周溝内	①(17.1)　②－ ③－	①白色鉱物粒含、粗。　②良好 ③灰５Y⅙　④体部⅕強	天井部平坦。体部緩く外傾、口唇部丸まる。 轆轤整形。天井部回転糸切り。外周部回転篦削り。	
2	埦 須恵器	住居外	①－　②(6.7) ③－	①砂粒多、軟。　②酸化焔 ③灰黄褐10YR⅖　④底部	底部だれた短い高台。つくり雑。轆轤整形。 肩部回転糸切り。	
3	長頸壺 須恵器	位置不明	頸部径4.8	①白色粒含、緻密。　②良好 ③灰５Y⅕　④頸部	頸部接合後、撫で調整。肩部内面焼成時に因る割れが生じている。	断面セピア

Ｈ－27号住居跡出土遺物観察表（図－42　図版－１）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙2.5YR⅝　④小片	体部下半で屈曲、緩く湾曲する。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
2	坏 須恵器	－２	①12.4　②6.3 ③3.4	①白色粒多、やや粗。　②良好 ③褐灰５YR⅕　④全形の⅘	底部小さく上げ底。体部緩く湾曲、口縁でやや外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	－２	①(12.2)　②(7.5) ③4.0	①白色粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y⅝　④全形の⅓	底部大きく、体部浅く、若干の膨らみ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	周溝内	①(12.9)　②(7.4) ③3.5	①白色粒含、密。　②良好 ③灰５Y⅕　④全形の⅓	３に似る。底部上げ底。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

H－28号住居跡出土遺物観察表（図－44）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	＋14	①13.4　②6.5 ③4.5	①密　②やや不良 ③浅黄橙10YR8/4　④体部2/3欠損	底部小さく、体部深い。体部直線的に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部指頭痕凹凸有。
2	坏 須恵器	覆土	①13.1　②5.5 ③4.8	①密　②酸化焔 ③橙7.5YR6/6　④体部3/4欠損	1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	皿 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④小片	体部ハの字状に外傾。高台は三日月型。稜は若干だれる。施釉刷毛塗りか。	口唇部シャープ
4	甕 土師器	＋13	①(18.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/3	口縁部コの字状。口唇部の外反は弱い。 口縁部接合痕有。横撫で。肩部篦削り。	
5	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	4に似る。肩部の張り弱い。口縁部横撫で後指頭調整。胴部篦削り。内面篦撫で。	
6	甕 土師器	覆土	①(21.8)　②－ ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部1/5	口縁部コの字状。肩部強く張る。口縁部横撫で。 胴部篦削り。	
7	甕 土師器	覆土	①(19.3)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部コの字、唇部丸い。肩部強く張り出す。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H－29号住居跡出土遺物観察表（図－45　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	＋11	①11.9　②－ ③3.3	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④ほぼ完形	底部安定した平底。体部緩く湾曲。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
2	坏 須恵器	＋31	①(13.6)　②(7.6) ③4.2	①密　②良好　③灰白5Y7/2 ④全形の2/5	底部～腰部にかけ屈曲。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器肉厚い。
3	坏 須恵器	覆土	①－　②(6.1) ③－	①白色鉱物粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④底部1/3	底部上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 須恵器	＋42	①－　②7.4 ③－	①砂粒多、荒い。　②良好 ③灰白10YR7/1　④底部	断面台形状の短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	甕 須恵器	P_3内	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④胴部片	外面平行叩き目。後撫で調整。 内面平行文及び同心円状の当て目痕。	内面2種類の工具使用

H－30号住居跡出土遺物観察表（図－46）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	住居外	①14.5　②6.4 ③4.9	①密、軟。　②やや不良 ③灰黄2.5Y7/2　④全形の1/2強	底部だれた短い高台。体部緩く内湾、口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	甕 土師器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR6/4　④口縁小片	口縁部コの字状。外反の度合弱い。 口縁部横撫で。	
3	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④口縁部小片	口縁部上半で外反。肩の張り弱い。 口縁部横撫で。	
4	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、荒い。　②良好 ③灰黄2.5Y6/2　④口縁部小片	口縁部外反後、上端で直立する。 回転撫で。	
5	鎌 鉄製品	覆土	現存長9.5　幅4.0 厚0.2		器面剝落顕著。柄着装部片側折れ曲がる。	

H－31号住居跡出土遺物観察表（図－48）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①11.7　②5.6 ③3.1	①白色鉱物粒含、雑。　②良好 ③黄灰2.5Y5/1　④口唇一部欠損	底部小さく、体部緩く外傾。口唇部わずかに外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	坏 須恵器	覆土	①(12.7)　②6.8 ③3.7	①密、軟。　②良好 ③浅黄2.5Y7/3	底部端～腰部屈曲。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	口縁部コの字状。肩の張り弱い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
4	砥石 石製品	周溝内	長径8.5　短径5.2 厚4.7		片側小口面を残す。使用頻度大、研ぎ減りする。 4面使用。火を受けた痕跡有。	

H－32号住居跡出土遺物観察表（図－50　図版－1）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①12.8　②7.0 ③3.7	①密　②普通 ③褐灰7.5YR5/1　④体部1/4欠損	体部は腰部若干張り、外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。体部両面墨付着。	墨入れとして機能か。
2	丸鞆 銅製品	覆土	長径3.8　短径2.4 厚0.1　重量4.8g		三方に径0.1の孔穿たれる。この内1ケ所は未穿孔。	
3	甕 須恵器	住居外	——	①チャート粒、砂粒含、ざらつく。 ②良好　③灰白10YR7/1　④小片	頸部外反、口縁部直立して立ち上る。 回転撫で。外面篦状工具使用。	
4	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙2.5YR6/4　④口縁部小片	口縁部コの字状。肩部張る。 口縁部横撫で。一部指頭痕有。肩部篦削り。	
5	甕 土師器	覆土	——	①砂粒多、軟。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部小片	口縁部コの字状。肩の張り弱い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

H－33号住居跡出土遺物観察表（図－51）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	貯蔵穴内	①－　②(5.6) ③－	①チャート粒含、密。　②良好 ③灰白5Y7/1　④底部2/3	底径小さく、体部深いか。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	住居外	①－　②(6.3) ③－	①混入物多、雑。　②良好 ③褐灰10YR6/1　④底部1/4	若干外傾する細めの高台。轆轤整形。 底部回転糸切り。高台貼付後の調整雑。	
3	棒状 鉄製品	竈内	現存長12.3　幅0.7 厚0.4		断面長方形状。上下両端欠損する。 錆化著しい。	
4	甕 土師器	周溝内	①21.0　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部1/2	口縁部上半で外反。胴部丸み。口縁部横撫で、一部接合痕有。胴部斜・縦位篦削り。	
5	甕 土師器	周溝内	①(19.6)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	口縁部コの字状。肩の張り弱い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
6	甕 土師器	－5	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	5に似る。	
7	甕 土師器	壁際	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部上半でわずかに外傾。 口縁部2段に横撫で。	
8	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	肩部張り弱く、口縁部わずかに外反。 口縁部の撫で調整弱い。肩部篦削り。	

H－34号住居跡出土遺物観察表（図－52）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	底部安定した丸底か。体部緩く内湾し、口縁部で直立。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	

H－35号住居跡出土遺物観察表（図－53）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	住居外	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/6	安定した底部から、体部緩く内湾する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	甕 土師器	竈	——	①砂粒多、密。②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁～胴部小片	胴部丸い器形か。口縁部緩く外反、唇部丸い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H－36号住居跡出土遺物観察表（図－55）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	竈付近	①(13.4)　②－ ③3.8	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/2	安定した底部。体部緩く内湾し、口縁部短く内傾する。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	蓋 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④小片	体部緩く傾斜し、口唇部小さいかえし付く。 轆轤整形。内面篦撫で調整。口縁部横撫で。	
3	甕 土師器	覆土	——	①密　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部小片	胴部直立気味に立ち上り、肩部稜をもつ。口縁部短く外反。口縁部強い横撫で。胴部削り後撫で。	
4	台付甕 土師器	覆土	①－　②5.5 ③－	①白色粒含、荒い。　②普通 ③橙5YR6/6　④胴部下半	下半部丸みをもち、先細りする。さほど広がらない脚をもつ。器肉厚い。胴部～脚部篦削り。	
5	甕 土師器	竈付近	①(23.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/2	胴部長胴形とみられる。口縁部外反する。 口縁部横撫で。胴部縦位篦削り。	
6	甕 土師器	竈付近	①19.4　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部	口縁部コの字状。 口縁部横撫で。	

H－37号住居跡出土遺物観察表（図－56）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	覆土	①(13.8)　②(7.2) ③5.2	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/4	胴部若干の膨らみ。だれた短い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	底部内外面吸炭
2	埦 須恵器	+26	①(14.4)　②(6.1) ③4.9	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/3　④全形の1/5	体部大きく開き、口縁部わずかに外反。短い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	埦 須恵器	覆土	①－　②5.8 ③－	①白色粒含、やや粗。　②酸化焔 ③にぶい黄橙10YR7/4　④底部	だれた短い高台。貼り付け後の調整雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 須恵器	覆土	①－　②6.4 ③－	①白色粒含、やや粗。　②酸化焔 ③橙7.5YR7/6　④底部	だれた短い高台。貼り付け後の調整雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－38号住居跡出土遺物観察表（図－57）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①12.2　②7.1 ③4.1	①緻密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④全形の1/2	底端部～腰部屈曲する。体部直線的に外傾。 轆轤整形。底部回転篦削り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
2	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口縁部小片	胴部丸い器形か。口縁部外反する。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

H－39号住居跡出土遺物観察表（図－58）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(13.5)　②5.9 ③3.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③灰5Y5/1　④全形の1/3	体部ハの字状に外傾し、口縁部強く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	坏 須恵器	貯蔵穴内	①13.1　②6.8 ③4.7	①密　②普通　③灰白5Y8/2 ④体部3/4欠損	体部外傾して開き、口縁部わずかに外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	埦 須恵器	覆土	——	①砂粒含、密。　②やや不良 ③浅黄橙10YR8/4　④下半部1/5	体部直線的に外傾。短い高台。 轆轤整形。	
4	托 土師質	覆土	①(10.8)　②3.7 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②酸化焔 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/4	底部柱状をなし、体部大きくハの字状に外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	甕 土師器	覆土	①(20.6)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部弱く外反する。口縁部横撫で。 肩部篦削り。内面篦撫で。	

H－40号住居跡出土遺物観察表（図－60）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	——	①白色粒、石含、粗。　②酸化焔 ③にぶい黄橙10YR7/4　④底部片	轆轤整形か。内面墨書「口井」。 器肉厚い。	
2	坏 須恵器	覆土	①－　②5.3 ③－	①密　②良好　③黄灰2.5Y5/1 ④底部	底径小さい。轆轤整形。 底部回転糸切り。	底部外周磨滅。
3	埦 土師質	覆土	①－　②(8.1) ③－	①砂粒多、粗。　②酸化焔 ③明赤褐2.5YR5/6　④底部1/2	肉厚の高台。轆轤整形。底部再調整。	
4	埦 須恵器	覆土	①－　②6.6 ③－	①密、軟。　②酸化焔 ③橙7.5YR7/6　底部1/4	高台部剝落。轆轤整形。底部回転糸切り。 底部肉厚。	
5	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/3　④口縁部小片	口縁部コの字状。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
6	甕 土師器	＋3	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④胴下半部1/2	コの字甕の胴部。縦位の篦削り。	

H－41号住居跡出土遺物観察表（図－62）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①13.0　②6.2 ③3.6	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③黄灰2.5Y6/1　④口縁部1/2欠損	体部ハの字状に開き、口縁部に至る。轆轤整形。 轆轤目顕著。底部回転糸切り。	
2	坏 須恵器	覆土	①13.7　②7.8 ③3.5	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④体部1/3欠損	底部大きく、体部浅い。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	覆土	①(12.3)　②6.0 ③3.4	①チャート粒含、ざらつく。②良好　③褐灰10YR6/1　④全形の1/2	1に似る。	
4	坏 須恵器	覆土	①(12.4)　②7.2 ③3.5	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④全形の1/2	底径やや大きく、体部若干の膨らみ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	甕 土師器	覆土	①(20.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口縁部1/4	口縁部上半でわずかに外反。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
6	甕 須恵器	竈内	——	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④口縁部小片	口縁部外反し、上半で屈曲、唇部短く直立。 回転撫で。	
7	甕 須恵器	竈内	①—　②14.2 ③—	①チャート粒含、やや粗。　②良好　③灰N5/　④下半部	底部平底。胴部若干の膨らみをもって立ち上る。 内外面撫で調整。	
8	甕 須恵器	竈内	①—　②(16.8) ③—	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④下半部1/3	胴部下半でシャープ、上半で緩く内湾。 外面平行叩き後、横位の撫で(4段)。内面当て目。	

H—42号住居跡出土遺物観察表（図—63）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	竈内	①—　②(6.5) ③—	①密　②酸化焔　③にぶい橙7.5YR6/4　④底部1/4	底部器肉厚く、だれた短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	−17	①—　②(6.0) ③—	①密　②やや不良　③にぶい黄橙10YR7/2　④底部1/2	底部小さく、だれた短い高台をもつ。器肉厚い。 轆轤整形。	
3	埦 須恵器	住居外	①—　②6.9 ③—	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③灰黄2.5Y7/2	若干外傾する短い高台。腰部膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 須恵器	−4	①—　②6.7 ③—	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③浅黄2.5Y7/3　④底部2/3	だれた短い高台。つくり雑。底径小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り、磨滅する。	
5	甕 土師器	覆土	——	①砂粒多、ざらつく。　②酸化焔 ③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	胴部緩く内湾、口縁部短く外傾する。 口縁部横撫で。胴部横位篦削り。内面篦撫で痕。	胴部煤付着

H—43号住居跡出土遺物観察表（図—64）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	覆土	①—　②7.5 ③—	①砂粒多、ざらつく。　②不良 ③にぶい黄橙10YR7/4　④底部	底径やや大きく、体部ハの字状に外傾する。だれた短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	羽釜	覆土	①(18.2)　②— ③—	①砂粒含、密。　②酸化焔 ③にぶい橙5YR7/4　④口縁部1/4	口縁若干内傾、唇部内屈する。鍔概して小型。 口縁部横撫で。胴部上半撫でか。	
3	甕 土師器	覆土	——	①砂粒、石含、粗。　②酸化焔 ③橙2.5YR6/6　④口縁部小片	胴部緩く内湾、口縁部短く、若干外反する。 口縁部横撫で。胴部横・斜位篦削り。内面撫で。	
4	甕 土師器	覆土	——	①砂粒多、密。②酸化焔　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁小片	3に似る。口縁部3より短い。 胴部篦削り後、撫で調整。内面撫で。	

H—44号住居跡出土遺物観察表（図—65・66　図版—2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 灰釉陶器	覆土	①(13.4)　②(6.5) ③3.8	①密　②良好　③素地灰白5Y7/1 ④全形の1/4弱	断面台形状の高台。体部浅く、緩く内湾する。 漬けがけ。轆轤整形。	釉とびする。
2	埦 灰釉陶器	覆土	①—　②(8.2) ③—	①密　②良好　③素地灰白5Y7/1 ④底部1/3	高台部三日月型だが、稜形骸化。轆轤整形。 底部回転糸切り、外周部回転撫で。漬けがけ。	
3	皿 灰釉陶器	+5	①12.2　②6.8 ③2.5	①密　②良好　③素地灰白5Y7/1 ④口縁部弱1/3欠損	短い高台。体部ハの字状に外傾。口縁部外反し水平面形成。漬けがけ。底部回転糸切り。小型。	見込部に釉流れする。
4	甕 土師器	住居外	——	①砂粒多、粗。　②酸化焔　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部小片	肩部丸み。口縁部短く外反する。器肉厚い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。一部指撫で痕。	外面煤付着
5	甕 土師器	覆土	——	①白色粒、砂含、粗。　②良好 ③灰褐5YR5/2　④口縁部小片	肩部張り、口縁部短く外反。口縁部横撫で。 胴部篦削り。	内外面共にいぶし。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
6	甕 土師器	竈	①(22.0)　②(5.8) ③27.0	①砂粒多、荒い。　②酸化焔 ③橙7.5YR⅚　④全形の⅓	胴部下半細身、上半で丸み。口縁部若干外反。口縁部横撫で。胴部横・縦位篦削り。底部無調整。	
7	羽釜	住居外	①(22.7)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR⅞　④口縁部⅓	胴部～口縁部にかけ強く内湾。器高浅いか。 口縁部横撫で。胴部回転撫で。鍔は小型。	
8	羽釜	竈内	——	①砂粒多、ざらつく。　②酸化焔 ③橙5YR⅚　④口縁部小片	直立気味の胴部。口縁部短く内傾する。鍔は小型。 口縁部横撫で。胴部回転撫で。	H－43と接合
9	羽釜	竈内	——	①砂粒多、ざらつく。　②酸化焔 ③橙5YR⅚　④上半部小片	胴部直立気味。口縁部若干内傾。鍔張り出し強い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面回転撫で。	
10	羽釜	竈内	①－　②(7.6) ③－	①砂粒多、ざらつく。　②酸化焔 ③橙2.5YR⅚　④底部⅓	胴部下半直線的に外傾。 外面篦削り。内面撫で(回転か)。底部無調整。	H－43と接合
11	羽釜	覆土	①－　②(5.4) ③－	①砂粒、白色粒含、粗。②酸化焔 ③橙2.5YR⅚　④底部⅓	器肉厚く、胴部下半緩く湾曲。 外面篦削り。内面撫で。底部無調整。	外面煤付着

H－45号住居跡出土遺物観察表（図－67）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	周溝内	①12.8　②－ ③3.8	①密　②良好　③橙2.5YR⅚ ④口縁部¾欠損	安定した底部。体部緩く内湾、体部変換点で弱く屈曲。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	－19	①12.8　②－ ③3.7	①密　②良好　③橙2.5YR⅚ ④ほぼ完形	平底気味の安定した底部。体部は1に似る。 口唇部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
3	砥石 石製品	覆土	現存長6.9　幅3.3 厚3.3　重量86.7g		片側小口面を残す。4面使用。一部研磨痕顕著。 内一面は条線状の痕跡。仕上げ砥。	

H－46号住居跡出土遺物観察表（図－68）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(12.5)　②5.8 ③3.8	①密　②良好　③灰黄2.5Y⅞ ④体部¾欠損	底部小さい。体部直線的に外傾、口縁部若干外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	＋3	①(14.9)　②6.2 ③－	①密　②やや不良　③浅黄2.5Y⅞　④口縁⅔・高台部欠損	底部小さく、体部深い。体部緩く外傾、腰部丸み。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	外面一部吸炭。
3	甕 土師器	壁際	①10.8　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい赤褐2.5YR⅝　④口縁部⅔	肩部内傾、口縁部短く外傾する。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面撫で。	
4	鎌 鉄製品	壁際	現存長6.2　幅2.4 厚0.2		先端部のみ残存。先端部弓なりに湾曲。 錆化著しい。	

H－47号住居跡出土遺物観察表（図－69　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	貯蔵穴内	①(12.7)　②－ ③2.8	①砂粒含、軟。　②良好 ③橙5YR⅚　④全形の¼強	体部扁平。口縁部直立気味に立ち上る。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 土師器	壁際	①13.9　②－ ③3.9	①密　②良好　③橙2.5YR⅚ ④全形の½強	底部丸底。体部緩く内湾。口縁部短く直立、唇部丸い。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
3	甕 土師器	竈内	①19.6　②4.8 ③26.2	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙5YR⅝　④胴一部欠	胴部短く、長胴形。上半に向って幅広となる。口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H－48号住居跡出土遺物観察表（図－70）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	－4	①－　②(5.9) ③－	①密、軟。　②普通　③灰黄2.5Y 7/2　④底部1/2弱	底部小さく、だれた短い高台。 轆轤整形。	
2	甕 土師器	竈内	現存高25.3	①密　②良好　③にぶい橙5YR 6/4　④胴部1/3	胴部は、下半から緩く内湾、上半で最大径をもつ。 胴の張りは弱い。外面横・斜位篦削り。	
3	甕 土師器	竈内	①(20.2)　②4.3 ③(24.6)	①密　②良好　③にぶい橙5YR 6/4　④全形の1/2強	口縁部コの字状。胴部上半で張りをもつ。 口縁部横撫で。一部指頭痕有。胴部横・斜篦削り。	外面煤付着
4	不明 鉄製品	＋10	現存長7.4　幅2.8 厚0.2		平面半円状。片側端部鋭利。	

H－49号住居跡出土遺物観察表（図－72　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	羽釜	位置不明	①(21.2)　②－ ③－	①密　②酸化焔　③橙7.5YR6/6 ④上半部1/4弱	胴部直立気味に立ち上り、口縁部短く内傾する。 鍔水平に張り出す。口縁部横撫で。胴部回転撫で。	
2	羽釜	＋7	①22.7　②－ ③－	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10 YR7/4　④上半部5/6	1に似る。	
3	羽釜	＋7	①(18.1)　②－ ③－	①密　②酸化焔　③橙7.5YR7/6 ④上半部1/4	やや小型。胴部若干膨らみ。	
4	羽釜	＋7	①(18.2)　②－ ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③淡黄2.5Y8/3　④上半部1/4	胴部若干の膨らみ。口縁部短く直立。 口縁部横撫で。胴部上端横撫で、下半篦削り。	内面吸炭
5	羽釜	＋7	①18.7　②－ ③現高24.7	①密　②良好　③普通 ④灰白2.5Y8/2　④底部欠損	胴部直線的に外傾。鍔の張り出し弱い。 口縁部横撫で。胴上半回転撫で、下半篦削り。	

H－50号住居跡出土遺物観察表（図－74）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(13.9)　②6.6 ③4.0	①密、軟。　②普通　③灰白2.5Y 8/2　④全形の1/2	体部ハの字状に外傾、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部外面吸炭。
2	坏 須恵器	＋7	①(14.9)　②－ ③3.7	①密、軟。　②良好　③灰白5Y8/2 ④体部1/2弱	体部1より大きく外傾、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
3	坏 須恵器	竈内	①13.1　②6.0 ③4.2	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④体部1/5欠損	体部1と同様ハの字状に外傾、口縁部に至る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	＋1	①14.7　②7.0 ③4.9	①砂含、密。　②やや不良　③にぶい黄橙10YR7/3　④高台欠損	体部深くハの字状に外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。底部外面刻書「大」。	
5	埦 須恵器	覆土	①(13.4)　②7.0 ③5.7	①密、軟。　②やや不良 ③浅黄2.5Y7/3　④体部5/6欠損	体部丸みをもち、口縁部若干外反。だれた短い高台。轆轤整形。器面磨耗顕著。	
6	埦 須恵器	竈内	①－　②6.3 ③－	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④底部	体部丸み。断面台形状の短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	埦 灰釉陶器	覆土	①－　②7.2 ③－	①密　②良好　③素地灰白5Y8/2 ④底部1/4	高台三日月型。稜はだれる。 轆轤整形。	
8	甕 土師器	竈内	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④上半部小片	コの字状口縁。肩の張りは弱い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
9	甕 須恵器	覆土	①(16.5)　②－ ③－	①密　②酸化焔　③にぶい橙7.5 YR7/4　④口縁部1/2	肩部大きく張る。口縁部外反し、上端内屈する。 口縁部横撫で。器面磨耗。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
10	甕 須恵器	竈内	——	①密　②良好　③浅黄2.5Y7/3 ④口縁部小片	口縁部外反し、上端で屈曲。唇部内傾。 口縁部回転撫で。	

H—51・52号住居跡出土遺物観察表（図—76・77　図版—2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H51	坏 須恵器	+25	①(13.5)　②(6.8) ③3.5	①砂粒多、ざらつく。　②良好 ③灰白5Y8/2　④全形の1/2	底部上げ底。体部緩く外傾、口縁部に至る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部一部吸炭。
2 H51	皿 須恵器	−10	①13.3　②6.5 ③3.4	①密　②酸化焔　③にぶい橙7.5 YR6/4　④口縁部1/2欠損	体部は腰部で屈曲、ハの字状に開く。肉厚の短い 高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	口縁部丸い。
3 H51	埦 須恵器	周溝内	——	①密　②良好　③灰白10Y8/1 ④口縁部小片	口縁部わずかに外反。外面墨書。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
4 H51	埦 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白5Y8/2 ④口縁部小片	体部直線的に外傾。外面刻書「主」か。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
5 H51	埦 須恵器	+20	①—　②7.0 ③—	①粗　②良好　③灰白5Y8/1 ④底部1/2	直立気味の短い高台。体部直線的。 轆轤整形。底部回転糸切り。	内・外面吸炭。
6 H51	埦 須恵器	覆土	①—　②6.5 ③—	①白色軽石φ10㎜含、粗。　②良好 ③灰白7.5Y8/2　④底部片	短くだれた高台。体部若干の膨らみ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7 H52	埦 須恵器	覆土	①—　②7.0 ③—	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR7/3　④底部片	肉厚の短く、だれた高台。見込部墨書「王」か。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
8 H51	埦 灰釉陶器	貯蔵穴内	①(15.4)　②(7.8) ③4.5	①密　②良好　③素地灰白10Y8/1 ④全形の1/2弱	外傾する長めの高台。腰部に丸み。口縁部折れる。 刷毛塗り。轆轤整形。底部再調整。	
9 H51	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④口縁部小片	口縁部コの字状。接合痕残る。 口縁部横撫で。一部指頭痕残る。内面篦撫で。	
10 H51	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/6	口縁部コの字状だが、肩の張りは弱い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
11 H51	甕 土師器	周溝内	①19.7　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部3/4	口縁部強いコの字状。胴部上半膨らむ。 口縁部横撫で。一部指頭痕残す。胴部篦削り。	内面一部篦撫 で痕。
12 H51	甕 土師器	竈内	①(19.4)　②— ③—	①密　②良好　③赤褐2.5YR4/8 ④上半部1/4強	口縁部コの字状。胴部上半で最大径、丸みをもつ。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	
13 H51	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR7/4　④口縁部小片	口縁部短く外反。 口縁部二段の横撫で。	
14 H51	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰7.5Y4/1 ④口縁部小片	口縁部外反、上端で直立する。 口縁部回転撫で。一部叩き目痕有。	
15 H51	甕 須恵器	−1	①(23.0)　②— ③—	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④口縁部1/4弱	口縁部外反。上端で屈曲、直立する。唇部平坦。 口縁部回転撫で。	
16 H51	甕 須恵器	周溝内	——	①密　②酸化焔　③橙7.5YR7/6 ④口縁部小片	口縁部外反し、上端で内外面共に屈曲する。 回転撫で。外面篦状工具使用。	
17 H51	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④口縁部小片	口縁部外反、上端で屈曲、内傾する。 回転撫で。外面工具使用。	
18 H51	甕 須恵器	−11	①(24.2)　②— ③—	①密　②良好　③褐灰7.5YR4/1 ④口縁部1/2強。	16に似る。 回転撫で。外面工具使用。	
19 H51	甕 須恵器	周溝内	——	①密　②良好　③灰褐7.5Y6/2 ④口縁部小片	口縁部上半で強く外反。 回転撫で。外面工具使用。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
20 H51	甕 須恵器	－6	①－　②(22.9) ③－	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④底部1/3	底部上げ底。胴部膨らむ。外面下半回転篦削り。格子目状に叩き目残る。内面同心円当て目後、撫で。	つくり雑。

H－53号住居跡出土遺物観察表（図－78）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	覆土	①－　②(6.8) ③－	①砂粒含、ざらつく。　②酸化焔 ③浅黄橙10YR8/4　④下半部1/3	高台部欠損。 轆轤整形。底部回転糸切りか。	
2	埦 須恵器	覆土	①－　②(6.8) ③－	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③灰白5Y8/2　④底部1/3	短くだれた高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－54号住居跡出土遺物観察表（図－79）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	覆土	①(13.2)　②(7.8) ③5.3	①砂粒多、ざらつく。　②酸化焔 ③淡黄2.5Y8/4　④全形の1/4弱	小形の器形。体部直線的に外傾。 轆轤整形。高台貼り付け雑。	
2	埦 緑釉陶器	＋5	①(17.3)　②(9.4) ③6.5	①密　②良好　③素地明黄褐10YR7/6　④全形の1/2弱	大ぶりの器形。体部深く、腰部丸い。高台内側段をもつ。轆轤整形。底部回転糸切り。	釉薬濃緑色
3	羽釜	覆土	――	①密　②酸化焔　③橙5YR7/6 ④口縁部小片	口縁部若干内傾、唇部平坦。つくり丁寧。 回転撫で。	

H－55号住居跡出土遺物観察表（図－80）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	－2	①11.4　②5.5 ③3.5	①密　②酸化焔　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部1/2弱欠損	小形の器形。器肉厚い。体部緩く外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	埦 土師質	竈	①(14.1)　②7.4 ③6.9	①混入物多、粗。　②酸化焔　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部5/8欠	器肉厚い。体部・高台共にハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
3	皿 灰釉陶器	－1	①(12.9)　②(6.6) ③2.4	①密　②良好　③素地5Y8/1 ④全形の1/4	短い高台。体部ハの字状に外傾。漬けがけ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	羽釜	－2	――	①白色軽石、石含、粗。　②酸化焔　③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部1/6	口縁短く直立、唇部丸い。胴部やや寸胴。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
5	羽釜	－2	――	①混入物多、雑。　②酸化焔　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部小片	口縁部短く内傾、唇部丸い。 口縁部横撫で。胴部回転撫で。内面撫で。	

H－56号住居跡出土遺物観察表（図－81）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	－31	①(12.3)　②(5.7) ③4.2	①白色軽石含、密。　②酸化焔 ③明黄褐10YR7/6　④全形の1/5	だれた短い高台。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	＋26	①－　②(7.8) ③－	①密、軟。　②普通　③灰白5Y7/2 ④底部1/2	若干外傾する短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	埦 土師質	＋4	①(13.9)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②酸化焔 ③橙7.5YR7/6　④高台、体部2/3欠	器肉厚い。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	内・外面吸炭。

H－57号住居跡出土遺物観察表（図－82）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	皿 灰釉陶器	+10	①－　②(6.9) ③－	①密　②良好　③素地灰白2.5Y 8/2　④底部1/5	高台三日月型だが、稜はみだれている。漬けがけ。 轆轤整形。	

H－58号住居跡出土遺物観察表（図－84　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	貯蔵穴内	①(11.0)　②(5.7) ③3.4	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/2弱	小形の器形。体部緩く外傾、口縁部に至る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	坏 土師質	P_3内	①11.7　②5.7 ③3.5	①密　②酸化焔　③淡黄2.5Y8/4 ④ほぼ完形	小形の器形。体部緩く外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	坏 土師質	+5	——	①白色軽石含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④底部小片	内面墨書。 轆轤整形。	
4	埦 土師質	+5	①15.5　②－ ③－	①砂含、密。　②酸化焔 ③橙2.5YR6/6　④高台部欠損	体部ハの字状に外傾して開く。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	埦 土師質	+2	①－　②(8.0) ③－	①白色粒含、ざらつく。②酸化焔 ③にぶい橙10YR7/3　④底部1/3	器肉厚い。高台は若干外傾。 轆轤整形。	
6	皿 緑釉陶器	−1	①(12.6)　②－ ③－	①緻密　②良好　③素地灰白7.5Y8/2　④全形の1/4	体部緩く湾曲、若干膨らむ。 轆轤整形。	
7	甕 土師器	覆土	——	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く外反。 口縁部横撫で。内面篦撫で痕有。	
8	甕 須恵器	P_3内	①(15.3)　②－ ③－	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④口縁部1/5	肩部張る。口縁部外反し、上端で屈曲、短く直立する。外面回転撫でか。	
9	羽釜	+5	——	①密　②酸化焔　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/5	口縁部短く直立、唇部丸い。鍔張り出し強い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	
10	羽釜	−1	——	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④口縁部小片	口縁部内傾、唇部平坦。鍔上向きに張り出す。 口縁部横撫で。内面回転撫で。	

H－59号住居跡出土遺物観察表（図－85）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	位置不明	①(12.5)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/2	体部変換点でわずかに屈曲、外傾して開く。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	

H－60号住居跡出土遺物観察表（図－86）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	覆土	——	①密　②酸化焔　③にぶい橙5YR7/4　④小片	体部直線的に外傾。底部～体部への変換点シャープ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	埦 土師質	P_2内	①11.9　②5.8 ③4.5	①砂粒多、ざらつく。　②良好 ③浅黄2.5Y7/3　④完形	器肉厚い。体部緩く湾曲。だれた短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	つくり雑。
3	埦 土師質	+4	①12.7　②－ ③体部高4.8	①砂粒多、ざらつく。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④高台部欠損	体部下半で膨らみ、口縁部若干外反する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	つくり雑。
4	埦 内黒土器	P_2内	①－　②8.2 ③－	①密　②酸化焔　③橙7.5YR7/6 ④体部上半欠損	ハの字状に開く高い高台。轆轤整形。内黒処理後篦磨き。底部再調整。	

H－61号住居跡出土遺物観察表（図－88）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	托 土師質	＋5	①(9.8)　②－ ③－	①密　②酸化焔　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/3	体部強く外側へ外傾する。器肉やや厚い。 轆轤整形。	
2	埦 土師質	－27	①(13.7)　②－ ③－	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④上半部1/4	腰部丸く、口縁に向い緩く外傾。轆轤整形。 口縁部横撫で。	
3	埦 土師質	竈内	——	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④上半部小片	体部丸く、やや大ぶりの器形。轆轤整形。 口縁部横撫で。	
4	埦 内黒土器	P1内	①12.4　②6.8 ③5.1	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口縁一部欠損	体部浅く、腰部に丸み。ハの字に外傾する短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。内黒後篦磨き。	
5	埦 土師質	－5	①－　②8.0 ③－	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③橙2.5YR6/6　④下半部	高台は、ハの字状に強く外傾。轆轤整形。 内面篦磨き。	内面一部吸炭。
6	鉢？ 土師質	竈内	①－　②現8.5 ③－	①砂粒多、ざらつく。　②良好 ③橙5YR7/6　④底部	器肉厚く、重い。直立する高台。 回転撫で。	
7	埦 土師質	－5	①－　②11.3 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④下半部	足が高い高台。下端で外反。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
8	埦？ 土師質	竈内	——	①砂粒多、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④底部小片	大形の器形か。高台部剝落。轆轤整形。	
9	長頸壺 須恵器	P1内	頸部径5.2	①密　②良好　③浅黄2.5Y7/3 ④頸部	上半部に沈線廻る。下端部断面に接合痕。 器肉やや厚い。回転撫で。	
10	羽釜	＋5	——	①白色粒含、粗。　②酸化焔 ③橙5YR7/6　④口縁部小片	口縁部短く内傾。唇端部丸い。	
11	甑？	P1内	——	①砂粒含、密。　②酸化焔 ③橙5YR7/6　④下半部	羽釜型の甑か。下端部で終結しないとみられる。 体部外面に篦削り痕わずかに認む。	
12	甕 土師器	＋5	——	①白色粒、砂含、荒い。　②良好 ③にぶい橙5YR6/4　④胴部片	器肉厚い。 外面横・斜位の篦削り。内面指撫で。	
13	甕 土師器	＋5	——	①白色粒含、荒い。　②良好 ③橙2.5YR6/8　④胴部片	器肉厚い。 外面縦位の篦削り。内面撫で。	

H－62号住居跡出土遺物観察表（図－90）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.1)　②(8.7) ③2.8	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部3/4欠損	底部平底。体部中央で弱く膨らみ、外傾する。 口縁部横撫で。体部指頭有。底部墨書「甲」か。	
2	坏 土師器	貯蔵穴内	①(12.1)　②(7.2) ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の約1/2	体部下半若干膨らみ、上半で外傾する。唇部丸い。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
3	蓋 須恵器	覆土	——	①密、軟。　②良好　③灰白5Y8/1 ④小片	唇部短く外傾。轆轤整形。	
4	坏 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④小片	体部緩く外傾。轆轤整形。 口縁部横撫で。	
5	埦 須恵器	覆土	——	①φ5㎜石含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④下半部小片	腰部張る。轆轤整形。	
6	埦 須恵器	覆土	①－　②(7.0) ③－	①砂含、軟。　②良好 ③灰白5Y7/1　④底部1/2	だれた短い高台。轆轤整形。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
7	紡錘車 石製品	＋13	上径2.3　下径3.3 厚1.5　孔径0.8		側面面取り痕顕著。	
8	紡錘車 土製品	＋19	上径3.5　下径5.6 厚1.8　孔径1.0		ほぼ全面に篦磨き。上径面刻書か「甲」か。 裏面やや凹む。	
9	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。肩部さほど張らない。口縁部横撫で。指頭痕残る。肩部横位篦削り。	
10	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③明青灰5B7/1　④口縁部小片	口縁部上端で屈曲、内傾して立ち上がる。内外面共に回転撫で。	内外面自然釉付着。
11	壺 須恵器	覆土	——	①白色鉱物φ0.3㎜含、粘質。 ②普通　③灰黄2.5Y7/2　④小片	胴部外傾し、短い高台をもつ。内外面回転撫で。	

H－63号住居跡出土遺物観察表（図－92）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口縁部小片	体部浅く、緩く湾曲。口縁部横撫で。	
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部小破片	1に似る。口縁部横撫で。底部篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	体部緩く湾曲、口縁部直立気味。口縁部横撫で。体部下位篦削り。	
4	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部小片	体部緩く湾曲、口縁部外傾する。口縁部横撫で。底部篦削り。轆轤整形。天井部回転篦削り。	
5	蓋 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④下半部小片	体部緩く外傾、口唇部短く屈曲する。轆轤整形。	内面輪状に自然釉。
6	直壺蓋 須恵器	覆土	①(12.3)　②－ ③身部(2.8)	①白色粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④全形の1/4弱	天井部平坦。鍔部はやや上向きに張り出す。口唇部内傾。	摘接合痕認む。
7	坏 須恵器	覆土	①(13.4)　②(6.9) ③(3.7)	①砂粒含、軟。　②不良 ③灰白10YR8/1　④全形の1/5	底部平底。体部緩く外傾。轆轤整形。口縁部横撫でか。底部回転糸切り。	焼き歪み有。
8	坏 須恵器	覆土	①(12.6)　②6.4 ③4.0	①砂粒含、軟。　②普通 ③灰白2.5Y8/2　④体部4/5欠損	底部平底。体部直線的に外傾。轆轤目顕著。 底部回転糸切り、外周部再調整。	
9	坏 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④小片	体部直線的に外傾。轆轤整形。底部切り離し不明。口縁部横撫で。	外面自然釉付着。
10	坏 須恵器	覆土	①－　②6.3 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④底部1/2	底部若干上げ底。轆轤整形。底部回転糸切り。 腰部丸み有。	
11	坏 須恵器	覆土	①－　②(7.8) ③－	①白色鉱物粒含、やや粗。　②良好　③灰白10YR7/1　④底部1/4強	底部若干上げ底。器肉厚い。体部直線的。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
12	坏 須恵器	覆土	①－　②(7.0) ③－	①密　②良好　③青灰10BG5/1 ④底部小片	体部緩く湾曲。底部上げ底。器肉薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
13	坏 須恵器	覆土	①－　②(6.9) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③灰白10Y7/1　④底部1/4弱	体部下端括れる。轆轤整形。底部回転糸切り。	
14	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④底部1/4	底径大きい。平底。轆轤整形。底部回転糸切り、外周部手持ち篦削り。	
15	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①チャート粒含、密。　②良好 ③灰7.5Y6/1　④底部1/4弱	14に似る。轆轤整形。底部回転糸切り、外周部手持ち篦削り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
16	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y7/2　④底部1/5	体部下端で弱く屈曲、丸み有。轆轤整形。 底部外周篦削り。	
17	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.9) ③－	①密、軟質。　②良好 ③灰白2.5Y8/2　④底部1/5	体部～底部への変換点不明瞭。轆轤整形。 底部回転糸切り、外周部篦削り。	
18	坏 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y 8/2 ④小片	体部下端で括れ、外傾して立ち上がる。轆轤整形。 底部切り離し不明。	
19	埦 須恵器	覆土	①(15.3)　②－ ③－	①密　②良好　③灰黄褐10YR6/2 ④上半部1/5	体部丸みもち、口縁部で弱く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
20	埦 須恵器	覆土	①－　②8.6 ③－	①チャート粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④底部1/2	高台は端部で外反。貼り付け丁寧。底径大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
21	坏 須恵器	覆土	①－　②現5.7 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白10YR7/1　④底部1/2強	高台部剝落。底径小さいか。轆轤整形。底部回転 糸切り。	
22	小壺 研磨土器	覆土	胴最大径(11.2)	①密、硬質。　②良好、酸化焔。 ③橙7.5YR7/6　④胴部1/4	肩部張りをもち、胴部内湾する。外面篦磨き。内 面回転撫でか。	
23	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰 5 Y5/1　④胴部小片	外面平行叩き目。内面同心円状当て目。	
24	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、緻密。　②良好 ③灰7.5Y5/1　④胴部小片	外面撫で。内面当て目痕。	断面セピア
25	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④胴部小片	外面平行叩き目。内面同心円状当て目。	
26	壺 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④肩部小片	肩部張りをもち、2本の沈線廻る。 内外面回転撫で。	
27	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部1/6	口縁部コの字状。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
28	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部小片	口縁部外反し、肩部張る。口縁部横撫で。肩部篦 削り。器肉薄い。	
29	甕 土師器	覆土	①－　②(7.2) ③－	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④底部1/2	器肉厚い。外面篦削り。内面撫で。	

H－64号住居跡出土遺物観察表（図－93）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小型坏 土師質	——	①9.5　②5.8 ③1.8	①砂粒含、荒い。　②酸化焔 ③にぶい橙5YR7/4　④ほぼ完形	器肉やや厚い。体部浅い。轆轤整形。底部回転糸 切り。	形態いびつ。
2	小型埦 土師質	覆土	①(9.8)　②5.2 ③4.0	①砂粒含、荒い。　②酸化焔 ③橙2.5YR6/8　④体部3/4欠損	体部丸みをもち、口縁部で外反する。短く外傾す る高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	
3	坏 須恵器	+21	①12.8　②6.8 ③3.4	①密　②良好　③灰 5 Y5/1 ④口縁部1/4欠損	底部平底。体部直線的に外傾、口縁部に至る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	鉢 須恵器	貯蔵穴内	①16.9　②4.6 ③2.5	①白色鉱物粒含、粗。　②良好 ③灰 5 Y5/1　④口唇部1/3欠損	体部強くハの字状に外傾。口縁部外反し、唇部丸 い。底部回転糸切り、外周部回転篦削り。	

H－65・67号住居跡出土遺物観察表（図－95）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H65	坏 土師器	覆土	①(13.0)　②－ ③－	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④上半部1/2弱	体部緩く湾曲、口縁部変換点で括れる。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2 H65	坏 土師器	覆土	①(11.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/3	1に似る。口縁部横撫で。底部篦削り。	
3 H65	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR 6/6　④上半部小片	体部緩く湾曲、口縁部外傾して立ち上る。体部浅い。口縁部横撫で。体部上端指頭調整残る。	
4 H65	坏 土師器	＋23	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR 6/6　④上半部小片	底部～体部への変換点明瞭、体部外傾して開く。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
5 H65	甕 土師器	覆土	①(10.3)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④口縁部1/4弱	肩部で屈曲、口縁部短く外反する。小型の器形。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
6 H65	甕 土師器	覆土	①(19.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/5強	胴部球形の器形。口縁部外反し、口唇部丸い。 口縁部横撫で。指頭痕残る。肩部横・斜位篦削り。	
1 H67	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④小片	底部平底。体部への変換点丸く、口縁部外傾する。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2 H67	坏 土師器	覆土	①(12.1)　②－ ③2.8	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の1/4	底部平底。体部への変換点明瞭。口縁部外傾する。 口縁部横撫で。体部指頭痕残る。底部篦削り。	
3 H67	坏 土師質	＋7	①9.9　②5.6 ③2.9	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部下半膨らむ。底部への変換点不明瞭。口縁弱く外反。轆轤整形。口縁部横撫で。	
4 H67	坏 土師質	覆土	①(10.4)　②5.1 ③3.0	①小石含、荒い。　②普通 ③橙5YR6/6　④全形の1/2弱	底部突出気味。体部下端括れる。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	つくり雑。
5 H67	坏 土師質	覆土	①(9.0)　②4.8 ③3.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④体部3/4欠損	底部器肉厚い。体部ハの字状に開き、口唇部若干外反。轆轤整形。底部回転糸切り。小型の器形。	
6 H67	埦 土師質	＋7	①(14.4)　②9.0 ③6.5	①小石含、やや粗。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部5/6欠損	体部下丸み強く、口縁部若干外反。高台部高く、ハの字状に開く。轆轤整形。口縁部横撫で。	
7 H67	埦 土師質	覆土	——	①粗　②普通　③にぶい黄橙10 YR6/4　④口縁部小片	体部6に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。	内面漆付着
8 H67	埦 土師質	床面	①－　②8.4 ③－	①小石含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④体部欠損	高台部ハの字状に外傾、下端部丸み有。 轆轤整形。	内面煤付着
9 H67	埦 灰釉陶器	＋8	①15.9　②7.7 ③6.4	①密　②良好　③素地灰白2.5 Y8/1　④体部1/2欠損	体部深く、口縁部短く外反する。高台部外傾して開く。内面重ね焼痕。口縁部再調整。	漬けがけ 見込無釉
10 H67	蓋 須恵器	覆土	——	①白色鉱物粒含、密。　②良好 ③灰5Y4/1　④天井部	摘端部欠く。環状か。 轆轤整形。肩部回転篦削り。	
11 H67	甑 羽釜形	覆土	①－　②19.5 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④脚部1/4	羽釜型の器形か。器肉厚く、ハの字状に外反して開く。内外面共に回転撫で。	

H－68号住居跡出土遺物観察表（図－96　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	P_3内	①9.2　②5.5 ③2.3	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/3　④体部3/5欠	体部小さく、ハの字状に外傾して開く。底部中央器薄。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	坏 土師質	壁際	①8.8　②5.0 ③2.5	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR7/4　④完形	体部ハの字状に外傾して開く。器肉厚く一定。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	坏 土師質	竈内	①(9.4)　②(5.3) ③2.1	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	体部ハの字状に開く。器肉やや薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	坏 土師質	竈内	①(8.9)　②4.9 ③2.1	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/2	体部ハの字状に開く。器肉やや薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	坏 土師質	覆土	①(9.6)　②5.4 ③2.3	①密　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	体部ハの字状に開き、上端弱く括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	覆土	①9.0　②5.5 ③2.3	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部2/5欠損	体部ハの字状に開き、見込端部段状をなす。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	－4	①14.8　②7.0 ③3.6	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部1/2欠損	底部平底。体部ハの字状に開く。見込中央に向い窄まる。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	口唇部丸い。
8	坏 土師質	－4	①14.2　②6.3 ③3.6	①密　②良好　③淡黄2.5Y8/4 ④全形の1/4	底部出尻気味。7に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
9	坏 土師質	＋5	①(15.8)　②6.8 ③4.1	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④全形の1/4強	体部ハの字状に開くが、7、8より若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部再調整痕無。底部回転糸切り。	
10	坏 土師質	P_2内	①(15.0)　②(7.1) ③4.1	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④体部3/4欠損	体部ハの字に外傾、見込部平坦。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。口縁部調整痕無。	
11	坏 土師質	－4	①13.3　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2	体部緩く湾曲、丸み有。口縁部変換点で弱い括れ。 轆轤整形。	
12	埦 土師質	P_2内	①9.3　②6.4 ③4.4	①密　②良好　③明赤褐10YR5/6 ④ほぼ完形	小型の器形。体部丸く、口唇部若干外反。高台部外反して開く。	
13	羽釜	－5	①(23.2)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部約1/4	極めて雑なつくり。内面紐つくり痕顕。鍔は大きく水平に張る。口縁部撫で。胴部箆削り。	
14	羽釜	竈内	①(26.7)　②(11.3) ③30.0	①密　②良好　③橙7.5YR7/6	口縁部短く形骸化。鍔の張り出し強。胴下半箆削り痕有。上半撫で状。中位以下煤付着痕顕。	

H－69号住居跡出土遺物観察表（図－97　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	竈内	①9.6　②5.8 ③1.7	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2強	体部浅く皿状をなす。体部短く外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	坏 土師質	覆土	①(13.5)　②6.3 ③3.5	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④体部1/5欠損	底部下端括れ。体部下半膨らみ、口縁部緩く外反する。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	覆土	①－　②6.3 ③－	①密　②良好　③灰白2.5YR7/1 ④底部	轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	位置不明	①－　②(6.6) ③－	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④底部1/4	轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	埦 土師質	覆土	①14.6　②6.8 ③5.7	①粗　②良好　③にぶい黄橙10YR6/4	体部下半丸み、口縁部外反する。高台は短くだれる。轆轤目顕著。底部回転糸切り。口縁横撫で。	内面漆付着
6	埦 土師質	位置不明	——	①小石含、粗。　②良好　③にぶい黄橙10YR6/3　④口縁部小片	体部丸み有。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
7	埦 土師質	位置不明	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR6/4　④口縁部小片	6に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
8	小形埦 土師質	壁際	①(8.6)　②4.5 ③4.3	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④全形の1/4	小型の器形。体部丸く、口縁部若干外反する。高台端部平坦気味。轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9	埦 灰釉陶器	覆土	①－　②7.1 ③－	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④底部1/2弱	体部下半張る。直立する高台。見込無釉。 轆轤整形。底部回転糸切。	漬けがけ
10	甕	覆土	①－　②(19.3) ③－	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④底部1/5	器肉厚く、体部外傾して立ち上る。 外面篦削り後撫で調整。内面回転撫でか。	

H－70号住居跡出土遺物観察表（図－99）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	覆土	①－　②6.2 ③－	①針状鉱物含、密。　②良好 ③オリーブ灰2.5GY6/1　④底部	高台短く外傾。断面台形状。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	埦 土師質	覆土	①－　②(7.1) ③－	①小石含、軟質。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4　④底部1/4	体部深く、だれた短い高台。腰部丸い。底部小さい。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	埦 灰釉陶器	＋8	①－　②8.9 ③－	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④底部1/2	底径大きく、ハの字状にふんばる。稜形骸。 轆轤整形。腰部回転篦削り。底部回転撫で。	刷毛塗り。
4	甕 土師器	P_4内	①(19.6)　②－ ③－	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部コの字状。肩の張りは弱い。 口縁部横撫で。外面篦削り。内面篦撫で。	煮こぼれ痕。
5	甕 土師器	覆土	——	①密　②普通　③橙7.5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。唇部強く外反。輪積痕有。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
6	甕 土師器	－1	①(21.4)　②26 ③4.0	①密　②普通　③橙7.5YR6/6 ④全形の1/4	口縁部上半で外反。胴部上半で張り、下半で先細り。口縁部横撫で。胴部篦削り。	煮こぼれ痕。
7	砥石 石製品	－8	長3.8　幅4.6 厚1.3	上・下両端部欠損。4面使用。研き減りする。凝灰岩製。		
8	小刀 鉄製品	＋8	刃部現存長3.7 幅2.1	茎現存長6.7 幅1.6	茎は鞘木質部残る。端部目釘付着。刃部先端欠損。棟区認む。 背側平ら。幅0.6cmを計る。	

H－71号住居跡出土遺物観察表（図－100）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	鎌 鉄製品	周溝内	長15.4　幅3.1 厚0.3	刃部中程研ぎ減り顕著。柄装着部L字状に折れ曲がり、木質部若干残る。 刃部先端を欠損。		

H－72号住居跡出土遺物観察表（図－101）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。内側に輪積痕有。 口縁部横撫で。	
2	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④口縁部小片	口縁部コの字状。輪積痕有。 口縁部強い横撫で。肩部篦削り。	

H－73号住居跡出土遺物観察表（図－102）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	覆土	①－　②(7.5) ③－	①軟質　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④底部小片	高台部短く、ハの字状に開く。端部丸み。 轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼り付雑。	
2	埦 須恵器	覆土	——	①密、石含。　②良好　③灰白2.5Y8/2　④底部小片	高台貼付痕有。轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－74号住居跡出土遺物観察表（図－103）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.1)　②－ ③3.1	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④全形の1/3	体部浅く、緩く湾曲して立ち上る。 口縁部横撫で。底部篦削り。体部撫で。	
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④底部小片	外面刻書「田」か。	
3	坏 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③黄灰2.5Y5/1 ④底部小片	箱形の器形か。体部直線的に立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－75・76・77・78号住居跡出土遺物観察表（図－105・106　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H75	坏 須恵器	壁際	①12.4　②5.8 ③3.9	①石、片岩含。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④口縁部2/5欠損	体部浅く、緩く内湾して立ち上る。底部若干上げ底。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H-60-6
2 H75	坏 須恵器	竈内	①(13.2)　②(5.7) ③3.9	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③灰白5Y7/1　④全形の1/3	体部浅い。緩く内湾、上端で張る。口縁部短く外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	見込漆付着
3 H75	坏 須恵器	竈内	①(13.1)　②6.2 ③4.0	①軽石粒含、荒。　②良好 ③灰白7.5Y8/1　④全形の1/4	体部やや直線的に立ち上る。底部上げ底。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4 H75	坏 須恵器	壁際	①－　②6.1 ③－	①軽石粒含、密。　②良好 ③黒褐10YR3/1　④底部3/4	底部外縁無調整。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5 H75	皿 須恵器	覆土	①(13.5)　②(7.3) ③2.6	①砂粒含、軟。　②良好 ③暗灰黄2.5Y5/2　④全形の1/6	体部強くハの字状に外傾。口縁部水平面形成。 轆轤整形。	見込重ね焼き痕。
6 H75	埦 須恵器	－1	①19.3　②8.4 ③現8.0	①黒色粒子含、密。　②良好 ③灰白5Y7/1　④高台部欠損	体部深く、大形。口縁部若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7 H75	鉄滓	住居外	長5.2　幅6.2 厚4.3　150g	断面　三角形状。平坦面飴状をなし、若干磁石に反応する。凸面海綿状。		
8 H75	甕 土師器	＋8	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。口縁部横撫で。一部指頭痕残る。 内面刷毛目状。	
9 H75	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部小片	口縁部コの字状。輪積痕、指頭痕残る。 口縁部横撫で。	
10 H75	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部小片	口縁部コの字状。口唇部外反の度合弱。輪積痕、指頭痕残る。	
11 H75	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部小片	10に似る。輪積痕、指頭痕顕著。	
12 H75	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。指頭痕残る。 口縁部強い横撫で。	
13 H75	甕 土師器	壁際	①(20.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/3	口縁部上半で外反、度合弱い。肩部丸み。 口縁部輪積痕、指頭痕顕著。	
14 H75	甕 土師器	＋8	①(14.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/3	口縁部コの字状。台付か。口縁部一部篦削り、指頭痕を消している。	
15 H75	甕 土師器	－14	①(15.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部1/2弱	口縁部コの字状。肩部の張り弱い。 口縁部横撫で。輪積痕残る。	
16 H75	甕 土師器	－14	①(20.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/3	口縁部強いコの字状。肩部丸み有。口縁部小さく指頭痕有。	煮こぼれ痕

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H76	埦 須恵器	+16	①15.6　②7.0 ③5.4	①砂粒多、粗。　②普通 ③灰白2.5Y8/1　④体部1/2欠損	体部やや肉厚。緩く湾曲、口縁部若干外反。 だれた高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	
2 H76	埦 須恵器	+13	①－　②(7.7) ③－	①針状鉱物含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④底部	高台短く外傾。貼付丁寧。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
3 H76	埦 須恵器	+18	①(18.6)　②－ ③－	①密　②普通 ③灰黄2.5Y7/2　④体部2/3	体部大きく外傾、口縁部に至る。大ぶりの器形。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
4 H76	埦 灰釉陶器	覆土	①(17.8)　②(7.5) ③7.4	①密　②良好 ③素地灰白7.5Y8/1　④全形の1/6	高台高く、ほぼ三日月型。体部丸み、口唇部外反。 轆轤整形後、下半回転篦削り。漬けがけ。	
5 H76	甕 土師器	覆土	①(12.0)　②－ ③－	①密　②良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	肩部張り弱い。口縁直立後、短く外傾。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
6 H76	甕 土師器	+7	①(12.8)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部3/5	口縁部コの字状。肩部張る。口唇部丸い。 口縁部指頭調整後横撫で。肩部篦削り。	内面接合痕。
7 H76	甕 土師器	覆土	①(18.5)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④口縁部約3/5	口縁部屈曲し、コの字状か。指頭痕残るが、強い横撫で。口唇部外面屈曲。	
8 H76	刀子 鉄製品	周溝内	現存長2.0 幅1.0　厚0.3	錆化著しい。刃部、背側共に原型不明。		
1 H77	埦 須恵器	覆土	①(16.2)　②(6.8) ③5.1	①石含、密。　②普通 ③灰白2.5Y8/2　④全形の1/4強	だれた短い高台。体部丸く、口縁部で外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
2 H77	皿 須恵器	覆土	①－　②6.0 ③－	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④下半部	体部強くハの字状に外傾、同様の短い高台をもつ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	内面いぶしか。
3 H77	埦 須恵器	覆土	①－　②6.3 ③－	①砂含、ざらつく。　②普通 ③浅黄2.5Y7/3　④底部	直立する短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	重ね焼痕
4 H77	甕 土師器	覆土	①(20.7)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④上半部3/5	口縁部コの字状。肩部丸み有。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
5 H77	鎌 鉄製品	+17	全長21.5　柄幅1.9 刃部幅5.3　厚0.3	柄装着部細身。刃部はその2.5倍弱と幅広。柄装着部片側L字状に折れ曲がる。 器面錆化している。厚くぼってりした器形。		
6 H77	鉇 鉄製品	+9	現存長13.5 幅0.9　厚0.4～0.5	片側先端部楔状に鋭る。基部はやや細身。柄装着の為か。 全体的に錆化している。		
1 H78	埦 須恵器	覆土	――	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③褐灰10YR4/1　④口縁部小片	器肉薄い。体部外傾して開く。 轆轤整形。	いぶし焼きか
2 H78	坏 須恵器	覆土	①－　②(6.0) ③－	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③灰黄褐10YR5/2　④底部1/4	体部下半膨らむ。器肉薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H78	甕 土師器	覆土	――	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④胴部小片	器肉薄い。外面篦削り。内面撫で。	
4 H78	甕 土師器	覆土	――	①砂、小石含、荒い。　②良好 ③橙5YR6/6　④胴部小片	器肉厚い。外面篦削り。内面回転撫でか。	

H－79号住居跡出土遺物観察表（図－107）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	竈内	①－　②(7.0) ③－	①石含、荒い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部1/2	器肉厚い。底部厚くぼってりし、出尻気味。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	埦 土師質	竈内	①－　②7.4 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	ハの字に開く高い高台。 轆轤整形。高台貼付後底部再調整。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	羽釜	＋5	①(22.2)　②　— ③　—	①砂、白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④胴部1/6	鍔小さく形骸化している。口縁部内傾、唇部丸い。口縁部横撫で。胴部篦削り後、撫でつけしている。	鍔直下より煤付着
4	甕 土師器	竈内	①(22.5)　②　— ③　—	①砂、小石含、粗。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/6	器肉厚い。胴部上半に最大径。口縁部短く外反。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面回転撫で。	つくり雑。

H－80号住居跡出土遺物観察表（図－108・109）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②　— ③3.1	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④全形の2/3	体部緩く内湾し、口縁部に至る。器高浅い。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	①(13.4)　②　— ③4.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/2強	底部～体部にかけ緩く内湾、口縁部短く直立する。口縁部横撫で。底部～体部篦削り。	
3	坏 須恵器	覆土	①(12.3)　②7.7 ③3.5	①白色針状鉱物含、密。　②良好 ③灰N6/　④体部3/4欠損	体部下端で括れ、外傾して立ち上る。轆轤整形。底部回転篦削り。口縁部横撫で。	
4	坏 須恵器	覆土	①12.1　②7.6 ③3.7	①密　②良好　③灰白10YR7/1 ④口縁部1/4欠損	体部下端で括れ、外傾して開く。口縁部内側弱い稜。轆轤整形。底部回転糸切り、外周篦削り。	自然釉付着
5	坏 須恵器	覆土	①(12.0)　②(7.0) ③3.5	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④全形の1/6	4に似る。内側の稜はない。轆轤整形。底部～外周部回転篦削り。	自然釉付着
6	坏 須恵器	周溝内	①(12.8)　②7.5 ③3.7	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④体部3/4欠損	底部上げ底。体部直線的に外傾して開く。口唇部わずかに丸み。轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	坏 須恵器	覆土	①(12.9)　②5.7 ③3.5	①密　②良好　③浅黄2.5Y7/3 ④全形の1/2弱	底部やや小さく、体部ハの字状に外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
8	坏 須恵器	＋60	①(12.0)　②(6.0) ③3.8	①白色針状鉱物含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④全形の1/3強	底部小さく、体部若干の膨らみをもつ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
9	坏 須恵器	覆土	①(13.0)　②7.5 ③3.3	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④体部3/5欠損	体部外傾して開き、下半に若干の膨らみをもつ。轆轤整形。底部回転篦切り後、撫で調整。	
10	坏 須恵器	覆土	①(12.9)　②(7.2) ③3.9	①白色軽石含、密。　②良好 ③灰7.5Y6/1　④全形の1/4	体部下端弱く括れる。緩く湾曲、口縁部若干外反する。轆轤整形。底部回転糸切り、外周篦削り。	
11	坏 須恵器	竈	①(14.2)　②(7.2) ③4.1	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④全形の1/2弱	体部下端で括れ、膨らみをもって立ち上る。轆轤整形。底部回転糸切り後、回転篦削り。	見込端外寄り、蓋機能か
12	坏 須恵器	覆土	①(12.7)　②6.7 ③3.9	①石含、密。　②良好　③灰白2.5Y8/1　④体部3/4欠損	体部下端で括れ、外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
13	埦 須恵器	覆土	①(13.5)　②(8.6) ③4.6	①砂粒含、密。　②良好 ③黒褐10YR3/1　④全形の1/3	体部浅く、やや箱形の器形。高台短く外傾する。轆轤整形。底部回転糸切り。	いぶし焼きか
14	埦 須恵器	覆土	①　—　②(8.7) ③　—	①密　②良好　③灰白7.5Y8/2 ④体部下半1/2弱	体部下半直線的に立ち上る。高台高く、外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
15	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④口縁部小片	つくり丁寧。口唇部短く外反。	
16	埦 灰釉陶器	覆土	①　—　②(7.3) ③　—	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④底部小片	高台は短く外傾、稜は形骸化している。見込部を除き、施釉。轆轤整形。腰部回転篦削り。	
17	壺 須恵器	覆土	①　—　②(12.0) ③　—	①白色粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④底部1/3	腰部下端張る。高台部強く外反後、直立する。内・外面回転撫で。	
18	壺 須恵器	覆土	①　—　②(14.6) ③　—	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④底部1/3	器肉厚い。高台部短く外傾、断面台形状。胴下端部手持ち篦削り。回転撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
19	甕 土師器	覆土	①(23.0)　②　— ③　—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/3	肩部若干の張り。口縁部緩く外反する。 口縁部横撫で。胴部横・斜篦削り。内面撫で。	
20	甕 土師器	覆土	①　—　②(7.3) ③　—	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④底部1/3	底部不安定な平底。器肉一定。 外面・底部篦削り。内面撫で。篦撫で痕有。	外面煤付着
21	甕 土師器	覆土	①(13.3)　②　— ③　—	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/8　④上半部1/3	口縁部長く、若干外傾する。胴部丸み有。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
22	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④胴部片	器肉一定。 外面斜位篦削り。内面篦撫で。接合痕有。	

H—81号住居跡出土遺物観察表（図—110）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	竈内	①14.7　②6.8 ③5.8	①砂粒含、荒い。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④体部1/2弱欠損	器肉厚い。体部下半若干膨らみ、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	貯蔵穴内	①(14.5)　②7.2 ③5.0	①密　②良好　③褐灰10YR4/1 ④体部1/3欠損	1に似る。高台はだれて短い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	いぶし焼きか
3	埦 土師質	－8	①　—　②(6.3) ③　—	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④底部1/2強	だれた短い高台。貼付け雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 土師質	竈内	①(13.7)　②6.8 ③5.3	①小石含、雑。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④体部2/3欠損	体部丸み強く、だれた短い高台。器肉やや厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	皿 土師質	貯蔵穴内	①(13.5)　②6.3 ③3.2	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部3/4欠損	体部ハの字に開き、口縁部外反する。だれた高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。口縁部横撫で。	

H—82号住居跡出土遺物観察表（図—111）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(12.7)　②(8.5) ③3.8	①砂含、粗。　②良好 ③灰7.5Y6/1　④全形の1/3	腰部丸く、底部への変換点不明瞭。体部浅い。 轆轤整形。底部回転篦削り。	
2	坏 須恵器	覆土	①(11.3)　②(6.9) ③4.0	①緻密　②良好　③黄灰2.5Y5/1 ④全形の1/3	体部直線的に外傾。底部上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	底部2度切りか。
3	坏 須恵器	覆土	①(12.3)　②7.3 ③3.9	①密　②良好　③灰白5Y8/2 ④体部大半欠損	体部中位若干膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。口縁部横撫で。	
4	坏 須恵器	覆土	——	①砂含、密。　②良好 ③灰黄褐10YR6/2　④小片	体部外傾して開き、底部変換点丸み有。 轆轤整形。底部回転糸切り、外周部篦削り。	
5	蓋 須恵器	覆土	①(19.2)　②　— ③　—	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④全形の1/3、摘欠損。	天井部緩く外傾、変換点をもってハの字状に開く。 口唇部短く屈曲する。轆轤整形。天井部再調整。	内面重ね焼痕有。
6	埦 須恵器	覆土	①(10.7)　②7.6 ③5.0	①密　②良好　③褐灰10YR5/1 ④体部大半欠損。	小形の器形。体部若干膨らみ、口縁部内面に稜をもつ。高台接地面凹む。轆轤整形。回転糸切り。	
7	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部小片	肩部大きく張り、口縁部外反する。胴部丸い器形か。口縁部横撫で。肩部篦削り。	口縁接合痕有。
8	甕 土師器	覆土	①(19.9)　②　— ③　—	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④上半部1/2弱	肩部若干張り、口縁部上半で外反する。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	

H一83号住居跡出土遺物観察表（図一112・113　図版一2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	＋7	①12.0　②一 ③3.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④完形	安定した底部。体部浅い。口縁部変換点で弱く括れる。口縁部横撫で。体部指頭痕。底部篦削り。	
2	坏 土師器	＋32	①12.0　②一 ③2.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部若干欠損	底部安定。口縁部変換点で若干括れる。体部浅い。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
3	坏 土師器	＋7	①11.9　②一 ③3.0	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④完形	口縁部の括れほとんどなく、緩く湾曲する。口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
4	坏 土師器	－3	①11.7　②一 ③3.3	①密　②良好　③にぶい赤褐2.5YR5/4　④完形	底部安定。体部緩く湾曲。口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	内外面吸炭
5	坏 土師器	＋6	①12.0　②一 ③3.2	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④完形	3に似る。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	外面一部吸炭
6	坏 土師器	＋34	①11.6　②一 ③3.1	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④完形	底部安定。体部緩く湾曲、口縁部で若干外傾する。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	外面器皺あり。
7	坏 土師器	＋7	①12.1　②一 ③3.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④完形	底部安定。体部やや直線的に外傾。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	内外面一部吸炭。
8	坏 土師器	＋8	①(12.5)　②一 ③3.0	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2弱	体部緩く外傾して立ち上る。外面墨書「キ」。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
9	坏 土師器	＋8	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	体部緩く湾曲して口縁部に至る。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
10	坏 土師器	＋7	①12.1　②一 ③3.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部1/4欠損	9に似る。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	外面器皺あり。
11	坏 土師器	＋8	——	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④小片	体部屈曲気味に湾曲、口縁部外反する。口縁部強い横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
12	坏 土師器	＋7	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④小片	3に似る。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
13	坏 土師器	＋7	——	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④小片	12に似る。口唇部丸い。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
14	坏 土師器	＋8	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④小片	8に似る。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
15	坏 須恵器	覆土	①(12.4)　②7.2 ③3.5	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④体部3/4欠損	底部やや大きく、体部外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
16	坏 須恵器	覆土	①(11.6)　②(6.0) ③3.5	①砂含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④全形の1/4	腰部括れる。体部直線的に外傾。口縁部内側膨らむ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
17	坏 須恵器	－5	①(12.1)　②6.0 ③3.7	①密　②良好　③灰黄2.5YR6/2 ④体部2/3欠損	底部小さく、体部直線的に外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
18	坏 須恵器	＋7	①(12.2)　②5.6 ③3.3	①砂粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5YR6/1　④全形の2/3	底部やや出尻。体部下半膨らむ。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器形歪む。
19	甕 土師器	覆土	①(14.1)　②一 ③—	①密　②良好　③明赤褐5YR5/8 ④口縁部1/4弱	肩部丸み。口縁部直立後、上半で外反する。口縁部強い横撫で。肩部篦削り。内面篦撫で。	外面煤付着。
20	台付甕 土師器	＋8	①—　②(8.4) ③—	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④下半部	胴部下半細身、ハの字に広く脚をもつ。胴部篦削り。脚部横撫で。内面篦撫で。	
21	台付甕 土師器	＋8	——	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④下半部	20に似る。脚部外傾の度合小さい。胴部篦削り。脚部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
22	甕 土師器	＋8	——	①砂粒含、荒い。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4　④口縁片	長胴形の器形か。口縁部緩く外反する。器肉厚い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
23	甕 土師器	＋8	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR6/4　④口縁・底部小片	口縁部直立後、上端で外反。肩部若干丸み。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	口縁部接合痕。
24	鎌 鉄製品	＋6	推定長17.2　幅1.8～3.0　厚0.3	刃部中央部欠損。柄装着部片側L字状に折れる。切先鋭利。研ぎ減りする。		
25	鎌 鉄製品	＋5	現存長6.4　幅2.0 厚0.2	刃部両端部欠損。背側平ら。身部緩く湾曲。刃部細身か。		
26	刀子 鉄製品	＋5	現存長7.6　幅1.4 厚0.2	刃部先端・茎端部を欠損。区部不明瞭。		
27	刀子 鉄製品	＋6	幅1.0　厚0.2	茎部木質付着。切先鋭利。錆化している。刃部部分的に剝落する。		

H－84号住居跡出土遺物観察表（図－115）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.9)　②－ ③2.8	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④体部1/5欠損	底部平ら。体部緩く湾曲、口縁部で括れる。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	底部外面墨書「キ」
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④小破片	1に似る。口縁部の括れ弱い。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
3	坏 須恵器	覆土	①－　②(5.7) ③－	①石含、粗。　②良好　③褐灰10YR5/1　④底部1/3	底部若干上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.1) ③－	①軟質　②普通　③灰白10YR8/2 ④底部1/4	体部～底部への変換点不明瞭。底部やや大きい。 轆轤整形。底部回転篦削り。切り離し不明。	
5	埦 須恵器	覆土	①－　②(7.9) ③－	①密　②良好　③灰白10YR8/1 ④下半部1/5	底部やや大きい。高台部短く内傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰黄2.5Y7/2　④底部小片	高台三日月型だが、稜ややだれる。見込部を除き施釉。轆轤整形。	
7	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。 口縁部横撫で。指頭痕残る。肩部篦削り。	
8	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④底部小片	下半部細身。外面篦削り。内面撫で。	
9	甕 須恵器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④肩部小片	器肉厚い。 内・外面撫で。	
10	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰5Y5/1 ④胴部片	外面条線状当て目。内面同心円状当て目。	断面セピア
11	甕 須恵器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③青灰5PB6/1　④胴部片	外面撫で。内面当て目痕。	
12	甕 須恵器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③灰7.5Y5/1　④胴部片	外面回転撫で。工具使用。内面撫で。	
13	壺 須恵器	覆土	①－　②(11.9) ③－	①密　②良好　③にぶい赤褐2.5YR5/4　④底部1/5	高台断面台形状。 外面回転撫で。内面撫で。	

H－85号住居跡出土遺物観察表（図－116）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	＋4	①(11.5)　②(6.7) ③4.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4　④全形の1/2	体部深く、外傾して開く。底部平底。 口縁部横撫で。体部指頭痕。底部篦削り。	内部黒色処理か。
2	坏 須恵器	－12	①13.4　②6.0 ③4.8	①密　②良好　③淡黄2.5Y8/3 ④体部1/2	底径小さく、体部深い。口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部外面墨書「右」
3	坏 須恵器	＋4	①(13.8)　②(6.8) ③4.0	①密　②良好　③にぶい黄褐10YR6/3　④全形の1/4	体部外傾して開き、口縁部に至る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	－13	①(14.0)　②(6.9) ③4.0	①砂粒含、密。　②良好 ③灰黄褐10YR4/2　④全形の1/3	3に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	甕 土師器	＋5	①(20.5)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部1/5	肩部丸み。口縁部外反し、唇部沈線状に凹む。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面撫で。	

H－86号住居跡出土遺物観察表（図－118・119　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	竈内	①(16.6)　②8.4 ③7.1	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④体部約2/3欠損	器肉厚い。体部丸く湾曲、高台短く外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。内面篦磨き。	
2	埦 土師質	竈内	①－　②7.5 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④上半欠	体部湾曲して立ち上る。ハの字状に開く高めの高台。轆轤整形。底部再調整。内面篦磨き。	
3	埦 土師質	竈内	①(14.3)　②(6.9) ③5.0	①石含、荒い。　②良好　③浅黄橙10YR4/3　④口縁部1/5欠損	体部浅く、下半で丸み。高台短く、外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 土師質	竈内	①(13.7)　②8.0 ③4.7	①白色軽石含、荒い。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部5/6欠損	体部器形3に似る。高台若干高く、ハの字状に外傾。轆轤整形。底部回転糸切り。口縁部横撫で。	
5	埦 土師質	竈内	①(14.2)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/3　④体部1/5	体部下半で丸み、上半でハの字状に開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
6	埦 土師質	竈内	①(14.0)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部1/4	体部下半で丸み、上半で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
7	埦 土師質	竈内	①(14.5)　②8.4 ③4.5	①小石含、荒い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部3/3欠損	体部大きくハの字状に外傾して開く。身部浅い。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
8	埦 土師質	竈内	①－　②(8.0) ③－	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④上半欠損	高台高く、ハの字状に外傾する。 轆轤整形。底部再調整。	
9	埦 土師質	覆土	①－　②7.4 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④高台部	高めの高台。下端で外反する。 回転撫で。	
10	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好 ③素地灰白2.5Y8/2　④底部片	見込部を除き、施釉痕。 底部回転糸切り。	
11	皿 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好 ③素地灰白10Y8/1　④口縁小片	施釉、漬けがけの痕跡。口唇部外反。	
12	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好 ③素地灰白10Y8/1　④口縁部小片	施釉、漬けがけの痕跡。	
13	羽釜	竈内	①(23.0)　②－ ③－	①砂粒含、荒い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR6/4　④口縁小片	口縁部内傾して立ち上り、唇部丸い。鍔水平に張り出す。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
14	羽釜	竈内	①(25.6)　②－ ③－	①砂粒含、荒い。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④上半部1/5	口縁部長く、直立気味。鍔水平に張り出す。 口縁部横撫で。胴部斜位篦削り。内面撫で。	唇部丸い。胴部煤付着。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
15	羽釜	竈内	①(24.4)　②　— ③　—	①砂粒含、荒い。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④口縁部1/3	口縁部長く、唇部平坦。鍔水平に張り出す。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
16	羽釜	竈内	①(24.0)　②　— ③　—	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部1/6	口縁部短く、唇部丸い。鍔器肉厚く、水平に張り出す。口縁部横撫で。指頭痕残す。胴部篦削り。	内面接合痕有。
17	羽釜	竈内	①(22.4)　②　— ③　—	①砂粒含、荒い。　②良好 ③橙 5 YR6/8　④上半部1/2	口縁部直立、唇部丸い。鍔水平に張り出す。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	
18	羽釜	竈内	①(22.6)　②　— ③　—	①砂粒含、荒い。　②良好 ③橙 5 YR6/6　④上半部1/5	口縁部内傾して立ち上り、上端平坦。鍔小さく、張り出し弱い。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
19	甕 土師器	竈内	①(20.5)　②　— ③　—	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④上半部2/3	器肉厚い。口縁部短く外傾する。胴部若干膨らむ。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
20	甕 土師器	竈内	①　—　②(10.8) ③　—	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④底部1/4	器肉厚い。底部大きく、胴部緩く湾曲する。 外面篦削り。内面撫で。19形態の底部か。	
21	羽釜	竈内	①　—　②8.5 ③　—	①砂粒含、荒い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR6/4　④下半部	胴部下半細身。器肉厚い。 外面篦削り。内面撫で。	
22	把手？ 須恵器	竈内	——	①密　②良好　③灰白 5 Y8/2		

H—87号住居跡出土遺物観察表（図—120）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.2)　②　— ③　—	①密　②良好　③橙 5 YR6/6 ④小破片	安定した底部。体部緩く湾曲して立ち上る。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④底部小破片	内面墨書。判読不明。 外面篦削り。	
3	坏 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④口縁部小破片	外面墨書。判読不明。 轆轤整形。	
4	坏 須恵器	覆土	①　—　②(6.6) ③　—	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④底部1/4	底部変換点括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	埦 須恵器	竈内	①(13.6)　②(7.0) ③5.0	①砂粒含、軟。　②普通 ③灰白2.5Y8/2　④全形の1/2	体部直線的に外傾して立ち上る。短い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	埦 須恵器	住居外	——	①砂粒含、密。　②良好 ③灰N5/　④底部小破片	高台若干外傾。下端部シャープ。 轆轤整形。	
7	埦 灰釉陶器	竈内	①(14.6)　②6.8 ③4.2	①密　②良好　③素地淡黄 5 Y8/3 ④全形の1/2	体部若干膨らみ、口唇部わずかに外反する。 高台は稜不明瞭。施釉濃けがけ。腰部回転篦削り。	
8	埦 灰釉陶器	竈内	①(15.5)　②(7.9) ③5.0	①密　②良好　③素地10YR8/3 ④全形の1/4強	体部下半膨らみ、口縁部わずかに外反する。 高台短く外傾。施釉濃けがけ。	
9	瓶 灰釉陶器	住居外	①　—　②(8.7) ③　—	①密　②外側酸化焔 ③素地灰黄2.5Y7/2　④下半部	体部若干膨らむ。断面台形状の高台をもつ。 轆轤整形。外面・底部回転篦削り。	外面釉薬 滴下する。
10	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/6	器肉薄い。口縁部上端外反する。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面撫で。	
11	台付甕 土師器	覆土	①　—　②4.2 ③　—	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④下半部1/3	胴下半部細身。脚部接合痕有。 外面篦削り。内面篦撫で痕。	
12	甕 土師器	周溝内	——	①小石含、密。　②良好　③にぶい褐7.5YR7/4　④口縁部1/5	口縁部ややコの字状。肩部膨らむ。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
13	甕 土師器	＋7	①(20.0)　②－ ③－	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④上半部1/2弱	口縁部コの字状。胴部上半膨らむ。 口縁部強い横撫で。胴部篦削り。内面一部篦撫で。	
14	甕 須恵器	住居外	①(16.8)　②－ ③－	①片岩含、密。　②良好 ③暗青灰5B4/1　④上半部1/3	胴部丸く湾曲。口縁部外反後、屈曲して立ち上る。 外面回転撫で。一部叩き目残る。	
15	羽釜	＋3	①(20.3)　②10.3 ③28.2	①緻密　②不良　③明黄褐10YR7/6　④口縁部若干欠損	底部大きく安定する。胴部緩く湾曲、口縁部短く内傾。鍔小さい。胴部回転撫で。下端篦削り。	
16	甕 須恵器	＋6	①(37.4)　②－ ③－	①緻密　②不良　③橙5YR7/6 ④口縁部1/3	大形の器形。口縁部外反後、屈曲して短く直立。 肩部への接合痕残す。回転撫で。	肩部への接合痕有。

H－88・89号住居跡出土遺物観察表（図－122）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H88	坏 土師器	覆土	――	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④底部片	内面中央墨書。「千万」か。 外面篦削り。	
2 H88	甕 土師器	覆土	――	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい赤褐5YR5/3　④底部片	内面墨書「千」か。	
3 H88	坏 須恵器	覆土	――	①密　②良好　③灰白10YR8/2 ④底部片	内面端部墨書。判読不明。	
4 H88	坏 須恵器	覆土	――	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄2.5Y8/3　④底部片	底部外面墨書。判読不明。	
5 H88	坏 須恵器	覆土	①(14.2)　②(6.9) ③3.8	①砂粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④全形の1/4	底部～体部への変換点わずか括れる。体部外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	体部下半若干膨らむ。
6 H88	坏 須恵器	覆土	①(13.4)　②－ ③－	①緻密。　②良好 ③灰白2.5Y8/2　④口縁部1/4弱	体部直線的に外傾。外傾の度合5より弱い。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
7 H88	皿 須恵器	覆土	①(14.2)　②(7.0) ③3.2	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④全形の1/3強	器肉厚い。体部ハの字状に外傾。口縁部水平となる。短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	
8 H88	皿 須恵器	覆土	①(13.4)　②(7.1) ③－	①小石含、密。　②良好 ③灰白10YR7/1　④全形の1/2弱	高台部欠損。体部ハの字状に外傾、中位で膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9 H88	折縁皿 灰釉陶器	覆土	①(16.1)　②(8.4) ③3.0	①密　②良好　③素地明褐灰7.5YR7/1　④全形の1/5	体部ハの字状に外傾、口縁折縁。高台三日月型。 施釉刷毛塗り。轆轤整形。底部回転篦削り。	重ね焼の痕跡有。
10 H88	壺 須恵器	覆土	①－　②(10.4) ③－	①小石含、密。　②良好 ③灰7.5Y6/1　④下半部1/3	ハの字状に外傾する高台をもつ。口唇部折れる。 胴部下端回転篦削り。内面回転撫で。	
11 H88	甕 須恵器	覆土	――	①小石、片岩含、密。　②良好 ③青灰5PB6/1　④口縁部小片	頸部外反。口縁部で強く屈曲、直立する。器肉厚い。内外面共に回転撫で。	
12 H88	甕 須恵器	覆土	――	①小石含、密。　②良好 ③青灰5B6/1　④口縁部1/5	器形11に似る。頸部沈線区画の中に3本一単位の波状文廻る。内面回転撫で。	H89遺物と接合。
13 H88	甕 土師器	覆土	①(22.4)　②－ ③－	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/8　④口縁部1/3	口縁部コの字状。口唇部沈線廻る。 口縁部強い横撫で。指頭痕残る。肩部篦削り。	
1 H89	坏 土師器	覆土	――	①雲母含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④底部小片	内面墨書。判読不明。	
2 H89	坏 須恵器	北溝内	①(14.2)　②(7.7) ③4.4	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白7.5Y8/1　④全形の1/2弱	体部やや深く、直線的に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H89	坏 須恵器	覆土	①(13.8)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④口縁部1/4強	体部緩く外傾して開く。下半若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4 H89	埦 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④口縁部小片	体部緩く外傾して開く。器肉薄い。 轆轤整形。	
5 H89	埦 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④口縁部1/5	体部緩く外傾、口縁部に至る。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
6 H89	埦 須恵器	覆土	①—　②(7.4) ③—	①小石含、密。　②酸化焔 ③黄橙7.5YR7/8　④底部1/4弱	腰部若干膨らむ。だれた短い高台。 轆轤整形。器面磨耗する。	
7 H89	埦 須恵器	覆土	①—　②(7.1) ③—	①砂粒含、密。　②良好 ③暗灰黄2.5Y5/2	断面台形状の短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
8 H89	皿 須恵器	北溝内	①—　②5.9 ③—	①砂粒含、密。　②良好 ③褐灰10YR4/1　④底部	体部下半ハの字状。だれた短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
9 H89	輪花皿 灰釉陶器	覆土	①14.0　②6.8 ③3.1	①密　②良好　③素地灰白5Y7/2 ④口縁部2/3欠損	体部緩く外傾し、口唇部折れる。口唇部に輪花状の調整痕。高台短く直立する。施釉刷毛塗り。	
10 H89	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③褐灰10YR5/1 ③胴部片	外面格子目状叩き目。内面青海波状当て目。	
11 H89	甕 須恵器	覆土	——	①白色針状鉱物含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2	外面不定方向に平行叩き目。内面撫で。	
12 H89	甕 須恵器	覆土	——	①白色針状鉱物含、密。　②良好 ③灰10Y5/1	外面撫で後、5本一組の波状文施文。内面撫で。	
13 H89	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口縁部小片	口縁部くの字状に短く外反。口唇部沈線状に凹む。 口縁部横撫で。	

H—90号住居跡出土遺物観察表（図—123・124　図版—2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	P_{11}内	①(11.7)　②— ③3.3	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4	安定した底部。体部緩く湾曲し、底部への変換点弱く折れる。口縁部横撫で。体部指頭痕残る。	
2	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③2.7	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/4弱	1よりさらに底部安定する。体部浅い。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	①(13.4)　②— ③2.9	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4弱	底部安定、平底気味。体部への変換点明瞭。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
4	坏 土師器	覆土	①(13.3)　②(8.7) ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2強	底部平底。体部3より深く、外傾して立ち上る。 口縁部横撫で。指頭痕残る。体部～底部篦削り。	
5	蓋 須恵器	覆土	摘径2.7　高0.7	①密　②良好　③にぶい褐7.5YR6/3　④天井部小片	天井部ほぼ平ら。凝宝珠形の摘をもつ。 轆轤整形。天井部回転篦削り。	
6	蓋 須恵器	覆土	①(16.2)　③4.4 摘径4.0　高0.9	①砂粒含、密。　良好 ③灰10Y6/1　④全形の2/5	体部やや深く、口唇部短く外傾する。環状摘をもつ。轆轤整形。天井部回転糸切痕有。	口唇部再調整。
7	蓋 須恵器	覆土	①(18.3)　②— ③—	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④体部2/5	体部大きくハの字状に外傾。口唇部短く内傾する。 轆轤整形。天井部篦削り。	
8	坏 須恵器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③灰7.5Y5/1　④小片	腰部わずかに括れ、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切りか。	
9	坏 須恵器	覆土	①(13.4)　②(7.8) ③3.8	①緻密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④全形の1/4弱	腰部で弱く括れる。体部直線的に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部外周部再調整か。	
10	坏 須恵器	覆土	①(13.1)　②(8.0) ③3.6	①密　②良好　③灰7.5Y5/1 ④全形の1/5	9に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦削り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
11	坏 須恵器	覆土	①(13.7)　②6.4 ③3.7	①砂粒、片岩粒含、密。　②良好 ③灰白10YR7/1　④体部1/6欠損	底部小さく、体部緩く湾曲する。口唇部丸い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	坏 須恵器	＋7	①12.8　②7.2 ③3.5	①小石含、密。　②良好 ③灰白7.5Y7/1　④ほぼ完形	体部緩く湾曲、下半膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	坏 須恵器	覆土	①12.6　②6.5 ③3.5	①砂粒含、密。　②良好 ③灰10Y6/1　④体部3/4欠損	器形12に似る。腰部わずかに括れる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器形歪む。
14	坏 須恵器	＋40	①(13.0)　②7.4 ③3.9	①密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④体部1/6欠損	器形13に似る。口唇部若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
15	坏 須恵器	覆土	①(12.3)　②5.8 ③3.1	①石含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④全形の1/4	体部下端括れ、ハの字状に外傾する。底径小さい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
16	坏 須恵器	覆土	①(12.8)　②6.4 ③3.0	①密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④全形の1/4強	体部下端括れ弱い。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
17	皿 灰釉陶器	覆土	①(18.0)　②9.0 ③3.6	①密　②良好　③素地灰白5Y7/2 ④全形の1/2弱	高台三日月型。体部ハの字状に開き、口縁外側へ若干折れる。轆轤整形。施釉刷毛塗り。	釉薬白く濁る。 大形。
18	瓶 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④胴部小片	内外面回転撫で。外面にぶい淡緑色の釉薬	19と同一個体
19	瓶 灰釉陶器	＋27	——	①密　②良好　③素地灰白7.5Y7/1　④胴部小片	内外面回転撫で。外面にぶい淡緑色の釉薬	18と同一個体
20	甕 須恵器	覆土	①(18.6)　②— ③—	①密　②酸化焔　③灰赤2.5YR4/2　④頸部小片	頸部外反、唇部短く直立する。口唇部シャープ。 内外面回転撫で。	
21	甕 須恵器	＋22	——	①白色粒含、密。　②良好 ③暗青灰5B4/1　④頸部小片	頸部外傾、上端で屈曲後直立する。 外面5本一組の櫛歯状工具による波状文。	
22	甕 須恵器	覆土	——	①石φ7㎜含、密。　②良好 ③灰N5/	頸部外反、口縁部直立する。大形器形。 内外面回転撫で。	輪積痕残る。
23	甕 土師器	覆土	①(12.3)　②— ③—	①密　②良好　③にぶい橙2.5YR6/4　④口縁部1/4	口縁部若干外傾。肩部変換点に稜。 口縁部横撫で。肩部篦削り。小形の器形。	
24	甕 土師器	覆土	①(20.1)　②— ③—	①密　②良好　③にぶい赤褐5YR5/4　④口縁部1/4	口縁部コの字状。肩部張りをもつ。 口縁部横撫で。接合痕残る。肩部篦削り。	
25	甕 土師器	覆土	①(20.6)　②— ③—	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④口縁部1/5	口縁部強いコの字状。肩部張りをもつ。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
26	砥石	覆土	長5.2×5.8 厚1.6	器形円板状。表・裏面は研磨痕。側面は面取りか。 実用具としての可能性より、他の用途が想定されるか。		
27	刀子 鉄製品	覆土	長9.9　刃部幅1.2　厚0.3　錆化著しい。刃部先端及び茎尻を欠く。関部わずかに認む。背側平ら。			
28	刀子 鉄製品	＋5	長9.4　刃部幅1.0　厚0.2　刃部先端、茎尻を欠く。関部不明瞭。 茎幅0.8　厚0.2			
29	紡錘具 鉄製品	＋40	紡輪径5.4　厚0.3　軸部両端、紡輪端部を欠く。紡輪部薄い。 軸部径0.5　厚0.5			
30	不明 鉄製品	＋33	長4.4　幅3.0 厚1.0	平面形台形状。角は丸い。器面扁平。		
31	鍛冶 椀形滓	＋33	長8.2×11.0 厚5.0　重量400g	断面U字状に湾曲する。裏面海綿状。木炭の噛みこみあり。マグネットに若干反応。 地肌茶褐色。		

H－91号住居跡出土遺物観察表（図－125　図版－２）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 内黒土器	覆土	①－　②5.6 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④底部1/4	内面篦磨き。内黒処理。外面轆轤整形。底部回転糸切り。底部外面墨書「千万」	
2	坏 須恵器	覆土	①(13.5)　②－ ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白5Y8/1　④口縁部1/5	体部緩く湾曲、口縁部で開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。体部外面墨書「千万」	
3	埦 須恵器	覆土	①－　②6.6 ③－	①砂粒含、荒い。　②普通 ③灰白7.5Y8/1　④底部1/2弱	器肉厚い。だれた短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。見込部墨書。判読不明。	
4	埦 須恵器	覆土	①－　②6.3 ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR6/3　④底部	器肉厚い。だれた短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	埦 土師質	覆土	①－　②8.0 ③－	①砂・石含、荒い。　②酸化焔 ③にぶい橙5YR7/4	器肉厚い。高台ハの字状に外傾。大ぶりの器形。 轆轤整形。底端部に、径0.6cmの孔あく。	
6	皿 灰釉陶器	－3	①14.1　②6.8 ③2.9	①密　②良好　③素地5Y8/1 ④ほぼ完形	口唇部外反。高台は低く、稜形骸化する。 轆轤整形。腰部回転篦削り。施釉刷毛塗り。	
7	埦 灰釉陶器	貯蔵穴内	①－　②8.8 ③－	①密　②良好　③素地N8/ ④底部1/2	高台に稜をもち、三日月型。 轆轤整形。施釉刷毛目塗りか。	
8	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④肩部小片	肩部張りをもつ。内外面回転撫で。	
9	甕 土師器	覆土	——	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部1/6	器肉厚い。口縁部コの字状。頸部接合痕残す。内外面共に横撫で。	
10	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	口縁部コの字状。肩部の張りはみられない。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
11	甕 土師器	覆土	①(20.2)　②－ ③－	①砂粒含、荒い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④上半部1/4弱	口縁部だれたコの字状。胴部丸み。器肉厚い。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	

H－92号住居跡出土遺物観察表（図－126）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(12.5)　②5.7 ③3.4	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④体部5/6欠損	底部小さく、体部浅い。轆轤整形。口縁部横撫で。 底部回転糸切り。	
2	埦 須恵器	＋1	①－　②7.9 ③－	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④底部1/2強。	体部深い。高台高く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	埦 灰釉陶器	覆土	①(16.0)　②7.6 ③5.0	①密　②良好　③素地灰白5Y7/1 ④全形の1/4	体部緩く湾曲して開く。高台直立する。 轆轤整形。腰部回転篦削り。施釉刷毛塗りか。	
4	埦 灰釉陶器	－1	①－　②7.6 ③－	①密　②良好　③素地灰白5Y8/2 ④底部	高台短く外傾。稜はみられない。轆轤整形。 腰部回転篦削り。施釉刷毛塗りか。	重ね焼痕有。
5	皿 灰釉陶器	竈内	①17.5　②9.4 ③3.4	①密　②良好　③素地灰白10Y8/1 ④全形の2/3	体部ハの字状に開き、口唇若干外折する。高台稜をもつ。轆轤整形。施釉刷毛塗り。	
6	皿 灰釉陶器	竈内	①17.0　②8.5 ③3.4	①密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④体部2/3欠損	体部ハの字に開く。５より若干膨らみをもつ。 高台わずかに稜をもつ。轆轤整形。刷毛塗り。	
7	甕 須恵器	覆土	①頸部径(17.3) ②－　③－	①密　②良好　③灰5Y5/1 ④頸部1/5	肩部大きく張る。大形の器形。器肉厚い。 外面叩き後撫でか。内面当て目痕。頸部撫で。	
8	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰N5/　④頸部小片	頸部外反後、口縁部直立する。大形の器形。 内外面回転撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9	甕 須恵器	覆土	——	①石含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④頸部小片	頸部外反後、口縁部直立する。口縁内側強く凹む。 内外面回転撫で。	
10	甕 須恵器	＋6	——	①石含、密。　②良好 ③灰10Y6/1　④頸部片	頸部外反。口縁部段をなして立ち上る。口縁内側 若干凹む。頸部外面全体に波状文。	
11	硯	覆土	——	①密　②良好　③灰黄褐10YR6/2 ④小片	風字硯か。硯尻断面くの字状。 提状の高まりは認めがたい。	

H－93号住居跡出土遺物観察表（図－127・128）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	－13	①12.8　②－ ③3.9	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④ほぼ完形	底部安定した平底。体部下端で丸み。 口縁部横撫で。体部指頭痕。底部篦削り。	
2	坏 土師器	貯蔵穴内	①12.0　②6.3 ③3.8	①砂含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/2	底部平底。体部外傾して開く。口縁部横撫で。 体部篦削り。外面墨書。判読不明。	
3	坏 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④口縁部小片	器形2に似る。口縁部横撫で。体部篦削り。 体部外面墨書「千」。	
4	坏 内黒土器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR7/3　④底部小片	轆轤整形。底部回転糸切り。内面篦磨き。内黒処 理。底部外面墨書。判読不明。	
5	坏 須恵器	周溝内	①(11.6)　②6.1 ③3.6	①石含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y5/1　④全形の1/2弱	底径小さく、体部浅い。体部緩く内湾し、口唇丸 い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部外面指頭 痕。
6	坏 須恵器	＋9	①13.5　②6.0 ③4.4	①石含、荒い。　②酸化焔 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3欠損	器肉若干厚い。体部緩く湾曲、下端で括れる。 口唇シャープ。轆轤整形。口縁部横撫で。	
7	鉢 須恵器	＋9	——	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10 YR6/4　④底部1/3	器肉薄い。体部内湾して立ち上る。轆轤整形。底 部回転糸切り。	
8	埦 須恵器	覆土	①(13.5)　②6.8 ③5.6	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③灰白2.5Y8/2　④全形の1/2強	器肉厚い。体部外傾。だれた短い高台。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。体部外墨書。	
9	埦 須恵器	－18	①(14.0)　②(7.5) ③5.3	①混入物多、荒い。　②普通 ③灰白2.5Y8/2　④全形の1/4	器肉厚い。体部内湾。だれた短い高台。轆轤整形。 底部回転糸切り。	
10	皿 灰釉陶器	＋9	①－　②(6.1) ③－	①密　②良好　③素地灰白10YR 7/1　④底部1/5	高台短く内傾。施釉刷毛塗りか。	
11	羽釜	覆土	——	①密　②普通　③灰白7.5Y8/1 ④鍔部小片	鍔肉厚。断面三角形。	
12	甕 土師器	竈内	①(18.6)　②－ ③－	①密　②普通　③にぶい橙7.5 YR7/4　④口縁部1/4	口縁部コの字だが、肩部の張りは失なわれる。 器肉厚い。口縁部横撫で。	
13	甕 土師器	竈内	①(18.7)　②－ ③－	①密　②普通　③にぶい橙7.5 YR6/4　④口縁部1/6	口縁部コの字の明瞭さはなく、肩部だれる。 器肉厚い。口縁部横撫で。	
14	甕 土師器	覆土	①－　②3.7 ③－	①密　②良好　③にぶい褐7.5 YR6/3　④底部	底部小さく、細身。外面篦削り。内面篦撫で。	
15	甕 土師器	周溝内	①－　②4.0 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR6/4　④胴下半部	底部小さく、胴部緩く内湾して立ち上る。 外面篦削り。内面撫で。篦撫で。接合痕残る。	
16	礫	－11	長17.0　幅7.5 厚4.7　重量975g	長円形。使用痕。		

H－94号住居跡出土遺物観察表（図－129）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①12.6　②－ ③3.5	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/4	底部安定。体部外傾して開く。口縁部横撫で。 体部篦削り。見込部墨書「千万」。	
2	坏 須恵器	覆土	①－　②6.7 ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④底部2/3	底部平底。体部内湾して立ち上る。体部下端括れる。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	塊 須恵器	覆土	——	①密　②酸化焔　③浅黄橙10YR8/4　④底部小片	高台部剝落。轆轤整形。底部回転糸切り。 底部内外面墨書。外面「千万」。内面「寿」。	
4	塊 須恵器	覆土	①－　②6.4 ③－	①白色軽石含、ざらつく。　②良好　③灰白7.5Y8/1　④底部1/4	体部内湾して立ち上る。高台肉厚、短く外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	塊 須恵器	覆土	①－　②5.8 ③－	①砂粒含、軟質。　②酸化焔 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部2/3	だれた短い高台。轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	皿 灰釉陶器	覆土	①14.8　②7.3 ③3.0	①密　②良好　③素地灰白10YR8/1　④体部1/2欠損	高台先端丸く、短く外傾。口唇部わずかに外反。 底部回転篦削り。施釉刷毛塗り。	
7	皿 灰釉陶器	覆土	①(13.8)　②6.3 ③3.6	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④全形の1/6	高台三日月型。外稜はさほど明瞭でない。口唇部 外側へ折れる。施釉刷毛塗り。	
8	長頸壺 須恵器	覆土	頸部径(4.6)	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④肩部小片	肩部大きく張り、2本の沈線廻る。頸部内面粘土 板接合痕の痕跡あり。	
9	甕 須恵器	覆土	——	①石含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④頸部小片	頸部上端で屈曲、口縁部直立する。大形の器形。 内外面共に回転撫で。	

H－95号住居跡出土遺物観察表（図－130　図版－2）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	－2	①12.0　②－ ③3.3	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2	底部安定。体部緩く湾曲、下端に丸み。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
2	坏 須恵器	＋3	①12.1　②6.3 ③3.0	①石含　②良好　③灰5Y5/1 ④ほぼ完形	底部小さく、体部浅い。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	塊 須恵器	覆土	①－　②(7.1) ③－	①砂粒含、荒い。　②普通 ③灰白2.5Y7/1　④底部1/3	高台だれて短い。肉厚。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	甕 土師器	覆土	①(21.2)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/5	口縁部コの字状。器肉一定。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
5	甕 土師器	覆土	①(21.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部コの字状。4より口縁上半の反りは少い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
6	不明 鉄製品	覆土	長5.3　幅1.0～1.6 厚0.3	扁平な板状。片側端部L字状。もう片側端部は先細りする。		H－98に帰属か
7	砥石	壁際	長7.3　幅5.3 厚2.2	片側小口面を残す。表・裏面は研ぎ減りする。4面使用か。		

H－96号住居跡出土遺物観察表（図－131・132　図版－2・3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①12.2　②－ ③3.3	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④体部3/4欠損	底部～体部緩く内湾。口縁部変換点にわずかに稜。 口唇内傾する。口縁部横撫で。体～底部篦削り。	内面ヘラ記号 𠆢
2	坏 土師器	覆土	①12.8　②－ ③3.4	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3	底部安定。体部内湾し、口縁部直立する。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	坏 土師器	＋24	①11.9　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3	体部緩く内湾、口縁部若干外傾。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
4	坏 土師器	周溝内	①11.7　②－ ③3.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/4	体部緩く内湾。底部安定し、体部への変換点明瞭。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
5	蓋 須恵器	周溝内	①(13.0)　②－ ③－	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④全形の2/5	小形の器形か。天井～体部外傾し、口縁部屈曲後短く直立。轆轤整形。天井部回転篦削り。	
6	蓋 須恵器	覆土	①(16.0)　②－ ③－	①密　②普通　③灰白2.5Y7/1 ④全形の1/5	天井～体部緩く外傾、口縁短く外折する。 轆轤整形。天井部回転篦削り。	内面に重ね焼痕。
7	蓋 須恵器	覆土	①13.6　②摘径3.2 ③3.3	①石含、ざらつく。　②良好 ③褐灰10YR5/1　④全形の3/4	天井部～体部緩く外傾。口縁部直立気味に外傾。 轆轤整形。天井部回転篦削り。環状摘。	5とセットとみられる。
8	坏 須恵器	壁際	①11.9　②7.0 ③3.9	①密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④口縁部3/4欠損	体部下半膨らみ、口縁で外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切り。	
9	坏 須恵器	周溝内	①12.1　②7.4 ③3.5	①密　②良好　③灰N6/ ④ほぼ完形	体部若干の膨らみをもって外傾。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転篦切り。	
10	坏 須恵器	周溝内	①(12.1)　②7.1 ③3.5	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④全形の1/2弱	底径大きく、体部浅い。体部直線的に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切り。	
11	坏 須恵器	覆土	①(12.5)　②7.5 ③3.6	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④全形の1/2	体部直線的に外傾。口縁内側膨らむ。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転篦切り。外周回転篦削り。	
12	坏 須恵器	周溝内	①13.5　②7.6 ③3.9	①密　②良好　③浅黄5Y7/3 ④全形の1/2	底部やや大きく。体部外傾して立ち上る。轆轤整形。底部回転篦切り。	
13	坏 須恵器	＋24	①(12.8)　②7.5 ③4.2	①緻密　②良好　③灰白10YR7/1 ④体部4/5欠損	体部直線的に外傾。12に似る。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
14	坏 須恵器	周溝内	①(12.4)　②(6.8) ③3.9	①密　②良好　③灰N6/ ④全形の約1/4	底部若干小さい。体部直線的に外傾。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
15	坏 須恵器	周溝内	①(11.9)　②(7.4) ③4.3	①密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④全形の1/4弱	体部やや深く、直立気味に立ち上る。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
16	坏 須恵器	覆土	①(12.1)　②(6.4) ③4.0	①石含、密。　②良好 ③灰7.5Y6/1　④全形の1/5	体部膨らむ。口縁部で緩く外傾。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
17	坏 須恵器	周溝内	①12.0　②6.8 ③3.6	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④全形の1/2	体部膨らみ、緩く内湾する。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
18	坏 須恵器	覆土	①(11.9)　②7.0 ③2.9	①密　②良好　③灰白7.5Y7/2 ④全形の1/2弱	底部大きく、体部浅い。口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
19	皿 須恵器	周溝内	①14.1　②8.0 ③2.7	①密　②良好　③灰10Y6/1 ④体部3/4欠損	体部ハの字状に強く外傾、口縁部水平となる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
20	瓶 灰釉陶器	周溝内	——	①密　②良好　③素地灰白5Y7/2 ④底部小片	断面台形状の高台。見込・高台側面にぶい淡緑色の釉薬。	
21	甕 土師器	壁際	①(19.4)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部	口縁部コの字状。肩部丸い。口縁部横撫で。肩部篦削り。内面篦撫で。	
22	甕 須恵器	床面	頸部径15.8	①緻密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④上半部1/4	頸部直立。肩部大きく張り丸い。外面平行叩き目後篦撫でつけ。内面指撫で後、篦撫で。	頸部内側当て目。
23	甕 須恵器	＋18	——	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④肩部小片	外面平行叩き目。刻み目浅い。内面当て目後、撫で。頸部接合痕あり。	H－62—20
24	紡錘車 石製品	周溝内	上径2.6　下径3.9 厚1.4　孔径0.7	器面平滑。側面面取り後、擦痕状の加工痕顕著。下径面も同様擦痕を認む。 穿孔丁寧につくられる。		

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
25	丸鞆 銅製	－4	長径3.9　短径2.3 厚0.7	内側3個所に鋲をもつ。透しはやや台形状。側面若干外傾する。		
26	鎌 鉄製品	周溝内	現存長9.3　幅2.6 厚0.2	切先先端を欠損。身部は緩く湾曲。背側平ら。錆化している。		

H－97号住居跡出土遺物観察表（図－133　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①13.7　②8.3 ③4.1	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部3/5欠損	底径大きい。体部外傾し、口縁部直立気味となる。轆轤整形。口縁部横撫で。底部切り離し不明。	
2	坏 須恵器	覆土	①12.7　②7.2 ③3.3	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④口縁部1/2欠損	底径大きい。体部直線的に外傾、口縁部に至る。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	覆土	①12.5　②6.0 ③3.7	①小石含、密。　②良好 ③にぶい褐7.5YR5/3　④口唇1/4欠	底径小さい。体部若干膨らみ、口縁部膨らむ。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	覆土	①12.4　②5.5 ③3.8	①小石含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④体部3/4欠損	底径小さい。体部弱く膨らむ。口縁部やや外反気味。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	甕 土師器	竈	①(17.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/5	口縁部コの字状だが、区画はさほど明瞭でない。肩部若干張る。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
6	甕 土師器	周溝内	①20.0　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部	口縁部コの字状。口唇の外反はさほど強くない。肩の張りは弱い。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
7	甕 土師器	覆土	①(22.4)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/2	器形6に似る。口唇部丸い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面撫で。	

H－98号住居跡出土遺物観察表（図－134）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.1)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の2/5	体部緩く内湾。口縁部で括れ、唇部直立気味。稜は形骸化。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	①(13.1)　②－ ③3.1	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部3/5欠損	底部～体部緩く内湾、口縁で外傾する。口縁部横撫で。体下半～底部篦削り。内面撫で。	
3	坏 土師器	覆土	①12.0　②－ ③3.4	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部若干欠損	底部～体部への変換点屈曲する。口縁部外傾。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。内面撫で。	
4	坏 土師器	覆土	①(12.3)　②－ ③3.2	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部3/5欠損	底部安定。体部～口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。内面撫で。	
5	坏 須恵器	覆土	①(12.7)　②6.8 ③3.9	①石含、密。　②良好　③灰黄2.5Y7/2　④全形の1/4	器肉厚い。体部下端括れる。緩く外傾して立ち上る。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	坏 須恵器	覆土	①－　②－ ③(6.5)	①石含、密。　②良好　③灰白2.5Y7/1強　④下半部1/4強	体部下半丸く膨らむ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	蓋 須恵器	覆土	摘径3.4　高1.0	①密　②良好　③灰黄2.5Y6/2 ④摘	環状の摘。	
8	台付甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④台部1/2	下半部刷毛目状の撫で。外面上端部指頭若干残る。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9	甕 土師器	覆土	①－　②－ ③4.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④胴下半部	底部小さく、胴部下半細身。器肉薄い。 外面箆削り。内面撫で。	
10	甕 須恵器	＋18	①(19.6)　②－ ③－	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④口縁部1/4弱	肩部強く張る。頸部上傾後、唇部で屈曲する。頸部～肩部回転撫で。下半平行叩き目。同内当て目。	肩部沈線巡る。

H－99号住居跡出土遺物観察表（図－136）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	＋35	①(12.2)　②－ ③3.2	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の約1/2	底部平底気味。体部外傾して開く。口縁部横撫で。体部撫で。底部箆削り。内面撫で。	
2	坏 土師器	＋30	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	底部平底気味。体部外傾して開く。口縁部横撫で。体部撫で。底部箆削り。	
3	坏 須恵器	＋30	——	①密　②良好　③褐灰10YR4/1 ④小片	高台付く可能性あり。体部外傾、口唇部外反。轆轤整形。口縁部横撫で。	
4	小形坏 土師質	＋35	①(10.2)　②6.3 ③2.8	①砂粒含、荒い。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部5/6欠損	小さい器形。体部下端括れる。中位膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②5.7 ③2.5	①砂粒含、荒い。　②良好 ③淡黄2.5Y8/3　④体部3/4欠損	小さい器形。4に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	＋35	①8.9　②6.2 ③2.2	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③橙2.5YR7/6　④ほぼ完形	底部やや出尻。体部外傾して開く。 轆轤整形。底部回転箆切り後、再調整。	
7	小形坏 土師質	＋31	①8.4　②6.1 ③1.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口唇部1/2欠損	底部出尻。体部浅く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転箆切り。	
8	小形坏 土師質	＋9	①9.0　②6.6 ③2.1	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/4強	底部出尻。体部緩く湾曲、口縁で開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転箆切り後、撫で。	
9	小形皿 土師質	＋31	①8.1　②5.5 ③2.6	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口唇部1/4欠損	体部・高台共に外傾し、端部で直立する。轆轤整形。	
10	小形皿 土師質	＋31	①(9.4)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部1/4	器形9に似る。轆轤整形。	
11	皿 須恵器	覆土	①12.8　②－ ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④体部1/5	体部ハの字状に外傾、唇部水平となる。高台貼付痕あり。轆轤整形。口縁部横撫で。	
12	小形埦 土師質	＋31	①8.8　②5.8 ③3.7	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口唇部1/4欠損	体部丸く膨らみ、高台外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。	
13	小形埦 土師質	＋31	①－　②－ ③5.7	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④高台部2/3	高台部わずかに外傾。轆轤整形。	
14	埦 土師質	＋22	①－　②－ ③6.4	①石含、密。　②良好　③橙2.5YR6/6　④高台部	高台部ハの字状に外傾。轆轤整形。	
15	埦 土師質	＋31	①－　②－ ③6.2	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④高台部	高台部ハの字状に外傾。轆轤整形。	
16	埦 土師質	＋22	①－　②－ ③6.2	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④底部	厚くぼってりした高台。轆轤整形。	

H－100号住居跡出土遺物観察表（図－137・138　図版－３）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋5	①9.5　②6.0 ③2.1	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④完形	器肉厚い。体部浅く、緩く外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	位置不明	①8.8　②4.7 ③2.5	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④ほぼ完形	底径小さい。体部中位膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	＋6	①9.8　②5.6 ③2.2	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④完形	体部緩く外傾して開く。腰部丸み。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	塊 土師質	竈内	①－　②－ ③(7.2)	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	腰部丸く膨らむ。だれた短い高台。 轆轤整形。	
5	坏 土師質	覆土	①(15.6)　②7.6 ③3.9	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4	体部下半丸み、外傾して開く。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	覆土	①(15.8)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の1/4	体部下端括れ、直線的に外傾する。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	覆土	①(14.0)　②－ ③－	①石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3	体部下半膨らみ、口縁部で外反する。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	坏 土師質	覆土	①(12.5)　②6.6 ③3.8	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部3/4欠損	体部下端括れ、中位で膨らむ。底径やや小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
9	坏 須恵器	位置不明	①12.1　②7.0 ③3.2	①密　②良好　③浅黄2.5Y7/4 ④完形	体部浅い。緩く内湾して立ち上る。口唇部吸炭。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	羽釜	竈内	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/6	鍔断面台形。上向きに張り出す。口縁短く直立。 唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。	鍔部２個所並列して穿孔
11	羽釜	竈内	①(22.1)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部1/6	器肉厚い。鍔張り出し小さい。口縁短く内傾。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面紐接合痕顕著。	外煮こぼれ付着。
12	甑 羽釜形	竈内	①－　②－ ③23.6	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④脚部1/6	羽釜型甑の脚部。下半で強く外反、唇部直立する。 内・外面回転撫で。	

H－101号住居跡出土遺物観察表（図－140）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(11.3)　②－ ③2.8	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4強	体部浅い。緩く内湾して立ち上る。口縁部横撫で。 体部撫で。底部篦削り。底部外面墨書。	判読不明。
2	坏 土師質	位置不明	①11.8　②6.6 ③3.8	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の1/2	体部中位で稜。口縁部緩く外反する。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 土師質	覆土	①(13.6)　②5.6 ③3.8	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部1/3欠損	底部突出気味。体部緩く湾曲。轆轤整形。口縁部 横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 土師質	＋18	①13.5　②7.1 ③3.0	①砂粒含、粗い。　②普通　③橙 7.5YR7/6　④口縁部若干欠損	底部大きく、体部浅い。体部中位膨らむ。轆轤整 形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。肉厚。	
5	羽釜	覆土	①－　②－ ③6.6	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	底部平底。器肉厚い。外面篦削り。内面回転撫で か。	

H－102・103・104号住居跡出土遺物観察表（図－143　図版－３）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H102	坏 土師器	P_1内	①(13.3)　②6.2 ③4.0	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部7/8欠損	底部平底。体部外傾して開く。口縁部横撫で。体 部下半～底部篦削り。	

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
2 H102	埦 内黒土器	＋5	①14.4 ②6.7 ③5.3	①石含、密。 ②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4 ④ほぼ完形	器肉厚い。体部緩く湾曲、ハの字に外傾する高台。口縁部横撫で。体部篦削り。撫で。内面篦磨き。	体部外面墨書「東」
3 H102	埦 須恵器	覆土	①14.1 ②7.1 ③5.5	①密 ②良好 ③灰白5Y8/1 ④体部1/2欠損	体部下端若干膨らむ。体部直線的に外傾。口縁部外反。だれた高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	
4 H102	甕 土師器	竈内	①(19.3) ② — ③ —	①密 ②良好 ③橙5YR7/6 ④口縁部1/3弱	器肉やや厚い。口縁部コの字だが、明瞭さは失なわれている。口縁部横撫で。肩部篦削り。	内面篦撫で
5 H102	甕 土師器	竈付近	①19.7 ② — ③ —	①密 ②良好 ③橙7.5YR7/6 ④口縁部	器肉厚い。口縁部上半で外反する。肩部丸い。口縁部横撫で。肩部篦削り。内面篦撫で。	
6 H102	甕 土師器	竈内	①(19.0) ② — ③ —	①密 ②良好 ③橙7.5YR7/6 ④上半部1/4	器肉厚い。口縁部上半で外反。肩部丸い。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	
7 H102	甕 土師器	竈付近	——	①密 ②良好 ③橙7.5YR6/6 ④胴部1/2	器肉やや厚い。外面篦削り。内面撫で。	
1 H103	小形坏 土師質	覆土	①(9.5) ②(4.5) ③2.7	①密 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/6	体部ハの字状に外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H103	小形坏 土師質	覆土	①(9.8) ②6.1 ③2.8	①密 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/4	底径やや大きく、体部浅い。体部緩外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H103	小形坏 土師質	竈付近	①8.8 ②4.3 ③1.8	①密 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④全形の1/2	体部浅く、底部小さい。体部ハの字状に外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H103	小形坏 土師質	竈内	①10.0 ②5.4 ③3.0	①密 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④完形	器肉厚い。つくり雑。底部出尻気味。轆轤整形。底部回転糸切り。	
5 H103	小形坏 土師質	＋22	①(9.7) ②5.9 ③2.4	①密 ②良好 ③にぶい橙5YR7/4 ④全形の1/4強	体部外反気味に立ち上る。轆轤整形。底部回転糸切り。	
6 H103	坏 土師質	覆土	①(13.5) ②7.4 ③3.9	①密 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/5	体部直線的に外傾して立ち上る。底部平底。轆轤整形。底部回転糸切り。	
7 H103	坏 土師質	覆土	① — ② — ③(6.9)	①密。 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④底部1/4弱	器肉厚い。轆轤整形。底部回転糸切り。	
8 H103	坏 土師質	竈付近	①(14.3) ②6.9 ③4.1	①密 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④体部3/4欠損	器肉厚い。体部緩く湾曲、底部若干突出する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9 H103	埦 須恵器	覆土	①(14.8) ②5.9 ③5.4	①密 ②良好 ③灰白5Y7/2 ④体部1/5欠損	体部直線的に外傾、口縁部外反。だれた短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10 H103	台付甕 土師器	竈内	① — ② — ③9.0	①密 ②良好 ③明赤褐2.5YR5/8 ④台部	台部緩く外反、端部で丸まる。内・外面撫で。	
11 H103	甕 土師器	覆土	①(23.2) ② — ③ —	①白色軽石含、密。 ②良好 ③にぶい橙5YR7/4 ④上半部1/2	胴部下半直線的、上半で若干膨らむ。口縁部短く外反。肉厚。口縁指頭調整。胴部刷毛目状撫で。	
12 H103	甕 土師器	竈内	①(23.2) ② — ③ —	①砂粒含、密。 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/3 ④全形の1/5	肩部若干丸く、口縁部短く外傾。口縁部撫で。胴部刷毛目状撫で。	
1 H104	小形坏 土師質	覆土	①9.7 ②5.5 ③1.8	①白色軽石含、密 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④体部3/5欠損	体部浅く、ハの字状に外傾して開く。底部～体部への変換点丸い。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H104	小形坏 土師質	覆土	①(9.5) ②(6.0) ③2.0	①密 ②良好 ③橙5YR7/6 ④全形の1/4強	体部ハの字状に外傾して開く。底部～体部への変換明瞭。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H104	小形坏 土師質	＋2	①9.4 ②6.4 ③2.3	①密 ②良好 ③淡橙5YR8/3 ④全形の1/2強	器形2に似る。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H104	坏 土師器	竈内	①15.3 ②7.3 ③4.9	①密 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④ほぼ完形	体部下端わずかに括れる。体部緩く湾曲。肉厚。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5 H104	埦 土師質	床面	①－　②－ ③(8.3)	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④底部	高台端部を欠く。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6 H104	埦 土師質	覆土	①－　②－ ③(7.7)	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④底部	高台ハの字状に外傾、端部平坦。 轆轤整形。底部再調整。	
7 H104	甕 土師器	竈内	①(12.8)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/4	小形の器形。器肉厚い。輪積痕顕著。 口縁～肩部横撫で。胴部篦削り。	
8 H104	瓶 灰釉陶器	竈内	——	①密　②良好　③素地2.5Y8/2 ④底部小片	断面台形状の短い高台。外面回転篦削り。 内面回転撫で。外面釉流れする。	

H－105号住居跡出土遺物観察表（図－144）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形埦 土師質	－1	①(10.0)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④口縁部小片	体部下半丸く、口縁で直立する。高台をもつか。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
2	埦 灰釉陶器	－1	①15.2　②8.2 ③6.9	①密　②良好　③素地灰白5Y8/2 ④体部3/3欠損	体部深く、口縁部直立する。口縁部内側沈線廻る。 轆轤整形。腰部回転篦削り。施釉漬けがけ。	

H－106号住居跡出土遺物観察表（図－145）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①11.2　②－ ③3.2	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の1/3	底部～体部緩く内湾、口縁部で直立する。口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
2	坏 土師器	覆土	①(13.0)　②－ ③3.6	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3弱	底部～体部緩く内湾、口縁外傾する。唇部丸まる。 口縁部横撫で。体部撫で。底部回転篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	①12.4　②－ ③3.7	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2	底部安定。体部緩く外傾して立ち上る。唇部丸まる。口縁部横撫で。体部指頭痕。底部篦削り。	
4	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④小片	底部平底気味。体部内湾し、口縁部で括れる。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
5	坏 土師器	覆土	①(13.0)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/6	体部外傾して立ち上る。底部安定する。 口縁部横撫で。体部指頭痕。底部篦削り。	
6	小形坏 土師質	＋2	①10.0　②5.8 ③2.1	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	体部緩く外傾して立ち上る。H－100に帰属か。轆轤整形。底部回転糸切り。	H－100－1
7	坏 須恵器	覆土	①(12.3)　②6.3 ③3.2	①密　②良好　③灰N6/ ④体部3/4欠損	体部若干膨らむが、外傾して開く。底部上げ底。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

H－107号住居跡出土遺物観察表（図－146・147）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①9.5　②4.5 ③2.8	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	底部小さい。体部ハの字状に外傾する。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	竈内	①9.4　②5.1 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④完形	底部やや大きい。体部ハの字状に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	住居外	①9.8　②4.7 ③2.2	①密　②良好　③灰白10YR8/2 ④口唇部若干欠損	底部小さい。体部ハの字状に外傾、口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	－48	①(8.7)　②4.7 ③2.5	①砂粒含、密。　②灰白10YR8/2 ④全形の2/3	体部中位に稜をもつ。口縁部緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5	小形坏 土師質	床面	①9.6　②4.9 ③2.6	①密　②良好　③灰白10YR$\frac{8}{2}$ ④ほぼ完形	体部中位に稜をもつ。口縁部緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	竈内	①(9.5)　②－ ③2.4	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR$\frac{8}{3}$　④全形の$\frac{1}{4}$	底部大きいか。体部中位に弱い稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	覆土	①(10.3)　②－ ③－	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR$\frac{8}{3}$　④全形の$\frac{2}{3}$	体部緩く内湾、口縁部変換点で張りをもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	坏 土師質	－42	①(13.6)　②6.5 ③4.0	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR$\frac{8}{3}$　④全形の$\frac{1}{3}$弱	器肉厚い。体部緩く湾曲、中位で膨らむ。口縁若干外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	坏 土師質	－3	①13.7　②5.5 ③3.7	①密　②良好　③橙7.5YR$\frac{7}{6}$ ④口縁部$\frac{1}{3}$欠	体部緩く湾曲、口縁部で外反する。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。体部下端篦削り。	
10	埦 内黒土器	住居外	①(15.4)　②7.3 ③5.5	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR$\frac{7}{6}$　④体部$\frac{2}{3}$欠損	体部丸み強い。高台短く外傾。轆轤整形。口縁部横撫で。内面篦磨き。底部回転糸切り。	
11	埦 内黒土器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい褐7.5YR$\frac{6}{3}$　④底部片	内面篦磨き後、内黒処理。	
12	埦 土師質	覆土	①－　②8.0 ③－	①密　②良好　③橙7.5YR$\frac{7}{6}$ ④下半部	高台高く、ハの字状に外傾する。器肉厚い。 轆轤整形。底部再調整。	
13	壺 研磨土器	覆土	①－　②5.8 ③－	①密　②良好　③底部$\frac{1}{3}$　④—	底部平底。胴部緩く内湾。底部～胴部外面篦磨き。内面撫で。黒色処理。	
14	甕 土師器	竈内	——	①密　②良好　③淡橙5YR$\frac{8}{3}$ ④口縁部小片	口縁部強く外反し、唇部短く直立。口縁部強い横撫で。胴部篦削り。	
15	羽釜	竈内	①(22.8)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR$\frac{7}{4}$　④口縁部$\frac{1}{5}$	鍔器肉薄く、水平に張り出す。口縁部長く、唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
16	甕 土師器	竈内	——	①密　②良好　③橙5YR$\frac{6}{6}$ ④胴部$\frac{1}{6}$	器肉やや厚い。内湾して立ち上る。上端強い沈線状の凹み。外面篦削り。内面撫で。	
17	瓶 灰釉陶器	＋1	①－　②14.8 ③－	①密　②良好　③素地灰白5Y$\frac{7}{1}$ ④下半部$\frac{1}{2}$弱	断面三角形の短い高台。大形の器形。外面回転篦削り。内面回転撫で。底部撫で。	
18	鏃 鉄製品	覆土	現存長9.9　鏃身長8.4　　篦被下に関をもつ。広根式。 茎現長1.1　厚0.2			
19	留め金具 鉄製品	覆土	全長2.2　幅0.5　　長楕円形で、身部平坦。中央に孔穿つ。刀装具に伴うものか。 孔径1.4			

H－108号住居跡出土遺物観察表（図－148　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	－7	①12.4　②－ ③3.3	①密　②良好　③橙5YR$\frac{7}{8}$ ④ほぼ完形	体部浅く、口径やや大きい。体部内湾、口縁部直立する。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
2	小形埦 土師質	＋4	①10.8　②6.1 ③5.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR$\frac{8}{4}$ ④口唇部$\frac{1}{2}$欠損	小形の器形。体部丸み強い。高台端部平坦。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
3	埦 須恵器	－7	①14.2　②6.5 ③5.2	①密　②良好　③灰黄2.5Y$\frac{6}{2}$ ④口縁部$\frac{1}{2}$欠損	器肉薄い。体部緩く内湾。高台短く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	埦 須恵器	－3	①13.7　②6.8 ③5.1	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR$\frac{7}{3}$　④体部$\frac{1}{2}$欠損	体部若干膨らむが、直線的に外傾。だれた短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

H－109号住居跡出土遺物観察表（図－149　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①9.7　②4.9 ③3.0	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④ほぼ完形	体部中位で膨らむ。口縁部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋2	①10.1　②5.5 ③2.9	①密　②良好　③浅黄2.5Y8/3 ④ほぼ完形	器形1に似る。底径1よりやや大きい。口唇肉厚。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①9.5　②4.9 ③2.7	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④体部1/4欠損	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①9.7　②6.3 ③2.6	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/3欠損	体部緩く内湾。底部片側突出する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	坏 土師質	覆土	①13.5　②6.8 ③4.2	①白色軽石含、密。②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/3欠損	体部中位膨らみ、口縁部若干外反。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	竈内	①15.0　②6.1 ③5.4	①小石含、やや粗い。②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇部3/4欠	体部中位で膨らみ、下端括れる。口唇部わずかに外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	埦 土師質	－2	①11.7　②6.3 ③4.8	①砂粒含、密。②良好　③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3欠損	体部丸く、高台短く外傾。器肉厚い。 轆轤整形。底部再調整。	
8	埦 土師質	竈内	①(12.8)　②－ ③－	①砂粒含、密。②還元焔 ③灰黄褐10YR6/2　④全形の1/4	器肉厚い。体部丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
9	埦 土師質	竈内	①(13.4)　②8.2 ③5.5	①砂粒含、密。②良好　③にぶい橙5YR7/4　④体部3/4欠損	体部下半若干膨らみ、口縁部外傾して開く。 高台外反。轆轤整形。口縁部横撫で。	
10	埦 土師質	－2	①(13.7)　②－ ③－	①砂粒含、密。②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3	体部大きくハの字に開く。腰部張る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
11	埦 須恵器	＋2	①12.4　②7.6 ③4.2	①密　②良好　③灰黄2.5Y6/2 ④ほぼ完形	体部浅く、若干外傾して開く。腰部屈曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	埦 土師質	覆土	①(14.1)　②－ ③－	①砂粒含、粗い。②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/6	体部下半丸み、口縁部で外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	埦 土師質	＋2	①(14.6)　②7.6 ③6.4	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④体部3/4欠損	体部下半丸み。口縁部で緩く外反。高い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
14	埦 土師質	覆土	①(14.7)　②9.1 ③6.5	①密　②良好　③にぶい橙5YR 6/4　④体部2/3	体部下半丸く張る。外反する高い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
15	埦 内黒土器	住居外	①－　②8.1 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④体部上半欠損	体部丸く、高台外傾して開く。轆轤整形。 内面篦磨き後、内黒処理。底部回転糸切り。	
16	埦 灰釉陶器	覆土	①11.8　②6.4 ③3.8	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2 ④ほぼ完形	やや小形。体部緩く内湾。厚くぼってりした高台。 轆轤整形。底部回転糸切り、高台貼付後再調整。	

H－110号住居跡出土遺物観察表（図－150）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①10.4　②5.5 ③3.3	①砂粒含、密。②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④口唇部1/4欠損	体部緩く内湾して立ち上る。体部下半括れる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	口唇漆付着
2	埦 土師質	覆土	①－　②6.6 ③－	①砂粒含、密。②還元焔 ③灰黄2.5Y7/2　④底部	高台部短く外反する。貼付比較的丁寧。 轆轤整形。	
3	埦 内黒土器	覆土	①－　②6.5 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④底部	体部扁球形に丸い。短く直立気味の高台。 轆轤整形。内面篦磨き後、内黒。磨き螺旋状。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4	托か 土師質	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④口縁部	口縁部大きくハの字状に外傾する。内・外面墨書。 判読不明。轆轤整形。	
5	甕 土師器	覆土	①(20.7)　②— ③—	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/3　④口縁部小片	器肉厚い。口縁部緩く外反。肩部さほど張らない。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面撫で。	

H－111号住居跡出土遺物観察表（図－151　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋1	①7.4　②4.4 ③2.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④完形	小さい器形。体部浅く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①8.8　②5.6 ③1.9	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④全形の1/2	底部突出。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①8.8　②5.0 ③2.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部2/4欠損	底部平底。体部シャープに外傾。内面立ち上り直線的。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①9.2　②5.4 ③2.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④口縁部若干欠損	器形3に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①9.1　②5.2 ③2.3	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④体部1/3欠損	器形3に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②6.0 ③2.7	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④全形の1/2	やや中形の器形。底部平底。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	覆土	①(14.0)　②7.5 ③4.0	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④全形の3/5	底部平底。体部ハの字状に外傾。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り、未調整。	
8	坏 土師質	＋1	①12.5　②7.2 ③3.2	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部1/3欠損	底部平底。体部シャープに外傾して立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。内面調整工具使用。	
9	坏 土師質	＋6	①14.0　②6.4 ③3.8	①小石含、やや粗い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	底部平底。体部緩く湾曲、口縁部で外反。器肉厚い。轆轤整形。底部回転糸切り。	
10	小形皿 土師質	覆土	①9.9　②4.9 ③3.2	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/3　④体部2/3欠損	短い高台をもつ。体部強くハの字状に外傾。 轆轤整形。底部高台貼付後、再調整。	
11	埦 土師質	覆土	①—　②(7.0) ③—	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④底部1/2	高台短く、ハの字状に外傾。器肉厚い。 轆轤整形。底部再調整か。	
12	埦 土師質	覆土	①16.1　②9.0 ③6.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部1/2欠損	高台高い。体部ハの字状に外傾して開く。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	高台貼付痕顕著。
13	埦 土師質	＋18	①(16.0)　②9.4 ③6.1	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④全形の3/5	高台高く、体部共にハの字状に外傾して開く。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
14	埦 土師質	－6	①15.9　②9.8 ③6.4	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部1/3欠損	高台高く、体部共にハの字状に外傾して開く。 器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。	底部再調整
15	埦 土師質	＋18	①(14.8)　②10.3 ③5.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部3/3・高台1/5	底径やや大きく、体部浅い。体部、高台共にハの字状。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
16	鎌 鉄製品	＋13	推定長21.8 幅3.5　厚0.2	柄装着部L字状に折れ曲がる。刃部先端で弓なりに湾曲 先端に移行するに従い幅広となる。		

H－112号住居跡出土遺物観察表（図－152）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	覆土	①－　②(6.7) ③－	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④底部1/3	器肉厚い。上げ底。体部外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	坏 土師質	覆土	①－　②6.8 ③－	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④底部1/2	体部緩く内湾、下端で括れるか。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	坏 土師質	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④底部小片	体部ハの字状に外傾か。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 土師質	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5 YR 7/4　④底部	轆轤整形。底部高台貼付後、再調整。	
5	埦 内黒土器	覆土	①－　②8.3 ③－	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④底部	高台細く、外傾して開く。底径大きい。 轆轤整形。底部再調整。内面篦磨き後、内黒処理。	

H－113号住居跡出土遺物観察表（図－153）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(13.9)　②－ ③－	①密　②良好　③灰5 Y6/1 ④口縁部1/6	体部下端若干膨らみ、直線的に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
2	坏 須恵器	覆土	①－　②(7.2) ③－	①密　②良好　③褐灰10YR6/1 ④底部1/3	底部～体部への変換点丸く、不明瞭。 轆轤整形。底部回転篦削りか。	
3	坏 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰5 Y5/1 ④底部小片	底部大きい。平底。 轆轤整形。底部回転篦切りか。	

H－114号住居跡出土遺物観察表（図－154　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	——	①12.5　②－ ③3.4	①密　②良好　③橙5 YR6/6 ④体部1/4強欠損	体部浅い。底部～体部緩く内湾、口縁部で外傾する。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	指頭痕一部残る。
2	坏 土師器	＋9	①11.6　②－ ③3.0	①密　②良好　③明赤褐2.5YR 4/6　④体部1/4欠損	底部安定。体部浅く、底端部より外傾気味に立ち上る。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
3	坏 土師器	－1	①12.3　②－ ③2.9	①密　②良好　③橙5 YR6/6 ④ほぼ完形	器形2に同じ。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
4	坏 土師器	——	①12.3　②－ ③3.2	①密　②良好　③明赤褐5 YR5/8 ④ほぼ完形	器形2に同じ。体部若干深い。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	指頭痕残る。
5	甕 土師器	－1	①(21.3)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	肩部丸い。口縁部上端で外反。器肉薄い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面撫で。	
6	甕 土師器	－1	①(18.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5 YR6/6 ④上半部1/3	口縁部コの字状。さほど強い区画ではない。肩部膨らみ、胴下半細身。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
7	甕 土師器	－1	①(20.1)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5 YR 6/4　④上半部1/2	口縁部コの字状。上端の反り強い。口縁部横撫で。指頭痕残る。胴部篦削り。	
8	甕 土師器	－1	①(23.3)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5 YR6/6 ④上半部1/2	口縁部コの字状だが、さほど強い区画ではない。 口縁部横撫で。指頭痕残る。胴部篦削り。	

H－115号住居跡出土遺物観察表（図－155）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	蓋？ 須恵器	＋5	——	①密　②良好　③にぶい褐7.5YR7/4　④上半部	器肉厚い。天井部ボタン状の摘。轆轤整形。天井部内外面墨書。記号か。	
2	坏 須恵器	覆土	①(11.9)　②(7.2) ③3.5	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y8/1	腰部丸く、体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切り。	
3	坏 須恵器	覆土	①(14.3)　②8.6 ③ —	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④全形の1/4	体部下半で若干膨らみ、上半で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦削り。	
4	坏 須恵器	覆土	①—　②5.2 ③ —	①緻密　②良好　③灰白10YR7/1 ④底部	底部小さい。下端で弱く括れる。 轆轤整形。底部回転篦削り	
5	甕 土師器	竈内	——	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部緩く外反。 口縁部横撫で。指頭痕残る。肩部篦削り。	

H－116号住居跡出土遺物観察表（図－156　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	——	①13.6　②9.0 ③3.1	①黒色粒含、密。　②良好 ③灰白5Y7/1　④口縁部1/3欠損	底部大きく、体部浅い。体部直線的に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切り。	

H－117号住居跡出土遺物観察表（図－157）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	＋23	①(12.4)　②— ③ —	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④上半部2/5	体部丸く内湾、口縁部でやや直立気味。 口縁部横撫で。体部撫で。体部下半～底部篦削り。	
2	坏 土師器	＋23	①(12.3)　②— ③4.0	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④体部1/3欠損	体部内湾、口縁部で短く直立する。口縁部横撫で。 体部～底部篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	①(13.9)　②— ③ —	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/4強	体部深い。丸く内湾、口縁部で直立気味。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
4	坏 土師器	＋24	①(12.9)　②— ③3.5	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/2強	体部やや浅い。緩く内湾し、口縁部で直立する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
5	坏 土師器	＋37	①(13.3)　②— ③3.2	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の約1/3	体部浅く、口径大きい。体部緩く内湾、口縁部で直立する。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
6	坏 土師器	＋21	①(16.1)　②— ③ —	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④全形の1/2弱	体部緩く内湾し、口縁部で開く。体部浅い。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
7	坏 土師器	＋21	①15.1　②— ③2.4	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部2/5欠損	体部緩く湾曲、口縁部で大きく開く。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
8	小形壺 須恵器	＋21	最大径(10.0)	①密　②良好　③灰黄褐10YR6/2 ④上半部1/4	頸部直立気味。肩部丸く、最大径を有する。 轆轤整形。肩部2条の沈線廻る。	
9	甕 土師器	＋23	①(12.0)　②— ③ —	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部1/2強	口縁部短く外傾。肩部稜をもつ。 口縁部横撫で。肩部篦削り。内面煤付着。	
10	甕 土師器	＋21	①(20.1)　②— ③ —	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部1/6	口縁部外反。肩部なだらか。器肉一定。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
11	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/5	口縁部外反。肩部張りをもつ。器肉一定。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

H－118・119号住居跡出土遺物観察表（図－159）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1 H118	蓋 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④天井部1/4弱	小振りの器形。天井上端で平坦面をなした後、緩く外傾。轆轤整形。	重ね焼痕。摘接合痕。
2 H118	埦 須恵器	覆土	①－　②7.5 ③－	①白色針状鉱物含。　②良好 ③灰5Y6/1　④底部	体部下半膨らみ、高台短く外傾。器肉薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
1 H119	坏 土師器	覆土	①(11.2)　②－ ③3.0	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/5	底部平底。体部浅く、外傾して開く。口縁部横撫で。体部撫で。指頭痕残る。底部篦削り。	
2 H119	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/5	器形1に似る。体部若干膨らむ。口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
3 H119	坏 須恵器	——	①－　②6.2 ③－	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④底部1/2	底部上げ底。体部下端若干膨らむ。器肉一定。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H119	甕 土師器	——	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。器肉薄い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

H－121号住居跡出土遺物観察表（図－160・161　図版－3）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1	小形坏 土師質	＋12	①10.2　②4.9 ③3.0	①石含、粗い。　②普通　③浅黄橙7.5YR8/4　④体部5/5欠損	体部中位膨らみ、下端括れる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋30	①9.5　②4.4 ③2.3	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④ほぼ完形	底部若干上げ底。体部中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	W－13内	①9.8　②4.6 ③2.1	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部5/5欠損	底部上げ底。体部下端括れ、緩く外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形埦 内黒土器	覆土	①9.0　②5.3 ③3.7	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④ほぼ完形	体部弱く膨らみ、高台短く外傾。内面篦磨き後内黒処理。轆轤整形。口縁部横撫で。	漆付着
5	埦 内黒土器	床面	①(13.8)　②－ ③－	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④口縁部1/5	体部丸み強い。口縁部直立する。内面～口縁部外轆轤整形後、篦磨き。	
6	埦 内黒土器	覆土	①－　②5.8 ③－	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④底部	高台短く外傾する。轆轤整形。内面篦磨き後内黒処理。	
7	埦 内黒土器	W－13内	①－　②6.3 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR6/4　④底部	高台部短く外傾。厚くぼってりする。 轆轤整形。内面篦磨き後、内黒処理。	
8	埦 内黒土器	＋12	①－　②6.8 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④底部	高台部厚く、短く外傾する。轆轤整形。 内黒処理。	
9	埦 内黒土器	覆土	①－　②6.8 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	高台部短く外傾。器肉厚い。轆轤整形。内面篦磨き後、内黒処理。底部回転糸切り痕。	
10	埦 内黒土器	＋35	①－　②7.7 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	体部下半丸い。高台部短く外傾。やや大振りの器形。轆轤整形。内面篦磨き後、内黒処理。	
11	埦 土師質	＋24	①－　②6.4 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③明赤褐2.5YR5/6　④全形の1/5	体部深く、中位で膨らむ。高台短く、直立気味。 轆轤整形。内面篦磨き。底部再調整。	内黒処理はしていない。
12	坏 内黒土器	＋38	①－　②7.1 ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④底部	大振りの器形。器肉厚い。底部突出気味。 轆轤整形。内面篦磨き後、内黒処理。	
13	坏 須恵器	覆土	①13.5　②7.1 ③3.9	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④口縁部1/2欠損	底部大きく、体部浅い。口縁部短く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
14	埦 土師質	+16	①15.3　②8.1 ③5.3	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2欠損	体部やや浅い。丸く内湾し、口縁部で開く。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
15	埦 土師質	——	①(13.4)　②8.4 ③5.3	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部5/6欠損	体部・高台部共にハの字状に外傾。高い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
16	埦 土師質	+8	①13.9　②7.7 ③5.7	①砂粒含、密。　②良好　③橙5YR7/6　④ほぼ完形	器形15に似るが、体部若干膨らむ。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
17	埦 土師質	覆土	①(14.5)　②— ③—	①砂粒含、粗い。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部1/5	体部下半膨らみ、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
18	埦 土師質	覆土	①—　②(9.1) ③—	①密　②還元焔　③灰白2.5Y8/2 ④下半部・高台部1/6	器肉厚い。高台高く、外傾して開く。轆轤整形。 底部再調整形。	
19	埦 土師質	+7	①—　②8.5 ③—	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④底部	高台高く、外傾して開く。轆轤整形。底部再調整。	
20	埦 土師質	+1	①—　②8.7 ③—	①砂粒含、粗い。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④底部	器形19に似る。轆轤整形。底部再調整。	
21	埦 土師質	覆土	——	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④下半部1/3、高台端部欠。	体部下半直線的。器肉厚い。 轆轤整形。	
22	埦 土師質	覆土	——	①石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④下半部	高台高く、わずかに外傾する。器肉厚い。高台からみて大形か。轆轤整形。	
23	埦 土師質	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄2.5Y8/3　④下半部1/4	器肉厚い。体部緩く内湾。 轆轤整形。底部再調整。	
24	埦 土師質	覆土	①—　②6.2 ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④底部	高台部短く外傾する。端部平坦。 轆轤整形。底部再調整。	
25	段皿 灰釉陶器	覆土	①(13.3)　②(7.4) ③2.6	①密　②良好　③素地灰白2.5Y7/1　④全形の1/6	高台の三日月は形骸化し、稜は不明瞭。見込端部で段をなす。漬けがけ。底部再調整。	
26	甕 須恵器	覆土	厚1.3	①密　②良好　③灰白5Y7/2 ④胴部小片	外面平行叩き目。自然釉付着。内面上半撫で。 下半当て目痕。擦れて不明瞭。	
27	甕 須恵器	+15	厚1.1	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④胴部片	外面平行叩き目。内面当て目痕。	
28	羽釜	+17	①(22.4) 厚1.3	①小石含、粗い。　②酸化焔 ③橙2.5YR6/6　④口縁部1/5	器肉厚い。口縁部短い。鍔断面台形。 口縁部横撫で。胴部篦削り。紐つくり痕顕著。	
29	羽釜	+17	①(23.3)　②7.5 ③20.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3	ずんぐりした器形。鍔小形。唇部平坦。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H—122号住居跡出土遺物観察表（図—162　図版—3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	位置不明	①9.4　②5.8 ③2.0	①小石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④口縁部1/2欠損	底径大きく、器高低い。内面同心円状。体部直線的に外傾。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	位置不明	①9.8　②5.5 ③2.3	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部3/5欠損	器肉厚い。体部直線的に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	位置不明	①9.8　②5.5 ③2.6	①密　②良好　③橙2.5YR7/6 ④完形	底部器肉厚い。体部若干膨らむ。轆轤整形。 底部回転糸切り。体部片側端部括れる。	
4	小形坏 土師質	位置不明	①(9.8)　②5.6 ③2.5	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部1/2欠損	器肉やや薄い。底部～体部への変換点丸い。 轆轤整形。底部回転糸切り後、端部再調整か。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5	坏 土師質	位置不明	①12.8　②6.8 ③2.8	①砂粒含、粗い。　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部3/5欠	底部上げ底。体部下半で弱く膨らみ、口唇部外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	位置不明	①(14.4)　②7.4 ③3.9	①砂粒含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/3	体部下端括れる。体部弱く膨らみ、口唇部若干外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	位置不明	①(9.0)　②(6.7) ③4.4	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3強	高台貼付。体部浅く、直線的に外傾。器肉やや厚い。轆轤整形。底部回転糸切り、再調整。	
8	小形埦 内黒土器	位置不明	①10.6　②6.1 ③4.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の3/4	体部丸く膨らみ、高台シャープに外反。轆轤整形。内・外面篦磨き。外面下端篦削り。内黒。	
9	埦 内黒土器	位置不明	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④胴部小片	下半部膨らむ。轆轤整形。内面篦磨き後、内黒処理。	
10	埦 灰釉陶器	位置不明	①(14.6)　②7.1 ③6.6	①密　②良好　③灰白10Y8/1 ④口縁部1/2欠損	体部深く、下半丸み。高台直線的にふんばる。漬けがけ。轆轤整形。外面下端回転篦削り。	底部回転糸切り。

H－123号住居跡出土遺物観察表（図－163　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(8.4)　②4.5 ③2.4	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙10YR8/3　④口縁部1/5欠損	体部中位稜をもつが、直線的に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①(8.5)　②4.6 ③2.0	①密　②還元焔　③灰白2.5Y8/2 ④体部3/4欠損	体部中位に稜をもつ。口唇部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	住居外	①9.2　②5.0 ③2.6	①砂粒含、密。　②普通 ③淡黄2.5Y8/4　④口縁部1/5欠損	体部膨らみ、緩く外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①(9.6)　②5.0 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙10YR8/3　④口縁部1/2欠損	器肉ぼってりする。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①(10.4)　②(7.8) ③1.7	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/3強	体部浅く、底径大きい。直線的に外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	覆土	①(11.8)　②7.5 ③2.6	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3	体部中位膨らむ。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	法量的にはやや大ぶり。
7	坏 須恵器	覆土	①(13.0)　②(7.4) ③3.2	①緻密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④全形の1/4	底径大きい。体部直線的に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	坏 須恵器	覆土	①(13.0)　②6.0 ③4.0	①密　②良好　③褐灰10YR6/1 ④全形の1/6	底部小さく、体部深い。口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部轆轤目顕著。
9	皿 土師質	覆土	①11.3　②6.5 ③3.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④口唇部1/2欠	体部浅く、中位に稜。やや高めの高台、緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
10	皿 須恵器	竈内	①13.7　②6.1 ③3.1	①砂粒含、密。　②普通 ③黄灰2.5Y6/1　④ほぼ完形	高台短く直立。一部潰れている。体部ハの字状外傾。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11	埦 須恵器	覆土	①(14.9)　②— ③—	①密　②酸化焔気味　③灰褐5YR5/2　④体部1/6弱。高台部欠損。	器肉薄い。体部緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切りか。	
12	埦 須恵器	住居外	①(14.6)　②— ③—	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④口縁部1/4	器肉薄い。体部緩く内湾。轆轤整形。口縁部横撫で。	
13	埦 土師質	覆土	①(12.9)　②(7.0) ③5.0	①砂粒含、密。　②良好 ③灰褐7.5YR6/2　④全形の1/4弱	器肉やや厚い。体部中位丸み。口縁部外反。高台ハの字状。轆轤整形。口縁部横撫で。	
14	埦 須恵器	覆土	①—　②(7.4) ③—	①密　②良好　③灰5Y5/1 ④底部小片	器肉薄い。高台短く外傾。轆轤整形。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
15	埦 土師質	覆土	——	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④下半部1/3	大形の器形。器肉厚い。高台貼付雑。 轆轤整形。	
16	短頸壺 須恵器	覆土	①(8.6)　②— ③—	①密　②良好　③灰N6/ ④口縁部1/4	口縁部短く直立。肩部大きく張る。器形はやや小形か。轆轤整形。口縁部横撫で。	
17	甕 土師器	覆土	①(19.3)　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/5	口縁部コの字状。区画強い。口縁部横撫で。 肩部篦削り。	
18	甕 土師器	住居外	①(20.6)　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部コの字状。口縁部横撫で。一部指頭調整痕残る。肩部篦削り。	
19	羽釜	竈内	①(20.5)　②— ③—	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR6/4　④口縁部片	口縁部短く内傾。唇部平坦。鍔上向きに張り出す。口縁部横撫で。胴部回転撫で。	
20	甕 須恵器	住居外	①—　②(14.8) ③—	①小石含、密。　②普通 ③灰黄2.5Y7/2　④底部1/4	底部平底。外面撫で。内面指頭調整後、篦撫で。	

H－124号住居跡出土遺物観察表（図－165　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋8	①9.3　②5.3 ③2.4	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部1/4欠損	体部若干の膨らみをもつ。底部小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋12	①9.2　②5.4 ③2.4	①石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	器肉厚い。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	＋8	①8.3　②5.0 ③1.8	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④体部5/6欠損	体部極めて浅い。平底。口唇部若干丸い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	＋18	①8.6　②5.6 ③1.8	①小石含、粗い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形3に似る。若干上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	＋8	①9.7　②6.3 ③2.1	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④完形	体部浅く、底部大きい。体部外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	＋12	①9.8　②6.5 ③2.2	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	器形5に似る。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	覆土	①15.2　②7.1 ③4.2	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④ほぼ完形	体部下半張りをもち、上半で外反する。底部突出。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り未調整。	
8	埦 土師質	覆土	①12.8　②6.8 ③5.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部若干欠損	体部下半丸く、上半で開く。高台ハの字状に外傾。 轆轤整形。下半部篦削り、回転撫で。口縁横撫で。	
9	埦 土師質	＋8	①—　②(8.0) ③—	①小石含、密。　②良好　③浅黄2.5Y8/4　④底部	器形7に似るか。高台部強く外反。 轆轤整形。底部再調整。	
10	埦 土師質	＋27	①(15.4)　②8.8 ③6.0	①小石含、密。　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④体部7/8欠損	体部器形7に似る。高台部強く外反。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
11	平瓦	＋8	厚さ1.7	①小石含、粗い。　②良好 ③灰5Y6/1　④小片	凹面布目。凸面撫で。側面面取り。	
12	礫	覆土	長6.3　幅2.8 厚2.7　重量70g	平面長円形。断面円形。使用痕不明。		
13	鏃 鉄製品	＋12	長11.6　身幅(1.9)　厚0.4 茎幅0.5　茎厚0.4	身部広根状。器面剝落し、錆化著しい。		
14	鏃 鉄製品	覆土	長15.7　身幅6.5　厚0.2 茎長9.4	身部広根状。器面剝落顕著。関の有無は、錆で不鮮明。		

H－125号住居跡出土遺物観察表（図－166・167　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	住居外P_3 内	①9.2　②5.0 ③2.2	①砂粒含、密。　②普通 ③灰白2.5Y$^{8}/_{2}$　④口縁部$^{1}/_{3}$欠損	体部緩く外傾、中位で稜をもつ。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②4.5 ③2.3	①小石含、密。　②良好 ③橙2.5YR$^{6}/_{6}$　④口縁部$^{1}/_{3}$欠損	底部小さい。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	＋14	①9.6　②5.2 ③3.0	①小石含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR$^{7}/_{6}$　④口縁部$^{1}/_{4}$欠損	底部小さく、突出気味。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り未調整。	
4	小形坏 土師質	＋13	①9.2　②4.5 ③2.5	①密　②普通　③にぶい橙7.5YR$^{7}/_{4}$　④全形の$^{1}/_{3}$弱	底部小さい。体部緩く湾曲、中位で張る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②5.3 ③3.1	①密　②良好　③灰褐7.5YR$^{5}/_{1}$ ④口縁部$^{6}/_{7}$欠損	底部片側で突出。体部内湾して立ち上る。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	黒色土器か
6	小形坏 土師質	覆土	①(9.6)　②6.2 ③2.4	①密　②還元焔　③灰黄褐10YR$^{6}/_{2}$　④口縁部$^{4}/_{5}$欠損	体部浅く、底径小さい。体部外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	住居外P_3 内	①8.8　②5.4 ③2.1	①密　②良好　③橙5YR$^{7}/_{6}$ ④完形	体部外反気味に立ち上る。底部わずかに上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	口縁器肉肥厚
8	小形坏 研磨土器	位置不明	①10.4　②9.1 ③1.8	①密　②良好　③黒7.5YR$^{2}/_{1}$ ④完形	黒色研磨土器。皿状の器形。底部外面、中央に向って出尻。見込部渦巻状轆轤痕。	
9	坏 土師質	覆土	①(14.0)　②6.4 ③3.9	①砂粒含、密。　②普通 ③淡橙5YR$^{8}/_{3}$　④全形の$^{1}/_{4}$強	体部下半膨らみ、上半で外傾して開く。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫でか。底部回転糸切り。	
10	埦 内黒土器	住居外P_3 内	①－　②7.2 ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR$^{7}/_{3}$　④下半部	高台短く外傾。体部内湾して立ち上る。器肉厚い。 轆轤整形。内面篦磨き、内黒処理。回転糸切り。	
11	埦 土師質	＋28	①(14.0)　②(7.4) ③5.1	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR$^{6}/_{3}$　④全形の$^{1}/_{6}$	体部緩く湾曲して立ち上る。やや高めの高台。 器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。	
12	埦 土師質	竈内	①15.0　②8.5 ③5.3	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙5YR$^{7}/_{6}$　④ほぼ完形	体部、高台部共にハの字状に外傾して開く。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	埦 土師質	覆土	①(13.6)　②－ ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR$^{6}/_{6}$　④体部$^{1}/_{3}$	体部下半丸み、上半で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
14	埦 土師質	＋28	①－　②6.6 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい褐7.5YR$^{5}/_{4}$　④下半部	幅狭の高い高台。器肉厚い。 轆轤整形。底部再調整。	
15	埦 土師質	住居外	①－　②9.7 ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y$^{8}/_{2}$ ④底部	高台高く、緩く外反して開く。体部変換点強く括れる。轆轤整形。	
16	段皿 灰釉陶器	覆土	①12.0　②6.4 ③2.0	①密　②良好　③素地灰白2.5Y$^{7}/_{1}$　④口縁部$^{1}/_{4}$欠損	小形の器形。見込端部で段をなす。高台短く直立。 施釉漬けがけ。轆轤整形。底部糸切後、再調整。	重ね焼痕
17	甕 土師器	＋48	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR$^{7}/_{4}$　④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く直立するか。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
18	羽釜	＋28	①(28.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR$^{6}/_{6}$ ④口縁部$^{1}/_{3}$	口縁部短く内傾、唇部平ら。鍔断面U字形。 口縁～胴部上半横撫で。下半篦削り。内回転撫で。	
19	羽釜	竈内	①(23.2)　②－ ③－	①小石含、粗い。　②普通 ③橙7.5YR$^{7}/_{6}$　④口縁部$^{1}/_{5}$	つくり雑。口縁部長く、鍔は形骸化し小さい。 体部外面紐つくり痕顕著。口縁部横撫で。	
20	羽釜	覆土	①(24.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙7.5YR$^{7}/_{6}$ ④口縁部$^{1}/_{6}$	長い口縁部内傾、唇部平坦。鍔断面三角形。つくり丁寧。口縁部横撫で。胴部篦削り。	内面篦状工具痕。

H－126号住居跡出土遺物観察表（図－169　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①9.1　②4.2 ③3.0	①砂含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部4/5欠損	底部小さい。体部内湾、下端で締まる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋8	①9.6　②4.6 ③2.7	①小石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	－2	①10.5　②5.3 ③3.0	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/3 ④口縁部1/5欠損	底部小さい。体部への変換点不明瞭。再調整か。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	＋3	①(9.7)　②5.6 ③2.4	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の1/4強	底部やや大きく、体部浅い。口縁部変換点に張りをもつ。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	＋12	①(9.5)　②6.3 ③3.4	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部1/2欠損	底部大きく、体部浅い。やや出尻気味。体部外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	＋8	①10.2　②5.5 ③2.8	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部1/3欠損	器肉厚い。底部出尻気味。体部下端締まる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	－11	①9.4　②4.0 ③3.2	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	底部小さい。体部下端で括れ、L字状に立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	＋13	①9.9　②6.4 ③3.0	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④完形	底部大きく、体部直立気味に立ち上る。底～体部変換点不明瞭。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
9	小形坏 土師質	＋10	①9.1　②5.2 ③2.1	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR8/3　④口縁部1/2欠損	底部平底。体部外反気味に立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	托 土師質	－3	①－　②3.4 ③－	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/4 ④底部	底部柱状をなし、緩く外傾。体部変換点で屈曲する。轆轤整形。底部回転糸切り。	
11	坏 土師質	＋1	①14.3　②6.0 ③4.3	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④完形	体部緩く湾曲、口縁部で若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	埦 土師質	＋13	①(13.9)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部1/8	体部深く、下半で丸みをもつ。内～口縁部外面篦磨き。轆轤整形。	
13	埦 土師質	＋12	①－　②5.9 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	体部下半丸みをもつ。高台部短く外傾。 轆轤整形。高台部外面を除き、器全面篦磨き。	
14	小形埦 土師質	－19	①(10.2)　②4.8 ③4.6	①砂粒含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	小形の器形。体部下半丸み、上半で外傾する。 高めの高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	底部糸切り後再調整。
15	埦 土師質	－1	①13.9　②7.0 ③5.0	①砂粒含、粗い。　②普通　③浅黄橙7.5YR8/4　④体部1/2欠損	体部やや浅め。丸く湾曲。高台部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。肉厚。	
16	埦 土師質	＋13	①(14.9)　②－ ③－	①砂粒含、粗い。②普通 ③にぶい黄橙10YR8/3　④体部1/3	体部下半丸く、口縁部で強く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
17	埦 土師質	＋3	——	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR7/3　④口縁部1/4弱	器形16に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
18	埦 土師質	－19	①(12.9)　②7.4 ③5.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部1/3欠損	体部、高台部共にハの字状に外傾。体部若干の膨らみ。轆轤整形。底部再調整。	
19	埦 土師質	－19	①(14.5)　②7.4 ③6.4	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	体部下半丸く、口縁部で外反。高台高く外反して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
20	埦 土師質	竈付近	①－　②(8.1) ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④底部1/5	高台高く、下端部で若干外反。 轆轤整形。底部再調整。	
21	埦 土師質	＋12	①－　②7.4 ③－	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④底部	高台部細く、外傾して開く。内面漆付着。 轆轤整形。底部回転糸切り、再調整。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
22	埦 土師質	+11	①(16.3)　②11.8 ③9.9	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部3/4欠損	高台極めて高く、緩く外反。体部丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
23	瓶 灰釉陶器	住居付近	——	①密　②良好　③素地灰白2.5Y 8/1　④頸部片	頸部外傾して開く。施釉漬けがけ。 轆轤整形。	
24	皿 灰釉陶器	+8	①10.3　②5.9 ③2.0	①密　②良好　③素地灰白5Y8/2 ④口縁部1/3欠損	小形の器形。高台短く直立。断面台形。見込、底部赤色付着物(朱墨)？。体部下端回転篦削り。	朱墨付着か。
25	段皿 灰釉陶器	+19	①12.0　②6.5 ③2.3	①密　②良好　③素地灰白10YR 8/1　④完形	体部ハの字状に開き、見込端部に段をもつ。高台短く内傾。轆轤整形。底部回転糸切り。	口唇部タール状付着物
26	埦 須恵器	+8	①(14.9)　②(8.5) ③6.5	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④全形の1/3	体部深く、箱形。腰部に若干の丸み。高台短く直立する。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
27	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③淡黄5Y8/3 ④口縁部片	頸部外反、上端で屈曲直立する。 口縁部回転撫で。	
28	甕 須恵器	竈付近	——	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④頸部片	頸部5本一単位の波状文施文。肩部撫で。	
29	甕 須恵器	−19	——	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④頸部1/3	頸8本一単位の波状文。太い櫛歯状工具使用か。 胴部内面当て目痕。外面叩き後、撫で。	
30	砥石 石製品	+13	長5.4　幅3.1 厚1.7	片側小口面使用痕。小口面合せて6面使用。先端部は研ぎ減りする。 器面擦痕状の研磨痕顕著。		

H−127号住居跡出土遺物観察表（図−171）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①9.7　②4.8 ③3.0	①小石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部2/3欠損	底部小さく、体部強く張り出す。口縁部若干外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	+11	①(10.4)　②5.0 ③3.2	①小石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部3/4欠損	底部小さい。体部中位膨らみ、口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	+11	①(11.4)　②5.0 ③3.7	①小石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④全形の1/3	器形2に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形埦 土師質	+3	①11.2　②— ③—	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④口縁1/2・底部欠損	体部器形3に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り再調整。	
5	埦 土師質	+14	①(14.8)　②8.5 ③5.3	①白色粒含、密。　②良好　③橙 5YR7/6　④体部2/3・高台1/2欠	体部浅い。下半部丸く、上半で開く。やや高めの高台。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
6	埦 土師質	+2	①(14.9)　②— ③—	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④体部1/5	体部浅く、中位で丸み。口縁部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部剝落する。	
7	埦 土師質	+14	①—　②(7.1) ③—	①砂粒含、密。　②還元焔 ③灰白2.5Y8/2　④下半部	直立気味の高い高台。腰部強く張る。 轆轤整形。底部再調整。	
8	羽釜	+15	——	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口縁部小片	口縁内傾、唇部平坦。鍔張り出し強い。 口縁部横撫で。腰部篦削り。	
9	羽釜	+6	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口縁部小片	口縁部内傾、唇部平坦。鍔小さく三角形状。 口縁部横撫で。器皺有り。内面回転撫で。	
10	羽釜	−2	①(21.0)　②— ③—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/3	器肉厚い。口縁部内傾、唇部丸い。鍔張り出し弱い。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	

H－128号住居跡出土遺物観察表（図－172・173）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(8.6)　②(5.7) ③1.8	①白色軽石含、粗い。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/3強	底径やや幅広、体部浅い。口縁部器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①8.1　②5.0 ③2.2	①白色軽石含、粗い。②良好 ③橙5 YR7/6　④口縁部1/3欠損	底径小さい。体部浅い。底部器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。	
3	小形坏 土師質	覆土	①(10.6)　②5.7 ③2.3	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③にぶい橙5 YR7/4　④全形の1/4	体部下端で括れ、ハの字状に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器外面一部煤付着
4	小形坏 土師質	覆土	①10.3　②5.2 ③3.0	①白色軽石、石含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④ほぼ完形	底部小さい。体部下端で括れ、若干膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形埦 土師質	覆土	①(9.5)　②－ ③－	①砂粒含、密。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④上半部1/4	体部丸く膨らむ。高台をもつか。口縁部で立ち上る。轆轤整形。口縁部横撫で。	
6	坏 須恵器	＋8	①(12.0)　②5.8 ③3.9	①白色粒含、粗い。　②良好 ③褐灰10YR5/1　④体部2/3欠損	底径小さく、体部深い。轆轤目痕顕著。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部磨滅。	黒色土器か
7	坏 須恵器	覆土	①－　②(5.2) ③－	①白色軽石含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3	轆轤整形。底部切り離し不明。端部沈線状刻章？	内面吸炭
8	蓋 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④上端部1/4	天井部～肩部緩く傾斜。摘接合痕を残す。 轆轤整形。天井部回転篦削り。	
9	土製円板 土師質	覆土	長3.9　短3.8 厚0.7	①密　②良好　③にぶい橙5 YR7/4　④完形	坏形態を転用。側面面取りする。調整やや雑。 坏自体は轆轤整形。底部回転糸切り。	
10	埦 須恵器	＋8	①14.6　②－ ③体部高5.6	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④口縁部1/2、高台部欠損。	体部深く、底径小さい。口縁部わずかに若干。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
11	埦 須恵器	覆土	①－　②(6.5) ③－	①密　②良好　③灰10Y5/1 ④下半部1/3	断面台形状の短い高台。貼付雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
12	埦 灰釉陶器	＋31	①－　②7.9 ③－	①密　②良好　③素地灰白10YR8/1　④底部	高台三日月型。シャープさに欠ける。見込無釉施釉漬け掛け。	
13	埦 灰釉陶器	＋6	①－　②7.6 ③－	①密　②良好　③灰白5 Y7/2 ④底部	高台短く、やや三日月状。 施釉漬け掛け。	
14	埦 灰釉陶器	＋8	①－　②(7.0) ③－	①密　②良好　③素地灰白10YR8/1　④底部1/3	高台高く、直立する。体部丸みをもつ。 施釉漬け掛け。見込部へ釉とびする。	
15	埦 灰釉陶器	覆土	①－　②(5.3) ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y8/1 ④底部2/3弱	小さい器形。高台下半丸まる。 施釉漬け掛け。	
16	鉢 須恵器	覆土	——	①緻密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④口縁部小片	体部外傾して開き、口縁部丸まる。 轆轤整形。	
17	羽釜	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部小片	鍔小形。張り出し弱い。口縁部内傾、唇部平ら。 口縁部横撫で。胴部篦削りか。つくり比較的丁寧。	
18	羽釜	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい褐7.5YR6/3　④口縁部片	鍔小形。断面三角形。口縁内傾、唇部平ら。 口縁部横撫で。胴部篦削りか。つくり丁寧。	
19	羽釜	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部片	鍔肉厚。断面三角形。口唇部内屈。 口縁部横撫で。	

H－130号住居跡出土遺物観察表（図－175）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 緑釉陶器	＋71	①－　②7.2 ③－	①密　②良好　③素地黄褐2.5Y 5/4　④底部	高台短く外傾。下端部内屈する。 轆轤整形。底部再調整。	
2	瓶 灰釉陶器	覆土	頸部径8.0	①密　②良好　③素地灰白2.5Y 8/1　④頸部片	頸部下端部～肩部接合痕顕著。やや幅広である。 轆轤整形。	
3	羽釜	位置不明	——	①白色粒含、密。　②良好 ③明赤褐5YR5/8　④口縁部小片	全体的に器肉厚い。鍔断面三角形。口縁部短く、 唇部平ら。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
4	羽釜	位置不明	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	鍔張り出し強い。口縁部短く、唇部内屈。 口縁～胴部上半横撫で。	
5	羽釜	位置不明	——	①砂粒、石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④口縁部小片	鍔形骸化。胴部との高低差少ない。口唇部内屈。 口縁部～胴部上半横撫で。	
6	羽釜	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白5Y8/2　④口縁部小片	鍔断面U字状。張り出し弱い。口唇部若干内屈。 口縁部横撫で。つくり比較的丁寧。	

H－131号住居跡出土遺物観察表（図－176　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	羽釜	覆土	——	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部片	鍔張り出し弱い。口縁部短く、唇部平ら。 口縁部横撫で。胴部上半篦撫で。	
2	丸瓦	床面	長40.0　幅18.8 厚2.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④完形	凸面撫で。一部面取り状。凹面荒い布目。 側面撫で。一枚作りか。	

H－132号住居跡出土遺物観察表（図－177　図版－3）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋14	①10.3　②5.2 ③3.4	①石含、密。　②良好 ③黄橙10YR8/6　④完形	体部中位丸い。口縁部で外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部吸炭
2	小形埦 土師質	－3	①10.4　②5.3 ③3.9	①石、白色軽石含、密。　②還元 焔　③灰黄2.5Y7/2　④完形	体部中位膨らむ。肉厚の短い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部外面吸炭
3	小形埦 土師質	－4	①(11.4)　②(6.6) ③4.0	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の1/3	体部ハの字状に開き、口縁部外反。高台肉厚。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	鎌 鉄製品	＋21	現長10.3 幅2.0～2.5　厚0.3	刃部先端強く湾曲する。背側平らか。器面錆化著しい。		
5	羽釜	竈内	——	①密　②良好　③灰黄褐10YR5/2 ④口縁部小片	鍔断面台形状。張り出し弱い。口唇部丸い。 口縁部横撫で。	

H－133号住居跡出土遺物観察表（図－178　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	床面	①12.0　②－ ③3.1	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④完形	体部浅い。安定した平底から緩く内湾。 口縁部横撫で。体部指頭痕残す。底部篦削り。	
2	坏 土師器	＋20	①12.4　②－ ③3.4	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④ほぼ完形	底部安定。平底気味。体部外傾して開く。 口縁部横撫で。体部撫で。指頭痕有。底部篦削り。	
3	蓋 須恵器	＋17	①15.2　摘径3.5 ③3.6	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④口唇部1/3欠損	天井部～身部緩く傾斜。口唇部短く屈曲、内側丸 まる。轆轤整形。天井部回転篦削り。環状摘。	重ね焼痕

H－134号住居跡出土遺物観察表（図－179）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 盌状土器	床面	①11.8　②7.6 ③3.5	①密　②良好　③黒2.5Y$^{2}/_{1}$ ④口縁部$^{3}/_{5}$欠損	底部平底。体部緩く内湾、口縁部沈線巡る。 口唇内面内傾。内外面・底部篦磨き後黒色処理。	金属器 模倣か。
2	甕 須恵器	－5	①－　②13.5 ③現高18.5	①密　②良好　③灰白N$^{5}/$ ④下半部	底部平底。体部下半直線的に外傾、上半で膨らむ。 外面平行叩き後撫で。内面撫で。一部当て目痕有。	

H－135・136号住居跡出土遺物観察表（図－180）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H135	坏 土師器	位置不明	①14.3　②－ ③3.5	①密　②良好　③にぶい橙2.5 YR$^{6}/_{4}$　④全形の$^{3}/_{4}$	体部浅い。緩く湾曲、口縁部で直立する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
1 H136	小形坏 土師質	覆土	①(10.2)　②6.5 ③2.3	①密　②良好　③橙7.5YR$^{7}/_{6}$ ④全形の$^{1}/_{2}$弱	底部上げ底。腰部丸みをもち、体部外傾する。 口縁部シャープ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H136	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR$^{7}/_{6}$ ④底部小片	底部小さい平底。胴部強く外傾して開く。胴丸器 形か。胴部篦削り。	

H－137号住居跡出土遺物観察表（図－181　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	＋8	①11.5　②7.7 ③3.2	①密　②良好　③にぶい橙5YR $^{7}/_{4}$　④完形	底部平底。体部への変換点丸い。体部緩く外傾。 口縁部横撫で。体部指頭調整。底部篦削り。	
2	坏 須恵器	＋5	①13.3　②6.5 ③3.5	①密　②酸化焔　③橙2.5YR$^{6}/_{6}$ ④完形	底部小さく、体部浅い。ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器肉一定

H－138号住居跡出土遺物観察表（図－182）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	竈内	①(14.3)　②－ ③身部4.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶ い黄橙10YR$^{7}/_{4}$　④全形の$^{1}/_{4}$	体部下半若干膨らむ。上半でハの字状に開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器肉厚い。
2	甕 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰N$^{5}/$　④肩部片	大形の器形。肩部大きく張る。頸部横撫で。 肩部平行叩き目。内面青海波状当て目。	

H－139号住居跡出土遺物観察表（図－184　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②(4.8) ③3.1	①白色軽石含、粗い。　②還元焔 ③褐灰10YR$^{4}/_{1}$　④全形の$^{1}/_{6}$	底部若干上げ底か。体部外傾して開く。つくり雑。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	埦 土師質	＋12	①12.2　②6.4 ③5.6	①密　②普通　③にぶい橙7.5 YR$^{7}/_{4}$　④口縁・高台部一部欠損	体部直線的に外傾、口縁部に至る。高台部弱く外 傾。轆轤整形。口唇部横撫で。内面篦磨き。	
3	埦 土師質	覆土	①－　②7.6 ③－	①石含、粗い。　②普通 ③にぶい黄橙10YR$^{7}/_{4}$　④底部	高台部やや高い。外傾して開く。高台貼付雑。 轆轤整形。底部再調整。	器肉厚い。
4	埦 須恵器	覆土	①－　②(8.9) ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y$^{8}/_{2}$ ④底部$^{1}/_{2}$	底部大きく、腰部で直立する。箱形の器形か。 高台部若干外傾。轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	皿？ 灰釉陶器	覆土	①(11.0)　②－ ③－	①密　②良好　③素地灰白10Y$^{8}/_{1}$ ④口縁部小片	体部緩く外傾、口縁部で直立する。口唇部丸い。 轆轤整形。体部下半回転篦削り調整か。漬け掛け。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
6	羽釜	住居外	——	①密　②良好　③にぶい褐7.5YR6/3　④口縁部小片	鍔断面三角形。上向きに強く張り出す。口唇部内側に若干内傾。口縁部横撫で。	つくり丁寧

H－140・147号住居跡出土遺物観察表（図－186・187　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H140	小形坏 土師質	＋14	①9.5　②4.3 ③3.1	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④口縁部1/5欠損	底部小さく、体部中位膨らむ。口縁部外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2 H140	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②4.5 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④完形	底部小さい。体部下半強く膨らむ。口縁部外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H140	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②4.5 ③2.3	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部1/6欠損	底部小さく、上げ底。体部浅く、中位で張る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4 H140	小形坏 土師質	覆土	①(9.1)　②(4.0) ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/3	器形4に似る。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H140	小形坏 土師質	覆土	①(9.0)　②4.9 ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/6	体部中位張る。底部上げ底、やや突出気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6 H140	小形坏 土師質	＋5	①10.8　②5.5 ③3.5	①石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	底部やや大きく、体部丸い。口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部外周再調整。
7 H140	小形坏 土師質	覆土	①(9.9)　②5.3 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/4弱	器形7に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部外周再調整。
8 H140	小形坏 土師質	覆土	①9.8　②4.8 ③2.0	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄2.5Y8/3　④全形の1/4	体部浅く皿形。底径大きい。体部若干膨らむ。轆轤整形。底部回転糸切り。外周部再調整。	
9 H140	小形坏 土師質	覆土	①(10.2)　②6.8 ③2.4	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の1/2弱	体部浅く、皿形。直線的に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	轆轤目顕著
10 H140	小形坏 土師質	覆土	①(10.2)　②4.8 ③3.0	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部5/6欠損	体部ハの字状に外傾。底部強く突出する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11 H140	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②4.6 ③2.9	①白色軽石含、ざらつく。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④完形	器形12に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12 H140	小形坏 土師質	覆土	①－　②5.2 ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④底部	器形12に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
13 H140	蓋 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④小片	天井部平坦。体部外傾して開き、唇部短く外折。 轆轤整形。天井部回転篦削り。	
14 H140	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.3) ③－	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④底部小片	底径大きい。体部直線的に外傾。 轆轤整形。底部回転篦切り。	
15 H140	坏 須恵器	覆土	①－　②(7.8) ③－	①密　②良好　③灰7.5Y5/1 ④底部1/4	底部若干上げ底。体部下半膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
16 H140	埦 須恵器	覆土	①－　②(6.4) ③－	①密　②良好　③灰5Y5/1 ④底部1/2	高台短く、端部沈線状に凹む。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
17 H140	埦 内黒土器	覆土	①(15.2)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4　④口縁小片	体部丸く内湾。口縁で直立する。轆轤整形。 口縁部横撫で。内面篦磨き後、内黒処理。	
18 H140	埦 内黒土器	覆土	①(15.6)　②－ ③－	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部小片	体部丸く内湾。大形の器形か。轆轤整形。内面～口縁部外面篦磨き。内面黒色処理か。	
19 H140	埦 内黒土器	＋10	①－　②5.7 ③－	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④底部	高台部短く外反。底部小さい。轆轤整形。内面篦磨き後、黒色処理。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
20 H140	埦 土師質	覆土	①(11.4)　②(5.2) ③5.2	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④体部1/5欠損	小さい器形。体部丸く内湾、高台部外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
21 H140	埦 土師質	覆土	①11.0　②5.3 ③5.0	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部2/5欠損	器形24に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
22 H140	埦 土師質	覆土	①(13.3)　②7.4 ③6.3	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④体部3/4欠	体部丸く、口縁部で若干外反。高台直立後、外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
23 H140	埦 土師質	+36	①14.1　②7.5 ③6.4	①砂粒含、密。　②普通　③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	器形29に似る。高台高く、緩く外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
24 H140	埦 土師質	+15	①(15.2)　②7.9 ③6.2	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部7/8欠損	体部緩く膨み、口縁部で大きく開く。高台部外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
25 H140	埦 土師質	+15	①(14.2)　②7.8 ③6.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部上半1/2欠損	体部深く、26に似る。高台高く、緩く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
26 H140	皿 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白2.5Y 8/2　④口縁部小片	口縁内側に沈線。 轆轤整形。口縁部横撫で。漬け掛け。	
27 H140	埦 灰釉陶器	覆土	①—　②(7.6) ③—	①密　②良好　③素地灰白2.5Y 8/2　④底部1/3	高台部短く直立。断面台形状。 轆轤整形。底部再調整。	
28 H140	鉢 須恵器	覆土	①(21.7)　②(10.0) ③9.3	①緻密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④全形の1/4弱	底部突出。体部直線的に外傾、口縁部丸く内傾。 内側凹む。轆轤整形。口縁部再調整。糸切り。	
29 H140	羽釜	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部小片	口縁部短く内傾。鍔若干上向き。 口縁部横撫で。胴部鍔直下篦削り。	
30 H140	羽釜	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部小片	器形37に似る。 口縁部横撫で。胴部上半横撫でか。	
31 H140	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③橙7.5YR7/6　④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く外傾。 口縁部横撫で。胴部縦位篦削り。内面撫で。	粘土紐接合痕有。
32 H140	羽釜	覆土	①—　②6.8 ③—	①小石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④底部1/2	底部平底。胴部下端篦削り。 底部内外面撫で調整。	
33 H140	鉄滓	+13	長4.1　幅4.5 厚3.2　重量75g	断面滴下状。上面わずかにマグネットに反応する。 一部気泡認む。上端面スサ付着。炉内滓か。		
1 H147	小形坏 土師質	−38	①10.1　②4.8 ③3.2	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部1/2欠損	器形1に似る。体部下端括れる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—140—10
2 H147	小形坏 土師質	−47	①10.1　②6.0 ③2.5	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④ほぼ完形	底部大きい。体部浅く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。外周部再調整。	H—140—4
3 H147	埦 土師質	覆土	①10.8　②5.7 ③5.0	①砂粒含、密。　②良好 ③淡赤橙2.5YR7/4　④全形の1/3	小形の器形。体部内湾、上半で外傾する。高台部ハの字状。轆轤整形。口縁部横撫で。	
4 H147	埦 土師質	−40	①11.6　②6.2 ③4.3	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR 8/3　④体部2/3欠損	やや小形の器形。体部ハの字状に外傾。高台直立。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	H—140—11
5 H147	埦 土師質	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR　④体部下半1/5	腰部丸み。1に似るか。 轆轤整形。	
6 H147	埦 内黒土器	床面	①—　②6.9 ③—	①密　②良好　③明赤褐5YR5/6 ④底部	高台部短く外傾。端部平坦。轆轤整形。内面篦磨き後、黒色処理。	H—140—16
7 H147	埦 土師質	−38	①(14.7)　②(8.3) ③5.4	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部3/4欠損	体部丸く内湾、口縁部で外反する。高台ハの字状。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	口唇部丸い。 H—140—9
8 H147	埦 土師質	覆土	①(14.9)　②(6.4) ③5.6	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄2.5Y8/3　④全形の1/5	器形27に似るが、口縁部外傾して開く。高台肉厚。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	H—140—雑

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9 H147	塊 土師質	−36	①(14.1)　②8.2 ③6.2	①石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④口縁部1/2欠損	体部中位で膨らみ、口縁部若干外反。高台高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	H−140−3
10 H147	塊 土師質	−36	①−　②(9.4) ③−	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部下半	高い高台。体部丸く内湾。 轆轤整形。底部再調整。	H−140−3
11 H147	羽釜	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部短く内傾。鍔形骸化する。つくり雑。 口縁〜胴部横撫で。	

H−141号住居跡出土遺物観察表（図−189　図版−4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②(5.7) ③2.0	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/5強	体部浅く、緩く湾曲して開く。下端丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	竈内	①10.0　②5.0 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④ほぼ完形	底部小さい。体部湾曲、下半丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形塊 土師質	竈内	①9.8　②身部5.6 ③身部2.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④高台部欠損	体部2に似る。底部高台接合痕あり。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部糸切り後再調整。	
4	塊 土師質	+10	①(12.4)　②7.3 ③5.3	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④体部4/5欠	体部丸く内湾、口縁部で開く。高台部ハの字状。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
5	塊 土師質	覆土	①(15.5)　②(6.8) ③5.0	①砂粒含、密。　②良好 ③明黄褐10YR7/6　④体部5/6欠損	体部下半膨らみ、上半で大きく開く。唇部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	外面沈線状工具痕。
6	塊 土師質	覆土	①−　②(6.6) ③−	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④下半部	体部下半細く締まる。高台部短く外傾。 轆轤整形。底部再調整。	
7	塊 内黒土器	竈内	①12.0　②6.6 ③5.4	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙10YR8/4　④体部1/2弱欠損	体部下半強く膨らみ、上半で直立する。高台端部平坦。轆轤整形。内〜口縁部外面篦磨き。	
8	塊 内黒土器	P_3内	①(16.8)　②8.8 ③6.8	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇部欠損	体部下半膨らみ、上半大きく外反して開く。 高台端部平坦。轆轤整形。内面篦磨き、黒色処理。	内〜口縁部外面黒色
9	塊 灰釉陶器	貯蔵穴	①16.3　②8.5 ③7.1	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④体部2/3欠損	体部深く、下半で丸み。高台高く直立気味。口縁内部に沈線。轆轤整形。底部再調整。	漬け掛け
10	羽釜	+4	①21.8　②8.2 ③23.2	①密、φ0.8cm石含。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/2強	胴部短い。鍔上向きに張り出す。口縁内傾、唇部内屈。口縁〜胴上半横撫で。胴下半篦削り。	
11	羽釜	覆土	①(20.3)　②− ③−	①小石含、密。　②良好 ③明黄褐10YR7/6　④口縁部小片	鍔小さく、形骸化。口縁部短く直立、唇部丸い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	外面煤ける。
12	羽釜	貯蔵穴	——	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部小片	鍔ややいびつ。水平に張り出す。口縁短く内傾、唇部丸い。口縁〜鍔下端横撫で。胴部一部撫でつけ。	外面接合痕残る。
13	甕 土師器	竈内	①−　②(13.8) ③−	①小石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR6/4　④胴下半1/3	底径大きく、平底。胴部緩く内湾。短い器形か。 胴部篦削り。内面回転撫で。	胴上半煤ける。

H−142号住居跡出土遺物観察表（図−190　図版−4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	竈内	①9.9　②5.6 ③2.3	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR6/4　④ほぼ完形	底部平底。体部緩く外傾、唇部わずかに外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部糸切り後再調整か。	
2	小形坏 土師質	覆土	①(9.8)　②5.4 ③2.7	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④体部1/5欠損	底部〜体部への変換点丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	小形坏 土師質	竈内	①(9.6)　②(5.5) ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4　④全形の1/4	底部平底。体部緩く湾曲。体部下端丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	托 土師質	覆土	①(10.6)　②5.2 ③2.0	①白色軽石含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④全形の2/3	底部短く柱状。体部強くハの字に外傾する。器肉厚い。轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	坏 土師質	＋2	①15.0　②7.3 ③4.3	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	体部下端括れ、緩く湾曲。口縁部若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	内面煤ける。
6	坏 土師質	竈内	①(16.0)　②8.3 ③4.3	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/5	体部緩く湾曲、口縁部で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	＋2	①16.8　②8.9 ③4.4	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄2.5Y6/4　④ほぼ完形	体部直線的に外傾。口縁部括れ、外反する。 轆轤整形。口縁部横撫でつけ。底部回転糸切り。	
8	埦 土師質	覆土	①(15.0)　②7.9 ③5.3	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の2/3	体部下半膨らみ、口縁部で外反気味に開く。高台ハの字に外傾。轆轤整形。口縁部横撫で。	体部下半篦削り。
9	埦 土師質	竈内	①(19.4)　②— ③現7.7	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④体部5/6、高台端部欠損	大振りの器形。体部深い。内湾して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	つくり丁寧

H—143号住居跡出土遺物観察表（図—192）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	＋14	①(14.4)　②7.9 ③5.3	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④体部2/3欠損	体部下半丸み、上半で開く。高台やや高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。体部下端篦削り。	
2	埦 灰釉陶器	＋5	①—　②6.8 ③—	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④下半部	高台部稜はだれている。断面やや三角形状。 漬け掛け。轆轤整形。底部回転篦削り。	
3	甕 土師器	竈内	①(18.7)　②— ③—	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④上半部1/3弱	口縁部短く内傾後、外屈。胴部上端最大径をもつ。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面一部篦撫で。	
4	釘 鉄製品	＋5	長16.4　幅0.9 厚0.5～0.6	角釘。大形の器形。皿部L字状に折れる。下端部欠損。断面長方形。 器面錆化している。		

H—144号住居跡出土遺物観察表（図—193　図版—4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①9.2　②5.0 ③2.3	①粒含、密。　②普通　③浅黄橙7.5YR8/4　④体部2/3欠損	底部小さく上げ底。体部緩く湾曲、口縁部外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	－5	①8.6　②4.6 ③2.3	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙10YR8/4　④口唇部1/4欠損	体部下端括れ、中位で張る。口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	－3	①9.0　②4.5 ③2.8	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙10YR8/3　④口唇部1/2欠損	器形2に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	－5	①10.0　②5.0 ③2.2	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器形3に似る。口縁部3より大きく開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②5.5 ③2.1	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④口唇部1/4	体部浅い。中位若干の張り。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	位置不明	①(9.8)　②(6.1) ③2.3	①密　②良好　③橙2.5YR7/6 ④全形の1/4	底部若干出尻気味。体部への変換点丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切り。	
7	小形坏 土師質	覆土	①(9.6)　②(6.3) ③2.8	①砂粒含、密。　②普通 ③橙7.5YR7/6　④全形の1/5	体部外傾して開く。下半極弱いくびれ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
8	小形坏 土師質	＋2	①9.6　②5.8 ③2.3	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④完形	体部浅く、底径大きい。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	小形坏 土師質	＋9	①8.9　②5.8 ③2.1	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④ほぼ完形	体部極めて浅く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
10	小形坏 土師質	－4	①9.3　②5.5 ③2.1	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④完形	底部若干上げ底。体部外傾して開く。底部中央穿孔。転用か。轆轤整形。底部回転糸切り。	口唇漆付着
11	小形埦 土師質	位置不明	①10.2　②6.2 ③4.6	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④ほぼ完形	体部丸く内湾。高台外傾して開く。高台端部シャープ。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	埦 土師質	覆土	①－　②6.6 ③－	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④底部	体部下半内湾。高台端部内側へ内屈。雑なつくり。 轆轤整形。底部再調整。	
13	羽釜	－5	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR6/4　④口縁部小片	鍔小さく、水平に張り出す。口縁部短く内傾、唇部丸い。口縁部横撫で。胴部篦削りか。	H－141－11と接合
14	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、密。　②普通 ③橙7.5YR7/6　④口縁部小片	直立気味の胴部から、口縁部短く外傾する。器肉厚い。口縁部横撫で。胴上半篦削り。	

H－145号住居跡出土遺物観察表（図－194）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(8.2)　②5.5 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/2強	器肉厚い。体部外傾して開き、浅い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①9.2　②5.5 ③2.1	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙7.5YR8/4　④体部1/3欠損	体部ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①(8.3)　②4.8 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④全形の1/2	器形2に似る。法量2より小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②4.5 ③3.1	①白色粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部1/3欠損	底径小さく、体部深い。体部緩く内湾、口縁部外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	埦 土師質	覆土	①(12.8)　②8.8 ③6.7	①小石含、粗い。　②良好 ③橙2.5YR6/8　④体部1/3欠損	高台高く、体部深い。下半で丸み、口縁部若干外反。轆轤整形。口縁部横撫で。	
6	埦 内黒土器	覆土	①(14.5)　②6.8 ③5.8	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④体部上半大半欠損	体部下半丸み、口縁部で開く。轆轤整形。内面～口縁部外面篦磨き。高台端部平坦。	
7	羽釜	竈内	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	鍔小さく、形骸化。口縁部内傾し、唇部平坦。口縁部器皺あり。口縁部横撫で。胴部回転撫で。	
8	砥石 石製品	覆土	長5.6　幅3.2 厚1.1	5面使用。断面三角形。研ぎ減りする。小口面欠損。 手持ち砥か。		

H－146号住居跡出土遺物観察表（図－195）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	竈内	①(9.7)　②(6.0) ③2.5	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④全形の1/4	底部～体部への変換点丸い。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	埦 土師質	竈内	①－　②(6.8) ③－	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR6/8　④底部1/3	高台短く外傾。体部下半直線的。轆轤整形。体部下半撫でつけか。底部再調整。	
3	埦 土師質	竈内	①(12.6)　②－ ③－	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④体部1/4	体部下半丸み、口縁部外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4	埦 灰釉陶器	覆土	① －　②7.1 ③ －	①密　②良好　③素地灰白10Y8/1 ④底部1/5	高台断面U字状。漬け掛け。 轆轤整形。底部周縁？再調整。	
5	甕 土師器	覆土	——	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部小片	器肉厚い。口縁部外反し、肩部張る。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
6	羽釜	竈内	——	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	鍔細身、水平に張り出す。口縁短く内傾、唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
7	羽釜	竈内	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	鍔水平に張り出す。口縁部短く直立、唇部丸い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
8	羽釜	竈内	——	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部小片	器肉概して薄い。鍔水平に張り出し、断面シャープ。口縁部横撫で。胴部櫛歯状工具の調整。	
9	甑 羽釜形	竈内	——	①砂粒含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④下端部小片	羽釜形の器形か。下端部くの字状に屈曲。内面指頭による押圧痕有。回転撫で。	器肉厚い。

H－148号住居跡出土遺物観察表（図－196）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形埦 土師質	住居外	①(8.5)　②(5.8) ③3.0	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の1/2強	体部緩く内湾、口縁部で開く。高台ハの字に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
2	小形埦 土師質	住居外	①10.9　②6.4 ③4.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部2/3欠損	体部丸く内湾、口縁部で開く。高台端部平坦。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
3	羽釜	覆土	①(20.9)　② － ③ －	①小石含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部片	鍔断面三角形。水平に張り出す。口縁内傾、唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
4	羽釜	竈内	①(21.8)　② － ③ －	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部1/5	鍔水平に張り出す。口縁部短く内傾、唇部丸い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H－149号住居跡出土遺物観察表（図－197　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋9	①9.6　②5.7 ③2.1	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器肉厚い。体部浅く、外傾して開く。底部上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	蓋 須恵器	覆土	①(17.9)　② － ③現3.2	①砂粒含、やや粗。　②良好 ③灰白10YR7/1　④身部1/4強	摘欠損。接合面放射状に刻みあり。口唇部短く直立する。轆轤整形。天井部回転篦削り。	
3	坏 土師質	＋12	①14.8　②6.8 ③4.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の3/5	底部上げ底。体部ハの字状に湾曲。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	坏 土師質	－2	①14.9　②7.2 ③4.2	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④ほぼ完形	器形3に似る。体部下端若干括れる。器肉厚く、重い。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
5	鉢 土師器	＋10	①(18.1)　② － ③ －	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部片	器肉厚い。口唇部丸く、体部内湾する。 口縁部横撫で。体部篦削り。内面撫で。	

H－150号住居跡出土遺物観察表（図－198　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②5.1 ③2.7	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部3/4欠損	腰部膨らみ、口縁部で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	口唇部漆付着
2	皿 灰釉陶器	＋15	①15.9　②7.4 ③2.7	①密　②良好　③素地7.5Y8/1 ④口唇部2/5欠損	体部ハの字状に開き、唇部水平面形成。高台稜をもつ。轆轤整形。腰部回転篦削り。	施釉刷毛塗り。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰10Y⅘1 ④口縁部小片	頸部直線的に外傾し、唇部くの字状に屈曲する。 外面撫で後、9本一組波状文施文。	
4	甕 須恵器	覆土	——	①密　②酸化焔　③にぶい橙7.5 YR⅞4　④口縁部小片	口唇部で強く屈曲。 内・外面回転撫で。	

H－151号住居跡出土遺物観察表（図－199）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	＋7	①(14.0)　②(7.7) ③6.2	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③淡黄2.5Y⅞3　④全形の¼	体部下半丸く、口縁部で開く。高台高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
2	埦 土師質	覆土	①－　②(7.0) ③－	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③赤橙10R⅚8　④底部	つくり雑。高台端部片側はね上る。 轆轤整形。底部再調整。	
3	埦 内黒土器	覆土	①－　②(7.2) ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR⅞4　④底部	高台内側凹む。腰部張りをもつ。轆轤整形。 内面内黒処理後、篦磨き。底部再調整。	
4	埦 灰釉陶器	＋7	①－　②7.4 ③－	①密　②良好　③素地灰白5Y⅞1 ④底部	見込部釉あり。意図的かは不明。高台短く直立。 底部再調整。	
5	羽釜	周溝内	——	①白色粒含、粗い。　②良好 ③橙5YR⅙　④口縁部小片	鍔丸く小さい。形骸化。口縁部短く内傾、唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
6	羽釜	＋17	①(19.0)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR⅔　④口縁部¼弱	鍔水平に張り出す。口縁部短く内傾、唇部平坦。 口縁部横撫で。胴部回転撫で。	つくり丁寧

H－152号住居跡出土遺物観察表（図－201　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋4	①10.0　②5.0 ③2.6	①密　②良好　③浅黄橙10YR⅞3 ④完形	底部小さく、体部ハの字状に開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋6	①(9.5)　②5.8 ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR⅞4　④全形の½強、底部欠損。	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	＋10	①(9.4)　②4.5 ③3.0	①白色粒含、粗い。　②普通 ③浅黄橙10YR⅞3　④口唇部¾欠	底部小さく、体部中位膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部煤ける。
4	坏 土師質	住居外	①(15.8)　②(8.4) ③4.3	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR⅞3　④全形の⅓	体部直線的に外傾、口唇部シャープに鋭る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	やや大形の器形。
5	坏 土師質	＋2	①14.5　②7.7 ③4.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR⅞3　④体部⅓欠損	体部外傾するが、中位に膨らみをもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	＋1	①13.8　②7.5 ③4.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR⅞3　④ほぼ完形	器形2に似る。体部の膨らみ強い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	竈内	①15.7　②7.5 ③4.1	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR⅞3　④ほぼ完形	体部若干丸み。口縁部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	坏 土師質	竈内	①13.3　②6.6 ③4.3	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR⅞4　④口縁部⅓欠損	体部下半膨らみ、口縁部で外反する。口唇部薄い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	埦 土師質	住居外	①－　②7.4 ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR ⅝4　④底部	高台ハの字状にふんばる。内面篦磨き。 轆轤整形。底部再調整。	
10	小形埦 土師質	住居外	①(9.8)　②5.4 ③4.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR⅞3　④体部⅓欠損	体部下半丸く、口縁部で若干外反する。 轆轤整形。全面篦磨き。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
11	埦 内黒土器	＋7	①(15.6)　②－ ③－	①白色粒含、密。　②良好　③橙5YR6/6　④体部上半・高台欠	体部浅く、緩く内湾する。轆轤整形。内黒処理後、内～外面上半篦磨き。下半篦削り。	
12	埦 内黒土器	竈内	①15.3　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/5欠損	腰部キュッと締り、緩く外傾して開く。轆轤整形。内黒処理不完全。内～外面篦磨き。	
13	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④肩部小片	肩部大きく張る。外面平行叩き目。内面青海波状当て目。頸部撫で。	
14	羽釜	住居外	①(18.3)　②－ ③－	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④口縁部1/4	鍔小形。断面三角形。口縁部若干内傾する。唇部平坦。口縁部横撫で。内面回転撫で。	
15	甑 灰釉陶器	住居外	①－　②(14.5) ③－	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2　④底部1/3	高台部短く外傾後、内屈する。胴部緩く湾曲。轆轤整形。外面回転篦削り。	見込部へ釉飛びする。

H－153・156号住居跡出土遺物観察表（図－202）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 P-7	小形坏 土師質	－20	①9.3　②5.0 ③2.0	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄2.5Y8/3　④体部1/5欠損	体部浅く、ハの字に外傾。口縁部わずかに外反する。轆轤整形。底部回転糸切り。	H－153－2
2 P-7	小形坏 土師質	——	①9.7　②5.8 ③2.1	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部1/4欠	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H－153－3
3 P-7	小形坏 土師質	－13	①9.6　②4.4 ③2.5	①砂粒含、密。　②良好 ③明黄褐10YR7/6　④ほぼ完形	底部小さく、体部外傾して開く。中位若干の膨らみ。轆轤整形。底部回転糸切り。	H－153－1
1 H153	小形坏 土師質	覆土	①(9.5)　②4.8 ③2.5	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4	器形3に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H153	小形坏 土師質	位置不明	①9.5　②4.5 ③2.9	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部1/2欠損	底部小さく、突出。体部中位膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H153	小形坏 土師質	覆土	①10.2　②5.8 ③2.9	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部1/3欠損	底部～体部への変換点不明瞭。体部緩く湾曲。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
4 H153	坏 土師質	ピット内	①(14.2)　②5.3 ③4.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④体部3/4欠損	底部小さい。体部中位で膨らみ、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	内面煤ける。
5 H153	羽釜	貯蔵穴内	①(23.2)　②－ ③－	①白色軽石含、粗い。　②良好 ③橙5YR7/6　④1/3弱	鍔水平に張る。口縁部直立、唇部平坦。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	H－156－3
1 H156	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②5.0 ③2.8	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部5/6欠損	底部小さい。体部中位膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－154号住居跡出土遺物観察表（図－203）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	覆土	①(12.0)　②7.8 ③4.3	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部3/4欠損	体部浅く内湾。高台部ハの字にふんばる。端部平坦。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
2	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④底部小片	高台直立気味。施釉漬け掛け。 轆轤整形。	
3	埦 灰釉陶器	覆土	①－　②(8.6) ③－	①緻密　②良好　③灰白5Y8/1 ④底部1/3	高台若干外傾し、強くふんばる。断面U字状。 施釉痕あるが、釉とびする。	
4	皿 灰釉陶器	覆土	①－　②(7.6) ③－	①緻密　②良好　③灰白5Y8/1 ④底部小片	高台短く、丸い。施釉漬け掛け。 轆轤整形。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	鍔やや小形。断面三角形。口縁部若干内傾、唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
6	甕 土師器	覆土	——	①小石含、粗い。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④上半部小片	器肉厚い。口縁部短く外折、胴部膨らむ。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H－155号住居跡出土遺物観察表（図—204・205　図版—4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋11	①9.3　②5.0 ③2.6	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④完形	底部小さい。体部外傾して開き、中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	住居外	①9.0　②4.5 ③2.4	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④完形	器形1に似る。体部下半やや細身。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	P_1内	①8.9　②4.3 ③2.2	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④完形	器形1に似る。法量若干小さい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	＋18	①9.3　②4.7 ③2.6	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④完形	体部下半若干膨らむ。口縁部外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部外面吸炭
5	小形坏 土師質	住居外	①9.6　②4.3 ③2.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/2強	底部小さく、出尻気味。体部中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	周溝内	①(9.2)　②4.3 ③2.8	①密　②やや不良　③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	底部小さく、体部下半に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	＋14	①9.7　②4.5 ③2.9	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/3　④体部3/4欠	底部小さく、出尻。体部中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	周溝内	①(10.0)　②4.3 ③3.0	①密　②普通　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/2	底部小さく、柱状に突出。体部稜をもって外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	小形坏 土師質	周溝内	①(10.9)　②4.5 ③3.2	①白色粒含、密。　②普通 ③にぶい橙5YR7/4　④体部3/4欠	器形7に似る。法量的に若干大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	小形坏 土師質	住居外	①10.2　②5.5 ③2.7	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部1/3欠損	底部やや大きく、体部下半丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11	小形坏 土師質	＋11	①10.4　②5.8 ③2.6	①砂粒含、粗い。　②やや不良 ③淡黄2.5Y8/3　④ほぼ完形	底部大きく、体部への変換点不明瞭。体部外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
12	坏 土師質	竈内	①12.2　②5.3 ③4.1	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④ほぼ完形	底部～体部への移行点、平坦面形成。体部緩く内湾。中位に稜。轆轤整形。口縁部横撫で。	底部別つくり？。
13	小形埦 土師質	竈内	①10.8　②6.4 ③4.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部若干欠損	体部浅く、緩く内湾。高台短く外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
14	小形埦 土師質	竈内	①10.9　②5.8 ③4.3	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4欠損	器形13に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
15	小形埦 土師質	＋11	①11.3　②5.7 ③4.1	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/3欠損	体部緩く湾曲、中位で張る。高台部短く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
16	小形埦 土師質	＋14	①11.5　②6.0 ③4.0	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口唇部3/4欠損	体部中位で大きく張る。高台部短く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	体部轆轤目痕顕。
17	小形埦 土師質	住居外	①(10.5)　②(6.9) ③5.1	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/3 ④体部大半欠損	体部緩く湾曲。高台やや高く、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
18	埦 土師質	覆土	①(11.4)　②— ③体部4.5	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR6/4　④体部小片	体部内湾、口縁部で直立気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
19	埦 土師質	竈内	①(13.6)　②7.3 ③5.1	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部3/4欠損	体部丸く内湾。高台部短く外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
20	埦 土師質	――	①－　②6.8 ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④下半部	体部下半膨らむ。高台部短く外傾。 轆轤整形。底部再調整。	
21	埦 土師質	周溝内	①(14.6)　②8.5 ③6.4	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④体部3/4欠損	体部下半丸み。口縁部外反して開く。高い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
22	埦 土師質	＋3	①(13.6)　②8.5 ③6.3	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部3/4欠損	器形21に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
23	埦 土師質	＋9	①(14.6)　②(8.7) ③5.3	①白色粒含、ざらつく。　②やや不良　③橙7.5YR7/6　④全形の1/3	体部、高台部共にハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
24	埦 土師質	＋21	①14.5　②8.5 ③6.0	①白色軽石含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④高台部1/3欠損	器形23に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
25	埦 土師質	P_1内	①(15.5)　②8.9 ③6.9	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部1/5欠損	体部下半丸み、口縁部・高台部外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
26	甕 土師器	P_1内	①(24.2)　②－ ③－	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く外傾、肩部張りをもつ。 口縁部横撫で。一部指撫で痕。胴部篦削り。	器外面煤ける。
27	羽釜	＋42	――	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	鍔小さく、形骸化。口縁部短く内傾、唇部丸い。 口縁部横撫で。胴部外面指頭、内面篦撫で痕。	

H－159号住居跡出土遺物観察表（図－206）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	皿 須恵器	位置不明	①(13.2)　②6.6 ③3.0	①密　②普通　③にぶい黄橙10YR7/3　④体部3/4欠損	体部ハの字状に開き、高台部短く直立する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器肉やや厚い。
2	埦 須恵器	覆土	①－　②(7.2) ③－	①密　②良好　③灰白2.5GY8/1 ④下半部1/2	だれた短い高台。体部若干膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	甕 土師器	覆土	①(19.5)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ③口縁部1/2	口縁部短く直立後、上端で外折する。肩部若干張る。口縁部横撫で。一部指頭痕。肩部篦削り。	

H－161号住居跡出土遺物観察表（図－209　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	壁際	①9.1　②5.0 ③2.3	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④ほぼ完形	底部～体部への変換点不明瞭。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋12	①9.4　②4.2 ③2.6	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	底部小さく、体部中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①(10.2)　②5.0 ③2.6	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/4　④体部3/4欠損	底部小さい。体部緩く湾曲、口縁部外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	竈内	①10.2　②5.2 ③2.4	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR6/6　④完形	体部下端括れる。体部ハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	＋16	①10.4　②6.0 ③3.1	①小石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/8　④体部1/4欠損	体部やや深い。緩く湾曲、口縁部若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	位置不明	①11.4　②5.5 ③2.6	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④完形	体部下端若干括れ、中位稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
7	小形坏 土師質	覆土	①(12.1)　②6.5 ③3.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部下半欠	体部下半丸みをもつ。上半で緩く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	糸切り後未調整。
8	小形坏 土師質	位置不明	①12.1　②5.0 ③3.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③淡橙5YR8/4　④ほぼ完形	底部小さく、体部下半張る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	糸切り後未調整。
9	小形坏 土師質	竈内	①11.7　②5.8 ③4.2	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部1/2欠損	体部深く、下半細身。中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	托 土師質	壁際	①10.2　②3.9 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④ほぼ完形	底部柱状に突出する。体部強くハの字状に外傾する。轆轤整形。底部回転糸切り。	
11	坏 土師質	竈内	①14.1　②6.8 ③4.2	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④体部1/2欠損	底部若干上げ底。体部内湾し、口縁部で開く。轆轤整形。口縁部横撫で。内面篦磨き。	器肉薄い。
12	坏 土師質	竈内	①14.5　②6.5 ③4.3	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④体部2/5欠損	底部小さく、体部緩く湾曲。口縁部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	坏 土師質	竈内	①(15.2)　②6.7 ③4.2	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④体部2/3欠損	器形12に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
14	坏 土師質	竈内	①(14.2)　②(7.4) ③4.7	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部約1/2	体部深い。下半膨らみ、口縁わずかに外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
15	坏 土師質	覆土	①13.8　②6.8 ③5.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/5欠損	体部深い。腰部丸み。体部直立気味に立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	糸切り痕体部はみ出し
16	小形埦 土師質	竈内	①10.1　②6.0 ③4.3	①白色軽石含、やや粗い。　②良好　③橙5YR6/6　④ほぼ完形	体部中位張る。高台ハの字状に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
17	埦 内黒土器	竈内	①(15.2)　②7.1 ③6.6	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④体部1/2欠損	体部深く、下半丸み。高台短く外反、端部平坦。 轆轤整形。口縁部横撫で。内面黒色処理後篦磨き。	口縁部外面篦磨き痕。
18	埦 土師質	竈内	①(14.5)　②(8.1) ③6.4	①白色粒含、密。　②良好　③橙2.5YR6/6　④体部・高台部1/2欠	腰部張り、上半で外傾して開く。高台部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
19	埦 土師質	＋10	①(14.7)　②8.5 ③6.0	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部2/3欠	体部緩く湾曲、口縁部で強く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
20	埦 土師質	竈内	①(15.0)　②8.5 ③5.6	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④体部3/4欠損	腰部やや張り、体部ハの字状に外傾する。 轆轤整形。体部上半横撫で。底部再調整。	内面漆付着か。
21	埦 土師質	竈内	①(15.0)　②8.8 ③5.8	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部1/2欠損	体部緩く外傾して開く。高台部ハの字状。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部糸切り痕残る。	
22	埦 土師質	覆土	①(14.2)　②— ③—	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部1/2強	器形21に似る。体下半部やや細身。 轆轤整形。調整雑。	
23	埦 土師質	竈内	①(15.8)　②8.2 ③5.8	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④体・高台1/3欠	体部ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
24	埦 土師質	竈内	①14.8　②7.6 ③6.2	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部1/3欠損	腰部若干張る。体部ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台貼付後調整雑。
25	埦 土師質	竈内	①(15.2)　②— ③—	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/8　④体部約1/3	腰部強く張るか。体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
26	羽釜	覆土	①(16.6)　②— ③15.5	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の2/5弱	小形の器形。口縁部強く内傾、鍔小さい。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
27	鏃 鉄製品	位置不明	現存長9.8　鏃身長6.8　　身部先端尖る。身部より篦被端部に向ってシャープに屈曲する。 厚0.2　篦被幅0.7　厚0.4　　鏑の有無は不明。			

H－162・172・178・179号住居跡出土遺物観察表（図－211）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H162	小形坏 土師質	位置不明	①10.1　②6.5 ③2.4	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	底径大きく、体部浅い。体部緩く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	唇部タール状付着。
2 H162	小形坏 土師質	位置不明	①(10.8)　②5.2 ③2.9	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2欠	底径小さく、体部丸く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H162	埦 内黒土器	位置不明	①－　②8.2 ③－	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④底部	高台部ハの字状に外傾。器肉やや厚い。 轆轤整形。内黒処理。底部再調整。	
4 H162	埦 灰釉陶器	位置不明	①－　②(7.2) ③－	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1 ④底部1/2	高台短く外傾。漬け掛け。 轆轤整形。腰部再調整。	
5 H162	紡錘具 土師質	位置不明	径5.3×4.9 厚1.4　孔径1.0	①砂粒多く、ざらつく。　②普通 ③にぶい橙5YR6/4　④完形	埦形態の転用とみられる。底部側からの貫通。轆轤整形。糸切り痕の痕跡あり。	
1 H172	小形坏 土師質	覆土	①7.2　②4.5 ③1.8	①黒色針状鉱物含。　②やや不良 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の2/3	極めて小さい器形。底部～体部への変換点シャープ。直線的。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H172	小形坏 土師質	覆土	①8.9　②5.2 ③1.7	①黒色針状鉱物含。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/2強	体部浅く、直線的に外傾。底部～体部への変換点シャープ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H172	小形坏 土師質	覆土	①(8.7)　②5.7 ③1.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④全形の1/3	体部浅く、底径大きい。直線的に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H172	小形埦 土師質	周溝内	①9.0　②現5.6 ③－	①細石含、密。　②普通 ③黄橙10YR8/6　④高台部欠損	体部直線的に外傾。高台貼付痕残る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5 H172	坏 土師質	覆土	①(14.4)　②(6.0) ③4.8	①密　②還元焔　③黄灰2.5Y4/1 ④小片	体部深く、直線的に外傾。底部小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6 H172	埦 土師質	覆土	①14.6　②(7.0) ③5.5	①小石含、密。　②良好　③黄橙7.5YR7/8　④全形の3/4	体部下半膨らみ、口縁部緩く外反。高台部若干高い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
7 H172	羽釜	覆土	——	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部小片	鍔水平に張り出し、肉薄。口縁部直立、端部内傾。口縁部横撫で。胴部紐痕顕。内面回転撫で、指撫で。	
1 H178	小形坏 土師質	覆土	①9.6　②5.0 ③2.8	①白色軽石含、ざらつく。　②普通　③浅黄2.5Y7/3　④全形の2/3	底部小さく、体部丸く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
1 H179	小形坏 土師質	床面	①10.0　②5.2 ③3.0	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部一部欠損	体部やや直線的に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H179	小形坏 土師質	P内	①9.6　②5.5 ③3.0	①白色軽石、小石含。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	底径小さく、体部丸く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H179	小形埦 土師質	覆土	①10.8　②5.8 ③3.6	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④体部3/4欠損	体部下半膨らみ、口縁部で外傾する。高台部短く外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
4 H179	小形埦 土師質	覆土	①(11.5)　②5.7 ③5.3	①砂粒含、密。　②普通　③にぶい黄橙10YR7/3　④体部大半欠損	体部丸く、口縁部若干外反。高台端部で外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H179	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部小片	鍔断面三角形。張り出し強い。口縁部短く内傾。口縁部横撫で。鍔直下～胴部篦削り。	

H－163号住居跡出土遺物観察表（図－212・213）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋16	①(9.7)　②5.1 ③2.6	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④体部3/4欠損	底径小さく、体部直線的に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
2	小形坏 土師質	P_1内	①9.5　②4.8 ③2.7	①砂粒含、密。　②普通　③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	体部下半若干膨らみ、外傾して開く。 轆轤整形。体部大半横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①9.9　②6.0 ③2.3	①白色軽石、小石含、密。　②普通　③浅黄橙10YR8/3　④完形	底径小さく、体部浅い。直線的に外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	＋38	①(10.0)　②4.8 ③2.8	①砂粒含、密。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2欠損	体部直線的に外傾、中位若干張る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部器肉厚い。
5	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②5.0 ③3.0	①小石含、粗い。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/6欠	底径小さく、体部中位膨らむ。底部突出気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	＋36	①10.5　②5.5 ③2.6	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/5欠	器形3に似る。中位で若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	覆土	①10.7　②5.8 ③3.0	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	底部～体部への変換点不明瞭。体部下半膨らむ。 轆轤整形。見込部←方向指撫で。底部回転糸切り。	
8	埦 内黒土器	住居外	①(14.5)　②7.3 ③5.2	①石含、密。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部3/4欠損	体部下半膨らむ。高台短く直立。轆轤整形。口縁部横撫で。内面黒色処理後、篦磨き。	
9	埦 内黒土器	——	①—　②5.9 ③—	①密　②良好　③にぶい褐7.5YR6/3　④底部	高台部断面三角形、短く直立する。轆轤整形。内面黒色処理後、篦磨き。底部回転糸切り。	
10	小形埦 土師質	覆土	①(11.5)　②6.7 ③4.2	①小石含、密。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/3欠損	体部下半膨らみ、口縁部緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部中央糸切り痕残。	
11	小形埦 土師質	位置不明	①—　②6.5 ③—	①小石含、密。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	器形10に似。セットか。 轆轤整形。底部中央糸切り痕残。	
12	埦 土師質	覆土	①13.0　②— ③—	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3、高台端欠。	体部緩く湾曲、口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部外面黒色処理？。	
13	埦 土師質	覆土	①(13.5)　②— ③—	①白色軽石含、密。　②良好　③橙5YR7/6　④体部5/6、高台端欠。	体部中位膨らみ、口縁部外反する。器肉一定。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
14	埦 土師質	＋42	①(13.7)　②8.3 ③5.7	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/4弱	体部下半膨らみ、口縁部、高台部強く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
15	埦 土師質	覆土	①(16.0)　②9.8 ③7.1	①小石含、粗い。　②普通　③浅黄橙10YR8/4　④体部1/6高台1/2欠	高い高台。体部膨らみ、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部深く大形。
16	埦 土師質	P_1内	①—　②(13.0) ③—	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④高台部1/3	高台高く、端部で若干外反する。大形の器形。轆轤整形。	
17	埦 灰釉陶器	P_1内	①12.5　②7.0 ③4.0	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2　④体部2/3欠損	体部緩く、湾曲して立ち上る。高台短く外傾。断面U字状。漬け掛け。轆轤整形。底部再調整。	
18	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　②素地灰白2.5Y7/1　④底部1/3	高台部直立気味。漬け掛け。17より大振りか。 轆轤整形。底部回転篦削り調整。腰部篦削り。	
19	埦 緑釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白7.5Y7/1　④底部小片	釉薬にぶい淡緑色。 轆轤整形。	
20	羽釜	覆土	——	①白色軽石含、粗い。　②やや不良。　③にぶい橙7.5YR7/4　④小片	口縁端部U字状。鍔水平に張り出すか。 口縁部横撫で。	

H－164号住居跡出土遺物観察表（図－215）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(9.1)　②(4.0) ③2.7	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部5/6欠損	底径小さく、体部直線的に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
2	小形坏 土師質	覆土	①(10.1)　②(4.7) ③3.3	①砂粒含、密。　②良好　③橙5YR6/6　④全形の1/6	底径小さく、体部丸く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 土師質	覆土	①(15.7)　②(6.6) ③5.1	①緻密　②良好　③浅黄2.5Y8/4 ④全形の1/3	体部深く、直線的に外傾する。底径小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 土師質	覆土	①(14.0)　②(6.5) ③4.6	①密　②還元焔　③灰白5Y7/1 ④全形の1/2弱、体部上半大半欠損	だれた短い高台。体部下半膨らみ、口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	埦 土師質	位置不明	①15.6　②現7.4 ③ —	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④体部2/5、高台欠	体部深く、下半若干膨らむ。口縁部外反。 轆轤整形。轆轤目細い。工具使用か。	
6	埦 内黒土器	覆土	①—　②(8.5) ③—	①小石含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	高台部シャープに外傾。轆轤整形。内面黒色処理後、篦磨き。	
7	皿 灰釉陶器	位置不明	①12.5　②7.3 ③2.3	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④全形の1/2弱	体部ハの字状。高台短く内傾する。重ね焼痕。漬け掛け。轆轤整形。口縁部再調整。	
8	鉄滓	覆土	長8.9　幅8.9 厚5.6　重量275g	断面半円形。凸面海綿状、一部壁材付着。地肌は粗鬆。色調は青茶褐色を呈す。 マグネットの反応はにぶい。		
9	羽釜	覆土	——	①白色軽石粒含、粗い。　②不良 ③浅黄橙10YR8/3　④口縁部小片	鍔断面U字状。口縁部直立気味。唇部丸い。 口縁部横撫で。内面指撫で。	

H－165号住居跡出土遺物観察表（図－217　図版－4）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	位置不明	①9.5　②5.0 ③2.7	①石英含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④完形	体部下半細身、中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	位置不明	①9.2　②4.5 ③2.7	①石英含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/8　④完形	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	位置不明	①(8.8)　②4.9 ③2.4	①密　②良好　③浅黄2.5Y8/3 ④全形の1/4弱	体部直線的に外傾。底部～体部への変換点明瞭。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	位置不明	①(9.5)　②4.7 ③3.0	①白色軽石含、やや粗い。　②良好　③橙5YR7/6　④完形	体部丸く内湾、口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	位置不明	①9.4　②4.5 ③2.6	①白色軽石含、やや粗い。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④1/5	体部下半丸み、口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	覆土	①(10.5)　②5.5 ③2.8	①白色軽石含、ざらつく。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④2/5弱	器形4に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	覆土	①(14.9)　②7.2 ③3.6	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④全形の1/4	底部～体部への変換点シャープ。体部直線的に外傾。轆轤整形。底部回転糸切り。	
8	段皿 灰釉陶器	位置不明	①12.2　②7.1 ③2.1	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④体部1/3欠損	小さい器形。高台部短く直立。口縁部膨らむ。漬け掛け。轆轤整形。底部回転篦削り調整。	
9	瓶 灰釉陶器	位置不明	①—　②9.9 ③—	①密　②良好　③素地灰白7.5Y8/2　④下半部	断面台形状の短い高台。胴部緩く内湾して立ち上る。轆轤整形。胴部下半回転篦削り。	
10	甕 土師器	覆土	①(22.4)　②— ③—	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④上半部1/4	器肉厚い。口縁部短く外傾。胴上端接合紐痕有。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で痕。	

H－166号住居跡出土遺物観察表（図―218　図版―４）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	－８	①8.6　②4.8 ③2.1	①密　②良好　③淡黄2.5Y$^{8}/_{4}$ ④体部$^{1}/_{4}$欠損	体部直線的に外傾。底部～体部への変換点明瞭。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	見込中央凹む。
2	小形坏 土師質	覆土	①(9.0)　②4.8 ③2.1	①密　②良好　③浅黄橙10YR$^{8}/_{4}$ ④全形の$^{1}/_{2}$	器形１に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	見込中央凹む。
3	小形坏 土師質	－８	①8.0　②4.5 ③2.4	①密　②良好　③浅黄橙10YR$^{8}/_{4}$ ④完形	器形１に似る。体部下端若干括れる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	見込中央凹む。
4	小形坏 土師質	覆土	①(12.8)　②(7.0) ③4.1	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR$^{7}/_{4}$　④全形の$^{1}/_{3}$	体部外傾して開き、中位で若干膨らむ。口縁部シャープ。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	H－169―雑
5	埦 土師質	覆土	①(16.6)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR$^{7}/_{3}$　④全形の$^{2}/_{3}$弱	体部下半細く括れる。上半部緩く湾曲して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	不明 鉄製品	－13	現存長10.1　幅0.8 厚0.5	片側端部先細り。断面扁平。錆化している。鏃か。		
7	甕 土師器	－７	――	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR$^{6}/_{4}$　④口縁部小片	口縁部短く外傾する。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	

H－167号住居跡出土遺物観察表（図―219　図版―４）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	位置不明	①9.0　②5.2 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好 ③橙５YR$^{6}/_{6}$　④完形	底径大きく、体部浅い。体部下半膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①9.6　②5.4 ③2.1	①砂粒含、密。　②良好　③橙2.5YR$^{6}/_{6}$　④口縁部若干欠損	体部浅く、外傾して開く。底部～体部への変換点明瞭。轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①9.9　②5.7 ③1.8	①砂粒含、密。　②良好 ③橙５YR$^{6}/_{6}$　④完形	体部浅く、皿形。体部下端括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－168号住居跡出土遺物観察表（図―221　図版―４・５）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	－７	①11.5　②－ ③3.3	①密　②良好　③橙7.5YR$^{7}/_{6}$ ④全形の$^{1}/_{2}$	体部浅く、緩く内湾。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
2	坏 土師器	－７	①(12.3)　②－ ③－	①密　②良好　③橙５YR$^{7}/_{6}$ ④上半部$^{1}/_{3}$	器形１に似る。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②4.7 ③2.0	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR$^{7}/_{4}$　④口縁部若干欠損	体部緩く湾曲して外傾、中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①9.5　②4.9 ③2.5	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR$^{7}/_{4}$　④体部$^{7}/_{8}$欠損	器形１に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	＋４	①9.6　②4.8 ③2.7	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙５YR$^{7}/_{4}$　④ほぼ完形	体部ハの字状に外傾して開く。器肉やや厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	甕 土師器	覆土	――	①軽石粒含、粗い。　②良好　③にぶい橙7.5YR$^{7}/_{3}$　④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く外反する。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	接合紐痕有。
7	甕 土師器	＋４	――	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR$^{7}/_{4}$　④口縁部片	肩部若干張る。口縁部上半で緩く外反。器肉一定。 口縁部横撫で。胴部篦削り。口縁部器皺あり。	
8	土製円板 土師質	＋４	径4.1×4.0 厚1.8	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR$^{8}/_{3}$　④完形	托形態底部転用か。側面面取りされる。片側に回転糸切り痕。同面片側寄りに未貫通の孔穿つ。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9	紡錘具 土師質	覆土	径6.3×6.0 厚1.8　孔径0.8	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④完形か	塊形態の転用。高台端、体部周縁に加工痕。 中央部、表裏2方向より穿孔される。	
10	羽釜	覆土	①(21.6)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④口縁部1/3弱	小さく形骸化した鍔。最大径は胴上半にある。 口縁部短く内傾。胴部紐つくり後簡略な撫で。	

H－169号住居跡出土遺物観察表（図－222）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①8.9　②5.3 ③1.8	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④体部3/4欠損	体部浅く、ハの字状に外傾する。中位に稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②4.6 ③3.0	①白色軽石含、密。　②良好　③に ぶい赤褐2.5YR5/4　④ほぼ完形	底部小さく、体部ハの字状に外傾。中位で稜をも つ。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	埦 内黒土器	覆土	①－　②6.0 ③－	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③黄橙10YR8/6　④底部	腰部に張りをもつ。高台部短く外反する。轆轤整 形。底部再調整。内面内黒後篦磨き。	
4	埦 土師質	覆土	①－　②(8.9) ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④下半部	足高高台。腰部に若干の張りをもつ。 轆轤整形。底部再調整。	
5	埦 土師質	竈内	①－　②(7.4) ③－	①白色軽石含、ざらつく。　②良 好　③橙7.5YR7/6　④下半部	体部丸みをもつ。高台緩く外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白2.5Y 7/1　④底部小片	高台部直線的。施釉漬け掛け。重ね焼痕あり。 轆轤整形。腰部回転篦削り調整。	
7	壺 須恵器	覆土	——	①やや粗、混入物多。　②良好 ③灰白5Y7/2　④底部小片	断面台形状の短い高台をもつ。自然釉付着。 轆轤整形。胴下半回転篦削り。	
8	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く外反。 口縁～胴上半回転撫で。内面指・篦撫で。	
9	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④頸部～肩部片	肩部強く張り、頸部で外反する。外面平行叩き目 痕認む。頸部波状文。内面当て目痕。	

H－170号住居跡出土遺物観察表（図－225　図版－5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(9.1)　②5.1 ③2.1	①密　②良好　③黄橙10YR8/6 ④体部3/5欠損	底部やや凸状。体部ハの字状に外傾。中位に稜。 轆轤整形。底部回転篦切り後、手持ち篦削り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①(10.1)　②(5.0) ③2.6	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR7/4　④全形の1/3	体部膨らみ、上半部外傾して開く。底部やや上げ 底。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	P内	①(9.9)　②5.7 ③2.9	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④体部2/3欠損	体部下端で若干括れ、上半で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	段皿 灰釉陶器	－1	①10.8　②5.8 ③2.2	①密　②良好　③素地5Y8/2 ④体部3/5欠損	小形の器形。高台部弱く稜をもつ。体部わずかに 膨らむ。轆轤整形。底部回転糸切り。漬け掛け。	
5	小瓶 灰釉陶器	P内	①－　②4.9 ③(10.0)	①緻密　②良好　③素地灰白5Y 7/1　④頸部上半欠損	平底。胴部中位最大径。頸部細身。施釉漬け掛け。 轆轤整形。体部下端手持ち篦削り。回転糸切り。	
6	甕 土師器	－1	①(20.5)　②－ ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④上半部小片	胴部緩く内湾、上半で張る。口縁部短く外反。器 肉厚い。紐つくり痕顕。口縁部～胴上半横撫で。	外面煤状付着 物
7	羽釜	－6	——	①白色粒含、密。　②良好　③橙 7.5YR6/6　④口縁部小片	鍔水平に張り出す。口縁部長く、直立気味。 口縁部横撫で。鍔下より篦削り。	紐つくり痕あ り。

H－171号住居跡出土遺物観察表（図－226）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(10.7)　②5.5 ③3.1	①酸化鉄、白色粒含、粗い。　②良好　③浅黄橙10YR8/4　④体部5/5欠	底部柱状、下端部未調整のため反る。体部ハの字状。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	皿 灰釉陶器	覆土	①(11.6)　②(6.2) ③2.6	①密　②良好　③素地灰白5Y7/1 ④全形の2/5	高台部短く、わずかに稜をもつ。体部外傾して開く。漬け掛け。轆轤整形。口縁部再調整。	
3	鞴羽口	覆土	現長9.2　幅8.2 孔径2.6	①密、スサ含。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④先端部1/3	長軸の短い形態か。先端部海綿状に気泡あく。波状に焼成痕。	

H－173号住居跡出土遺物観察表（図－227）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	覆土	①－　②6.0 ④－	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④底部	体部下半丸み。高台部短く外反。接地面平坦。 轆轤整形。底部再調整。	
2	埦 須恵器	覆土	①－　②現5.9 ③－	①密　②良好、いぶし焼きか。 ③灰7.5Y4/1　④底部1/2	高台部欠損する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

H－174号住居跡出土遺物観察表（図－228）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	＋40	①－　②6.0 ③－	①密　②良好　③灰白5Y8/2 ④底部	体部下半直線的に外傾。底部平底。外面墨書判読不明。轆轤整形。底部回転糸切り。	底部「－」篦記号か。
2	皿 須恵器	覆土	①(13.9)　②現5.5 ③－	①密　②普通　③浅黄2.5Y7/3 ④体部5/6・高台部欠損	体部強くハの字状に外傾、唇部水平となる。口縁部内側凹む。轆轤整形。口縁部横撫で。	
3	甕 土師器	＋40	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④底部小片	器肉厚い。内面輪積み痕。外面篦磨き。底部篦磨き。中央部叩き目状の圧痕。	

H－175号住居跡出土遺物観察表（図－229）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④小片	体部緩く湾曲、口縁部で外傾する。やや大形器形。 口縁部横撫で。体部篦削り。	
2	坏 須恵器	覆土	①(13.4)　②5.9 ③3.6	①密　②良好　③灰白5Y7/2 ④体部3/4欠損	底径小さく、体部直線的に外傾する。底部外面墨書「主」か。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
3	甕 土師器	覆土	①(20.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④口縁部1/5	口縁部コの字状。肩部張る。口縁部横撫で。肩部篦削り。	

H－176号住居跡出土遺物観察表（図－230　図版－5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	－4	①9.2　②4.5 ③2.9	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④完形	底部小さく、体部丸く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①(9.8)　②4.5 ③2.8	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部5/6欠損	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	竈内	①9.2　②5.6 ③2.8	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁若干欠	底径1・2より大きく、体部への変換点不明瞭。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4	坏 土師質	覆土	①(15.8)　②(6.2) ③4.8	①白色軽石含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/6　④体部2/3欠	底部小さく、突出気味。体部緩く湾曲、口縁部で開く。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
5	小形皿 土師質	覆土	①(9.6)　②5.0 ③3.0	①白色軽石含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部2/3欠損	体部、高台部共にハの字状に外傾。体部中位に稜。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
6	小形皿 土師質	覆土	①(11.2)　②5.0 ③2.6	①白色軽石粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④体部1/2欠損	体部極めて強く外傾。体部高浅く、托状をなす。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
7	埦 灰釉陶器	周溝内	①12.5　②7.0 ③3.7	①密　②良好　③素地灰白10YR7/1　④ほぼ完形	高台部短く直立。体部緩く湾曲、比較的浅い。見込部及び高台内側墨入れに使用。漆痕顕著。	漬け掛け。
8	段皿 灰釉陶器	－4	①(14.5)　②(7.8) ③2.2	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④全形の1/3	高台部短く、稜をもつ。断面U字状。内側に沈線状の痕跡。漬け掛け。轆轤整形。底部再調整。	
9	土製円板 土師質	覆土	径4.5×3.5 厚1.2	①白色粒含、密。　②良好 ③灰褐5YR5/2　④完形	埦形態の転用。側面面取り状に加工し、平滑化する。	
10	羽釜	竈内	——	①砂粒含、粗い。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④上半部1/8	小さく形骸化した鍔。口縁部内傾し、上端平坦。口縁～胴上半回転撫で。下半篦削り。	

H－177号住居跡出土遺物観察表（図－231）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋1	①8.8　②5.4 ③1.9	①密　②良好　③明黄褐10YR7/6 ④ほぼ完形	体部浅く、ハの字状に外傾する。口唇部一個所内側へ折れる。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋17	①9.0　②5.7 ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇一部欠損	器肉やや厚い。体部浅く、ハの字状に外傾。轆轤整形。底部回転糸切り。	形いびつ
3	小形坏 土師質	＋11	①8.8　②4.8 ③2.3	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④ほぼ完形	器肉厚い。体部ハの字状に外傾。轆轤整形。底部回転糸切り。端部未調整。	
4	小形坏 土師質	覆土	①(8.7)　②(4.4) ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の2/5	体部緩く湾曲、上半で外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①(8.8)　②4.5 ③3.0	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④全形の1/2強	体部深く、ハの字状に外傾。底部器肉厚い。轆轤整形。底部回転糸切り。	つくり雑。
6	坏 土師質	＋1	①12.8　②7.4 ③3.8	①ざらつく　②普通　③淡黄2.5Y8/4　④口縁部1/4欠損	底部やや幅広。体部外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	＋26	①14.0　②7.6 ③4.6	①密　②良好　③明黄褐10YR7/6 ④全形の2/3	体部下端若干膨らみ、緩く外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形埦 土師質	＋17	①(10.2)　②5.7 ③4.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部2/3欠損	体部緩く湾曲。高台部短く外反する。轆轤整形。底部再調整。	
9	小形埦 土師質	壁際	①11.0　②6.1 ③4.0	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部2/3欠損	腰部張る。体部緩く湾曲し、口縁部で若干外反する。轆轤整形。底部再調整。	つくり雑
10	皿 灰釉陶器	覆土	①10.0　②4.7 ③2.4	①密　②良好　③素地灰白10Y8/1 ④全形の1/5	小形の器形。だれた台形状の短い高台。轆轤整形。施釉漬け掛け。	重ね焼痕
11	甕 土師器	＋1	——	①小石含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部1/5	胴部下半細身か。上半で緩く湾曲、口縁部短く外反。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面指撫で。	

H—181・182号住居跡出土遺物観察表（図—234・235）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H181	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②— ③1.9	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④全形の1/4弱	体部浅く、底径大きい。体部一部内側に折れる。 耳皿の可能性あり。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H181	坏 土師質	覆土	①(14.0)　②6.2 ③3.2	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/3	体部下半膨らみ、底部への変換点不明瞭。口縁部 外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。	
3 H181	坏 土師質	覆土	——	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/5弱	底部～体部への変換点明瞭。口縁部緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫でか。底部回転糸切り。	
4 H181	托 土師質	覆土	①9.8　②4.1 ③2.3	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	底部柱状。体部ハの字状に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H181	埦 灰釉陶器	位置不明	①10.1　②5.0 ③3.5	①密　②良好　③素地灰白10YR 7/1　④全形の1/2弱	小形の器形。体部丸く湾曲。高台部厚くU字状。 口縁部若干膨らむ。施釉漬け掛け。轆轤整形。	
6 H181	土製円板	覆土	径6.9×6.2 厚1.2	①密、白色軽石含。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④ほぼ完形	埦形態の転用。側面平滑化する。見込部研磨？の 痕跡あり。	
7 H181	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/3　④口縁部小片	鍔は小さく形骸化する。口唇部平坦。 口縁部横撫で。胴部紐つくり後指撫でか。	
8 H181	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	鍔断面U字状。張り出しは弱い。口唇部平坦。 口縁部横撫で。胴部撫で調整か。	
1 H182	小形坏 土師質	＋9	①8.7　②5.1 ③2.2	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④完形	体部浅い。中位で若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2 H182	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②5.4 ③2.1	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④完形	器形1に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H182	坏 土師質	＋6	①13.9　②6.6 ③3.9	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口縁部2/5欠損	体部下半括れ、中位で膨らむ。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4 H182	坏 土師質	覆土	①14.9　②7.6 ③3.8	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口縁部1/3欠損	体部下半膨らむ。底部への変換点不明瞭。口縁部 外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
5 H182	小形埦 土師質	＋12	①10.5　②5.2 ③5.2	①ざらつく。　②普通　③浅黄橙 10YR8/4　④ほぼ完形	体部中位で膨らむ。やや高めの高台、外傾して開 く。轆轤整形。口縁部横撫で。	つくり雑。
6 H182	小形埦 土師質	－5	①11.6　②— ③体部高3.6	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部1/4強	5より幅広。形態は5に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
7 H182	埦 土師質	覆土	①(14.5)　②— ③体部高4.2	①白色軽石含、ざらつく。　②良 好　③橙5YR6/6　④体部3/5	体部緩く湾曲、中位で膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
8 H182	埦 土師質	覆土	①(15.3)　②(8.0) ③5.6	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄 橙7.5YR8/3　④全形の1/3	体部下半膨らみ、緩く湾曲。高台部器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台貼り付け雑。	
9 H182	埦 土師質	覆土	①(13.5)　②— ③4.5	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/3　④体部1/5欠	体部下半膨らみ、上半直立気味。足高の高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
10 H182	埦 土師質	覆土	①16.1　②6.8 ③6.1	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/3強	下部下半強く張り出し、口縁部で若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。直立気味の高い高台。	
11 H182	小壺 ミニチュア	覆土	①(3.6)　②— ③3.5	①密　②普通　③にぶい黄橙10 YR7/2　④全形の1/2	用途不明。底部丸く、口唇部平坦。 底～体部指撫で痕。	
12 H182	耳皿 土師質	覆土	①8.5　②4.9 ③3.3	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR 8/3　④完形	体部2側面内側へ折れ、耳皿状。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
13 H182	土製円板	覆土	径5.4×4.5 厚0.8	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/6　④ほぼ完形か。	坏形態の転用。楕円形で、側面打ち欠き、面取り する。一部平滑化。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
14 H182	紡錘具 土製	覆土	径4.6×4.6 厚1.5　孔径0.8	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④完形	短径面回転糸切り痕。長径面弱く凹む。 器面平滑。	
15 H182	甕 土師質	－5	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④口縁部小片	器肉厚い。口縁部短く外傾。口縁部横撫で。 胴部篦削り。内面指撫で。	H—181—12
16 H182	甕 土師質	－5	——	①小石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④上半部小片	肩部若干張り、口縁部短く外傾。 口縁部撫で。胴部篦削り。内面指撫で。	
17 H182	甕 土師器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④底部小片	15・16形態の底部か。 雑な横撫で。端部未調整の為、一部くの字状。	
18 H182	瓶 灰釉陶器	覆土	——	①緻密　②良好　③素地灰黄2.5Y7/2　④口縁部小片	頸部外反後、短く直立する。 轆轤整形。施釉漬け掛けか。	
19 H182	羽釜	覆土	——	①小石含、粗い。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④上半部小片	器肉厚い。鍔張り出し強い。口唇部丸い。 口縁部・内面指撫で。胴部篦削り。内面接合痕顕。	
20 H182	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部小片	鍔小さく、張り出し弱い。口縁部やや長く、端部内屈。口縁部横撫で。胴部篦削り。内回転撫で。	
21 H182	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口縁部小片	鍔小さい。口縁部長く、唇部平坦。 口縁部～胴上半横撫で。	

H－183号住居跡出土遺物観察表（図－237）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(8.5)　②(5.8) ③2.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/4弱	体部浅い。体部ハの字状に外傾する。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①(8.3)　②(5.5) ③2.4	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/3	体部浅く、下端若干括れる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①(9.5)　②(6.0) ③2.6	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	器形2に同じ。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①(9.5)　②5.1 ③2.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④体部2/3欠損	体部浅く、ハの字状に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	坏 土師質	覆土	①(15.5)　②(7.8) ③4.4	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/4	体部ハの字状に外傾、底部若干突出気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	覆土	①－　②(5.9) ③－	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部1/3	体部緩く湾曲。轆轤目顕著。内黒処理か。 轆轤整形。底部回転糸切り。端部未調整。	
7	坏 土師質	覆土	①－　②6.6 ③－	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄2.5Y7/3　④底部	轆轤整形。底部回転糸切り。端部未調整。	
8	埦 内黒土器	覆土	①－　②(7.1) ③－	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④底部	高台部短く外反。高台貼り付け雑。轆轤整形。底部回転糸切り。内面内黒処理後篦磨き。	内面篦書き「大」か。
9	埦 土師質	覆土	①－　②(5.9) ③－	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④底部	高台部小さい。弱く外反して開く。 轆轤整形。底部再調整。	
10	小形皿 土師質	覆土	①(9.5)　②6.0 ③3.1	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/2　④体部1/5欠	小形の器形。体部ハの字状。高い高台外反して開く。轆轤整形。高台貼り付け後、底部再調整。	
11	小形皿 土師質	覆土	①(9.6)　②(6.3) ③3.3	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部7/8欠損	高台部10より肉厚。 轆轤整形。	
12	小壺 ミニチュア	覆土	①5.0　②2.9 ③2.9	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④完形	底部平底。体部緩く湾曲。口唇部鋭る。 内外面篦磨き。底部回転糸切り痕の痕跡あり。	研磨土器

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
13	羽釜	覆土	——	①砂粒含、密。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部	つくり雑。口縁部紐つくり痕あり。鍔側面穿孔痕。 孔径0.4cm。	

H－184号住居跡出土遺物観察表（図－238）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(9.2)　②(5.5) ③2.0	①白色軽石含、密。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④全形の1/5強	体部浅い。外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	覆土	①8.4　②5.2 ③2.4	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④完形	体部浅い。底端部未調整の為、一部凸状。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①8.5　②5.5 ③1.7	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/5欠	1・2より体部浅い。内面煤状付着物。灯明具として使用か。轆轤整形。回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①9.1　②5.7 ③1.9	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部2/3欠損	器形3に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①9.2　②5.4 ③1.9	①密　②普通　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部1/6欠損	器形4に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	小形埦 土師質	覆土	①(8.8)　②5.6 ③3.8	①小石含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口部2/3欠	体部下半張り、外傾して開く。高台部小さく外反。 轆轤整形。高台貼り付け、底部再調整。	
7	坏 土師質	覆土	①13.0　②7.4 ③4.0	①白色軽石含、やや粗い。　②良好　③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3欠	体部下端括れ、中位で若干膨らむ。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	坏 土師質	覆土	①(13.3)　②(5.5) ③3.9	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④全形の1/3	底径小さい。体部下半膨らみ、上半で外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	埦 土師質	覆土	①－　②10.5 ③－	①砂粒含、密。　②普通　③浅黄橙7.5YR8/3　④下半部	足高の高台。体部器肉厚い。 轆轤整形。	

H－187号住居跡出土遺物観察表（図－241・242）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	住居外	①(9.3)　②4.7 ③2.7	①砂粒含、粗い。　②普通　③にぶい橙5YR7/4　④体部2/3欠損	底径小さく、体部下半括れ、中位で張る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	住居外	①9.5　②4.5 ③2.6	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	器形1に似る。口縁部外反の度合いは1より強。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	＋25	①9.8　②5.2 ③2.6	①白色軽石含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	器形1に似る。体部中位若干の膨らみ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	＋5	①9.3　②5.1 ③2.6	①白色軽石含、ざらつく。②普通 ③にぶい橙5YR7/4　④体部2/3欠	器形1に似る。体部上位に膨らみ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	＋11	①9.0　②4.9 ③2.4	①白色粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④ほぼ完形	器形4に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	覆土	①8.7　②4.3 ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	器形1に似るが、法量的に若干小さい。器肉やや厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	位置不明	①8.4　②4.2 ③2.4	①白色軽石含、密。　②普通 ③淡黄2.5Y8/3　④完形	器形1に似る。体部若干膨らむ。口唇部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	＋11	①8.7　②4.9 ③2.5	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形7に似る。底径やや大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9	小形坏 土師質	＋26	①9.0　②5.5 ③2.3	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	体部浅く皿形。体部緩く外傾。器形若干いびつ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
10	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②5.3 ③2.3	①白色軽石含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④完形	体部浅く、下半部に膨らみ。口唇部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11	小形坏 土師質	床面	①(9.2)　②5.7 ③2.6	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙５YR7/4　④体部3/5欠	体部浅く、中位若干膨らむ。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部緩めの回転糸切り。	
12	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②5.2 ③2.8	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器形１に近い。下半膨らみ、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②6.1 ③2.8	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい橙５YR7/4　④完形	底径大きく、体部やや寸胴気味に立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
14	小形坏 土師質	＋27	①9.5　②6.0 ③2.6	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形13に似る。口唇部シャープ。底部～腰部器肉 厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
15	小形坏 土師質	＋３	①9.3　②6.2 ③2.2	①小石含、密。　②普通　③にぶ い橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部極めて浅く、口唇部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
16	小形坏 土師質	＋11	①9.3　②6.0 ③2.4	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④完形	器形15に同じ。轆轤整形。口縁部横撫で。 底部粗めの回転糸切り。回転速度緩い。	
17	小形坏 土師質	＋11	①(10.0)　②(6.2) ③2.9	①混入物多く、粗い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR6/4　④体部3/4欠	体部浅く、下半膨らむ。調整雑で、底部凸状。轆 轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
18	小形坏 土師質	＋11	①10.0　②6.5 ③2.3	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④完形	体部浅く皿形。口唇部短くキュッと外反。底部薄 い。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
19	小形坏 土師質	覆土	①9.8　②5.8 ③2.4	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部浅い。上半で膨らみ、口縁部緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
20	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②6.0 ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙５YR7/4　④ほぼ完形	体部浅く、緩く外傾して開く。口唇部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
21	小形坏 土師質	覆土	①10.0　②6.9 ③2.3	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④完形	体部浅く、直線的に外傾して開く。上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
22	小形坏 土師質	＋21	①11.0　②6.7 ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	口径大きく、体部直線的に外傾。21よりシャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
23	小形坏 土師質	覆土	①9.2　②5.8 ③1.7	①砂粒含、密。　②良好　③にぶ い橙7.5YR7/4　④完形	体部きわめて浅い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
24	小形坏 土師質	＋４	①－　②(6.2) ③2.6	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	体部片側内側へ折れ、耳皿状。意図的かは不明。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
25	坏 土師質	覆土	①(14.0)　②(6.6) ③4.9	①緻密　②良好　③浅黄橙10YR 8/4　④全形の1/2弱	体部深い。腰部からシャープに外傾、口縁部緩く 外反。轆轤整形。工具(布？)使用。回転糸切り。	
26	小形埦 土師質	覆土	①(10.1)　②6.4 ③4.2	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④体部1/2欠	体部外傾後、口縁部で直立気味。轆轤整形。口縁 部横撫で。体部篦削り、指頭痕有。底部再調整。	
27	小形埦 土師質	＋４	①10.3　②6.0 ③4.6	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部若干欠損	体部下半丸み、口縁部で緩く外反。轆轤整形。口 縁部横撫で。底部高台貼付後再調整。	
28	小形埦 土師質	住居外	①11.2　②6.0 ③4.5	①白色粒含、密。　②良好 ③橙５YR6/6　④体部若干欠損	体部緩く湾曲、口唇部シャープ。高台短く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
29	埦 土師質	－４	①(13.8)　②8.9 ③6.1	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙５YR7/6　④全形の1/3強	体部下半膨らみ、口縁部緩く外反。高台ハの字状 にふんばる。轆轤整形。口縁部横撫で。	
30	埦 土師質	覆土	①(14.2)　②(9.2) ③6.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④全形の1/3強	器形29に似る。高い高台をもつ。轆轤整形。口縁 部横撫で。高台貼付後の調整雑。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
31	埦 土師質	床面	①15.8　②9.8 ③6.4	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3欠損	大ぶりの器形。口唇部シャープ。高台内側凹む。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台内側撫でつけ。	
32	埦 土師質	＋4	①(15.4)　②8.4 ③5.3	①白色軽石含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部3/5欠損	体部浅く、口縁部大きく外反する。轆轤整形。口 縁部横撫で。腰部篦削り調整。	
33	埦 土師質	−24	①14.7　②7.3 ③5.4	①白色軽石含、密。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	器形32に似る。高台部直立気味に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
34	埦 土師質	住居外	①(14.5)　②8.5 ③5.2	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④体部5/6欠	体部浅く、下半部膨らむ。高台ハの字にふんばる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
35	埦 灰釉陶器	覆土	①　—　②7.4 ③　—	①白色粒若干含、密。　②良好 ③素地灰白2.5Y8/2　④下半部1/2	体部は内湾気味に立ち上り、腰部は張らない。 高台部U字状。漬け掛け。	重ね焼き痕
36	羽釜	覆土	①(20.0)　②　— ③　—	①密　②良好　③浅黄2.5Y8/4 ④口縁部1/3	鍔張り出し強く、口縁部平坦で短く内傾。つくり 丁寧。口縁部〜胴部上半回転撫で。	
37	甕 土師器	＋11	①　—　②(11.5) ③　—	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部1/5	体部紐つくり痕顕著。底部平ら。器肉厚い。 胴部外面〜底部篦削り。内面撫で。	
38	瓦	覆土	厚1.2	①白色粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④小破片	器肉比較的薄い。 凹面布目。凸面撫で。側面平滑。	

H−189・190号住居跡出土遺物観察表（図−244）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H189	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④底部小片	底部に対して、体部やや器肉厚い。内面墨書「大」 か。内外面指頭による撫で調整。	
2 H189	小形坏 土師質	−6	①8.5　②5.8 ③2.1	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④完形	口唇部器肉厚い。体部短く外傾。つくり雑。底部 回転糸切りされるが、切り方雑で凹凸する。	
3 H189	小形坏 土師質	−6	①9.3　②5.2 ③2.3	①密　②普通　③にぶい黄橙10 YR7/4　④完形	つくり雑。器肉の厚さ一定していない。中位で若 干膨らむ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H189	小形坏 土師質	位置不明	①8.9　②5.1 ③2.3	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	体部内・外面共にキュッと外傾する。底部小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5 H189	小形坏 土師質	位置不明	①8.6　②4.7 ③2.1	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/3　④完形	器形4に同じ。口唇部ぼってり厚い。内面漆付着。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6 H189	小形坏 土師質	＋13	①(9.2)　②4.7 ③2.6	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/4 ④全形の1/2	器形4に同じ。器肉はやや薄い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7 H189	小形坏 土師質	P内	①(9.2)　②5.6 ③2.6	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/4 ④全形の1/2	器形4に同じ。器形いびつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8 H189	小形坏 土師質	覆土	①10.4　②5.6 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④全形の3/5	中形の器形。体部緩く湾曲、口縁部でひらく。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9 H189	小形坏 土師質	——	①10.1　②5.0 ③2.6	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/3　④全形の3/5	器形8に似る。口縁部の開口度8より強い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10 H189	小形坏 土師質	竈内	①10.3　②4.7 ③2.5	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④完形	器形8に似る。底径小さい。器形いびつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H−192−6
11 H189	小形坏 土師質	覆土	①(10.6)　②5.0 ③3.1	①8と同質。ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④体部4/5欠損	底径小さい。体部緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12 H189	小形坏 土師質	＋1	①(11.5)　②5.6 ③3.2	①白色軽石含、やや粗い。　②良好　③橙5YR6/6　④体部4/5欠損	器形8に似るが、法量やや大きい。底部切り離し 後の調整雑。轆轤整形。口縁部横撫で。	内面中央凸状。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
13 H189	小形坏 土師質	＋5	①(11.2)　②5.6 ③3.0	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④体部1/2欠損	器形12に似る。体部轆轤目顕著。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
14 H189	小形坏 土師質	覆土	①10.8　②6.0 ③3.0	①白色粒含、密。　②良好 ③淡橙5YR8/4　④体部1/3欠損	体部シャープに外傾。4～7のタイプに似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
15 H189	小形坏 土師質	＋2	①(10.4)　②4.7 ③3.8	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部1/2欠損	底径小さい。体部中位で膨らみ、口縁部でひらく。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H―192―8
16 H189	坏 土師質	＋2	①12.1　②5.4 ③3.9	①白色粒含、密。　②良好　③明赤褐2.5YR5/8　④口縁部1/3欠	底径比較的小さく、体部緩く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H―192―8
17 H189	坏 土師質	覆土	①(15.3)　②7.2 ③4.3	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/3弱	腰部キュッと締まり、ハの字状に外傾して開く。 4タイプの大形か。口縁部横撫で。	
18 H189	小形埦 土師質	＋5	①11.2　②5.8 ③5.3	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/3欠損	体部内湾して立ち上り、口縁部でひらく。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
19 H189	埦 土師質	P内	①(12.5)　②― ③―	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部1/4	体部丸く湾曲、口縁部でひらく。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
20 H189	埦 内黒土器	覆土	体部底径(6.3)	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙10YR8/4　④体部下半1/3	体部丸く湾曲。高台部短く外反するとみられる。 轆轤整形。内黒後篦磨き。	
21 H189	埦 土師質	－4	①―　②7.0 ③―	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	高台部短く外傾する。 轆轤整形。底部高台貼付後再調整。	
22 H189	埦 土師質	覆土	①14.9　②(7.5) ③6.1	①小石含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④全形の2/3	体部若干膨らむが、ほぼ直線的。口唇部平坦。 轆轤整形。口縁部横撫で。つくりやや雑。	
23 H189	埦 土師質	＋13	①(17.2)　②9.8 ③6.4	①密。17に似る。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/3	体部・高台部共にハの字状に外傾。大ぶりの器形。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
24 H189	埦 土師質	覆土	体部底径(7.0)	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部下半	体部轆轤目痕顕著。高い高台をもつか。	
25 H189	埦 土師質	＋2	①―　②8.8 ③―	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	高台高く、ハの字状に外傾する。大ぶりの器形か。 轆轤整形。底部再調整。	H―192―8
26 H189	托 土師質	P_1内	①(9.2)　②― ③―	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部1/4強	体部水平にちかい。器肉厚い。高台剝落痕あり。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
27 H189	小形壺 ミニチュア	P_1内	①(6.0)　②― ③5.0	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④全形の1/2	器肉やや厚い。体部内湾し、口縁部短く直立する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部篦削り。	
28 H189	甕 土師器	－37 (土坑内)	――	①白色粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④上半部小片	器肉厚い。胴部直線的。口縁部わずかに折れる。 胴部篦削りないし撫でつけ。内面指頭による撫で。	
29 H189	羽釜	－37 (土坑内)	――	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部小片	鍔張り出し小さく、短い口縁部をもつ。口縁内側に指頭痕残る。口縁部横撫で。胴部撫で。	内面刷毛目状工具痕。
30 H189	甑 羽釜形	覆土	――	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④下半小片	羽釜型甑か。器肉厚い。 脚部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	
1 H190	埦 内黒土器	――	①(13.4)　②― ③―	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部1/5	体部緩く湾曲し、口縁部でひらく。轆轤整形。口縁部横撫で。内黒後、篦磨き。	
2 H190	埦 土師質	＋6	①(15.4)　②7.5 ③4.9	①白色軽石含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④体部4/5欠	体部下半に膨らみをもち、外傾してひらく。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

H－192号住居跡出土遺物観察表（図—246・247　図版—5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①9.5　②5.5 ③1.5	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部浅く皿状。緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	位置不明	①10.0　②5.8 ③2.3	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④ほぼ完形	体部緩く外傾して開く。口唇部肉厚となる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	位置不明	①9.7　②5.2 ③2.2	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	体部浅く、緩く外傾して開く。器肉厚く一定。轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	位置不明	①10.5　②5.3 ③3.0	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④体部1/4欠損	体部下半若干括れ、直線的に外傾する。体部深い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	坏 須恵器	覆土	①(10.9)　②(6.0) ③3.2	①密　②良好　③灰7.5Y5/1 ④全形の1/5	体部直線的に外傾して立ち上る。器肉薄い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	坏 土師質	位置不明	①14.8　②7.0 ③3.5	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙5YR8/3　④ほぼ完形	体部中位若干膨らむが、ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	坏 土師質	位置不明	①(14.8)　②(6.8) ③3.9	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/3	器形6に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	蓋 須恵器	覆土	摘径4.0　摘高0.9	①密　②良好　③オリーブ灰5GY6/1　④天井部1/2強。	天井部～体部湾曲気味に傾斜し、環状の小さい摘をもつ。轆轤整形。天井部回転篦削り。	
9	埦 土師質	覆土	①(14.4)　②－ ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/6　④口縁部1/4	器形6に同じ。内面篦状工具による沈線状のひっかき痕あり。轆轤整形。口縁部横撫で。	
10	埦 土師質	覆土	①－　②7.6 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④底部	高台短く外傾。体部緩く湾曲。 轆轤整形。内面篦磨き。	
11	埦 土師質	位置不明	①－　②(7.4) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	直立気味の高台か。 轆轤整形。底部高台貼付後再調整。	
12	埦 須恵器	覆土	①－　②8.3 ③－	①小石含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④底部	断面台形状の高台。つくり丁寧。底径やや大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
13	鉢か 内黒土器	覆土	①－　②7.3 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④底部	脚端部断面台形状。器肉の厚さから甕形態か。内黒後内外面篦磨き。	
14	刀子 鉄製品	覆土	幅1.1～1.2	両端部欠損。背側平ら。錆化顕著。		
15	壺 須恵器	位置不明	①－　②(16.2) ③－	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④下半部1/3	体部下半直線的に外傾。断面台形の脚をもつ。 外面回転篦削り。内面回転撫で。自然釉垂下。	

H－195号住居跡出土遺物観察表（図—249）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 土師質	覆土	①－　②(10.4) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④底部	高台高く、ハの字状にふんばる。大形の器形。轆轤整形。底部回転糸切り、貼付後再調整。	
2	羽釜	竈内	——	①小石含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部片	鍔小さく張り出し弱い。口縁部短い。唇部平坦。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面回転撫で。	
3	羽釜	－12	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④上半部片	鍔小さく、胴部上位に最大径か。口縁部短く内傾。唇部平坦。口縁部横撫で。胴部回転撫で。	胴下半篦削りか。

H－196号住居跡出土遺物観察表（図－251・252　図版－5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	位置不明	①9.1　②5.5 ③2.0	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	体部浅く、緩く外傾する。底部切り離し後調整雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形坏 土師質	＋22	①9.2　②6.0 ③1.9	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁一部欠	体部浅く。1より底径大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	覆土	①8.3　②5.3 ③1.9	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3欠損	器肉1よりやや薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②4.3 ③2.6	①白色粒多、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④体部1/3欠損	底部小さく、体部緩く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	位置不明	①10.7　②5.0 ③3.0	①砂粒多、ざらつく。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁2/3欠	底部小さい。体部緩く湾曲、口縁部で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	位置不明	①9.3　②4.6 ③2.9	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	底部やや小さく、体部丸く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	位置不明	①9.9　②5.0 ③3.0	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④完形	器形6に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	覆土	①9.5　②5.1 ③3.1	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部1/2欠	器形6に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	小形坏 土師質	位置不明	①9.8　②5.3 ③3.0	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④ほぼ完形	器形6に同じ。底部6より大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	小形坏 土師質	位置不明	①9.5　②5.5 ③2.9	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④口唇部1/3欠損	器形9に似る。底径やや大きい。口縁部で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11	小形坏 土師質	－15	①9.8　②4.8 ③3.0	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器形10に似る。体部概して下半に丸み。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	小形坏 土師質	位置不明	①10.4　②5.8 ③3.0	①白色粒、砂含、ざらつく。 ②良好　③橙7.5YR7/6　④完形	器形10に似る。底径やや大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	小形坏 土師質	位置不明	①10.4　②5.8 ③3.0	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形12に似る。体部緩く湾曲、口縁部に至る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
14	小形皿 土師質	覆土	①(9.3)　②(5.6) ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/2	体部強く外傾して開き、直立気味の高台をもつ。 托の用途か。轆轤整形。高台貼付雑。	
15	小形塊 土師質	覆土	——	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④胴部片	内面墨書。何らかの符号を記入か。 轆轤整形。	
16	小形塊 内黒土器	－59	①10.9　②5.7 ③4.6	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④口縁部1/3欠	体部丸く、短く外傾する高台。内黒後篦磨き。 轆轤整形。底部外周高台貼付後再調整。	
17	小形塊 土師質	覆土	①9.9　②(5.1) ③4.1	①砂粒多、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/5	体部下半丸く、口縁部直立。高台部外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
18	小形塊 土師質	位置不明	①10.2　②5.5 ③4.5	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④完形	体部下半丸く、口縁部で開く。高台短く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台端部平坦。
19	小形塊 土師質	位置不明	①11.2　②5.9 ③4.7	①白色粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/4　④口唇部1/4欠損	器形17に似る。高台端部平坦につくられる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
20	小形塊 土師質	位置不明	①10.8　②6.0 ③5.2	①白色粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	器形17に似る。つくり雑で器形いびつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台端部平坦
21	小形塊 土師質	位置不明	①11.1　②5.6 ③5.2	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	体部丸く内湾して立ち上る。高台短く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台端部平坦

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
22	小形埦 土師質	位置不明	①11.2　②7.0 ③4.2	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④高台1/3欠損	体部・高台部共にハの字状に外傾。つくり雑。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台端部平坦
23	埦 土師質	位置不明	①(12.8)　②(8.0) ③6.9	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	体部丸く張り出し、口縁部直立気味。高台高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
24	埦 土師質	位置不明	①(16.1)　②10.9 ③9.7	①砂粒多、密。　②良好　③浅黄橙10YR8/4　④体部3/3欠損	大形の器形。体部下半丸く、口縁部で開く。足高の高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	
25	甕 須恵器	覆土	——	①小石含、密。　②良好 ③灰N5/　④頸部小片	頸部上端三角状に突出。以下に3～4本1単位の波状文3条廻る。口唇部平坦。	
26	甕 土師器	位置不明	①(19.6)　②(6.3) ③27.6	①小石含、粗い。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④全形の2/3	器肉厚い。細身の下半、上半若干膨らむ。口縁部短く直立。口縁部横撫で。胴部篦削り。	
27	鞴羽口	位置不明	現存長16.3　幅9.3 厚3.3　孔径2.5	①スサ含、密。　②良好 ③浅黄2.5Y8/3　④先端部	先端部飴状に摘下、海綿状の気泡あく。地肌との傾斜角60°。器面は撫で調整。	
28	鞴羽口	位置不明	現存長14.0　幅10.5 厚4.0　孔径2.4	①スサ、小石含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④先端部	先端飴状に摘下、凸状に外側へ張り出す。器面指頭調整痕。一部灰色に被火痕ひろがる。	
29	鞴羽口	覆土	現存長9.6　幅9.3 厚3.3　孔径2.3	①スサ、軽石含、密。　②良好 ③灰白7.5Y8/2　④先端部	先端飴状、外部にT字状に張り出し溶解する。器面撫で。	
30	鞴羽口	－6	現存長6.3　幅9.0 厚3.4　孔径2.7	①スサ、小石含、密。　②良好 ③灰白7.5Y8/2　④先端部	先端部飴状。一部滴下状。孔付近は光沢をもつ。	H—214—b
31	鞴羽口	位置不明	現存長7.0	①スサ多。　②良好 ③灰白7.5Y8/2　④先端部	先端部飴状で、光沢をもつ。周辺はコークス状に被火し、気泡あく。	
32	鞴羽口	覆土	現存長4.0	①密　②良好　③— ④先端部	先端部飴状。孔を塞ぐ形で摘下。	
33	鉄滓	覆土	径8.0×5.5 厚2.3	上面凹み、光沢なく、海綿状に気泡あく。凸面は木炭の噛み込みを含み、滴下状に焼結する。マグネットの反応は鈍い。		
34	鉄滓	覆土	径8.1×5.6 厚2.8	器面滴下状。器面凹凸する。一部木炭噛み込む。 マグネットの反応は鈍い。		

H—197号住居跡出土遺物観察表（図—253・254　図版—6）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(8.5)　②(6.0) ③2.0	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3強	体部極めて浅く、底部出尻気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切りか。	
2	小形坏 土師質	－9	①9.2　②5.7 ③1.4	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/3　④口唇1/4欠	体部浅く、皿状。口唇部煤状付着。灯明具に使用か。轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—59
3	小形坏 土師質	＋6	①9.2　②5.5 ③1.4	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇1/3欠	器形1に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—47
4	小形坏 土師質	－9	①9.0　②6.0 ③1.5	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④口唇部1/4欠	体部浅く、外傾して開く。見込端部膨らむ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—59
5	小形坏 土師質	P_5内	①9.1　②5.8 ③1.5	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④口唇3/3欠	器形4に同じ。見込部凸状。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—44
6	小形坏 土師質	＋6	①9.1　②5.8 ③1.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④ほぼ完形	器形5に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—56
7	小形坏 土師質	＋6	①9.3　②6.0 ③1.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇1/5欠	器形5に同じ。底部肉厚。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—56

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
8	小形坏 土師質	－9	①9.4　②5.8 ③1.9	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部下端若干括れる。器形的には7に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—59
9	小形坏 土師質	覆土	①(9.4)　②5.7 ③1.6	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④口縁部1/8欠損	底径やや小さく、体部外傾して開く。底部肉厚。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
10	小形坏 土師質	覆土	①9.7　②5.7 ③2.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅橙5YR8/3　④ほぼ完形	底径やや小さく、体部緩く湾曲する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
11	小形坏 土師質	－7	①9.2　②5.7 ③1.8	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部1/3欠	器形10に似る。底部若干上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
12	小形坏 土師質	＋6	①9.0　②5.3 ③2.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形11に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—63
13	小形坏 土師質	＋6	①9.0　②5.7 ③1.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形11に似る。底径はやや大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—63
14	小形坏 土師質	＋6	①9.0　②6.0 ③1.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④完形	器形13に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—58
15	小形坏 土師質	覆土	①9.1　②5.1 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇1/3欠	体部緩く湾曲、中位弱い稜を形成。底部やや小さい。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	口唇部シャープ。
16	小形坏 土師質	覆土	①8.7　②5.4 ③2.5	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部1/2欠損	口径やや小さい。体部緩く外傾。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
17	小形坏 土師質	覆土	①(10.2)　②(5.2) ③2.5	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/4	体部下端括れ、中位で張る。上半部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫でか。底部回転糸切り。	
18	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②6.0 ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3強	法量的には1～16よりやや大形。器形的には9に似るか。轆轤整形。底部回転糸切り。	切り離し雑片側凸る。
19	小形坏 土師質	P_5内	①9.4　②5.8 ③2.5	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄2.5Y8/3　④完形	体部内湾気味に立ち上り、若干膨らむ。底部肉薄。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—214—44
20	小形坏 土師質	覆土	①(10.8)　②(6.7) ③2.9	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④全形の1/4弱	器形は19に似る。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
21	小形坏 土師質	——	①9.6　②5.4 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④口唇部1/3欠	体部下半膨らみ、上半若干外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部やや深いタイプ。 H—214—46
22	小形坏 土師質	－9	①9.0　②5.5 ③3.0	①白色粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/2	器形21に同じ。上半部外反気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—18
23	小形坏 土師質	－7	①9.7　②5.5 ③2.9	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇1/6欠	器形21に同じ。底部への変換点不明瞭。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—49、61
24	小形坏 土師質	——	①9.8　②5.5 ③2.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	器形22に同じ。腰部の張りは強い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—39
25	小形坏 土師質	－9	①9.4　②5.5 ③2.8	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR6/6　④口唇部1/3欠損	器形23に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—17、18
26	小形坏 土師質	——	①9.7　②5.0 ③3.2	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④ほぼ完形	底径若干小さい。体部下半膨らみ、上半緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—46
27	小形坏 土師質	P_5内	①10.1　②5.3 ③3.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④完形	器形26に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—51
28	小形坏 土師質	－7	①9.9　②5.4 ③3.2	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2欠	器形26に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	底部重ね焼き痕。 H—214—4

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
29	小形坏 土師質	——	①10.4　②5.0 ③3.3	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙7.5YR⅞　④口縁部⅕欠損	器形28に同じ。体部若干深め。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—28
30	小形坏 土師質	——	①10.5　②5.5 ③2.9	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR⅞　④完形	器形28に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	内面煤状付着物。 H—214—15
31	小形坏 土師質	－9	①9.9　②5.3 ③2.7	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR⅞　④口縁部¼欠	器形28に似る。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—49
32	小形坏 土師質	－9	①10.0　②4.7 ③3.4	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい黄橙10YR⅞　④ほぼ完形	器形29に同じ。体部深い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—17
33	小形坏 土師質	——	①9.5　②4.7 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR⅞　④ほぼ完形	器形28に似る。法量やや小さい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—16
34	小形坏 土師質	－9	①9.6　②5.2 ③3.1	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR⅞　④口縁部⅓欠損	器形33に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—8
35	小形坏 土師質	P_5内	①9.6　②5.2 ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR⅞　④完形	体部緩く内湾して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—45
36	小形坏 土師質	－9	①9.3　②5.0 ③3.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR⅞　④ほぼ完形	器形35に同じ。見込中央凹む。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—49
37	小形坏 土師質	P_5内	①9.3　②5.0 ③3.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR⅞　④完形	器形35に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—37
38	小形坏 土師質	－9	①9.9　②5.1 ③2.9	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR⅞　④ほぼ完形	器形35に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—59
39	小形坏 土師質	－9	①9.4　②5.0 ③2.8	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③にぶい橙5YR⅞　④口縁部¼欠	器形35に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—4、6、17
40	小形坏 土師質	貯蔵穴内	①10.0　②4.7 ③3.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR⅞　④ほぼ完形	器形26に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—27
41	小形坏 土師質	－7	①9.8　②4.4 ③3.0	①砂粒、小石含。　②普通　③浅黄橙7.5YR⅞　④口縁部¼欠	器形ひずむ。器形的には35に似る。底径小さい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—6
42	小形坏 土師質	－9	①9.3　②5.0 ③2.9	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR⅞　④ほぼ完形	器形35に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—17
43	小形坏 土師質	－9	①9.6　②5.5 ③2.8	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい橙7.5YR⅞　④口唇¼欠	器形35に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—17
44	坏 土師質	覆土	①(16.0)　②(7.7) ③4.7	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙7.5YR⅞　④全形の⅛	体部下半若干膨らみ、ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
45	坏 土師質	位置不明	①14.2　②6.6 ③4.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR⅞　④体部⅓欠	体部ハの字状に外傾、中位で若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—3
46	坏 土師質	＋1	①14.5　②7.6 ③3.8	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR⅞　④ほぼ完形	体部下半膨らみ、上半でハの字状に外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—214—3、11
47	坏 土師質	覆土	①—　②7.6 ③—	①砂粒含、密。　②良好 ③浅橙5YR⅞　④底部	体部下端括れ、内湾気味に立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
48	坏 土師質	覆土	①—　②(6.3) ③—	①密　②良好　③橙5YR⅞ ④底部¼	体部下端括れるか。内面篦磨き痕。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
49	皿 土師質	－9	①11.8　②6.2 ③2.9	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR⅞　④体部⅓欠損	体部強くハの字状に外傾し、同様の高めの高台をもつ。轆轤整形。口縁部横撫で。高台貼付。	H—214—17

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　　考
50	小形埦 土師質	——	①9.6　②5.7 ③4.5	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④口縁部1/4欠	体部丸く内湾、ハの字状の短い高台をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	H—214—36
51	小形埦 土師質	－7	①10.3　②6.2 ③3.9	①砂粒含、密。　②普通　③淡黄 2.5Y8/3　④口縁部1/3欠損	体部下半括れ、中位で膨らむ。短い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
52	小形埦 土師質	覆土	①10.0　②— ③—	①砂粒含、密。　②良好　③淡黄 橙7.5YR8/3　④全形の1/3強	器形51に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
53	小形埦 土師質	－7	①10.5　②6.2 ③4.8	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/6　④ほぼ完形	体部丸く内湾し、中位で張る。ハの字状の高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台端部平坦 H—214—64、65
54	小形埦 土師質	P_5内	①10.8　②6.2 ③5.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④ほぼ完形	器形53に似る。上半部外反気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	高台端部平坦 H—214—47
55	小形埦 土師質	－9	①10.5　②5.0 ③4.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④完形	腰部強く括れ、体部中位強く張りだす。直立気味の短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	H—214—25
56	小形埦 土師質	－7	①10.3　②5.5 ③4.6	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④体部3/4欠損	器形55に似る。高台やや長め。 轆轤整形。口縁部横撫で。	H—214—2、59
57	埦 土師質	位置不明	①(15.7)　②— ③体部高6.0	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄 橙10YR8/3　④口縁1/2、高台欠損	体部緩く膨らみ、口縁部外反する。高台貼付雑。 轆轤整形。口縁部横撫で（篦状工具）高台内厚。	H—214—3
58	埦 土師質	P_5内	①(14.0)　②8.0 ③5.5	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄 橙7.5YR8/3　④体部2/3欠損	腰部L字状に張り出し、上半でやや外傾する。外反する高い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。	H—214—16、44
59	埦 土師質	——	①14.6　②(8.9) ③6.5	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の2/3	器形58に似る。見込部に回転糸切り痕、未調整か。 轆轤整形。口縁部横撫で。	底部別つくりか。H—214—16、28
60	埦 土師質	位置不明	①(14.0)　②(7.9) ③6.1	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄 橙10YR8/3　④全形の1/3	体部下半緩く湾曲、口縁部で外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	H—214—26、27、29
61	埦 土師質	貯蔵穴内	①(14.4)　②(8.2) ③5.0	①小石含、粗。　②良好　③橙5 YR7/6　④体部3/4、高台1/2欠損	体部盃状に緩く湾曲。高台ハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。	H—214—4、30
62	埦 土師質	P_5内	①14.3　②8.6 ③6.4	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄 橙10YR8/3　④口縁部1/4欠損	体部緩く湾曲して立ち上る。高台部ハの字状。 轆轤整形。口縁部横撫で。	H—214—37
63	埦 内黒土器	P_5内	①—　②(8.4) ③—	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄 橙10YR8/4　④体部上半、高台端欠	内面内黒処理後、篦磨き。 轆轤整形。	H—214—45、53
64	埦 灰釉陶器	——	——	①密　②良好　③素地灰白2.5 GY8/1　④口縁部小片	やや大形の器形か。施釉漬け掛け。	H—214—30
65	羽釜	－7	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口縁部小片	口縁部短く、端部平坦。鍔水平に張り出す。 口縁部横撫で。胴部指撫で。器肉厚い。	H—214—49、61
66	羽釜	——	①—　②9.3 ③—	①砂粒、小石含、粗。　②良好 ③にぶい橙7.5YR6/4　④下半部1/5	胴下半やや細身。平底の底部。 胴部篦削り。	H—214—33
67	鞴羽口	－27	現存長13.7　幅8.0 厚3.1　孔径1.9	①スサ含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④先端部	先端部飴状で光沢あり。さらに滴下状にはみだし海綿状の気泡あく。素地部被火痕顕著。	H—214—48
68	鞴羽口	——	現存長12.0　幅7.7 厚3.1　孔径2.0	①スサ含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④先端部	先端部帯状に被火痕。端部飴状。67よりやや幅狭。	H—214—54

H－211・212・213・214号住居跡出土遺物観察表（図－255・256　図版－5・6）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1 H211	小形坏 土師質	覆土	①(9.2)　②4.5 ③1.6	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④全形の1/3弱	体部浅く、ハの字状に外傾。底径やや小さい。 つくり簡略化。轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H211	小形坏 土師質	－19	①8.4　②4.5 ③2.1	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④ほぼ完形	体部中位に弱い稜。底径小さい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H211	小形坏 土師質	——	①9.6　②4.5 ③2.4	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/4 ④体部1/4欠損	器形1に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H211	小形皿 土師質	覆土	①9.0　②5.0 ③3.0	①密　②普通　③浅黄橙10YR8/3 ④体部2/3欠損	体部ハの字状に外傾。やや高めの高台。 轆轤整形。高台貼付け比較的丁寧。	
5 H211	坏 土師質	——	①(14.4)　②6.0 ③4.3	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④全形の1/4弱	底径小さい。体部中位で稜をもち、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6 H211	坏 土師質	——	①15.4　②(6.4) ③4.2	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④全形の2/3弱	器形5に似るが、中位の張りは弱い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7 H211	小形埦 土師質	－19	①11.0　②5.5 ③4.0	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④ほぼ完形	体部わずかに湾曲して開く。高台短く外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台貼付け丁寧。	
8 H211	埦 土師質	覆土	①(15.8)　②8.8 ③6.3	①密　②普通　③浅黄橙7.5YR 8/4　④全形の1/3弱。口縁部1/8	体部緩く湾曲して立ち上り、口縁で弱く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台やや高い。	
9 H211	甕 土師器	－19	——	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④口縁部小片	肩部弱く張り、口縁部短く外反。器肉ほぼ一定。 口縁部横撫で。肩部撫で（方向不定）。	
1 H212	小形坏 土師質	－2	①8.7　②4.1 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄 橙7.5YR8/4　④体部1/3欠損	底径小さい。体部下端で括れ、ハの字状に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－1
2 H212	小形坏 土師質	－2	①8.7　②5.3 ③1.9	①密　②普通　③浅黄2.5YR8/3 ④口唇部1/2欠損	底径1より大きい。体部浅く、中位に若干稜もつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－1
3 H212	小形坏 土師質	－2	①9.4　②6.0 ③1.9	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口唇部1/5欠損	器形2に似る。法量やや大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－1
4 H212	小形坏 土師質	覆土	①8.5　②5.4 ③1.8	①密　②普通　③淡黄2.5Y8/3 ④口唇部1/3欠損	器形2に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H212	小形坏 土師質	位置不明	①9.3　②4.5 ③2.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部1/4欠損	底径小さい。体部ハの字状に外傾。H211－1に似。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6 H212	小形坏 土師質	位置不明	①8.5　②5.3 ③2.0	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④ほぼ完形	底径大きい。腰部丸みをもって外傾。器肉一定。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7 H212	小形坏 土師質	位置不明	①9.1　②5.1 ③2.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④完形	器形5に同じ。内面全体に煤付着。 轆轤整形。底部回転糸切り。	灯明具に使用か。
8 H212	小形坏 土師質	位置不明	①9.1　②5.2 ③2.3	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④体部1/2弱欠損	器形6に似る。口径はやや大きい。内面片側煤付着。轆轤整形。底部回転糸切り。	灯明具に使用か。
9 H212	小形坏 土師質	位置不明	①10.1　②5.5 ③2.1	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④口縁部1/3欠損	底径小さい。体部下半膨らみ、外傾して開く。口径大きい。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
10 H212	小形坏 土師質	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	法量的には、もう少し大きいか。器形不明。 轆轤整形。底部回転糸切り。	器形歪み大きい。
11 H212	小形皿 土師質	位置不明	①(9.1)　②4.8 ③2.7	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部3/4欠損	体部、高台部共にハの字状に外傾。 轆轤整形。高台貼付け丁寧。	
12 H212	坏 須恵器	－2	①12.7　②6.3 ③4.0	①粗い　②良好　③灰黄2.5YR 7/2　④ほぼ完形	器肉薄く、一定。体部深く、口縁部外反する。轆 轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－1

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
13 H212	坏 土師質	位置不明	①(14.3)　②7.2 ③4.1	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/2	底径小さく、体部深い。中位で若干張り、外反して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	底部穿孔痕。
14 H212	坏 土師質	覆土	①－　②5.6 ③－	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④底部1/2	体部下半括れる。底径小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
15 H212	小形埦 土師質	位置不明	①(9.9)　②6.2 ③3.5	①密　②普通　③浅黄2.5Y8/3 ④全形の1/2	体部下半膨らみ、上半で緩く外反。直立する高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
16 H212	小形埦 土師質	――	①10.0　②6.4 ③4.5	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部1/3欠	体部下半張りをもち、若干外傾して開く。器肉厚い。轆轤整形。口縁部横撫で。糸切り痕残る。	H－197－a
17 H212	羽釜	位置不明	――	①砂粒多、粗。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④小片	口縁部若干膨らむ。鍔やや小さい。胴部膨らみ強。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	胴太りする器形。
18 H212	不明 銅製品	覆土	厚0.2cm 重量33.3g	板状。縁皿部大半破損痕。ワラ状の付着物あり。器肉は薄い。		
1 H213	小形坏 土師質	覆土	①(9.5)　②4.7 ③2.2	①密　②良好　③浅黄2.5Y8/3 ④全形の1/3強	底径小さい。体部中位に稜をもち。口縁部外反し、唇部丸い。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
2 H213	小形坏 土師質	覆土	――	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④全形の1/4	体部浅く、中位にごく弱い稜をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H213	小形坏 土師質	覆土	①10.2　②6.5 ③2.3	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	体部浅く、中位に弱い稜。上半部外反。底径大きい。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4 H213	小形坏 土師質	覆土	①(9.6)　②(6.4) ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/3	底径大きい。体部緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H213	小形坏 土師質	覆土	――	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④小片	器形4に似るか。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6 H213	小形坏 土師質	－6	①9.1　②4.7 ③2.4	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④ほぼ完形	底径小さい。体部浅く、中位張る。上半部ハの字状。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H－196－1
7 H213	小形坏 土師質	－30	①10.3　②5.0 ③3.0	①砂粒含、粗。　②普通　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁1/3欠	底径小さい。体部緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H－196－22
8 H213	小形坏 土師質	－30	①9.7　②5.3 ③2.9	①白色粒含、密。　②普通 ③にぶい橙10YR7/3　④完形	体部浅い。下半部丸く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H－196－22
9 H213	托 土師質	覆土	①－　②(4.5) ③－	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④底部1/2	柱状高台をなし、下端部若干突出する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	柱状部接合痕有。
10 H213	托 土師質	覆土	①－　②2.8 ③－	①密　②普通　③浅黄2.5Y8/3 ④底部	器形9より細身。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
11 H213	埦 土師質	－23	①(14.4)　②7.9 ③4.9	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部1/5欠損	体部下半若干膨らみ、上半で強く外反する。 轆轤整形。底部回転糸切り痕残る。	H－196－a
12 H213	埦 灰釉陶器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①密　②良好　③素地灰白10YR8/2　④底部1/2	高台断面U字状、短く外傾。見込部釉痕。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
13 H213	土製円板 土師質	覆土	径5.8×5.7 厚1.0	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④－	坏形態。底部側面を打ち欠いてつくりだす。 底部に回転糸切り痕。	
14 H213	羽釜	覆土	――	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部小片	口縁部短く内傾する。唇部平坦。鍔はやや小さい。 口縁部横撫で。内面篦撫で。	
1 H214	小形坏 土師質	＋3	①9.4　②6.2 ③1.5	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/2	体部極めて浅く、底径大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H－211－a
2 H214	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②6.2 ③1.6	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④ほぼ完形	器形1より外傾の度合い弱い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3 H214	小形坏 土師質	竈内	①8.3　②4.8 ③1.8	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口唇部1/3欠	体部極めて浅く、底径2より小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H214	小形坏 土師質	――	①9.0　②4.6 ③2.3	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④完形	底径小さい。体部中位に弱い稜、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H―196―2
5 H214	小形坏 土師質	――	①8.9　②4.5 ③2.4	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	底径小さい。体部中位に稜、口縁部若干外反気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	糸切り後未調整。 H―196―2
6 H214	小形坏 土師質	――	①8.4　②5.2 ③2.2	①砂粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④口縁部1/2欠損	底部若干突出気味。体部緩く湾曲、口縁先細り。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H―212―42
7 H214	小形坏 土師質	位置不明	①8.3　②4.8 ③2.1	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁若干欠	器形6に似る。底部わずかに上げ底。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	糸切り後未調整。
8 H214	小形皿 土師質	覆土	①(8.2)　②(5.5) ③2.7	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/3	体部浅く、ハの字に外傾。高台外反して開く。 轆轤整形。高台貼付痕残す。	
9 H214	托 土師質	+15	①(8.9)　②4.5 ③2.7	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部3/4欠損	体部浅く、ハの字に外傾。底部柱状に突出する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H―212―4
10 H214	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②4.5 ③2.9	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④ほぼ完形	底径小さく、体部丸く湾曲して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
11 H214	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②4.3 ③2.8	①白色粒含、密。　②良好 ③体部1/2欠損　④完形	器形10に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
12 H214	小形坏 土師質	位置不明	①10.4　②5.1 ③3.1	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部2/3欠損	器形10に同じ。口縁部10・11より外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫でか。底部回転糸切り。	器形歪む。内面煤付着。
13 H214	小形坏 土師質	覆土	①10.4　②5.0 ③3.3	①密　②良好　③淡黄2.5YR8/3 ④口唇部1/2欠損	器形12に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
14 H214	小形坏 土師質	位置不明	①9.6　②4.8 ③2.9	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④完形	底径小さく、体部丸く内湾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	口縁外面一部吸炭。
15 H214	小形坏 土師質	覆土	①(10.8)　②5.7 ③2.8	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部3/4欠	器形は12に似る。底径やや大きいか。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器形歪む。
16 H214	坏 土師質	覆土	①13.3　②5.8 ③3.4	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	底径小さい。体部下半丸く張り、口縁部で外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
17 H214	坏 土師質	覆土	①14.6　②6.8 ③3.7	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④口縁部1/3欠損	体部下半膨らみ、口縁部で外反する。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部内外面漆付着顕。
18 H214	埦 土師質	覆土	①(14.0)　②7.9 ③6.7	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④体部3/5欠損	体部丸く湾曲。高台高く、緩く外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
19 H214	埦 内黒土器	覆土	①15.4　②― ③体部高5.0	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④高台部欠損	体部深く、丸く湾曲。口縁部若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。内面内黒後篦磨き。	
20 H214	皿 灰釉陶器	覆土	①(11.7)　②(5.4) ③2.9	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2　④小片	小形の器形。高台小さく、断面やや三角形状。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	漬け掛け施釉。
21 H214	壺 須恵器	覆土	①―　②(10.7) ③―	①白色粒含、密。　②良好 ③灰10Y6/1　④底部1/4	断面台形状の短い高台。 轆轤整形。底部回転撫で調整。	
22 H214	鞴羽口	覆土	――	①砂粒多、スサ若干含。　②良好 ③灰白10YR8/1　④先端部小片	外面帯状に被熱痕。先端部飴状をなす。	

H－198号住居跡出土遺物観察表（図－257）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1	小形埦 土師質	覆土	①8.6 ②5.1 ③2.0	①密 ②良好 ③橙7.5YR7/6 ④ほぼ完形	体部浅く、ハの字状に外傾する。底部器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	小形埦 土師質	覆土	①(10.0) ②(5.6) ③2.6	①白色粒含、密。 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④全形の2/3	底径大きい。体部緩く湾曲、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3	小形埦 土師質	覆土	①(10.0) ②(5.7) ③1.5	①砂粒含、密。 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/3 ④全形の1/4	体部極めて浅い。底部若干上げ底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	坏 土師器	貯蔵穴内	①12.0 ② ― ③3.6	①密 ②良好 ③橙2.5YR6/6 ④全形の2/3	底部安定した平底。体部外傾し、口縁部変換点で弱く括れる。口縁部横撫で。底部箆削り。	体部指頭痕。 底部墨書？
5	坏 須恵器	覆土	①(13.2) ②6.5 ③3.5	①小石含、密。 ②良好 ③黄灰2.5Y5/1 ④全形の1/3弱	底径やや小さい。体部緩く湾曲、口縁部外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	埦 内黒土器	覆土	① ― ②(6.0) ③ ―	①密 ②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4 ④下半部1/4	高台やや高く、外傾して開く。 轆轤整形。底部再調整。内面内黒後箆磨き。	
7	埦 須恵器	覆土	① ― ②(6.6) ③ ―	①密 ②良好 ③灰黄2.5Y7/2 ④底部	断面U字状の短い高台。高台貼付比較的丁寧。轆轤整形。底部回転糸切り。	
8	埦 緑釉陶器	覆土	――	①密 ②良好 ③― ④口縁部小片	器肉薄く一定。	
9	甕 土師器	P_5内	①(12.4) ② ― ③ ―	①密 ②良好 ③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4	小形の器形か。口縁部コの字状、肩部丸く張る。 口縁部強い横撫で。肩部箆削り。内面指撫で。	
10	甕 須恵器	覆土	――	①小石含、密。 ②良好 ③黄灰2.5Y5/1 ④口縁部小片	頸部上端で屈曲、凹凸をもって内傾する。 内・外面回転撫で。	
11	土製円板 土師質	覆土	径5.8×4.5 厚1.2	①砂粒含、軟質。 ②良好 ③浅黄橙7.5YR8/6 ④完形	坏形態の転用とみられる。やや長円形で、側面面取りしている。片側に回転糸切り痕。	

H－199号住居跡出土遺物観察表（図－258）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1	小形坏 土師質	覆土	①8.9 ②5.6 ③1.7	①密 ②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3 ④体部1/2欠損	体部極めて浅い。底径やや大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	坏 土師質	覆土	①(13.8) ②(6.0) ③3.3	①密 ②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3 ④全形の1/5	体部下半膨らみ、口縁部でハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	内面煤付着。
3	坏 須恵器	覆土	① ― ②5.9 ③ ―	①密 ②酸化焔 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④底部1/2	底径小さく、体部外傾して立ち上る。器肉薄い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	埦 須恵器	覆土	①(13.8) ②6.7 ③4.6	①白色粒含、密。 ②良好 ③褐灰10YR5/1 ④体部大半欠損	体部ハの字状に外傾。高台短く、だれる。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	埦 須恵器	覆土	①(12.5) ②6.0 ③5.0	①密 ②酸化焔 ③淡黄5Y8/3 ④体部1/5欠損	体部緩く湾曲。高台短く、だれる。 轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り外周再調整。	
6	埦 内黒土器	覆土	① ― ②(8.1) ③ ―	①白色粒含、密。 ②良好 ③橙2.5YR6/6 ④底部1/4強	高台部外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り、再調整。内面内黒後箆磨き。	
7	埦 土師質	覆土	① ― ②8.5 ③ ―	①密 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④底部	高台高く、若干外反気味に開く。 轆轤整形。底部再調整。	
8	甕 土師器	覆土	①(20.4) ② ― ③ ―	①密 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4 ④上半部1/4弱	器肉薄く、一定。口縁部短く外反する。胴上半膨らむ。口縁部横撫で。胴部箆削り。内面箆撫で。	

H－200号住居跡出土遺物観察表（図－259・260　図版－5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	＋12	①8.6　②4.8 ③1.9	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇部1/3欠損	体部浅く、中位に稜。口縁部若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H－187－50
2	小形坏 土師質	＋33	①8.7　②4.2 ③2.4	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部1/4欠損	器形1に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	＋17	①9.2　②5.0 ③2.5	①密　②良好　③灰白10YR8/1 ④口縁部1/5欠損	器形2に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	P_5内	①8.8　②4.0 ③2.4	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器形2に似る。中位の稜弱い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	＋13	①9.4　②4.7 ③2.5	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器形2に似る。中位若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②5.0 ③2.5	①密　②還元焔　③灰白7.5YR8/1　④口縁部1/4欠損	器形5に同じ。底部径1.0cmの円形に穿孔。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	祭祀用具か。
7	小形坏 土師質	＋9	①(10.5)　②4.5 ③2.6	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部1/2欠損	器形2に似る。口径やや大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	＋17	①10.2　②5.2 ③2.5	①密　②良好　③灰白7.5YR8/2 ④体部3/4欠損	器形7に同じ。中位の稜弱い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	糸切り後未調整。
9	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②4.5 ③2.2	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部2/3欠損	体部下半若干膨らみ、ハの字状に外傾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	糸切り後未調整。
10	小形坏 土師質	＋23	①9.4　②5.0 ③2.3	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部1/4欠損	器形9に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
11	小形坏 土師質	覆土	①9.3　②5.0 ③2.3	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④全形の1/2	器形10に似る。中位膨らみ強い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
12	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②4.9 ③2.5	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④完形	底径小さい。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	小形坏 土師質	P_5内	①9.5　②5.5 ③2.7	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	底径やや大きい。体部下半膨らみ、口縁部シャープに外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
14	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②5.4 ③2.5	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部3/4欠損	体部ハの字状に外傾、口縁部シャープに外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
15	小形坏 土師質	＋14	①10.3　②5.5 ③2.4	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	体部強くハの字状に外傾、下端部で屈曲気味に括れる。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
16	小形坏 土師質	P_6内	①10.0　②6.0 ③2.6	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	底径大きい。体部下端弱く括れ、緩く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
17	小形坏 土師質	＋23	①(9.8)　②6.0 ③2.4	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④口縁部2/3欠損	器形16に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
18	小形坏 土師質	＋19	①9.8　②5.6 ③2.1	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口唇部1/3欠損	体部弱く膨らみ、口縁部シャープに外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
19	小形坏 土師質	＋10	①9.3　②5.6 ③2.3	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	器形17に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
20	小形坏 土師質	覆土	①9.3　②6.0 ③2.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④全形の1/2弱	底径大きい。体部下半丸く膨らみ、口縁部で開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
21	小形坏 土師質	P_1内	①9.2　②5.8 ③2.3	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④完形	器肉厚い。底径大きい。緩く湾曲、口縁部外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
22	小形坏 土師質	+22	①9.3　②6.0 ③1.4	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④ほぼ完形	体部極めて浅く、ハの字状に外傾。底部肉厚。轆轤整形。底部回転糸切り。	
23	小形皿 土師質	覆土	①11.2　②7.3 ③3.4	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④体部3/3欠損	体部浅く、ハの字状に外傾。高台高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台貼付丁寧。	
24	小形皿 土師質	覆土	①(10.3)　②— ③体部高1.4	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④体部1/2	器形23より若干肉厚。中位に弱い稜をもつ。 轆轤整形。高台貼付部再調整。	
25	坏 土師質	+11	①15.4　②6.8 ③3.8	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④全形の1/2強	体部下半丸く膨らみ、口縁部緩く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り、外周篦削り。	
26	坏 内黒土器	+8	①15.9　②7.3 ③4.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④口縁部2/3欠損	器形25に同じ。轆轤整形。底部回転糸切り。 内面～口縁部外面篦磨き。	
27	小形埦 土師質	+14	①(10.0)　②5.6 ③4.2	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④体部1/2欠損	体部下半膨らみ、口縁部で外傾。高台外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。下半篦削り。	
28	小形埦 土師質	P6内	①10.5　②5.6 ③4.1	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④ほぼ完形	体部下半丸み強い。口縁部外反気味に開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台短く外傾。	
29	小形埦 土師質	+17	①10.6　②5.5 ③3.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部1/3欠損	体部下半丸み。口縁部シャープに緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
30	埦 土師質	+14	①(12.0)　②6.2 ③4.8	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/3　④体部1/2欠損	器形29に似る。体部やや深い。轆轤整形。口縁部横撫で。腰部篦削り。高台短く外傾。	
31	埦 土師質	覆土	①(13.0)　②— ③体部高3.2	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/3　④体部5/6、高台端部欠損	体部下半緩く膨らみ、口縁部で大きく開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
32	埦 土師質	P6内	①12.7　②7.1 ③4.9	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④ほぼ完形	器形31に似る。高台高く、外反して開く。 口縁部横撫で。腰部篦削り。底部再調整。	
33	埦 土師質	+15	①12.8　②7.1 ③4.9	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/4　④ほぼ完形	体部下半屈曲気味に膨らみ、口縁部で外反。つくり雑。轆轤整形。腰部篦削り。底部再調整。	
34	埦 土師質	+5	①—　②7.0 ③—	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR 8/3　④下半部	器形的には31に似るか。高台短く外傾。 轆轤整形。底部再調整。	
35	埦 土師質	+12	①(15.6)　②— ③体部高3.9	①密　②良好　③淡橙10YR8/4 ④体部3/5	大ぶりの器形。下半膨らみ、口縁部で大きく開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
36	埦 土師質	+16	①(21.0)　②— ③—	①密　②良好　③浅黄橙5YR8/3 ④体部上半3/5	大ぶりの器形。35に似る。外面煤付着。 轆轤整形。口縁部横撫で。腰部篦削り。	
37	小形埦 内黒土器	+25	①10.3　②5.7 ③5.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④ほぼ完形	体部丸く内湾。口縁部若干外反。高台短く外傾。 轆轤整形。内黒処理後、体部篦磨き。	口縁部漆状付着物。
38	埦 内黒土器	+4	①(14.0)　②8.2 ③6.6	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④体部3/5、高台端部欠損	体部深く、丸く内湾。高台外傾して開く。 轆轤整形。内黒後、体部篦磨き。底部再調整。	
39	埦 須恵器	覆土	①—　②6.3 ③—	①密　②良好　③灰白10YR8/2 ④底部2/3	高台部短く直立する。底部墨書「主」。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
40	埦 灰釉陶器	覆土	①(13.6)　②7.1 ③4.2	①密　②良好　③素地浅黄2.5Y 8/3　④口縁部1/5欠損	体部緩く湾曲。高台短く、断面三角形。漬け掛け。 轆轤整形。口縁部再調整。底部回転糸切り。	
41	鉄滓	覆土	径9.8×8.4 厚5.3　690g	上端面平坦。下端面半円状。器面海綿状に気泡あく。一部炉壁材付着。 マグネットの反応純い。		

H－201・202・203号住居跡出土遺物観察表（図－262）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1 H201	埦 須恵器	覆土	——	①密 ②良好 ③浅黄2.5Y7/3 ④口縁部小片	器肉薄く、一定。体部外面墨書判読不明。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
2 H201	壺 須恵器	覆土	——	①密 ②良好 ③灰7.5Y5/1 ④肩部小片	肩部大きく張る。外面器面剝落、自然釉付着。 回転撫で。内面一部当て目痕らしき痕跡あり。	
3 H201	甕 土師器	覆土	①(15.6) ② — ③ —	①密 ②良好 ③にぶい橙5YR 6/4 ④口縁部1/3	器肉厚い。胴部内湾し、口縁部直立後外屈する。 外面篦削り。内面撫で。	
4 H201	甕 土師器	＋8	①(23.6) ② — ③ —	①砂粒含、密。 ②良好 ③灰黄2.5Y7/2 ④上半部1/4	器肉厚い。胴部若干弱く湾曲、口縁部短く直立する。口縁部横撫で。胴部篦削り。内面撫で。	口縁部煤付着。
5 H201	羽釜	覆土	① — ②9.5 ③ —	①砂粒含、密。 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/3 ④底部	底部中央欠落。甑に転用か。内面輪積み痕顕。外面篦削り。内面篦撫で。	底部外面器皺あり。
6 H201	羽釜	覆土	①(23.8) ② — ③ —	①密 ②良好 ③にぶい黄橙10 YR7/4 ④口縁部1/2弱	口縁部短内傾、唇部丸い。鍔断面U字状、ひずみ大きくだれる。口縁部横撫で。胴部篦削り。	つくり雑。
7 H201	甑 羽釜形	＋2	① — ②24.0 ③ —	①密 ②普通 ③にぶい橙7.5 YR7/4 ④下半部	大ぶりの器形。細身の下半部から外反後、下端部で内屈する。外面篦撫でつけ。内面接合痕。	
1 H202	埦 土師質	位置不明	①(13.3) ②(7.4) ③5.6	①砂粒含、ざらつく。 ②普通 ③浅黄橙10YR8/3 ④体部3/4欠損	体部下半丸く膨らみ、口縁部で外傾する。高台肉厚。轆轤整形。内面篦磨き。	
2 H202	埦 内黒土器	位置不明	① — ②6.9 ③ —	①密 ②良好 ③浅黄橙7.5YR 8/4 ④下半部	体部外傾して立ち上る。膨らみはない。 轆轤整形。内黒後、篦磨き。底部外面黒色処理か。	
3 H202	埦 内黒土器	覆土	① — ②(6.5) ③ —	①密 ②良好 ③にぶい黄橙10 YR7/4 ④底部	高台部短く外傾。貼付け痕残る。 轆轤整形。内黒後、篦磨き。底部回転糸切り。	
4 H202	埦 土師質	覆土	①14.3 ②8.1 ③5.5	①砂粒含、密。 ②普通 ③淡黄2.5Y8/3 ④口縁部1/3欠損	体部やや浅く、下半に丸み。高めの高台緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
5 H202	埦 土師質	覆土	①(13.4) ② — ③ —	①砂粒含、密。 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④ —	体部緩く湾曲、口縁部で外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
6 H202	皿 灰釉陶器	覆土	①(15.6) ② — ③ —	①密 ②良好 ③素地灰白5Y7/2 ④口縁部2/5	体部ハの字状に外傾、唇部で水平面を形成。 轆轤整形。漬け掛け。	
7 H202	壺 須恵器	覆土	① — ②(7.6) ③ —	①密 ②良好 ③外面黒N2/ ④下半部小片	外面黒色処理か。断面台形状の短い高台。 轆轤整形。	
8 H202	羽釜	位置不明	①24.0 ② — ③26.6	①砂粒含、密。 ②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4 ④全形の1/2	器高比較的短く、胴部上半大きく張る。鍔小さく形骸化。口縁部横撫で。胴部粗い篦削り。	
1 H203	小形坏 土師質	位置不明	①9.0 ②5.8 ③1.6	①砂粒含、密。 ②良好 ③浅黄橙10YR8/3 ④唇部大半欠損	体部極めて浅く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H203	小形坏 土師質	位置不明	①(9.5) ②(6.8) ③1.4	①砂粒含、密。 ②良好 ③浅黄橙10YR8/4 ④全形の1/2	器形1に同じ。体部内外面吸炭顕著。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H203	小形坏 土師質	位置不明	①9.0 ②5.7 ③1.9	①白色粒含、密。 ②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4 ④ほぼ完形	体部浅く、緩く湾曲。底部片側凸状に突出。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H203	小形坏 土師質	＋24	①(12.9) ②(6.0) ③4.1	①密 ②良好 ③浅黄橙7.5YR 8/3 ④全形の1/4弱	体部下半丸く膨らみ、口縁部で外傾する。底部片側突出。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
5 H203	小形埦 土師質	位置不明	①9.7 ②5.2 ③3.4	①砂粒含、密。 ②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3 ④高台端1/3欠	体部浅く、下半若干膨らむ。口縁部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
6 H203	埦 土師質	位置不明	①17.0 ②7.8 ③6.3	①密 ②良好 ③にぶい黄橙7.5 YR7/4 ④体部3/5欠損	体部緩く湾曲、口縁部で開く。高台やや高め。 轆轤整形。口縁部横撫で。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
7 H203	埦 灰釉陶器	位置不明	①－　②6.7 ③－	①密　②良好　③素地5Y8/1 ④底部3/5	高台部三角形状。内面重ね焼き痕。 轆轤整形。漬け掛け。	
8 H203	小形壺 須恵器	覆土	胴部最大径(10.1)	①密　②良好　③褐灰10YR6/1 ④胴部3/5	胴部扁球形。頸部細い。器面剝落し、自然釉付着。 轆轤整形。頸部接合痕あり。	
9 H203	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④上半部1/3	胴部上半丸く張り、口縁部コの字状。器肉薄い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
10 H203	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR 6/4　④上半部小片	鍔上向き、口縁部短く直立。口縁部横撫で。胴部上端回転撫で。下半篦削り。	
11 H203	鉄鏃	覆土	現長8.0　厚0.2 茎幅0.5　厚0.5	先端部三角形。腸抉先端はさほど鋭理ではない。鏑、関の有無は不明。 器面錆化している。		

H－204・205・206・207号住居跡出土遺物観察表（図－264・265　図版－5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H204	坏 土師器	覆土	①(12.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④全形の1/5	底部安定。体部緩く湾曲する。内面墨書「大」か。 口縁部横撫で。体部下端～底部篦削り。	
2 H204	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②(4.8) ③2.2	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/2	底径小さい。体部中位に稜をもち、口縁部外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H204	鉄滓	覆土	径7.3×6.4 厚5.8　448g	断面不整五角形状。器面気泡顕著。若干スサ状の噛み込みあり。 マグネットの反応はにぶい。		
1 H205	小形坏 土師質	覆土	①(8.9)　②(5.4) ③1.6	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/4	体部極めて浅く、外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H205	小形坏 土師質	覆土	①9.4　②5.5 ③2.3	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/5欠	体部極めて浅く、緩く湾曲する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 H205	托 土師質	覆土	①－　②4.0 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③淡黄2.5Y8/4　④底部1/2	柱状の高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H205	埦 内黒土器	覆土	①－　②7.0 ③－	①密　②良好　③黄橙10YR8/6 ④下半部	体部下半丸み。高台短く外傾。 轆轤整形。内面内黒後篦磨き。底部再調整。	
5 H205	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④口縁部小片	口縁部コの字状だが、上端の反りは弱い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
1 H206	坏 土師質	覆土	①(12.4)　②－ ③3.8	①密　②良好　③橙5YR7/8 ④全形の1/4	底部若干突出、体部外傾して開く。器面磨耗顕著。 口縁部横撫で。	
2 H206	坏 土師器	覆土	①12.8　②－ ③2.9	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部2/3欠損	底部若干突出。体部浅く、緩く外傾して開く。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
3 H206	小形坏 土師質	覆土	①9.3　②4.9 ③2.0	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/3 ④口縁部1/5欠損	体部極めて浅い。底径小さい。中位に弱い稜をもつ。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4 H206	小形坏 土師質	覆土	①(9.5)　②(3.7) ③3.1	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/3	底径小さい。体部丸く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H206	坏 須恵器	－33	①(11.2)　②5.3 ③3.5	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④全形の1/3弱	底径小さく、体部緩曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6 H206	坏 須恵器	竈内	①(13.3)　②(8.0) ③3.3	①緻密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④全形の1/5	底径やや大きく、体部浅い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H－204－10
7 H206	坏 須恵器	覆土	①(13.4)　②7.7 ③3.4	①緻密　②良好　③灰N5/ ④全形の1/2弱	器形6に似る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	いぶし焼き。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
8 H206	坏 須恵器	＋5	①(12.6)　②(6.3) ③3.6	①砂粒含、密。　②酸化焔 ④橙5YR7/8　④全形の1/3	底径小さく、体部外傾して開く。器面磨耗する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部切り離し不明。	H－204－1
9 H206	坏 須恵器	－32	①13.2　②7.4 ③4.1	①密　②良好　③灰白10Y8/1 ④口縁部1/3欠損	体部若干深く、外傾して開く。器肉一定。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10 H206	小形埦 土師質	覆土	①9.7　②5.1 ③5.0	①砂粒含、粗。　②良好 ③浅黄2.5Y8/3　④ほぼ完形	体部丸く湾曲。高めの高台緩く外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
11 H206	埦 灰釉陶器	覆土	①(16.2)　②8.3 ③7.0	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④全形の1/8	体部深く、内湾して立ち上る。高台断面U字状。 口縁内側凹線。轆轤整形。腰部回転篦削り。	
1 H207	小形坏 土師質	覆土	①10.3　②4.7 ③3.3	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部1/3欠損	底径小さく、体部丸く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	口唇部煤付着。
2 H207	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②5.1 ③2.5	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部1/5欠損	体部浅く、緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H207	小形坏 土師質	－16	①9.2　②5.8 ③2.1	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/3欠	底径やや大きい。体部極めて浅く、緩く外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H207	小形坏 土師質	覆土	①8.3　②5.4 ③1.7	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口唇部1/4欠損	器形3より体部浅い。体部外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	口唇部煤付着。
5 H207	小形皿 土師質	竈内	①8.4　②4.7 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/3　④完形	体部強くハの字状に外傾。上端水平面形成。高台外傾して開く。轆轤整形。底部再調整。	
6 H207	坏 須恵器	竈内	①(13.3)　②6.5 ③4.0	①黒色粒含、密。　②酸化焔 ③にぶい褐7.5YR6/3　④体部1/5欠	底径小さく、体部深い。外傾して立ち上り、口縁部外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
7 H207	坏 土師質	竈内	①15.3　②7.3 ③3.7	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④口縁部2/5欠損	器肉厚い。体部緩く湾曲、口縁部で若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8 H207	坏 土師質	竈内	①(14.6)　②7.2 ③3.8	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④全形の1/2弱	器形7に似るが、体部外傾して開く。轆轤整形。 口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9 H207	坏 土師質	竈内	①14.3　②6.3 ③4.2	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部1/3欠損	器形8より底径小さい。体部緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10 H207	坏 土師質	覆土	①(14.8)　②7.0 ③3.4	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙5YR6/8　④体部大半欠損	体部下端で括れ、中位膨らむ。口縁部外反して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11 H207	小形埦 土師質	覆土	①10.4　②5.3 ③4.4	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2欠	体部丸く湾曲、高台部若干外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
12 H207	埦 土師質	覆土	①15.0　②8.0 ③6.2	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部3/4、体部一部欠損	体部丸く湾曲して立ち上る。高台高く、外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
13 H207	埦 土師質	竈内	①14.3　②8.0 ③4.7	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④口縁部1/3欠損	腰部若干張るが、外傾して開く。やや高めの高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部糸切り痕残る。	
14 H207	埦 土師質	覆土	①－　②6.4 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④底部	器肉厚い。高台部短く外傾する。 轆轤整形。底部再調整。	
15 H207	埦 土師質	覆土	①－　②(9.2) ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④底部	高台部高く、外傾して開く。 轆轤整形。底部再調整。	
16 H207	埦 土師質	竈内	——	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙7.5YR7/4　④底部3/4	高台端部を欠損する。内面煤状。内黒処理か。 轆轤整形。底部再調整。	
17 H207	埦 土師質	覆土	①－　②8.0 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③淡黄2.5Y8/3　④底部	体部丸く湾曲する器形か。高台高く、外傾して開く。轆轤整形。底部再調整。	
18 H207	埦 緑釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地明緑灰7.5GY7/1　④体部小片	内外面にぶい緑色の釉薬、光沢はない。 轆轤目残る。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
19 H207	埦 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④底部、高台端部欠損。	器肉薄く、堅緻。高台部短く直立するか。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
20 H207	埦 須恵器	覆土	①－　②(8.1) ③－	①密　②良好　③灰7.5Y4/1 ④底部1/2	黒色土器か。だれた短い高台。壺形態の可能性有。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
21 H207	埦 内黒土器	覆土	①－　②(8.5) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR6/6　④底部	高台器肉厚く、外傾して開く。 轆轤整形。内黒後篦磨き。底部再調整。	
22 H207	埦 内黒土器	覆土	①－　②(7.8) ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④底部1/2	体部丸く湾曲。高台部短く外傾する。 轆轤整形。内黒後、篦磨き。底部再調整。	
23 H207	埦 内黒土器	覆土	①－　②(9.5) ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④底部	高台高く外反して開く。 轆轤整形。内黒後、篦磨き。底部再調整。	
24 H207	羽釜	+16	①(30.0)　②－ ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/4　④上半部1/4	口径大きく、胴部短い器形か。鍔小さく形骸化。 口縁部横撫で。胴上半指撫で。下半篦削り。	
25 H207	羽釜	竈内	①(27.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④上半部1/5	器形的には24と同じ。口縁部篦記号？。 口縁部横撫で。胴部接合紐痕顕。指撫で調整。	

H－208号住居跡出土遺物観察表（図－267　図版－5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.4)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/5	底部平底気味。体部外傾して立ち上る。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2	小形坏 土師器	覆土	①8.3　②4.8 ③1.9	①密　②良好　③黄橙10YR8/6 ④全形の1/2	底径やや小さく、体部中位に弱い稜。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	小形坏 土師質	+7	①9.5　②5.3 ③2.0	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁2/3 欠	器形2に同じ。口径やや大きい。口唇部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	小形坏 土師質	覆土	①(8.8)　②5.3 ③1.9	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部大半欠	体部浅く、外傾して開く。器肉厚く一定。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5	小形坏 土師質	覆土	①8.7　②5.8 ③1.8	①砂粒含、密。　②良好　③にぶ い橙7.5YR7/4　④口縁1/3欠	器形4に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	小形坏 土師質	P_3内	①9.7　②5.8 ③2.0	①小石含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④口唇部1/4欠	器形4に似る。口径、底径やや大きい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	覆土	①9.2　②5.9 ③1.8	①白色粒含、密。　②良好　③に ぶい黄橙10YR7/3　④体部1/2欠	器形5に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②6.7 ③1.9	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の1/3	口径、底径共に幅広。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
9	坏 土師質	覆土	①14.7　②6.5 ③3.7	①砂粒含、密。　②良好　③にぶ い黄橙10YR7/4　④ほぼ完形	底径小さく、体部下半膨らむ。口縁部で外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	器形歪む。
10	坏 土師質	覆土	①15.6　②(8.0) ③3.9	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④全形の1/5	体部下端若干括れ、外傾して開く。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11	坏 土師質	覆土	①14.7　②7.2 ③4.1	①白色粒含、密。　②良好　③に ぶい橙7.5YR6/4　④全形の1/4	器形的には9に似る。口縁部シャープで若干外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	坏 土師質	覆土	①(14.6)　②7.6 ③3.8	①白色粒含、密。　②良好　③に ぶい橙7.5YR7/3　④体部3/4欠損	体部直線的に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	鉢 須恵器	覆土	①(14.9)　②6.3 ③2.0	①白色金状鉱物含。　②良好 ③灰白N6/　④全形の1/2	底径小さく、体部強くハの字状に外傾。口唇部外 反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　　考
14	羽釜	竈内	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④上半部小片	胴上半～口縁部直立気味。鍔小さく張り出し弱い。 口縁部横撫で。胴部中位～篦削り。	
15	甕 土師器	P_3内	①(21.1)　②— ③—	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR6/4　④上半部1/3弱	胴上半若干膨らみ、口縁部短く外反する。器肉厚い。口縁部横撫で。胴部篦削り、撫で。	外面粘土紐痕残る。
16	甕 土師器	竈内	①(22.8)　②9.5 ③25.7	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/2弱	器形的に15に似る。口縁部若干直立後、外反する。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	煮こぼれ痕付着。

H—210号住居跡出土遺物観察表（図—269　図版—5）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③3.7	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/3	底部平底。体部外傾して開き、口縁部変換点でわずかに外反気味。口縁部横撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	貯蔵穴内	①12.4　②— ③3.2	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④体部1/3欠損	底部平底。体部緩く湾曲し、中位で括れる。 口縁部横撫で。体部指頭痕残る。底部篦削り。	
3	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③3.4	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部3/4欠損	器形2に同じ。 口縁部横撫で。体部指調整。底部篦削り。	
4	坏 土師器	P_1内	①(11.8)　②— ③3.3	①密　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④全形の1/2	底部平底。体部緩く内湾、上位でわずかに凹む。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
5	坏 土師器	覆土	①12.3　②— ③3.9	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④体部2/5欠損	底部やや不安定な平底。体部緩く湾曲、上位で若干括れる。口縁部横撫で。底部篦削り。	
6	小形坏 内黒土器	位置不明	①(9.2)　②5.3 ③3.2	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④体部2/3欠損	底径やや小さく、体部緩く湾曲する。 轆轤整形。内黒後内面篦磨き。底部回転糸切り。	
7	小形坏 土師質	覆土	①(8.8)　②5.3 ③2.5	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④体部1/2欠損	体部浅く、外傾して開く。底径やや小さい。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
8	小形坏 土師質	覆土	①9.3　②6.2 ③2.0	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい褐7.5YR5/4　④体部1/2欠	底径大きく、体部極めて浅い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	口唇部煤付着。
9	坏 土師質	覆土	①(14.8)　②(7.8) ③3.5	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/4弱	体部緩く湾曲し、口縁部で大きく開く。器肉厚い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	坏 土師質	覆土	①14.6　②6.8 ③3.8	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の2/3	器形9に似る。体部9より若干深い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
11	坏 土師質	覆土	①14.8　②7.3 ③3.8	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4　④ほぼ完形	体部下半若干膨らみ、口縁部外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	坏 土師質	P_7内	①(14.8)　②7.5 ③4.0	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④全形の1/2	体部下半膨らみ、口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	坏 内黒土器	覆土	①—　②(5.7) ③—	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④底部1/2	底径小さい。轆轤整形。内黒後内面篦磨き。底部回転糸切り。	
14	坏 須恵器	覆土	①—　②6.4 ③—	①砂粒含、ざらつく。　②普通 ③灰白2.5Y8/2　④底部	体部下端で括れ、底部やや突出気味。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
15	坏 須恵器	覆土	①12.5　②5.9 ③3.8	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③灰7.5Y1/1　④ほぼ完形	底径小さく、体部深い。直線気味に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部内外面吸炭。
16	坏 須恵器	P_1内	①(12.6)　②6.0 ③4.0	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④全形の1/4強	底径小さく、体部内湾して立ち上り、口縁部で短く外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
17	鉢 須恵器	覆土	①14.0　②6.0 ③2.4	①白色粒含、密。　②良好 ③青灰5B5/1　④全形の3/5	体部浅く、ハの字状に湾曲、口縁部丸い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
18	皿 須恵器	覆土	①13.2　②6.7 ③2.8	①密　酸化焔　③褐灰10YR6/1 ④体部1/3欠損	体部ハの字状に外傾、口唇部で水平面を形成。 高台短く直立。轆轤整形。底部回転糸切り。	
19	小形埦 土師質	覆土	①10.5　②6.8 ③4.6	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙7.5YR7/4　④全形の4/5	器肉厚い。体部内湾し、高台短く外傾する。 轆轤整形。底部再調整。	高台貼付雑。
20	埦 土師質	覆土	①—　②(8.6) ③—	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙7.5YR7/4　④底部2/3	高台高く、外反して開く。体部は腰部で強く張る。 轆轤整形。底部再調整。	
21	埦 須恵器	覆土	①(16.0)　②9.0 ③5.2	①緻密　②良好　③灰白5Y8/2 ④体部9/10欠損	底径大きく、体部直線的に外傾。高台短い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部轆轤目顕著。
22	埦 須恵器	覆土	①—　②(7.2) ③—	①密　②良好　③灰白2.5Y8/2 ④下半部1/2	体部丸く湾曲。高台断面三角形、短く外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
23	埦 須恵器	覆土	①—　②(7.0) ③—	①密　②酸化焔　③橙7.5YR7/6 ④底部1/3	器肉薄く一定。体部内湾気味。高台短く外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
24	埦 須恵器	覆土	①—　②(6.2) ③—	①緻密　②良好　③にぶい褐7.5YR5/3　④底部	丁寧なつくり。高台短く直立する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
25	埦 灰釉陶器	覆土	①(15.1)　②(8.2) ③5.6	①緻密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2　④全形の1/3	体部深く、内湾して立ち上る。高台中位で若干屈曲。漬け掛け。轆轤整形。底部再調整。	
26	甕 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部ややコの字状。肩部若干張る。小形の器形。 口縁部横撫で。肩部箆削り。	
27	台付甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④下半部	台部強く外傾して開く。身部細身。台部横撫で。 身部箆削り。内面箆撫で痕。	
28	台付甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④下半部	台部横撫で。身部箆削り。内面箆撫で痕。	
29	羽釜	位置不明	①—　②6.7 ③—	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④底部1/2	器肉厚い。底径小さく、外傾して立ち上る。 胴外面箆削り。内面箆撫で。底部外周撫で調整か。	
30	小形壺 灰釉陶器	覆土	①—　②(6.0) ③—	①密　②良好　③素地灰白5Y7/2 ④下半部1/3	底部変換点で若干括れる。胴部直立気味に立ち上る。轆轤整形。施釉法不明。器面剝落顕著。	
31	羽釜	位置不明	①(19.1)　②— ③—	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部1/4	丁寧なつくり。口縁短く内傾、唇部平坦。鍔上向き。口縁部横撫で。胴部回転撫で。	
32	羽釜	P2内	——	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/6　④口縁部小片	鍔断面厚い三角形。水平に張り出す。口縁部内傾。 唇部平坦面残す。口縁部横撫で。胴部回転撫で。	
33	羽釜	覆土	——	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部小片	つくり31に似る。口縁部横撫で。内面回転撫で痕。	
34	甕 須恵器	覆土	——	①白色鉱物含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④頸部1/5	大形の器形。頸部3本一単位の波状文2列確認。 肩部内側凸状に接合痕残る。内外面撫で調整。	

H—216・226号住居跡出土遺物観察表（図—270）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H216	坏 須恵器	覆土	①—　②(7.9) ③—	①緻密　②良好　③青灰5B6/1 ④底部1/6	底部～体部への変換点不明瞭。底径大きいか。 轆轤整形。底部回転箆切り。	
2 H216	坏 須恵器	覆土	①—　②(9.0) ③—	①密　②良好　③灰白10YR7/1 ④底部小片	器形1に似る。 轆轤整形。底部回転箆切り。	
3 H216	坏 須恵器	覆土	①—　②(5.2) ③—	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR6/4　④底部1/5	轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4 H216	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白10YR7/1 ④口縁部小片	頸部外傾後、短く内屈する。自然釉付着。 内外面回転撫で。	
1 H226	坏 須恵器	覆土	①13.8　②6.0 ③3.9	①密、軟質。　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④全形の1/2強	底径小さく、体部深い。外傾して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2 H226	長頸壺 須恵器	覆土	頸部径(6.4)	①密　②良好　③灰7.5Y5/1 ④頸部1/2	頸部直線的に外傾。自然釉付着。 内外面回転撫で。	
3 H226	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④口縁部小片	口縁部直立後、上端で強く外反。コの字状か。 口縁部横撫でつけ。指頭痕残る。肩部篦削り。	

H－217号住居跡出土遺物観察表（図－271）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.5)　②－ ③3.6	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/6	体部中位膨らみ、口縁部で外傾する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。内面篦磨き。	
2	蓋 須恵器	覆土	①(15.0)　②－ ③－	①密　②良好　③灰黄褐10YR6/2 ④口縁部1/5強	体部緩く傾斜し、端部短く直立する。 轆轤整形。	
3	砥石	覆土	長6.1　幅4.7 厚1.5	片側小口面残す。上端に向って研ぎ減り顕著。上端部側面を含め、4面に使用痕認む。		
4	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③褐灰10YR5/1 ④頸部小片	頸部外反後、屈曲して内傾する。自然釉付着。 内外面回転撫で。	
5	羽釜	竈内	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部小片	形骸化した短い鍔をもつ。口縁部短く、現状で胴部直立気味。口縁部横撫で。胴部指撫で。	内面に回転撫で痕有。
6	甕 土師器	＋3	①(22.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④上半部2/3	口縁部外反して開く。肩部強く張る。器肉一定。 口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦撫で。	外面煮こぼれ痕顕著。

H－218号住居跡出土遺物観察表（図－272）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①(14.4)　②6.5 ③3.8	①緻密　②良好　③褐灰10YR5/1 ④全形の1/3弱	底径やや小さく、体部緩く湾曲。下位若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2	坏 須恵器	覆土	①(13.6)　②(5.8) ③3.6	①小石含、密。　②良好　③灰N5/ ④全形の1/3	器形1に似る。口縁部短く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	覆土	①－　②(6.8) ③－	①密　②酸化焔　③明赤褐5YR5/6　④底部1/2弱	体部下端弱く膨らむ。器肉薄く一定。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	覆土	①－　②(7.4) ③－	①緻密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④底部1/5	体部下端若干膨らむ。 轆轤整形。底部回転篦切りか。	
5	埦 須恵器	覆土	①－　②(7.5) ③－	①密　②良好　③浅黄2.5Y7/4 ④底部1/2	だれた短い高台。貼付け雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6	甕 土師器	覆土	①(19.4)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/4弱	コの字状の口縁。器肉薄い。 口縁部横撫でつけ。	

H－219・224号住居跡出土遺物観察表（図－273・274　図版－6）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H219	坏 土師質	覆土	①13.7　②5.7 ③3.6	①密　②良好　③にぶい赤褐5YR5/3　④全形の3/5	底径小さく、体部外傾して開く。下半若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
2 H219	坏 須恵器	覆土	①－　②(10.0) ③－	①密　②良好　③灰白10YR7/1 ④底部小片	底径大きい。底部～体部への変換点丸み。 轆轤整形。底部回転篦切り。	
3 H219	短頸壺 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白10YR8/1 ④肩部小片	頸部から緩く傾斜後、肩部強く張る。 内外面回転撫で。	
4 H219	甕 須恵器	覆土	①－　②8.2 ③－	①密　②良好　③灰白10YR8/1 ④底部1/2強	器肉厚い。平底。底部篦撫で調整。 胴下端部手持ち篦削り。内面回転撫で痕。	
5 H219	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。肩部の張りはみられない。 口縁部横撫で。肩部篦削り。唇部沈線状に凹む。	
6 H219	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部小片	コの字状口縁。肩部若干張る。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
1 H224	坏 須恵器	覆土	①(15.1)　②(6.4) ③2.8	①小石含、粗。　②良好 ③明褐灰7.5YR7/2　④全形の1/5	体部浅く、ハの字状に外傾、上半で若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
2 H224	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①緻密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④底部1/2	底径大きく、平底。 轆轤整形。底部回転篦切り。	
3 H224	埦 須恵器	覆土	①－　②現径7.9 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③黄灰2.5Y6/1　④底部1/5	高台剝落。体部湾曲して立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 H224	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状。肩部の張りは弱い。 口縁部横撫で。指頭痕残る。肩部篦削り。	

H－220号住居跡出土遺物観察表（図－275　図版－6）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	覆土	①11.4　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/5	底部～体部内湾し、口縁部で直立する。 口縁部横撫で。体部指頭痕残る。底部篦削り。	
2	坏 土師器	位置不明	①11.6　②－ ③3.7	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の3/5	底部～体部内湾し、口縁部で直立する。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
3	坏 土師器	周溝内	①13.6　②－ ③3.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR6/4　④体部1/5欠損	体部やや浅く、緩く内湾し、口縁部直立する。 口縁部横撫で。体～底部篦削り。	
4	坏 土師器	+11	①(13.6)　②－ ③3.5	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部2/3欠損	器形3に似る。 口縁部横撫で。体～底部篦削り。	
5	坏 須恵器	覆土	①(11.2)　②(7.8) ③3.5	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④全形の1/5	蓋の可能性あり。体部直線的に外傾。やや出尻気味。轆轤整形。底部篦削り調整。	

H－221号住居跡出土遺物観察表（図－276）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(14.4)　②－ ③3.0	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部2/3欠損	底部安定。体部外傾気味に立ち上る。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2	蓋 須恵器	覆土	摘径5.5　高0.9	①黒色粒含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④天井部	天井部緩く傾斜。環状の摘貼付。 轆轤整形。天井部回転篦削り。	
3	埦 須恵器	覆土	①－　②6.7 ③－	①緻密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④底部1/2	やや高めの高台。貼付丁寧。 轆轤整形。底部再調整。	
4	甕 土師器	－3	①(21.3)　②－ ③－	①密　②良好　③橙7.5YR6/6 ④上半部1/5	肩部大きく張り、口縁部外反する。器肉薄い。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	

H－222号住居跡出土遺物観察表（図—278　図版—６）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②　— ③　—	①密　②良好　③にぶい橙５YR 6/4　④上半部1/5	底～体部内湾して立ち上る。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2	蓋 須恵器	貯蔵穴内	①16.0　③4.1 摘径(4.7)高1.0	①密　②良好　③灰7.5Y6/1 ④ほぼ完形	体部深い。緩く傾斜し、口縁部短く直立する。 環状摘。轆轤整形。天井部回転篦削り。	
3	蓋 須恵器	＋12	摘径4.1　高0.8	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④天井部	天井部やや平坦。環状の小さい摘。轆轤整形。天井部回転篦削り。	器肉厚い。
4	蓋 須恵器	位置不明	①(17.0)　③4.0 摘径3.0　高0.8	①密　②良好　③灰黄褐10YR6/2 ④体部3/4欠損	体部２より深く、天井部平坦。口縁短く内屈する。 轆轤整形。天井部回転篦削り。摘は小さい。	
5	蓋 須恵器	＋１	①16.5　③5.1 摘径3.4　高0.9	①小石含、密。　②良好 ③褐灰10YR6/1　④ほぼ完形	体部深く、緩く傾斜。口縁部短く直立、唇部丸まる。轆轤整形。体部大半回転篦削り。摘小形。	重ね焼き痕
6	蓋 須恵器	＋６	①17.3　③5.7 摘径3.6　高1.0	①緻密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④完形	体部極めて深く、肩部より外反して開く。唇部内屈。轆轤整形。天井部回転篦削り。	重ね焼き痕
7	坏 須恵器	＋３	①12.5　②7.0 ③3.6	①小石含、密。　②良好 ③灰５Y5/1　④ほぼ完形	体部やや浅く、緩く湾曲して立ち上る。轆轤整形。 口縁部横撫で。回転糸切り、外周回転篦削り。	
8	坏 須恵器	＋１	①(12.4)　②7.4 ③4.1	①密　②良好　③灰白10YR7/1 ④全形の1/2	底径やや大きく、体部直線的に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
9	坏 須恵器	Ｐ内	①12.3　②6.2 ③3.7	①密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④全形の3/5	体部丸みをもって湾曲する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10	坏 須恵器	＋１	①12.8　②7.2 ③3.0	①黒色粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④ほぼ完形	腰部Ｌ字状に張り、直線的に外傾する。底径大きい。体部外面・底部墨書渦巻記号か。轆轤整形。	墨書「ℓ」記号か。
11	鉢 須恵器	＋６	①15.0　②9.7 ③7.7	①緻密　②良好　③灰５Y5/1 ④ほぼ完形	体部深く、腰部若干膨らむ。高台外傾、端部平坦。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
12	短頸壺 須恵器	＋８	①8.5　②7.3 ③6.3	①小石含、密。　②良好 ③灰N5/　④ほぼ完形	小形の器形。口縁部短く外傾、唇部丸い。肩部張る。轆轤整形。底部回転篦切り。	内面タール状付着物
13	甕 土師器	＋12	①(13.0)　②　— ③　—	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR6/4　④口縁部1/4弱	小形の器形。肩部張り、口縁部変換点に稜をもつ。 口縁部外反。口縁部横撫で。肩部篦削り。	
14	台付甕 土師器	覆土	①　—　②(7.3) ③　—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④台部1/3強	上端細身、緩く外反して開く。下端部丸まる。 内外面横撫で。	
15	短頸壺 須恵器	＋14	①(12.8)　②　— ③現高18.0	①密　②良好　③灰５Y4/1 ④上半部3/5	口縁部短く直立、肩部大きく張る。外面当て目後、 肩部カキ目。内面回転撫で痕。口縁部横撫で。	
16	甕 土師器	——	①(19.6)　②　— ③　—	①密　②良好　③橙５YR6/6 ④口縁部1/4弱	肩部若干膨らみ、口縁部上半で外反。 口縁部横撫で。肩部以下篦削り。	
17	甕 土師器	位置不明	①(19.6)　②　— ③　—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/3	肩部膨らみ、口縁部緩く外反する。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
18	甕 土師器	＋12	——	①密　②良好　③にぶい橙2.5 YR6/4　④上半部小片	16・17に同じ。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
19	甕 土師器	壁際	①(23.3)　②　— ③　—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/2	口縁部の反りやや強い。肩部若干膨らむ。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
20	甕 土師器	＋16	①21.0　②　— ③　—	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④下半部欠損	胴上半丸く膨らみ、肩部わずかに稜をもつ。口縁部ややコの字状にちかい。口縁部指頭痕残る。	
21	砥石	＋10	長8.0　幅4.8 厚1.4	片側小口面を残す。上端部径0.8cmの孔穿孔される。手持ち砥か。表裏２面研ぎ減り顕著。断面撥状をなす。片側側面沈線状の痕跡。４面使用。		

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
22	砥石	壁際	長10.0　幅6.5 厚3.6	4面使用。片側小口面を残す。側片L字状に突出。意図的に器面剝落後使用面としたかは不明。各面共に凹状に研ぎ減りする。		

H－223・230号住居跡出土遺物観察表（図－280）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H223	坏 須恵器	覆土	①(12.0)　②(7.2) ③3.6	①黒色粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④全形の1/6	体部直線的に外傾する。底径やや大きいか。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦削りか。	
2 H223	坏 須恵器	覆土	①(13.4)　②5.4 ③4.2	①密　②良好　③浅黄2.5Y8/3 ④体部3/4欠損	底径小さく、体部深い。若干膨んで外傾、唇部で弱く外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
3 H223	坏 須恵器	覆土	①(14.8)　②－ ③－	①密　②良好　③緑灰5G6/1 ④口縁部1/6	底端部剝落。高台貼付痕か。体部浅く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。腰部回転篦削り。	
4 H223	甕 土師器	覆土	①(21.6)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部やや長く、緩く外反する。肩部張りはない。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
5 H223	甕 土師器	竈内	——	①砂粒多、粗。　②普通　③にぶい黄橙10YR7/4　④上半小片	長胴形の器形。口縁部外傾して開く。 口縁部横撫で。胴部篦削り。	
6 H223	甕 土師器	床面	①(22.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4弱	口縁部緩く外反、唇部丸い。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
7 H223	甕 土師器	覆土	——	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR7/8　④口縁部1/5	肩部張り強く、球形の形態をもつか。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
1 H230	埦 須恵器	覆土	①－　②6.8 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③淡黄2.5Y8/3　④底部	直立する短い高台。貼付雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2 H230	壺 須恵器	覆土	——	①緻密　②良好　③灰白7.5Y7/1 ④底部1/3	高台部、胴下端欠落。後者は規則的に打ち欠き、意図的か。底部回転撫で調整。研磨痕の痕跡有。	硯に転用か

H－225号住居跡出土遺物観察表（図－282　図版－6）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④小片	体部浅く、緩く内湾。口縁部で直立気味。 口縁部横撫で。体部下半～底部篦削り。	
2	坏 須恵器	周溝内	①12.4　②6.3 ③3.6	①小石含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y6/2　④口唇部1/5欠損	体部やや浅く、直線的に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3	坏 須恵器	覆土	①－　②6.2 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④底部	体部下端で若干括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4	坏 須恵器	覆土	——	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y8/2　④底部小片	底部～体部への変換点丸み。 轆轤整形。底部回転篦切り。	
5	坏 須恵器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④底部1/4	轆轤整形。底部回転糸切り、外周部回転篦削り。	体部煤状付着物
6	埦 須恵器	＋95	①－　②7.3 ③－	①小石含、軟質。　②良好 ③灰黄2.5Y7/2　④下半部	だれた短い高台。貼付雑。体部緩く内湾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	重ね焼痕 H－1－3
7	埦 須恵器	覆土	①－　②7.5 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③灰黄褐10YR5/2　④下半部	器形6に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
8	皿 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④口縁部小片	ハの字状に外傾。口縁部外面沈線状に凹み、内面丸まる。轆轤整形。内面残存部全面に施釉痕。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
9	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部コの字状か。口唇部沈線状に凹む。 口縁部横撫で。	
10	甕 須恵器	覆土	①—　②(8.9) ③—	①密　②良好　③褐灰10YR6/1 ④底部1/3	底部中央凹む。胴部器肉厚い。 胴下端部～底部外周手持ち篦削り。	
11	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部小片	口縁部緩く外反。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

H—227・229・231号住居跡出土遺物観察表（図—283・284　図版—6）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H227	坏 土師器	覆土	①(12.0)　②— ③—	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④上半部1/5	底部やや安定。体部緩く内湾、口縁部で外傾する。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2 H227	坏 須恵器	覆土	①(11.9)　②(5.9) ③3.7	①密　②良好　③灰黄2.5Y6/2 ④全形の1/5	体部下半若干膨らみ、口縁部で外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
3 H227	坏 須恵器	覆土	①13.3　②5.3 ③3.8	①小石含、密。　②良好 ③灰白5Y7/1　④口縁部1/6欠損	底径小さく、体部深い。ほぼ直線的に外傾、口唇部若干外反。轆轤整形。口縁部横撫で。	
4 H227	坏 須恵器	覆土	①(14.0)　②7.1 ③3.9	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④全形の1/8	体部緩く内湾して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
5 H227	坏 須恵器	覆土	①—　②6.0 ③—	①密　②良好　③灰黄2.5Y6/2 ④底部	3に器形似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
6 H227	坏 須恵器	覆土	①—　②6.1 ③—	①砂粒含、密。　②いぶし焼成か。 ③暗オリーブ灰2.5GY4/1　④底部	底径やや小さい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
7 H227	坏 須恵器	覆土	①—　②7.0 ③—	①砂粒含、密。　②良好 ③褐灰10YR5/1　④底部1/2	底部平底。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
8 H227	坏 須恵器	覆土	①—　②9.8 ③—	①密　②良好　③灰5Y5/1 ④底部2/3	底径大きく、壺形態か。 轆轤整形。底部篦切り。	
9 H227	埦 須恵器	覆土	①(15.5)　②7.3 ③5.4	①砂粒含、軟質。　②良好 ③灰白10Y8/1④全形の1/3	腰部わずかに張り、外傾して開く。だれた高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
10 H227	埦 須恵器	覆土	①—　②(7.2) ③—	①小石含、密。　②良好 ③褐灰10YR6/1　④下半部1/4	断面台形状の短い高台。体部緩く内湾。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
11 H227	埦 須恵器	周溝内	①—　②7.3 ③—	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR7/4　④底部	10と同様の高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
12 H227	埦 須恵器	覆土	①—　②(6.4) ③—	①緻密　②良好　③黄灰2.5Y6/1 ④底部1/2	だれた短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
13 H227	埦 須恵器	覆土	①—　②7.1 ③—	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄2.5Y7/3　④底部	断面台形状の短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
14 H227	埦 須恵器	覆土	①—　②7.0 ③—	①砂粒含、密。　②酸化焔 ③にぶい橙5YR6/4　④底部1/2	直立気味の短い高台。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
15 H227	埦 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④底部小片	高台剝落する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
16 H227	埦 須恵器	覆土	①—　②7.4 ③—	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR6/4　④底部	器形13に似る。つくり丁寧。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
17 H227	埦 須恵器	覆土	①—　②(8.1) ③—	①密　②酸化焔　③橙5YR6/6 ④底部1/2	体部直線的。高台短く直立。つくり丁寧。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
18 H227	埦 須恵器	覆土	①－　②(8.0) ③－	①緻密　②良好　③灰黄褐10YR 6/2　④底部1/4弱	高台やや高く外傾して開く。大ぶりの器形か。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
19 H227	埦 須恵器	覆土	①－　②(9.6) ③－	①密　②酸化焔　③浅黄橙7.5 YR8/4　④底部1/4	大ぶりの器形か。高台断面U字状。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
20 H227	皿 須恵器	覆土	①(13.6)　②6.7 ③2.7	①砂粒含、密。　②酸化焔　③に ぶい橙7.5YR7/4　④体部1/2欠	器肉厚い。体部ハの字状に外傾、断面台形状の高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
21 H227	台付甕 土師器	住居外	①－　②(8.7) ③－	①密　②良好　③にぶい黄橙10 YR6/4　④台部1/3	底部小さい。 台部横撫で。	
22 H227	台付甕 土師器	竈内	①－　②(8.6) ③－	①密　②良好　③にぶい橙5YR 7/4　④台部1/2	21より外反の度合い弱い。 台部横撫で。	
23 H227	甕 土師器	竈内	①(12.4)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/4	小形の器形。肩部膨らみ、口縁部緩く外反する。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
24 H227	甕 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④口縁部小片	口縁部ややコの字状。 口縁部横撫で。	
1 H229	埦 土師質	覆土	①－　②7.0 ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④底部	高台直立し、断面台形状。つくり丁寧。轆轤整形。 内面篦磨き。底部回転糸切り。	
2 H229	砥石	覆土	長4.1　幅2.6 厚1.6	両小口面欠損。2面に使用痕。他面は条線状の加工痕。小形の器形か。		
1 H231	坏 土師器	＋9	①(11.8)　②－ ③3.4	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の1/4	底～体部緩く内湾し、口縁部で外傾する。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2 H231	坏 土師器	＋9	①(11.9)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④上半部1/6	器形1に似る。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
3 H231	坏 土師器	＋9	①(11.5)　②－ ③－	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④上半部1/4	器形1に似る。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
4 H231	坏 須恵器	覆土	①－　②6.3 ③－	①密　②酸化焔　③にぶい赤褐 2.5YR5/4　④底部	平底気味。体部直線的。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
5 H231	埦 須恵器	＋33	①(15.5)　②－ ③－	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④体部1/6、高台欠損。	体部深く、口縁部緩く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
6 H231	甕 土師器	＋33	①(19.7)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④口縁部1/4	口縁部コの字状。肩部の張りは弱い。口唇凹む。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	
7 H231	甕 土師器	＋33	①(20.2)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/8 ④口縁部1/4弱	口縁部コの字状だが、肩部の張りはない。 口縁部横撫で。肩部篦削り。	

K－1・2号掘立柱建物出土遺物観察表（図－289　図版－6）

番号	器種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備考
1 K1	坏 土師器	覆土	——	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④小片	底部平底。体部緩く湾曲、上位で若干凹む。 口縁部横撫で。底部篦削り。	
2 K1	坏 須恵器	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④底部小片	体部下端で括れ、底部突出気味。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
3 K1	坏 須恵器	P_5内	①－　②7.0 ③－	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④底部	体部下端括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
4 K1	坏 須恵器	覆土	——	①砂粒含、軟質。　②酸化焔 ③にぶい黄橙10YR6/4　④口縁小片	器面磨耗。外面墨書。判読不明。 轆轤整形。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5 K 1	埦 須恵器	覆土	①(14.9)　②－ ③－	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④上半部1/4強	体部緩く湾曲して立ち上り、口唇部シャープ。轆轤整形。口縁部横撫で。	
6 K 1	埦 須恵器	覆土	①(14.3)　②(6.8) ③5.5	①砂粒含、粗。　②良好 ③灰白7.5Y8/2　④全形の1/4強	器肉厚い。体部深く、口縁部外反。だれた高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
7 K 1	埦 土師質	覆土	①－　②9.2 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④底部	器肉厚い。高台強く外反する。 轆轤整形。底部再調整されるが糸切り痕残る。	
8 K 1	埦 灰釉陶器	P_4内	①13.8　②6.3 ③4.4	①密　②良好　③素地灰白10Y8/1 ④全形の2/3	口唇部短く外反。高台部稜をもつが、シャープさに欠ける。轆轤整形。口縁部横撫で。	
9 K 1	埦 灰釉陶器	P_4内	①(15.3)　②(7.0) ③4.5	①密　②良好　③素地灰白5Y7/1 ④全形の1/5	口唇部キュッと折れる。高台三日月型だが、稜は強くない。轆轤整形。腰部回転篦削り。	
10 K 1	小瓶 灰釉陶器	覆土	①4.9　②－ ③－	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2　④口縁部	口唇部強く外反し、内側口唇部を形成。 轆轤整形。上端部横撫で。	
11 K 1	甕 須恵器	P_4内	——	①小石含、密。　②良好 ③灰白5Y8/1　④頸部片	大形の器形。頸部15本一単位の波状文及び一条の沈線で区画。内面回転撫で。	
1 K 2	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③灰白7.5Y8/1 ④体部小片	轆轤整形。腰部回転篦削り。	
2 K 2	鉢 土師質	覆土	基部現径7.5	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/3　④高台部	足高の高台。器肉厚い。 轆轤整形。	

K－5 II号掘立柱建物跡出土遺物観察表（図—293）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 須恵器	P_{10}内	①12.0　②7.4 ③4.2	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④口縁部1/3欠損	底径やや大きく、体部直線的に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	K－5－P10

K－6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（図—294）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	覆土	①(8.4)②(3.9) ③2.1	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の1/2弱	底径小さく、体部緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
2	壺 須恵器	覆土	①－　②(12.0) ③－	①密　②酸化焔　③橙7.5YR7/6 ④底部小片	体部外傾して立ち上る。断面台形状の短い高台。回転撫で。器面磨耗する。	

P－1・2・3・4号土坑出土遺物観察表（図—296）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 P 1	小形皿 土師質	覆土	①(9.6)　②(5.9) ③2.6	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④体部1/2欠損	体部浅く、高台部やや高い。共にハの字状に外傾。轆轤整形。底部再調整。つくり雑。	方形P－1－雑
1 P 2	埦 内黒土器	位置不明	①－　②6.6 ③－	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④底部	高台短く外反する。轆轤整形。内黒後、篦磨き。底部再調整。高台貼付雑。	方形P－2－1
1 P 3	小形坏 土師質	位置不明	①(9.7)　②(4.3) ③2.1	①砂粒多、粗。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の1/3弱	底径小さい。体部緩く湾曲、ハの字状に開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形P－3－3
2 P 3	埦 土師質	覆土	①(14.0)　②－ ③－	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/5	器肉厚い。体部下半膨らみ、口縁部で開く。轆轤整形。口縁部横撫で。	方形P－3－雑
3 P 3	埦 土師質	位置不明	①(13.9)　②7.8 ③5.2	①砂粒含、粗。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部7/8欠	2より体部丸い。高台部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形P－3－4

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
4 P 3	鉄滓	覆土	径10.4×6.3 厚5.2　450ｇ	流出滓か。表面波状を呈し重なる。裏面海綿に気泡あく。 マグネットの反応は鈍い。		方形Ｐ－3－雑
5 P 3	鞴羽口	覆土	現長8.7　幅(9.9) 厚3.0	先端部飴状を呈し、一部気泡あく。		方形Ｐ－3－雑
6 P 3	羽釜	覆土	――	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④上半部小片	口縁やや長く。鍔肉厚の三角形。胴部紐接合痕顕著。口縁部横撫で。胴部あさい篦削りか。	口唇部平坦 方形Ｐ－3－雑
1 P 4	小形坏 土師質	覆土	①(10.0)　②(6.6) ③3.0	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③淡黄2.5Y8/3　④全形の1/5	体部浅く、底径やや大きいか。体部緩く内湾して立ち上る。轆轤整形。底部回転糸切り。	方形Ｐ－4－雑
2 P 4	小形坏 土師質	覆土	①(9.7)　②4.7 ③3.4	①砂粒含、粗。　②良好　③橙7.5YR7/6　④口縁部1/5欠損	底径小さい。体部下半丸み、口縁部で外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形Ｐ－4－雑
3 P 4	小形埦 土師質	覆土	①11.0　②6.3 ③4.2	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④体部3/4欠損	体部丸く、口縁部で外傾。高台短い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	Ｐ5と接合 方形Ｐ－4－雑
4 P 4	埦 土師質	覆土	①15.8　②－ ③体部高4.6	①小石含、粗。　②良好 ③橙5YR7/6　④高台端部欠損	体部深く、下半で丸み。口縁部短く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	方形Ｐ－4－雑
5 P 4	羽釜	覆土	――	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部小片	口縁部やや長く、唇部平坦。鍔小さく水平に張り出す。口縁部横撫で。	方形Ｐ－4－雑

Ｐ－5・6・7・8・9・11・12号土坑出土遺物観察表（図－298）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 P 5	小形坏 土師質	覆土	①8.7　②5.3 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好　③明赤褐2.5YR5/6　④口唇1/4欠損	体部極めて浅く、口縁部外反する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	方形Ｐ－5－雑
2 P 5	托 土師質	＋2	①9.8　②3.9 ③2.5	①密　②普通　③浅黄2.5Y8/4 ④体部1/2弱欠損	体部浅く、ハの字状に外傾。底部柱状に突出する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	方形Ｐ－5－2
3 P 5	小形埦 土師質	＋2	①9.3　②4.9 ③4.2	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部1/3欠損	体部丸く、口縁部で直立する。高台やや高い。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	内面煤状。 方形Ｐ－5－2
4 P 5	小形埦 土師質	＋18	①(10.4)　②5.2 ③4.8	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④体部2/3欠損	器形3に似る。口縁部で若干外傾気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	内面煤状。 方形Ｐ－5－1
5 P 5	小形埦 土師質	覆土	①9.8　②(5.2) ③4.9	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③淡黄2.5Y8/4　④体部1/3欠損	器形4に同じ。口縁部やや肉厚。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	口唇内面煤付着。方形Ｐ－5－雑
6 P 5	埦 土師質	覆土	①(12.0)　②(7.1) ③4.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/4弱	体部丸く湾曲、口縁部で外傾する。高台短い。 轆轤整形。内面～口縁部外面篦磨き。	方形Ｐ－5－雑
7 P 5	埦 土師質	＋18	①－　②7.3 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄2.5Y8/3　④底部	高台高く、緩く外反して開く。 轆轤整形。底部再調整。	方形Ｐ－5－1
8 P 5	埦 土師質	覆土	①－　②8.0 ③－	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙7.5YR8/3　④底部	高台やや高く、ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。底部再調整。	方形Ｐ－5－雑
9 P 5	埦 土師質	＋24	①12.6　②8.5 ③6.6	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい黄橙10YR8/3　④体部1/3欠	腰部強く張り出す。高台足高、外反して開く。 轆轤整形。底部再調整。	内・外面吸炭痕顕著。方形Ｐ－5－3
1 P 6	小形坏 土師質	位置不明	①(10.4)　②4.7 ③3.1	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部2/3欠損	底径小さく、体部中位膨らむ。口縁部若干外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形Ｐ－6－1

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
2 P 6	埦 土師質	位置不明	①(16.6)　②12.3 ③10.1	①砂粒含、密。　②普通　③淡黄2.5Y8/3　④体部3/5、高台端部欠	高台極めて高く、ハの字に外傾。体部浅く丸く湾曲。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	方形P－6－1
1 P 7	埦 須恵器	覆土	①－　②6.3 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④底部	高台短く直立する。轆轤整形。底部回転糸切り。体部内外面墨書。判読不明。	方形P－11－雑
2 P 7	埦 土師質	覆土	①－　②(12.5) ③－	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④高台部1/2	高台極めて高く、緩く外反して開く。轆轤整形。	方形P－11－雑
3 P 7	埦 灰釉陶器	覆土	——	①密　②良好　③素地灰白2.5Y7/1　④小片	体部緩く湾曲して口縁部に至る。高台短く直立。轆轤整形。施釉漬け掛けか。	方形P－11－雑
1 P 8	小形坏 土師質	＋23	①(9.6)　②4.5 ③3.1	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部2/3欠損	底径小さい。体部下端若干括れ、緩く湾曲する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形P－8－5
2 P 8	坏 土師質	＋24	①－　②7.0 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	底径やや小さく、体部下端弱く括れる。轆轤整形。底部回転糸切り。	方形P－8－8
3 P 8	埦 内黒土器	＋7	①－　②(8.2) ③－	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④底部	高台部細身で、直立後下端で括れ、U字状に膨らむ。轆轤整形。内面内黒後篦磨き。底部再調整。	方形P－8－4
4 P 8	埦 内黒土器	＋3	①(16.8)　②9.9 ③8.0	①密　②良好　③橙5YR6/8 ④体部3/4欠損	体部深く、丸く湾曲。高台高く、ハの字状に外傾。轆轤整形。口縁部横撫で。内黒後篦磨き。	方形P－8－2
5 P 8	埦 土師質	＋20	①－　②7.9 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④高台部	高台高く、外傾後端部で丸くなる。轆轤整形。	方形P－8－7
1 P 9	小形埦 土師質	＋12	①(10.5)　②6.4 ③5.2	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4　④体部2/3欠損	体部丸く、口縁部で緩く外傾。高台高く直立する。轆轤整形。底部再調整。	方形P－9－1
2 P 9	埦 土師質	＋1	①(13.0)　②－ ③－	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR6/4　④口縁部1/4	体部下半丸く、口縁部で外傾するか。轆轤整形。口縁部横撫で。	方形P－9－3
3 P 9	埦 土師質	－7	①－　②6.2 ③－	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR7/6　④高台部	高台肉厚で、短く外傾する。断面やや台形状。轆轤整形。高台唇部再調整。	方形P－9－2
4 P 9	埦 土師質	－7	①－　②(8.0) ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/8　④底部	高台高くハの字状に外傾する。轆轤整形。底部再調整。	方形P－9－6
5 P 9	埦 内黒土器	－4	①－　②7.4 ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④底部1/2強	高台短く外傾、下端部平坦。轆轤整形。内黒後篦磨き。底部再調整。	方形P－9－4
6 P 9	埦 内黒土器	－4	①－　②6.4 ③－	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④体部下半	体部丸く内湾、高台短く外傾する。轆轤整形。底部外面符号か、「##」。内黒後篦磨き。	方形P－9－5
1 P12	坏 土師質	覆土	①(14.3)　②6.2 ③3.9	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部3/4欠損	底径小さく、体部中位膨らむ。口縁部緩く外反して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	方形P－12－雑
2 P12	坏 土師質	覆土	①14.7　②6.6 ③4.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③明黄褐10YR7/6　④体部1/5欠損	底径小さく、体部外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形P－12－雑
3 P12	坏 土師質	覆土	①14.8　②7.6 ③4.7	①密、軟質。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部1/3欠損	2より底径大きく、体部直線的に外傾する。轆轤整形。内面指頭有。底部回転糸切り。	方形P－12－雑
4 P12	坏 土師質	覆土	①(15.3)　②(9.9) ③6.8	①白色粒含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④体部1 1/2欠損	体部丸みをもって湾曲、口縁部で緩く外反。高台外傾。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	方形P－12－雑

P－16・18・20号土坑出土遺物観察表（図－300）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 P16	埦 土師質	覆土	①(17.7) ②現径9.1	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③にぶい黄橙10YR7/4　④体部下半	体部深く、丸く内湾して立ち上る。高台高いとみられる。轆轤整形。口縁部横撫でか。	方形P－16－雑

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 P18	小形坏 土師質	覆土	①(8.7)　②4.8 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部5/7欠損	体部浅く、ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形P－18－雑
2 P18	埦 土師質	覆土	①－　②7.9 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部1/2	高台部外傾して開き、底部中央凸状をなす。 轆轤整形。内面篦磨き。	方形P－18－雑
3 P18	埦 土師質	覆土	①－　②6.3 ③－	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④底部	器形3に似る。底径は3より小さい。底部器肉薄い。轆轤整形。内面篦磨き。	方形P－18－雑
4 P18	埦 須恵器	覆土	①－　②7.3 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③灰白2.5Y7/1　④底部1/4	だれた短い高台。つくり雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	方形P－18－雑
5 P18	甕 須恵器	覆土	——	①密　②良好　③灰白2.5Y7/1 ④胴部小片	外面にぶい緑色の自然釉付着。内面当て目痕、外面平行沈線状の叩き目。	方形P－18－雑
6 P18	甕 須恵器	覆土	——	①小石含、密。　②良好 ③灰5Y5/1　④底部小片	底部若干突出気味。外面平行沈線状の叩き目痕、内面当て目痕残す。	方形P－18－雑
1 P20	坏 須恵器	——	①(11.8)　②5.8 ③3.1	①石含、密。　②良好 ③灰5Y6/1　④体部3/4欠損	底径小さく、体部外傾して開く。腰部膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	大型P－1－1

P－53号土坑出土遺物観察表（図－306）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 須恵器	+39	①－　②6.6 ③－	①密　②良好　③オリーブ灰5GY6/1　④底部	断面台形状の短い高台。貼付雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H－99HP－9

F－1・2・3号製鉄跡出土遺物観察表（図－309・310）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 F1	小形坏 土師質	覆土	①(9.9)　②(6.3) ③2.9	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④全形の1/3	底径やや大きく、体部緩く湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	方形P－7－雑
2 F1	坏 土師質	覆土	①－　②7.3 ③－	①白色粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/3　④底部	体部下端括れ、底部突出気味。 轆轤整形。底部回転糸切り。	方形P－7－雑
3 F1	羽釜	覆土	——	①白色粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④口縁部小片	口縁部短く内傾。鍔水平に張り出す。つくり雑。 口縁部横撫で。	方形P－7－雑
4 F1	壺 須恵器	覆土	①－　②12.8 ③－	①密　②良好　③黄灰2.5Y5/1 ④下半部1/2	断面台形状の高台。下半部細身で直線的に外傾。 回転撫で。底部再調整。	方形P－7－雑
5 F1	瓶 灰釉陶器	覆土	①－　②(13.7) ③－	①密　②良好　③素地灰白5Y7/2 ④下半部1/4	断面台形状の短い高台。高台角シャープさはない。 轆轤整形。	方形P－7－雑
6 F1	鉄滓	覆土	径7.8×5.5 厚2.3　110g	流出滓か。器面飴状を呈し、凸状の重なりをみる。裏面海綿状の気泡あく。 マグネットの反応は鈍い。		方形P－7－雑
1 F2	鉄滓	覆土	径6.2×5.6 厚2.7　60g	器面凹凸顕著。海綿状の気泡あく。マグネットの反応は鈍い。		F－1－雑
2 F2	鉄滓	覆土	径6.7×4.5 厚3.5　70g	舌状の器形。凹凸顕著。表面中央木炭の付着認む。器面一部飴状をなす。 マグネットの反応は鈍い。		F－1－雑
3 F2	鉄滓	覆土	径8.0×6.2 厚2.4　140g	舌状。器面凹凸。気泡若干認む。木炭の付着あり。 マグネットの反応は鈍い。		F－1－雑
4 F2	鉄滓	覆土	径6.8×5.5 厚4.2　140g	器面片面滴下状。海綿状の気泡あく。マグネットにほとんど反応しない。		F－1－雑

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
5 F 2	鉄滓	覆土	径9.8×8.8 厚5.2　350g	楕円形の形状。表面若干凹む。裏面凹凸顕著。器面⅔飴状、縁辺部海綿状。 飴状部で若干マグネットに反応する。		F－1－雑
6 F 2	鉄滓	覆土	径6.4×4.5 厚3.6　110g	不整形状。木炭の付着あり。一部炉壁付着。 マグネットの反応は鈍い。		F－1－雑
7 F 2	鉄滓	覆土	径6.7×5.8 厚4.2　160g	楕円形。片側海綿状、気泡あく。マグネットの反応鈍い。		F－1－雑
8 F 2	鉄滓	覆土	径6.8×5.9 厚4.5　200g	楕円形状。木炭の付着顕著。海綿状に気泡あく。 マグネットにほとんど反応しない。		F－1－雑
9 F 2	鉄滓	覆土	径6.2×5.0 厚3.4　110g	舌状。裏面木炭の付着顕著。器面凹凸し、気泡あく。 マグネットにほとんど反応しない。		F－1－雑
10 F 2	鉄滓	覆土	径7.4×7.2 厚4.8　240g	断面U字状。木炭付着し、海綿状に気泡あく。 マグネットの反応は鈍い。		F－1－雑
11 F 2	鞴 羽口	覆土	長4.0　幅8.5 厚3.0　孔径(1.9)	先端部飴状を呈し、一部突出する。側面被火痕顕著。		F－1－雑
12 F 2	鞴 羽口	覆土	長4.8　幅 — 厚2.5　孔径(1.5)	先端部飴状を呈し、気泡若干あく。胎土にスサ状の混入物あり。		F－1－雑
1 F 3	鉄滓	覆土	径6.1×4.6 厚2.1　50g	器面薄く、凹凸顕著。一部木炭付着、海綿状に気泡あく。 マグネットにほとんど反応しない。		製鉄跡炉－雑
2 F 3	鉄滓	覆土	径4.1×3.6 厚3.7　30g	断面三角形状。一部炉壁材付着。 マグネットに反応しない。		製鉄跡炉－雑
3 F 3	鉄滓	覆土	径5.0×3.0 厚1.9　20g	器面凹凸し、海綿状に気泡あく。 マグネットに反応しない。		製鉄跡炉－雑
4 F 3	鉄滓	覆土	径6.9×6.1 厚2.9　90g	器面凹凸し、木炭の付着顕著。 マグネットの反応は鈍い。		製鉄跡炉－雑
5 F 3	鞴 羽口	覆土	長6.0　幅(8.2) 厚3.3　孔径(2.0)	先端部飴状、側面被火による焼成痕認む。胎土にスサ混入する。		製鉄跡炉－雑
6 F 3	鞴 羽口	覆土	長6.3　幅 — 厚2.5	片側端部被火痕あり、灰色味。撫で、指頭痕認む。 胎土スサの混入あり。		製鉄跡炉－雑
7 F 3	鞴 羽口	覆土	長5.5　幅 — 厚2.5　孔径(1.5)	先端飴状。側面被火痕あり。 胎土スサ混入。内面橙色。		製鉄跡炉－雑

井戸跡出土遺物観察表（図－311）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 土師質	位置不明	①(14.0)　②6.7 ③4.1	①白色粒含、密。　②良好 ③橙 5 YR⅔　④全形の⅗	体部緩く湾曲し、口縁部で外傾する。底部未調整で片側凸状。轆轤整形。口縁部横撫で。	

W－24号溝跡出土遺物観察表（図－313・314）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	小形坏 土師質	位置不明	①9.2　②4.8 ③2.6	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR⅞　④全形の½	底径小さく、体部下端括れる。腰部膨らみ、口縁外反。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	WA－9
2	小形坏 土師質	覆土	①9.0　②5.8 ③2.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR⅞　④口唇⅓欠	底径1より大きい。体部下半膨らみ、口縁部外反する。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	WA－雑

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
3	小形坏 土師質	位置不明	①(8.4)　②(5.8) ③2.1	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5 YR7/4　④全形の1/5	器肉厚い。体部浅く、緩く外傾して立ち上る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－2
4	小形坏 土師質	位置不明	①8.5　②5.7 ③2.1	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	器形3に同じ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－14
5	小形坏 土師質	位置不明	①(9.2)　②5.0 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④全形の1/3	底径やや小さく、体部外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－13
6	小形坏 土師質	位置不明	①(9.5)　②5.0 ③1.9	①白色粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/2欠損	5に似るが、体部下半若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－12
7	小形坏 土師質	位置不明	①(8.7)　②5.3 ③1.8	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/2	体部浅い。器形5に似る。底径若干大きい。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－8
8	小形坏 土師質	覆土	①9.6　②6.0 ③2.2	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部浅く、下端で弱く括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－雑
9	小形坏 土師質	位置不明	①9.0　②6.5 ③2.2	①密　②良好　③にぶい橙7.5 YR7/3　④全形の1/2	器形8に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り。	口唇部煤状付着物 WA－12
10	小形坏 土師質	位置不明	①(9.4)　②6.2 ③1.6	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口唇部2/3欠	体部極めて浅い。緩く外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－15
11	坏 土師質	位置不明	①(14.8)　②7.2 ③4.6	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/3	底部やや突出気味。体部緩く湾曲、口縁部若干外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－12
12	坏 土師質	位置不明	①(14.4)　②7.3 ③4.0	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④全形の1/6	体部下端括れ、中位で若干膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－12、13、 I－211－85
13	坏 土師質	位置不明	①(13.7)　②7.0 ③3.7	①白色粒含、ざらつく。　②良好 ③浅黄2.5YR7/3　④体部1/5欠損	器形12に似る。下端の括れは弱い。口縁部短く外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－10
14	坏 土師質	位置不明	①(14.5)　②7.7 ③3.8	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/3欠	底径やや大きく、体部下半膨らむ。口縁外傾して開く。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	底端部未調整。 WA－13
15	坏 土師器	位置不明	①(14.8)　②6.8 ③4.0	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	体部緩く湾曲し、底端部の調整丁寧。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－10
16	坏 土師質	覆土	①(14.8)　②(7.2) ③3.8	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④全形の1/5	器形15に似る。15より体部の膨らみ強い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－雑
17	坏 土師質	位置不明	①15.2　②6.3 ③3.7	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部2/3欠	底径小さく、体部中位丸く膨らむ。口縁部外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－12
18	坏 土師質	位置不明	①(14.8)　②7.7 ③3.2	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5 YR6/6　④全形の1/3	底径大きく、体部浅い。口縁部若干外反気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	WA－12
19	坏 土師質	位置不明	①－　②7.2 ③－	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5 YR7/4　④底部	体部下端括れる。 轆轤整形。底部回転糸切り。	WA－2
20	小形埦 土師質	位置不明	①(10.0)　②6.7 ③4.6	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④体部2/3欠	体部ハの字状に外傾。高台部外反して開く。肉厚。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り痕残。	WA－5、8
21	埦 土師質	位置不明	①(15.0)　②(7.5) ③5.5	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④全形の1/3	体部ハの字状に外傾、下半膨らむ。高台高く若干外反。轆轤整形。口縁部横撫で。糸切り痕残る。	WA－12、13

グリッド出土遺物観察表（図—315・316・317・318）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	埦 灰釉陶器	I－3 G	①(14.8)　②(7.1) ③6.5	①緻密　②良好　③素地灰白10 YR8/2　④全形の1/5	体部深く、口縁部直立気味に開く。高台やや高く直立してふんばる。施釉漬け掛け。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
2	段皿 灰釉陶器	I-10-80 G	①(13.5)　②(7.5) ③2.2	①緻密　②良好　③素地2.5Y8/1 ④全形の1/2強	体部ハの字状、見込端部で段形成。高台短くU字状。轆轤整形。施釉漬け掛け。	
3	埦 須恵器	I-11-80 G	①(16.0)　②6.9 ③5.4	①砂粒含、軟質。　②酸化焔 ③淡黄2.5Y8/3　④体部1/6欠損	体部直線的に外傾し、だれた短い高台をもつ。 器肉薄い。轆轤整形。口縁部横撫で。	高台貼付け雑
4	坏 須恵器	I-28-85 G	①(12.2)　②7.2 ③4.2	①密　②良好　③灰10Y6/1 ④全形の1/3	体部直線的に外傾、口唇部シャープ。底部上げ底。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転篦切り。	H—10に帰属か。
5	坏 須恵器	I-31-85 G	——	①砂粒含、軟質。　②酸化焔 ③浅黄橙10YR8/3　④口縁部小片	器肉薄く一定。体部外面墨書。判読不明。 轆轤整形。	
6	坏 須恵器	I-31G	①(14.0)　②6.3 ③4.6	①砂粒含、密。　②普通 ③灰白10YR8/1　④体部1/6欠損	体部下半若干膨らみ、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	体部内外面一部吸炭。
7	埦 須恵器	I-31G	①—　②7.8 ③—	①密　②普通　③灰白5Y7/2 ④下半部2/3	腰部丸く膨らみ、だれた短い高台をもつ。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
8	鞴 羽口	I-31-95 G	長9.1　幅7.5 厚3.6　孔径 —	先端部コークス状。小気泡あく。側面しま状に被火痕。胎土小石若干含む。 指頭による撫で調整。		
9	埦 須恵器	I-47-9・ 10・19G他	①—　②7.2 ③—	①砂粒含、密。　②良好 ③灰黄褐10YR6/2　④下半部	体部下半丸い。だれた短い高台。貼付け雑。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
10	埦 須恵器	I-49-6 GP内	①15.0　②(7.1) ③5.5	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④完形	体部ほぼ直線的に外傾。台形状の短い高台。 体部内外面墨書「千万」。轆轤整形。回転糸切り。	P—19に帰属か。
11	盤 須恵器	I-79-33 G	①(19.6)　②14.6 ③4.0	①密　②良好　③灰5Y6/1 ④全形の1/5強	底端部丸く、体部直線的に外傾。口縁部短く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整か。	W—1に帰属か。
12	坏 須恵器	I-88-30 G	①(12.6)　②6.3 ③3.7	①密　②良好　③灰黄2.5Y7/2 ④体部2/3欠損	底径小さく、体部緩く湾曲して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
13	坏 須恵器	I-102- 83G	①(14.0)　②— ③—	①密　②良好　③灰白5Y8/1 ④口縁部小片	体部緩く湾曲、口縁部若干外反。体部外面墨書。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
14	埦 内黒土器	I-103- 41G	①(15.4)　②7.3 ③6.4	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部1/6欠損	体部深く、腰部丸い。轆轤整形。底部回転糸切り痕残る。内面黒色処理後、篦磨き。	
15	埦 土師質	I-115- 3G	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部小片	体部丸みをもつか。体部外面墨書。判読不明。轆轤整形。	H139にちかい位置。
16	皿 灰釉陶器	I-132- 9G	①12.4　②6.4 ③2.0	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④口唇部1/4欠損	小さい器形。底部環状に突出、別造りか。 轆轤整形。回転糸切り。漬け掛け。	
17	埦 灰釉陶器	I-132- 9G	①(13.8)　②6.7 ③4.5	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④全形の1/3	体部緩く湾曲、口縁部に至る。高台だれた稜をもつ。漬け掛け。轆轤整形。	
18	砥石	I-134- 61	長7.5　幅5.5 厚1.4	両小口面欠損。4面使用。器面滑らか。研ぎ減り顕著。 仕上げ砥か。擦痕状の研磨痕認む。		
19	坏 土師器	I-120- 71・72G	——	①密　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④底部小片	底部～体部下端篦削り。底部内外面墨書「千万」。	
20	坏 須恵器	I-138- 38	①—　②5.1 ③—	砂粒含、密。　②良好 ③灰白5Y7/2　④底部1/4	底部小さいか。底部内面墨書「正」か。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
21	瓶 灰釉陶器	I-138- 87	①—　②8.2 ③—	①緻密　②良好　③素地灰白5Y8/1　④底部1/2	台形状の高台。見込部釉溜りする。 轆轤整形。底部再調整。	
22	甕 土師器	I-138- 65・66・ 55G他	①(18.3)　②— ③25.1	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④上半部2/3欠損	口縁短く内傾後、外屈する。胴上半膨らみ、下半細身。器肉薄い。口縁部横撫で。胴部篦削り。	内面篦撫で。

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
23	坏 須恵器	I-139-23G	①(13.0)　②(7.4) ③3.0	①密、黒色粒含。　②良好 ③灰5Y6/1　④全形の1/3	体部浅く、直線的に外傾してひらく。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
24	埦 灰釉陶器	I-157-87G	①(15.0)　②7.7 ③3.9	①密　②良好　③素地灰黄2.5Y7/2　④全形の1/5	体部浅く、外傾。口唇部キュッと折れる。 漬け掛け。轆轤整形。底部再調整。	H—127に帰属か。
25	小形埦 土師質	I-158-15G	①(10.5)　②5.7 ③4.1	①砂粒含、密。　②良好 ③橙7.5YR7/6　④体部1/2欠損	体部丸く内湾、高台ハの字に外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—67に帰属か。
26	小形埦 土師質	I-172-94G	①10.0　②— ③体部高2.8	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④高台端部欠損	腰部丸く、外傾して開く。やや高めの高台か。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
27	埦 土師質	I-172-7	①(14.9)　②9.4 ③7.1	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/3欠	体部下半丸く、口縁部で外傾。高台高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
28	坏 土師質	I-173-23	①14.7　②7.0 ③4.0	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部下半若干膨らみ、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
29	埦 内黒土器	I-173-41	①—　②(5.8) ③—	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/3　④底部	高台小さく、直立気味。底部外面墨書「千万」。轆轤整形。内黒後篦磨き。	H—151に帰属か。
30	坏 土師質	I-174-3	①(11.6)　②(6.8) ③4.4	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④全形の1/6	やや小さい器形。体部下端若干括れ、緩く湾曲。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	墨入れ容器に使用か。
31	小形坏 土師質	I-191-61	①9.8　②4.5 ③3.1	①小石含、粗。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④完形	底径小さく、体部湾曲して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
32	小形坏 土師質	I-191-3	①9.1　②5.0 ③2.7	①白色軽石含、密。　②良好 ③橙2.5YR6/6　④口縁部1/3欠損	器形31に同じ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
33	小形坏 土師質	I-191-24	①9.2　②6.4 ③2.3	①砂粒含、ざらつく。　②良好 ③橙5YR6/6　④全形の3/4	底径大きく、体部浅い。体部外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
34	小形埦 土師質	I-191-3	①(10.5)　②6.7 ③3.9	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/3欠損	体部浅く、緩く湾曲する。高めの高台外反して開く。轆轤整形。底部回転糸切り痕残る。	
35	小形埦 土師質	I-191-3	①9.9　②5.5 ③4.6	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3欠損	体部丸く湾曲、高台外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
36	小形埦 土師質	I-191-1・23	①(11.1)　②5.4 ③4.8	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部2/5欠損	腰部丸く張り、口縁部若干外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。高台端部内傾。	見込部篦磨き。
37	埦 土師質	I-191-14	①(13.8)　②(7.4) ③5.6	①密　②良好　③橙7.5YR7/6 ④体部1/5、高台端部欠損。	腰部若干膨らみ、口縁部外傾して開く。高めの高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	口縁内面沈線状凹み。
38	段皿 灰釉陶器	I-191-4	①(10.8)　②(5.5) ③2.6	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④全形の1/3弱	小形の器形。高台短く内傾。体部ハの字状。 漬け掛け。轆轤整形。底部回転糸切り。	
39	埦 灰釉陶器	I-191-4	①(14.1)　②(6.3) ③4.9	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④全形の1/4	体部緩く内湾、口縁部丸まる。高台断面U字状。 漬け掛け。轆轤整形。	
40	埦 灰釉陶器	I-191-4	①(14.3)　②6.9 ③4.9	①密　②良好　③素地灰白10YR7/1　④体部1/5、高台1/2欠損。	腰部丸く、張る。高台部直立気味。漬け掛け。轆轤整形。	
41	小形坏 土師質	I-192-62	①8.3　②4.5 ③2.5	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④体部2/5欠損	底径小さく、体部緩く湾曲。口縁部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
42	小形坏 土師質	I-192-62	①9.0　②4.7 ③2.6	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④全形の1/2	底径小さく、体部緩く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
43	小形坏 土師質	I-192-62	①9.5　②5.7 ③2.2	①密　②良好　③橙5YR7/6 ④口唇部若干欠損	体部浅く、ハの字状に外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
44	小形坏 土師質	I-192-82	①9.6　②5.5 ③2.0	①砂粒含、密。　②普通 ③浅黄橙10YR8/3　④完形	体部浅く、弱く湾曲する。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
45	小形埦 土師質	I-192-72	①10.7　②6.0 ③3.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部中位若干膨らみ、口縁部緩く外反する。高台短く外傾。轆轤整形。口縁部横撫で。	
46	小形埦 土師質	I-192-62	①(11.8)　②6.5 ③4.5	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR6/6　④体部2/3欠損	体部丸く、口縁部で外傾する。高台部短くハの字状。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
47	小形埦 土師質	I-192-72	①11.5　②(6.8) ③5.7	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④全形の2/3	体部丸く湾曲。高めの高台外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	内外面タール状
48	埦 土師質	I-192-63	①(12.9)　②8.3 ③5.6	①小石含、密。　②良好 ③淡黄2.5Y8/3　④体部5/6欠損	体部下半膨らみ、口縁部ハの字状。高台高く、外反。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
49	埦 土師質	I-192-62・63他	①(14.0)　②8.6 ③6.2	①小石含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④全形の2/3弱	体部下半丸く、口縁部緩く外反。高台高く外傾する。轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
50	埦 土師質	I-192-62	①(14.0)　②(8.5) ③5.2	①小石含、ざらつく。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部2/3欠損	体部ハの字状に外傾。高台強く外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
51	埦 土師質	I-192-61	①14.2　②9.4 ③6.6	①白色粒含、密。　②良好　③浅黄橙10YR8/3　④口縁部1/5欠損	体部丸く湾曲。高い高台緩く外反する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	体部一部吸炭。
52	埦 土師質	I-192-63	①(16.6)　②— ③体部高5.4	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/3　④体部1/3	器形49に似る。大形の器形。 轆轤整形。口縁部横撫で。	
53	埦 灰釉陶器	I-192-62	①(14.1)　②(8.2) ③4.6	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④全形の1/4強	体部丸く湾曲、口縁部丸まる。高台断面U字状。 轆轤整形。腰部回転篦削り。	
54	小形坏 土師質	I-178-68	①8.8　②4.8 ③2.0	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④ほぼ完形	体部下半若干膨らみ、口縁部内外面共に緩く外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
55	小形坏 土師質	I-194-53	①9.2　②5.7 ③2.4	①白色軽石含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/6　④完形	底部上げ底。体部浅く、外傾して開く。器肉厚い。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
56	小形坏 土師質	I-194-53	①11.3　②5.7 ③2.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR8/4 ④口唇部若干欠損	体部浅く、底径小さい。体部緩く湾曲する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
57	壺？	I-195-33	——	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④肩部小片	器肉厚い。頸部細身。内面撫で。外面一部篦状工具の撫で後、篦磨き状の痕跡あり。	
58	埦 土師質	I-196-41	①(14.7)　②8.3 ③4.8	①白色粒含、粗い。　②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4　④下半部	体部緩く湾曲して立ち上る。高台短く外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
59	埦 土師質	I-196-52	①(16.6)　②— ③体部高6.4	①密　②良好　③にぶい橙5YR6/4　④体部2/5	大形の器形。体部深く、内湾して立ち上る。 轆轤整形。口縁部横撫で。内面篦磨き。	見込螺施状篦磨き。
60	埦 灰釉陶器	I-196-1・2他	①—　②8.1 ③—	①密　②良好　③素地にぶい黄橙10YR7/2　④底部	高台高く、断面U字状。漬け掛け。 轆轤整形。	
61	坏 土師質	I-209-31	①(14.2)　②7.3 ③3.4	①砂粒含、密。　②良好 ③にぶい橙5YR7/4　④口縁部1/2	体部中位若干膨らみ、外傾して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
62	小形皿 土師質	I-209-53	①(11.4)　②5.5 ③3.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④体部3/5欠	体部下端張り、ハの字状に外傾する。高台高い。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
63	小形坏 土師質	I-210-42	①8.5　②5.5 ③2.2	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④口縁部2/5欠損	底径大きく、体部外傾して開く。 轆轤整形。底部回転糸切り。	
64	埦 灰釉陶器	I-210-41・51	①—　②(8.3) ③—	①密　②良好　③灰白5Y7/1 ④底部	腰部張る。高台短く、断面台形状。内面全面施釉。 外面釉薬の痕跡あり。轆轤整形。	
65	羽釜	I-210-52～62	①(16.5)　②— ③—	①密　②酸化焔　③にぶい黄橙10YR6/3　④口縁部小片	口縁部短く内傾、唇部平坦。鍔水平に張り出す。 口縁部横撫で。胴上半回転撫で。	
66	小形坏 土師質	I-211-52	①(9.0)　②5.0 ③2.0	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④全形の1/3	底径小さい。体部浅く、ハの字状に外傾する。轆轤整形。底部回転糸切り。	

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
67	小形坏 土師質	I-211- 41	①9.1　②5.7 ③2.4	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④ほぼ完形	体部浅く、中位で弱く膨らむ。口唇部シャープ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—212に 帰属か。
68	小形坏 土師質	I-211- 41	①8.7　②5.3 ③1.8	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3　④完形	器肉厚い。体部極めて浅く、ハの字状に外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—212に 帰属か。
69	小形坏 土師質	I-211- 41	①9.4　②5.5 ③1.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④ほぼ完形	体部極めて浅く、ハの字状に外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—212に 帰属か。
70	小形坏 土師質	I-212- 47	①(8.0)　②4.7 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁1/3欠	器形極めて小さい。体部ハの字状に外傾する。 轆轤整形。底部回転糸切り。	H—189に 帰属か。
71	小形坏 土師質	I-212- 25	①9.3　②4.3 ③2.5	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④ほぼ完形	底径小さく、体部中位膨らむ。口縁部若干外反。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—189・190 に帰属か。
72	小形坏 土師質	I-212- 47	①10.0　②4.6 ③2.3	①白色粒含、密。　②良好　③にぶい橙5YR7/4　④口縁部2/3欠	底径小さく、突出する。体部ハの字状に外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	H—189・190 に帰属か。
73	小形皿 土師質	I-212- 47	①10.9　②(5.0) ③3.0	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④全形の3/4	小形の器形。体部浅く、ハの字状に外傾。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	H—189・190 に帰属か。
74	皿 灰釉陶器	I-212- 29	①(11.6)　②6.0 ③1.9	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/2　④全形の1/2	やや小形。口縁部丸み。高台部短く直立する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
75	埦 灰釉陶器	I-212- 69	①(15.2)　②(7.4) ③5.5	①密　②良好　③素地灰白5Y8/1 ④全形の1/6	体部深く、緩く湾曲して口縁部に至る。高台直立。 轆轤整形。漬け掛け。底部回転撫で。	H—187に 帰属か。
76	皿 灰釉陶器	I-229- 3	①(11.4)　②(6.2) ③2.5	①密　②良好　③素地灰白10Y8/1 ④全形の1/3弱	体部外傾後、口縁部で強く屈曲、沈線状に凹む。 高台短く、U字状。轆轤整形。回転糸切り。	漬け掛け施釉。
77	小形壺 ミニチュア	I-230- 27	①3.3　②1.8 ③2.1	①密　②良好　③素地灰黄2.5Y6/2　④ほぼ完形	断面台形状の器形。黒色処理後、器全面篦磨き。	黒色研磨土器。
78	小形坏 土師質	I-230- 89	①9.4　②6.0 ③2.5	①白色粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/3　④口縁部1/3欠	底径大きい。体部中位若干膨らみ、外傾する。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
79	埦 土師質	I-230- 27	①12.3　②6.4 ③5.3	①砂粒含、密。　②良好 ③浅黄橙10YR8/4　④完形	体部下半丸く膨らみ、口縁部外傾する。高い高台。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	体部外面一部 煤状。
80	小形坏 土師質	I-231- 1	①8.3　②4.8 ③1.7	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部1/3欠	体部浅く、ハの字状に外傾。つくり雑。 轆轤整形。底部回転糸切り、未調整。	
81	小形坏 土師質	I-231- 21	①8.5　②5.2 ③1.8	①砂粒含、密。　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④口縁部1/4欠	器肉厚い。器形80に似る。 轆轤整形。底部回転糸切り、未調整。	
82	小形坏 土師質	I-231- 50	①9.1　②4.8 ③1.9	①砂粒含、密。　②良好 ③橙5YR7/6　④ほぼ完形	底径小さく、体部緩く外傾して開く。下半膨らむ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
83	坏 土師質	I-231- 21	①14.0　②6.0 ③3.2	①砂粒含、密。　②良好 ③淡橙5YR8/3　④ほぼ完形	底径小さい。体部若干膨らみ、口縁部でハの字状。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
84	坏 土師質	I-232- 85	①(14.5)　②6.2 ③4.5	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR7/3　④体部3/5欠損	底径小さく、体部やや深い。外傾して口縁部に至る。轆轤整形。口縁部横撫で。回転糸切り。	
85	紡錘具 土師質	I-249- 9	径4.8×4.7 孔径0.7	①密　②良好　③浅黄橙7.5YR8/4　④一部欠損	埦形態の転用品。体部下端～高台部を利用。 体部側を打ち欠き、調整している。	
86	壺 須恵器	II-2-90	①—　②(12.6) ③—	①密　②良好　③灰白10YR7/1 ④下半部1/5	胴部下半細身で、直線的に外傾。断面台形状のやや高い高台。回転撫で。	
87	坏 土師器	II-4-13	①(12.2)　②— ③3.5	①密　②良好　③橙2.5YR6/6 ④全形の1/3	底部安定した平底。体部外傾して開き、唇部で立ち上る。口縁部横撫で。体部指頭調整。	
88	垂飾品 硬玉製	II-20-8	現長4.7　幅1.0 厚0.7	両端部欠損。勾玉状の形状をもち、片側に径0.2cmの孔あく。断面V字状。 器面研磨。穿孔は2方向からなされる。		

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
89	皿 須恵器	II-21-90	①13.6　②5.9 ③3.4	①砂粒含、軟質。　②良好 ③浅黄2.5Y7/3　④ほぼ完形	体部浅く、ハの字状に外傾。だれた短い高台。轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
90	坏 土師器	II-24-15	①14.8　②— ③4.3	①密　②良好　③にぶい橙7.5YR6/4　④完形	底部から体部緩く内湾、口縁部直立する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	体部内面煤状。
91	鉢 須恵器	II-24-25	①(15.7)　②— ③(9.0)	①砂粒多、密。　②良好 ③灰10Y5/1　④全形の1/2	底部～体部半球形をなし、口縁部で直立する。 口縁部横撫で。体部回転撫で。	
92	坏 土師質	II-25-25	①11.5　②5.4 ③3.7	①砂粒含、密。　②良好 ③明赤褐2.5YR5/6　④完形	底径小さく、体部やや深い。外傾して開き、下端若干膨らむ。轆轤整形。底部回転糸切り。	
93	埦 土師質	II-25-25	①(16.3)　②10.6 ③7.5	①密　②良好　③浅黄橙10YR7/4 ④口縁部1/2欠損	体部緩く湾曲して開き、高い高台をもつ。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
94	坏 土師器	II-86-20	①12.7　②— ③3.3	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④全形の2/3	底部平底気味。体部浅く、外傾して開く。 口縁部横撫で。体部指頭痕有。底部篦削り。	H—3に帰属か。
95	皿 灰釉陶器	III-8-26	①13.0　②6.8 ③2.7	①密　②良好　③素地灰白2.5Y8/1　④ほぼ完形	体部緩く湾曲。高台部若干稜を残す。漬け掛け。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	

表採遺物観察表（図—319　図版—6）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	坏 内黒土器	表採	①11.5　②— ③3.3	①密　②良好　③にぶい黄橙10YR7/4　④完形	底部～体部緩く内湾し、口縁部短く内傾する。 口縁部横撫で。体部撫で。底部篦削り。	
2	坏 土師器	表採	①12.6　②— ③3.5	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部1/5欠損	底部～体部緩く内湾、口縁部短く直立する。 口縁部横撫で。体部～底部篦削り。	底部外面墨書「毛」か。
3	小形坏 土師質	表採	①(9.8)　②5.6 ③2.9	①密　②良好　③橙5YR6/6 ④口縁部3/4欠損	体部下半外傾し、中位で膨らむ。口縁部直立気味。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部回転糸切り。	
4	埦 須恵器	表採	①14.6　②6.7 ③5.8	①密、軟質。　②いぶし　③にぶい黄橙10YR7/4　④口縁部若干欠損	体部深く、口縁部若干外反。口唇部丸い。 体部外面刻書「𠂤所」「　」。轆轤整形。	
5	小形埦 土師質	表採	①10.9　②(6.9) ③5.4	①砂粒含、密。　②良好　③にぶい橙7.5YR7/4　④高台端欠	体部丸く、口縁部で外傾。高台高く外反して開く。 轆轤整形。口縁部横撫で。底部再調整。	
6	砥石	表採	長8.7　幅4.3 厚4.2	片側小口面を残す。表裏2面、片側側面研ぎ減り顕著。 側面条線状の痕跡を残す。		
7	垂飾品 碧玉製	表採	長5.0　幅3.2 厚1.8　孔径0.8	器形台形状を呈し、断面V字状。片側面平坦面形成。孔は表、裏2方向から穿孔される。		
8	鏃 鉄製品	表採	鏃身長6.3　厚0.8 基部幅1.0　厚0.5	鏑の有無は不明。腸抉はシャープな三角形。基部断面長方形状。		
9	刀子 鉄製品	表採	長10.9　刃部幅1.4 厚0.4	刃部先端欠損。茎部木質残る。背側は平らか。		
10	棒状 鉄製品	表採	長5.5　幅0.5 厚0.3	両端部欠損。断面長方形状。		
11	不明 鉄製品	表採	長10.6　幅1.2 厚0.9	片側端部T字状。基部断面方形状。		
12	棒状 鉄製品	表採	長15.6　幅1.0 厚0.7～0.9	断面方形状。両端部欠損。先端部器肉薄くなる傾向にある。 鉋状工具の可能性も想定される。		
13	紡錘具 鉄製品	表採	紡輪部径5.4　厚0.3 軸部幅0.7　厚0.6	軸部両端、紡輪部2/3欠損する。 紡輪部に軸部装着状態で出土。錆化顕著。		

追補　住居跡出土遺物観察表（図一319）

番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H27	砥石？	＋8	長18.0　幅25.7 厚6.8	縁辺部より中央に向って緩く凹む。条線状の痕跡をのこす。 石材からみて荒砥として使用したものか。		
2 H28	砥石	＋11	長7.3　幅4.7 厚4.8	片側小口面を残す。4面に使用痕あり。中央に向って研ぎ減りする。		
3 H39	砥石	覆土	長7.1　幅3.2 厚3.4	両小口面共に欠損か。4面に使用痕顕著。うち1面は中央に向って著しく研り減っている。一部削り出しに因る加工痕認む。		
4 H90	砥石	覆土	長5.5　幅3.9 厚2.1	片側端部楔状をなし、使用痕顕著。 4面に使用痕。		
5 H94	砥石	＋12	長10.6　幅4.7 厚5.1	片側小口面を残す。中央に向って研磨に因る研ぎ減り顕著。 左右側面は雑に加工後、使用面として利用したものか。		
6 H42	砥石	覆土	長5.9　幅4.8 厚3.1	片側小口面を残す。4面に使用痕。うち一面は断面山形をなし、研ぎ減りする。		
7 H111	砥石	＋11	長9.0　幅3.0 厚2.8	片側小口面を残すが、一部使用面としている。小口面を含み5面に使用痕。 片側端部は断面楔状に研ぎ減りする。		
8 H182	砥石	＋18	長8.0　幅2.3 厚2.6	片側小口面を残す。4面に使用痕を認めるが、さほどの研ぎ減りはみられない。		
9 H195	砥石	覆土	長4.9　幅3.8 厚1.9	両小口面共に欠損か。器面剝落し、2面に使用痕残る。		
10 H221	砥石	覆土	長8.7　幅5.9 厚2.6	角閃石安山岩製。断面半円状を呈し、表面及び片側側面に研磨痕を残す。		
11 H197	砥石	位置不明	長21.7　幅8.7 厚12.0	大形品。片側小口面を残す。片側側面中央に向って研ぎ減りする。		

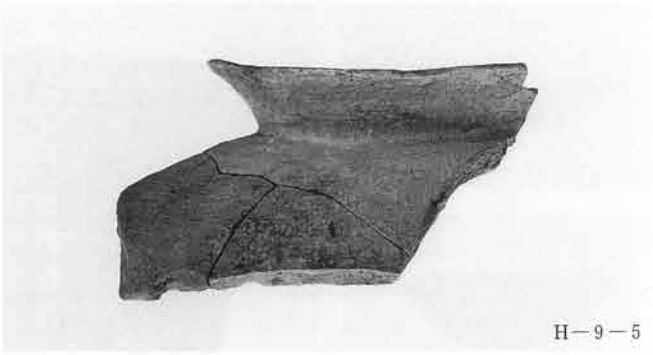
追補　住居跡出土遺物観察表（図一319）

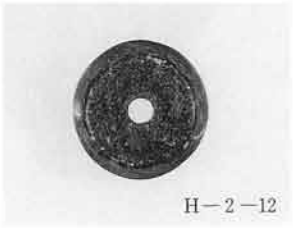
番号	器　種	出土位置	①口径②底径③器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1 H27	砥石？	＋8	長18.0　幅25.7 厚6.8	縁辺部より中央に向って緩く凹む。条線状の痕跡をのこす。 石材からみて荒砥として使用したものか。		
2 H28	砥石	＋11	長7.3　幅4.7 厚4.8	片側小口面を残す。4面に使用痕あり。中央に向って研ぎ減りする。		
3 H39	砥石	覆土	長7.1　幅3.2 厚3.4	両小口面共に欠損か。4面に使用痕顕著。うち1面は中央に向って著しく研り減っている。一部削り出しに因る加工痕認む。		
4 H90	砥石	覆土	長5.5　幅3.9 厚2.1	片側端部楔状をなし、使用痕顕著。 4面に使用痕。		
5 H94	砥石	＋12	長10.6　幅4.7 厚5.1	片側小口面を残す。中央に向って研磨に因る研ぎ減り顕著。 左右側面は雑に加工後、使用面として利用したものか。		
6 H42	砥石	覆土	長5.9　幅4.8 厚3.1	片側小口面を残す。4面に使用痕。うち一面は断面山形をなし、研ぎ減りする。		
7 H111	砥石	＋11	長9.0　幅3.0 厚2.8	片側小口面を残すが、一部使用面としている。小口面を含み5面に使用痕。 片側端部は断面楔状に研ぎ減りする。		
8 H182	砥石	＋18	長8.0　幅2.3 厚2.6	片側小口面を残す。4面に使用痕を認めるが、さほどの研ぎ減りはみられない。		
9 H195	砥石	覆土	長4.9　幅3.8 厚1.9	両小口面共に欠損か。器面剝落し、2面に使用痕残る。		
10 H221	砥石	覆土	長8.7　幅5.9 厚2.6	角閃石安山岩製。断面半円状を呈し、表面及び片側側面に研磨痕を残す。		
11 H197	砥石	位置不明	長21.7　幅8.7 厚12.0	大形品。片側小口面を残す。片側側面中央に向って研ぎ減りする。		

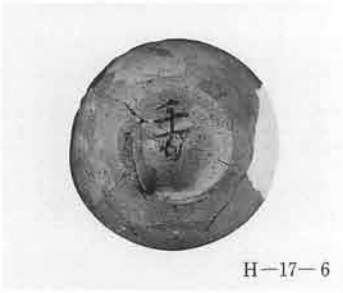
H－4－1

H－5－2

H－7－1


H－9－5


H－2－12


H－17－6

H－10－11

H－17－2

H－17－12

H－12－2

H－17－3

H－12－3

H－17－4

H－12－5

H－27－2

H－15－4

H－29－1

H－15－5

H－32－1

H－24－7

図版 2

H—44—3

H—58—2

H—68—12

H—47—3

H—49—5

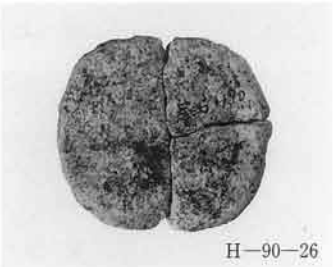
H—86—13

H—51—18

H—51—11

H—69—5

H—75—6


H—90—26

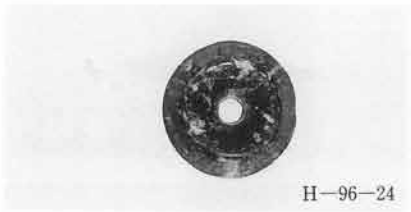
H—91—6

H—95—2

H—83—3

H—90—12

H—96—9


H－96－24

H－96－25

H－97－3

H－97－2

H－100－9

H－102－2

H－108－1

H－108－2

H－109－16

H－114－3

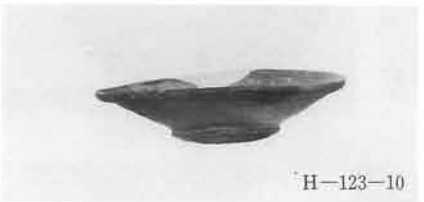
H－116－1

H－111－14

H－121－4

H－121－16

H－122－10


H－123－10

H－124－8

H－125－8

H－126－11

H－126－24

H－126－25

H－132－2

H－132－1

H－131－2

図版 4

H—133— 1

H—142— 5

H—161—10

H—137— 1

H—142— 7

H—161—16

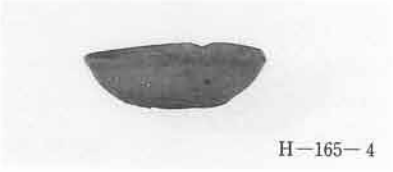
H—133— 3

H—144—11

H—161—15

H—139— 2

H—149— 4


H—165— 4

H—149— 1

H—165— 8

H—140—30

H—150— 2

H—166— 3

H—141— 9

H—152— 5

H—167— 3

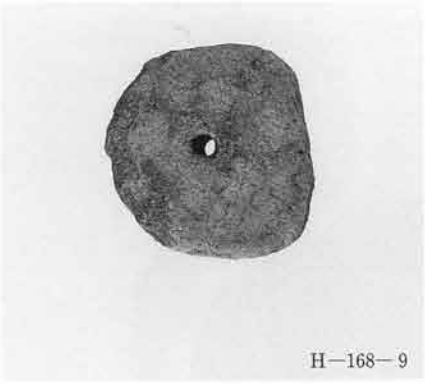
H—141—10

H—152— 7

H—168— 5

H—155—24

H—168— 8


H—168—9

H—170—5

H—176—7

H—196—9

H—196—20

H—196—27

H—196—26

H—196—22

H—196—13

H—196—16

H—200—37

H—200—28

H—192—6

H—200—32

H—206—9

H—207—7

H—208—7

H—200—21

H—210—11

H—210—15

H—211—7

H—213—3

図版 6

H－197－50

H－197－46

H－197－54

H－222－15

H－197－55

H－222－6

H－222－5

H－219－1

H－225－2

H－227－3

H－220－3

H－222－12

H－222－21

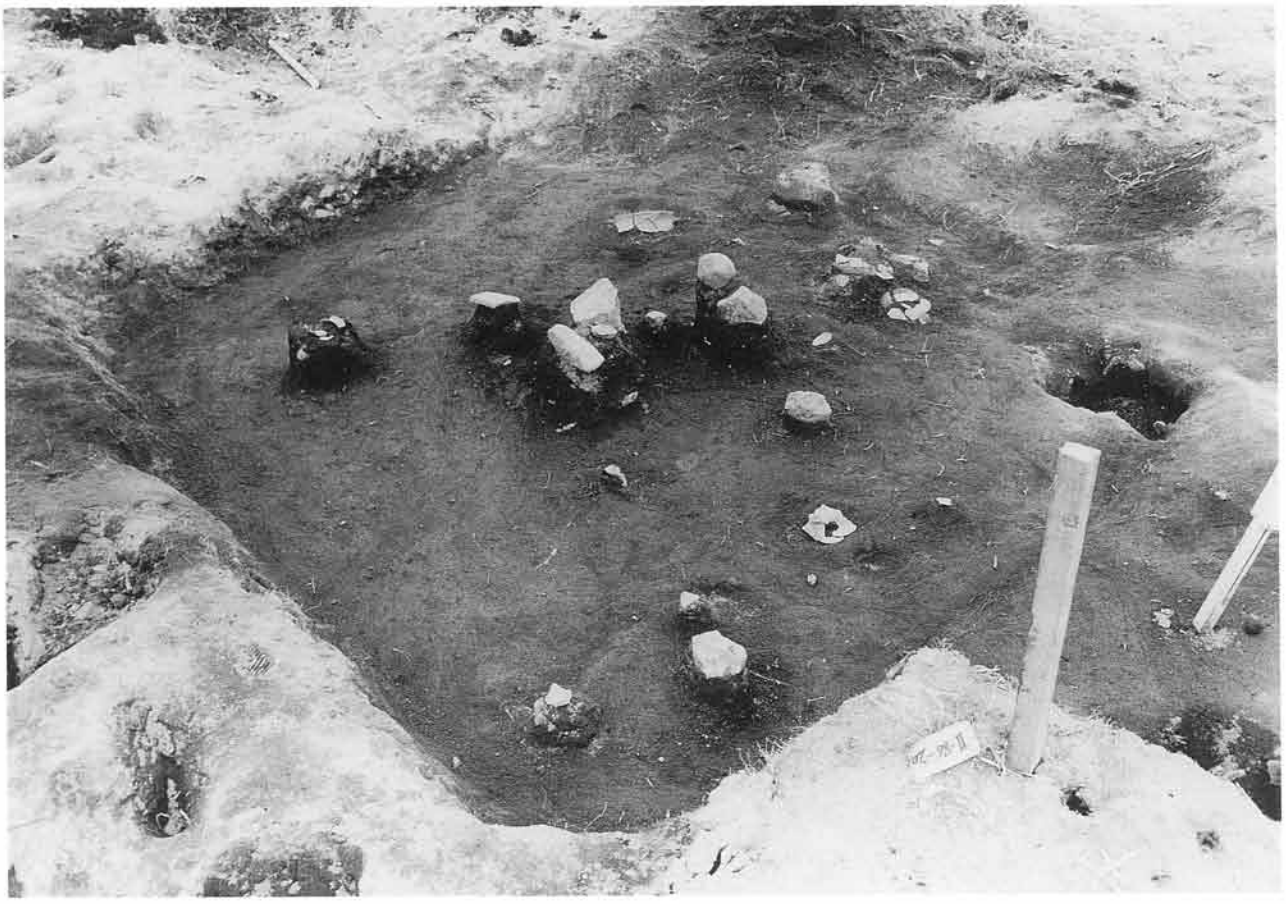
H－222－22

H－222－11

K－1

I －30－68

H－1号住居跡



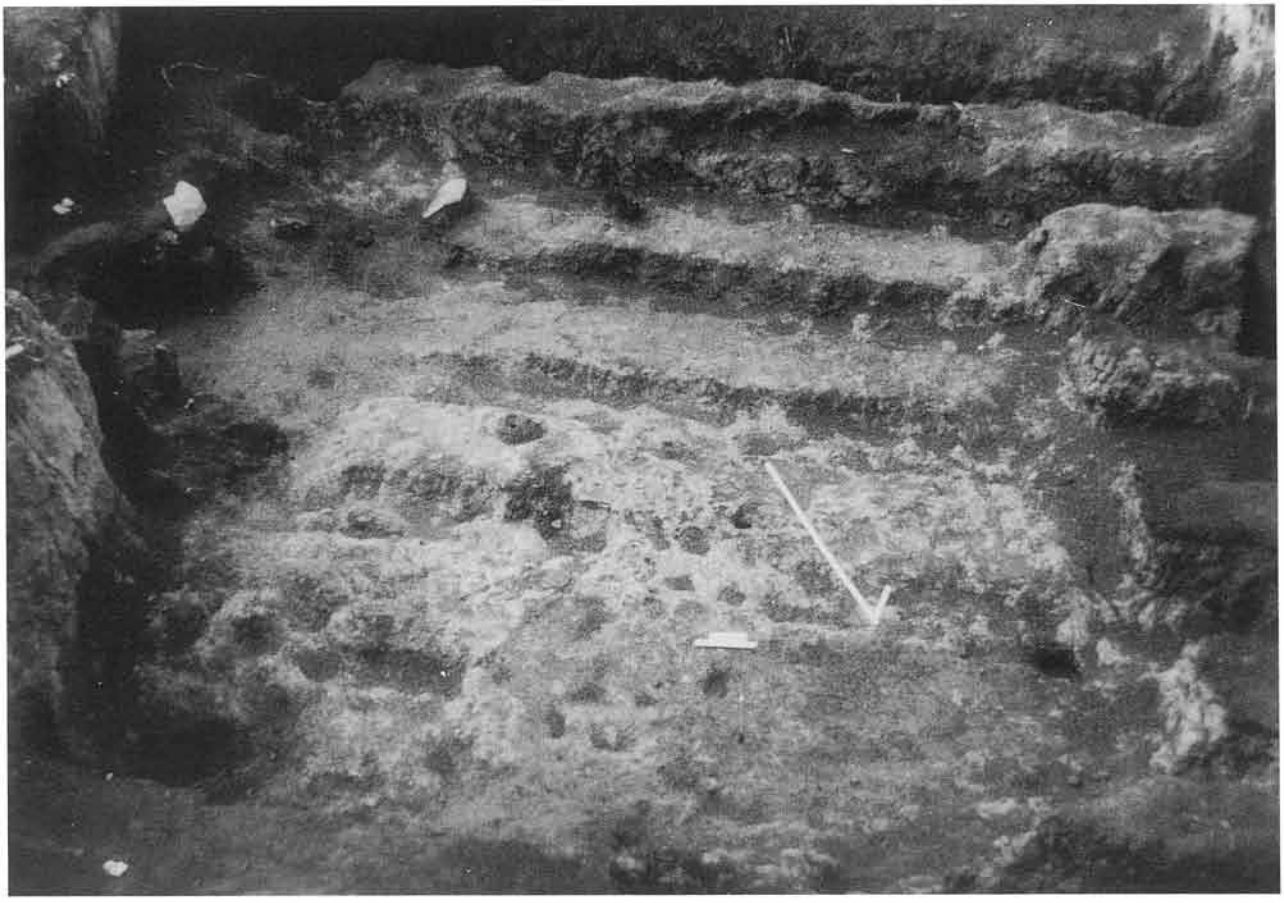
H－3号住居跡

図版 8

H－4 号住居跡

H－5 号住居跡

H－6 号住居跡



H－9 号住居跡

図版10

H—10号住居跡

H—12号住居跡

H—13号住居跡

H—14号住居跡

図版12

H－15号住居跡

H－16号住居跡

H－17号住居跡

H－18号住居跡

図版14

H－19号住居跡

H－21号住居跡

H－22号住居跡

H－23号住居跡

図版16

H—24号住居跡

H—25号住居跡

H—27号住居跡

H—28号住居跡

図版18

H—29号住居跡

H—30号住居跡

H－31号住居跡

H－32号住居跡

図版20

H－33号住居跡

H－34号住居跡

H—35号住居跡

H—36号住居跡

図版22

H－37号住居跡

H－38号住居跡

H－39号住居跡

H－40号住居跡

図版24

H—41号住居跡

H—42号住居跡

H—44号住居跡

H—45号住居跡

図版26

H－46号住居跡

H－47号住居跡

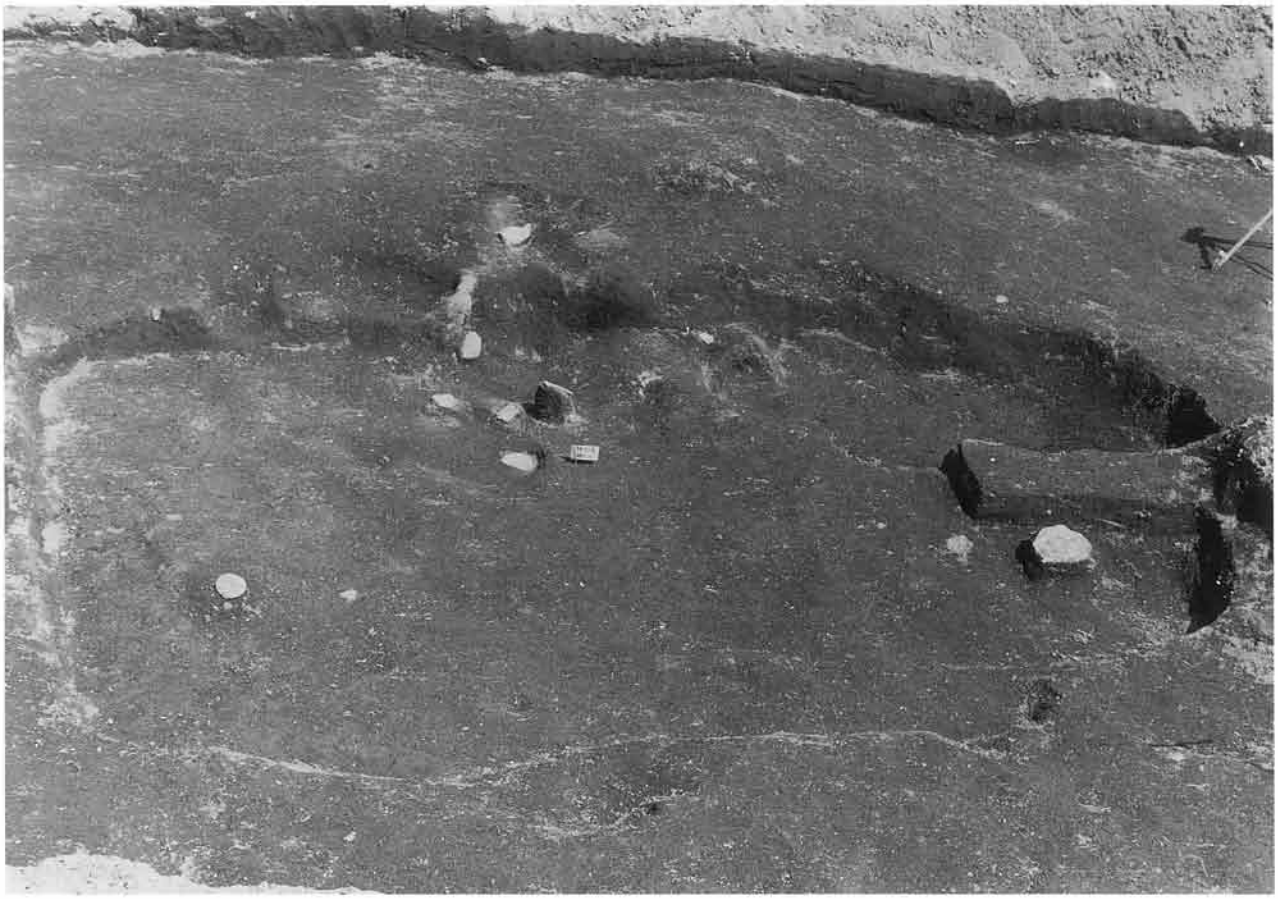
H—48号住居跡

H—49号住居跡

図版28

H－50号住居跡

H－51号住居跡



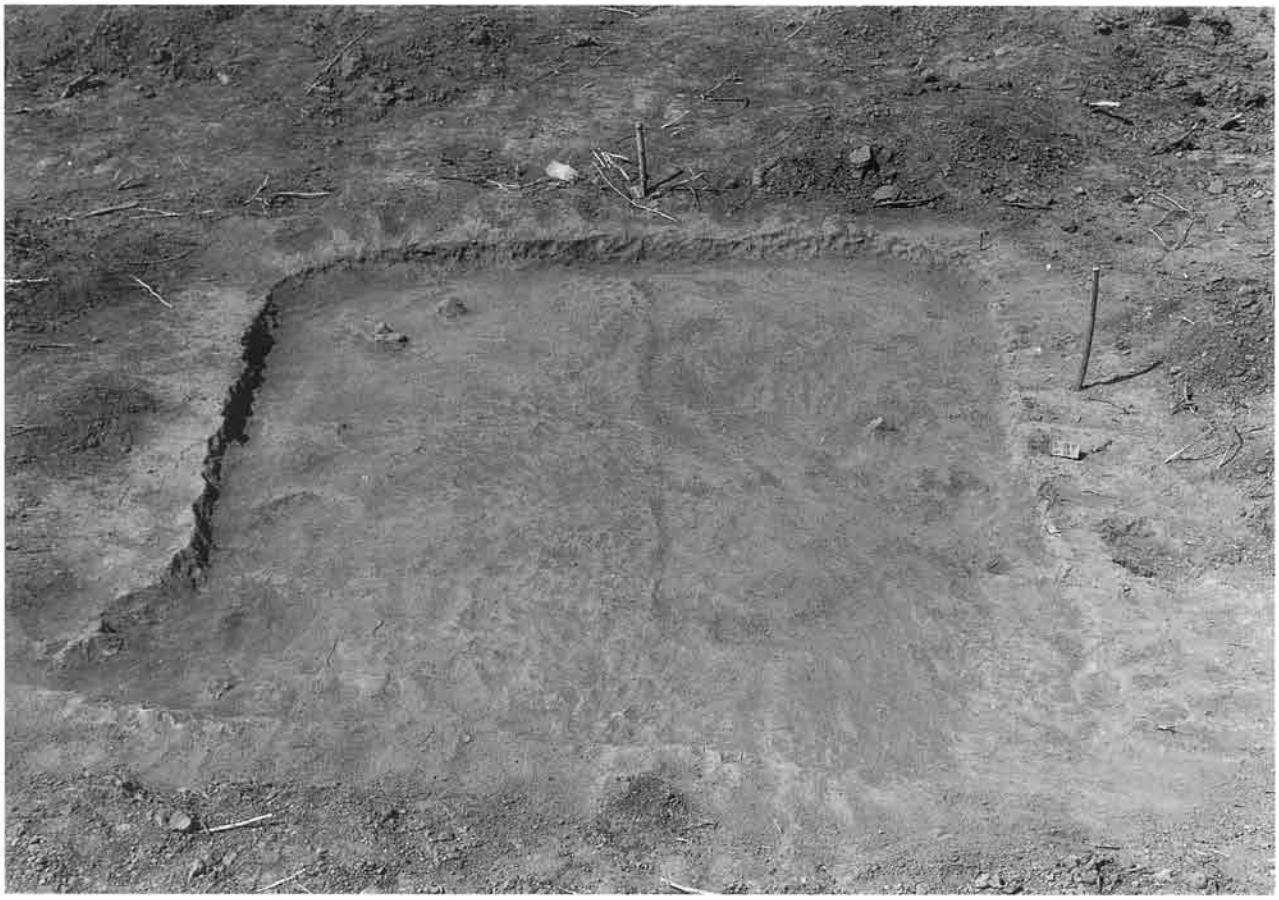
H—53号住居跡

H—54号住居跡

図版30

H－55号住居跡

H－56号住居跡



H－57号住居跡

H－58号住居跡

図版32

H—59号住居跡

H—60号住居跡

H—61号住居跡

H—62号住居跡

図版34

H—64号住居跡

H—67・68号住居跡

H－68号住居跡

H－69号住居跡

図版36

H－70号住居跡

H－71号住居跡

H—72・74・75・76・77号住居跡

H—74号住居跡

図版38

H—72・75・76・77号住居跡

H—72・75・76・77号住居跡

H—79号住居跡

H—80号住居跡

図版40

H—81号住居跡

H—84号住居跡

H—85号住居跡

H—86号住居跡

図版42

H—87号住居跡

H—88・89号住居跡

H－88・89号住居跡

H－90号住居跡

図版44

H—91号住居跡

H—92号住居跡

H—93号住居跡

H—94号住居跡

H—95号住居跡

H—96号住居跡

H—97号住居跡

H—98号住居跡

図版48

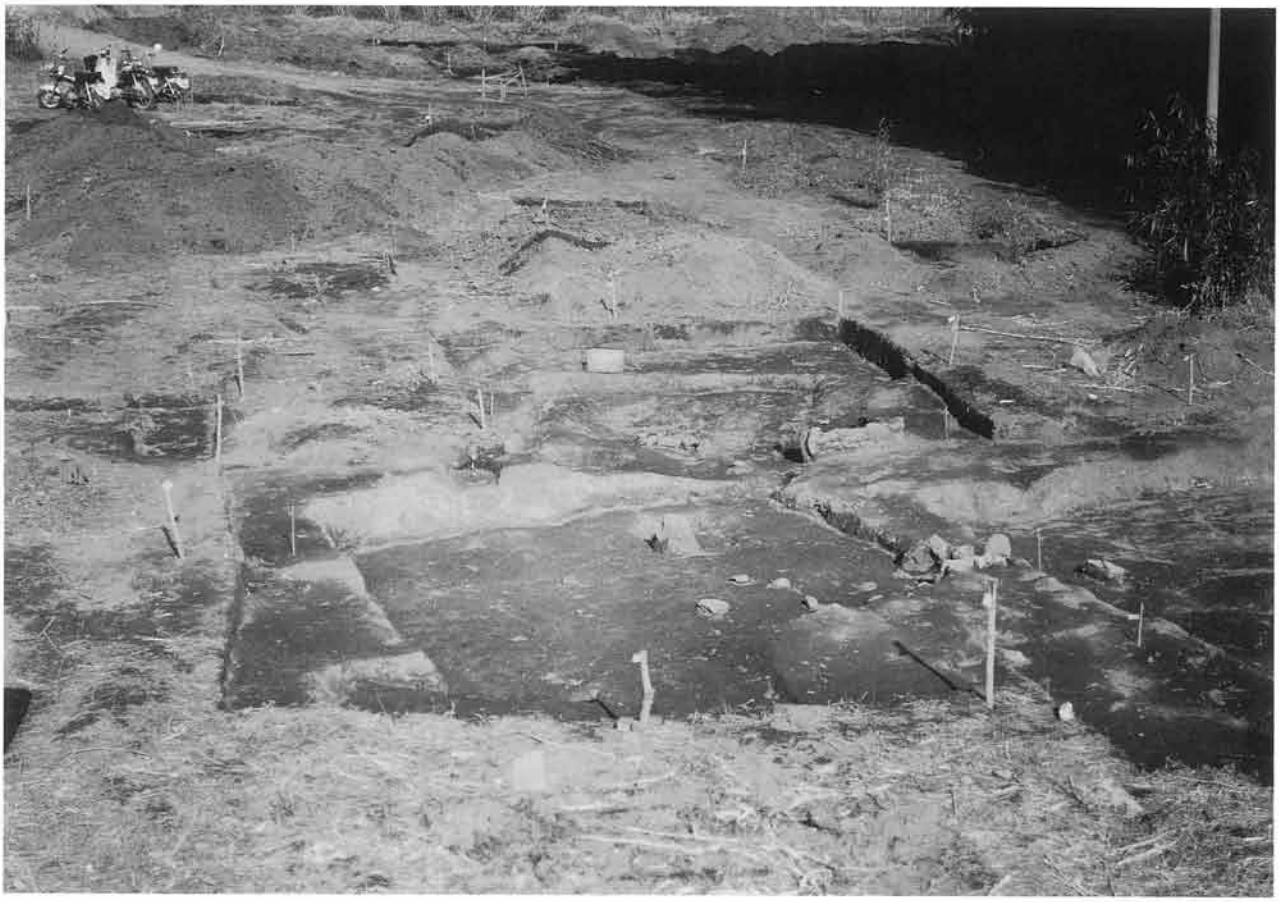
H－99号住居跡

H－100号住居跡

H－101号住居跡

H－102号住居跡

図版50



H－103号住居跡

H－104号住居跡

H—105号住居跡

H—107号住居跡

図版52

H—108号住居跡

H—109号住居跡

H—110号住居跡

H—113号住居跡

図版54

H－114号住居跡

H－115号住居跡

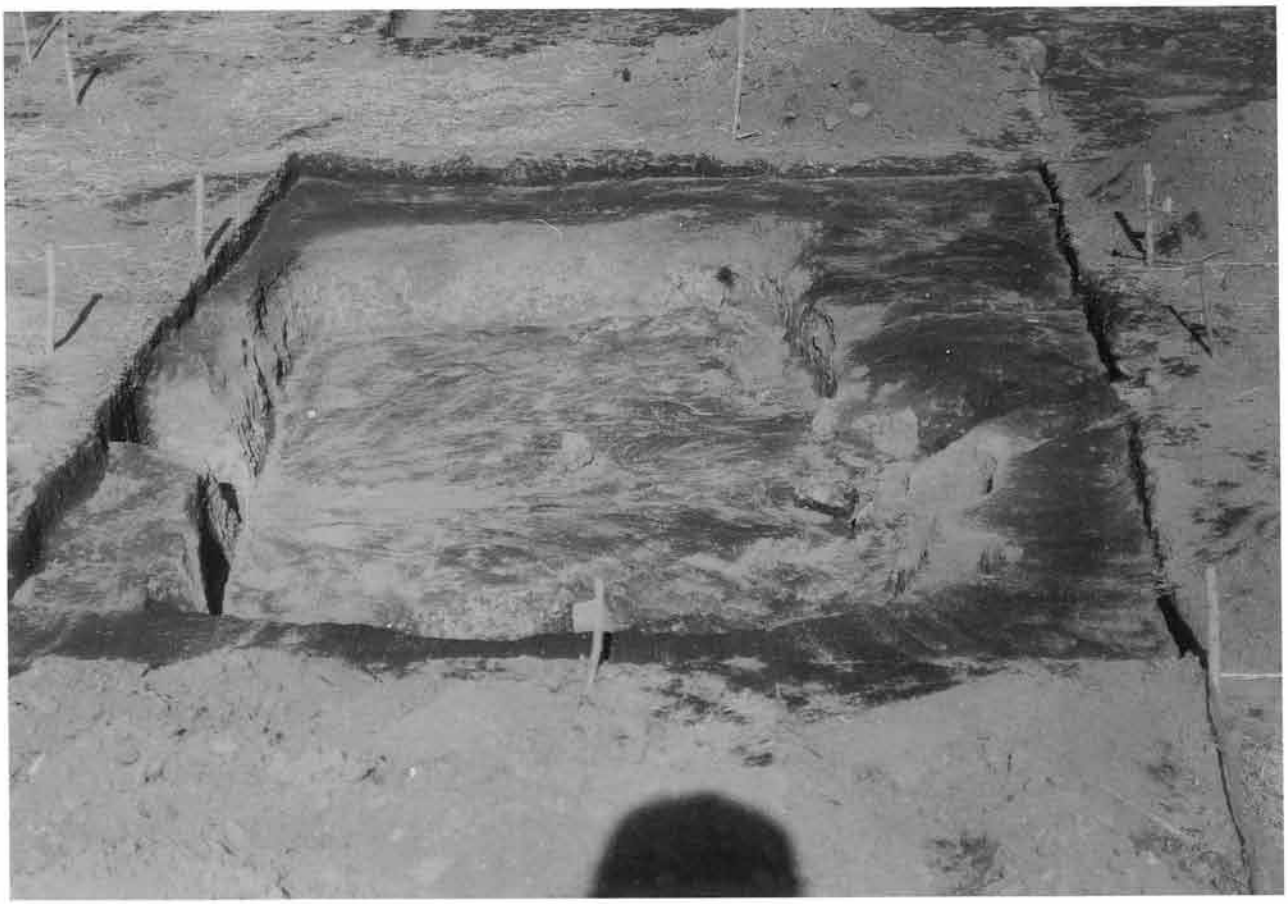
H—116号住居跡

H—117号住居跡

H—118・119・120号住居跡

H—121号住居跡

H—122号住居跡



H—123号住居跡

図版58

H—124号住居跡

H—125号住居跡

H—126号住居跡

H—127号住居跡

H—128号住居跡

H—131号住居跡

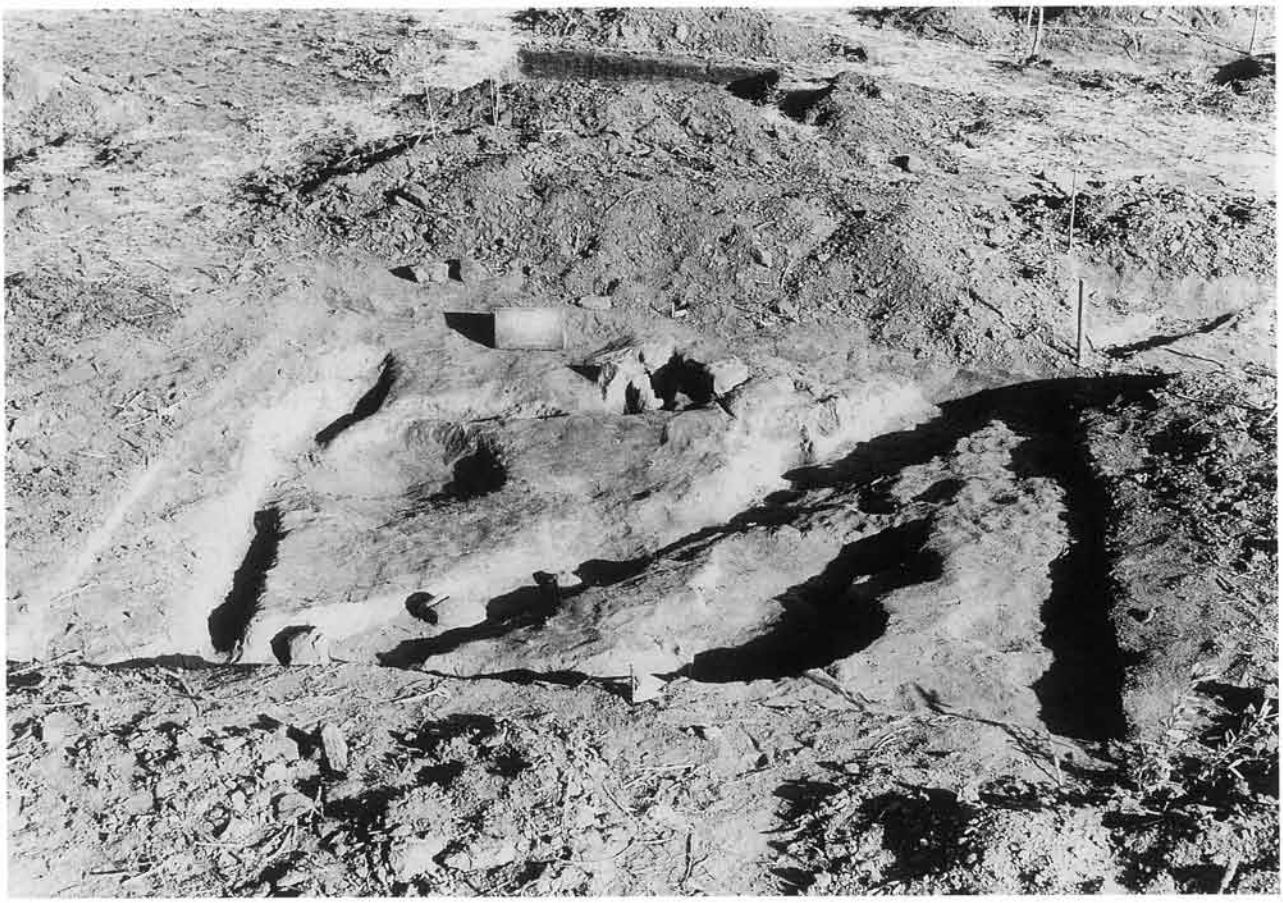
H—132号住居跡

H—133号住居跡

図版62

H—135号住居跡

H—137号住居跡



H—138号住居跡

H—139号住居跡

図版64

H—140号住居跡

H—141号住居跡

H—144号住居跡

H—145・146号住居跡

H—147・148号住居跡

H—150号住居跡

H－151号住居跡

H－152号住居跡

図版68

H－153号住居跡

H－154号住居跡

H—155号住居跡

H—153・156号住居跡

図版70

H—157号住居跡

H—159号住居跡

H—160号住居跡

H—161・171号住居跡

図版72

H—162号住居跡

H—163号住居跡

H—164・180号住居跡

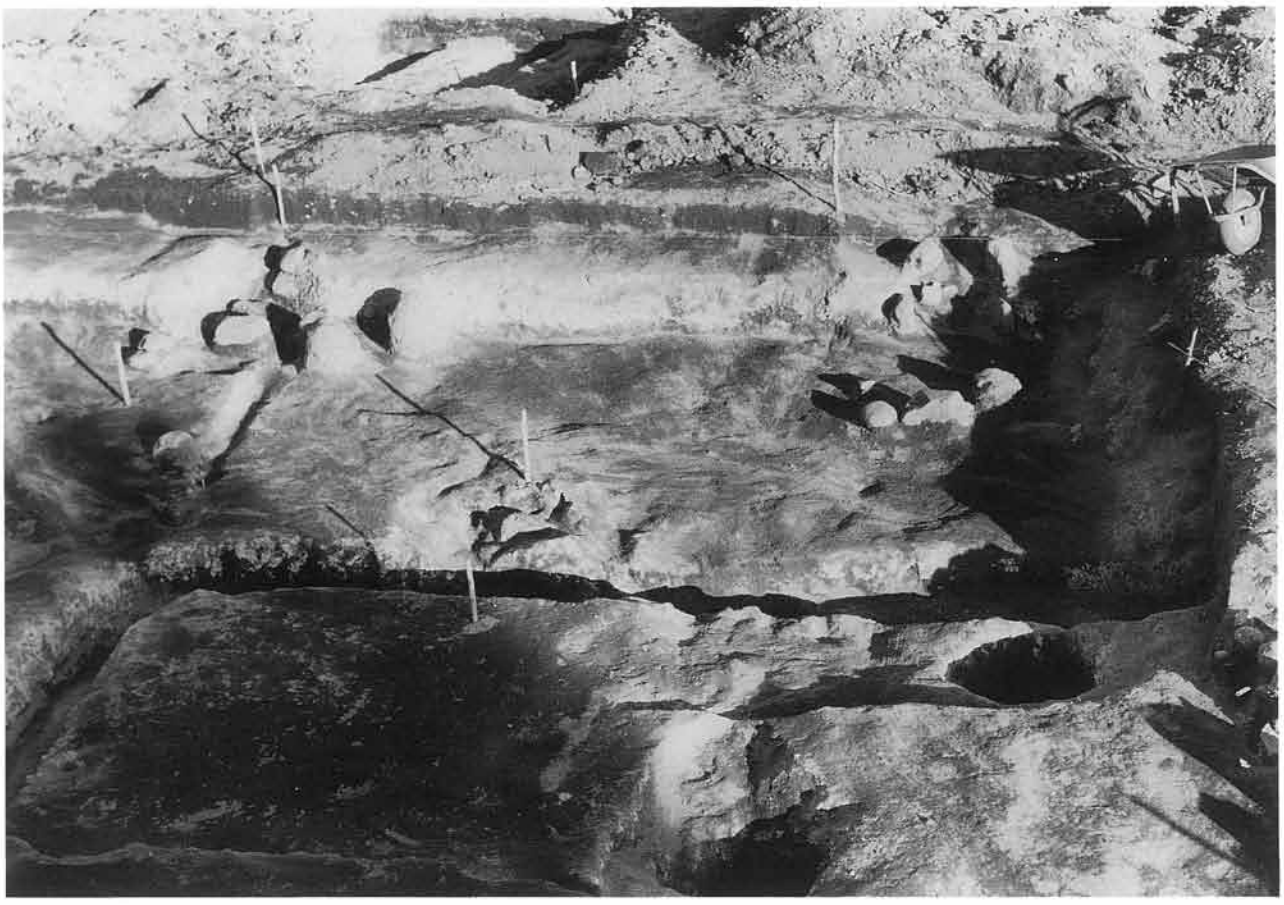
H—165・166号住居跡

図版74

H－167号住居跡

H－169号住居跡

H－170号住居跡



H－172号住居跡

H－173号住居跡

H－174号住居跡

H—176号住居跡

H—179号住居跡

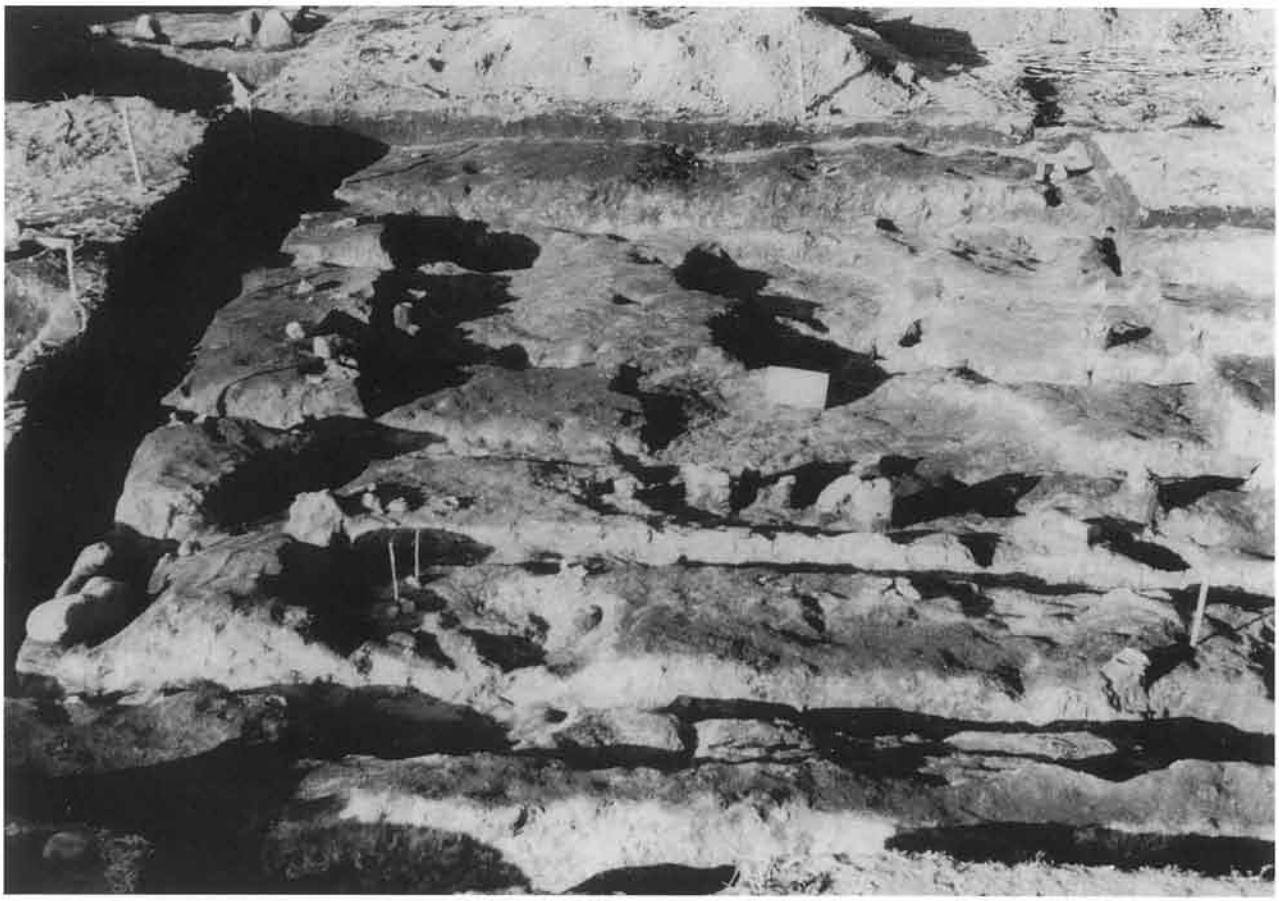
図版78

H－182号住居跡

H－183号住居跡

H—183号住居跡

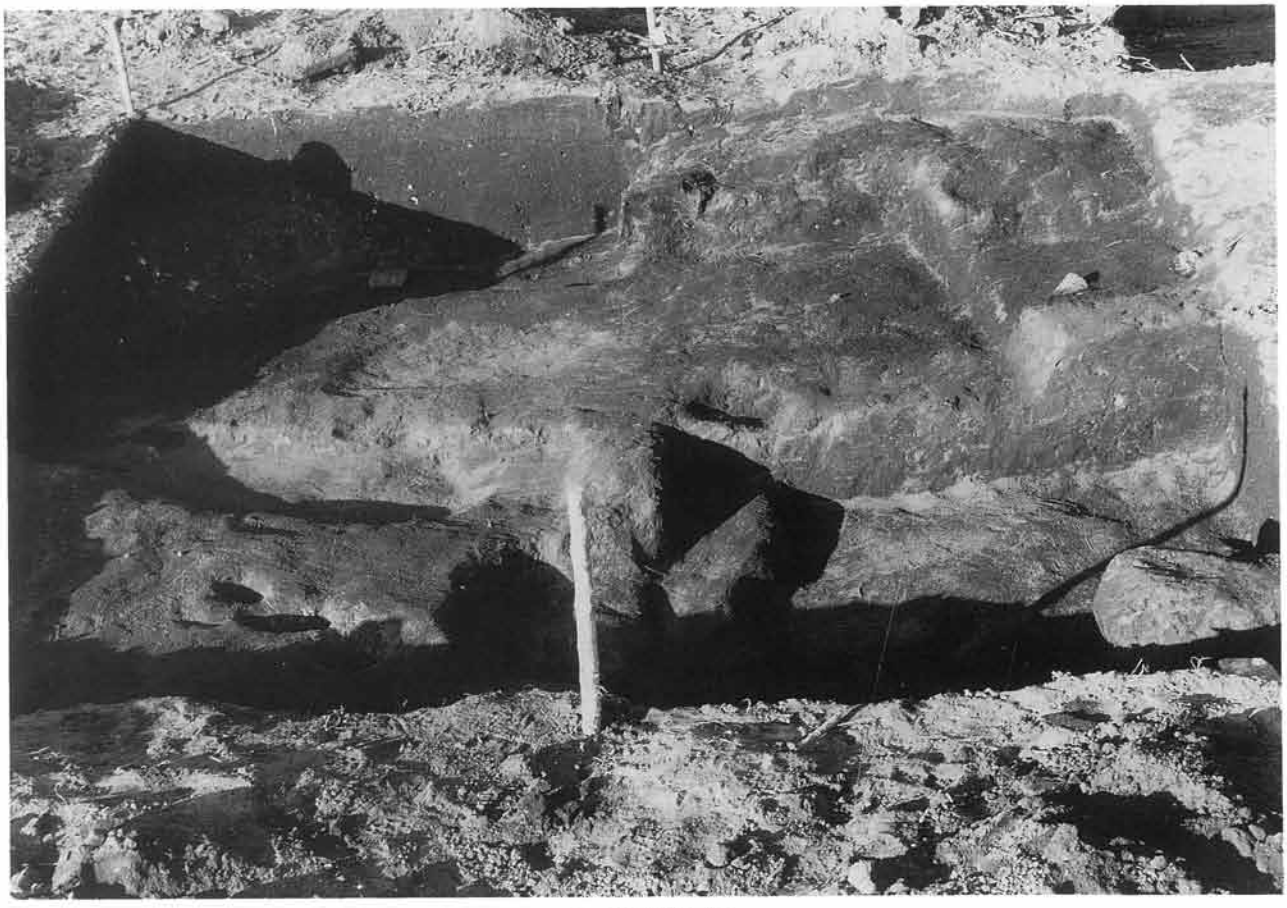
H—184号住居跡



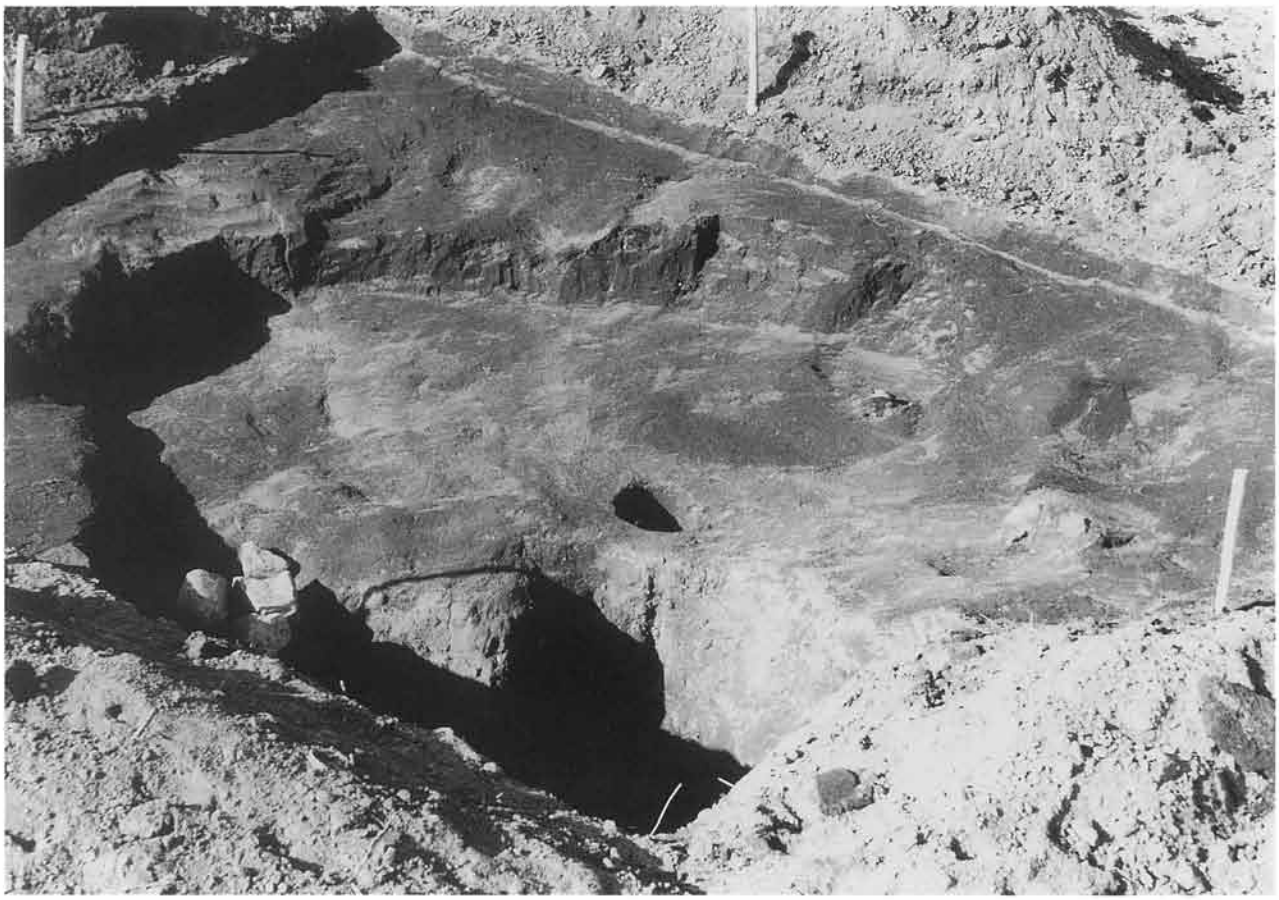
H—187号住居跡

H—189・190号住居跡

H—192・193号住居跡



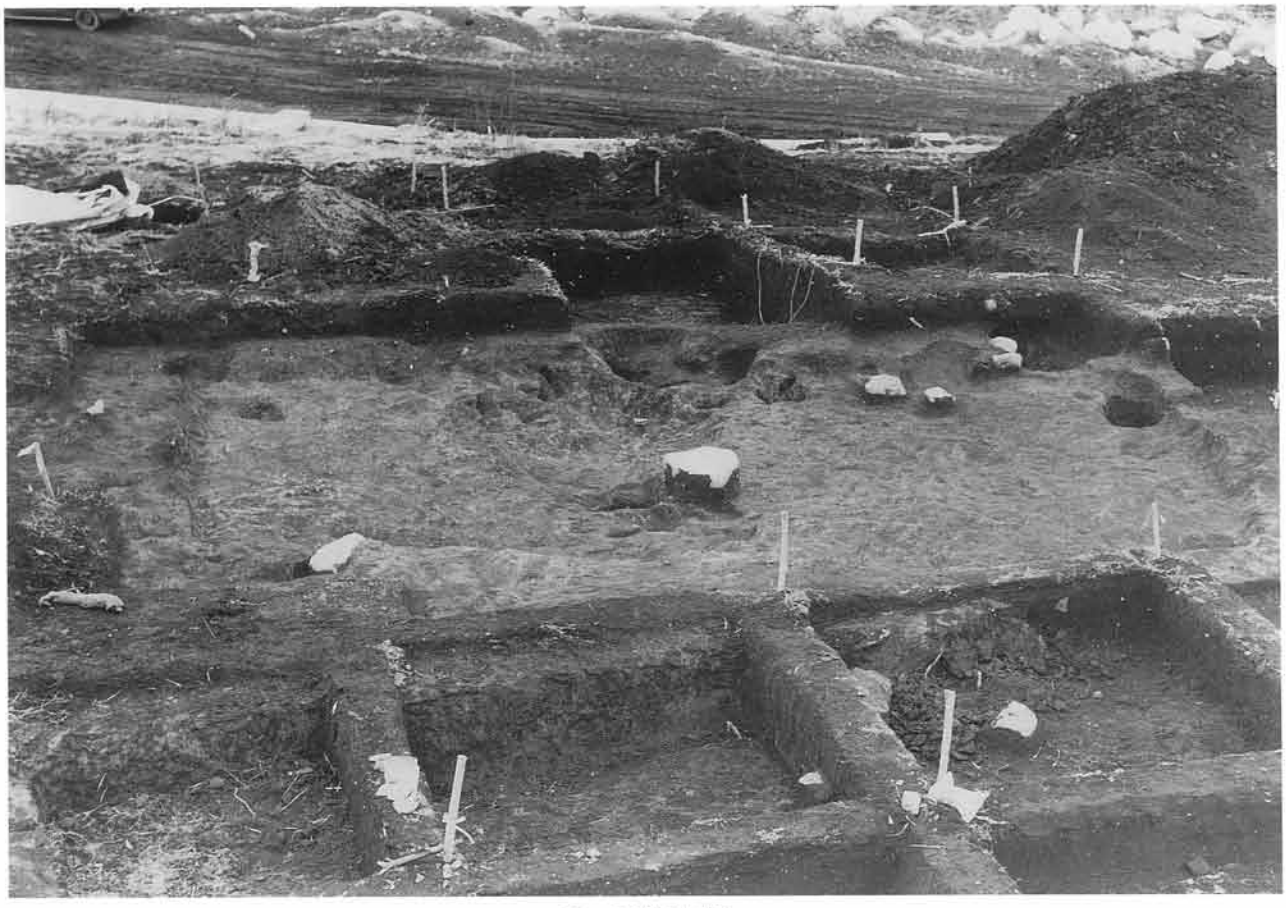
H—194号住居跡



H－195号住居跡

H－196・197・211～214号住居跡

H—198号住居跡



H—199号住居跡

H—200号住居跡

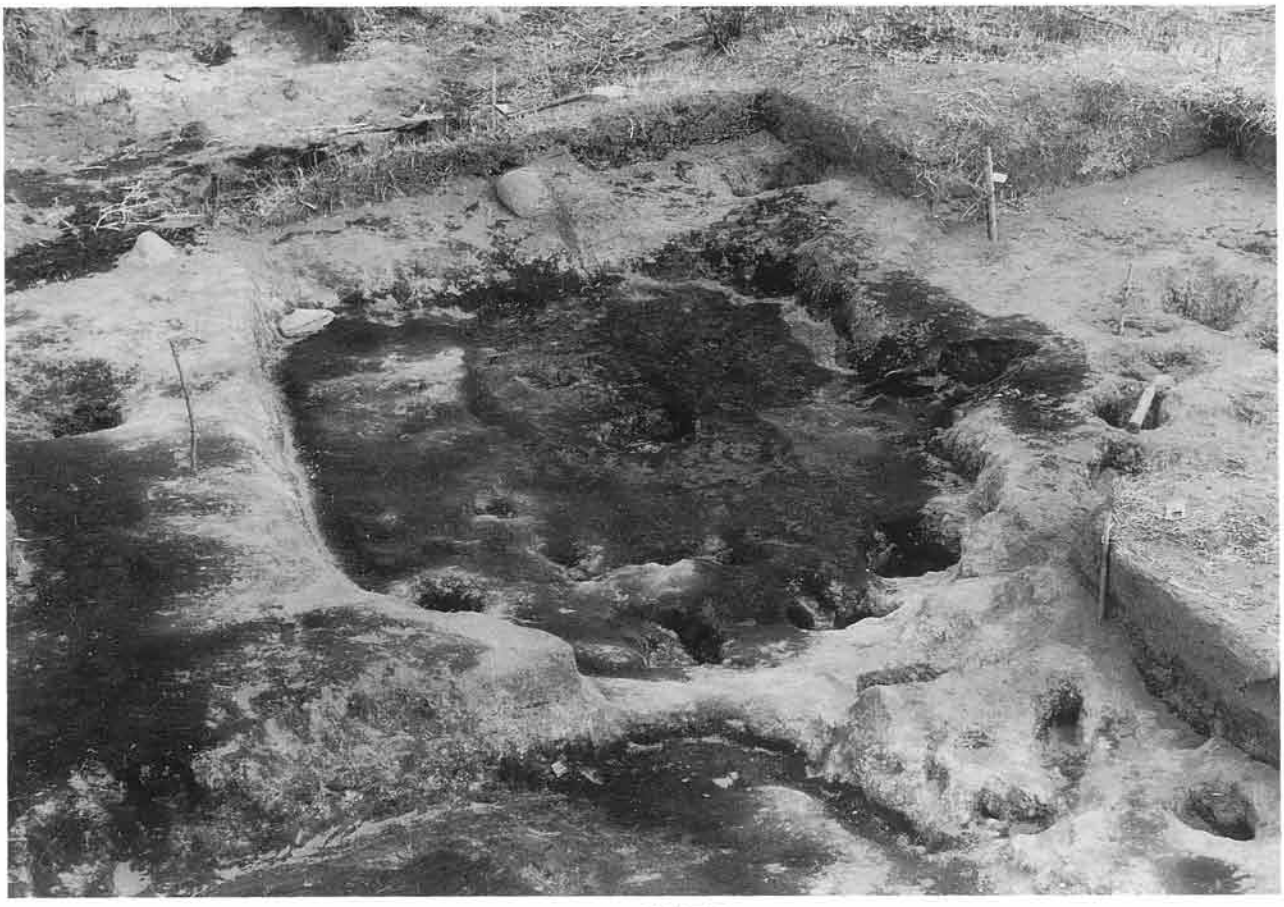
H—201号住居跡

H—208号住居跡

H—216号住居跡

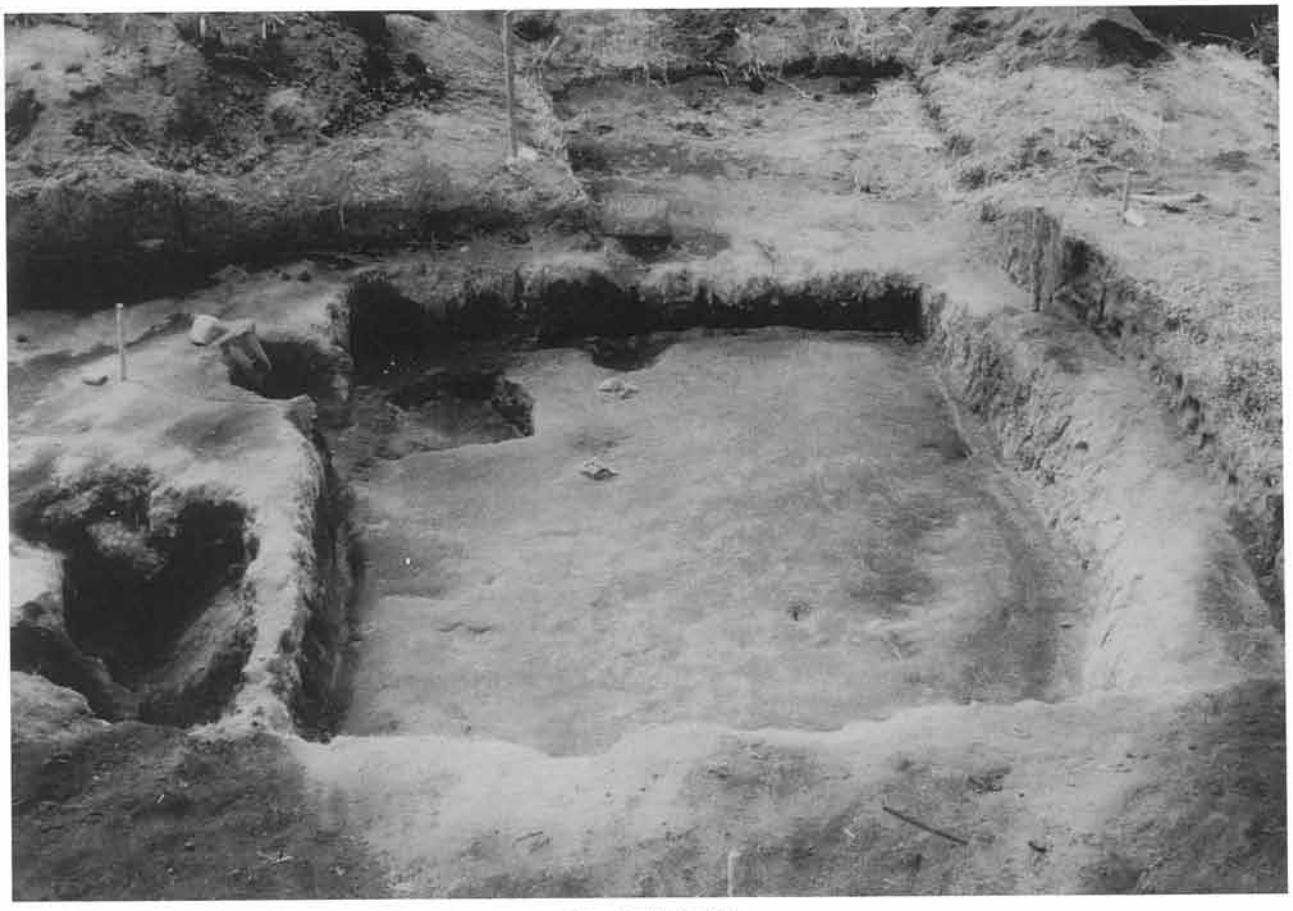
図版86

H—217・218号住居跡



H—218号住居跡

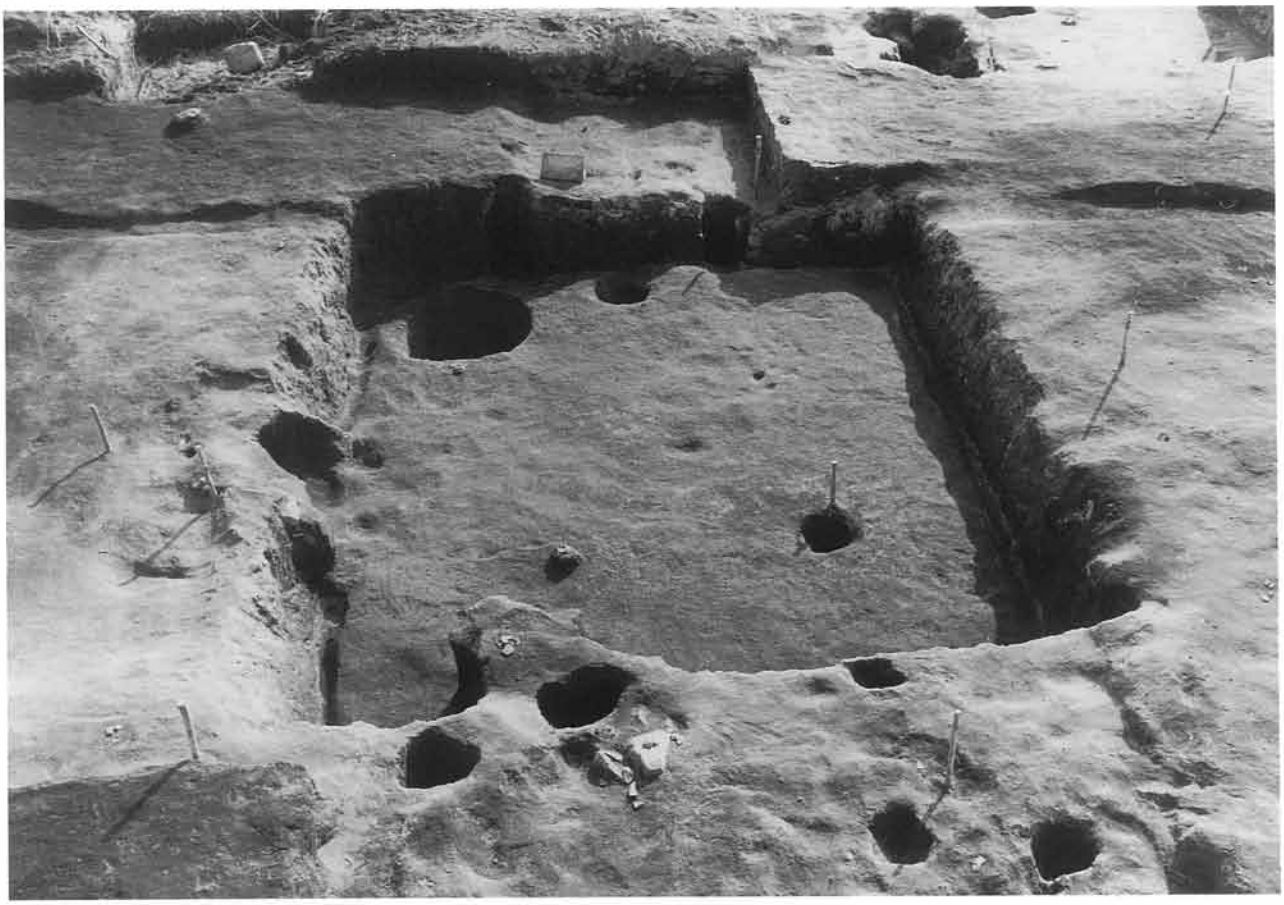
H－219号住居跡



H－220号住居跡

H—221号住居跡

H—222号住居跡



H—223号住居跡

H—224号住居跡

H—225号住居跡

H—226号住居跡

H—227・229・231号住居跡

H—228号住居跡

図版92

H—227・229号住居跡

H—223・231号住居跡

K－1・2・3号掘立柱建物跡

K－1・2号掘立柱建物跡

図版94

K－4号掘立柱建物跡

K－5号掘立柱建物跡

K－1～5号掘立柱建物跡

I－3号井戸跡

図版96

P－20号土坑

P－2号土坑

芳賀北部団地遺跡調査状況

芳賀北部団地遺跡航空写真

芳賀団地遺跡群第５巻
芳賀北部団地遺跡Ⅰ

印刷　平成６年３月26日
発行　平成６年３月31日

発　行　前橋市教育委員会
前橋市大手町二丁目12番１号

印　刷　朝日印刷工業株式会社
前橋市元総社町67